2011年度放送大学学部開設予定授業科目講義内容

2010年11月発行

第　28　版

放送大学学園
学務部教務課

目　　次

1．基礎科目

番号		頁	メディア	単位
1	生活とリスク（’０７）	1	R	2
2	健康と社会（’１１）（２０１１年度開設科目）	4	R	2
3	かしこくなる患者学（’０７）	7	R	2
4	運動と健康（’０９）	10	TV	2
5	教育と心理の巨人たち（’１０）	13	R	2
6	こころとからだ（’０７）－人間を理解する－	16	R	2
7	市民と社会を生きるために（’０９）－実践のすすめ－	19	R	2
8	市民と社会を知るために（’０８）－名著に触れようー	23	R	2
9	市民と社会を考えるために（’１１）（２０１１年度開設科目）	27	R	2
10	問題発見と解決の技法（’０８）	31	TV	2
11	情報の世界（’１０）	34	TV	2
12	哲学への誘い（’０８）	37	R	2
13	歴史と人間（’０８）	40	TV	2
14	コミュニケーション論序説（’０７）	43	R	2
15	日本語からたどる文化（’１１）（２０１１年度開設科目）	46	TV	2
16	日本語表現法（’０７）	49	R	2
17	アジアと漢字文化（’０９）	52	TV	2
18	世界の名作を読む（’１１）（２０１１年度開設科目）	55	R	2
19	人類の歴史・地球の現在（’０７）－文化人類学へのいざない－	58	TV	2
20	科学的探究の方法（’１１）（２０１１年度開設科目）	63	TV	2
21	初歩からの生物学（’０８）	66	TV	2
22	初歩からの物理学（’０８）－物理へようこそ－	69	TV	2
23	初歩からの化学（’０８）	73	TV	2
24	物質循環と人間活動（’０７）	76	TV	2
25	身近な気象学（’１０）	79	TV	2
26	初歩からの数学（’０８）	82	TV	2
27	身近な統計（’０７）	84	TV	2

2．基礎科目（外国語科目）

		頁	メディア	単位
28	基礎からの英文法（’０９）	87	R	2
29	英語の基本（’０８）	90	TV	2

３．共通科目（一般科目）

		頁	メディア	単位
	（人文系）			
30	基礎教育学（’０７）	93	R	2
31	学校教育論（’０８）	96	R	2
32	教育入門（’１１）－文献で読み解く教育の社会的基盤－（２０１１年度開設科目）	99	R	2
33	教育と社会（’１１）（２０１１年度開設科目）	104	TV	2
34	心理学入門（’０６）	107	TV	2
35	発達心理学概論（’１１）（２０１１年度開設科目）	110	R	2
36	教育心理学概論（’０９）	113	R	2
37	社会心理学の基礎と応用（’０８）	116	R	2
38	心理臨床の基礎（’０８）	119	R	2
39	人格心理学（’０９）	122	R	2
40	現代を生きる哲学（’０７）	125	R	2
41	西洋哲学の誕生（’１０）	128	R	2
42	生命と環境の倫理（’１０）	131	TV	2
43	芸術史と芸術理論（’１０）	134	TV	2
44	日本近現代史（’０９）	137	R	2
45	地中海世界の歴史（’０９）－古代から近世－	140	TV	2
46	国文学入門（’０８）	143	R	2
47	日本の近代文学（’０９）	145	R	2
48	文学の愉しみ（’０８）	148	R	2
49	言葉と発想（’１１）（２０１１年度開設科目）	151	R	2
50	人文地理学（’０８）	155	TV	2
51	博物館概論（’１１）（２０１１年度開設科目）	158	TV	2
	（社会系）			
52	仕事・所得と資産選択（’０８）	161	R	2
53	現代世界の結婚と家族（’０８）	164	TV	2
54	社会福祉入門（’０８）	167	TV	2
55	現代の生活問題（’１１）（２０１１年度開設科目）	171	R	2
56	社会調査（’０９）	175	TV	2
57	社会統計学（’０７）	178	R	2
58	社会学入門（’１０）	181	TV	2
59	経済学入門（’０８）	184	R	2
60	経済社会の考え方（’０７）	187	R	2
61	市民社会と法（’０８）	193	R	2
62	日本国憲法（’０５）	196	TV	2
63	経営学入門（’０７）	198	R	2
64	現代の会計（’０８）	201	TV	2
65	多様化時代の労働（’１０）	204	R	2
66	技術者倫理（’０９）	207	TV	2
67	技術経営の考え方（’１１）（２０１１年度開設科目）	210	R	2
68	社会と知的財産（’０８）	213	TV	2

		頁	メディア	単位
	（自然系）			
69	疾病の成立と回復促進（’１１） ……（２０１１年度開設科目）…	217	TV	2
70	人体の構造と機能（’０５） ……	220	TV	2
71	疾病の回復を促進する薬（’０７） ……	223	TV	2
72	情報科学の基礎（’０７） ……	227	TV	2
73	生物集団と地球環境（’０７） ……	230	TV	2
74	物理の世界（’１１） ……（２０１１年度開設科目）…	233	TV	2
75	基礎化学（’１１） ……（２０１１年度開設科目）…	236	TV	2
76	宇宙を読み解く（’０９） ……	240	TV	2
77	宇宙観の歴史と科学（’０８） ……	244	TV	2
78	惑星地球の進化（’０７） ……	246	TV	2
79	微分と積分（’１０） ……	249	TV	2
80	入門線型代数（’０９） ……	252	TV	2
81	解析入門（’０８） ……	255	TV	2

4．共通科目（外国語科目）

		頁	メディア	単位
	（英語）			
82	英語講読（’０８）	258	R	2
83	実践英語（’１０）－映画とドラマで学ぶ－	260	TV	2
84	英語圏の言語と文化（’１１）（２０１１年度開設科目）	263	R	2
	（ドイツ語）			
85	ドイツ語入門Ⅰ（’１１）（２０１１年度開設科目）	266	TV	2
86	ドイツ語入門Ⅱ（’１１）（２０１１年度開設科目）	269	R	2
	（フランス語）			
87	フランス語入門Ⅰ（’０６）	272	TV	2
88	フランス語入門Ⅱ（’０６）	275	R	2
	（中国語）			
89	中国語入門Ⅰ（’１０）	278	TV	2
90	中国語入門Ⅱ（’１０）	281	R	2
91	中国語基礎（’０８）－ラブレターは書きますか－	284	R	2
	（スペイン語）			
92	スペイン語入門Ⅰ（’０７）	286	R	2
93	スペイン語入門Ⅱ（’０７）	289	R	2
	（韓国語）			
94	韓国語入門Ⅰ（’０６）	292	TV	2
95	韓国語入門Ⅱ（’０６）	295	R	2
	（日本語）			
96	日本語基礎Ａ（’０６）	298	TV	2
97	日本語基礎Ｂ（’０７）	301	R	2
	（アラビア語）			
98	初歩のアラビア語（’１１）（２０１１年度開設科目）	305	TV	2

5．専門科目

	生活と福祉コース	頁	メディア	単位
	（生活）			
99	生活知と科学知（’０９）㊥	309	TV	2
100	家族のストレスとサポート（’０８）㊥	312	R	2
101	人口減少社会のライフスタイル（’１１）㊥ （２０１１年度開設科目）	315	TV	2
102	ものとして、心としての衣服（’１１）㊥ （２０１１年度開設科目）	318	R	2
103	食と健康（’０６）－食品の成分と機能－ ㊥	321	TV	2
104	食品の安全性を考える（’０８）㊥	325	R	2
105	失敗予防の住まい学（’０９）㊥	328	TV	2
106	住まい論（’１０）㊥	331	TV	2
	（健康）			
107	公衆衛生（’０９）㊥	335	R	2
108	循環器病の健康科学（’１１）㊥ （２０１１年度開設科目）	339	TV	2
109	感染症と生体防御（’０８）㊥	343	R	2
110	リハビリテーション（’０７）㊥	347	R	2
111	今日のメンタルヘルス（’１１）㊥ （２０１１年度開設科目）	350	R	2
112	看護学概説（’１０）㊥	353	R	2
113	基礎看護学（’１０）㊥	358	TV	2
114	在宅看護論（’１１）㊥ （２０１１年度開設科目）	359	TV	2
	（福祉）			
115	子どもの生活と児童福祉（’１１）㊥ （２０１１年度開設科目）	362	R	2
116	高齢者の生活保障（’１１）㊥ （２０１１年度開設科目）	365	TV	2
117	障がいと共に暮らす（’０９）－自立と社会連帯－ ㊥	368	TV	2
118	地域福祉の展開（’１０）㊥	372	TV	2
119	市民生活における社会保険（’０８）㊥	375	R	2
120	アジアの社会福祉（’１０）㊥	378	R	2
121	欧米の社会福祉の歴史と展望（’１１）㊥ （２０１１年度開設科目）	381	TV	2

㊥ ：旧カリキュラム「生活と福祉専攻」の科目です。

	心理と教育コース	頁	メディア	単位
	(教育)			
122	生涯学習と自己実現（’０６）㊘	384	R	2
123	地域教育の創造と展開（’０８）㊘	387	R	2
124	現代の教育改革と教育行政（’１０）㊘	390	R	2
125	乳幼児の保育と教育（’１１）－子どもの最善の利益を求めて－㊘（２０１１年度開設科目）	393	R	2
126	児童・生徒指導の理論と実践（’１１）㊘（２０１１年度開設科目）	396	TV	2
127	教育の社会史（’０８）㊘	399	R	2
128	大学と社会（’０８）㊘	402	TV	2
129	道徳教育論（’０９）㊘	405	R	2
130	授業研究と学習過程（’１０）㊘	408	R	2
131	子ども・若者の文化と教育（’１１）㊘（２０１１年度開設科目）	411	R	2
132	知的障害教育総論（’１０）㊘	414	TV	2
133	特別支援教育基礎論（’１１）㊘（２０１１年度開設科目）	417	R	2
134	特別支援教育総論（’１１）㊘（２０１１年度開設科目）	420	R	2
	(心理)			
135	心理学研究法（’０８）㊘	423	R	2
136	認知科学の展開（’０８）㊘	426	TV	2
137	記憶の心理学（’０８）㊘	430	TV	2
138	心理学史（’１０）㊘	433	TV	2
139	心理統計法（’１１）㊘（２０１１年度開設科目）	436	TV	2
140	比較行動学（’１１）－ヒト観の再構築－㊘（２０１１年度開設科目）	439	R	2
	(臨床心理)			
141	心の健康と病理（’０８）㊘	442	R	2
142	保育カウンセリング（’０８）㊘	445	R	2
143	思春期・青年期の心理臨床（’０９）㊘	448	R	2
144	心理カウンセリング序説（’０９）㊘	451	R	2
145	スクールカウンセリング（’１０）㊘	454	TV	2
146	心理臨床とイメージ（’１０）㊘	458	TV	2
147	乳幼児・児童の心理臨床（’１１）㊘（２０１１年度開設科目）	461	TV	2
148	精神分析とユング心理学（’１１）㊘（２０１１年度開設科目）	464	R	2
149	肢体不自由児の教育（’１０）㊘	467	TV	2

㊘：旧カリキュラム「発達と教育専攻」の科目です。

	社会と産業コース	頁	メディア	単位
	（社会・経済）			
150	ジェンダーの社会学（’０８）㊥	470	R	2
151	社会階層と不平等（’０８）㊥	472	TV	2
152	現代都市とコミュニティ（’１０）㊥	475	TV	2
153	社会と銀行（’１０）㊥	478	TV	2
154	現代経済学（’０９）㊥	481	TV	2
155	労働経済（’０８）㊥	484	TV	2
156	日本経済史（’０８）㊥	487	R	2
157	財政学（’１０）㊥	490	TV	2
	（法律・政治）			
158	現代の犯罪と刑罰（’０９）㊥	494	R	2
159	現代環境法の諸相（’０９）㊥	497	TV	2
160	裁判の法と手続（’０８）㊥	500	TV	2
161	企業・消費者・政府と法（’１１）－消費生活と法－ ㊥ （２０１１年度開設科目）	502	R	2
162	企業の組織・取引と法（’０７）㊥	505	R	2
163	市民生活の財産法（’０６）㊥	508	TV	2
164	行政法と市民（’０６）㊥	511	R	2
165	著作権法概論（’１０）㊥	514	R	2
166	西洋政治理論の伝統（’０９）㊥	517	R	2
167	比較政治－中南米（’０８）㊥	520	R	2
168	現代の国際政治（’０８）－９月１１日後の世界－ ㊥	523	TV	2
169	現代行政分析（’０８）㊥	526	R	2
170	現代日本の政治（’１１）㊥ （２０１１年度開設科目）	528	TV	2
171	日本政治外交史（’０７）－転換期の政治指導－ ㊥	531	TV	2
172	ヨーロッパ政治史（’１０）㊥	534	R	2
173	現代東アジアの政治と社会（’１０）㊥	537	R	2
	（産業・経営）			
174	マーケティング論（’０８）㊦	541	R	2
175	国際経営（’０９）㊦	544	R	2
176	管理会計（’１０）㊦	547	R	2
177	初級簿記（’１０）㊦	550	R	2
178	ビジネス・ファイナンス（’０８）㊦	553	R	2
179	企業戦略と企業文化（’０８）㊦	556	TV	2
180	官民の人的資源論（’０９）㊦	558	TV	2
181	組織運営と内部監査（’０９）㊦	561	TV	2
182	ＮＰＯマネジメント（’１１）㊦ （２０１１年度開設科目）	564	R	2
183	アグリビジネスの新たな展開（’１０）㊦ —豊かな食生活への貢献—	567	R	2
184	グローバル化と日本のものづくり（’１１）㊦ （２０１１年度開設科目）	570	TV	2

		頁	メディア	単位
	（社会技術）			
185	社会技術概論（’０７）㊦	574	TV	2
186	バイオテクノロジーと社会（’０９）㊦	577	TV	2
187	日本の技術革新（’０８）㊦	581	TV	2
187	デザイン工学（’０８）㊦	584	TV	2
188	都市と防災（’０８）㊦	587	TV	2
189	環境デザイン論（’０９）㊦	590	TV	2

㊤ ：旧カリキュラム「社会と経済専攻」の科目です。
㊦ ：旧カリキュラム「産業と技術専攻」の科目です。

	人間と文化コース	頁	メディア	単位
	（哲学・芸術）			
190	日本の思想（’０８）㊚	593	R	2
191	実存と現象学の哲学（’０９）㊚	596	R	2
192	功利主義と分析哲学（’１０）―経験論哲学入門― ㊚	601	R	2
193	現代哲学への挑戦（’１１）㊚ （２０１１年度開設科目）	604	R	2
194	日本美術史（’０８）㊚	607	TV	2
195	現代日本社会における音楽（’０８）㊚	610	R	2
196	舞台芸術への招待（’１１）㊚ （２０１１年度開設科目）	612	TV	2
	（歴史・地域文化）			
197	考古学（’０９）―その方法と現状― ㊚	615	TV	2
198	日本古代中世史（’１１）㊚ （２０１１年度開設科目）	618	TV	2
199	日本の近世（’０７）㊚	622	R	2
200	北東アジアの歴史と朝鮮半島（’０９）㊚	625	R	2
201	中国社会の歴史的展開（’０７）㊚	628	R	2
202	ヨーロッパの歴史と文化（’０９）―中世から近代― ㊚	631	TV	2
203	アメリカの歴史と文化（’０８）㊚	634	TV	2
204	イスラーム世界の歴史的展開（’１１）㊚ （２０１１年度開設科目）	637	TV	2
	（文学・言語文化）			
205	日本語学～母語のすがたと歴史～（’０９）㊚	640	R	2
206	日本語基礎Ａ（’０６）－文法指導法と学習－ ㊚	643	TV	2
207	日本語基礎Ｂ（’０７）－コミュニケーションと異文化理解－ ㊚	646	R	2
208	日本の古典－古代編（’０９）㊚	650	R	2
209	和歌の心と情景（’１０）㊚	653	TV	2
210	日本文学の読み方（’０９）㊚	656	R	2
211	文献学（’０８）㊚	659	TV	2
	（人類学・比較文化）			
212	文化人類学（’０８）㊚	662	TV	2
213	グローバリゼーションの人類学（’１１）－争いと和解の諸相－㊚（２０１１年度開設科目）	666	TV	2
214	博物館資料論（’０８）㊚	669	TV	2
215	博物館経営・情報論（’０８）㊚	672	R	2
	（情報）			
216	コンピュータのしくみ（’０８）㊐	675	TV	2
217	情報ネットワークとセキュリティ（’１０）㊐	678	R	2

㊚ ：旧カリキュラム「人間の探究専攻」の科目です。
㊐ ：旧カリキュラム「産業と技術専攻」の科目です。

	自然と環境コース	頁	メディア	単位
	（生命・生態）			
218	分子生物学（’０９）㊎	681	TV	2
219	生物界の変遷（’１１）－進化生物学入門－ ㊎ （２０１１年度開設科目）	684	TV	2
220	植物の科学（’０９）㊎	688	TV	2
221	動物の科学（’０９）㊎	691	TV	2
	（物質・エネルギー）			
222	現代物理（’０８）㊎	695	TV	2
223	力と運動の物理（’０９）㊎	699	TV	2
224	熱と温度（’０８）㊎	703	TV	2
225	量子物理（’０９）㊎	706	TV	2
226	量子化学（’０９）㊎	710	TV	2
227	分子の科学（’１０）㊎	713	R	2
	（宇宙・地球）			
228	進化する宇宙（’１１）㊎ （２０１１年度開設科目）	716	TV	2
229	太陽系の科学（’１０）㊎	719	TV	2
230	地球のダイナミックス（’１０）㊎	723	TV	2
	（数理）			
231	代数の考え方（’１０）㊎	727	R	2
232	空間とベクトル（’０９）㊎	730	TV	2
233	数学基礎論（’０８）㊎	733	R	2
234	微分方程式への誘い（’１１）㊎ （２０１１年度開設科目）	736	TV	2
235	統計学（’０９）㊎	739	R	2

㊎：旧カリキュラム「自然の理解専攻」の科目です。

６．総合科目

		頁	メディア	単位
236	変動する社会と暮らし（’０７）㊥	742	R	2
237	国際共生に向けた健康への挑戦（’０８）㊥	746	TV	2
238	社会福祉における権利擁護（’０８）㊥	750	R	2
239	格差社会と新自由主義（’１１）（２０１１年度開設科目）	753	TV	2
240	消費者と証券投資（’１１）（２０１１年度開設科目）	757	TV	2
241	途上国の開発（’０７）㊦	760	TV	2
242	幸福の社会理論（’０８）㊦	763	R	2
243	世界の中の日本（’０９）	765	TV	2
244	Political Economy of Japan（’１０） -Growth, Challenges and Prospects for a Well-Being Nation-	768	TV	2 2
245	進化する情報社会（’１１）（２０１１年度開設科目）	773	TV	2
246	地球的課題と法（’１０）	776	R	2
247	観光の新しい潮流と地域（’１１）（２０１１年度開設科目）	779	TV	2
248	環境と社会（’０９）	782	R	2
249	エネルギーと社会（’１１）（２０１１年度開設科目）	785	TV	2
250	日本のマスメディア（’０７）㊧	788	R	2
251	社会の中の芸術（’１０）	792	TV	2
252	社会の中の科学（’０８）㊨	795	R	2
253	数理ファイナンス（’０８）㊩	798	R	2
254	技術革新を支える物質の科学（’０８）㊩	801	TV	2
255	バイオサイエンスで豊かな暮らし（’０８）㊩	804	TV	2

㊥：旧カリキュラム「生活と福祉専攻」の科目です。
㊦：旧カリキュラム「発達と教育専攻」の科目です。
㊦：旧カリキュラム「社会と経済専攻」の科目です。
㊧：旧カリキュラム「産業と技術専攻」の科目です。
㊨：旧カリキュラム「人間の探究専攻」の科目です。
㊩：旧カリキュラム「自然の理解専攻」の科目です。

７．夏季集中科目

司書教諭資格取得に資する科目

		頁	メディア	単位
256	学校経営と学校図書館（’０９）	807	R	2
257	学校図書館メディアの構成（’０５）	810	R	2
258	学習指導と学校図書館（’１０）	813	TV	2
259	読書と豊かな人間性（’０９）	816	R	2
260	情報メディアの活用（’１０）	819	TV	2

看護師資格取得に資する科目

261	成人看護学（’１０）	822	R	2
262	老年看護学（’０９）	825	R	2
263	小児看護学（’１０）	828	TV	2
264	母性看護学（’１０）	831	TV	2
265	精神看護学（’０９）	834	R	2

科目名（メディア）＝　生活とリスク（‘０７）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：　奈良　由美子（放送大学准教授）〕

講義概要

現代はリスク社会、危機の時代などと呼ばれ、また複数の世論調査が生活者の不安の高まりを報告している。生活上のリスクや危機について理解し対処することは生活を送るうえで優先順位の高い課題といえよう。この授業では、生活の安全・安心を阻害するリスクについてその概念と現代的特徴をおさえ、さらにリスクの発生局面と管理局面における生活の関わりを考えていく。

授業の目標

この授業科目のねらいは、現代における生活の特性や生活者のあり方について、「リスク」という切り口によって論じることで、受講者の気づき、理解、考察を引き出すことである。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	リスクを考える	現代はリスク社会であると言われる。リスクの本質・成分、発生のメカニズム、分類方法、安全と安心の違いなど、その概念をおさえたうえで、現代社会のリスクの特徴を、ハザード（危険事情）を整理しながら考察する。また、リスク研究についての基礎学と関連学問領域におけるアプローチを紹介する。	奈良由美子（放送大学准教授）	奈良由美子（放送大学准教授）
2	生活とリスクマネジメント	リスクを最少化するためのリスクマネジメントについて、その意義および具体的な方法を提示する。また、生活価値をふまえベネフィットやコストにも目配りするといった、生活においてリスクマネジメントを実践する際の留意点についても検討する。	奈良由美子（放送大学准教授）	奈良由美子（放送大学准教授）
3	自然災害と生活	阪神・淡路大震災を例示するまでもなく、わが国は世界有数の自然災害国である。また、都市化はさらに新たなリスクを生む。これらに対して社会と生活者はどのような対応をとろうとしているのか、その実態と課題を検討する。	奈良由美子（放送大学准教授）	奈良由美子（放送大学准教授）
4	犯罪と生活	日本の安全神話は崩壊したと言われる。生活者の体感治安が悪化していることも指摘されている。生活の安全・安心を脅かす犯罪について、その実態と課題を考察する。	奈良由美子（放送大学准教授）	奈良由美子（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	交通事故と生活	生活者が自家用車を所有し運転することは、人身リスク・財物リスク・賠償責任リスクを負担することでもある。被害者だけでなく加害者の立場にもなる可能性がある生活者にとっての、交通事故の実態と課題を考える。	奈良由美子（放送大学准教授）	奈良由美子（放送大学准教授）
6	化学物質とリスク	医薬品を始めとして、現代の衣食住に化学物質は欠かせない。これらの多くは健康増進や生活向上のために開発され、実際に大きな利便性を私たちは享受してきた。一方で、それらが想定外のリスクをもたらす場合があることも経験してきた。私たちは化学物質にどのよう向かい合ったら良いのであろうか。いくつかの例を提示して考えたい。	濱田　嘉昭（放送大学教授）	濱田　嘉昭（放送大学教授） 奈良由美子（放送大学准教授）
7	家族とリスク	生活の基本単位のひとつである家族は、生活リスクに対処する単位である。家族構成員は互いにリスク対処資源を提供する。そのいっぽうで、家族はリスクの発生源ともなる。家族と生活リスクの発生局面と管理局面について考察する。	奈良由美子（放送大学准教授）	奈良由美子（放送大学准教授）
8	生活経済とリスク	わたしたちの生活は経済活動を伴うが、その過程ではさまざまなリスクが発生する。生活経済とリスクについて、失業、多重債務、消費者被害、死亡リスク、疾病リスクなどをとりあげながらその実態と対応の可能性について検討する。	奈良由美子（放送大学准教授）	奈良由美子（放送大学准教授）
9	食生活とリスク	高齢社会のわが国において、人々の健康に対する関心はきわめて高い。食習慣の改善によって、がんや動脈硬化、糖尿病などの生活習慣病発症のリスクを予防し、食による健康の維持・増進への期待は大きい。近年における O157, BSE（牛海綿状脳症）、偽装表示、の問題は消費者に対し、食品の安全性、表示などに関して強い不安や不信感を与えた。このような社会的背景の中で、食生活におけるリスクについて概説し、食の安全・安心確保のリスクアセスメント、リスク管理を考察し、消費者、生産者、流通関係者と行政が意見を交換する場・リスクコミュニケーションの重要性を論ずる。	中谷　延二（放送大学教授）	中谷　延二（放送大学教授） 奈良由美子（放送大学准教授）
10	建物の安全性とリスク	建物の耐震性能を取り上げ、建物の安全とは何かを考える。安全には様々なレベルがあること、そして費用対効果の問題でもあることを述べる。さらに耐震基準は、常に過去の被害を下に改定されてきた経緯があり、現行の基準に不適格な建物の危険性と耐震改修の必要性について述べる。	本間　博文（放送大学教授）	本間　博文（放送大学教授） 奈良由美子（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	インターネットとリスク	インターネット空間では、リアルな空間と比べて顕著だと認識される特性（匿名性と非対面性）ゆえのリスクが発生する。それらの実態をおさえるとともに、情報社会に参画する生活者の課題を検討する。	奈良由美子（放送大学准教授）	奈良由美子（放送大学准教授）
12	ライフサイクルとリスク	わたしたちは生まれてから死ぬまでに様々なリスクを負担することになる。人間の生活について長期的な視点からライフサイクルを整理したうえで、各ステージに特有のリスクとしてとくに若者にとってのリスクおよび高齢者にとってのリスクについて考察する。	奈良由美子（放送大学准教授）	奈良由美子（放送大学准教授）
13	リスク文化と生活	リスクについての考え方や対処のし方は、集団や社会によって異なる。日本におけるリスク観やリスク対応の特徴およびその背景を考察しながら、リスク文化について考える。	奈良由美子（放送大学准教授）	奈良由美子（放送大学准教授）
14	リスクコミュニケーション	わたしたちは普段どのようにリスクをとらえ判断しているのか。ここでは、生活者によるリスク分析・評価の特徴を整理し、それらと専門家によるリスク分析・評価との相違を解説する。これをふまえ、リスクをめぐる関係者によるリスクコミュニケーションの意義と課題を検討する。	奈良由美子（放送大学准教授）	奈良由美子（放送大学准教授）
15	リスクに強い生活の構築に向けて	これまでに生活をめぐるリスクについて、その概念や具体的な実態、分析・評価のされ方や管理の方法等について述べてきた。最終回では、リスクに強い生活の構築にむけての課題を総括したい。ここでは３つの課題－①リスク情報のリテラシー、②安全目標の共有、③相互扶助体系への参画－について示す。	奈良由美子（放送大学准教授）	奈良由美子（放送大学准教授）

事務局記載欄	開講年度	２０１１年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1224115	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 健康と社会 （’１１）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：井上洋士（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：山崎喜比古（東京大学大学院医学系研究科准教授）〕

講義概要

健康についての学問はこれまで「健康状態や病気についての生物医学」が主流であり、疾病や健康状態そのものの知識や理解が中心的である。しかし今後は「健康への力」を身につけていくことが求められるようになるだろう。このような時代の「健康への科学」は、行動科学、社会科学など社会諸科学がリンクしたものでなくてはならない。そして、保健医療の専門家でなく市民・住民の立場であっても、保健医療の主体者、または賢いユーザー、良識のある社会人として考え行動していく力を身につけることが必要となる。本講義では、そうした健康や病気と社会とのかかわりについて基礎的理解を深めるのと同時に、一社会人として
この講義では、私たちの健康や生活をとりまくさまざまな社会状況について取り上げながら、納得のいく医療を受け、社会や環境を兼好的によりよく変えていくための視点、考え方、行動、スキルについえ、学生らが自分自身の問題として習得することを狙いとする。

授業の目標

健康・病気と保健・医療の問題を、市民・住民の問題として社会的にみること、あるいは社会的に対応することの重要性の一端を理解する。

履修上の留意点

特になし

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	健康とは何か	健康の定義は様々である。歴史とともに健康や病気、疾患のとらえ方が変わってきている。しかしながら近年では一定の動向が見受けられる。本講義では「健康」とは何か、「社会」とは何かについて、その概略を紹介し、健康と社会とのかかわりについて考える機会としたい。あわせて、2回目以降の授業において、どのように学んでいったらいいのかについて、その一端を紹介する。 【キーワード】 健康、権利、病気、疾患	井上 洋士（放送大学教授）	井上 洋士（放送大学教授）
2	病いの経験と患者の生活の質	人々は病気になると、様々な苦痛を感じるようになる。たとえば、社会とのかかわりが切れてしまうといった出来事も起こりうる。こうした病いとともに生きていく経験は、時として生活の質を低下させることにもつながりかねない。本章では、病気になるとはどういうことなのか、どういった障害を伴うものなのかについて整理していく。 【キーワード】 生活の質、病いの経験、苦痛、QOL、社会活動	戸ヶ里 泰典（山口大学大学院医学系研究科講師）	戸ヶ里 泰典（山口大学大学院医学系研究科講師）
3	社会によりもたらされる健康と病気	健康や病気は、個人の努力や日々の積み重ねによってももたらされるが、それと同時に社会構造によってもたらされる側面もある。個人では解決しにくい病気や、健康の獲得について、薬害HIV感染事件を例にあげつつ、具体的に紹介する。患者参加型の医療についても取り上げる。 【キーワード】 社会構造、ヘルス・プロモーション、協働、個人、薬害	井上 洋士（放送大学教授）	井上 洋士（放送大学准教授） ゲスト・スピーカー：大平勝美（社会福祉法人はばたき福祉事業団理事長）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	健康で明るく元気に働き続けられる労働・職場の条件	近年,企業などが被雇用者に対して「上手な働かせ方」をさせることが重要と指摘されている。働く人たちの健康維持・増進にとって理にかなった労働・職場とはどういうもの、どういうところなのか、その実現のためにはどういう進め方が重要なのかについて明確にする。 【キーワード】 上手な「働かせ方」、疲労・ストレス、健康職場	山崎　喜比古（東京大学大学院医学系研究科准教授）	山崎　喜比古（東京大学大学院医学系研究科准教授） ゲストスピーカー：河合薫（キャスター・気象予報士・健康社会学者）
5	健康とワーク・ライフ・バランス	21世紀に入り、ワーク・ライフ・バランスの必要性が大きくクローズアップされている。働く人々の暮らしや人生を豊かで充実させる「働き方」はどういうものなのか、ワーク・ライフ・バランスの実現を可能にするために社会に求められる取り組みはどうあるべきなのかについて、調査研究結果などをもとに具体的に考えていく。 【キーワード】 働き方、ワーク・ライフ・バランス、長時間労働、余暇、家事・育児	山崎　喜比古（東京大学大学院医学系研究科准教授）	山崎　喜比古（東京大学大学院医学系研究科准教授）
6	賢い医療消費者になるには	人は誰でも一度は医療と接する機会がある。その国々の社会保障システムの中でヘルスケア・サービスは提供されており、我が国においては公費負担医療や医療扶助などを除けば、基本的には一部自己負担によりサービスが提供される。市場の中でヘルスケア・サービスは提供され、基本的に市民はサービスを購入することになる。賢い医療消費者になることは、よりよく生き抜くために重要なことであることを理解する。 【キーワード】 ヘルスケア・サービス、医療消費者、医療法、医療保険制度	一戸　真子（上武大学看護学部教授）	一戸　真子（上武大学看護学部教授）
7	患者の権利と医療の質	患者には病状や治療内容など自らの身体に関する情報について真実を伝えられる権利や、自らの身体になされる侵襲行為について危険性など知らされる権利がある。また、医療の質を高めるためにはどのようなことが重要であるかを理解しておくことが必要である。さらに、患者安全や医療事故については、これまで患者の立場に立ち、薬害エイズ、ハンセン病、薬害肝炎などを含む多くの医療過誤訴訟に携わってきた弁護士でもあるゲスト・スピーカーの鈴木利廣先生とともに考察する。 【キーワード】 患者の権利、医療評価、医療事故	一戸　真子（上武大学看護学部教授）	一戸　真子（上武大学看護学部教授） ゲスト・スピーカー　鈴木利廣（弁護士・医療問題弁護団　代表）
8	医療倫理をめぐる今日的課題	医療の目的は究極的には、「人間の幸福にどれだけ貢献可能であるか」ということができる。科学技術のめざましい進歩によりさまざまな人間の生命に関するアプローチが可能となってきた。ここで重要なことは、個々人の幸福の追求と人類全体としての発展が調和され、社会的倫理観が形成されていくことである。医療倫理をめぐる具体的な今日的課題ごとに検討する。 【キーワード】 医療倫理、中絶・不妊治療、死、先端医療、コンプライアンス	一戸　真子（上武大学看護学部教授）	一戸　真子（上武大学看護学部教授）
9	医療と情報提供	医療に関する情報は、人々が病いと向き合ったり医療と付き合ったりする際に重要な資源となり得る。がん診療連携拠点病院内には相談支援センターがあり、院内外のがん患者及びその家族並びに地域の住民及び医療機関等からの相談等に対応する情報提供体制を整えている。このセンターを例として、医療と情報提供のあり方について考える。 【キーワード】 がん診療連携拠点病院、相談支援、ヘルスリテラシー、情報	高山　智子（国立がんセンター がん対策情報センター がん情報・統計部 室長）	高山　智子（国立がんセンター がん対策情報センター がん情報・統計部 室長）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	医療システムの未来－ともに創る医療	医療システムの未来を考えるとき、これまでチーム医療などでしばしば語られる「患者中心型」のみではなく、また、しばしば医療者を批判的に捉えがちな「医療者－患者関係」という概念だけではなく、患者と医療者とが相互に良好な関係を保ち協働でつくりだす医療システムが求められる。そこで、そうした例について、がん医療の現場を例に紹介する。 【キーワード】 医療者－患者関係、協働、患者中心、パートナーシップ	高山　智子（国立がんセンター がん対策情報センター がん情報・統計部 室長）	高山　智子（国立がんセンター がん対策情報センター がん情報・統計部 室長）　ゲスト・スピーカー 佐々木佐久子（特定非営利活動法人 広島がんサポート 理事）
11	感染症と人権問題	感染症は、間もなくなくなると言われてからすでに長期間が経過した。その間、新たな感染症が次々と登場し、パンデミックを引き起こし、リスクマネジメントの問題が浮かびあがり、感染症に対する恐れや感染者への偏見の問題がクローズアップされてきている。こうした感染症と人権問題について説明する。あわせてマスメディアでの感染症の取り扱いについて、その一端を概観する。 【キーワード】 感染症、人権、差別、偏見、スティグマ、マスメディア	井上　洋士（放送大学教授）	井上　洋士（放送大学教授）
12	セクシュアリティと健康	セクシュアリティについての問題は今日複雑になりつつある。そして、新たな秩序の模索（あるいは、秩序すら必要ないという議論）や、ジェンダーの視点から健康やケアを考える試みも少なからずされている。そこで、ジェンダーとは何か、セクシュアリティとは何かなどについて説明するとともに、それらに関連した健康問題のいくつかを紹介する。 【キーワード】 性、セクシュアリティ、ジェンダー	井上　洋士（放送大学教授）	井上　洋士（放送大学准教授） ゲスト・スピーカー　池上千寿子（特定非営利活動法人ぷれいす東京　代表）
13	ストレスに向き合いつつ健康に生きる	生きるということは、ストレスと上手に向かうこととともいえる。すなわち、ストレッサーに向き合ったとき、ソーシャル・サポートなど周囲の資源を活用しながら健康を守るだけでなく、そうしたストレッサーを成長の糧にすることも、よりよく生きるためには重要なことと言えよう。そこで、そうしたストレッサーとの向き合い方について考える。 【キーワード】 ストレス、ストレッサー、ソーシャル・サポート、ストレス対処	戸ヶ里　泰典（山口大学大学院医学系研究科講師）	戸ヶ里　泰典（山口大学大学院医学系研究科講師）
14	健康と格差	健康の格差がしばしば話題になる。その格差は物的・経済的あるいは文化的・行動的な差によるものだけでない。人々が持つ信頼関係や人間関係（社会的ネットワーク）、すなわちソーシャル・キャピタルの差もかかわってくる。健康の格差にはどのようなものがあり、それらはどう生じてくるのか、その一端について説明する。 【キーワード】 健康の格差、ソーシャル・キャピタル、貧困、社会的不平等	戸ヶ里　泰典（山口大学大学院医学系研究科講師）	戸ヶ里　泰典（山口大学大学院医学系研究科講師）
15	健康を社会的に見るとは～社会と医療の新しい見方・考え方	健康・病気と保健・医療を市民・住民の問題として社会的に見ること・社会的に対応することの重要性は何だといえるだろうか。これまでの14回分の授業をまとめることを通じて、その答を発展的に模索する契機とする。また、同様のテーマでさらに学びを深めたい方々のために、健康社会学などの学問分野についても紹介する。 【キーワード】 健康、社会、個人、地域、健康不安、健康社会学	井上　洋士 山崎　喜比古 一戸　真子 高山　智子 戸ヶ里　泰典	井上　洋士 山崎　喜比古 一戸　真子 高山　智子 戸ヶ里　泰典

科目名（メディア）＝　かしこくなる患者学（‘０７）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：高柳　和江（東京医療保健大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：仙波　純一（さいたま市立病院精神科部長）〕

講義概要

かしこくなる患者学では，医療を患者の視点から考えていきます．初めの回の「エンパワメント」では，体の持つ健康を強めていくことを学びます．しかし，その基盤にあるのは生き物としての人間の自己治癒力です．この自己治癒力をしっかり理解し，笑いや統合医療などで高める方策を知ったうえで，わが国の医療のシステムの特徴を把握し，さらに医療情報の評価や選択の基礎を学びます．この科目の後半では「患者としての権利」，「EBM と NBM」，「患者から社会への発信」，「ヘルスリテラシー」さらにはヒトの「死」などを取り上げ，徹底的に人間の立場から，わかりやすく解説していきます．

授業の目標

人間として幸せに生きる心や身体を保持増進する方策を患者の視点から学習します．

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	エンパワーメント	病人を力づけるエンパワーメントや人間の尊厳などの概念を学習する．エンパワーメントの効果を学び、エンパワーメントの方法としてコーチングやアニメーションについても言及する．	高柳　和江	高柳　和江
2	生まれ，生き，そして死ぬ運命の細胞－自然治癒する身体	生まれ、自然治癒をしながら生き、そして死ぬ運命の細胞の営みを細胞レベルで学ぶ。このために細胞の生命、細胞の損傷と継続、細胞の死、さらに 免疫の仕組みと自然治癒の仕組みが理解できるようになる．こういう基礎知識の中で、 利己的な遺伝子、利己的な胎児、利己的ながんについて考えることができるようになる．	高柳　和江	高柳　和江
3	自己治癒力（1）－病気としてのストレスと自己治癒力	ストレスとしての病気について学ぶ．ストレスとストレッサーの違いがわかり、ストレッサーについて理解できるようになる．さらに、ストレスを低減するためのコーピングについて説明できるようになる．	高柳　和江	高柳　和江

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	自己治癒力（2）－環境と自己治癒力	患者をとりまく環境が自己治癒力に及ぼす悪い影響，またよい影響について考える．	高柳　和江	高柳　和江
5	笑い	笑いの基礎知識を学問的に学ぶ。このために、笑いを脳科学的，あるいは社会学的に分析するための基礎知識を学習し、笑いの医学的効果を知る．そして笑いの病人に対する影響を知り、応用が可能になるようにする．	高柳　和江	高柳　和江
6	統合医療と自己治癒力	ストレスを減らし，自己治癒力を高める統合医療についての一般的知識や，医学的根拠に基づいた伝統的統合医療，さらに今後の方向性などについて学ぶ．	高柳　和江	高柳　和江
7	医療サポート（1）－医療システムの利用の仕方	わが国の現在の医療システムについて学び，患者としての医療の利用法，問題となっている医療政策などを理解する．	高柳　和江	高柳　和江
8	医療サポート（2）－医学医療教育の質の変化	医療提供者に対する教育の質の変化を学ぶ．医学教育や医師国家試験の変貌，研修医制度や専門医制度の発展，およびコメディカルの教育内容の変化についても理解できるようにする．	高柳　和江	高柳　和江
9	医療の選択（1）－医療の情報	病院の情報は最近少しずつ公開されるようになってきたが，医療の結果（成績）の正確な評価とその公開は十分でない．そのため，いわゆる病院のガイド本やテレビの情報番組などでの健康情報などが氾濫している．かしこい患者として，医療情報の内容とその情報収集や選択をどのように行えばよいかを学ぶ．	仙波　純一	仙波　純一

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	医療の選択（2）－医療の質の安全と評価	医療の質を患者安全という視点で取り上げる．医療の質の評価とその利用法，患者安全のために患者自身がなすべきことなどを学ぶ．	高柳　和江	高柳　和江
11	患者としての権利	患者が主体的に医療に参加することが，かしこい患者となる第一歩である．ここでは，患者の権利，アドボカシー，インフォームド・コンセント，セカンド・オピニオンなどの概念とその重要性について学ぶ．さらに，権利だけでなく患者が果たすべき役割も考える．	仙波　純一	仙波　純一
12	EBM と NBM	医学が証拠に基づいた医療（EBM）と患者の語りを基盤とした医療（NBM）があることを学ぶ．EBM は医師の経験や勘によるのではなく，医学的な根拠に基づき医療を行おうとするものである．一方，NBM はナラティヴ・ベースド・メディシンの略である．患者個人の社会的背景や生活史などを理解し，患者の症状を固有の“ものがたり”としてとらえていくという立場である．両者は一見対立するようであるが，実際は医療を行う上で，EBM と NBM は車の両輪の役割を果たしている．	仙波　純一	仙波　純一
13	患者から社会への発信	患者アドボカシーについて考える．患者の側から直接あるいは間接に医療に参加することを学ぶ．模擬患者や医療におけるボランティア活動を理解する．	高柳　和江	高柳　和江
14	ヘルスリテラシー	ヘルスリテラシー（健康や医療情報の読み取り方）を高めるための基本的理解をめざす．医療情報を得た後，それをどう理解し評価するかは重要である．最近は，インターネット上から疾患の治療ガイドラインや薬剤情報などが容易に得られるようになってきた．健康診断の意義や病院情報をどう読み取るかも学習する．	仙波　純一	仙波　純一
15	死を前向きに考える	自然科学的死や社会的死のとらえ方を知り，人間の尊厳を理解し，よりよく死ぬための基礎知識を学ぶ．	高柳　和江	高柳　和江

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1411403	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 運動と健康 （’０９）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：臼井永男（放送大学教授） 〕

講義概要

近年、少子高齢化社会を迎え、生活習慣病の予防や体力の保持増進を目的としたスポーツの普及にはめざましいものがある。一方で、生活の質の向上、あるいは心の豊かさを求めてスポーツに携わる例も増えており、身体的、精神的に果たすスポーツの役割はいっそう高まるものと思われる。本講義では、からだを動かすことの重要性を述べるとともに、スポーツを安全に、楽しく、効果的に実施するために知っておきたい、からだの構造や機能について、運動生理学的ならびに身体運動学的な基礎知識と課題を提示する。

授業の目標

この講義によって、運動の重要性に関する知識を修得するにとどまることなく、スポーツを始めるきっかけをつかんでいただけることを目標としている。

履修上の留意点

これまでの「保健体育（’05）」と同様に「運動と健康（’09）」を履修することによって保健体育科目を履修したことになります。したがって、「保健体育」の単位を取得する必要がある場合には、この科目を履修してください。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	ヒトのからだの特徴	ヒトは、直立・二足歩行という特有の移動様式を呈する。人類の歴史は究めて短いが、からだのかたちや仕組みには、2足歩行に都合よくできている箇所がいくつか観察される。本章では、このようなヒトのからだの特徴について概説する。 【キーワード】 直立・二足歩行	臼井永男	臼井永男
2	神経系の構造と働き	神経系は、構造上から中枢神経系と末梢神経系とに区分される。また、その働きから、運動神経系、知覚神経系ならびに自律神経系に区別される。本章では、からだの各器官を連結し、制御する神経系の構造と働きについて概説する。 【キーワード】 統合、制御	臼井永男	臼井永男
3	呼吸器系、循環器系の構造と働き	ヒトは、栄養素の分解に必要な酸素を取り入れ、その分解によって生じた二酸化炭素を排出している。本章では、これらのガス交換と、その運搬に関わっている呼吸器系ならびに循環器系の構造と働きについて概説する。 【キーワード】 ガス交換	臼井永男	臼井永男

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	運動器の構造と働き	骨格筋は、関節を介して2つ以上の骨に付着している。中枢から運動神経を介して刺激を受けると、筋は収縮し、運動が励起される。本章では、運動に携わっている骨、関節、筋肉の構造と働きについて概説する。 【キーワード】 骨、関節、筋肉	臼井永男	臼井永男
5	基礎的な動作の発達	複雑な応用動作を獲得する前に、立つ、歩く、走る、跳ぶなどの基礎的な動作を身につけなければならない。本章では、誕生から成人と同様な歩容を獲得するまでの変化の様相（発達の様相）について概説する。 【キーワード】 幼児期、運動発達	臼井永男	臼井永男
6	成長期の体力	体力とは、からだの外部に働きかける能力であり、巧みさ、ねばり強さ、力強さに分類される。これらの体力要素は、成長期によって発達時期が異なる。本章では、神経系、内臓、筋線維の発達、ならびに身長の年間増加量の変化と体力の発達との関係について概説する。 【キーワード】 身長の年間増加量、体力	臼井永男	臼井永男
7	運動のエネルギー	筋収縮に必要な直接のエネルギーは、アデノシン三リン酸である。この物質を再合成するためにはエネルギーが必要である。本章では、運動に必要なエネルギー供給機構ならびに栄養摂取について概説する。 【キーワード】 エネルギー供給機構、無酸素性作業閾値	臼井永男	臼井永男
8	トレーニングの基礎原理	からだには多様な機能があり、その適応能力は、性、年齢、健康・体力状態などによって異なる。本章では、安全で有効なトレーニングを行うために留意しなければならない、基本的な考え方について概説する。 【キーワード】 オーバートレーニング、オーバーロードの原理、特異性の原理	臼井永男	臼井永男
9	巧みさの向上	体力のなかで、技術に関連した構成要素として、敏捷性、バランス、協調、瞬発力、反応時間、スピードなどがあげられる。本章では、いわゆる「うまい」と称される巧みさの向上に必要な要素について概説する。 【キーワード】 スキル、運動制御、神経系	臼井永男	臼井永男
10	ねばり強さの向上	ねばり強さは部分的な筋持久力と全身持久力として評価される。ねばり強さのトレーニングによってその向上が認められる。本章では、ねばり強さの向上に必要な要素について概説する。 【キーワード】 持久力、呼吸循環器系	臼井永男	臼井永男

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	力強さの向上	筋線維を構成しているたんぱく質が破壊されると、新しいものに作りかえられる。活動している筋肉は、破壊が大きいが修復も大きくなる。トレーニングによって破壊された筋線維は、修復によってさらに大きくなる。本章では、力強さの向上に必要な要素について概説する。 【キーワード】 筋力、筋の可塑性	臼井永男	臼井永男
12	加齢と体力の低下	体力は、20歳代をピークにして、その後は加齢に従って低下傾向を示す。しかし、その様相は体力要素によって異なる。本章では、体力の加齢現象と、体力低下を軽減するための、中高年者に勧められる運動について概説する。 【キーワード】 加齢、体力	臼井永男	臼井永男
13	スポーツの文化	スポーツは、人間らしさを表現したり、味わったりすることができる重要な文化のひとつでもある。大きく、競技志向型スポーツと健康志向型スポーツに区分されることがある。本章では、人間とスポーツの関わりについて、またスポーツは人類に何をもたらしたのかについて概説する。 【キーワード】 競技志向型スポーツ、健康志向型スポーツ	臼井永男	臼井永男
14	リハビリテーションと体育・スポーツ	運動は、ケガや病気から社会復帰するために究めて有効であることが知られている。本章では、ケガや病気の治療を目的に実施される体育・スポーツ、さらに、障害者が人生をより豊かにするために実施しているスポーツについて概説する。 【キーワード】 リハビリテーションスポーツ	臼井永男	臼井永男
15	生涯スポーツへの誘い（いざな）	不活動による弊害（運動不足の影響）については、広く周知されているところである。本章では、生活習慣病の予防と改善、生活の質のさらなる向上が期待されるスポーツを、日常生活に取り入れることの重要性や課題について概説する。 【キーワード】 HQOL、生涯スポーツ、廃用症候群	臼井永男	臼井永男

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1110306	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　教育と心理の巨人たち　　（’１０）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：岩永　雅也（放送大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：星　　薫（放送大学准教授）　〕

講義概要

ともに発達科学に属する教育学と心理学には、専門的な学習へと進むにあたって必要となる基礎的知識に関して共通する部分が極めて多い。そうしたいわば学習の土台となる考え方や知識のエッセンスは、その多くがそれぞれの学の歴史に一時代を画す“巨人たち”の業績の中に凝集されている。それらは現代でもなお輝きを失わず、われわれに多くの重要な示唆を与えてくれる。本科目では、ジェームズやフロイト、ルソーやペスタロッチなどといった教育学と心理学の先達を各回で取り上げ、その代表作の概略を解説した上で、学史上の意義とそれぞれの学問分野への貢献、そして今日的意味等をわかりやすく講義する。

授業の目標

今日、社会生活のあらゆる局面で著しい文字離れが指摘されている。ネット上の手軽な情報で十分理解できたような気になっていることも決して少なくない。しかし、そうした時代だからこそ、大学教育には本物の知識、本物の学問体系の提供が求められているのである。本科目では、“巨人たち”の著作の精読を通して、教育学と心理学に共通する基礎中の基礎を理解していくことを目標とする。教育と心理に関心を持つすべての学習者の履修を期待したい。

履修上の留意点

科目としての性格上、教育学あるいは心理学の各専門科目を学習するための基礎として本科目の履修を強く希望する。さらに、教育学や心理学と同様に、広く人間とその生に関わる学問分野、例えば哲学、精神医学、生活科学、社会福祉論といった諸分野の学習を志す場合にも、本授業の履修が理解の一助となるはずである。広く履修を勧めたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	巨人たちの系譜	行為としての教育は人類の歴史とともに古い。それは社会的存在としての人間の宿命でもあった。当初自然発生的であった教育に学校が成立したことにより制度としての教育を考察する教育学が成立した。一方、教育の最大の課題である精神の変容に関しては、その重要な前提としての心の理解が不可欠であった。心のありようをめぐる科学、心理学の成立である。ここではまずその二つの学問分野に関わる重要な業績の系譜を俯瞰して、その全体像を理解する。 【キーワード】教育　心理　子ども　発達　社会と国家　科学	岩永雅也 星　薫	岩永雅也 星　薫
2	古代世界の教育	いまだ近代的な意味での教育学が成立していなかった古代社会にあっても、教育という営為それ自体はもちろん広く存在していた。そうした教育実践を踏まえ、多くの哲人や思想家が、教育に対する考えや理念を書き残している。そうした教育学成立以前の古代の教育論に触れながら、巨人たちの足跡をたどる。 【キーワード】プラトン　アリストテレス　孟子　荀子	岩永雅也	岩永雅也
3	コメニウス	近代的な意味での教育学を体系づけた巨人としてコメニウスを取り上げ、彼の主著『大教授学』の中に、彼の教育観、つまり、自然の尊重、神学世界からの脱却、学校教育の体系化といった基本的な思想を読み取っていく。 【キーワード】神学世界からの脱却　自然　近代教育学の父	岩永雅也	岩永雅也

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	ルソー	ルソーは「教育者」あるいは「教育学者」という枠で捉えるにはあまりに巨大でかつ多様な業績を持つ思想家であるが、その教育に関する主著『エミール』には、当時の社会的教育観をはるかに超え、現代にも通ずる示唆が溢れている。教育学における「人と自然」をじっくり読んでいきたい。 【キーワード】 子どもの発見　自然人　自然主義教育　消極教育　青年	岩永雅也	岩永雅也
5	ペスタロッチ	ルソーの影響を強く受けながらも、ルソーのなしえなかった民衆教育の実践に生涯を捧げた近代教育学の確立者、ペスタロッチを取り上げる。彼は、画一的な知識一辺倒の学校教育を批判し、個性と労作を重んずる自助教育を主唱しつつ、貧民の子女や孤児の教育に実践的に関わった教育学者であった。その思いを主著『隠者の夕暮れ』と『シュタンツだより』の中に読み取っていく。 【キーワード】教育の時代　画一教授からの脱却　自助への助け　幼児教育　遊び　恩物	岩永雅也	岩永雅也
6	フレーベル	ペスタロッチの強い影響を受けて教育の道へ進み、幼児教育の分野においてルソーと同様「自然主義」を打ち立てたフレーベルの思想を、その主著『人間の教育』の中に見出していく。また、彼が教育実践の中で考案し、創設した「幼稚園」にも目を向けていく。 【キーワード】品性の陶冶　「自然」からの脱却　教授　訓練　管理　国民教育	岩永雅也	岩永雅也
7	ヘルバルト	教育実践に基づく単なる「教育論」ではなく、初めての本格的な「教育学」を体系的に展開したのがヘルバルトである。今日では誰もが教育には不可欠のものと信じている哲学（倫理学）を理念とし、心理学も含めた教授・訓練・管理を方法とする学の体系がヘルバルト教育学である。ドイツ国内のみならず、近代国家における教育学の体系化を目指したすべての国の教育に多大の影響を与えた主著『一般教育学』を、現代の目で読んでいく。 【キーワード】『隠者の夕暮』　下層階級　ノイホーフ　模倣　自助教育　労作	岩永雅也	岩永雅也
8	デューイ	デューイは、アメリカにおいて今なお最大級の敬意を払われ続ける教育学の泰斗である。彼の「子ども中心主義」あるいは社会と教育との関わりの重要性への思いは、その実践性と併せ、教育学の一つの到達点をなしていると言っても決して過言ではない。ここでは、その著作『学校と社会』から、彼の教育への強い思いを読み解いていく。 【キーワード】道具（実験）主義　子ども中心主義　成長と社会との調和　オキュペイション　民主主義	岡崎友典	岡崎友典
9	ジェームズ	短い心理学の歴史の中では、古い時代に属するW.ジェームズだが、彼の著作『心理学原理』は、いまも現代の心理学発展に寄与したものとして高く評価されている。ここでは、『心理学原理』の短縮版である『心理学』（上）（下）の中から、特に特徴的な章をいくつか取り上げ、ジェームズ心理学の思想とその独自性を見ていく。 【キーワード】 意識の流れ、習慣、自己、ジェームズ－ランゲ説、機能主義	森　津太子	森　津太子

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	フロイト	精神分析学の祖であるS.フロイトを心理学者と見るべきかどうかは、意見の分かれるところかもしれない。しかし、フロイトによる“無意識の発見”は、その後の心理学に多大なる影響を与えたと言えるだろう。ここでは、フロイトが無意識を発見する上で、重要な役割を担った夢の分析について、彼の初期の著作『夢判断』から読みとることで、彼の精神分析学の原点を探っていくことにする。 【キーワード】 精神分析学、無意識、夢分析、夢の作業、心の構造	森　津太子	森　津太子
11	桐原葆見	製糸工場で女工たちが劣悪な環境での過重労働を強いられていた時代に設立された大原労働科学研究所にあって、現場で起こる現実の中にこそ、心理学の問題があるという姿勢を貫いた桐原の心理学は、日本でもあまり知られていない。彼のエッセイをまとめた『労働の生産性』を読んで、日本生まれの桐原の心理学を学ぶ。 【キーワード】 労働科学、ヒューマニズム、現場主義、技術教育、教養教育、職場における精神衛生	星　薫	星　薫
12	ヴィゴツキー	J.ピアジェと同年生まれの、ロシアの発達心理学者、ヴィゴツキーは、近年その発達心理学理論が高く評価され始めている。彼の主著『思考と言語』を読む中で、彼の思想に触れてみたい。 【キーワード】 ピアジェ、発達の最近接領域、協同学習、道具、言語、内言、科学的概念、生活的概念	星　薫	星　薫
13	オールポート	G. W. オルポートは、人間行動の法則解明に力が注がれ、それを形作っているはずの人間ひとりひとりの心の働きは省みられなくなっていた時代にあって、敢えて「パーソナリティ」という難題に目を向けた稀有の存在である。彼の代表作『パーソナリティ　ー心理学的解釈』を読む中で、オルポートが人という存在をどのようにとらえていたのか、読みとっていきたい。 【キーワード】 パーソナリティ、特性論と類型論、共通特性と個別特性	森　津太子	森　津太子
14	エリクソン	彼が提唱した自我同一性概念およびそれを基礎とした、発達漸成論は、心理学や臨床心理学の中で、今なお大きな影響力を持っている。『幼児期と社会』を読みながら、彼の自我同一性の考え方に触れる。 【キーワード】 精神分析、自我心理学、自我同一性、民族的同一性、国家的同一性、心理社会的発達論	星　薫	星　薫
15	スキナー	ワトソンを祖とする行動主義心理学の後継者と目されるスキナーは、心理学を心の科学でなく行動の科学であるべきとして、観察可能な行動をこそ心理学は研究すべであると考えた。『科学と人間行動』をもとに、スキナー心理学を学ぶ。 【キーワード】 行動分析、オペラント条件付け、強化、コントロール	星　薫	星　薫

科目名（メディア）＝　こころとからだ（‘０７）＝（Ｒ）
－人間を理解する－

〔主任講師（現職名）：　岩永　雅也（放送大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：　滝口　俊子（放送大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：　佐藤　禮子（兵庫医療大学副学長）〕

講義概要

われわれにとって、人間という存在は最も身近な存在であり、かつ森羅万象のすべてを理解するための基礎となる基準でもある。しかし、一方、われわれにとって人間はあらゆる意味で最も不可解な対象でもある。そうした容易には理解することのできない人間をどう読み解いていくか‥‥それはまさに学問の根源にもつながる永遠の重要なテーマであるともいえる。この講義では、人間理解に際して欠くことのできない概念である精神と身体について、その基本的な意味と仕組みに関する基礎知識および視点と考え方について、初歩から学習する。さらに、こころとからだの発達とその障害についても、基本的な事柄を学習する。その意味で、本科目は生活と福祉および発達と教育に関わるすべての科目の履修の基礎となる科目である。

授業の目標

人間のあり方をこころとからだの両面から理解するための基礎的な諸概念を知り、さらにそれら相互の関係を理解してもらう。また、人間のこころとからだに関わる諸事象を調べ、検討し、考察するに際して必要とされる最も基本的な認識方法も概略学習する。その上で、人間の発達を巡る諸問題を具体的に検討し、人間理解の魅力と奥深さを感じ取って欲しい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	人間を理解する	人間を理解するとはどういうことか、人間を構成する肉体と精神をどのように把握したらよいのか、そもそも、人間とはどのような存在だと考えればよいのか‥‥人間理解の出発点として、そうした基礎的な枠組みを確認する。	岩永　雅也	岩永　雅也 佐藤　禮子 滝口　俊子
2	生物としてのヒト	いうまでもなくヒトは霊長類ヒト科の生物である。種々の生物の中で、ヒトはどのような系統に属し、どのように発生し、どのような特徴を持った生き物なのか、といった事柄を検討し、その上で、そのことがいかなる生物的生理的な特性となって今のわれわれに現出しているのかを探る。	松本　忠夫	松本　忠夫
3	体の成り立ち	ヒトの身体は、きわめて精密に組み上げられた有機的なシステムである。その全体像と、ヒトとしての特徴や機能特性を解剖・生理学的な視点から理解する。	仙波　純一	仙波　純一

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	こころのとらえ方	人間の精神は、生物学的にいえば脳の機能そのものである。しかし、「こころ」と表現される抽象的な存在とそのありようは、必ずしも脳内の物理的な物質移動や電位差では説明し尽くせない不可解さを持っている。そうしたこころの不思議さとそのとらえ方について、心理学的な理解を試みる。	滝口　俊子	滝口　俊子
5	社会の中の人間	人間が他の生物と決定的に異なるのは、生まれつきの性能部分がきわめて少なく、誕生後にその大半を所属する集団から与えられることである。ここでは「社会化」概念を中心に据え、ヒトが人間になることの基礎を学習する。	岩永　雅也	岩永　雅也
6	社会化と教育	教育とは、体系化された社会化の一形態である。人間の発達と成長、生活全般、あるいは一生のすべてに関わる教育の意味と重要性、あるいは付随する問題点などを大局的に検討する。	岩永　雅也	岩永　雅也
7	からだの発達	人間にとって、体が発達するとはどういうことか‥‥成熟と成長という概念との関わりも視野に入れつつ、身体の発達の概念とそのプロセスについて、生活する人間としての観点から考察する。	佐藤　禮子	佐藤　禮子
8	こころの発達	人間にとって、こころが成熟するとはどういうことか‥‥発達と成長という概念との関わりも視野に入れつつ、精神的な発達の概念とそのプロセスについて、心理学的な観点から考察する。	星　薫	星　薫
9	ライフサイクルと教育	人間が生まれ、肉体的な成熟を果たし、子孫を残し、やがて死を迎えるというライフサイクルの中で、「成長」や「発達」という概念が何を意味するのか、また、それらが人間の一生にどう位置付けられるのかについて考察する。	岩永　雅也	岩永　雅也
10	健康と病気	人間の身体は必ずしも常に健康な状態にあるわけではない。そもそも健康であるということはどういうことなのか、それが阻害された状態、つまり病気の状態とはどのようなものなのか、医学的な観点に限定せず、心理的、社会的な側面も含めて概括的に検討する。	佐藤　禮子	佐藤　禮子

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	保健と医療	人間は、個人として身体の健康を維持するだけでなく、集団としても相互の関わりの中で健康を維持する活動を行う。また、ひとたび怪我をしたり病気にかかってしまったりした場合には、医療が施される。そうした保健と医療の基本的な考え方について学習する。	多田羅浩三	多田羅浩三
12	こころの健康	人間の諸相のなかで最も理解が困難だと思われる「こころ」も、また身体と同様に病んでしまうことがある。こころの「病み」とは何か、どのように規定されるのかを理解し、翻って、そうでない場合、つまりこころの健康とは何かについても考察を深める。	齊藤　高雅	齊藤　高雅
13	心理臨床の視点	心の病みに深く関わる分野が心理臨床である。ここでは心理臨床が対象とするクライエントのありようを、さまざまな事例を通して理解し、心理臨床的なまなざしの意味と有効性について基礎的な理解を試みる。	滝口　俊子	滝口　俊子
14	集団への不適応	人間は社会的に存在するという際立った特徴を持っている。たとえ個体として身体も精神もともに健康であったとしても、集団との関係性の不十分さや齟齬が、不幸な状況を引き起こしてしまうことは決して少なくない。ここでは、そうした集団や社会への不適応について、原理的に学習する。	岩永　雅也	岩永　雅也
15	自立と調和	人間は、一方で個としての自立を求め（求められ）つつ、他方で非常に強く集団内での相互の調和と相互依存を求める（求められる）存在である。そのバランスの上に、われわれ人間は生きているといっても過言ではない。しかも、そのバランスは、時代によって、また社会によって大きく異なっている。われわれはその二つの課題とそのバランスをどう考えていったらよいのか‥‥本講義の最後に、自立と調和という重い課題をディスカッションしていきたい。	岩永　雅也	岩永　雅也 滝口　俊子 佐藤　禮子

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1223615	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 市民と社会を生きるために （’０９）＝ （R）

―実践のすすめ―

〔主任講師（現職名）：高橋和夫（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：坂井素思（放送大学教授）〕

講義概要

私たちが現代社会のなかで生きるためには、社会の実践に関わらなければならない。先の見えない混沌とした現実のなかで、生き方を模索しなければならない。社会に現れる人間の実践は、つねに不確実でリスクを負ったものである。だからこそ、社会を生き抜くには、企業に勤めていても社会的視点をもつ戦略が必要であり、情報を集めて戦術を立てなければならない。グローバリゼーションの進む社会のなかでもローカルな発想が必要とされる。国境を越えた思想や、正義を考慮した根本的な思考が重要となる。広く総合的な視点を持つと同時に、緻密で技術的な表現方法も身につけなければならない。知は力なりであると同時に、実践は知を生み出してきた。この科目では、実践的な人物や社会的な生き方を提示しながら、「社会のなかでの表現技術」や「社会生活の実践」について考えていきたい。

授業の目標

この科目は、現代社会を基礎的なところで学んでいただくための社会科学シリーズの第3弾である。政治学・法学・経済学・社会学について、学生の方がたの関心を呼び起こすために制作されてきた「市民と社会を考えるために（’07）」と「市民と社会を知るために（’08）」に続く、「市民と社会」シリーズ最後の完結を目指した科目である。私たちは、これまでの科目で現代社会の現実を考え、その考え方を知る意義を見てきた。もちろん、これらの科目はそれぞれ独立しているので、履修の順番は問わない。この講義では、私たちの実践活動が現代社会といかに関わっているのかについて考えることを目標にしている。講義内容は、「実践編」、「技術編」、「総合編」に分けて考察されている。

履修上の留意点

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
Ⅰ実践編				
1	社会のなかの実践とは？	この講義は、社会科学の内容をなす政治学・法学・経済学・社会学につき、学生諸氏の関心を高めてもらうために、これまで行われてきた「市民と社会を考えるために」（’07）ならびに「市民と社会を知るために」（’08）という講義に続く第3弾として位置づけられる。われわれは、すでに社会科学を「考え」、それを「知る」ことの意義を学習してきた。第3弾としてのこの講義は、いよいよそれらを「実践」に移す段階を学ぶ。講義は、「実践編」、「技術編」、「総合編」に分けて考察される。技術編では実践のための方法論を提供する。それは、具体的には資料検索の手順や、読書の仕方、さらに自分の思考の成果の論文、あるいは口頭発表という形式での発信の方法を包括している。 【キーワード】 社会科学、実践、技術、生き方、社会	高橋和夫（放送大学教授）、坂井素思（放送大学教授）	高橋和夫（放送大学教授）、坂井素思（放送大学教授）
2	企業の友愛的実践	企業は利潤を上げることを目的に、NGOは何らかの社会的貢献をすることを目的に、それぞれ設立される組織であるが、その両者を合体したような組織が現れ始め、社会的企業と呼ばれるようになった。なぜ、このような組織が現れ、注目されるようになってきたのか。競争が激化し経済合理的行動に徹しないと、企業の存続は危うくなるという昧気ない社会の中で、人は自己を見つめ直し、新たな生き方を模索しようとしているのではないだろうか。ここでは、社会的企業に焦点を当て、更なる展開が期待できるのか考えてみたい。 【キーワード】 企業、社会的貢献、NGO・NPO、社会関係資本、社会的企業	高木保興（放送大学教授）	高木保興（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
3	情報をいかに扱うか	私たちは、日々情報的実践を行って、生活を成り立たせている。検索を行って知識を探ったり、テレビや新聞を使ってニュースを得たりしている。情報をいかに受け入れるのか、あるいは情報をいかに操作するのか、さらに情報操作はいかにあるべきかが問われている。このことを考えたメディア論のマクルーハンの人物像を振り返りながら、このような情報生活と実践との関係について、この章では考えてみたい。 【キーワード】 情報メディア、情報検索、データベース、オートメーション生活	坂井素思（放送大学教授）	坂井素思（放送大学教授）
4	経済のグローバリゼーションを生き抜く	さぬきうどんの原産地はオーストラリア、携帯電話にも、自動車にも必ず外国産の材料や技術が使われている。反対に、米国の財務省証券を最も多く保有している国は日本、日本の自動車とオタク文化は世界を席巻している。このような日本の中に世界が入り込み、世界の中に日本が入り込むグローバリゼーションの時代に、私たちは消費者として、勤労者として、企業人として、そして市民としてどう生きていけばよいのだろうか。激化する国際競争と高齢社会の大波の中で、私たちは市民としてどのようにすれば安心できる暮らしを築いていけるのだろうか。（アナウンサーとの対話形式を想定） 【キーワード】 グローバリゼーション、国際競争、安心・安全、市場経済	林敏彦（放送大学教授）	林敏彦（放送大学教授）
5	国境を越えて生きる	人々は一つの国内にだけ生きているわけではない。近代日本の初期には外国からお雇い外国人が日本の発展を助け、国内からも国際的活躍をする人材も生み出された。国内のエリートのほかにも、国内の事情で外国への移民も数多く出てきた。これら国境を越えて生きた人々の役割を考える。 【キーワード】 お雇い外国人、近代化、移民	天川晃（放送大学教授）	天川晃（放送大学教授）
6	正義の現実性	正義の問題は、ともすると主に理想のみが関わるように思われるが、正義の要求は深刻な仕方で現実的な意味をもつ。なぜ正義が問題になるのか、どのような具体的な問題が正義に関わるのか、ということを、主としてアリストテレスとJ.ロールズの議論を紹介しながら、明らかにする。その上で、一見、理想に過ぎないようなテーマが現実の社会の構成・運用に与える影響を考察する。 【キーワード】 正義、配分、安定性、共生	山岡龍一（放送大学教授）	山岡龍一（放送大学教授）
7	コミュニティづくりにむけて	コミュニティが現在かかえている問題（育児、介護、安全・安心など）に対応して、どのようなコミュニティづくりが可能なのかについて考えます。そのために、コミュニティの現状と課題を明らかにし、それにかかわる集団・組織そして個人の役割を検討し、「住みよいまちの条件」を具体的に考察し、そこから新しいコミュニティの生活、文化、コミュニケーションのあり方などについて考えていきたいと思います。 【キーワード】 コミュニティづくり、住みよいまちの条件	船津衛（放送大学教授）	船津衛（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
8	法の実践	19世紀後半に、ドイツ生まれの法学者であるRv.イエーリングは、『権利＝法のための闘争は、権利者の自分自身に対する義務である』『誰もが、社会の利益のために権利＝法を主張すべき生まれながらの戦士なのだ』と説いた。この言葉は、市民と社会における実践の重要性を法的側面から指摘したものといってよい。それでは、「法の実践」とはどういうことか 【キーワード】 法の実現、裁判規範、行為規範、権利と義務	原島良成（熊本大学准教授）	原島良成（熊本大学准教授）
Ⅱ技術編				
9	政府の活動を調査する	企業活動、国際政治の動き、コミュニティの実態等、市民と社会に関する情報調査が今回のテーマである。新聞、テレビ放送、インターネットと情報の媒体は多種多様であるが、ここでは、社会の仕組みと政治を考える上で要となる「政府の活動」に焦点を絞り、情報を収集し活用するテクニックを紹介する。このような情報調査手法を学ぶことは、単に技術を身につけ役立てることを目ざしているのではない。「政府活動の透明性」や、社会における「確かな情報へのアクセス」の重要性を認識することにこそ、講義の目的がある。 【キーワード】 情報公開、公聴会、パブリック・コメント、透明性、住民訴訟	原島良成（熊本大学准教授）	原島良成（放送大学准教授）
10	社会調査の技法	社会調査の技法について、コミュニティ・メディアの現状と課題を明らかにすることを例にして考えてみます。調査の企画、関係者および住民への聴き取り調査、調査票の作成、調査対象者の決定、調査の実施（面接、郵送、集合、電話、インターネットなど）、回収・集計・分析、報告書の作成、および報告会の開催などについて具体的に検討していきたいと思います。 【キーワード】 社会調査、調査の技法、コミュニティ・メディア調査	船津衛（熊本大学教授）	船津衛（放送大学教授）
11	実践的読書術	読書生活の実践について考える。社会活動を行うなかで、読書の実践的な意味と重要性について考える。図書館を利用する技術、本を読む技術、知識を縮減する技術などのような、社会を考察する上での「読書術」のあり方について整理検討したい。 【キーワード】 活字文化、ネットワーク、知識のレポジトリー、教養文化	坂井素思（放送大学教授）	坂井素思（放送大学教授）
12	論文の書き方	論文とは人類の知識に新しい何かを付け加える壮大な行為である。その壮大な企てに必要な方法を論じる。具体的にはテーマの選択、議論の展開、注の付け方、そして文章作法について解説する。さらには論文と「研究」との違いなどを指摘し、テーマを絞りに絞り込む重要性を強調する。筆者の経験に基づいての体験的な論文論である。 【キーワード】 論文と「研究」、小さいことは良いことだ、的は撃ってから描け	高橋和夫（放送大学教授）	高橋和夫（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	プレゼンテーション	プレゼンテーションとは何だろうか。いかにすればプレゼンテーションは成功するのだろうか。プレゼンテーションに関する技術論と精神論を語る。強調するポイントは、事前準備の大切さ、パワーポイントの功罪、場を読む視点などである。筆者の経験を踏まえた体験的なプレゼン論である。 【キーワード】 場を読む、 ストップ・ウォッチ、パワー・ポイント	高橋和夫(放送大学教授)	高橋和夫(放送大学教授)
Ⅲ総合編				
14	現代社会に生きる:まとめ(1)	21世紀の展望を得るために、20世紀を振り返る。20世紀を特徴づけるものとして特に、戦争と全体主義に着目し、それを、世界史的な視点と日本史的な視点から概観する。これを背景として人権や平和のような価値の意義を検討し、それらの価値がこれからの我々の生活に対してもつ意味、そしてそれらの価値の実現に関する展望を探る。その上で、普通の市民に何ができるのかを考えてみたい。 【キーワード】 戦争、全体主義、人権、平和	天川晃(放送大学教授)、山岡龍一(放送大学教授)	天川晃(放送大学教授)、山岡龍一(放送大学教授)
15	現代社会に生きる:まとめ(2)	かつてケインズは1932年大恐慌のどん底で、「われわれの孫たちのための経済的可能性」を展望した。今度は未来に立って今を考えてみよう。50年後私たちの次の世代はどのような社会に暮らしているだろう。そこに立って21世紀初頭を振り返ってみれば、何が見えるだろうか。21世紀の不安、グローバリゼーションの光と影、齢をとることは「問題」か、働くことの意味、地球環境、安全安心社会はどうなっているだろう。市民と社会は今よりも幸せになっているだろうか。 【キーワード】 未来からの回顧、現在の選択、将来の選択肢	林敏彦(放送大学教授)、高木保興(放送大学教授)	林敏彦(放送大学教授)、高木保興(放送大学教授)

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1120301	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 市民と社会を知るために （’０８）＝ （R）

－名著に触れようー

〔主任講師（現職名）：林敏彦（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：山岡龍一（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：原島良成（熊本大学准教授）〕

講義概要

最初の11回分で社会科学に接近するための「素材」を学生に提供する。学生は、各素材を担当講師がどう調理するかを追体験し、学問の醍醐味に触れる。素材は、学生の興味を引き易いものから順に並べる（物語・エッセイ→各分野の古典素材・純理論的素材）。
残りの4回では、テキストと学問体系との間の架橋という方法論の問題を「～学のあんな本・こんな本」として取り上げ（放送教材は座談形式もあり）、古典の読み方との対比で鮮明に印象付ける。また、自著を語るという形態で執筆の苦労話なども披露す

授業の目標

「市民と社会を考えるために（’07）」は、社会における身近な現象と社会科学との密接な結びつきをややカジュアルな形で提示しつつ、学生の興味関心を引き出すものであった。本講義は、その一歩先の段階として（必ずしも「市民と社会を考えるために」の履修を前提とはしないが）、冒険物語から本格的な研究書まで多様なジャンルの著作を取り上げ、社会科学の問題関心を浮かび上がらせ、学問との架橋を図る。最終的には、様々な問題意識と方法による社会科学研究のカタログを学生に示すことで、各専門科目を学習する際の導きの糸となることを目指している。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	市民と社会を知るとは―著者に聞いてみようー	日常的に観察されるさまざまな社会現象を、いざ学問的に切り分けて体系的知識として整理するとしたら、何を手がかりにすればよいのか。社会科学の諸分野から、理論化を目指した書物が著されているが、最初から難解な専門書にひとりで当たるのは苦痛である。親しみやすい物語・エッセイから入って、研究論文を読み解く各講師の職人芸に触れ、テキストを味わう学習方法を体験してみよう。 【キーワード】 社会科学の学習方法、文献解題	林敏彦（放送大学教授）	林敏彦（放送大学教授） 山岡龍一（放送大学教授） 原島良成（熊本大学准教授）
2	『ハジババの冒険』―文学と政治	19世紀に英外交官がイラン人をかたって出版した本書は、やがてペルシア語に翻訳され、当時の腐敗した政治を批判する道具とされた。また本書のストーリーの背景は19 世紀における欧州列強の中東をめぐる対抗関係であった。文学が当時の国際政治や国内政治の雰囲気の追体験を可能にする場合がある。本書は、そうした例である。つまり、ハジババは文学が政治に影響を与えた例であり、同時に文学から政治に接近する道筋を示唆している。 【キーワード】 文学、政治、「翻訳」、国際関係、社会	高橋和夫（放送大学教授）	高橋和夫（放送大学教授）
3	『ロビンソン・クルーソー』と近代の生活	社会のなかで、ひとりの生活とふたり以上の生活と、どのように異なるのだろうか。近代のヨーロッパ人は、自分たちの世界がグローバルな規模に拡大していくときに、まず自分の生活が気になった。孤島でのひとりの生活との比較を通じて、近代の社会生活というものの特徴を考えてみたい。また、ちょうど英国では、バブル騒動が起きつつあるときに、この本が出版されている。本の内容と時代背景との関連についても考察してみたい。 【キーワード】 冒険、労働、経済人、近代、他者	坂井素思（放送大学教授）	坂井素思（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	我妻栄『法律における理窟と人情』	「法律」というものの評判は、古今東西あまり芳しいものではない。古くから、「法律は世間の不合理を合理化しようとする」、「良き法律家は悪しき隣人である」などの誹りを受けてきた。これは、一体どういうことか。法律を学ぼうとする者は、その意味を解明しなければならない。結論をいえば、これらは、とりもなおさず法律の社会的存在価値を示しているのである。そして、それらの格言は、法律を学び、法律を取り扱う者の「謙虚さ」を求めたものでもあろう。今回学ぶ名著の著者の我妻栄博士は、紛れもなく、日本の法学史上第一等の法学者であった。そして謙虚な方であったらしい。その第一人者が本著の冒頭に「追うべき兎は二匹いる」と恐るべきことをいわれた。不遜の故であろうか。いや、そうではないのだということを学んでみよう。法律の出発点（そして多分終着点）もここにある。 【キーワード】 追うべき兎は二匹いる、嘘の効用、法律論と常識論、綺麗な理屈と常識的結論、謙抑主義と介入主義	中嶋士元也（放送大学客員教授）	中嶋士元也（放送大学客員教授）
5	成果を左右する組織―堺屋太一『組織の盛衰』	新技術導入や制度変更はこれまでの組織を非効率にすることが多いが、組織を新たな状況に応じて適切に作り直すことは至難の業である。ある目的遂行のために作られた組織は、作られたときから組織を拡大し強化しようとするそれ自体の目的を持つようになり、本来の目的が軽視されるということも起こりうる。堺屋太一氏の組織論を参考にして、現代の問題点を探ってみたい。 【キーワード】 組織、共同体、機能体、成功体験	高木保興（放送大学教授）	高木保興（放送大学教授） ゲスト：原島良成（熊本大学准教授）
6	政治家のあり方－岡義武『近代日本の政治家』	政治リーダーが時代を作り、時代がリーダーを求める。近代日本を作ったのはどのような人物だったのだろうか。本書は、伊藤博文、大隈重信、原敬、犬養毅、西園寺公望という5人の政治家の生涯をたどりながら、政治家の性格や個性がその政策や経歴にどのように関係するか、日本の政治の発展の中で彼らはどのような役割を果たしたのか、を冷静に分析する。今日の政治と政治家のあり方を考える上にも示唆するところが多いだろう。 【キーワード】 リーダーシップ、政治家、伝記	天川晃（放送大学教授）	天川晃（放送大学教授）
7	民主政治のゆきすぎを警戒した先人―『ザ・フェデラリスト』	市民の生命財産を守り社会の安寧を確保するためには、権力を集約し政府を組織することが欠かせない。その政府権力は当然、民主的にコントロールされなければならないが、民主的であれば安心、というわけにもいかないようである。アメリカ連邦政府の結成過程で、建国の父たちは法（正しきこと、権利）の擁護にも意を尽くした。そのことは、彼らが市民に向けて語りかけた新聞紙上連載から窺い知ることができる。 【キーワード】 権力分立、連邦制、法の支配	原島良成（熊本大学准教授）	原島良成（熊本大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
8	マキアヴェッリ『君主論』	「政治家は信義を護るべきなのか」「目的は手段を正当化するのか」「支配者は被支配者に愛されるべきなのか」、16世紀イタリアの思想家が発した問いは、現代の我々にとっても興味深いものだといえよう。『君主論』においてマキアヴェッリが「統治＝支配」や「権力」について語ったことの現代的な意義を、本講ではその著作が書かれた時代の考察を通じて明らかにしたい。『君主論』は単に〈政治〉のみならず、〈人間〉や〈人間関係のあり方〉に興味のある人々にも、魅力的な著作であることを示したい。 【キーワード】 新しい君主、人文主義、政治的道徳、政治的自由	山岡龍一（放送大学教授）	山岡龍一（放送大学教授）
9	『三民主義』と中国革命	孫文と彼が主張した三民主義は、大陸中国と台湾双方から支持されている。中国革命における国民党と共産党との激しい対立にもかかわらず、なぜ三民主義が両者によって尊重されているのか。ここに、現代中国を理解する鍵がある。 【キーワード】 孫文、三民主義、中国革命	山田辰雄（慶応義塾大学名誉教授）	山田辰雄（慶應義塾大学名誉教授）
10	社会的自我論の古典ー『精神・自我・社会』	自我は他者とのかかわりにおいて社会的に形成される。この自我の社会的形成について論じた本書は、G・H・ミード（1863-1931）のシカゴ大学での講義を受講した学生のノートを編集したものである。したがって、内容的にあいまいであるとか、一貫していないとか、また、むずかしいといわれてきている。しかし、丁寧に読んでいくと、時代を先取りしたミードの見識の広さと深さに大きく圧倒されてしまうことになる。 【キーワード】 ミード、自我、コミュニケーション	船津衛（放送大学教授）	船津衛（放送大学教授）
11	冷静な頭脳と温かい心情ー『経済学原理』	120年前ケンブリッジ大学に経済学研究を確立したマーシャルの大著を通して、冷静な頭脳の学問としての経済学と、温かい心情の実践としての社会的苦難との格闘について考えてみたい。同時代の問題とのマーシャルの戦から、今日の私たちは、何を学ぶことができるのだろうか。私たちは、マーシャルの意に反して、温かい頭と冷静な心を持ってしまったのではないだろうか。現代の私たちが取り戻すべきマーシャルの精神とは何だろうか。 【キーワード】 経済学原理　理論と現実　経済学と生物学　有機的成長、新古典派、需要と供給	林敏彦（放送大学教授）	林敏彦（放送大学教授）
12	法律学のあんな本，こんな本	法律学の学習においては、条文や判決文に直接あたることが求められる。しかし闇雲に法律を頭から読み下すのでは学習効果は薄く、その背景にある法的思考にまで触れることはできないであろう。今回は、具体的な裁判事例を実際に取り上げて読み解く中で、条文や判決文を読む際の作法を学ぶ。さらに、身近なトラブルと法律とのかかわり、その法的解決を引き受ける裁判官の悩みにまで接近し、学説を整理した体系書・教科書類の参照についても一言したい。 【キーワード】 裁判、六法、条文	原島良成（熊本大学准教授）	中嶋士元也（放送大学客員教授） 原島良成（熊本大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
13	政治学のあんな本，こんな本	放送大学の印刷教材も含めた、政治学関係の著作への接近方法を考える。政治学を学習するうえでのコツをふまえて、政治学の著作や資料を読んでいく際に必要だと思える心得を紹介する。いくつかの具体例を挙げながら、本や資料の選択・利用の方法、知識のまとめ方等について、アドヴァイスもしたい。 【キーワード】 学問の体系性、方法的多様性、古典、市民のための政治学、友と敵、ラディカル・デモクラシー	山岡龍一（放送大学教授）	山岡龍一（放送大学教授）
14	社会学のあんな本，こんな本	社会学はとてもとりつきやすい学問であるといわれる。しかし、少し学んでいくと、とたんにわかりにくくなる。それは研究対象である社会現象の変化が急速であることともに、それを取り取り扱う社会学の見方が多様であり、ときには対立することもあることが、その大きな理由と思われる。そこで、ここでは、そのような社会学的見方を理解するために役に立つ文献をいくつか紹介していくことにしたい。 【キーワード】 社会学的想像力、リアリティ・コンストラクション、自我の社会学	船津衛（放送大学教授）	船津衛（放送大学教授）
15	経済学のあんな本，こんな本	一人の経済学者が出会った本を通じて、出会いの必然と偶然、さらに学問と社会との格闘の一端を紹介したい。取り上げるのは、学部・大学院時代に出会ったあんな本を4点と、著者となって世に送ったこんな本の3点である。最後に、主任講師3人で、本を読むことは社会を知るための著者との対話だということの意味について、考える。 【キーワード】 サムエルソン経済学、ヒックス価値と資本、熊谷尚夫経済政策原理、ミクロ経済学、需要と供給の世界、大恐慌のアメリカ	林敏彦（放送大学教授）	林敏彦（放送大学教授）

事務局記載欄	開講年度	２０１１年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1223712	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　市民と社会を考えるために　　（’１１）＝　（R）

※この科目は「市民と社会を考えるために（’07）」を一部改訂した科目です。
改訂回は第1, 2, 3, 5, 8, 12, 15回です。

〔主任講師（現職名）：天川　晃（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：高木保興（放送大学教授）〕

講義概要

本講義は「基礎科目」であり、「専門科目」への架橋を目指すという位置づけにある。そのために、講義は第1部「社会的な関心・興味を養う講義」と第2部「社会科学の各分野によって異なる基本テーマを取り上げる講義」という2部構成とした。第1部においては、①具体的な社会現象を取り上げ、現象の推移などについて簡単に紹介した上で、②その社会現象を理解するために必要な専門用語やアプローチの方法などについて概説し、③さらに理解を深めるために必要な文献や研究方法などについて説明する、という授業構成とした。第2部については、各分野・領域における基本的なテーマを取り上げ、専門科目への橋渡しを目指した。

授業の目標

本講義の目的は、社会科学の勉学に対する関心と意欲を引き出し、政治学・法学・経済学・社会学の各専門科目について、勉強してみたいという気持ちに導くことにある。したがって、学習の目標は、本講義受講後に、受講者自身が、自ら学びたい専門領域を自覚し、自らの力で学習の指針を構想できるようになることとなる。

履修上の留意点

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	市民と社会を考える	この科目のねらいを明らかにするとともに、講義全体の概要を説明する。新聞やテレビ・ラジオなどを通じて接する社会の問題に関心を向けるところからはじまり、さまざまな社会的現象を社会科学の概念や理論と関連づけて理解することに至るまでの間に出てくる諸問題について説明をする。 【キーワード】観察、比較、因果関係、仮説、社会科学	天川　晃（放送大学・教授）	天川　晃、高木保興、西村成雄、来生新、森岡清志（放送大学・教授）
2	秩序の形成と変動(1)－新しい政権の誕生	近代社会の発展過程において多くの国民国家が誕生し、その潮流は今日においても続いている。新しい政権が誕生した時、われわれはどのような観点からそれを見るのか、そこには共通した要素が存在している。この講義は、中華人民共和国の成立過程とその後の鄧小平時代への移行過程を例にとりながらこの問題を論じる。政権成立の歴史、反対勢力の排除と権力の浸透、イデオロギー的方向性、制度化、国際的地位の確立などの要素が検討される。 【キーワード】中国改革・開放政権、経済発展と市民社会、権利擁護運動、NGO	西村成雄（放送大学・教授）	西村成雄（放送大学・教授）
3	秩序の形成と変動(2)－経済秩序の形成と変動	権力と市場の関係は、一方で相互に支えあい他方のサポートがなければ自らの機能をよりよく発揮できない補完的な関係であるが、他方で相互にその影響から自由に活動することを欲し、その介入を嫌う関係にある。市民社会成立後の近・現代に焦点を当てて、今日に至るまでの経済秩序の形成と変動の歴史を総論的に論じ、戦後日本の歴史を各論的に検討する。 【キーワード】秩序、経済秩序、economic system、交換、権力、市場、政府、支配のレントの最大化、取引費用の低減、財産権の内容規定、市場開設の特許、市場の平和、市場法、商人法、法人、ギルド、特許会社、夜警国家、行政国家、ケインズ政策、社会主義、財政赤字、小さな政府への回帰、財閥解体、独禁法、経済憲法、経済安定本部、外貨割り当て、自由化、行財政改革	来生　新（放送大学・教授）	来生　新（放送大学・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	秩序の形成と変動(3) ーメディアと社会	イラク戦争報道を題材にメディアが社会で果たす役割を検討する。ポイントの第一はメディアの変化である。カタールのアルジャジーラに代表されるような衛星放送局の多様化である。CNNやBBCなどの英語メディアによる寡占状況は過去のものとなった。またインターネットに代表される新しいメディアがジャーナリズムの風景を確実に変貌させてきた。第二は日本の大手メディアに見られる戦争報道の特徴である。具体的には大手メディア各社は協定によってイラク戦争開戦前に自社の社員をイラクから撤退させた。代わりにフリーのジャーナリストたちが危険を冒して大メディアのために現地から報道するという日本的なジャーナリズムの形が成立した。第三に「ワイドショー」と呼ばれる形態のテレビ番組の報道の特徴と人気の理由を考える。最後にメディアの問題を社会学者がいかに見つめてきたかを代表的な文献に言及しながら紹介する。 【キーワード】アルジャジーラ、インターネット、衛生テレビ、CNN、フリー・ペーパー、BBC、ニュー・メディア、ナロー・キャスティング	高橋和夫（放送大学・教授）	高橋和夫 船津　衛（放送大学・客員教授）
5	成長と環境(1) ー豊かさと市民	私たちは、「豊かさ」を求めて経済成長を遂げた。所得は増大し、労働時間は減り、余暇が増えた。ところが、現実には「失業」問題や、「過労とストレス」の問題が起こってきている。市民として生活する上で、豊かさとはいったい何なのだろうか。豊かさの基本的な要件としての「働くこと」について、法学と経済学の観点から考える。特に、雇用関係のなかでの「過労死・過労自殺」という現代社会のトピックに注目にして、市民と社会に関する「豊かさ」のあり方と考え方を探究したい。 【キーワード】成長と環境，幸福のパラドックス、豊かさのパラドックス、シティズンシップ，雇用，失業、疲れとストレス，過労死	坂井素思（放送大学・教授）	坂井素思
6	成長と環境(2) ー先進国と途上国	途上国の環境問題としてダム開発（インドのナルマダ・ダム）、森林破壊、大気汚染を採り上げ、異なった角度から見直すことでいろいろな解釈が可能なことを明らかにする。そして、途上国は特にひどいことをしているわけではなく、貧困から脱出しようとする工業化が環境悪化の主要原因となり、国際社会の一員として先進国や国際機関の勧告に従った政策が却って環境を悪化させていることがある点を指摘する。 【キーワード】国際的NGO,森林破壊、大気汚染、ダム開発	高木保興	高木保興 河合明宣（放送大学・教授）
7	成長と環境(3) ーなぜ今でも成長か	産業革命以来経済成長を至上命題としてきた先進国経済は、これまでにも幾度か資源の限界や環境の制約に直面してきたが、その都度科学技術の発展とその応用で乗り越えてきた。しかし、経済発展が多数の国や地域に及び、世界全体として人口の拡大に歯止めがかからないいま、世界経済は改めて地球環境の制約のもとで持続的な発展の道を求めている。これからも成長は可能なのか。成長に代わる新たな目標はあるのだろうか。 【キーワード】経済成長、資源の限界、水システム、物質サイクル、エコロジカル・フットプリント、持続可能な開発、価値観の転換	林　敏彦（同志社大学・教授）	林　敏彦 丹保憲仁（放送大学・前学長）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
8	自己と他者(1)―社会的ネットワーク	人は、他者とのつながりの中で、そのつながりに影響され、そのつながりを気にしながら、同時にそのつながりを選択し統御して生きる存在である。つながりには集団内部のつながりもあるが、産業化・都市化の進展とともに、集団を形成しないつながりが多くなってきた。そのようなつながりを社会的ネットワークと呼ぶ。社会的ネットワークに注目した興味深い研究の成果を分かりやすく説明しながら、社会的ネットワークという考え方の特色や意義について検討する。 【キーワード】 社会的ネットワーク、パーソナル・ネットワーク、夫婦役割関係、密度、友人ネットワーク、第一次的関係	森岡 清志（放送大学・教授）	森岡清志
9	自己と他者(2)―「市民」と「市民社会」	日本の近代化において、社会科学、特に政治学のなかに現れてきた人間観をたどることで、さまざまな領域で現在注目されている「市民」や「市民社会」といった言葉の意味を検討する。「臣民」「社会」「民衆」「階級」「民族」「大衆」といった言葉の意味を歴史的に解明することで、「人間」の見方が社会や歴史に規定されていることの意味と、「社会」の認識にとって人間論を提起することの意義を確認したい。 【キーワード】臣民、社会、民衆、階級、民族、人民、大衆（社会）、市民（社会）	山岡龍一	山岡龍一 船津 衛
10	自己と他者(3)―グローバル化とローカル化	「グローバル化」「情報化」「ローカル化」などの言葉を、近年よく耳にする。これらは、どのような現象であり、相互にどのように関連しているのであろうか。これらについて、日常生活における具体的な例を通して、まずは考えてみる。次に、概念の整理を行い、それらの現象を捉えるための社会学的アプローチについて紹介する。最後に「グローバル化」した社会が抱えている問題を指摘し、それを乗り越えるための方途を、「ローカル化」というキーワードとともに検討する。 【キーワード】情報化、脱工業型社会、社会調査、モノグラフ	浅川達人（明治学院大学・教授）	浅川達人 船津 衛
11	需要と供給の世界	「官から民へ」あるいは「政府から市場へ」は、政治的な新保守主義と軌を一にして、2000年代日本の合い言葉となった。確かに、市場機構は人類最大の発明と呼ばれることもある。しかし、自由契約を基本とする市場経済は万能ではない。もう一度、需要と供給の世界で達成できることと達成できないことについて思いをめぐらし、市場制度を支え、それを補完するソーシャルキャピタルについて考えてみよう。 【キーワード】新古典派と制度学派、規制緩和、民営化、政府の失敗、自由放任主義と積極的介入主義、価格機構、贈与経済、倫理・道徳、ソーシャル・キャピタル	林 敏彦	林 敏彦
12	住民力とコミュニティ形成	都市生活を営む上で発生する共通・共同の諸問題の多くは、行政サービスや商業サービスによって解決・処理されている。このために、行政サービスへの過度の依存が生じ、住民自治の空洞化をもたらす要因の一つとなっている。地域社会の問題処理システムを改革し、住民の関与を高めるためには、住民の側も、そのための資源を保有してゆく必要がある。住民の有する社会関係的資源（ソーシャル・キャピタル）を「住民力」と名づけ、この住民力とコミュニティ形成の関連について検討する。 【キーワード】 コミュニティ形成、問題処理システム、都市的生活様式、専門処理、住民力、パーソナル・ネットワーク	森岡清志	森岡清志

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
13	日常と人生の法 ー医者と法律はないほうが…	法・法学・法学者の価値に対する評判は，古今東西必ずしもはかばかしいものではない。しかし、「われわれが社会生活をいとなむことが価値あることであるならば、これを合理的に規律しようとする学問が無価値なはずはない」（山田晟『法学[新版]』6頁）と信じよう。信ずるだけではない。手始めに、日常（「起きてから寝るまで」と人生（「生まれるときから天に召されるまで」）において、法がいかにそれらと隣り合わせて存在し、社会生活上有価値なものであるかを検証し、法のあるべき姿を考えてみよう。 【キーワード】契約自由の原則、民法、行為規範、責任規範、公共の福祉、政府（の役割）、法律による行政、基本権保障、権力分立	中嶋士元也（放送大学・客員教授） 原島良成（熊本大学・准教授）	中嶋士元也 原島良成（熊本大学・准教授）
14	グローバル化と国際政治の新しい主役たち	国境を越えて活動するコストの低下が引き起こす様々な現象をグローバル化と定義すると、その影響は国際政治の面でも顕著である。これまで国家によって独占されてきた国際政治に、民間が、NGOが、地方自治体が参入している。たとえば2001年にアメリカで同時多発テロを行ったアル・カーエダは政府でも国家でもない、民間人の組織である。またイラクでは、アメリカやイギリスは民間軍事会社と契約を結び、その多数の「社員」が、施設の警備、要人の警護、警察の訓練などに当たっている。実質上、戦争が民営化されている。あるいはイスラエル軍と戦うヘズボラというレバノンの組織は、国家ではない。国家以外の組織が団体が個人が、国際政治に直接に関与する時代が到来している。こうした「国」際政治という言葉が表しきれなくなった状況を語ろう。 【キーワード】アルカーエダ、インターネット、NGO、お団子主義、グローバル化、戦争の民営化、多国籍企業、民間軍事会社、ヘズボッラー	高橋和夫	高橋和夫
15	日常生活と社会科学	この講義から伝えたいメッセージを明らかにし、各章がそれぞれどのような役割を果たしているかをまとめるとともに、社会科学に興味をもつ読者に、今後考えられる展開について、いくつかの選択肢を提供する。 【キーワード】社会科学、多数の意見、学融合	高木保興	天川 晃、高木保興、坂井素思、山岡龍一

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1120409	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 問題発見と解決の技法 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：柴山　盛生（国立情報学研究所准教授）〕

〔主任講師（現職名）：遠山　紘司（神奈川工科大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：東　千秋（放送大学教授）〕

講義概要

私たちは職場だけでなく、地域や個人の生活においてもさまざまな問題に直面し、何とか解決方法を見つけようと悩んでいる。問題解決の仕方に方法があるのであろうか。ここでは問題とは何かから始まり、問題の見つけ方、解決の手順、解決に必要な情報をどのように収集・整理し分析するのか、解決に必要な考え方とは何かなど一連の過程を通して解決策を見いだしていく科学的技法を学ぶ。また、その過程で思考や発想などを目的に沿って他人に伝え、理解してもらうための基本的な技術を習得する。そして、ここでの学習が実際に応用できることをねらいとして、さまざまな分野から問題解決の具体的な事例を集めて紹介する。

授業の目標

この授業の目標は、「問題とは何か、どのようなとらえ方が適切か、そしてどのようにして発想を広げ、必要な情報を収集・整理し、解決策を見出していくのか、そこにおける一連の科学的技法を学ぶ」ことである。また、「それらの過程において思考や発想などを目的に応じて伝達するための基本的な表現技術を習得する」ことも、この授業のねらいとしている。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	問題とは何か	私たちが仕事や生活の場で直面する事柄を通して「問題とは何か」問題の定義と捉え方を考える。さらに、それらをどのような形で解決へと進めるのか、概略を述べる。 最後に、この授業の構成を紹介した後、放送授業における事例紹介の見方について述べる。 【キーワード】 問題の定義、科目の構成、事例の視点	遠山　紘司（神奈川工科大学教授）	遠山　紘司（神奈川工科大学教授）
2	問題の発見	自分から問題を見つけるにはどうすればよいのか。問題にはどのような種類があるのか。また、問題を解決するためには問題を明確化する必要もある。問題が複数ある場合は何が重要なのか、緊急性等を考慮し、取り掛かる順番を決める。 【キーワード】 問題の発見、問題の種類、問題の明確化、優先順位	遠山　紘司（神奈川工科大学教授）	遠山　紘司（神奈川工科大学教授）
3	目標の設定	問題を見つけたら最終的にどのレベルに達したいのかという目標を設定する必要がある。ここでは目標設定の必要性、達成可能な目標をどう設定するか、目標設定にあたって制約される条件は何か等を述べた後、いくつかの基本的設定方法について述べる。 【キーワード】 目標の条件、達成可能目標、制約条件、目標設定の方法	遠山　紘司（神奈川工科大学教授）	遠山　紘司（神奈川工科大学教授）
4	問題解決の手順	組織の場合の問題解決を中心とし、目標に向けて、目的の明確化、情報収集、具体的立案、発表・伝達という問題解決の手順について説明する。特に企業戦略について触れる。個人の問題解決の手順についても説明する。 【キーワード】 問題解決の手順、企画、戦略、個人の問題解決	大林　康二（北里大学教授）	大林　康二（北里大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	情報の収集と整理	問題解決に向けて、必要な情報を集めそれらを整理・分析する。情報収集では、収集の目的、収集の方法、情報検索について説明する。情報の整理では、収集した情報の記録・整理方法について説明する。 【キーワード】 情報収集の目的、情報収集の方法、整理の視点	柴山 盛生（国立情報学研究所准教授）	柴山 盛生（国立情報学研究所准教授）
6	情報の分析	集めた情報を基に、データの質的・量的な意味を考えて問題解決に向けて分析する。情報分析の方法として有効な統計的な処理や推計について紹介する。 【キーワード】 情報分析の考え方、情報分析の方法、統計的処理、推計	東 千秋（放送大学教授）	東 千秋（放送大学教授）
7	発想の手法Ⅰ：発散的な手法	解を導く上で、事柄を発散的に考えたり、収束的に考えたりすることが有効である。発散的に考える例として、概念や分類、ものとものとの対応を考える思考について紹介し、代表的な発散的な技法としてブレーンストーミングなどを説明する。 【キーワード】 メタファー思考、アナロジー思考、ブレーンストーミング	柴山 盛生（国立情報学研究所准教授）	柴山 盛生（国立情報学研究所准教授）
8	発想の手法Ⅱ：収束的な手法	もう一つの発想の方法である収束的な手法について説明する。収束的に考える手法として、演繹的推論、帰納的推論、確率判断などについて紹介し、いくつかの収束技法を説明する。 【キーワード】 演繹、帰納、推論、確率判断	柴山 盛生（国立情報学研究所准教授）	柴山 盛生（国立情報学研究所准教授）
9	グラフによる表現	問題の解決で何故「表現が必要なのか、表現することの位置づけ」を述べた後、基本的なグラフとその活用法について述べる。比較する、時間的な経過を見る、内訳を知る、分布を見る、関連を探るなどの目的のためには、いろいろなグラフをどのように利用するのが適切か説明する。 【キーワード】 数量表現、グラフの種類、グラフの見方、グラフの描き方	大林 康二（北里大学教授）	大林 康二（北里大学教授）
10	図解による表現	文章で書くと分かりにくい内容を一目見て全体像が理解できる図解について学ぶ。図解は詳細を説明するには必ずしも適さないが、全体像、概略を説明するのによい。自分や自分のグループの考えを聞き手に短時間で正確に理解してもらう手段として有効である。 【キーワード】 図解表現の目的、図解の種類、論理図解	遠山 紘司（神奈川工科大学教授）	遠山 紘司（神奈川工科大学教授）
11	コミュニケーション	人と人の情報伝達の基本であるコミュニケーションは、問題発見と解決において効果的でなければならない。コミュニケーションが効果的でないとき、さらに新たな問題も発生する。効果的なコミュニケーションはどうあればよいのか、文章による表現方法といろいろな場面でのコミュニケーションを考える。 【キーワード】 効果的なコミュニケーション、文章表現、いろいろな場面	東 千秋（放送大学教授）	東 千秋（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	プレゼンテーション	調べたことや自分の考えなどを発表するためのプレゼンテーションについて理解する。ここでは、効果的なプレゼンテーションにおける話し方、資料の作り方、口頭発表とそのまとめ方、質疑応答などを取り上げる。 【キーワード】 聞き手の分析、話し方、資料の作り方、口頭発表、まとめ方	東　千秋 （放送大学教授）	東　千秋 （放送大学教授）
13	評価	問題が解決したのか、またどの程度達成したのかを判断するための評価方法について学習する。ここでは、評価の対象と種類および数値的でない評価方法、数値的な評価法などの理論と手順について説明するとともに、それらに対応した例を考える。 【キーワード】 対象と種類、非数値的評価、数値的評価、評価の理論と手順	柴山　盛生 （国立情報学研究所准教授）	柴山　盛生 （国立情報学研究所准教授）
14	総合事例Ⅰ・Ⅱ	組織や地域における問題の特徴、そこではどのような問題が起こりやすいか、それにどのように取り組み、どのように解決したかを説明する。事例として、商店街における町おこしと看護師教育を取り上げる。 【キーワード】 職場での問題解決、地域での問題解決	柴山　盛生 （国立情報学研究所准教授） 大林　康二 （北里大学教授）	柴山　盛生 （国立情報学研究所准教授） 大林　康二 （北里大学教授）
15	総合事例Ⅲとまとめ	3つ目の総合事例として神戸市役所における「明日の豊かな神戸」を目指した目標設定と具体的なプラン、それに向けた取組みの様子を学ぶ。最後に、この授業を実際に生かす方法について述べる。 【キーワード】 神戸市役所	遠山　紘司 （神奈川工科大学教授） 東　千秋 （放送大学教授） 柴山　盛生 （国立情報学研究所准教授） 大林　康司 （北里大学教授）	遠山　紘司 （神奈川工科大学教授）

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1110411	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　情報の世界　　（’１０）＝　（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：川合　慧（放送大学教授）　　〕

講義概要

我々がそのただ中に暮らしている情報社会では，自動機械であるコンピュータと物理的距離を克服するネットワークの両者の超高速化によって，これまで我々が持っていた基本的な概念や常識が通用しなくなるほどの変化が日々進行している．これらの変化は社会自体の変容ともなって表れてきているが，一般的には「便利になった」程度の認識しか持たれていないことが多い．この講義では，そもそもの情報の記号表現，記号化された情報の処理の様子，情報システムの実際，そして情報系と社会ルールとしての法との関係などを学び，情報社会の一員として持つべき情報の実態についての基本的な理解と認識とを身につける．

授業の目標

情報社会では，非常に多くの局面や段階において「情報」がさまざまな役割を果たしているが，それらを網羅的に把握し理解することは不可能であるのが実情である．この講義では「情報」に関する基本的な軸をいくつか設定し，それらに沿った基本的理解を身につけることによって，情報社会全体を把握する方法を学ぶことを目標とする．具体的な軸としては，情報の記号表現の方法とその本質，情報を処理するやり方の基本，情報社会を支える情報システムの実際とその開発の様子，情報社会における法の役割，社会を動かす情報メディアの特質，の5項目を設定し，それぞれについての具体的な理解を目指す．

履修上の留意点

情報科学の基礎（‘07）の履修が望ましいが必須の前提ではない．

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	情報社会とその本質	私たちは情報社会のただ中にあり，様々な情報に接しそれらを使いこなしていると考えているが，情報そのものについて考えることはほとんどない．ここではまず，社会における情報の拡まりについて考えたあと，情報の基本的な性質とその受け止め方を理解し，情報社会で生きてゆくための基本を認識する． 【キーワード】 情報社会，情報ネットワーク，コンピュータ，ソフトウェア，表現	川合慧（放送大学教授）	川合慧（放送大学教授）
2	情報と記号	情報は抽象概念であり，そのままでは扱うことができないので，人間や機械が何らかの方法で認知できる形式で表現する必要がある．これを一般に記号と呼ぶ．人にとっての情報の性質を考えることは記号の性質を考えることに通じている． 【キーワード】 情報の性質，記号，分節，関係の視点	斎藤俊則（日本教育大学院大学准教授）	斎藤俊則（日本教育大学院大学准教授）
3	情報環境と記号論	記号論の観点から描き出される情報の性質を学習する．情報を読み取る人を取り巻き，その人が読み取る情報に影響を及ぼす環境をここでは情報環境と呼ぶ．ここでは人にとっての情報の発生に関与する「コード」と「コンテクスト」という二条件に注目しながら情報環境のあり方を議論する． 【キーワード】 情報環境，コードとコンテクスト，コミュニケーション，文化	斎藤俊則（日本教育大学院大学准教授）	斎藤俊則（日本教育大学院大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	計算のモデル化	問題解決に際して，解答を求めるために行なうことすべてを計算と呼ぶ．本章では，計算の概念やその表現方法を見るとともに，計算のやり方を類型化した体系である計算モデルについて学ぶ． 【キーワード】 計算，繰返し，判断，変数，関数，再帰，計算モデル	川合慧（放送大学教授）	川合慧（放送大学教授）
5	計算とプログラム	記号化された情報は，さまざまな方式で処理されるが，その実態は計算のモデルに用意された基本的な処理の積み重ねである．必要な処理の指定であるプログラムについて，その基本的な性質と限界とを学ぶ． 【キーワード】 段階的洗練化，モジュール化，プログラム，代入，探索，並替え	川合慧（放送大学教授）	川合慧（放送大学教授）
6	計算の手順と計算量	基本的な計算モデルの機能と実際に必要とされる情報処理機能との間には，おもに量的な面で非常に大きな差がある．実際のプログラム例を学ぶことにより，この差の存在とその克服方法の概略とを理解する．アルゴリズム及び計算量という概念にも触れる． 【キーワード】 アルゴリズム，計算の手間，計算量，計算量のオーダ	川合慧（放送大学教授）	川合慧（放送大学教授）
7	ソフトウェアと情報システム	プログラムは必要とされる情報処理機能に従って集積され，現実に使用されるソフトウェアとなり，さらに情報システムとして構築される．ここでは，ソフトウェアとして要求される性質と，ソフトウェアから情報システムを構成する様子を学び，いくつかの情報システムの例を見る． 【キーワード】 プログラムの正当性・信頼性，情報システムの構築	川合慧（放送大学教授）	川合慧（放送大学教授）
8	情報システムの開発	情報社会では，多種多様なニーズを満たす情報システムを開発する必要に迫られている．ここではシステム開発に関する基礎事項，開発のための方法論，開発支援のためのシステム，などを学ぶ．また情報システム開発には，実際の開発で注意すべき事柄も多い．システム開発で行われている工夫の様子を実環境から学ぶ． 【キーワード】 ソフトウェアの仕様，要求仕様，開発ライフサイクル，開発支援ツール	中谷多哉子（筑波大学大学院准教授）	中谷多哉子（筑波大学大学院准教授）
9	情報システムの開発管理	情報システムの開発は，通常，多くの関係者が関わるプロジェクトとして組織的に行われる．多くの人が一つの目標に向かって働くことから，作業内容を決め，役割分担を効果的に行うことが重要となる．ここでは，情報システムを開発するためのマネジメントについて学ぶ． 【キーワード】 情報システム開発，スケジューリング，リスクマネジメント	木野泰伸（筑波大学大学院准教授）	木野泰伸（筑波大学大学院准教授）
10	人とシステムのインタフェース	私たちが現代社会で直接に触れる情報システムは数多いが，そのようなシステムでは，人間という利用者とのスムーズな情報交換が重要である．ここでは，ユーザインタフェースと呼ばれる情報交換系についての基本事項とその注意点について理解する． 【キーワード】 ユーザインタフェース，ユーザビリティ，ユニバーサルデザイン	木野泰伸（筑波大学大学院准教授）	木野泰伸（筑波大学大学院准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	社会基盤としての情報システム	情報システムの中には，社会基盤を支えているものも少なくない．そのようなシステムは，安定的な運用，安全性に対する配慮が極めて重要である．ここでは，利用者が誤らないための配慮，運用上の管理の様子を，種々の分野における実例を通じて理解する． 【キーワード】 社会基盤，リスク回避	中谷多哉子（筑波大学大学院准教授）	中谷多哉子（筑波大学大学院准教授）
12	人間社会と法	「社会あるところに法あり」という法格言に見られるように，法と社会とは切り離すことのできない関係にある．ここでは，その両者の関係について，基本的な事項を理解する．これは変化の激しい情報社会における法の理解にとって重要な事項である． 【キーワード】 法，法の存在形式，法の解釈，社会と法の変動	福島力洋（関西大学准教授）	福島力洋（関西大学准教授）
13	情報活動と法環境	社会の情報化は，情報化を前提としていなかった法状況に変化を迫ることとなる．ここでは，情報流通から生ずる法的問題とそれに対する法的対応について，具体例を参照しつつ理解する． 【キーワード】 情報社会の光と影，既存法の適用，新規立法，法改正，メディアの融合と規制枠組の転換	福島力洋（関西大学准教授）	福島力洋（関西大学准教授）
14	情報社会と主体性	情報社会において主体的に生きる可能性を探るために，私たちの意識とメディアとの関係を切り口にしながら主体性の成立する条件を考察する．「主体的に生きること」は情報社会における教育上の主題としてしばしば語られる．ここでは「主体性」という言葉の意味を吟味するところから出発し，個々人の主体性の成立に対するメディアの関わりを中心に議論を進める． 【キーワード】 情報社会，主体性，メディア，価値観	斎藤俊則（日本教育大学院大学准教授）	斎藤俊則（日本教育大学院大学准教授）
15	情報の世界	情報社会では様々な要素が複雑に絡み合いながら物事が進行している．そのすべてを詳細に理解することは困難であるが，かと言ってごく一部の様子だけを知っていればよいというものでもなく，全体をバランスよく把握することが大切である．本章ではこの全般的な理解のための着目事項を示す． 【キーワード】 デジタルとアナログ，問題解決，モデル化，表現，ソフトウェア	川合慧（放送大学教授）	川合慧（放送大学教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1110209	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 哲学への誘い （’０８） ＝ （R）

〔主任講師（現職名）：佐藤康邦（放送大学教授）〕

講義概要

哲学を学ぶことが敬遠されがちなのは、その用語や思考法が、いわゆる哲学用語や哲学的概念の世界に閉じこもっており、それが部外者の理解を拒んでいるかのように見えるという理由からではないかと思う。しかし、哲学的なものに対する関心は多くの人々の心の中にあるはずである。この授業では、哲学以外の所に題材を求めながら、そこに哲学的な問題を探るという基本方針を取ることにする。対象は、多岐にわたるが、哲学の部分は、50％以下に留め、これまで哲学に触れたことがなかった人々にも哲学に触れるきっかけを与えるようにしたい。

授業の目標

最初の部分では哲学の源流である古代ギリシャの文化的背景について展望し、それとギリシャ哲学との関連を考える。二番目では近代社会に生きる私たちの現実の問題が哲学という場面でどのように捉えられるのかを考える。そこでの知見は、私たちが日常の生活で出会う問題に対処する際にも有益なはずである。最後は、文学や芸術との関連で、哲学の問題を考える。文学作品においていかなる哲学主張がされているか、また、絵画を支える遠近法のような技法の持つ哲学的内容は何かについて考える。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	第Ｉ部　古代ギリシャの知恵　(1)ヘロドトスの『ヒストリア』	歴史の父ヘロドトスの『歴史』は、古代ギリシャの最盛期の文化を成立させるきっかけになったペルシャ戦争についての記述である。それは、歴史学的に重要であるというだけではなく、その思想内容という点でも魅力的である。そのことを明らかにしたい。 【キーワード】 ヒュブリス（驕慢）への諫め	佐藤康邦（放送大学教授）	佐藤康邦（放送大学教授）
2	第Ｉ部　古代ギリシャの知恵　(2)トゥキュディデスとペロポネソス戦争(上)	トゥキュディデスは、アテネとスパルタとの間におこったペロポネソス戦争の記述を行った。最後にはアテネの敗北に終わるこの戦争についてのトゥキュディデスの記述である『戦史』が、最盛期ギリシャの最高の知性の産物であるゆえんを明らかにする。 【キーワード】 歴史記述の客観性	同上	同上
3	第Ｉ部　古代ギリシャの知恵　(3)トゥキュディデスとペロポネソス戦争（下）	いよいよ『戦史』の記述は佳境に入り、ペリクレスの演説、シシリー遠征を通じてギリシャ思想の心髄が示される。 【キーワード】 理想と現実	同上	同上
4	第Ｉ部　古代ギリシャの知恵　(4)ギリシャ悲劇	ギリシャ悲劇はギリシャの生み出した文化遺産のなかでも最も魅力的なものの一つであり、アリストテレス、ヘーゲル、ニーチェ等の哲学者によって様々に論じられてきたものである。アイスキュロスの『アガメムノン』を題材にしてその魅力に迫りたい。 【キーワード】 運命と自由	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	第Ⅰ部　古代ギリシャの知恵　(5)恋愛小説としてのプラトン	プラトンのイデア論は西洋哲学史の最重要主題の一つであるが、イデアを論ずるにあたり、プラトンは、「エロス(愛)」について論じている。それは、古代文学最上の恋愛文学とも言えるものなので、もっぱらその側面からプラトンの思想を扱ってみたい。 【キーワード】 エロス	佐藤康邦（放送大学教授）	佐藤康邦（放送大学教授）
6	第Ⅱ部　近代国家の現実と哲学　(1)法の哲学	近代国家は所有の自由他様々の自由を擁護しているが、それは、どのような哲学的根拠を持つのか。ホッブズ、ロック、ルソー、カント等の自然法思想を参照しつつ、それと対比する形で、ヘーゲルの『法の哲学』を検討してみる。そこで、たとえば時効という法学概念も哲学的に検討される。 【キーワード】 法の哲学	同上	同上
7	第Ⅱ部　近代国家の現実と哲学　(2)道徳と自由、(3)家族	(2)では、近代国家における自由の問題を個人の内面の自由の次元に遡って検討する。(3)では、近代家族の問題を扱う。双方において、自己決定の射程距離について検討する。 【キーワード】 自己決定の境界線	同上	同上
8	第Ⅱ部　近代国家の現実と哲学　(4)市民社会	近代国家を支える一方の柱は資本主義である。近代法もこの資本主義経済に対応する性格を備えている。その哲学的探究のために、ヘーゲルの市民社会論を軸としつつ、スミス、マルクス等の思想を検討する。 【キーワード】 経済と倫理	同上	同上
9	第Ⅱ部　近代国家の現実と哲学　(5)国家	近代の国民国家について検討する。一方で官僚制を始めとした国内体制について検討するとともに、戦争の問題を考える。カントの永久平和論と戦争を不可避のものと考えたヘーゲルの思想との比較を軸にすえながら考察を進める。 【キーワード】 国家と戦争	同上	同上
10	第Ⅱ部　近代国家の現実と哲学　(6)日本の近代国家	明治以降の日本という国家を哲学の観点からどう捉えるか。一方的なイデオロギーに流されることなく語ることはむずかしいが、できるだけ多面的で公平な観点から扱う。和辻哲郎の『倫理学』を軸に考える。 【キーワード】 和辻哲郎	同上	同上
11	第Ⅲ部　文学と哲学　(1)ロシア文学と哲学	日本近代に対しても、ロシア文学は単に文学的ということを超えた哲学的影響を与えた。そのなかでも、ドストエフスキーの存在は大きなものであった。彼の『地下生活者の手記』から哲学的主題を引き出してみる。 【キーワード】 不条理と反抗	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	第Ⅲ部　文学と哲学 (2)日本近代文学と哲学	森鴎外の「空車」という概念や小林秀雄のベルグソン解釈を通じて、日本近代において、哲学を専門とするわけではなかった人々の哲学的発言について考える。 【キーワード】 翻訳文化	佐藤康邦（放送大学教授）	佐藤康邦（放送大学教授）
13	第Ⅳ部　絵画空間と哲学　(1)絵画と遠近法	第Ⅳ部では、絵画における遠近法技法を介して、芸術と科学、さらに哲学との関係を検討する。始めは、ルネッサンスにおける遠近法の成立について検討する。 【キーワード】 象徴形式としての遠近法	同上	同上
14	第Ⅳ部　絵画空間と哲学　(2)デカルトからセザンヌまで	絵画技法としての遠近法が、近代科学の成立の先駆的位置にあることを検証した後、最後には、セザンヌに代表される遠近法解体期の絵画について考察する。 【キーワード】 機械論的自然観	同上	同上
15	第Ⅳ部　絵画空間と哲学　(3)始源的奥行きの哲学	奥行き知覚についての哲学的考察を行った後で、現代絵画を含めた、東西古今の絵画における奥行き表現の比較検討をする。 【キーワード】 始源的奥行き	同上	同上

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1110403	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 歴史と人間 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：草光俊雄（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：五味文彦（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：杉森哲也（放送大学教授）〕

講義概要

本科目は、歴史をつくる人間を通じて歴史について考える基礎科目である。歴史を考えるうえで最も親しみやすいのが人間の活動であることから、具体的な人物像を通じて、人間の諸活動が歴史にどう関わっていたのかを考えることとする。そこで、世界史・日本史上で顕著な活動を残した人物を取り上げ、その活動を追うとともに、それを調べ探るための史料や方法、その人物の生きた社会や時代像について講義する。また特論として人間を視点においた歴史のありかたを考える。

授業の目標

歴史については中学・高校と学習してきており、特に高校では世界史が必修となっているという現状を踏まえるならば、大学の基礎科目として何がふさわしいのかが問題となる。そこでこの科目では、歴史的なものの見方を養うことに重点をおくが、その際に歴史が人間の諸活動の所産であることから、具体的な人物を通して人間が歴史にどう関わっていたのかを探ってゆくものとする。こうした学習をとおして、専門科目を学ぶ前提としての基礎的な知識や方法を身につけることを目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	歴史と人間との関わり（特論1）	歴史を探る意味を考え、歴史がどう書かれてきたのかを中国・ヨーロッパ・日本の古代に生まれた歴史書で探って、歴史と人物との関わりについて触れる。歴史で人間というと英雄の名が思い起こされるが、民衆の存在も重視したい。 【キーワード】 歴史書・国家・戦争	五味文彦（放送大学教授）	五味文彦（放送大学教授）
2	司馬遷	司馬遷は中国の歴史家、紀元前2世紀の前漢武帝の時代に「紀伝体」という独創的な歴史記述の形を考案して『史記』を著した。以来今日までの長い期間、この書は多くの人々によって読み継がれてきた。それは何よりもそこに人間が描き出されているからだとされる。この点に留意しつつ『史記』と司馬遷について考える。 【キーワード】 司馬遷、史記、紀伝体	浜口允子（放送大学客員教授）	浜口允子（放送大学客員教授）
3	聖徳太子（厩戸皇子）	聖徳太子（574～622）の実像と虚像を通じて、歴史的に人間像がどのように作られていったのかを考える。用明天皇の皇子・厩戸皇子は古代国家の形成期において政治的・文化的に大きな足跡をのこしたが、皇子はその死後に聖徳太子といつしか称されるようになり、後世に大きな影響をあたえるようになった。その実情を探ることにする。 【キーワード】 聖徳太子　厩戸皇子　日本書紀　太子信仰	五味文彦（放送大学教授）	五味文彦（放送大学教授）
4	源頼朝と北条政子	武家政権を東国に形成したのは、源頼朝（1147～1199）と北条政子（1157～1225）の夫婦であった。夫婦で武家政権をどのように形成し、幕府として発展させていったのかを、二人の活動を詳しく記す幕府の歴史書『吾妻鏡』の性格を考えつつ探る。 【キーワード】 源頼朝　北条政子　吾妻鏡　武家	五味文彦（放送大学教授）	五味文彦（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	交流と人間（特論2）	歴史の転換点には、他の文明や文化との交流が大きな意味をもっていた。その交流のなかで大きな足跡を残した人物をとりあげ、その活動を追い、いかに後世に大きな影響をあたえたのかを考える。本章ではモンゴルの襲来をとりあげ、その攻防と影響について考える。 【キーワード】 フビライ　北条時政　モンゴルの襲来	五味文彦（放送大学教授）	五味文彦（放送大学教授）
6	ルターとクラーナハ	マルティン・ルター（1483～1546）は、ドイツの神学者で、宗教改革の中心人物である。ルターによる改革思想を通じてドイツ社会は大きく変わるが、その思想伝達にはルーカス・クラーナハという北方ルネサンス画家の寄与も少なくなかった。改革思想の伝達のしくみを考察しながら、宗教改革の歴史的意義についても考える。 【キーワード】 マルティン・ルター、ルーカス・クラーナハ、宗教改革、プロテスタント	森田安一（日本女子大学教授）	森田安一（日本女子大学教授）
7	天正遣欧使節 －16世紀の日欧交流－	1582（天正10）年、イエズス会東インド巡察師ヴァリニャーノは、日本の有力大名の名代という名目で4名の少年をヨーロッパに派遣した。これが天正遣欧使節であり、16世紀におけるヨーロッパと非ヨーロッパ世界の関係を考える上で重要な出来事であった。この天正遣欧使節を通して、16世紀のヨーロッパと日本の歴史について考える。 【キーワード】 天正遣欧使節、イエズス会、ローマ教皇	杉森哲也（放送大学教授）	杉森哲也（放送大学教授）
8	梅津政景 －秋田藩政の確立者－	梅津政景（1581～1633）は、17世紀初頭に秋田藩の家老を務めた人物である。『梅津政景日記』という優れた記録を残しており、近世史研究のうえでは重要な人物として知られている。その生きた時代は、日本の歴史が戦国から近世へと大きく転換した時代であった。この梅津政景をとおして、転換期における人間について考える。 【キーワード】 梅津政景、日記、秋田藩	杉森哲也（放送大学教授）	杉森哲也（放送大学教授）
9	近代社会と人間（特論3）	「近代」という言葉を検討し、主としてルネサンス以降のヨーロッパ社会において、人間観がどのように変遷してきたかを探る。 【キーワード】 近代、ルネサンス、古代、中世、社交、懐疑主義	草光俊雄（放送大学教授）	草光俊雄（放送大学教授）
10	ブルネルとオスマン	ブルネル（1806～1859）は鉄道、橋梁、造船等の建設・建造においてイギリスの産業革命の成果を最大限に活用し、19世紀を代表する技術者。オスマン（1809～1891）はナポレオン3世治下、パリの都市計画を推進し、今日見られる都市景観を作り出した人物で、近代社会のインフラの整備における一つのモデルを提供した。実際に自らの知力と技術を駆使して近代社会を作り上げていった人々の代表として採り上げる。 【キーワード】 ブルネル、イギリス、産業革命、オスマン、パリ、都市計画	草光俊雄（放送大学教授）	草光俊雄（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	福澤諭吉	福澤諭吉（1834～1901）は、近代日本を代表する思想家・教育者であり、その人物像については改めて説明を要しないであろう。福澤諭吉が生きた19世紀という時代は、日本と東アジアにとって、それまでの比較的安定した体制が大きく変化した時代であった。福澤諭吉をとおして、主として19世紀の日本と世界の歴史について考える。 【キーワード】 福澤諭吉、19世紀	小室正紀（慶応義塾大学教授）	小室正紀（慶応義塾大学教授）
12	山川健次郎 －旧会津藩士の東京帝国大学総長－	山川健次郎（1854～1931）は、東京帝国大学の総長を務め、日本の物理学の基礎を築いた人物である。会津藩の家老の家に生まれ、政府留学生としてアメリカのエール大学に学んだ。妹の山川捨松は、津田梅子とともに明治政府によって派遣された最初の女子留学生である。山川健次郎とその兄弟の人生をとおして、日本の近代化について考える。 【キーワード】 東京帝国大学、教育、会津藩、戊辰戦争	杉森哲也（放送大学教授）	杉森哲也（放送大学教授）
13	ケマル・アタテュルク	アタテュルク（1881～1938）は20世紀初頭のトルコ革命の指導者。トルコ共和国の初代大統領として独裁的な力をもち、日本の明治維新をモデルに言語、教育、文化にもおよぶ大胆な欧化政策をすすめ、脱イスラム国家化をはかった。その後の歴史とあわせ、イスラム世界における近代化のかたちについて考える。 【キーワード】 ケマル・アタテュルク、トルコ、イスラム	坂本勉（慶応義塾大学教授）	坂本勉（慶応義塾大学教授）
14	マハートマ・ガンディー	インドを大英帝国からの独立に導いたガンディー（1869-1948）。彼は、ナショナリズムを掲げた政治指導者か。人としての道徳と神への真摯な信仰を説いた精神的改革者か。党首や首相にはならず、「マハートマ（大いなる魂）」と呼ばれて尊敬され、「バープー（お父さん）」と呼ばれて親しまれた。そうした彼の人物像を20世紀史の中に位置づけてみる。 【キーワード】 ガンディー、インド、独立	竹中千春（立教大学教授）	竹中千春（立教大学教授）
15	まとめ －歴史と人間を考える－	講義全体のまとめとして、主任講師3名で討論を行い、歴史と人間について考える。 【キーワード】 歴史、人間	草光俊雄（放送大学教授）・五味文彦（放送大学教授）・杉森哲也（放送大学教授）	草光俊雄（放送大学教授）・五味文彦（放送大学教授）・杉森哲也（放送大学教授）

科目名（メディア）＝　コミュニケーション論序説（‘０７）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：　大橋　理枝（放送大学准教授）〕
〔主任講師（現職名）：　根橋　玲子（明治大学准教授）〕

講義概要

「人から人へと何かを伝えるというのはどういうことか」「人から人には何が伝わるのか」という２点をテーマに、コミュニケーション学の枠組みを骨格に据えつつ分野横断的な内容を組み立てる。毎回のテーマにそったゲストをお呼びして、それぞれの分野で、何をどう伝えようとしているのか、何がどう伝わっているとみなされているのかを話して頂く。様々な分野への興味を開花させるきっかけとなるような話題の提供を心がけたい。

授業の目標

人間は生きている限り周囲とのメッセージのやりとりを行い続けているのだということにもっと自覚をもつことを第一の目標とする。また、普段何気なく使っている「コミュニケーション」という言葉をもっとはっきりとした意味をもった言葉として把握できるようになることを目指す。更に、コミュニケーションというものがいかに多様な分野と関わるものであるかを理解し、専門分野を学ぶ際にここで学んだことを活かせることが望ましい。

※「日本語からたどる文化（‘１１）」と一部の内容が重複する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	コミュニケーションとは:伝えること、伝わること	「コミュニケーション」という言葉の意味や、コミュニケーションについて考えるときに必要な概念などについて解説し、基本的な導入を行う。また、この科目の全体構想や、科目設立の意図について述べる。	根橋　玲子（明治大学准教授） 大橋　理枝（放送大学准教授）	根橋　玲子（明治大学准教授） 大橋　理枝（放送大学准教授）
2	自我とコミュニケーション:多様性の向こう側	社会学の立場から、コミュニケーションとは何なのか、という点や、私達人間にとってコミュニケーションが不可欠である理由などを検討する。	同上	同上 ゲスト：船津衛先生（放送大学教授）
3	身体とコミュニケーション:指差す先にあるものは	コミュニケーションは言語によって行われるものと言語を使わないものとがある。非言語コミュニケーションについて概観すると共に、日本の舞台芸術を例に、言語を使わずに何を伝えることができるのかを探る。	同上	同上 ゲスト：渡辺保先生（放送大学客員教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	被服とコミュニケーション：ファッションかしきたりか	自分がある衣服を着ることによって他人に何が伝わるのか、何を伝えようとして特定の衣服を選ぶのか、などを考えることを通じて、人は何のために服を着るのか、という問いに対する答えの一つである「服装を通じてのメッセージの発信と受信」に焦点を当てる。	同上	同上 ゲスト： 藤原康晴先生（放送大学客員教授）
5	建築とコミュニケーション：ホーム・スイート・ホーム	建築という分野において、「建物」という手段を使って人は何を伝えようとしてきたと考えられているのか、現代に生きる私達は過去の建築からどのようなメッセージを受け取り、またどのような影響を受けるのかなどを探る。	同上	同上 ゲスト： 香山壽夫先生（放送大学客員教授）
6	演奏とコミュニケーション：人と人を繋ぐ音楽	私達は、絵画・写真・音楽などには作者の意図が込められており、その意図を受け取ることでコミュニケーションが成り立っていると思いがちだが、果たしてこの前提は正しいのか？コミュニケーションに対する新しい見方を紹介する。	同上	同上 ゲスト： 徳丸吉彦先生（放送大学客員教授）
7	非言語コミュニケーションのまとめ：メッセージは五感を通して	第3回から第6回で扱った分野を振り返りながら、非言語コミュニケーションについて再考しつつ、触れることのできなかった非言語コミュニケーション分野（時間学・近接学など）についても触れる。	同上	同上
8	言語学とコミュニケーション：都心で会うタヌキとは？	言語について概観すると共に、コミュニケーションの基本とされる対人コミュニケーションに於いて、私達は何をどうやって伝えようとし、相手からのメッセージにどのような内容を読み込んでいるのかを、認知言語学や談話分析の分野で扱っている内容に基づいて考える。	同上	同上 ゲスト： 坂原茂先生（東京大学教授）
9	マスメディアとコミュニケーション：表舞台の「裏」話	私達が日々接しているマスメディアでは、何がどのように伝えられようとしているのか。普段「情報源」として接しているマスメディアを「コミュニケーション」をキーワードに見た場合、そこで何が起こっているのかを探る。	同上	同上 ゲスト： 柏倉康夫先生（放送大学客員教授）
10	組織とコミュニケーション：理想の上司、嫌な部下	組織の中での対人関係には、多くの場合上司や部下、同僚といった役割が存在する。そのことがコミュニケーションにどのような影響を与えるのかを考えながら、私達の日頃のコミュニケーション行動を振り返る。	同上	同上 ゲスト： 山口生史先生（明治大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	外国語教育とコミュニケーション:ムニャムニャムニャ…が正しい場合	言語を学ぶことは文化を学ぶことだとよく言われるが、それはどういう意味なのか。外国語教育を通じて炙り出される言語と文化の問題に焦点を当てながら、コミュニケーション手段としての言語を考える。	同上	同上 ゲスト: 姫野昌子先生(放送大学客員教授)
12	言語コミュニケーションのまとめ:言葉の背後にあるもの	第8回から第11回で触れることのできなかった言語コミュニケーション分野に言及しつつ、これまでに扱った分野を振り返りながら言語コミュニケーションについて再考する。	同上	同上
13	教育とコミュニケーション:納得のための説得	学校や家庭で、子供は親や教師からどのようなメッセージを受け取っているのか、子供からのメッセージはどこに隠されているのかを探ると共に、説得について扱う。	同上	同上 ゲスト: 岡崎友典先生(放送大学准教授)
14	カウンセリングとコミュニケーション:伴奏(走)つきの自分語り	カウンセリングの現場では、カウンセラーがクライアントに向き合う際に受信する全てが情報として機能する。クライアントの言葉だけでなく、身体表現をも通じてメッセージを掬い取る、言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションの融合の現場を垣間見る。	同上	同上 ゲスト: 佐藤仁美先生(放送大学准教授)
15	文化とコミュニケーション:コミュニケーションの根底にあるもの	コミュニケーションについてこれまでに扱い切れなかった部分に触れると共に、私達のコミュニケーションがいかに文化的な影響を受けているかを述べる。	同上	同上

事務局記載欄	開講年度	２０１１年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1219243	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　日本語からたどる文化　　（’１１）＝　（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：大橋理枝（放送大学准教授）　〕

〔主任講師（現職名）：ダニエル・ロング（首都大学東京准教授）　〕

講義概要

現代の日本の様々な側面に焦点を当てながら、言語的・文化的側面からそれらを捉え、理論的な考察を加えると共に、これまでに意識しなかった様々な点を意識化することによって、「日本」に対する「外からの視点」を提供する。

授業の目標

日本語を切り口にしてものの見方・考え方、社会、行動、等々の様々な局面を取り上げることを通して、社会言語学とコミュニケーション論の視点から「日本語」や「日本文化」に改めて自覚的になり、自らの言語・コミュニケーション・文化を相対化し、見つめ直す視点を得ることを目指す。

履修上の留意点

「コミュニケーション論序説('07)」と一部の内容が重複する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	「日本語文化論」ことはじめ	授業の概要や取り上げるテーマとその意義などを説明すると共に、「言語」について予備知識として知っておいてほしいことを説明する。また、「コミュニケーション」の特徴のいくつかについて説明し、この科目での「文化」の捉え方について説明する。更に、「見える文化と見えない文化」の概念を説明し、外部からの視点を取り入れることによって日本文化に対して客観的な視点を得ることを説明する。 【キーワード】 言語、コミュニケーション、文化、日本語文化論	ダニエル・ロング（首都大学東京准教授） 大橋理枝（放送大学准教授）	ダニエル・ロング（首都大学東京准教授） 大橋理枝（放送大学准教授）
2	名前	名前にまつわる様々な論点を紹介し、日本における名前の捉え方と外国での名前の捉え方を比較する。 【キーワード】 姓、名、名前、愛称、敬称	ダニエル・ロング（首都大学東京准教授）	ダニエル・ロング（首都大学東京准教授） 大橋理枝（放送大学准教授）
3	地名	地名にまつわる様々な話題を提供しながら、征服者と被征服者の関係や政治的力学の影響についても言及する。 【キーワード】 人名、地名、自称、他称、通称	ダニエル・ロング（首都大学東京准教授）	ダニエル・ロング（首都大学東京准教授） 大橋理枝（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	食物	調理方法に関する言葉を比べることを通して言語決定説・言語相対説について説明すると共に、茶の普及を例に取り、ものの普及について説明する。 【キーワード】 料理法の語彙、言語決定説と言語相対説、ものの普及	大橋理枝（放送大学准教授）	ダニエル・ロング（首都大学東京准教授） 大橋理枝（放送大学准教授）
5	空間	メッセージの種類を整理し、非言語コミュニケーションの機能を説明すると共に、対人距離や住居にまつわる話題を提供しつつ、日本での「ウチ」と「ソト」の捉え方を考える。 【キーワード】 メッセージの分類、非言語メッセージの機能、対人距離、環境要因、「ウチ」と「ソト」	大橋理枝（放送大学准教授）	ダニエル・ロング（首都大学東京准教授） 大橋理枝（放送大学准教授）
6	身体	身体の一部を使った比喩的表現を比較言語学的に取り上げると共に、身体を使った様々な表現について考える。 【キーワード】 比喩、身体動作、身体接触	大橋理枝（放送大学准教授）	ダニエル・ロング（首都大学東京准教授） 大橋理枝（放送大学准教授）
7	服装	服装に関する比喩的な表現を紹介しつつ、服装から読み取れるメッセージや服を着ることで発信しているメッセージなどを考える。 【キーワード】 印象形成、制服、服装の選択	大橋理枝（放送大学准教授）	ダニエル・ロング（首都大学東京准教授） 大橋理枝（放送大学准教授）
8	時間	時に関する表現からメタファーについて考えると共に、時間に関する考え方・捉え方の文化差について考える。 【キーワード】 メタファー、時間の捉え方、モノクロニック文化とポリクロニック文化	大橋理枝（放送大学准教授）	ダニエル・ロング（首都大学東京准教授） 大橋理枝（放送大学准教授）
9	物品	コミュニケーションについての基本的特徴の残りを説明した上で、自分の所持品や贈り物などの人工物から読み取れるメッセージについて考える。 【キーワード】 コミュニケーションの特徴、基本的価値志向、所持品、贈り物	大橋理枝（放送大学准教授）	ダニエル・ロング（首都大学東京准教授） 大橋理枝（放送大学准教授）
10	タブーと婉曲表現	婉曲語法の概念を紹介しつつ、タブーの概念の文化差や人種差別の時代的変遷などを紹介する。 【キーワード】 婉曲語法、忌み言葉、避けるべき話題の文化差	ダニエル・ロング（首都大学東京准教授）	ダニエル・ロング（首都大学東京准教授） 大橋理枝（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	人間関係	日本における上下関係の捉え方、その言語的な表現、丁寧さを表現する方法などを取り上げながら、人間関係が発達する過程を検討する。 【キーワード】 垂直性、場の論理と資格の論理、敬語、ジョハリの窓、自己開示	大橋理枝(放送大学准教授)	ダニエル・ロング(首都大学東京准教授) 大橋理枝(放送大学准教授)
12	言語接触	二つの言語を話す人々が接触するとき、社会と個人の二つのレベルにおうて言語接触が起こる。社会全体レベルの「マクロ的」にみられる現象として、借用語(外来語)を取り上げ、個人レベルの現象とに言語併用や場面による使い分けなどについて考える。 【キーワード】 生活言語、二言語併用、母語、コードスイッチング	ダニエル・ロング(首都大学東京)	ダニエル・ロング(首都大学東京准教授) 大橋理枝(放送大学准教授)
13	方言とアイデンティティ	方言と標準語の概念を踏まえて、方言使用と個人のアイデンティティ密接な係わり合いなどを取り上げつつ、観光資源としての方言の在り方などについて考える。 【キーワード】 方言、標準語、アイデンティティ、方言の観光資源化	ダニエル・ロング(首都大学東京)	ダニエル・ロング(首都大学東京准教授) 大橋理枝(放送大学准教授)
14	言語習得	言語を習得するというのはどういうことか、日本の言語教育の在り方や外国語学習に対する態度について考える。 【キーワード】 習得、学習、中間言語、言語教育	ダニエル・ロング(首都大学東京)	ダニエル・ロング(首都大学東京准教授) 大橋理枝(放送大学准教授)
15	変化するコミュニケーション文化	近年急速に変化してきたといわれるコミュニケーションの世界を、新しい文法(ら抜きことば)、新しい敬語(二重敬語)、新しい文体(電子メール)、そして新しい応用方法(方言の観光資源化)のそれぞれの観点から日本語のコミュニケーション文化の現状と未来を考える。 【キーワード】 ら抜きことば、二重敬語、電子メール文体、方言の観光資源化	ダニエル・ロング(首都大学東京)	ダニエル・ロング(首都大学東京准教授) 大橋理枝(放送大学准教授)

科目名（メディア）＝　日本語表現法（‘０７）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：杉浦　克己（放送大学教授）〕

講義概要

小論文やレポート類などを、考えを表現する文章ととらえ、その書き方を実作の分析を通じて学ぶ。特に生涯学習の観点から、表現したいことがらを持っていながら、それを意識して顕在化し具体的な言語表現としてまとめる術がわからない、という学生を念頭に置き、自らの考えを、読み手が理解しやすいように表現する方途の基礎を、【基礎】【応用】【発展】各５回の段階を追って身に付けていく。各段階は、模擬的な実作を分析・解説する形で進めると共に、表現の力と表裏関係にある、文章を読み取る力を養うことにも配慮する。

これらの学習を通じて、文章表現の基本的な手法を身に付けると共に、自らの言語表現に自覚的になっていくための視点を提供する。

授業の目標

漠然とした自らの考えを具体的な言語表現として文章に書き表すには、何をどのように考え、進めていけばいいのかについての具体な方途を身に付け、自覚的な言語表現のための態度と力を身に付ける。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	【基礎】 考えを書き表す	小論文やレポートの類を、「自分の考えを納得してもらえるように説明する」ための文章と位置づけ、典型的な文章の例を掲げてその特色を示す。実作の第一歩として、書こうとする文章の中心となる自分の「考え」を文として表現する最も基本的な形式として「○○は△△である。なぜならば～～」という形を示し、実際にその実作例を掲げて解説する。	杉浦克己（放送大学教授）	杉浦克己（放送大学教授）
2	【基礎】 納得してもらえるように説明する	文章を言葉の一単位としてとらえ、それを構成する要素として文を位置づける。文章の構成を考えるには、個々の文の働きを認識することが重要である。先ず大きく、考えを述べる文と理由を説明する文の二種に働きを大別し、自分の考えを筋道立てて説明するための第一歩として、考えを表す文の後に理由を説明する文を書き継ぐ方途を示す。	同上	同上
3	【基礎】 根拠を挙げる	考えは、考えの形で表現しただけでは読み手に理解されない。どのように説明を筋道立てていくかが小論文類の書き方の最も重要な方途であることを、実際の文章例を用いて示し、根拠となる事実等の挙げ方の典型を分析・説明する。これをふまえ、根拠となる事実をのべつ働きを担う個々の文の役割を理解し、実作例を通じて具体的な表現の仕方を学ぶ。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	【基礎】 構成を考える	考え・理由・根拠を、この種の文章を構成する要素の代表的な三種と位置づけ、どのような順序で全体を構成するかについて、基本となる「頭括式」「尾括式」及びその併用の形を、実際の文章例で示す。実作例の内容に応じて、効果的な構成を選ぶ具体的な方途を示し、文章全体の構成を立てるための考え方を示す。	同上	同上
5	【基礎】 全体をまとめる	1～4回で考えた事項を、実際に一編の文章としてまとめる際の様々な配慮事項を、実例に則して概説し、併せて細部を推敲する際の重要な着眼点を示す。実作例では、基礎編全体の総まとめとして、これまでに示した考え方を再確認し、細部の表現に留意しつつ整った一編の小論文としてまとめ上げる。	同上	同上
6	【応用】 問題提起と答え	文章構成の類型の一つとして、冒頭に問題提起を置き、それに答える形で全体をまとめる形式の特色と留意点を実際の文章例に則して示す。併せて、問題提起を外から与えられた上で、その答えを小論文にまとめるような要求に対する対処法を示す。これらを通じて、言語表現としての「問い」と「答え」を文章のレベルで考える。	同上	同上
7	【応用】 課題作文	特定のテーマ等の課題を与えられて書く場合の対処の仕方を、具体的な実作例を通じて分析・解説する。出題者の意図を短い課題文の中から的確に把握するための着眼点と、その対処法を具体的に考える。特に「自分のことばで」「～～について」「～～に即して」などの課題文に見られる常套句を的確に理解することに留意する。	同上	同上
8	【応用】 字数制限への対応	字数制限を課せられた場合の対処の仕方の基本的な要件を、具体的な実作例を通じて分析・解説する。特に字数制限は、単に長さの問題だけではなく、内容や構成、具体的な表現などにある特定の意図を持った要求として行われる場合が多いことに留意する。	同上	同上
9	【応用】 キーワード作文	特定のキーワードを用いること課せられた場合の対処の仕方を、具体的な実作例を通じて分析・解説する。キーワードをどのように用いるかを、論の中心となる考えをまとめる段階、構成を考える段階、具体的な表現の段階の各々で、実作例を通じて示し、キーワードにどのような役割を与えて行くことが重要なのかを考える。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	【応用】 読解型作文	ある文章を読んだ上で、その全体または一部について論ずること課せられた場合の対処の仕方を、具体的な実作例を通じて分析・解説する。課題となる文章の内容の的確な理解と課題の意図を把握する上での着眼点を示し、その上にたって、何についてどのように考えをまとめ、構成し、表現すべきかを考える。	同上	同上
11	【発展】 効果的な表現・構成	論じようとする内容に応じて、表現や構成にどのような工夫を凝らすことが必要か。様々な方途を実際の文章例で示し、各々の工夫とその効果、用いる上での留意点などを概説する。特に、それらが、読み手にはどのように映るかを、書き手の立場からどのように把握すればいいのか、について考え、推敲の重要性の様々な意味を自覚的にとらえる。	同上	同上
12	【発展】 補助資料の利用	論本文の補助となる図表や写真などの効果的な用い方を、実際の文章例で示し、図表や写真と文章との表現としての質的な違いを的確に把握して利用することを、具体的な例に即して考える。補助資料の有無で、文章表現の何がどのように変わってくるのかに着目する。	同上	同上
13	【発展】 要約	自らが書いた文章の要約、他から与えられた文章の要約の各々について、その方途を具体的な文章例で示すと共に、キーワード付けのための基本的な考え方と方途を併せて示す。要約文に必須な事項は何かを、要約という行為自体の意味を改めて考えることによって見いだしていく。	同上	同上
14	【発展】 口頭発表の技術	自らが書いた文章の内容を口頭発表する際の具体的な方途を、実際の文章例を用いて考える。特に、話し言葉と書き言葉、音声言語と文字言語の質的な違いを認識した上で、口頭発表のための基本的な必須事項を示す。併せて補助提示資料の有効な使い方についても考える。	同上	同上
15	【発展】 様々な表現法	１～１５回で学んできた事項を再確認し、それらを総合して、実際に小論文を書き表す、つまり、漠然とした自らの考えを具体的な言語表現として文章に書き表すには、どのように考えを進めていけばいいのかを改めて考え、鍵になる事項を、自分なりに見いだして行く。	同上	同上

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	基礎科目	科目ｺｰﾄﾞ	1110101	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　アジアと漢字文化　　（’０９）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：宮本　徹（放送大学准教授）　〕

〔主任講師（現職名）：大西　克也（東京大学大学院准教授）　〕

講義概要

東アジアから東南アジアにかけての広い地域に対して、中国文明は過去から現在に亘り深甚なる影響を与え続けてきた。その文明の優位性を保証していたのが書記体系としての漢字である。本科目は、中国における漢字の成立と歴史的展開を軸としつつ、あわせて周縁地域に対する漢字の諸方面における影響を俯瞰することを通じ、我々が生きるアジアにおいて漢字文化が果たしてきた役割とその将来についていま一度考え直す視点を提供する。

授業の目標

漢字についての基本的知識の習得を図ると同時に、その歴史的展開について理解を深める。さらに、アジアにおいてインド系・アラビア系文字と並んで広く使用される漢字を例にとって、言語と文字の関係及び文字を共有する文化圏の歴史的意味を考察するとともに、この文化圏の一員である私たちに与えられた今日的課題を解決する視座を獲得することを目標とする。

履修上の留意点

履修に際して特に前提とされる知識はないが、中国史についてのごく基礎的な知識があればなおよい（参考：「中国社会の歴史的展開（’07）」）。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	漢字の誕生――骨と甲羅に刻まれた文字――	古代中国語の表記体系としての漢字の基本的性質を理解した上で、現在確認される最古の漢字である甲骨文字について概説する。甲骨の作成方法や文章の読み方についても言及する。 【キーワード】 字体、書体、表語文字、甲骨文字、占卜、殷、殷墟	大西克也（東京大学大学院准教授）	大西克也（東京大学大学院准教授） 松丸道雄（東京大学名誉教授）　平勢隆郎（東京大学東洋文化研究所教授）
2	漢字の起源――甲骨文字のしくみと陶文――	甲骨文字は中国語をどのように可視化したかという観点から、甲骨文字の成り立ちと特徴とを考察する。甲骨文字以前から見られる新石器時代の土器に記された符号や文様と漢字の起源との関わりについても考える。 【キーワード】 甲骨文字、解読、表意文字、表音文字、陶文	大西克也（東京大学大学院准教授）	大西克也（東京大学大学院准教授）
3	青銅器に鋳込まれた漢字――金文の誕生と展開――	殷周時代の青銅器に鋳込まれた金文について、器の製作方法をふまえた上で、甲骨文と比較しつつその特徴を解説する。 【キーワード】 金文、青銅器、陶模法、皮型	大西克也（東京大学大学院准教授）	大西克也（東京大学大学院准教授） 松丸道雄（東京大学名誉教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	多様化する漢字――戦国時代の文字――	分裂の時代を背景に多様化した戦国時代の文字について、現地ロケをふまえた豊富な資料を基に解説する。多様化の諸相とその要因について考える。 【キーワード】 戦国文字、多様化、正字、俗字	大西克也（東京大学大学院准教授）	大西克也（東京大学大学院准教授）
5	屈原の書いた漢字――戦国時代の楚の言語表記システムと国ごとの違い――	楚簡に記された筆写文字に基づき、戦国時代の楚の国における漢字の諸相を考察する。他の国の文字と比較し、国毎にどのような相違があったのか考える。 【キーワード】 戦国文字、楚簡、俗字、周圏分布	大西克也（東京大学大学院准教授）	大西克也（東京大学大学院准教授）
6	隷書の誕生と文字統一――古代文字の終焉――	隷書の誕生によって、象形的な古代文字が画一的な筆画によって構成される近代的な漢字に変貌する様を考察する。秦始皇によって成し遂げられた文字統一の歴史的意義とその実際を、湖南省や湖北省の出土資料を基に解説する。 【キーワード】 隷書、隷変、文字統一、秦始皇、馬王堆帛書	大西克也（東京大学大学院准教授）	大西克也（東京大学大学院准教授） 横田恭三（跡見学園女子大学教授）
7	漢字の完成――楷書の誕生と規範化――	今日我々が用いている書体がいかにして成立したかを、漢代の簡牘や南北朝時代から唐代の碑文や墓誌などに基づいて解説する。 【キーワード】 草書、行書、楷書、碑文、墓誌、石経、印刷用書体	大西克也（東京大学大学院准教授）	大西克也（東京大学大学院准教授）
8	字書の変遷――漢字史からみた字書――	字書の起源とその変遷を漢字の書体の歴史から解説する。 【キーワード】 字書、『説文解字』、六書、部首、楷書、『玉篇』、『字彙』、『康熙字典』	大西克也（東京大学大学院准教授）	大西克也（東京大学大学院准教授）
9	漢字と漢字音	文字としての漢字が周縁諸民族に受容されたとき、その読音である漢字音がどのような変化を遂げたかを、原音と日本漢字音との関係を中心に解説する。 【キーワード】 反切、韻書、中古音、漢字音、呉音・漢音・唐音	宮本徹（放送大学准教授）	宮本徹（放送大学准教授）
10	漢字と近代化	国民国家の成立と近代化の時代、中国で行われた漢字を巡る様々な議論と文字改革の運動について、漢字の標音化と簡略化を中心に解説する。 【キーワード】 近代化、文字改革、標音化、簡化字	宮本徹（放送大学准教授）	宮本徹（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	漢字と「漢字系文字」	漢字はその周縁部においてさまざまな「漢字系文字」を生み出したが、その特徴について、中国西北部を中心に見られる「擬似漢字」と中国東南部を中心に見られる「派生漢字」との違いを中心に解説する。 【キーワード】 漢字系文字、西夏文字、チュノム（字喃）	岩月純一（東京大学大学院准教授）	岩月純一（東京大学大学院准教授）
12	韓国・朝鮮の漢字	韓国・朝鮮における漢字の受容と歴史的展開について、現在における文字状況も含め説明する。 【キーワード】 韓国木簡、金石文、吏読、ハングル	福井玲（東京大学大学院准教授）	福井玲（東京大学大学院准教授）
13	日本語と漢字（1）	日本における漢字の伝来と吸収について、単に文字の受容という観点のみならず、日本語における漢語の存在という側面からも漢字文化について考察を加える。（漢字の伝来と吸収／万葉仮名／日本漢字の特徴／国字・方言字） 【キーワード】 金石文、万葉仮名、日本漢字、国字・方言字、漢語	陳力衛（成城大学教授）	陳力衛（成城大学教授）
14	日本語と漢字（2）	第13回の続き。 （日本語における漢語／近代における日中の語彙交流） 【キーワード】 金石文、万葉仮名、日本漢字、国字・方言字、漢語	陳力衛（成城大学教授）	陳力衛（成城大学教授）
15	アジアの言語と漢字 ――漢字の受容によるアジア諸言語の変容――	漢字文化をめぐる座談会。①漢字が東アジアで果たした役割、②文字と言語の相関関係、③漢字文化の将来。 【キーワード】 東アジア／漢字文化圏／文字と言語	宮本徹（放送大学准教授）	大西克也 宮本徹 岩月純一 福井玲 陳力衛

事務局記載欄	開講年度	２０１１年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1219200	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　世界の名作を読む　　（’１１）＝　（R）

※この科目は「世界の名作を読む（’07）」を一部改訂した科目です。
改訂回は第3, 4, 5, 10, 11, 12, 15回です。

〔主任講師（現職名）：工藤　庸子（東京大学名誉教授）〕

【本学担当専任教員：井口　篤　（放送大学准教授）】

講義概要

文学講義の入門編。だれでもタイトルは知っているけれど、いきなり読むのは荷が重いという超大作から、はかりしれぬ含蓄のある珠玉の短篇小説まで、それぞれの講師が、自分自身の読書経験に照らして作家と作品の魅力を語ります。「世界の名作を読む」（’07）の教材7回分を改訂し、昔話や少年文学など、親しみやすい作品を導入しました（再履修可）。MP3の朗読CD付き。

授業の目標

講義で取りあげられた作品を、履修者が自力で積極的に読むことが第一の目標です。学校教育の「感想文」とは異なる「文学の読み方・語り方」とはいかなるものか、講師はその具体例を提案します。良質の翻訳文学に親しみ、日本語の力をつけましょう。

履修上の留意点

評価は記述式の問題で行います。通信指導問題は、それぞれの解答に即した個別的なコメントと形式にかかわる一般的な判定を記入して返却します。単位認定試験の準備に活用してください。日本語の表現力は一朝一夕で身につくものではありませんが、とにかく挑戦してみることが大切です。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	セルバンテス『ドン・キホーテ』	・はじめに ― 文学作品を耳で愉しむ。 ・音読か黙読か ― 物語文学と翻訳の問題。 ・講談ヴァージョンで聴く「風車の冒険」― あまりにも有名なエピソードのどこが面白いのか。 ・アラビア人の原作者シデ・ハメテ・ベネンヘリと謎の「第二の作者」。 【キーワード】 声に出して読む物語、冒険、書物	工藤庸子	工藤庸子
2	同	・『ドン・キホーテ』後篇を読む ― 錯綜する幻想と現実。 ・村の知識人サンソン・カラスコと従者サンチョ・パンサ。 ・講談ヴァージョンで聴く「森の騎士との決闘」。 ・狂気の終わりと主人公の死と物語の幕切れ。 【キーワード】 アンチ・ヒーロー、幻想、物語の結末	同	同
3	昔話：ペローとグリム兄弟	・「赤頭巾」と「灰かぶり」の独仏ヴァージョンを比較する。 ・「昔話」は誰のために語られ、何を教えようとしているか。 ・生成するヨーロッパ。17世紀フランスの宮廷文化（ペロー）と19世紀ドイツの市民社会（グリム兄弟）を背景において、口承文学を考える。 ・いわゆる「グリムの残酷さ」について。 【キーワード】 文芸サロン、児童文学、昔話の編纂	同	同

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	ダニエル・デフォー『ロビンソー・クルーソー』	・無人島はサヴァイヴァル・ゲームの舞台だろうか？ ・島の「経営者」のような経済人ロビンソン。 ・カリブ海をめぐる食人幻想とフライデイ。 ・オリノコ川の河口近くの無人島というトポスをいかに読み解くか。 【キーワード】 読解の視点と方法、ポストコロニアル批評	同	同
5	シャーロット・ブロンテ『ジェイン・エア』	・「恋愛小説」のヒロインとは？ ・女性作家の一人称小説。 ・カリブ海幻想（狂気の妻）と土地の精霊（ケルトの妖精のような恋人）という構図。 ・「結婚」というハッピー・エンディング 【キーワード】 ジェンダー、一人称の語り、女性の自由と自立	同	同
6	ドストエフスキー『罪と罰』	・ドストエフスキーの日本でのこれまでの読まれ方。 ・「犯罪小説」であると同時に、形而上的観念の小説でもある『罪と罰』。・ドストエフスキーの独自のリアリズムと幻想。 ・ペテルブルクを舞台とした都市小説。 ・繊細な言葉の芸術としてのテキスト。 【キーワード】 選ばれた人間、聖書、「踏み越える」こと	沼野　充義（東京大学教授）	沼野　充義（東京大学教授）
7	チェーホフ『ワーニカ』『可愛い女』『犬を連れた奥さん』	・チェーホフの短編のうち特に『ワーニカ』『可愛い女』『犬を連れた奥さん』の3篇を取り上げ、その魅力と現代的意義について考える。 ・「手紙は届かない」「可愛い女は本当に可愛いか？」「愛はいつ始まるのか？」 ・チェーホフは人情味豊かなユーモアとペーソスの作家だったのか？ 【キーワード】 コミュニケーション、本当の生活	沼野　充義（東京大学教授）	沼野　充義（東京大学教授）
8	メルヴィル『バートルビー』	・アメリカ精神の陰画。 ・バートルビーとは何者か。 ・壁・墓場の意味。 ・語り手の（そして我々の）中で何が変わるか？ 【キーワード】 アイデンティティ、アメリカ的自己、一人称の語り、大都市の誕生	柴田　元幸（東京大学教授）	柴田　元幸（東京大学教授）
9	マーク・トウェイン『ハックルベリー・フィンの冒険』	・南北戦争後のアメリカ ― 郷愁の発生。 ・トム・ソーヤーとハック・フィンの違い。 ・文体の新しさ・重要性。 ・ユーモアとメランコリー。 【キーワード】 口語的語り、ユーモア、自然と文明、奴隷制	柴田　元幸（東京大学教授）	柴田　元幸（東京大学教授）
10	ジュール・ヴェルヌ『八十日間世界一周』	・生中継のような新聞連載というメディア戦略。 ・インドの「サティー」（妻の殉死）と「文明化の使命」 ・メディシン・ボーの吊り橋 ― 小説が荒唐無稽であることを許されるとき。 ・賭の勝敗と24時間の謎。 【キーワード】 文明化の使命、国民性、語りのトリック	工藤庸子	工藤庸子

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	フローベール『ボヴァリー夫人』	・「姦通小説」とは何か？ ・新婚生活の幻滅と「ボヴァリスム」 ・恋愛感情の芽生えをいかに描くか？ ・官能の陶酔をいかに描くか？ ・「宗教感情」とヒロインの自死。 【キーワード】 ジェンダー、自由間接話法、新しい女	同	同
12	フローベール『純な心』	・フェリシテはヒロインか？ ・「初聖体拝領」と宗教というテーマ。 ・鸚鵡の剥製は「キッチュ」である。 ・老いた女中の臨終と聖者の昇天 【キーワード】 表題、宗教感情、信仰、死	同	同
13	カフカ『変身』	・無名のサラリーマン作家としての生涯。 ・平凡な営業マンの日常におきた「変身」という事件。 ・虫男のおかしさ — 変身ぶりの不思議と当人が不思議に思わぬことの不思議。 ・身近なテーマとしての「変身」。 【キーワード】 物語の時間、閉じこもり、現代性	池内 紀（ドイツ文学者）	池内 紀（ドイツ文学者）
14	カフカ『断食芸人』	・実在した「断食芸」— 何もしない、食べることすらしないという芸。 ・なぜ断食は40日なのか。 ・カフカの笑い。 ・断食芸人の死と作者の死。 【キーワード】 見世物、聖書、餓死	池内 紀（ドイツ文学者）	池内 紀（ドイツ文学者）
15	女性と文学：ヴァージニア・ウルフとコレット	・同時代に生きた英仏の女性作家を読みくらべる。 ・「家庭の天使」と職業としての作家。 ・ウルフのシャーロット・ブロンテ批判。 ・ヒロインは「ココット」（高級娼婦）。 ・自由と自立と離婚について。 【キーワード】 ジェンダー、女性の視点、ユーモア、エスプリ	工藤庸子	工藤庸子

科目名（メディア）＝　人類の歴史・地球の現在（‘０７）＝（TV）
－文化人類学へのいざない－

〔主任講師（現職名）：　本多　俊和（スチュアート　ヘンリ）（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：　棚橋　訓　（お茶の水女子大学大学院教授）　〕
〔主任講師（現職名）：　三尾　裕子（東京外国語大学教授）　〕

講義概要

この講義では、人間の探究専攻の学生、あるいは人類学を修める予定の学生だけを想定せず、全専攻の学生を対象とする基礎科目とします。世界各地を視野に人類学で蓄積されてきた多くの知見・データ・理論が私たちの日常生活に関与することを国内外の具体的な事例をとおしてみる授業です。古典的な理論と最先端の学説をまじえながら、人類の歴史からはじまり、さまざまな人間の行為をキーワードに、ほかの学問領域との接続を意識して、幅の広い知識と解釈を提供します。

授業の目標

なるべく多くの受講生に文化人類学的な考え方に接してもらい、人種、民族、宗教などの研究分野で他専攻生も活用されることを目標としています。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	文化人類学へのいざない 授業のねらい	「近代」とともに歩んできた文化人類学が、現在当然視されるさまざまな概念や観念、カテゴリー（人種、民族、国民、宗教、世界観など）を生み出した時代背景を紹介します。そして現在、文化人類学がどのように私たちの日常生活に関わり、役立つかについて、具体的な事例をまじえて考えます。	本多俊和（スチュアート ヘンリ）（放送大学教授）	本多俊和（スチュアート ヘンリ）（放送大学教授） ゲスト：山下 晋司（東京大学大学院教授）
2	うまれる 生物としての人間の成立	人類の進化史を概観し、古典的な4段階発展論と、多地域進化説・単一起源説をめぐるミトコンドリア論争をとり上げます。これを基礎にして、人類の生物史の概略をふまえ「人種」概念を考察します。	本多俊和（スチュアート ヘンリ）（放送大学教授）	本多俊和（スチュアート ヘンリ）（放送大学教授） ゲスト：海部 陽介（国立科学博物館研究員）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
3	うむ 生殖をめぐる視点と諸問題	「人間をうむ、うみだす」という現象を文化と社会の多様性の観点から考察し、「うむこと」を概観します。民俗生殖理論と近現代の生物医学の生殖理論を対比しながら、「人間をうむ、うみだす」という視点から現代の地球社会に生じている諸問題（例えば、生殖医療・技術、生命観・家族概念の変遷と転換など）に、どのように挑み得るのかを考えます。	棚橋　訓（お茶の水女子大学大学院教授）	棚橋　訓（お茶の水女子大学大学院教授） ゲスト： 上杉　富之（成城大学教授）
4	まなぶ 「ことば」と／でつくる世界	人間は「ことば」“を”学び、「ことば」“で”学びます。人間は「ことば」を生み、「ことば」は人間をつくります。“人間”と「ことば」の多元的な関わりを、文化の普遍性と多様性の視点から考えていきます。言語習得から人間の認知世界の形成までの過程を文化の側面から考え、言語の多様性をめぐる最新の議論にふれます。「ことば」の視点から現代世界の諸問題に接近していきます。	棚橋　訓（お茶の水女子大学大学院教授）	棚橋　訓（お茶の水女子大学大学院教授） ゲスト： 井上　京子（慶應義塾大学教授）
5	つくる・つかう 人とモノの関係	人間はさまざまな道具・技術を用いて、モノをつくりだしてきました。有形から無形まで、リアルからヴァーチャルまで、DIYから先端科学技術まで、モノはその時どきの知識・経験・技術の結節点となってきました。作り手や使い手はモノに意味を込め、社会的な役割を負わせます。ここでは、人間にとってのモノと技術の意味を考えていきます。	棚橋　訓（お茶の水女子大学大学院教授）	棚橋　訓（お茶の水女子大学大学院教授） ゲスト： 櫻井　準也（尚美学園大学教授） 朽木　量（千葉商科大学准教授）
6	そだつ 幼児から大人へ	人はどうやって社会の中で成長し、一人前になり、仕事を持って働き、社会を支え、そして支えられるようになっていくのでしょうか。ここでは、社会化の過程や通過儀礼などを見ていく中で、現在の日本の成人式をめぐる問題、パラサイト・シングル、ニートとよばれる若者たちの問題などの問題を考えてみましょう。	三尾裕子（東京外国語大学教授）	三尾裕子（東京外国語大学教授） ゲスト： 宮本みち子（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
7	つながる 社会的な存在としての人間	人間社会の基礎的要素は「家族」をはじめとする「親族」の関係と、それにもとづく集団です。「親族」のあり方は、狩猟採集段階から、初期農耕・牧畜をへて、産業社会へと至る人類史を貫いて、さまざまな形態をとりますが、その基本的構成には不変のものがあります。この講義では、人間社会の多様性と共通性を、家族と親族に的をしぼり、社会進化史的観点から見てゆきます。	内堀基光(放送大学教授)	内堀基光(放送大学教授) ゲスト: 山極 寿一(京都大学大学院教授)
8	つどう 群れることで生みだす世界	「つどう」という人間の特質について総合的に考えます。母子関係にはじまる人間関係のネットワーク形成(社会組織)に関する理論研究を概観して足場を固め、そのうえで集団、民族、都市、国家の概念を再検討します。また、エスニシティ、境界性など、「つどう」ことが必然的に生みだしてしまう差別と排除のロジックについても考察していきます。	棚橋 訓(お茶の水女子大学大学院教授)	棚橋 訓(お茶の水女子大学大学院教授)
9	うごく 人の移動が生みだす世界	人は、古来、活発に移動し、さまざまな環境に適応してきました。移動はモノの交換や交易を生み、異なる集団との出会いが新しい文化を生みだしてきました。この回では、人の移動を歴史的に概観することから出発して、昨今の観光、トランスナショナリズム、グローバリゼーションなどの現象が生みだす多民族、多元文化状況、逆に文化の均質化などの人間の思考や文化の多様性を消し去りかねない側面について考えます。	三尾裕子(東京外国語大学教授)	三尾裕子(東京外国語大学教授) ゲスト: 床呂 郁哉(東京外国語大学准教授) 陳 天璽(国立民族学博物館准教授)
10	あらそう 戦争について	戦争はなぜ起こり、なぜ繰り返されるのでしょうか。このことについては、多くの説明が提示されてきました。その中の一つにシュンペーターの戦争論があります。本授業では、この戦争論を紹介します。この回のもうひとつの狙いは現代の戦争の特徴を提示する点にあります。それは非国家主体による戦争です。「民間軍事会社」やアルカーエダというNGO的な組織活動などに注目したいと思います。	高橋 和夫(放送大学教授)	高橋和夫(放送大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	きりひらく 「開発」をめぐって	開発論、NGO・NPO活動、自然環境、資源論などを自然と社会、そして政治の側面から解きます。グローバリゼーション、「近代化」、エコ主義などの視点をまじえて「開発」の多様性を論じます。	本多　俊和 (スチュアート　ヘンリ) (放送大学教授)	本多俊和 (スチュアート　ヘンリ) (放送大学教授) ゲスト： 石井　洋子 (聖心女子大学専任講師)
12	きずく 少数・先住民族の今	この回では、植民地的な状況における少数・先住民族の歴史を通観して、いくつかの地域や国家における少数・先住民族、エスニック集団の運動と現状について国内外の事例を紹介します。	本多　俊和 (スチュアート　ヘンリ) (放送大学教授)	本多俊和 (スチュアート　ヘンリ) (放送大学教授)
13	いやす 病と癒し	人々は、近代医療（バイオメディスン）が発達していなかった時代や場所でも、さまざまな方法で病に対処していました。文化人類学で扱う「病と癒し」は、医学的な疾患と治療よりもずっと広い概念です。わたしたちの身の回りにある「癒し」の体験を振り返ってみましょう。すると、バイオメディスン以外にも、いろいろの選択肢があることに気づくでしょう。	松岡　悦子 (奈良女子大学教授)	松岡　悦子 (奈良女子大学教授) ゲスト： 鶴岡　優子 (自治医科大学助教)
14	まつる 信仰の世界	科学が発達していく中でも、人は、自分に降りかかる理不尽に思える災難を理解して克服していくために、人知を超えた力に頼ることがあるでしょう。また、自分の死を恐怖なく受け入れ、魂の永続性を得たいと願うこともあるでしょう。私たちは何を信じ、何に頼り、またそのような気持ちをどのような行動で表現するのか、神や祖先などの霊魂観、宗教、儀礼、系譜観念や葬制などを通して考えてみましょう。	三尾　裕子 (東京外国語大学教授)	三尾裕子 (東京外国語大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
15	総括・再び文化人類学へのいざない	以上の14回をふりかえながら要点を確認します。また、改めて文化人類学の方法論、性格、他の学問分野との関連性、現代的な意義などを整理するとともに、充分に議論し尽くすことができなかった問題にも展望を広げて全体を総括します。	本多 俊和（スチュアート ヘンリ）（放送大学教授） 棚橋 訓（お茶の水女子大学大学院教授） 三尾 裕子（東京外国語大学教授）	本多 俊和（スチュアート ヘンリ）（放送大学教授） 棚橋 訓（お茶の水女子大学大学院教授） 三尾 裕子（東京外国語大学教授）

事務局記載欄	開講年度	２０１１年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1233912	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　科学的探究の方法　　（’１１）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：濱田　嘉昭（放送大学教授）　　〕

講義概要

科学は人間の行う知的活動の一つであり，現実に生起している現象を観察に基づく経験や実験によって得られた結果を整理し，複雑な現象の中から一定の規則を見出し，それらを総合して法則や原理を導き出し，さらにそれらを統合してより基本的な法則を見出そうとする。このようにして得られた法則からは，物質世界あるいは社会現象の予測が可能になる。特に自然科学を技術と結びつければ，新しい性質を示す物質や装置を創造することもできるようになる。一方では，現象の整理の仕方を間違えたり相応しくない方法を適用すると，間違った結論を導き出す可能性もある。本講義では自然科学を中心として科学の考え方，観察や実験を行う際の基本的に重要な項目について考えることにする。また，情報を収集し，論文にまとめ，発表する方法についても考える。最後に科学は専門家のものだけではなく，すべての人々が関心をもつべき事柄であることを強調したい。これによって，現在の私たちが直面する環境問題などに正しく対処できるようになると考えるからである。

授業の目標

実験や観察は自然・社会現象を探究する重要な方法であり、理論的考察と合わせて科学の両輪になっている。最近では、計算機によるシミュレーションも科学的探究に欠かせないツールになってきた。これらの基本的な理解あるいは使用に関する一般的な注意事項を知る。それにより、得られる結果に対する正しい評価ができ、正しい判断が下せることになる。すべての実験法や観察法、およびそれらの操作法を紹介することはせず、それらに共通する事柄を学ぶことを目標とする。

履修上の留意点

実験や観察は自然科学の手法に止まらず、人文・社会系の研究あるいは学習にも共通する事柄である。したがって、分野を問わず履修していただきたい。なるべく、広範な事例を紹介することに努めるが、講師の専門性もあり、自然科学の例が多くなることは了解しておいてほしい。ただし、自然科学の内容自身の理解を求めることが本意ではなく、広い分野に応用してもらうことを前提にしている。気楽に受講してほしい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	科学とは何か	科学は人が行う文化的な活動とどこがどのように違うのか。歴史的な発展を振り返ることで科学の特徴を考えて見たい。科学というと一般的には、自然科学を思い浮かべるが、人文科学や社会科学とはどのような特徴があり、それぞれにどのような違いがあるのかを考える。 【キーワード】 自然科学、人文科学、社会科学、客観性、再現性	濱田嘉昭（放送大学・教授） 青木久美子（放送大学・教授）	濱田嘉昭（放送大学・教授） 青木久美子（放送大学・教授） 三輪眞木子（放送大学・教授）
2	科学における用語と表現	科学は厳密に定義された専門用語を用いる。多くの科学者が共通の基盤に立って、情報を交換し、議論を進める上で必要なことである。一方で、このことが日常生活で用いられる言葉使いや、話の進め方と乖離しているため、専門家と非専門家との間の意志疎通の原因あるいは専門学術への不信にもつながる可能性がある。専門・学術用語について考える。 【キーワード】 専門（学術）用語、単位と標準、物理量と表記法	濱田嘉昭 青木久美子	濱田嘉昭 青木久美子
3	何を問題にするのか	科学では何を問題にするのか。どのように問題を設定するのかなどについて考える。何が未解決の問題であるのかをどのようにして調べるのかについて学ぶ。卒業研究や大学院修士課程での課題設定において、どのようなテーマにすべきかについても話す。 【キーワード】 科学の語源、問題の発見、先行研究	濱田嘉昭 青木久美子	濱田嘉昭 青木久美子

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	研究の準備	科学研究は人が行う文化活動の一つであるから、それらを始めるに際する心構えや準備の必要性は科学に特別なものではない。しかし、科学研究に特有の準備もある。一方、研究結果が自己満足だけではなく、人の文化にとって意味あるものとなるには、研究を始めるに際して、いくつかの考えておかなければならないことがある。本章では研究テーマの決め方、先行研究を確認することの意味を考えてみたい。 【キーワード】 研究実行条件、結果公表の可不可、プライバシー、先行研究	濱田嘉昭 青木久美子 三輪眞木子	濱田嘉昭 青木久美子 三輪眞木子
5	研究のプロセス	どのような研究も、実際のプロセスは単純ではなく、試行錯誤の連続、あるいは初期のテーマとは異なる方向へ進む場合もある。どのようなプロセスで研究が進むはずであるかについて考察する。 【キーワード】 要素分解と統合、帰納と演繹、仮説の発見、偶然の幸運とは	濱田嘉昭 青木久美子	濱田嘉昭 青木久美子
6	領域の拡大	自然現象はヒトの五感をはるかに越えた領域で生起している。あるいはわれわれが五感で感じられるのは自然現象のほんの一部であることを知ることは重要である。一方で、五感を越える検出器や観測装置を考案し、利用することはわれわれの認識の範囲を拡大することに繋がる。これらについて論じる。 【キーワード】 五感の範囲、検出限界、分解能、1桁の実験	濱田嘉昭 青木久美子	濱田嘉昭 青木久美子
7	自然（社会）に働きかける	自然現象や社会現象は観察するだけでは、その現象が起こっている原因あるいは法則性を見出すことができない場合がある。そのような場合の実験的な方法が、何らかの方法による介入的な観察である。どのような観察・観測があり、その結果をどのように取り扱うべきかを考える。 【キーワード】 （非）破壊分析、定性分析、定量分析、個人情報保護、雑音（ノイズ）	濱田嘉昭 青木久美子	濱田嘉昭 青木久美子
8	データの整理	観測した結果がデータであるが、これはそのまま、求めるべき情報をそのまま反映したものであろうか。実際のデータはさまざまな理由により、真実の情報とは異なっている。多くのデータを処理する場合の基本的な注意点を考える。 【キーワード】 偶然誤差、系統誤差、装置の校正、正規分布、標準偏差、t検定	濱田嘉昭 青木久美子	濱田嘉昭 青木久美子
9	原因と結果	自然（社会）現象はさまざまな要因と相互作用をしている。それらの関連を解明することが現象の正しい理解となる。観察・測定の結果の信頼性の評価に加え、他の現象との関連・相関を考察することも重要である。この場合、解析を誤ると、原因と結果の関係も誤ることにも繋がる。これらのことについて考察する。 【キーワード】 因果律、散布図、相関	濱田嘉昭 青木久美子	濱田嘉昭 青木久美子
10	分類と法則の表現	実験・観察によって信頼できるデータが集まったなら、それらを整理する。整理の仕方によっては生のデータの集合だけでは見えなかった新たな発見があるかもしれない。整理・分類の仕方が研究の質を決めるとも言える。自然科学の研究ではより一般的で本質的な法則を求め、できるだけ数理的な言葉に置き換えることを目指している。一方、そのようにして得た法則を具体的な現象に適用する上では適用範囲に関して注意が必要である。 【キーワード】 分類法、数式化、適用範囲	濱田嘉昭 青木久美子	濱田嘉昭 青木久美子

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	視野の拡大	科学の営みは、結局として、自然あるいは社会をより広い立場で観ることであると言い直すこともできる。井の中の蛙(かわず)が外へ飛び出して、それまで見えなかった世界を知りたいという願望を叶える活動であったわけである。一方、井の中にあっても、知識を集め、合理的に考えることで、井の外に出なくてもある程度は理解できるようにもなれる。広い立場でものが見えるとはどのようなことなのかを考えよう。 【キーワード】 空間・時間スケール、矛盾概念から対立概念へ、ミクロとマクロの視点	濱田嘉昭 三輪眞木子	濱田嘉昭 三輪眞木子
12	研究成果の利用	科学研究は、過去の研究の蓄積の上に、新たな知識を積み重ねていくことで発展してきた。新たな研究に取り組む際には、その領域で過去に積み上げられてきた科学知識を俯瞰して、定説や既に分かっていること、まだ解明されていないことを明らかにし、そのギャップを埋めるためにどんな研究にどのように取り組むべきかを考えることから出発する。過去の研究を知るためには、研究成果がどのように流通しているのかを知り、そうした研究成果を探し出す方法を学ぶことが必要である。 【キーワード】 科学情報の流通、科学情報の収集、科学情報の評価	三輪眞木子	三輪眞木子
13	論文の書き方	研究の成果をまとめて世に問う最終形態が論文である。研究によって発見した現象、新しい考え方などを人類の知的財産として付け加えるものと言える。したがって、著者以外に理解できる文章と筋立てがなければならない。論文といっても、専門分野の学術誌への投稿論文から一般誌の解説記事など様々あるが、ここでは主に大学院や学部での研究論文であり日本語で書く場合を想定して考えることにする。 【キーワード】 主語と述語、正しい日本語表記、起承転結、章立て	濱田嘉昭	濱田嘉昭
14	研究成果の発表と討論	研究成果をまとめて世に問う最終形態は論文であるが、その成果を口頭発表という形で人前で公表する機会も研究者には多々ある。論文による発表は印刷媒体または電子媒体の形で残るものであるが、口頭発表は一過性のものであり、その目的は成果の公表のみならず、他の研究者からのフィードバックを得ることにもある。口頭発表には、授業の課題としての発表から、学会や研究会による発表、及び、学位論文取得のための口頭発表・口頭試問、と様々である。ここでは、主に、学会・研究会における発表を中心に考えることにする。 【キーワード】 学会発表、質疑応答、プレゼンテーション	青木久美子	青木久美子
15	科学の使命	現代の科学や技術の多くの研究は個人の趣味で行うものから、社会が支え社会に還元されるものとして行われている。研究体制、人員、資金は社会構成員の協働で成立しているのである。研究の結果は迅速で、しかも大きな影響を社会に与える場合が多い。したがって、科学の研究方向、結果の受容に社会構成すべてが責任をもつことになる。そのためには、科学研究の意味を理解できる基本的な知識を社会構成員が広くもつ事が必要になる。 【キーワード】 科学者倫理、科学リテラシー、自然・人文・社会科学の統合	濱田嘉昭 三輪眞木子	濱田嘉昭 三輪眞木子

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1130404	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 初歩からの生物学 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：星　元紀（放送大学・教授）〕
〔主任講師（現職名）：松本　忠夫（放送大学・教授）〕
〔主任講師（現職名）：二河　成男（放送大学・准教授）〕

講義概要

生物学は20世紀後半に劇的な展開を見せ、今世紀は生命科学・生物科学の時代といわれるまでになり、生物学の基本的な知識なしには、日々直面する食料・医療・育児・環境などをめぐる問題に対処することすら出来なくなってきた。生命誕生以来現在まで絶えることなく続く生物の世界の成り立ちと、生命活動を支える精妙な仕組みとについて、基本的な事柄を中心に講ずる。講義にあたっては、なるべく日常生活に関わりのある生物科学上の題材をとりあげることとする。

授業の目標

本講義は、これまでに生物学を学ぶ機会の少なかった方たち、あるいはごく若い頃に生物学に接しただけの方たちに、現代生物科学の基礎を習得してもらうことを目標としている。看護師などの医療分野における専門技術者を目指す方たちには、専門的な教育の前提として必須な生物科学の基礎知識を身につけていただくことになる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	なぜ生物学を学ぶか	この講義全体を通じて、ヒトは何処から来て何処に行くのかを考えるうえでのよすがとなることを目指している。初回は全体の序として、生物学を学ぶ意義について考えるとともに、生物学とはどのような学問分野であり、どのような歴史を経て形成されてきたのか、その大筋を学ぶ。 【キーワード】 生物学、生物学の略史	星　元紀（放送大学・教授）	星　元紀（放送大学・教授）
2	生命と生物	生命すなわち生きているということと、生物すなわち生きているものとは分かちがたく結びついており、しばしば同義に用いられている。生命・生物の世界が非生命・非生物の世界とどのように異なるのかを学ぶ。 【キーワード】 生命と生物、生きているものと生きていないもの	星　元紀（放送大学・教授）	星　元紀（放送大学・教授）
3	生物の誕生と歴史	太古の地球において最初の生物が誕生し、長い年月をかけて徐々に変化し、現在のような多種多様な生物たちが共存する世界が形成された。このような生物の歴史と、生物の時間的な変化、すなわち進化のしくみについて学ぶ。 【キーワード】 進化	二河成男（放送大学・准教授）	二河成男（放送大学・准教授）
4	多様な生物の世界（1）	現在の地球にはどのような生物が存在しているのか、大分類について説明する。2回にわたるが、この回では単細胞生物に関して、その栄養獲得様式と、生活型について説明する。また、多細胞生物では、光合成生物、従属栄養生物などにふれる。	松本忠夫（放送大学・教授）	松本忠夫（放送大学・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	多様な生物の世界(2)	前回に引き続いて、現在の地球にはどのような生物が存在しているのか、特に動物についてその栄養獲得様式と生活型について説明する。さらに動物の形態、生理、生態などの適応放散にふれる。	松本忠夫(放送大学・教授)	松本忠夫(放送大学・教授)
6	細胞:生命の最小単位	私たちの体も、他の生物と同様に細胞からできている。細胞といっても多種多様なものが存在する。その一方で、細胞全般に共通するしくみもたくさんある。このような相違点と共通点について、細胞のかたちや中身などの構造面と、分裂などの機能面から理解する。 【キーワード】 細胞、細胞小器官、細胞骨格、細胞分裂、核	二河成男(放送大学・准教授)	二河成男(放送大学・准教授)
7	生命活動を支える物質	生物は細胞からできている。では、細胞は何から構成されているのであろうか。細胞も、われわれの身の回りにある物質と同様に分子から構成されている。細胞を構成する分子には非生物世界を構成する分子とは違った特徴があること、さらに地球上のすべての細胞は基本的には共通の分子を利用して共通のしくみで活動していることを学ぶ。 【キーワード】 分子、水、タンパク質、糖、脂質、核酸	二河成男(放送大学・准教授)	二河成男(放送大学・准教授)
8	生命活動を支える化学反応	さまざまな生命活動は、体内で営まれる物質代謝やエネルギー代謝などの、良く制御された複雑な化学反応の連鎖によって支えられている。生物が営む化学反応の特徴と、主な反応経路について学ぶ。 【キーワード】 代謝、光合成、呼吸、酵素	星 元紀(放送大学・教授)	星 元紀(放送大学・教授)
9	個体の統合と維持	多細胞体制においては、個々の細胞のみならず、個体全体がひとつのシステムとしてよく調節されており、その誕生から死に至るまで破綻することなく、個体としての統一性が維持されている。ここでは、個体としての統一性を支える仕組みについて学ぶ。 【キーワード】 組織、器官、内部環境、恒常性、統合、個体性	星 元紀(放送大学・教授)	星 元紀(放送大学・教授)
10	個体の再生産	種は同じような個体を再生産し、世代を超えた個体の連鎖として維持されている。ここでは、生物が次世代の個体をどのようにして形成しているのか、すなわち生殖と発生とについて学ぶ。 【キーワード】 生殖、性、発生	星 元紀(放送大学・教授)	星 元紀(放送大学・教授)
11	世代を越えた情報の伝達	子は親に似る。このことはすべての生物に共通に見られる現象である。これは遺伝情報を担ってるDNAが親から子に受け渡されるためである。この遺伝のしくみと、細胞がDNAの持つ情報を読み取る方法について学ぶ。 【キーワード】 遺伝、DNA	二河成男(放送大学・准教授)	二河成男(放送大学・准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	情報の交換(1) ～個体内の情報伝達～	細胞は、さまざまな分子を利用してお互いの間での情報伝達を行っている。その結果、われわれの体全体の細胞が協調して働くことができる。さらに細胞の中でも分子を介した情報の伝達が行われている。ここでは、いくつかの代表的な細胞間と細胞内の情報伝達について学ぶ。 【キーワード】 シグナル分子、受容体、神経	二河成男(放送大学・准教授)	二河成男(放送大学・准教授)
13	情報の交換(2) ～個体間の情報伝達～	生物は個体間でさまざまな手段を使って情報交換を行っているが、その様相を同種間の場合、異種間の場合で説明する。そして、それらの情報交換の機能や進化的由来について考察する。	松本忠夫(放送大学・教授)	松本忠夫(放送大学・教授)
14	生物群集の成り立ち	生物は多数の種が競争、共生、寄生、捕食、擬態などの関係をもって同所的に存在して群集を構成している。そして、群集はさらにそれぞれのおかれた地域環境とともに生態系をなしている。群集の構造、安定性、遷移そして人間活動が生物群集に与える影響等について説明する。	松本忠夫(放送大学・教授)	松本忠夫(放送大学・教授)
15	ヒトは何処に行くのか	ヒトの活動が地球という環境にどのような影響を与えているのかを見た後に、人口問題を始めとする人類が直面している諸難問の解決に向けて、ヒトという生物の特徴を考えてみる。 【キーワード】 ヒト、人口爆発、環境問題、食糧問題	星 元紀(放送大学・教授)	星 元紀(放送大学・教授)

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1130706	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 初歩からの物理学 （’０８）＝（ＴＶ）

－物理へようこそ－

〔主任講師（現職名）：生井澤　寛（放送大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：鈴木　久男（北海道大学大学院准教授）　〕

講義概要

物理によって私たちは、原子・分子やもっと小さな世界から宇宙のような大きい世界まで、長さの違いが60桁以上も違う範囲の自然の様子を理解することが出来るようになった。皆さんが日常的に使う携帯電話の仕掛けや、飛行機が飛ぶ理由、脳の働きや遺伝・発生などの生命現象も、物理の助けで判るようになってきた。世界は物理であふれているといってもよい。そこでこの科目では、物理に関するいろいろな謎を出していって、それらの謎がどう解かれていくかを見ながら、皆さんを物理の世界へ誘いたい。また、物理の基礎的概念を、単にその内容だけでなく、何故必要とされたか、どう発展していったかまでを含め、皆さんと一緒に理解して行くつもりである。そのために、身の回りの物で出来る実験を紹介したり、課題を出して行く。是非自分の力でやって欲しい。安全にかかわることについて、物理がいかに大切な働きをするかも見てゆこう。

授業の目標

高校から大学へ進む人たちが物理を学ぶときに感ずるギャップを埋めたり、物理を学んだことはない人や物理を知りたいが後込みしている人たちを、物理の世界に誘う招待状になることおよび物理の楽しみを味わうことを目標にする。内容としては、高校までで学ぶことになっている物理を、広い範囲で紹介するとともに、現代物理の柱となる相対論や量子の論理に触れる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	物理は生きている	物理とはなんだろう。Q&A 形式と身近にあるもので皆さんも出来る実験をやりながら、日ごろ接するものや現象の中から、特に安全にかかわる事柄を取り上げ、物理がいろいろなところでいかに生き生きと活躍しているかを見てゆこう。たとえば音をとって考えよう。音とはなんだろうと考え、出来る範囲で実験してみる。物や現象について、なんだろう、なぜ、どうしてと問うのが物理の考え方なのである。記号や数式を怖がらずに物理と仲良くなろう。 【キーワード】 物理を知って安全な暮らしを、物理の考え方、音とは何だろう	生井澤　寛（放送大学教授）	生井澤　寛（放送大学教授）
2	力とはなんだろう	力の作用のうち、支える(つりあい)、動かす(運動)、形を変える(変形)の3つについて考える。つりあいを見ると、力には大きさと方向が大事な要素であること(力はベクトル)、広がりのある物体に作用するときは、作用点が大事であること(力のモーメント)、作用が面を通してのときは、面積あたりの力(圧力)が重要なことを、実験しながら見て行く。次に運動に移る。力は運動の何を変えるのだろうか。この疑問を突き詰めると、ニュートンに迫ることが出来、運動の基本法則に行き着く。運動の例として、等加速度運動、等速円運動を考え、重力と落下の謎を解こう。 【キーワード】 力、つりあい、運動、変形、ベクトル、作用点、支点、力のモーメント、圧力、パスカルの原理、速度、加速度、ボール回し(等速円運動)、等速直線運動、運動の基本法則、等加速度運動、重力、落下	生井澤　寛（放送大学教授）	生井澤　寛（放送大学教授）
3	力はいつも仕事をするか	実感に基づいて仕事の定義を与え,前回解いた落下運動を分析すると、自然に位置エネルギーと運動エネルギーという概念が出て、全エネルギーの保存則に導かれる。 キャッチボールをやりながら、運動するものを受け取る際の衝撃が、運動量という概念でうまく表せることを見よう。運動量が保存することを体験するとともに、運動量保存則が第3法則によることを示す。ロケットがなぜ飛ぶかも理解できる。 【キーワード】 仕事、エネルギー、運動エネルギー、位置エネルギー、エネルギー保存則、運動量、運動量保存則、ロケット	生井澤　寛（放送大学教授）	生井澤　寛（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	まわるコマはなぜ倒れないか	コマを作って回してみよう。速くまわるコマは、どうやれば出来るのだろうか。コマを手で倒そうとしてもなかなか倒れない。なぜかを考えると、自然と角運動量という量に行き着き、角運動量の保存則に導かれる。惑星の運動の経験法則（ケプラーの法則）、運動の基本法則と第2回のボール回し（等速円運動）で学んだ事柄を使うと、万有引力の法則を導くことが出来、ニュートンに行き着く。こうして落下の原因が判る。 【キーワード】 コマ、角運動量、角運動量保存則、惑星の運動、ケプラーの法則、万有引力、重力加速度	生井澤　寛（放送大学教授）	生井澤　寛（放送大学教授）
5	アインシュタインの考えたこと	アインシュタインがどのようにして相対性理論を考えたかをコンピュータグラフィックスで体験していきましょう。光の速さは、どんなにスピードが速い人がみても変わりません。この実験事実から驚くべき結果が導かれることを主にCGで見ていきます。 【キーワード】 座標系、慣性系、ガリレイ相対性、速度の合成、光速不変、ローレンツ変換、静止エネルギー、ドップラー効果、赤方偏移	鈴木　久男（北海道大学大学院准教授）	鈴木　久男（北海道大学大学院准教授）
6	温度ってなんだろう	温度は温度計で測るものです。でもいったい温度とは物質のどういった量なのでしょうか？また金属にさわると冷たく感じます。この理由を考えると温度と分子の意外な関係も見えてきます。温度を目に見えるようになりましょう。こうしたことを通じて大気の温室効果が起こる仕組みも勉強していきましょう。 【キーワード】 熱、温度、熱平衡　理想気体、絶対温度、分子、絶対零度	鈴木　久男（北海道大学大学院准教授）	鈴木　久男（北海道大学大学院准教授）
7	自動車の燃費はどこまで上げられるか？	日常ではほとんどのエネルギーは熱になっていきます。その意味で熱は特殊です。熱はなぜ特殊なのかをCGで理解していきましょう。自動車は熱を力学的なエネルギーに変えています。熱のエネルギーを力学的なエネルギーに変えるのに限界があることを感覚で理解できることが目標です。 【キーワード】 熱と仕事、ジュールの関係、熱機関、効率、熱力学の基本法則、エントロピー、不可逆変化、ヒートポンプ、開放系	鈴木　久男（北海道大学大学院准教授）	鈴木　久男（北海道大学大学院准教授）
8	波を見て場を知ろう	音でも光（電波）でも、情報伝達の主役は波である。では波とは何か、実験をしながら見てゆこう。池の真ん中に石を落とすと、円く波が広がって進むが、水面の小さな木の葉は上下に振動するだけで、波と一緒に進むことはない。媒質の場所ごとの振動が、次々に広がるのが波なのである。振動と波の基本的な性質を見て行こう。振動と波にかかわる現象の中で、安全に必要なことにも触れる。 【キーワード】 振動、波、振動数、波長、波の速度、重ねあわせ、回折、干渉、うなり、反射、屈折、ドップラー効果	生井澤　寛（放送大学教授）	生井澤　寛（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
9	光の正体は何か	普通に見る光は、直進し、物に影を作り、水やレンズで曲げられる。まず光のこの粒子的な局面を取り上げ、レンズやカメラの作用を考える。一方、シャボン玉や光ディスクのきれいな色模様は、前回見た干渉によるから、光は波でもある。実は光は、波長のごく短い波（電磁波）なのである。波なら、私たちは光を音と同じように感ずるのだろうか。遠い星の光まで見えるのはなぜか。この疑問は、量子の世界にかかわる。答は第14回までまとう。 【キーワード】 屈折率、レンズ、幾何光学、全反射、にじ、薄膜、偏光、回折格子、光速度、視覚	生井澤 寛（放送大学教授）	生井澤 寛（放送大学教授）
10	物はなぜ温度で姿を変える	物は、なぜ温度によって固体、液体、気体と姿(相)を変えるのだろう。温度は、分子の運動エネルギーの目安だったから、温度を分子の間の相互作用のポテンシャルエネルギーと比較すればよさそうである。相が違えば密度が変わり分子間の平均距離も変わることに注目して温度と相の変化を見て行こう。水の不思議な性質や、磁石、超流動・超伝導などの不思議な相についても見て行く。 【キーワード】 相、相転移、分子間相互作用、密度、対称性、相図、3重点、臨界点、水素結合、磁気相転移、超流動・超伝導	生井澤 寛（放送大学教授）	生井澤 寛（放送大学教授）
11	電気とは何だろう	電気の力は日常的には静電気などのように希な力です。でも本当に希な力なのでしょうか？電気の力の本当のすごさを知っていきましょう。電気には場の考え方が重要になってきます。そこで、なぜ場の考え方をするかや、電圧などの考え方も理解していきましょう。 【キーワード】 静電気、電荷、静電誘導、分極、磁力線、磁場、クーロンの法則、電気力線、電場、電位、ガウスの法則、電荷の保存	鈴木 久男（北海道大学大学院准教授）	鈴木 久男（北海道大学大学院准教授）
12	電流はすごい	電流は電車を動かすくらい強いものです。この電流の性質を勉強していきましょう。電流の基本は意外に簡単です。電流を目で見えるように主にCGで説明していきます。また、磁石の仕組みも学習しましょう。そして、電流もまた磁石になることを見てみます。 【キーワード】 電池、電圧、電流、電気分解、電気メッキ、イオン、ファラデイ定数、電気抵抗、オームの法則、ジュール熱、アンペールの法則	鈴木 久男（北海道大学大学院准教授）	鈴木 久男（北海道大学大学院准教授）
13	電気をどう作るか	電流が磁場を作るなら、電場も電流を作ります。この電磁誘導の法則により発電がどのようにして行われているのか見ていきます。電磁気学のすごさはそれだけではありません。電磁波を予言し、光は電磁波であることを見ていきます。その結果として光の性質が電磁気学からどのように説明されるのかもCGで見てみましょう。 【キーワード】 電磁誘導、ファラデイの法則、発電機、モーター、変圧器、自己誘導、電気回路、キルヒホッフの法則、電磁波、光、光速	鈴木 久男（北海道大学大学院准教授）	鈴木 久男（北海道大学大学院准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
14	量子ってなに	電気分解やイオンの存在から、物質を作るのは電気力らしい。ではその源の電荷は何か。その主役が電子であり、原子が電子と重い核(原子核)から出来ることがわかって、ミクロの世界が開けた。では、原子はどうやって出来るか。この謎は、古典物理では解けなかった謎(原子からのとびとびの光、低温で0となる比熱、光電効果、熱放射)と合わせて、ミクロの世界ではエネルギーがとびとび(エネルギー量子)であることで解けることを見よう。量子の世界は、電子が波のように振る舞ったり、光が粒子のように振る舞ったりする不思議な世界である。 【キーワード】 電子、原子、原子核、とびとびの光、低温比熱、光電効果,温度と色、エネルギー量子、光子、ボーアの原子模型、電子スピン、周期表、ドブロイ波、電子の波動性、不確定原理、磁性の起源	生井澤　寛（放送大学教授）	生井澤　寛（放送大学教授）
15	世界はなにで出来ているか	原子がなにから出来ているかは判ったが、では原子核はなにから出来るのか。この疑問を、どんどん小さな世界にぶつけて行って得た現在までの結果を示そう。逆に、目を大きい世界に向けると、太陽を初めとする恒星がなぜ燃えるか、宇宙がどうやって出来たかなど、いくらでも疑問が出る。これらに対する物理の理解も示そう。鉄より重い元素が出来たのも、爆発や衝突を繰り返す星と銀河の歴史の産物であることが判る。私たちの体にもある重い元素が、いつ、どの星で出来たのかを想像するのも物理の楽しみ方のひとつである。 【キーワード】 核子、中間子、素粒子、基本的相互作用、クォーク、レプトン、重力子、核融合、恒星、銀河、宇宙、元素の起源	生井澤　寛（放送大学教授）	生井澤　寛（放送大学教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1130609	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 初歩からの化学 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：荻野　博　（放送大学副学長）〕
〔主任講師（現職名）：大野　公一　（東北大学名誉教授）〕
〔主任講師（現職名）：吉良　満夫　（東北大学名誉教授）〕

講義概要

化学の理解に必要な基礎知識を全15回にわたって講義する。この講義では物質の成り立ちとふるまいを解説し、それらを通じて化学そのものを学ぶとともに化学的なものの見方・考え方を学習する。講義には演示実験（デモンストレーション）や化学工場の現場ロケなども取り入れ、楽しく学習が進められるような配慮がなされている。

授業の目標

この講義は化学を全く学習したことのない人や、少し学んだことはあるが改めて学習し直し知識を確実なものにしたい人などが主な対象である。したがって、特に化学の予備知識なしに学習を始めても基本的な知識と考え方が身につくようにすることを目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	化学の世界	自然科学の中で化学は自然界のさまざまな物質に対する見方・考え方にもっとも大きな責任をもっている学問であるといえる。物質の成り立ちとふるまいを理解し、利用するための化学の方法論・基礎的概念を学ぶ。 【キーワード】 純物質、単体、化合物、元素、原子、分子、原子量、分子量、物質量	吉良　満夫	吉良　満夫 荻野　博 大野　公一
2	物質とは？ ～原子の構造と性質～	元素の周期律が原子核の周りに存在する電子の配置に関係することを学ぶ。また、原子番号順に元素を並べたとき、周期的な性質の変化が見られる例として電子親和力、イオン化エネルギーをとり上げる。 【キーワード】 周期律、電子配置、電子親和力、イオン化エネルギー	荻野　博	荻野　博 大野　公一
3	物質とは？ ～原子の結びつき～	原子やイオンどうしが結びついて結合ができる仕組みを学ぶ。また、イオンからなる物質や金属の構造、化学組成を示す組成式と式量の使い方などを学習する。 【キーワード】 共有結合、電子式、原子価、イオン結合、金属結合、結晶格子、組成式と式量	大野　公一	大野　公一 吉良　満夫
4	物質の状態 ～固体、液体、気体～	物質には固体、液体、気体の三態があることを密度や粒子の運動と結び付けて学ぶ。気体の諸法則を学び、理想気体と実在気体の違い、分子間力と融点・沸点との関係、蒸気圧と沸点の関係について理解する。 【キーワード】 物質の三態、気体の法則、状態方程式、理想気体、分子間力、水素結合、蒸気圧曲線	大野　公一	大野　公一 荻野　博

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	溶液とその性質	液体（溶媒）に他の物質（溶質）が溶け込んでできる溶液の基本的性質について学ぶ。また、溶液と関連して、コロイドの種類と性質について学ぶ。 【キーワード】 溶液、濃度、沸点上昇と凝固点降下、浸透圧、コロイド	大野　公一	大野　公一 吉良　満夫
6	化学反応と熱の出入り	熱エネルギーの授受と温度の関係を学習し、化学反応にともなって出入りするエネルギー（反応熱）に関連し、熱化学方程式とヘスの法則について学ぶ。 【キーワード】 比熱、反応熱、熱化学方程式、ヘスの法則	大野　公一	大野　公一 荻野　博
7	酸性・アルカリ性	酸と塩基との反応は化学の基本反応の一つである。酸・塩基と関連する酸性とアルカリ性（塩基性）あるいはpHについて学び、酸と塩基との反応である中和反応や反応の結果として生成する塩の性質について学ぶ。 【キーワード】 酸性、アルカリ性（塩基性）、水素イオン濃度、中和反応、塩	荻野　博	荻野　博 大野　公一
8	燃焼・さび・電池 ～酸化還元～	酸化還元反応も酸・塩基の反応と並んで重要な化学の基本反応である。酸化還元は物質の燃焼、金属の溶解やさびの発生、電池の中の反応などわれわれの生活と密接に関係する現象である。酸化還元反応が電子の授受によって理解できることを学ぶ。 【キーワード】 電気陰性度、酸化数、酸化剤と還元剤、イオン化列、電池、電気分解	荻野　博	荻野　博 吉良　満夫
9	化学反応の速さと平衡	化学反応の速さが、触媒、濃度、温度、圧力によって変わることを学ぶ。また、逆向きの反応が同時に起こる場合について、化学平衡の法則と平衡の移動を学ぶ。 【キーワード】 反応速度、活性化エネルギー、触媒、化学平衡の法則、平衡定数、ルシャトリエの原理	大野　公一	大野　公一 吉良　満夫
10	金属元素の単体と化合物	周期表上の元素の約80%が金属元素である。金属元素は典型金属元素と遷移金属元素に大別することができる。これら金属元素の単体（金属）と化合物の性質や用途について学ぶ。 【キーワード】 典型金属、アルカリ金属、アルカリ土類金属、遷移金属、錯体	荻野　博	荻野　博 吉良　満夫
11	非金属元素の単体と化合物	非金属元素は水素を除いて周期表の右側上方にある元素で、それ以外の元素はすべて金属元素である。ここでは非金属元素の単体と化合物の性質を学び、それぞれの元素のもつ個性を知る。 【キーワード】 水素、炭素とケイ素族、窒素とリン、酸素と硫黄、ハロゲン、希ガス	荻野　博	荻野　博 大野　公一

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	有機化合物とその構造 －炭化水素－	炭素は様々な元素と共有結合を作るので、炭素を中心元素とする化合物(有機化合物)の数は驚くほど多い。有機化合物を考える上で基礎となる炭化水素分子の結合の様式、立体構造、運動、基本的な反応について学ぶ。 【キーワード】 アルカン、アルケン、アルキン、正四面体構造、分子模型、コンホメーション	吉良　満夫	吉良　満夫 大野　公一
13	さまざまな有機化合物	アルコール、エーテル、ケトン、カルボン酸、アミンなどのように、炭化水素の水素を窒素、酸素、ハロゲンなどの原子やグループで置換した有機化合物の性質について学ぶ。 【キーワード】 官能基、極性、溶解度、不斉、極性反応、油脂、アミノ酸、天然物、有機金属化合物	吉良　満夫	吉良　満夫 荻野　博
14	ベンゼンとそのなかま	ベンゼンやポリアセチレンのように分子内を広く動きまわる電子(π電子)をもつ一群の有機化合物がある。これらの性質と反応の特徴を理解し、電気を通す有機化合物がどのようにして生まれたかを学ぶ。 【キーワード】 非局在化、芳香族性、フラーレン、カーボンナノチューブ、ポリアセチレン、有機伝導体	吉良　満夫	吉良　満夫 荻野　博
15	現代の化学とこれから	高分子化学の基礎を学び、私たちの日常生活を支える合成繊維、プラスチックなどの化学工業製品はどのようにしてつくられるのか、化学の知識がどのように応用されているのかを理解する。さらに、持続可能な社会をつくるためのこれからの化学の役割を考える。 【キーワード】 高分子化学、タンパク質、ナイロン、ポリエチレン、環境問題	吉良　満夫	吉良　満夫 荻野　博 大野　公一

科目名（メディア）＝　物質循環と人間活動（‘０７）＝（TV）

〔主 任 講 師（現職名）：東　　千秋（放送大学教授）〕
〔主 任 講 師（現職名）：鈴木　基之（放送大学教授）〕
〔主 任 講 師（現職名）：濱田　嘉昭（放送大学教授）〕

講義概要

生物の活動は、地球の陸水、海洋、大気そして土壌における物質循環に大きく依存している。一方、生物の活動、特に人間の活動もまた自然環境や物質循環に大きな影響を与えている。時間と空間をスケールとする物質循環をこの地球を舞台に生命との関係とりわけ人間活動との関係について、地球の誕生から現代に至るまで歴史的に把握し、さらにその将来をも展望する。この科目は、人間活動がもたらす環境問題を直接扱うものではないが、これからも生命活動が持続できるために人間は何を目指せばよいのか、その考え方の材料を提供する。

授業の目標

このテーマは、高等学校では地球と生態系における物質循環の内容で学習されている。このことを入り口として放送大学でのこの分野の学習テーマに結びつくようにする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	物質循環と人間活動の視点	物質循環と人間活動について、この科目の視点は何か、そしてこの科目の全体像は何かを示す。	鈴木　基之 濱田　嘉昭 東　　千秋	鈴木　基之 濱田　嘉昭 東　　千秋
2	地球の成り立ち	生物の体をつくり、働きを決めているものは地球の物質である。どのような物質を利用できるかは、その構造と物質分布、すなわち地球の成り立ちに依存する。地球が微惑星の衝突によってできたことを説明し、物質の基本である元素がどのように生成し、分布したのかを学ぶ。	濱田　嘉昭	濱田　嘉昭 ゲスト出演：杉浦　直治（東大宇宙惑星講座教授）
3	生きている地球	火山や地震は地球が活発に運動していることの直接的な証拠である。地球内部の構造と運動について紹介し、その結果、どのような物質の移動や循環が起こるのかについて学ぶ。	濱田　嘉昭	濱田　嘉昭 ゲスト出演：井上　　徹（愛媛大地球深部ダイナミックスセンター准教授）
4	大気と海洋	大気の構造と運動、海洋の流れと物質運搬能力について紹介する。水を媒介として海洋と大気および大地の間に生じる物質循環について学ぶ。	濱田　嘉昭	濱田　嘉昭 ゲスト出演：池田　元美（北大地球環境科学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	生命の誕生	地球上の生物がどのような物質を前提にして発生したのかに関する最近の学説を紹介する。生命活動と物質環境・物質循環との関わりを考察する。	濱田　嘉昭	濱田　嘉昭 ゲスト出演： 小林　憲正 (横浜国大工学部教授)
6	生態系の成り立ち	生物社会における植物、動物の関係と役割、生物の絶滅の歴史を例に生態環境の変遷と生物社会の多様性の意味を知る。また、約500万～700万年前といわれる人類誕生当時の生物社会の様相を考える。	東　千秋	東　千秋 ゲスト出演： 濱田　隆士 (東京大学名誉教授)
7	土と生物	生物による大きな物質循環として土と生物が係わる炭素や窒素などの物質循環を知り、さらに土がどのようにつくられていったのか、また森と海洋生物の関係について知る。	東　千秋	東　千秋 ゲスト出演： 波多野隆介 (北海道大学大学院農学研究科教授)
8	農業の起こり	人類が自然の一部として進化し、約1万年前に何故に定着して農業を始めることになったのか。農業の特徴を生態系の視点で耕地生態系として自然生態系との比較で学ぶ。農業の多様性と農業の問題点を生態系の視点で物質循環とエネルギーの流れから考える。	鈴木　基之	鈴木　基之 ゲスト出演： 森田　茂紀 (東大農学部教授)
9	農業の発展	物質循環とエネルギーの流れから農業という人間活動をどのようにしていけばよいのか、ということについて考えていく。そこで耕地生態系における作物の栽培の問題を、物質循環とエネルギーの流れという視点で、エネルギーの流れ、炭素の循環、窒素の循環、リンの循環、水の循環から考える。	鈴木　基之	鈴木　基之 ゲスト出演： 森田　茂紀 (東大農学部教授)
10	農業と環境	農業の進展とともに、人口の増大を抱え、食料増産の必要性に端を発する近代工業的農業、化学肥料、農薬などの利用による農業がどのように物質循環を規定しているのかを知り、さらに農業は自然環境にどのような影響を与えているのか、農業で人間を支えることが可能なキャパシティーはどうなのか、農業と環境の関係を考え、農業の将来像を展望する。	鈴木　基之	鈴木　基之 ゲスト出演： 森田　茂紀 (東大農学部教授) 及び 稲永　忍 (国際農業水産研究センター理事長)
11	産業革命と工業化社会	産業革命の起こりとそれ以降の工業の発展の歴史から物質循環における産業革命と工業化社会の影響を考える。	東　千秋	東　千秋 ゲスト出演： 道家　達将 (東京工業大学名誉教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	現代産業活動と資源循環	20世紀後半から現代までの産業活動における資源循環について、水産資源などの生物資源、石油に依存する工業活動と資源循環、採掘資源と活用物質の関係を知り、資源の有限性と再生可能性を考える。	東　千秋	東　千秋 ゲスト出演：原田　幸明（独立行政法人物質・材料研究機構材料ラボ ラボ長）
13	都市と物質循環	都市の形成と都市への人口集中、都市の物質循環とエネルギーの消費から都市と物質循環について廃棄される物質とその循環を中心に考える。	鈴木　基之	鈴木　基之
14	都市と水	現在の都市の活動における水の循環を産業活動、人間生活、都市周辺の生態系維持など多様な水の働きの観点から把握し、水道と下水道などの役割を含めて水の総合的な姿について考える。特に都市の発展との関連も重視する。	鈴木　基之	鈴木　基之 ゲスト出演：渡辺　義公（北海道大学教授）
15	持続可能な社会を目指して	この科目の総括として、持続可能性のためにこれから人間は何を目指せばよいのか、人間活動の抑制は可能か、そしてそのためのパラダイムシフトは何かを考える。	東　千秋	東　千秋 ゲスト出演：丹保　憲仁（放送大学前学長）

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1130102	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 身近な気象学 （’１０）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：木村龍治（放送大学客員教授）〕

〔主任講師（現職名）：新野　宏（東京大学大気海洋研究所教授）〕

【本学担当専任教員：吉岡　一男（放送大学教授）】

講義概要

私達はその一生を大気の中で暮らし、絶えず大気の影響を受けて過ごしている。気象のしくみを知ることは、様々な気象災害から身を守る上でも、地球環境問題を自分自身で考えていく上でも、また日々快適な環境で生活していく上でも重要である。しかしながら、大気はあまりにも身近にあるために、日々身の回りで起きている気象がどのようなしくみで、なぜ起きているかについて注意を払うことは意外と少ないように思われる。本講義では、身近なところで起きている日々の気象をきっかけとして、地域スケールから全球スケールをカバーする様々な気象のしくみを学ぶ。

授業の目標

私達をとりまく大気環境やその大気の中で起きる様々な気象がどのようなしくみで形成されているかについて正しい知識を身につけ、日々の生活や防災、地球環境の保全に役立てていただくことを目標とする。

履修上の留意点

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	大気の生い立ち－空気はどこから来た？	私達人間を含む多くの動植物が生きていくために必要不可欠な空気。酸素を20%含む現在の大気が地球の誕生からどのような変遷を経て作られてきたかを学び、地球環境の貴重さを知る。 【キーワード】 地球環境、大気の歴史、地球の誕生、海、植物、光合成	東京大学大気海洋研究所・教授 新野　宏	東京大学大気海洋研究所・教授 新野　宏
2	気温はどうやって決まる	私達が暮らす地球の平均気温はなぜ摂氏18度くらいになるのか？気温を決める上で重要な、放射・対流などの熱の伝わり方について学ぶと共に、おおまかな気温は太陽からの放射と地球が宇宙に向かって出す放射の釣り合いで決まることを学ぶ。また、その応用として気温の南北分布・鉛直分布が決まることを学ぶ。 【キーワード】 熱の伝わり方、放射、対流、気温の南北分布、大気の温度構造、温室効果	東京大学大気海洋研究所・教授 新野　宏	東京大学大気海洋研究所・教授 新野　宏
3	空気の流れ－風はなぜ吹く？	水平方向に気温の違いがあると、地面近くでは冷たい側から暖かい側へと向かう流れ（風）が作られる。海陸風や季節風などはこのようにしてできた風の例である。ここでは、重力流の実験を利用して、風の生ずるしくみについて学ぶ。 【キーワード】 海陸風、季節風	東京大学大気海洋研究所・准教授 伊賀啓太	東京大学大気海洋研究所・准教授伊賀啓太

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	地球の回転	地球の回転は1日に1回と非常にゆっくりしているが、大気の流れには非常に大きな影響を与えている。地球の回転によるコリオリの力を気象研究所の回転実験台でのボール投げなどを通して理解し、航空機の燃費にも大きな影響を与えるジェット気流の仕組みを学ぶ。 【キーワード】 地球回転、コリオリの力、フーコーの振り子、ジェット気流	東京大学大気海洋研究所・准教授 伊賀啓太	東京大学大気海洋研究所・准教授 伊賀啓太
5	天気の変化－天気はなぜ変わる？	私たちの住む中緯度の天気変化を生ずる温帯低気圧と移動性高気圧の起きるしくみと低気圧に伴う寒冷前線・温暖前線などの構造と性質について、回転水槽実験も用いながら学ぶ。 【キーワード】 温帯低気圧、高気圧、寒冷前線、温暖前線	東京大学大気海洋研究所・准教授 伊賀啓太	東京大学大気海洋研究所・准教授 伊賀啓太
6	雲と降水	空には様々な種類の雲があり、あるものは雨や雪を降らせる。雲や雨・雪はどのようにして作られるのか、雨や雪はどのような形をしているのかを、鉛直風洞による雨の形の実験やペットボトルによる雲の生成の実験などを通して学ぶ。 【キーワード】 雲、雨、雪、凝結核、氷晶核、過冷却水滴、氷晶、十種雲形	放送大学・客員教授 木村龍治	放送大学・客員教授 木村龍治
7	積乱雲のしくみ－集中豪雨はなぜ起きる？	積乱雲は大気中における激しい対流である。積乱雲はどのように作られ、発達し、どのような一生を送るのか？また積乱雲が組織化され長続きしたときに生ずる集中豪雨のしくみについて学ぶ。 【キーワード】 積乱雲、対流、集中豪雨	東京大学大気海洋研究所・教授 新野 宏	東京大学大気海洋研究所・教授 新野 宏
8	積乱雲の起こす嵐－竜巻・ダウンバースト・雷	積乱雲は、竜巻・ダウンバーストなどの突風による被害、落雷による被害も生ずる。ここでは、これらの現象のしくみと被害に遭わないための対策について学ぶ。 【キーワード】 積乱雲、対流、竜巻、ダウンバースト、突風、雷	東京大学大気海洋研究所・教授 新野 宏	東京大学大気海洋研究所・教授 新野 宏
9	台風－熱帯からやってくる嵐	台風は熱帯の海洋上で発生する大気の渦巻きである。夏から秋にかけて北上し、しばしば日本列島の接近して、大雨、強風の災害をもたらす。それと同時に、日本の重要な水資源になっている。この講義では、発生から消滅までの台風の一生の過程を、衛星画像、室内実験などによって学習する。 【キーワード】 熱帯低気圧、台風、ハリケーン、サイクロン	放送大学・客員教授 木村龍治	放送大学・客員教授 木村龍治

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	寒波－大雪のしくみ	冬季、東の海上に低気圧、西の大陸上に高気圧がある、いわゆる西高東低の気圧配置になると、大陸から乾燥した冷たい空気が日本海上に吹き出してくる。このようにして吹き出した空気は、暖かい日本海から温められると共に水蒸気の補給を受けて日本列島に達し、日本海側で雪を降らせる。一方、太平洋側では乾燥した天気が続く。ここでは、このような冬の気象のしくみを学ぶ。 【キーワード】 寒気、対流、筋状雲	東京大学大気海洋研究所・准教授 伊賀啓太	東京大学大気海洋研究所・准教授 伊賀啓太
11	天気予報	天気予報は昔から行われてきたが、時代によって、天気予報の原理が変化してきた。晴雨計などの道具を使う天気予報から、天気図による天気予報の時代になり、20世紀後半からは数値予報が実用化されるようになった。この講義では、天気予報の歴史を振り返り、天気変化をもたらす自然の仕組みを学習する。 【キーワード】 天気予報、数値予報、天気図、カオス	放送大学・客員教授 木村龍治	放送大学・客員教授 木村龍治
12	レジャーと気象	アウトドアスポーツは私たちの生活に楽しみを与えてくれるが、登山、水泳など、自然を相手とするレジャーは、思わぬ事故が起こることがある。自然の変化をよく知ることが安全なレジャーのために必要である。この講義では、熱気球とヨットを取り上げ、風を読むことがいかに大切か学習する。 【キーワード】 レジャー、熱気球、ヨット、コロンブス、高層大気、ピカール	放送大学・客員教授 木村龍治	放送大学・客員教授 木村龍治
13	都市化と気象－ヒートアイランド現象	都市域は、人為的な作用で地表面が大規模に改変された場所であり、集中した人間の営みにより、熱や物質が大気中に放出される。その結果、都市独特の気候が形成されている。その中でも、平均気温の上昇に見られるヒートアイアンド現象が注目されている。この講義では、都市気候のメカニズムと、ヒートアイアンドの研究の現状を学習する。 【キーワード】 都市気候、ヒートアイランド、顕熱、潜熱、大気境界層	放送大学・客員教授 木村龍治	放送大学・客員教授 木村龍治
14	全球でつながる気象－遠くの気象が身近な気象を変える	大気は全球を覆ってつながっている。このため、はるか遠くで起きたことが、大気の中を伝わってきて、身近な気象に大きな影響を与えることがある。例えば、太平洋の熱帯地方では大気と海洋に大きな影響を与えるエルニーニョという現象があるが、この現象は北米や日本の天気にも大きな影響を与えると考えられている。ここでは、エルニーニョとこれが中緯度に影響を与えるしくみについて学ぶ。 【キーワード】 エルニーニョ、テレコネクション	東京大学大気海洋研究所・准教授 伊賀啓太	東京大学大気海洋研究所・准教授 伊賀啓太
15	地球の未来－地球環境問題とは	近年、地球温暖化やオゾンホールなど、人間活動が原因となっているとされる様々な現象が大気中で起こりつつある。これらの現象の実際とそのしくみについて学ぶ。 【キーワード】 地球温暖化、オゾンホール、地球環境問題	東京大学大気海洋研究所・教授 新野 宏	東京大学大気海洋研究所・教授 新野 宏

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1130803	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 初歩からの数学 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：岡本　和夫（大学評価・学位授与機構理事）〕

〔主任講師（現職名）：長岡　亮介（明治大学客員教授）〕

講義概要

数学は、体系性を重んじる科学諸分野の中でも、際立って論理性を重視する学問である。そのために、論理的に積み上げていくという過程の1ステップを踏みはずしただけで、その後の展開がまったく理解できなくなってしまう、という側面があり（実はこれが全面的に正しいわけでは決してないのだが）、そのために数学を不得手と思い，その後の学習を諦める多くの人々を作ってきた。

さらに近年は、中等教育における数学の学習が「大学入試のために」を口実に，数学的には意味の乏しい些末な基本問題とその解法の技巧の機械的な暗記に傾く流れが全国的に定着してきたせいであろうが、大学において数学の基礎知識を必要とする分野を専攻する学生の中にも、その基礎となる数学の基本的な知識が十分しっかりしているとは言えない人が増えてきた。

本講義は、工学系、社会科学系をはじめ、数学的な知識と技術を必須とする専門分野を目指す人々、言い換えれば数学のユーザである人々に、微積分や線型代数の基本を、グラフィクスをはじめコンピュータの先進的機能を利用したり，知的で親しみやすい対話，鼎談を講義の基本スタイルとして採用することで分かりやすく、かつ、数学的に見通し良く解説するものである。

「三角関数、対数関数で躓いてしまったが、それまでは数学はそこそこであった」、「もう少し高校で頑張っておけば良かった」、そう思っている人々が講義で想定する学生である。

授業の目標

文部科学省「学習指導要領」に厳密に従うという意味ではないが、受講生には、高校1年生程度までの数学の知識（たとえば，1次，2次方程式，不等式の解法，1次，2次関数のグラフ，ピュタゴラスの定理（三平方の定理）などの初等幾何の基本的事実）を仮定し，他方，高校2年生以上の数学の知識に関しては．「多少記憶がある」という程度であってもしっかりと学習に取り組むことで十分理解できるように基本から解説する．

高校数学の範囲にある数学の基礎知識を，大学で役に立つレベルの確実なものとするのが目標である．

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	ベクトルと1次変換(1)	高校では「ベクトル」も「1次変換」も教科書にある単元であるが、両者を統合的に扱うことの意味はほとんど扱われてこなかったと言えよう．ここでは、ベクトルの考え，あるいは線型性の概念と方法が数学において如何に重要なものであるか述べる．	岡本　和夫（大学評価・学位授与機構理事） 長岡　亮介（明治大学客員教授）	岡本　和夫（大学評価・学位授与機構理事） 長岡　亮介（明治大学客員教授）
2	ベクトルと1次変換(2)	前回を受けて，やや発展的な話題を紹介する。コンピュータグラフィクスなどで必須の線型変換など、具体的な応用例を含めて紹介する．	長岡　亮介（明治大学客員教授）	長岡　亮介（明治大学客員教授）
3	多変数関数入門	高等学校では潜在的にしか扱われていない多変数関数を，2変数の場合に限定して，1変数関数と扱いの似ている部分、異っている部分を際立たせるように解説する．	同　上	同　上
4	三角比	三角関数の概念を確実に理解するために，測量の基礎となっている三角法の基礎を講ずる．	岡本　和夫（大学評価・学位授与機構理事）	岡本　和夫（大学評価・学位授与機構理事）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	三角関数	三角関数のグラフ，三角関数の間の諸関係を，公式暗記ではなく，理解することを目指す.	岡本 和夫(大学評価・学位授与機構理事)	岡本 和夫(大学評価・学位授与機構理事)
6	加法定理とその応用	三角関数の加法定理とそれに関係する諸公式を，それぞれの持つ数学的な意味が理解できるように解説する.	同 上	同 上
7	有限から無限へ	極限について解説し、微分法の学習への橋渡しとする. 関数の和に関する不思議な世界を紹介する.	同 上	同 上
8	微分法の基礎(1)	微分の基礎概念(微分係数、導関数、接線、増減、凹凸)を見通し良くまとめる. 積，商の微分公式と合成関数，逆関数の微分公式をもとに，有理関数，代数関数までの微分計算が出来るようにする.	同 上	同 上
9	微分法の基礎(2)	三角関数初等超越関数の微分法を講ずる.	長岡 亮介(明治大学客員教授)	長岡 亮介(明治大学客員教授)
10	微分法の基礎(3)	指数・対数関数をその定義から出発して、これらについて，微分法からのアプリーチを理解する.	同 上	同 上
11	積分法の基礎(1)	原始関数、不定積分、定積分、など積分のついての基本概念を講ずる.	長岡 亮介(明治大学客員教授)	長岡 亮介(明治大学客員教授)
12	積分法の基礎(2)	置換積分、部分積分など計算の発展的な基本技法を学ぶ.	同 上	同 上
13	積分法の基礎(3)	積分法の本来の意味である区分求積法的なアプローチを紹介する. 様々な図形の面積、体積、長さなどを求めるための基本的な考え方を理解する.	同 上	同 上
14	微分方程式入門	現象を数学的に記述するためのもっとも基本となる方法を初歩から講ずる	岡本 和夫(大学評価・学位授与機構理事)	岡本 和夫(大学評価・学位授与機構理事)
15	曲線とその表現	高校では、関数のグラフと曲線について体系的に扱っているとは必ずしも言えない. 曲線という幾何学的対象に対して、数学的に可能な様々なアプローチを紹介する.	同 上	同 上

科目名（メディア）＝ 身近な統計（‘０７）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：熊原　啓作　（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：渡辺　美智子（東洋大学教授）〕

講義概要

高度情報化社会が謳われる中で，私たちの身の回りにはテレビや新聞・雑誌・インターネット等を通して多種多様な統計情報があふれています。本講義では，統計の基本的な考え方，データの統計的活用の理論と方法を解説するだけではなく，諸種の統計情報が企業や行政の意思決定および社会・経済・自然現象の解明に具体的に活用されている事例を（VTR 映像で）紹介します。また，更に具体的な理解を深めるため，身近なデータの表計算ソフトを使った簡単な分析方法も説明します。

授業の目標

統計の考え方と記述統計・推測統計の基礎を，理論だけではなく，具体的にそれらが社会で活用されている事例（実務家のショートレクチャーを含めた現場の VTR 映像）や表計算ソフトを活用した分析操作を通して学んでいきます。とくに，諸種の具体的な統計グラフや統計数字に関して，具体的な意味を知り，そこから正しく情報を読み取ることができるようになることを目標とします。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	論より数字， 勘より統計 ～私たちの身近で活躍する統計情報～	スーパーの棚割の決定から新薬の認定，政府の行政施策，コンピュータウイルス・不正アクセス等の検出，プロスポーツの戦略分析，企業活動を支える品質管理活動など，社会で活用される統計の役割を紹介し，統計の一般的な定義と機能，Fact Control や Evidence Based Practice の考え方，情報化と統計環境の変化，統計分析とコンピュータソフトウェアの関係を解説し，科目の全体構成を説明します。	熊原啓作（放送大学教授） 渡辺美智子（東洋大学教授）	熊原啓作（放送大学教授） 渡辺美智子（東洋大学教授）
2	データのばらつきを表やグラフで要約する（質的データの場合） ～度数分布表とパレート図～	統計データの特徴と分布の意味，質的データに対する度数分布表とそのグラフ（パレート図）の作り方と読み方を解説します。とくに，ばらつきのあるデータをまとめることと，分布という視点を持てるようになることを目指します。 **キーワード**： 度数分布表（質的データ），ケースと変数，データのばらつきと分布， 質的データと量的データ，度数分布表と相対度数・累積度数，パレート図	同上	同上
3	データのばらつきを表やグラフで要約する（量的データの場合） ～度数分布表とヒストグラム～	量的データに対してそのデータのばらつきの様子（分布）を記述する方法とそこからの情報の読み取り方を解説します。具体的には，量的データに対する度数分布表とヒストグラムの作成方法，ヒストグラムの形状の特徴などを説明します。 **キーワード**： 度数分布表（量的データ），階級・階級値・階級幅，ヒストグラム，単峰性・多峰性，歪んだ分布，外れ値	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	データのばらつきを数字でまとめる ～平均値・中央値と箱ひげ図～	分布の特徴を数値で表すことの意味を理解し，代表値としての平均値，中央値，最頻値の特徴を説明します。この回では，それらを目的やデータの状況に応じて，使い分けができるようになることを目指します。また，簡単に分布の様子がわかる箱ひげ図を紹介します。 **キーワード：** 基本統計，平均値と中央値，四分位数，箱ひげ図	同上	同上
5	ばらつきの大きさを測る ～シグマ（標準偏差）の活用～	ばらつきの大きさの尺度である。分散と標準偏差を解説し，とくに，標準偏差の活用として，正規分布と１シグマ２シグマ３シグマの法則との関係，標準得点（ｚスコア），偏差値を説明します。 **キーワード：** 偏差，分散，標準偏差，標本分散（不偏分散），偏差値，１シグマ２シグマ３シグマの法則	同上	同上
6	格差を測る ～ローレンツ曲線とジニ係数～	分布の形状を測る基本統計量として，歪度と尖度を紹介します。 また，ばらつきの大きさを評価する指標として変動係数を解説し，とくに格差の尺度としても使用されるジニ係数やローレンツ曲線などを解説します。 **キーワード：** 歪度，尖度，変動係数，ジニ係数，ローレンツ曲線	同上	同上
7	不確実な出来事を確率で考える ～2項分布～	確率の定義と身近な確率の使われ方，確率変数の定義とその期待値の意味を解説します。次に，理論分布としての２項分布を解説し，具体的な確率計算と適用場面を紹介します。 **キーワード：** 確率　大数の法則　確率変数　期待値　２項確率　２項分布	同上	同上
8	不確実な出来事を確率で考える ～正規分布～	確率分布モデルとしての正規分布を解説し，正規分布の確率計算の方法と活用の仕方を解説します。 **キーワード：** 正規分布　標準正規分布　上側(下側)確率　両側確率　統計数値表，NORMDIST 関数	同上	同上
9	統計を作る－部分から全体を知る ～標本調査～	母集団と標本，全数調査と標本調査，標本調査におけるランダムサンプリングの考え方と具体的な方法を解説します。 **キーワード：** 母集団と標本（サンプル），無作為標本（ランダムサンプル），無作為標本抽出（ランダムサンプリング），乱数	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	調査結果の誤差を知る ～推定値と標本誤差～	標本調査における誤差の評価の仕組みを解説します。具体的に，標本分布と標準誤差の関係を説明し，比率の調査，平均の調査を区別して標本誤差の求め方を学習します。 **キーワード**： 標本分布，標準誤差，標本誤差，母比率，母平均	同上	同上
11	標本から仮説の真偽を判断する ～統計的仮説検定の考え方～	母集団に関する仮説の真偽を判断するための統計的仮説検定のロジックを解説します。とくに，帰無仮説と対立仮説の違い，検定の方向性，検定統計量と棄却域，有意水準などの意味とランダムサンプリングとランダム割付の違いを学習します。 **キーワード**： 統計的検定，帰無仮説，対立仮説，2種類の過誤，有意水準，危険率，有意確率	同上	同上
12	データから関係を探る ～クロス集計表の読み方～	2変数の間の関係をデータから記述する方法として，とくに質的変数に対して，クロス表の読み方，列効果と行効果，交互作用効果の意味を解説し，独立性の検定としてカイ2乗検定の方法を説明します。 **キーワード**： 連関，クロス集計表，行（列）比率，特化係数，独立性，期待度数	同上	同上
13	関係のパターンを読む ～相関関係と傾向線～	量的データ間の関係を見るためのグラフとして散布図の読み方を説明し，とくに相関関係と相関係数を解説します。また，傾向線としての単回帰直線を学習します。 **キーワード**： 散布図，相関関係，相関係数，傾向線，単回帰直線	同上	同上
14	時系列データの分析 ～変化の記述と将来の予測～	時間に依存して取られるデータの記述の方法として，時系列グラフの描き方と読み方，時系列データの構成要素を説明します。また，傾向や変化の大きさをつかむための加工系列として，指数，移動平均を学習し，移動平均を利用した季節調整の考え方を学びます。 **キーワード**： 時系列データ，時系列グラフ，トレンド，季節変動，移動平均，季節調整	同上	同上
15	知識創造社会を支える統計 ～全体のまとめ～	高度に情報化とグローバル化が進む21世紀の知識創造型の社会の中で，既に私たちの身近な生活と深く係わっている統計の意義と活用の実態を講義のまとめを通して，再度，学習します。また，問題練習を通して全体の講義の要点を復習します。	同上	同上

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1310100	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　基礎からの英文法　　（’０９）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：大橋理枝（放送大学准教授）〕

〔主任講師（現職名）：大石和欣（名古屋大学准教授）〕

講義概要

英語を基本的な文法から学ぶことができる講義である。当たり前のことだが、外国語としての英語は日本語とは大きく構造的に異なっているし、それを統括する法則も異なる。その差異を認識することによって母国語である日本語への意識と感性を高め、同時に異文化に対する理解を深めることも可能になろう。本講義では、そうした観点に立ちながら、平易な会話や英語圏の文化についても学習し、言葉のもつ文化的な意義や深い味わいについても考えてみる。英語が苦手な学生にとっても、違和感を覚えることなく、外国語を学ぶ楽しさと価値を再認識できる内容である。

授業の目標

英語の文法の基本事項を学び、またそれを基礎にして平易な英語でコミュニケーションをする楽しさを知ること。
同時に、英語と日本語との言語構造の違いや背景にある文化的な差異についても理解を深めること。
英語の基礎を学ぶことで、日本語においても言葉に対する意識と感性を高めること。
異文化を理解する能力を高め、異文化と交流するためのコミュニケーション能力の素地を磨くこと。

履修上の留意点

文法は重要事項であるが、文法だけで言語が成立しているわけではない。人間同士のコミュニケーションの手段として機能しているのが言語であるということを踏まえて、毎回の授業に臨んでほしい。そうすることで、言葉のもっている社会的・文化的な意味がより深く理解できるようになろう。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	おしゃれに形容詞粋に副詞	形容詞と副詞を中心に文法項目を学習した後、パーティーの場面に設定されたスキットを用いて初対面時の会話などを学ぶ。 インタビュー・コーナーでは、原田順子先生のお話を伺う。 【キーワード】 形容詞、副詞、社交に関する表現	大石和欣（名古屋大学准教授） 大橋理枝（放送大学准教授） Stuart Vernam-Atkin（作家・俳優・翻訳家）	大石和欣（名古屋大学准教授） 大橋理枝（放送大学准教授） ゲスト： 湯野川祐子フローレンス（声優）
2	知的に名詞	名詞の種類や冠詞の付け方などを中心に文法項目を学習した後、書道展の場面に設定されたスキットを用いて、名詞を用いた基本的な構文などを学ぶ。 インタビュー・コーナーでは、草光俊雄先生のお話を伺う。 【キーワード】 普通名詞、集合名詞、固有名詞、物質名詞、抽象名詞、代名詞、冠詞	同上	同上
3	キッパリ否定、飽くなき疑問	be 動詞と一般動詞の違い、平叙文の肯定形と否定形、一般動詞を使った疑問文及び疑問詞を使った疑問文などを中心に学習した後、手紙をめぐるやりとりが行われる場面に設定されたスキットを用いて、肯定文・否定文や疑問文などを学ぶ。 インタビュー・コーナーでは、高橋和夫先生のお話を伺う。 【キーワード】 be 動詞、一般動詞、肯定形平叙文、否定形平叙文、一般疑問文、疑問詞疑問文	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	移り気な動詞	自動詞と他動詞、動詞の現在形・過去形・過去分詞形・現在完了形・進行形、受動態、命令文などを学習した後、探していたものの置き場を思い出すという場面に設定されたスキットを用いて、動詞の様々な変化の形を学ぶ。 インタビュー・コーナーでは、生井澤寛先生のお話を伺う。 【キーワード】 自動詞、他動詞、現在形、過去形、過去分詞形、現在完了形、進行形、受動態、命令文	大石和欣（名古屋大学准教授） 大橋理枝（放送大学准教授） Stuart Vernam-Atkin（作家・俳優・翻訳家）	大石和欣（名古屋大学准教授） 大橋理枝（放送大学准教授） ゲスト：湯野川祐子フローレンス（声優）
5	形が大切	主語、述語動詞、目的語、補語、修飾語句などの概念、基本5文型、単文・複文・重文・混文の違いを学習した後、体調が優れない人に声をかけるという場面に設定されたスキットを用いて、様々な文の形を学ぶ。 インタビュー・コーナーでは、吉岡一男先生のお話を伺う。 【キーワード】 S、V、O、C、M、第1文型、第2文型、第3文型、第4文型、第5文型	同上	同上
6	時間厳守	現在形、過去形、未来形、進行形、完了形、完了進行形、時制の一致などを学習した後、予約や申し込みに関するやりとりの場面に設定されたスキットを用いて、動詞の時制についてを学ぶ。 インタビュー・コーナーでは、岩永雅也先生のお話を伺う。 【キーワード】 現在形、過去形、未来形、進行形、完了形、完了進行形、時制の一致	同上	同上
7	未来予想図	単純未来、意志未来、近接未来、will や shall の使い方などを学習した後、観光地でのやりとりという場面に設定されたスキットを用いて、未来に関する表現の仕方を学ぶ。 インタビュー・コーナーでは、齋藤正章先生のお話を伺う。 【キーワード】 単純未来、意志未来、近接未来、will 及び shall、be to V、be about to V	同上	同上
8	ビミョーな助動詞	can、may、must、should、などの助動詞を学習した後、原稿用紙の使い方を聞くという場面に設定されたスキットを用いて、様々な助動詞の使い方を学ぶ。 インタビュー・コーナーでは、星薫先生のお話を伺う。 【キーワード】 助動詞、can、may、must、have to、should、would、ought to、used to	同上	同上
9	英語の解体新書 ― 語、句、節	語、句、節などについて学習した後、日本の歴史について語るという場面に設定されたスキットを用いて、文の構成を学ぶ。 インタビュー・コーナーでは、齋藤高雅先生のお話を伺う。 【キーワード】 前置詞、接続詞、名詞句、形容詞句、副詞句、独立節、主節、従属節、名詞節、形容詞節、副詞節	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	フィーリングの前置詞	様々な前置詞を学習した後、携帯電話がみつからないという場面に設定されたスキットを用いて、前置詞の使い方や意味の違いを学ぶ。 インタビュー・コーナーでは、高木保興先生のお話を伺う。 【キーワード】 at、in、on、by、from、to、for、of、with、about、over	大石和欣（名古屋大学准教授） 大橋理枝（放送大学准教授） Stuart Vernam-Atkin（作家・俳優・翻訳家）	大石和欣（名古屋大学准教授） 大橋理枝（放送大学准教授） ゲスト：湯野川祐子フローレンス（声優）
11	達人技の不定詞・分詞・動名詞	不定詞、分詞、動名詞などを学習した後、休暇の計画を話し合うという場面に設定されたスキットを用いて、動詞の様々な形を使った表現方法を学ぶ。 インタビュー・コーナーでは、木村龍治先生のお話を伺う。 【キーワード】 to 不定詞の名詞的用法・形容詞的用法・副詞的用法、分詞の形容詞的用法・補語の用法、分詞構文、動名詞の名詞的性格・動詞的性格、動名詞と不定詞の名詞的用法	同上	同上
12	赤い糸の関係代名詞・関係副詞	関係代名詞と関係副詞を学習した後、映画についてのやりとりという場面に設定されたスキットを用いて、関係代名詞や関係副詞の使い方を学ぶ。 インタビュー・コーナーでは、内堀基光先生のお話を伺う。 【キーワード】 関係代名詞、関係副詞、制限用法、非制限用法	同上	同上
13	気配りの使役表現、現場の知覚表現	使役表現と視覚表現を学習した後、探していた人を見かけたという場面に設定されたスキットを用いて、知覚動詞の使い方や使役表現を学ぶ。 インタビュー・コーナーでは、林敏彦先生のお話を伺う。 【キーワード】 let、make、have、get、知覚動詞	同上	同上
14	無類な比較	比較の表現などを学習した後、食料品の日米比較に関するやりとりという場面に設定されたスキットを用いて、比較表現の使い方を学ぶ。 インタビュー・コーナーでは、奈良由美子先生のお話を伺う。 【キーワード】 同等比較、比較級、最上級	同上	同上
15	ひょっとすると仮定法	仮定法の表現を学習した後、京都観光でのやりとりという場面に設定されたスキットを用いて、様々な仮定の表現を学ぶ。 インタビュー・コーナーでは、岡部洋一先生のお話を伺う。 【キーワード】 仮定法過去、仮定法過去完了、wish を使った表現、if it were not for、if it had not been for、as if、as though、were to、should、would rather	同上	同上

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1310305	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 英語の基本 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：大橋理枝 （放送大学准教授）〕

〔主任講師（現職名）：斎藤兆史 （東京大学大学院教授）〕

講義概要

言語と文化は切っても切り離せない関係にあるという認識に基づき、背景となる文化事象の違いによる日本語と英語の発想の違いを主題とする印刷・放送教材を用い、受講者の英語力強化のための授業を行なう。授業においては、「旅」、「宿」、「食」をはじめ、文化的な主題に関するエッセイと、それに関する会話やインタビューの語学的・文化的解説などを中心的に行なう。

授業の目標

英語に関する基礎的な点を復習しつつ、受講者の英語力を総合的に伸ばすことを目標とする。エッセイを読む部分では、異文化理解までを可能ならしめる読解力（当然ながら、それを支える語彙力と文法能力）を育成し、インタビューの部分では、単なる日常会話を超えた文化的なやり取りを可能ならしめるような聴解力・会話力を養成することを目指す。授業内ではそのための勉強の指針などを随時提示する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	課 (Lessons)	授業の趣旨、レベル設定などを概論的に説明したのち、本講義の受講に当たっての英語学習の心得を講じ、日常的に実践すべき英語の学習法（発音記号の読み方、音読、素読、暗唱、物まね発声など）を具体的に解説する。 【キーワード】 introduction、英語学習法	斎藤兆史 （東京大学大学院教授）	斎藤兆史 （東京大学大学院教授） 大橋理枝 （放送大学准教授）
2	業 (Studies)	本講義の受講に当たって知っておくべき文法上の概念などを具体的に解説する。 【キーワード】 文法学習	斎藤兆史 （東京大学大学院教授）	斎藤兆史 大橋理枝
3	飲 (Drinking)	国や地域によって「飲む」（drink）という言葉の意味するものは違う。この回の授業では、「飲む」ということが何を意味するかや、何か飲み物を頼むときの注文の仕方などを題材として英語を学ぶ。 【キーワード】 drinking, drink, beverage, brewery	斎藤兆史 （東京大学大学院教授）	斎藤兆史 大橋理枝
4	食 (Eating)	この回では、最近はやっているイギリスの料理や、伝統的なイギリス料理の作り方を紹介しながら、料理や調理にまつわる英語を学んでいく。 【キーワード】 eating, food, modern British, traditional cooking	大橋理枝	斎藤兆史 大橋理枝

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	飲食 (Review and Practice 1)	3, 4章の内容に基づき、飲食に関する英語を実際に使いこなす練習をする。	大橋理枝	斎藤兆史 大橋理枝
6	家 (Houses)	イギリス人の家に対するこだわりはかなりのものがあるようだ。この回ではごく普通のイギリス人が、自分の家を自分の好みに合わせていく姿を紹介しながら、家にまつわる英語を学んでいく。 【キーワード】 house, housing, remodeling, DIY	大橋理枝	斎藤兆史 大橋理枝
7	庭 (Gardens)	ガーデニングと言えば、イギリスの庭作りは有名だが、イギリス人の御自慢の庭は大抵家の後ろ側にあるのでなかなか外からは見られない。この回ではごく一般的な家庭の庭の姿や庭造りの極意を紹介しながら、庭にまつわる表現を学ぶ。 【キーワード】 garden, gardening, plants	大橋理枝	斎藤兆史 大橋理枝
8	家庭 (Review and Practice 2)	6, 7章の内容に基づき、家や庭に関する英語を実際に使いこなす練習をする。	大橋理枝	斎藤兆史 大橋理枝
9	旅 (Trip)	日本と英語文化圏における旅のイメージの違いや共通点を考察し、英語圏に旅行をするときに必要な英語表現などを勉強する。 【キーワード】 trip, travel	Tom Gally (東京大学教養学部特任准教授) ＜分担執筆担当講師＞ 斎藤兆史	Tom Gally (東京大学教養学部特任准教授) ＜分担執筆担当講師＞ 斎藤兆史
10	宿 (Accommodation)	宿、あるいは宿泊ということに関する日本と英語圏とのイメージの違いや共通点を考察し、英語圏で宿を取る場合に必要な英語表現を勉強する。 【キーワード】 accommodation, inn, hotel	Tom Gally 斎藤兆史	斎藤兆史 Tom Gally
11	旅宿 (Review and Practice 3)	9、10章の内容に基づき、旅行や宿泊に関する英語を実際に使いこなす練習をする。	斎藤兆史	斎藤兆史 大橋理枝

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	訳 (Translation)	最近の英語教育においては、翻訳という作業はあまり好まれない傾向にあるが、日本人が高度な英語力を求められるのは、外国人の言葉を日本側に伝えたり、あるいは日本の代表として外国と交渉をしたりという異文化状況であり、そのなかで翻訳能力は重要な語学力となり得る。この回では、英語学習・異文化理解における翻訳の意味を改めて考える。 【キーワード】 translation, interpretation	Tom Gally 斎藤兆史	斎藤兆史 Tom Gally
13	文 (Letters)	詩文を分析することで文学的なテクストの読み方を勉強したり、英文学の文豪について学ぶことで、文学を通じて英語を勉強する面白さを学ぶ。 【キーワード】 literature, poetry	Tom Gally 斎藤兆史	斎藤兆史 Tom Gally
14	訳文 (Review and Practice 4)	12, 13章の内容に基づき、文学翻訳に関する英語を実際に使いこなす練習をする。	斎藤兆史	斎藤兆史 大橋理枝
15	課業 (Conclusion)	いままで習った英語を現場で生かすため、発展的な自主学習のやり方を学ぶ。 【キーワード】 study, review	斎藤兆史	斎藤兆史 大橋理枝

科目名（メディア）＝　基礎教育学（‘０７）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：　江原　武一（立命館大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：　山崎　高哉（佛教大学教授）　〕

講義概要

日本の教育は、今、「危機」に瀕していると言われ、様々な改革が実施されている。しかし、その改革は時代や社会の変化に適切に対応するとともに、教育の本質に適ったものであろうか。

転換期にある日本の教育改革の現状を検証し、そのゆくえを探るために、グローバル化・ＩＴ化・知識社会化が進むなかで、教育の「基礎・基本」をどう捉え、子どもと家庭や学校（大学を含む）、社会などをめぐる諸問題をどう解決するべきかについて多角的に考察する。

授業の目標

「基礎教育学」の授業は、私たちの身近なところに横たわっている教育の生きた現実や具体的事例から出発して、それらが何を私たちに問いかけ、呼びかけているかを明らかにし、受講者の教育および教育学への興味・関心を喚起するように進めたい。

授業の基本的な進め方としては、講師が各テーマについて質問者との対談の形で講義するとともに、今後の研究課題を提示したい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	教育と学習	今日、教育や学習の意義が曖昧になり、その必要性すら疑われている。そこで、「教育」と「学習」という言葉の分析を通して、教育とは何か、学習とは何かについて考察するとともに、人間が人間らしく生きていくために、教育と学習が不可欠であり、「いつでも、どこでも、誰にでも、学びたい時に学べる体制」をつくることが求められていることを明らかにする。	山崎高哉（佛教大学教授）	山崎高哉（佛教大学教授）
2	発達と教育	今日、「発達」という概念に様々な批判が寄せられている。そのような批判に応えるためにも、「発達」の概念について検討を加え、それには多様な位相と意味があることを明らかにするとともに、人間の生涯にわたる発達と教育の関係のあり方を探る。	山崎高哉（佛教大学教授）	山崎高哉（佛教大学教授）
3	子ども観と教育観（1）	今日、「子どもは変わった」と嘆き、どう子どもとかかわったらよいのか、分からないという声が大きくなりつつある。どのような「子ども一大人」関係を築いていけばよいのかを考えるために、ここでは、西洋の代表的な子ども観と教育観の変遷をたどりながら、その基本的な捉え方を明らかにする。	山崎高哉（佛教大学教授）	山崎高哉（佛教大学教授）
4	子ども観と教育観（2）	今日、「子どもは変わった」と嘆き、どう子どもとかかわったらよいのか、分からないという声が大きくなりつつある。どのような「子ども一大人」関係を築いていけばよいのかを考えるために、ここでは、日本の代表的な子ども観と教育観の変遷をたどりながら、その基本的な捉え方を明らかにする。	山崎高哉（佛教大学教授）	山崎高哉（佛教大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	家庭と教育	今日、家庭と教育をめぐって様々な問題が指摘されている。家庭の教育力の低下、児童虐待、ひきこもり、アダルト・チルドレン等々、挙げ始めると切りがないほどである。このような問題を未然に防ぐためにも、子どもの豊かな人間性をはぐくむ家庭のあり方と家庭に固有の教育課題について明らかにする。	山崎高哉（佛教大学教授）	山崎高哉（佛教大学教授）
6	学校教育の社会的役割	今日、学校は厳しい状況にある。2005年の調査では、学校に満足していない保護者は27.5%（文科省）ないし43.2%（内閣府）にも達する。不登校の子どもや、不就学の外国籍の子どもなど、学校に行っていない子どもも多い。こうした状況のなか、「なぜ学校に行くのか」を問い、学校教育の社会的役割を明らかにする。	片山勝茂（東京大学大学院准教授）	片山勝茂（東京大学大学院准教授）
7	多文化社会と市民性の育成	近年の大きな社会変化の一つは、多文化社会の進展である。そして（人種間の対立を含む）多文化社会の現実への対応として、市民性の育成が改めて注目されている。主に日英の市民性教育の状況を比較しながら、多文化社会における教育のあり方を考える。	片山勝茂（東京大学大学院准教授）	片山勝茂（東京大学大学院准教授）
8	教育課程と学力観	学校の教育目標を達成するために編成されているのが、教育の全体計画としての教育課程である。そして教育課程に示された教育内容をどの程度習得しているかによって規定されるのが、学力である。学力にかかわる社会の考え方がどのように変容してきたのかを明らかにし、教育課程のあり方を探る。	深堀聰子（京都女子大学短期大学部准教授）	深堀聰子（京都女子大学短期大学部准教授）
9	教育評価の構造	教育評価は、教育実践を通して児童生徒がどのような学力を獲得したのかを明らかにする取り組みであるが、その目的や方法は一様ではない。教育評価の構造を整理したうえで、教育課程や学力についての考え方とともに教育評価のあり方がどのように変化し、いかなる今日的課題を抱えているのかを明らかにする。	深堀聰子（京都女子大学短期大学部准教授）	深堀聰子（京都女子大学短期大学部准教授）
10	宗教と学校	今日の学校教育では、基礎的な教科を中心とした認知的教育と並んで、子どもが多文化社会にふさわしい知識や考え方を学ぶ価値教育を充実することが求められている。この価値教育の意義や課題を、世界の教育現場で宗教はどのように教えられているのかを調べることを通して考える。	江原武一（立命館大学教授）	江原武一（立命館大学教授）
11	大学教育の改革	近年、大学教育の充実や各大学での個性的な教育の展開が叫ばれ、様々な改革が進められている。大学教育のあり方について、大学の機能、日本における大学教育の変遷、大学教育をめぐる評価といった観点から考える。	南部広孝（京都大学准教授）	南部広孝（京都大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	生涯学習の展開	1960年代に登場した生涯学習（生涯教育）という考え方は、今日の教育を考える重要な視点を提供している。生涯学習の理念と日本における展開をふまえて、今後生涯学習活動を進めていくうえでの課題を明らかにする。	南部広孝（京都大学准教授）	南部広孝（京都大学准教授）
13	国際化と教育	日本における国際化と教育をめぐる諸問題を、国際化のための教育（国際理解教育、外国語教育、日本語教育など）と教育システムの国際化（教育システムの標準化、海外子女教育・帰国子女教育、在日外国人教育、国際学校など）を中心に考察し、国際化時代における教育のあり方を考える。	江原武一（立命館大学教授）	江原武一（立命館大学教授）
14	転換期の教育改革	世界の多くの国ぐにでは、現在、大規模な教育改革が進められている。それは英国や米国、日本などの先進諸国だけでなく、発展途上諸国でも同時進行の形でみられる。この転換期の教育改革の背景を国際比較の観点から分析し、望ましい教育改革の方向を探る。	江原武一（立命館大学教授）	江原武一（立命館大学教授）
15	日本の教育のゆくえ	第二次世界大戦後の日本の教育改革の歩みをたどるとともに、これまでの講義の内容をふまえて、教育の基本的な捉え方、子どもと家庭や学校、社会などをめぐる諸問題を明らかにし、今後の日本の教育のあり方を展望する。	江原武一（立命館大学教授）	江原武一（立命館大学教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	共通科目（人文系）	科目コード	1110608	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 学校教育論 （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：田中　統治　（筑波大学大学院教授）〕

〔主任講師（現職名）：庄司　一子　（筑波大学大学院教授）〕

〔主任講師（現職名）：浜田　博文　（筑波大学大学院教授）〕

講義概要

わが国ではこれまでになかったほど学校教育に注目が集まっている。特に、これまで看過されてきた学校内部の問題、たとえば、カリキュラム(学習内容)、学校・学級での生活や人間関係、そして学校改革の可能性などへの関心は高い。この科目では、学校社会学、学校心理学、及び学校経営学を専門とする立場から、学校教育をその基礎から理解し、現下の問題の本質と背景、発生のメカニズムを把握した上で、今後を実践的に展望する。

授業の目標

この授業では、学校教育の「在り方」を論ずるのでなく、その「在り様」をできるだけ客観的に深く理解することを目指す。このため、学校教育の抱える問題点を切り口としながらも、それが社会現象として、他の組織・集団・関係においても共通して現れる問題であることに注目し、その原因に迫れるように工夫した。受講者がテキストを端緒として、関連する参考文献を読み進めて、学校教育に関してより深い理解に達することを目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	学校教育を考える視点	学校教育は誰もが経験しているために、その経験を相対化して考えることが難しい。そこで、学校を研究対象とする学校社会学の立場を例に取り上げながら学校教育を考えるための視点を示し、講義の概要に触れる。 【キーワード】 学校教育学、学校社会学、学校経験、社会化	田中　統治（筑波大学大学院人間総合科学研究科・教授）	田中　統治（筑波大学大学院人間総合科学研究科・教授）
2	学校の社会的機能	学校教育が全体社会にとって果たしている役割について、社会的機能の観点から解説し、この機能が過去どのように変化してきたかを跡付け、現代の学校教育が直面している課題をマクロ(巨視的)な視点から考える。 【キーワード】 社会的機能、国民教育、人材の選抜・配分、逆機能	同	同
3	学校教育の過程	学校教育をその入力ー出力系で考えてきた機能主義に代わって登場した、ミクロ(微視的)な研究の立場を解説し、「教育過程」(教師ー教育内容ー生徒の三者による相互作用)の視点が注目する問題を検討する。 【キーワード】 教育課程、相互作用、ブラック・ボックス、生活世界	同	同
4	学校文化とカリキュラム	学校文化(学校に特有の生活・行動様式)の視点から、それが生徒や教師に及ぼす人間形成(社会化)作用とその実態を考える。そして、生徒にとってカリキュラムが学校文化を学習する経験であることを明らかにする。 【キーワード】 学校文化、カリキュラム、教師文化、生徒文化	同	同

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	隠れたカリキュラム	公式のカリキュラム(教育課程)に対して、学習者が結果的に学んでいる内容(隠れたカリキュラム)に注目し、その特徴を解説する。文化伝達の機関である学校が学習者のアイデンティティまで規定するメカニズムに迫る。 【キーワード】 隠れたカリキュラム、公式のカリキュラム、学習経験、アイデンティティ	田中 統治(筑波大学大学院人間総合科学研究科・教授)	田中 統治(筑波大学大学院人間総合科学研究科・教授)
6	居場所としての学校	子どもにとって学校は居場所としての機能を果たすが、現代は特にこれが学校に通う上で重要な意味をもつ。では、居場所とは何か？子どもにとって学校は居場所になっているのか、またどのように居場所になりうるのか、その環境づくりについて考察する。 【キーワード】 居場所づくり、居場所の機能、子どもの成長・発達と居場所	庄司 一子(筑波大学大学院人間総合科学研究科・教授)	庄司 一子(筑波大学大学院人間総合科学研究科・教授)
7	学校生活とストレス	学校ストレスの研究から、学校は子どもに様々なストレスを与える場であることが明らかになっている。子どもにとって学校はどのようなストレスを感じる場であり、その結果、学校ストレスが子どもにどのような影響を及ぼすのか、その実態を考える。 【キーワード】 学校ストレッサー、ストレス反応、ストレス症状、ストレスマネジメント教育、レジリアンス教育	同	同
8	教師が生徒に与える影響	学校教育の場面で教師と生徒は多様な関係をもつ。それは彼らにどのような影響を及ぼしているのだろうか。ここでは教師による授業中の「雑談」をとりあげ、その影響を中心に考える。さらにこうした人間関係の悩みが教師に及ぼす影響についても論じる。 【キーワード】 教師の影響、児童生徒の被影響感、生徒の教師に対する信頼感	同	同
9	生徒の内面世界	現代の学校は不登校、いじめ、非行、人間関係の問題などに直面している。学校関係者がこれらに対応するとき、生徒の内面を十分理解して対応することが求められる。では、生徒はどのような悩みを抱え、援助を求めているのか、ここではそれを考える。 【キーワード】 児童生徒理解、理解の方法、児童生徒の悩み、援助の方法	同	同
10	学校での教育相談	前四回で論じてきた、子どもにとっての学校、学校生活のストレス、教師と生徒との人間関係、生徒の内面世界に関して振り返り、これらを理解した上でどのような教育相談が求められ、配慮すべき点は何かについて解説し、事例をとりあげて検討する。 【キーワード】 教育相談、学校カウンセリング、積極的教育相談、予防教育	同	同
11	現代学校の制度原理	「子どもはみんな学校へ通う」ということは、長い間、当然と見なされてきた。しかし近年、「不登校」現象など、そこに変化の兆しがみられる。ここではまず、現代の学校を成り立たせている制度上の基本原理について考える。 【キーワード】	浜田 博文(筑波大学大学院人間総合科学研究科・教授)	浜田 博文(筑波大学大学院人間総合科学研究科・教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	教員職務の特徴と「やりがい」	教員は、「子どもに教えること」を専門的に担う職業として、学校制度とともに形成され発展してきた。ここでは、学校教育の要とも言える教員職務の特徴を理解するとともに、その課題状況と「やりがい」について考えてみたい。 【キーワード】	浜田　博文 (筑波大学大学院人間総合科学研究科・教授)	浜田　博文 (筑波大学大学院人間総合科学研究科・教授)
13	教員養成の仕組みと課題	教員としての優れた専門的力量はどのような要素で構成されるのか。その養成教育では、どのような知識内容が習得されるべきか、そして、そのためにはどんな養成の仕組みが必要か。これまでの教員養成に関する諸論議から、これらの点について考える。 【キーワード】	同	同
14	「組織」としての学校とその特質	現代の学校は、一つの組織としての力をますます必要としている。学校を「組織」と見ることの意義は何か、学校という組織にはどのような「力」があるのか、学校はいったいどのような組織なのか、について考える。 【キーワード】	同	同
15	学校のマネジメントと親、地域との連携	「学校の自律性」確立を求める教育改革のもとで、学校のマネジメントのあり方がどう捉え直されているかを理解するとともに、学校と親・地域との連携のあり方について検討する。 【キーワード】	同	同

事務局記載欄	開講年度	２０１１年度	科目区分	共通科目（人文系）	科目コード	1118013	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 教育入門 （’１１）＝ （R）

－文献で読み解く教育の社会的基盤－

〔主任講師（現職名）：岩木　秀夫（日本女子大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：大淀　昇一（元東洋大学教授）〕

【本学担当専任教員：岡崎　友典（放送大学准教授）】

講義概要

教育基本法は旧法(47年法)も新法(06年法)もその第一条において教育は人格の完成をめざして行われると定義している。法に定める教育とは、人間一人一人の知・情・意が一定のまとまり、つまり人格を為すように働きかける国家の統治作用である。このまとまりの望ましいあり方は歴史的・社会的に異なるが、新旧の教育基本法がめざしてきたのは「心身ともに健康な国民(旧法、新法)」である。人間一人一人が「心身ともに健康な国民」になる過程は、学校だけでなくそれに関わる家庭、地域社会(学校の家庭・地域インフラ)や雇用労働の諸慣行・制度(学校の雇用・労働インフラ)の支えのなかで進行する。本講義では、手がかりとなる文献の購読をとおして、「心身ともに健康な国民」の形成において、学校教育の支えとなるインフラストラクチャー(社会的基盤)について考える。

授業の目標

15回の授業は各回ごとに1～2点の論文・著書を取り上げ、読書案内の形式で進める。20世紀後半の日本は急激な勢いで産業構造高度化(二次化、三次化)と都市化を遂げた。21世紀を超えた現在、その近代化の負の遺産を抱え込んだまま、市場原理、競争原理を強化して更なる超近代化に突入しようとしている。その負の遺産の克服に取り組んだ論考・実践への読書案内をし、「人格完成」の社会的基盤を考えてもらうのが授業の目標である。第1部：理論編では学校の家庭・地域インフラと雇用・労働インフラについて全体的な視点を学び、第2部：実践編では家庭・地域インフラと雇用・労働インフラの保全や構築に取り組んだ具体的な実践例に触れる。

履修上の留意点

第1部理論編、第2部実践編という構成にしましたが、極めて大事な歴史編については、各回の基本文献を解説するなかで必要に応じて補足して文献・資料の紹介をするかたちで組み込みます。そのときどきの経済社会の課題に応じて設定された教育理念・目標は、その成果・産物が次の時点の経済社会と教育にとって制約条件となります。そのような循環の一端を、15回の講義をつうじて感じ取って下さい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
		第1部　理論編		
1	学校の家庭・地域インフラの機能(1)：学びの土台を捉え直し、編み直す視点	(目標＆ポイント)学校教育が教育基本法に定められた「心身ともに健康な国民」の育成という目的を達成するためには、家庭・地域・社会保障インフラと雇用・労働・社会保障インフラの支えが前提である。この回では、岩川直樹・伊田広行編著『貧困と学力；未来への学力と日本の教育8』(岩波書店、2007年)他を手がかりに、「人格の完成」プロセスの基本メカニズムに関する理解を得、それを望ましい方向に変える視点をさぐる。 【キーワード】 教育の目的、学びの土台、アイデンティティー漸成論	岩木　秀夫	岩木　秀夫
2	学校の家庭・地域インフラの機能(2)：学力の土壌としてのコミュニティー	《目標＆ポイント》2000年初めころから児童・生徒の「学力低下論争」がおおきな社会的関心をよぶようになった。この問題の本質をたしかめるべくいくつかの「学力調査」を踏まえて、学力とはなにか、学力をそだてるにはどうすればよいかについての考察をまとめた著作が志水宏吉『学力を育てる』(岩波新書・2005年)である。本著の第5章「学力の樹」をどう育てるか―地域の役割―　を中心に学校の地域・家庭インフラとしてのコミュニティーについての考察を進めてみることにしたい。 【キーワード】 2つのコミュニティー・スクール	大淀昇一	大淀昇一

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
3	学校の家庭・地域インフラの変動(1)：地方に人がいなくなる（限界集落）	（目標＆ポイント）子どもの人格の独立性や知的発達を支える家庭・地域インフラは、近年、大きく損なわれつつある。戦後の日本はめざましい経済成長と都市化を遂げた。しかしその裏で、地方においては限界集落問題が深刻化している。限界集落問題は、単に山村の老人の生活問題、医療・福祉問題にとどまらず、環境保全、国土保全問題である。それを招いた戦後の産業・国土政策、教育政策について、松谷明彦編著『人口流動の地方再生学』（日本経済新聞社、2009年）および、大野晃『限界集落と地域再生』（京都新聞出版センター、2008年）を手がかりに考えてみる。 【キーワード】 限界集落、傾斜生産方式、三大都市、単線型学校制度	岩木秀夫	岩木秀夫
4	学校の家庭・地域インフラの変動(2)：平成の市町村大合併が校区コミュニティーを変える	《ポイント》今日われわれがなじんでいる町村は、自然村・地縁共同体が1889（明治22）年の市町村制施行直前に遂行された「明治の大合併」によって行政単位に再編成され、さらに1953（昭和28）年～1961（昭和36）年の「昭和の大合併」を経て形成されてきた。それらは1999（平成11）年～2006（平成18）年にかけての「平成の大合併」でもってもう一段変化を遂げようとしている。「明治の大合併」は全国に有償ではあるが義務制の小学校教育を展開する行政単位を設営するために、そして「昭和の大合併」は公立新制中学校の設置・維持のために行われたわけであるが、「平成の大合併」は現在いずれ計900兆円、1000兆円にも及ぶと予想されている累積債務をかかえた国と地方の財政再建を目標としている。財政の合理化をめざした市町村合併がこれまでの伝統的校区コミュニティーにいかなる影響を及ぼすか見守ってゆく必要がある。この回ではその問題を自治・分権ジャーナリストの会『この国のかたちが変わる―平成の市町村大合併―』（日本評論社、2002年）としてまとめられている現場取材記者たちの報告から読み取ってみることにしたい。 【キーワード】 平成の大合併	大淀昇一	大淀昇一
5	学校の家庭・地域インフラの変動(3)：学校五日制、生涯学習産業振興による生育環境悪化	《目標＆ポイント》 学校五日制は、内需拡大・産業構造転換を図る経済政策の流れの中で、生涯学習体系への移行政策と一体で導入されたのである。それは都市部における内需・個人消費拡大と生涯学習産業振興をベースにしながら地域の実情を無視して全国一律に実施された。過疎・過密に拍車をかけた地域教育計画とあいまって、子どもの生育環境を悪化させている実情について、教育行政学が専門である小島善孝氏の『教育改革のわすれもの―子どもにとっての学校と公共性―』（つなん出版、2006年）の「第3部子どもと地域」を中心に考察を進めることにしたい。 【キーワード】 学校週五日制、消費社会、経済同友会、生きる力、ゆとり	大淀昇一	大淀昇一
6	学校の雇用・労働インフラの“日本的”原像：新規学卒採用	《目標＆ポイント》学校教育を支える社会的基盤としては、学校を卒業してからどのような場＝職場にでてゆくのか、その職場も大きなものの一つである。この問題について考えてみると、労働・職業能力は学校教育を終えて職業につき身体化するものであり一朝一夕にできるものではない。職業選択、職場・労働移動にかかわる諸制度、慣行をここで学校の雇用・労働インフラとよぶ。日本の企業社会では新規学卒採用、長期雇用慣行、企業内教育がそうしたインフラであったが、バブル崩壊後の長期不況状況の過程で崩れつつある。その状況について学び、問題点を考える。なぜなら学校教育は常にこのような雇用・労働インフラからその意義と内容が問われているからなのである。この回では、依光正哲・石水善夫『現代雇用政策の論理』（新評論、1999年）という文献を中心にこの問題に迫ってみることにしたい。 【キーワード】 雇用の流動化、規制緩和、新規学卒者、技術・技能の蓄積	大淀　昇一	大淀　昇一

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
7	学校の雇用・労働インフラの変動（1）：フリーター、ニート発生のメカニズムとその社会問題化	（目標＆ポイント）高等教育ユニバーサル化のなかで、大学・短大卒の正社員就職率は低下した。これは平成不況に伴う新規学卒採用抑制の結果であったが、'05年～'06年には若者論の文脈でフリーター、ニート問題が論じられ、若者の人間力育成が問題解決の鍵だとする世論が形成された。その経過を、後藤和智「「言説」―「ニート」論を検証する」本田由紀・内藤朝雄・後藤和智『「ニート」って言うな！』（光文社新書、2006年）を手がかりにみる。 【キーワード】 フリーター・ニートの発生メカニズム、若者論・教育論としての世論形成	岩木　秀夫	岩木　秀夫
8	学校の雇用・労働インフラの変動（2）：新規学卒採用慣行のゆくえ	（目標＆ポイント）第7回でみたフリーター、ニート増加の一つの背景は財界団体から90年代半ば以降に相次いで提案されたような日本的雇用の改革の流れであった。対応して政府は「若者自立・挑戦プラン」を発表し、学校、大学をとおしてのキャリア教育の充実をめざし始めている。しかし、久本憲夫『正社員ルネサンス―多様な雇用から多様な正社員へ―』（中公新書、2003年）や、海老原嗣生『「若者はかわいそう」論のウソ―データで暴く「雇用不安」の正体―』（扶桑社新書、2010年）のように、日本的雇用の現実はそれほど変化しておらず、フリーター、ニートの増加はユニバーサル化時代の大卒者の非現実的な大手企業志向の結果に過ぎないという議論もある。 【キーワード】 新規学卒一括採用、エンプロイヤビリティー	岩木　秀夫	岩木　秀夫
9	学校の雇用・労働インフラの変動（3）：高卒就職指導慣行、守るべき点、改善すべき点	（目標＆ポイント）職業安定所との連携による「出口指導」は、高卒労働力を地方から組織的・安定的に工業地帯に移動させて経済成長を支えてきた（石田浩「教育と労働市場―新規学卒者の就職と職安・学校―」東京大学社会科学研究所編『20世紀システム3―経済成長Ⅱ：受容と抵抗―』（東京大学出版会、1998年）。2010年に向けて大卒者の求人状況が改善する一方、高卒者の求人状況は悪化し続けている。そのなかで、自由応募制への移行という主張も出てきているが、安田雪『働きたいのに……高校生就職難の社会的構造』（勁草書房、2003年）は、従来の慣行の守るべき点も指摘している。 【キーワード】 高卒就職指導慣行、製造業空洞化、学業レリバンス	岩木　秀夫	岩木　秀夫
10	学校の雇用・労働インフラの変動（4）：フリーター問題の人間的側面	《目標＆ポイント》非正規雇用の増加とともに25歳頃までに正社員に落ち着かなければという年齢規範も薄れる気配がある。 学校を出て就職というのは単に収入の問題だけではない。仕事を通じて人間関係がひろがり、若者は「大人」へ成長してゆくのである。そうした人間関係ネットワークが非正規雇用の広がりとともに限定的になり、そのことがまた相談出来る人間関係の希薄化をまねき、若者の晩婚化・未婚化に拍車をかけつつある状況について、若者の進路問題の専門家である堀有喜衣（編）『フリーターに滞留する若者達』（勁草書房、2007年）の　第3章ひろがらない世界―若者の相談ネットワーク・就業・意識（執筆・久木元真吾）　を中心について考え、学ぶことにしたい。 【キーワード】 若者の移行問題、フリーター、若者のソーシャル・ネットワーク、青少年育成問題、若者の自立問題	大淀　昇一	大淀　昇一

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
		第２部　実践編		
11	学校の雇用・労働インフラの再構築(1)：職場に出会い若者が変わるインターンシップ	＜目標＆ポイント＞ 2000(平成12)年に(財)日立地区産業支援センターは、地域中小企業活性化支援事業の一環として、高萩工業高校と日立工業高校の生徒を日立市、高萩市の7つの企業に受け入れてもらい、「ものづくり技術再考事業―インターンシップモデル事業」を実施した。高萩工業高校を訪問調査した安田雪は、財団報告書に書かれたプログラム内容と参加生徒の感想文を検討し、さらに担当教員にインタビューを行った。そこから、たとえ短時間ではあれ、大人と若者が共同作業をし感情を共有することは、若者にとって生産者としての大人を理解する大事な機会になっているとともに、中高年が若者を理解する機会にもなっているという洞察を引き出している。今回の講義では工業高校とものづくり企業との今日の関係状況そしてそこからひきだされた洞察について安田雪『働きたい野に・・・高校生就職難の社会構造』(勁草書房、2003年)の「第4章教育は進学を保証せず、学歴は就職を保証しない」という文献を中心に学んでみることにしたい。 【キーワード】 インターンシップ	大淀　昇一	大淀　昇一
12	学校の家庭・地域インフラの再構築(1)：教育機会の経済的基盤を守る	(目標ポイント)困窮家庭に対し学用品費、学校給食費などを援助する就学援助制度は1956年に開始されたが、2005年には国庫援助を「要保護者(生活保護受給者)」対象部分に限定し、「準要保護者(生活保護受給に準ずる程度に困窮している者)対象部分は地方交付税に移譲(一般財源化)した。その結果、自治体によっては家計の困窮化に反比例して受給率が悪化している。この章では、義務教育は無償という憲法的原則は、政府の授業料を徴収しないことが無償であるという解釈のもとで、満たされないまま放置され、また高校教育からも排除される子どもたちの状況を、岩川直樹・伊田広行編『貧困と学力(未来への学力と日本の教育⑧)』(岩波書店、2007年)の第1章奪われる教育の機会・排除される子どもたち という文献を中心にケースワーカー、小・中・高の学校事務職員、私立学校教職員組合員たちの目をとうして窺い、教育機会の経済的基盤の実情について学び考察することにしたい。 【キーワード】 私学助成、生活保護世帯、就学援助制度、高校・大学の無償化、	大淀　昇一	大淀　昇一
13	学校の雇用・労働インフラの再構築(2)：地域再生と学業レリバンス(勉強の意味)の回復	(目標＆ポイント)学卒者の雇用・労働インフラの保全には、学校での学業と職場での職能形成の連関(学業レリバンス)の回復が鍵である。この学業レリバンスは社会的に構築される暗黙の信頼であり、その回復は、経済・産業計画と教育計画の連携に懸かっている。21世紀に入って経済産業省から新産業創造戦略や新成長戦略が出され、文科省若手官僚集団から長期の政策提案が出されているが、とりわけ高卒者の雇用・労働インフラとして重要な地域経済活性化と教育の関連は未検討である。他方で、若者の農山村ボランティアや青年帰農は小規模ではあるが着実に増えつつある。農文協の雑誌『現代農業』他の文献をもとに考えてみる。 【キーワード】 地域産業活性化、帰農、農山村ボランティア	岩木　秀夫	岩木　秀夫
14	学校の家庭・地域インフラの再構築(2)：地域の活性化への学校の貢献	(目標＆ポイント)中央政府レベルでは、国際競争力強化(資源生産性分野)と地方活性化を柱とする構想が打ち出されているが、地方の疲弊を視野に入れた経済・産業政策と教育政策のすり合わせは緒についていない。しかし、地方レベルでは、子ども農村漁村交流プロジェクトや、コミュニティースクール制度などが農山漁村の活性化につながる兆候が出始めている。そのことを、金子郁容『日本で「一番いい」学校―地域連携のイノベーション―』(岩波書店、2009年)や、佐藤真弓『都市農村交流と学校教育』(農林統計出版、2010年)を通して学ぶことにする。 【キーワード】 コミュニティースクール、子ども農山漁村交流プロジェクト	岩木　秀夫	岩木　秀夫

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
15	学校の地域・労働インフラの再構築：フラッシュ・バック、「生産学校」	（目標＆ポイント）前回は、地方活性化と教育の関わりが中央政府レベルでは未検討だが、地方レベルでは現実が動き始めていることをみた。この回では、新制中学校が発足時から高度経済成長開始直前の時期までの5，6年の短期間ではあったが、「職業・家庭科」を舞台にして地域の農林漁業の振興・近代化への関わりを様々なかたちで真剣に模索していた史実を、清原道寿『昭和技術教育史』（農文協、1998年）をもとに振り返る。今後の高等学校や地域高等教育と農山漁村の活性化との関わりを考えるヒントをさぐってみる。 【キーワード】 職業・家庭科、生産教育論、生産主義教育論、全村学校的生産教育論	岩木　秀夫	岩木　秀夫

事務局記載欄	開講年度	２０１１年度	科目区分	共通科目（人文系）	科目コード	1117912	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 教育と社会 （’１１）＝ （ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：岩永　雅也（放送大学教授）〕

講義概要

人は生まれながらにして人間であるわけではない。家族という基礎的な小集団の中に生まれ、親密な人間関係を通じて自我の基礎を形成し、やがて一般化された人間関係が縦横に展開する社会集団との接触を通してその社会の文化と規範を内面化して身に付けることにより、一個の自律的な人間となるのである。その意味で人間はすぐれて社会的な存在であるといえる。本講義は、人々が生まれ、育ち、学び、働き、家庭を作り、さらに自らの子ども達を育て、自己を実現していくというプロセスを縦糸とし、人々がそのプロセスの各段階で関わっていくさまざまな教育の在りようを横糸として、社会的な営みとしての教育の意味と本質を理解していくことを目的としている。あわせて最近の教育状況とそれを巡る環境の変化および今後の課題や展望についても検討する。

授業の目標

今日ほど子どもの教育に社会的関心が集まったことはかつてなかったといえるかもしれない。それほど現代の教育は、数多くの問題に直面しているといえる。この科目は、先行する『教育社会学（’07）』の内容にさらに多くの社会的視点を加え、現代的教育課題の理解と検討に多くの時間を割いて構成されるものである。教員、教育管理者などの教育関係者だけでなく、子どもを育てている（育てた）母親、父親、日本の教育のありかたに強い関心を持つ人たち、企業内教育に関わる人たち等にも履修を勧めたい。

履修上の留意点

本講義は、教育学に関わる専門科目である。そのため、教育学関連の基礎的な関連科目、例えば、『こころとからだ（’07）』『生涯学習と自己実現（’07）』『教育と心理の巨人たち（’10）』『教育の社会史（’08）』『学校教育論（’08）』『基礎教育学（’07）』『大学と社会（’08）』といった諸科目を履修している、もしくは併せて履修することが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	教育と社会の関わり	教育は、何か特別な聖なる営みではなく、生産活動や商取引、余暇活動、（極論すれば犯罪行為など）とも同様の、数ある人間の社会的行為の中の一つである。したがって、そこには、行為の主体と客体、目的、手段、機能、そして社会的影響などのファクターを見出すことができる。教育を社会の中で理解するということは、そうしたファクターを合理的かつ客観的に見出していくことにほかならない。講義の最初にあたって、教育という営為を社会事象として捉えていくことの本質を見ていく。 【キーワード】 教育　社会　教育の社会学　実証主義　行為の意味	岩永雅也（放送大学教授）	岩永雅也
2	社会の実証的な見方	教育を社会事象として、つまり社会の側面から実証的に把握するためには、恣意的、感覚的でない、客観的な視点と方法が必要とされる。社会学、経済学、政治学、そして場合によっては心理学の枠組みと方法が、その把握の手助けとなる。とりわけ、19世紀に生まれた新しい学問体系である社会学は、教育の社会的把握に最も重要な視座と方法を提供している。ここでは、その社会学を中心に、教育を社会事象として理解するにあたっての実証的方法論を学ぶ。 【キーワード】 社会事象　社会学　パラダイム　質的調査　量的調査　意味解釈　データ解析	岩永雅也	岩永雅也
3	人間形成の始点	ヒトは、生まれながらに人間であるわけではない。生物としてのヒトは、集団の中で社会化されることによって初めて社会的存在としての人間となる。誕生後の人間としての歩みの始点を、社会化という観点から検討していく。 【キーワード】 ヒト　タブラ・ラサ　社会化　自己同一化　模倣	岩永雅也	岩永雅也

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	家族と社会化	家族は、最も基本的な社会化のための集団である。ここでは、家族の本質とその成り立ちを理解した上で、そこにおける社会化のあり方の基本的な形について詳細に見ていく。 【キーワード】 家族　生殖家族　定位家族　重要な他者　IとMe	岩永雅也	岩永雅也
5	子ども集団	幼児期を迎えた子どもは、家族以外の他者と関わる機会を日常的に持つようになる。その最初は“ピア”である。子どもがピアとともにどのように行動し、どのような社会化を体験し、どう発達していくのか、集団の中での自我形成という視点から詳細に検討する。 【キーワード】 ピア　公園デビュー　一般化された他者　内的葛藤　内的コミュニケーション　幼稚園　保育所	岩永雅也	岩永雅也
6	学校との出会い	近代社会における子どもは、学齢に達すると、ほぼ例外なく学校、特に初等教育の学校というシステムの中に入っていく。学校教育との初めての出会いが子どもたちにとって、また社会にとってどのような意味を持つものであるのか、小学校教育を中心に、集団と規範という観点からつぶさに検討する。 【キーワード】 学校　規範　学級文化　隠れたカリキュラム　学校適応　小学校	岩永雅也	岩永雅也
7	中等教育という分岐点	初等教育に続く中等教育は、社会化機能の上からも、発達段階においても、また社会的階層分化という点から考えても、あらゆる意味で「分岐点」というに相応しい存在である。ここではその構造と機能を体系的に考察する。 【キーワード】 中等教育　中一ギャップ　発達段階　社会階層　分岐点	岩永雅也	岩永雅也
8	現代の高等教育	初等・中等の学校システムとは異なる背景のもと、職業的専門性との関わりの中で形成されてきた高等教育は、現在著しい大衆化の圧力にさらされている。そのことが高等教育機関を多様なものにし、また大学改革を促進する大きな要因ともなっている。ここでは、現代における大学大衆化とそれをうけた大学改革、および大学の現状について考える。 【キーワード】 大学　大衆化　大学行政　大衆化　大綱化　アドミッション　大学全入時代	岩永雅也	岩永雅也
9	教育臨床の社会学	現代の学校システムには、さまざまな形の逸脱状況が見られる。その中には、制度そのものに要因を持つ構造的な逸脱も、特殊な状況の下での特殊時代的な逸脱もある。それを類型的に整理しつつ、今日の教育的病理現象を考える。 【キーワード】 逸脱　非行　ニート　いじめ　不登校　学級崩壊　規範意識の薄弱化　自殺	岩永雅也	岩永雅也
10	教師とその養成	現代の教育に関する主要なテーマの一つとして教師の問題がある。教師の専門性、社会的位置づけ、その機能、そして教員養成の今日的な課題等、教師に関わる問題を広範に見ていく。 【キーワード】 教師　学級王国　教育指導要領　評価　管理体制　教員養成　教員免許制度	岩永雅也	岩永雅也

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	教育と政治	1980年代中葉以来、教育の問題は非常に強く政治状況と関わるようになった。戦後民主主義から新自由主義、そしてその見直しといった政治状況の変化の中で、教育はどのようなものと考えられ、どのように扱われてきたのか、教育と政治の問題について考察する。 【キーワード】 四六答申　臨時教育審議会　教育改革　教育基本法改正　ゆとりの教育　新指導要領	岩永雅也	岩永雅也
12	教育と社会階層	近代社会におけるフォーマルな学校教育は、雇用市場への人材の提供を主要な機能の一つにしてきた。それは、親のさまざまな社会階層に出自を持つこどもたちを、教育的価値によって選別し、再び職業階層のヒエラルキーの中に位置づけていく営為でもある。学校システムの成立以来絶えることなく続けられてきたその営為の社会的意味と近年の変質について検討する。 【キーワード】 社会階層　職業　階層間移動　ジニ係数　不平等　経済格差　階層の固定化	岩永雅也	岩永雅也
13	教育とメディア	現代社会を解く鍵の一つが広義のメディアである。教育という領域もその例外ではない。メディアと学校教育は現在どのように関わっているのか、それが現代の教育のあり方にどのような影響を与えているのか、また、今後その関係はどう変化していくのか、といった点について、特にマスメディア、インターネット、ゲーム、携帯等に焦点を当て、実証的に論じていく。 【キーワード】メディア　マスメディア　放送　コミュニケーション　ICT　インターネット　ゲーム脳	岩永雅也	岩永雅也
14	生涯学習の現状	学習社会は、あらゆる学習機会を統合し、有機的に結合することによって実現することができるとされている。現在の日本は、どのような生涯学習状況にあるのかを理解し、理念としての学習社会はどのように実現可能なのか、そこに至るまでにはどのような問題点を解決し、課題を克服していく必要があるのかといった点についても、総体的な視点から展望する。 【キーワード】 生涯学習　余暇　学習社会　リカレント教育　社会教育　成人学習者　カルチャービジネス　資格	岩永雅也	岩永雅也
15	現代社会と教育課題	今日の学校および教育そのものが直面する具体的な問題を実態に即して取り上げながら、その背景と解決への糸口を探る。あわせて今後わが国の教育がどのように展開していくのか、その近未来像を展望する。 【キーワード】 教育問題　グローバリゼーション　学力格差　未来への展望	岩永雅也	岩永雅也

＝　心理学入門（‘０６）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：　星　　薫　　（放送大学准教授）　　〕
〔主任講師（現職名）：　山口　勧　　（東京大学大学院教授）　　〕
〔主任講師（現職名）：　青木　紀久代（お茶の水女子大学大学院准教授）〕

全体のねらい

この授業は、初めて心理学に触れようとしている人を対象とする。心理学が人の心をどのように把握しようとしているのか、またどのような方法で、人の心に接近しようとしているのかについて、できるだけ身近で日常的な例を挙げながら紹介していく。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	心理学者が考えてきたこと	現代の心理学は、「科学」であることを標榜している。「科学的」であるためには、中立的であること、客観的であることが、心理学者には求められている。これを実現するために、具体的にどのように、そしてどのような対象に対して、研究が行われているのか紹介する。	星　薫（放送大学准教授）	星　薫（放送大学准教授） 山口　勧（東京大学大学院教授） 青木紀久代（お茶の水女子大学大学院准教授）
2	生物としてのヒト	心は単独で存在するわけではなく、必ず体と共にある。心と体との関係について考える。また、人間行動についての進化論的分析についても、考えよう。さらに、今日急速に進展してきている脳科学の知見を、人の心や行動に対応付けることの難しさについても、考えてみたい。	同上	星　薫（放送大学准教授）
3	社会の中の人	社会の中で人は他の人や集団の行動を理解するように努めている。また、他者や集団に働きかけたり他者から影響を受けたりしながら生活を営んでいる。このように社会的な存在としての人がどのように環境を理解し、その中で行動しているかについて考えることにする。	山口　勧（東京大学大学院教授）	山口　勧（東京大学大学院教授）
4	大きくなること、老いること	人の一生には多くの変化が伴う。こうした発達的変化は、連続的なものと考えるべきなのだろうか、それとも、不連続なものだろうか。また、人のこうした変化には、体の成長、おかれた環境の影響はどのくらいあるのだろうかといった、発達心理学の基本的な問いについて考える。	星　薫（放送大学准教授）	星　薫（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	目で見る、脳で見る	人は、自分の安全の確保や生命の保持のために、感覚器官を通じて常に、自分の周囲にある物や人に対して、「それは何?」、「それはどこ?」、さらに「それは安全?」、「それは何かの役に立つ?」などのことを確認し続けている。こうした、知覚の働きの特徴について考える。	星　薫(放送大学准教授)	星　薫(放送大学准教授)
6	憶える・忘れる	記憶というのは、何でも放り込んでしまえる一つの大きな「袋」なのではなく、いろいろな種類からなる、複数の働きの集合であると、心理学では考えている。だから、忘れるといってもその様態は一通りではない。記憶の働きについて、心理学の考え方を紹介する。	同上	同上
7	学ぶ・習う	動物が芸を覚えるときには、「ご褒美」が必要である。動物の条件付け研究から出発した学習の考え方は、心理学の中では大きな位置を占めている。だが人間が勉強をしたり、新しい技能を身につけるときにも、同じように「ご褒美」が有効かといえば、そうでもない。人の学習の特徴についても考える。	同上	同上
8	考える	私たちは、与えられた問題の答えを見つけようとして考えたり(問題解決的思考)、今ある情報から、今は分かっていない何かを推理しようとしたり(推論)して、考える。また、考えるとき、私たちは概念を利用する。私たちが持つ概念とは、どのようなものなのか、どうやって形成されるかについても、考える。	同上	同上
9	知能と頭の良さ	ビネによって、世界で初めて知能テストが考案されて以来、知能テストが辿ってきた歴史を紹介する。また、「頭の良さ」と知能テスト得点とが、同じものなのかどうか、さらに知能テストで測定される要素以外に指摘されている「頭の良さ」の要素についても紹介する。	同上	同上
10	感情	感情は、いったい何種類に分類できるのだろうか。また、身体的変化とどう関係しているのだろうか。感情は、人の認知にどう影響するのだろうか。人は感情をどう表現し、人の感情表現をどう解釈しているのだろうか。さらに、攻撃性という感情の特徴についても考えてみたい。	同上	同上
11	人それぞれ	人の個性は、それぞれ独自のものでありながら、同時に他者と共通するところも多い。その人らしさをどのように説明すればよいか。特性か?タイプか?それを測るにはどうしたらよいか。さらに、パーソナリティはどのようにして形成されるのか?などについて考える。	青木紀久代(お茶の水女子大学大学院准教授)	青木紀久代(お茶の水女子大学大学院准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	希望と悩み	人は、希望を持つことで、未来に向かって前向きに生きることができ、またつらい体験も克服していくことができる。一方で、どんな人にも心の中に葛藤や悩みが生じる。これらの心の成り立ちや機能について、身近な例を取り上げながら考える。	青木紀久代(お茶の水女子大学大学院准教授)	青木紀久代(お茶の水女子大学大学院准教授)
13	心の不調	身体の健康と同じように、心の不調は誰にでも起こりうる。一生の間に起こりがちな心の不調には、どのようなものがあるかを整理する。そして、これらが生じる心のメカニズムを考え、心の状態を知るための方法について紹介する。	同上	同上
14	心理臨床的援助	人の心の健康と育ちを援助する場と方法は、多種多様な展開を見せている。ここでは、心理臨床的援助心理療法)の歴史、代表的な学派を解説しながら、その共通原理を考える。また様々な援助の場とその実際について、具体的な事例を紹介する。	同上	同上
15	文化と人	文化によって人の心の働きや行動は大きく異なると考えられているが、同時に多くの点で文化を超えた共通性も存在する。日本人は本当に異質なのだろうか。ここでは、文化的な視点から、西洋とアジアの違い、さらには日本人の心について考えてみる。	山口 勧(東京大学大学院教授)	山口 勧(東京大学大学院教授)

事務局記載欄	開講年度	２０１１年度	科目区分	共通科目（人文系）	科目ｺｰﾄﾞ	1118110	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　発達心理学概論　　（’１１）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：氏家達夫（名古屋大学大学院教授）〕

〔主任講師（現職名）：陳　省仁（北海道大学名誉教授）〕

【本学担当専任教員：星　薫（放送大学准教授）】

講義概要

日本の発達心理学は、欧米で生まれた理論や方法を取り入れることからはじまった。しかし、さまざまな分野における発達心理学の貢献の可能性を考えるとき、単なる輸入学問ではなく、日本の発達心理学を構築していく必要がある。そのために、文化や歴史的背景を常に考慮しながら、主要な理論や方法論、研究領域の研究成果を概説する。日本の発達心理学の現状や新たな展開、実践への応用を展望する。その際、発達心理学の研究領域をできるだけ幅広くカバーするだけでなく、関連領域についても取り上げる。

授業の目標

本科目は、受講者が、発達心理学の主要な基礎理論や方法論、主要な知見や応用例についての知識を習得し、人間発達についての理解を深めることを目的とする。

履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	発達の理論	発達について、いろいろな理論が提唱されてきた。理論は、発達研究や発達実践をどのように行うかという問題と密接に関連している。主要な古典的発達理論と最近の理論的展開について紹介するとともに理論と実践との関係について解説する。 【キーワード】 古典的理論、ダイナミック・システムズ理論、実践、臨床	陳　省仁（北海道大学・名誉教授）	陳　省仁（北海道大学・名誉教授）
2	発達の基礎：発達と遺伝、脳、進化	人間発達の生物学的基盤について解説する。最近の行動遺伝学や脳科学、進化心理学や比較行動学の研究成果を紹介し、遺伝や脳、進化という視点から人間の発達を解説する。 【キーワード】 行動遺伝学、脳、進化論、比較行動学	氏家達夫（名古屋大学大学院・教授）	氏家達夫（名古屋大学大学院・教授）
3	発達の基礎：文化、社会的相互交渉と発達	発達は、文化や社会的文脈で起こる。乳幼児期の行動と意識の発達や共同注視の発達を題材に、発達の社会的基盤について解説する。また、比較文化研究を紹介し、発達の文化的基盤について解説する。 【キーワード】 文化の中の発達、相互交渉と心の発達、乳幼児期の行動と意識の発達、共同注視	陳　省仁（北海道大学・名誉教授）	陳　省仁（北海道大学・名誉教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	論理的思考の発達	人が年齢とともに，どのように思考の様式を変化させていくのかについて具体的に考える。ピアジェの発達理論などをもとに，発達段階と段階間の質的変化のメカニズム，発達の領域固有性と一般性，認知発達をとらえる方法論などについて考察する。 【キーワード】 発達段階，論理操作，質的変化，均衡化，領域一般性と固有性，臨床的面接法，マイクロジェネティックアプローチ	藤村宣之（東京大学大学院・准教授）	藤村宣之（東京大学大学院・准教授）
5	ことばと概念の発達	他者とのコミュニケーションを通じて，人がどのように，ことばを獲得し，思考の道具としての概念を身につけていくかについて考える。ヴィゴツキーの発達理論をもとに，他者との相互作用を通じた，また文化や社会との関わりでの発達の様相について考察する。 【キーワード】 外言と内言，一次的ことばと二次的ことば，生活的概念と科学的概念，素朴概念，素朴理論，概念変化，社会的相互作用，臨界期仮説	藤村宣之（東京大学大学院・准教授）	藤村宣之（東京大学大学院・准教授）
6	教育と発達	発達に対して学校教育が果たす役割について考える。ブルーナーやヴィゴツキーの発達理論をもとに，教育による発達の促進可能性，学校教育と個人の発達の関わり，現在の学校教育の問題と発達的アプローチによる解決の可能性などについて考察する。 【キーワード】 最近接発達領域，レディネス，学校教育，カリキュラム，日常的認知，路上算数，9歳の壁，学力，学習観	藤村宣之（東京大学大学院・准教授）	藤村宣之（東京大学大学院・准教授）
7	対人関係の発達	人は、対人関係の中で誕生し成長する。養育者－子関係の成立過程やアタッチメントの発達、仲間関係の発達を中心に、人が対人関係をどのように発達させるのか、そして対人関係の中で人がどのように発達するのか、解説する。 【キーワード】 養育者、アタッチメント、仲間関係、親密性	氏家達夫（名古屋大学大学院・教授）	氏家達夫（名古屋大学大学院・教授）
8	社会的認知の発達	人の社会行動の発達は、他者の行動や自分自身の行動についての知識や情報処理プロセスの発達として理解することができる。社会情報処理モデルや社会－認知的領域理論などを題材に、人の社会行動の認知的基盤について解説する。 【キーワード】 社会的情報処理、社会－認知的領域理論、道徳的判断、権威概念	二宮克美（愛知学院大学大学院・教授）	二宮克美（愛知学院大学大学院・教授）
9	社会行動の発達	思いやり行動や攻撃行動を題材に、社会行動の発達を概観する。思いやり行動や攻撃行動の発達を、共感性や同情、罪悪感などと関連づけて解説する。 【キーワード】 思いやり、共感性、同情、視点取得、攻撃性、罪悪感	二宮克美（愛知学院大学大学院・教授）	二宮克美（愛知学院大学大学院・教授）
10	個性の発達	人の個性はさまざまな側面で表わされる。この章では、個性の発達をアイデンティティやキャラクター、パーソナリティの側面から考える。また、知性や品性と関連づけて個性を捉える見方を紹介する。 【キーワード】 アイデンティティ、キャラクター、知性・品性・個性、パーソナリティ	二宮克美（愛知学院大学大学院・教授）	二宮克美（愛知学院大学大学院・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	養育性の発達	人は養育性を発達させる。養育性は、文化によって異なるし、歴史的にも変化してきた。この章では、養育性を比較文化の文脈で考えると同時に、その発達を複数の世代間で行われる具体的な養育行動や価値の伝達として考える。 【キーワード】 ニッチ、養育性、発達観、育児行動	陳　省仁（北海道大学・名誉教授）	陳　省仁（北海道大学・名誉教授）
12	発達としてのエイジング	加齢は、個人や個人と周囲の環境との関係にさまざまな変化をもたらす。そのような変化の様相を概観し、加齢を発達と捉える理論的枠組みを紹介する。老化の生物学的モデルやサクセスフル・エイジングについてもふれる。 【キーワード】 生涯発達、認知、ネットワーク、生物学的モデル、サクセスフル・エイジング	氏家達夫（名古屋大学大学院・教授）	氏家達夫（名古屋大学大学院・教授）
13	発達の病理とレジリエンス	問題行動の発達プロセスにおいて、リスクとレジリエンス、防御要因を取り込んだモデルが提案されている。疫学的研究や縦断研究の研究成果や発達臨床についての最近の考え方を紹介する。 【キーワード】 リスク、レジリエンス、発達障害、問題行動、発達臨床	氏家達夫（名古屋大学大学院・教授）	氏家達夫（名古屋大学大学院・教授）
14	発達概念の再検討	日本の発達心理学は輸入学問である。多くの概念や方法は、それらが生まれた歴史的文化的背景において理解される必要がある。この章では、輸入学問をベースにしながらも、日本の発達心理学を作るためにどうすればよいのか考える。 【キーワード】 発達心理学史、輸入学問、理論とデータ、方法論	陳　省仁（北海道大学・名誉教授）	陳　省仁（北海道大学・名誉教授）
15	発達心理学を学ぶ意義	この科目のまとめとして、発達心理学を学ぶ意義について考える。発達の理論や基礎研究の成果が、研究や教育実践、発達臨床とどのように関連づけられるのかについて議論する。 【キーワード】 レリバンス、応用可能性、研究、実践、臨床	氏家達夫（名古屋大学大学院・教授）	氏家達夫（名古屋大学大学院・教授）

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	共通科目（人文系）	科目ｺｰﾄﾞ	1111906	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）　＝　教育心理学概論　（’０９）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：太田　信夫（学習院大学教授）　〕

講義概要

教育心理学は、4領域より成り立っている。発達、学習、集団・適応、評価である。本講義では、すべての領域を満遍なく取り上げ、いろいろな角度から、いろいろな問題に言及する。ここでは、教育を狭い意味の学校教育だけに留まらず、家庭教育も成人・高齢者に対する教育も考慮の範囲に収めて、講義を進める。また、現代の教育におけるさまざまな問題も視野にいれた講義をする。このように、本講義では、広い視野から、現代に生きる子どもから大人までの教育に関して、心理学の観点から考察を進める。

授業の目標

本授業を通して、心理学の用語や理論などの知識を習得すると同時に、心理学的な考え方を身につけることを目標とする。さらに、教育心理学の研究法についても、若干の学習をするので、講義中に興味が湧いた問題には、講義が終了しても、自ら研究をする意欲が湧くような態度の形成が望まれる。

履修上の留意点

「心理学入門（’06）」の科目を学習することが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	教育心理学概観	教育心理学とはどのような学問か、ということについて概観する。最初に教育心理学の目的と内容について述べ、次に教育心理学の誕生から今日までの歴史について触れる。そして、教育心理学の理論と研究法について、概略、説明する。 【キーワード】 教育心理学の内容、教育心理学史、行動主義、認知主義、心理学研究法	太田信夫（学習院大学教授）	太田信夫（学習院大学教授）
2	発達の諸相	生涯発達をふまえて基盤となる発達理論を紹介する。人格形成、思考、道徳性の発達について古典的な研究から最新のものまで多様な理論を紹介する。発達を概観することによって「人間」のユニークな諸相を考察する。 【キーワード】 愛着、ライフサイクル、思考、道徳性	渡辺弥生（法政大学教授）	渡辺弥生（法政大学教授）
3	自己理解の発達	「自己」についての意識をいつからもつのか、また自己の概念がどのように変化し、他者理解と関連していくのかについて概観する。さらに、自己意識に伴う意識としてジェンダーが考えられ、教育や環境による影響について講義する。 【キーワード】 自己意識、自尊心、心の理論、セルフ・コントロール、ジェンダー	渡辺弥生（法政大学教授）	渡辺弥生（法政大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	対人関係の発達と教育	対人関係の発達のメカニズムを理解するとともに、教育的な介入の効果を明らかにすることによって、健全な対人関係を形成することが可能となる。親子関係、仲間関係を築き維持するうえで重要なものはなにかに言及し、不適応の予防に有効な新しい教育実践を紹介する 【キーワード】 しつけ、心理的離乳、社会的視点調整能力、ソーシャルスキル	渡辺弥生（法政大学教授）	渡辺弥生（法政大学教授）
5	学習の基礎	内容：まず初めに，学習の基礎となっているオペラント条件づけについて取り上げる。その中でも，報酬と罰がどのように人間の行動に影響を及ぼすのか理解する。罰（特に体罰）によって子どもの行動を変えるより，報酬をうまく利用することを学んでもらいたい。大人は多くのことを子どもに観察学習されていることにも留意したい。 【キーワード】 学習，オペラント条件づけ，強化，消去，連続強化，部分強化，強化子，報酬，罰，観察学習	藤田哲也（法政大学教授）	藤田哲也（法政大学教授）
6	学習意欲	いわゆる「やる気」のメカニズムについて理解する。他者から与えられる報酬や罰によって行動が生起する外発的動機づけではなく，知的好奇心など，内側から起こる内発的動機づけの方が一般的には望ましい。ただし，初めから内発的動機づけが強い学習者ばかりではないので，動機づけを高め，維持できるための働きかけ方についても知っておく必要がある。 【キーワード】 外発的動機づけ，内発的動機づけ，二要因モデル，達成動機づけ，自己効力感，原因帰属，言葉がけ	藤田哲也（法政大学教授）	藤田哲也（法政大学教授）
7	学習の進め方	効率よく学習を進めるために，知識や技能の獲得に関わる記憶の理論について概説する。記憶は一枚岩ではなく，現象や特徴によって様々に分類され，記憶の種類によって効果的な獲得法が異なることを知る。この回では主に，知識を獲得するために有効な「方略」を紹介していく。 【キーワード】 短期記憶，作動記憶，長期記憶，手続記憶，意味記憶，エピソード記憶，リハーサル，精緻化，体制化	藤田哲也（法政大学教授）	藤田哲也（法政大学教授）
8	授業の方法	7回目の授業で取り上げた「方略」を使いこなすという観点から，教材研究と授業の方法との関連について説明する。低学年の子どもは，大人と同じように方略を使えるというわけではないので注意が必要である。学習者自身が自分の学習を振り返るという点で，メタ認知の促進が重要となる。コンピュータなどのITツールを本質的に活用するための視点も獲得してもらいたい。 【キーワード】 学習方略，リハーサル方略，精緻化方略，メタ認知，モニタリング，振り返り，e-ラーニング	藤田哲也（法政大学教授）	藤田哲也（法政大学教授）
9	学級集団	子どもは学校生活の大部分を過ごす学級で，仲間関係，対教師関係，そしてその他の外部環境からの影響を強く受ける。そこで，仲間関係の発達的特徴と測定方法，対教師関係の諸相，教師のリーダーシップ，教師のもつ期待の効果，ならびにインターネットなどの環境的影響を解説する。 【キーワード】 学級集団，ソシオ・メトリー，教師のリーダーシップ，教師期待効果（ピグマリオン効果），放課後	杉森伸吉（東京学芸大学准教授）	杉森伸吉（東京学芸大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	不適応児の理解 －いじめ、不登校と発達障害－	いじめのタイプは集団型から個人型へと変容してきていることに呼応して，不登校も増加してきた。そのため，いじめと不登校の関係についても検討する。国際的に見ても，集団型のいじめは日本で特徴的に見られる攻撃行動であるが，いじめへの対処方法も集団を中心に考えることになる。また，学習困難児や発達障害児がいじめの対象になることも多いが，ここではいじめとの関連については触れず，学習困難児，発達障害児に関する基礎的な理解を目的とする。 【キーワード】 いじめ、不登校、養育態度、適応、ストレス、ソーシャルサポート	杉森伸吉（東京学芸大学准教授）	杉森伸吉（東京学芸大学准教授）
11	体験活動、教師のストレスと心理療法	体験活動の重要性はつとに指摘されているが，具体的なデータをいくつか示す。また，体験活動は教師の多忙さを高める一つの要因でもあるので，教師の生活とストレスについて解説する。それとともに，教員になる前の教員希望段階や教員になった後の職能発達にもふれる。また，ストレスなどへの対応と関連して，代表的なカウンセリングの考え方を含む心理療法についても紹介する。 【キーワード】 体験活動，体験学習，教師のストレス，カウンセリング，心理療法	杉森伸吉（東京学芸大学准教授）	杉森伸吉（東京学芸大学准教授）
12	知能	知能の定義や考え方の移り変わりを紹介し，知能という概念あるいは考え方に対する理論的な位置づけを知ってもらう。そして，知能をとらえるための知能検査について，その考え方や方法を解説する。さらに，知能は学力や適性などとどのように異なるかについて理解を深める。 【キーワード】 知能，スタンバーグの三頭理論，ガードナーの多重知能理論，知能検査，知能指数，知能偏差値	岸学（東京学芸大学教授）	岸学（東京学芸大学教授）
13	学力	教育活動で常に話題になる学力について理解を深めていく。学力とは何かを定義づけ，それをとらえるにはどのような考え方でどのような方法があるかを紹介する。また，いろいろな学力の考え方が出てきているがそれらが何でどのような背景があるのかも解説していく。 【キーワード】 学力，基礎学力，学力不振，教育目標分類，学力評価	岸学（東京学芸大学教授）	岸学（東京学芸大学教授）
14	評価と測定	教育評価や教育測定にはいろいろな考え方や方法がある。本章では教育活動の中で測定と評価をどのような流れで行っていくのか，評価や測定にはどのような特徴があるかについて理解を深めていく。そして，適切な評価，適切な測定とはどのようにすればよいのかを解説していく。 【キーワード】 教育評価，教育測定，アセスメント，相対評価，絶対評価，ルーブリック，妥当性，信頼性	岸学（東京学芸大学教授）	岸学（東京学芸大学教授）
15	学習指導とその実践	まず，学習指導をどのようにとらえたらよいかを明らかにし，伝統的な学習指導の考え方から学習指導の理論的基盤，そして新しい学習指導までを解説していく。次に，学習指導の際に考慮する必要がある要因として，児童・生徒の個性や個人差対応した指導のあり方を，学習スタイルと適性処遇交互作用(ATI)を中心に紹介する。 【キーワード】 学習指導，有意味受容学習，発見学習，問題解決，協同学習，学習スタイル，適性処遇交互作用(ATI)	岸学（東京学芸大学教授）	岸学（東京学芸大学教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	共通科目（人文系）	科目ｺｰﾄﾞ	1110705	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　社会心理学の基礎と応用　　（’０８）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：村田　光二（一橋大学　教授）　　〕
〔主任講師（現職名）：坂元　章　（お茶の水女子大学　教授）　〕
〔主任講師（現職名）：小口　孝司（立教大学　教授）　　〕

講義概要

現代の社会心理学は、多くの領域で社会認知的視点を採用していること、他の研究分野との連携を推進していること、そして経済行動や政治行動など幅広い分野に応用が広がっていることに特徴がある。こういった社会心理学の全体像を初学者がよく理解できるように簡潔にまとめ、基本的な考え方と研究事例をわかりやすく紹介したい。そのために、前半では社会心理学の基礎を社会的認知を中心に紹介し、後半では社会心理学の代表的な応用研究を紹介する。

授業の目標

全15回の講義を通じて、社会心理学の基本的考え方と研究領域を理解してもらい、それが現代のさまざまな社会的現象の理解や社会問題の解決のために役立つ可能性を知ってもらうことがこの授業の目標である。また、社会心理学研究のおもしろさや楽しさを知ってもらい、心理過程にも焦点を当てながら社会的出来事の分析や解明をする方法を知ってもらうことも目標である。以上を通じて、受講者が自己理解を深めることにもつながるだろう。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	社会心理学への招待	現代の社会心理学について、その歴史的背景、中心となる社会認知的視点、実験や調査などの実証的方法論についてわかりやすく紹介する。そして、さまざまな分野に応用されていることを話し、この講義のねらいと構成について説明する。 【キーワード】 社会心理学、社会認知的視点、実験や調査、基礎と応用	村田光二（一橋大学　教授）	村田光二（一橋大学　教授）
2	社会的自己	自分自身によって捉えられた自分を自己という。自己を意識して捉えるためには他者が不可欠であり、自己は社会的文脈の中で明確になる。ここでは、自己定義に応じて社会的行動や認知が異なることについて、研究例を挙げながら解説する。 【キーワード】 社会的自己、自己と他者、社会的文脈、自己スキーマ	村田光二（一橋大学　教授）	村田光二（一橋大学　教授）
3	社会的認知	社会的場面で遭遇するさまざまな他者や他者が生む出す出来事を、私たちはどのように認知するのだろうか。ここでは、対人認知を中心に他者に関する情報処理の過程とその帰結について、既有知識との関連を中心に紹介する。 【キーワード】 社会的認知、対人認知、性格や能力の帰属、スキーマ、ステレオタイプ	村田光二（一橋大学　教授）	村田光二（一橋大学　教授）
4	社会的推論	私たちは獲得した知識を元に、直接は知り得ない他者の未知の側面や、自己の将来について推測することがある。ここでは、推論の前提としてステレオタイプや自己が考えられること、バイアスが生じやすいこと、また直観的で簡便な方略の利用について紹介する。 【キーワード】 社会的推論、確証バイアス、自己中心的視点、ヒューリスティクス	村田光二（一橋大学　教授）	村田光二（一橋大学　教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	社会的感情	社会生活では、喜怒哀楽といったさまざまな感情を経験する。ここでは、これらの基本的感情に加え、より高次の感情として、恥、罪悪感など自分に対する意識（自己意識）と他者との関係から生じる社会的な感情とその働きを解説する。 【キーワード】 感情の機能、自己意識、感情、感情制御、感情表出	木村晴（帝京大学専任講師）	木村晴（帝京大学専任講師）
6	対人コミュニケーション	人と人との関わりにおいてコミュニケーションは欠かすことのできない重要なものである。ここでは、言語的な対人間のコミュニケーションに焦点を当てて、その中でも特に自らのことを他者に伝える自己開示について考察する。 【キーワード】 対人コミュニケーション、非言語コミュニケーション、自己開示、外傷体験	小口孝司（千葉大学　准教授）	小口孝司（千葉大学　准教授）
7	集団過程	社会心理学では、個人の社会的行動や対人関係の問題だけでなく、集団に関するさまざまな問題にも強い関心が持たれてきた。ここでは、集団に関する代表的な理論や研究のいくつかを紹介する。 【キーワード】 集団生産性、集団意思決定、集団間葛藤	坂元章（お茶の水女子大学　教授）	坂元章（お茶の水女子大学　教授）
8	ジェンダーの心理学	社会的な性別を示す「ジェンダー」を理解することは、社会や私たち自身を理解するためにも重要である。ここでは、ジェンダーという社会の仕組みが人々の自己及び他者理解と社会的行動にどのように影響しているかを説明する。 【キーワード】 ジェンダー，社会的役割，地位と勢力，ジェンダー・アイデンティティ	坂田桐子（広島大学　准教授）	坂田桐子（広島大学　准教授）
9	社会的不適応の心理学	社会の中で適応的に生きるためには、他者とよい関係を築く必要がある。しかし、ときに私たちは、他者との関係を損なうような行動を自らとってしまう。ここでは、このような社会的不適応に関連する身近な話題を取り上げて、解説する。 【キーワード】 攻撃行動、対人不安、抑うつ、社会への適応	高比良美詠子（メディア教育開発センター　准教授）	高比良美詠子（メディア教育開発センター　准教授）
10	産業・組織の心理学	産業・組織心理学は、独自の心理学領域のひとつであるが、社会心理学との関わりが深い。ここでは、社会心理学にとっても興味深い話題である「組織行動」「人的資源管理」「消費者行動」を取り上げて、概説する。 【キーワード】 組織行動、人的資源管理、ワーク・モティベーション、職場のストレス	小口孝司（千葉大学　准教授）	小口孝司（千葉大学　准教授）
11	広告の心理学	社会的情報による説得のひとつとして、広告コミュニケーションを取り上げ、広告の送り手の技法、受け手の心理過程や行動を、社会心理学の視点から説明する。また、説得場面で生じる受け手の意思決定の誤りについても解説する。 【キーワード】 広告メッセージの処理、説得、要請技法、意思決定のバイアス	田中知恵（昭和女子大学専任講師）	田中知恵（昭和女子大学専任講師）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	インターネットの心理学	コンピュータ・ネットワークは、単に便利なコミュニケーションの道具にとどまらず、私たちの心理や行動を変容させうるものと考えられる。ここでは、こうしたインターネットの特質と役割について、社会心理学の視点から説明する。 【キーワード】 電子ブレーンストーミング、社会的文脈手がかり、インターネットの影	坂元章（お茶の水女子大学　教授）	坂元章（お茶の水女子大学　教授）
13	環境問題の心理学	ゴミ問題や地球温暖化問題のように、解決すべき地球環境の課題は山積みである。しかし、必要な行動は必ずしも実行されていない。なぜだろうか。ここでは、環境配慮行動を普及させていく方法を心理学の視点から考察し、説明する。 【キーワード】 環境配慮行動、社会的ジレンマ、行動変容、コミットメント、環境教育	杉浦淳吉（愛知教育大学　准教授）	杉浦淳吉（愛知教育大学　准教授）
14	観光の心理学	現代社会において観光は非常に大きな意義をもっている。観光は人が大きくかかわる現象であるために心理学とのかかわりも深い。ここでは、観光が社会心理学の観点からどのように研究されるのかを解題していく。 【キーワード】 誘因要因、発動要因、新奇欲求、インターネット、口コミ	小口孝司（千葉大学　准教授）	小口孝司（千葉大学　准教授）
15	異文化理解の心理学	日本人と外国人のように、異なる文化的背景を持つ人の間では誤解が生じやすく、意思疎通のために特段の注意が必要な場合がある。ここでは、そうした誤解の事例や異文化間のコミュニケーションに関する研究などを紹介する。 【キーワード】 コミュニケーション・ギャップ、異文化適応、国際理解教育	坂元章（お茶の水女子大学　教授）	坂元章（お茶の水女子大学　教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	共通科目（人文系）	科目ｺｰﾄﾞ	1110900	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 心理臨床の基礎 （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：小野けい子(放送大学教授) 〕

講義概要

本講義では、心理臨床の基礎として、心理臨床を支えている基礎理論を学ぶとともに、臨床心理査定、臨床心理面接、臨床心理的地域援助といった心理臨床実践について、また、心理臨床の研究・調査法の基礎について学ぶ。

授業の目標

本講義を通じて、心理臨床実践と、学問としての臨床心理学についての理解を深める。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	心理臨床について	心理臨床と臨床心理学について説明し、心理臨床の専門性について、心理臨床と臨床心理学の歴史、心理臨床の専門家資格と教育プログラムについて概説する。 【キーワード】 心理臨床、臨床心理学、臨床心理士、臨床心理査定、臨床心理面接、臨床心理的地域援助	小野 けい子（放送大学教授）	小野 けい子（放送大学教授）
2	心理臨床の基礎理論1発達心理学理論	発達心理学の視点から、人間発達の特性と発達の節目としての乳児期と青年期の意義を論じ、乳児期における発達と愛着理論、青年期における発達と自我同一性理論について概説する。 【キーワード】 二次的就巣性、アタッチメント、自我同一性、モラトリアム	小野 けい子（放送大学教授）	小野 けい子（放送大学教授）
3	心理臨床の基礎理論2学習理論・認知理論	心理臨床の基礎理論としての学習心理学理論・認知心理学理論について学ぶ。学習心理学の領域では、2つの条件付け理論（古典的条件付け・オペラント条件付け）と観察学習、認知心理学の領域では感情ネットワークモデルを中心にとりあげる。 【キーワード】 条件付け理論 観察学習 感情ネットワークモデル	越川 房子（早稲田大学教授）	越川 房子（早稲田大学教授）
4	心理臨床の基礎理論3深層心理学理論	心理臨床の基礎理論として、深層心理学と呼ばれる精神分析学と分析心理学の理論について学ぶ。精神分析理論では、無意識の発見と心理療法、、無意識の構造と機能、性格の発達理論を概説し、分析心理学理論では、言語連想検査とコンプレックス、普遍的無意識と元型、、性格の類型論について概説する。 【キーワード】 無意識、防衛機制、コンプレックス、内向・外向	小野 けい子（放送大学教授）	小野 けい子（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	臨床心理アセスメント1	心理臨床におけるアセスメントとは何かを3章にわたって概説する。その第1回目として、面接法を中心に、アセスメントのポイントを例示しながら解説していく。 【キーワード】 見立て　正常と異常　わかるということ	佐藤 仁美（放送大学准教授）	佐藤 仁美（放送大学准教授）
6	臨床心理アセスメント2	心理検査法について、知能検査と質問紙法を中心に、作業法・構成法・描画法なども織り交ぜながら概説する。 【キーワード】 知能検査　質問紙法　作業法	佐藤 仁美（放送大学准教授）	佐藤 仁美（放送大学准教授）
7	臨床心理アセスメント3	投影法について、ロールシャッハテストなどを取り上げ、テストバッテリーを含めて概説する。 【キーワード】 投影法　テストバッテリー　主観と客観	佐藤 仁美（放送大学准教授）	佐藤 仁美（放送大学准教授）
8	心理療法1　精神分析療法	フロイトによって創始された精神分析療法は、私たちの意識領域だけでなく無意識領域を重視し、その解明を目指すところに特徴がある。心理療法過程で生じるおもな現象やそれに対処するための技法について概説する。さらに、精神分析療法の発展形態として、遊戯療法、集団心理療法、家族療法について簡潔に説明する。 【キーワード】 無意識 自由連想法 転移・逆転移	小田切 紀子（東京国際大学教授）	小田切 紀子（東京国際大学教授）
9	心理療法2ユング派分析療法	ユングの創始した分析心理学的心理療法は、日本ではユング派心理療法と呼ばれるが、その基本である目的論的視点と個性化の過程、イメージの重視、夢分析、箱庭療法について学ぶ。 【キーワード】 個性化、イメージ、夢分析、元型、箱庭療法	小野 けい子（放送大学教授）	小野 けい子（放送大学教授）
10	心理療法3　クライエント中心療法・パーソンセンタード・アプローチ	クライエント中心療法の創始と発展について、基本になる自己理論およびカウンセラーの条件について概説する。さらに実際のカウンセリングの経過について具体例を挙げながら述べる。最後にパーソンセンタード・アプローチの概要について触れる。 【キーワード】 自己理論　人格変容のための必要・十分条件　エンカウンターグループ	田畑 洋子（人間環境大学教授）	田畑 洋子（人間環境大学教授）
11	心理療法4認知行動療法	認知行動療法の基本理論と主要技法について学ぶ。認知的アプローチの基本理論としてABC理論を、情動的技法の基本理論として古典的条件付けと感情ネットワークモデルを、行動的技法の基本理論としてオペラント条件付けをとりあげる。主要技法としては、認知的再体制化、自己教示法、自己強化法などをとりあげる。 【キーワード】 ABC理論　学習理論　認知的技法　情動的技法　行動的技法	越川 房子（早稲田大学教授）	越川 房子（早稲田大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	心理療法5遊戯療法	遊戯療法を成立させる“あそび”の意味やセラピストの基本的態度について考え、遊戯療法の経過と各時期において起こってくる事象について概説する。また、遊戯療法を支える親の役割について述べる。 【キーワード】 子ども中心療法　八つの基本原理　並行面接	田畑　洋子（人間環境大学教授）	田畑　洋子（人間環境大学教授）
13	コミュニテイ援助1学校と地域	コミュニティとは、コミュニティ援助とは何かを概説する。主に、学校教育場面・精神医療場面にかかわる地域援助について考えてみる。 【キーワード】 危機介入　協働　支援づくり	佐藤　仁美（放送大学准教授）	佐藤　仁美（放送大学准教授）
14	コミュニテイ援助2子育て支援	少子化や共働き夫婦の増加により、家族や家庭の中だけでの子育てが難しくなっており、心理臨床家による子育て支援が求められている。母親と子どもを取り巻く社会的状況にふれたあと、心理臨床家が子育て支援を行う意義と援助の具体的方法について、コミュニティ援助の視点から概説する。 【キーワード】 少子化、育児不安、予防活動	小田切　紀子（東京国際大学教授）	小田切　紀子（東京国際大学教授）
15	臨床心理学研究法	臨床心理学研究は、心理的援助の実践活動を通して研究を行うことが基本となるため心理学研究の中では独自な位置づけとなる。臨床心理学研究の方法とその社会的意義、および倫理問題を概説する。さらに、卒業論文などの学術論文を執筆する場合の具体的方法について解説する。 【キーワード】 守秘義務、実践型研究、事例研究	小田切　紀子（東京国際大学教授）	小田切　紀子（東京国際大学教授）

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	共通科目（人文系）	科目ｺｰﾄﾞ	1113003	履修制限		単位数	2

科目名（メディア） ＝ 人格心理学 （’０９）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：大山泰宏（京都大学大学院准教授） 〕

講義概要

人格（personality）は，臨床心理学のほか，発達心理学，社会心理学など，心理学の諸分野に深く関わる概念である。この講義では，心理学において「人格」という概念が，どのように措定され，どのように探求されているのか，また，その変容と生成に対してどのように関わっているのかを，総括的に論じる。

このように人格の緒理論に関して探求することを通して，心理学的な人間理解の発想や方法ということに関しても，深い理解を醸成していくことをめざしている。

授業の目標

1. 人格という概念に関する基本的な知識の習得と，この概念を生み出すに至った心理学の発想法を理解する
2. 人格の成立に関わるさまざまな事柄を，心理学的に理解する
3. 人格という概念をもとにした，心理学（とりわけ臨床心理学）の理論や技法について理解する
4. 私たちの日常生活の中での人格概念に関して自分なりに理解できるようになる

履修上の留意点

特になし

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	人格心理学をはじめるにあたって	人格という概念が心理学で用いられるのはなぜか。20世紀以来，人格概念が重要となった経緯を論じる。あわせて，その流れの中で，本講座の目的を概観する。（1．人格という概念の定義，2．人格という概念の歴史的背景，3．この科目の目的と概観） 【キーワード】 人格，性格，気質，個人差心理学	大山泰宏（京都大学大学院准教授）	大山泰宏（京都大学大学院准教授）
2	人格を理解する観点と理論	人格というものに対して，私たちはどのように接近していくのか。人格を把握するための私たちの認識の特徴を省察することをもとに，類型論的発想，特性論的発想の特徴とその限界を明らかにする。（1．人格理解の方法，2．類型論と特性論，3．力動論） 【キーワード】 類型論，特性論，力動論	大山泰宏（京都大学大学院准教授）	大山泰宏（京都大学大学院准教授）
3	人格を映し出す －心理査定	他者の人格を知るため，あるいは自己自身の人格を知るために，心理査定がおこなわれる。質問紙法，投映法のそれぞれの仕組みを知ることで，心理学において人格がどのように考えられているのかをより深く理解する。あわせて，心理査定の意義と範囲について論じる。（1．観察法，2．質問紙法と投映法3．人格は理解できるのか） 【キーワード】 観察法、質問紙法、投映法、ワーディング	大山泰宏（京都大学大学院准教授）	大山泰宏（京都大学大学院准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	人格理論の現在	近年の心理学は，人格に関してどのようなとらえ方をしているのか。自己組織システムとしての人格のとらえ方，脳科学での知見社会的構成としての人格の考え方などを紹介する。（1．システム論的な人格理解，2．脳科学から見た人格，3．ジェンダーと人格） 【キーワード】 社会構成主義，ジェンダー	大山泰宏（京都大学大学院准教授）	大山泰宏（京都大学大学院准教授）
5	人格と関係性	人格は単独で存在するものではなく，必ず他者との関係の中にある。そうした対人関係の場において，人格はどのように現出し把握されるのか。またその関係性を支える次元とは何なのか。（1．対人関係の理論，2．対自自己と対他自己，3．間主観性と人格） 【キーワード】 印象形成，社会集団対自と対他，間主観	大山泰宏（京都大学大学院准教授）	大山泰宏（京都大学大学院准教授）
6	人格のはじまり	ヒトが誕生して成長していくとき，どのような要因が人格形成に影響を与えているのであろうか。遺伝と環境をめぐるこれまでの研究，また，最近の乳幼児と養育者の交流の研究等を通して考察する。（1．遺伝と環境，2．情動と調律，3．愛着の理論） 【キーワード】 双生児研究，情動調律，愛着	大山泰宏（京都大学大学院准教授）	大山泰宏（京都大学大学院准教授）
7	人格の育ち	やがて人は「わたし」という意識をもち，それを核として人格が形成されていく。その際，エディプス期での大きな人格変化，また，前思春期における「わたし」の目覚めなどを通して，私が「わたし」になっていくプロセスを考察する。（1．エディプスコンプレックス，2．自我体験と前思春期） 【キーワード】 エディプス期，エディプスコンプレックス，自我体験	大山泰宏（京都大学大学院准教授）	大山泰宏（京都大学大学院准教授）
8	人格が閉じるとき	人生の後半において，人は自分の人生をどのように閉じていくのかということが大きな課題となってくる。中年期の危機，そして老年期のテーマ等に関して述べるとともに，死に直面する人々の心のあり方について述べる。（1．中年期の課題，2．老年期，3．死の準備） 【キーワード】 ライフサイクル，中年期の危機，老年期	大山泰宏（京都大学大学院准教授）	大山泰宏（京都大学大学院准教授）
9	人格とかたり	人は自分自身の物語をかたることで，自分の歴史を，あるいは自分自身を構成していく。そうした語られる内容ばかりでなく，私が「わたし」として語り出でることに，人格を構成する根本がある。発話に関する理論等を参考にしつつ，かたりの意義について述べる。（1．語られる人格，2．発話行為としての人格，3．心理療法とかたり） 【キーワード】 ナラティヴ，かたり，発話，主体，反復	大山泰宏（京都大学大学院准教授）	大山泰宏（京都大学大学院准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	人格が病むということ，傷つき	人格のまとまりというものを崩し開いていく，さまざまな出来事。私たちの誰もが必ず多かれ少なかれ抱えたり直面したりする心の課題を，私たちはどう理解し，どのように取り組んでいくべきなのか，臨床心理学の観点から論じていく。（1. 欲求不満，2. 神経症と精神疾患，3. トラウマ） 【キーワード】 欲求不満，神経症，精神病，PTSD	大山泰宏（京都大学大学院准教授）	大山泰宏（京都大学大学院准教授）
11	人格の探求と文化	人格を，そして自分自身を探求するために，臨床心理学ではどのような考え方が用いられるのか。自己認識の学としての，その手法や発想に関して，先人たちの仕事に言及しつつ論じていく。（1. 精神分析のはじまり，2. 分析的心理学） 【キーワード】 ヒステリー，精神分析，夢，元型	大山泰宏（京都大学大学院准教授）	大山泰宏（京都大学大学院准教授）
12	人格の変容	私の人格の今のあり方に行き詰まったとき，カウンセリングや心理療法がおこなわれることがある。こうした営みにおいては，人格はどのように捉えられ，またどのように変容や人格の十全な発現が促されていくのか。その理論ばかりでなく事例を引きつつ論じる。（1. カウンセリングと心理療法，2. 心理療法の過程，3. 非言語療法） 【キーワード】 非指示的療法，心の補償作用，プレイセラピー，芸術療法	大山泰宏（京都大学大学院准教授）	大山泰宏（京都大学大学院准教授）
13	物語にみる人格の変容	人格の成長と変容は，誰もが体験することである。これまで先人たちが語り伝えたり創作したりした物語の中にも，そのテーマは多くみられる。いくつかの物語を臨床心理学的に読み解くことで，臨床心理学や心理療法における人格理解と変容に関して深めたい。（1. 教養，2. 小説童話とファンタジー，3. 神秘主義と錬金術） 【キーワード】 人格陶冶，物語，ファンタジー，錬金術	大山泰宏（京都大学大学院准教授）	大山泰宏（京都大学大学院准教授）
14	人格と存在	テロや戦争，ジェノサイド。人間自身によって人格が否定される不幸は，現代でもあとをたたない。その中で，人は人格の尊厳を保ち，祈りと希望を失わないでいることができるだろうか。実存主義的な人格理論を概観し，このことを論じたい。（1. 人格の否定と祈り，2. 実存主義的人格，3. 未来へ向かう人格） 【キーワード】 実存，希望，人間の尊厳	大山泰宏（京都大学大学院准教授）	大山泰宏（京都大学大学院准教授）
15	人格心理学の展望	電子メディアに囲まれた現代社会において，人格のあり方は変わっていくのであろうか。それに対して心理学も，新たな視点と理論を持つべきなのだろうか。こうした問題に言及しつつ，本講義のこれまでの過程を，省察する。（1. 現代社会と人格，2. 人格に関する私たちの課題，3. 展望） 【キーワード】 電子メディア，解離，抑圧	大山泰宏（京都大学大学院准教授）	大山泰宏（京都大学大学院准教授）

科目名（メディア）＝　現代を生きる哲学（‘０７）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：佐藤　康邦（放送大学教授）〕

講義概要

哲学という言葉は、古代ギリシャのプラトンの語ったピロソピアという言葉に由来するフィロソフィーの日本語訳である。この言葉は「知を愛する」という意味を持つが、すでにプラトンの段階で、それには単に日常生活に役立つ知識とか専門科学の知識を超える知という位置が与えられていた。そのような哲学的知識および哲学的思索というものがそもそもいかなるものであるのかを、理論哲学、実践哲学、宗教哲学、芸術哲学の各場面に従って紹介するとともに、それが現代を生きる私たちにどのような意味を持つのかを検討する。

授業の目標

まず、哲学の基礎知識や基礎的考え方について、西洋哲学の歴史に現れた哲学者および日本近代の哲学者の思想内容を踏まえた上で学ぶ。といっても、単に哲学史についての知識を得るということに留まることなく、そのような哲学的思索が、今日の科学や社会や芸術、宗教について考える際に、私たちにどのような示唆を与えてくれるかという観点に立って学ぶことを目指す。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	序　哲学的知とはどのようなものなのか	哲学という学問の独自性を、他の専門諸科学と比較することによって示し、あわせて、哲学が包摂する理論哲学、倫理学、宗教学、芸術学の諸領域について説明する。その際、西洋思想史を概観した上で、今日の哲学の課題について考える。	佐藤康邦（放送大学教授）	佐藤康邦（放送大学教授）
2	第Ⅰ部　科学的知性と哲学 （１）自然科学的知性の目覚めと哲学	古代ギリシャにおいて最初の哲学的思惟は自然哲学として現れた。それに対する現代の科学者による評価を紹介した上で、プラトンのイデア論とアリストテレスの自然学を頂点とする古代科学、古代哲学の意義について考える。	同上	同上
3	（２）近代科学の成立と哲学	１６、７世紀に西洋において近代科学のもとになるような自然研究が現れた。それを代表するガリレオおよびデカルト、ホッブズ、スピノザ等の自然観を検討するとともに、この新たな自然観がどのような哲学的思索と結びついたのかを検討する。	同上	同上
4	（３）カント『純粋理性批判』の検討	近代哲学を代表するカントの『純粋理性批判』は、ニュートンによって完成された近代科学を前提としながら、人間の立場からの哲学を展開したものである。その全貌を先駆者であるヒュームに遡って検討する。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	（4）近代哲学における有機体論の系譜	ガリレオ、デカルト以来近代科学を導いてきた機械論的自然観に対抗して、有機的生命の観点から自然を見る有機体論の系譜を、ライプニッツ、ゲーテ、カントの『判断力批判』等を踏まえた上で、現代のエコロジーと結びつけて考える。	同上	同上
6	（5）実証主義的科学の制圧と哲学の使命	１９世紀以降、自然科学は哲学者の手を離れて、専門科学者の実証主義的研究の支配下に置かれた。この系譜を、コント、ダーウィン、マッハ、フロイト等の実証主義的科学の主張に見るとともに、それへの反発の例を現象学の哲学に見る。	同上	同上
7	第Ⅱ部　社会的正義と哲学 （1）プラトンとアリストテレス	西洋の倫理思想についても、国家論についても、プラトン、アリストテレスを語らずにははじまらない。ソフィストに対するソクラテスの意義、プラトンの国家論、アリストテレスの徳と幸福の定義を通して西洋倫理思想の正系について見る。	同上	同上
8	（2）トゥキュディデスとマキャベッリ	トゥキュディデスのペロポネソス戦争の記述とマキャベッリの『君主論』は、この世の弱肉強食の実体を暴き出したことにより倫理学的思考のなかで独自の位置を占めている。これらを通じ、西洋倫理思想の反正統の系譜について見る。	同上	同上
9	（3）カントとヘーゲル	道徳的評価というものを個人の自由意志の上にすえる近代に特徴的な考え方をカントの道徳法則に見、それに対抗して、倫理の問題を個人を超えた社会的なものと考えた例をヘーゲルの人倫概念に見ることにする。	同上	同上
10	（4）スミスにおける倫理学と経済学	一方において、共感という感情の基礎の上に独自の倫理学を打ち立てたスミスは、近代における最も成功した社会理論である経済学の確立者でもあった。この両側面のつながりを哲学の観点に立って検討する。	同上	同上
11	（5）マルクスとウェーバー	今なお私たちの生活を決定づけるものである資本主義について、マルクスは否定的、マックス・ウェーバーは肯定的に評価を下した。この両者の思想を比較、検討してみることは、今日の社会を理解する上でも不可欠の課題である。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	（6）社会システムの時代の倫理学	私たちは、現代社会において、一方では自己決定の権利を与えられていながらも、他方では否応もなく社会システムのうちに組み込まれている。そのことの学問的解明の例を社会システム論に見る。	同上	同上
13	第Ⅲ部　哲学にとっての宗教と芸術 （1）宗教と哲学	哲学は、自然についての認識の真理の問題、社会的正義の問題に関わるものであるとともに、また、同時にそれらに解消しきれない個人の内面の問題も扱う学問でもある。ここでは宗教の問題を、実存主義思想などを参照しつつ検討する。	同上	同上
14	（2）芸術と哲学	プラトン、アリストテレスの昔から、哲学者は美や芸術の問題に深い関心を寄せてきた。ここでは、この二人に加えて、カント、シェリング、ヘーゲルの古典的美学の検討を踏まえた上で、現代における芸術の状況について考える。	同上	同上
15	第Ⅳ部　近代日本の哲学的自己主張	近代の日本人は、他の学問同様に西洋から哲学も受け入れてきた。しかしそれと同時に、それを通じて自己表現の途も探ってきた。そのことを、西田幾多郎、和辻哲郎、三木清等の思想を通じて検討する。	同上	同上

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	共通科目（人文系）	科目コード	1112015	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 西洋哲学の誕生 （’１０）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：佐藤　康邦（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：三嶋　輝夫（青山学院大学教授）〕

講義概要

西洋哲学の源流というと、ヘレニズムとヘブライズムがあげられる。本講義では、このうち、まずヘレニズム、すなわち古代ギリシア哲学の検討を行う。そこでは、ソクラテス以前の哲学からアリストテレスまでが検討される。次に、ヘブライズム、即ち旧約聖書の世界およびキリスト教の検討が行われる。その上で、キリスト教が世界宗教として、教義を確立する際に、ギリシア哲学との融合が行われたことを検討する。それが、教父の世界の検討である。その後、中世キリスト教の検討が行われる。これらの思想を、それぞれの専門家の講義によって学ぶ。

授業の目標

デカルト以以降の西洋哲学に関しては、多くの日本人にとっても馴染みがあると言える。しかしそれらは、古代以来の長い思想、学問の歴史を経て成立したものであった。この講義では、この近世以降の西洋哲学の源流がいかなるものであったのかを、古代ギリシアの哲学、古代ユダヤの信仰、キリスト教の教義、さらに、中世の神学を通して学ぼうとするものである。

履修上の留意点

古代から近世直前にいたるまでの長い年月にわたる思想の歩みを、一つの講義で学ぶことには、それ相応の難しさがあるが、それによって、西洋思想の源流に関する、概観は得やすいとも言えるであろう。ギリシア哲学とユダヤ教というとその隔たりは大きいのであるが、それがどのように結びつき、西洋の成立に寄与してきたか、大きな好奇心をもって、学んで欲しい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	〔序〕 ギリシア哲学の全体像	西洋思想の源流として、ヘレニズムの思想とヘブライズムの思想とがあげられる。そのうち、まず、ヘレニズム、ギリシア哲学が取り扱われる。第一回目は、〔序〕に続いてギリシア哲学全体の展望をする。また〈哲学〉とは何かについて、タレスを例に考える。 【キーワード】 ヘレニズム、ヘブライズム、ソクラテス以前の哲学者たち、ソフィスト、ソクラテス、プラトン、アリストテレス、哲学	三嶋輝夫（青山学院教授）	佐藤康邦（放送大学教授）、三嶋輝夫（青山学院教授）
2	ソクラテス以前の哲学者たち	先ずタレス、アナクシマンドロス、アナクシメネスに代表されるイオニアの自然哲学を取りあげる。ついでクセノパネスとパルメニデスとピュタゴラスの宗教観、ヘラクレイトスとパルメニデスの存在論を中心に、ゼノンのパラドックスやデモクリトスの原子論と倫理説もあわせて学ぶ。 【キーワード】 ミレトス派、クセノパネス、ヘラクレイトス、エレア派	三嶋輝夫（青山学院教授）	三嶋輝夫（青山学院教授）
3	ソクラテス登場の意義	前5世紀のソフィストとソクラテスを扱う。プロタゴラスを始めとするソフィストは合理主義的思考によって迷信や偏見を打破することに貢献したが、同時に相対主義的、懐疑主義的風潮も生み出した。それに対して、一問一答を通じての無知の自覚を起点として、いかに生きるべきかを徹底的に追究したソクラテス登場の意義を考える。 【キーワード】 ソフィスト、弁論術、人間万物尺度論、ソクラテス、無知の自覚	三嶋輝夫（青山学院教授）	三嶋輝夫（青山学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	プラトンの『国家』(1)	プラトンの『国家』の第1巻から第4巻を取り上げ、正義を中心とする徳目について、どのように規定されているかを学ぶ。また第1巻におけるトラシュマコスとソクラテスの正義をめぐるやり取りとその終わり方に孕まれる問題性に注目し、第2巻以降の探求との関連を探る。 【キーワード】 強者の利益としての正義、グラウコンの挑戦、ギュゲスの指輪、守護者、魂の三部分説	三嶋輝夫（青山学院教授）	三嶋輝夫（青山学院教授）
5	プラトンの『国家』(2)	『国家』第5巻においてソクラテスによって提案される、「三つの大波」にも喩えられる大胆な提案、すなわち男女平等教育論、妻子共有論、哲人王の三つの改革案と、その中核を成す哲人王の理念を根拠づけるべきイデア論について、三つの比喩を手掛かりに考える。 【キーワード】 三つの大波、男女平等教育論、妻子共有論、哲人王、イデア論	三嶋輝夫（青山学院教授）	三嶋輝夫（青山学院教授）
6	アリストテレスの哲学	「万学の祖」とも言われるアリストテレスの哲学の特色を、師であるプラトンとの対比を通して浮かび上がらせることを目指す。特にイデア論に対するアリストテレスの批判を中心的に取り上げつつ、彼の存在論、倫理学、政治学の核心を成す思想をピックアップして検討する。 【キーワード】 イデア論批判、四原因説、不動の動者、幸福、エンドクサ、総和の理論	三嶋輝夫（青山学院教授）	三嶋輝夫（青山学院教授）
7	旧約聖書の大要／諸書から	7章から10章は、旧新約聖書の哲学史的意義について学ぶ。本7章は先ず、ふつう宗教的信仰の書として扱われる聖書を哲学的理性の立場からどう読むかを確認した後、旧約聖書の成立と思想の中枢について概観する。そして旧約聖書の諸書の部分から「コーヘレス書」を取り上げ、ニーチェ・ハイデッガーのニヒリズムの哲学との対比において、これを読み解く可能性を探る。 【キーワード】 旧約聖書、律法、預言者、諸書、コーヘレス、ニヒリズム、ニーチェ、ハイデッガー	関根清三（東京大学教授）	関根清三（東京大学教授）
8	旧約聖書・律法から：イサク献供物語の哲学的解釈	旧約聖書の律法の部分から、アブラハムによるイサク献供の物語を取り上げる。その粗筋をさらった上で、カント、キルケゴール、デリダ、西田幾多郎といった哲学者たちが、このテクストをどう解釈したか解釈史を洗う。それらの批判的検討を踏まえて、このテクストの哲学的射程と意義について考えたい。 【キーワード】 イサク献供の物語、創世記、アブラハム、カント、キルケゴール、デリダ、西田幾多郎、絶対矛盾の自己同一	関根清三（東京大学教授）	関根清三（東京大学教授）
9	旧約聖書・預言者から／新約聖書の大要	旧約聖書の預言者から、バビロン捕囚期の最高峰、第2イザヤの思想を学ぶ。ヴェーバーの神義論的観点からのこのテクストの読み解きを批判的に踏まえた上で、その贖罪思想の本質について考察する。そこから新約聖書に目を転じて、その成立と思想の概要について瞥見し、次章の考察へとつなげる。 【キーワード】 第二イザヤ、贖罪、苦難の神義論、福音書、歴史書、書簡、黙示文字	関根清三（東京大学教授）	関根清三（東京大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	新約聖書・福音書から	新約聖書の福音書から、姦淫をめぐるイエスの言行の核心について学ぶ。そこから倫理的律法を超えた福音の意味を確認する。それを踏まえて、イエスの十字架の死後、その贖罪的意味について弟子たちが解釈して行った経緯と帰趨を探り、それが生前のイエスの思想の核心と呼応することを確認する。しかし贖罪思想は爾後の思想史において、哲学者からの鋭い批判を浴びた。それへの応答の可能性を展望して、4つの章にわたって通覧してきた聖書の哲学史的意味をめぐる考察を結ぶ。 【キーワード】 福音書、姦淫、イエス、十字架、贖罪、原始教団、アガペー、カント、ヘーゲル、ニーチェ、レヴィナス、西田幾多郎、ティリッヒ	関根清三（東京大学教授）	関根清三（東京大学教授）
11	ヘレニズムの哲学－古代ギリシアの遺産の継承と変貌	古代ギリシアのソクラテス、プラトン、アリストテレスにおいて一つの完成に達した哲学の流れは、その後、そうした知的遺産を継承しつつ、独自の展開を遂げた。本章ではそのうち、特にストア派、エピクロス派、そして新プラトン主義について考察し、教父時代への影響についても言及する。 【キーワード】 ストア派、エピクロス派、懐疑派、新プラトン主義	谷隆一郎（九州大学名誉教授）	谷隆一郎（(九州大学名誉教授）
12	東方・ギリシア教父、ビザンティンの伝統－愛智（＝哲学）としての神への道行き	東方ギリシア教父の伝統は、上記のラテン教父の伝統よりも早くにギリシア的諸伝統を摂取し、東洋における大乗仏典成立の歴史にも似て，西洋全体の大きな源泉となってゆく。本章ではその思想潮流の代表として、ニュッサのグレゴリオス及び証聖者マクシモスについて、その哲学（宗教哲学）を考察する。 【キーワード】 東方・ギリシア教父、ビザンティン、神、存在、自己、ニュッサのグレゴリオス、証聖者マクシモス	谷隆一郎（九州大学名誉教授）	谷隆一郎（(九州大学名誉教授）
13	アウグスティヌスと西方・ラテン教父の伝統	新たに成立したキリスト教は、やがて古代ギリシア的伝統を摂取し、ある拮抗とともにそれらを超克しつつ、愛智（＝哲学）としても大きな展開を成し遂げてゆく。本章では、ラテン教父の代表としてアウグスティヌスに即して、その哲学（魂の神への道行き）の基本線を考察する。アウグスティヌスが登場するまでの教父たちについても概観する。 【キーワード】 アウグスティヌ、西方・ラテン教父、神、人間、自由・意志、悪、時間、歴史	谷隆一郎（九州大学名誉教授）	谷隆一郎（(九州大学名誉教授）
14	西欧中世哲学（スコラ哲学）	西欧においては9世紀のカロリンガルルネサンスに始まり、12世紀ルネサンスを経て13世紀スコラ学に結実してゆく。本章では特にアンセルムス、トマス・アクィナスに即してその基本的流れを見定め、後期スコラから近代への移行の意味についても言及する。 【キーワード】 アンセルムス、12世紀ルネサンス、大学の成立、トマス・アクィナス、後期スコラ哲学、エックハルト	谷隆一郎（九州大学名誉教授）	谷隆一郎（(九州大学名誉教授）
15	総括（座談会）	西洋哲学の源泉をギリシア哲学、ユダヤ教、キリスト教に求めてきたが、これら古代、中世の思想がその後どのように受け継がれてきたか、そして、現代において、どのような意味を持つのかを、これまでの担当者による座談会形式で論じる。 【キーワード】 古代哲学、宗教、哲学	三嶋輝夫、谷隆一郎、関根清三、佐藤康邦	三嶋輝夫、谷隆一郎、関根清三、佐藤康邦

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	共通科目（人文系）	科目ｺｰﾄﾞ	1111701	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　生命と環境の倫理　　（’１０）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：清水　哲郎（東京大学大学院特任教授）〕

【本学担当専任教員：佐藤　康邦（放送大学教授）】

講義概要

個々人の生命を基盤とする人生・生活から、人々の生活を支える地球という環境までを視野において、生活－環境という枠組みで問題を捉え、そこにおける倫理の諸問題を考える。医療は、相対的にミクロな生命－環境世界に注目するが、相対的にマクロな生命－環境世界をも視野に入れる必要がある。環境保全は、マクロな生命－環境に注目するが、ミクロな世界をも視野に入れる必要がある。二つの問題領域を個々に検討しつつ、全体的な視野に立って、意思決定ないし合意形成のプロセスの問題を中心に倫理を考える。

授業の目標

生命と、それがその中で生きる場としての環境という枠組みで、世界を捉えた上で、私たちが直面する問題の多くが、生命－環境の問題であることを理解し、そのような理解に基づいて、問題を倫理的視点から考える力を涵養する。生命を操作する科学技術が高度化してきていることに伴う問題および地球という環境において起きていることとそれにどう対処するかという問題を検討し、その上で、共同の生を営む私たちが、生命－環境について、「いかになすべきか」、あるいはむしろ、「いかになすかについて、いかに意思決定をしていくか」について現実的な理解を得ることを目指す。

履修上の留意点

ここで取り上げるテーマは、現時点での「定説」とか「これが正しい解決法だ」といえるようなものが確立しているものではない。履修者は、印刷教材にせよ、放送教材にせよ、書かれたこと、語られたことを鵜呑みにして「覚える」よう努めるのではなく、それらに耳を傾け、理解しようとしつつ、そこで提起される問題を自らも担当者と共に考えるという姿勢で学習していただきたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	生命-環境の問題へ	生命-環境という枠組みで問題を把握することについて／ミクロな世界へのアプローチ：生命の倫理／マクロな世界へのアプローチ：環境の倫理／ミクロコスモス－マクロコスモス／生命―環境の枠組みの中で私たちの人生とその倫理を考えるという本講義の課題と全体の構成 【キーワード】 生命環境、ミクロな世界・マクロな世界、生命と人生	清水　哲郎（東京大学大学院特任教授）	清水　哲郎（東京大学大学院特任教授）
生命の倫理				
2	生命の誕生	「子が欲しい」という〈存在への欲望〉に駆動されて実施される生殖補助医療技術は、しばしば「こんな子が欲しい／こんな子は欲しくない」という〈質への欲望〉へと転化するが、そこで生じる諸問題を考える。 【キーワード】 生殖医療、着床前診断・胚選別、出生前診断・選択的中絶	霜田 求（京都女子大学教授）	霜田 求（京都女子大学教授）
3	生命の発生	体外受精をはじめとする生命の発生への介入技術の進展により、医療資源あるいは操作の対象としての生命という側面が浮上してきたが、その倫理的・社会的含意を検討する。 【キーワード】 受精卵・胚を用いた研究、生殖細胞系列遺伝子操作、クローン技術	霜田 求（京都女子大学教授）	霜田 求（京都女子大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	遺伝子と生命	遺伝子を調べることで、ある疾患にかかる（あるいはそのリスクが高い）ということが分かったり、特定の能力・機能や行動性向との関係が解明されることにより、「生命の設計図」としての遺伝子という観念が強まりつつあるが、その妥当性を検証する。 【キーワード】 遺伝子検査・診断、遺伝子と能力・機能・行動	霜田 求（京都女子大学教授）	霜田 求（京都女子大学教授）
5	脳と生命	脳神経科学研究の進展によって、人の思考・感情やパーソナリティあるいは精神疾患や犯罪性向などの生物学的要因が脳の構造・機能にあるということが明らかになりつつあると同時に、脳と工学技術との結合による新たな可能性の追求も進んでいる中で、その倫理的・社会的問題を考える。 【キーワード】 脳神経科学、脳神経倫理、ブレイン・マシン・インターフェイス	霜田 求（京都女子大学教授）	霜田 求（京都女子大学教授）
		環境の倫理		
6	環境問題のモデルと環境倫理の原理	人間は、自らが住まう環境に適応するとともに、その環境を改変することにより快適性や利便性を追求してきた。しかし今日では、そうした改変がもたらす負荷が、環境のもつ自然な回復力を上回り、かえって人間に害悪もたらすようになりつつある。この環境ジレンマはどのような構造をもつのか、また、それに対応するための環境倫理上の原則はどのようなものなのかを整理する。 【キーワード】 環境ジレンマ、共有地の悲劇、環境倫理の三原則	小林 睦（岩手大学准教授）	小林 睦（岩手大学准教授）
7	地球の有限性	20世紀半ばまでの地球人口の規模であれば、資源を自由に消費し、廃棄物を環境内に放置しても、人口の少なさゆえに、環境の劣化は自然に回復できる程度に抑えられていた。だが、20世紀後半の急激な人口増加により、個々人の行為の集積は膨大なものとなり、地球の有限性が露わになってきた。こうした状況において、私たちはどのように振る舞うべきなのかを考える。 【キーワード】 地球の有限性、マルサスの法則、成長の限界	小林 睦（岩手大学准教授）	小林 睦（岩手大学准教授）
8	自然の権利	これまでの伝統的な倫理学においては、人と人とのあいだで生じる利害対立を調整するためのルールが議論されてきた。しかし近年、人間が生存するための前提となる生態系の破壊が避けがたいものになってくると、人間以外の自然物（動物・植物・生態系）の権利を認めるかどうかが争点になりつつある。自然保護をめぐる訴訟を実例に、自然の権利という発想について検討する。 【キーワード】 人間中心主義、生態系中心主義、自然の権利	小林 睦（岩手大学准教授）	小林 睦（岩手大学准教授）
9	世代間倫理	通常、将来世代に対し、現在世代がどのような責任を負うのかは明らかでない。現在存在する他人に対して果たすべき義務と同じだけの義務を、まだ存在しない未来の人間に負うことは不可能だからである。それでは、私たちは将来世代に対して何の配慮をしなくてもよいのだろうか。倫理の基底にある相互性という概念を検討し直すことにより、世代間倫理について再考する。 【キーワード】 世代間倫理、相互性の諸形態、配慮の継承性	小林 睦（岩手大学准教授）	小林 睦（岩手大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
生命―環境の中で営まれる人生の倫理				
10	人間の生活と倫理の成立	二つの倫理の系譜（同を原理とする倫理・異を原理とする倫理）を想定して、人間社会とそこで成り立っている倫理を考える。そこに、プリミティブな生活に由来する要素と、平和共存のために人工的につくったルールという要素が認められる。このような想定に基づく分析は、生命および環境をどう扱うかを考える際の切り口として有効である。 【キーワード】 倫理、ケア、平和共存、人間関係	清水　哲郎（東京大学大学院特任教授）	清水　哲郎（東京大学大学院特任教授）
11	人間の尊厳と社会	生命と環境をめぐるさまざまな問題に取り組む際に、人間をどう見るかということと、私たちはどのような社会を選んでいるのか、選ぼうとしているのかという点に注目することは重要である。ここでは、人々が共同で生きる社会のあり方と、その中の個人について概観し、生命と環境という視点から諸問題とのかかわりを考える。 【キーワード】 人間の尊厳、福祉社会、格差、リベラリズム	清水　哲郎（東京大学大学院特任教授）	清水　哲郎（東京大学大学院特任教授）
12	人のWell-beingと医療・介護	生命―環境を枠組みとして、人間のWell-Beingを考える。社会の仕組みとなった医療介護の論理と倫理をとりあげ、医療・介護は生きる環境をどう設定するかという問題の一つであり、人が生活する環境をどう整えるかということと連続的であることを理解する。 【キーワード】 Well-being、医療・介護、生活環境の設定	清水　哲郎（東京大学大学院特任教授）	清水　哲郎（東京大学大学院特任教授）
13	意思決定プロセスと倫理	生命－環境の設定ないしこれにどう働きかけるかをめぐる意思決定プロセスに注目し、個人の生命への働きかけをする医療と皆が共有する生命環境への働きかけをする環境保全という二つの場を取り上げて、どのようにして合意を形成して行くかを考える。両者の意思決定プロセスは共に合意形成を要としており、異なる点もあるとはいえ、共通する点が大きい。 【キーワード】 意思決定プロセス、合意形成、医療、環境保全	清水　哲郎（東京大学大学院特任教授）	清水　哲郎（東京大学大学院特任教授）
14	人生の終りをめぐって	人のWell-beingおよび意思決定プロセスに関する一つのトピックとして、人生の終りをめぐる医療・介護の現場の問題を考える。尊厳ある生を最後まで保つことを目指して行われるケアの中で、特徴的な諸問題（安楽死、治療・生命維持の差し控えと停止等）についてどう考えるべきかを検討する。 【キーワード】 終末期医療、安楽死、生命維持、差し控えと停止	清水　哲郎（東京大学大学院特任教授）	清水　哲郎（東京大学大学院特任教授）
15	持続可能なWell-beingを求めて	14章までの話を前提として、地球という生命環境の中で生きる人間の生活の将来を鳥瞰する。Well-beingの持続可能性(sustainability)という課題をどう捉えるかという視点から、人の生命を扱う医療の課題から生態系の問題まで、生命環境の問題を復習する。 【キーワード】 持続可能性、Well-being、生命環境	清水　哲郎（東京大学大学院特任教授）	清水　哲郎（＋霜田、小林？）

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	共通科目（人文系）	科目ｺｰﾄﾞ	1110918	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 芸術史と芸術理論 （’１０）＝ （ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：青山昌文（放送大学教授） 〕

講義概要

芸術は、単に好き嫌いで話が済むような小さなものではありません。芸術は、感じ取ればいいだけの趣味の世界のものではないのです。芸術は、世界の様々な素晴らしいものが沢山詰まったものであり、世界の奥深いものが凝集しているものなのです。この講義は、芸術のこのような本質を、古代ギリシアから現代までの多くの傑作を現地に訪ねて現場で語りながら、分かりやすく語ります。文学や演劇についても言及しますが、テレビの長所を生かして、講義の主軸は建築を含む美術とし、芸術のもっている深い意味を明らかにしてゆきます。

授業の目標

芸術が、好き嫌いのレベルを超え、感覚的な趣味のレベルを超えた、奥深いものであるということが分かるようになることが、この講義の第一の目標です。そのために、プラトンやアリストテレスの美学・芸術理論のあらましを述べ、古代から現代までの各時代の芸術が、いかに同時代の哲学・思想と根本的に結びついていたか、ということを明らかにしてゆきます。講義でお見せする芸術作品は、ほとんど全てが人類の至宝というべき素晴らしい傑作であり、その傑作を傑作たらしめているものの根源が分かるようになることが、この講義の最終目的です。

履修上の留意点

「社会の中の芸術（'10）」が、芸術と社会との深い関わりに力点を置いているのに対して、この講義は、芸術と哲学・思想との深い関わりに力点を置いています。2つの科目は、両者相まって芸術の様々な深い意味を明らかにしているのです。尚、この講義は、以前の「芸術の理論と歴史（'02）」「芸術の理論と歴史（'06）」においてお見せした貴重な海外ロケ映像の大部分を再利用しているためもあって、これらの以前の講義と内容が重複しています。そのために、これらの以前の講義を単位取得された方は、再履修不可となっていますので、ご注意ください。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	芸術とは何か−芸術の見方・味わい方−	芸術が、好き嫌いのレベルを超えたものであり、芸術には見方・味わい方があるということを、具体的な絵画作品や音楽作品を例にとって述べた後に、原始美術からギリシア美術までを概観して、その豊かな意味を作品を前にして具体的に考察します。 【キーワード】 趣味、主観、権力、宗教、政治、神話、思想	青山昌文（放送大学教授）	青山昌文（放送大学教授）
2	プラトン美学−文学の深い可能性−	哲学史に名高い詩人追放論を採り上げて、プラトンがなぜあれほどまでに芸術を攻撃したのかを明らかにし、その後で、プラトンの詩的霊感論に着目して、ギリシアにおける文学の社会的位置と、プラトン美学の真の意義を明らかにします。 【キーワード】 プラトン、詩人追放論、ホメロス、霊感、イデア、ミーメーシス	青山昌文（放送大学教授）	青山昌文（放送大学教授）
3	アリストテレス芸術哲学−演劇の哲学的普遍性−	芸術の全てを一貫する原理論としての、アリストテレスの芸術ミーメーシス哲学を考察し、その深い意義を明らかにします。その後、アリストテレスの高名な悲劇の定義を採り上げて、カタルシスなどの演劇美学概念の意味を明らかにしてゆきます。 【キーワード】 アリストテレス、ミーメーシス、世界、内在、カタルシス	青山昌文（放送大学教授）	青山昌文（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	ロマネスク美術-超越のプラトン主義-	ロマネスク美術の根底に、プラトン哲学的な超越性が存在していることを、シトー派のベルナールの哲学において明らかにし、そのことをシトー派ロマネスク美術の傑作であるル・トロネやセナンクの修道院建築の現場に立って具体的に解説します。 【キーワード】 ロマネスク美術、シトー派、ベルナール、ル・トロネ、セナンク	青山昌文（放送大学教授）	青山昌文（放送大学教授）
5	ロマネスク美術-輪廻転生のプラトン主義-	ロマネスク美術には、異教的・土着的・民衆的な性格も見受けられます。シトー派とは全く異なるロマネスク教会の現場に立って、そのことを具体的に解説し、あわせてその土着的な輪廻転生観がプラトン哲学にも通底していることを明らかにします。 【キーワード】 ロマネスク美術、柱頭彫刻、輪廻転生、ショーヴィニー	青山昌文（放送大学教授）	青山昌文（放送大学教授）
6	ゴシック美術-内在のアリストテレス主義-	ゴシック美術の根底に、アリストテレス哲学的な内在性が存在していることを、シュジェールの宣言文書において明らかにし、そのことをゴシック美術の傑作であるアミアンやサンドニの教会の現場にたって具体的に解説します。 【キーワード】 ゴシック美術、シュジェール、ステンド・グラス、アミアン、サンドニ	青山昌文（放送大学教授）	青山昌文（放送大学教授）
7	イタリア・ルネサンス美術-ルネサンスの新プラトン主義-	フィチーノの『プラトン『饗宴』注解』を読んで、ルネサンスの新プラトン主義美学を考察し、ボッティチェリの『春』と『ヴィーナスの誕生』がその新プラトン主義美学に見事に即していることを明らかにします。また、ミケランジェロの詩並びに美術作品における新プラトン主義についても考察します。 【キーワード】 フィチーノ、新プラトン主義、ボッティチェリ、ミケランジェロ	青山昌文（放送大学教授）	青山昌文（放送大学教授）
8	イタリア・ルネサンス美術-ルネサンスの政治思想-	ドナテッロ、ヴェロッキオ、ミケランジェロの三芸術家の『ダヴィデ』像などを採り上げて、彼らの政治思想が各々の作品にどのような性格をもたらしているのかを考察します。特に、ミケランジェロの『ダヴィデ』像のもっている強い意味について明らかにします。 【キーワード】 『ダヴィデ』、ミケランジェロ、メディチ家、シニョリーア広場	青山昌文（放送大学教授）	青山昌文（放送大学教授）
9	北方ルネサンス美術-宗教改革と芸術-	ルターの図像論とカールシュタットの原理主義的図像否定論を考察し、ルターの親友クラーナハの描いたルター肖像画の政治的意味や、クラーナハ的女性裸体像の特質を明らかにしたあと、デューラーの美学と彼の作品について、その深い意義を考えてみます。 【キーワード】 ルター、カールシュタット、クラーナハ、デューラー、自然模倣	青山昌文（放送大学教授）	青山昌文（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	バロック美術-対抗宗教改革の芸術戦略-	宗教改革に対抗してカトリック教会が定めた『聖人の取り次ぎと崇敬、遺物、聖画像についての教令』を読んで、対抗宗教改革の理念を確認し、その理念の代表的実践者であるベルニーニの『聖女テレサの法悦』などの作品のもっている情動的でベル・コンポスト的な性格を明らかにします。 【キーワード】 カトリック、聖画像、ベルニーニ、情動、ベル・コンポスト	青山昌文（放送大学教授）	青山昌文（放送大学教授）
11	ロココ美術-ディドロ美学と市民の芸術-	史上初の本格的な美術批評家であるディドロの美学が、近代の主観主義を超える美学であって、今日的な意義をもっている美学であることを明らかにした後、彼の批評したシャルダンやフラゴナール、更にはヴァトーやブーシェ達の美術作品のもっている意味を、作品を前にして具体的に考えてみます。 【キーワード】 ディドロ、美術批評、シャルダン、フラゴナール、ヴァトー、ブーシェ	青山昌文（放送大学教授）	青山昌文（放送大学教授）
12	19世紀美術-革命の時代の芸術-	古典的伝統的絵画の常識を徹底的に転倒させたクールベの『石を割る人々』や『オルナンの埋葬』などの作品がもっている芸術的革命性や、彼の『画家のアトリエ』の政治的理念について、作品を前にして具体的に考えてみます。また、マネの作品の芸術上の革命性についても、作品を前にして具体的に考察します。 【キーワード】 クールベ、主題のヒエラルキー、マネ、平面性	青山昌文（放送大学教授）	青山昌文（放送大学教授）
13	20世紀美術-戦争の世紀の芸術-	20世紀最大のアーティストであるピカソの最も有名な作品『ゲルニカ』について、その豊かな意味を考えてみます。また、シャガールの作品が持っている、20世紀的な深い意味についても作品を前にして具体的に考えてみます。 【キーワード】 ピカソ、『ゲルニカ』、シャガール	青山昌文（放送大学教授）	青山昌文（放送大学教授）
14	現代の芸術-死の影の下の芸術-	第二次世界大戦後のアートシーンを代表するウォーホルの芸術が、単なる表層の戯れに止まるものではなくして、現代社会における死の遍在を鋭く見据えた深い意味をもっていることを明らかにし、あわせてキーファーやアバカノヴィッチのアートの深い現代性についても考えてみます。 【キーワード】 ウォーホル、個性、オリジナリティー、死、キーファー	青山昌文（放送大学教授）	青山昌文（放送大学教授）
15	今日の芸術-環境問題と芸術-	今日の地球のかかえる最大の課題の一つである環境破壊問題を見据えた芸術である環境芸術を採り上げ、スミッソン、タレル、ロングの芸術のもっている意味を考察します。また、社会環境にかかわる芸術としてクリストの芸術についても考えてみます。 【キーワード】 環境、スミッソン、タレル、ロング、クリスト	青山昌文（放送大学教授）	青山昌文（放送大学教授）

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	共通科目（人文系）	科目ｺｰﾄﾞ	1114000	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　日本近現代史　　（’０９）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：小風　秀雅（お茶の水女子大学教授）　〕

講義概要

幕末開港から第二次大戦後の高度成長まで、日本の近・現代史の基本的な流れを、政治・経済・国際社会の視点から、概観する。歴史事実を並べるのではなく、歴史の変化の基本線を追いながら、日本の社会がどのように変化したのか、を構造的に理解できるように構成した。

授業の目標

近・現代史の各時期の特徴を概括的に把握した上で、基本的な変化を理解しつつ、歴史がどのように推移し、現在にいたっているのか、を理解できるようにする。

履修上の留意点

各回ごとに話題が独立しているように見えるが、密接に関係しつつ講義がすすめられるので、全体の構成をみわたしつつ受講してほしい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	開国と開港	幕末の開国と不平等条約の締結は、日本が国際社会に従属的に組み込まれたとされてきたが、不平等条約の機能や、維新以後の国際関係の実態をみると、植民地化の危機があったとはいいにくい状況がみえてくる。この論点を掘り下げる。 【キーワード】 不平等条約、開港、居留地、自由貿易、植民地化の危機	小風秀雅（お茶の水女子大学教授）	小風秀雅（お茶の水女子大学教授）
2	近代化の構想－大久保利通と殖産興業－	東アジアの近代化は、歴史的実態としては、自由貿易の実現による世界市場への包摂であった。日本の近代化にとって、不平等条約の改正とともに経済的自立が最大の目標であった。その実態を、大久保の殖産興業の構想とともに解明する。 【キーワード】 近代化、殖産興業、大久保利通、交通網形成、東北開発	小風秀雅（お茶の水女子大学教授）	小風秀雅（お茶の水女子大学教授）
3	憲法発布と条約改正	明治憲法の制定は、近代的法治国家であることを世界に示し、不平等条約の改正を実現するきっかけとなっただけでなく、日本における近代国家の確立の起点となった。憲法制定と条約改正の歴史的意義を考える。 【キーワード】 明治憲法、条約改正、領事裁判権、井上馨、大隈重信、青木周蔵	小風秀雅（お茶の水女子大学教授）	小風秀雅（お茶の水女子大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	日清戦争とアジア	日清戦争は、世界史的には、日本の勝利と言うよりは中国の敗戦によるアジアの国際秩序の解体というようそのほうが重要であった。日清戦争によって、アジアの国際関係がどのように変化したのかを考える。 【キーワード】 下関条約、三国干渉、中国分割、日英同盟	小風秀雅（お茶の水女子大学教授）	小風秀雅（お茶の水女子大学教授）
5	日露戦争前後の日本外交	幕末以来の朝鮮半島確保という「目標」のため、日本は日露戦争にふみきった。しかし、日露戦後は韓国を保護国化、さらには併合をする一方、日本外交の焦点は満州（中国東北部）の問題に移っていく。その変化を見ていく。 【キーワード】 満韓交換論、日露戦争、満州（中国東北部）、多角的同盟・協商網、韓国併合	千葉功（昭和女子大学准教授）	千葉功（昭和女子大学准教授）
6	「帝国」日本の植民地政策	日本は日清戦争の結果、新たに台湾を領有し、また日露戦争の結果、大韓帝国を保護国化し、さらには併合するに至った。これら新たに「植民地」となった地域の問題を、日本はどのように扱おうとしたのかを見る。 【キーワード】 台湾、朝鮮、植民地、特別統治主義、内地延長主義	千葉功（昭和女子大学准教授）	千葉功（昭和女子大学准教授）
7	上昇期の政党勢力と政治	帝国議会の開設以後、政党（民党）が力をまし、反政党的な藩閥政府も提携せざるを得なかった。さらに、両者が縦断して提携する政党が誕生した。この流れを、自由党―立憲政友会系と改進党―非立憲政友会系の相克から見てみる。 【キーワード】 藩閥政府、民党、縦断政党、立憲政友会、立憲同志会	千葉功（昭和女子大学准教授）	千葉功（昭和女子大学准教授）
8	対中政策の破綻と国際協調の受容	第一次世界大戦中における対中外交の極端から極端へのぶれは、大戦終了とともにその破綻を明らかにしていた。大戦後の日本政府はパリ講和会議・ワシントン会議において、どのように国際協調政策を受容して行ったかを見る。 【キーワード】 反袁政策、援段政策、パリ講和会議、ワシントン会議、国際協調	千葉功（昭和女子大学准教授）	千葉功（昭和女子大学准教授）
9	昭和初期の経済政策論争	第一次世界大戦後の慢性的な不況に対し、政治の主役に躍り出た政党はかつてないほど、自党の政策を国民に積極的にアピールした。それが立憲政友会の産業立国論と民政党の金解禁論である。この論戦の模様を紹介し意味を考える。 【キーワード】 政党内閣　金解禁　昭和恐慌　産業立国	季武嘉也（創価大学教授）	季武嘉也（創価大学教授）
10	「満州国」	満州事変が起こり、そして1932年「満州国」が建国を宣言した。世界注視の中、日本としては立派な国家を建設することが要求され、様々な方面で新たな試みがなされた。その試みと崩壊を検証する。 【キーワード】 満州　関東軍　石原莞爾　溥儀　協和会　新京	季武嘉也（創価大学教授）	季武嘉也（創価大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	選挙粛正と翼賛選挙	1925年から選挙粛正運動が展開された。この目的は買収など選挙違反を徹底的に防止することにあったが、実際は社会のあり方や国民生活を、行政が直接に掌握しようという意図も含まれていた。翼賛選挙につながるその展開過程を探る。 【キーワード】 選挙粛正　翼賛選挙　内務省　町内会　部落会	季武嘉也（創価大学教授）	季武嘉也（創価大学教授）
12	近衛文麿と昭和の戦争	若き日に「英米本位の平和主義を排す」を発表して多くの期待を集めた近衛文麿はその後も順調に政治家の道を歩み、ついには1937年に首相の座につき、以後困難な外交問題に立ち向かうことになった。その彼の軌跡を紹介する。 【キーワード】 近衛文麿　大政翼賛会　近衛上奏文　終戦工作　日米交渉	季武嘉也（創価大学教授）	季武嘉也（創価大学教授）
13	戦後文化とメディア	戦後文化とよばれるものには、ラジオ・映画・テレビなどのメディアを通じて広まったものが多い。各メディアの特徴と展開を踏まえながら、どのような文化が形成され、受容されたかを見る。 【キーワード】 ラジオ　映画　テレビ　メディア　戦後文化	加藤厚子（映画専門大学院大学准教授）	加藤厚子（映画専門大学院大学准教授）
14	転換点としての安保改定問題	1951年サンフランシスコ講和会議で調印された日米安全保障条約は、岸信介首相の強い希望で1960年に改定された。その際に大規模な反対運動が起こったが、改定が決定した瞬間から運動は急速に衰えた。その転換の意味を考える。 【キーワード】 日米安全保障条約　安保闘争　岸信介	季武嘉也（創価大学教授）	季武嘉也（創価大学教授）
15	高度成長−源流からバブル経済まで−	昭和30年に始まる日本の高度成長は、世界でも突出した経済成長であったが、その原形は第二次大戦期の統制経済にあった。日本株式会社の源流を探るとともに高度成長以後の経過についてたどる。 【キーワード】 所得倍増計画、戦時経済、高度成長、石油ショック	小風秀雅（お茶の水女子大学教授）	小風秀雅（お茶の水女子大学教授）

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	共通科目（人文系）	科目ｺｰﾄﾞ	1114115	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 地中海世界の歴史 （’０９）＝（ＴＶ）

－古代から近世－

〔主任講師（現職名）：本村　凌二　（東京大学大学院教授）〕

〔主任講師（現職名）：高山　博　（東京大学大学院教授）〕

講義概要

地中海世界は、古代から現代までヨーロッパのみならず西アジア・北アフリカをその中に取込み、独自の風土と文化、歴史を築いてきた。ギリシア、ローマ、エジプトやマケドニアなどの古代文明はその後のこの地域のみならず世界の歩みの中でも特色ある文明を支えてきたし、イスラムの成立以降はヨーロッパの歴史にも複合的な性格を与えてきた。A・ピレンヌの『シャルルマーニュとマホメット』、F・ブローデルの『地中海』などが明らかにしているように、地中海の歴史は世界史にとって魅力的で豊富な歴史研究の題材を提供してくれる。この講義は、こうした地中海の多面的な歴史を古代から近世まで概観する。

授業の目標

第一の目標は、地中海の多面的な歴史を古代から近世まで概観しながら、風土や文明が歴史の中に刻まれた足跡をたどり、歴史学の魅力を学生たちに伝えることである。第二の目標は、多様な文化的背景をもつ人びとが接触・交流・衝突してきた地中海の歴史を振り返ることにより、グローバル化する現代世界の異文化共存や衝突の問題を考察するための材料を提供し、自らが生きる世界の現在と未来を把握するための視座を提供することである。

履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	地中海世界と文明の創造力	地中海世界は人類の文明史にとって、とてつもない意味をもっている。そこで文字が生まれ、アルファベットが開発され、一神教信仰が誕生した。その影響は現代にいたるまで地球規模の影響をあたえている。この創造力豊かな地中海世界の国家・社会・文化の底流にひそむものをさぐってみたい。 【キーワード】 地中海、島　船、都市国家、オリーブ、ワイン	本村　凌二（東京大学大学院教授）	本村　凌二（東京大学大学院教授） 高山　博（東京大学大学院教授）
2	オリエント世界	現代人の目から見れば、文明の誕生から2千年以上の間、人々は無意識のなかで生きていたという見解がある。この時代の人々には神々の声が聞こえ、ときにはその姿を見ることができたともいう。その痕跡は今日、どのような形で残っているのか。メソポタミアの「ギルガメッシュ叙事詩」やエジプトの「死者の書」などを手掛かりに、神々の世界に生きていた人々の心性にふれてみたい。 【キーワード】 楔形文字、ジッグラト、、ヒエログリフ、ピラミッド、心性	本村　凌二（東京大学大学院教授）	本村　凌二（東京大学大学院教授）
3	東地中海世界の激動と波及	前2千年紀後半になると、メソポタミアとエジプトの狭間にあるシリア・パレスティナ地方は大きな混乱期をむかえる。そこに生きる人々にははやや神々の声は失われつつあったという。だが、それとともに唯一神をあがめる信仰が生まれ、少数の文字で記述するアルファベットが誕生する。このころ人類は新しい意識に目覚めつつあったと言うべきだろうか。混迷の時代を克服する形で成立した世界帝国として、アッシリアやペルシアがあった。その周辺には、一神教のユダヤ人も海洋立国のフェニキア人もポリス成立期のギリシア人もいた。 【キーワード】 アルファベット、アクエイアテン、ハビル、海の民	本村　凌二（東京大学大学院教授）	本村　凌二（東京大学大学院教授）

回		内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	ギリシア世界	高度なオリエント文明の辺境に生まれたポリスはやがて独自の力をもつギリシア文明を築いた。古典期のギリシア世界は世界史のなかで特異であった。このポリス社会のなかで培われた民主政と普遍的・論理的思考は周辺地域に大きな影響をおよぼすようになる、それはヘレニズムとよばれる文明の推進力であった。 【キーワード】 ポリス、民主政、アレクサンドロス、シンクレティズム	本村　凌二（東京大学大学院教授）	本村　凌二（東京大学大学院教授）
5	共和政期ローマ	西地中海のイタリア半島に成立したローマはいかにして地中海世界全域に覇権を築くことができたのか。前2世紀までのローマを共和政ファシズム国家としてとらえながら、やがてまごうことなき世界帝国となっていくローマの興隆史をたどる。 【キーワード】 S・P・Q・R、「父祖の遺風」、内乱の百年、カエサル	本村　凌二（東京大学大学院教授）	本村　凌二（東京大学大学院教授）
6	ローマ帝国と多神教世界	ローマ興隆史の頂点で登場するカエサルという経験を通じて、ローマ人は何を学んだのだろうか。初代皇帝アウグストゥスがもたらした国家の在り方とは？　その後、二百年以上もつづく平和と繁栄の時代は人類史にとっても前例のない体験であった。それにもかかわらず、混迷と危機は忍びよっていた。 【キーワード】 権力と権威、「パンとサーカス」、多神教世界帝国	本村　凌二（東京大学大学院教授）	本村　凌二（東京大学大学院教授）
7	一神教世界帝国と古代末期	3世紀の財政危機、経済危機、政治危機が重なり、社会不安が増幅するなかで、キリスト教信仰は飛躍的な成長期をむかえる。国政の再建はやがて一神教世界帝国という人類史上の新たな局面をむかえる。それは古典古代文明の変貌でもあった。この「古代末期」という時代は20世紀末以後の現代文明と酷似した一面をもっている。その現代史的意味も考える機会にしたい。 【キーワード】 「三世紀の危機」、グローバリズム、地域分裂	本村　凌二（東京大学大学院教授）	本村　凌二（東京大学大学院教授）
8	西地中海の新たなる秩序 ～古代から中世へ？～	古代から中世への移行期は今や大きく書きかえられようとしている。それは文明の没落というよりも変質であった。グローバル化と地域細分化が同時に進むなかで、この時期に向けるまなざしは多種多様である。古代史家と中世史家とのそれぞれの目に映る時代相の異同を語りあう機会にしたい。 【キーワード】 地中海世界の東部と西部、古代末期、中世初期	本村　凌二（東京大学大学院教授） 高山　博（東京大学大学院教授）	本村　凌二（東京大学大学院教授） 高山　博（東京大学大学院教授）
9	東地中海の覇者 ～東ローマ帝国（ビザンツ帝国）の千年～	東ローマ帝国は、西ローマ帝国と異なり、ゲルマン諸族の大移動以後も滅亡することなく、一千年ものあいだ存続した。旧西ローマ帝国領の大半を再征服して東ローマ帝国の基礎を築いたと考えられているユスティニアヌス一世とその皇妃テオドラに焦点を当てて、その理由を考察する。 【キーワード】 東ローマ帝国、ビザンツ帝国、ユスティニアヌス、ギリシア正教	高山　博（東京大学大学院教授）	高山　博（東京大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	三つの文化圏	7～8世紀にイスラーム勢力が北アフリカとスペインを支配するようになると、地中海周辺地域は、ラテン・カトリック文化圏、ギリシア・ビザンツ文化圏、アラブ・イスラーム文化圏が鼎立した状態となる。これら三つの文化圏はどのような違いをもっていたのか。比較して、それぞれの特徴を考える。 【キーワード】 ラテン・カトリック文化圏、ギリシア・ビザンツ文化圏、アラブ・イスラーム文化圏	高山　博（東京大学大学院教授）	高山　博（東京大学大学院教授）
11	ノルマン人と地中海	北フランスのノルマンディから傭兵として南イタリアへやってきたノルマン人たちは、この地に定着して自分たちの国を築き、12世紀にはノルマン・シチリア王国が成立する。イスラム文化、ビザンツ文化、ヨーロッパ文化が並存して栄えたこの王国の特徴を考える。 【キーワード】 ヴァイキング、ノルマン人、南イタリア征服、ノルマン・シチリア王国の成立	高山　博（東京大学大学院教授）	高山　博（東京大学大学院教授）
12	シチリア王国 ～文明の交差点～	中世の地中海周辺地域では異文化に属する人びとの接触は広い範囲にわたって生じていたが、恒常的な接触・交流がなされた場所として注目すべきは、異なる文化圏の境界地域、とりわけ、イベリア半島とシチリア島である。ここでは、シチリア島に焦点を当てて、その異文化交流の実態にせまりたい。 【キーワード】 シチリア島、異文化交流	高山　博（東京大学大学院教授）	高山　博（東京大学大学院教授）
13	地中海における文明の衝突　～十字軍～	地中海における文明の衝突として多くの人びとの脳裏に最初に浮かぶのは、十字軍だろう。この十字軍の歴史のなかで、唯一戦闘を交えず、交渉によって聖地エルサレムを取り戻した十字軍がある。神聖ローマ皇帝フリードリヒ二世の十字軍である。この十字軍に焦点を当てて、「文明の衝突」を考えてみたい。 【キーワード】 十字軍、フリードリヒ二世、文明の衝突	高山　博（東京大学大学院教授）	高山　博（東京大学大学院教授）
14	地中海ネットワーク	ローマ帝国が地中海に君臨していたとき、ローマ人は地中海を「われらの海」と呼んだ。実際、彼らは地中海のほぼ全域を支配下におき、地中海全体の制海権を手にしていた。しかし、西ローマ帝国が滅びた後、地中海は複数の政治勢力が相対立する場となった。この時期、人びとや商品の移動は、どのように変化したのだろうか。 【キーワード】 交易路、交易圏、制海権、商品、商人、旅人	高山　博（東京大学大学院教授）	高山　博（東京大学大学院教授）
15	地中海世界の歴史	現代世界は古代史家には「古代末期」と重なり、中世史家には「中世」的なものを潜ませた世界に映るという。地中海の歴史は、現代に生きる私たちに何を語り、何を教えてくれるのか。歴史家である二人の講師が、自らの研究と体験にもとづいて、それぞれの想いを語る。 【キーワード】 グローバル化、地中海史、地中海研究、時代区分、歴史	高山　博（東京大学大学院教授）	本村　凌二（東京大学大学院教授） 高山　博（東京大学大学院教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	共通科目（人文系）	科目コード	1111000	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 国文学入門 （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：林　達也（駒澤大学教授）〕

講義概要

国文学全般について広い視野から展望するとともに基本的な教養に必要な事項や定説とされる知見に関する情報を提供する。また、学問の基礎作業について注意を喚起する。さらに、先進的な問題をも紹介しつつ概説を超えて研究のスタイルについても参考となるように全体を歴史的に通観する。

授業の目標

日本という風土に生きてきた(あるいは現に生きている人々の生活感覚・風習伝統・感性・息吹をこの国の言葉に託して相対として表現した文学、それは、人間の根源の表現も言うべきものといえる。その日本の文学のありようを、古代から現代に至る流れを相対的に、系統的に学ぶことによって、私たちがどのような表現を獲得し、その可能性に真摯に向かい合ってきたか、私たちの祖先がどのように生きてきたかを把握し、現代に生きる私たちの依って立つ基盤の認識にいたることが、この授業の遠大な目標である。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	はじめに	本講義の目的と方法について述べる。時代別の構成をとらずに、韻文・散文・漢詩文の三分野を柱として講義を展開していることの理由を説くことからはじめて、全体の配置・構成を紹介する。そして、特に、日本古典文学における韻文の問題点がどのあたりにあるのかについて、基本的な考えを示す。	林　達也（放送大学客員教授・駒澤大学教授）	林　達也（放送大学客員教授・駒澤大学教授）
2	歌謡と和歌	韻文の初発に位置付けられる上代歌謡についてその特質を叙述し、万葉集和歌との連続と不連続について考察する中から、和歌原初の形質、万葉集和歌について考察する。さらに、平安から近世までの歌謡についても概観し、歌謡の特質と時代性について言及する。	同上	同上
3	勅撰集の時代	古今集から新古今集までの勅撰集の和歌に即しながら、平安から鎌倉初期に至る時代の和歌について、歌詞や和歌表現の形成、和歌と物語の関わり、和歌の詠まれる場、和歌と評論（歌論）等の諸問題を取り上げ、和歌の定着と展開、その価値について考える。	同上	同上
4	和歌の諸相	勅撰集では新勅撰集・玉葉集・風雅集を取り上げ、中世の自然詠・恋歌を概観する。さらに、応仁の乱以降の和歌について、貴族・連歌師・武人・地方歌人相互の関わりを通して考察し、近世の和歌については、堂上と地下との関連、儒学や国学との交渉の過程からいかなる状況が生じていたのかに言及し、幕末の和歌に及ぶ。	同上	同上
5	連歌と俳諧	平安末期の勅撰集『金葉集』にはすでに連歌が収録されているが、慰み物のであった連歌が、中世中期に至って文芸として盛行する過程を追いながら、連歌の文芸としての価値を見定める。また、連歌から派生し、江戸期に入って文芸の主流となった俳諧については、主要な俳諧師の活動を把握し、俳諧の文芸性、俳諧盛行の意味を考察する。	林　達也（駒澤大学教授）	林　達也（駒澤大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
6	王朝の漢文学	日本文学において漢文学の果たした役割を概観した上で、平安時代を中心に、奈良時代から鎌倉時代前期に至る、主に貴族が担い手となった漢文学について、ジャンルとの交流をも視野に入れつつ考える。	堀川　貴司（鶴見大学教授）	堀川　貴司（鶴見大学教授）
7	禅林の文学	鎌倉時代中期になって新たに漢文学の担い手として登場した禅僧たちの文学について、禅宗寺院という場と社会・政治、特に武家政権との関わりに注意しながら、その変遷をたどっていく。	同上	同上
8	近世の漢文学	儒学者たちによって担われた江戸時代の漢文学について、禅林の文学の継承と否定、同時代の中国の学芸との関わり、学問と文学の分離、漢詩の大衆化など、様々な視点から考え、近代文学との接点についても触れる。	同上	同上
9	ひらがな文学の成立と日記文学の流れ	どのようにしてひらがな体の文章が成立したか、『土佐日記』を例にして考え、以降の日記文学の流れをみる。	古橋　信孝（武蔵大学教授）	古橋　信孝（武蔵大学教授）
10	物語文学の流れ1	歌物語も含め『竹取物語』、『伊勢物語』に始まる物語文学の成立を考え、平安中期の『源氏物語』までの物語文学の流れをみる。	同上	同上
11	物語文学の流れ2	『夜の寝ざめ』など平安後期から江戸期の『雨月物語』までの物語文学の流れをみる。	同上	同上
12	説話文学と随筆文学の流れ	『日本霊異記』、『枕草子』に始まる説話、随筆文学の流れをみる。	古橋　信孝（武蔵大学教授）	古橋　信孝（武蔵大学教授）
13	歴史文学と語り物文学の流れ	『古事記』、『日本書紀』、『大鏡』など歴史文学と、『平家物語』など語り物文学の流れをみる。	同上	同上
14	近代の詩歌	明治以降、西洋の「ポエトリー」の概念が「歌ト詩トヲ総称スル」ものとして導入され、近代文学のジャンルとして誕生した「詩」の、成立と展開、口語自由詩への変容の過程を概観する。	勝原　晴希（駒澤大学教授）	勝原　晴希（駒澤大学教授）
15	近代の小説	明治以降、西洋文明の影響のもとに形成されてきた「小説」というジャンルは、近代社会のあり方に規定される一方で、たとえば言文一致体の創出のように、近代社会を支えてもきたし、さらには近代社会の批判者でもあった。近代社会との相互交渉という観点から、明治以降の小説の様々な様相を概観する。	高橋　博史（白百合女子大学教授）	高橋　博史（白百合女子大学教授）

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	共通科目（人文系）	科目ｺｰﾄﾞ	1114808	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　日本の近代文学　　（’０９）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：島内　裕子（放送大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：安藤　宏（東京大学大学院准教授）　〕

講義概要

明治から第二次大戦後までの日本の近代文学の流れを解説する。ただし必ずしも文学史の概説を目ざすのではなく、毎回、個別のテーマを設定し、具体的な文学表現を読み解きながら表現と時代との相互関係を考察していく。近代文学に関する主要な作家・作品の解説を適宜織り込んでいくが、その際、ジャンルを別々のものとして捉えるのではなく、社会状況、美術などとの関わりを視野に入れながら、総合的に「近代」という時代の特色を明らかにしていく。

授業の目標

①近代文学に関する基礎的な知識を習得する。②その際に個々の具体的な作品に触れ、表現に即した解釈を試みる。③具体的な表現の喚起する問題から、時代が共通して抱えていた課題へと問題意識を広げていく。④その際に小説・詩歌・戯曲など、従来個別に考えられていたジャンルが、互いに浸透し合う様相を理解する。⑤あわせて、「文学」の果たした役割を、近代という時代そのもののなかで捉え直してみる。⑥授業でとりあげた作品に実際に触れ、読書の幅を広げていく。

履修上の留意点

他の日本文学の科目も履修すると、幅広く学ぶことができる。なお、これらの科目の履修順序は特に定めていないので、まずは興味のある科目から順次履修するとよい。
日本文学全般にかかわる科目として、「国文学入門（’08）」。日本文学の名文・名場面を中心に学ぶ科目として、「日本文学の読み方（’09）」。各時代の日本文学を詳しく学ぶ科目として、「日本の古典－古代編（’09）」「日本の古典－散文編（’06）」「日本の古典－江戸文学編（’06）」がある。
その他に、近代日本の歴史や社会を学ぶ科目なども、履修が望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	「小説」というジャンル	日本の近代小説の概要を、授業方針と共に概説する。その上で、明治期の戯作、西洋の翻訳小説などの流れをたどりながら、近代小説がどのような可能性を取捨選択しながら成立していったのかを考察する。 【キーワード】 坪内逍遥、『小説神髄』、森鷗外、没理想論争、二葉亭四迷、言文一致	安藤宏（東京大学大学院准教授）	安藤宏（東京大学大学院准教授）
2	文学と「国家」	西洋列強に追随・対抗すべく、近代日本は国民国家の建設を急いだ。その弊害・歪みや、拡大する国家権力の危険性などの問題を視野に置き、近代国家の形成と文学との関係を具体的に考察する。 【キーワード】 政治小説、文学改良、社会主義、反近代、近代の超克	猪狩友一（白百合女子大学教授）	猪狩友一（白百合女子大学教授）
3	物語と小説のはざまで	当該の時期に規範的な意味を持ち得ていた硯友社の小説の方法や文体、内容の特徴と限界を明らかにし、『舞姫』など同時代小説の比較を試みる。さらに日清戦後の変化を踏まえた史的展望を試みる。 【キーワード】 物語、写実、雅俗折衷体、趣向、民間伝承、観念小説	林廣親（成蹊大学教授）	林廣親（成蹊大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	女性による文学表現	長らく表舞台から姿を消していた女性の表現者たちが、男女同権が提唱された明治期に華々しく復活し、女性解放の流れとともに多彩な活躍を始める様相を、その歴史的背景とともに考察する。 【キーワード】 男女同権、短歌革新、『明星』、『青鞜』、新しい女	猪狩友一（白百合女子大学教授）	猪狩友一（白百合女子大学教授）
5	批評の近代	主として上田敏と岩野泡鳴を取り上げて、近代批評を概観する。その際に、西洋文化の受容としての翻訳と、それが近代の文学創造に果たした役割を考えたい。 【キーワード】 批評、翻訳、『海潮音』、『表象派の文学運動』	島内裕子（放送大学教授）	島内裕子（放送大学教授）
6	〈美術〉と文学	明治初期、西洋から芸術概念が輸入され、〈美術〉という翻訳語が誕生した。絵画・彫刻・音楽等とともに〈美術〉として一括されることで、詩歌や小説に写生などの新しい表現意識が生まれていく過程を考察する。 【キーワード】 美術（芸術）、写実主義、浪漫主義、俳句革新、写生文	猪狩友一（白百合女子大学教授）	猪狩友一（白百合女子大学教授）
7	「明治」から「大正」へ	明治末は小説をめぐる意識が大きく変化し、現代と基本的に地続きの表現の地平が開かれた時代と見ることができる。鷗外や漱石の小説観や作品を視野に入れながら、新世代を象徴する白樺派の小説のありようを明らかにする。 【キーワード】 ゾライズム、美的生活論、自然主義、現実暴露の悲哀、白樺派	林廣親（成蹊大学教授）	林廣親（成蹊大学教授）
8	文壇と私小説	自然主義・反自然主義が対立する中で、「文壇」の存在が小説家たちにどのように意識され、またそれが創作にどのように影響していたのかを、特に日本独特の小説形態であるとも言われる「私小説」の問題として考察する。 【キーワード】 志賀直哉、私小説、自然主義、文壇	安藤宏（東京大学大学院准教授）	安藤宏（東京大学大学院准教授）
9	近代詩の苦闘	西洋詩を範とした新体詩の提唱から近代詩の歩みは始まった。和歌・俳諧などの伝統詩歌も巻き込みながら展開した近代詩の歩みを概観するとともに、近代詩のもたらした「詩」とは何かという問題についても考える。 【キーワード】 新体詩、文語定型詩、象徴主義、口語自由詩、自由律、新傾向俳句	猪狩友一（白百合女子大学教授）	猪狩友一（白百合女子大学教授）
10	大正戯曲時代と小説表現	大正期には多くの小説家が戯曲を試みている。この流行は何によって促された現象なのか。谷崎、芥川、菊池寛、山本有三など『新思潮』から出発した作家を中心にこの問題を考え、小説表現への影響を論じる。 【キーワード】 近代劇、自由劇場、一幕物、菊五郎・吉右衛門、築地小劇場	猪狩友一（白百合女子大学教授）	猪狩友一（白百合女子大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	「大衆」と文学	大衆性という問題を文学史の視野に取り込むことを試みる。明治末に出現した新歌舞伎の表現を考察の契機として、演劇を主軸に大衆的なるものに対する要求の流れと、それに応じて出現した表現の広がりを考察する。 【キーワード】 講談、落語、旧劇、大衆文学、探偵小説、通俗小説	安藤宏（東京大学大学院准教授）	安藤宏（東京大学大学院准教授）
12	第一次大戦後の文学思潮	第一次大戦後の欧州の前衛芸術の流入と関東大震災の影響などから、文学状況が大きく変貌していく過程を考察する。大正期教養主義的な「人格」概念が崩壊し、文学概念が大きく変質していく様相に着目する。 【キーワード】 大正期教養主義、心境小説、新感覚派、ダダイズム、モダニズム	安藤宏（東京大学大学院准教授）	安藤宏（東京大学大学院准教授）
13	文学と政治	現実の政治的要請の中で、近代文学がどのような苦闘を経てきたのかについて、プロレタリア文学の勃興、転向文学、戦中の国策文学、戦後の「政治と文学」論争などの経緯を明らかにしていく。 【キーワード】 プロレタリア文学、文芸戦線、戦旗、マルクス主義、転向文学、「政治と文学」論争	安藤宏（東京大学大学院准教授）	安藤宏（東京大学大学院准教授）
14	批評の成熟	大正から昭和にいたる時代の流れの中で、批評がどのように成熟していったかを、小林秀雄・河上徹太郎・吉田健一を中心に概観する。吉田健一に底流する上田敏以来の批評意識の系譜を浮かび上がらせ、批評のゆくえについて展望する。 【キーワード】 小林秀雄、吉田健一、文学座談会、『批評』	島内裕子（放送大学教授）	島内裕子（放送大学教授）
15	近代小説のゆくえ	「小説」というジャンルが表現方法としてどのような課題を抱えてきたのかを総括的に考察する。「描写」的性格と、「語り」の要素とがどのように対立し、妥協してきたのかを、志賀直哉と太宰治の文体を例に考察する。 【キーワード】 描写、自意識過剰の饒舌体、新劇作派、太宰治、高見順	安藤宏（東京大学大学院准教授）	安藤宏（東京大学大学院准教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	共通科目（人文系）	科目コード	1111108	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 文学の愉しみ （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：柴田　元幸（東京大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：沼野　充義（東京大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：野崎　歓（東京大学准教授）〕

講義概要

専門を異にする複数の主任講師・分担講師によって、20世紀から現代を中心に、世界の文学を概観するリレー形式の講義。3人の主任講師はそれぞれの専門である英米文学、フランス、ロシア・東欧文学を中心に、それ以外の領域も視野に入れて講義をし、現代世界の様々な地域の文学をカバーする。またファンタジー、推理小説などの分野については分担講師が講義する。さらに現在活躍している日本の作家をゲストとしてお迎えして話をうかがい、書き手と読み手の対話を行なう。

授業の目標

現代世界の文学の多様性に触れ、その現代的意義を理解する。また、日本文学も世界文学の中に位置づけて考え、多様でありながら、同時に国境や文化の壁を越えて享受される文学のグローバルなありかたを探る。ただし、何よりも大きな目標は、授業で取り上げた作品を受講者が自分でできるだけたくさん読み、文学を読む愉しさを実際に体験することである。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	全体のイントロダクション＋英米文学① 20世紀末の文学	1980～90年代アメリカの小説を取り上げる。1960年代くらいまでは現代文学といえば前衛、という風潮があったが、70年代なかばごろから、一見素朴なリアリズム小説が主流になってくる。レイモンド・カーヴァーなどの作品を取り上げ、その保守性・現代性を検討しながら、当時のアメリカ社会に流れていた空気もあわせて考えたい。 【キーワード】 ポストモダン、the me decade	柴田　元幸（東京大学教授）	柴田　元幸（東京大学教授）
2	英米文学② 21世紀の英米文学	世紀の変わり目ころから、リアリズム中心だったアメリカ文学が、急速に非リアリズム化してくる。それとともに、ポップカルチャーのさまざまなアイテムが小説の重要な要素となる場合も増えてきた。ポール・オースター、ケリー・リンクなどを取り上げて、近年のアメリカ小説における「現実」の変容について考える。 【キーワード】 ポップカルチャー	柴田　元幸（東京大学教授）	柴田　元幸（東京大学教授）
3	英米文学③ 英語で読む現代世界文学	カズオ・イシグロのように英語で書く日系作家や、村上春樹のように英訳されて広く読まれている作家など、英語圏から見ても「日本」はさまざまな形で見えてくる。「日本」をはじめとして、英語圏からはどのように「世界」が見えるのかを考える。 【キーワード】 グローバリゼーション	柴田　元幸（東京大学教授）	柴田　元幸（東京大学教授）
4	推理小説	古典的探偵小説の代表的な例として、アガサ・クリスティーの『オリエント急行の殺人』を精読し、その小説技法を検討しながら、英米推理小説史の概略についても触れる。推理小説を題材にして、小説一般にも広く応用できるような読み方を提供したい。 【キーワード】 古典的探偵小説	若島　正（京都大学教授）	若島　正（京都大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	日本の作家を迎えて①ゲスト：川上弘美さん	川上弘美さんの代表的作品に即して、その創作方法や文学観をめぐって、書き手と読み手の間で対話を行い、作品の理解を深める。また、この授業で扱う世界の様々な文学を川上さんがどう読んできたか、語っていただき、授業の中間的なまとめとする。 【キーワード】 作家固有の文体、翻訳可能性、日本的幻想	柴田　元幸（東京大学教授）	（聞き手） 柴田　元幸（東京大学教授）
6	フランス文学とその他①	戦後のフランス小説の大きな傾向として、「わたし」による語りが顕著になったことがあげられる。カミュ『異邦人』をその一つの起源として、80年代のポストモダン小説から、近年の「オートフィクション」にいたるまで、フランス流「私小説」の多様さと一貫性を探る。 【キーワード】 オートフィクション、一人称、私小説	野崎　歓（東京大学准教授）	野崎　歓（東京大学准教授）
7	フランス文学とその他②	現代のフランス文学は、むしろ「フランス語文学」と呼ぶべき広がりを示している。旧植民地国出身の作家たちばかりでなく、さまざまな形で移民してきた作家、フランス語を選び取った作家たちが文学を活気づけている現況に焦点を当てる。 【キーワード】 移民、亡命、越境	野崎　歓（東京大学准教授）	野崎　歓（東京大学准教授）
8	フランス文学とその他③	忘れられた過去を掘り起こしたり、現代史のタブーに挑んだりする試みが、近年のフランス小説で注目すべき成果をあげている。文学作品が今日、共同体にとってはたしうる役割のありかを、それらの作品をとおして探ってみたい。 【キーワード】 記憶、現代史、文学と共同体	野崎　歓（東京大学准教授）	野崎　歓（東京大学准教授）
9	日本の作家を迎えて②ゲスト：辻原登さん	現代における「物語」の可能性を意欲的に探求し続ける辻原さんのこれまでの歩みを振り返りつつ、主要作品をめぐって対談を行う。また、辻原さんの文学創造にとって翻訳文学、世界文学を読むことがどのような刺激となってきたかを語っていただく。 【キーワード】 物語、翻訳文学、世界文学	野崎　歓（東京大学准教授）	（聞き手） 野崎　歓（東京大学准教授）
10	ロシア文学	20世紀後半のロシア文学の中から、何人かの傑出した作家や詩人を選んで、それぞれの代表的作品の主題や書き方について検討する。またソ連・ロシアの歴史的背景も視野にいれ、社会と文学の関係を探る。取り上げる作家は、ソルジェニーツィン、ブロツキー、ドヴラートフなど。 【キーワード】 社会主義リアリズム、「反体制」知識人、亡命文学	沼野　充義（東京大学教授）	沼野　充義（東京大学教授）
11	東欧文学	20世紀の東欧文学から、何人かの際立って興味深い作家の代表作をとりあげて、東欧的な特徴とその魅力について考える。取り上げる作家は、クンデラ（チェコ）、シンボルスカ、レム（ポーランド）、パヴィチ（セルビア）など。 【キーワード】 東欧と中欧	沼野　充義（東京大学教授）	沼野　充義（東京大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	世界文学	現代世界の文学には、国や言語を越えて国際的に活躍した作家たちもいれば、その逆に狭い一国の中にとどまりながら、世界的な普遍性を獲得した作家たちもいる。その両者に注目しながら、現代の世界文学のありかたについて考える。取り上げる作家は、ナボコフ、イスカンデル、ガルシア＝マルケス、大江健三郎、リービ英雄、多和田葉子など。 【キーワード】 世界文学	沼野　充義（東京大学教授）	沼野　充義（東京大学教授）
13	ファンタジー	『ハリー・ポッター』、『ロード・オブ・ザ・リングス』、『ナルニア国物語』、『ゲド戦記』など、ファンタジー作品がなぜこれほど読み継がれ、隆盛をほこっているのか。現代社会とファンタジーの関係について振り返ってみる。 【キーワード】 現実と幻想、魔法、成長物語、聖杯探求	小谷　真理（評論家）	小谷　真理（評論家）
14	日本の作家を迎えて③ゲスト：池澤夏樹さん	世界文学に対する広い視野を持ち、世界各地を旅行し、ギリシャ、沖縄、フランスなどに居住してきた池澤氏に、自身の文学をそういった世界的な文脈で語っていただく。また外国語文学を読むことと、翻訳の役割について討議する。 【キーワード】 世界文学全集、「地理型」想像力と「歴史型」想像力	沼野　充義（東京大学教授）	（聞き手） 沼野　充義（東京大学教授）
15	まとめ（共同討議）	3人の主任講師（柴田・野崎・沼野）による共同討議。全体のまとめ。この講座でとりあげられた主要な話題について再検討し、最後に3人の講師それぞれの「文学の愉しみ」方を語って、聴講者に対するメッセージとする。 【キーワード】 日本文学と外国文学、翻訳、言語・文化の境界、文学における伝統とグローバゼーション	柴田・野崎・沼野（共同執筆）	柴田・野崎・沼野

事務局記載欄	開講年度	２０１１年度	科目区分	共通科目（人文系）	科目ｺｰﾄﾞ	1117610	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　言葉と発想　　（’１１）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：伊藤　笏康（聖徳大学教授）　〕

講義概要

言葉の使い方をまとめたのが「文法」だ。しかし不思議なことに、国文法はネイティヴであるわれわれによく分からず、英文法は必ずしもわれわれが英語を学習する助けになっていない。なぜそんなことが起きるのかという問題を出発点にして、「言葉を理解するとはどういうことか」を考えてみようと思う。

具体的には、「ものごとを指し示す言葉」「動作や状態を表す言葉」「話し手の気持ちを表す言葉」の三つの視点から、英語の発想が日本語とどのように違うかを明らかにし、《言葉によって世界の見方がどれほど違ってくるか》を考える契機を提供する。

授業の目標

言葉を用いて何かについて何かを言い表す、とはどういう行為なのだろうか？　この疑問は言葉の本質に関わる大きな問題であると言える。私たちは日常的に使っている日本語を知らず知らずモデルにして、英語も同じように物事を表現していると思っている。だから「訳し方が分かれば英語は分かる」という考えがはびこっている。だが本当にそうだろうか。それぞれの言葉にはそれぞれ表現のシステムがあるのだ。学生の皆さんがそれについて考え、「言葉が違えば世界が違う」ことに気づいてもらうのが本講義の目標である。

履修上の留意点

履修制限等は特には設けないが、受講者が日本語を母語とし、中学校程度の英語の基礎を身に付けていることを前提として講義を進める。

英語・日本語の文法事項の正確な理解が目的なのではなく、事例を通して言葉の持つ性質やその根本に目を向け考えてみる姿勢を持つことが目的であると考えて履修して欲しい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	言葉を見つめる目	言葉が分かるようになるとは、どのようなことだろう。それを考えるために、私たちが中学からずっと学んでいる英語を題材にして考えてみよう。しかしその前に本章では、現代の英語が私たちのイメージとずいぶんちがったものになっていることを指摘しよう。本章では、「国際語」「現地語」「仕事語」「生活語」など、さまざまな英語を紹介し、「言葉が分かる」ということにもいろいろな意味があることを、例を上げて解説する。 そして本講義全体の構成や進め方を概説し、本講義で「何を学んでほしいか」を示す。 【キーワード】 言葉、言語、言語学	伊藤笏康（聖徳大学・教授）	同左
2	英語をどうやって理解するか	英語を分かろうとする努力は、中学や高校を通じて皆してきたはずだ。しかしなぜ英語は「イマイチ」分からないのだろう。日本語で生活してきたわれわれが、今さら英語漬けで暮らすのは無理だ。そんなときにしばしば期待されるのが、1つはネイティヴによる授業であり、もう1つが文法の訓練だ。しかしこれらはけっして、英語教育の切り札にはならない。それがなぜかを考えながら、英語が分かるようになるために真に必要なものは何かを考える。そして、英語の「発想」を知ることの重要さを指摘する。 【キーワード】 文法、技術の習得、科学と技能	伊藤笏康（聖徳大学・教授）	同左

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
3	'cat' は「猫」でよいのか？	私たちが英語を学ぶ時、まず最初にするのは名詞を覚えることだろう。しかし英語の 'cat' は、本当に日本語の「ネコ」と同じことを意味しているのだろうか。というのは、英語の'cat' という形はほとんど使われないからだ。普通使われるのは 'a cat', 'the cat', 'cats', 'the cats' などの形で、'cat' という「裸の単数形」はめったに使用されない。すると私たちが「ネコ」の意味だと思っている 'cat' は何を意味しているのだろう。その問題を考えてゆく過程で、英語の普通名詞は「概念」を意味していることが分かる。 【キーワード】 名詞、概念、個体、内包、外延	伊藤笏康（聖徳大学・教授）	同左
4	普通名詞と固有名詞	日本語の普通名詞「ネコ」は、目の前のネコ個体も指せるし、ネコ概念も指せる。ところが、英語の普通名詞 'cat' は概念を指すだけで、個体の cat を指すことはできない。名詞で個体を指せないと、日常生活はきわめて不便になってしまう。だから何とかして個体を指す名詞を手に入れないといけない。では 'cat' という普通名詞の代わりに、それぞれの猫の固有名を使ったらどうだろう。このような問題提起のもとに、普通名詞と固有名詞の違いを調べてみる。 【キーワード】 普通名詞、固有名詞、個体の指示	伊藤笏康（聖徳大学・教授）	同左
5	"a" を生み出す発想	日常生活の場面で、個体を指すのに便利なのはやはり普通名詞だ。しかし英語の普通名詞は、そのままの形では概念を指してしまうから、個体を指すことができない。ではどのようにしたら、英語の普通名詞で個体を指すことができるだろう。そこで考え出されたのが「冠詞」を使う方法だ。では冠詞は、どのようにして概念しか指せない普通名詞を個体も指せるようにしているのか。冠詞の根底にある発想と、英語にとって冠詞が必要な理由を調べ、不定冠詞 'a' の基本的な働きを明らかにする。 【キーワード】 外延集合、決定詞、不定冠詞	伊藤笏康（聖徳大学・教授）	同左
6	a' の意味・'a' の仲間	辞書には、不定冠詞の訳語が多く載せられている。しかし不定冠詞の発想を知れば、その訳語もわずかな種類に整理できることを指摘する。そして 'cats' のような「裸の複数形」がどのような発想をもとにした表現か、またその日本語訳はどのようにするのがよいかを調べる。また、私たち日本語人にとってよくわからない、'some', 'any' という語の発想を調べ、それらの意味の差を明らかにした上で、不定冠詞と 'some', 'any' のかかわり、そしてそれらの区別を述べる。 【キーワード】 不定冠詞の意味、複数形の意味、'one', 'some', 'any' の意味	伊藤笏康（聖徳大学・教授）	同左
7	the' のはたらきと意味	日本語に直すと、「その」となってしまう英語にはいくつかある。'that', 'the', 'its' などだ。しかしこれらの言葉は、根本の発想がまったくちがう。本章では、これらの言葉を比較しながら定冠詞 'the' の意味を調べてゆく。そして辞書に数多く載っている 'the' の意味も、その基本的な発想を押さえればずいぶん少ない類型に整理できることを示し、かつ不定冠詞 'a' と定冠詞 'the' がきわめて対照的なはたらきをもつことを述べる。文法書で言う、「the の特別用法」も何ら特別でないことが分かるだろう。 【キーワード】 指示代名詞、人称代名詞、定冠詞、定冠詞の基本的意味	伊藤笏康（聖徳大学・教授）	同左

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
8	進行形は「している」でよいか	本章から、英語の動詞を考察することにしよう。そのために先ず、ヨーロッパ語の「ご先祖様」のラテン語の動詞を説明する。そして日本の英語教育では、単純形を「～する」、進行形を「～している」、完了形を「～してしまった」と訳しているが、これが誤りであることを指摘する。なぜなら英語の単純形・進行形・完了形は、日本語の訳語にならない発想を下敷きにしているからだ。その発想を明らかにするため、本章では英語の進行形の根本的な発想を見ることにしたい。 【キーワード】 状態動詞と動作動詞、進行形の意味、作業グラフ	伊藤笏康（聖徳大学・教授）	同左
9	単純形のほんとうの意味	単純形の動詞は、私たちが最初に習う動詞の形だ。しかしこの単純形の本当の意味を、「～する」という日本語で理解しているとしたら、英語の真意はまったく伝わっていないと言ってよかろう。動詞の単純形の訳し方は複雑だ。そのためにまず、状態動詞と動作動詞の区別を導入する。これらの動詞は、文法がまったく違っているからだ。その上で、英語動詞の単純形の発想を述べる。そしてその訳語は、学校文法で習ったものとはまったくちがうはずだ。 【キーワード】 状態動詞、動作動詞、単純形の意味	伊藤笏康（聖徳大学・教授）	同左
10	完了形は「してしまった」でよいか	現在完了の意味を考える。私たちは完了形の意味を「してしまった」と教えられることが多い。しかし英語の現在完了は、こんな意味とは程遠い。しかも私たち日本語人は現在完了を分かりにくいと思っているが、じつは私たちが本当に分かっていないのは英語の過去形なのだ。そのことを念頭に置くと、英語の現在完了が何を言いたいか、つまり「現在完了の発想」は次第に明らかになってくる。完了形はヨーロッパの各言語で意味が微妙にちがう。英語独特の「完了の発想」を調べてみる。 【キーワード】 単純過去形、現在完了形、現在進行形、	伊藤笏康（聖徳大学・教授）	同左
11	行動をまるごとおさえる －アオリスト－	これまで調べた単純形・進行形・完了形は、動作や状態がどのような段階にあるかを述べるものだった。しかしこのほかに、ヨーロッパ語の動詞には状態や動作の段階を無視して、状態や動作全体を俯瞰する「アオリスト」という見方がある。これは英語にも受け継がれていて、とくに過去形や未来形では重要な役割を果たしている。しかし英文法の本でこのことに触れているものは少ない。本章では、このアオリストの見方を英語の基本的な発想の1つとして調べてみよう。 【キーワード】 アオリスト、単純過去、永遠の真理、遂行動詞、現在完了の経験用法	伊藤笏康（聖徳大学・教授）	同左
12	話法の助動詞の発想	私たちが中学校で習う 'can', 'may', 'must', 'should', これらは「話法の助動詞」と言われている。しかし「話法」って何だろう。実はこれらの語は、ヨーロッパ語の文法で特別な位置を占める言葉なのだ。しかも私たちが考えているのとはまったくちがって、話し手の意見や、許諾や、命令を意味する、きわめて主観的な言葉なのだ。中学や高校では教えてもらえない、これらの助動詞の発想を明らかにしてみよう。これらの言葉を不用意に使うことがいかに「こわい」か分かるだろう。 【キーワード】 話法の助動詞、接続法	伊藤笏康（聖徳大学・教授）	同左

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
13	仮定法の発想	中学や高校で習って、今ひとつ分からないのが「仮定法」だ。「もし～だったら、～だろうに」などという訳文を習っても、その真意はピンと来なかった。それもそのはずで、仮定法はもともと客観的な事実を述べるためのものではない。だから12章に述べた、話法の助動詞と同じく、話し手が自分の意見や気持ちや態度を表現するためのものなのだ。この根本的な発想を押さえてしまえば、バラエティゆたかな仮定法をすっきりと見渡せるようになるだろう。 【キーワード】 仮定法、仮定法過去、話法の助動詞、個人的な態度	伊藤笏康（聖徳大学・教授）	同左
14	修飾語の発想	どんな言葉でも、語を組み合わせて「句」を作り、句の並びで「文」を作るという仕方は変わらない。日本語ではこの「語→句→文」の作り方はとても複雑だが、ヨーロッパ語にはとても簡単な規則がある。その代表が修飾だ。ヨーロッパ言語における修飾は、きわめて単純明快な規則を持っており、ネイティヴもそれを体で分かっている。しかしその規則は、日本の英語教育で表立って教えられることはない。このさい、ヨーロッパ語における修飾の感覚を身に付けてしまおう。 【キーワード】 修飾、名詞、動詞、形容詞、副詞、句の形成	伊藤笏康（聖徳大学・教授）	同左
15	SVOCの発想とその限界	本講義の最後に、「英語ネイティヴが体で知っていること」と「文法学者が作った理論」はちがうことを述べておこう。私たちが学校文法で習うSVOC理論は、じつはネイティヴの大半が知らないことなのだ。にもかかわらず、中学や高校でこれが分からないために英語がいやになる生徒も多い。だがその発想はつまらないほど単純だ。だから最後に、ネイティヴの発想ではなく、「文法学者の発想」を話題にしておこう。これは、「文法なんて難しく見えても、その発想を押さえれば簡単だ」というメッセージだ。 【キーワード】 主語、目的語、補語、5文型	伊藤笏康（聖徳大学・教授）	同左

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	共通科目（人文系）	科目コード	1111205	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 人文地理学 （’０８）＝（ＴＶ）

※この科目は「人文地理学（'04）」の一部改訂科目です。
改訂回は、1, 8, 9, 10, 11, 12, 14回です。

〔主任講師（現職名）：小林　茂　（大阪大学大学院教授）〕

〔主任講師（現職名）：杉浦　芳夫　（首都大学東京教授）〕

講義概要

グローバル化がすすむ今日、多様な人間社会はますます複雑に変動し、これをどう認識するかが大きな課題となっている。大学レベルの人文地理学初学者のための入門として、まずその古典的視角の解説からはじめて、人間の環境への適応や環境改変、立地論、人間の空間行動などに関する枠組みを概観するとともに、それにあわせて発展してきた計量的手法や地理情報システム(GIS)を紹介する。さらにそれを基礎として今日の世界や日本の多彩な問題の理解にむけた課題を検討する。

授業の目標

現代の人文地理学の理解に必要な知識を身につけるとともに、変化の急速な社会の理解に有用な地理学的枠組みや手法について概観をえる。またこれらの理解の上に、福祉やジェンダーなど、現代的問題へのアプローチの方法に接することもめざす。あわせて、高等学校までの地理のイメージのリニューアルをはかりたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	変動する世界へのアプローチ―人文地理学とはどんな学問か― （※改訂回）	グローバル化がすすむ今日、地球上の多様な人間社会はますます複雑に変動し、これをどう認識するかは私たちの大きな課題となっている。近年の変化を大きく「時間と空間の圧縮」としてとらえ、人文地理学がその理解にどのように貢献できるか検討し、あわせて本講義の概要を示す。 【キーワード】 時間と空間の圧縮、国際化、流行病の拡散	小林　茂（大阪大学大学院教授）	小林　茂（大阪大学大学院教授）
2	地理的知識の発展と地図	世界の人びとは、自分たちの居住地に関する地理的知識を蓄積し、それをさまざまな手段で表現してきた。地図はそれらを視覚的に統合する媒体として大きな役割をはたし、正確さをましながら多彩に発展してきた。地理的知識の発展について、その地図的表現の歴史をみながら概観したい。 【キーワード】 地図、先住民、探検、測量、世界観	久武哲也（甲南大学教授）	久武哲也（甲南大学教授）
3	人文地理学の先駆者と古典理論	19世紀には、人文地理学の基礎となる3つの課題に関心が展開した。第1は人類の環境への適応および環境の改変で、アレクサンダー・フォン・フンボルトらによって展開された。第2は「地域の個性」の認識で、カール・リッターらによって推進された。第3は「空間と立地」で、フォン・チュウネン以降、立地論として進歩する。時代的背景と結びつけてこれらを概観する。 【キーワード】 環境、適応、地誌、立地論	久武哲也（甲南大学教授）	久武哲也（甲南大学教授）
4	環境への適応	人びとの環境への適応が、さまざまな戦略や方法で実現されてきたことを、具体例(ネパールの中間山地農村におけるマラリアに対する文化的適応と生物学的適応)を紹介しつつ解説する。その生活様式、民族分布、集落分布との関係など、関連する問題を概観し、環境への適応の意義を考える。 【キーワード】 マラリア、文化的適応、生物学的適応、集落立地	小林　茂（大阪大学大学院教授）	小林　茂（大阪大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	資源利用と景観	環境への適応の一局面である資源利用が、景観の形成に密接にむすびついていることを、具体例(福岡県太宰府市の農業水利と里山利用)を紹介しながら解説する。また資源利用の変化が景観をどのように変化させるかについても具体例に即して示し、景観のもつ意味について考える。 【キーワード】 農業水利、里山、土地利用、都市化	小林 茂 (大阪大学大学院教授)	小林 茂 (大阪大学大学院教授)
6	農村・定期市・都市 －中心地論からみた地理空間－	農村空間を背景に都市的集落が成立するプロセスを中心地論から説明する。まず経済発展の低い段階では定期市システムが成立することを、スタインのモデルを用いて説明する。ついで、定期市システムを克服して都市的集落の階層的配置(中心地システム)が成立することを、クリスタラーのモデルを用いて説明する。 【キーワード】 中心地、定期市、都市、商業	石原 潤 (奈良大学教授)	石原 潤 (奈良大学教授)
7	計量革命	1950年代中葉のアメリカ地理学界で起こった計量革命(地理学の理論化・数量化の動き)は、世界の地理学の学問内容を刷新した。計量革命の背景を当時のアメリカの社会や地理学界の現況と関係づけて説明するとともに、計量革命がめざした新しい地理学(「空間の科学」としての地理学)について概説する。 【キーワード】 戦時地理学、地域科学、コンピュータ、計量地理学	杉浦芳夫 (首都大学東京教授)	杉浦芳夫 (首都大学東京教授)
8	都市システム **(※改訂回)**	都市のシステム論的な記述・分析は、1960年代から人文地理学にとりこまれる。複数の都市間の機能的な関係を特定する都市群システムの視点と、都市内部の部門間の関係から1つの都市をシステムとみなす都市内部システムの視点から研究が推進された。これらにより、都市システムが、どのように記述・説明され、さらには予測されているかを述べる。 【キーワード】 都市群システム、都市内部システム、因子生態研究、都市モデル	矢野桂司 (立命館大学教授)	矢野桂司 (立命館大学教授)
9	GIS革命 **(※改訂回)**	1980年代後半に始まる地理情報システム(GIS: Geographic Information Systems)革命は、紙地図からデジタル地図というIT技術の地理学の導入にとどまらず、地理情報システムを地理情報科学へと展開させた。この革命がどのように進展したのかを紹介し、バーチャル空間などの新しい概念の地理学への影響などについても言及する。 【キーワード】 地理情報システム、地理情報科学、バーチャル空間	矢野桂司 (立命館大学教授)	矢野桂司 (立命館大学教授)
10	生活空間と福祉 **(※改訂回)**	生活の質(QOL)や福祉について、人文地理学に特徴的な見方(地域的不平等、空間的近接性、身体－環境関係など)が、福祉の問題の把握・理解・解決に有効であることを、具体例によりGISを使いながら説明する。 【キーワード】 福祉、地域的不平等、空間的近接性、身体－環境関係	宮澤 仁 (お茶の水女子大学准教授)	宮澤 仁 (お茶の水女子大学准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	ジェンダーと都市空間 （※改訂回）	現代社会の理解にジェンダーの視点は欠かすことができない。それは、現代の都市空間とそこでの生活を理解する上でも同様である。ジェンダーの視点から、都市の空間構造や居住地選択、生活行動の時空間パターンなどの特徴を、GISによりながら明らかにする。 【キーワード】 ジェンダー、居住地選択、時間地理学	宮澤 仁 （お茶の水女子大学准教授）	宮澤 仁 （お茶の水女子大学准教授）
12	情報と現代空間 （※改訂回）	交通・通信技術の発展と普及は、移動やコミュニケーションにかかる時間を大幅に短縮することで、現代の経済活動と社会生活に利便性と大きな可能性を与え、その空間構造を変化させている。複数のトピック（産業立地やセキュリティ）を取り上げ、情報と現代空間の関係に言及する。 【キーワード】 情報、バックオフィス、遠隔医療	宮澤 仁 （お茶の水女子大学准教授）	宮澤 仁 （お茶の水女子大学准教授）
13	発展途上国の都市生活	郊外化・情報化のすすむ先進国の都市に対して、発展途上国では、農村から都市への人びとの移動が継続し、そのなかには国境を越える場合もすくなくない。その結果発生してきた都市のスコッター地区の生活にくわえ、施設の未整備や不充分な行政サービスなどの問題を検討する。 【キーワード】 発展途上国　都市、スコッター、コミュニティー形成、	池谷和信 （国立民族学博物館教授）	池谷和信 （国立民族学博物館教授）
14	発展途上国の環境問題－サハラ以南アフリカからの展望－ （※改訂回）	自然保護思想が普及し、世界遺産（自然遺産）や国立公園のような自然保護区の面積が増えている。野生動物観光が盛んなアフリカでは、保護区の設立にともない住民は区外へ移住を余儀なくされたり、住民と政府との間で軋轢が生まれている。アフリカでの自然と人との関係の地域性に注目して、保護区における持続的な資源利用のあり方について考える。 【キーワード】 自然保護区、先住民、資源利用、観光	池谷和信 （国立民族学博物館教授）	池谷和信 （国立民族学博物館教授）
15	人文地理学と現代	現代社会における人文地理学研究の役割の例示にむけて、多摩ニュータウンを対象に、前章までに示された手法を援用して分析し、その人々の居住との関係を検討する。ベッドルーム・タウンとして開発されたニュータウンが、高齢者や既婚女性にとってはかならずしも住みやすくないことを示し、場所の理解にいたる人文地理学研究の道を示す。 【キーワード】 ニュータウン、高齢者、既婚女性、場所の理解	杉浦芳夫 （首都大学東京教授）	杉浦芳夫 （首都大学東京教授）

事務局記載欄	開講年度	２０１１年度	科目区分	共通科目（人文系）	科目コード	1117815	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 博物館概論 （’１１）＝ （ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：吉田　憲司　（国立民族学博物館教授）　〕

【本学担当専任教員：内堀　基光　（放送大学教授）　】

講義概要

博物館は、単なる過去の遺物の貯蔵庫ではなく、過去と現在の知識と記憶を次代につなげ、未来を作り上げる装置でもある。社会と文化を構築する装置としての博物館の成り立ちとその問題点を検証したうえで、広く国内外に目をむけて現代における博物館の多様な活動のありかたを実践に即した形で把握し、さらにその将来に向けた可能性を展望する。

授業の目標

博物館は、学術研究の成果を広く社会と共有し、新たな社会を築きあげていくうえで、その最前線に位置する装置である。この授業は、博物館活動の大要を把握するとともに、博物館の諸活動に従事するのに不可欠な基礎的知識を、理論、倫理、実践の各分野にわたって総合的に習得することを目標とする。博物館における営みの細部が、博物館の使命と可能性に直接結びついていることを具体例に即して示し、将来博物館の実務に従事する者には誇りをもってその作業に携わることのできる基礎が体得できることを、また知的関心から博物館を学ぼうとする者にはその現代文明における意義が簡明に理解できることをめざす。

履修上の留意点

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	博物館・入門	日本の博物館関係法令について詳論し、それらの法令に基づく「博物館」の定義や、制度、分類、学芸員資格等を確認するとともに、その現在のありかたについて、国際的な視野から位置づけをおこなう。 【キーワード】 博物館法、ICOM(国際博物館会議)、学芸員（キュレイター）、倫理規定	吉田憲司（国立民族学博物館教授）	吉田憲司（国立民族学博物館教授）
2	博物館の歴史	諸外国ならびに日本の博物館の歴史と現状について論じる。具体的には、17世紀ヨーロッパの驚異の部屋から、公共博物館・美術館の成立、さらには近・現代の博物館・美術館の展開まで、世界と日本におけるミュージアムの歴史と現状を概観し、博物館・美術館におけるわたしたちの「経験」の成り立ちを考える。 【キーワード】 驚異の部屋、博物学、大英博物館、ルーヴル美術館、民族学博物館、近代美術館	吉田憲司（国立民族学博物館教授）	吉田憲司（国立民族学博物館教授）
3	博物館における収集	収集は、博物館にとってもっとも基礎的な作業である。と同時に、その行為は世界の切り取りに他ならない。したがってそこには、限界がともなうと同時に、倫理的な問題もまた常につきまとう。欧米と日本におけるコレクターとそのコレクションを点検するとともに、倫理的な視点から、コレクションの収集・返還の問題を検証し、さらには無形の文化遺産の収集方法としての映像記録の在り方を検討する。 【キーワード】 コレクション、権力、先住民族、収集のガイドライン、映像記録、資料の返還	吉田憲司（国立民族学博物館教授）	吉田憲司（国立民族学博物館教授） 久保正敏（国立民族学博物館教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	博物館における展示 I—文化の表象の現在	現在、世界各地の博物館・美術館のあいだでは、従来の展示に潜む既成の価値観に縛られた表象の図式を掘り起こす作業が積極的に進められている。そして、その成果をふまえて新たな表象の様式を模索する試みも展開されつつある。それら、近年の取り組みを概観し、博物館・美術館展示の新たな可能性をさぐる。 【キーワード】 異文化、自文化、表象、モダニズム、共同作業	吉田憲司（国立民族学博物館教授）	吉田憲司（国立民族学博物館教授）
5	博物館における展示 II—展示の技法	博物館や美術館は、単にものやそれにかかわる情報の保存・伝達の装置というだけでなく、新たな意味・情報を創出する装置でもある。そして、その意味の創出の最前線にあるのが、展示という行為にほかならない。ここでは、展示という営みのもつ、このような性格に配慮しながら、具体的な展示の技法について検討する。 【キーワード】 視線、動線、ハンズ・オン、ジオラマ、ホワイト・キューブ、ユニバーサル・デザイン	吉田憲司（国立民族学博物館教授）	吉田憲司（国立民族学博物館教授）
6	博物館資料の整理と情報化	博物館は、モノとそれを取り巻く情報の集積庫である。博物館における情報をいかに蓄積し、整理し、発信に備えるか。データベースの実際を把握し、その今後の展開の指針を提示にする。 【キーワード】 データベース、アーカイヴズ、情報リテラシー、知的財産と倫理	久保正敏（国立民族学博物館教授）	久保正敏（国立民族学博物館教授） 吉田憲司（国立民族学博物館教授）
7	博物館資料の保存と活用 I —保存環境とIPM	貴重な資料・作品を次代に伝えることは、博物館の中核的使命である。そこには、保存と活用という、一見相反するかに見える作業の両立が求められる。保存科学の視点から、活用を前提にした資料の保存の実際を紹介する。 【キーワード】 保存環境、IPM（総合的有害生物管理）、修復	園田直子（国立民族学博物館教授）	園田直子（国立民族学博物館教授）
8	博物館資料の保存と活用 I —梱包、輸送と収蔵設備	活用を前提にした保存のあり方を、取り扱いの基本とともに、収納、梱包の面から検討する。博物館・美術館における収蔵施設の現状を把握するとともに、日常的な資料管理から文化財輸送の現場まで点検し、そこに通底する技術と理念を明らかにする。 【キーワード】 史料の取り扱い、収蔵、点検、梱包、輸送	園田直子（国立民族学博物館教授）	園田直子（国立民族学博物館教授） 吉田憲司（国立民族学博物館教授）
9	博物館における教育 I —学校教育との連携	博物館は、教育施設としての機能も備えている。博物館と学校教育の連携の現状と課題を、国内外の事例に基づきながら検討する。 【キーワード】 社会連係、学校教育、アウトリーチ、子供博物館、	布谷知夫（滋賀県立琵琶湖博物館名誉学芸員）	布谷知夫（滋賀県立琵琶湖博物館名誉学芸員） 吉田憲司（国立民族学博物館教授）
10	博物館における教育 II—生涯教育の展開	博物館は、学校教育ばかりでなく、生涯学習の機関としての重要性をますます高めている。子供博物館に始まり、年齢・興味の異なる多様な利用者の参加をもとに作り上げる博物館のありかたを考える。 【キーワード】 体験型博物館、参加型調査、ボランティア活動、ユニバーサツデザイン	布谷知夫（滋賀県立琵琶湖博物館名誉学芸員）	布谷知夫（滋賀県立琵琶湖博物館名誉学芸員） 吉田憲司（国立民族学博物館教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	地域コミュニティと博物館	地域コミュニティに根差した活動を展開することにより、博物館は、その地域の人びとの誇りやアイデンティティーの核となり、地域の活力の源泉となっていく。先駆的な活動例の紹介を通じて、博物館の可能性を再考する。 【キーワード】 地域コミュニティ、アイデンティティ、ローカル・ミュージアム、エコ・ミュージアム	布谷知夫（滋賀県立琵琶湖博物館名誉学芸員） 吉田憲司（国立民族学博物館教授）	布谷知夫（滋賀県立琵琶湖博物館名誉学芸員） 吉田憲司（国立民族学博物館教授）
12	文化遺産と博物館	博物館は、有形の文化遺産の貯蔵庫であるばかりでなく、無形の文化遺産の集積と継承の装置でもある。UNESCOによる世界文化遺産指定の光と影が明らかになってきた今日、文化遺産の創造的継承の装置としての博物館の使命と課題を考える。 【キーワード】 世界遺産、有形文化遺産、無形文化遺産、UNESCO、伝統	吉田憲司（国立民族学博物館教授）	吉田憲司（国立民族学博物館教授）
13	記憶と博物館	歴史的な記憶をいかに次の世代に語り伝えるか、個人の記憶と集団の歴史認識とをいかに調停するのか。博物館は、こうした歴史記憶の伝承の装置としても重要な役割を担っている。国内外の事例の検討を通じて、歴史、記憶と博物館の新たな関係を考える。 【キーワード】 歴史、記憶、想起、伝承	吉田憲司（国立民族学博物館教授）	吉田憲司（国立民族学博物館教授）
14	デジタル技術とミュージアム	デジタル技術の発展は、博物館における観覧車の経験のあり方に、新たな次元を付け加えつつある。「モノ」の集積に第一義的な価値を置く博物館が、デジタル技術をいかに取り込み、展開しうるのか。先導的な事例の検証をもとに、デジタル・ミュージアムの未来像を展望する。 【キーワード】 デジタル・ミュージアム、バーチャル・ミュージアム、	久保正敏（国立民族学博物館教授）	久保正敏（国立民族学博物館教授） 吉田憲司（国立民族学博物館教授）
15	フォーラムとしてのミュージアム―新たな時代の博物館にむけて	新たな時代の博物館像は、収集や展示の担い手である博物館関係者と、それら収集・展示の対象になっている文化の担い手、そしてその博物館の利用者という三者の出会いと相互啓発の場、すなわちフォーラムとしてのミュージアムに求められよう。博物館の現在を総括するとともに、フォーラムとしてのミュージアムに向けた具体的指針を提示する。 【キーワード】 フォーラム、出会い、対話、国際協力	吉田憲司（国立民族学博物館教授）	吉田憲司 久保正敏 園田直子 （ともに国立民族学博物館教授） 布谷知夫 （滋賀県立琵琶湖博物館名誉学芸員）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	共通科目（社会系）	科目ｺｰﾄﾞ	1120204	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　仕事・所得と資産選択　　（’０８）＝（R）

〔主任講師（現職名）：大藪　千穂　（岐阜大学教授）　〕

講義概要

会社に就職しまじめに働いていれば終身雇用が保証され年功序列型賃金体系のなかで給料は上がり、貯蓄をして、退職金をもらい年金を受給して‥‥という時代はもはや終わった。今日では、主体的に仕事と所得を考え、資産を選択することの必要性がますます高まっている。本科目では、主体的に生活およびその経済的側面のありかたをデザインするてがかりを受講者が得るための、知識の提供と検討能力の育成を行うことを目的とする。

授業の目標

全15回の講義を通じて、様々なライフステージ、ライフサイクル、ライフスタイルで必要となる生活とお金との関係を理解し、自ら自立した人間として、自分の生活とお金をコントロールできる力を養うことを目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	戦後の経済変化と生活	第二次世界大戦から60年以上が過ぎたが、その間にわが国は高度経済成長期、石油ショック、バブル経済を経て、長い不況期と好況期等様々な経済の変化を経験してきた。このような経済の変化によって生活は常に影響を受けている。経済の変化と生活は密接な関係にあることを解説する。 【キーワード】 高度経済成長、バブル経済、平成不況	大藪千穂(岐阜大学・教授)	大藪千穂(岐阜大学・教授)
2	外国の家計研究の歴史	外国の家計研究の歴史を、エンゲル以前、エンゲル、そしてエンゲル以後に分けて学び、エンゲル法則の活用について理解する。 【キーワード】 エンゲル、エンゲル係数、エンゲル法則、エンゲル関数	大藪千穂(岐阜大学・教授)	大藪千穂(岐阜大学・教授)
3	わが国の家計調査の歴史	家計簿が何のために何時ごろから使われ始めたのかをわが国の歴史から紹介し、どのように家計分析が国家経済のために活用されてきたかを理解する。また、現在よく使われる家計関連の調査とその活用方法を紹介する。 【キーワード】 政治算術、家計調査、生計費、家計	大藪千穂(岐阜大学・教授)	大藪千穂(岐阜大学・教授)
4	家計収支と家計簿の活用	国民経済の中の家計の位置を確認する。また、家計の収支関係に基づいて、一般的に用いられている家計簿のつけ方について紹介する。また家計簿を用いた家計分析について理解する。また家計をめぐる様々な法則について理解し、それらを家計チェックに活用できることを目指す。 【キーワード】 国民経済、家計収支、必需品、消費水準、消費者物価指数	大藪千穂(岐阜大学・教授)	大藪千穂(岐阜大学・教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	ライフサイクルと貯蓄、負債	人生にはそれぞれのライフステージがある。幼少時代、学校教育期間、就職、結婚、出産、熟年時代、退職、老後・・・・。人によって異なるが、一般的に通過するステージとその時にかかる費用を紹介し、生涯賃金との関係で貯蓄、負債の現状を理解する。 【キーワード】 ライフサイクル(生活周期)、ライフステージ(家族周期段階)、貯蓄、負債	大藪千穂(岐阜大学・教授)	大藪千穂(岐阜大学・教授)
6	社会保障と家計	一生、健康で元気に働ければよいが、人生には病気やケガなど予期せぬ出来ごとがおこるものである。そのような時のために、どのような保障があるのか、また自助努力で準備しなければならない保険にはどのようなものがあるか、その金額はどれほど必要なのかを紹介する。 【キーワード】 社会保険、社会福祉、公的扶助	大藪千穂(岐阜大学・教授)	大藪千穂(岐阜大学・教授)
7	若い人の仕事と生活設計	フリーターやニートという言葉が一般化してきたが、近年、若い人の就職が大きな問題となっている。日本型雇用制度が崩れている今、若い人の就職に対する意識、就職率、離職率の推移から、若年層のライフスタイルと経済について紹介する。そして自立した生活をするにはどのような生活設計をたて、またそれらの支援策はどうあるべきかを考える。 【キーワード】 フリーター、パート、アルバイト、ニート、ロストジェネレーション	大藪千穂(岐阜大学・教授)	大藪千穂(岐阜大学・教授)
8	結婚と離婚の経済	女性は24歳頃に結婚し、寿退職、専業主婦になり、子どもを育てる・・・という時代はほぼ終わった。今や女性の平均初婚年齢は27歳を超え、仕事を続ける女性も増えた。結婚は、経済的安定を得る方法ではなくなりつつある。また、女性の経済的安定ゆえか離婚率も上昇している。現在の結婚観と離婚観から、結婚と離婚の経済について紹介する。 【キーワード】 晩婚化、パラサイト・シングル、熟年離婚、年金分割制度	大藪千穂(岐阜大学・教授)	大藪千穂(岐阜大学・教授)
9	共働き世帯と片働き世帯の経済	女性の自立や経済的安定のために共働き世帯が増加しているが、共働きと言っても、特に女性の就労形態によって、家計はかなり異なる。また、片働き世帯との家計の中身の比較を行うことによって、家計の何が違ってくるのかを理解する。 【キーワード】 共働き世帯、専業主婦世帯、母子世帯、父子世帯	大藪千穂(岐阜大学・教授)	大藪千穂(岐阜大学・教授)
10	教育と子への投資効果	子どもを生むだけでもお金はかかるが、近年は教育期間が長いので、大学まで卒業すると軽く1000万円を越す時代となった。どの教育段階で、どれほどの資金が必要で、その資金をどのように準備すればよいのか、また、それだけの投資効果は果たしてあるのか等、教育費が家計に与える影響について紹介する。 【キーワード】 義務教育費、学校教育費、学校外活動費、教育費の準備	大藪千穂(岐阜大学・教授)	大藪千穂(岐阜大学・教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	団塊世代と資産運用	団塊世代の大量退職が現実となってきているが、今後、その世代が消費や資産運用に及ぼす影響は大きい。団塊の世代の退職後の生活設計とそれを実現するために必要な資産運用について紹介する。 【キーワード】 団塊の世代、2007年問題、資産運用	大藪千穂(岐阜大学・教授)	大藪千穂(岐阜大学・教授)
12	高齢者世帯の生活と家計	高齢者世帯と言っても、勤労者の場合と無職の場合、単身の場合と夫婦の場合等、家計状態が様々であることを紹介する。また、高齢期の生活に必要な金額の算出方法を知り、どれほどの貯蓄が必要か、高齢期の生活設計の必要性を理解する。 【キーワード】 超高齢社会、少子高齢社会、社会保障費、消費者問題	大藪千穂(岐阜大学・教授)	大藪千穂(岐阜大学・教授)
13	生活者を取り巻く新たな経済・社会情勢	生活者は、綿密な生活設計をしていても、社会政策や経済変動など、手の届かない場所で生じする変化の影響を直接受けてしまう。近年の格差社会の出現はその例である。また、情報不足から、多重債務や自己破産などの消費者問題にも巻き込まれる人が増加している。このような新たな社会情勢について紹介する。 【キーワード】 格差社会、新しい貧困、多重債務、自己破産、電子マネー	大藪千穂(岐阜大学・教授)	大藪千穂(岐阜大学・教授)
14	情報化社会の生活	コンピュータやケイタイが広く普及した現在、情報は、日常生活のあらゆる局面を左右するに至っている。本章では、仕事や資産活用をはじめとして、生活の様々な事柄に対して、私たちは情報をどのように利用したらよいか、さらに、生活者の側から、どのような情報化社会を創っていけばよいかを考える。 【キーワード】 情報活動、意思決定、インターネット、セキュリティ、リスク・マネージメント、デジタル・デバイド、ユビキタス	杉原利治(岐阜大学・教授)	杉原利治(岐阜大学・教授)
15	持続可能な社会と生活	資源やエネルギー問題は家計と無関係ではない。21世紀が真に豊かな時代となるためには、私たちひとりひとりが、価値観やライフスタイルを見直す必要がある。本章では、日常生活の視点から、地域社会、そして地球規模の課題への生活者の寄与のあり方を考え、持続可能な社会を展望する。 【キーワード】 つながり、人的資産、社会的責任、社会的事業、パートナーシップ、持続可能、ライフスタイル	杉原利治(岐阜大学・教授)	杉原利治(岐阜大学・教授)

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	共通科目（社会系）	科目コード	1120506	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 現代世界の結婚と家族 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：宮本　みち子(放送大学教授)〕

〔主任講師（現職名）：善積　京子(追手門学院大学教授)〕

講義概要

先進国では、社会システムとしての結婚と家族の大きな変動が、その他の社会システムに大きな影響を及ぼし、人々の生活や人生の様相を変えつつある。晩婚化・同棲の一般化、婚外出産の増加、高い離婚率、出生率の低下、家族の脱制度化と個人化が進行し、いまや標準的な家族モデルは消失しつつあるといわれている。一方、経済発展の続くアジアの国々でも、結婚と家族の変容は顕著で、しかも変化のスピードは欧米諸国の経験より早い。そこで、この科目では、現代の結婚と家族の動向を比較文化の視角で見ていきながら、社会タイプの違いを超えて共通する傾向と、独自の特徴を整理する。

授業の目標

現代社会の動態と、それにともなってどのような課題があるかを学ぶ。授業を通して、結婚と家族のゆくえを広い視点から展望することを目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	人口統計からみた世界の結婚・家族	欧米の先進諸外国の後を追って、日本、そして他のアジア諸国でも人口転換による少子高齢化が進んでいる。結婚年齢・婚姻率・同棲率・世帯形態などの人口動態統計資料から、日本の結婚・家族の特徴と変容を世界の地域や欧米・アジア諸国との比較から考察していく。 【キーワード】 婚姻率、同棲率、世帯構成、少子化、高齢化	善積　京子（追手門学院大学教授）	善積　京子（追手門学院大学教授）
2	結婚と家族形成	欧米諸国でも工業化するアジアでも、晩婚化が進み、結婚の形態も変化している。そこで、結婚と家族形成に関する意識と行動を日本・欧米・アジアの国々を比較しながらみる。また、離婚・再婚とそれにともなう諸現象をみていく。また、変動する結婚・家族を対応した社会的サービスについて述べる。 【キーワード】 制度としての結婚、ライフスタイルとしての結婚、個人化する結婚、結婚観、離婚	宮本みち子（放送大学教授）	宮本みち子（放送大学教授）
3	親密なパートナー関係の多様化と結婚	欧米諸国では、法律婚以外の親密なパートナー関係として、異性間や同性間の同棲やパートナーシップ登録が制度的に認められている。その変化の背景を概観し、法的保障の内容を紹介する。さらに、日本における法律婚以外の親密なパートナー関係に対する歴史的対応および現状を捉える。 【キーワード】 法律婚、事実婚、同性婚、パートナーシップ登録制度	善積　京子（追手門学院大学教授）	善積　京子（追手門学院大学教授）
4	グローバル化する家族	欧米諸国でもアジアでも、現代の家族はグローバル化の影響を強く受けている。外国人家事労働者の雇用が一般化している社会も多く、国際結婚も急増している。子どもの教育のための教育移民という現象もある。とくにアジアの事例を中心に紹介しながら、日本の現状を振り返る。 【キーワード】 国際移動の女性化、再生産のグローバル化、外国人家事労働者、国際結婚、越境結婚	落合恵美子（京都大学大学院教授）	落合恵美子（京都大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	子育てと家族(1) ―アメリカ―	子育ては私事として基本的に家族にまかされるアメリカ社会であるが、父親の育児参加率は北欧と並んで高く、民間の育児支援活動も盛んに行われている。育児期の男女がどのようにして家庭と仕事を両立させているのか、さまざまな階層や民族の背景に注目しながら具体的にみていく。 【キーワード】 働く母親、1人親家族、自由主義、二重構造、NPO、家族と医療休暇法、ファミリー・フレンドリー企業、祖父母の孫育て、父親の育児	舩橋 惠子 (静岡大学教授)	舩橋 惠子 (静岡大学教授)
6	子育てと家族(2) ―フランス―	子どもは社会の宝として育児の社会保障を早くからすすめてきたフランス社会であるが、父親の育児参加率はアメリカや北欧と比べて停滞気味である。豊富な保育・教育制度を利用して、育児期の男女が家庭と仕事のバランスをとっていく様を、階層や歴史文化に注目しながら具体的にみていく。 【キーワード】 親子関係、母親の就労継続、家族手当、エコール・マテルネル、保育、育児休業、選択の自由	舩橋 惠子 (静岡大学教授)	舩橋 惠子 (静岡大学教授)
7	子育てと家族(3) ―スウェーデン―	スウェーデンでは、子どものいる家族への社会的支援制度の充実を図り、社会全体で子どもを育むシステムを構築している。その先駆的な取組を、①家族の多様性を認め、子どもの権利を保護する社会制度、②公教育としての保育の充実と子育をめぐる経済的支援、③男女とも仕事と家庭の両立が可能なシステム、という3つの側面から考察する。 【キーワード】 スウエーデン、多様化する家族、子どもの権利、子育て支援、ワークライフ・バランス	高橋美恵子 (大阪大学准教授)	高橋美恵子 (大阪大学准教授)
8	子育てと家族(4) ―アジア・日本―	南欧や東アジアと並んで、日本は家族主義という類型にしばしば入れられる。ではそれらの社会の子育ての現状はどのようなものだろうか。アジアのいくつかの社会と日本の子育ての現状を比較しながら、家族主義がしばしば自由主義とセットになっていること、日本はその例外であることを明かにする。 【キーワード】 子育て、ケア、ネットワーク、ライフコース、アジア	落合恵美子 (京都大学大学院教授)	落合恵美子 (京都大学大学院教授)
9	アジアの高齢者と家族	アジアの高齢者は、依然として子どもを中心とした親族のケアに依存している。しかしそのケアのパターンは日本の常識と異なる部分がある。また、とりわけ外国人の介護労働者の雇用も日本との違いである。社会保障制度が未発達な家族主義体制下でのアジアの高齢者の現状を見る。 【キーワード】 家族主義レジーム、自由主義レジーム、社会民主主義レジーム、社区	落合恵美子 (京都大学大学院教授)	落合恵美子 (京都大学大学院教授)
10	スウェーデンの高齢者と家族関係・社会関係	高齢化の将来推計について確認する。次に高齢期を①自立的な時期と②要介護の時期の2つに分けた上で、スウェーデンの高齢者の家族関係を実証的に論じる。とりわけ、②については、成人子との別居が基本のスウェーデンで、フォーマル・サポートとインフォーマル・サポートがどのように提供されているかを明らかにする。 【キーワード】 高齢化社会、高齢社会、インフォーマル・サポート、フォーマル・サポート、高齢者虐待	西下 彰俊 (東京経済大学教授)	西下 彰俊 (東京経済大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	日本の高齢者と家族関係・社会関係	高齢化の将来推計について確認する。次に高齢期を①自立的な時期と②要介護の時期の2つに分けた上で、日本の高齢者の家族関係を実証的に論じる。とりわけ、②については、ライフスタイルが多様化している日本で、フォーマル・サポートとインフォーマル・サポートがどのように提供されているかを明らかにする。最後に高齢者虐待について現状と課題を明らかにする。 【キーワード】 高齢化社会、高齢社会、フォーマル・サポート、インフォーマル・サポート、高齢者虐待	西下　彰俊（東京経済大学教授）	西下　彰俊（東京経済大学教授）
12	男性と家族 －父親政策の視点から－	育児休暇制度のデザイン、家族政策のあり方、ワークフェアを志向する社会福祉政策、男女協働参画社会形成などの社会政策が交錯する焦点のひとつに「父親政策」がある。仕事とのバランス、家族的責任のあり方、男性役割との関係、ケア能力養成、父親の権利をめぐる社会運動の視点から国際比較を試みる。 【キーワード】 父親政策、父性機能、稼ぎ的役割、男性性	中村　正（立命館大学大学院教授）	中村　正（立命館大学大学院教授）
13	家庭内暴力と家族関係 －男性・父親の視点から－	ドメスティック・バイオレンス（デートバイオレンスやストーキングも含む）、子ども虐待、高齢者虐待などの家庭内暴力と家族のあり方について検討をくわえる。親密な関係性という視点から家族関係を把握し、独特の暴力発現機制を明らかにする。さらに、家庭内暴力対策の国際比較もおこなう。 【キーワード】 DV、子ども虐待、高齢者虐待、被害者ケア、加害者対策	中村　正（立命館大学大学院教授）	中村　正（立命館大学大学院教授）
14	貧困・社会的排除と家族	脱工業化・脱近代化が、家族の福祉追求機能を困難にし、新たな課題を提示している。また、これらの現象は、家族の多様化・個人化・脱制度化とも関係している。このような実態を、子どもの問題を中心にして、家族の貧困化と社会的排除という切り口でみていく。 【キーワード】 貧困と家族、社会的排除と家族、子どもの貧困、家族政策	宮本みち子（放送大学教授）	宮本みち子（放送大学教授）
15	結婚・家族のゆくえ	欧米とアジアの世界を中心に、親密なパートナー関係・親子関係・家族のあり方がどのように変容し、また現在どのような問題を抱えているかについて、これまでの講義を踏まえて総括するとともに、結婚・家族の今後のゆくえを探る。 【キーワード】 近代結婚、結婚制度、近代家族、親密圏、新しい家族像	善積　京子（追手門学院大学教授） 宮本みち子（放送大学教授）	善積　京子（追手門学院大学教授） 宮本みち子（放送大学教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	共通科目（社会系）	科目コード	1120603	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 社会福祉入門 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：大橋　謙策（日本社会事業大学長）　〕

講義概要

経済的貧困を救済することを主たる課題として発展してきた社会福祉は、21世紀に入り、それとは異なる社会生活上何らかの援助を必要とする人々の地域での自立生活を支援することを目的に、新たな理念、思想と社会福祉援助活動とが求められている。

人々の社会生活を安寧にするための方策としては、教育や住宅、雇用の保障に関わる社会サービス、医療保険や年金等の社会保険もあるが、社会福祉はそれらの制度と密接な関わりももちつつ、それとは相対的に独立した、自立生活を送る上で困難を抱えている人々への対人援助を基軸とする援助活動であり、システムである社会福祉を学ぶ。

授業の目標

社会福祉の目的は、生活上の様々な困難を抱えている人や家族を援助し、それらの人々の自己実現を図ることである。したがって、社会福祉の制度を学ぶだけではなく、それらの社会福祉制度を活用しつつ、どのような対人援助の方法、技術が必要なのかについて学ぶ。また、社会福祉が求める社会哲学や福祉文化についても考察する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	私たちの暮らしと社会福祉	私たちの日常生活においても、また出生から死に至るまでのライフコースにおいても多様な事故に遭遇する危険を孕んでいる。人間はひとりでは生きていかれない今日では、家族や地域の力だけでもそれらの事故に対応できず、生活の不安定さへの補強や万が一の生活上の事故に対する一種の保険として、「社会の制度」として多様な社会福祉サービスが作られている。この章では生活上に起きる事故と「社会の制度」としての社会福祉との関わりについて学ぶ。 【キーワード】 生活上の事故、家族機能、ライフコース、社会の制度	大橋　謙策（日本社会事業大学長）	大橋　謙策（日本社会事業大学長）
2	「社会の制度」としての救済制度の思想と社会哲学	人類の歴史において、「鰥寡孤独」（かんかこどく）は常に大きな課題であった。それらに対し、家族や村落共同体が有していた自然発生的な相互扶助機能では対応できなくなり、かつ個人的な慈善に頼ることもできず、「社会の制度」として社会福祉が確立されてくる。最近では、「介護の社会化」とよばれ、介護保険制度が作られてきたのもその1つである。人々が抱える自立生活上の困難な課題に対し、どのような「社会の制度」が確立してきたのか、その背景となる社会思想やこれから求められる社会哲学について学ぶ。 【キーワード】 社会装置、社会哲学、社会統制、共済活動	同上	同上
3	社会福祉の考え方と目的	社会福祉は何を目的としているのか、社会福祉の語源も探りながら、目的としている自立、自己実現について学ぶ。また、アブラハム・マズローの欲求階梯説や生きることと生命維持との違いなども含めて社会福祉が目的とする6つの自立の捉え方について学ぶ。 【キーワード】 社会福祉の語源、6つの自立要件、社会サービス、社会保障制度審議会報告	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	社会福祉の歴史：日本の展開	近代以降の日本の社会福祉は精神性と物質性の間を揺れ動いた歴史である。戦前の井上友一と小河滋次郎の考え方の違い、積極的社会事業と消極的社会事業といった考え方や民間社会事業実践のミッションについて学ぶ。戦後は憲法第25条の理念から、入所型社会福祉施設の整備、市町村における在宅福祉サービスの整備を経て、今日では地域福祉がメインストリームになっていることを学ぶ。 【キーワード】 風化行政、第25条、入所型社会福祉施設、地域福祉	大橋　謙策（日本社会事業大学長）	大橋　謙策（日本社会事業大学長）
5	社会福祉の歴史：外国のケース	社会福祉の歴史を学ぶにあたって、我が国以外でどの国の歴史を取り上げるかは大きな課題である。本章では、イギリス、アメリカの歴史を取り上げるとともに、我が国にとって社会福祉の発展との関わりの中で、思想的に大きな意味を持つ”プロイセン”における社会保険の歴史や考え方とデンマーク、スウェーデンを中心に発展したノーマライゼーション思想を取り上げることとしたい。なお、イギリス、アメリカなど諸外国の歴史や考え方を取り上げるといっても、本章ではあくまでも日本の社会福祉の考え方や制度に影響を与えた事項に絞って述べるにとどめたい。 【キーワード】 救貧法、慈善信託法、ベヴァリッジ報告、コミュニティケア	同上	同上
6	市町村社会福祉行政とソーシャルアドミニストレーション	これからの社会福祉は市町村を基盤として、行政と住民との協働が求められる。住民参加による地域福祉計画づくり、地方分権と福祉アクセシビリティ、福祉サービス供給組織の多元化の中でのソーシャルアドミニストレーションのあり方を学ぶ。 【キーワード】 地域福祉計画、ソーシャルガバナンス、住民参加、福祉アクセシビリティ、ソーシャルアドミニストレーション	同上	同上
7	施設の社会化と在宅福祉サービス	日本の社会福祉は、1970年～1989年までいわば社会福祉施設整備の時代を迎える。2005年には約9万5千ヵ所になった。これらの社会福祉施設を社会福祉のメインストリームになりつつあった地域福祉の観点からどう位置づけるかは大きな課題であった。「施設の社会化論」から在宅福祉サービスへの展開のプロセスを学ぶ。と同時に、入所型福祉施設への批判も含めて展開されてきた在宅福祉サービスの考え方、提供のあり方、サービス内容について学ぶ。 【キーワード】 施設の社会化、施設の地域化、必要即応の原則、在宅福祉サービスの構成要件	同上	同上
8	在宅福祉サービスのあり方と保健・医療・福祉の連携システム	地域で在宅で生活できるように支援するという目標は崇高である。しかしながら、それは単純に在宅福祉サービスの量を増やし質を高めるということだけでは対応できない。日本的家族観や生活観、あるいは近隣関係が、地域での自立生活支援にどのような影響をもたらしているのかを明らかにすると同時に介護家族の負担をどうしたら軽減できるかを学ぶ。と同時に、在宅での自立生活には多様な専門職種によるアプローチが必要となる。その課題についても学ぶ。 【キーワード】 家族介護の負担軽減、ICF（国際生活機能分類）、エンパワーメント、チームアプローチ、保健・医療・福祉の連携、ワーカビリティ	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
9	地域自立生活支援とソーシャルワーク	日本の社会福祉は地域自立生活を支援する地域福祉がメインストリームになった。そこでは、世界保健機関（WHO）の国際生活機能分類（ICF）の視点に基づき、ケアマネジメントを手段としたコミュニティソーシャルワークが重要になってきている。ICFの視点に基づくケアマネジメントの考え方をアセスメント、援助方針の立て方を中心に学ぶ。 【キーワード】 生活課題分析、援助方針の立案、求めと必要と合意、ICF、ケアマネジメント、インフォーマルケア、在宅福祉サービス	大橋　謙策（日本社会事業大学長）	大橋　謙策（日本社会事業大学長）
10	社会福祉におけるニーズの考え方とソーシャルワークの実践	社会福祉活動を展開していく上で、何が生活上の困難なことなのかを明らかにすることが大きな課題であり、かつそれを誰が、どのような基準で、どのような方法で把握、判断するかを考えることが社会福祉そのものを学ぶことであるといっても過言ではない。イギリスのブラッドショウのソーシャルニーズの類型を参考にしながら、社会福祉ニーズの考え方、とらえ方を学ぶ。その際には、日本的文化の背景も大きいのでそれも含めて考察する。 【キーワード】 社会福祉ニーズの分類、世間体、タテ社会、ニーズキャッチの方法	同上	同上
11	コミュニティソーシャルワークの考え方と機能	地域自立生活支援を行ううえでは、コミュニティソーシャルワークという機能がもっと意識化される必要がある。コミュニティソーシャルワークという考え方は、1982年のイギリスの「バークレイ報告」で整理され、打ち出されてきた。ここではそれらコミュニティソーシャルワークについて学ぶ。 また、地域自立生活支援においては介護福祉士など、ケアワークとの関わりも大きい。それについても学ぶ。 【キーワード】 コミュニティソーシャルワーク、バークレイ報告、ソーシャルサポートネットワーク、インフォーマルケア	同上	同上
12	生活支援に必要な社会福祉の制度	本章は対人援助としての社会福祉を展開するにあたって、どのような社会資源としての社会福祉制度が活用できるかという視点からまとめられている。したがって詳しい制度の理解は別の機会に行ってほしい。 【キーワード】 生活保護制度、障害者自立支援法、児童福祉法、介護保険制度	同上	同上
13	ソーシャルケアサービス従事者の養成課題と専門職制度および職業倫理	対人援助としてのソーシャルケアサービス従事者にはソーシャルワーカーとしての社会福祉士、ケアホーカーとしての介護福祉士等がある。それらの専門職制度の内容とそれら専門職としての社会的評価、職業倫理、行動規範、養成教育のあり方について学ぶ。 【キーワード】 社会福祉士及び介護福祉士法、倫理綱領、行動規範	同上	同上
14	社会福祉における住民参加と福祉コミュニティづくり	地域での自立生活を支援していくためには、専門職者だけでは対応できない。社会福祉の分権化と地域自立生活支援において、いかに住民参加が必要であるかを学ぶ。と同時にそのことは自分の住んでいる地域を福祉コミュニティへと転換させる営みであり、それらの最もシンボリックなものが住民参加による地域福祉計画づくりであることを学ぶ。 【キーワード】 福祉コミュニティ、地域福祉計画、住民参加、福祉アクセシビリティ、ソーシャルサポートネットワーク	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
15	国際的ヒューマンセキュリティと博愛の哲学	国際化が進んでいる時代にあって、「福祉国家」としての一国ソーシャルセキュリティだけを考えていればいい時代ではなくなった。国連が提唱しているヒューマンセキュリティ（人間安全保障）を考えていくためにも、日本国民の福祉文化を見直し、博愛の哲学や寄付の文化の醸成をしていくことが必要である。福祉国家から福祉社会への転換と福祉社会づくりについて学ぶ。 【キーワード】 ヒューマンセキュリティ、博愛、寄付の文化	同上	同上

事務局記載欄	開講年度	２０１１年度	科目区分	共通科目（社会系）	科目ｺｰﾄﾞ	1128019	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　現代の生活問題　　（’１１）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：中川　清　（同志社大学教授）　〕

【本学担当専任教員：大曽根　寛　（放送大学教授）　】

講義概要

現在われわれが直面している生活問題は、21世紀に入って突然引き起こされたわけではない。この講義では、これまでの日本の経験を振り返ることによって、現代の生活問題を3つの視点から考える。1つは、伝統的な貧困問題の系譜と現状である。貧困の捉え方や貧困をめぐる社会構図の変化に注目する。2つは、近代以降の激しい生活変動にともなう生活問題である。20世紀の生活モデルが成り立たなくなる事情を明らかにする。3つは、生活モデルの喪失にともなう新たな生活課題である。誕生から死にいたる生涯のいくつかの局面を手掛かりに検討する。

授業の目標

4つの点に心がけたい。①理論的な説明にとどまらず、具体的なデータや記述などをできるだけ駆使して生活問題の理解を深める。②ある生活問題が解決されることによって、また新たな課題が生み出される。生活問題を固定的にではなく、絶えず変化していく課題として把握する。③日本での生活問題に絞って論じるが、アジアの他の地域にも共通する経験や課題に注目する。④必要に応じて、生活問題と直接関係する社会政策や生活に関する政策にも言及する。

履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	生活問題を構成する―日本の生活研究の伝統―	生活という言葉は曖昧で未分化な用語だが，日本では，生活学や生活構造論，生活科学や生活福祉などの生活を冠した研究が積み重ねられてきた。生活問題という捉え方も，このような伝統の延長に位置している。生活研究の伝統を踏まえて，「日本の生活経験を振り返ることによって，現代にいたる生活問題を構成する」というテーマを設定する。その上で，講義を通して取り上げる3つの生活問題の流れを説明する。 【キーワード】 生活研究　生活問題　貧困問題　生活変動　社会問題	中川　清（同志社大学教授） 以下、同じ	中川　清（同志社大学教授） 以下、同じ
2	異質な生活世界への関心―貧困問題の系譜(1)―	貧困という概念が形作られる以前，あたかも「未開社会」に向かうかのように，異質な生活世界への関心が喚起され、「貧民窟踏査」が実施された。19世紀末から20世紀初めの「貧民窟踏査」の記録をとおして，生活問題の初発の認識が、どのような経緯で近代の貧困概念に至るのかについて考える。貧困の把握が多元化した今日，「貧民窟踏査」に類似した質的調査法があらためて見直されているからでもある。 【キーワード】 「貧民窟」「貧民窟踏査」 横山源之助　貧困認識　内務省「細民調査」		
3	生活実態の変化と近代の貧困概念―貧困問題の系譜(2)―	19世紀末から20世紀にいたる貧困のあり方を振り返ると，大きく変化してきたという印象が強い。事実，都市下層（東京に代表される大都市の最下層ほぼ10％に該当）は，滞留し沈殿した固定的な層ではなく，その性格を急速に変化させてきた。しかも，その性格変化は，例外的で特殊なものではなく，一般社会生活の変化と密接に関係していた。このような貧困実態の変化をとおして，近代の貧困概念が形作られる様子も考える。 【キーワード】 都市下層　貧困調査　貧困概念　方面委員制度　社会行政と地域組織		

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	貧困への政策対応と生活保護法―貧困問題の系譜(3)―	日本の近代化の過程で，貧困政策は皆無に等しかった。まず、恤救(じゅっきゅう)規則(1874年)から救護法(1929年，実施は1932年)への動きを，都市下層の生活実態の変化を交えて説明する。日本の貧困政策は、戦後の占領下で大きく転換する。旧生活保護法(1946年)から新生活保護法(1950年の現行法)にいたる過程を，当時の生活全般の混乱状況を踏まえて検討する。 【キーワード】 恤救規則　救護法　旧生活保護法　現行生活保護法　最低生活の保障	中川　清 (同志社大学教授) 以下、同じ	中川　清 (同志社大学教授) 以下、同じ
5	「中流社会」と貧困の性格変化―貧困問題の系譜(4)―	1950年代以降の「貧困からの大脱出」過程において，被保護世帯や都市下層のあり方がどのように変化したのかを，生活保護の実施や運営状況の変遷，貧困調査の結果や関心の推移などをとおして検討する。その上で、「中流社会」といわれる1970年代から80年代において，貧困の実態と認識が、それまでの貧困＝低所得階層という図式から次第に変化していく様子を明らかにする。 【キーワード】 生活扶助基準　保護率　貧困の捕捉率　被保護世帯　社会関係の希薄化		
6	多元化する貧困と社会生活―貧困問題の系譜(5)―	20世紀末から21世紀初めにかけて、貧困を取り囲む状況は大きく変化する。高齢単身者,ひとり親世帯,障害を抱える世帯，困難に直面する若者、ホームレスなど。現在の貧困が，低所得層という概念から溢れ出し，個別性や多様性を帯びて，社会関係からの孤立や排除と深く関わっている事情を考える。あわせて，貧困をめぐる新たな議論，相対的剥奪と社会的排除を、従来の貧困概念との関係で整理して紹介する。 【キーワード】 格差と貧困　貧困の多元化　相対的剥奪　社会的排除　一般社会生活		
7	生活構造の不安定さ―生活変動と生活問題(1)―	20世紀前半の生活変動は，近代という新たな環境に緊張や無理をともないながら，過剰に対応する過程であった。1950年頃までの家計データにおいて，しばしばエンゲル法則が妥当しなかった事実は，生活変動が構造的な不安定性をともなっていたこと示している。この不安定性こそ，当時の生活言説が貧困で彩られた背景であるが，それが，ミクロの生活場面とマクロの社会展開にどのように関係したのかも考えてみたい。 【キーワード】 エンゲル法則(の逆転)　家族形成　家計支持率　性別役割分業　主婦役割		
8	生活変動の転機と妊娠中絶―生活変動と生活問題(2)―	生活変動の転機として，1950年代における合計特殊出生率の半減，年間100万件におよぶ人工妊娠中絶を取り上げる。この時期を境に，生活課題はかつてのように社会的に外部化されるのではなく，生活の内部においても処理されるようになるからである。20世紀前半の生活構造の不安定性と，1960年代からの「よりよい」生活への変動とを切り結んだのは，1950年代の膨大な妊娠中絶であった。 【キーワード】 合計特殊出生率　人工妊娠中絶　優生保護法　「産児制限」　生活課題の内部化		

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
9	「よりよい」生活への自己組織化―生活変動と生活問題(3)―	1960年代からの「よりよい」生活がどのようにして実現されたのか，その過程で何が失われたのか，その結果どのような課題に直面するのかを検討する。20世紀後半の生活変動は，生活単位の規模を自らの手で縮小することで，「よりよい」生活を実現するという特徴をもっていた。そこでは，家族や世帯の多様性が失われ，生活を営む単位が標準化し純粋化する。このことは、家族のあり方や人々の生き方にも深く影響することになる。 【キーワード】 生活単位の自己組織化　消費支出の均質化　労働者階層の自己変容　消費社会　性別役割分業の揺らぎ		
10	生活モデルの揺らぎと生涯像の主題化―生活変動と生活問題(4)―	20世紀後半には，「よりよい」生活に向かっての自己組織化がすすめられるとともに，男性稼ぎ手家族を生活モデルとした社会政策が体系化されてきた。まず，この政策展開を振り返る。その上で，「よりよい」生活への対応が重ねられ，政策展開が重ねられるほど，かえって生活モデルから乖離した状況が生み出される事情を検討する。事実21世紀に入ると、趨勢的な人口の減少局面を迎え，未曾有の少子高齢社会に直面する。そこでは，生まれ育ち老い死んでいくという生涯の諸局面が，あらためて社会的な主題となる。 【キーワード】 社会政策の体系化　生活モデルの揺らぎ　「少子高齢社会」「人口減少社会」　生涯像の主題化		
11	産み育てることの変容と負荷―生涯像と生活課題(1)―	子供を産み育てることが，生涯の当然の出来事ではなくなり，これほど意識的に選びとられる事柄となった時代はない。その背景と意味について，ライフコースにおいて選択の対象となる出産，子供を持つことの関係の変化，産み育てることの負荷などの視点から検討するとともに，精神的かつ経済的な負荷という文脈からの離陸についても探ってみたい。 ここでは、多くの場面で女性からの視点が想定されている。 【キーワード】 選択としての出産　ライフコースの多様化　子供が生まれる／子供を産む　産み育てる負荷　負荷からの離陸	中川　清 （同志社大学教授） 以下、同じ	中川　清 （同志社大学教授） 以下、同じ
12	若者の「生きにくさ」と生涯デザイン―生涯像と生活課題(2)―	80年におよぶ長い生涯がますます確実になる一方で，これまでの生活モデルが揺らぎ不確かになっている。この乖離を最も鋭く感じているのが，今日の子供や若者ではないだろうか。しかも彼／彼女らは，かつてないほど「本当の自分らしさ」をと促されている。生涯というカンバスに，個々人のデザインを描くことの自由と困難さは，今日，若者の「生きにくさ」として集中的に現れている。 【キーワード】 若者の誕生　消費文化　学校制度の揺らぎ　「フリーター」非正規雇用　生涯デザイン		
13	近代家族の揺らぎと家族の関係のゆくえ―生涯像と生活課題(3)―	20世紀生活モデルの揺らぎは、21世紀の家族のあり方を大きく変容させる。近代家族という視点から20世紀家族の特徴を整理するとともに，近代家族としての特徴ゆえに引き起こされる課題について政策対応を交えて検討する。それとともに，何らかの形での家族的な関係は，人が生まれ育ち，ケアを受け与え，それぞれの生き方を模索する場として，これからも代替が困難である事情についても考えてみたい。 【キーワード】 近代家族　核家族世帯　単独世帯　家族機能　ケア関係　家族の関係		

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
14	高齢者の生活世界と社会的受容―生涯像と生活課題(4)―	未曾有の高齢化といわれる現状と将来について概観し，そこでの高齢者や高齢社会のイメージについて検討する。まず，様々な生活経験を積み重ねてきた高齢者の生活が，健康状態や社会的条件において，実に多様な性格を帯びていることを確認する。その上で，いくつかの記述によって，老いの生活世界を垣間見る。かつてない長い生涯を、21世紀社会がどのように受け容れるのか考えてみたい。 【キーワード】 高齢化　長寿化　高齢者像　高齢者生活の多様性　高齢者の生活世界		
15	生活変動／貧困問題／生活課題―21世紀社会を考える―	20世紀の生活問題を理論的な視点から整理するとともに，21世紀に直面する生活課題を展望することによって、講義全体のまとめとする。まず，3世紀にわたって経験された日本の生活変動を、3つに時期区分して一つの仮説として提示する(第7章から第10章に該当)。そして，貧困問題の展開を、都市下層の性格変化として3つに整理する(第2章から第6章に該当)。最後に，「生涯像と生活課題」を21世紀社会の課題として展望してみたい(第11章から第14章に該当)。 【キーワード】 生活変動　過剰対応　自己変容　都市下層　生活課題　21世紀社会		

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	共通科目（社会系）	科目ｺｰﾄﾞ	1121200	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 社会調査 （’０９）＝（ＴＶ）

※この科目は「社会調査(’05)」を一部改訂した科目です。
改訂回は8・11・15回です。

〔主任講師（現職名）：原　純輔（放送大学特任教授）〕

〔主任講師（現職名）：浅川達人（明治学院大学教授）〕

講義概要

現代社会を特徴づける人間活動の1つである社会調査について、その進め方(調査内容の決定、調査対象の決定、調査の実施方法、調査結果の分析方法とまとめ方)を知るとともに、その歴史と成果について学習する。個人が身の回りからさまざまな情報を得る場合と社会調査との違いに着目しながら、細かい技法よりも、基本的な考え方を修得することを目指す。

授業の目標

本科目を履修し社会調査の基本的な考え方を身につけると，これまで経験と勘を頼りに決めていたさまざまなことがら，たとえば行政の政策，企業の経営方針や販売戦略，NPOの事業方針などを，実証的な基盤に立って決めることの大切さ，意義を理解することができるようになります．その点を理解しないままに，小手先だけの技術，たとえば多変量解析などの分析手法などを身につけても，それらの活用は困難となります．まずは，本科目で基本的な考え方を身につけましょう．

履修上の留意点

高度な数学の知識は必要ありません．とはいえ，Σを見るたびに冷や汗をかいていると，履修を続けるのが嫌になってしまうかもしれません．数学に関する苦手意識を多少なりとも緩和する努力をされるとよいかと思います．(放送大学の科目では「社会統計学」があります)．なお，この授業は基本的な考え方を身につけることを目標としています．実際に調査や分析をやろうとする場合に必要なさまざまな技法等については，専門書をみて下さい．

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	現代社会と社会調査	現代社会を特徴づける人間活動の1つである社会調査について、その情報収集方法としての特質を、心理学実験や個人の耳目と比較しながら把握する。また、社会調査結果が，おおよそどのような手順で得られたものであるかを知る。 【キーワード】 社会調査の氾濫，統計集団，調査票調査，ホーソン効果	原　純輔(放送大学特任教授)	原　純輔(放送大学特任教授) 浅川達人(明治学院大学教授)
2	社会調査の用途と歴史	社会調査をその用途によって行政調査，福祉調査，世論調査，市場調査，学術調査の5つに類別して，それぞれの歴史を学ぶとともに、初期の代表的な成果について知る。 【キーワード】 国勢調査，家計調査，模擬投票，シカゴ学派	同上	原　純輔
3	調査内容の決定(1)	調査票調査を中心にテーマの選び方，調査事象を項目として概念化する方法を学ぶ。また、調査データを用いた「説明」がどのような論理で行われるのかを知る。 【キーワード】 記述項目，説明項目，コントロール項目，基礎項目，作業仮説，因果関係と相関関係	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	調査内容の決定(2)	調査における質問と回答の役割と、質問文が備えるべき性質について知る。また、選択回答と自由回答を比較し、それぞれの長所と短所を把握する。調査における量的変数の作り方についても学ぶ。 【キーワード】 調査票の構成，妥当性，信頼性，選択回答、自由回答、量的変数	原　純輔	原　純輔
5	調査対象の決定(1)	全数調査と比較しながら、統計調査における標本調査の重要性を知り、標本抽出の考え方，とくに無作為抽出の考え方と具体的方法を学ぶ。また、母集団と標本との関係を考察する。 【キーワード】 全数調査，標本調査，無作為抽出，割当抽出，系統抽出法，多段抽出法，層別抽出法，母集団と標本	同上	同上
6	調査対象の決定(2)	無作為抽出によって得られる標本統計量のサンプリング分布の性質について知り、比率の差の統計的検定を例に、サンプリング分布理論を用いた統計的推測の考え方を学ぶ。項目間の独立性の検定についても学ぶ。 【キーワード】 母集団統計量，標本統計量，サンプリング分布，正規分布，検定統計量，危険率（有意水準），独立性の検定，$\chi 2$ 分布	同上	同上
7	調査の実施と処理(1)	社会調査実施の具体的手順と，訪問面接調査，留置調査，郵送調査，電話調査，集合調査など，さまざまな実査方法および長所と短所を知る。とくに訪問面接調査の実際を知り，調査員の役割について考える。 【キーワード】 個別訪問面接調査，調査員マニュアル，調査場面のコントロール，面接者の影響，虚偽（ウソ）への対応	同上	同上
8	調査の実施と処理(2) **（※改訂回）**	調査終了後の点検，コーディング，データ・ファイルの作成，データ・クリーニング作業における留意点を知る。また，これらの作業や集計・分析において重要な役割を果たす，コンピュータ・ソフトについて紹介するとともに，テキストデータの統計的分析法についても研究事例を紹介する。 【キーワード】 コーディング，アフターコーディング，コードブック，データ入力，カテゴリーエラー，SPSS，テキストデータの統計的分析法	浅川達人	浅川達人
9	結果の集計と分析(1)	量的データと質的データのそれぞれについて，集計の方法，基本統計量（代表値，分散，相関係数）について知る。また，基本統計量とデータのタイプとの適合性、量的データと質的データの基本統計量間の関係ついて考える。 【キーワード】 柱状図，散布図，外れ値，平均値，中間値，最頻値，分散，標準偏差，積率相関係数，属性相関係数	原　純輔 浅川達人	原　純輔
10	結果の集計と分析(2)	クロス集計表のエラボレーションを例に，真の相関関係を発見して、因果分析を行ってゆく方法と問題点について把握する。また，量的変数に関する多変量解析法の考え方と実例を学ぶ。 【キーワード】 疑似相関関係，第3変数のコントロール，付加効果，交互作用，多変量解析法	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	聴取調査の方法 （※改訂回）	聴取調査の手順を知り，調査票を用いない非構造化面接の特質と意味について考える。また、聴取調査が社会調査として成立するためには、対象あるいはテーマが社会性をもつ必要のあることを学ぶ。 【キーワード】 聴取調査の手順，非構造化面接，調査結果の個別性，事例調査，テーマの社会性	原　純輔	原　純輔
12	調査報告をまとめる	調査報告書における，表やグラフの作り方，数値の扱い方の注意点を知る。また、調査結果を「報告する」ということが、調査者の主体的な認識行為としてしかありえないことを、実例を通して学ぶ。 【キーワード】 調査報告書の構成，統計図表の作成，比率の差の扱い，報告者の主張の展開，データの公開	同上	同上
13	さまざまな社会調査(1)	社会の変化をとらえるためは継続調査が重要であること、その方法としての時系列調査とパネル調査の方法および実例を学ぶ。また，国際比較調査についても、その実施上の問題点と実例を学ぶ。 【キーワード】 世代効果，加齢効果，時系列調査，パネル調査，国際比較調査	同上	同上
14	さまざまな社会調査(2)	さまざまな社会問題の告発と解明は，社会調査の起源の1つであったが，その役割は現代社会においても失われていない。社会問題についての代表的な調査研究の例と成果を知り，社会調査の社会的責務について考える。 【キーワード】 貧困，公害，少子高齢化，災害，水俣病，受益圏と受苦圏，災害コミュニティ	浅川達人	浅川達人
15	調査者と被調査者 （※改訂回）	近年の低回収率をもたらした背景について知るとともに，社会調査に対する人びとの反発を，調査者と被調査者との関係の中でとらえなおし，社会調査という活動が許される条件について考える。 【キーワード】 調査不能，協力拒否，プライバシー，個人情報保護法，社会調査士資格，調査者の特権，社会調査を支える信念	原　純輔	原　純輔 浅川達人

科目名（メディア）＝　社会統計学（‘０７）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：片瀬　一男（東北学院大学教授）〕

講義概要

社会調査や実験から得られたデータをもとに、統計的分析を行なうための基礎を学ぶ。その際、因果推論の方法、すなわちクロス表分析、ｔ検定、分散分析（F 検定）および回帰分析による仮説検定を中心に講義をすすめる。そして、初等統計学の基礎知識に関する理解を十分深めた上で、実践的な分析技法にすすむ。また、講義のなかでは、実際の分析例を数多く紹介し、受講者には単に講義を聞くだけでなく、例題や練習問題を解くことを課す。したがって、受講に際して、とくに３回目以降は、電卓（平方根を開く機能とメモリー機能のあるもの）および筆記具を用意すること。

授業の目標

社会調査や実験のデータに関して、基本的な統計的分析を行なうための技法を身につけることが主要な目標となる。そして、仮説の検定によって因果推論を行う思考力の習得を目指すとともに、統計的分析をもちいた既存の論文や報告書などを読みとる力を養う。さらに、実際の分析例に数多く触れることで、統計的分析をつうじて社会現象の背後にある因果関係を解明する愉しみを体験することも授業の目標となる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	調査はどのように行われるか	社会調査の目的は何か、また調査から得られるデータにはどのような種類があるか、またデータ分析において理論や仮説がどんな役割を果たすのか説明した上で、さかのぼって調査の設計から因果図式・仮説の構成、質問文の作成など一連の社会調査の流れを解説する。	片瀬　一男（東北学院大学教授）	片瀬　一男（東北学院大学教授）
2	調査データをどう分析するか	社会調査データの分析における記述と説明を具体例をもとに解説し、度数分布や記述統計による記述、統計的説明の意味を示す。また、統計的説明において仮説の検定がもつ意味をサンプリングという考え方も踏まえて解説する。	片瀬　一男（東北学院大学教授）	片瀬　一男（東北学院大学教授）
3	度数分布表を作成する	社会調査データ分析の出発点となる記述の基礎として、度数分布表の作成、百分率（パーセンテージ）の計算法などを変数の性質（離散変数・連続変数）ごとに解説し、累積度数分布やパーセンタイル、分位数の概念についても理解を深める。	片瀬　一男（東北学院大学教授）	片瀬　一男（東北学院大学教授）
4	度数分布を記述する	作成された度数分布表をもとに、これを記述する統計量として、代表値（最頻値・中央値・平均値）と変動の測度（多様性指数・範囲・分散・標準偏差）の計算の方法、またそれがもつ意味について紹介する。	阿部　晃士（岩手県立大学准教授）	阿部　晃士（岩手県立大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	クロス表を作成する	２つの離散変数の関係から因果推論をするために、クロス集計を行う方法について解説する。そして、標本に基づく母集団に関する推定の考え方を紹介しながら、仮説の統計的検定の意味について理解を促す。	片瀬　一男（東北学院大学教授）	片瀬　一男（東北学院大学教授）
6	クロス表を分析する：カイ二乗検定	クロス表から因果関係に関する仮説検定を行う技法として、カイ二乗検定の方法を学ぶ。カイ二乗検定統計量の標本分布から検定統計量のもつ意味を説明し、自由度の概念を理解したうえで、実際にカイ二乗検定による仮説の検討を行う。	片瀬　一男（東北学院大学教授）	片瀬　一男（東北学院大学教授）
7	２つの平均の差を検定する(1)：正規分布	標準誤差が既知の場合に、連続変数における２つの平均の間に、統計的にみて有意な差があるか検討するために正規分布を利用する方法を紹介する。正規分布の性質を理解したうえで、実際に正規分布を利用した仮説の検討を行う。	阿部　晃士（岩手県立大学准教授）	阿部　晃士（岩手県立大学准教授）
8	２つの平均の差を検定する(2)：ｔ検定	標準誤差が未知の場合に、連続変数における２つの平均の間に、統計的に有意な差があるか検討する方法としてｔ検定を紹介する。検定統計量としてのｔ分布の性質を理解したうえで、実際にｔ検定による仮説の検討を行う。	阿部　晃士（岩手県立大学准教授）	阿部　晃士（岩手県立大学准教授）
9	複数の平均の差を検定する：分散分析	複数の標本平均の間に差があるかどうかを検討するための統計的手続きとして、分散分析について学ぶ。連続変数全体のばらつきを、独立変数による群効果とそれ以外の誤差によるばらつきとに分離して、F比を求める手順や考え方を解説していく。	高橋　征仁（山口大学准教授）	高橋　征仁（山口大学准教授）
10	２つの連続変数間の関係を推定する(1)：回帰分析の基礎	２つの連続変数の関係から因果推論を行う方法として単回帰の基礎を学ぶ。散布図や回帰直線に関する理解を深めた後、最小二乗法により線形回帰方程式を推定する方法を実際の研究例を示しながら解説する。	阿部　晃士（岩手県立大学准教授）	阿部　晃士（岩手県立大学准教授）
11	２つの連続変数間の関係を推定する(2)：回帰分析の応用	回帰分析から計算される関連の測度である決定係数と相関係数がどんな意味をもつか説明し、併せてその検定の仕方を学ぶ。さらに、標準化された回帰係数（ベータ係数）を計算することの意味を解説する。	阿部　晃士（岩手県立大学准教授）	阿部　晃士（岩手県立大学准教授）
12	離散変数間の関連を測定する：関連係数	クロス表における２つの離散変数の関連の強さを示す関連係数とその計算法や使い方を説明する。具体的には最適予測係数、コンティンジェンシー係数、ファイ係数、ユールの関連係数などを取り上げる。	高橋　征仁（山口大学准教授）	高橋　征仁（山口大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	多重クロス表を分析する(1):エラボレーション	独立変数と従属変数の関係を明らかにする方法として、第3変数を用いて多重クロス表を作成し、分析する方法――エラボレーションについて学ぶ。エラボレーションによって、疑似相関や付加効果、交互作用などの変数間の関連が解明されることになる。	高橋　征仁（山口大学准教授）	高橋　征仁（山口大学准教授）
14	多重クロス表を分析する(2):エラボレーション	第3変数の影響を除去して2変数間の相関を捉える方法として、偏相関係数を取り上げ、その考え方や計算方法について学ぶ。また、この偏相関係数が、もとの単純関連（単相関）や分割関連、周辺関連とどのような関係にあるのかを明らかにする。	高橋　征仁（山口大学准教授）	高橋　征仁（山口大学准教授）
15	講義のまとめ：調査報告書や論文の読み方・書き方	現代の情報化社会における統計リテラシーという観点から、これまで学習してきたことを振り返り、比較・検討していく。そして実際に調査報告書や論文を読んだり、自分で作成したりする際の注意点を取り上げる。さらに、社会統計学や社会調査について、今後の学習指針を示す。	高橋　征仁（山口大学准教授）	高橋　征仁（山口大学准教授）

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	共通科目（社会系）	科目ｺｰﾄﾞ	1122312	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　社会学入門　　（’１０）＝　（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：　森岡　清志　（放送大学　教授）　〕

講義概要

社会学の基礎的な概念と社会の基礎となる集団の特質についての理解を深めること、また、現代社会が直面する変動の諸相について正確な知識と理解を得ること、このことを目的として全15回にわたり講義を実施する。人間は、その成長に伴って、自己の属する集団を徐々に拡大させてゆくが、前半ではできるだけこの過程に即した説明をおこなう。後半では、日本の社会の変動に焦点を当て、また、社会学の中で重要な位置を占める社会調査についても講義する。

授業の目標

社会学の考え方や説明のしかたを学習し、現実の社会事象に関する理解を深めること、さらに自己と社会とのつながりについての考察を深めてゆくこと、この2点が講義の大きな目標である。人間の意識や行動は、その人自身のこれまでの社会とのつながりと現在の社会的地位に伴うつながり方によって大きく影響を受けている。このことを具体的な事象の中で、具体的に捉えられるようになってゆくことを、講義の第1の目標としたい。

履修上の留意点

参考になる印刷教材として『21世紀の社会学（’05）』、『社会階層と不平等（’08）』をあげておく。また、本講義の履修後に、『コミュニティ（’10）』を学習することも勧める。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	社会学の基礎概念	誕生から死に至るまで人間は様々な社会的地位につき、多くの場合、その地位に見合った適応をとげてゆく。この過程＝社会化の中で、人がどのように社会規範を内面化し、役割を取得し、役割期待にこたえる行動をとるようになってゆくのか、これらの点について説明する。 【キーワード】 社会化、社会規範、社会的地位＝役割、役割期待、重要な他者	森岡　清志（放送大学・教授）	森岡　清志（放送大学・教授）
2	家族の形態と機能	社会化の中でも、誕生から大人になるまでの社会化、一次的社会化は特に重要であり、一次的社会化に果たす家族の役割はきわめて大きなものがある。ここでは、家族に関する社会学の基本的成果を説明する。 【キーワード】 夫婦家族、直系家族、家族周期、「家」、核家族	森岡　清志（放送大学・教授）	森岡　清志（放送大学・教授）
3	ジェンダーとは何か	私たちの社会では、生物学的な性とは別に、社会的・文化的な性が存在する。社会科学では、これをジェンダーと言う。たとえば、「男らしさ」「女らしさ」「男の役割」「女の役割」などは、このような文化的・社会的性に基づいて言われていることが多い。ジェンダーが、私たちの社会・文化の中でどのように現れているかについて考えてみたい。 【キーワード】 ジェンダー、ジェンダー・アイデンティティ、性役割、性別役割分業	森岡　清志（放送大学・教授）	森岡　清志（放送大学・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	教育と職業、そして社会階層	社会階層は教育年数（学歴）、職業的地位に関する人びとの評価（職業威信）、収入の3つの要素から成立するが、この3つの要素は関連しあっている。しかも、本人の学歴は親の学歴・職業の影響を受ける。現代社会の格差が生じる基本的メカニズムについて説明する。 【キーワード】 不平等、職業威信、学歴、社会移動、世代間移動	森岡 清志（放送大学・教授）	森岡 清志（放送大学・教授）
5	都市と都市的生活様式	都市という居住地の特質とは何か、都市という居住地で営まれる生活に独自の営み方はどのようなものか、この点についての、社会学における様々な議論を紹介しながら、分かりやすく説明してゆく。 【キーワード】 結節機関、第一次的関係、第二次的関係、専門処理	森岡 清志（放送大学・教授）	森岡 清志（放送大学・教授）
6	社会集団と組織	ここでは社会の分析の単位として，集団と組織について考える．集団とは，単なるネットワークではなく，何らかのメンバーシップが区別される集合体である．さらにこの集団が明確な目的や明文化された規約をもつようになると，それは組織とよばれる．ここではそれら社会学の基礎的な概念の紹介とその意義について説明する． 【キーワード】 集団，組織，インフォーマル，フォーマル	玉野和志（首都大学東京・教授）	森岡清志（首都大学東京・教授）
7	国家と社会―制度としての権力	集団や組織よりもさらに大規模で複雑な存在として国家を考えることができる．実は国家は特別の意味をもつ組織体なのである．ここでは国家の特別な意味合いを明らかにすると同時に，国家と社会の関係について論じる．と同時に，国家と社会の関係にはさまざまなバリエーションがあって，日本の社会にはどのような特徴があり，どのような課題を抱えているかについても検討してみたいと思う． 【キーワード】 国家，社会，制度，権力	玉野和志（首都大学東京・教授）	森岡清志（首都大学東京・教授）
8	近代化と社会学	国家と社会の関係は，近代化とよばれる歴史的な変化によって，その意味合いを大きく変えることになった．そのことは現代においても，大きな歴史的課題となっている．そこで，ここでは近代化という歴史過程が，さまざまな国や地域において国家と社会の関係を変化させ，それぞれの課題を形成してきたこと，そこにおける社会学の意義と役割について考えてみたい． 【キーワード】 近代，近代化，近代社会	玉野和志（首都大学東京・教授）	森岡清志（首都大学東京・教授）
9	集団からネットワークへ	伝統的な社会学においては社会集団への所属として捉えられてきた社会構造を、ネットワークとして捉える視点が注目されるようになってきた。社会的ネットワーク論の視点を使うと、現代社会のどのような新しい側面が見えてくるのかを解説する。 【キーワード】 社会的ネットワーク、強い紐帯／弱い紐帯、コミュニティ解放論、インターネット	野沢慎司（明治学院大学・教授）	野沢慎司（明治学院大学・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	産業化と家族・親族	産業化の進展した現代社会において家族や親族の絆はどのように変容したとみるべきか。社会学における代表的な学説を比較検討してみよう。さらに、高度経済成長期以降、日本の都市家族とその親族関係がどのように変動してきたかを検討する。 【キーワード】 産業化、核家族化、親族関係、修正拡大家族、高度経済成長	野沢慎司（明治学院大学・教授）	野沢慎司（明治学院大学・教授）
11	世代とライフコース	世代（コーホート）という概念を使って時代と加齢の効果を明らかにするライフコース論の視点から、結婚・離婚・再婚、出産・子育てなどの家族形成上の出来事や就業などの職業的キャリア形成が、世代間でどのように変化してきたのかを論じる。 【キーワード】 世代／コーホート、ライフコース、ライフイベント、キャリア、家族形成	野沢慎司（明治学院大学・教授）	野沢慎司（明治学院大学・教授）
12	少子・高齢化と日本の社会	現代日本社会は、少子・高齢社会と言われる。少子化、高齢化は、発生原因は異なるものの、密接に関連しながら進行する。日本では、少子化が急速に進行しているため、これまでの予測より速く世界トップの超高齢社会に突入すると考えられている。ここでは、少子・高齢化が進行する背景とその影響、および将来予測について説明する。 【キーワード】 少子・高齢化、未婚化・晩婚化、将来推計人口、合計特殊出生率	安河内　恵子（九州工業大学・准教授）	森岡　清志（首都大学東京・教授）
13	情報化・グローバル化の進展と今後の日本	情報化の進展は、コミュニケーション方法の変化など、社会生活のあり方や、働き方を大きく変えた。また、グローバル化の進展ともあいまって、世界の国々のつながり方をも大きく変化させてきた。ここでは、情報化・グローバル化の進展によって、日本の社会がどのように変化してきたのを考える。 【キーワード】 情報化、グローバル化、産業（工業）社会、脱産業化	安河内　恵子（九州工業大学・准教授）	安河内　恵子（九州工業大学・准教授）
14	社会の変動と統計的調査	社会学的研究の成果の多くは、社会調査に基づくものであるが、テーマや対象によって社会調査の方法は大きく2つに分かれる。その中で統計的標本調査と呼ばれる、最もよく実施されている調査法の特質について説明する。 【キーワード】 標本調査、サンプリング、仮説、調査法、統計的検定	森岡　清志（放送大学・教授）	森岡　清志（放送大学・教授）
15	社会の変動と事例調査	社会調査のもう1つの柱である事例的調査について、その特質を分かりやすく説明する。事例的調査の具体例を紹介し、変動過程や生活史等を明らかにするために不可欠な調査法であることを説明する。 【キーワード】 第一次資料、聴き取り調査、参与観察、生活史法	森岡　清志（放送大学・教授）	森岡　清志（放送大学・教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	共通科目（社会系）	科目ｺｰﾄﾞ	1120700	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 経済学入門 （’０８）＝ （R）

※この科目は「経済学入門（’04）」の一部改訂科目です。
改訂回は、第12回です。

〔主任講師（現職名）：林　敏彦（放送大学教授）〕

講義概要

経済学は生まれて230年の比較的若い学問ですが、一方で社会科学の女王と呼ばれるほどの論理的厳密性を追究すると同時に、他方で実社会の問題解決という要請に応えようとしてきました。この講義では現代経済学の基本的な考え方と、その応用の仕方について考えてみましょう。

授業の目標

履修生の皆さんは現実の経済については多くの知識をお持ちですが、この授業では、現象の意味を解釈したり、問題の本質を洞察したりするための「認識の枠組み」についてお話しします。ねらいは、経済学という学問への入門と、日本経済を見る眼を養うことの二つです。この講義のビフォーとアフターでは、世の中を見る眼が変わるかもしれませんから、ご注意下さい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	経済学の考え方	私たちは皆乏しさの中に生きています。お金がありあまっている人でも、許された人生は70万時間にすぎません。経済学はその乏しさの問題を解決しようとして誕生した学問です。では経済学を極めれば実社会で成功するでしょうか。経済学の頭脳とハートについても考えてみましょう。 【キーワード】 経世済民、希少性、選択、市場、価格	林　敏彦（放送大学教授）	林　敏彦（放送大学教授）
2	消費と消費者	経済の主役は消費者です。究極的に消費者を満足させられない経済活動は、消滅する運命にあります。では、消費者は何を求めて、どう行動するのでしょうか。消費者行動には法則性があるのでしょうか。また、大勢の消費者の動きは、市場にどのような情報をもたらすのでしょうか。 【キーワード】 需要法則、限界効用、文化、ネットワーク、道徳的危険	同　上	同　上
3	生産と企業	消費と並んで大切な経済活動は生産です。今の日本では毎日何億種類もの商品が生産され、消費されています。生産活動の担い手は企業ですが、企業は何を求めて、どのような技術を用い、何をどれだけ生産しようとするのでしょうか。企業ではどのようなコストの概念が重要なのでしょうか。 【キーワード】 会社、企業、最大利潤、限界費用、費用関数、独占、企業の社会的責任	同　上	同　上
4	市場の役割	多数の売り手と買い手が相まみえるのが市場です。市場の重要な役割は価格を決めることです。買い手と売り手、あるいは需要と供給の間で、市場価格はどう決まるのでしょうか。単にものの値段を決めるだけの仕組みが、どうして世界中の国が採用する経済システムとなったのでしょうか。 【キーワード】 市場均衡、最適資源配分、社会的余剰、料金規制、公益事業のジレンマ、ネットワーク競争	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	政府の役割	すべてを市場取引にゆだねるだけでは真の豊かさは実現されません。現代の社会では、政府の役割が高まっています。市場の失敗と呼ばれる現象はどのようなものでしょうか。政府はどこまで市場に介入し、あるいは市場に代わって人々のニーズに応えなければならないのでしょうか。 【キーワード】 市場の失敗、外部効果、公共財、分配の公正さ、安定性、政府の失敗	林　敏彦	林　敏彦
6	マクロ経済	個別の登場人物の動きを観察して社会全体を理解しようとするミクロ経済学に対して、国全体の総生産や所得水準の動きに法則性を見いだして社会全体を理解しようとするのがマクロ経済学です。GDP、失業率、国際収支、成長率など、マクロ経済学の考え方を見てみましょう。 【キーワード】 GDP、GNP、貯蓄と投資、消費関数、乗数効果	同　上	同　上
7	お金と金融	お金はものの生産、流通、消費の流れの逆方向に動いています。誰でも知っているはずのお金ですが、それはいったい何なのでしょうか。お金の流れをコントロールする仕組みはどのようなもので、銀行などの金融機関はどのような役割を果たしているのでしょうか。 【キーワード】 円の起源、支払い手段、価値貯蔵、銀行、金融仲介、預金者保護、金融システム、金融政策	同　上	同　上
8	物価の話	さまざまなものの値段の平均値を物価といいます。物価が持続的に上がることはインフレーション、下がることはデフレーションと呼ばれます。なぜ、物価は変動し、物価が変動するとどのような問題が起こるのでしょうか。日本銀行が物価の番人と呼ばれるのはなぜでしょうか。 【キーワード】 インフレ、デフレ、功罪、狂乱物価、バブル、物価の国際比較	同　上	同　上
9	景気の話	経済活動が活発になれば好景気、沈滞すれば不景気と呼ばれます。なぜ景気は変動するのでしょうか。景気の動きをなだらかにするために、政府や日本銀行はどのようなことができるのでしょうか。経済活動が国境を越えて広がった今日、景気対策には何か難しい問題が起こっているのでしょうか。 【キーワード】 景気動向指数、在庫循環、設備投資循環、長期波動、投資の二面性	同　上	同　上
10	日本の経済成長	長期にわたって経済活動が拡大していくことが経済成長です。1960年代から80年代はじめまでの日本の高度成長はなぜ起こったのでしょうか。高成長を可能にした社会的メカニズムの解明と、なぜ私たちは成長したかったのかという成長の社会心理についても考えてみましょう。 【キーワード】 成長と構造変化、高度成長、環境条件、内的条件、成長政策、高速道路の定理	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	バブルと恐慌	経済の累積過程はときにバブルと呼ばれる過熱現象を生みます。有名な1920年代のアメリカのバブルと30年代の大恐慌の顛末について振り返っておきましょう。同じ現象が日本の80年代から90年代以降についても、90年代から2000年代のアメリカ経済にも見られるのでしょうか。 【キーワード】 歴史的バブル、大不況、政策レジーム、平成デフレ	同　上	同　上
12	安全安心を求めて （※改訂回）	1985年の阪神・淡路大震災は、高度に発達した都市経済を直撃しました。市場経済の機能が部分的に麻痺したとき、どのような経済活動が人々の暮らしを支えたのでしょうか。自然災害、人為的災害、社会的災害にどう備え、生活の不安から逃れるためにはどうすればいいでしょうか。本当に安全安心は至高の価値でしょうか。 【キーワード】 リスクとハザードからの自由、不安からの自由、社会保険の考え方、リスクと不安との共存	林　敏彦	林　敏彦
13	世界の中の日本経済	今日企業活動は国境を超えて相互に入り組み、私たちは世界中のものを消費して暮らしています。GDPでは中国は日本を追い越して世界第2位の経済大国になりました。アジア諸国でも高度成長が始まりました。そうした中で、私たちの生活水準を維持するためにはどうすればよいのでしょうか。 【キーワード】 日本経済の貿易構造、経常収支、貿易理論、開放マクロ経済学	同　上	同　上
14	持続可能な開発	水、大気、種の多様性など、地球環境が成長の制約条件になってきました。これまで農業生産や資源の限界を乗り越えてきた人類は、これからも技術進歩によって唯一の地球の制約を乗り越えられるでしょうか。それとも池のメダカから鯨に成長した人類には、新しい考え方が必要なのでしょうか。 【キーワード】 成長の限界、持続可能な開発、グローバルな課題	同　上	同　上
15	幸せの経済学	経済学は乏しさを解消し、物質的に豊になることが個人にとっても社会にとっても幸せの前提条件だと考えてきました。それでは、所得が上昇すれば人々は幸せになるのでしょうか。実は、そうではないようです。経済学入門の最後に、究極の社会生活の目的である幸せの問題を考えてみましょう。 【キーワード】 豊かさ、幸福研究、幸せの経済学	同　上	同　上

科目名（メディア）＝　経済社会の考え方（‘０７）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：坂井　素思（放送大学教授）〕

講義概要

経済社会は変化の激しい社会である。このような社会のなかで、人びとはどのような考えを持ち、これらの考え方をどのように使っているのだろうか。わたしたちの働く場で、生活する場で、さらには公共の場で日々変化し作用している経済学の考え方を集めて比較検討してみたい。なぜ働くのか、なぜ生産を行うのか、なぜ消費するのかなどのような、日常に存在する思想を振りかえり、将来の経済生活を考える礎を提供したい。

授業の目標

経済社会の成り立ちと考え方について、人間関係の経済組織化という視点から把握する。経済は、物質と人間との間の営みであると同時に、人と人の連鎖的な関係であるという社会特有の性格をもっている。日常見られるわたしたちの経済活動が人間間の関係としてあらわれるのはなぜか、という点をこの講義では追究したい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	経済社会はなぜ変化するのか―どこまで広がりどこまで深まるのか	経済社会とはどのような社会なのか。変化に次ぐ変化をみせるなかで、「経済社会の考え方」とはどのような性質のものなのか。近代経済はどのような社会的基礎のもとに形成されてきたのかについて考え、さらにシュムペーターが指摘するようなヴィジョンなどの近代社会における経済的思考の広がりと深化の本質をみていく。 キーワード 理論と実践、実行文化と思考文化、ヴィジョン、イデオロギー、思考実験、思考習慣、時間効果、交換、互酬、経験と思考	坂井素思（放送大学教授）	坂井素思（放送大学教授）
2	消費者はどれだけ満足できるか―快楽は幸福を導くか	わたしたちが日常の経済生活のなかで、よく利用している考え方に「功利（Utility）」がある。楽しいことは良いことである、という論理であり、享楽的な行動を正当化するときにはつねに用いられる。たとえば、消費者は、商品・サービスから快楽を得ようと物を購入するが、そのことでどれだけ満足するのであろうか。 わたしたちの生活のなかで、ある行為は良いこと（善）であり、他のある行為は悪いこと（邪）である、という判断が求められる。このときに、最も使われる考え方のひとつが、功利思想である。この功利という考え方は経済社会の特徴を典型的に現わしている。はじめの段階で、この考え方が現代社会でどの程度有効であるのか取り上げてみたい。 キーワード 快楽主義、禁欲主義、功利主義、幸福、苦痛、便宜、効用、社会調和	坂井素思（放送大学教授）	坂井素思（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
3	商業が結ぶ人間関係とはどのようなものか	分業と交換がもたらす経済関係について、この章で考える。わたしたちの現代社会では、自給自足の社会とは異なり、自分の労働によって生み出された生産物だけでは、自分の必要とする生活品のごくわずかしか満たされないことを知っている。ほとんどの生活品は、他者の労働によって生み出された生産物を利用している。つまり、商業社会という仕組を利用しなければ、近代人は自分の生活が成り立たない。このような状況は、なぜ成立したのか。ここで、分業という仕組は、なぜ必要なのか。商業社会が形成される根本的な問題について、A.スミスを中心にして、現代にいたるまで続いている関係をこの章で考えていきたい。 キーワード 分業、交換、産業、商業、重農主義、重商主義、商業社会	坂井素思(放送大学教授)	坂井素思(放送大学教授)
4	市場とはなにか	経済は、どのように調整されるのだろうか。この調整の過程で、経済組織としての「市場メカニズム」が形成され、財貨の調整と同時に、需要者と供給者との間で社会的関係が結びつけられ、経済全体が秩序づけられることになる。この経済社会特有の考え方について考える。 市場というもののイメージには、どのようなものがあるのだろうか。最も具体的なイメージは、地方都市の道筋で商われている「朝市」のようなものかもしれない。最も抽象度の高いイメージは、L・ワルラスの「一般均衡」という考え方であろう。 市場では生産と消費を取引によって調整するには、たいへん不確実が伴うことも事実である。それにもかかわらず、これらの不確実な状態を乗り越えるためにこそ、人間は経済関係を結び直し、市場を形成してきたといえる。このような市場という仕組には、どのような特徴があるだろうか。この章では、市場を特徴付ける考え方について検討したい。 キーワード 市場、計画、調整メカニズム、需給一致、価格情報、自動調節、競争原理、分権、リスクと不確実性	坂井素思(放送大学教授)	坂井素思(放送大学教授)
5	なぜ人は働くのか	今日ほど、働くことが問われている時代はない。なぜ労働を行うのか。人びとは、労働を行うなかで組織へ参加し、社会を形成する。ジョン・ロックをはじめとする労働論を展望しながら、労働が経済社会の中で持つ意味を考える。「勤労という考え方」がいかに経済社会を形成していくのかをみたい。 人は働くことで、個人生活から出て、社会との結びつきを得ることになるが、そこで人びとを働く気にさせるものは何か、という点が重要である。勤労の成果をその本人の所有物にする、という考え方が	坂井素思(放送大学教授)	坂井素思(放送大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
		起こってきたのが、近代からである。この結果、労働インセンティブは、利得観念や所有と関係を持つようになった。 働くことがこれほど問われているのはなぜだろうか。1980年代～90年代にかけて、労働とりわけ雇用の内容が多くの場面で変わってきた。この変化は、現在から将来にわたっての勤労社会というものを変質させる大きな要因となっている。現代において働くことは、何を意味しているのか、そしてどのようにわたしたちは働くのかについて考えたい。 キーワード 勤労、労働インセンティブ、帰属本位、業績本位、所有権、共有権、利得観念、世俗内禁欲、労働力商品		
6	生産は何を目指すのか	現代の経済社会のなかで、経済的な人間関係を拡大するうえで大きな機会を作り出しているのは、まぎれもなく「生産」のなかで取り結ばれる関係である。自給自足経済に始まる生産の変化は、効率性を最大限追求する「大量生産方式」を生み出すことになるが、この生産における経済関係で見られる考え方について、この章でみていきたい。 近代になって、生産の目的に、より多くの生産を行うことという考え方が加わった。生産の増大と生産性の高いことが望まれるようになるが、この中で19世紀から20世紀にかけて特別に追求された生産の考え方は、「規模の経済」という大量生産を目指す方式であった。 キーワード 規模の経済、範囲の経済、大量生産、収穫逓減、科学的管理法、動作研究、フォーディズム、適正規模	坂井素思（放送大学教授）	坂井素思（放送大学教授）
7	会社はどこまで人びとを支配できるのか	経済社会のなかでは、人が他者を支配し、また他者に支配されるという関係が見られるが、このとき利用されるのがヒエラルヒー（階層制）という考え方である。この章では、ウェーバーの「支配」という考え方とその後の展開を見ていきたい。 上下関係を原理とするヒエラルヒーは過去の遺物のように考えられる傾向があるにもかかわらず、現在でも経済社会を動かすエンジンの一部を形成している。とりわけ、組織的な動きを得意とする企業内では、このヒエラルヒーの考え方については盛衰があるものの、今日でも重要視され続けてきている。 なぜ近代においても、階層制が存在するのか、また階層制にはどのような限界が存在するのかなどの点について考えたい。じつは、このヒエラルヒーの考え方に変化が起こってきたことが、現代の資本主義の変質をも引き起こす原因にもなった。バーリとミーンズなどによって指摘された「所有と経営の分	坂井素思（放送大学教授）	坂井素思（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
		離」現象などの議論についても検討を行いたい。 キーワード 支配、ヒエラルヒー、階層制、上下関係、権力、官僚制、専門性、動機づけ、信頼、プリンシパル、エージェント、所有と経営の分離		
8	組織社会はどのように考えられてきたのか	組織社会がなぜ生ずるのかについて、この章でみる。現代の企業組織の基礎に存在する「組織の考え方」を検討したい。そして、それが社会的な連関をどのようにして保持するのかについても考えてみたい。 組織全体を生き生きとした活動主体にするには、上下関係を合理的に設定すればよいというだけではない。貢献意欲、労働意欲、動機付けなどのような、いわば「機械のなかの幽霊」と呼ぶことのできるものの存在がここで問われている。これらの組織という考え方について、この章で考えてみたい。 キーワード 組織社会、有機体、貢献意欲、共通目的、協働、士気、取引費用	坂井素思（放送大学教授）	坂井素思（放送大学教授）
9	貨幣とはなにか	貨幣はどのような起源を持つのか、なぜ人は貨幣社会を形成するのだろうか。貨幣が社会のなかで担っている役割について考える。貨幣使用が他者の存在を意識しなければありえなかった現象であるという視点から考えると、貨幣は経済社会の結節点として重要な働きを行っている。 紙幣や硬貨の持ち主を次々にたどっていけばわかるように、その源泉は中央銀行の債務となって最後には消えることになる。また、そもそもその紙幣や硬貨でさえ、貨幣全体のわずかな一部を構成しているものでしかなく、貨幣全体をあらわすものではない。信用創造によって生み出された貨幣のように、紙や金属のような実体をもたない貨幣の方が、現代の経済社会ではより大きな力を持っている。しかしそのことは、貨幣が将来の生産可能性という、たいへん不確かなものなどによって成り立っていることを意味している。 キーワード 交換機能、支払機能、貯蔵機能、価値尺度機能、販売可能性、流動性、信頼性、信用	坂井素思（放送大学教授）	坂井素思（放送大学教授）
10	金融は人びとを幸福にするか	現代経済社会の特徴は金融という特性に現れているといっても過言ではないほど、生活のなかに金融システムが浸透している。金融は、はたして経済社会をどのような方向に導いていこうとしているのか。特に注目したいのは、将来の不確実性や危険（リスク）に対して、金融がいかに対処するのか、とい	坂井素思（放送大学教授）	坂井素思（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
		う観点である。高利論争など、利子の持つ意味などにはじまり、今日の金融社会のあり方について、歴史を振り返りながら、利得と利潤という考え方についてみていく。 キーワード 利得と利潤、家政術と貨殖術、ウズラ、リスクとリターン、企業欲、新結合、創造的破壊、企業結合		
11	経済社会ではどのような分配が行われてきたか	わたしたちが経済生活を行ううえで、「公正」な生活とはどのような状態のことを言うのであろうか。経済的正義という考え方がありうるならば、それは何を規準とするか、などについて、この章では考えてみたい。 成果主義、能力主義などの競争的な分配に対して、平等主義、社会民主主義的な分配法則についてもみる。経済的分配の考え方を整理し、さらに、ロールズなどの分配論の根拠となるような学説を考察する。 キーワード 福祉、配分的正義、矯正的正義、分配の公正、貢献原則、必要原則、メリットクラシー、パレート最適、格差原理	坂井素思(放送大学教授)	坂井素思(放送大学教授)
12	政府はどれだけ福祉を与えることができるか	政府は人びとの経済活動にどのような影響を与えるか。経済社会にとって、公共的な資源配分とはなにか。この章では、政府の経済的な役割について整理検討していくことにする。 また、政府活動は経済システムのなかで、どのように位置づけられるか。政府活動に現れる人と人の関係とはどのようなものか。福祉国家・福祉政策をめぐる経済システムのモデルを取り上げ、比較検討したい。そして、最も基本的なところでの政府活動の特徴を解明していくことにする。 キーワード 政府、ネットワーク組織、公共財、公共事業、公企業、規制、社会契約、黙約、アソシエーションとコミュニティ、一般意思、一般ルール	坂井素思(放送大学教授)	坂井素思(放送大学教授)
13	経済社会は環境を維持できるか	今日の経済社会は大きな広がりをもっている。かつてのように、個人は、物質的な幸福を追求するだけでは、経済社会に生きる妥当性は得られない。経済社会でも、「市場以外の取引」の重要性が認識されてきている。この章では、外部性の考え方を見るなかで、「コモンズの悲劇」や「コースの定理」などのエピソードに注目したい。今日の環境思想を辿りながら、現代の経済社会に見られる「環境問題」についての考え方を探ることにする。	坂井素思(放送大学教授)	坂井素思(放送大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
		キーワード 希少性、過剰原則、枯渇性資源、外部性、道徳的危険、コモンズの悲劇、コースの定理		
14	なぜ経済は社会組織を形成するのか	家族・コミュニティなどの社会経済組織がどのようにして社会関係を取り結ぶのかについて、この章では考える。なぜ人びとは社会のなかで集団を形成して、経済的な問題に対処しようとするのだろうか。家族の形成する家計集団や、地域で組織化される社会関係資本の考え方を見るなかで、人びとの間に生成される社会的ネットワークの役割を考察したい。 キーワード 分断、経済の分離、埋め込み、ゲマインシャフト、ゲゼルシャフト、家族、コミュニティ、プーリング、ソーシャル・キャピタル、ネットワーク、互酬性	坂井素思（放送大学教授）	坂井素思（放送大学教授）
15	経済社会はなにを目指しているのか	現代の経済社会を動かす要因について、この章で考える。サービス経済社会、情報社会、脱工業社会などの系譜を辿って、批判的に展望する。社会学者ベルなどによって提出されている経済社会の将来像について、比較検討を行う。そのなかで、経済社会があたかも見えざる目的を持っているかのように作用を及ぼす「経済秩序」という視点について、最後に見ておきたい。 キーワード 個人目的、経済社会の目的、経済秩序、機械の中の幽霊、サービス経済化、脱工業化、見えざる手、ネットワーク、不確実性、予期	坂井素思（放送大学教授）	坂井素思（放送大学教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	共通科目（社会系）	科目ｺｰﾄﾞ	1120808	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 市民社会と法 （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：広渡　清吾(専修大学教授)　〕

講義概要

「市民社会」という概念は、近代の世界の中で様々に解釈されてきている。法の世界、法のあり方を理解する上でも、「市民社会」の概念は、一つの重要な役割を果たすものである。「市民社会」とは、自由で平等、独立の個人が相互に交流し、自分たちの社会のあり方を決めていく社会であると考えられる。市民社会の概念をそのように位置づけたうえで、現代における社会と法のあり方について、一般的な問題から、具体的な問題まで多様にとりあげて、考察する。

授業の目標

市民社会概念の歴史的含意、社会と法のあり方にとっての市民社会概念の意義などを理解した上で、現代の社会において、社会と法のあり方を決定するのが社会の構成員としての「市民」であることを、法の形成と実現に関わる基礎理論や具体的な法領域毎の問題にそくして学ぶことを目標にする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	市民社会という考え方	本講義の初回として、「市民社会と法」というテーマの下で、何をどのように論じるのかを説明する。近代の市民社会を自由で、平等で、独立の市民から構成される社会であると定義した上で、そのような市民社会の考え方を出発点にすると、近代の法のあり方がどのように把握されるかについて考える。 【キーワード】 市民社会、市民と国民、市民の法の抽象的性格	広渡清吾	広渡清吾
2	市民社会と国家	市民社会の考え方にとって、市民社会と国家の関係をどのように位置づけるかはもっとも重要な論点である。これまで歴史的に論じられてきた市民社会の二つのタイプ、および最近の新しい市民社会論、ならびに戦後日本の法律学における市民社会論をとりあげ、そこにおいて国家がどのように位置づけられたかを検討する。 【キーワード】 civil society 、新しい市民社会論、市民社会と国家の一元論	広渡清吾	広渡清吾
3	市民社会と法体系	市民社会は自由を原理とするが、同時に平等の実現を課題とする。法の体系は、自由を原理とする法領域と自由を規制して平等を保障しようとする法領域の両者を含む。法はまた、公共の利益を確保することをも目的にする。このような多様な法領域の編成について考える。 【キーワード】 法体系、民法、商法、労働法、行政法、刑法	広渡清吾	広渡清吾
4	市民社会における裁判	裁判は、市民が自己の権利を擁護するプロセスであると同時に、社会の法秩序を具体的に実現するプロセスでもある。日本国憲法は市民に「裁判を受ける権利」を保障している。この権利の具体的実現のために、裁判制度がどのように展開しているかを検討しよう。 【キーワード】 裁判を受ける権利、三審制、違憲立法審査権、法律扶助	広渡清吾	広渡清吾

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	市民による司法の利用	市民は、自己の権利を擁護し、実現するためにどの程度、どのように裁判を利用しているだろうか。日本社会は裁判の利用が少ない社会であるといわれるが、平成の司法改革は、その状況を変えることを狙いとした。この改革の中身を検討し、とくに市民に一番身近な法曹である弁護士について考える。 【キーワード】 司法改革、法科大学院、訴訟嫌い、権利意識、弁護士	広渡清吾	広渡清吾
6	市民の司法参加	司法の職務は、国民主権に基づいて専門家としての裁判官が担っている。裁判官による司法、とくに刑事裁判に直接に市民が参加する制度が諸外国では設けられており、日本でも「裁判員制度」が実施されることになった。この新しい制度について考える。 【キーワード】 裁判と民主主義、陪審制度、参審制度、裁判員制度	広渡清吾	広渡清吾
7	市民社会と行政	行政は、法律に基づいて市民のために公共的な活動を行うものであるが、しばしば市民に優越する1つの権力のように扱われ、振る舞っている。そこには、戦前来の「お上」的行政観が残存している。近年では、市民と行政のパートナーシップが強調されだした。このような状況を検討し、市民と行政の関係について考える。 【キーワード】 行政の法律適合性、行政訴訟、行政手続法、情報公開法	広渡清吾	広渡清吾
8	市民と地方自治	地方自治制度は、日本国憲法によって導入されたものである。地方自治における市民と行政の関係は、より直接的であり、協働して地域を形成するという側面が次第に重要になってきている。市民のボランティア組織の役割が期待されている。地方自治の意義と制度を検討し、そこにおける市民と行政の関係を考える。 【キーワード】 地方公共団体、地方分権、NPO，市町村合併、市民と行政の協働	広渡清吾	広渡清吾
9	市民社会と企業	企業は市民社会における経済活動の担い手である。多くの市民は、企業で従業員として働く。現代の企業は、会社の形式をとることが普通であり、日本ではほとんどが株式会社である。経済活動の担い手であり、市民の働く場所である、株式会社としての企業について考える。 【キーワード】 株式会社、株主、取締役、従業員、社員、経営参加	広渡清吾	広渡清吾
10	市民と労働者	労働者は使用者に対して実質上、従属的な関係に立たされる。そこで労働者を使用者と対等な立場にするために労働基本権が与えられ、労働法が整備されている。近年の労働法制の改革を検討しながら、労働者の権利と労働法の役割について考える。 【キーワード】 労働三権、労働組合、労働時間、正社員と非正社員	広渡清吾	広渡清吾

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	市民社会と消費者	市民は、自給自足をしないかぎり、消費者としてモノやサービスを購入する。購入するモノ・サービスの安全性、品質や価格などをめぐって消費者と事業者の間には様々な紛争が生じうるが、そこでは消費者が弱い立場に置かれている。消費者をめぐる問題と法制度について検討する。 【キーワード】 消費者の権利、消費者契約、消費者団体、約款	広渡清吾	広渡清吾
12	市民社会と外国人	日本の市民社会は、日本国籍をもつ市民のみならず、外国籍をもつ市民も居住している。外国人である市民は、滞在の目的や期間などを異にするが、日本国籍者である日本国民と区別される法的に限定された地位を与えられる。外国人市民の状況と法的地位、その問題性について考えてみる。 【キーワード】 国籍、帰化、在留資格、外国人登録、永住者、移民	広渡清吾	広渡清吾
13	市民社会と女性	市民社会の市民は、自由で平等とされるが、実際には様々な差別が存在する。その中でもっと基本的な問題は、男女の差別である。日本の歴史の中で、男女の平等が認められたのは、やっと日本国憲法によってであった。男女平等をめぐる問題と法の対応を考える。 【キーワード】 雇用機会均等、性別分業、セクシュアルハラスメント、男女共同参画	広渡清吾	広渡清吾
14	市民社会と家族	家族は、市民の生活の基礎単位であるが、その役割は男女の関係の社会的あり方に規定されている。日本の家族法は、戦後改革で根本的に変えられるが、それ以降大きな変化なしに現在に至っており、改革の必要性が高まっている。婚姻制度を中心にこの問題を考える。 【キーワード】 離婚、破綻主義、夫婦別姓、非嫡出子の差別、少子化	広渡清吾	広渡清吾
15	市民社会と平和	市民社会の平和と安全は、市民社会にとっての最高の目標である。日本国憲法は、戦争の放棄および戦力の不保持を規定し、平和確保への道筋を示しているが、その改正を求める意見も強まっている。あらためて憲法の平和のための道筋について考える。 キーワード 戦争放棄、戦力の不保持、自衛権、日米安保条約、PKO	広渡清吾	広渡清吾

＝　日本国憲法（‘０５）＝（TV）

〔主任講師：　大石　眞（京都大学大学院教授）〕

全体のねらい

比較憲法史や憲法の一般理論などの成果を踏まえつつ（１～３）、現行の日本国憲法が定めている統治構造（４～９）と権利保障（１０～15）について、主要な論点を取り上げながら検討を加えることを通して、憲法に対する理解をより深めることができるよう努めたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	憲法の考え方	憲法の意味やそのあり方について概説する。すなわち、憲法の概念（実質的意味の憲法・形式的意味の憲法・立憲的意味の憲法）、その法源（憲法典・憲法附属法・憲法判例）、そして憲法解釈の方法などについて説明する。	大石　眞（京都大学大学院教授）	大石　眞（京都大学大学院教授）
2	明治立憲制の成立と運用	かつて公式に帝国憲法と略称され、今日一般に明治憲法といわれる大日本帝国憲法は、東洋で初めて制定された憲法典である。明治立憲制はこれを中心に成立するが、ここではその制定経緯や特色を明らかにし、実際の運用における問題点なども検討する。	同　上	同　上
3	現行憲法の制定と基本原理	ポツダム宣言の受諾に始まり、占領管理体制の下で進められた現行の日本国憲法の制定経過をたどり、その特色を浮き彫りにするとともに、基本原理といわれるものと憲法改正問題との関係などを検討する。	同　上	同　上
4	半直接民主制－国民と国会	日本国憲法の第一の特色を「半直接民主制」とみる立場から、国民と国会との関係を明らかにする。そのため、国民主権や参政権の内容をみた後、公民団（有権者団）の構成原理、国民発案・国民表決などの意義、具体的な国政選挙のあり方、政党の位置づけなどを検討する。	同　上	同　上
5	議院内閣制（１）－国　会	現行憲法の第二の特色を「合理化された議院内閣制」とみる立場から、国会と政府との関係を明らかにする。まず、両議院の組織や両院制のあり方について検討を加えるとともに、その立法・財政・政府統制などの権能や国会両議院の手続などを取り扱う。	同　上	同　上
6	議院内閣制（２）－天皇と内閣	政府を形づくる天皇と内閣の地位・権能・手続を概観する。具体的に言えば、皇位継承法や天皇の国事行為をめぐる問題点を探るとともに、内閣の構成（内閣総理大臣と閣僚）と権限（行政組織統轄権・総合調整機能など）について検討を加える。	同　上	同　上
7	司法審査制－政治と裁判	現行憲法の第三の特色を「アメリカ型法の支配」とみる立場から、国会・内閣などの政治部門と司法裁判所との関係を明らかにする。そのため、司法組織の概要を説明した後、司法権の意味と限界、合憲性審査制度のあり方などを検討する。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
8	財政民主主義 ―国家と財政	財政立憲主義ともいわれる財政民主主義の原則を形づくる憲法規定の内容を概説する。ここでは、租税制度・予算制度をめぐる問題点を中心的に取り上げるが、財政作用に対する憲法上の制約などについても検討する。	大石　眞	大石　眞
9	地方自治 ―国と地方自治体	地方自治の原理と構造について検討する。すなわち、地方分権の理念、地方自治体の組織と機関、国の法令と条例との関係といった伝統的な論点に加えて、自治事務と法定受託事務、地方自治体に対する国の関与のあり方といった最近の論点を検討する。	同　上	同　上
10	人権と権利保障	人権・基本権・基本的人権といったさまざまな観念を整理した後、権利主体、権利保障の方法・関係・限界といった権利保障に関する通則を検討するとともに、国際人権保障のしくみや人権条約などについて概説する。	同　上	同　上
11	包括的権利	現行憲法13条が包括的に定めている幸福追求権及び適正手続保障の具体的内容について検討するとともに、いろいろな場面で問題となる憲法14条が定めている平等原則のもつ意味や効果について、最高裁判所の主要な憲法判例を紹介しつつ、考察する。	同　上	同　上
12	人身の自由と 私生活の保護	いろいろな権利や自由の中で、最も基本的な権利に位置づけられる人身の自由を確保するための基本原理と人身拘束の典型的な場面に対する制約を意味する「憲法的刑事手続」の考え方を検討するとともに、私的生活を形づくる居住の自由と住居の不可侵、通信の秘密などについて検討を加える。	同　上	同　上
13	精神的自由	学問・教育といった人格形成に関する自由、宗教的自由、表現や放送といった情報に関する自由、そして集会・結社といった集団行動に関する自由について、主要な論点に着目し、最高裁の憲法判例を踏まえつつ、検討する。	同　上	同　上
14	経済的自由	職業の選択、財産権の行使、契約といった生活営為のための諸活動を検討するとともに、こうした経済活動に対する制約を予定している憲法規定（労働三権など）のもつ意味についても吟味する。	同　上	同　上
15	国務請求権	ここでは、国民が国家の不作為を求める自由権の保障とは異なって、国家の積極的な作為を求める場面を対象とする。すなわち、裁判請求権のような伝統的な国務請求権や、生存権などのように比較的新しい請求権などの概要について検討する。	同　上	同　上

科目名（メディア）＝　経営学入門（‘０７）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：佐々木　弘（神戸大学名誉教授）〕
〔主任講師（現職名）：奥林　康司（摂南大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：原田　順子（放送大学准教授）　〕

講義概要

経営学入門として、経営学で明らかにしようとしている基本的な課題について解説する。企業はヒト・モノ・カネ・情報から成り立っている。従って、これらの経営要素を組み合わせる仕組みとしての株式会社制度や組織、もの作りの仕組みとしての生産システム、ヒトを動かす仕組みとしての人事労務管理、カネの動きを統制する財務管理、社会における企業の新しい役割などを企業経営の視点から学習することを目指している。

授業の目標

経営学の出発点として、経営の概念を明らかにする。経営学の基礎概念として企業、経営、管理、組織、経営効率、事業などを日常生活の中から明らかにする。そこから、経営学的視点はどのようなものかを示す。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	経営とは何か	経営学の出発点としての経営概念を明らかにする。経営学は経済学とどのように異なるのか。経営学的な視点はどのようなものか。更に、経営学の基本概念である企業、経営、管理、組織などについて説明し、本講義の全体像を紹介する。	奥林康司（摂南大学教授）	奥林康司（摂南大学教授）
2	株式会社の仕組みと組織	経営学の主要な対照となる株式会社制度について、その仕組みと基本的な特徴を明らかにする。株式会社は、行政の組織や学校などとどのように異なるか。株式会社は何を目指して運営されているか。誰にどのように役立っているか。なぜ株式会社は社会から注目を集めているかなどを学習する。	同上	同上
3	コーポレート・ガバナンス	会社を運営する経営者の役割とその行動を規制する仕組みを明らかにする。会社は誰のものか。誰が会社の運命を決定する権限を持っているか。経営者と株主はどのような関係にあるか。経営者はどのような考え方に基づいて会社を運営しているか。社会にとって良い会社の運営とは何かなどを学習する。	同上	同上
4	企業集団とグループ経営	会社は他の会社とどのような協力関係を結んでいるかを学習する。住友・三菱系などの企業集団の意義と役割は何か。なぜ企業は集団を形成するのか。企業集団と区別された企業グループの特徴は何か。グループ経営の仕組みはどのようになっているか。会社はなぜ会計面でも結び付けられているかなどを学習する。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	生産システム	商品を効率的に生産する方法とその基本的な考え方を明らかにする。製品を安く、かつ質も高く生産する方法としてどのような仕組みが工夫されてきたか。大量生産方式の特徴はないか。多品種少量生産方式といわれるセル生産システムの特徴は何か。それらがなぜ効率性を高めるかなどについて学習する。	奥林　康司	奥林　康司
6	企業の組織構造	企業がその目的を効率的に達成できるように工夫してきた組織について学習する。官僚制組織やフラット型組織、マトリックス組織などはどのような考え方に基づいて設計されてきたか。それらの組織はいかにして効率を上げているか。どのような条件の下で夫々の組織は効率性を発揮しているかなどを学習する。	同上	同上
7	企業組織における人間行動	企業組織の中で社員や管理者はどのような行動をしているかを明らかにする。社員はなぜ会社の中で一生懸命働くのか。社員は何を考えて熱心に働くのか。どのような管理者の下で部下は良く働こうと思うのか。部下の意欲を引き出すために管理者はどのような行動をするのがよいかなどを学習する。	同上	同上
8	賃金制度	我が国の賃金制度の特色について考える。年功的賃金制度とは、年齢とともに上昇する傾向があり、各種手当などの生活給要素を含むものである。第二次世界大戦後の賃金制度の変遷を概観し、いわゆる日本的賃金制度について学習する。さらに、1990年代以降の成果主義賃金についても解説する。	原田　順子（放送大学准教授）	原田　順子（放送大学准教授）
9	非典型労働者の雇用管理	正社員以外の雇用形態（パート、アルバイト、派遣等）で働く人は、劇的に増加している。従来、非典型労働者は女性に多かったが、近年では若年・高年齢の男性にも広がっている。その背景、問題点について考える。また、非典型労働者の積極的活用を行う企業の事情についても学習する。	同上	同上
10	企業の資金調達	資金は企業活動に投下され、さまざまな財やサービスに変換され、また次の資金として回収される。このように資金は企業活動を支える大切な資源としての大きな役割を担っている。 講義では、企業の資金調達について、その制度や資金調達方法を中心に解説する。	齋藤　正章（放送大学准教授）	齋藤　正章（放送大学准教授）
11	財務情報の活用	企業活動の成果は最終的に財務諸表という計算書類に集約される。したがって、財務諸表を理解し、その分析方法を知ることは企業活動の理解を深めることとなる。 講義では、まず財務諸表にはどのようなことが記載されているかを解説し、後に具体的な分析を行う。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	企業評価	「よい企業」とはいったいどんな特色を備えた企業だろうか。また、「よい企業」があるとすれば、「悪い企業」はどのような症状に陥っているのだろうか。講義ではコーポレート・ガバナンスの視点から企業評価の手法について解説する。	齋藤　正章	齋藤　正章
13	グローバル経営	今日では、企業経営は世界市場を前提にして展開されている。海外で活躍している日本企業は日本で行っているのと同じ経営を行っているのか。海外で通用する日本的経営はどのようなものか。グローバルに活躍する日本企業はどのような経営を行っているのか。国際市場における日本企業の競争力の源泉は何かなどについて学習する。	奥林　康司	奥林　康司
14	良き「企業市民」としての企業	企業に対する人々の関心は近年大きく変わりつつある。「誠実な」企業、「環境にやさしい」企業、「志の高い」企業等が次第に高く評価され、かつ、業績も伸ばしつつある。本章では良き「企業市民」としての企業、「社会的責任投資」「フェアートレード」等の新しい動きを述べたい。	佐々木　弘（神戸大学名誉教授）	佐々木　弘（神戸大学名誉教授）
15	経営学のさらなるフロンティアを求めて	経営学の領域でこれまでに蓄積された知見やマネジメント的視点は非営利組織をはじめ、都市経営、病院経営、学校（大学）経営、協同組合の経営等、より広い組織体にも広く適用され、有用な分析用具として活用されつつある。 経営学はさらなるフロンティアを求めて、その外延を拡大しつつ発展している。講義ではこの辺の動向を説明してみたい。	同上	同上

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	共通科目（社会系）	科目コード	1121006	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 現代の会計 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：石川純治（駒澤大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：齋藤正章（放送大学准教授）〕

講義概要

会計上のトピックスが一般紙にもしばしば登場してくる。会計および監査が今日ほど社会の注目を受けることはかつてなく、会計制度の大変革いわゆる「会計ビッグバン」が社会経済に大きなインパクトを与えている。この大きく変容する現代の会計を読み解くため、「歴史」、「理論」、「社会」の3つの視軸をとおして講義を進める。

授業の目標

個々の新しい会計基準を知ることよりも、大きく変容する現代の会計をトータルに理解することがより大切である。変容の今日的なあり方はいかなるものか、その変容は何処からくるか、会計の基本的な考え方は大きく変わったのか、変容する現実社会のなかで会計がどのように機能しているか、といった点の学習が大切である。本講義をとおして、変容する現代の会計のトータルな理解と将来の予見に役立つことを目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	歴史のなかの簿記会計 ～温故知新～	講義のプロローグとして、会計を歴史の文脈で学習することの大切さを知っていただく。現代の会計を真に理解するには、過去の会計を知ることが大切だからである。 【キーワード】 複式簿記の起源と伝播、口別損益計算、期間損益計算、近代会計、現代会計、会計士会計学	石川純治（駒澤大学教授）	石川純治（駒澤大学教授）
2	簿記とは何か ～単式、複式、三式～	会計の基礎には複式簿記があり、複式簿記のない会計は考えられない。講義では簿記の常識・通念を根本的に問う「思考簿記」の面白さに焦点を当て、「検定簿記」の学習を相対化する。 【キーワード】 単式簿記、複式簿記、複式簿記の内容と形式、展開表簿記、三式簿記	石川純治（駒澤大学教授）	石川純治（駒澤大学教授）
3	キャッシュフローの簿記会計 ～第3の基本財務表～	損益計算書、貸借対照表に次ぐ第3の基本財務表であるキャッシュフロー計算書を取り上げる。本章では、特にその記録計算の仕組み（構造）に焦点を当てる。 【キーワード】 キャッシュフロー計算書、直接法、間接法、キャッシュフロー経営、キャッシュフロー革命	石川純治（駒澤大学教授）	石川純治（駒澤大学教授）
4	損益計算とキャッシュフロー計算 ～同型性と相対性～	損益計算書とキャッシュフロー計算書はその計算目的を異にしている以上その会計形態を異にしているが、その形態の基底には相共通する構造が存在すること（記録・計算の同型性と相対性）を明らかにする。 【キーワード】 変動貸借対照表等式、財産法と損益法、間接法と直接法、複式仕訳、振替、同型と相対	石川純治（駒澤大学教授）	石川純治（駒澤大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	複式簿記のサイエンス ～複式簿記とは何であり、何でありうるか～	これまでの議論をふまえて、複式簿記とは「何であったか」（過去）、「何であるか」（現在）だけでなく、さらに「何でありうるか」（未来）という問にも答えるために、複式簿記のサイエンスといった方法について議論する。 【キーワード】 構造と形態、同型と相対、技術性と歴史性、記録媒体と記録方式、複式簿記のスケルトン、複式簿記と数学	石川純治（駒澤大学教授）	石川純治（駒澤大学教授）
6	企業会計の基本的な考え方 ～「企業会計原則」の立脚点～	今日の企業会計の変容を考える際、議論の出発点をどこにおくかが極めて重要になる。そこで、その出発点をこれまでの会計ルールの基礎にある「企業会計原則」、とりわけその立脚点（基本的考え方）に求めて議論を進める。 【キーワード】 企業会計原則、動態論、静態論、会計変容	石川純治（駒澤大学教授）	石川純治（駒澤大学教授）
7	会計ビッグバン（1） ～金融商品会計と「企業会計原則」～	「会計ビッグバン」にともない新たな会計基準が次々に導入されたが、本章ではその代表格である金融商品会計を取り上げ、前回での「企業会計原則」の基本的考え方に照らして、それとの整合・非整合性の問題を考える。 【キーワード】 企業会計原則の変遷過程、実現主義、金融商品会計、会計の制度性、計算と開示	石川純治（駒澤大学教授）	石川純治（駒澤大学教授）
8	会計ビッグバン（2） ～退職給付会計と「企業会計原則」～	前回は金融商品会計を取り上げたが、今回は退職給付会計を取り上げる。ここでも、この新たな会計基準が「企業会計原則」の部分修正の延長上にあるかどうか、とりわけ「発生」で説けるかが問われる。 【キーワード】 発生主義、退職給付会計、引当金、負債と費用、実態開示と損益計算	石川純治（駒澤大学教授）	石川純治（駒澤大学教授）
9	変容の全体をどう見る ～3つの見方～	従来の会計基準と新たな会計基準とからなる今日の企業会計の全体をどう見るか、その見方に大きくは3つあることを示す。そして、それが変容の度合いの見方の相違でもあることを明らかにする。 【キーワード】 ハイブリッド・アカウンティング、会計配分、CAAモデル、収益費用中心観、資産負債中心観	石川純治（駒澤大学教授）	石川純治（駒澤大学教授）
10	変容の形と方向 ～ハイブリッド性～	今日の企業会計の変容がどのような「形」になっているか、さらにその変容がいかなる「方向」（ベクトル）を向いているかを、その基礎から明らかにする。 【キーワード】 会計枠組み、配分と評価、記録と情報、計算と開示、企業価値	石川純治（駒澤大学教授）	石川純治（駒澤大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	新たな会計秩序を求めて ～会計基準の憲法作り～	新たな会計秩序の構築に向けた概念フレームワーク作りを取り上げ、そこでの基本的な考え方をこれまでの考え方との比較において議論する。 【キーワード】 企業会計原則、日本版概念フレームワーク、2つの整合性問題	石川純治（駒澤大学教授）	石川純治（駒澤大学教授）
12	トライアングル体制の変容 ～規範と現実～	企業会計と密接にかかわっている商法（会社法）および税法の変容をみることで、企業会計、商法会計、税務会計のいわゆる「トライアングル体制」の今日的変容を取り上げる。 【キーワード】 企業会計、商法会計、税務会計、トライアングル体制	石川純治（駒澤大学教授）	石川純治（駒澤大学教授）
13	経済のグローバル化と会計 ～社会と会計（1）～	経済のグローバス化に応じて、会計もグローバル化する。そこで、企業会計の国際化の事例も交えて、会計国際化の問題を取り上げる。 【キーワード】 国際会計基準、EUと2009年問題、会計外交	齋藤正章（放送大学准教授）	齋藤正章（放送大学准教授）
14	中小会社と会計 ～社会と会計（2）～	株式会社の9割以上は中小の非公開会社である。公開大会社むけの企業会計が限りなく国際化するなか、それとは自ずと性格を異にする中小会社の会計を取り上げる。 【キーワード】 中小会社会計、非公開と会計、ダブルスタンダードとシングルスタンダード、新会社法、会計参与、融資と会計	齋藤正章（放送大学准教授）	齋藤正章（放送大学准教授）
15	自治体と会計 ～社会と会計（3）～	今日、地方自治体の財政破綻が問題になっているが、東京都は発生主義など企業会計の手法を取り入れた新たな財務諸表を作成することにした。そこで、いくつかの事例をとおして自治体行政に会計がどこまで役立ちうるかを検証してみたい。 【キーワード】 自治体、行政、公会計	齋藤正章（放送大学准教授）	齋藤正章（放送大学准教授）

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	共通科目（社会系）	科目ｺｰﾄﾞ	1124200	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 多様化時代の労働 （’１０）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：原田 順子（放送大学准教授） 〕

講義概要

現在、「労働の多様化」がいくつかの面から進んでいる。たとえば、パート、派遣など、雇用形態の多様化が進展している。また、雇用者の属性をみれば、女性、高齢者、外国人など、多彩な人々が職場に進出してきている。そして評価に関していえば、人の多様化に対応するように、集団主義的管理から個人成果の反映へと変化が広まってきた。この講義では、労働の多様化に関する主要な事柄をとりあげ、現代の雇用労働の状況と課題を学習する。

授業の目標

この科目の目標は履修者に現代の労働について重要と思われる問題について理論的知識と具体的な事例を提供することにある。この講義により履修者が労働について、雇用形態、属性、評価などの面で多様化が進んでいることを理解することを目標とする。

履修上の留意点

15回の講義を通じて履修者は、ラジオ放送の解説、説明を聴き、印刷教材を熟読し、参考文献も読むことを期待する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	労働の多様化	あらゆる面で労働の多様化が進展しているといわれている。男性中心であった企業社会が変わり、高齢の労働者や外国人も増加した。雇用形態の多様化も進展し、パートタイマーや派遣労働者など非典型労働が社会を支えている。これらの課題について概観する。 【キーワード】 多様化、雇用形態、雇用者の属性、テレワーク	放送大学 准教授 原田順子	放送大学 准教授 原田順子
2	経営資源としての人材	経営資源として人材は重要な要素である。人材の管理についてフレームワークを学習する。日本企業はコア人材（基幹人材）への投資を実践してきたが、コア人材を含む多彩な人材の活用について学習する。 【キーワード】 人事管理、OJT、Off-JT、コア人材、企業特殊的技能	放送大学 准教授 原田順子	放送大学 准教授 原田順子
3	ダイバーシティ・マネジメント	フルタイム正規雇用の日本人男性を主体とする組織運営がなされてきた。しかし近年、従来の主役ではなかった人たちを含む多様な人材の管理（ダイバーシティ・マネジメント）が注目されるようになった。アメリカのダイバーシティ・マネジメントの起源を学習したうえで、日本型ダイバーシティ・マネジメントの特徴を把握する。 【キーワード】 ダイバーシティ・マネジメント、公民権法第7編、日本型ダイバーシティ・マネジメント、CSR	放送大学 准教授 原田順子	放送大学 准教授 原田順子

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	女性の労働と雇用	人口の半分を占めながら管理職の1割を占めるに過ぎない女性は、日本におけるダイバーシティ・マネジメントの主たる対象である。女性がどのように働き、企業がどのように女性を雇用しているのか、歴史的推移や国際比較を通して、見ていく。 【キーワード】 女性、労働力率、出生率、管理職比率、コース別雇用管理制度	関西学院大学大学院 准教授 大内章子	関西学院大学大学院 准教授 大内章子
5	大卒女性ホワイトカラーのキャリア形成と雇用管理	多様な女性の中でも大卒女性ホワイトカラーに焦点を当て、彼女らがどのように技能を形成し、どのようにワーク・ライフ・バランスをとってキャリアを形成しているのか、また企業はどのように彼女らを人材育成し、ワーク・ライフ・バランス施策などの支援をして雇用管理しているのか、を見ていく。 【キーワード】 大卒女性、キャリア形成、ワークキャリア、ライフキャリア、総合職、一般職、管理職、ワーク・ライフ・バランス	関西学院大学大学院 准教授 大内章子	関西学院大学大学院 准教授 大内章子
6	高年齢者と労働	少子高齢化と低成長の結果、高年齢者に対する社会保障が課題になっている。雇用者のためにも、そして企業のためにも高年齢者という存在を織り込んだ上で上手く回っていく仕組み作りが、今、求められている。高年齢者について、定年制を中心に解説する。 【キーワード】 定年制、結晶性知能、改正高年齢者雇用安定法	放送大学 准教授 原田順子	放送大学 准教授 原田順子
7	経済のグローバル化と人材	経済のグローバル化が進展している。先進工業国に比較して、新興工業国の経済成長が目覚ましい。世界各国が貿易依存度を高めており、経済のグローバル化と多極化が同時進行している。わが国の企業も、現地生産、現地販売、海外の市場間の輸出入に取り組み、優秀な人材を国内外に求めている。現状と課題を学ぶ。 【キーワード】 グローバル化、トランスナショナル組織モデル、海外子会社・孫会社、リーダー人材	放送大学 准教授 原田順子	放送大学 准教授 原田順子
8	日本の労使関係	日本的労使関係の特徴について学習する。そのうえで、労働組合組織率の低下と非正規雇用の増加について考える。また、労働者の多様化の例としてパートタイマーの増加をとりあげ、パートタイマーの組織化に関して解説する。 【キーワード】 企業別組合、労働組合組織率、非正規雇用	放送大学 准教授 原田順子	放送大学 准教授 原田順子
9	ヨーロッパにおける典型労働と非典型労働	ヨーロッパでは、非典型労働は増加しているのか。各国における臨時労働や派遣労働の比率を見たのち、その違いの背景となる典型労働や非典型労働に関する規制のあり方を探る。 【キーワード】 臨時労働、派遣労働、解雇規制、フレキシュリティ	亜細亜大学 准教授 権丈英子	亜細亜大学 准教授 権丈英子
10	パートタイム労働Ⅰ	日本とヨーロッパ諸国におけるパートタイム労働の特徴を概観する。日本のパートタイム労働法、EUにおけるパートタイムとフルタイムの均等待遇や労働時間延長短縮の権利保障などの取り組みを紹介する。 【キーワード】 パートタイム労働法、EUパートタイム労働指令、非自発的パート	亜細亜大学 准教授 権丈英子	亜細亜大学 准教授 権丈英子

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	パートタイム労働Ⅱ	先進国中最もパートタイム労働者の割合が高く、パートタイム労働者の活用や待遇改善が進んでいるオランダを取り上げる。オランダがなぜ現在のようなパートタイム社会になったのかを、1980年代以降の同国の社会経済的背景を探ることから考える。 【キーワード】 パートタイム社会、オランダ、ワッセナー合意、均等待遇、労働時間選択の自由	亜細亜大学 准教授 権丈英子	亜細亜大学 准教授 権丈英子
12	戦後の賃金制度の変遷	第二次世界大戦後、わが国の正社員の賃金制度はどのように変化してきたのか。生活給思想に基づいた電産型賃金は、なぜ戦後の混乱期に受け入れられたのか。そして、合理的賃金として登場した職務給を経て、日本的賃金制度の標準型となった職能資格制度までを振り返る。 【キーワード】 生活給思想、電産型賃金、職務給、職能資格制度	放送大学 准教授 原田順子	放送大学 准教授 原田順子
13	評価と賃金の多様化	働き方の多様化は、その職務を担当する人材の評価と賃金のあり方に多様化をもたらしている。雇用形態に応じた組織への貢献度に基づき給与や賞与の支払ルールがどう変わってきているのか。さまざまな立場の社員が働く「モザイク職場」を前提としたこれからの評価と賃金のあり方を検討する。 【キーワード】 トータル人材マネジメント、複線型人事、キャリア・ラダー	三菱UFJリサーチ&コンサルティング プリンシパル 吉田寿	三菱UFJリサーチ&コンサルティング プリンシパル 吉田寿
14	成果主義1：正しい成果主義の原理	年功主義から成果主義へのトレンドは、もはや不可逆的な流れである。一方で、成果主義がもたらした弊害も無視することはできない。組織と個人のパフォーマンスを適正に測定して社員の処遇に結びつけるポイントは何か？ここでは、成果主義の原理原則と内在している課題について検討する。 【キーワード】 パフォーマンス・マネジメント、コンピテンシー、モチベーション	三菱UFJリサーチ&コンサルティング プリンシパル 吉田寿	三菱UFJリサーチ&コンサルティング プリンシパル 吉田寿
15	成果主義2：ミドルを覚醒させる人材マネジメント	機能する成果主義の実現のためには、制度のインフラ整備もさることながら、実際には、それを運用する現場の評価者としてのミドル・マネジメントの力量が問われてくる。ここでは、最近何かと批判も多いミドルを正しく覚醒させ、真のマネジメント人材を育成していくための条件を検討する。 【キーワード】 ミドルの復権、意識と行動の変革、学習する組織	三菱UFJリサーチ&コンサルティング プリンシパル 吉田寿	三菱UFJリサーチ&コンサルティング プリンシパル 吉田寿

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	共通科目（社会系）	科目ｺｰﾄﾞ	1122908	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 技術者倫理 （’０９）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：札野　順　（金沢工業大学教授）　〕

講義概要

科学技術は、新しい「価値」を生み、社会と環境に大きな影響を与えます。それゆえ、技術を実践する「行為者」である技術者は社会に対して特別の責任を負っています。本科目では、技術者がその職務を遂行する上で、必要な新しい「倫理」について考察します。技術者が直面する可能性のある種々の倫理的問題を、スペースシャトルチャレンジャー号事故などの具体的な事例を通して紹介します。また、それらの問題を分析し、倫理的に推論する方法について学びます。特に、技術者が重視すべき「価値」（安全など）を、学協会の倫理綱領を通して検討します。これらの学習を踏まえ、21世紀の技術者に求められる倫理的な判断能力について考えます。

授業の目標

1. 科学技術の発展に伴い、人間の「行為」の領域が拡大たので、技術を実践する「行為者」である技術者には、新しい「倫理」が必要であることを理解できる。 2. 技術的解決の結果が、社会や環境に与える影響の範囲と大きさを理解できる。 3. 技術に関する意思決定を行う際に、考慮すべき種々の「価値」について認識できる。 4. 技術者が担う特別の責任について、その歴史的背景を含めて、理解できる。 5. 技術を実践する上で、発生し、技術者が直面する可能性のある倫理的問題を認識できる。 6. 倫理問題を分析する手法について理解すると共に、それらの手法を種々の事例に適用できる。 7. 倫理問題に唯一絶対的な解はなく、複数の視点が存在し得ることを理解する。

履修上の留意点

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	技術者倫理とは何か 学習目標: 1. 科目概要:技術者倫理を学ぶ目的 2. 科目の学習・教育目標の理解 3. 技術者倫理の定義の理解	1. 技術倫理に関わる事例のフラッシュ映像の提示　2. 問いかけ「あなたが現場の技術者であるとしたらどのように行動しますか。」　3. 科目概要、科目の学習・教育目標の提示 4. 技術者倫理の定義の説明　5. 科学技術と価値 6. 技術者倫理の4つのレベル（メタ、マクロ、メゾ、ミクロ） 【キーワード】	札野　順（金沢工業大学・教授）	札野　順（金沢工業大学・教授） 大場恭子（金沢工業大学・研究員）
2	技術者が意思決定を迫られる状況とは（1）	1. 技術者倫理における事例検討の重要性 2. 事例研究（スペースシャトル・チャレンジャー号に関する解説） 3.あなたが現場技術者ならいかに行動するか。 4. 現場の技術者の視点（ロジャー・ボジョリー氏に聞く） 【キーワード】	札野　順（金沢工業大学・教授） 大場恭子（金沢工業大学・研究員）	札野　順（金沢工業大学・教授） 大場恭子（金沢工業大学・研究員）
3	技術者が意思決定を迫られる状況とは（2）（事例を通した用語/概念などの解説）	1. 本事例におけるステークホールダーと価値 2. 本事例をメタ・マクロ・メゾ・ミクロの視点から考える 3. マクロ・レベル:科学技術と行為の拡大 4. メゾ・レベル:組織の問題、制度、権限の問題など 5. ミクロ・レベル:技術者はいかに行動すべきか:倫理的意思決定の方法 【キーワード】	札野　順（金沢工業大学・教授） 栃内文彦（金沢工業大学・准教授）	札野　順（金沢工業大学・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	なぜ今、技術者倫理か(1)	1. 科学技術の歴史、エンジニアリングの歴史、特質に関する解説 2.科学技術の発展に起因する社会の変容 3. 近代科学の成立と「内なる自然（人間の本能など）」を理解し制御するものとしての新しい倫理学（義務論、功利主義など）の台頭 4. 職業としてのエンジニアリングの発達 【キーワード】	札野　順 （金沢工業大学・教授） 夏目　賢一 （金沢工業大学・講師）	札野　順 （金沢工業大学・教授） 夏目　賢一 （金沢工業大学・講師）
5	なぜ今、技術者倫理か(2)	1. 科学技術の進展による行為の拡大と新しい倫理の必要性 2.科学技術と社会の新しい関係：科学技術社会論の視点 3. 科学技術に関連する「価値」に関する議論 4．環境倫理学、生命倫理学、情報倫理などが明らかにした事柄に関する議論 ゲスト：　加藤尚武氏（京都大学名誉教授） 【キーワード】	札野　順 （金沢工業大学・教授） 栃内文彦 （金沢工業大学・准教授）	札野　順 （金沢工業大学・教授） 栃内文彦 （金沢工業大学・准教授）
6	技術者としていかに行動すべきか(1)	1. 倫理的問題とは何か－ジレンマ問題を手がかりに 2. 倫理的思考の特徴 3. 倫理原則と倫理問題の解決方法 4. 倫理と法の関係 【キーワード】	金光秀和 （金沢工業大学・講師）	金光秀和 （金沢工業大学・講師）
7	技術者としていかに行動すべきか(2)－行為の設計と価値	1. 技術者が重視すべき価値とは何か 2.「社会契約説」と倫理綱領 3. 倫理綱領の歴史 4. 技術者倫理の原則としての倫理綱領とそこに含まれる価値 5. 設計問題と倫理問題 【キーワード】	金光秀和 （金沢工業大学・講師）	金光秀和 （金沢工業大学・講師）
8	技術者としていかに行動すべきか(3)－倫理的意思決定の方法	1. 黄金律テスト、普遍化可能性テスト、その他倫理テストなどに関する解説 2. セブンステップガイドの解説と応用 3. 倫理的判断を行う際に技術者が知っておくべき法律 4. 倫理的判断を妨げる要因と促進する要因 【キーワード】	札野　順 （金沢工業大学・教授） 金光秀和 （金沢工業大学・講師）	札野　順 （金沢工業大学・教授） 金光秀和 （金沢工業大学・講師）
9	優れた意思決定がもたらすもの	1. 技術者の倫理的な意思決定が良い結果をもたらした事例に関する理解 2. 事例研究（ホンダCVCCエンジンの開発） 3. 事例研究（シティコープタワービルの危機） 4. 二人の技術者の比較 【キーワード】	札野　順 （金沢工業大学・教授） 大場恭子 （金沢工業大学・研究員）	札野　順 （金沢工業大学・教授） 大場恭子 （金沢工業大学・研究員）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	組織の中の技術者（1）－公益通報をめぐって	1. 事例紹介（ギルベイン・ゴールド簡略版） 2. 組織の中の技術者－その責任と権利 3. 公益通報が倫理的に許される条件 4.公益通報をめぐる諸問題 【キーワード】	札野　順（金沢工業大学・教授） 夏目　賢一（金沢工業大学・講師）	札野　順（金沢工業大学・教授） 夏目　賢一（金沢工業大学・講師）
11	組織の中の技術者（2）－技術者倫理と企業倫理	1. 事例研究（内部告発によって明らかになった事例の紹介） 2. 倫理的な技術者が公益通報をしなくてもよいように企業は何をすべきか。 3. 企業倫理プログラムとは何か 4. 優れた倫理プログラムに含まれる要素 ゲスト：梅津光弘氏　慶応義塾大学商学部 【キーワード】	札野　順（金沢工業大学・教授） 大場恭子（金沢工業大学・研究員）	札野　順（金沢工業大学・教授） 大場恭子（金沢工業大学・研究員）
12	組織の中の技術者（3）－すぐれた取り組み	1. 東京電力の取り組み 2. 日本テキサスインスツルメンツの取り組み 3. 雪印乳業の取り組み 4. 東芝の取り組み 5. 日立製作所の取り組み ゲスト：村松邦子氏（テキサス・インスツルメンツ） 【キーワード】	札野　順（金沢工業大学・教授） 大場恭子（金沢工業大学・研究員）	札野　順（金沢工業大学・教授） 大場恭子（金沢工業大学・研究員）
13	高度技術社会における技術者の新しい役割	1. 科学技術とリスク 2.個別技術（原子力技術、遺伝子組み換えなど）に関する検討 3. リスクの不確実性と社会的意思決定 4.社会とのコミュニケーション ゲスト：班目春樹（東京大学・教授）／小林傳司（大阪大学・教授） 【キーワード】	札野　順（金沢工業大学・教授） 夏目　賢一（金沢工業大学・講師）	札野　順（金沢工業大学・教授） 夏目　賢一（金沢工業大学・講師）
14	責任ある研究活動とは何か	1. 研究倫理の事例（ベル研論文捏造、韓国ES細胞、東大事件）に関する考察（ゲスト：村松秀氏　NHK） 2.「責任ある研究」に関する解説 3.研究における価値の変容：なぜ、不正は起こるのか 4. 研究における不正行為：FFP（捏造、改竄、剽窃） 5. 責任ある研究を推進するためには 【キーワード】	札野　順（金沢工業大学・教授） 栃内文彦（金沢工業大学・准教授）	札野　順（金沢工業大学・教授） 栃内文彦（金沢工業大学・准教授）
15	技術者の新しい役割：社会のなかの、社会のための技術者：Philosopher-Engineerを目指して	1. 技術／技術者倫理の諸相 2. ミクロからマクロへ：宇宙の歴史を1年にたとえると 3. 高度技術社会における技術者倫理の重要性の解説（Howの知識から、whatとwhyの知恵へ；総合的な問題解決能力としての、「技術者倫理」の重要性） 4. Philosopher-Engineerを目指して：技術者の優れた意思決定がもたらすもの　（本田CVCC、ルメジャー、等） 【キーワード】	札野　順（金沢工大・教授） 大場恭子（金沢工大・研究員）	札野　順（金沢工大・教授） 大場恭子（金沢工大・研究員）

事務局記載欄	開講年度	２０１１年度	科目区分	共通科目（社会系）	科目ｺｰﾄﾞ	1128213	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　技術経営の考え方　　（’１１）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：柴山盛生　（国立情報学研究所准教授）　〕
〔主任講師（現職名）：東　千秋　（放送大学教授）　〕

講義概要

新しい技術の急速な展開で、技術を取込む経営への関心が高まっている。本科目は、初学者に必要な基礎的知識を提供することを目的としている。これまで、ビジネス系のMBAでは、人的資源管理など経営実務に必要な専門知識とビジネスリーダーとして活躍できる論理的思考力に力点を置いていた。また、最近の潮流である技術系のMOTは、最先端の技術をどのように経営に活かすかを実践的に考えることに力を入れている。ここでは、MBAとMOTの各々が置いてきた力点を考慮し、これらに共有される技術イノベーションを取込む上で不可欠な知識をまとめることによって、より高い経営能力を身につける専門への入り口となることを目指している。

授業の目標

この授業の目標は、いわゆるイノベーションを取込む経営・技術経営とは何か、どのようなとらえ方をするのかなどを知るとともに、広い経営能力を身に着けていくための基礎的な知識を獲得することにある。その概要は、①組織システムの運営②チームワークを良くするためのコミュニケーション能力③職業倫理と職業意識に基づく管理力④現代技術の潮流の理解⑤技術の社会受容性⑥イノベーションを取り込むマネジメント能力⑦技術社会システムの設計力などである。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	はじめに	技術経営は、イノベーションを起こし、それを組織に取り込んで組織の目的を永続的に達成することを意図している。開講に際し、授業の目標や科目の構成を解説するとともに、技術戦略、技術経営と組織変革、科学と科学技術、技術の社会連携といった様々な技術経営の視点を紹介する。 【キーワード】 技術経営、技術戦略、組織変革、科学技術、技術の社会連携	柴山盛生、東千秋、竹川勝雄、門奈哲也	柴山盛生、東千秋、竹川勝雄、門奈哲也
2	組織の成り立ちと要素	組織が機能するのは何故だろうか。ここでは、組織は職業によって組み立てられ、職業に課せられた職務によって様々な部門が統合され組織として機能していることを学ぶ。 【キーワード】 職業、個人の意思決定、組織の意思決定、権限の体系、経営計画、経営理念、組織構造、組織過程、秩序ある集団	竹川勝雄	竹川勝雄
3	組織の運営と意思決定	組織の特性、企業統治、また、組織の意思決定プロセスなど、組織運営の基本となっていることを学ぶとともに、環境変化に合わせて組織を変革する上での課題を取り上げる。 【キーワード】 人間集団、分化と効率化、専門化、高度化、標準化、組織の硬直性、企業統治、組織の均衡、イノベーション、ステークホルダー	竹川勝雄	竹川勝雄
4	職業倫理と組織変革	現代において組織は、永続性とともに行動には市民としての倫理性が求められる。それ故、組織は、絶えず社会の要請を反映する変革が求められる。職業倫理が組織変革に果たす役割を考える。 【キーワード】 社会規範、行動科学、経営計画と派生的影響、コンプライアンス、日常の論理、企業カプセル、イノベーション、時間軸概念	竹川勝雄	竹川勝雄

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	コミュニケーションとリーダーシップ	組織は、組織の様々な分野の職業人の価値観が統合され、結果として社会に財貨やサービスを産出する。組織がこうした機能を果たす上で重要なコミュニケーションとリーダーシップを取り上げる。加えて、全ての職業人には、組織を運営するという視点が欠かせない。 【キーワード】 行動特性、命令一元化原則、コーチング、ベクトル、不確実性、コンフリクション、形式知と暗黙知	竹川勝雄	竹川勝雄
6	企業文化	企業にはその企業の独特の社風がある。この社風すなわち企業文化はどのように生まれ、また、どのようにしてこの文化を作っていくのだろうか。経営の理念を基に企業目標の設定から社会的役割の達成に向けて、技術管理の視点を含めてどのような企業文化を考えていくのかを学習する。 【キーワード】 企業文化、企業理念	柴山盛生	柴山盛生
7	企業と社会責任	自由主義経済から、公共や福祉など社会的な視点が深く入り込んだ経済へと変換している。企業が社会に与える影響、企業の倫理性などを考え、さらに今日関心を集めている、企業統治や環境経営などについて考える。 【キーワード】 企業と社会、企業統治、企業の社会的責任、環境経営	柴山盛生	柴山盛生
8	技術開発の光と陰	科学技術の進歩が1700年代後半の産業革命以来急速になった陰に動力の開発にあることから、その動力開発と通信の基盤である半導体電子技術の功罪を考える。さらに、地球の人口は、今や60億人を超えているが、それを可能にしている農業とそこにおける肥料や農薬の功罪について考える。これらを通じて、科学とは異なる科学技術の進歩を考える。 【キーワード】 技術開発の光と陰、動力の開発、半導体電子技術、肥料や農薬の功罪、技術進化	東　千秋	東　千秋
9	これまでの技術のライフサイクル	科学と技術の違いを認識し、これまでの技術のライフサイクルを概観する。技術の普及には各段階とギャップがあり、その意味について知る。そして技術とその市場のありようを考え、イノベーションにおけるジレンマを知る。 【キーワード】 技術と科学、技術のライフサイクル、技術普及の段階とギャップ、キャズム、技術と市場、イノベーションのジレンマ	東　千秋	東　千秋
10	これからの技術の視点	これからの技術は、環境保全や資源の枯渇を防ぐなど、持続可能社会を前提とした社会に応える技術と自然科学主体ではなく自然科学、社会科学、人文科学と融合する科学を利用する人間の感性を考慮した技術が主なるものとなるといえよう。しかしながら、「もの作り」の視点は不可欠である。このことを踏まえて、これからの技術の視点を考える。 【キーワード】 これからの技術の視点、環境保全、持続可能社会、人間の感性	東　千秋	東　千秋
11	技術の社会連携	技術の社会需要の動向を予測し、その波及効果を測定しながら技術開発を行うには、技術の社会連携とそのプロセスの構築が必要である。ここでは、企業における商品開発を中心として、具体的事例を取り上げながら、技術と社会との連携について学習する。 【キーワード】 商品開発、バリューチェーン、源流管理、市場調査	門奈哲也	門奈哲也

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	技術革新の歴史	技術経営の大きな目的の一つに、企業にイノベーションを起こし社会や経済の変革を促すことがある。まず、イノベーションについて考え、日本における技術革新の歴史的な過程を概観する。そして、海外から技術を導入した時代から最盛期を過ぎ経済が停滞した時代までを踏まえて、これからの技術革新を展望する。 【キーワード】 イノベーション、技術革新、科学技術政策	柴山盛生	柴山盛生
13	イノベーションとマネジメントの進化	大きな変革を乗り越えた時期の社史を教材として、イノベーションに対する企業の環境適応や競争への対応を観察し、イノベーションを取込む、或いは、イノベーションを促進する、さらに、職業人を創造的で主体的な生き方へと方向付けし組織へ取り込む、そうしたマネジメントの進化とも言える多様性を考察する。 【キーワード】 決断、目利き、不確実性への兆戦、ロードマップ、改善、品質保証制度、死の谷、社内取引、セル生産方式	竹川勝雄	竹川勝雄
14	企業の発展と技術	ここでは、日本の主要な産業を支えたものづくりにおける生産方式の推移を、自動車産業を中心にして分析する。また、その中で、製品の特性を示す製品アーキテクチャ、製品の価値を決める生産管理など生産システムを支える技術や、生産方法による技術戦略について技術的な視点から検討を行う。 【キーワード】 ものづくり、製品アーキテクチャ、生産管理、技術戦略	柴山盛生	柴山盛生
15	今後の経済社会と技術管理	技術経営を広く展開する組織における技術管理の進め方、技術管理者にとっての発想、意思決定の方法などをまとめる。そのための技術予測、国際動向、知的財産権などの最近関心が高い話題と技術管理者のあり方を探る。 【キーワード】 技術管理、技術動向、知的財産、技術戦略の展開	柴山盛生	柴山盛生

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	共通科目（社会系）	科目ｺｰﾄﾞ	1542303	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　社会と知的財産　（’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：妹尾　堅一郎(東京大学特任教授)　〕

〔主任講師（現職名）：生越　由美(東京理科大学教授)　〕

講義概要

21世紀の情報社会(知識社会)における「知的財産」の意味を考え、工業社会とは異なる各産業や経営モデルにおける「知的財産」の現状と課題を概観する。また「創造」「保護」「活用」からなる知的創造サイクルを早く・大きく・強く回すための知財マネジメントのポイントを理解する。ただし、ここでいう知的財産とは、特許権、実用新案権、意匠権、商標権などの「産業財産権」を中心とするが、著作権、育成者権、不正競争防止法に基づく権利なども含む(著作権法については別科目を参照されたい)。

授業の目標

全15回の講義を通じて、前半においては、情報社会における「知的財産」の意味、現状と課題や政策における知的財産の役割に関する最低限必要な知識について理解する。後半においては、知財マネジメントについての基本的な考え方を学ぶ。修了後の受講生は、実生活や仕事における知的財産に関する一般知識を修得すると共に、新聞・雑誌・TV等の知的財産に関する報道等について概要を把握できるようになる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	知的財産とは何か	21世紀は知的財産の時代である。日本は、2002年2月4日の小泉首相の施政方針演説以来、「工業社会」に誕生した知財制度を「知識社会」に適合させるべく知財改革を行っているところである。国際競争力の源と考えられている知的財産の性質や知財改革の意義を理解する。内閣官房知的財産推進事務局の役割も学ぶ。 【キーワード】 知的財産、知的財産基本法、産業競争力、知財立国、知財改革、知財政策、国会、知的財産戦略本部	生越　由美(東京理科大学教授)	生越　由美(東京理科大学教授)
2	知財制度の概要	3つの国際条約と8つの知的財産法から知財制度を概観する。人間の知的活動から生み出された独創的な成果を総称して知的財産という。発明にはじまり、著作物、そして経営・製造ノウハウなど、いわば「知的な汗の結晶」である。これらの権利がどのような要件を満たす場合に保護されるか、また取り消されるかの概観を理解する。特許庁の特許審査部や知的財産高等裁判所についても学ぶ。 【キーワード】 特許権、実用新案権、意匠権、商標権、著作権、育成者権、不正競争防止法にかかる権利、特許庁、知的財産高等裁判所	生越　由美(東京理科大学教授)	生越　由美(東京理科大学教授)
3	第一次産業と知的財産	農作物に関する特許権、商標権、育成者権などの実例を学ぶ。税関で種苗法違反の農作物を止めるDNA鑑別法の技術開発の重要性やさくらんぼの農作物の流出問題、菊のライセンスビジネスなどを通して、農林水産業を支えている知的財産の概要を理解する。また、地方自治体の農林水産業の知財戦略についても学ぶ。 【キーワード】 特許権、育成者権、ブランド農作物、DNA鑑定、税関、農林水産省、地方自治体、精興園、福岡県	生越　由美(東京理科大学教授)	生越　由美(東京理科大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	第二次産業と知的財産	日本の屋台骨を支える工業における知的財産の役割と問題点を重点8分野の視点から考える。パソコン、携帯電話などに代表されるファンモーター、振動モーターや日本発の世界的技術である光触媒などの最先端技術と、創意工夫により進化し続ける化粧筆などの伝統技術における特許や営業秘密の役割を考える。 【キーワード】 特許権、実用新案権、意匠権、商標権、営業秘密、伝統技術、先端技術、ベンチャー企業、産学連携、白鳳堂、シコー技研、神奈川サイエンスパーク・光触媒ミュージアム	生越　由美（東京理科大学教授）	生越　由美（東京理科大学教授）
5	第三次産業と知的財産	日本は「製造業」単発から「製造業」と「サービス産業」の「双発エンジン」へと切り替えを目指している。サービス産業とは、農林水産業、工業以外の産業と定義されているが、具体的には金融、医療、福祉、司法、観光、エンターテイメント、教育などである。そこで、これらの分野における知的財産の現状と課題と取り組みについて学ぶ。 【キーワード】 ビジネスモデル特許、医療方法特許、電子商取引、サービス産業、経済産業省、SEICA、イヤホンガイド、名古屋大学医学部	生越　由美（東京理科大学教授）	生越　由美（東京理科大学教授）
6	文化産業と歴史資源	「クールジャパン」という言葉が普及したように、「文化」が産業創出、地域振興、企業経営に影響を与えることが理解されてきた。これは、「文化資本」が「社会資本」や「経済資本」としての側面を有するからである。今、「文化資本」である「歴史資源」、「地域資源」、「コンテンツ資源」を活用することが求められている。これらの時代背景と課題を、知的財産の視座から考える。 【キーワード】 文化産業、文化資本、歴史資源、国宝、伊勢神宮、善光寺、彦根屏風、ソールワーク、日本デザインの遺伝子展	生越　由美（東京理科大学教授）	生越　由美（東京理科大学教授）
7	文化産業と地域資源	地域で特色のある農作物、酒、焼酎、伝統工芸品、伝統技術など「地域資源」から、知的財産を創造、保護、活用することが重要である。これらは単に物が売れて経済状況が好転するということに止まらず、地域の活性化、観光にも好影響が期待される。成功した各地域の取り組みを通じて、地域資源と知的財産の関係について学ぶ。 【キーワード】 地域資源、地域ブランド、農林水産品、伝統工芸品、地域団体商標、地方自治体、特許庁、国税庁、白山菊酒、車多酒造、博多万能ねぎ	生越　由美（東京理科大学教授）	生越　由美（東京理科大学教授）
8	文化産業とコンテンツ資源	アニメなど、日本のコンテンツは競争力が強いといわれているがまだまだ十分に生かされていない。アニメ以外でも、日本の伝統文化や祭りの価値がまだまだ知られていない。日本の「歴史・コンテンツ資源」と知的財産の関係を見ることにより、文化産業の広がりについて学ぶ。また、物を売る時代から時間を売る時代に変化している。観光立国の観点から知的財産の生かし方を考える。 【キーワード】 クールジャパン、コンテンツ産業、アニメ、映画、デジタルシネマ、ポケモン、シネマ歌舞伎、無形文化遺産、観光立国	生越　由美（東京理科大学教授）	生越　由美（東京理科大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
9	情報社会における知的財産	後半は、経営における知財に焦点を合わせていく。歴史的マクロの観点から、知的財産が21世紀の情報社会にとって重要な理由を探る。人類は、100年毎に科学技術の概念の発見を起点として社会イノベーションを起こす。21世紀は「情報」を重視する社会になる。情報の中で最も価値ある「知」の代表が「技術」と「ブランド」、つまり「知的財産」なのである。 【キーワード】 情報社会、知識社会、技術、ブランド	妹尾 堅一郎（東京大学特任教授）	妹尾 堅一郎（東京大学特任教授）
10	イノベーションと知財マネジメント	イノベーションとは従来モデル（仕組み、仕掛け、仕切り）を新規モデルに替えてしまうことを言う。米国をはじめ先進諸国や企業はイノベーションを軸とした競争力強化に邁進を始めている。成長と発展、イノベーションと生産性等の議論を整理し、イノベーションにおける知財の関係を考える。 【キーワード】 イノベーション、インプルーブメント	妹尾 堅一郎（東京大学特任教授）	妹尾 堅一郎（東京大学特任教授）
11	世界的中堅企業の知的財産戦略（1）	近年、知財マネジメントと技術経営の重要性は、大企業のみならず、技術基盤型の中堅・中小企業においても認識され始めている。そこで2回にわたり、日本が誇る世界的な中堅企業を事例として取り上げる。今回は和歌山県の島精機製作所、栃木県のレオン自動機を取り上げる。 【キーワード】 中堅・中小企業の事業戦略と知財戦略	妹尾 堅一郎（東京大学特任教授）	妹尾 堅一郎（東京大学特任教授）
12	世界的中堅企業の知的財産戦略（2）	今回は、岡山県の林原グループを取り上げる。高い技術力を誇り、高い利益率と高い市場占有率を維持し続ける、世界的に著名な地場の中堅企業の知財マネジメントと技術経営を見ていくことによって、いかに知的財産が企業の競争力にとって重要なことかを知ることができる。 【キーワード】 中堅・中小企業の事業戦略と知財戦略	妹尾 堅一郎（東京大学特任教授）	妹尾 堅一郎（東京大学特任教授）
13	事業戦略と知財マネジメント（1）	「事業戦略」「研究開発戦略」「知財戦略」の一体化、「事業戦略」に資する知財マネジメントの基本的前提、事業競争力強化（リスクミニマムとチャンスマキシマム）と知財、分野別の知財戦略等の側面から、企業経営における事業戦略と知財マネジメントとの関係について考察をしていく。 【キーワード】 事業戦略と知財マネジメント、分野別知財戦略	妹尾 堅一郎（東京大学特任教授）	妹尾 堅一郎（東京大学特任教授）
14	事業戦略と知財マネジメント（2）	前回に引き続き、事業戦略と知財マネジメントの関係を考察する。前半は「標準化」を取り上げる。今日、イノベーションを誘導する手だてとして標準化と知財マネジメントが密接に関係するようになった点を概観する。後半は、それを踏まえて、「製品ライフサイクル」モデルを基に事業戦略と知財マネジメントとの関係を具体的に考察していく。これらを参考に、企業、産業、社会がどのように動きつつあるかを俯瞰されたい。 【キーワード】 標準化と知財、製品ライフサイクルと知財	妹尾 堅一郎（東京大学特任教授）	妹尾 堅一郎（東京大学特任教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
15	知的財産「人財」の育成	日本では「知的創造サイクル」の活性化に必要な制度が急速に整備されている。しかし、制度が整備されただけで「知財立国」ができるわけではない。その制度を活かして活躍する「人財」等が必要である。どのような人財をどのように育成していけばよいのか。その点を概観する。 【キーワード】 知財人財、知財関連人財、知財民度	妹尾　堅一郎（東京大学特任教授）	妹尾　堅一郎（東京大学特任教授）

事務局記載欄	開講年度	２０１１年度	科目区分	共通科目（自然系）	科目ｺｰﾄﾞ	1233718	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　疾病の成立と回復促進　　（’１１）＝　（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：松尾ミヨ子（聖マリア学院大学・教授）　〕
〔主任講師（現職名）：大和谷 厚　（大阪大学大学院・教授）　〕
【本学担当専任教員：多田羅浩三（放送大学教授）　】

講義概要

疾病の原因、疾病がもたらす身体内部の変化と生活過程の変化、そして、疾病からの回復を促進させる過程について現象的、分析的に理解し、人間を生活者として全人的にみつめ、疾病をもつ人々への個別な看護を展開するために必要となる専門的な基礎知識を学ぶ。

授業の目標

さまざまな疾病について、健康から疾病に至る変化のプロセス、疾病がもたらす身体内部の変化、疾病の生存・生活機能別の特性、そして疾病からの回復促進についての基礎知識から、健康問題を抱える人々の生活を調整するための看護の役割を理解する。

履修上の留意点

特にない。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	疾病の成立と疾病からの回復	疾病は全人的な理解に基づいて捉えねばならない。健康から疾病にいたるプロセスを、生体の反応、疾病発現の要因、疾病と健康レベルの関係、日常生活への影響から理解し、生体の回復力と身体心理社会的因子、疾病の個人とその生活への影響について学び、回復過程での看護の機能と役割を考える。 【キーワード】 環境要因、遺伝要因、生活習慣、アセスメント、ホメオスタシス、回復力、個体差	松尾ミヨ子（聖マリア学院大学・教授）	松尾ミヨ子（聖マリア学院大学・教授）
2	基本的な病変(1) 病理変化	健康状態と比較して疾病のある状態とはどのような状態か、細胞や組織の変化から疾病の成り立ちについて学ぶ。疾病に罹患したとき、からだの細胞や組織はどんな状態にあるのか、その異常事態に対して、からだはどんな変化を示すのかについて学ぶ。 【キーワード】 萎縮、変性、壊死、アポトーシス、修復、再生、適応、炎症、免疫、代謝異常、先天異常、腫瘍	佐伯由香（筑波大学大学院・教授）	佐伯由香（筑波大学大学院・教授）
3	基本的な病変(2) 感染症と生体防御	人は微生物から多くの恩恵を受けており、人に感染症をおこすものはごく一部にすぎない。このような人と微生物のかかわりを正しく理解した上で、人に備わった微生物に対する防御のしくみと微生物がこれを突破して感染症をおこすメカニズム、さらに感染症を防ぐための手段について学ぶ。 【キーワード】 病原微生物、感染経路、潜伏期間、免疫、感染防止、薬剤耐性	岡田 忍（千葉大学大学院・教授）	岡田 忍（千葉大学大学院・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	疾病に対する医療（1） 診断と治療、予防	健康な状態からの変化を確認する診断過程と診断のための検査、看護の視点からのアセスメント、そして、その疾病を治療する方法と看護ケアについて学ぶ。さらに、疾病の予防についても考える。 【キーワード】 症状と徴候、診察、臨床検査、手術療法、薬物療法、放射線療法、リハビリテーション、第一次予防、第二次予防、第三次予防	三上 洋 （大阪大学大学院・教授）	三上 洋 （大阪大学大学院・教授）
5	疾病に対する医療（2） 薬物療法と薬物の有害作用	疾病の治療に用いられる医薬品とその薬理作用について概説し、なぜ薬は病気（病態）に効くのか、また、安全かつ効果的に薬を効かせるにはどのように投与すれば良いかについて理解し、薬物療法における看護職者の役割について学ぶ。また、薬物による健康被害について考える。 【キーワード】 医薬品、主作用と副作用、有害作用、薬物の投与法、生体内薬物動態、薬物相互作用、コンプライアンス、服薬指導	大和谷 厚 （大阪大学大学院・教授）	大和谷 厚 （大阪大学大学院・教授）
6	神経機能の障害	中枢神経系（脳と脊髄）、末梢神経系（体性神経系と自律神経系）、および感覚器系（視覚、聴覚など）に障害を引きおこす主要疾患と生じる機能障害について学ぶ。 【キーワード】 脳血管障害、変性・脱髄疾患、脳腫瘍、脳炎、脊髄損傷、意識障害、麻痺、痙攣、認知症、末梢神経炎、視覚障害、聴覚障害	大和谷 厚 （大阪大学大学院・教授）	大和谷 厚 （大阪大学大学院・教授）
7	呼吸機能の障害と心臓機能の障害	呼吸機能、心臓機能のアセスメントについて解説し、主要な呼吸疾患と心臓疾患について学ぶ。また、生命の危機をもたらすショックや多臓器不全について、その発症メカニズムと経過を理解し、迅速な対応について学ぶ。 【キーワード】 呼吸器の炎症、閉塞性肺疾患、肺循環障害、肺腫瘍、先天性心疾患、心筋症、虚血性心疾患、不整脈、心不全、ショック	三上 洋 （大阪大学大学院・教授）	三上 洋 （大阪大学大学院・教授）
8	血管系機能の障害と造血機能の障害	全身の血管系、血管内を流れる血液、そして血液の成分である血球や血液凝固系などの主要疾患について学ぶ。 【キーワード】 動脈硬化症、高血圧、閉塞性動脈疾患、大動脈瘤、静脈瘤、貧血、出血と凝固、白血球減少症、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫	三上 洋 （大阪大学大学院・教授）	三上 洋 （大阪大学大学院・教授）
9	免疫機能の障害	人を感染症から護るべき免疫系の異常により発症する自己免疫疾患、アレルギー疾患、免疫不全について学ぶ。また、臓器移植に関わる免疫の問題についても考える。 【キーワード】 膠原病、花粉症、蕁麻疹、アナフィラキシー、AIDS、移植免疫	佐伯由香 （筑波大学大学院・教授）	佐伯由香 （筑波大学大学院・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	栄養の摂取・吸収・代謝機能の障害(1) 栄養バランス	栄養状態のアセスメントと栄養指導、栄養バランスの不均衡による疾患について学び、生活習慣を含めての生活の調整するための看護の役割について考える。 【キーワード】 高脂血症、痛風、糖尿病、メタボリックシンドローム、栄養素、肥満、やせ、摂食障害	山内豊明(名古屋大学大学院・教授)	山内豊明(名古屋大学大学院・教授)
11	栄養の摂取・吸収・代謝機能の障害(2) 消化器系の疾患	口腔から肛門に至る消化管および肝臓、胆嚢、膵臓からなる消化器系の主要疾患と生じる機能障害について学ぶ。 【キーワード】 悪心・嘔吐、腹痛、便秘と下痢、消化性潰瘍、消化器癌、イレウス、黄疸、肝炎、肝硬変、肝癌、肝不全、胆石、膵炎、膵腫瘍	大和谷 厚(大阪大学大学院・教授)	大和谷 厚(大阪大学大学院・教授)
12	排泄機能の障害	泌尿器(腎、尿路、膀胱)の疾患、排尿・排便の障害について解説し、排泄機能の看護アセスメントとケアについて考える。 【キーワード】 腎炎、腎腫瘍、膀胱癌、尿路通過障害、尿失禁、腎不全、便秘、下痢	松尾ミヨ子(聖マリア学院大学・教授)	松尾ミヨ子(聖マリア学院大学・教授)
13	内部環境調節機能の障害	人体の内的環境は、微妙な変化を伴いながら維持されている。この変化は様々なメカニズムによってコントロールされている。この恒常性の維持という仕組みをつかさどる内分泌機能と自律神経機能とそれらの障害について学ぶ。 【キーワード】 内分泌系、自律神経系、ホルモン異常、水と電解質、酸塩基平衡	山内豊明(名古屋大学大学院・教授)	山内豊明(名古屋大学大学院・教授)
14	生殖機能の障害	生命の連続性をつくりだすために用意されている仕組み、すなわち生殖という機能を成り立たせている条件と、それらの障害によりこれらの機能が十分に果たせなくなる場合のメカニズムについて学ぶ。 【キーワード】 出産、分娩、性成熟、更年期障害、受胎調節、勃起不全	山内豊明(名古屋大学大学院・教授)	山内豊明(名古屋大学大学院・教授)
15	運動機能の障害と皮膚の障害	骨、関節、筋肉の疾患について学び運動障害・制限への支援を考える。また、皮膚の疾患と皮膚の観察とアセスメントについて学ぶ。 最後にこの科目においての15回の講義を通じての学びについてまとめる。 【キーワード】 骨折、骨粗鬆症、骨腫瘍、変形性関節症、筋ジストロフィー、ALS、皮膚炎・湿疹、熱傷、凍瘡、褥瘡	松尾ミヨ子(聖マリア学院大学・教授)	松尾ミヨ子(聖マリア学院大学・教授)

＝　人体の構造と機能（‘　０５）＝（TV）

〔主任講師：　菱沼　典子（聖路加看護大学教授）　〕
〔主任講師：　北村　　聖（東京大学教授）　〕

全体のねらい

毎日の生活の中で普通に行っている様々な生活行動は何のために、どのような仕組みで行われているのかの視点から、人体の構造と機能を学ぶ。からだに興味を持ち、理解を深めていく基礎力をつけることをねらいとするが、さらにからだの機能に適した生活を工夫し、病気を理解する土台になることを期待する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	生命と日常生活行動のつながり	一個の受精卵から人間が誕生する過程を含め、個体が外部環境と関係を保ちながら、内部環境を整え生命を維持していることを解説する。日々の生活行動と生命維持の関わりを理解してもらいたい。	菱沼　典子（聖路加看護大学教授）	菱沼　典子（聖路加看護大学教授）
2	食べる（1） 摂食	生命維持のために外界から食物を取り入れる営みについて解説する。空腹感や食欲、摂食の過程（咀嚼、味覚、嚥下を含む）、消化・吸収について、消化器管・消化腺の名称、構造を含めて解説する。	菱沼　典子	菱沼　典子
3	食べる（2） 消化・吸収と排泄	消化管の運動と消化腺の分泌活動、消化液の作用について、自律神経系とホルモンによる調節を含めて解説する。また便の排泄について、便意から排便行為までを解説する。	佐伯　由香（筑波大学大学院教授）	佐伯　由香（筑波大学大学院教授）
4	食べる（3） 栄養分の代謝	吸収された栄養分の代謝について、肝臓と膵臓の機能を中心に解説する。肝機能障害や糖尿病など身近な疾患を例にして、病態から正常な機能の理解を深められるようにする。	谷亀　光則（東海大学准教授）	谷亀　光則（東海大学准教授）
5	体内の流通システム（1） 心臓と血管	多くの器官、細胞から成り立っている人体内部の物質の流通路である血管系を解説する。心臓と血管系の構造と役割、心臓収縮のメカニズムとその調節機構を解説する。	山本真千子（茨城キリスト教大学教授）	山本真千子（茨城キリスト教大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
6	体内の流通システム（2） 血圧	生体内の流通を確保するのに必要な血圧について、その意味、血圧の決定因子と調節機構を解説する。今日血圧は一般的な生体情報となっており、高血圧の意味と対策についても言及する。	沓沢　智子（東海大学教授）	沓沢　智子（東海大学教授）
7	体内の流通システム（3） 血液	血液の組成および働きを解説する。細胞成分である赤血球・白血球・血小板について、骨髄における幹細胞からの分化を解説し、その機能および障害について言及する。	北村　聖（東京大学教授）	北村　聖（東京大学教授）
8	身を守る	免疫反応は細菌やウィルスなど外敵から体を守るだけでなく、移植片の拒絶反応や自己免疫疾患でも重要な働きを演じている。細胞の自己認識、他者排除の機構、細胞性免疫と液性免疫の機序を解説し、自己免疫疾患や免疫不全症候群などにも言及する。	北村　聖	北村　聖
9	息をする	換気・ガス交換に関わる呼吸器の構造と機能について解説する。また血液の酸塩基平衡にかかわる呼吸の役割を解説する。様々な呼吸器疾患が呼吸機能のどこに障害を起こすのかにも言及する。	沓沢　智子	沓沢　智子
10	トイレに行く	腎臓での尿の生成過程を、生体内の体液の調節の意義を含めて解説する。次いで尿の排泄について、尿意を感じ、排泄に至までの尿路の構造と機能を解説する。	谷亀　光則	谷亀　光則
11	見る・聞く・感じる	神経系が外部環境からの刺激に対し、即時的に反応し、適応する過程を解説する。主に視覚、聴覚、体性感覚について、感覚器の構造と機能と神経系の反応を取りあげる。	深井喜代子（岡山大学大学院教授）	深井喜代子（岡山大学大学院教授）
12	考える	神経系の概要ならびに中枢神経系の構造と機能を解説し、中枢神経系における情報処理過程から、「考える」ことを意識付ける。睡眠の生理や脳死にも言及する。	深井喜代子	深井喜代子

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
13	動く	骨格筋の運動における骨格と筋、関節の働き、ならびに筋の構造と収縮のメカニズムについて解説する。さらに運動に伴う心肺系の反応と調節機構を解説する。	山本真千子	山本真千子
14	ホルモン調節とストレス反応	内部環境の調節にホルモンがどのように関わっているかを、内分泌器官の構造を含めて解説する。また、常に個体が受けている刺激（ストレッサー）に対する反応について概説する。	佐伯　由香	佐伯　由香
15	ケアへの応用	1～14回までに学習した内容が、日常生活に結びついたかどうかを問いかけ、各人の健康生活や子ども、高齢者、病者の世話にどのように役立たすことができるか、例を挙げて解説する。	菱沼　典子	菱沼　典子

科目名（メディア）＝　疾病の回復を促進する薬（‘０７）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：川原　礼子（東北大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：片野　由美（山形大学名誉教授）〕
〔主任講師（現職名）：仙波　純一（さいたま市立病院精神科部長）〕

講義概要

病気によって身体の正常な機能が障害されてしまった場合に，治療の一つとして薬物が使用される．薬物はいろいろな仕組みによって効果を発現し，身体を正常な状態にひきもどす．その一方，副作用として逆に身体に害になる作用をもたらすこともある．この講義では，薬物の働く仕組みだけでなく，薬物が医療の中でどのような役割を担っているか，また薬物がその有効な作用を発揮できるために医師・看護師・薬剤師などがどのように働いているかを学ぶ．この授業は，看護師学校養成所２年課程(通信制)に対応可能な科目としても作成されている．

授業の目標

疾病からの回復を促進する薬物について，その使用目的や作用機序に注目しながら，薬物についての一般的な知識と適切な使用法を学習する．また，そのために医療者が病院内でどのような働きをしているかについても学ぶことになる．

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	学習の進め方	この科目の目指すもの，学習の方法などについて主任講師全員によって説明する．	川原礼子（東北大学教授） 片野由美（山形大学教授） 仙波純一（さいたま市立病院精神科部長）	川原礼子（東北大学教授） 片野由美（山形大学教授） 仙波純一（さいたま市立病院精神科部長）
2	薬理学総論（１）	どんな薬でも用い方を誤ると毒にもなる．諸刃の剣であって，クスリはリスクにもなるのである．薬の効果や副作用は，用量，投与経路，年齢，体質，薬剤の併用などによって異なる．薬を正しく用いるために，まず薬理学の基本的な事項（毒薬，劇薬，普通薬とは，麻薬，覚醒剤とは，薬理作用に影響を与える因子など）について学ぶ．	片野由美（山形大学教授）	片野由美（山形大学教授）
3	薬理学総論（２）	薬理学総論（１）に引き続き，薬理学の基本的な事項（薬物の投与経路，薬物と生体の相互作用，薬物の代謝など）について学ぶ．	片野由美（山形大学教授）	片野由美（山形大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	神経に作用する薬：その基本機序について	神経系に作用する薬は薬物治療に非常に大切である．その理由は第一に神経系は生命を維持するために必要な機能を巧みに調節する．第二に神経系の情報は，多くの神経伝達物質が関わる化学・液性シグナルとして隣の細胞に伝えられる．従って，数多くの薬物が，例えば神経伝達物質の生合成や分解および薬理学的受容体にそれぞれ特異的に作用する．本講義では，中枢および末梢神経系全体の構造と機能の概略を先ず学ぶ．さらに，神経機能の基本単位であるニューロンやシナプス伝達の基本過程とそれらに作用する薬物を幾つか取り上げ，その薬理作用の基本機序を学ぶ．本講義ではいずれも代表的な薬物を取り上げ，その薬理作用機序，適応および臨床上の注意事項について学ぶ．	中山貢一（岩手医科大学教授）	中山貢一（岩手医科大学教授）
5	末梢神経に作用する薬（喘息治療薬を含む）	末梢神経は体性神経（運動神経と知覚神経）と自律神経（交感神経と副交感神経）より成り立つ．運動神経の興奮は骨格筋収縮をもたらす．一方，d-ツボクラリンなどの骨格筋弛緩薬がどのように作用し，骨格筋の収縮を抑制するかを学ぶ．リドカインなどの局所麻酔薬がなぜ知覚神経のうち痛覚を伝導する神経をより選択的に抑制し，局所的無痛を生じさせ，外科手術や診断・検査の目的に使われるかについて学ぶ．広く医療に使われる交感神経および副交感神経の興奮（作動）薬や遮断（拮抗）薬についてその基本知識をまとめる．また，気管支喘息の治療に使われる薬物についても学ぶ．	中山貢一（岩手医科大学教授）	中山貢一（岩手医科大学教授）
6	中枢神経に作用する薬	中枢神経系は脳と脊髄からなり，生命維持に重要な情報の受け取りと記憶や学習を含む情報処理や判断を行うコントロールセンターである．本講義では，神経機能を抑制することで作用する，モルヒネなどの麻薬性鎮痛薬，全身麻酔薬，催眠薬および抗てんかん薬について学ぶ．さらに向精神薬について精神抑制的に作用する統合失調症治療薬や抗不安薬と精神賦活作用のある抗うつ薬などについて学ぶ．また，記憶・学習の障害である認知症などに使用される医薬，中枢神経に作用する日常嗜好品であり，医薬との相互作用のあるカフェイン，アルコールおよびニコチンなどについても基礎知識を学ぶ．	中山貢一（岩手医科大学教授）	中山貢一（岩手医科大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
7	循環器系に作用する薬	心血管系は循環系とも呼ばれ，心臓のポンプ機能により血液を全身に送り，組織に酸素や栄養素を供給する．ポンプ機能の異常や血液の通路ともいうべき血管の異常は，心不全，狭心症，不整脈，高血圧などをもたらす．本講義では，これらの疾患の病態生理とそれぞれの代表的治療薬（心不全治療薬，狭心症治療薬，不整脈治療薬，高血圧治療薬，高脂血症治療薬）を取り上げ，その薬理作用機序，適応および副作用等の臨床上の注意事項について学ぶ．	片野由美（山形大学教授）	片野由美（山形大学教授）
8	血液に作用する薬	骨髄の造血幹細胞で作られる赤血球，白血球，血小板の機能について学ぶ．またこれらの機能異常はどのような疾患をもたらすかを学び，それらの疾患に用いられる代表的な薬物（貧血治療薬，血液凝固抑制薬と促進薬，血小板凝集抑制薬）を取り上げ，その薬理作用機序，適応および副作用等の臨床上の注意事項について学ぶ．	片野由美（山形大学教授）	片野由美（山形大学教授）
9	内分泌系に作用する薬（1）	ホルモンにはペプチド・蛋白質ホルモン，アミン系ホルモン，ステロイドホルモン等がある．そのホルモンの種類，作用等を簡単に紹介した後，甲状腺性ホルモン，ステロイドホルモン，性ホルモンについて生理・病態生理とその治療薬について学ぶ．本講義ではいずれも代表的な薬物を取り上げ，その薬理作用機序，適応および副作用等の臨床上の注意事項について学ぶ．	渡邊泰秀（浜松医科大学教授）	渡邊泰秀（浜松医科大学教授）
10	内分泌系に作用する薬（2）	糖代謝に関わるホルモンと糖尿病，腎臓の生理・病態生理と腎臓のホルモンであるアルドステロン・バソプレッシンとその治療薬について学ぶ．本講義ではいずれも代表的な薬物を取り上げ，その薬理作用機序，適応および副作用等の臨床上の注意事項について学ぶ．	渡邊泰秀（浜松医科大学教授）	渡邊泰秀（浜松医科大学教授）
11	抗炎症薬と化学療法	非ステロイド性抗炎症薬，抗菌薬，抗癌薬などの治療薬についてと多くの範囲にわたって学ぶ．非ステロイド性抗炎症薬については，非ステロイド性抗炎症薬の薬理作用機序，適応および副作用等の臨床上の注意事項について学ぶ．抗菌薬，抗癌薬について，薬物の薬理作用の標的が細菌，ウィルス，がん細胞となるため，他の薬物の薬理作用と比較しながら，抗菌薬，抗癌薬の代表的な薬物を取り上げ，その薬理作用機序，適応および臨床上の注意事項について学ぶ．	渡邊泰秀（浜松医科大学教授）	渡邊泰秀（浜松医科大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	消毒薬と外用薬	看護業務で使用する消毒液の種類や性質について、病院のみならず施設や在宅という看護の場を視野に入れながら紹介する。また、外用薬については、皮膚科外用薬と眼科外用薬および関節痛などに使用する非ステロイド消炎鎮痛薬の経皮用剤の種類、性質、適応疾患について紹介するが、皮膚外用薬については老人施設や在宅ケアの場での問題をも踏まえたものとする。	川原礼子（東北大学教授）	川原礼子（東北大学教授）
13	薬物中毒と救急医療	洗剤やタバコなどの家庭用品などを誤って摂取したり，故意に向精神薬などを大量服用したりすることにより，薬物中毒症状が引き起こされる．これはしばしば，症状が重篤となり，救急医療の対象となる．この章では，よく見られる薬物中毒の原因，引き起こされる症状や必要な処置法などについて述べる．	仙波純一（さいたま市立病院精神科部長）	仙波純一（さいたま市立病院精神科部長）
14	薬の安全な使用と薬剤師（1） －副作用の回避	薬が実際に使用される医療の場において、各職種が薬とどのような関わりをもっているのか、また、薬についてどのような問題があり、薬の有効性を最大限に生かすためにどのような対策がとられているのかを２回にわたって論じる。 医薬品をめぐる問題には、大別して医薬品そのものに起因する副作用と、誤った使用に起因する事故があるが、まず前者に関して、それを早期発見あるいは予防するための薬剤師の役割を中心に、処方の疑義照会、副作用モニター，薬物動態解析、薬剤管理指導などについて紹介する。	村井ユリ子（東北大学講師）	村井ユリ子（東北大学講師）
15	薬の安全な使用と薬剤師（2） －薬がかかわる医療事故の回避	前回に引き続き、医薬品をめぐる問題のうち、誤った使用に起因する事故を中心に取り上げる。病院内で医薬品はどのように使用されているのか、病院内の医薬品使用のプロセスと医師・看護師・薬剤師の関わり、および要注意薬について述べ、事故を予防するための薬剤管理指導、注射剤無菌調製など、薬剤師の業務を紹介する。	村井ユリ子（東北大学講師）	村井ユリ子（東北大学講師）

科目名（メディア）＝　情報科学の基礎（‘０７）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：　川合　慧（放送大学教授）〕

講義概要

身近な情報機器であるパーソナルコンピュータの動き方や実際の仕組みを導入として，情報機器を実際に実現しているのは手順を記述するプログラムであること，実際のプログラムの概略，及びその動作能力の源泉である数学的万能性を，平易な例を用いて解説する．さらに，現実的なコンピュータ処理の複雑さとそれを実現するプログラムの大きさを理解することによって，現代の情報システムの全体像とその限界を示す．

授業の目標

情報社会を生きるにあたって利用せざるを得ない各種の情報システムについて，単なるブラックボックスの従順な利用者の視点ではなく，その根本的な原理や仕組みの概略を知ることによって得られる批判的な視点をもつことができるようにする．これにより，今や一般的な社会人にも求められている変化の激しい情報環境への適切な対応や，複雑な問題への容易な対処が可能となる．

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	活躍するコンピュータ	我々の生活が依存している身近な情報システムの機能を分解し，「計算するもの」が必要であることを認識する．その要素的な機能の単純さと情報システムが行う「計算」の規模とを対比し，コンピュータの高速性がそれを可能としていることを理解する．	川合　慧（放送大学教授）	川合　慧（放送大学教授）
2	ソフトウェア	単一の機械でさまざまな機能を実現するもの（ゲーム機，パーソナルコンピュータ（以後 PC），ラジカセ，など）の振舞いを考える．PC にソフトウェアを導入する過程と結果とから，ソフトウェアが「記録され」かつ「実行される」ことを認識する．	同上	同上
3	動作指令書	レシピや楽譜を例として，操作指令書における用語と表現方法，および料理（音楽）を具体化するものについて考える．ソフトウェアは動作指令書であり，それが動く（効果を表す）ためには，PC のような実働部隊が必要であることを確認する．	同上	同上
4	実行する機構	「ソフトウェアが動く」ためには，それを解釈し実行する機構が必要であることを再確認する．「動く」ことの実態が，外界への働きかけ・外界からのデータの取込み・内部的な計算，であることをロボット等の例で調べる．	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	ソフトウェアの実態：プログラム	望みの結果を得るためのやり方として，状況を少しずつ変更してゆく方法を理解し，それを実現するための基本的な要素の例を学ぶ．状況が時間の経過とともに変化してゆく様子を例を通じて把握し．繰り返しやモジュール化の必要性も認識する．	高岡　詠子（千歳科学技術大学准教授）	高岡　詠子（千歳科学技術大学准教授）
6	プログラムの本質へせまる	プログラムを作ること（プログラミング）の意味を確認し，要求される結果を得るための状態変化の系列の設計であることを学ぶ．グラフィックな結果が得られる例題を使って、条件分岐や再帰的定義について学ぶ．	同上	同上
7	本格的プログラミング	問題ごとの解決パターンに着目できるようにするための多数の例題を通じて，より複雑な設計を要求される問題についてのプログラム作成の様子を理解する．	同上	同上
8	プログラムと抽象化	副手続きをモジュール化あるいは抽象化という面から捉えなおし，その重要性を把握する．より系統的なプログラム構築法としての構造化手法に結びつける．思考方法に沿った素直な再帰の使用法などを学ぶ．	同上	同上
9	アルゴリズム	手順の明確な記述のためには使用する計算モデルを正確に定義しておくことが重要であることを認識し，その上での「記述された手順」の概念を明確に把握する．データとして扱える程度の精密な記述が求められることを学ぶ．	並木美太郎（東京農工大学大学院教授）	並木美太郎（東京農工大学大学院教授）
10	計算の手間	代表的なアルゴリズムを使って計算の手間（計算量）の考え方を理解する．ここで探索・検索系は基本として重点的に扱う．「問題の大きさ」という概念を理解し、計算量の見積もり方を明確に把握する．計算量のオーダの概念を学ぶ．	同上	同上
11	計算量と実用計算	アルゴリズムを実用的にするための計算量的考慮を学ぶ．思いついただけの原理的な解法では現実的な時間内では解けない例の改良過程を通じて，高速化の一般的な手法（無駄な計算の除去，差分計算，表の利用など）を理解する．	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	万能計算システム	プログラムが符号化によりデータとして扱えること．この符号化を逆に解釈するのが解釈系であることを再確認した後，符号化の解釈をするプログラムが構成できることを見る．さらにこのプログラムがどのような性質をもつかを検討する．	筧　捷彦（早稲田大学教授）	筧　捷彦（早稲田大学教授）
13	コンピュータの万能性	前回の内容を再度確認した後，集合論のパラドックスの説明を経て，停止判定プログラムが作成不可能であることを理解する．これは原理的な不存在証明であり，ゲーデルの不完全性定理の情報科学版の一つであることを学ぶ．	同上	同上
14	ソフトウェアの作成	完全な仕様記述がいかに難しいかを簡単な例によって認識した後，人間の不完全さを確認し，ソフトウェア作成の困難さを把握する．プログラム言語，作成手法，テスト技法などによる対処方法を学ぶ．	同上	同上
15	情報科学と社会	コンピュータ（計算機構）の発展の歴史の学習を通じて，プログラム内臓方式がもたらした本質的な展開の道筋を見る．数学的な基礎の存在を再確認するとともに，コンピュータの万能性がもつ能力をきちんと認識する．	川合　慧（放送大学教授）	川合　慧（放送大学教授）

科目名（メディア）＝　生物集団と地球環境（‘０７）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：松本　忠夫（放送大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：福田　正己（アラスカ大学教授）〕

講義概要

自然界における生物の存在様式は、家族、群れ、群体、群落、個体群、群集などといったさまざまなレベルでとらえることができる。そして、そのような生物集団は、環境とさまざまな関係をもって存在している。本講義では、そのような生物集団の形成および地球環境との関連について解説するとともに，それらに対する人間活動の影響も解説する。

授業の目標

本講義は、地球環境における生物集団の影響の強さ、そして現在の地球では、生物集団の中でもとりわけヒトの影響が甚大であることを知ってもらうことを目標としている。中学程度以上の生物学の知識があれば理解できるように基礎的な事柄から講義を順次進めていく。また、野外ロケーションの映像を各所に取り入れていて、生物集団の影響の強さをできるだけ実感してもらう。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	生物集団の形成	生物集団は、無機環境、食物環境そして他生物とどのような関係を持って生活し、子孫を残しているか？個体が集合して集団となった時、そこでの法則性にどのようなものがあるのか？そして、繁殖に関係した社会性の発達とはどのようなものか？などについて説明する。	松本忠夫（放送大学教授）	松本忠夫（放送大学教授）
2	生物集団の自己組織化	生物集団には、環境との関係で特有のパターン形成が見られる場合がある。そのパターン形成は、自己組織化の論理で説明できる場合が多い。特に、社会性昆虫の集団の統合においては、リーダー、青写真、レシピの存在と言ったものよりも、この自己組織化で説明できる場合が多いことを説明する。	松本忠夫（放送大学教授）	松本忠夫（放送大学教授）
3	いろいろな群集の成り立ち	群集は異なる種の個体群からなる生物集団であり、様々な種間関係がみられる。中でも食う・食われる関係は、エネルギーの流れを生み出し、群集構造を決める最も重要な関係である。また、限られた資源をめぐる競争もニッチ分化を通じてギルド構造を生み出している。ここでは、特に食物連鎖に沿ったエネルギーの流れを中心に、群集の遷移と構造について解説するとともに、近年、群集構造を決める上で重要とされている中規模撹乱説などの非平衡群集論についても言及する。	東　正剛（北海道大学大学院教授）	東　正剛（北海道大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	生物の地理的分布	世界の生物群集の地理的分布がどのようになっているのかを概観し、それを決めている要因、特に温度と降水量が重要であることをついて説明する。また、東アジアそして日本列島の生物相の特色はいかなるものか、さらに人間の影響がそれらの分布にどのような影響を与えているのかについても説明する。	松本忠夫(放送大学教授)	松本忠夫(放送大学教授)
5	島における生物	周囲の環境から孤立した島における生物相は、そこへの生物の侵入と、そこでの消失のバランスの上に成り立っていること、また、島においては大陸とは異なった固有の生物が進化しやすいことを説明する。さらに、島における生物の生態の理解は、生息地が分断された場所における生物群集の保全に役立つ知識となることを説明する。	松本忠夫(放送大学教授)	松本忠夫(放送大学教授)
6	熱帯域の生物	一年中、高温で多湿な熱帯域は、地球上で最も生物の種数が多く、また生物の生産活動が盛んなところである。そのような豊かな生物相はどのような要因で形成されてきたのであろうか?ここでは、熱帯域における生物生産と進化について説明する。	松本忠夫(放送大学教授)	松本忠夫(放送大学教授)
7	高山生態系のしくみと地球温暖化の影響	陸域生態系の末端部に位置している高山生態系の位置づけと構造について概説し、高山植物群落の成立要因や高山植物の環境適応と生活史特性について、主に積雪環境との関わりについて説明する。さらに、地球温暖化が高山生態系に及ぼす影響についても紹介する。	工藤岳(北海道大学大学院准教授)	工藤岳(北海道大学大学院准教授)
8	乾燥地の生物	現在の地球規模での砂漠化の現状を紹介する。高温で降雨量の少ない砂漠にも、多くの生物が生存していて、これらの生物は砂漠の厳しい環境に適応して特殊な外部形態及び生理学的な機能を持っている。ここでは、南アメリカとオーストラリアの砂漠を中心に、主として植物が極端な乾燥条件に適応している例を紹介し、それらがどのように環境と対応しているかを解説する。さらに、特殊な砂漠として、高山や高緯度にも砂漠が見られるため、それらの紹介も行なう。	増沢武弘(静岡大学教授)	増沢武弘(静岡大学教授)
9	淡水域の生物	陸地に焦点を当てた地球上での水循環を紹介する。陸上の淡水環境(湖沼、河川、湿原、地下水、氷河など)とその規模と分布、ならびに生物にとっての各々の環境の特徴、それぞれの淡水環境に分布する生物と生態系の特徴、魚類などの陸封現象や陸から海に運ばれた物質がサケなどの生物の回帰によって陸に戻される仕組みなども紹介する。自然度の高い四万十川とその流域の淡水環境を例にして取り上げる。	高橋正征(高知大学大学院教授)	高橋正征(高知大学大学院教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	海洋域の生物	海水環境の特徴を淡水と比較、地球上での海洋環境の分布とその規模ならびに生物にとっての環境の特徴を紹介する。沿岸と外洋の海洋環境の特徴とそこに分布する生物ならびに生態系の特徴を説明。また、深海生物ならびに化学合成に依存する熱水生物群集についても紹介する。本担当者が参加して相模湾で行っている海域の肥沃化実験の例なども紹介する。	高橋正征(高知大学大学院教授)	高橋正征(高知大学大学院教授)
11	光合成と地球環境	地球上の多様な生命が生み出されたのは、大気中に十分な酸素が存在したからである。約30億年前の原始地球では、海で始まった生物の活発な光合成により、大気への酸素の供給が始まった。植物が獲得した光合成機能の特性とはなにかを解説する。	福田正己(アラスカ大学教授)	福田正己(アラスカ大学教授)
12	生物の絶滅と地球環境	生物は過去の何度も大絶滅を起こしている。そして、近年における地球上の様々な生物の絶滅の様相はすさまじい。ここでは、地球史の中での生物の大量絶滅と進化の関係を説明する。また、人間活動が盛んになって以後の、世界の各地および日本における生物の絶滅の様相を解説する。	松本忠夫(放送大学教授)	松本忠夫(放送大学教授)
13	生物に対する人為の影響 -マンモスの絶滅の謎-	最終氷期が終わり地球の温暖化が進行しはじめ1万1千年前に、極北シベリアに生息していたマンモスが忽然といなくなった。温暖化に伴って先史人類は極北シベリアに進出し、やがて新大陸へと渡った。人類との遭遇がマンモス絶滅の原因なのか、について考察する。	福田正己(アラスカ大学教授)	福田正己(アラスカ大学教授)
14	生物集団に対する人為の影響 -森林火災の悲劇-	近年、世界各地で森林が消失している。その多くは多発する森林火災が原因である。地球の肺といわれたシベリアタイガやアマゾン熱帯雨林でなにが起こっているのか、また地球温暖化にどのような影響を及ぼしているのか、について考察する。	福田正己(アラスカ大学教授)	福田正己(アラスカ大学教授)
15	生態系のはたらきと保全	生物群集と、それを取り巻く土壌、水界、大気などの物理環境を含めたまとまりを生態系という。地球は閉じた生態系であり、生物を構成する窒素、リン、炭素などの栄養塩類は大気と水の流れに乗って地球生態系を循環している。近年における地球環境問題は、いずれも人間活動が地球生態系の物質循環を撹乱した結果発生したものである。ここでは、地球生態系における一次生産力の分布と物質循環について理解し、生態系機能の保全について考察する。	東正剛(北海道大学大学院教授)	東正剛(北海道大学大学院教授)

事務局記載欄	開講年度	２０１１年度	科目区分	共通科目（自然系）	科目ｺｰﾄﾞ	1234013	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 物理の世界 （’１１）＝ （ＴＶ）

※この科目は「物理の世界（’07）」を一部改訂した科目です。
改訂回は第4, 5, 6, 9, , 10, 11, 12, 13, 14, 15回です。

〔主任講師（現職名）：生井澤　寛（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：米谷　民明（放送大学教授）〕

講義概要

物理の世界('11)の精神は、前回・前々回の物理の世界('07,'03)と変わらない。物理を、自然をとらえる「物語」として話を進めていく。自然の物語は壮大で、物理はそのひとつの章に過ぎないが、それでもその内容は、汲めども汲みつくせない。今でも未知の世界を拓く努力が続けられているからである。この科目では、物理の根幹を成す、力と運動、熱の物理、音や光などの振動・波動と場、電気・磁気、相対論、量子の世界の論理を紹介したい。そして、これまでに判ってきたこの世界の基本的あり方について触れたい。

授業の目標

物理を身近に感じ、理解を深めてほしいので、受け身な学習ではなく、普段から自然を良く観察し、なぜ、どうしてと問う姿勢を身に着けてもらうことが目標の一つである。数式の使用は必要最小限に努めるつもりだが、講義やテクストの流れの中に基本的な演習を組み込むので、自ら手を動かしノートをとって、論理の展開や数式の扱いを再現するにとどまらず、一歩先まで進んで欲しい。さらに、身の回りのものでやれる実験を用意するので、自分でやってほしい。そういう皆さんのなかから、自然の理解に新しい道を見いだす人が出ることが、我々の最大の目標であり、夢である.

履修上の留意点

「初歩からの物理学―物理へようこそ('08)」、「初歩からの数学('08)」を学んでおくことが望ましい。さらに、「解析入門('08)」、「入門線型代数('09)」を並行して学べば、理解が容易になるだろう。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	物理は、何を相手にするか	物理は、自然科学の基礎といわれる。では、物理は一体何を相手にする科学なのだろうか。自然を相手にするとき、色々な切り口があるが、この講では、長さの尺度を変えていって、物理の世界を旅して見ていこう。もっとも小さい相手（素粒子）ともっとも大きい相手（宇宙）を比べると、10の後に何10個もの0がつくほどの違いがあることが判る。それほど大きな違いのある世界を、物理でどの程度理解できているかを、ざっと見て行こう。 【キーワード】 数値の表し方　単位系　長さを変えて見る　ミクロとマクロの世界	生井澤　寛（放送大学教授）	生井澤　寛（放送大学教授）
2	力って何だろう	あの人は力持ちだとか、政界に力があるなどと、私たちは日常的に力という言葉を使う。では、物理でいう力とは何だろう。力は、物を結合させたり、動かしたり、仕事をする。物理の最も重要な目標は、自然界に存在する力（相互作用）が何かを探りその力の原因を追究することである。だから物理では、力についての定義は、きっちり定められている。ここでは、力と運動について、もっとも基礎的なことを学ぶ。 【キーワード】 力の大きさ　バネ　釣り合い　運動の第1・第3法則　力の方向　ベクトル　運動の記述　速度　加速度　微分	生井澤　寛（放送大学教授）	生井澤　寛（放送大学教授）
3	力は何を産み出すか：運動と仕事	力が運動の何と結びつくかを、実験で体感しながらつきとめよう。こうすると、運動の第2法則が見えてくる。つぎに、力のする仕事を物理の言葉できっちり定めると、エネルギーとその保存則という、物理でもっとも大切な概念に到達する。さらに、ニュートンによる力の基本法則とケプラーの惑星運動の観測結果から、万有引力の法則を導き、物体の落下の謎が解けることを見る。 【キーワード】 質点　質量　運動の第2法則　仕事　エネルギーとその保存則　万有引力	生井澤　寛（放送大学教授）	生井澤　寛（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	遊びから物理へ:運動量と角運動量	遊びで慣れ親しんできたキャッチボールやコマ回しからも重要な物理量を学び取れる。これらをよく分析すると、運動量と角運動量という概念に行き着き、運動の基本法則から、それらの保存則が出ることもわかる。ロケットがなぜ飛ぶかや、コマが倒れにくいわけも知れる。動く座標系と止まった座標系で運動の法則が、不変であるというガリレイ相対性を見て、アインシュタインの相対論の準備もしよう。 【キーワード】 運動量 角運動量 外積 回転モーメント 慣性モーメント ガリレイ相対性	生井澤 寛(放送大学教授)	生井澤 寛(放送大学教授)
5	人は火を恐れない:熱とは何だろう	人が文明を発展させた要因のひとつは、火＝熱を恐れずうまく操ったことであるといわれる。では、熱とは何だろう。そして熱と不可欠に結びつく温度とはなんだろう。じつは、熱は、エネルギーが移動する際のひとつの形であり、温度は、分子の平均運動エネルギーであることがわかる。さらに熱機関の仕事効率から、エントロピーという概念に行き着き、熱の物理の基本がわかる。エアコンなどのヒートポンプについても見よう。 【キーワード】 温度と熱 理想気体と絶対温度 熱と仕事 熱力学第1法則 熱機関の効率 可逆・不可逆 熱力学第2法則 エントロピー 熱力学第3法則	生井澤 寛(放送大学教授)	生井澤 寛(放送大学教授)
6	分子の眼で熱と水を見よう	物質は、おびただしい数の分子から成る。では、熱の正体や熱現象は分子の世界からどう理解できるのだろうか。簡単な模型で、分子の数の多さがどうかかわるかを見てゆこう。さらに、生命を育み大気圏の大循環を支える水について、相互作用と温度に注目して、水の持つ特異性と水の姿(蒸気、水、氷)がどう理解できるかも見よう。水の特異性が、大循環を支えることを見て、水と地球の未来に思いを寄せよう。 【キーワード】 統計的模型 等重率 平均値 ゆらぎ 統計力学 エントロピーの定義 ボルツマン因子 相互作用と温度 相 水素結合 水の大循環	生井澤 寛(放送大学教授)	生井澤 寛(放送大学教授)
7	波は場だ	ひとつのバネの運動を解くと、振動が出る。振動の基本を学ぼう。バネをつないだら全体の運動はどうなるか。答えは、波である。波は、物体の形や性質を反映する固有の振動モードである。バネの長さをどんどん短くして行くと、系は連続な場となり、波は場の時空の振動となる。振動や波は、安定な状態を乱すと、必ず現れる普遍的な運動状態なのである。 【キーワード】 調和振動(単振動) 重ね合わせの原理 共鳴 うなり つながったバネ 固有振動 波 連続体極限 場 定在波 進行波 縦波 横波	生井澤 寛(放送大学教授)	生井澤 寛(放送大学教授)
8	光も波	光は、レーザーペンライトのようにまっすぐ進むし、鏡にあたれば反射し、水に入ると曲がる。これらを実験で見て行くと、光は見えないが粒子のようだ。一方、シャボン玉や水面の油の膜が虹色に見えるのは干渉であり、光が波であることを示す。干渉、回折などの波の基本的性質を見ながら、光と音を中心に波の理解を深めよう。量子の世界への橋渡しとして、波長の異なる波を無数に重ね合わせて行くと、粒子のような存在が作れることも見て行く。 【キーワード】 反射 屈折 全反射 ホイヘンスの原理 干渉 回折 ドップラー効果 波束 群速度	生井澤 寛(放送大学教授)	生井澤 寛(放送大学教授)
9	物質をつくる力は何か	物質はすべて原子からできている。原子から分子ができ、様々の複雑な物体や生物ができる。では、それらを作る力はどういうものか。それは電気の力である。体が電気を感じたり、物体の摩擦により電気が生じることなど、身近な現象から電気や電流の性質を調べながら、電気の世界を探ろう。電気とよく似た磁気についても考えよう。どちらも、「場」(電場、磁場)という考え方によってうまく理解できることが分かってくるだろう。 【キーワード】 静電気 箔検電器 静電誘導 電荷の保存 電気力線 磁力線 電流の磁気作用 電場と磁場 ローレンツの力 オームの法則 ジュール熱	米谷 民明(放送大学教授)	米谷 民明(放送大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	電気と磁気はどういう法則に従っているか	電気や磁気が満たす性質を、正確な法則としてまとめてみよう。そのことから「力の場」を扱うための考え方が学べる。電気力線と磁力線の考えにもとづき、電気と磁気を精密に理解する方法が次第に見えてくる。それにより電場と磁場が絡み合って振動し真空中を伝播する電磁波が説明できる。さらに進んで、物質の成り立ちを電気を帯びた粒子によって解明するための考え方を学ぼう。 【キーワード】 ガウスの法則　アンペールの法則　電磁誘導　変位電流　マックスウェルの方程式　電磁波　誘電体　磁性体　交流回路	米谷　民明（放送大学教授）	米谷　民明（放送大学教授）
11	ニュートンを超えて	近代物理学は、ニュートンの古典力学から始まったが、電磁場理論と原子の世界を追求して行くと、古典理論の限界が見えてくる。古典理論では、光の伝播や原子の存在を説明出来ない。何が問題か、どうしてそうなのか、どうしたら解決出来るのかと問題提起しながら、20世紀の前半、前者を解いた相対性理論、後者を解いた量子論について、それぞれの考え方の出発点を学ぼう。 【キーワード】 電磁場のストレスとエネルギー　マイケルソン・モーリーの実験　光速不変の原理　プランクの公式　光量子仮説　ボーアの原子構造仮説　ド・ブロイの物質波動説	米谷　民明（放送大学教授）	米谷　民明（放送大学教授）
12	光の速度は超えられない--相対性理論の世界	アインシュタインは、光の伝播の法則の理解には、時間と空間についての私たちの常識的概念を根本的に変える必要があることを示した。彼の相対性理論によって電場と磁場が正しく捉えられることを見よう。さらに、万有引力の法則も、時空の幾何学の立場から考え直さなければならない。こうして、宇宙の成り立ちを、時空の大局的な法則から理解するための基礎が得られる。 【キーワード】 同時性の相対性　ローレンツ変換　ローレンツ・フィッツジェラルド短縮　固有時間　ミンコフスキー空間　静止エネルギー　等価原理　ブラックホール	米谷　民明（放送大学教授）	米谷　民明（放送大学教授）
13	量子の不思議な世界	原子が何故安定に存在できるかも、物体を何故暖めることができるのかも、量子論なしには理解できない。しかし、量子の世界の論理は、相対論にもまして常識とはかけ離れている。でも、それなしには、私たちの体も、身の周りの物質や生命も存在できないのだ。その論理である量子力学の基本的な考え方と、それによって初めて説明できる典型的な現象のいくつかについて学ぼう。 【キーワード】 演算子、固有関数　固有値　状態の重ね合わせ　不確定性関係　シュレーディンガー方程式　ゼロ点振動　2重スリット実験	米谷　民明（放送大学教授）	米谷　民明（放送大学教授）
14	物質の構造はどこまで遡れるのか	相対性理論と量子論によって、私たちはミクロの世界を説明し計算するための道具を手に入れた。それによって物質の本性はどこまで解明されたか、また、物質のミクロ構造はどこまで遡ることができているのか、その大筋を見てみよう。まず、原子や分子がどうできるのか、物質の電磁気的性質がどう説明できるのかを学ぶ。そして、さらにミクロの原子核の世界にまで踏み込むと、素粒子の世界が見えてくる。 【キーワード】 スピン　量子統計　ボース粒子　フェルミ粒子　パウリの排他原理　共有結合　バンド構造　超伝導　原子核　核力　中間子	米谷　民明（放送大学教授）	米谷　民明（放送大学教授）
15	宇宙は「説明」できるだろうか--究極的な物理法則を求めて	素粒子の世界は、おおよそ1兆分の1cm以下の世界だ。現在、粒子加速器で到達できる距離は、それからさらに100万分の1ほどである。一方、探り得る宇宙の最大距離は、1cmの1兆倍の1兆倍のさらに1万倍程度である。このような超極微から超極大の世界を包括する法則を、私たちはかなり手にしているが、まだまだ十分ではない。素粒子の世界の法則はどういうものか、それによって宇宙はどこまで理解できるのか。最後に、こうした研究の現状と課題は何かについて見てみよう。 【キーワード】 量子場　反粒子　強い相互作用　弱い相互作用　クォーク　レプトン　ゲージ理論　力の統一　宇宙膨張、　量子重力　超弦理論	米谷　民明（放送大学教授）	米谷　民明（放送大学教授）

事務局記載欄	開講年度	２０１１年度	科目区分	共通科目（自然系）	科目コード	1233815	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア）　　基礎化学　　（’１１）＝　（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：　濱田　嘉昭（放送大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：　齋藤　清機（岡山学習センター所長）　〕

講義概要

地球上の全ての物質が，人間のからだを含めて，原子で構成されていることに鑑み，原子の理解と原子から出来る分子の世界について系統的に学習することは，極めて重要な課題である。エネルギーの取り出し方から物質文明の隅々に至るまで，その中身を把握し，価値を認識し，人類の福祉のために何をなすべきかを考える作業は，化学の理解が無くては遂行することが出来ない。化学がありとあらゆる分野の基礎となっている現状を理解しながら，その学問的体系を出来るだけ簡潔に講義する。

授業の目標

本講義は，出来る限り身近な現象や物質から化学を学び，その知識を，先ずは，自分たちの生活環境の分子レベルで観測する眼力のために役立ててほしいと願うものである。確かに，かつて化学は暗記と目的がはっきりしない計算が中心となった分野であった。しかし，世界中の化学者の弛まない努力の結果，今や極めて論理的で体系的な学問に成長し，成熟した。化学の原理が私達の生活の質とレベルを変え，健康を維持するための物質を多く世に送り出してきた。これからも，エネルギー問題や環境問題の課題を解決する中心的な学問として揺るぎないものになってゆくであろう。化学を一人でも多くの人が理解することを願うものである。

履修上の留意点

本講義は，化学を初めて学ぶ者にとっても入門編として活用できように考えられている。一度高校で化学を学んだ者にとっては，そのとき学習した知識のより明解な体系化が進むような講義の構成となっている。従って，放送授業は勿論のこと，印刷教材を繰り返し読まれることを強く勧める。化学は全ての内容が縦に横に密接に絡まっているので，全体をくまなく学習することが非常に大切である。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	化学の世界	化学は“物質の科学”と言われ，“ある形から別の形への変換に関する科学”である。何故私たちは化学を学び，関心をもつのか？化学は，私たちが呼吸している空気，飲料水の精製，ヒトの成長，食餌の消化，医薬品の製造，電池やプラスチック等望む機能を有する物質の製造等々に密接に関わっている。そういう視点で化学の本質を先ず学習する。 【キーワード】 化学物質，原子，分子，普遍性と多様性，マクロとミクロ	濱田嘉昭（教授）	濱田嘉昭（教授） 齋藤清機（放送大学岡山学習センター所長）
2	原子の理解	化学を学ぶためには，物質の基本的構成要素である原子を知ることから始める。私たちは各原子の内部構造が異なっていることを知っている。電子，中性子，陽子の発見と性質を学び，原子の性質を整理しながら学習する。 【キーワード】 物質量とその表記，イオン化エネルギー，電子親和力，オクテット則，原子価軌道，最外殻電子，共有電子対，孤立電子対	濱田嘉昭（教授）	濱田嘉昭（教授）
3	化合物とその表記法	化学者が行なう最も重要な事柄の一つは新しい化合物をつくることである。新しい化合物には従来の化合物には見られない，全く新しい性質が生まれる。従って，化学を理解するために先ず多種多様な化合物に関する約束ごと（命名，種類，表記法・等）を体系的に学習する。 【キーワード】 共有結合化合物，線構造，アルカン，2原子分子，イオン結合化合物，イオン，多原子イオン	齋藤清機（放送大学岡山学習センター所長）	齋藤清機（放送大学岡山学習センター所長）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	反応物と生成物	化学の学習の中では化学反応を出来るだけ正確に理解することが重要である。そのためには数多くの反応をどのように纏めることが出来るかを学習し，化学反応式の表記法に習熟しなければならない。 【キーワード】 物理量，モル，原子質量単位，ダルトン，分子量，式量，化学反応式，結合反応，分解反応，置換反応，交換反応，均衡化反応式	齋藤清機（放送大学岡山学習センター所長）	齋藤清機（放送大学岡山学習センター所長）
5	化学反応	反応物がどのような機構で生成物に変換されるかを正確に把握することは，化学の学習の中で特に重要な点である。そのためには，化合物の化学的な性質に精通することが肝心である。ここでは，イオン反応，酸と塩基の反応，酸化還元反応に焦点を絞り，そのような視点での学習を進める。 【キーワード】 溶解度傾向，完全イオン反応式，正味のイオン反応式，傍観イオン，酸塩基反応，酸，塩基，共役酸・塩基，ペーハー(pH)，イオン解離(定数)，酸化還元反応，酸化数，モル濃度	齋藤清機（放送大学岡山学習センター所長）	齋藤清機（放送大学岡山学習センター所長）
6	化学反応とエネルギー	化学反応はエネルギーの移動を伴う。燃料が燃えると炭酸ガスと水に変換されるが，同時に熱が放出される。このエネルギはどこからきたのか。反応の過程での熱の出入りを定量的に知ることは，反応の本質を学習することでもある。 【キーワード】 運動のエネルギー，位置のエネルギー，エネルギー保存則，系と外界，内部エネルギー，熱容量，エンタルピー，熱化学方程式，ヘスの法則，$\Delta H°$，$\Delta H°_f$	齋藤清機（放送大学岡山学習センター所長）	齋藤清機（放送大学岡山学習センター所長）
7	原子・分子の量子論	原子から分子が生成する時，結合が出来るが，その結合に関与する電子は，どのようなエネルギー準位の，どのような空間に存在するのか。その理解を出来るだけ現実に近いものにするためには，量子論的な扱いを避けては通れない。そんための最低限の学習をする。 【キーワード】 原子軌道，分子軌道，量子数，電子配置の構成原理，σ結合，π結合	濱田嘉昭（教授）	濱田嘉昭（教授）
8	共有結合	非金属元素から分子が出来る時，共有結合を形成するが，その本質と最も簡単な共有結合分子表記法であるルイス構造の把握とその限界，再度オクテット則の適用と例外について学習する。更に，極性共有結合の概念と共鳴への展開について学習し，ルイス構造の限界その解決法としての分子軌道法の適用について学習する。 【キーワード】 核間距離，共有結合，ルイス構造，典型元素，共有電子対，非共有電子対，不対電子，極性共有結合，電気陰性度，形式電荷，オクテット則，共鳴，分子軌道論	齋藤清機（放送大学岡山学習センター所長）	齋藤清機（放送大学岡山学習センター所長）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
9	分子の構造	三次元的な分子の形を予言するために用いられる原子化殻電子対反発法の扱いについて学習し，それを前提として分子の形状の多様性について把握する。さらに回転異性体，光学異性体，および二重結合の幾何異性体についてもその基本を学習し，あわせて分子が組織化され，機能を発揮するためには分子間結合が重要であることを学ぶ。 【キーワード】 原子価殻電子対反発法，電子対の配向，分子形状，混成軌道，σ結合，回転異性体，鏡像異性体，π結合，多重結合，幾何学的構造，非結合間相互作用，ロンドン力，双極子相互作用，水素結合	齋藤清機（放送大学岡山学習センター所長）	齋藤清機（放送大学岡山学習センター所長）
10	気体と大気	気体の圧力，温度，及び量あるいは体積の間に成立する関係を学習する。その他，化学反応における気体の定量的な取り扱いについても学習し，あわせてオゾン層の化学について学習する。 【キーワード】 ボイル・シャルルの法則，気体反応の法則，原子説，分子説，アボガドロの法則，気体定数，理想気体の状態方程式，オゾン層	濱田嘉昭（教授）	濱田嘉昭（教授）
11	液体，個体および溶液の化学	物質の三態を取り扱える基礎学問はやはり化学である。分子間相互作用と分子運動を基本とする取り扱いによって初めて物質の三態の相互の関連が理解される。ある物質が溶媒に溶けることの分子レベルでの理解の仕方や，気・液・固とは異なった状態の発現の仕方と、その利用についても学習する。 【キーワード】 物質の三態，状態図，三重点，潜熱，熱容量，溶液，溶媒，溶質，溶媒和，水和，濃度，溶解度，沸点上昇と蒸気圧降下，浸透圧	濱田嘉昭（教授）	濱田嘉昭（教授）
12	有機化合物―燃料からっ高分子まで	人間の生活の質を変えた化石燃料および種々の有機化合物に焦点を当て，特に高分子化合物の製造に関する基礎反応について，分子レベルで学習するが，反応機構を詳細に紹介する。 【キーワード】 石油，石炭，天然ガス，石油精製，オクタン価，ポリマー，連鎖重合，ラジカル重合，カチオン重合，アニオン重合，逐次重合	齋藤清機（放送大学岡山学習センター所長）	齋藤清機（放送大学岡山学習センター所長）
13	反応速度と化学平衡	反応速度を扱う学問と平衡を扱う学問は，原理的には無関係である。しかし，化学反応の過程を理解するためには，これらの両方の概念と，実際的な使い方を学習する必要がある。反応の速度を支配する因子と反応物と生成物のエネルギー差を支配する因子を学び，求める生成物を効率よく手にするための触媒の役割や反応速度を支配する因子について学習する。 【キーワード】 エントロピー，エントロピー増大の法則，Gibbs自由エネルギー，反応速度，一次反応，二次反応，素反応，律速段階，アレニウスの式，活性化エネルギー，触媒，反応系，生成系，動的平衡，ルシャトリエの原理	濱田嘉昭（教授）	濱田嘉昭（教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
14	電子移動とエネルギー	酸化還元反応と電子の流れを考えると，化学エネルギーから電気エネルギーを取り出す方法が見えてくる。金属のイオン化は，その基礎となる現象であり，この分野は今や二次電池の開発という形で大きな流れになろうとしている。 【キーワード】 イオン化列，電池，電極，アノード，カソード，電極電位，一次電池，二次電池，電気分解	濱田嘉昭（教授）	濱田嘉昭（教授）
15	典型元素と遷移元素の化学	地球にある元素はどのようにして出来たか，自然界にある鉱石あるいは元素化合物からどのようにして純粋な元素を抽出するか，および抽出された元素の性質と使途について周期表と対応させながら学習する。 【キーワード】 典型元素，sブロック元素，pブロック元素，遷移元素，dブロック元素，二酸化ケイ素，ケイ酸塩，Al抽出，食塩溶融電気分解，食塩水の電気分解，Si抽出，鉄と鋼鉄，遷移金属錯体	齋藤清機（放送大学岡山学習センター所長）	濱田嘉昭（教授） 齋藤清機（放送大学岡山学習センター所長）

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	共通科目（自然系）	科目ｺｰﾄﾞ	1131907	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　宇宙を読み解く　　（’０９）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：海部宣男　（放送大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：吉岡一男　（放送大学教授）　〕

講義概要

宇宙とは私たちが住む世界そのものであり、人間存在の根源である。本講義は、理系・文系を問わず、宇宙というものを体系的に理解してみたいという広い要望に応えるため、宇宙の総合的教養・入門講座として企画した。人間と宇宙の旧いかかわりにはじまって、太陽系の新しいイメージ、天体物理学の基礎、現代の宇宙観測とそれが明らかにした多彩な天体の世界、謎のダークマターとダークエネルギー、膨張宇宙の極限まで。人間は奥深い宇宙にどこまで分け入ったのか、また現代科学は宇宙をどう読み解いているかを把握する。

授業の目標

宇宙について現代の市民が教養として持つべき基本的な認識を、歴史的考察をふまえつつ現在の最先端のテーマまで、文系の受講生にも十分わかりやすい形で展開する。個々の天体の具体的解説は専門科目に譲り、切り口を工夫し物語的要素を全体の縦糸として展開することで、宇宙の奥深さ、それを理解する楽しさを伝える。

履修上の留意点

この講義では、専門的知識は前提としない。科学的探究が宇宙をどこまで追いどう理解してきたか、それは人間が積み上げてきた知の冒険である。受講者もそれをともに体験し、それぞれに「自分の宇宙」を広げていただきたいと思う。だが個別のテーマをより深く理解したい受講者には、評論社で刊行中の『シリーズ・現代の天文学』が参考になるだろう。特に第一巻『人類の住む宇宙』は、宇宙の全体的概念をつかむのに良い。また放送大学の専門科目には、『進化する宇宙』『天体物理学入門』などの講義とテキストがある。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	宇宙の認識と宇宙の広がり	本講義のイントロダクション。古代の人々の宇宙の認識、神としての天体や星座、5惑星の占星術から始まって、人間の科学的認識の発展をロケを交えて述べる。さらに、観測を重ね、望遠鏡の発展とともに広大に広がって膨張宇宙とその歴史にまで至った人間の宇宙認識を概観する。「宇宙」という果てしない存在と人間との係わり合いを、まず把握していただきたい。 【キーワード】 宇宙観、太陽崇拝、星座、占星術、天体、望遠鏡、膨張宇宙	海部宣男（放送大学教授）	海部宣男（放送大学教授）
2	新しい太陽系への展開	太陽系の理解は、急速に進んでいる。かつての太陽系のイメージは一変した。冥王星の位置づけを変え、はるか遠方に外縁天体を探る太陽系の新しい観測と、新たに展開しつつある太陽系の形成論を解説する。さらに1995年以来続く発見によって見えてきた驚くべき太陽系外惑星の世界を紹介し、その中での私たちの太陽系についても考える。 【キーワード】 太陽系、惑星，外縁天体、冥王星、太陽系形成論、太陽系外惑星	海部宣男（放送大学教授）	海部宣男（放送大学教授）
3	重力とは何か：ガリレオからアインシュタインへ	宇宙を支配する基本的な力は、重力である。初めて重力を明確に考察したガリレオから、その天体への応用・体系化によって力学的世界観を作ったニュートン、そして重力と空間構造の結びつきを見出したアインシュタインや原子の世界まで、重力と力についての認識の発展を追い、さらに重力という不思議な力の本質を展望する。 【キーワード】 重力、等加速度運動、万有引力、天体力学、時空構造、4つの力	海部宣男（放送大学教授）	海部宣男（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	宇宙をつくる物質	宇宙や私たちの身体を構成する物質は原子や分子から成り、原子は原子核と電子から成る。さらに原子核は陽子や中性子などから成る。ここでは、これら物質の構成および光などの電磁波との相互作用を、ミクロの世界特有の性質の解説も含めて、ミクロの立場で説明する。これらの知識は、以後の章で述べる宇宙の現象を理解する上での基礎を与える。 【キーワード】 原子，分子，電子，放射，ミクロの世界	吉岡一男（放送大学教授）	吉岡一男（放送大学教授）
5	望遠鏡が広げた宇宙	宇宙は望遠鏡による観測で探られ、理論を併せて読み解かれてきた。ガリレオによって望遠鏡での観測が始まってから400年である。20世紀に入るまでは可視光用の望遠鏡だけで観測が行われたが、いまは電波やX線など電磁波のすべての波長で観測されている。望遠鏡による宇宙観測の発展を概観し、未来を展望する。 【キーワード】 光学望遠鏡，赤外線観測，電波観測，X線観測0	吉岡一男（放送大学教授）	吉岡一男（放送大学教授）
6	星はなぜ光る	太陽やその仲間である恒星が放つ莫大な光の源は、中心部で起きる核融合反応が解放する原子核エネルギーである。太陽を例にとり、そのエネルギー源が解明されてきた歴史をたどり、核融合反応の仕組みを学ぶ。また、恒星の研究の重要な図であるHR図について述べる。さらに、さまざまな恒星の姿は恒星がその一生を進んでゆく段階であることを示す。 【キーワード】 太陽，恒星，核融合反応，HR図，恒星進化	吉岡一男（放送大学教授）	吉岡一男（放送大学教授）
7	宇宙のかたちを読み解く	宇宙には実にさまざまな天体があり、さまざまに美しい形がある。球、円盤からシェル、双極流、宇宙規模のジェット、膨張宇宙の網の目構造まで。そうした天体の多彩な形態から、宇宙で働く力、運動、つり合いなど、宇宙の壮大な現象を読み解くことができることを示そう。 【キーワード】 惑星の定義、力のつりあい、太陽系円盤、銀河円盤、双極分子流、宇宙ジェット、宇宙の大規模構造	海部宣男（放送大学教授）	海部宣男（放送大学教授）
8	宇宙空間から宇宙を観る	宇宙は、地上からだけではなく、人工衛星などにより宇宙空間からも観測されている。宇宙から来る放射は、可視光や一部の電波を除いては地球大気に吸収され、地上には達しないからである。また、地球大気は地上から観測するイメージをぼやけさせる。地上では得られない波長域の放射や鮮明な天体像は、宇宙の理解を飛躍的に増大させた。 【キーワード】 ハッブル宇宙望遠鏡，大気の窓，天文観測衛星、月面観測	吉岡一男（放送大学教授）	吉岡一男（放送大学教授）
9	宇宙の惑星と生命	宇宙人は、むかしから人間が思い描いた夢のひとつだった。その夢と空想は科学的研究と現実の前に一旦は崩れったが、いまや科学的可能性としてよみがえりつつある。太陽系外惑星の世界、地球型惑星の探査、宇宙生命、そして文明をさがす可能性まで、地球における生命の起源と太陽系探査も踏まえながら展望する。 【キーワード】 宇宙人、宇宙の生命、太陽系外惑星、第二の地球、地球生物	海部宣男（放送大学教授）	海部宣男（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	宇宙の巨大階層・銀河の世界	星々は、宇宙空間に一様に分布しているわけではない。星の間の空間はまったくの真空ではなく非常に薄い星間物質で満たされ、これら星間物質と星が集まって、天の川銀河と呼ばれる大集団を成している。さらに、太陽系を含む天の川銀河の外側には、同等の規模の多数の銀河や、さらにスケールの大きな銀河団・超銀河団が存在する。それらの発見の歴史も含め、宇宙の巨大階層について学ぶ。 【キーワード】 星団，星間物質，天の川銀河，銀河，銀河団，宇宙の大規模構造	吉岡一男（放送大学教授）	吉岡一男（放送大学教授）
11	銀河の活動・衝突・成長	銀河には我が天の川銀河のようにおとなしいものもあるが、中心部で激しい活動を起こしている銀河もある。活動的銀河の多くは中心に巨大なブラックホールが存在し、活動の源ともなっている。また、中心部で爆発的に星が生まれている銀河もある。我が天の川銀河にも中心に巨大ブラックホールがある。さらに、銀河同士は衝突・合体をくり返して進化したものと考えられている。天の川銀河も例外ではない。 【キーワード】 銀河系中心核，活動的銀河中心核，クェーサー，爆発的星生成	吉岡一男（放送大学教授）	吉岡一男（放送大学教授）
12	超高エネルギーを観測する	宇宙は、宇宙線と呼ばれる光速に近い速さで運動する素粒子によっても読み解くことができる。宇宙線やガンマ線のエネルギーは大きく、宇宙における非常に激しい活動現象の情報を与える。さらに、激しい活動現象に伴い放出されるニュートリノや未だ観測されてはいない重力波についても述べる。ここでは、これらの観測から読み解かれる宇宙の高エネルギー現象について述べる。 【キーワード】 1次・2次宇宙線，超高エネルギー宇宙線，ガンマ線バースト	吉岡一男（放送大学教授）	吉岡一男（放送大学教授）
13	宇宙の膨張と宇宙の果て	宇宙が膨張していることがハッブルの観測で見出されたのは1929年、宇宙背景放射の発見によって膨張の中で素粒子も銀河も星も惑星も生まれたことが明確になったのは、1965年である。宇宙膨張の発見は、私たちのこの世界の根源的な成り立ちを明らかにする入り口だった。膨張宇宙の初期に起こったことを概観し、膨張宇宙論が提供する宇宙の大きさ、地平線問題、そして宇宙の果てについて考える。 【キーワード】 赤方変移、ビッグバン、宇宙背景放射、インフレーション、宇宙の幾何学、宇宙の地平線問題、宇宙の果て	海部宣男（放送大学教授）	海部宣男（放送大学教授）
14	深まる謎：ダークマターとダークエネルギー	宇宙を構成しているものは、私たちが知っている物質だけではなかった。なじみ深い物質は、僅か数%に過ぎず、全体の4分の1は光でも電波でも見えないが質量を持つダークマターだった。さらにその3倍に達するダークエネルギーが存在し、宇宙の膨張を加速しているらしい。正体不明のダークマターとダークエネルギーの発見と、その宇宙のなかでの意味について述べ、正体解明への道を探る。 【キーワード】 ダークマター、CDM，宇宙膨張の加速、ダークエネルギー、宇宙項	海部宣男（放送大学教授）	海部宣男（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
15	137億年を読み解く	137億年にわたる膨張宇宙の歴史のあらすじを、私たちはかなり読み解くことができるようになってきた。現代の天文学・宇宙物理学が読み解いた宇宙の137億年史とは、どういうものか。ひるがえって、そもそもこの宇宙はどうして生まれたのか。空間・時間・物質の起源にも迫る宇宙論の考察の最前線を垣間見るとともに、宇宙膨張の結果の一つとして生まれた、私たち人間という存在を考えよう。 【キーワード】 量子宇宙論、ひも理論、力の分離、次元、物質形成、天体形成、人間原理、地球人類の文明	海部宣男（放送大学教授）	海部宣男（放送大学教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	共通科目（自然系）	科目ｺｰﾄﾞ	1130900	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 宇宙観の歴史と科学 （’０８）＝（ＴＶ）

※この科目は「宇宙像の変遷と科学（’04）」の一部改訂科目です。
改訂回は、8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15回です。

〔主任講師（現職名）：中村 士（帝京平成大学教授） 〕

講義概要

宇宙に対する見方を体系化した学問である天文学、宇宙論は、人類文明の発祥と共に生まれ発展した最も古い学問の一つである。その歴史には、現代科学の方法や思考の基礎になっている様々なアイデアがちりばめられている。また近年は、宇宙論の思想が他の科学に影響を及ぼすことも少なくない。本講義ではそれらを時代を追って説明すると共に、現代の天文学・宇宙観にどう連なっているかを見てゆく。

授業の目標

全15回の講義を通じて、今では私達が当たり前のように思っている天文学・宇宙論の基礎概念、例えば、地動説、太陽の熱源、天の川銀河、膨張宇宙論、ブラックホールなどの考え方がどのようにして誕生したかが理解できるようになることを目標とする。また、この講座を履修することにより、関連する現代天文学、宇宙科学に対する興味と理解がより深まることをめざす。天文学の予備知識はなくてもよい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	古代の宇宙観(1)	人類史上において、最初の宇宙観・世界観がどのようにして誕生したかをまず概観する。ついで、最も古く天文学が発達したメソポタミア、エジプトの天文学について述べ、インド、中国の古代宇宙観の特質にも触れる。	中村 士（帝京平成大学教授）	中村 士（帝京平成大学教授）
2	古代の宇宙観(2)	現在の天文学、宇宙観のアイデアの源泉はギリシアにある。古代ギリシアの自由な学問的伝統は、天動説、地動説など様々な理論を生んだ。それらの特徴を比較し、現代天文学への影響を論じる。	中村 士（帝京平成大学教授）	中村 士（帝京平成大学教授）
3	中世の宇宙観からルネッサンスへ	ローマ世界の没落後、古代ギリシアの華々しい天文学の成果は中世ヨーロッパでは忘れ去られた。しかし、ギリシア天文学はアラビア・イスラム世界の人々によって温存、発展させられた。西欧天文学とイスラム天文学との関係についても述べる。	中村 士（帝京平成大学教授）	中村 士（帝京平成大学教授）
4	コペルニクス革命と地動説	イスラムの科学を通してギリシア天文学を再発見し、ルネサンスによって人々は中世アリストテレス思想の呪縛から解き放たれた。その象徴はコペルニクスが提唱した地動説（太陽中心説）であり、自転する大地という考え方だった。地動説の受容についても述べる。	中村 士（帝京平成大学教授）	中村 士（帝京平成大学教授）
5	精密観測と熟考の成果：ティコとケプラー	ティコとケプラーという二人の巨人が協力して明らかにした惑星運動の統一的解明は、近世天文学の出発点となった。改良した観測装置で精密なデータを蓄積し、そこから法則を見つけ出す近代科学の方法論を見てゆこう。	中村 士（帝京平成大学教授）	中村 士（帝京平成大学教授）
6	宇宙像の拡大：望遠鏡の発明と万有引力の法則の発見	17世紀のはじめ、望遠鏡を用いた天体についての様々な発見は、それまでの宇宙観を一変させた。また、ケプラーの仕事を元にしてニュートンが発見した運動法則と万有引力の法則は、地上の物体と天体の運動を統一的に説明することに成功した。そのために、ニュートン力学的宇宙観が広まった。	中村 士（帝京平成大学教授）	中村 士（帝京平成大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
7	地動説の検証から恒星天文学の誕生へ	地動説を検証する最も直接的な証拠は、星の年周視差の検出であると考えられた。年周視差検出の努力の過程で、天文学者の関心は徐々に変質し、太陽系を離れて恒星の世界に拡大していった。恒星天文学の誕生について述べる。 【キーワード】 年周視差	中村　士（帝京平成大学教授）	中村　士（帝京平成大学教授）
8	星の世界の物理学（※改訂回）	それまでの星の空間的分布や運動の研究から、星の明るさ、色などに関心を転換することによって、天体物理学と呼ぶ新しい天文学が誕生した。太陽、星のスペクトルの組織的観測結果から、スペクトルの特徴に従って分類することが始まり、やがてヘルツシュプルング・ラッセル（HR）図によって、星には巨星、矮星などの区別があることが分かってきた。	中村　士（帝京平成大学教授）	中村　士（帝京平成大学教授）
9	星・太陽の物質の解明へ（※改訂回）	太陽大気中の元素とスペクトル線の対応から、恒星も太陽と似た元素からなることが確かめられた。やがて、量子力学、原子核物理学の進展によって、長年の謎だった太陽の熱源問題も解決され、星の進化に伴って重い原子核が次々に生成されるメカニズムも解明されていった。	中村　士（帝京平成大学教授）	中村　士（帝京平成大学教授）
10	銀河系と銀河の発見（※改訂回）	宇宙の広がりと形を調べる研究は19世紀になってようやく銀河系の姿をおぼろげに描き出した。20世紀になると、銀河系と渦巻星雲の関係についての議論が起こり、渦巻き星雲は銀河系と同規模の星の集団（銀河）であることが判明して銀河からなる宇宙という現代の宇宙観の基礎ができた。この、銀河系と銀河の発見の歴史を解説する。	岡村定矩（東京大学・教授）	岡村定矩（東京大学・教授）
11	宇宙膨張の発見とビッグバン宇宙論（※改訂回）	遠方の銀河ほど速い速度で我々から遠ざかるという「ハッブルの法則」は、宇宙全体が一様等方的に膨張していることを示す。膨張宇宙という概念と宇宙における元素の起源の研究から、ビッグバン宇宙論というパラダイムが誕生した。インフレーション理論を含めた現在の宇宙論への道のりを概観し、ダークマター、ダークエネルギーという新たな謎にもふれる。	岡村定矩（東京大学・教授）	岡村定矩（東京大学・教授）
12	太陽系像の変遷（※改訂回）	天体物理学の隆盛に伴って太陽系研究はしばらく沈滞期に入る。しかしその後、惑星探査機の出現と新種の天体の発見によって、最近の太陽系像は一変しつつある。その有様を、近年急速に発展した科学的太陽系起源論と、系外惑星の探査の歴史と共に紹介する。	中村　士（帝京平成大学教授）	中村　士（帝京平成大学教授）
13	私たちはどこから来たか：地球外生命を求めて（※改訂回）	宇宙における生命の誕生と進化を理解することは、天文学、宇宙論研究の最終目標と言ってもよいテーマで、人間原理などにも関係している。電波天文学の誕生で始まった太陽系外生命の科学的探査の歴史についても述べる。	中村　士（帝京平成大学教授）	中村　士（帝京平成大学教授）
14	万物の尺度の探求：メートル法の制定と測地学の誕生（※改訂回）	メートル法という統一した尺度が地球の大きさを基準にして18世紀末に生れた歴史的背景を探り、地球、太陽系の大きさの定量的把握にいかに影響したかを述べる。天文単位決定の歴史についても紹介する。 【キーワード】 天文単位	中村　士（帝京平成大学教授）	中村　士（帝京平成大学教授）
15	宇宙像の表現法：星表と星図の歴史的変遷（※改訂回）	恒星宇宙の広がりや構造を表示する方法として、星図・星表による表現が昔から行われてきた。その古代から現代に至る歴史的変遷を、、西洋と東洋の場合について見てゆく。 銀河系や電波源の様々な表現法についても触れる。 【キーワード】 星図・星表	中村　士（帝京平成大学教授）	中村　士（帝京平成大学教授）

科目名（メディア）＝　惑星地球の進化（‘０７）＝（TV)

〔 主 任 講 師（現職名）：松本　良　（東京大学大学院教授）　〕
〔 主 任 講 師（現職名）：浦辺　徹郎（東京大学大学院教授）　〕
〔 主 任 講 師（現職名）：田近　英一（東京大学大学院教授）　〕

講義概要

地球は火星や金星などと同じ太陽系の一つの惑星ですが、豊かな水の存在と生命活動が他の惑星との違いを際立たせています。しかし長い時間軸で見ると、地球環境はいつも穏やかだった訳ではありません。地球は太陽エネルギーや潮汐などの外因エネルギーと地球内部の放射性核種の壊変に由来する内因エネルギーによって駆動されるシステムであり、これらのエネルギーやその他の原因（小天体の衝突など）により惑星地球はダイナミックに進化・変動してきました。　本講義では、知識の網羅ではなく、ダイナミックな地球を理解する上で特に重要な項目について詳しく解説します。　身近な地質現象の観察を手がかりとして、地球の成り立ちと進化について理解し、地球との共生について考えることを講義の目標とします。

授業の目標

講義は３つの章から構成されます。第１章「惑星地球の形成とダイナミクス」では、惑星地球の形成や地球の構成、地球を駆動するエネルギーについての解説を通じて、地球のダイナミクスを理解します。第２章「惑星地球システムを構成するもの」では、岩石、地層、化石から地球史を解読する方法を学びます。第３章「地球の変動と進化」では、生物の絶滅や劇的な環境変動に関する最新の成果から、地球変動のメカニズムを知り、資源や環境、地球の近未来について考えます。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
		第１章　惑星地球の形成とダイナミクス		
1	自分の地球観を持とう	講義が目指すもの、講義全体の構成、および学生諸君に望む事柄について説明する。人類社会と地球、環境問題、資源の問題、生物多様性の問題、持続的発展をテーマに、今日地球と人類が抱える課題について問題提起する。	松本　良 浦辺　徹郎 田近　英一	松本　良 浦辺　徹郎 田近　英一
2	太陽系と惑星地球の形成	地球と太陽系内の他の惑星との比較を通じ、それらの共通点や違いを明らかにすることによって、惑星地球の特徴を理解する。また、太陽系の形成過程を概観し、地球がどのように誕生したのかを理解する。	田近　英一	田近　英一
3	地球環境の形成と進化	地球環境は太陽からのエネルギーと大気の温室効果によって支えられている。地球史を通じて温暖な地球環境が維持されるためには、大気の進化が重要であった。大気中の酸素は生物起源であり、地球史半ばに酸素濃度が増加したらしい。これらのことを紹介する。	田近　英一	田近　英一

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	固体地球の成立と分化	惑星地球は、主として内因的エネルギーによる熱、圧力、マグマ活動などさまざまな要因で成層構造を持ち、分化して行く。また、大陸と海の区別ができ、地球の原型が形成される。そのような成層構造をいかにして調べるのか、大陸と海の違いは何かを紹介する。	浦辺　徹郎	浦辺　徹郎
5	地球内部ダイナミクス	現在の固体地球は内因的エネルギーに支えられてダイナミックに活動している。現在の地球の営みを規定しているのはプレートテクトニクスで、この理論により、それまで分からなかったさまざまな現象を統一的に理解することが出来るようになった。	浦辺　徹郎	浦辺　徹郎
		第2章　惑星地球を構成するもの		
6	地球のサブシステムの成立	地球システム全体を考えた時、質量では固体地球が99%をしめるが、ものの“流れ”の大きさを比べると気圏、水圏、生物圏といったサブシステムの重要性が浮かび上がってくる。これらのサブシステム間の相互作用が、現在の地球を駆動している事を学ぶ。	浦辺　徹郎	浦辺　徹郎
7	熱水活動と鉱物資源の生成	プレートの拡大境界／収束境界に多くのマグマ活動が集中している。その熱は、地殻中に熱水循環を引き起こす。この熱水活動は、重金属で代表される鉱物資源の生成のほか、地下生物圏のエネルギー源となるなど、新たな地球像を見せようとしている。	浦辺　徹郎	浦辺　徹郎
8	堆積岩はどこで出来たのか?	固体地球の最外郭は堆積岩で覆われる。堆積岩は、河床やデルタ、大陸斜面から深海底と様々な環境で形成され、それぞれ特徴的な構造や組成を持つ。野外での観察を通じて堆積岩がどのような環境で形成されたか判定する手法を学ぶ。	松本　良	松本　良
9	海洋環境と深海堆積物	氷床の発達による海水準の低下、深層水の循環、海洋の成層構造の発達など、海洋の物理的、化学的進化と変動は、地球環境を大きく変える。一方、地球表層環境の変動は深海堆積物によく記録される。深海掘削コアを例に、深海堆積物の特徴と海洋環境の変動について解説する。	松本　良	松本　良
10	地球史の編年	生物の進化に基づく生層序、古地磁気や海水の組成変動など、全地球的に同時に変動する現象を手がかりとして、遠く離れた場所の地層の新旧の関係が明らかにされる。一方、放射性元素の壊変を利用して数値年代を知る事ができる。これらに基づき詳細な地球史が編まれてきた。	松本　良	松本　良

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
		第3章　惑星地球の変動と進化		
11	生物の大量絶滅	5億4千万年以降の顕生代において生物は5回大量絶滅という危機を経験した。大量絶滅の要因としては、天体衝突のほか、寒冷化、海水面の低下、海洋の貧酸素化など、様々なモデルが提案されている。最近の研究成果から、地球表層環境の劇的変動と生物の大量絶滅について学ぶ。	松本　良	松本　良
12	地球表層環境の変動	地球史において、暖かい時代（温室期）と寒い時代（氷室期）が数億年の周期でくりかえされたことが堆積物に記録されている。こうした長期的な環境変動の要因について考察する。また、氷室期に見られる短周期の氷期ー間氷期サイクルを、炭酸塩の酸素同位体組成の変動から解読する。	田近　英一	田近　英一
13	全球凍結イベントと地球環境の安定性	最近の研究によって、地球全体が凍結するという破局的な環境変動が過去に何度か生じたらしいことが分かってきた。この全球凍結（スノーボールアース）仮説について紹介し、地球環境の安定性について考える。	田近　英一	田近　英一
14	メタンハイドレート：環境と資源へのインパクト	メタンガスと水から成るメタンハイドレートが堆積物中に大量に存在する。メタンハイドレートが分解すると海洋の貧酸素化を促進し生物圏に致命的な影響を与える。将来のエネルギー資源としても期待されるメタンハイドレートについて考える。	松本　良	松本　良
15	惑星地球と人類社会の共生	講義の締めくくりとして、人類と地球の共生について考える。人類が登場してほんの100万年ほどの間に、人類活動の影響は拡大し、直接地球環境の変動に介入するようになってきた。46億年の地球進化のなかで、人類はいかに地球との共生を図れるのか、考えよう。	松本　良 浦辺　徹郎 田近　英一	松本　良 浦辺　徹郎 田近　英一

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	共通科目（自然系）	科目ｺｰﾄﾞ	1131702	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　微分と積分　　（’１０）＝　（ＴＶ）

※この科目は「初歩からの微積分（’０６）」を一部改訂した科目です。
改訂回は第1, 9, 15回です。

〔主任講師（現職名）：　熊原啓作（放送大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：　押川元重（放送大学客員教授）　〕

講義概要

世の中を理解し積極的に対応しようとするとき，時間，長さ，広さ，重さ，物の量，価格などいくつもの変量を認識することは不可欠である。さらに一つの変量の値が決まれば，他の変量の値が決まるという関数関係を認識することも避けることは出来ない。二つの変量の間に関数関係があれば，それらの変化量の割合を記述するものとして，導関数を考える。微分するとは与えられた関数の導関数を求める演算のことであるが，その逆演算として積分がある。積分によって曲線で囲まれる図形の面積が計算できる。また導関数，関数，変量の間の関係を表現する微分方程式を解くことによって，それらを規定する関数関係を導くことができる。この授業科目では，高校で微分積分を学んでいることを前提としないで，大学レベルの微分積分を展開する。

授業の目標

微分積分学の基本事項をできるだけ平易に説明することを目標とする。新しい概念を真に身につけるためにはその概念になじむことが必要であり，数学的な言い回し，数学記号も繰り返し使用することによって違和感もなくなり理解が速まる。基本事項をおろそかにせず丁寧に説明し積み上げることによって，長い歴史を持ち広い応用を持つ微分積分学の入門とする。

履修上の留意点

章末の演習問題の解答は次回の放送授業の中で行う。まず印刷教材を参照しながら解答し，放送授業によって正解と照らし合わせ理解の確認をされたい。この授業においてはあくまで1変数関数の微積分の入門部分に限っているので，是非引き続き解析学関係の勉学を進め，解析学，数学のすばらしさを学んでいただきたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	第1部序　微積分前半の概要（※改訂回）	この回は微分積分学を学ぶにあたって，その概要を知り，効果的効率的に学ぶための方法を考える。さらに、第1部（1章～7章）の概要をつかみ，そこに現れる用語や記号に慣れることを目標とする。 【キーワード】 基本的な関数，微分，導関数の計算	熊原啓作（放送大学教授） 押川元重（放送大学客員教授）	熊原啓作（放送大学教授） 押川元重（放送大学客員教授）
2	関数と導関数	微積分を展開する準備として関数とは何かからはじめて基本事項を解説する。時間とともに変動する事象の多くが関数で表され，関数を理解することは数学に限らず数と量を扱うすべての分野で必要である。 【キーワード】 関数，定義域，値域，逆関数，実数の連続性，関数の極限値，数列の極限値	熊原啓作（放送大学教授） 押川元重（放送大学客員教授）	熊原啓作（放送大学教授） 押川元重（放送大学客員教授）
3	上限・下限，関数の極限値	極限値の基本性質を解説し，連続関数を定義する。議論の基礎として実数の連続性について述べ，数集合の上限と下限，関数の最大値と最小値について解説する。 【キーワード】 極限，連続，上限，下限，最大値，最小値	熊原啓作（放送大学教授） 押川元重（放送大学客員教授）	熊原啓作（放送大学教授） 押川元重（放送大学特任教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	指数関数と対数関数	基本的な関数であり日常生活にも密接な関係がある指数関数・対数関数の導入とその性質を解説する。 【キーワード】 有理数, 無理数, 指数関数, 対数関数, 対数関数的増加, 自然対数, 自然対数の底	熊原啓作(放送大学教授) 押川元重(放送大学客員教授)	熊原啓作(放送大学教授) 押川元重(放送大学客員教授)
5	三角関数と逆三角関数	基本的な関数である三角関数を複素数を用いて導入しその性質を解説する。一般角の三角関数を定義し, 複素数を用いて三角関数の性質を導く。その過程でオイラーの公式を解説する。また逆三角関数を定義する。 【キーワード】 複素数, 弧度法, 三角関数, 複素数, オイラーの公式, 逆三角関数	熊原啓作(放送大学教授) 押川元重(放送大学客員教授)	熊原啓作(放送大学教授) 押川元重(放送大学客員教授)
6	導関数	関数の導関数を定義し, その意味を考える。さらにこれまで取り上げた関数の導関数の計算を解説する。 【キーワード】 微分係数, 微分可能, 変化率, 導関数, 逆関数の導関数, 指数関数の導関数, 逆三角関数の導関数	熊原啓作(放送大学教授) 押川元重(放送大学客員教授)	熊原啓作(放送大学教授) 押川元重(放送大学客員教授)
7	関数の生成	扱える関数を増やすため, 関数の生成ということを解説する。基本になる関数x^n, e^x, log x, sin x, cos x, tan x, $\sin^{-1}x$,$\cos^{-1}x$, $\tan^{-1}x$の性質を調べ, それらの関数の和, 定数倍, 積, 商, 合成による関数の生成について述べる。 【キーワード】 関数の四則, 合成関数	熊原啓作(放送大学教授) 押川元重(放送大学客員教授)	熊原啓作(放送大学教授) 押川元重(放送大学客員教授)
8	微分と2次導関数	導関数の性質と導関数の計算を解説する。その内容は, 関数の和と定数倍, 積, 商の導関数, 合成関数の導関数などを述べ, 2次導関数についても説明する。 【キーワード】 微分する, 合成関数の微分, 逆関数の微分, 対数微分法, 2次導関数	熊原啓作(放送大学教授) 押川元重(放送大学客員教授)	熊原啓作(放送大学教授) 押川元重(放送大学客員教授)
9	第2部序 微積分後半の概要 (※改訂回)	この回は第２部（９章～１３章）の概要をつかみ、そこに現れる用語や記号に慣れることを目標とする。 【キーワード】 高次導関数, 積分, 微分方程式	熊原啓作(放送大学教授) 押川元重(放送大学客員教授)	熊原啓作(放送大学教授) 押川元重(放送大学客員教授)
10	平均値の定理とテーラーの定理	高次導関数を用いての関数の多項式による近似とその応用を解説する。そこでは平均値の定理とテイラーの定理が重要である。応用として関数の増加・減少についても述べる。 【キーワード】 高位の無限小, 1次近似, 2次近似, n次導関数, 平均値の定理, テイラーの定理, 増加, 減少, 上に凸, 下に凸	熊原啓作(放送大学教授) 押川元重(放送大学客員教授)	熊原啓作(放送大学教授) 押川元重(放送大学客員教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	不定積分	微分の逆演算としての不定積分の計算法を解説する。速度と加速度について触れ，積分の応用としてボールの軌跡を求める。 【キーワード】 原始関数，不定積分，部分積分，置換積分，速度，加速度	熊原啓作（放送大学教授） 押川元重（放送大学客員教授）	熊原啓作（放送大学教授） 押川元重（放送大学客員教授）
12	1階微分方程式	多くの現象が微分方程式を用いて記述されるが、その第1歩として1階微分方程式を解説する。微分方程式とは何かから始め，変数分離形，同次形，1階線形微分方程式を取り上げる。 【キーワード】 微分方程式，解，変数分離形，一般解，特殊解，特異解，斉次形，1階線形	熊原啓作（放送大学教授） 押川元重（放送大学客員教授）	熊原啓作（放送大学教授） 押川元重（放送大学客員教授）
13	2階線形微分方程式	運動を記述する2階線形微分方程式の基本性質と解法を解説する。定数係数2階線形微分方程式の斉次形，非斉次形の解を述べ，共鳴現象について説明する。 【キーワード】 2階線形微分方程式，付随する斉次方程式，1次独立，基本解，ロンスキアン，爆発解と消滅解，単振動，振幅，共鳴	熊原啓作（放送大学教授） 押川元重（放送大学客員教授）	熊原啓作（放送大学教授） 押川元重（放送大学客員教授）
14	定積分	面積・体積を求めるときに使われる定積分の定義と意味，計算法を解説する。応用として面積を求める。 【キーワード】 定積分，面積，積分可能，微分積分学の基本定理，部分積分，置換積分	熊原啓作（放送大学教授） 押川元重（放送大学客員教授）	熊原啓作（放送大学教授） 押川元重（放送大学客員教授）
15	数列と級数 （※改訂回）	等差数列および等比数列の和の計算公式から始める。ついで、無限級数の和とは何かを理解し、正項無限級数を中心に、和をもつ（収束する）無限級数であるか和をもたない（発散する）無限級数であるかの判定を行う。 【キーワード】 数列，等差数列，等比数列，無限級数，無限級数の和，無限正項級数	熊原啓作（放送大学教授） 押川元重（放送大学客員教授）	熊原啓作（放送大学教授） 押川元重（放送大学客員教授）

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	共通科目（自然系）	科目ｺｰﾄﾞ	1132709	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　入門線型代数　　（’０９）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：隈部正博（放送大学准教授）　　〕

講義概要

線型代数を初めて学ぶ人向けの講義である。予備知識は特に仮定しない。平面や空間といった素朴な概念から初め、数ベクトル空間を定義する。その後行列の概念を導入する。このとき、連立方程式の解法といった親しみやすい事柄の復習を通して、行列の演算を解説する。そして行列式、逆行列の求め方を学ぶ。また空間から空間への線型写像、部分空間の種々の性質をみる。これらを通して、行列の階数、あるいは空間の基底、次元がどういうものか解説する。さらに固有値、固有ベクトルを定義し、基底の変換を解説する。いわゆる数ベクトル空間について講義し、抽象的、公理的な議論はなるべく避けるようにする。

授業の目標

平面や空間といった素朴な概念を、数ベクトル空間としてとらえることから始める。また連立方程式の解法を、行列を使って解く方法を学ぶ。また、行列式、逆行列の求め方を理解する。また、線型写像、線型空間とはどういうものか解説する。さらに、ベクトルの線型独立、そして空間を構成する基底を学び、さらに空間の大きさを測る次元とはどういうものか学ぶ。次に基底の変換を解説し、これにより、座標の表示がどのように変わるかを理解する。合わせて固有値、固有ベクトルを解説し、基底の変換に応用する。

履修上の留意点

この授業は初めて線型代数を学ぶ人向けの授業である。従って予備知識は特に要求しない。できれば数学にいくらかの親しみをもっていればありがたい。より入門的な数学の講義をとっていればなおさらいい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	数ベクトル空間	我々が日常目にする平面や空間と行った概念を、数ベクトル空間としてとらえる。 【キーワード】 平面、空間、数ベクトル、数ベクトル空間	隈部正博	隈部正博
2	行列	行列がどういうものか定義し、行列の和や積演算について解説する。 【キーワード】 行列、行列の型、行列の和、積	隈部正博	隈部正博
3	連立一次方程式の解法	連立一次方程式の消去法による解法を復習し、その後、これを行列を使って掃き出し法によって解くことを学ぶ。 【キーワード】 連立一次方程式、掃き出し法、行基本変形	隈部正博	隈部正博

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	階数	連立一次方程式の行列による解法を整理し、行基本変形、列基本変形、そして階段行列を定義する。さらに行列の階数を定義する。さらに逆行列の求め方を学ぶ。 【キーワード】 行列の基本変形、行列の階数、正則行列、逆行列	隈部正博	隈部正博
5	置換	行列式を定義するにあたって、必要な準備として、置換について解説する。 【キーワード】 置換、互換、巡回置換、偶置換、奇置換、置換の符号	隈部正博	隈部正博
6	行列式	二次や三次の正方行列の行列式の求め方からはじめ、一般の場合について定義する。 【キーワード】 行列式	隈部正博	隈部正博
7	行列式の性質	前章で定義した行列式のもつ種々の性質について学び、また行列式を特色づけを行う。また行列式の求め方を実際に練習する。 【キーワード】 行列式の展開	隈部正博	隈部正博
8	行列式の展開	行列式を列や行で展開する方法を学び、幾つかの性質を理解する。これを使って、行列の逆行列の求め方を学び、さらに連立方程式の解法についても再考する。 【キーワード】 逆行列、余因子行列、クラメルの公式	隈部正博	隈部正博
9	独立と従属	幾つかのベクトルをを使って他のベクトルを書き表す、線型結合について学ぶ。また線型独立や線型従属の意味することを理解する。 【キーワード】 線型結合、線型独立、線型従属	隈部正博	隈部正博
10	部分空間	数ベクトル空間の部分集合で、部分空間とよばれるものの定義をする。 【キーワード】 部分空間、生成する空間、基底、部分空間の和、共通部分	隈部正博	隈部正博

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	線型写像	数ベクトル空間から数ベクトル空間への線型写像を定義し、行列がどのように関わっているか学ぶ。また線型写像の像や核について学ぶ。 【キーワード】 線型写像、行列表現、像、核	隈部正博	隈部正博
12	次元	行列の階数と基本変形との関連について、より一般的に解説する。次に空間の大きさを測る次元を定義する。さらに次元と階数との関係について述べる。 【キーワード】 階数、基底、次元、次元公式	隈部正博	隈部正博
13	基底の変換	線型空間の基底が与えられた時、基底を変えることによって、与えられたベクトルの成分表示がどのように変わるかを見る。また線型写像を表す行列がどのように変わるかもみる。 【キーワード】 基底の変換、座標変換、線型写像の行列表示	隈部正博	隈部正博
14	固有値と固有ベクトル	固有値や固有ベクトルを定義し、その意味について解説する。 【キーワード】 固有値、固有ベクトル、固有方程式、不変部分空間、ケーリーハミルトンの定理	隈部正博	隈部正博
15	行列の対角化	固有値と固有ベクトルの求め方について幾つか練習する。またこれを使って、基底の変換を行い、線型変換の行列表示がどのように変わるかをみる。最後に授業のまとめをする。 【キーワード】 基底の変換、行列の対角化	隈部正博	隈部正博

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	共通科目（自然系）	科目コード	1131001	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 解析入門 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：熊原啓作（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：河添　健（慶應義塾大学教授）〕

講義概要

偏微分と重積分は応用上重要であるにもかかわらず，1変数関数の微積分を仮定して講義されるため，取り付きにくいものになっている。この講義では常に1変数との対比をしながら出来るだけ平易に解説する。主として2変数関数を扱い，図などにより視覚化して偏微分と重積分の理解を深めるようにする。また平面を複素数平面と見ることにより複素関数を考えることは自然である。複素数や複素関数の簡単な性質についても解説する。全体にわたって出来るだけ実例，応用例，計算例を取り上げる。講義で扱う内容は理工系の自然科学ばかりではなく経済学・経営学などの社会科学でも重要な道具であることを明らかにする。

授業の目標

複数の要因から決まる関数関係－多変数関数－を理解すること，グラフや立体図形を理解し、空間概念を把握する能力を身につけること，偏微分と重積分の意味を知り簡単な計算が出来ること，複素数と複素変数関数の基礎的な性質を知ることを目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	なぜ多変数関数なのか	複数の要因に依存する事象を探し、それらを数式－多変数関数－によって表示する。とくに空間座標を用いることにより、2変数関数を可視化する。いくつかの代表的な数式と可視化した曲面を解説する。多変数関数の連続性についても考える。 【キーワード】 多変数関数，座標，定義域，グラフ，等高線，連続，不連続	熊原啓作(放送大学教授)・河添　健(慶応義塾大学教授)	熊原啓作(放送大学教授)・河添　健(慶応義塾大学教授)
2	多変数関数の微分とは	1変数の微分係数を復習し、その多変数化を述べる。とくに2変数関数の微分可能性の意味を探り，1変数関数の微分との相違点を浮き彫りにする。2変数関数を可視化した曲面と接平面の関係を分かり易く解説する。それにより微分とその幾何学的意味を理解する。 【キーワード】 偏微分係数，偏導関数，全微分可能，接平面，方向微分，勾配ベクトル	熊原啓作放送大学教授)・河添　健(慶応義塾大学教授)	熊原啓作(放送大学教授)・河添　健(慶応義塾大学教授)
3	偏微分の計算	偏微分の計算に習熟することを目指す。とくに2次偏導関数とその計算方法を説明し，良い関数であれば連鎖法則が成り立つことを示す。また良い関数に対しては高次の偏微分係数は偏微分する順序によらないことを注意する。 【キーワード】 2次編導関数，高次偏導関数，微分の順序，連鎖法則，陰関数	熊原啓作(放送大学教授)・河添　健(慶応義塾大学教授)	熊原啓作(放送大学教授)・河添　健(慶応義塾大学教授)
4	テイラー展開してみよう	2変数関数の1次近似、2次近似を説明する。1次近似は関数の線形化であり、グラフの接平面に他ならないこと理解する。さらに高次近似であるテイラーの定理を1変数のテイラーの定理を用いて導く。 【キーワード】 1次近似，接平面，2次近似，テイラーの定理，テイラー級数	熊原啓作(放送大学教授)・河添　健(慶応義塾大学教授)	熊原啓作(放送大学教授)・河添　健(慶応義塾大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	極大・極小を探そう	2変数関数を2次関数で近似することによって、その極大・極小の判定、極大値・極小値を求めることが出来る。このとき極値を持つかどうか，極大か極小かの判定に使われるのがヘッシアンとよばれる2次偏導関数からなる行列式である。 【キーワード】 極大・極小，極大値・極小値，ヘッシアン，鞍点，楕円放物面，双曲放物面	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)
6	制約条件があるときの極値を求める	経済・経営などの現実社会における極値問題は、特定の条件や制約の下において極値や最大値を求めるものである。いくつかの具体例とともに条件下で極値を探すのに有用なラグランジュの乗数法を解説する。 【キーワード】 近傍，開集合，閉集合，境界，連結，有界，条件付き極値，ラグランジュの乗数法	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)
7	2変数関数の積分をどう考えるか	1変数関数の積分を定義する区分求積法を復習し、その手法を長方形領域で定義された2変数関数に拡張する。次に一般領域で定義された2変数関数の重積分を定義する。さらにこれらの重積分は1変数の積分の繰り返しによって求められることを示す。 【キーワード】 長方形上の重積分，一般領域の重積分，繰り返し積分，積分の順序	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)
8	極座標に変えて積分しよう	重積分は1変数の積分の繰り返しによって求められるが、ある場合には直交座標を極座標に変換することによって計算が容易になることを示す。さらに一般の座標変換によって積分がどのように変化され計算されるのかをみる。 【キーワード】 平面極座標，単純角領域，扇面形，面積要素，変数変換，ヤコビアン	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)
9	面積と体積を求める	領域で1という関数を重積分することによって、その領域の面積が求まる。その計算は1変数の積分を繰り返すことによって求められることを示す。また同様の考え方が立体図形の体積を求める場合にも適用されることを示す。実際、2変数関数の重積分によって体積が求められることを示す。 【キーワード】 多重積分，体積を持つ図形，体積要素，空間極座標，円柱座標	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)
10	平面と複素数	複素数の四則演算を復習し、その基本的な性質を複素数平面での表示を用いて説明する。とくに次章につながる複素数の基本概念を準備する。 【キーワード】 複素数，実部，虚部，複素数平面，偏角，絶対値	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)
11	複素数を変数とする関数	複素数を変数とする関数を考えその導関数を定義する。実変数の関数と異なり、複素数変数の関数の微分可能性がコーシー・リーマンの方程式によって記述されることを述べる。 【キーワード】 複素変数関数，複素関数の微分，コーシー・リーマンの方程式，正則関数	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	級数と整級数	複素数列と級数の収束について基本的な性質を述べる。とくに各項が関数となった関数項級数の中で応用上もっとも重要な整級数について詳しく調べる。収束円、収束半径、一様収束、項別微分と項別積分など解析学の基礎に目を向ける。指数関数，対数関数，べき関数導入する。 【キーワード】 整級数、収束半径、ダランベールの定理、一様収束、指数関数、オイラーの公式、対数関数、べき関数	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)
13	曲線の上で積分する	平面上の曲線に対して、その線上での2変数関数の積分を定義する。閉領域が与えられたとき、2変数関数の周上の積分と領域での積分の関係を表すグリーンの定理解説する。 【キーワード】 曲線の長さ，線積分，曲線に沿った積分，グリーンの定理	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)
14	正則関数とコーシーの定理	正則関数は領域で微分可能な関数であるが、閉曲線上の積分によっても特徴付けられることを示す。コーシーの定理は解析学の中で最も美しい定理の一つである。 【キーワード】 単一閉曲線，コーシーの定理、コーシーの積分公式	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)
15	正則関数の不思議な性質	コーシーの定理から導かれる正則関数の性質を述べる。とくに正則関数の整級数展開や最大値の原理などを説明する。 【キーワード】 整級数展開定理、最大値の原理、一致の定理	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	共通科目（外国語）	科目ｺｰﾄﾞ	1310208	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 英語講読 （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：大橋理枝（放送大学准教授）〕

〔主任講師（現職名）：成田篤彦（了徳寺大学教授）〕

講義概要

Lafcadio Hearn の書いた作品の中から短いものを3編選び、それらを読みながら英語を学ぶ。毎回の授業を、本文の読解・訳・文法事項の説明及び背景説明・比較文化的解説の二部に分け、多角的な視点からのアプローチで英語を学習するよう工夫する。

授業の目標

文学作品をきちんと精読していくという作業を通して、書き言葉としての英語とじっくり向き合うことを目標とする。また、外国人であるLafcadio Hearn が見た日本の姿を学ぶことを通して、異文化に対する眼差しの一つの在り方に触れると共に、日本文化を客観的に捉え直す機会とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	Ubazakura 1.	『怪談』に収録されている「乳母桜」の前半を読みながら、本文中に出て来る文法項目を学習すると共に、著者の略歴などを紹介する。	成田篤彦（了徳寺大学教授） 大橋理枝（放送大学准教授）	成田篤彦（了徳寺大学教授） 大橋理枝（放送大学准教授）
2	Ubazakura 2.	「乳母桜」の後半を読みながら、本文中に出て来る文法項目を学習すると共に、「乳母」に関する日英の捉え方の比較などを解説する。	同上	同上
3	The Story of Aoyagi 1.	『怪談』に収録されている『青柳の物語』を読みながら、本文中に出て来る文法項目の学習を続けると共に、英文学に出てくる「柳」の表象などを解説する。	同上	同上
4	The Story of Aoyagi 2.	『青柳の物語』を読み進めながら、本文中に出て来る文法項目の学習を続けると共に、「嵐」の表象の日英比較などを解説する。	同上	同上
5	The Story of Aoyagi 3.	引き続き『青柳の物語』を読みながら、本文中に出て来る文法項目の学習を続けると共に、「貧しいが美しい娘」というテーマの古今東西の共通性を論じる。	同上	同上
6	The Story of Aoyagi 4.	『青柳の物語』を更に読み進め読みながら、本文中に出て来る文法項目の学習を続けると共に、「恋愛詩」の形を英詩と和歌の比較を通じて論じる。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
7	The Story of Aoyagi 5.	引き続き『青柳の物語』を読み進めながら、本文中に出て来る文法項目の学習を続けると共に、ハーンの周りの女性達について紹介する。	成田篤彦（了徳寺大学教授） 大橋理枝（放送大学准教授）	成田篤彦（了徳寺大学教授） 大橋理枝（放送大学准教授）
8	The Story of Aoyagi 6.	引き続き『青柳の物語』を読み進めながら、本文中に出て来る文法項目の学習を続けると共に、「嫁入道具」(dowry)に関する日英の文化比較の解説を行う。	同上	同上
9	The Story of Aoyagi 7.	引き続き『青柳の物語』を読み進めながら、本文中に出て来る文法項目の復習を続けると共に、日英の領主と臣下の関係を比較する。	同上	同上
10	The Story of Aoyagi 8.	引き続き『青柳の物語』を読み進めながら、本文中に出て来る文法項目の復習を続けると共に、結婚式について日英の違いを紹介する。	同上	同上
11	The Story of Aoyagi 9.	引き続き『青柳の物語』を読み進めながら、本文中に出て来る文法項目の復習を続けると共に、自然と人とのつながり（植物の精、という発想）について考えてみる。	同上	同上
12	The Story of Aoyagi 10.	引き続き『青柳の物語』を読み進めながら、本文中に出て来る文法項目の復習を続けると共に、「弔い」ということに対する日英の共通点を考える。	同上	同上
13	Common Sense 1.	『骨董』に収録されている「常識」を読みながら、引き続き英語の文法事項を復習すると共に、ハーンが生活していた当時の日本の姿を紹介する。	同上	同上
14	Common Sense 2.	「常識」を読み進めながら、引き続き英語の文法事項を復習すると共に、150年前の日本を見る外国人の目と現代人の目に共通点があるのではないかという観点から論じる。	同上	同上
15	Common Sense 3.	「常識」の最後の部分をを読みながら、引き続き英語の文法事項を復習すると共に、全体を通したまとめを行う。	同上	同上

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	共通科目（外国語）	科目コード	1387014	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　実践英語ー映画とドラマで学ぶ　（’１０）＝　（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：大石和欣　（名古屋大学　准教授）　〕

【本学担当専任教員：大橋　理枝（放送大学准教授）　】

講義概要

この講義は、英語をマスターしたいという志向が社会的に強い現在、放送大学においてテレビというメディアを活用した遠隔教育を通して英語の講義を提供する価値は非常に高い。海外のテレビドラマや映像資料をふんだんに用い、視覚と体感から実践的な英語コミュニケーション能力の強化を意図しています。毎回、映画のワン・シーンをスキットにして、そこで使われた表現を中心に実践的な会話をできるよう解説と練習問題、さらにはシュチュエーション・プレイなども番組の中に取り入れています。ヒアリングを中心とした情報収集・分析能力も養えるように、ニュースなどの報道も用いたり、英語を使う現場で活躍するひとたちをインタヴューします。

授業の目標

発音やコミュニケーションのマナーといった基本的な問題を考えると同時に、これまで学んできた英語を実際にどのように運用していくのか、その応用能力を映画のシーンや練習問題を通じて養っていただきたいと思っています。また、英語の裏にある歴史的、文化的背景についても学ぶことで、グローバル化が進む現代社会における異文化理解を促進し、多文化共生の可能性についても考えていただきたいと思っています。放送大学生としてふさわしい教養のある外国語学習を通して、自己啓発と自己表現を行っていただくのがこの講義の最終目標です。

履修上の留意点

『基礎からの英文法(09)』や『英語の基本(08)』を履修していること、あるいはそれらのレヴェル以上の英語力のあることが望ましいです。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	*Casablanca* (1942) 男を口説く	スキット(映画) 解説 Check Points / English for Action / 今日のキメ台詞 Exercises News, Views, and Qs A Mission Possible / ミニ講義 【キーワード】 英会話、英語文法、英語コミュニケーション、ドラマ、ニュース、映画	大石和欣（名古屋大学准教授・放送大学客員准教授）/ Stuart Vernam-Atkin（作家・俳優・翻訳家）	大石和欣（名古屋大学准教授・放送大学客員准教授）/ Stuart Vernam-Atkin（作家・俳優・翻訳家）
2	*Gone with the Wind* (1939) 自分を伝える	スキット(映画) 解説 Check Points / English for Action / 今日のキメ台詞 Exercises News, Views, and Qs A Mission Possible / ミニ講義 【キーワード】 英会話、英語文法、英語コミュニケーション、ドラマ、ニュース、映画	同上	同上
3	*Rebecca* (1940) 過去を知る	スキット(映画) 解説 Check Points / English for Action / 今日のキメ台詞 Exercises News, Views, and Qs A Mission Possible / ミニ講義 【キーワード】 英会話、英語文法、英語コミュニケーション、ドラマ、ニュース、映画	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	*She Wore a Yellow Ribbon* (1949) 任務遂行失敗	スキット(映画) 解説 Check Points / English for Action / 今日のキメ台詞 Exercises News, Views, and Qs A Mission Possible / ミニ講義 【キーワード】 英会話、英語文法、英語コミュニケーション、ドラマ、ニュース、映画	大石和欣(名古屋大学准教授・放送大学客員准教授)/ Stuart Vernam-Atkin(作家・俳優・翻訳家)	大石和欣(名古屋大学准教授・放送大学客員准教授)/ Stuart Vernam-Atkin(作家・俳優・翻訳家)
5	*Roman Holiday* (1953) 休暇を楽しもう	スキット(映画) 解説 Check Points / English for Action / 今日のキメ台詞 Exercises News, Views, and Qs A Mission Possible / ミニ講義 【キーワード】 英会話、英語文法、英語コミュニケーション、ドラマ、ニュース、映画	同上	同上
6	*For Whom the Bell Tolls* (1943) 覚悟の言葉	スキット(映画) 解説 Check Points / English for Action / 今日のキメ台詞 Exercises News, Views, and Qs A Mission Possible / ミニ講義 【キーワード】 英会話、英語文法、英語コミュニケーション、ドラマ、ニュース、映画	同上	同上
7	*Brief Encounter* (1945) 憧れという名の翼に乗って	スキット(映画) 解説 Check Points / English for Action / 今日のキメ台詞 Exercises News, Views, and Qs A Mission Possible / ミニ講義 【キーワード】 英会話、英語文法、英語コミュニケーション、ドラマ、ニュース、映画	井口篤(放送大学・准教授) / Stuart Vernam-Atkin(作家・俳優・翻訳家)	井口篤(放送大学・准教授) / Stuart Vernam-Atkin(作家・俳優・翻訳家)
8	*Frankenstein* (1931) 科学と倫理	スキット(映画) 解説 Check Points / English for Action / 今日のキメ台詞 Exercises News, Views, and Qs A Mission Possible / ミニ講義 【キーワード】 英会話、英語文法、英語コミュニケーション、ドラマ、ニュース、映画	大石和欣(名古屋大学准教授・放送大学客員准教授)/ Stuart Vernam-Atkin(作家・俳優・翻訳家)	大石和欣(名古屋大学准教授・放送大学客員准教授)/ Stuart Vernam-Atkin(作家・俳優・翻訳家)
9	*Gentlemen Prefer Blondes* (1953) 尋問と弁解	スキット(映画) 解説 Check Points / English for Action / 今日のキメ台詞 Exercises News, Views, and Qs A Mission Possible / ミニ講義 【キーワード】 英会話、英語文法、英語コミュニケーション、ドラマ、ニュース、映画	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	*Treasure Island* (1950) 窮地において交渉に臨む	スキット（映画） 解説 Check Points / English for Action / 今日のキメ台詞 Exercises News, Views, and Qs A Mission Possible / ミニ講義 【キーワード】 英会話、英語文法、英語コミュニケーション、ドラマ、ニュース、映画	同上	同上
11	*The Grapes of Wrath* (1940) 怒りと不安と家族への思い	スキット（映画） 解説 Check Points / English for Action / 今日のキメ台詞 Exercises News, Views, and Qs A Mission Possible / ミニ講義 【キーワード】 英会話、英語文法、英語コミュニケーション、ドラマ、ニュース、映画	大石和欣（名古屋大学准教授・放送大学客員准教授）/ Stuart Vernam-Atkin（作家・俳優・翻訳家）	大石和欣（名古屋大学准教授・放送大学客員准教授）/ Stuart Vernam-Atkin（作家・俳優・翻訳家）
12	*Grand Hotel* (1932) 死を出し抜く	スキット（映画） 解説 Check Points / English for Action / 今日のキメ台詞 Exercises News, Views, and Qs A Mission Possible / ミニ講義 【キーワード】 英会話、英語文法、英語コミュニケーション、ドラマ、ニュース、映画	井口篤（放送大学・准教授） / Stuart Vernam-Atkin（作家・俳優・翻訳家）	井口篤（放送大学・准教授） / Stuart Vernam-Atkin（作家・俳優・翻訳家）
13	*The Third Man* (1949) 正当化と牽制	スキット（映画） 解説 Check Points / English for Action / 今日のキメ台詞 Exercises News, Views, and Qs A Mission Possible / ミニ講義 【キーワード】 英会話、英語文法、英語コミュニケーション、ドラマ、ニュース、映画	大石和欣（名古屋大学准教授・放送大学客員准教授）/ Stuart Vernam-Atkin（作家・俳優・翻訳家）	大石和欣（名古屋大学准教授・放送大学客員准教授）/ Stuart Vernam-Atkin（作家・俳優・翻訳家）
14	*Hamlet* (1948) 苦悩を胸に	スキット（映画） 解説 Check Points / English for Action / 今日のキメ台詞 Exercises News, Views, and Qs A Mission Possible / ミニ講義 【キーワード】 英会話、英語文法、英語コミュニケーション、ドラマ、ニュース、映画	同上	同上
15	*Pride and Prejudice* (1940) 誤解を解く	スキット（映画） 解説 Check Points / English for Action / 今日のキメ台詞 Exercises News, Views, and Qs A Mission Possible / ミニ講義 【キーワード】 英会話、英語文法、英語コミュニケーション、ドラマ、ニュース、映画	同上	同上

事務局記載欄	開講年度	2011年度	科目区分	共通科目（外国語）	科目コード	1314718	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）　＝　英語圏の言語と文化　（'11）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：井口　篤（放送大学准教授）〕

〔主任講師（現職名）：大橋　理枝（放送大学准教授）〕

講義概要

英語と一口に言っても、話されている地域は多種多様にわたります。イギリス、アイルランド、アメリカ、カナダをはじめとして、インド、南アフリカ、オーストラリアなどの国で英語は公用語として話されています。さらに、英語は世界各国に散らばる非母語話者によって政治・経済・文化の様々なレベルで使用されています。このような英語文化の「多重奏」を深く理解するために、世界各国で書かれた文学テクストやインタビューによるこれらの作品の解説などを通して触れていきましょう。各回の講義においては、まずいろいろな地域出身の作家によって書かれた英文を読み、続けてポストコロニアル文学の専門家である東京大学准教授のバーナード・ウィルソン先生にお話をうかがいます。

授業の目標

本講義の目標は、英語文学とは「アメリカ文学」や「イギリス文学」だけではなく、世界中の母語話者と非母語話者が日々それぞれの伝統と葛藤・対話しつつ産み出し、変容させているダイナミックで複雑な現象であるという認識を深めることです。

履修上の留意点

英語科目の中ではもっとも発展的な内容を扱うので、「基礎からの英文法（'09）」、「英語の基本（'08）」、「英語購読（'08）」、そして「実践英語（'10）」を履修済みであることが望ましいです。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	大西洋の両岸で：ゼイディー・スミスと多文化主義（1）	テクスト：Zadie Smith, *On Beauty* (2005) 作家紹介・引用文の精読 【キーワード】 イギリス、多文化主義、Zadie Smith	井口篤（放送大学准教授）、大橋理枝（放送大学准教授）、バーナード・ウィルソン（東京大学准教授）	井口篤（放送大学准教授）、大橋理枝（放送大学准教授）、バーナード・ウィルソン（東京大学准教授）
2	大西洋の両岸で：ゼイディー・スミスと多文化主義（2）	テクスト：Zadie Smith, *On Beauty* (2005) 引用文の精読 バーナード・ウィルソン教授にインタビュー 【キーワード】 アメリカ、アファーマティヴ・アクション、Zadie Smith	井口篤（放送大学准教授）、大橋理枝（放送大学准教授）、バーナード・ウィルソン（東京大学准教授）	井口篤（放送大学准教授）、大橋理枝（放送大学准教授）、バーナード・ウィルソン（東京大学准教授）
3	大西洋の両岸で：ゼイディー・スミスと多文化主義（3）	テクスト：Zadie Smith, *On Beauty* (2005) 引用文の精読 バーナード・ウィルソン教授にインタビュー 【キーワード】 アメリカ、アファーマティブ・アクション、Zadie Smith	井口篤（放送大学准教授）、大橋理枝（放送大学准教授）、バーナード・ウィルソン（東京大学准教授）	井口篤（放送大学准教授）、大橋理枝（放送大学准教授）、バーナード・ウィルソン（東京大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	大西洋の両岸で: ゼイディー・スミスと多文化主義 (4)	テクスト: Zadie Smith, *On Beauty* (2005) 引用文の精読 バーナード・ウィルソン教授にインタビュー 【キーワード】 アメリカ、移民、Zadie Smith	井口篤 (放送大学准教授)、 大橋理枝 (放送大学准教授)、バーナード・ウィルソン (東京大学准教授)	井口篤 (放送大学准教授)、 大橋理枝 (放送大学准教授)、バーナード・ウィルソン (東京大学准教授)
5	狂っているのは誰?: 嵐の中の文学 (1)	テクスト: Ha Jin, *The Crazed* (2004) 作家紹介・引用文の精読 【キーワード】 中国、革命、文学、Ha Jin	井口篤 (放送大学准教授)、 大橋理枝 (放送大学准教授)、バーナード・ウィルソン (東京大学准教授)	井口篤 (放送大学准教授)、 大橋理枝 (放送大学准教授)、バーナード・ウィルソン (東京大学准教授)
6	狂っているのは誰?: 嵐の中の文学 (2)	テクスト: Ha Jin, *The Crazed* (2004) 引用文の精読 バーナード・ウィルソン教授にインタビュー 【キーワード】 中国、社会変革と文学、Ha Jin	井口篤 (放送大学准教授)、 大橋理枝 (放送大学准教授)、バーナード・ウィルソン (東京大学准教授)	井口篤 (放送大学准教授)、 大橋理枝 (放送大学准教授)、バーナード・ウィルソン (東京大学准教授)
7	狂っているのは誰?: 嵐の中の文学 (3)	テクスト: Ha Jin, *The Crazed* (2004) 引用文の精読 バーナード・ウィルソン教授にインタビュー 【キーワード】 中国と西洋文学、Ha Jin	井口篤 (放送大学准教授)、 大橋理枝 (放送大学准教授)、バーナード・ウィルソン (東京大学准教授)	井口篤 (放送大学准教授)、 大橋理枝 (放送大学准教授)、バーナード・ウィルソン (東京大学准教授)
8	隷従のトラウマ: トニ・モリスンと奴隷制度	テクスト: Toni Morrison, *Beloved* (1987) 作家紹介・引用文の精読 バーナード・ウィルソン教授にインタビュー 【キーワード】 アメリカ、奴隷制度、暴力、Toni Morrison	井口篤 (放送大学准教授)、 大橋理枝 (放送大学准教授)、バーナード・ウィルソン (東京大学准教授)	井口篤 (放送大学准教授)、 大橋理枝 (放送大学准教授)、バーナード・ウィルソン (東京大学准教授)
9	西洋との出会い: ベナレスでフローベールを読む	テクスト: Pankaj Mishra, *The Romantics* (2000) 作家紹介・引用文の精読 バーナード・ウィルソン教授にインタビュー 【キーワード】 インド、コロニアリズム、西洋文学、Pankaj Mishra	井口篤 (放送大学准教授)、 大橋理枝 (放送大学准教授)、バーナード・ウィルソン (東京大学准教授)	井口篤 (放送大学准教授)、 大橋理枝 (放送大学准教授)、バーナード・ウィルソン (東京大学准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	魅惑の故郷: カリブ海でインドを想像する	テクスト: V. S. Naipaul, Literary Occasions (2004) 作家紹介・引用文の精読 バーナード・ウィルソン教授にインタビュー 【キーワード】 カリブ海、トリニダード・トバゴ、インド、帰郷、V. S. Naipaul	井口篤(放送大学准教授)、大橋理枝(放送大学准教授)、バーナード・ウィルソン(東京大学准教授)	井口篤(放送大学准教授)、大橋理枝(放送大学准教授)、バーナード・ウィルソン(東京大学准教授)
11	周縁からの欲望: クッツェーの南アフリカ(1)	テクスト: J. M. Coetzee, *Youth* (2002) 作家紹介・引用文の精読 【キーワード】 南アフリカ、ポストコロニアル、J. M. Coetzee	井口篤(放送大学准教授)、大橋理枝(放送大学准教授)、バーナード・ウィルソン(東京大学准教授)	井口篤(放送大学准教授)、大橋理枝(放送大学准教授)、バーナード・ウィルソン(東京大学准教授)
12	周縁からの欲望: クッツェーの南アフリカ(2)	テクスト: J. M. Coetzee, *Youth* (2002) 引用文の精読 バーナード・ウィルソン教授にインタビュー 【キーワード】 南アフリカ、ポストコロニアル、J. M. Coetzee	井口篤(放送大学准教授)、大橋理枝(放送大学准教授)、バーナード・ウィルソン(東京大学准教授)	井口篤(放送大学准教授)、大橋理枝(放送大学准教授)、バーナード・ウィルソン(東京大学准教授)
13	周縁からの欲望: クッツェーの南アフリカ(3)	テクスト: J. M. Coetzee, *Youth* (2002) 引用文の精読 バーナード・ウィルソン教授にインタビュー 【キーワード】 南アフリカ、ポストコロニアル、J. M. Coetzee	井口篤(放送大学准教授)、大橋理枝(放送大学准教授)、バーナード・ウィルソン(東京大学准教授)	井口篤(放送大学准教授)、大橋理枝(放送大学准教授)、バーナード・ウィルソン(東京大学准教授)
14	英語で戦乱を語るということ: 戦火のアフガニスタン	テクスト: Khaled Hosseini, *The Kite Runner* (2003) 作家紹介・引用文の精読 バーナード・ウィルソン教授にインタビュー 【キーワード】 アフガニスタン内戦、記憶、語り、Khaled Hosseini	井口篤(放送大学准教授)、大橋理枝(放送大学准教授)、バーナード・ウィルソン(東京大学准教授)	井口篤(放送大学准教授)、大橋理枝(放送大学准教授)、バーナード・ウィルソン(東京大学准教授)
15	私の知らないハルキ: 英訳される日本文学	テクスト: Haruki Murakami, *Norwegian Wood,* trans. by Jay Rubin (2003) /村上春樹、『ノルウェイの森』(1989) 作家紹介・引用文の精読 バーナード・ウィルソン教授にインタビュー 【キーワード】 日本文学、翻訳、文化の受容と変遷、村上春樹	井口篤(放送大学准教授)、大橋理枝(放送大学准教授)、バーナード・ウィルソン(東京大学准教授)	井口篤(放送大学准教授)、大橋理枝(放送大学准教授)、バーナード・ウィルソン(東京大学准教授)

事務局記載欄	開講年度	２０１１年度	科目区分	共通科目（外国語）	科目コード	1323946	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ ドイツ語入門 Ⅰ （’１１）＝ （ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：清野 智昭 （千葉大学准教授） 〕

【本学担当専任教員：宮本 徹（放送大学准教授） 】

講義概要

ドイツ語の発音，つづりの読み方から始め，毎回，動詞の人称変化，名詞の格変化などの基本的な文法事項を勉強していきます。最終的には，助動詞を使って意思や必要性などの表現まで学習します。日本人女子学生がドイツに留学するという設定のストーリーを中心に楽しくドイツ語を身につけていきます。

授業の目標

ドイツ語の基本的な文の構造を理解し，日常生活の簡単な表現ができるようになることが目標です。

履修上の留意点

全くの初学者を対象にしていますので，特にドイツ語の知識は必要ありません。ただし，新しい語学を身につけるには，日々の学習が欠かせません。授業以外に毎日20分でいいので，ドイツ語の学習に時間を割いてください。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	挨拶とアルファベート	ドイツ語の簡単な挨拶を覚えた後，アルファベートといくつかのつづりの読み方を勉強します。ドイツ語はつづりと発音の関係が規則的ですから，決まりごとさえ覚えれば，ほぼすべての単語を読むことが出来るようになります。 【キーワード】挨拶，発音，つづり，アルファベート	清野智昭（千葉大学・准教授）	清野智昭（千葉大学・准教授）
2	つづりの読み方と数字	ドイツ語のつづりの読み方を完全に覚え，日本人にとって難しい発音を集中的に練習します。また，数字を覚え，時刻を言えるようにします。 【キーワード】つづり，発音，数字	清野智昭（千葉大学・准教授）	清野智昭（千葉大学・准教授）
3	動詞の現在人称変化	ドイツ語の動詞は主語に応じて語尾が変化します。これを人称変化といいます。主語の代名詞とともに語尾を覚えましょう。 【キーワード】 現在人称変化，主語，動詞の語尾	清野智昭（千葉大学・准教授）	清野智昭（千葉大学・准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	seinとhaben	英語のbe動詞にあたるseinとhave動詞にあたるhabenはとても重要ですが，特殊な変化をします。この2つを覚えて表現の幅を一気に広げましょう。 【キーワード】 sein，haben,職業・国籍，所有	清野智昭（千葉大学・准教授）	清野智昭（千葉大学・准教授）
5	名詞の性と格（1格と4格）	ドイツ語の名詞には男性，中性，女性という3つの性があり，それによって，定冠詞などの形が異なります。また，名詞は文中の役割に応じて4つの「格」を持ちます。今回は，その中で，主語を表す1格と直接目的語を表す4格を勉強します。 【キーワード】 名詞の性と格，主語，直接目的語	清野智昭（千葉大学・准教授）	清野智昭（千葉大学・准教授）
6	不規則動詞と名詞の複数形	主語が2人称単数（du）と3人称単数のときに母音が変化する不規則動詞を勉強します。また，名詞の複数形の作り方のパターンに触れます。 【キーワード】 不規則動詞，名詞の複数形	清野智昭（千葉大学・准教授）	清野智昭（千葉大学・准教授）
7	名詞の格（3格と2格）	名詞の格のうち，主に間接目的語を表す3格と所有関係を表す2格を扱います。ここで，1格から4格のすべての格が登場します。 【キーワード】 名詞の格，3格，2格	清野智昭（千葉大学・准教授）	清野智昭（千葉大学・准教授）
8	前置詞（1）	名詞の前に置かれて様々な意味関係を表す前置詞を扱います。前置詞の後には決まった格が来ます。これを「前置詞の格支配」と呼びます。この課では，3格支配の前置詞と4格支配の前置詞を中心に勉強します。 【キーワード】 前置詞の格支配，3格支配の前置詞，4格支配の前置詞	清野智昭（千葉大学・准教授）	清野智昭（千葉大学・准教授）
9	前置詞（2）	空間の基本的な位置関係を表す9つの前置詞は，表現されるものが静止している場所を表すときに3格と，移動する到着点を表すときに4格と結びつきます。これらの3・4格支配の前置詞を勉強します。さらに，前置詞と定冠詞の融合形についても扱います。 【キーワード】 3・4格支配の前置詞，前置詞と定冠詞の融合形	清野智昭（千葉大学・准教授）	清野智昭（千葉大学・准教授）
10	副文と命令形	従属接続詞から始まる副文では動詞が文末に置かれます。これまで勉強した主文とは動詞の位置が違うので，これをしっかり勉強しましょう。また，相手に命令したり依頼したりするときに用いる命令形を勉強して，コミュニケーションの幅を一層広げましょう。 【キーワード】 副文，従属接続詞，命令形	清野智昭（千葉大学・准教授）	清野智昭（千葉大学・准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	人称代名詞と再帰動詞	人称代名詞も格に応じて形を変えます。この課では，1格以外の2～4格の形を覚えます。それと並んで，主語と同じものを指す再帰代名詞について学び，それが使われる再帰動詞を使えるようにします。 【キーワード】 人称代名詞，格，再帰代名詞，再帰動詞	清野智昭(千葉大学・准教授)	清野智昭(千葉大学・准教授)
12	冠詞類	冠詞と同じように名詞の前に置かれ，性・数・格に応じて変化する冠詞類について学びます。冠詞類には，定冠詞に似た変化をする定冠詞類と，不定冠詞に似た変化をする不定冠詞類があります。不定冠詞類にはmein「私の」など所有冠詞と否定冠詞のkeinがあります。 【キーワード】 定冠詞類，不定冠詞類，所有冠詞，否定冠詞	清野智昭(千葉大学・准教授)	清野智昭(千葉大学・准教授)
13	分離動詞	動詞と副詞的な成分が一つの意味を作り出す動詞は，主文であたかも二つの部分に分かれているように見えるので「分離動詞」と呼ばれます。文末には動詞と密接に結びつく成分が置かれ，「枠構造」を作るという仕組みを理解して，分離動詞を使いこなしましょう。 【キーワード】 zu不定詞，分離動詞，語順，枠構造	清野智昭(千葉大学・准教授)	清野智昭(千葉大学・准教授)
14	話法の助動詞(1)	不定形の動詞に結びついて，可能，意思，必然などの意味を付け加える動詞を「話法の助動詞」と言います。これらはやや不規則な変化をします。ここでは語順と基本的な用法を覚えて，様々なニュアンスを表現してみましょう。 【キーワード】 話法の助動詞，語順	清野智昭(千葉大学・准教授)	清野智昭(千葉大学・准教授)
15	話法の助動詞(2)	話法の助動詞の用法のうち，「主観的用法」と呼ばれるものを勉強します。これは主に可能性や推量を表します。また，werdenを使ったいわゆる「未来形」について勉強します。 【キーワード】 主観的用法，未来形	清野智昭(千葉大学・准教授)	清野智昭(千葉大学・准教授)

事務局記載欄	開講年度	２０１１年度	科目区分	共通科目（外国語）	科目コード	1324020	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ ドイツ語入門 Ⅱ （’１１）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：清野 智昭 （千葉大学准教授） 〕

【本学担当専任教員：宮本 徹（放送大学准教授） 】

講義概要

ドイツ語入門Ⅰに引き続き，過去形・現在完了形から接続法まで，初級文法の主立った項目をすべて扱います。また，文法の学習と並行して，読解力と表現力を養う練習を多くこなすことで，総合的なドイツ語の運用力を高めます。

授業の目標

日常的な表現を使いこなし，学術的な内容でも辞書を使って理解できることを目標にします。今後の学習の基礎となる運用力が身に付くようにします。

履修上の留意点

ドイツ語入門Ⅰを履修済み，もしくは，それと同等のドイツ語の知識があることを前提にします。定期的な学習の時間を確保するように心がけてください。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	語順のしくみ	ドイツ語の文を作るときは，不定句をもとに考えましょう。平叙文では定動詞は2番目の位置に置かれるので，その結果，動詞と一番結びつきの強い成分が文末に置かれます。このしくみを理解して，自然な語順を身につけることを目指します。 【キーワード】 語順，不定句，密接な成分	清野智昭（千葉大学・准教授）	清野智昭（千葉大学・准教授）
2	zu不定句と非分離動詞	動詞句に名詞の機能を持たせるのがzu不定句です。「…すること」に相当する表現を覚えましょう。また，アクセントのない前つづりを持つ非分離動詞についても触れます。 【キーワード】 zu不定句，非分離動詞	清野智昭（千葉大学・准教授）	清野智昭（千葉大学・准教授）
3	過去形	過去のことを表す場合，ドイツ語では過去形と現在完了形のどちらも同様に使われます。過去形は主に書き言葉で，現在完了形は主に話し言葉で使われますが，sein，haben，話法の助動詞の過去形は話し言葉でもよく使われます。これらを中心に勉強します。 【キーワード】 過去形，三基本形，規則動詞，不規則動詞	清野智昭（千葉大学・准教授）	清野智昭（千葉大学・准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	現在完了形(1)	現在完了形は，「過去分詞＋habenまたはsein」の完了不定詞をもとに作ります。この課ではまず過去分詞の形を確かめ，habenを使った現在完了形の作り方を勉強します。 【キーワード】 現在完了形，過去分詞，haben支配	清野智昭（千葉大学・准教授）	清野智昭（千葉大学・准教授）
5	現在完了形(2)	自動詞の中で「移動」や「状態変化」を表すものは，完了形の助動詞としてseinを取ります。これらいわゆる「sein支配」の動詞の現在完了形を勉強します。また，過去完了形にも簡単に触れます。 【キーワード】 現在完了形，過去分詞，sein支配，過去完了形	清野智昭（千葉大学・准教授）	清野智昭（千葉大学・准教授）
6	受動態	ものごとを動作の受け手を主語にして「...される」と表現する受動態は「過去分詞＋werden」で作ります。この受動態の作り方と使い方を勉強します。また，助動詞としてseinを使う「状態受動」についても簡単に触れます。 【キーワード】 受動態，動作受動，状態受動	清野智昭（千葉大学・准教授）	清野智昭（千葉大学・准教授）
7	非人称構文	特定のものを指さないesを主語とする構文を非人称構文と言います。天候や時刻だけでなく，さまざまな慣用的な表現を学んでいきます。 【キーワード】 非人称構文，天候，時刻，慣用表現	清野智昭（千葉大学・准教授）	清野智昭（千葉大学・准教授）
8	形容詞の格変化(1)	形容詞は名詞の前に置かれると格語尾が付きます。この語尾を覚えるのはなかなかやっかいなので，2回にわたってじっくり学習していきます。今回は，1格の形に絞って，強語尾と弱語尾のしくみを解説します。また，形容詞の名詞化についても触れます。 【キーワード】 形容詞，格変化，強語尾，弱語尾，形容詞の名詞化	清野智昭（千葉大学・准教授）	清野智昭（千葉大学・准教授）
9	形容詞の格変化(2)	形容詞の格変化の2回目です。まず，4格の形を見た後，2格と3格の形を学習します。これですべての形が使いこなせるようになります。 【キーワード】 形容詞，格変化，強語尾，弱語尾，形容詞の名詞化	清野智昭（千葉大学・准教授）	清野智昭（千葉大学・准教授）
10	比較級と最上級	2つのものを比べてどちらが「より...」ということを表す比較級と，3つ以上のものの中であるものが「一番...」ということを表す最上級の作り方と使い方を勉強します。色々な比較の仕方を覚えましょう。 【キーワード】 形容詞，比較級，最上級，格変化	清野智昭（千葉大学・准教授）	清野智昭（千葉大学・准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	関係代名詞	名詞に修飾文を付けるときには関係代名詞を使います。英語とは違い，ドイツ語の関係代名詞は定冠詞と似た形をしており，性・数・格に応じて変化します。その使い方をしっかり身につけましょう。 【キーワード】 関係代名詞，修飾文	清野智昭（千葉大学・准教授）	清野智昭（千葉大学・准教授）
12	接続法（1）	ある事柄を単に考えられたこと，言われたこととして表す動詞の形を接続法と言います。接続法には第1式と第2式があります。今回はおもに非現実のことを表す接続法第2式の作り方と使い方を勉強します。 【キーワード】 接続法，第2式，非現実話法	清野智昭（千葉大学・准教授）	清野智昭（千葉大学・准教授）
13	接続法（2）	接続法第2式を使って過去のことに対する非現実話法を学びます。その後，主に間接話法に使われる接続法第1式に触れます。 【キーワード】 接続法，第2式，非現実話法，過去，第1式，間接話法	清野智昭（千葉大学・准教授）	清野智昭（千葉大学・准教授）
14	話法詞と心態詞	文全体に対する話し手の判断や評価を表す「話法詞」と，話し手の気持ちを表し，文にある種のニュアンスを付け加える「心態詞」について学びます。これらの語を使うことによって，ドイツ語としてとても自然な表現ができるようになります。 【キーワード】 話法詞，心態詞，ニュアンス	清野智昭（千葉大学・准教授）	清野智昭（千葉大学・准教授）
15	総復習	これまで勉強したことの総復習として，簡単なテクストを読み，かつ，自分で文を作る練習をします。これで初級文法はばっちりです。 【キーワード】 総復習，読解，作文	清野智昭（千葉大学・准教授）	清野智昭（千葉大学・准教授）

＝　フランス語入門Ｉ（‘０６）＝（TV）

〔 主 任 講 師（現職名）：　鈴木　啓二　（東京大学教授）　〕
〔 主 任 講 師（現職名）：　原　和之　（東京大学准教授）　〕
〔 主 任 講 師（現職名）：　オディル・デュシュッド（早稲田大学教授）　〕

全体のねらい

毎回３分ほどのスケッチ、「セバスチアン、フィリップ、アリスとその仲間たち」（３人の子供たちが繰り広げる物語）を見ながら、そこで用いられている表現を中心にフランス語の基礎を学習する。文法はフランス語入門Ｉ、入門ＩＩ全体で一通り完結させる。

スケッチは各回３度、はじめに日本語字幕付き、次にフランス語字幕付き、最後に字幕のついていないものを流す。反復練習や文法の解説、イラストを使った会話表現の学習、練習問題などを通じて、45分の授業の中で、少しずつフランス語の理解を深めていけるように工夫してある。

また授業の途中に、「Ma ville, mon quartier」（わが町、わが界隈）というコーナーを設けてある。パリ、ディエップ、ストラスブールなどのフランス６都市を一住民の視点から紹介するこのコーナーの目的は、フランス語の学習を通じて、より広くフランス文化全般に親しんでもらうことにある。毎回、それぞれの町に関係の深いテクストの朗読も行なう。

なお文法に関しては、放送授業では要点を絞りこんで説明しているため、必ず印刷教材を参照し、放送授業で学習した内容をより確実なものにしておいていただきたい。また印刷教材にはスケッチの全訳も掲載されているので、これも適宜利用していただきたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	Colonie de vacances 林間学校	**文法**：様々なあいさつの表現（Bonjour, au revoir, merci, etc.）、alphabet、発音の基礎 **「わが町わが界隈」**：パリ、１回目 **今日の会話表現**："Pardon, je peux? "	鈴木啓二（東京大学教授） オディル・デュシュッド（早稲田大学教授）	鈴木啓二（東京大学教授） オディル・デュシュッド（早稲田大学教授）
2	Devinettes 言葉あてクイズ	**文法**：名詞の性、不定冠詞、定冠詞 **「わが町わが界隈」**：パリ、２回目 **今日の会話表現**："Attention!"	同上	同上
3	Balade à vélo 自転車での遠出	**文法**：動詞 être, avoir の活用、形容詞の性数変化 **「わが町わが界隈」**：パリ、３回目 **今日の会話表現**："Ça y est!"	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	Rodin ou Redon? ロダンかルドンか	**文法**：第一群規則動詞の活用(dessiner, donner, aimer など)、否定文の作り方 **「わが町わが界隈」**：ディエップ、1回目 **今日の会話表現**："On peut peut-être ...?"	同上	同上
5	Une recette très originale とてもユニークなレシピ	**文法**：部分冠詞、否定文中の不定冠詞・部分冠詞、第二群規則動詞の活用（finir, choisir など）、数字 **「わが町わが界隈」**：ディエップ、2回目 **今日の会話表現**："Ne t'en fais pas. ""Ne vous en faites pas."	同上	同上
6	Qui perd gagne! 負けるが勝ち	**文法**：動詞 aller, venir の活用，近接未来、近接過去 **「わが町わが界隈」**：ディエップ、3回目 **今日の会話表現**："Ça te dit?""Ça ne te dit pas?"etc.	同上	同上
7	Départ groupé みな一緒の出発	**文法**：動詞 pouvoir, vouloir, partir, sortir の活用、付加形容詞の用法 **「わが町わが界隈」**：ストラスブール、1回目 **今日の会話表現**："Alors? — Ça va!" etc.	同上	同上
8	Retrouvailles inattendues 思いがけない再会	**文法**：疑問文の作り方、疑問副詞（où, quand, pourquoi, comment など）の使い方 **「わが町わが界隈」**：ストラスブール、2回目 **今日の会話表現**："Allons-y." etc.	原　和之（東京大学准教授） オディル・デュシュッド（早稲田大学教授）	原　和之（東京大学准教授） オディル・デュシュッド（早稲田大学教授）
9	Nostalgie ノスタルジー	**文法**：さまざまな動詞（faire, savoir, connaître, mettre, attendre, prendre, devoir）の活用と用法 **「わが町わが界隈」**：ストラスブール、3回目 **今日の会話表現**："C'est délicieux. — Tu trouves?" etc.	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	Objet perdu 忘れ物	**文法**：指示形容詞（ce, cette, ces など）、所有形容詞（mon, ma, mes　など） **「わが町わが界隈」**：リヨン、第１回目 **今日の会話表現**："Ce n'est pas vrai!" etc.	同上	同上
11	Souvenir de vacances ヴァカンスの想い出	**文法**：疑問代名詞（qui, qui est-ce qui, qu'est-ce qui, qu'est-ce que など）の使い方 **「わが町わが界隈」**：リヨン、第２回目 **今日の会話表現**："Eh bien dites donc!" etc.	同上	同上
12	Quels enfants ! なんて子供たちでしょう	**文法**：疑問形容詞 quel 、非人称の主語 il の使い方、時間の表し方 **「わが町わが界隈」**：リヨン、第３回目 **今日の会話表現**："Quelle merveille! " etc.	同上	同上
13	Visite au jardin botanique 植物園見学	**文法**：関係代名詞　qui, que　関係副詞 où の使い方 **「わが町わが界隈」**：エクス・アン・プロヴァンス、マルセイユ、第１回目 **今日の会話表現**："Qu'est-ce que c'est fatigant!" etc.	同上	同上
14	Un match de football サッカーの試合	**文法**：形容詞・副詞の比較級・最上級 **「わが町わが界隈」**：エクス・アン・プロヴァンス、マルセイユ、第２回目 **今日の会話表現**："Ça va aller, tu vas voir – J'espère." etc.	同上	同上
15	Restons calmes ! 落ち着こう	**文法**：動詞の肯定命令形・否定命令形、代名詞の強勢形、強調構文 **「わが町わが界隈」**：エクス・アン・プロヴァンス、マルセイユ、第３回目 **今日の会話表現**："Ils ont une de ces chances!" etc.	同上	同上

＝　フランス語入門II（‘０６）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：　工藤　庸子（東京大学名誉教授）　〕
〔主任講師（現職名）：　原　　和之（東京大学准教授）　〕
〔主任講師（現職名）：　山上　浩嗣（大阪大学大学院准教授）〕

全体のねらい

パリのアパルトマンで共同生活を営む、さまざまな背景を持った４人の若者たち（アニェス、ブノワ、イザベラ、ジャン=リュック）を主人公にした会話のスケッチを題材として、フランス語入門Ｉに引き続き、フランス語の基礎を学ぶ。文法はフランス語入門Ｉ、IIの全体でその主要な部分を完結させる。さらに文法的な知識を踏まえつつ、スケッチの登場人物の会話を解説することで、実践的なフランス語運用能力の基礎となる知識を身につける。

また毎回、10 分ほどの「シャンソン」コーナーを設け、よく知られたフランス語の歌を取り上げて歌詞を詳しく解説し、その正確な理解を助けると共に、フランス語の「音」に親しむことを目指す。

スケッチ、例文については、印刷教材に全訳が掲載されているので、これを適宜利用していただきたい。また放送教材、印刷教材の学習にあたって、つねに辞書を手元においてこれを参照することは必要不可欠なので、必ず準備すること。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	Déménagement 引っ越し	**文法**：直説法複合過去 **シャンソン**：*Bonjour, madame Lundi*［『こんにちは、月曜婦人』］、*Bonjour, ma cousine*［『こんにちは、いとこさん』］	山上浩嗣（大阪大学大学院准教授）	山上浩嗣（大阪大学大学院准教授） 工藤庸子（東京大学名誉教授）
2	Recherche d'un emploi 職さがし	**文法**：直説法半過去・大過去 **シャンソン**：*Meunier, tu dors*［『お眠りなさい、粉ひきさん』］	同上	同上
3	Reportage ルポルタージュ	**文法**：受動態 **シャンソン**：Juliette Greco, *Je suis seule ce soir*(1)［ジュリエット・グレコ、『今宵私はただひとり』(1)］	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	Fête パーティ	**文法**：現在分詞、ジェロンディフ **シャンソン**：Juliette Greco, *Je suis seule ce soir* (2) [ジュリエット・グレコ、『今宵私はただひとり』(2)]	同上	同上
5	Clients ennuyeux 迷惑な客	**文法**：指示代名詞、疑問代名詞 **シャンソン**：Henri Salvador, *Chambre avec vue* (1) [アンリ・サルヴァドール、『眺めのよい部屋』(1)]	同上	同上
6	Rencontre 出会い	**文法**：人称代名詞 I (直接目的、間接目的) **シャンソン**：Henri Salvador, *Chambre avec vue* (2) [アンリ・サルヴァドール、『眺めのよい部屋』(2)]	同上	同上
7	Des amis japonais 日本の友人	**文法**：人称代名詞 II (強勢形、命令文中の代名詞) **シャンソン**：*Au clair de la lune* (1) [『月明かりのもとで』(1)]	同上	同上
8	Un dimanche matin 日曜日の朝	**文法**：代名動詞 **シャンソン**：*Au clair de la lune* (2) [『月明かりのもとで』(2)]	同上	同上
9	Dans le métro 地下鉄で	**文法**：関係代名詞 dont、前置詞+関係代名詞 (lequel, laquelle, lesquels, lesquelles) の使い方 **シャンソン**：Lucienne Boyer：*Parlez-moi d'amour* (1) [リュシエンヌ・ボワイエ『聞かせてよ愛の言葉を』(1)]	原 和之(東京大学准教授)	原 和之(東京大学准教授) 工藤 庸子(東京大学名誉教授)
10	Un jour de congé お休みの日	**文法**：直説法単純未来、前未来の活用と用法 **シャンソン**：Lucienne Boyer：*Parlez-moi d'amour* (2) [リュシエンヌ・ボワイエ『聞かせてよ愛の言葉を』(1)]	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	Courses 買い物	**文法**：代名詞 y, en, le、所有代名詞(le mien, la mienne)の使い方 **シャンソン**：Sylvie Vartan：*La plus belle pour aller danser* (1) [シルヴィー・ヴァルタン『アイドルを探せ』（1）]	同上	同上
12	Cadeaux de Noël クリスマスの贈り物	**文法**：使役動詞 faire、放任動詞 laisser、知覚動詞 voir, entendre などの使い方 **シャンソン**：Sylvie Vartan：*La plus belle pour aller danser* (2) [シルヴィー・ヴァルタン『アイドルを探せ』（2）]	同上	同上
13	Débat public 公開討論会	**文法**：条件法現在・条件法過去の活用と用法 **シャンソン**：Jacques Brel：*Les bonbons* [ジャック・ブレル『ボンボン』]	同上	同上
14	Un dossier oublié 書類の忘れ物	**文法**：接続法現在の活用と用法 **シャンソン**：Yves Montant：*Les feuilles mortes* (1) [イヴ・モンタン『枯葉』（1）]	同上	同上
15	Amitié 友情	**文法**：直接話法・間接話法の使い方 **シャンソン**：Yves Montant：*Les feuilles mortes* (2) [イヴ・モンタン『枯葉』（2）]	同上	同上

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	共通科目（外国語）	科目ｺｰﾄﾞ	1356887	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 中国語入門Ⅰ （’１０）＝ （ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：宮本　徹（放送大学准教授）〕

〔主任講師（現職名）：木村英樹（東京大学大学院教授）〕

講義概要

初修中国語の前半部分。

授業の目標

平易な会話文を読みながら、中国語の発音と最も基本的な文法項目を学習する。文法項目が単なる項目の羅列に終わらないよう、折に触れて復習を行い、体系的に把握できるように努めたい。

なお、この「入門Ⅰ」では、初修中国語で身につけるべき内容のおおよそ半分を学習したことになる。本科目を学習し終えた皆さんには、ぜひとも引き続き「中国語入門Ⅱ」を学習していただきたい。

履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	私の名前は章妍です	1.1 “普通话(pǔ tōnghuà)” 1.2 ピンインと声調記号 1.3 簡体字 1.4 声調(tone) 1.5 第3声の変調 1.6 単母音 1.7 人称代名詞(1)――単数 1.8 名前の呼び方 1.9 “的”を用いる名詞句(1)――「名詞／代名詞＋“的”＋名詞」 1.10 動詞述語文 1.11 副詞“也” 1.12 形容詞述語文 【キーワード】	木村英樹（東京大学大学院教授） 宮本　徹（放送大学准教授） 盧建（東京大学特任講師）	木村英樹（東京大学大学院教授） 宮本　徹（放送大学准教授） 盧建（東京大学特任講師）
2	EMSだといくらですか	2.1 二重母音 2.2 軽声の発音 2.3 所在動詞“在” 2.4 疑問文(1)――疑問詞疑問文 2.5 指示詞(1)――人や事物を指す指示詞“这”“那”“哪” 2.6 疑問文(2)――選択疑問文 2.7 疑問詞“多少” 2.8「数詞(2桁以上を含む)」 2.9 金銭の表現 【キーワード】	木村英樹（東京大学大学院教授） 宮本　徹（放送大学准教授） 盧建（東京大学特任講師）	宮本　徹（放送大学准教授） 盧建（東京大学特任講師）
3	豆腐脳を一杯ください	3.1 三重母音 3.2 子音(1) 3.3 能願動詞“想” 3.4 数量詞からなる名詞句 3.5 “一”yiの変調 3.6 数詞「2」 3.7 前置詞“在” 3.8 指示詞(2)――場所を指し示す指示詞“这儿”“那儿”“哪儿” 3.9 疑問文(3)――“吗”を用いる当否疑問文 3.10 否定の副詞“不”(変調を含む) 3.11 新事態の出現を表す“了” 【キーワード】	木村英樹（東京大学大学院教授） 宮本　徹（放送大学准教授） 盧建（東京大学特任講師）	宮本　徹（放送大学准教授） 盧建（東京大学特任講師）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	もう何度も読みました	4.1 子音(2) 4.2 主題化構文 4.3 指示詞からなる名詞句――「指示詞＋数詞＋量詞＋名詞」 4.4 経験を表す“过” 4.5 動作量と回数の表現 4.6 語気助詞“呢”(1)――現状確認 4.7 疑問文(4)――“呢”を用いる省略疑問文 4.8 存在動詞“有” 【キーワード】	木村英樹（東京大学大学院教授） 宮本 徹（放送大学准教授） 盧建（東京大学特任講師）	宮本 徹（放送大学准教授） 盧建（東京大学特任講師）
5	少し安いのはありますか	5.1 鼻音を伴う母音 5.2 指示詞(3)――程度・度合いを指す指示詞“这么”“那么”“多么” 5.3 語気助詞“啊a” 5.4 “是”を用いる動詞述語文 5.5 “的”を用いる名詞句(2)――「名詞/代名詞/動詞/形容詞＋“的”」 5.6 疑問文(5)――正反疑問文 5.7 能願動詞“可以” 5.8 人称代名詞(2)――複数 5.9 比較差を強調する“～多了” 5.10 前置詞“给” 5.11 語気助詞“吧”(1)――勧誘・提案を表す“吧” 【キーワード】	木村英樹（東京大学大学院教授） 宮本 徹（放送大学准教授） 盧建（東京大学特任講師）	宮本 徹（放送大学准教授） 盧建（東京大学特任講師）
6	ちょっと電話を取り次いでくださいませんか	6.1 名詞連接による名詞句(1)――「人/事物＋空間」 6.2 兼語文 6.3 動作の持続を表す“着” 6.4 副詞“就”(1) 6.5 “一会儿” 【キーワード】	木村英樹（東京大学大学院教授） 宮本 徹（放送大学准教授） 盧建（東京大学特任講師）	宮本 徹（放送大学准教授） 盧建（東京大学特任講師）
7	何年生まれですか	7.1 時間詞 7.2 “的”構文 7.3 前置詞“比” 7.4 名詞述語文 7.5 疑問数詞“几” 7.6 “没有”を用いる比較表現 【キーワード】	木村英樹（東京大学大学院教授） 宮本 徹（放送大学准教授） 盧建（東京大学特任講師）	木村英樹（東京大学大学院教授） 宮本 徹（放送大学准教授） 盧建（東京大学特任講師）
8	ラッシュアワーも終わりました	8.1 前置詞“到” 8.2 疑問詞“什么” 8.3 能願動詞“能” 8.4 語気助詞“呢”(2)――疑問文 8.5 完了を表す“了” 8.6 “又～又…” 8.7 前置詞“离” 8.8 前置詞“从” 8.9 前置詞“往” 8.10 方位詞 8.11 副詞“太” 【キーワード】	木村英樹（東京大学大学院教授） 宮本 徹（放送大学准教授） 盧建（東京大学特任講師）	木村英樹（東京大学大学院教授） 宮本 徹（放送大学准教授） 盧建（東京大学特任講師）
9	もちろん、幼なじみですから	9.1 存現文 9.2 疑問詞“怎么”(1) 9.3 結果の持続を表す“着” 9.4 能願動詞“要” 9.5 動詞の重ね型 9.6 語気助詞“嘛” 【キーワード】	木村英樹（東京大学大学院教授） 宮本 徹（放送大学准教授） 盧建（東京大学特任講師）	木村英樹（東京大学大学院教授） 宮本 徹（放送大学准教授） 盧建（東京大学特任講師）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	今日はきみが主役だよ	10.1 “的”を用いる名詞句(3)——「動詞＋“的”＋名詞」 10.2 名詞連接による名詞句(2)——「種類/属性＋人/事物」 10.3 副詞“一起” 10.4 連動文 10.5 時刻の表現 【キーワード】	木村英樹(東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 盧建(東京大学特任講師)	宮本 徹(放送大学准教授) 盧建(東京大学特任講師)
11	甘くないならお代はいりません	11.1 疑問詞“怎么”(2) 11.2 単価(価格)の表現 11.3 “的”を用いる名詞句(4)——「形容詞＋“的”＋名詞」 11.4 禁止を表す副詞“别” 11.5 二重目的語構文 【キーワード】	木村英樹(東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 盧建(東京大学特任講師)	宮本 徹(放送大学准教授) 盧建(東京大学特任講師)
12	急いで紛失届を出さないと	12.1 副詞“再” 12.2 疑問詞の不定称用法 12.3 接続詞“和” 12.4 語気助詞“吧”(2)——推量・確認を表す“吧” 12.5 譲歩的認定を表す“～是～” 12.6 能願動詞“得” 12.7 “把”構文 12.8 結果補語 【キーワード】	木村英樹(東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 盧建(東京大学特任講師)	木村英樹(東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 盧建(東京大学特任講師)
13	もうずいぶんひどくなっているよ	13.1 二重主語文 13.2 経過時間の表現 13.3 概数を表す“～多” 13.4 様態補語——「動詞＋“得”＋形容詞(句)」 13.5 副詞“很” 13.6 “～的时候” 13.7 “一点儿＋都” 【キーワード】	木村英樹(東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 盧建(東京大学特任講師)	木村英樹(東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 盧建(東京大学特任講師)
14	“LV”と打てばいいんですよ	14.1 能願動詞“会” 14.2 挙例表現“像～” 14.3 “有”を用いる連動文 14.4 前置詞“跟” 14.5 副詞“就”(2) 【キーワード】	木村英樹(東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 盧建(東京大学特任講師)	木村英樹(東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 盧建(東京大学特任講師)
15	私たちもう親友でしょ	15.1 副詞“挺” 15.2 積極性を表す“来” 15.3 “不是～吗?” 15.4 否定の副詞“没(有)” 15.5 近接未来“了” 【キーワード】	木村英樹(東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 盧建(東京大学特任講師)	木村英樹(東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 盧建(東京大学特任講師)

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	共通科目（外国語）	科目ｺｰﾄﾞ	1356941	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 中国語入門Ⅱ （’１０）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：宮本 徹（放送大学准教授）〕

〔主任講師（現職名）：木村英樹（東京大学大学院教授）〕

講義概要

初修中国語の後半部分。

授業の目標

「中国語入門Ⅰ」に引き続き、文法項目・語彙・表現の更なる習得を目指す。初修中国語として学ぶべき内容は、「入門Ⅱ」まで学ぶことによって初めて完結する。

履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	‘吾’是‘我’, ‘我’是谁？	1.1 結果補語の“到” 1.2 使役構文 【キーワード】	木村英樹（東京大学大学院教授） 宮本 徹（放送大学准教授） 島津幸子（文京学院大学非常勤講師）	木村英樹（東京大学大学院教授）
2	怎么(1)	2.1 “有”を用いる連動文(1) 2.2 方向動詞 2.3 結果補語の“在” 2.4 副詞“只” 【キーワード】	木村英樹（東京大学大学院教授） 宮本 徹（放送大学准教授） 島津幸子（文京学院大学非常勤講師）	木村英樹（東京大学大学院教授）
3	怎么(2)	3.1 可能／不可能を表す動詞句構造 3.2 方向補語 3.3 指示詞“这么”・“那么” 【キーワード】	木村英樹（東京大学大学院教授） 宮本 徹（放送大学准教授） 島津幸子（文京学院大学非常勤講師）	木村英樹（東京大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	问路	4.1 疑問詞“多” 4.2 副詞“才” 4.3 語気助詞“嘛” 4.4 語気助詞“啊a” 【キーワード】	木村英樹(東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 島津幸子(文京学院大学非常勤講師)	木村英樹(東京大学大学院教授)
5	便宜货(1)	5.1 “一”の省略 5.2 金銭の表現 5.3 副詞“就”の用法 【キーワード】	木村英樹(東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 島津幸子(文京学院大学非常勤講師)	木村英樹(東京大学大学院教授)
6	便宜货(2)	6.1 形容詞の重ね型 6.2 助詞“地” 6.3 「“一”＋臨時量詞」 【キーワード】	木村英樹(東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 島津幸子(文京学院大学非常勤講師)	木村英樹(東京大学大学院教授)
7	“女”客下车	7.1 近接未来の事態を表す“快～了” 7.2 名詞接尾辞“们” 7.3 動詞＋“了”＋方向補語 7.4 属性詞 【キーワード】	木村英樹(東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 島津幸子(文京学院大学非常勤講師)	木村英樹(東京大学大学院教授)
8	“二”和“两” (1)	8.1 “二”と“两” 8.2 “的”で終わる名詞句 8.3 能願動詞“该” 【キーワード】	木村英樹(東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 島津幸子(文京学院大学非常勤講師)	宮本 徹(放送大学准教授)
9	“二”和“两” (2)	9.1 能願動詞“会” 9.2 副詞“在” 9.3 前置詞“比” 【キーワード】	木村英樹(東京大学大学院教授) 宮本 徹(放送大学准教授) 島津幸子(文京学院大学非常勤講師)	宮本 徹(放送大学准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	“二”和“两” (3)	10.1 “有”を用いる連動文(2) 10.2 能願動詞“要” 10.3 比較表現に用いる“～得多” 【キーワード】	木村英樹（東京大学大学院教授） 宮本 徹（放送大学准教授） 島津幸子（文京学院大学非常勤講師）	宮本 徹（放送大学准教授）
11	懒汉吃鱼	11.1 “一边～，一边…” 11.2 存現文 11.3 副詞“原来” 【キーワード】	木村英樹（東京大学大学院教授） 宮本 徹（放送大学准教授） 島津幸子（文京学院大学非常勤講師）	宮本 徹（放送大学准教授）
12	甲骨文 (1)	12.1 指示詞による同格表現 12.2 接続詞“和” 12.3 前置詞“给” 【キーワード】	木村英樹（東京大学大学院教授） 宮本 徹（放送大学准教授） 島津幸子（文京学院大学非常勤講師）	宮本 徹（放送大学准教授）
13	甲骨文 (2)	13.1 能願動詞“可以” 13.2 前置詞“从” 13.3 副詞“从来” 【キーワード】	木村英樹（東京大学大学院教授） 宮本 徹（放送大学准教授） 島津幸子（文京学院大学非常勤講師）	宮本 徹（放送大学准教授）
14	甲骨文 (3)	14.1 “不是什么～” 14.2 前置詞“用” 14.3 接続詞“因为” 【キーワード】	木村英樹（東京大学大学院教授） 宮本 徹（放送大学准教授） 島津幸子（文京学院大学非常勤講師）	宮本 徹（放送大学准教授）
15	甲骨文 (4)	15.1 「“第”＋数量＋量詞」 15.2 “越来越～” 15.3 「数量＋量詞＋“接”＋数量＋量詞」 15.4 指示詞“这样”・“那样” 【キーワード】	木村英樹（東京大学大学院教授） 宮本 徹（放送大学准教授） 島津幸子（文京学院大学非常勤講師）	宮本 徹（放送大学准教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	共通科目（外国語）	科目コード	1351001	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 中国語基礎 －ラブレターは書きますか－ （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：代田　智明（東京大学大学院教授）　〕

講義概要

一通り中国語の基礎を学んだ方々のために、やさしいが本格的で、興味深い中国語の文章を読むことで、ステップアップのための機会を持ちたい。全15回の材料は、おもに近代中国知識人のラブレターから、一部を選りすぐり、当時の中国の背景やジェンダーの意識を探りながら、現代中国・現代日本との違いや、いまも変らぬ側面を確認する。題して「ラブレターは書きますか」。

授業の目標

全15回の講義を通じて、目標は第一に、中国語のことばに本格的触れる入り口となるような訓練の場とする。文章を読み解くとともに、簡単な表現力も身につくよう工夫したい。第二に、近代中国知識人について、初歩的な歴史的理解をもつとともに、恋愛・結婚という生身の出来事を通して彼らの生き方を考察する。そのことによって、時代の違いや共通点、文化的差異についても認識を深めたい。

	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	郁達夫と孫荃	中国近代文学形成期に貢献した文学グループ「創造社」の創立メンバーのひとりである郁達夫の小説『蔦羅行』の冒頭部分を読んで、当時の婚姻制度や父権的な家庭生活を垣間見る。小説ではあるが、現実を反映しているとも言われ、妻に暴力をふるっている「私」の悔悟が語られる。	代田智明（東京大学大学院教授、以下同じ）	代田智明
2	郁達夫から王映霞へ(1)	第1回では、親の決めた結婚に従わざるをえなかった郁の結婚生活を紹介するが、彼はその後、上海の親友の家に寄宿している令嬢、王映霞に一目惚れする。妻のいる男に気おくれしている王に郁がどんな弁解と口説き文句を語ったか。	代田智明	代田智明
3	郁達夫から王映霞へ(2)	第1回では、親の決めた結婚に従わざるをえなかった郁の結婚生活を紹介するが、彼はその後、上海の親友の家に寄宿している令嬢、王映霞に一目惚れする。妻のいる男に気おくれしている王に郁がどんな弁解と口説き文句を語ったか。第2回のつづき。	代田智明	代田智明
4	胡適から江冬秀へ(1)	中国近代の文化的著名人のひとりであり、文学革命に貢献した胡適も、旧式結婚をしたひとりであった。妻はいいところのお嬢さんであったが、何とか字が読める程度の教養しかなかった。1927年に講演のため渡米した胡適が妻の江冬秀に宛てた手紙を読む。1年前に病気で失った娘への悲しみが描かれている。	代田智明	代田智明
5	胡適から江冬秀へ(2)	中国近代の文化的著名人のひとりであり、文学革命に貢献した胡適も、旧式結婚をしたひとりであった。妻はいいところのお嬢さんであったが、何とか字が読める程度の教養しかなかった。1927年に講演のため渡米した胡適が妻の江冬秀に宛てた手紙を読む。1年前に病気で失った娘への悲しみが描かれている。第4回のつづき。	代田智明	代田智明

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	ウィリアムスから胡適へ(1)	胡適は結婚する前にアメリカに留学していた。留学先コーネル大学近くに住んでいた年上のクリフォード ウィリアムスと初恋を経験していた。ふたりは旧式結婚の慣例のため、引き裂かれたが、胡適が1933年に渡米した際に、恋心やみがたく、長い年月を隔てて結ばれる。しかし結婚はできない、そんな複雑な思いをウィリアムスが胡適に伝えた手紙を読む。	代田智明	代田智明
7	ウィリアムスから胡適へ(2)	胡適は結婚する前にアメリカに留学していた。留学先コーネル大学近くに住んでいた年上のクリフォード ウィリアムスと初恋を経験していた。ふたりは旧式結婚の慣例のため、引き裂かれたが、胡適が1933年に渡米した際に、恋心やみがたく、長い年月を隔てて結ばれる。しかし結婚はできない、そんな複雑な思いをウィリアムスが胡適に伝えた手紙を読む。第6回のつづき。	代田智明	代田智明
8	胡適からウィリアムスへ	第6・7回に見られるウィリアムスの矛盾した感情に対して、胡適はどう感じていたのだろう。その後胡適が、知的パートナーという親友として、ウィリアムスを受け入れようとすることばを、ウィリアムス宛ての手紙のなかから読み取る。	代田智明	代田智明
9	魯迅から許広平へ(Ⅰ)	近代中国の文学者として、日本でも最も知られた文学者魯迅も母親の決めた旧式結婚に苦しんでいた。しかし1925年ころ、北京女子師範の魯迅の授業を聞いていた学生の許広平との間で恋愛関係になっていく。広東と廈門で別々に暮らしていたとき、17歳も年下の許広平に将来の悩みをぶつけ、光りを求める魯迅の手紙を読む。	代田智明	代田智明
10	許広平から魯迅へ(1)	第9回の魯迅の手紙に対する許広平の返信。できるだけ早く、「遺産」(正妻の朱安のこと)を放棄して、新たに人生をやり直すべきだと勧める。その情熱的なことばを読み取る。	代田智明	代田智明
11	許広平から魯迅へ(2)	第9回の魯迅の手紙に対する許広平の返信。できるだけ早く、「遺産」(正妻の朱安のこと)を放棄して、新たに人生をやり直すべきだと勧める。その情熱的なことばを読み取る。第10回のつづき。	代田智明	代田智明
12	魯迅から許広平へ(Ⅱ)	最終的に許広平を受け入れ、新たな人生に踏み出そうとする魯迅の手紙。この部分は比較的知られた箇所である。様々な障害に悩みつつ、自分にも愛する資格があると宣言する魯迅の肉声を読み取る。	代田智明	代田智明
13	最後のラブレター	1980年代後半に書かれたと思われる、北京大学男子学生の手紙。彼が恋した女子学生はどうやら幼なじみのイケメンを彼氏にすることにして、この著者はふられてしまったらしい。将来きっと後悔するよと、食い下がる彼の気持ちは「女々しい」。	代田智明	代田智明
14	日中ジェンダー論の対話(1)	社会学者であり、フェミニストで有名なふたりの日本と中国の研究者が自分の体験をもとに、それぞれの社会文化を問題にしながら日本と中国との意識の差異を語っている。最後に身近な現代的話題を考える。	代田智明	代田智明
15	日中ジェンダー論の対話(2)	社会学者であり、フェミニストで有名なふたりの日本と中国の研究者が自分の体験をもとに、それぞれの社会文化を問題にしながら日本と中国との意識の差異を語っている。最後に身近な現代的話題を考える。第14回のつづき。	代田智明	代田智明

科目名（メディア）＝　スペイン語入門Ⅰ（‘０７）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：立岩　礼子　（京都外国語大学准教授）〕
〔主任講師（現職名）：丸田　千花子（慶應義塾大学講師）　〕
〔主任講師（現職名）：マリア・ホセ・ゴンサレス・ムニョス（京都外国語大学講師）〕

講義概要

スペイン語の美しい響きに親しみながら，初級文法の基礎を学ぶと同時に，スペイン語文化圏の多様性にも触れていきます。各授業で学ぶ文法事項は、日本でスペイン語圏の人たちと接する場面を設定したオリジナルのスキットを通して身につけていく工夫がされています。練習問題は授業で解く基本的なものと余力のある人が解く自習用の２種類を用意しました。発音、リスニング、会話も十分に練習できるように随所にアドバイスを施しています。また、語学の習得のみならず、音楽を通じてスペイン語圏に親しむほか、ゲストを迎えてスペインやラテンアメリカの魅力について語っていただきます。

授業の目標

スペイン語の初級文法の基礎の習得を目指します。具体的には①自己紹介ができる、②日常の話題についてスペイン語圏の人たちとコミュニケーションを保つことができる、という２つを主たる目標とします。また、辞書の使い方に慣れ、応用力を養うことも視野に入れています。さらに、スペイン語文化圏について関心を広げていくことにも重きをおいています。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	「こんにちは。」	スペイン語のアルファベット、発音、イントネーションに慣れる。挨拶をはじめとした日常会話に必要な表現を学ぶ。 ゲスト：Jair Moreno　（スペイン大使館商務部）	立岩礼子（京都外国語大学准教授） マリア・ホセ・ゴンサレス・ムニョス（京都外国語大学講師）	立岩礼子（京都外国語大学准教授） マリア・ホセ・ゴンサレス・ムニョス（京都外国語大学講師）
2	「私は少しスペイン語が話せます。」	主語（主格人称代名詞）、基礎となる一般動詞（-ar動詞）の規則活用（直説法現在）、現在時制の用法を学ぶ。 歌：La bamba (メキシコ民謡)	同　上	同　上
3	「今日はてんぷらを食べましょう。」	基礎となる一般動詞（-er動詞）の規則活用（直説法現在）、名詞の性数、（肯定・否定・疑問詞なしの疑問文）を学ぶ。 ゲスト：Jair Moreno (スペイン大使館商務部)	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	「どこで携帯電話を買ったらいいですか。」	疑問詞、疑問詞を含む疑問文、数詞（1~10）、所有形容詞を学ぶ。 歌：Bésame mucho （小野リサ）	同上	同上
5	「彼らにメールを書きます。」	スペイン語の性数一致に慣れながら，基礎となる一般動詞（-ir 動詞）の規則活用（直説法現在）、冠詞（定冠詞と不定冠詞）を学ぶ。 ゲスト：荒井夏枝（スペイン・ガリシア州政府経済産業省）	同上	同上
6	「彼はスポーツマンです。」	動詞 ser の活用と形容詞を学ぶ。 歌：Soy （Willy Chirino）	同上	同上
7	「11 時半です。」	動詞 ser を使って時刻や日付の表現、数詞（1~31）と序数詞、接続詞を学ぶ。 ゲスト：荒井夏枝（スペイン・ガリシア州政府経済産業省）	同上	同上
8	「僕が暇なとき、君は忙しい。」	スペイン語の be 動詞である動詞 estar の活用（直説法現在）、指示形容詞、指示代名詞、指示副詞を学ぶ。 歌：La Cumparsita (Carlos Gardel)	同上	同上
9	「テレビの種類が豊富です。」	無主語動詞 hay、不定数量詞を学ぶ。 ゲスト：こじまかよこ（中南米文化交流考房「ケ・リーコ」代表）	同上	同上
10	「私はお寺に行きたいです。」	語幹母音変化動詞 (e→ ie)の動詞の活用（直説法現在）、直接目的格人称代名詞を学ぶ。 歌： La llorona （Chavela Vargas）	丸田千花子（慶應義塾大学講師） マリア・ホセ・ゴンサレス・ムニョス（京都外国語大学講師）	丸田千花子（慶應義塾大学講師） マリア・ホセ・ゴンサレス・ムニョス（京都外国語大学講師）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	「一本いくらしますか。」	語幹母音変化動詞 (o→ ue)の動詞の活用（直説法現在）、40 から 1.000.000 までの数詞、前置詞を伴う直接目的語を学ぶ。 ゲスト：こじまかよこ（中南米文化交流考房「ケ・リーコ」代表）	同　上	同　上
12	「伝統料理を出すのですよね。」	語幹母音変化動詞 (e → i) の動詞の活用（直説法現在）、間接目的格人称代名詞を学ぶ。 歌：Te recuerdo, Amanda　(Víctor Jara)	同　上	同　上
13	「今週土曜日、京都へ出発します。」	１人称のみ不規則動詞の活用（直説法現在）、間接目的格人称代名詞と直接目的人称代名詞の併用を学ぶ。 ゲスト：「オルティス・リベラ美由紀（コーヒー専門認証プログラム「ウツ・カフェ」日本市場担当）	同　上	同　上
14	「久保田さんからのメッセージがあります。」	不規則動詞の活用（直説法現在）、前置詞格人称代名詞、代名詞の重複を学ぶ。 歌：Salsa no tiene frontera　(オルケスタ・デ・ラ・ルス)	同　上	同　上
15	「私は野球が大好きです。」	gustar 表現や gustar 型構文を学ぶ。 ゲスト：オルティス・リベラ美由紀（コーヒー専門認証プログラム「ウツ・カフェ」日本市場担当）	同　上	同　上

科目名（メディア）＝　スペイン語入門II（‘07）＝（R）

〔主任講師（現職名）：丸田　千花子　（慶應義塾大学講師）　〕
〔主任講師（現職名）：久野　量一　（法政大学准教授）　〕
〔主任講師（現職名）：サンドラ・モラーレス・ムニョス（早稲田大学講師）〕

講義概要

「入門Ⅰ」で学んだ初級文法の基礎を修了させると同時に，引き続きスペイン語文化圏の多様性にも触れていきます。文法解説、練習問題などで文法事項を確認したのち、オリジナルのスキットを通して，発音、リスニングを練習し、応用表現を学んでいきます。また「入門Ⅰ」に引き続き、さまざまな分野の専門家を迎えて，「入門Ⅰ」とは別の角度からスペイン語文化圏の文化にアプローチしていきます。

授業の目標

「入門Ⅱ」では様々な時制を習得することでスペイン語の表現に幅をもたせることを狙いとしています。時制それぞれの違いをきちんと認識し、活用の運用能力を高めていくこと、またネイティヴとのコミュニケーションを取れるようになることが授業の目標です。「入門Ⅰ」に引き続きさらにスペイン語文化圏についての関心を深めていくことにも重きをおいています。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	「君は何時に起きるの。」	再帰動詞を学ぶ。 ゲスト：八嶋由香利（慶應義塾大学経済学部准教授） 「アメリカ大陸に渡ったバスク人」	丸田千花子（慶應義塾大学講師） サンドラ・モラーレス・ムニョス（早稲田大学講師）	丸田千花子（慶應義塾大学講師） サンドラ・モラーレス・ムニョス（早稲田大学講師）
2	「とてもおいしそうです。」	se を用いた無人称表現、感嘆文を学ぶ。 ゲスト：八嶋由香利（慶應義塾大学経済学部准教授） 「アメリカ帰りのスペイン人～スペイン近代化に貢献した indianos」	同　上	同　上
3	「どのような製品を取り扱っているのですか。」	se を用いた再帰受身を学ぶ。 ゲスト：石井康史（慶應義塾大学経済学部准教授） 「『母をたずねて三千里』とブエノスアイレスのスペイン語」	同　上	同　上
4	「私はポップよりも伝統音楽が好きです。」	比較表現を学ぶ。 ゲスト：石井康史（慶應義塾大学経済学部准教授） 「アメリカ映画におけるメキシコ人のイメージ～パンチョ、ペドロと善隣外交」	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	「今朝、僕は忙しかったんだ。」	過去分詞、直説法現在完了を学ぶ。 ゲスト：久松佳彰（東洋大学国際地域学部准教授） 「アメリカとメキシコの経済関係」	同上	同上
6	「自分の部屋を片付けているのよ。」	現在分詞、直説法現在進行形を学ぶ。 ゲスト：久松佳彰（東洋大学国際地域学部准教授） 「アメリカ合衆国のヒスパニック」	同上	同上
7	「どのくらい私たちのところにいる予定ですか。」	直説法未来を学ぶ。 ゲスト：ヒガ・マルセーロ（フェリス女学院大学国際交流学部准教授） 「アルゼンチンにおける日本人のクリーニング屋 tintoría japonesa」	同上	同上
8	「彼らはもうレストランに着いているでしょう。」	直説法未来完了を学ぶ。 ゲスト：ヒガ・マルセーロ（フェリス女学院大学国際交流学部准教授） 「日本の中のスペイン語圏」	同上	同上
9	「昨晩、会社の近くで襲われた。」	直説法点過去の規則活用を学ぶ。 ゲスト：清水達也（アジア経済研究所） 「ラテンアメリカの輸出農産物」	久野量一（法政大学准教授） サンドラ・モラーレス・ムニョス（早稲田大学講師）	久野量一（法政大学准教授） サンドラ・モラーレス・ムニョス（早稲田大学講師）
10	「そのあたりの日本食レストランで食事をしましたか。」	直説法点過去の不規則活用を学ぶ。 ゲスト：清水達也（アジア経済研究所） 「ペルーの輸出農産物アスパラガスについて」	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	「夏休みになるとよく田舎に出かけたものです。」	直説法線過去を学ぶ。 ゲスト：西成彦（立命館大学大学院先端総合学術研究科教授） 「南米の日系人－今と昔」	同　上	同　上
12	「タクシーを拾うことをお勧めいたします。」	直説法過去未来を学ぶ。 ゲスト：西成彦（立命館大学大学院先端総合学術研究科教授） 「移民と文学－アルゼンチンのガウチョ」	同　上	同　上
13	「その映画ならもう観たことがあると彼女は言った。」	直説法過去完了を学ぶ。 ゲスト：杜将（フリージャーナリスト） 「コロンビアにおける平和の意味」	同　上	同　上
14	「そんなに早起きするなんて信じられないわ。」	接続法現在の規則活用を学ぶ。 ゲスト：杜将（フリージャーナリスト） 「コロンビアの国内問題」	同　上	同　上
15	「感想を言ってくれるのなら、本を貸してあげるよ。」	接続法現在の不規則活用を学ぶ。 ゲスト：杜将（フリージャーナリスト） 「コロンビアの環境、エネルギー問題」	同　上	同　上

＝　韓国語入門Ⅰ（‘０６）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：生越　直樹（東京大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：根本　理恵（東京大学非常勤講師）〕

全体のねらい

簡単な会話によって韓国の人とコミュニケーションができるようになること，掲示や簡単な説明文を読めるようになることをめざす。まず，発音・文字（ハングル）の練習を十分に行ったのち，基本的な表現を使って簡単な文章を作る練習を行っていく。あわせて，スキットなどを通して韓国の文化・習慣を紹介し，それらに対する理解を深める。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	文字と発音（１）－母音(1)，子音(1)－	基本的な単母音６つとヤ行系の重母音の発音，子音の一部，およびそれを表す文字の練習を行う。さらに，出会ったときなどに使うあいさつを練習する。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）
2	文字と発音（２）－母音(2)，子音(2)－	子音（平音，激音，濃音）の発音，ワ行系の重母音の発音，およびそれを表す文字の練習を行う。さらに，別れの時などに使うあいさつ表現の練習を行う。	同上	生越直樹（東京大学教授）
3	文字と発音（３）－終声・連音化－	音節末子音（終声）の発音，および終声に関わる連音化の練習を行う。さらに，呼びかけ，謝罪などのあいさつ表現を練習する。	同上	同上
4	高野由紀です。―名詞文の叙述・疑問・尊敬―	初めて会う場面のスキットを使いながら，「～です，ですか」「～でいらっしゃいますか」にあたる名詞文の叙述形・疑問形・尊敬形と「は」にあたる助詞の使い方を練習する。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	どこにありますか。 —存在文の叙述・疑問—	コンビニで物を探すスキットを使いながら，「ある，いる」「ない，いない」にあたる存在詞，「この，その，あの」にあたる指示詞の使い方を練習する。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	生越直樹（東京大学教授）
6	午後に何をしますか。 —用言文の叙述・疑問，数詞(1)—	これからの予定を聞くスキットを使いながら，「～します(か)，～です(か)」にあたる用言文の叙述形・疑問形についての練習を行う。さらに，漢語系の数詞とそれとともに使う助数詞の練習も行う。	同上	同上
7	タバコは吸いません。 —否定形，数詞(2)—	喫茶店で話すスキットを使いながら，「～しません」にあたる用言文の否定形，「～ではありません」にあたる名詞文の否定形について練習する。さらに，固有語系の数詞とそれとともに使う助数詞の練習も行う。	同上	同上
8	ホテルで召し上がりますか。 —尊敬形—	ホテルのロビーでのスキットを使いながら，用言の尊敬形の作り方と使い方，特殊な尊敬形の使い方を練習する。	同上	同上
9	ドアを閉めてください。 —連用形—	韓国料理店で食事をするスキットを使いながら，連用形の使い方と「～してください」にあたる依頼表現の使い方を練習する。	同上	根本理恵（東京大学非常勤講師）
10	９時に学校に行きます。 —hayyo 体の叙述・疑問—	一日の生活を表すスキットを使いながら，「～します」にあたる文末の丁寧な形 hayyo 体の練習を行う。また，残りの連用形の縮約形の練習もする。	同上	同上
11	映画をよくご覧になりますか。 —hayyo 体の尊敬—	映画館に行く場面のスキットを使いながら，hayyo 体の縮約形と hayyo 体の尊敬形の使い方を練習する。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	先週何をしましたか。 —過去形—	友人の家で食事するスキットを使いながら，過去形の使い方を練習する。さらに過去形の縮約形，尊敬の過去形の練習もする。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	根本理恵（東京大学非常勤講師）
13	できるだけ早く行きます。 —進行形，未来意志形—	バス停で電話する場面のスキットを使いながら，話し手の意志や推測を表す未来意志形の使い方を練習する。さらに，「～している」にあたる進行形の作り方と使い方を練習する。	同上	同上
14	狭いですが，あちらへどうぞ。 —接続語尾—	インターネットカフェで話すスキットを使いながら，いくつかの接続語尾と希望を表す表現の使い方を練習する。	同上	同上
15	まとめと復習	これまで学習した表現を，スキットの確認しながら復習していく。	同上	同上

＝　韓国語入門Ⅱ（‘０６）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：生越　直樹（東京大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：根本　理恵（東京大学非常勤講師）〕

全体のねらい

韓国語Ⅰを終了した程度の実力を持つ学習者を対象とする。いろいろな表現を使って韓国の人とコミュニケーションができるようになること，新聞記事などを読めるようになることをめざす。基本的な表現のうち，韓国語Ⅰで学習しなかった事項について練習するとともに，スキットなどを通して，韓国の文化・習慣に対する理解をさらに深める。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	学校の前にあるレコード店　―動詞の連体形(1)―	ＣＤショップでのスキットを使いながら，用言の後ろに名詞が続くときの形，連体形の練習をする。この課ではまず動詞，存在詞の連体形のうち，現在連体形，過去連体形の作り方と使い方の練習を行う。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	生越直樹（東京大学教授）
2	以前の記録があるはずです　―動詞の連体形(2)―	薬局でのスキットを使いながら，動詞，存在詞の連体形のうち，未来連体形，回想連体形の作り方と使い方を練習する。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	生越直樹（東京大学教授）
3	簡単な韓国料理―形容詞の連体形―	市場で話すスキットを使いながら，形容詞，指定詞の連体形(現在，未来，過去)の作り方と使い方を練習する。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	生越直樹（東京大学教授）
4	外国に住んでいる人　―ｒ語幹(1)―	屋台で食事しながら話すスキットを使いながら，特殊な活用をするｒ語幹の用言の使い方を練習する。さらに接続語尾・慣用表現のいくつかについて，その使い方を練習する。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	生越直樹（東京大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	この近くにお住まいですか —r語幹(2)—	病院でのスキットを使って，引き続きr語幹の用言を使う練習をする。さらに接続語尾・慣用表現のいくつかについて，その使い方を練習する。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	生越直樹（東京大学教授）
6	頭痛はすっかり治りましたか —s変則—	バスターミナルで話すスキットを使って，変則用言の一つ，s変則用言の活用と使い方を練習する。さらに接続語尾・慣用表現のいくつかについて，その使い方を練習する。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	生越直樹（東京大学教授）
7	尋ねてみましょう —t変則—	地下鉄駅，車内でのスキットを使って，t変則用言の活用と使い方を練習する。さらに接続語尾・慣用表現のいくつかについて，その使い方を練習する。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	生越直樹（東京大学教授）
8	発音がとても難しいです —p変則—	大学教室でのスキットを使って，p変則用言の活用と使い方を練習する。さらに接続語尾・慣用表現のいくつかについて，その使い方を練習する。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	生越直樹（東京大学教授）
9	白い看板が見えます —h変則—	観光地で話すスキットを使いながら，h変則用言の活用と使い方を練習する。さらに接続語尾・慣用表現のいくつかについて，その使い方を練習する。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	根本理恵（東京大学非常勤講師）
10	私が行って呼んで来ます —rwu変則—	列車の車内でのスキットを使って，rwu変則用言の活用と使い方を練習する。さらに接続語尾・慣用表現のいくつかについて，その使い方を練習する。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	根本理恵（東京大学非常勤講師）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	どんなに忙しくても —wu 変則—	キャンプの場面のスキットを使いながら，wu 変則用言の活用と使い方を練習する。さらに接続語尾・慣用表現のいくつかについて，その使い方を練習する。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	根本理恵（東京大学非常勤講師）
12	包装はしないでください —さまざまな表現—	デパートでおみやげを探すスキットを使いながら，よく使う熟語でまだ学習していない表現の使い方を練習する。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	根本理恵（東京大学非常勤講師）
13	ご飯は食べたの？ —hanta 体，hay 体—	空港で友だち同士が話すスキットを使いながら，文末の形式のうち，ぞんざいな表現である hay 体，hanta 体の叙述・疑問などの形を練習する。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	根本理恵（東京大学非常勤講師）
14	文章を読む —書き言葉の表現—	短い文章を読みながら，書き言葉でよく使われる表現を練習する。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	根本理恵（東京大学非常勤講師）
15	まとめと復習	これまでのスキットを使いながら学習した表現を復習する。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	根本理恵（東京大学非常勤講師）

＝　日本語基礎Ａ（‘０６）＝（TV）

〔 主 任 講 師（現職名）：姫野　昌子（放送大学客員教授）　〕
〔 主 任 講 師（現職名）：伊東　祐郎（東京外国語大学教授）〕

全体のねらい

学習者のレベルは、初級後半程度を考えている。放送は、全部、やさしい日本語で行う。印刷教材は、２部に分かれている。第１部は、外国人学習者用の解説と課題、第２部は、日本人教師用の解説となっている。外国人学習者は、第１部だけ勉強すればよい。試験問題も日本人教師とは違うものを用意する。目的は日本人の社会と文化を紹介である。外国人留学生による日本人へのインタビューを通し、日本人の生活や働く姿を伝える。日本語能力試験３，４級レベルの文法事項、語彙、漢字の基礎的運用能力養成を図る。マルチメデイアの特色を生かしつつ、コミュニケーション能力を養成する楽しい講座をめざす。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	楽しい文法教室①	授業風景 ・動詞、形容詞、形容動詞の活用形 ・アスペクト、テンス ・「～て」形の用法 ・格助詞の用法「を」「で」「に」 ・漢字①線の形 ・日本の歌①「夏の思い出」	姫野昌子（放送大学客員教授）	姫野昌子（放送大学客員教授） 伊東祐郎（東京外国語大学教授）
2	スキット「発表の授業－準備－」	授業風景 ・自動詞と他動詞 ・変化「～くなる」「～になる」 ・変化「～くする」「～にする」 ・設置と処置　補助動詞「～ておく」 ・留学生によるインタビュー「漫画家　咲坂芽亜氏」 ・漢字②線と点の形 ・日本の歌②「だれもいない海」	藤村知子（東京外国語大学准教授） 姫野昌子（放送大学客員教授）	同　上
3	スキット「発表の授業－漫画やアニメの始まり－」	授業風景 ・設置と処置の結果の状態　補助動詞「～てある」 ・単なる結果の状態　補助動詞「～ている」 ・誘発　感情動詞の他動詞化「人を～させる」 ・留学生によるインタビューと報告 ・漢字③構成要素 ・日本の歌③「雪の降る街を」	同　上	同　上
4	ドキュメンタリー「東京の森－人工林で木を育てる－」	授業風景 ・可能表現「～することができる」 ・動詞可能形「行ける」 ・留学生によるインタビュー「あきる野市　製材所経営者　田中定男氏」 ・漢字④「さんずい偏」 ・日本の歌④「北国の春」	小林幸江（東京外国語大学教授） 姫野昌子（放送大学客員教授）	同　上

5	ドキュメンタリー 「東京の森－東京の木で家を造る－」	・引用表現「～と言う」「～と思う」 ・伝聞形「～そうだ」 ・留学生によるインタビュー報告 ・漢字⑤「人偏」 ・日本の歌⑤「この広い野原いっぱい」	同　上	同　上
6	ドキュメンタリー 「自然の力を利用した家－太陽の熱や光などの利用」	授業風景 ・条件「～と」「～たら」 ・留学生によるインタビュー「自然食店　富士山の野菜塾店長　佐藤環氏」 ・漢字⑥「木偏」 ・日本の歌⑥「この空を飛べたら」	鈴木美加 （東京外国語大学准教授） 姫野昌子 （放送大学客員教授）	同　上
7	ドキュメンタリー 「自然の力を利用した家－雨水の利用－」	授業風景 ・条件「～ば」「～ても」 ・留学生によるインタビューと報告「朝霧高原の牧場」 ・漢字⑦「手偏」 ・日本の歌⑦「恋人よ」	同　上	同　上
8	楽しい文法教室② 復習	授業風景 ・文法事項復習（１～７回） ・留学生によるインタビュー「江戸紙切り名人　桃川忠氏」 ・漢字⑧「日偏」 ・日本の歌⑧「忘れな草をあなたに」	姫野昌子 （放送大学客員教授）	同　上
9	スキット 「お見合い－若い２人と仲人さん」	授業風景 ・様態　形容詞、形容動詞＋「～そうだ」 「痛そうだ、元気そうだ」 ・留学生によるインタビュー「大学生の結婚観」 ・漢字⑨「しんにゅう偏」 ・日本の歌⑨「冬が来る前に」	伊東祐郎 （東京外国語大学教授） 姫野昌子 （放送大学客員教授）	同　上
10	ドキュメンタリー 「お見合い－結婚相手紹介サービス会社」	授業風景 ・様態　動詞＋「～そうだ」「降りそうだ」 ・留学生によるインタビュー報告 ・漢字⑩「草かんむり、雨かんむり」 ・日本の歌⑩「旅人よ」	同　上	同　上
11	ドキュメンタリー 「文化を守る－丸岡の町－」	授業風景 ・授受動詞「もらう、あげる、くれる」 ・推移、変化　補助動詞「～てくる」「～ていく」 ・留学生によるインタビュー「歌舞伎役者　市川男女蔵氏」 ・漢字⑪「ウかんむり」「門がまえ」	荒川洋平 （東京外国語大学准教授） 姫野昌子 （放送大学客員教授）	同　上

		・日本の歌⑪「心の旅」		
12	ドキュメンタリー 「文化を守る－子ども歌舞伎」	授業風景 ・待遇表現「～てくれる」「～てもらう」「～てあげる」 ・留学生によるインタビュー報告 ・漢字⑫「訓読みが２つある字」 ・日本の歌⑫「恋人もいないのに」	同　上	同　上
13	ドキュメンタリー 「東京の水道－水を安全に届ける－」	授業風景 ・直接の受身「人を対象とする動詞」 ・非情主の受身 ・留学生によるインタビュー「岐阜県高山　オークヴィレッジ」 ・漢字⑬「音読みが２つある字」 ・日本の歌⑬「みずいろの雨」	柏崎雅世（東京外国語大学教授） 姫野昌子（放送大学客員教授）	同　上
14	ドキュメンタリー 「東京の水道－水を安全に守る－」	授業風景 ・「持ち主の受身」「迷惑の受身」 ・留学生によるインタビュー報告 ・漢字⑭「訓読みと音読みがある字」 ・日本の歌⑭「あのすばらしい愛をもう一度」	同　上	同　上
15	楽しい文法教室③ 総復習	授業風景 ・文法事項復習（１～14回） ・留学生の司会による「桃川忠氏江戸紙切り実演会」 ・漢字⑮「熟語」 ・日本の歌⑮「さとうきび畑」	姫野昌子（放送大学客員教授）	同　上

科目名（メディア）＝　日本語基礎Ｂ（‘０７）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：姫野　昌子（放送大学客員教授）〕
〔主任講師（現職名）：伊東　祐郎（東京外国語大学教授）〕

講義概要

学習者のレベルは、初級後半程度を考えている。放送は、全部、やさしい日本語で行う。印刷教材は、２部に分かれている。第１部は、外国人学習者用の解説と課題、第２部は、日本人教師用の解説となっている。外国人学習者は、第１部だけ勉強すればよい。試験問題も日本人教師とは違うものを用意する。コミュニケーション能力をつけるため、いろいろな会話の表現を勉強する。いろいろな国の人に日本に来てから経験したことを聞き、異文化コミュニケーションについて考える。日本の都市を 12 選んで、その地理や、文化・歴史的な特徴などを紹介し、日本理解を深める。そのほか日本の詩歌も紹介し、説明する。会話やナレーションの中に出てきた大切な文法事項についても勉強する。

授業の目標

日本語の会話の特徴を理解し、コミュニケーション能力をつける。異文化について考える力を養う。同時に日本の都市や詩歌の紹介を通じて日本の文化について知識を深める。そのほか、初級後半から中級前半の文法事項について理解力と表現力を養成することを目指す。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	導入 各課の内容と全体の流れの説明	・「挨拶や会話」導入 ・「異文化コミュニケーションインタビュー」導入 ・「異文化メモ」導入 ・「地方紹介」 ・日本の詩歌：俵万智の短歌『サラダ記念日』所収 ・音楽：神山純一「旅立ちの時」	姫野　昌子（放送大学客員教授） 伊東　祐郎（東京外国語大学教授） 田山のり子（東京外国語大学教授） 藤森弘子（東京外国語大学教授） 初鹿野阿れ（東京国際大学講師） 池田智子（桜美林大学准教授）	姫野昌子（放送大学客員教授） 伊東祐郎（東京外国語大学教授）
2	会話① 異文化コミュニケーション① 北の街　札幌	・出会いの挨拶と会話の開始 ・外国人へのインタビュー①：出会いの表現 ・異文化メモ：出会いの挨拶 ・札幌の紹介 ・日本の詩歌：三好達治の詩「雪」『測量船』所収 ・音楽：さだまさし「北の国から」	同	同

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
3	会話② 異文化コミュニケーション② 森の都　仙台	・別れの挨拶 ・外国人へのインタビュー②：別れの表現 ・異文化メモ：別れる時の表現 ・仙台の紹介 ・日本の詩歌：石川啄木の短歌『一握の砂』所収 ・音楽：さとう宗幸「青葉城恋唄」	同	同
4	会話③ 異文化コミュニケーション③ 首都　東京	・電話の終了 ・外国人へのインタビュー③：電話で話した経験 ・異文化メモ：電話での話し方 ・東京の紹介 ・日本の詩歌：高村光太郎の詩「あどけない話」『智恵子抄』所収 ・音楽：喜多郎「キャラバンサライ」	同	同
5	会話④ 異文化コミュニケーション④ 北の小京都 金沢	・謝罪の会話 ・外国人へのインタビュー④：謝罪の経験 ・異文化メモ：謝罪の表現と態度 ・金沢の紹介 ・日本の詩歌：室生犀星「小景異情」『抒情小曲集』所収 ・音楽：倉本悠基「哀しみの空」	同	同
6	会話⑤ 異文化コミュニケーション⑤ 商業都市 名古屋	・言い訳の会話 ・外国人へのインタビュー⑤：言い訳の経験 ・異文化メモ：言い訳の表現と態度 ・名古屋の紹介 ・日本の詩歌：寺山修司「故郷の母のことを思い出したら」『人生処方詩集』所収 ・音楽：苫米地義久「ほのかな夜明け」	同	同
7	会話⑥ 異文化コミュニケーション⑥ 古都　京都	・依頼と承諾の会話 ・外国人へのインタビュー⑥：依頼の経験 ・異文化メモ：依頼の心遣い ・京都の紹介 ・日本の詩歌：与謝野晶子の短歌『みだれ髪』『恋衣』所収 ・音楽：城乃内ミサ「京の小道」	同	同
8	復習	復習 ・音楽：宗次郎「エンサールの森」	同	同

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
9	会話⑦ 異文化コミュニケーション⑦ 商業の街 大阪	・誘いと承諾の会話 ・外国人へのインタビュー⑦：間接的な誘いの経験 ・異文化メモ：誘いの表現法 ・大阪の紹介 ・日本の詩歌：茨木のり子の詩「六月」『見えない配達夫』所収 ・音楽：「宵待ち草」	同	同
10	会話⑧ 異文化コミュニケーション⑧ 平和を願う街 広島	・断りの会話 ・外国人へのインタビュー⑧：間接的に断られた経験 ・異文化メモ：断りの表現法 ・広島の紹介 ・日本の詩歌：峠三吉『原爆詩集』序 ・音楽：中国地方の子守歌	同	同
11	会話⑨ 異文化コミュニケーショ⑨ 俳句と温泉の街 松山	・感謝の会話 ・外国人へのインタビュー⑨：感謝の表現に関する経験 ・異文化メモ：感謝の表現法と習慣 ・松山の紹介 ・日本の詩歌：正岡子規の俳句『寒山落木』所収 ・音楽：宮城道雄「春の海」	同	同
12	会話⑩ 異文化コミュニケーション⑩ 異国への窓 長崎	・贈答の会話 ・外国人へのインタビュー⑩：贈答の経験 ・異文化メモ：贈答の習慣 ・長崎の紹介 ・日本の詩歌：金子みすゞの詩「大漁」『金子みすゞ全集』所収 ・音楽：島原地方の子守歌	同	同
13	会話⑪ 異文化コミュニケーション⑪ 南国　鹿児島	・ほめやねぎらいの会話 ・外国人へのインタビュー⑪：ほめとねぎらいの経験 ・異文化メモ：ほめやねぎらいの表現と態度 ・鹿児島の紹介 ・日本の詩歌：若山牧水の短歌『海の声』所収 ・音楽：五木の子守唄	同	同
14	会話⑫ 異文化コミュニケーション⑫ 南の島々 沖縄	・苦情・不満の会話 ・外国人へのインタビュー⑫：会社勤めの体験と苦情の経験 ・異文化メモ：苦情・不満の表現法 ・沖縄の紹介 ・日本の詩歌：谷川俊太郎の詩「かなしみ」『二十億光年の孤独』所収 ・音楽：安里屋ユンタ	同	同

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
15	総復習	総復習 ・音楽：姫神「海道を行く」	同	同

事務局記載欄	開講年度	２０１１年度	科目区分	共通科目（外国語）	科目ｺｰﾄﾞ	1357026	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　初歩のアラビア語　　（’１１）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：鷲見朗子（京都ノートルダム女子大学教授）〕

【本学担当専任教員：高橋　和夫（放送大学教授）】

講義概要

アラビア語は中東・北アフリカを中心とする20以上の国と地域で話され、国連の公用語にもなっている世界の主要言語の1つです。また、世界人口の約5分の1が信徒であるイスラームの言語でもあります。第1回から第6回では、28文字からなるアラビア語のアルファベットをマスターします。同時に、簡単な会話表現も学習していきます。第7回から最終回までは、スキットに登場する基本フレーズを理解しながら、やさしいアラビア語の単語、表現、文法の学習を行います。練習問題にも挑戦して、応用力をつけていきます。毎回お送りする「サカーファ」（アラビア語で「文化」）のコーナーでは、アラブの人々の生活、宗教、歴史、芸術にかかわる文化のさまざまな側面を紹介します。

授業の目標

この科目のねらいは、アラビア語の読む・書く・聴く・話すことの基本を、アラブ文化に触れながら、楽しく習得することです。アラビア語学習に主軸をおきながらも、アラブの人々の暮らしや文化事情が豊富に盛り込まれた映像とインタビューを通して、「生の」アラブ文化についても理解を深めていきます。前半は、初めてアラビア語の世界へ足を踏み入れた人でもアラビア文字を無理なく習得できるように、各文字の書き順、文字のつなげ方、発音を丁寧に学習し、文字に慣れていきます。文字に慣れた後は、ごく日常的な表現を学びながら、語彙力とともに読み書きを含めたコミュニケーション力を養います。豊富な例文により、名詞の性から動詞活用までの基本的な文法も理解していきます。

履修上の留意点

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	こんにちは～アラビア文字を用いる他言語～	アラビア語の世界への扉を開く、文字と発音の第1回です。書き方（右から左へ）、28文字からなるアルファベット、文字同士の結合の仕方など、アラビア語の特色を学びます。 【サカーファ（アラブ文化）】アラビア文字を用いているのはアラビア語だけではありません。このアラビア文字の普及はイスラームという宗教の存在が大きく、イスラームとともに広まっていきました。 【キーワード】 アラビア語、アラビア文字、補助記号	鷲見朗子（京都ノートルダム女子大学教授）、依田純和（大阪大学特任助教）、福田義昭（大阪大学非常勤講師）、森口明美（大阪大学非常勤講師）	鷲見朗子（京都ノートルダム女子大学教授）
2	おはよう～フスハーとアーンミーヤ～	アルファベットの最初から順に、発音、書き方、文字のつなげ方を学んでいきます。母音記号と無母音記号を導入します。また、「おはよう」の会話表現を学習します。 【サカーファ】アラビア語はフスハー「書きことば」とアーンミーヤ「話しことば」に分けられます。2つの違いは大きく、用途も異なります。 【キーワード】 アラビア文字、母音記号、無母音記号	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
3	こんばんは～アラブとは、中東とは、イスラームとは～	ひきつづき文字と発音を少しずつ確実に覚えていきます。文字ごとに発音、書き方、文字のつなげ方の練習をします。ハムザという記号、そして「こんばんは」という表現を学びます。 【サカーファ】アラブ、イスラーム、中東とはいったい何をさすことばなのかを学びます。イスラームの聖典クルアーンの朗誦も聴いてみます。 【キーワード】 アラビア文字、文字のつなげ方、ハムザ	同上	同上
4	ようこそ～アラビア書道の芸術～	アラビア文字を正しい発音で読み、スムーズに書くことができるよう、繰り返し練習します。母音記号以外の補助記号の用法を学びます。初めて会ったときの会話表現も学習します。 【サカーファ】アラブ世界にも書道があり、国際的にも高い美的価値をもった芸術として認められています。書家のインタビューを通じてさまざまな書体や作品を見ます。 【キーワード】 アラビア文字、重子音記号	同上	同上
5	元気ですか～ベリーダンスの情熱～	文字と発音の第5回です。文字同士の結合の仕方と文字の発音をさらに練習します。「元気ですか」の表現を覚え、書く練習をします。アラブの街角のカラフルな看板も読んでみます。 【サカーファ】中東で生まれ、現在世界で人々に親しまれているベリーダンスがテーマです。国際的に有名なレバノン人ダンサーが登場します。 【キーワード】 アラビア文字、文字のつなげ方	同上	同上
6	アッサラーム・アライクム～アラブの青年ハーニーさんの生活～	文字と発音の仕上げです。定冠詞の書き方と発音の仕方、アルファベット以外の文字や記号について学びます。さらに今回は、アラブの国名を読む練習やクロスワードパズルにも挑戦します。「アッサラーム・アライクム」という表現も学びます。 【サカーファ】エジプトの首都カイロに住むハーニーさんの生活の一端をかいまみます。 【キーワード】 ワスラ記号、定冠詞、太陽文字	同上	同上
7	あなたの名前は？～アラブ人の名前～	いよいよスキットの始まりです。スキットに出てくる基本フレーズを通して、文の構造と単語を学習していきます。アラビア語には男性と女性の2つの性があります。この使い分けも学びます。 【サカーファ】アラブ人の名前の成り立ち、そして日本名の書き方を学びます。自分の名前をアラビア文字で書いてみます。 【キーワード】 名詞の性、疑問文	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
8	あなたはアラブ人ですか～アラブの音楽～	自分の出身を伝える表現を学びます。「○○人」という表現と独立人称代名詞を組み合わせて文章を作る練習をします。数字0～10とその読み方も学習します。 【サカーファ】アラブの人々の生活には音楽があふれています。アラブ人歌手のインタビューと歌を楽しみます。 【キーワード】 独立人称代名詞、ニスバ語尾、数字1～10	同上	同上
9	モスクはどこですか～日本のモスク～	「～はどこですか」という表現を学びます。定冠詞と形容詞の用法を理解し、定冠詞、名詞、形容詞で文を作る基本を学びます。 【サカーファ】日本のモスク（イスラームの礼拝場）について学び、日本人ムスリムの方に入信のきっかけなどをききます。 【キーワード】 定冠詞の用法、形容詞	同上	同上
10	これは私の父です～家族の絆～	接尾人称代名詞とともに家族を紹介する基本フレーズを学びます。さらに指示代名詞と「○○があります」の表現を学習します。 【サカーファ】アラブ社会は近親を含めた拡大家族制度が基盤となっており、家族員同士が多くの面で支えあっています。 【キーワード】 接尾人称代名詞、指示代名詞、フナーカ	同上	同上
11	いつもみなさんがお元気でありますように～ラマダーン月～	「AのB」を表すイダーファの構造を学びます。前置詞を使った所有の表現と「お願いします」の表現も習います。 【サカーファ】ムスリムはイスラームの断食月であるラマダーンのあいだ、日の出から日没まで一切の飲食が禁止されます。 【キーワード】 イダーファ、前置詞を使った所有の表現	同上	同上
12	これらのお寺や神社は素晴らしいです～アルハンブラ宮殿とアラブ詩～	アラビア語の双数や複数を用いた文章表現を学びます。複数には語尾複数と語幹複数があります。反復練習でいろいろな単語の複数形を覚え、語彙力アップにも努めます。 【サカーファ】イベリア半島最後のイスラーム王朝が建てたアルハンブラ宮殿とその壁面に刻まれたアラブ詩句を読んでみます。 【キーワード】 単数、双数、複数	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
13	アラビア語を勉強しています～ヴェールとヘンナ装飾～	「アラビア語を勉強しています」という表現を学びます。動詞未完了形活用を繰り返し練習し、「私は○○がほしい」という表現も学習します。 【サカーファ】ムスリム女性がかぶるヴェールと中東・アラブ地域の女性が手足の装飾に使う染料ヘンナについてです。 【キーワード】 動詞未完了形、「私は○○がほしい」という表現	同上	同上
14	パレスチナ料理を食べましたか～料理とともてなしの心～	「○○をしましたか」などの動詞完了形を含んだ文を学習します。各人称に対応する動詞の活用を繰り返し練習します。アラビア語の語根についても学習します。 【サカーファ】アラブでは人を招き、ごちそうすることが徳の高い振る舞いであると考えられています。 【キーワード】 動詞完了形、語根と語形パターン	同上	同上
15	ジュハーが好きです～アラブの笑い～	スキットではジュハーというアラブの昔話に出てくるユーモラスな人物についての小話を紹介します。最終回は等位文の否定ライサを学び、復習をかねて疑問詞と自己紹介文を確認します。 【サカーファ】アラブ人は笑いやユーモアが大好きで、小話や笑話を語ることで「笑い」の民衆文化を形成してきました。 【キーワード】 等位文の否定ライサ、疑問詞、自己紹介	同上	同上

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1510118	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　生活知と科学知　　（’０９）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：奈良由美子（放送大学准教授）〕

〔主任講師（現職名）：伊勢田哲治（京都大学大学院准教授）〕

講義概要

科学知（科学的手法によって獲得される客観的な知）と生活知（生活のなかに埋め込まれてきた経験的な知）とはこれまで別々に扱われることが多かった。むしろ、これらを切り離して論じることは、教える側と教えられる側、専門家と一般市民、生産者と消費者といった立場の分離がより明確になることで発展した近代・現代社会になじむものであった。しかし今日顕在化する様々な問題の解決には、異なる立場間の価値観・意見そして知のコミュニケーションが求められるようになってきている。この授業では、生活知と科学知の観点から、生活および生活者の課題を論究するものである。

授業の目標

人間は誰しも生活する主体（＝生活者）である。本科目では、生活を主体的にデザインし構築するてがかりを受講者が得るための、知識の提供と検討能力の育成を行うことを目的とする。

履修上の留意点

「現代の生活問題（’07）」および「社会技術概論（’07）」を学んでおくことが望ましい。また、生活主体をめぐる現代的実態と課題をより深く学ぶため、「生活とリスク（’07）」および「変動する社会と暮らし（’07）」も履修するとよい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	生活知と科学知によるコミュニケーションの時代の到来	科目全体の導入回として、生活知と科学知のコミュニケーションの意義についての問題提起と、科目（学習）の到達点の提示を行う。同時に主要概念の定義を示しておく。 【キーワード】 知、生活、生活の主体、専門家、科学、科学技術、生活知、科学知	奈良由美子（放送大学准教授） 伊勢田哲治（京都大学大学院准教授）	奈良由美子（放送大学准教授） 伊勢田哲治（京都大学大学院准教授）
2	日常生活のなかの科学(1)	日常生活と科学は縁がないように感じられるだろうが、実は日々の家事、育児などは知らず知らずのうちに科学手知識、科学的思考法を駆使して行われているものである。生活者は上記のような科学に裏付けられた生活をしている、ということを家事、育児などの事例を交えて紹介する。 【キーワード】 日常生活、家事、育児、知恵、科学的知識、科学的思考	内田麻理香（東京大学特任教員）	内田麻理香（東京大学特任教員）
3	日常生活のなかの科学(2)	第2回では生活が科学に囲まれており、しかも生活することのひとつひとつが科学的思考そのものであることを説明した。この回では、科学リテラシーは多かれ少なかれ生活者である皆が持っているものだということを検討する。また、テレビというメディアを通した発信の経験から、科学リテラシーの欠如がいかに身の危険に結びつくということを考えていく。 【キーワード】 リテラシー、PISA、科学リテラシー、日常生活、メディア	内田麻理香（東京大学特任教員）	内田麻理香（東京大学特任教員）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	日常生活のなかの批判的思考法	科学知の中でも健康に関する情報は日々の生活と密接な関係を持つが、その分科学的な装いをもったあやしい情報が多いことも確かである。第四回ではそうした事例を例にとりつつ、批判的思考、メディアリテラシー、科学的思考といった思考のツールについて学ぶ。 【キーワード】 批判的思考、メディアリテラシー、科学的思考、科学方法論	伊勢田哲治（京都大学大学院准教授）	伊勢田哲治（京都大学大学院准教授）
5	生活のマネジメント	生活が科学的な側面を持つ営為であることを示すひとつの考え方として、「生活のマネジメント（生活経営）」について、その概念や手法を紹介する。さらに生活経営のなかでの知の位置づけについても考える。 【キーワード】 生活、マネジメント、生活経営の構造と要素、PDSサイクル、リスクマネジメント、生活認識、生活実践	奈良由美子（放送大学准教授）	奈良由美子（放送大学准教授）
6	社会技術と生活	この回では、科学が広範な社会のなかで活用され、ひいては生活のよりよさに貢献していることを「社会技術」という考え方を用いて考えたい。まず社会技術の概念をおさえる。そのうえで社会技術の開発と実装の実例を見ていき、その開発・実装における課題を考察する。 【キーワード】 社会技術、社会の中の科学・社会のための科学、社会実装、社会問題、シーズとニーズ、協働	奈良由美子（放送大学准教授）	奈良由美子（放送大学准教授）
7	安全と安心をめぐる知	安全と安心について市民と技術者の双方から考える。技術者はこれまで安全を確保することは重視してきたが、安心を産み出すために何が必要かはあまり考えてこなかった。市民の側も、ただ不安だと言うだけでなくどうすれば安心できるのかを技術者と一緒に考えて行く必要があるだろう。本章では、安全、安心の定義について検討した後、安心を産み出すために必要な信頼をいかに醸成するためのコミュニケーションの在り方、また、市民に求められる科学リテラシーについて考察する。 【キーワード】 安全、安心、科学技術基本計画、技術者倫理、価値共有、リスク・コミュニケーション	札野 順（金沢工業大学教授）	札野 順（金沢工業大学教授）
8	科学技術コミュニケーション	近年世界的に盛んになっている科学技術コミュニケーションについて、その目的や方法論、歴史的・社会的背景、科学技術コミュニケーションの実践例と教育の現状を理解するとともに、生活者としての市民の科学技術との関わり方を考える。 【キーワード】 科学技術コミュニケーション、一般市民の科学理解、欠如モデル、啓蒙型と対話・参加型、サイエンスカフェ	平川秀幸（大阪大学コミュニケーションデザイン・センター准教授）	平川秀幸（大阪大学コミュニケーションデザイン・センター准教授）
9	生活における科学知の利用--サイエンスショップの取り組み—	日常生活や地域社会の問題解決に関する市民からの相談や依頼に基づいて、大学の学生や教員が調査・研究、専門的アドバイスを行うサイエンスショップは、生活知と科学知が交流する対話・参加型の科学技術コミュニケーションの重要な一例である。その理念と歴史、実際の運営について、大阪大学など国内の事例も含めて紹介し、サイエンスショップを通じた市民と科学および大学との新しい関わり方の可能性について考える。 【キーワード】 市民科学、サイエンスショップ、市民と大学の新しい関係	平川秀幸（大阪大学コミュニケーションデザイン・センター准教授）	平川秀幸（大阪大学コミュニケーションデザイン・センター准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	科学知に対する市民からの支援	科学研究が資金面でどのように支えられてきたのかという歴史的な変遷について学ぶとともに、基礎科学への市民の支援のありかたについて考える。新しい関わり方の提案として、「市民的パトロネージ」という考え方と名古屋大学における具体的な事例を紹介する。 【キーワード】 大学、研究資金、市民的パトロネージ	伊勢田哲治（京都大学大学院准教授）	伊勢田哲治（京都大学大学院准教授）
11	生活者による科学技術の評価	自分たちの生活にかかわる科学技術に対して、生活者が主体的な評価を行い選択することの実態と課題を考える。具体的な素材として商品テストと商品開発をとりあげる。 【キーワード】 商品評価、商品テスト、商品開発、消費者主導型商品開発	奈良由美子（放送大学准教授）	奈良由美子（放送大学准教授）
12	リスクガバナンスと生活知	不確実性と多様な価値観・利害のもとで、専門家、政策立案者、企業、市民・市民団体など多様な主体が相互作用しながら意思決定を行うリスクガバナンス。その基本的な考え方を紹介するとともに、市民がリスクガバナンスに主体的に関わり、生活知を活かしていくための方法論と、その可能性、課題について、生活者の視点から考える。 【キーワード】 リスクガバナンス、リスク分析、生活者の視点、市民参加の方法論	平川秀幸（大阪大学コミュニケーションデザイン・センター准教授）	平川秀幸（大阪大学コミュニケーションデザイン・センター准教授）
13	ローカルな知識の活用	ローカルな知識という考え方に焦点をあて、ローカルな知識を科学知と対等な立場で問題解決に生かして行く可能性について、霞ヶ浦アサザプロジェクトなどの具体例を手がかりに考える。 【キーワード】 ローカルな知識、伝統的生態学的知識、自然再生事業	伊勢田哲治（京都大学大学院准教授）	伊勢田哲治（京都大学大学院准教授）
14	文化・価値と科学	この講義で紹介してきたような科学知の捉え直しの背景には、科学哲学や科学社会学における科学のイメージの変化がある。今回は、そうした理論的背景について、特に文化や価値が科学にどう影響してきたか、そしてそれが科学の合理性とどうかかわるかについて考える。 【キーワード】 合理主義、科学のエートス、社会構成主義、社会認識論	伊勢田哲治（京都大学大学院准教授）	伊勢田哲治（京都大学大学院准教授）
15	知のコミュニケーションと生活者の主体性	知のコミュニケーションをめぐっての生活者と専門家の努力、とくに生活者の主体性という観点からこれまでの授業を総括する。 【キーワード】 知をめぐる努力、21世紀の科学者・技術者像、21世紀の生活者像、主体性、当事者意識、知識循環、交易圏	奈良由美子（放送大学准教授） 伊勢田哲治（京都大学大学院准教授）	奈良由美子（放送大学准教授） 伊勢田哲治（京都大学大学院准教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1511009	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝　家族のストレスとサポート　（’０８）＝（R）

※この科目は「家族のストレスとサポート(’04)」を一部改訂した科目です。
改訂回は1，13，15回です。

〔主任講師（現職名）：石原　邦雄（成城大学教授）〕

講義概要

家族が大きく変化しつつあり、家族の捉え方も多様化しているなかで、ストレス論による家族のさまざまな局面を見ていく。それらの分析をふまえて、これからの家族像を多面的に描いてみる。

授業の目標

今日の家族の問題を、ストレスという観点から捉えなおし、家族の抱える困難や、直面する危機状況への対処の過程を検討するとともに、困難の克服あるいは危機の予防に働く各種のサポートのあり方を考える。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	家族への着目と社会学からの接近 **(※改訂回)**	不況は脱したとされながら、各種の「格差」は拡大しているとも言われ、また国民的目標も拡散する中で、新しい世紀は不安な幕開けとなっている。人々は、家族を拠り所としようとするが、家族自体も変化し多様化しており、これもまた人々の不安材料になっている。家族の問題性を、社会学ではどのように捉えようとするのか。	石原　邦雄（成城大学教授）	石原　邦雄（成城大学教授）
2	ミクロ社会システムとしての家族	家族は、制度として、集団として、二者関係の複合として、さらには個人の意識や認知の次元など、様々なレベルで捉えられる。またこれを、動態的に捉える場合でも、社会全体の中での家族のあり方の変化、家族が示すある種の発達的・規則的な変化、さらには困難を抱えた家族が個別のケースとしてたどる変化過程など、様々な捉え方が錯綜することになる。これらを整理しておこう。	同　上	同　上
3	ストレス研究の諸概念	ストレス研究の諸概念（ストレッサー、ストレス、ディストレス、資源、対処など）を説明する。ディストレスの社会的パターンについて論じ、ストレッサーとしての家族、サポート源としての家族について説明する。	稲葉　昭英（首都大学東京准教授）	稲葉　昭英（首都大学東京准教授）
4	ネットワーク論からみた家族関係	ネットワーク論の基本的考え方を示し、家族関係とそれ以外の人間関係ネットワークとの関連を論じる。とくに、サポート資源とストレス源、あるいは機会と拘束というネットワークの二面性に焦点をあてる。	野沢　慎司（明治学院大学教授）	野沢　慎司（明治学院大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	ネットワークとサポート	育児する母親や父子家庭の父親などを対象にした研究例を紹介しながら、ネットワーク構造が個人の心理的な安寧にどのような効果を及ぼすかを検討する。最近のインターネット普及の社会的意義についても触れる。	野沢　慎司	野沢　慎司
6	家族ストレス論の形成	ストレスモデルの家族への適応としての家族ストレス論とはどのようなものであり、どのような背景の中で成立してきたのか。R. ヒルを中心とした、理論の形成を辿る。	石原　邦雄	石原　邦雄
7	家族ストレス論の展開	ヒルの家族ストレス論を継承発展させた、H.I.マッカバンの2重ABC・Xモデルを中心に解説し、併せて、これと異なる理論化の方向にも注目する。	同　上	同　上
8	自然災害の被災者家族	家族ストレス研究で早くから取り組まれ、日本でも各種の研究が行われている自然災害の例を中心に、多くの家族を巻き込む地域的な環境の急変にさらされた事態における家族の様相と対応形態について検討する。	同　上	同　上
9	難病・障害と家族の危機	家族メンバーの一人が回復の困難な難病や障害を持つことになった場合、家族は最も身近かな援助者、扶養者としてどのようにしてその困難に対処していくか。多くの研究例を見ながら考える。	同　上	同　上
10	経済的危機と家族	これも家族ストレス論の成立に関連の大きかった、世界大恐慌のもとでの家族生活の困難と、それへの対応過程について、G.H.エルダーの研究例を紹介するとともに、近年の不況とも重ね合わせながら見ていく。	同　上	同　上
11	結婚とディストレス	・婚姻上の地位とディストレスの関連を検討することで夫婦関係が男性にとって持つ意味と女性にとって持つ意味の差異を論じる。 ・配偶者からのサポートの性別非対称的な構造について論じる。	稲葉　昭英	稲葉　昭英

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	仕事と家庭の葛藤と調整	・育児期の女性のディストレス、学齢期の子を持つ時期の女性のディストレスに着目することで家族と職業の関連を考える。 ・crossover effect, spill over effectに関するアメリカの研究を紹介し、職業生活と家族生活がどのような関連にあるのかを考える。	稲葉　昭英	稲葉　昭英
13	ステップファミリーのストレスとサポート **（※改訂回）**	継親子関係を含む再婚家族（ステップファミリー）が日本でも増加していると推測される。血縁関係のない継親子関係、継きょうだい関係を意識的に構築しながら家族をつくることの困難とサポートの意義を探る。	野沢　慎司	野沢　慎司
14	親子関係のライフコースとストレス	家族規範が揺らぐなかで、なお多くの家族が高齢者の扶養を実際に担っており、世代間の扶養関係は、親族関係も巻き込んで家族生活上の困難を生じさせる大きな問題であり続けている。他方、初期の親子関係や青年期・中期の親子関係にも新たな問題が生じている。	石原　邦雄	石原　邦雄
15	家族する困難と家族の将来 **（※改訂回）**	家族が大きく変化しつつあり、家族の捉え方も多様化しているなかで、ストレス論による家族分析をふまえて、これからの家族像をどのように描けるだろうか。	同　上	同　上

事務局記載欄	開講年度	２０１１年度	科目区分	専門科目	科目コード	1518119	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　人口減少社会のライフスタイル　（’１１）＝　（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：宮本　みち子（放送大学教授）　〕

講義概要

ポスト工業化、経済のグローバル化、少子・高齢化などの社会変動は、人々のくらし、地域社会、仕事の世界を秩序づけてきた構造を大きく変えつつある。なかでも人口増加社会から人口減少社会への転換、および成長型社会からゼロ成長またはマイナス成長社会への転換は、これまでとは異なるインパクトを社会の諸相に大きな影響をおよぼしている。その実態を、とくに世代・家族・地域という切り口から明らかにし、これからの暮らしと社会の新しい地平を展望する。

授業の目標

履修上の留意点

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	人口減少社会の見方	「人口減少社会」の人口学的意味を理解するには、人口転換という概念の理解が必要である。人口転換とは多産多死から少産少死への人口動態の一大転換であるが、必然的に人口規模と人口年齢構造の変化（人口増加と高齢化）をもたらす。人口増加の時代が終わり人口減少社会を迎えたことは、人口転換が完了したことにほかならない。しかし、日本をはじめとする先進諸国は、さらに超少子高齢化と人口減少という、新しい位相に入りつつあることを述べる。 【キーワード】 人口転換、少子化、人口高齢化、出生率、死亡率	佐藤龍三郎（国立社会保障・人口問題研究所）	佐藤龍三郎（国立社会保障・人口問題研究所）
2	少子高齢化のメカニズムと背景要因	ここでは少子化（人口置換水準を下回る低出生力）と人口高齢化の原因について述べる。いずれも機序（メカニズム）と背景要因に分けて理解する必要がある。少子化の機序は主に結婚率低下と夫婦出生率低下であり、背景要因は経済学、社会学、医学生物学など多方面から探求されている。他方、人口高齢化は主に寿命伸長（長寿化）と低出生力によってもたらされることを示す。 【キーワード】 人口置換水準、少子化、長寿化	佐藤龍三郎（国立社会保障・人口問題研究所）	佐藤龍三郎（国立社会保障・人口問題研究所）
3	少子・高齢社会への取り組み	21世紀の日本が超少子高齢化・人口減少に直面することはもはや不可避といえる。政策対応としては、そのような事態に対応して社会・経済システムを見直すこと、低すぎる出生力を是正すること、外国から移民を受け入れることなどが考えられる。しかし、いずれも政策の実施は容易ではないことを述べる。 【キーワード】 超少子高齢化・人口減少、政策対応	佐藤龍三郎（国立社会保障・人口問題研究所）	佐藤龍三郎（国立社会保障・人口問題研究所）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	少子・高齢社会のライフコース	近年の社会変動が、人々のライフコースにどのような影響を及ぼしているかをみていく。また、主体性と選択性という価値観が重要性を帯びているが、人々のライフコースにおいてそれがどのように発揮され、あるいは阻害されているのかを検討する。 【キーワード】	宮本みち子（放送大学）	宮本みち子（放送大学）
5	仕事の世界と働き方	終身雇用制の崩壊、中高年者のリストラ、若年者の無業化やフリーター化、女性の就労化など労働市場は大きく変化している。仕事の世界の変化は世代・階層・ジェンダーごとに、その暮らしとライフコースに大きな影響を及ぼしつつある。また、職業という形態をとらない有益な仕事の重要性も増している。これらの実態を整理し、これから時代の仕事と働き方を展望する。 【キーワード】 終身雇用制、職業、ワークライフバランス、性役割、	宮本みち子（放送大学）	宮本みち子（放送大学）
6	変わる家族・家庭	人々の暮らしにとって、家族は重要な構成要素となっている。しかし家族の変化は著しく、これまでの暮らしの前提の見直しが必要とされている。そこで家族の実態とその歴史的変化を整理する。とくに、近年の労働力の女性化、非婚化、少子・高齢化、性役割構造の変化などを中心に、家族をめぐる状況変化を概観する。 【キーワード】	宮本みち子（放送大学）	宮本みち子（放送大学）
7	若者期の光景	ライフサイクルの各段階でライフスタイルは多様化し、それにともなう問題や課題がある。若者期に関しては、高等教育の大衆化、若年労働市場の逼迫と流動化、若者の職業意識の変化、晩婚化・非婚化が著しい。そこで、若者期の暮らしの実態と意識や行動の特徴を検討し、そこでの問題や課題を探る。 【キーワード】	宮本みち子（放送大学）	宮本みち子（放送大学）
8	中年期の光景	現役世代を、前半期と後半期に分けてみていく。前半は30代から40代前半の家族形成期であるが、未婚者や離婚経験者も増加している。その実態と課題を総合的に探る。後半は40代後半から50代の中年期であるが、この世代の家庭、仕事、ライフスタイルの実態を述べ、そこでの問題や課題を探る。 【キーワード】	宮本みち子（放送大学）	宮本みち子（放送大学）
9	高齢期の光景	まもなく本格的な高齢社会に入るが、向老期と高齢期の実態を、家族、雇用、社会保障、福祉と医療，社会活動等の切り口でみていく。また、親子関係に焦点をあてて交差する世代間の関係性を検討し、家族、社会保障、地域社会において、既存の世代区分、対立を超えた新しい世代間共同を作る課題を検討する。 【キーワード】	宮本みち子（放送大学）	宮本みち子（放送大学）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	人口移動と地域	少子高齢化はグローバル化や情報化とあわさって大きなうねりとなり生活に影響を及ぼす。その動態のなかで、地域もまた変容していく。生活者にとって地域が果たしてきた、子育て・教育の機能、生活文化伝承の機能、安全確保・リスク管理の機能などが、人口減少社会においてどのように変わっていくのか、その実態と課題を考える。 【キーワード】	吉田良生(椙山学園大学)	吉田良生(椙山学園大学)
11	過疎地のゆくえ	人口減少と少子高齢化によって、過疎化する地域が増加している。その実態を明らかにし、過疎化に対する政策と取り組みの実態を述べる。 【キーワード】	吉田良生(椙山女学園大学)	吉田良生(椙山学園大学)
12	グローバル化と多文化社会	経済のグローバル化にともなって国境を越えて人口移動が進んでいる。さらに、人口減少にともなって、これまで以上に移民の受け入れが進むだろう。多文化化する日本の現状と課題を整理し、多文化社会における社会システムのあり方を、多様な角度から検討する。 【キーワード】 外国人労働者、多文化社会、移民政策	吉田良生(椙山女学園大学)	吉田良生(椙山学園大学)
13	変わる生活の質・生活の価値	人口減少社会における社会システムの設計には、パラダイムの転換と新たな合意形成手法の確立が求められることになる。このとき、生活価値も生活状況も異なる複数の個人の生活の範域である地域は、合意形成の行われる最も身近な社会実態となる。人口減少社会における地域を考えることで、新たな社会設計を考える手がかりを検討していく。 【キーワード】 市民社会、住民参加、地域社会、参加型社会	岡部卓(首都大学東京)	岡部卓(首都大学東京)
14	人口減少社会の社会保障	少子・高齢社会における社会保障の課題を整理し、あらたな社会保障制度を構想する。 【キーワード】 年金制度、医療制度、福祉制度、少子高齢化	岡部卓(首都大学東京)	岡部卓(首都大学東京)
15	人口減少社会の社会政策	福祉社会は、自助・共助・公助の福祉ミックスによって成り立つ。そこでの課題を3点にわたって述べる。第一の課題は、共助によって成り立つ市民社会をどのように形成するかである。第二の課題は、市民社会の担い手をどのように育成するかである。第三の課題は、生活の内実を高め、安定性と創造性のある暮らしを実現するためにどうしたらよいかである。 【キーワード】 自助、共助、公助、福祉国家、福祉社会、社会的包摂	岡部卓(首都大学東京)	岡部卓(首都大学東京)

事務局記載欄	開講年度	２０１１年度	科目区分	専門科目	科目コード	1518011	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　ものとして、心としての衣服　（’１１）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：牛腸ヒロミ（実践女子大学教授）　〕

【本学担当専任教員：宮本みち子（放送大学教授）　】

講義概要

人は物理的、生理的な快適さを求めて衣服を着用する。また意識的、無意識的に何かを表現している。まず着心地に関わる被服材料の基礎知識について学び、その物性値と官能評価値との関係を明らかにする。次に、衣服と人体生理との関係や色やファッションが人間の心に及ぼす影響について論じる。また、伝統的な衣生活の中から、藍染め、継ぎ、刺し子、パッチワークなどを取り上げ、その技術と心を解説する。さらに衣服やファッションが表現する意味についてヨーロッパ社会を中心に解説する。

授業の目標

ものとしての衣服に必要な被服材料の物理特性や染色加工の基礎を理解し、特に着心地に関わる被服材料の性能と人間の主観的評価との関係について、その測定方法とともに理解する。さらに色、衣服、ファッションが人間に、そして社会にどのような影響を与えるかを理解する。

履修上の留意点

この科目の内容は、被服材料学、染色加工学、被服衛生学、被服心理学、服飾史など自然科学、社会科学、人文科学と幅広い分野に及んでいるので、それぞれの領域の本を読んでおくと理解しやすいであろう。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	ものとして、心としての衣服	私たちが衣服を着用する目的は大きく分けて二つある。一つは雨、風、日光、外からの圧力などから身を守るためで、衣服はものとして機能している。二つ目は自己表現や社会慣習への順応のためで、衣服は心を表している。講義内容を概観する。 【キーワード】 着装、機能、自然環境、社会環境、自己表現	牛腸ヒロミ（実践女子大学・教授）	牛腸ヒロミ（実践女子大学・教授）
2	着心地に関わる被服材料の性質	着心地と密接に関わっている被服の肌触り・風合いには、被服を構成している布の力学特性（引張、曲げ、せん断、圧縮特性）と表面特性、また移動特性（熱・水分・空気）が関係している。これらの性質について概説するとともに、これらの性質に影響を及ぼす繊維・糸の性質についても述べる。 【キーワード】 着心地、被服材料、繊維、糸、織物、編物、力学的特性、表面特性、快適性、風合い	井上真理（神戸大学大学院・准教授）	井上真理（神戸大学大学院・准教授）
3	被服材料の改質と新しい被服材料	防縮加工や形態固定加工など、被服として着用する際の被服材料の欠点を改良する加工を紹介し、さらに、化学繊維に新しい機能を付与した新素材について、着心地に関わる性能を中心に解説する。 【キーワード】 改質、防縮、形態安定、機能加工、吸水・吸汗、蓄熱保温、抗菌防臭、ストレッチ	牛腸ヒロミ（実践女子大学・教授）	牛腸ヒロミ（実践女子大学・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	風合いの主観的評価と客観的評価	布の柔らかさ、なめらかさなどに対応するこし、ぬめり、ふくらみなどの風合いと、用途に応じた品質の良さを人が判断する評価方法、すなわち官能評価の方法について概説する。また、人が感覚として評価する肌触り・風合いを被服材料の物理特性から予測計算する方法とその例について述べる。 【キーワード】 風合い、主観的評価、客観的評価、力学的性質、表面特性	井上真理（神戸大学大学院・准教授）	井上真理（神戸大学大学院・准教授）
5	着心地の客観的評価	ものとしての衣服は、着装した人の感覚に影響を及ぼし、無意識的、意識的にかかわらず、人の体にも変化をもたらしている。衣服を着装したときの主観的な着心地評価と、その時に生じる生理的な変化の客観的評価との関係について、特に温熱的な要因について解説する。 【キーワード】 温冷感・重ね着・保温力・快適感・着心地・自律神経系	小柴朋子（文化女子大学・教授）	小柴朋子（文化女子大学・教授）
6	衣服の特性と人の形状・動作特性に関わる着心地の客観的評価	衣服の形やデザイン、着装状態は、人に物理的・生理的な影響を及ぼす。衣服のゆとりと人の動きやすさ、衣服圧と人体の構造など、着心地を左右する様々な衣服と人体の形状や動作特性との関係について述べる。 【キーワード】 動作性・ゆとり・衣服圧・触感・圧迫感・免疫系・自律神経系	小柴朋子（文化女子大学・教授）	小柴朋子（文化女子大学・教授）
7	ファッションが人の心に及ぼす影響	ファッションは、人に、高揚、平静、不快といった心の変化をもたらし、他人から受ける印象、あるいは自己の容姿に対する意識を、大きく左右する。ファッションが、人の心理・生理に及ぼす影響について検討し、その効果の有効利用を考える。 【キーワード】 情動性・色彩・視線・規範意識・自尊感情・ストレス・高齢者・ファッションセラピー	小柴朋子（文化女子大学・教授）	小柴朋子（文化女子大学・教授） 牛腸ヒロミ（実践女子大学・教授）
8	色が人の心に及ぼす影響	赤はインパクトが強く気分を高揚させ、青はクールで静のイメージを持ち、気持ちを沈静させる色と言われている。色がどのように人の心に影響を及ぼすのか、におい、音も含め、実験結果をまじえて解説する。 【キーワード】 光、色、色彩心理、におい、音、官能評価、SD法	牛腸ヒロミ（実践女子大学・教授）	牛腸ヒロミ（実践女子大学・教授）
9	天然染料による染色	天然染料の色と構造について解説し、染色物の染色性や機能や染色堅ろう度についての事例を報告し、堅牢性についても言及する。 【キーワード】 天然染料、植物染料、動物染料、構造、機能、変退色、堅牢度	牛腸ヒロミ（実践女子大学・教授）	牛腸ヒロミ（実践女子大学・教授） 小見山二郎（東京工業大学・名誉教授）
10	伝統的な衣生活から現在を考える(1)染織	日常生活の中から生まれた伝統的な素材と染めについて、特に草木から得られる布と藍染など天然染色を中心に、その技術と心を解説する。 【キーワード】 麻、葛布、芭蕉布、藍染、草木染	清水裕子（宇都宮大学・教授）	清水裕子（宇都宮大学・教授）　山崎和樹（染織家、東北芸術工科大学・准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	伝統的な衣生活から現在を考える(2)縫い	有史以前からヒトは日常生活の中で文化を育んできた。生活から生まれた様々な衣服文化の中から「もったいない」が反映した衣服（継ぎ、刺し子、パッチワーク）について、その技術と心を解説する。 【キーワード】 もったいない、刺し継ぎ、刺し子、寄せ裂、和服	清水裕子（宇都宮大学・教授）	清水裕子（宇都宮大学・教授）
12	ユニバーサルウエア	老若男女、大人も子どもも誰にとっても着心地のよいウエアがユニバーサルウエアである。どのような人にも対応する衣服、心豊かに過ごすために衣服がどうあるべきかを述べる。 【キーワード】 ユニバーサルデザイン、個人対応の衣服、体型、人体機能、心	清水裕子（宇都宮大学・教授）	清水裕子（宇都宮大学・教授）
13	身体呈示の社会性	衣服はひとの身体を社会化する。社会表象としての衣服の役割を、とくにジェンダーと子どもの観点で、ヨーロッパの歴史的事象を挙げて考える。 【キーワード】 ジェンダー、子ども服、下着、コルセット、異性装、羞恥心	徳井淑子（お茶の水女子大学大学院・教授）	徳井淑子（お茶の水女子大学大学院・教授）
14	模倣とファッション	ファッションにおける模倣の問題を複眼的に考えてみる。異国の服飾文化の模倣が新たなファッションを生み出した事例や、過去のファッションが服飾デザインに引用された事例、あるいは模倣が生み出す流行という現象など、模倣の創造性を考える。 【キーワード】 異文化接触、レトロ趣味、コスプレ、流行、コピーとオリジナリティ	徳井淑子（お茶の水女子大学大学院・教授）	徳井淑子（お茶の水女子大学大学院・教授）
15	現代モードと歴史の記憶	現代ファッションを歴史のなかに位置付け、その成立と特質を考える。今日的なモード規範が19～20世紀に誕生した経緯、また16世紀ヨーロッパの色彩倫理が市民社会の成立とともに今日まで及ぶ経緯を述べ、現代ファッションの文化的な厚みを考える。 【キーワード】 現代ファッション、簡素化、ダンディスム、黒服、色彩倫理	徳井淑子（お茶の水女子大学大学院・教授）	徳井淑子（お茶の水女子大学大学院・教授）

＝　食と健康（‘０６）＝（TV）

―食品の成分と機能―

〔主任講師（現職名）：中谷　延二　（放送大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：清水　誠　（東京大学大学院教授）〕
〔主任講師（現職名）：小城　勝相　（奈良女子大学教授）〕

全体のねらい

食品には栄養機能、嗜好性に関わる機能、生体調節機能がある。これらの機能を発現する成分を概説する。免疫系、消化系、循環系、神経系など生体調節の機構、有効成分について論じ、これらの成分を含む機能性食品を通じて健康の維持、がん、動脈硬化などの生活習慣病の予防への挑戦を述べ、理解を深める。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	食品の機能	食品には三つの機能がある。食品に求められる第一は生命活動の維持に不可欠な栄養素が含まれていること、これを栄養機能（一次機能）と呼ぶ。おいしさ，好みなどの嗜好性も求められる。二次機能の嗜好性にかかわる機能である。さらに生体リズムの調節、生体防御、疾病の予防・回復などの生体調節機能（三次機能）がある。高齢化社会における健康への関心が高い現在、食による疾病の予防を目指す食の科学を概説する。	中谷延二（放送大学教授）	中谷延二（放送大学教授）
2	糖　質	糖質（炭水化物）は主たるエネルギー供給源として重要である。ヒトが摂取する栄養素の中で最も摂取量の多い栄養素である。単糖類、少糖類（オリゴ糖）、多糖類の構造と化学特性を解説する。各種化合物の配糖体としても存在し機能性を発揮する。機能性オリゴ糖、機能性多糖類について多様な機能についても解説する。	中谷延二（放送大学教授）	中谷延二（放送大学教授）
3	脂　質	脂質（脂肪）はエネルギー効率の最も高い栄養素である。水に不溶で、エーテル、クロロホルムなどの有機溶媒で抽出されるものを粗脂肪と呼び植物ステロール、ワックス、脂溶性ビタミン、脂溶性色素なども含まれる。脂質の化学的特性と機能性を紹介し、代謝についても解説する。	中谷延二（放送大学教授）	中谷延二（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	タンパク質	ヒトの設計図である遺伝子に保存されている情報は、最初にアミノ酸の配列、即ちタンパク質に翻訳されるが、タンパク質は栄養素として摂取されたタンパク質の構成アミノ酸を基に構築される。生命活動の全てがそのタンパク質の機能に依存し、構造体、酵素として体成分の合成、代謝をつかさどり、免疫機能など多用で重要な機能を発揮する。タンパク質を構成するアミノ酸、ペプチド、タンパク質の化学、機能、栄養について解説する	小川　正（関西福祉科学大学教授）	小川　正（関西福祉科学大学教授）
5	微量成分(ビタミン・ミネラル)	これらは体内では合成できず、食物から摂取する必要のある栄養素である。ビタミンは、化学的性質はそれぞれ異なるが、すべて微量成分で、生命の維持・調節に不可欠な役割を持っている。ミネラルは1日あたり100 mg以上摂取すべきマクロミネラルと必要量がそれ以下のミクロミネラルに分類できる。体の中で1 kgも存在するカルシウムから、極微量しか存在しないセレンやコバルトまで多彩である。これらの化学と機能を解説する。	小城勝相（奈良女子大学教授）	小城勝相（奈良女子大学教授）
6	食品の嗜好成分(呈味成分、香気成分、色素)	食品には、ヒトの感覚（味覚、嗅覚、視覚、聴覚、触覚）を刺激して食欲やおいしさを左右する働きがある。ここでは、食品のおいしさを概説し、食品に含まれる嗜好性に関与する化学的因子に焦点をあて、味、香り、色の化学特性と機能性について解説する。	菊崎泰枝（大阪市立大学大学院准教授）	菊崎泰枝（大阪市立大学大学院准教授）
7	味覚のしくみの分子論	たべものの“おいしさ”の主要な原因となる味覚は、私たちの口中の味覚器官が食品中の味成分の刺激を受容することによって生じる感覚である。こうして生じた感覚は、次に神経を介して中枢に伝達され、“味”として認識されるのである。近年、味の受容から認識までの機構が分子レベルで詳しく解明され始めた。同時に、味覚の発生と連動して起こる生理応答についての研究もスタートした。これらに関する最新のトピックスをわかりやすく解説する。	阿部啓子（東京大学大学院教授）	阿部啓子（東京大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
8	食品成分の免疫系調節機能	ヒトをはじめ高等な生物には外界の異物（自己以外の他己）の攻撃に対して多様な防御機構を備えており、その一つが免疫系と呼ばれる防御反応機構である。ヒトの摂取する食品（経口的に取り入れられ消化管を通過する物質）にはいわゆる栄養素以外に例えば乳酸菌、キノコ、食物繊維など多様な成分（生物体や非栄養素）が存在し、ヒトはその成分の機能を利用して、免疫系を調節したり、外界の異物（生物）を排除する能力を昂進したり賦活したりしている。そのようなヒトの免疫機能のメカニズムと食品成分の関わりについて解説する。	小川　正（関西福祉科学大学教授）	小川　正（関西福祉科学大学教授）
9	食品とアレルギー	食品はヒトの生命活動を維持するのに必要な種々の栄養素や機能成分を供給し、健康を維持する。しかし、食品素材はヒトにとってはすべて自己以外の生物（異物）である。従って、ある条件下でこれらの異物が消化されることなく消化管から（ある場合は気道や皮膚から）体内に入り、異物（抗原）として認識されて抗体（特にIgE抗体）の産生が誘導され、即時型と呼ばれるアレルギー症状を発症する場合がある。食品成分のタンパク質を原因物質として引き起こされるアレルギーについて、アレルゲンとそれによる感作、発症の機構、食品成分による抑制、防御などについて解説する。	小川　正（関西福祉科学大学教授）	小川　正（関西福祉科学大学教授）
10	消化系・代謝系・循環系調節機能（I）	生活習慣病等を予防する食品の多くが、栄養素の消化・代謝・循環を制御する機能を持った食品成分を利用して開発されている。腸管での糖質の消化吸収を阻害することによって血糖値上昇を抑制する食品、コレステロールや中性脂質の吸収を阻害することによって高脂血症を予防する食品など消化系を制御する食品に加えて、肝臓などでの代謝系を調節して肥満を抑制する食品を紹介し、その作用機構について説明する。	清水　誠（東京大学大学院教授）	清水　誠（東京大学大学院教授）
11	消化系・代謝系・循環系調節機能（II）	腸管でのミネラル吸収を促進する食品成分は骨の健康維持などに重要である。一方、骨の形成や溶解に関わる細胞を調節する食品成分など、骨代謝系を調節する食品成分も見出され、骨粗しょう症の予防効果が期待されている。また、食品成分の中には血圧を調節する作用を持っているものが多数見出されている。これらを題材に、消化系・代謝系・循環系そして食品成分が相互に関連しあいながら生体を維持していることを学ぶ。	清水　誠（東京大学大学院教授）	清水　誠（東京大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	生体内酸化	地球上のほとんどの生命は酸素を使ってエネルギーを得ている。エネルギーを使って生命は高い秩序を維持することができる。さらに環境汚染物質や医薬品などは肝臓で酸素を使った酸化反応によって解毒しているし、体内に侵入した病原菌などは酸素を使って殺している。一方、酸素は細胞内で活性酸素になって、老化、癌、動脈硬化などいわゆる生活習慣病を引き起こすと考えられている。望ましい酸化と望ましくない酸化、両方について化学的に解説する。	小城勝相（奈良女子大学教授）	小城勝相（奈良女子大学教授）
13	がん予防に期待がもたれる成分	生活習慣によって大きく左右される疾病の一つに“がん”があり、近年、食品あるいは食品成分によるその予防が注目を浴びている。本講義では、いかなる食材に発がん抑制効果が期待できるかや、その効果を担う食品成分の化学的実体、さらには作用機序につき解説する。	大東肇（京都大学大学院教授）	大東肇（京都大学大学院教授）
14	動脈硬化・糖尿病と食品成分	現在、動脈硬化や糖尿病を根治する治療薬や治療法は確立されていない。当然、これら疾病の発症そのものを予防できたという食品成分の報告はまだない。よって、予防に関しては可能性の域を超えてないが、進展や合併症を抑制する食品成分については、すでに科学的な証明とともに実利用され始めている。食後の血糖値上昇を抑制する成分、中性脂肪やコレステロール値を下げる成分などの特定保健用食品をはじめ、直接的・間接的な抑制効果が期待される食品成分についても概説する。	森光康次郎（お茶の水女子大学准教授）	森光康次郎（お茶の水女子大学准教授）
15	食による健康維持・増進 これからの食生活（対談）	本講義を通じて食品の機能の理解が深められ、特に味覚の認識機構や生活習慣病発症の抑制など食品成分が生体に働く機能を学んだ。医食同源、薬食同源といわれる意味を食品の生体調節機能によって裏づけられている。高齢化の進んだわが国において、最も関心の高い健康に焦点をあて、「これからの食生活」をそれぞれの専門分野の講師から対談形式で考察していただく。	中谷延二（放送大学教授） 清水誠（東京大学大学院教授） 小城勝相（奈良女子大学教授） 菊崎泰枝（大阪市立大学大学院准教授）	中谷延二（放送大学教授） 清水誠（東京大学大学院教授） 小城勝相（奈良女子大学教授） 菊崎泰枝（大阪市立大学大学院准教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1511106	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 食品の安全性を考える （’０８）＝ （R）

※この科目は「食品の安全性を考える(’04)」を一部改訂した科目です。
改訂回は5，7，8，9回です。

〔主任講師（現職名）：嘉田　良平（横浜国立大学大学院教授）　〕

講義概要

2001年9月に起きたBSE問題を契機として、私たちの食の安全・安心が揺らいできた。食の安全とは何であり、食料輸入大国である日本に求められる安全システムはいかにあるべきか。この講義では、欧米先進国での状況を踏まえつつ、食品リスクの現状と課題、食品の安全基準や表示のあり方、リスク管理とリスクコミュニケーションのあり方を論じ、農業や環境問題との関係性についても考える。

授業の目標

食品の安全・安心は私たちの暮らしの中で最も重要な価値のひとつであるが、食生活の変化や輸入の増加とともに大きく揺らいでいる。そこで本講義では、安全かつ健全な食料を確保するために何が必要なのかについて、わが国と諸外国を対象に食品リスク上の制度とリスク管理の実態の両面から学習する。とくに、リスク分析の考え方、食品安全の制度・政策、リスクコミュニケーションのあり方などについて、身近な食生活、食料・環境問題などの視点から捉えることを主な目標としたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	なぜ今、食品の安全性を問うのか	BSE問題や食品偽装事件を契機として、食品の安全性に国民的関心が高まった。それは食品衛生上の科学的問題にとどまらず、消費者の安全意識や社会経済システムとも深くかかわっている。世界経済の国際化と規制緩和の中で食品安全は一体どうなるのか、そして今後どうあるべきかについて考える。 【キーワード】 食品安全性、規制緩和、グローバリゼーション	嘉田　良平（横浜国立大学大学院教授）	嘉田　良平（横浜国立大学大学院教授）
2	食品事故の歴史に学ぶ	食品事故は古くて新しい問題である。わが国で起きた森永砒素ミルク事件、カネミ油症事件、O157などの主要な食品事故について、その経緯と背景、原因と対策などをたどりつつ、また、諸外国の経験を通して、食品安全問題の歴史から私たちが何を学べるのかについて考える。 【キーワード】 食品事故、輸入食品の安全性	同　上	同　左
3	わが国の食品安全行政の構図	これまで、わが国の食品安全政策は主に食品衛生法（厚生労働省）と農薬取締法（農林水産省と環境省）に基づいて残留基準や安全使用基準などが定められ、対策が講じられてきた。日本の食品安全にかかわるこれまでの制度的枠組みとその特徴や変遷、そして今日的な課題について論じる。 【キーワード】 食品安全行政、食品衛生法、農薬取締法	同　上	同　左
4	食品安全の国際基準	世界共通の食品安全基準として、国連のFAOとWHO合同の食品規格委員会により定められるコーデックス基準（規格）がある。科学的データの分析に基づいて食品添加物や汚染物質の許容摂取量が示されるのであるが、国際貿易上のさまざまな対立も根深い。食品安全の国際基準のあり方を問う。 【キーワード】 コーデックス基準、食品添加物、許容摂取量	同　上	同　左

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	遺伝子組換え食品の安全性をめぐる諸問題 **（※改訂回）**	輸出入をめぐる国際間の競争と対立が激化する中で、バイオテクノロジー技術の進歩による新しい問題が浮上してきた。そこで牛成長ホルモンの使用の是非および遺伝子組換え食品の安全性評価をめぐる諸問題を取り上げ、そこから浮かび上がってくる問題の構図とわが国のあり方について考えたい。 【キーワード】 バイオテクノロジー、遺伝子組換え食品、安全性評価	嘉田　良平（横浜国立大学大学院教授）	嘉田　良平（横浜国立大学大学院教授）
6	HACCPとISOによる安全管理への取り組み	食品安全の確保のための国際的なハーモニゼション（整合化）にむけて、民間企業が自発的に取り組むHACCPという安全管理の手法、そしてISOにおける品質管理面や環境管理面での国際標準の取り組みが注目されている。本章ではこれらの現状と課題について述べる。 【キーワード】 HACCP、ISO、食品安全の国際標準	同　上	同　左
7	欧州におけるBSE対策と新たな食品安全政策 **（※改訂回）**	BSE問題は欧州全体に拡大し、パニックをもたらしたが、欧州連合（EU）はその反省と教訓から2002年1月、画期的な食品安全法を制定した。消費者保護を第一の目的とし、リスク評価を行う食品安全機関を設置し、新たなリスク管理を行ってきた。EUの食品安全対策における一連の改革の軌跡を追う。 【キーワード】 BSE問題、リスク評価、リスク管理	同　上	同　左
8	BSE事件とわが国食品安全政策の新たな展開 **（※改訂回）**	2001年9月に起きたBSE事件の後、食品安全への不信と大混乱が日本列島を覆った。安全管理体制の欠如、消費者軽視の姿勢などの反省から、政府は食の安全・安心づくりに向けて法制度と行政組織の抜本的な見直しをおこなった。わが国の食品安全管理体制の改革のプロセスと課題について論じる。 【キーワード】 食品安全委員会、食品安全基本法	同　上	同　左
9	食品表示問題と有機農産物の基準 **（※改訂回）**	BSE問題とともに、食品の不正・偽装表示も一大社会問題となり、企業のモラルの低下と行政の責任が問われるに至った。消費者の商品選択に役立つ適正な表示はいかにあるべきか、有機農産物の規格と表示の問題、さらにはJAS法の改正などについて論じる。 【キーワード】 食品表示問題、有機農産物基準	同　上	同　左
10	トレーサビリティー・システムの導入と課題	食品安全をより確かなものにするためには「農場から食卓まで」の顔の見える関係を構築することがきわめて重要である。そこで、わが国が牛肉を対象にはじめて導入したトレーサビリティー法、さらには原産地表示の意義と課題、そして米や野菜などへの各種表示の新たな潮流と問題点について論じる。 【キーワード】 トレーサビリティー、原産地表示	同　上	同　左

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	リスクコミュニケーションと企業・消費者の役割	食品安全政策においては、科学的分析に基づくリスク評価、食品衛生・表示等を実施するリスク管理に加えて、消費者や企業とのリスクコミュニケーションがきわめて重要である。リスクの評価・管理主体と消費者・企業との双方向の意見交換のあり方について、さまざまな事例を取り上げつつ考える。 【キーワード】 リスクコミュニケーション、企業のCSR、消費者の役割	嘉田　良平（横浜国立大学大学院教授）	嘉田　良平（横浜国立大学大学院教授）
12	食品安全の経済学	交通事故などと同様に、絶対に安全な（ゼロリスクの）食品はありえない。実際，消費者は限られた情報のもとで、安全の質や程度とコスト（費用）とのバランスの中で選択行動を行っている。なぜ食品安全では「市場の失敗」が起きるのか、効率的・効果的な食品安全政策とは何かについて論じる。 【キーワード】 ゼロリスク、費用対効果、市場の失敗	同　上	同　左
13	食卓からの安全・安心―スローフードのすすめ―	ファストフードが世界の食卓を変えつつある中、スローフードと呼ばれるイタリア発の食文化運動が国際的に注目されている。地域食材と伝統食を見直し、現代食のもつひずみを栄養・健康面、安全面、そして環境面から見直そうという「地産地消」運動である。その背景と意義、今後の展望を探る。 【キーワード】 スローフード運動、地産地消、伝統食	同　上	同　左
14	国産か輸入か―日本農業への期待―	世界有数の食料輸入大国であるわが国にとって、輸入食料の水際でのチェックは食品安全の重要ポイントであるが、国産農産物の安全検査と環境負荷面からの農法の見直しも不可欠である。より確かな安全・安心を得るためにも、日本農業を環境保全型へと転換せねばならない。その道筋を検討する。 【キーワード】 輸入食品の安全管理、環境保全型農業	同　上	同　左
15	食の安全をより確かなものとするために	生命の基礎をなす自然環境の悪化が地球規模で進む中、食品や食卓を取り巻くリスクもますます増大している。食品安全は、単に制度や政策を改めれば解決できるものではなく、市場システムや私たちのライフスタイルの転換をも求めている。食は生命と健康の基礎という原点に立って、今後を展望する。 【キーワード】 食育、地球環境問題	同　上	同　左

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目コード	1510916	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　失敗予防の住まい学　　（’０９）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：服部　岑生（千葉大学名誉教授）　〕
〔主任講師（現職名）：上野　武　（千葉大学教授）　〕

講義概要

住まいづくりから住まいに住み続ける過程で住まいにかかわるいろいろな問題が発生する。これらの問題を解決しようとする受講者（市民）のためのハードからソフトに及ぶ知識を解説する。ハードの知識は、失敗の種類、設計の方法、住宅の構法、設備の計画などと失敗予防の関係を扱い、ソフトの知識は、住宅の購入、賃借および管理の方法とリフォーム、旧い住宅地の再生など失敗予防の関係を扱う。はじめの講義は、市民のための住居学の構成を解題し、最後の講義は近年のマンションの構造偽装問題に触れて、具体的な問題への適用とこれからの優良な住まいづくりの条件について述べる。

1. 失敗と優れた住まいづくりの基本的な知識（1～4章）
2. 建物としての住まいの問題（5～10章）
3. 契約と住み続けるための知識（11～13章）
4. リフォーム・および今後の問題（14～15章）

授業の目標

住まいづくりでは、住まいを求める人が適切に自身の要求を優良な住まいとして実現できることが大切で、全15回の講義を通じて、トラブルや欠陥のない住まいづくりの知識を学ぶ。同時に、住まいの建築主の立場だけでなく、建築士や工事業者との関係、居住者と近隣に居住する人々との関係について学習し、バランス良く住まいを作っていく知識を学習する。さらに、いろいろな視点から日本の住まいづくりと英国の住まいづくりを比較し、失敗を予防する住まいの知識や政策について学び、失敗のない住まいづくりの深い考え方を学ぶ。

履修上の留意点

放送大学の関連授業科目を参照すること。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	失敗と予防	授業の理解に必要な住まいづくりの失敗の種類と用語、その予防法などの関係を紹介する。次に、住まいの失敗の発生頻度の多い種類と、事例により原因を推理することの難しさを明らかにする。失敗の回復より失敗予防が最も重要な方法であることを理解する。終わりに住まいづくり守る社会制度を日英で比較考察する。 【キーワード】 住まいづくりの流れ、失敗、不具合、クレーム、トラブル、建築主、失敗の種類、失敗の頻度	服部岑生（千葉大学名誉教授）	服部岑生（千葉大学名誉教授）
2	優良な住まい	住まいは、強さ・使いやすさ・美しさが基本的に大切である。住宅政策で表示される10の性能－地震に対する強さ、火災時の安全性、劣化のしにくさなど－を解説するとともに、総合的に住まいと環境の性能の考えかたの変遷と今後有望な住まいのビジョンを考察する。 【キーワード】 住宅性能表示制度、地震に対する強さ、火災時の安全性、劣化のしにくさ、住環境の性能、自立循環型住宅	服部岑生（千葉大学名誉教授）	服部岑生（千葉大学名誉教授）
3	建築主の失敗予防	住まいづくりのはじめにする設計の流れとそこで重要な設計図書について学ぶ。設計の専門家（建築士）から設計のポイントや失敗予防の知恵を聞く。次に失敗をサポートする弁護士の注意と公的なサポートの仕組みを学ぶ。 【キーワード】 建築士、弁護士、裁判所、設計図書、契約書類、住まいづくりの記録	服部岑生（千葉大学名誉教授）	服部岑生（千葉大学名誉教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	住まいづくりへの参加	住まいの設計で決める住まいの特徴と性能の関係、これからの住まいに重要な生活のトラブル予防と住まいの特徴に合った暮らしの工夫について、建築主が参加できる失敗予防の知識を学ぶ。 【キーワード】 平面計画、間取り、環境計画、材料計画、規模、残響時間、共用部分、コミュニティ、住みこなし	服部岑生（千葉大学名誉教授）	服部岑生（千葉大学名誉教授）
5	戸建住宅の構法	自分の住まいは自分で守る。そのためには住まいの各部がどうなっているかを知る必要がある。ここでは最初に木造の構法の概要を、次いで戸建住宅に多い在来木造軸組構法の各部の造りと木造戸建住宅で問題となりがちな不具合について学ぶ。 【キーワード】 在来軸組、垂木、根太、間柱、野縁、雨漏り、傾斜、腐朽、経年劣化	大野隆司（東京工芸大学教授）	大野隆司（東京工芸大学教授）
6	共同住宅の構法	引き続き、住宅の各部構法を中心に学ぶ。最初に鉄筋コンクリート（RC）造の構法の概要を、次いで共同住宅に多いRC造による構法の各部の造りとRC造共同住宅で問題となりがちな不具合について学ぶ。 【キーワード】 RC造、スラブ、かぶり厚さ、外断熱、直張り、漏水、剥がれ、結露、ひび割れ、床衝撃音	大野隆司（東京工芸大学教授）	大野隆司（東京工芸大学教授）
7	住まいの設備	住宅設備を見るときに留意すべき点を述べた後に、住宅設備に関わる各種の不具合を紹介し、これらの不具合を避けたり不具合が生じたときに適切な対応をするための基礎知識を学ぶ。また、住宅設備に関わる新しい動向を知ることによって失敗を予防する。 【キーワード】 住宅設備、給排水設備、空調換気設備、電気設備、防災・防犯、快適、省エネルギー、健康、長寿命化	川瀬貴晴（千葉大学教授）	川瀬貴晴（千葉大学教授）
8	住まいの環境	光、熱、音に関わる環境の中から、採光、断熱、気密、日射利用、日射遮蔽、通風、遮音など、快適に暮らすために必須の事項について、その評価手法を概説する。また、これらの環境に大きな影響を与える住宅設備の役割についても学ぶことにより、このような環境面での失敗を予防する。 【キーワード】 採光、断熱、気密、日射利用、日射遮蔽、通風、遮音、快適、省エネルギー	川瀬貴晴（千葉大学教授）	川瀬貴晴（千葉大学教授）
9	住まいと健康	私たちの健康を阻害するおそれのある住宅とはどのようなものなのかについて解説し、健康に生活できる住まいを実現する方法を考察する。特に、住宅の気密性能向上に伴って近年増加しているシックハウス問題について詳しく紹介する。 【キーワード】 住宅内事故、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、24時間換気、アレルギー、シックハウス、VOC、F☆☆☆☆	上野武（千葉大学教授）	上野武（千葉大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	持続可能な住まい	住まいを長持ちさせるにあたって重大な障害となる「雨漏り・漏水」と「結露」の問題を取り上げ、その原因と予防方法を勉強する。さらに、持続可能な住まいを実現していくために必要な考え方や、維持管理方法などについて解説する。 【キーワード】 社会資産、安全性、雨漏り、漏水、結露、住宅カルテ、維持管理、修繕履歴、サステイナビリティ	上野武（千葉大学教授）	上野武（千葉大学教授）
11	住まいの購入	住まいについてのトラブル予防のために、住宅そのものではなく、住宅を購入する仕組みのなかで起こる失敗について解説し、トラブルや問題発生の予防、解消を目指す。最初に、住宅を購入する際の基本的な知識を学ぶ。住宅購入のプロセスと契約の意味と手続きなど、住宅および敷地の権利関係について説明する。 【キーワード】 住宅情報、契約、重要事項説明、宅地建物取引主任者、登記、瑕疵、クーリングオフ、アフターサービス	斉藤広子（明海大学教授）	斉藤広子（明海大学教授）
12	住まいを借りる	住まいを借りる場合、借りる手続きや居住中に起こる失敗について、トラブルや問題発生の予防、解消を目指すを取りあげ、住宅賃貸借契約などの基本的な知識を学ぶ。 【キーワード】 賃貸借契約、原状回復、定期借家	斉藤広子（明海大学教授）	斉藤広子（明海大学教授）
13	マンションの管理	住まいの管理問題発生の原因は、入居前から潜んでいる。区分所有型のマンションを取り上げ、予想しにくい問題発生のメカニズムをときあかし、失敗予防と解決のためのマンション管理の知識を学ぶ。マンションの所有と管理の仕組み、大規模修繕、マンション管理の支援体制について説明する。 【キーワード】 区分所有、マンション、管理、管理組合、理事会、総会、管理規約、長期修繕計画、大規模修繕、管理費、修繕積立金	斉藤広子（明海大学教授）	斉藤広子（明海大学教授）
14	リフォームから再生へ	住まいは、建物として古くなり寿命が来ると、リフォームや建替えが必要になる。リフォームは事件が多く、失敗を防ぐ手続きを解説する。リフォームや建替えの判断をどうするかなどのプロセスを学ぶ。次に、住民の合意によって行う共同住宅の建替や再生の課題やその住宅地の実態を解説する。 【キーワード】 寿命、物理的耐久性、機能的耐久性、模様替え、リフォーム、コンバージョン、リノベーション、建替え、再生、合意形成	服部岑生（千葉大学名誉教授）	服部岑生（千葉大学名誉教授）
15	失敗のない社会へ	構造偽装の問題を切り口にして、今後の住まいづくりで大切な良い住まいづくりの提案を述べる。また、住まいづくりをサポートし監視するために市民の目線の組織作り、および良い住まいづくりに必要な新しい住居学の発展を期待して終わる。英国の制度を紹介する。 【キーワード】 姉歯問題、構造偽証、耐震補強、NPO、職能団体、CABE、失敗学、調和のある街並み	服部岑生（千葉大学名誉教授）	服部岑生（千葉大学名誉教授）

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	専門科目	科目コード	1510614	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　住まい論　　（’１０）＝　（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：本間博文　放送大学副学長　〕

〔主任講師（現職名）：畑聰一　芝浦工業大学名誉教授　〕

講義概要

住まいは、市民の日常生活における安全、快適、利便性、そして健康に大きなかかわりをもつ空間である。住まいのありようは単に工学的な側面にとどまらず、文化や伝統、あるいは家族や社会の紐帯と言った社会科学、人文科学など広範な側面において市民生活を規定している。その上、社会の進化・発展、技術の進歩によって住生活はより多面的で、かつ複雑になり、市民が自分達の住まいを適切に制御していくことが難しくなりつつある。結果として、何を受け継ぎ、何を後世に伝えていくべきか、その判断もつかずに無国籍な居住空間に置き換わってしまっている事態を考え直してみることも必要である。

この講義では生活の基盤である住まいについて、伝統、文化、集住、家族・地域社会、環境共生の5つの軸を設定して考察を行っている。安全や構法については2009年度開講科目「失敗予防の住まい学（’09）」で扱っているのでその講義を参照していただきたい。

5人の講師がそれぞれ一つの軸（各3章ずつ）を担当し、市民にとって有用な知見を提示するが、単なる知識の習得に終わらずに、それぞれの立場からこれからの住まいのあり方への提案もおこなう。

授業の目標

5人の講師がそれぞれ3回ずつを担当し、それぞれ専門領域について分かり易く解説すると同時に、それが単なるオムニバスにならないように、相互の関連を重視し、他の講師が積極的に他の講師の放送教材に参加し、5つの軸相互を横に結びつけるような構成を考え、学習者が総体としての住まいのあり方を理解できるような教材作成造りを目指す。

履修上の留意点

「失敗予防の住まい学（’09）」と関連づけての学習が望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	乾燥地域の中庭を拠点にした住まい―外庭との対比で	講義の狙いを簡単に紹介し、3回の講義の中で様々な国の住文化を明らかにすることによって、日本の住文化を相対化して考える。第一回の講義ではチュニジアの「ダーラ・アラビ（アラブ式住居）」を例にとり、乾燥地域の風土や民族性とともに、中庭型住居の特徴や住まい方を解説し、中庭のもつ文化的な意味について考える。 【キーワード】 砂漠的思考、中庭型住居、炎暑、午睡、ダーラ・アラビー、ウォッスタダール	芝浦工業大学名誉教授 畑聰一	芝浦工業大学名誉教授 畑聰一
2	東南アジアの開放的な住まい	ラオス、タイ、マレーシアにおける伝統的な高床の農村住居を例にとり、東南アジアのモンスーンの風土性、双系の社会構造を背景にした外庭型住居の特徴と住まい方を解説し、外庭のもつ文化的な意味について考える。 【キーワード】 森林的思考、外庭型住居、東南アジア、対人主義、高床式住居、ロングハウス	芝浦工業大学名誉教授 畑聰一	芝浦工業大学名誉教授 畑聰一

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
3	離島漁村の共同性と住まいかた	日本の住居と住まい方の事例として、伊勢湾離島の高密度漁村をあげ解説し、外庭型住居の集合性や共同体を維持するためのさまざまな知恵を紹介する。 【キーワード】 伊勢湾答志集落、セコミチ、キンジョ、シンセキ、ネヤコ、村内婚	芝浦工業大学名誉教授 畑聰一	芝浦工業大学名誉教授 畑聰一
4	和風の住まいとは	第4回から3回の講義を通して和風の住まいの構成原理を学ぶ。第4回の講義では和風の住まいについてその変遷過程を通して基本的な空間構成原理について述べる。和風の住まいは単に襖や障子などの引き違い建具や、床の間、玄関、畳と言った和風の住まいに固有な部材で組み立てられているから和風なのではない。寝殿造りの空間構成概念を現地取材の映像を交えて説明し、その原理が書院造りに受け継がれ、さらに江戸後期に和風の住まいとして確立する過程を紹介する。 【キーワード】 寝殿造、書院造、舞台装置、室礼、履き替え、建具、床の間	放送大学副学長 本間博文	放送大学副学長 本間博文
5	中国・韓国の伝統の住まい	中国、韓国の伝統の住まいを紹介し、それぞれの住まいに対する基本的な考え方を学習する。中国では漢民族の代表的な住居形式である四合院住宅を通して不断に異民族の攻防が生活を脅かし、外に対して閉ざされた住まいが造られたこと。それに対して韓国では儒教や風水といった信仰が独特の居住形態を産み出したことを両班住宅を例に説明する。 【キーワード】 四合院、一明二暗、中庭住宅、両班住宅、風水、儒教	放送大学副学長 本間博文	放送大学副学長 本間博文
6	日中韓の伝統の住まいにおける空間構成	日中韓の伝統的な住まいの空間構成を比較し、それぞれ独自の居住空間を作り出してきたことを確認する。その結果、和風の住まいの空間構成上の特殊性を2つのキーワードで提示したい。一つは転用性であり、他方は基準化である。和風の住まいは、まるで舞台転換が行われるように空間の転用が室礼によって自在に行われる。一方、江戸時代の大阪では「裸貸し」という言葉に示されるように畳やふすまは完全に基準化され、引越し道具であり、どこにでも持ち運んで、どこにでもはめ込まれた。高い精度で組み立てられていたから可能になった慣習であり、工業化住宅といっても過言ではない。このように和風の住まいは他に例をみないきわめて独特の住まいであり、現代の住まいにもその空間概念は応用可能である。 【キーワード】 転用性、防衛、オンドルとカン、基準寸法	放送大学副学長 本間博文	放送大学副学長 本間博文
7	変容する血縁家族と住まい	第7回からは血縁家族や血縁を越えて共に住む多様な生活集団と住まいの関係を3回にわたって考える。ここでは、血縁家族に着眼して、封建的家族から近代家族、さらには現代家族といった家族像や家族関係の経時的変容、及び住まいや住まい方の変化との関係を紹介する。そのうえで、最も一般化している公私室型（nLDKタイプ）の平面計画を対象にして、家族型の多様化や家族関係における個人化など、血縁家族の今日的状況がもたらす住まいの計画課題について考えるとともに、それをふまえた新たな住まいの計画のあり方について展望する。 【キーワード】 集合住宅の変遷、同洵会、コモン、標準設計、スケルトンインフィル	大阪市立大学教授 横山俊祐	大阪市立大学教授 横山俊祐

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
8	地縁居住のカタチと住まい	血縁を越えてつながる生活集団の一つとして、地縁を手掛かりにした共に住むカタチとその住まいや住環境の特性、変容を紹介する。特に、社会構造の変化や地縁の希薄化とともに、血縁・地縁が重層、連続した住まい方から相互に完結、断絶したものに移行した結果、住まいから社会性が喪失していることや地域に対して閉鎖化していることの問題、さらにはそれが地域力の低下や地域景観の混乱などを引き起こしていることを明らかにする。そうした状況に対して、開かれた住まいづくりや地域居住、エコビレッジなど、新たな地縁づくりの可能性について考える。 【キーワード】 戸建て住宅、戸建て住宅地、共同と共用、	大阪市立大学教授 横山俊祐	大阪市立大学教授 横山俊祐
9	居住縁による「共同の住まい」	高齢化や障害、生活の合理化や経済化、生活価値の共有等をモメントとして非血縁関係ながらも共に住むこと（居住縁）が様々なカタチで進展している実態を紹介し、その今日的な意味を考える。共同居住の典型としてコレクティブリビングやグループリビング、シェアードハウスなどを取り上げ、住まい方には、血縁家族ではなし得ない共助をはじめとする様々な相互関係や協働、安心感、新しいライフスタイルの可能性が見出せることを学ぶ。血縁からはなれて暮らすことの有意性、及び住空間の特性や多様性について明らかにする。 【キーワード】 改修、建て替え、持続	大阪市立大学教授 横山俊祐	大阪市立大学教授 横山俊祐
10	集住計画の導入～都市と住まい 1～	個々の住まいが集まって形成される集合住宅地や住宅地を計画的に建設するための体系的考え方を「集住計画」と称し、それが日本の近代においてどのように近世の文化を下地に導入されてきたのかを紹介する。 【キーワード】 家父長制、近代家族、個室の肥大化、	東京大学准教授 大月敏雄	東京大学准教授 大月敏雄
11	集住計画の普及～都市と住まい 2～	日本では、戦時中から集住計画を国家レベルで考える取り組みが始まり、それが戦後の高度経済成長時のハウジングの基礎なったが、その普及の経緯と到達点、そしてそれがもたらした現代的な結果について考察する。 【キーワード】 地域力、景観、遅延、血縁、地縁家族	東京大学准教授 大月敏雄	東京大学准教授 大月敏雄
12	集住計画の現代的課題～都市と住まい 3～	ストックの時代と呼ばれる現代において、建築の領域では、新築することから、すでにある建築のつくり変えへと方向転換しつつあるが、少子高齢社会において新たな集住計画が取り組むべき現代的課題について考える。 【キーワード】 住縁家族、血縁家族、ライフスタイル、	東京大学准教授 大月敏雄	東京大学准教授 大月敏雄

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
13	地球環境と住宅	20世紀後半、住宅における暖房や冷房、給湯、照明への依存は急激に増え、それに伴ってエネルギー消費も急増した。 それは、住宅の作り方や住生活にも大きな変化をもたらしたが、その普及の経緯を考察し、その帰結でもある地球環境問題とのかかわりについて述べる。 【キーワード】 民生用エネルギー、断熱性・気密性、	神戸芸工大 教授 小玉祐一郎	神戸芸工大 教授 小玉祐一郎
14	住まいの環境デザイン	低炭素社会をめざし、省エネルギー・省資源は緊急の課題である。環境負荷を削減し、自然環境と共生しながら快適な居住環境を作り出すためにはどのような工夫が必要なのか。その技術とデザイン手法について気候風土との関係に言及しながら、具体的に紹介する。 【キーワード】 高断熱高気密住宅、200年住宅、長寿命、遮熱、遮光	神戸芸工大 教授 小玉祐一郎	神戸芸工大 教授 小玉祐一郎
15	環境と共生するコミュニティと住宅	集合住宅、戸建て住宅について環境共生型住宅の内外の事例を紹介し、持続可能な社会の構築をめざす、環境共生型住宅のこれからのあり方を探る。 後半は15回の講義のまとめとして21世紀に求められる住宅像を提示する。	神戸芸工大 教授 小玉祐一郎	神戸芸工大 教授 小玉祐一郎 放送大学副学長 本間博文 芝浦工業大学名誉教授 畑聰一

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1512609	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 公衆衛生 （’０９）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：多田羅 浩三（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：瀧澤 利行（茨城大学教授）〕

講義概要

公衆衛生制度は、産業革命が進む中で都市への人口集中を背景として生まれた、不衛生と疾病、貧困の悪循環という状況に対し、人間の健康を守るという観点から求められた、社会の関与の方式として生まれたものである。結果として、公衆衛生制度はカバーする領域は極めて広く、その事業のほとんどは自治体によって担われている。本科目では、公衆衛生制度の発展の系譜、わが国の公衆衛生のあゆみ、公衆衛生の各領域の仕組み、現状、課題について学び、健康日本21、特定健診・保健指導などが実施されることになったことの意義などについて学ぶ。

授業の目標

現代では、人々の生活、そして健康は、広く社会の制度に支えられていることは明らかである。公衆衛生は、社会の制度の中の中核をなすものである。しかし公衆衛生の歴史や体制、内容、そして今日の新しい展開の意義を学ぶことによって、社会に管理されるのではなく、社会に参加し、自ら生活や健康を守り、向上を図るという実践をすすめるための知恵を培って欲しい。

履修上の留意点

公衆衛生を学ぶことは、自ら生活する自治体や仕事をする職場、あるいは所属する団体が、それぞれ地域や職域の健康増進や環境保護にどのような役割を果たすことができるか、それに対し各人がどのように参加することができるか、ということを学ぶことであるということに留意して履修して欲しい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	公衆衛生制度の誕生	公衆衛生制度は、不衛生と疾病と貧困の悪循環という課題に直面する社会環境の中にある人間の健康を守るという目的のために、自治体の機能を中核として多様な役割を果している。公衆衛生制度の母国であるイギリスにおけるあゆみを中心に、社会による防衛、予防の推進、福祉からの独立、衛生の規則と地方当局の規則などの点から、公衆衛生制度の成立、発展の系譜について考えてみたい。 【キーワード】 社会の関与，画一主義，公衆衛生法，国家医学，保健医官，自己制御という知恵	多田羅浩三（放送大学教授）	多田羅浩三（放送大学教授）
2	わが国の公衆衛生	わが国の公衆衛生は、ヨーロッパ諸国の例に学び、非常に充実した体制を有している。そのことが世界一の平均寿命や世界一低い乳児死亡率の記録に現われている。そのような輝かしい記録を達成したわが国の公衆衛生あゆみについて、医制の公布、伝染病予防、保健所の誕生、国民健康づくり計画、市町村の保健事業、保健福祉施策の新しい展開などを中心に学ぶ。 【キーワード】 衛生制度，「医制」，医務取締，保健所，アルマ・アータ宣言，老人保健法，健康日本21	多田羅浩三（放送大学教授）	多田羅浩三（放送大学教授）
3	健康水準・健康指標と衛生統計	公衆衛生を学ぶ者の基礎知識として、人口静態統計、人口動態統計（出生率、死亡率、再生産率など）、平均余命と平均寿命、将来人口、有病率、罹患率、国際疾病分類、国民の健康に関わる主要調査報告、衛生統計と疫学的方法の基礎について学ぶこととしたい。 【キーワード】 健康水準，健康指標，人口動態，衛生統計，疫学的研究	菊田文夫（聖路加看護大学准教授）	菊田文夫（聖路加看護大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	母子保健	わが国は今日、深刻な少子高齢化時代を迎えている。その中で働く女性の母性の保護をどのように確保していくか、子どもの健やかな成長をどのように保障していくか、重大な課題に直面している。それらの点をふまえ、母性の保護、乳幼児の保健、母子保健事業、エンゼルプラン、健やか親子21などの項目をもとに検討したい。 【キーワード】 発育発達，母子保健行政，母子保健サービス，健やか親子21	菊田文夫（聖路加看護大学准教授）	菊田文夫（聖路加看護大学准教授）
5	感染症	多数の人々の生命を奪ってきた感染症と人類の医学の闘いについて考えることから始め、今日の激動する国際情勢の中での感染症対策まで、包括的に感染症予防の概要を見ていくことにする。特に新興・再興感染症の国内への侵入対策は、重要な社会防衛上の課題になっている。また、結核、性感染症についても、その対策の強化が望まれている。これらの動向をふまえ感染症の種類、感染症対策、結核、性感染症、健康危機管理などの項目について考えたい。 【キーワード】 疫学，ジョン・スノー，感染成立の原則，新興感染症，再興感染症	瀧澤利行（茨城大学教授・放送大学客員教授）	瀧澤利行（茨城大学教授・放送大学客員教授）
6	成人保健と疾病予防・健康管理	わが国は平均寿命世界一の記録を達成しているが、生活習慣病による死亡率、罹患率は激増している。また後期高齢者人口が今後20年間に1100万人の増加が予想されている。そのような動向をふまえ、生活習慣病対策、循環器病対策、がん対策、糖尿病対策、歯科保健、こころの健康、要介護高齢者、認知症高齢者、市町村の保健事業などを考えたい。 【キーワード】 疾病予防の段階，生活習慣病，がん予防，メタボリック・シンドローム，特定健診，特定保健指導	瀧澤利行（茨城大学教授・放送大学客員教授）	瀧澤利行（茨城大学教授・放送大学客員教授）
7	学校保健	近年、次代を担う、学童の健康状態や就学状況について、肥満、あるいはやせ願望、情緒不安、暴力など、深刻な課題に直面していることは周知のとおりである。これらの課題を念頭におきつつ、学校保健の歴史、学校保健の構造と機能、学校保健管理、学校保健教育、学校保健組織活動等について学ぶ。 【キーワード】 学校保健管理，学校保健教育，学校保健組織活動，学校健康診断，学校環境衛生	瀧澤利行（茨城大学教授・放送大学客員教授）	瀧澤利行（茨城大学教授・放送大学客員教授）
8	産業保健	厳しい経済環境、日進月歩の技術開発、市場競争の激化の中で、働く人たちの健康状態について、とくにメンタルヘルス面における課題は、年々深刻になっている。これらの認識に立って、産業保健の歴史、働く人たちの健康状態、職業病、作業環境、労働安全衛生対策などについて学んでいきたい。 【キーワード】 労働安全衛生，職業性疾病，作業管理，作業環境管理，健康管理	瀧澤利行（茨城大学教授・放送大学客員教授）	瀧澤利行（茨城大学教授・放送大学客員教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
9	環境保健	温暖化の進行、都市開発、住宅造成、公共事業の強行など環境破壊につながる状況が続く中で、環境保健の確保は、きわめて深刻な課題となっている。これらの理解のために、環境の概念、環境刺激と生体、物理的・化学的・生物的環境条件、環境管理、公害と地球環境問題とその対策について学びたい。 【キーワード】 恒常性，量－影響関係，量－反応関係，公害・地球環境問題	瀧澤利行（茨城大学教授・放送大学客員教授）	瀧澤利行（茨城大学教授・放送大学客員教授）
10	生活環境	食品の外国産材料への全面依存、ファーストフード、外食産業への依存、多様な建材の使用、甚大な生活廃棄物の発生など、国民の生活は厳しい環境に取り巻かれている。より良い生活環境の確保は、公衆衛生の原点であり、生活衛生と健康、衣服の改良、食品の安全、住居の安全、生活廃棄物の処理などを中心に検討を加えたい。 【キーワード】 環境決定論，食品衛生，衣服下気候，室内環境，リサイクル社会	瀧澤利行（茨城大学教授・放送大学客員教授）	瀧澤利行（茨城大学教授・放送大学客員教授）
11	高齢者の保健福祉と介護保険制度	高齢人口の急増に対し、展開されてきた高齢者を対象とした保健福祉制度の特徴について考えたい。老人保健制度および高齢者介護を福祉制度から独立させ、保険制度による運営に転換された介護保険制度について、制度制定の意義、制度の仕組み、介護保険事業計画、介護保険施設、施設サービス、居宅サービス、保健事業などの面から、制度のあり方、将来の展望などについて検討したい。 【キーワード】 高齢社会，認知症，要介護状態，介護保険法，ノーマライゼーション	瀧澤利行（茨城大学教授・放送大学客員教授）	瀧澤利行（茨城大学教授・放送大学客員教授）
12	地域保健体制	プライマリケア体制の構築という位置づけのもとに、最も古く、教訓に満ちた取り組みをすすめてきたのはイギリスである。この国でのあゆみから、何を学ぶことができるか、そのことを、最初に考えたい。わが国の地域保健体制について、中核を担ってきた保健所の推移と現状、保健事業の保健所から市町村への移管などの動向をふまえわが国の地域保健体制の特徴について、その課題、展望について考えたい。 【キーワード】 プライマリケア，国民保健サービス（NHS），地域保健法，保健所，市町村保健センター	瀧澤利行（茨城大学教授・放送大学客員教授）	瀧澤利行（茨城大学教授・放送大学客員教授）
13	医療制度	医療制度を担う専門職の中で、最も古い歴史を有しているのは医師であり、医師職の興隆の系譜と各国の医療制度のあり方は深い関連を有している。わが国では、医薬分業が行われてこなかったことが、わが国の医療制度を国際的にも、非常にユニークなものにしてきたという経過がある。これらの点をふまえ、わが国の医療制度について、医療法改正の推移、医療保険制度、医療施設、医療保健関係者、高齢者の保健と医療などの面から，その概要について学ぶ。 【キーワード】 フィジシャン，アポセカリー，医薬分業，医制，医療法改正，国民皆保険体制，老人保健法、高齢者医療確保法	多田羅浩三（放送大学教授）	多田羅浩三（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
14	健康日本21から特定健診・保健指導へ	平均寿命世界一の社会は、最も多様な健康状態の人たちが生活している社会である。人々の多様な健康状態、とくに生活習慣病による罹患、死亡の増加ということに対し、従来の医療保険制度や市町村の保健事業などへの制度依存型の対策では十分な成果をあげることが困難であることが、明らかになってきた。そして、国民を主役とする施策として実施されることになったのが、健康日本21である。さらに平成18年6月の高齢者医療確保法の制定にともない，20年4月に保険者による特定健診・保健指導が発足した。その推進には、大きな期待が寄せられている。こうして、健康日本21が発表され、特定健診・保健指導が実施されることになったことの意義を中心に考察したい。 【キーワード】 平均寿命，生活習慣病，市町村の保健事業，医療保険制度の限界，健康増進法，メタボリック・シンドローム	多田羅浩三（放送大学教授）	多田羅浩三（放送大学教授）
15	国際保健	国際交流の激増、開発途上国における政情不安、新興・再興感染症侵入の危険などの状況がある中で、 WHO、平均寿命の国際比較、死亡率の国際比較、国際保健上注目すべき疾病、AIDSの現状、大都市の保健事情、医療費の国際比較などについて検討し、国際保健のあり方について考えたい。 【キーワード】 世界保健機関（WHO）・プライマリ・ヘルス・ケア・ヘルスプロモーション・赤十字活動・NGO・NPO	瀧澤利行（茨城大学教授・放送大学客員教授）	瀧澤利行（茨城大学教授・放送大学客員教授）

事務局記載欄	開講年度	２０１１年度	科目区分	専門科目	科目コード	1518410	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　循環器病の健康科学　　（’１１）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：多田羅浩三（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：吉川純一（西宮渡辺病院 心臓血管センター最高顧問）〕

講義概要

最近の循環器病学の進歩は真にめざましく、一部のものは革命的ともいえるほどである。それに従いほとんどの心臓病や血管病による死亡は急速に減少してきた。一方、循環器病学ないし循環科学の進歩に伴い、医療側と患者側のより良好なコミュニケーションが求められている。患者側も循環器疾患の本態の理解に努め、医療側との議論に参加して欲しいものである。この授業では各々の循環器疾患の概念や診断法・治療法を解説し、とくに最近の進歩にも力点を置き循環器疾患を共有する素材を提供する。

授業の目標

種々の循環器疾患の概念、診断、治療を学習し、医学界における最前線の知識の獲得に努める。

履修上の留意点

医学、とくに循環器病学で使われる専門用語を学んでおくことが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	心臓と血管の解剖と働き	心臓と血管の解剖と働きを解説するが、心エコー図を利用して動画像を供覧し人間の心臓機能を正しく理解する。血液の流れに関しては、ドプラ法を使用する。 【キーワード】 心臓の筋肉、弁膜、心室、心房、大動脈、乳頭筋、大動脈血流、僧帽弁通過血流、冠動脈血流	吉川純一（西宮渡辺病院 心臓血管センター最高顧問）	吉川純一（西宮渡辺病院 心臓血管センター最高顧問）
2	オーソドックスな循環器疾患診断法(問診と身体所見)	循環器疾患の診断の基本はしっかりとした問診と聴診・視診・触診からなるフィジカルイグザミネーションである。問診に関してはその要点を解説し、聴診に関しては実際の音を流しながら、そこから診断にいたる過程を説明する。 【キーワード】 呼吸困難、胸痛、動悸、心雑音、駆出性収縮期雑音、全収縮期雑音、拡張期雑音	吉川純一（西宮渡辺病院 心臓血管センター最高顧問）	吉川純一（西宮渡辺病院 心臓血管センター最高顧問）
3	心エコー図を中心とした循環器画像診断法	循環器病学の臨床面の進歩は、心エコー図やCT、磁気共鳴装置、核医学などの画像診断法に進歩によるところが多い。種々の循環器疾患の心エコー・ドプラ画像を供覧し、より正確な診断に迫る現場を紹介する。必要に応じて他の画像診断法を挿入する。 【キーワード】 心エコー図、ドプラ法、三次元心エコー図、経食道心エコー図	吉川純一（西宮渡辺病院 心臓血管センター最高顧問）	吉川純一（西宮渡辺病院 心臓血管センター最高顧問）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	高血圧の実践的な診断と治療	高血圧は日本の成人において最も頻度の高い疾患であり、その的確な診断と治療は臨床的に極めて重要な課題である。血圧の測定は、医療施設で診察時に測定されてきた（随時血圧）。しかしながら、人の血圧は日内変動を示し、朝覚醒時に高値を示し睡眠時に低値を示し、昼間も朝よりは低値を示す。さらに、この法則に従わない人も多く、的確な判断は家庭血圧測定に委ねざるを得ない。この血圧値と日内変動のパターンに基づき、治療計画を立案する必要がある。 【キーワード】 外来血圧、家庭血圧、夜間血圧、早朝高血圧、白衣高血圧	吉川純一（西宮渡辺病院 心臓血管センター最高顧問）	吉川純一（西宮渡辺病院 心臓血管センター最高顧問）
5	冠動脈疾患（狭心症と心筋梗塞）の疾患概念・診断・治療	本疾患の概念や診断、治療法は大きく変貌してきた。最近の最も重要なコンセプトは冠動脈にプラークが発生し症状が出現する状態(虚血)が狭心症であり、そのプラークが破裂(ないしはびらん)し血栓・プラーク内容物が冠動脈内に流出した状態が急性冠動脈症候群(不安定狭心症ないし心筋梗塞)である。本疾患の診断には、心エコー図やCTが注目され、さらに治療に関しては薬物療法が極めて重要な役割をはたしつつある。 【キーワード】 安定狭心症、不安定狭心症、心筋梗塞、血管内エコー	吉川純一（西宮渡辺病院 心臓血管センター最高顧問）	吉川純一（西宮渡辺病院 心臓血管センター最高顧問）
6	メタボリック症候群	現在ならではの循環器疾患コンセプトである。肥満が病態の中心をなし、糖尿病、脂質代謝異常、高血圧などが重なると、極めて重大な心臓血管系疾患を惹起する。この症候群は生活習慣と密接に関連しており、その治療には運動療法が必須であり、食事療法も極めて重要であることは当然である。 【キーワード】 内臓肥満、高トリグリセライド血症、低LDLコレステロール血症、空腹時高血糖	吉川純一（西宮渡辺病院 心臓血管センター最高顧問）	吉川純一（西宮渡辺病院 心臓血管センター最高顧問）
7	大動脈瘤と大動脈解離	真性大動脈瘤と大動脈解離は稀ならず見られるが、いずれも画像診断法の発展により診断が容易となり、治療法も急速に進歩してきた。本疾患をいかにスムーズに診断できるかどうかは医師としての能力を判断する基準の一つになりうる。 【キーワード】 真性大動脈瘤、大動脈解離	吉川純一（西宮渡辺病院 心臓血管センター最高顧問）	吉川純一（西宮渡辺病院 心臓血管センター最高顧問）
8	特発性心筋症と特定心筋症	原因が不明で心筋に障害が発生する特発性心筋症には主に肥大型心筋症と拡張型心筋症がある。この両者に共通して認められる異常は拡張能の障害である。拡張能障害に着目すると、拘束性心筋症も検出される機会が増加する。二次性心筋症は何らかの異常があり、心臓拡大・収縮不全・拡張不全をきたしている訳であるから、その「何らかの異常」を正しく検出することが最大のポイントである。 【キーワード】 肥大型心筋症、肥大型閉塞性心筋症、心尖部肥大型心筋症、拡張型心筋症	吉川純一（西宮渡辺病院 心臓血管センター最高顧問）	吉川純一（西宮渡辺病院 心臓血管センター最高顧問）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
9	心筋炎と心膜炎	心筋炎はウイルス感染によるものが多いが、薬物や放射線、免疫異常などによっても起こる。心筋炎は心筋とつながる心膜の炎症も合併することが多く、心膜・心筋炎として発症することも少なくない。心筋炎の診断は必ずしも容易でなく、本症を念頭に置いた対応が必要である。一方、心膜炎の診断も心エコー図によれば容易であるが、収縮性心膜炎の診断には心エコー図とドプラ法、呼吸曲線を駆使し、左室流入血が吸気に有意に低下するという現象（奇脈）を検出する必要がある。 【キーワード】 ウイルス性心筋炎、心膜・心筋炎、心膜炎、収縮性心膜炎	吉川純一（西宮渡辺病院 心臓血管センター最高顧問）	吉川純一（西宮渡辺病院 心臓血管センター最高顧問）
10	弁膜疾患	本邦におけるリウマチ熱の激減により僧帽弁狭窄を中心とするリウマチ性弁膜疾患はほとんど姿を消しつつある。替わって登場したのが非リウマチ性の大動脈弁狭窄と僧帽弁逆流である。これらのうち大動脈弁狭窄は動脈硬化を基盤として起こり、社会の高齢化によりどんどん増加している。僧帽弁逆流の主因は僧帽弁逸脱であり、本症も増加しつつある。弁膜疾患の合併症として注意すべきなのは感染性心内膜炎である。 【キーワード】 大動脈弁狭窄、大動脈二尖弁、僧帽弁逸脱、虚血性僧帽弁逆流、僧帽弁形成術	吉川純一（西宮渡辺病院 心臓血管センター最高顧問）	吉川純一（西宮渡辺病院 心臓血管センター最高顧問）
11	心不全	左室収縮性が低下し、心臓のポンプ機能の低下とそれに基づくうっ血・体液貯留をきたす状態と考えられてきたが、心不全例では収縮能が保たれ拡張能の低下（拡張不全）が主たる病態であることが少なくない。一方、心不全の診断にはやや古典的ながら症状と身体所見を中心とするフラミンガム基準が用いられてきたが、中心となるのはやはり心エコー図である。 【キーワード】 収縮不全、拡張不全、フラミンガム基準、心エコー図	吉川純一（西宮渡辺病院 心臓血管センター最高顧問）	吉川純一（西宮渡辺病院 心臓血管センター最高顧問）
12	脳血管障害	脳血管障害は脳卒中と同義語である。脳卒中は脳出血、くも膜下出血、動静脈奇形よりの出血、脳梗塞に分類される。さらに脳梗塞はアテローム血栓性脳梗塞、心原性脳梗塞、ラクナ梗塞などに分類される。最近問題となっているのは脳梗塞であり、アテローム血栓性脳梗塞では、頚動脈の診察（聴診、エコー、MRI/CT）が鍵を握る。心原性脳梗塞では心臓内での血流のうっ滞ないし血栓が存在する。本症と心房細動との関係を解説し、心房細動に対する臨床的対応の重要性が増加していることを説明する。 【キーワード】 脳梗塞、アテローム血栓性脳梗塞、心原性脳梗塞、頚動脈、エコー	吉川純一（西宮渡辺病院 心臓血管センター最高顧問）	吉川純一（西宮渡辺病院 心臓血管センター最高顧問）
13	日本人の循環器病	日本人の循環器病について、生活習慣病の死亡率（人口動態調査）、高血圧（国民栄養調査）、脳血管疾患（患者調査）、虚血性心疾患（患者調査）の罹患状況の推移から、その特徴について学ぶ。また、循環器病の予防に向けて、循環器病のリスクである、肥満、飲酒、喫煙などについて、すでに明らかにされている疫学知見について学ぶ。 【キーワード】 生活習慣病、高血圧、脳血管疾患、虚血性心疾患、循環器病のリスク、肥満、運動習慣、飲酒、喫煙	多田羅浩三（放送大学・教授）	多田羅浩三（放送大学・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
14	地域における循環器病への挑戦	わが国の地域における循環器病への挑戦について、厚労省の政策、地域における取り組み（八千穂村・沢内村など、大阪府立成人病センター集権部、久山町）、老人保健法による市町村の保健事業の成果などを振り返る。そして今日すすめられている、健康日本21、メタボリック・シンドローム対策、特定健診・保健指導の意義について考察する。また、外国における例として、イギリスのプライマリケアにおける循環器病対策の試みについて学ぶ。 【キーワード】 地域における取り組み、市町村の保健事業、健康日本21、メタボリック・シンドローム対策、特定健診・保健指導	多田羅浩三（放送大学・教授）	多田羅浩三（放送大学・教授）
15	動脈硬化に挑戦する	人の血管の終末像である動脈硬化に対する診断・治療の最近の進歩を紹介し、この動脈硬化により起こる心筋梗塞や狭心症、脳卒中、動脈瘤、下肢血管閉塞などの人の血管終末像に対していかに対処すべきかを解説する。続いて動脈硬化予防の重要性も強調したい。 【キーワード】 画像診断法、薬物治療、インターベンション治療、外科治療、フィジカルイグザミネーション	吉川純一（西宮渡辺病院 心臓血管センター最高顧問）	吉川純一（西宮渡辺病院 心臓血管センター最高顧問）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1511700	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 感染症と生体防御 （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：河原　和夫（東京医科歯科大学大学院教授）〕
〔主任講師（現職名）：岸本　忠三（大阪大学大学院教授）〕
〔主任講師（現職名）：岩本　愛吉（東京大学教授）〕

講義概要

本講義は、人間の健康について広範に論ずる「健康科学」の中の講義の一つとして実施される。
健康科学は人間生活に密接に関わる学問であることから、感染症関係では昨今の話題であるHIV、結核、プリオン病はもとよりSARS、新型インフルエンザ、ウエストナイル熱などの新興・再興感染症と医療現場での感染症問題に特に焦点を当てた。また、生態防御については、免疫システムの多様性と多型性、自然免疫と獲得免疫、自己免疫と免疫が関与する疾患などを中心に免疫学の最近の動向についてわかりやすく疾患との関係も踏まえながら講義を行う。

授業の目標

交通機関の発達、生活様式の変化、そして医療技術の進歩や医療行為に伴い現代社会に脅威を及ぼしている感染症の特徴を正しく理解するとともに、これら感染症などに対処するためにヒトが有している免疫システムの特徴および多様性について理解を得るようにする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	感染症と免疫システム・生態防御機構総論	疫（感染症）を免れるという体の免疫のしくみ、免疫系を構成する要素とその働きについて解説する。抗体の構造と機能、抗体の種類とその生物学的活性、抗体の多様性を生み出す遺伝子の再構成、抗体を作り出すリンパ球の種類とその機能、リンパ球の働きを調節する分子等ついて述べる。 【キーワード】 自然免疫と獲得免疫、抗体、抗体遺伝子の再構成、Bリンパ球、Tリンパ球	岸本　忠三（大阪大学大学院教授）	岸本　忠三（大阪大学大学院教授）
2	現代社会と感染症	わが国の感染症対策は明治維新以降の国家体制の整備とともにはじまり、医学の進歩等により感染症は急速に制圧されていった。しかし交通機関の発達や医学の進歩により克服されたと思われていた感染症は、薬剤耐性を獲得するなどして、その様相を変えて再び現代社会の脅威となっている。また、これまで知られていなかった新たな感染症も出現している。感染症対策には医療体制の整備など発生時の的確な対応のみならず、法制度等の整備による事前対応型対策の展開、国際協力などの政策が重要となる。また、対策を講じるにあたり関係者や国民の理解の促進も図らねばならない。講義では国民に脅威を及ぼしてきた感染症の変遷、そして対策の変化を理解する。 【キーワード】 感染症対策の三原則、抗生剤、予防接種、感染症法、薬事法、事前対応、国際協力	河原　和夫（東京医科歯科大学大学院教授）	河原　和夫（東京医科歯科大学大学院教授）
3	新興・再興感染症：総論	20世紀後半には、「感染症は克服された」という認識が支配した時期がある。しかし、実際にはその後さまざまな感染症が出現している。講義では、新興・再興感染症という考え方が提唱された時代背景、大規模な感染症が成立するための条件に関する歴史的考察、グローバリゼーションと感染症などに関して情報を提供し、感染症に関する理解を深める 【キーワード】 人口、交通、食経済、人獣共通感染症、グローバリゼーション	岩本　愛吉（東京大学医科学研究所教授）	岩本　愛吉（東京大学医科学研究所教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	ウイルス感染症を主とした新興・再興感染症:各論	ウイルス感染症を中心に新興感染症の各論を解説する。具体的には、高病原性鳥インフルエンザ、ウエストナイルウイルス感染症、重症急性呼吸器症候群(SARS)、ニパウイルス脳炎、ヒトパピローマウイルス感染症と子宮頸がんなどについて重要点を個別に解説する。また、制圧されたと考えられるウイルス感染症が再燃し、再興感染症となる用件について、麻疹ウイルス、肝炎ウイルス等を例に挙げて考察する。 【キーワード】 高病原性鳥インフルエンザ、ウエストナイルウイルス感染症、重症急性呼吸器症候群(SARS)、ニパウイルス脳炎、麻疹	岩本 愛吉 (東京大学医科学研究所教授)	岩本 愛吉 (東京大学医科学研究所教授)
5	寄生虫等感染症①	寄生虫感染症はウイルス、細菌などの感染症と比較して生物学的に、臨床的に、また公衆衛生学的にユニークな側面を有している。病原体自身が高度に進化した動物であるため、寄生適応にあたって複雑な宿主ー寄生虫相互作用を必要とするからである。この講義では寄生虫の中でも蠕虫と呼ばれる多細胞性寄生動物による感染と宿主応答に焦点をあてて解説する。蠕虫感染による宿主応答ではIgE抗体産生や好酸球などの白血球応答が特徴であるが、その誘導機構、生体防御における意義などを今日の知見を交えながら解説する予定である。 【キーワード】 蠕虫、人獣共通感染症、幼虫移行症、宿主ー寄生虫相互作用、Th2応答、免疫修飾	太田 伸生 (東京医科歯科大学大学院教授)	太田 伸生 (東京医科歯科大学大学院教授)
6	寄生虫等感染症②	原虫は単細胞動物であり、ヒトの感染症としてマラリア、アメーバ赤痢、トキソプラズマ症など重篤なものの病原体となるものが含まれる。その感染様式は複雑であるが、マラリアのように昆虫媒介性のものは地球温暖化による流行域拡大が懸念されている。原虫感染による宿主応答は、同じ寄生虫でも蠕虫感染とは異なり、一般的にはTh1応答が排除の効果を担う。ここでは原虫感染の際の宿主応答を概説し、宿主応答の誘導機序やワクチン開発の現状などについて述べる予定である。 【キーワード】 原虫、宿主ー寄生虫相互作用、地球温暖化、Th1応答、ワクチン	太田 伸生 (東京医科歯科大学大学院教授)	太田 伸生 (東京医科歯科大学大学院教授)
7	結核①	人類とともに歩んできた結核が、現在もなお世界の大きな保健医療上の課題となっている現状を認識させるとともに、感染症としての結核についてその病原体、感染伝播の様式、発病にいたる経過などについて基本的な知識を習得させる。 【キーワード】 結核 、結核菌、コッホ、抗酸菌、非結核性抗酸菌、飛沫核、 空気感染、感染、 発病	楠本 一生 (さいたま市保健所長)	楠本 一生 (さいたま市保健所長)
8	結核②	結核の発病、診断、治療そして予防について基本的な知識を習得させるとともに、世界、日本の結核問題の現状とその対策そして、特に日本の結核問題の特徴について理解を深めることによって結核は単なる一つの感染症というだけでなく、大きな公衆衛生課題であることを認識させる。 【キーワード】 発病、化学療法、抗結核薬、QFT(クウォンティフェロン)、多剤耐性菌結核 長多剤耐性菌結核 DOTS	楠本 一生 (さいたま市保健所長)	楠本 一生 (さいたま市保健所長)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
9	HIV／AIDS① 世界流行の動向と背景	流行発覚後4半世紀の間に、HIV/AIDS流行は推定感染者数4千万人というパンデミックに発展し、現在東アジアで急速に拡大しつつある。流行は、医学的難題であると同時に、人類の抱える根深い社会矛盾(社会的脆弱性)を背景とする社会的難題でもあり、世界はまだ問題解決の展望を見出せずにいる。講義では、アジアを中心に流行の現状を説明し、HIV/AIDS流行があぶり出す社会矛盾に焦点を当てる。 【キーワード】 パンデミック、アフリカ、アジア、先進国、医学的困難、社会的脆弱性、流行予測	木原 正博(京都大学大学院教授)	木原 正博(京都大学大学院教授)
10	HIV／AIDS② 日本のHIV./AIDS流行の様相と背景	わが国は、多剤併用療法登場後も、HIV感染者とAIDS患者数が、未だに同時に増加を続けている稀な先進国である。アジア流行は周辺諸国に至り、近い将来にわが国への上陸が懸念されるが、それを防ぐ社会的力は貧弱に見える。講義では、流行の様相とともに、エイズ対策の遅れ、性感染症の蔓延、薬物蔓延、性産業の増殖など、わが国の今後のHIV/AIDS流行を左右する社会的脆弱性に焦点を当てる。 【キーワード】 東アジア、性感染、地域拡散、若者、社会的脆弱性、薬物、性産業、国際交流	木原 正博(京都大学大学院教授)	木原 正博(京都大学大学院教授)
11	プリオン病	プリオン病は、潜伏期間の長い致死性の感染症である。一度発病すれば、有効な治療法はない。この中でも、新興感染症として出てきた、ウシのBSEとそれがヒトに感染して起こるvCJDに関してどのような経緯でこの感染症が広がり、現在の対策上で問題になっている点に焦点をあてる。 【キーワード】 BSE(ウシ海綿状脳症)、vCJD(バリアント型クロイツフェルト・ヤコブ病)、プリオン蛋白	北本 哲之(東北大学大学院教授)	北本 哲之(東北大学大学院教授)
12	院内感染症	院内感染症とは、医療施設のおける入院患者が原疾患とは別に新たに罹患した感染症および医療従事者が病院内において罹患した感染症である。近年、人口の老齢化により、糖尿病、悪性腫瘍など慢性病の増加が免疫機能を低下させ日和見感染に易感染性となり、院内感染を起こしやすくしている。また、薬剤耐性菌の出現により、院内感染症はさらに重大な問題となっている。日和見感染、薬剤耐性菌、院内感染対策、院内感染対策委員会、院内感染サーベイランス、ICTラウンドなどにつき概説する。 【キーワード】 薬剤耐性菌、院内感染対策、院内感染サーベイランス、ICTラウンド	河野文夫(国立病院機構熊本医療センター副院長)	河野文夫(国立病院機構熊本医療センター副院長)
13	輸血などの生物由来製品に伴う感染症	輸血は、近代医学に大きく貢献してきたが、現在行われている献血を基本とした輸血は、本質的には同種移植であり、自己移植と異なり感染症を初めとする副反応の可能性を常に伴う。輸血には、成分輸血と、血漿分画製剤がある。過去には、本邦においても、いずれの国も通った輸血後肝炎などの問題が存在した。しかし、現在日本の献血制度の輸血感染症に対するスクリーニングの制度は世界でもっとも進んでいる。しかし、エイズウイルスのウインドウピリオドなどの問題はなお完全ではなく、未解決の問題である。血漿分画製剤についても、献血に頼らないですむ、合成アルブミンが開発され実用化されようとしている。現時点での輸血由来感染症の問題点と将来についてを概説する。 【キーワード】 輸血由来感染症、ウイルス肝炎、HIV感染症	河野文夫(国立病院機構熊本医療センター副院長)	河野文夫(国立病院機構熊本医療センター副院長)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
14	感染症と健康危機管理	さまざまな感染症の世界的規模での流行が危惧される今日、これらに起因する健康被害の発生予防、拡大防止、治療対策を迅速に講じ、初期段階で感染症を制圧することが極めて重要である。感染症対策における健康危機管理の概念を整理するとともに対象となる事象を示す。震災後の感染症、SARS、トリインフルエンザ、ウエストナイル熱、変異型クロイツフェルト・ヤコブ病などの新興再興感染症、そして血液製剤や院内感染等の一部の医原性感染症が社会生活に及ぼす影響、国内外の対策、課題、今後の方向性を理解する。 【キーワード】 新興再興感染症、医原性感染症、感染症法、薬事法、移動手段の発達	河原　和夫	河原　和夫
15	感染症と生態防御機構の今後の展望	免疫系の調節機能が狂うことによって種々の病気（自己免疫疾患、癌、感染症）が誘発される。ここでは免疫調節機能の異常とその修復、今後の展望について述べる。特にアレルギーの発症機構、自己免疫疾患とその症状をひきおこすサイトカイン、抗体医薬という新しい治療法の出現、更に移植や再生医療についても述べる。 【キーワード】 アレルギー、自己免疫疾患、サイトカイン、抗体医薬、移植、再生医療	岸本　忠三	岸本　忠三

科目名（メディア）＝　リハビリテーション（‘０７）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：　里宇　明元（慶應義塾大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：　佐藤　禮子（兵庫医療大学副学長）　〕

講義概要

これまでリハビリテーションは理念的に語られることが多かったが、本来は優れて実践的かつ役に立つ学問、技術の体系である。少子高齢化の進行、疾病構造の変化、生活環境の変化が急速に進む中で、本講座では実学としてのリハビリテーションに焦点をあて、「障害を持った人々が、持てる能力を最大限に発揮し、人権が尊重され、生き甲斐を持った生活を送れるように、障害者やその家族を中心に共通の目標に向かってチームで援助する活動」としてのリハビリテーションについて実践的に考えてみたい。

授業の目標

1) リハビリテーション（リハ）に何ができるかを説明できる。
2) 障害のとらえかたとアプローチの方法を説明できる。
3) 早期からの予防的リハの重要性について説明できる。
4) 回復期、維持期のリハについて説明できる。
5) 高齢者、小児、運動器、内部障害のリハについて理解する。
6) 摂食・嚥下障害、排尿障害のリハについて理解する。
7) 義肢、装具、福祉機器について理解する。
8) リハ看護について説明できる。
9) リハの新たな展開について理解する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	リハビリテーションに何ができるか	実学としてのリハビリテーションの観点から、その概念、歴史、流れ、対象、評価とアプローチ、リハビリテーションチームについて解説し、本講座全体を鳥瞰するとともに、リハビリテーションに何ができるかを提示する。	里宇明元（慶應義塾大学教授）	里宇明元（慶應義塾大学教授）
2	障害をどのようにとらえるか？	適切かつ有効なリハビリテーションを提供するためには、障害を持った人々の複雑かつ多岐に渡る問題点を的確に把握することが出発点となる。そこで、評価の概念的枠組み、障害のレベルごとの評価のポイント、問題点の抽出と評価のまとめ方について解説し、実際のアプローチに活かせるようにする。	辻　哲也（慶應義塾大学講師）	辻　哲也（慶應義塾大学講師）
3	障害にどのようにアプローチするか	評価に基づくゴールの設定、障害のレベルごとのアプローチのポイント、リハビリテーションで用いられる治療手段とその選択、リハビリテーションプログラムの組み立て方、などを解説し、実践的なアプローチを行う上での一助とする。	長谷公隆（慶應義塾大学准教授）	長谷公隆（慶應義塾大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	早期からの予防的リハビリテーション	安静の取り過ぎにより生じる廃用症候群とその予防の重要性、早期からの予防的リハビリテーション介入により得られる効果、リハビリテーションを安全に行うためのリスク管理のノウハウなどについて解説する。	里宇明元(慶應義塾大学教授)	里宇明元(慶應義塾大学教授)
5	回復期のリハビリテーション	機能の回復を最大化するためのプログラムの組み方、高密度・高強度リハビリテーションの考え方、麻痺、失語症、嚥下障害、排尿障害、歩行障害など回復期で問題となる主な障害に対するアプローチのポイントを解説する。	園田茂(藤田保健衛生大学教授)	園田茂(藤田保健衛生大学教授)
6	地域リハビリテーション	地域リハビリテーションの考え方、システム、利用可能な資源を紹介するとともに、地域で生活する障害者の要介護状態の改善、獲得された機能の維持および本人と介護者の QOL 向上のためのノウハウを解説する。	長谷公隆(慶應義塾大学准教授)	長谷公隆(慶應義塾大学准教授)
7	高齢者のリハビリテーション	高齢化が急速に進行する中で、高齢者に対するリハビリテーションの重要性はますます高まっている。加齢、各種の疾病、環境など複合的な要因により要介護状態がもたらされるという高齢者特有の問題点を踏まえ、リハビリテーションを成功させるために押さえるべきポイントとアプローチのノウハウを解説する。	出江紳一(東北大学大学院教授)	出江紳一(東北大学大学院教授)
8	小児のリハビリテーション	小児は決して小さな大人ではなく、リハビリテーションにおいても、成長・発達途上にあることによりもたらされる特有の問題点がみられる。小児のリハビリテーションを成功させるために、ライフサイクルを通して押さえておくべきポイントとアプローチのノウハウを解説する。	里宇明元(慶應義塾大学教授)	里宇明元(慶應義塾大学教授)
9	運動器のリハビリテーション	運動器とは、骨関節筋肉とそれにまつわる神経など、身体を支えたり、動かしたりする器官の総称であり、その疾病は、生活機能障害をもたらす重要な原因となる。転倒・骨折、関節疾患、骨粗鬆症、スポーツ外傷など運動器疾患のリハビリテーションの考え方とノウハウについて解説する。	花山耕三(東海大学准教授)	花山耕三(東海大学准教授)
10	内部障害のリハビリテーション	近年、呼吸器疾患、循環器疾患、糖尿病、悪性腫瘍などによる「内部障害」が増加しつつあり、近い将来、肢体不自由による障害を凌駕すると予想されている。これらの新たな領域としての内部障害に対するリハビリテーションの考え方とノウハウについて解説する。	辻哲也(慶應義塾大学講師)	辻哲也(慶應義塾大学講師)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	摂食・嚥下障害のリハビリテーション	食べることの障害は、誤嚥性肺炎、窒息、脱水などの医学的リスクだけでなく、食べる楽しみの喪失というQOLの観点からも重要である。ここでは近年、注目されている摂食・嚥下障害の評価とアプローチのポイントについて解説する。	辻　哲也(慶應義塾大学講師)	辻　哲也(慶應義塾大学講師)
12	排尿障害のリハビリテーション	排尿障害があると、尿失禁による皮膚汚染、切迫性尿意による転倒リスクの増大、介助量の増加、社会からの孤立、在宅生活継続困難など、さまざまな影響がもたらされる。膀胱機能だけでなく、排尿動作、生活環境も含めた排尿障害の評価とアプローチのポイントを解説する。	里宇明元(慶應義塾大学教授)	里宇明元(慶應義塾大学教授)
13	義肢装具、福祉機器と最新テクノロジーの活用	リハビリテーションにおいては、失われた機能を補う手段として、さまざまな義肢装具、福祉機器等が活用され、障害を持った人々の機能の向上と社会参加の促進に役立っている。さらに、近年は、IT、ロボッティックスを駆使した先端的な機器も開発され、新たなブレークスルーをもたらすことが期待されている。これらの現状と今後の展望について解説する。	長谷公隆(慶應義塾大学准教授)	長谷公隆(慶應義塾大学准教授)
14	リハビリテーション看護の展開	疾病や障害からの回復過程で実施される看護活動は、身体機能の回復のみならず、低下した自尊感情を高め、自己効力感を涵養させる役割・機能を持つリハビリテーション看護である。術後の回復を促進させる早期離床や乳房切除後の訓練プログラムなどを通して、患者と協働するリハビリテーション看護の理念とゴールについて解説する。	佐藤禮子(兵庫医療大学副学長)	佐藤禮子(兵庫医療大学副学長)
15	リハビリテーションの新たな挑戦	これまで回復は困難と考えられていた成人の脳における可塑性への働きかけの可能性、再生医療の進歩に伴う新たなリハビリテーション医療の展開、長期宇宙滞在の現実化に伴う宇宙滞在中および地球帰還後のリハビリテーションの重要性の高まりなど、リハビリテーションの新たな挑戦が始まりつつある。最終回は、これらの近未来のリハビリテーションについて展望する。	里宇明元(慶應義塾大学教授)	里宇明元(慶應義塾大学教授)

事務局記載欄	開講年度	２０１１年度	科目区分	専門科目	科目コード	1518313	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　今日のメンタルヘルス　　（’１１）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：石丸 昌彦 （放送大学教授）　　〕

講義概要

メンタルヘルス（＝人の心の健康）を支える力は、ライフサイクルの中で養われ、人と人とのネットワークの中で維持されるものである。この科目では、そのような健康な力を育むメカニズムを学ぶとともに、破綻の結果として生じる精神疾患のあらましを知り、生活の場において生じるさまざまな問題の現状と対策を考えていく。メンタルヘルスの危機が叫ばれている今日、喫緊のテーマを扱うものである。

授業の目標

メンタルヘルスの領域における基礎知識を身につけ、さまざまな問題にとりくむための基本的な能力を養うことを目的とする。

履修上の留意点

入門的な科目であるので、特にあらかじめ履修しておくべき科目はないが、関心に応じて精神医学や臨床心理学など関連分野について学習することを勧めたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	メンタルヘルスとは何だろうか	全体の導入として、メンタルヘルスという言葉の意味内容について検討する。疾病構造の変化や最近の統計データを概観し、WHOの健康の定義やそこに現れている包括的な健康観などを学びながら、今日におけるメンタルヘルスの意義について考える。 【キーワード】 メンタルヘルス、包括的な健康観、精神疾患、身体的健康、健康なパーソナリティ	石丸 昌彦（放送大学・教授）	石丸 昌彦（放送大学・教授）
2	ライフサイクルとメンタルヘルス（1）－ 周産期	周産期は妊娠・出産といった身体的変化に伴い、心理的にも不安定になりやすい時期である。この時期に生じる心の問題について、母親の症状、母子の関係性にみられる症状について紹介し、母親のメンタルヘルスを高めるための方法について考察する。 【キーワード】 妊娠、出産、愛着・愛着障害、認知療法、ソーシャルサポート	山口 創（桜美林大学・准教授）	山口 創（桜美林大学・准教授）
3	ライフサイクルとメンタルヘルス（2）－ 子ども時代	子どもは家庭と学校で多くの時間を過ごしているため、これらが子どものメンタルヘルスに大きな影響を及ぼしている要因となっている。本章では家庭と学校における子どもの心の問題に焦点を当て、親子関係や教師との関係からメンタルヘルスを高めるための方法について考察する。 【キーワード】 幼児期、学童期、不登校、うつ病、ストレス	山口 創	山口 創

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	ライフサイクルとメンタルヘルス(3) － 少年・少女・青年	思春期・青年期は、子どもからおとなへと移行する過渡期である。第二次性徴の発現による身体的成熟の開始から、社会的成熟に向かうおおきな変化の過程にあり、不安定な激動の時期といえる。それだけにリスクをはらんでおり、メンタルヘルス上のさまざまな問題がこの時期に顕在化する。 【キーワード】 思春期、青年期、第二次性徴、心理的離乳、アイデンティティ、モラトリアム	森 和代（桜美林大学・教授）	森 和代（桜美林大学・教授）
5	ライフサイクルとメンタルヘルス(4) － おとなの男性と女性	高度な情報社会である現代において、成年期は、変化し続ける社会環境の中核にあり、絶え間なく再適応を迫られるストレスフルな時期といえる。男性と女性の生理的・心理的相違や社会的役割をめぐる葛藤が、それぞれの性に特有の問題をもたらすことは見逃せない。本章は、性の視点、特に女性の視点からメンタルヘルスについての検討を行う。 【キーワード】 成人期、ストレス、ストレッサー、性役割	森 和代	森 和代
6	ライフサイクルとメンタルヘルス(5) － 老年期と人生のしめくくり	超高齢化社会を迎え、高齢者自身が人生で達成してきた事柄を肯定的に受け止め、それを次世代に受け継ぐことができれば、老年期のメンタルヘルスを保つことに大いに寄与する。また、「歳を取ったらさまざまな問題を抱えるのだから、多少、抑うつ的になっても当然だ」といった社会が抱く高齢者に対する偏見を是正していくことも重要な課題となる。 【キーワード】 老年期、高齢者に対する偏見、英知と絶望、回想法	高橋 祥友（防衛医科大学校・教授）	高橋 祥友（防衛医科大学校・教授）
7	精神疾患(1) － 心の病とはどんなものか	精神疾患はメンタルヘルスが破綻した結果として起きるものである。本章では精神疾患全般を広く見渡し、精神医療の現状や精神疾患の診断・治療・原因論などについて学ぶ。精神疾患の発症に対する遺伝や環境の影響についても正しく理解したい。 【キーワード】 精神疾患、DSM、遺伝と環境、薬物療法、精神療法	石丸 昌彦	石丸 昌彦
8	精神疾患(2) － 脳の機能変調と精神疾患	脳の機能変調にもとづくと考えられる精神疾患として、統合失調症と躁うつ病をとりあげ、その症状・発病機序・疫学・治療・経過などについて学ぶ。両者はかつて二大精神病と呼ばれた代表的な精神疾患であり、基本的なことがらについてよく理解しておきたい。 【キーワード】 統合失調症、躁うつ病、気分障害、脳の機能変調	石丸 昌彦	石丸 昌彦
9	精神疾患(3) － 不安とその周辺	「不安」は主要な精神症状であり多くの精神疾患に伴って認められるが、その表れ方や処理メカニズムは疾患によって異なり多様である。神経症やパーソナリティ障害に注目しながら、その概要を学ぶ。 【キーワード】 不安、恐怖、神経症、パニック障害、境界性パーソナリティ障害	石丸 昌彦	石丸 昌彦
10	精神疾患(4) － ストレスとストレス反応	強いストレッサーに起因する精神障害として、適応障害、急性ストレス障害、外傷後ストレス障害（PTSD）などが挙げられる。心身症や摂食障害もストレスとの関連が深い。これらの疾患について、ストレスと精神症状との関連を学ぶ。 【キーワード】 ストレス、適応障害、PTSD、心身症、摂食障害	石丸 昌彦	石丸 昌彦

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	精神疾患(5) － アルコール依存と薬物乱用	アルコール依存症や、覚醒剤その他の物質乱用は、今日の大きな健康問題となっており、その裾野は大きく広がっている。これら有害な物質に対する依存・乱用によって生じる症状や、そこから派生する問題などを展望する。 【キーワード】 アルコール関連問題、アルコール依存症、心理的依存、身体的依存、覚醒剤	石丸 昌彦	石丸 昌彦
12	ストレスの理論	ストレス理論の歴史と現状について学ぶ。セリエからラザルスを経て今日に至る歴史的な流れを展望した後、現時点での代表的な考え方を紹介し、メンタルヘルスにおけるストレス理論の重要性や将来への課題に触れる。 【キーワード】 ストレス、ストレッサー、セリエ、ラザルス	種市 康太郎（桜美林大学・准教授）	種市 康太郎（桜美林大学・准教授）
13	職場とストレス	厳しい経済情勢が続く中で、職場における勤労者のストレスがメンタルヘルスの重要な問題となっている。職場ストレスの現状について学ぶとともに対策を検討し、生活の場におけるメンタルヘルスとの関係についても考える。最後に、復職支援の現状についても触れる。 【キーワード】 職場ストレス、安全配慮義務、労働災害、職場－家庭間の葛藤	種市 康太郎	種市 康太郎
14	ストレス・コーピングの実践	前章まで学んだ理論的基礎を踏まえ、自分自身のストレスに適切に対処していくための実践的な方略について学ぶ。自らのストレスの原因を整理すること、ストレス対処には幅広い方法があることを意識していることが大切である。 【キーワード】 ストレス・コーピング、認知的評価	種市 康太郎	種市 康太郎
15	自殺とその予防	わが国では1998年以来、年間自殺者数3万人台という緊急事態が続いている。2006年には自殺対策基本法が成立し、自殺予防は社会全体の課題であると宣言された。自殺予防のために、その現状、予防のための基本概念、対応の原則について解説する。早期の段階で問題に気づき、適切な対応を取ることで、自殺予防の余地は十分に残されている。 【キーワード】 自殺、自殺予防、事前予防、危機対応、事後対応	高橋 祥友	高橋 祥友

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	専門科目	科目コード	1887416	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 看護学概説 （’１０）＝ （Ｒ）

※この科目は「看護学概説（’０５）」を一部改訂した科目です。
改訂回は第2, 5, 12回です。

〔主任講師（現職名）：髙﨑　絹子（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：佐藤　禮子（兵庫医療大学副学長）〕

講義概要

学習者が、看護学の主たる概念や諸理論に関わる先進的知識を幅広く獲得し、実践の科学である看護に対する理解を深め、自らの看護観を確かなものにしていくことを意図している。

授業の目標

「看護学概説」の目標は、看護学を学ぶに当たっての基本的な知識や考え方を理解することである。内容は、看護ケアの本質、看護技術の意味、看護倫理、看護の歴史や教育制度の発展過程、家族・地域・社会と看護のつながり、看護の組織や活動の場など、内容は多岐にわたっている。なお、本書では統合科目の「看護管理」と「安全管理」の基礎的な内容を加えた。

履修上の留意点

看護概説の範囲は広いので、学習に当たっては関連の参考書や副読本などを参考にしながら学習することが必要である。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	看護の本質となるもの	看護は、人が幸せにして健康な生活を営むことができることを目指す、生物－心理－社会的存在としての人間の健康生活に焦点を当てた働きをなす実践の科学である。このような科学的看護の本質について理解を深めるために、看護のkey概念についてと看護実践とその基盤について詳述する。 【キーワード】	佐藤　禮子（兵庫医療大学副学長）	佐藤　禮子（兵庫医療大学副学長）
2	看護の基盤と発展過程 （※改訂回）	看護ケアの本質や援助の特質は看護活動の基盤であり、それは時代とともに変わることはない。しかし、社会の変革や医療の発展とともに看護の果たす役割や機能は変化し、それに応えるために、看護の高度化と専門分化が図られてきた。看護の歴史や教育制度の変遷を概観するとともに、急速に発展する看護の実践・教育・研究の今後の方向を考える。 【キーワード】	髙﨑　絹子（放送大学教授）	髙﨑　絹子（放送大学教授）
3	生涯発達過程にある看護の対象者	人間はこの世に生を受けてから死に至るまで生涯発達の過程にある。看護は、人生のさまざまな局面にある人々に関わりながら、人々の健康や発達を支えることを目標としている。ここでは、看護の対象となる人々の健康との関連から、発達と看護について述べる。 【キーワード】	岩﨑　弥生（千葉大学教授）	岩﨑　弥生（千葉大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	健康を保つメカニズムと看護	健康とは何か、そして健康を保つために看護はどのような役割を果たしうるのかについて解説する。これにより健康のあらゆるレベルに対する看護の役割、機能について考察する。 【キーワード】	宮﨑美砂子（千葉大学教授）	宮﨑美砂子（千葉大学教授）
5	ケアシステムの発展と看護の活動 （※改訂回）	健康を支える保健医療福祉制度は、社会情勢の変化、少子高齢化、医療の高度化等によって、国、地域レベルで急速な変革をとげてきた。総合的な視点から健康問題を捉え、生活に基盤においたケアシステムやサービスを提供する仕組みづくりと方法が求められている。そうした状況を背景にした看護職に期待されている役割や機能を考えるとともに、今後を展望した活動について考える。 【キーワード】	髙﨑　絹子（放送大学教授）	髙﨑　絹子（放送大学教授）
6	看護情報と看護過程の展開	看護過程は、看護情報に基づく問題解決のための分析的アプローチ法である。その中で、看護する人がどのような判断をし、何を問題として捉え、どのような活動を行っているのかについて解説する。 【キーワード】	齋藤やよい（東京医科歯科大学大学院教授）	齋藤やよい（東京医科歯科大学大学院教授）
7	看護技術の意味	看護実践は対象との関わりの中で発展させていくものであり、対象にもっとも適した看護実践には、看護する者のしっかりした看護観とともに科学的根拠に基づいた看護技術が要求される。具体例とともに看護技術の意味と看護の実践力について説明する。 【キーワード】	齋藤やよい（東京医科歯科大学大学院教授）	齋藤やよい（東京医科歯科大学大学院教授）
8	関わりと看護技術	看護は人と人との関わりの中で実現され、看護する人もされる人も関わりの中で変容する。看護する者が全体的存在として患者と共にあることの意味を述べ、看護における援助関係の構築や展開に関する看護技術も含め、関わりの看護技術について紹介する。 【キーワード】	岩﨑　弥生（千葉大学教授）	岩﨑　弥生（千葉大学教授）
9	セルフケアを育てる看護	健康問題を解決し、健康を増進するために、人はさまざまな社会資源を活用し、セルフケア能力を育み、実践している。慢性疾患患者のセルフケアを例に、セルフケアを遂行するために必要な要件と、それを支える看護活動について説明する。 【キーワード】	齋藤やよい（東京医科歯科大学大学院教授）	齋藤やよい（東京医科歯科大学大学院教授）
10	患者を含む一単位としての家族への看護	患者を含めた家族全体を一つの単位として看護の対象とする意義を概説し、個人の健康の回復と維持における家族の役割および家族成員の病気が家族全体に及ぼす影響について述べる。また家族全体を対象とした看護方法の概要を簡単に紹介する。 【キーワード】	岩﨑　弥生（千葉大学教授）	岩﨑　弥生（千葉大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	在宅療養を支える看護	在宅療養者及びその家族を支えるために、地域社会で機能している看護の諸活動の現状について説明する。また在宅療養を支える看護をさらに充実・発展させるための課題について述べる。 【キーワード】	宮﨑美砂子（千葉大学教授）	宮﨑美砂子（千葉大学教授）
12	看護チームアプローチと他職種との連携（※改訂回）	保健医療の発展と多様化するニーズに対応し、予防からターミナルケアに至るまでの各段階における看護職の調整的な機能を果たすことが求められている。 看護サービスの提供システムや組織、看護管理、安全管理について理解するとともに、多機関・多職種とのチームケアの連携や退院調整の必要性を考える。 【キーワード】	髙﨑　絹子（放送大学教授）	髙﨑　絹子（放送大学教授）
13	地域住民と共働する看護	人々は、地域生活共同体の一員として、多様な人とつながりを持ちながら生活している。人々の健康や生活の豊かさを追究するために、看護が創出してきた、地域住民と共働する看護活動の方法及び意義について説明する。 【キーワード】	宮﨑美砂子（千葉大学教授）	宮﨑美砂子（千葉大学教授）
14	人の死と看護	人の死とはについて、生物学的な死の概念から導入し、人の死と死に行くことについて理解を深め、特に、人が人生途上において、突然に死に直面せざるをえない事態に陥った時の苦悩する人々および死に逝く人々にかかわる看護の働きについて説明する。 【キーワード】	佐藤　禮子（兵庫医療大学副学長）	佐藤　禮子（兵庫医療大学副学長）
15	看護における倫理	倫理とは何かという基本的な意味について、および専門職としての看護実践を導く判断の基盤であり道徳的な意思決定を行う時の行動の指針ともなる、倫理的な原則について説明する。また日々の看護実践における倫理的問題を理解するための講義展開を行う。 【キーワード】	佐藤　禮子（兵庫医療大学副学長）	佐藤　禮子（兵庫医療大学副学長）

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	専門科目	科目コード	1887513	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 基礎看護学 （’１０）＝ （ＴＶ）

※この科目は「基礎看護学（’０４）」を一部改訂した科目です。
改訂回は第2, 8, 12, 14, 15回です。

〔主任講師（現職名）：佐藤　禮子（兵庫医療大学副学長）〕
〔主任講師（現職名）：三上　れつ（慶應義塾大学教授）〕
【本学担当専任教員：髙﨑　絹子（放送大学教授）】

講義概要

看護実践に必要な主要な知識・技術について理解を深め、専門職者として活動するための基盤並びに考え方を拡大することを意図している。

授業の目標

1. 看護専門職として役割を果たすための基本的な考え方について理解を深める。
2. 理論に裏打ちされた看護実践ができるよう学習方法を身につける。

履修上の留意点

内容の理解のみならず、経験や現実場面等と比較しながら自分の思考や看護観を発展できるようにしよう。また、積極的にグループディスカッションをして、あるべき医療や看護についても考えてみよう。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	専門職として求められる看護の機能と役割	看護が自律した専門職として、人々の健康や幸福に貢献するには、看護サービス利用者や他職種者と協働して、ケア技術や保健医療福祉におけるケアシステムを変革していくことが必要である。看護の歴史を振り返り、人々のQOLの向上をめざして、対象のもつ力を強める看護の機能と役割について説明する。 【キーワード】 看護専門職、役割と機能	佐藤　禮子（兵庫医療大学副学長）	佐藤　禮子（兵庫医療大学副学長）
2	患者の権利を擁護する方法 （※改訂回）	看護職者は、患者がもつ基本的な人権を尊重し、患者が自らの意思に基づき自己決定できるよう支え守る重要な役割を担っている。看護実践の場における患者の人権擁護に対しての多様な倫理的課題と看護職員としてのその対応方法について説明する。 【キーワード】 倫理綱領、自己決定、インフォームドコンセント、アドボカシー、セカンドオピニオン	大島　弓子（神奈川県立保健福祉大学教授）	大島　弓子（神奈川県立保健福祉大学教授）
3	看護行為と法の関係	看護は人の生命に関わる職業であり、法によって責任の在り方が問われる。どのような法令に基づき看護行為を遂行するのか、特に医事、薬事に関する法律を概説し、責任を問われる意味について述べる。また、看護行為の法的責任、看護師の医療行為の法的責任について具体的に説明する。 【キーワード】 看護行為、医療行為、法的責任、保健師助産師看護師法、医師法	石井　範子（秋田大学大学院教授）	石井　範子（秋田大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	患者となった人の対象理解とは	看護における対象理解は、対象を全体的に統合された人間として理解することである。病気によって患者は新たな役割が付与され、制限された生活を余儀なくされるが、身体的・心理的・社会的・霊的存在として変化しつづける。人間の生命・生活・健康に関わる人間理解について、具体的な事例を通して説明する。 【キーワード】 対象理解、発達課題、病者役割	小松　万喜子（愛知県立大学教授）	小松　万喜子（愛知県立大学教授）
5	専門的援助関係を発展させるコミュニケーション技法	患者と看護師の関係は確かな意思によって結ばれる専門的援助関係である。このプロセスを通して看護師は自己理解と他者理解を深め、専門職者としての能力を高めていく。対人関係理論を概説し、患者との効果的なコミュニケーション技法を具体的に説明する。 【キーワード】 専門的援助関係、コミュニケーション、一般的援助関係	小松　万喜子（愛知県立大学教授）	小松　万喜子（愛知県立大学教授）
6	看護判断の基盤となる身体的・心理社会的アセスメント	身体的・心理社会的アセスメントは、看護ケアの根拠と成果の測定、評価の指針となる情報を得るために欠かすことができない。身体的・心理社会的アセスメントの方法を概説し、特に身体的アセスメントの具体的方法について述べる。 【キーワード】 ヘルスアセスメント、看護データベース、情報収集方法、身体診査技法、聴診法	三上　れつ（慶應義塾大学教授）	三上　れつ（慶應義塾大学教授）
7	エビデンスに基づく看護過程	看護過程は、看護師が対象の健康回復・維持・増進をめざして、意図的・系統的に行われる問題解決方法である。看護過程の6段階について説明し、エビデンス（根拠）に基づく看護ケアを実践するために、正確な診断・評価を方向づける患者情報の重要性と活用法について述べる。 【キーワード】 看護過程、問題解決法、患者情報、看護診断、評価	三上　れつ（慶應義塾大学教授）	三上　れつ（慶應義塾大学教授）
8	セルフケアを促進させる教育指導方法（**※改訂回**）	対象が健康的な日常生活を維持していくためには、看護師が一方的に援助するのではなく、患者・家族のセルフケア能力を高めていくことが不可欠である。セルフケア能力を促進するために必要な教育指導方法の実際について説明する。 【キーワード】 セルフケア、教育指導、セルフエフィカシー	小松　万喜子（愛知県立大学教授）	小松　万喜子（愛知県立大学教授）
9	看護基本技術：「食事」を支える口腔・嚥下ケア	口腔内汚染や誤嚥は、致命的な肺炎を引き起こす。 口腔の機能と嚥下のメカニズムから、体力の低下した高齢者や麻痺のある患者に対する「食事」を支える看護技術として、口腔ケアと嚥下ケアについて具体的に説明する。 【キーワード】 摂食行動、摂食・嚥下障害、口腔ケア、嚥下訓練法	三上　れつ（慶應義塾大学教授）	三上　れつ（慶應義塾大学教授）
10	看護基本技術：「自尊心」を守る失禁ケア	尿失禁には様々な種類があるが、そのメカニズムを知ることで、人々の排尿を適切にコントロールする介入が可能になる。これらの尿失禁のケアとして重要な「自尊心」を守る看護技術を中心に、トータルケアであるコンチネンスケアについて具体的に説明する。 【キーワード】 尿失禁、自尊心、排尿システム、皮膚・排泄ケア	大島　弓子（神奈川県立保健福祉大学教授）	大島　弓子（神奈川県立保健福祉大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	看護基本技術：「自然治癒力」を促がす褥瘡ケア	新しい褥瘡ケアは、除圧、栄養、閉鎖式ドレッシング法、創の湿潤環境、デブリードメント法である。予防ケアの他、褥瘡の進行段階に応じた創の「自然治癒力」を増進するための看護技術として、創傷ケアについて具体的に説明する。 【キーワード】 褥瘡、自然治癒力、発生要因、予防方法、褥瘡ケア	石井　範子（秋田大学大学院教授）	石井　範子（秋田大学大学院教授）
12	看護基本技術：「生命の危険」を回避する感染予防方法（※改訂回）	医療・保健施設における院内感染に関する状況は厳しさを増しており、正しい知識の提供や予防手段を推進することが急務となっている。院内感染の現況と新しい感染管理の考え方について説明し、「生命の危険」を回避する看護技術として、具体的な感染予防方法について述べる。 【キーワード】 感染予防、院内感染、病原微生物、標準予防策、無菌操作	石井　範子（秋田大学大学院教授）	石井　範子（秋田大学大学院教授）
13	看護の情報化から電子カルテまで	身近な存在となった医療情報のコンピュータ化社会を概観する。看護情報の意味、活用法について確認し、情報をどのように管理し保護するかについて説明する。さらに、電子カルテの本質と実際を紹介する。 【キーワード】 看護情報、電子カルテ、看護用語、看護記録、NANDA, ICNP	大島　弓子（神奈川県立保健福祉大学教授）	大島　弓子（神奈川県立保健福祉大学教授）
14	チーム医療を発展させるリーダーシップのとり方（※改訂回）	対象のニーズや疾病状況の変化に伴い、医療が専門分化し、看護師は他の専門職者とチームを組んでケアを提供している。チーム医療におけるリーダーシップについて概説し、看護独自の機能と看護師に期待される役割を説明する。 【キーワード】 チーム医療、多職種専門連携・協働、看護師リーダーシップ	佐藤　禮子（兵庫医療大学副学長）	佐藤　禮子（兵庫医療大学副学長）
15	看護の質を保証するリスクマネジメントのあり方（※改訂回）	看護が専門職として発展するために、提供する看護の質を保証し、組織全体のマネジメントの見直しを図ることについて概説する。また、臨床における看護のリスクマネジャーの活動を通して、看護管理として必須のリスクマネジメントのあり方を説明する。 【キーワード】 看護の質保証、安全管理	佐藤　禮子（兵庫医療大学副学長）	佐藤　禮子（兵庫医療大学副学長）

事務局記載欄	開講年度	２０１１年度	科目区分	専門科目	科目コード	1518216	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 在宅看護論 （’１１）＝ （ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：福島　道子（国際医療福祉大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：河野　あゆみ（大阪市立大学教授）〕

【本学担当専任教員：高崎　絹子（放送大学教授）】

講義概要

疾病や障害、虚弱のために看護ニーズをもつ居宅生活者とその家族を理解し、対象のリオリティ・オブ・ライフを向上させるために、問題や課題に合った方策を立て、在宅看護ケア提供に必要な知識と技術を習得する。

授業の目標

・居宅で生活する療養者や障害をもつ人、また虚弱な人を対象とする在宅看護の目的・理念を理解する。・同対象をめぐる社会背景、保健医療福祉制度・政策および看護提供システムを理解する。・同対象の特性とその特性をふまえた在宅看護の方法・技術を理解する。

履修上の留意点

本科目は学部一般にも役立つ内容としているが、同時に、看護師受験を目指し通信制で看護師養成学校にて学ぶ准看護師らもターゲットとしている。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	在宅看護の目的と理念	在宅看護の場をイメージし、病院看護との違い、在宅看護の目的、理念（QOL、自己決定、アドボカシーなど）について学ぶ。 【キーワード】 病院看護との違い、在宅看護の目的・理念	福島道子（国際医療福祉大学教授）	福島道子（国際医療福祉大学教授）
2	在宅看護の歴史と変遷	日本と諸外国（アメリカ合衆国やイギリス）における在宅ケアや在宅看護の歴史と変遷から在宅看護活動の機能や役割を理解し、わが国の在宅看護の課題を学ぶ。 【キーワード】 在宅看護の歴史、訪問看護制度化	河野あゆみ（大阪市立大学教授）	河野あゆみ（大阪市立大学教授）
3	在宅看護の対象としての家族	在宅看護において、療養者のみならず家族も援助対象であることを理解し、家族の特性とともに介護の現状、家族アセスメント方法などについて学ぶ。 【キーワード】 家族、家族介護、家族アセスメント	福島道子（国際医療福祉大学教授）	福島道子（国際医療福祉大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	在宅看護をめぐる法制度と社会資源	訪問看護制度、介護保険制度、自立支援法、高齢者虐待防止法など、在宅看護をめぐる法制度およびフォーマル・インフォーマルな社会資源を学ぶ。特に介護保険制度は、サービス内容などを具体的に理解していく。 【キーワード】 訪問看護制度、介護保険制度、自立支援法、高齢者虐待防止法	内田陽子（群馬大学准教授）	内田陽子（群馬大学准教授）
5	在宅看護の役割と機能	わが国において訪問看護を提供する医療機関、訪問看護ステーション、行政機関を概観した上で、訪問看護ステーションの機能や訪問看護活動などについて具体的に学ぶ。 【キーワード】 訪問看護提供機関、訪問看護ステーション、訪問看護活動	角田直枝（日本訪問看護振興財団事業部長・がん看護専門看護師）	角田直枝（日本訪問看護振興財団事業部長・がん看護専門看護師）
6	在宅看護過程	在宅看護過程の特徴を学び、在宅看護を展開する一連の過程である情報収集、アセスメント、実践、評価を学ぶ。また、事例をとおして具体的な在宅看護過程の展開方法を理解する。 【キーワード】 アセスメント、看護課題、看護計画、情報収集、在宅看護過程	河野あゆみ（大阪市立大学教授）	河野あゆみ（大阪市立大学教授）
7	基本的な生活を支える看護技術	歩行、食事、排泄、保清など、療養者の基本的な生活を支える看護技術について、学ぶ。 【キーワード】 介護、活動、環境、自立支援	乙坂佳代（港北医療センター訪問看護ステーション管理者）	乙坂佳代（港北医療センター訪問看護ステーション管理者）
8	療養を支える看護技術	在宅療養を支える褥そうケア、ストマケア、経管栄養法、中心静脈栄養法、在宅酸素療法などについて、学ぶ。 【キーワード】 褥そうケア、ストーマケア、栄養法、在宅酸素療法	乙坂佳代（港北医療センター訪問看護ステーション管理者）	乙坂佳代（港北医療センター訪問看護ステーション管理者）
9	感染症対策とリスクマネジメント	在宅看護において多くみられる感染症やインシデントを理解し、家族への予防指導、看護師の予防対策およびリスクマネジメントについて学ぶ。 【キーワード】 感染症、医療事故、ケア事故、予防・対策、リスクマネジメント	内田陽子（群馬大学准教授）	内田陽子（群馬大学准教授）
10	要介護高齢者に対する在宅看護	要介護高齢者と家族の現状と特性、在宅看護のポイント、訪問看護事例について、映像や写真を交えて理解する。 【キーワード】 要介護高齢者、家族、看護	堀内ふき（佐久大学教授）	堀内ふき（佐久大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	認知症をもつ人に対する在宅看護	認知症をもつ人と家族の現状と特性、在宅看護のポイント、訪問看護事例について、映像や写真を交えて理解する。 【キーワード】 認知症をもつ人、家族、看護	堀内ふき（佐久大学教授）	堀内ふき（佐久大学教授）
12	精神障害をもつ人に対する在宅看護	精神障害をもつ人と家族の現状と特性、在宅看護のポイント、訪問看護事例について、映像や写真を交えて理解する。 【キーワード】 精神障害をもつ人、家族、看護	角田直枝（日本訪問看護振興財団事業部長・がん看護専門看護師）	角田直枝（日本訪問看護振興財団事業部長・がん看護専門看護師）
13	在宅ターミナルケア	在宅ターミナル期にある人と家族の現状と特性、在宅看護のポイント、訪問看護事例について、映像や写真を交えて理解する。 【キーワード】 ターミナル期にある人、家族、看護	角田直枝（日本訪問看護振興財団事業部長・がん看護専門看護師）	角田直枝（日本訪問看護振興財団事業部長・がん看護専門看護師）
14	病院と家庭をつなぐ退院支援	退院支援の必要性やその展開システムのつくり方、支援方法を理解する。また、退院支援における訪問看護ステーションを始めとする地域の支援機関とのが連携の必要性を学ぶ。 【キーワード】 退院支援、退院調整看護師、退院支援システム、プライマリーナース	福島道子（国際医療福祉大学教授）	福島道子（国際医療福祉大学教授）
15	在宅ケアの連携とケアマネジメント	ケアマネジメントの必要性と定義、効果およびプロセスを理解するとともに、在宅ケアの連携やケアシステムづくりについて学ぶ。また、介護保険制度におけるケアマネジメントの特徴を理解する。 【キーワード】 ケアシステムづくり、ケアマネジメント、ケアマネジャー、チーム連携	河野あゆみ（大阪市立大学教授）	河野あゆみ（大阪市立大学教授）

事務局記載欄	開講年度	２０１１年度	科目区分	専門科目	科目コード	1518810	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　子どもの生活と児童福祉　　（’１１）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：田澤　あけみ（立正大学教授）　〕

【本学担当専任教員：松村　祥子（放送大学教授）　】

講義概要

経済・産業構造が変化しグローバリゼーションがより加速する中にあって、子どもの生活拠点である家庭、地域、学校も大きく変化し、子どもを取り巻く問題や現象はさらに多様化・複雑化している。こうした中で、子どもがより健やかに成長しそれぞれが良い人生の機会を得るにはこれからの児童福祉はどうあればよいのか、あるいは大人との対比において子どもとはどのような存在なのかについて、人生の基礎造りとしての子どもの生活環境整備を総合的に検討する。

授業の目標

現代社会における子どもの生活と福祉の考え方、実態、課題等について、「問題が顕在化した子ども」を中心にとりあげるだけではなくすべての子どもの福祉について、これからの社会における児童福祉の新たな考えや役割を総合的・多角的に理解する材料を提供することを目的とする。

履修上の留意点

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	現代社会における児童期の意味と児童の福祉	本講座全般の理解と導入として、現代社会における児童の意味づけや児童の生活と福祉をめぐる考え方や論点・課題について検討・問題提起する。 【キーワード】 児童期、児童の権利、親権、児童福祉、社会福祉	田澤　あけみ（立正大学教授）	田澤　あけみ（立正大学教授）
2	児童福祉の歴史的バックグラウンド	本章は、近現代における子どもの生活をめぐる国家政策、法制度の変遷を中心にとりあげる。産業化の進展、戦争、経済成長とその停滞など、児童福祉政策をそれぞれの歴史的背景とともに検討する。 【キーワード】 近現代、国民国家、産業化、戦争、児童福祉政策・法制度	大友　昌子（中京大学教授）	大友　昌子（中京大学教授）
3	児童期の社会福祉・社会保障政策	日本における児童期の社会福祉政策や社会保障政策の実際の仕組み、考え方、今後の方向性や問題点等を探る。 【キーワード】 児童福祉法、児童手当制度、児童扶養手当制度、特別児童扶養手当制度、子ども手当て	田澤　あけみ（立正大学教授）	田澤　あけみ（立正大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	児童福祉サービスと児童福祉援助実践	保護者、国民、地方公共団体は互いにパートナーとして子どもを育成する責任を担っている。この責任を実務レベルで果たす機関である児童相談所と市町村の現状と課題を中心に、児童福祉の援助実践について考える。 【キーワード】 児童相談所、市町村、相談と通告、アセスメント、ストレングス、要保護児童対策地域協議会	宮島　清（日本社会事業大学准教授）	宮島　清（日本社会事業大学准教授）
5	コミュニティ福祉と児童福祉施設の役割	子どもたちの福祉ニーズを満たす仕組みとしての児童福祉施設と里親制度の現状・課題・今後の方向性について子どもと家族と地域との関係を切り口にして考える。 【キーワード】 児童福祉施設、里親制度、地域（化）、分断、つながり、連続、自立支援計画、小規模化	宮島　清（日本社会事業大学准教授）	宮島　清（日本社会事業大学准教授）
6	家族支援と児童福祉	子どもは長らく親（母親）や家族問題の一環としてとらえられ、単独で政策対象としては見られてこなかったことをふまえつつ、今後の少子・高齢化、人口減少社会における児童の福祉と家族福祉を考える。 【キーワード】 少子化、子育て支援、ジェンダー、家族福祉	田澤　あけみ（立正大学教授）	田澤　あけみ（立正大学教授）
7	現代社会の児童貧困とインクルージョン	福祉国家政策の中で克服されたと考えられていた児童貧困問題が、20世紀末から21世紀始めにかけて改めて大きな社会問題となってきた原因や児童貧困状況の実態、対策・予防についてグローバルな視点から考える。 【キーワード】 児童貧困、排除、包摂、グローバリゼーション、ニート、ひとり親家族	田澤　あけみ（立正大学教授）	田澤　あけみ（立正大学教授）
8	児童ケアの実態と課題―要養護問題に向き合う	本章では、現代社会における要養護問題の発生とその社会的背景についてとりあげ、次いで、児童養護施設に暮らす子どもの実態および児童ケアのあり方を、内外を例に検討する。 【キーワード】 児童養護問題、社会的背景、多様化する家族、児童ケア	大友　昌子（中京大学教授）	大友　昌子（中京大学教授）
9	児童の発達と保健福祉	いわゆる母子保健、児童の健全育成と各種の障害を持つ子どもたちの保健・教育・福祉政策・サービスの実態と課題について考える。 【キーワード】 母子保健、障害を持つ子ども、発達支援、障害児福祉サービス、特別支援教育	田澤　あけみ（立正大学教授）	田澤　あけみ（立正大学教授）
10	現代社会と反社会的・非社会的な子どもたち	戦後65年間の子どもの問題を概括しつつ、最近の子どもが引き起こしがちな反社会的、非社会的な行動の特徴を明らかにする。その中から、歴史を貫く普遍的な子どもの問題というものがあるのか、現代的特徴は何かについて検討する。 【キーワード】 非行、犯罪、触法、虞犯、不良行為、不登校、ひきこもり	藤原　正範（鈴鹿医療科学大学教授）	藤原　正範（鈴鹿医療科学大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	現代にみる児童の権利侵害と社会サービス	子どもへの人権侵害の最大のものが児童虐待である。実はこの問題の背景には、女性への暴力と支配、貧困、様々な理由による生活困難等がある場合が少なくない。児童虐待の本当の姿とこれへの対応・対策について考える。 【キーワード】 人権、児童虐待、DV,個人責任と社会的要因、生活弱者、社会サービスの不足、悪循環と連鎖、共感、当事者性	宮島　清（日本社会事業大学准教授）	宮島　清（日本社会事業大学准教授）
12	児童・若者の自立と支援	自立した成人になるとはどういうことか、それを阻害する環境的要因は何かを明らかにし、現代社会において子どもと若者の自立を支援するシステムがどのように整えられており、今後どうすべきかを検討する。 【キーワード】 健全育成、自立支援、就労支援、更生、リービングケア、アフターケア	藤原　正範（鈴鹿医療科学大学教授）	藤原　正範（鈴鹿医療科学大学教授）
13	世界の児童福祉①アジアの子ども達の生活問題と福祉	本章では、アジアにおける「貧困の中の子ども」と「豊かさの中の子ども」という両側面に焦点をあて、「貧困」と「豊かさ」が子どもに与える影響や問題、そしてその実態と対策について、将来展望も含めて検討する。 【キーワード】 貧困、豊かさ、児童労働、衛生、医療、教育、国際支援	大友　昌子（中京大学教授）	大友　昌子（中京大学教授）
14	世界の児童福祉②スウェーデンの児童福祉	貧困予防・生活条件の均等化、出生率の維持、健全な生活環境と良い教育保障はスウェーデンの社会政策の根幹をなし、児童福祉政策は家族政策等の他の政策と連動して発展してきた。児童福祉の考え方、その仕組み、方法、現在の到達点と課題について概観する。 【キーワード】 生活条件の均等化、スウェーデンの社会政策、児童福祉政策、家族政策	訓覇法子（日本福祉大学教授）	訓覇法子（日本福祉大学教授）
15	児童福祉のエキスパートたち	制度政策が充実してもそれだけでは、それを必要とする人々には届かない。子どもと家族のニーズをつかみ、彼らに必要な関係の回復と創造を支援するソーシャルワーカーの働きが不可欠である。支援者に求められる力量、活躍の条件等について考える。 【キーワード】 共通基盤と専門領域、価値と技術、資源と訓練、公私の協働、セイフティネット、コミュニケーション能力、発信力	宮島　清（日本社会事業大学准教授）	宮島　清（日本社会事業大学准教授）

事務局記載欄	開講年度	２０１１年度	科目区分	専門科目	科目コード	1518518	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　高齢者の生活保障　　（’１１）＝　（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：金子　勇（北海道大学大学院教授）　　〕

講義概要

21世紀の日本では、三位一体の人口変化によって「少子化する高齢社会」が進行する。これは第一に高齢者の実数が増加して、高齢化率が上昇し、第二には年少人口数の減少とその比率の低下および合計特殊出生率の低迷による少子化の影響が大きく、第三として総人口数が漸減する事態を意味する。このような社会では、高齢者の生活も「老若男女共生社会」のなかで位置づけ直し、エイジズム（年齢差別）をやめ、全世代間で対等の関係を創造するしかない。それには基本的福祉構造を自助・互助・共助・公助・商助のなかに組み替えて、個人も行政も企業も団体も高齢者支援を実現していくことに尽きる。

授業の目標

高齢社会に生きる高齢者の生活構造を多様な観点から理解する。自らの力量での一人暮らしから、他者の支援を受けての施設の中での暮らしまで、その分野は広い。ここではサポートの種類を、自助、互助、共助、公助、商助に分けて、それぞれの事例をもとにした生活支援の問題を考える。個人と社会の間に福祉や介護や医療を位置づけ、さまざまな生活保障のあり方を描き出すことを目的にする。

履修上の留意点

高齢者の生活に密着した社会福祉論系の科目、および地域福祉論系の科目をできるだけ多く学んでおくことが望ましい。あわせて社会学と人口論に関する知識の習得は、本講義の深い理解に寄与することを知っておきたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	少子化する高齢社会	「少子化する高齢社会」では、高齢者は「役割縮小過程の存在」として位置づけられる。高齢者は他人の手を必要とする約15％と、他人の手を必要としない自立した約85％とに分類できる。この分布を前提にして、自助・互助・共助・公助・商助として生活福祉構造を組み替えて、高齢者の生活を「老若男女共生社会」のなかで新しく位置づけ直す。 【キーワード】 高齢者の生活構造、小家族化、自助・互助・共助・公助・商助	金子勇（北海道大学大学院教授）	金子勇（北海道大学大学院教授）
2	口からの健康づくり活動	健康は全身の状態を包摂した概念だから、手掛かりが歯であり、口であっても、その延長線上には個人全体の肉体と精神の健康がある。この点に着目したNPO「むなかた介護サービス研究会」の実践活動の事例を踏まえて、口の健康を考え、実践することで、元気で長生きできる高齢者生活のあり方を考えてみたい。 【キーワード】 QOL、8020運動、口の健康づくり、口腔ケア	金子勇（北海道大学大学院教授）	金子勇（北海道大学大学院教授）
3	コミュニティビジネスと超高齢集落	過疎の超高齢集落が行政の補助金に頼り過ぎないむらおこしに取り組んでいる。元気な集落で暮らす高齢者は、なぜ元気で意欲的なのか。地域の活性化と高齢者の躍動化が共鳴しあうからだ。コミュニティビジネスに取り組む柳谷集落の模範事例を参考に、集落の高齢者が生き生きと活動する条件を学ぶ。 【キーワード】 感動、稼げる、カッコイイ、生きた福祉	片桐資津子（鹿児島大学准教授）	片桐資津子（鹿児島大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	ソーシャルキャピタルと暮らしやすさ	年齢を重ねたときに暮らしやすい地域社会とは、いったいどのようなものか。合計特殊出生率が高いことで有名な沖永良部島で、集落の子育てに関与する高齢者の姿を紹介する。活動的高齢女性の日常生活や、保育所と高齢者の交流事例を知ることで、多様なソーシャルキャピタルが存在することを示す。 【キーワード】 信頼、規範、ネットワーク	片桐資津子（鹿児島大学准教授）	片桐資津子（鹿児島大学准教授）
5	「孤独死」・「孤立死」防止の取り組み	自宅で一人、誰にも看取られないまま亡くなり、誰にも気づかれずに数日が過ぎた後に発見される高齢者の「孤独死」・「孤立死」に対しては、孤立状況の予防・解消が必要となる。この問題について、行政・民生委員や地域の諸団体が連携し、ネットワーク化することで見守りを進める孤立予防の地域的支援の可能性を明らかにしたい。 【キーワード】 「孤独死」・「孤立死」、孤立、予防、ネットワーク	松宮朝（愛知県立大学准教授）	松宮朝（愛知県立大学准教授）
6	個別ケアとユニットケア	施設の高齢者はどのような介護生活を送っているのか。施設で働く介護職員はどんな介護サービスを提供しているのか。一口に特養といっても相部屋を基本とする従来型と、個室完備でユニットケアがなされる新型とでは大きく異なる。しかし、どちらも理想は個別ケアである。その条件を役割、共同、安心、自由として整理する。 【キーワード】 個別ケア、役割、共同、安心、自由	片桐資津子（鹿児島大学准教授）	片桐資津子（鹿児島大学准教授）
7	要介護の現状とケアマネージャー活動	ケアマネジメントを、利用者の社会生活上でのニーズを充足させるため、利用者と適切な社会資源とを結びつける手続きの総体と理解して、課題について総括的に考えてみたい。支援計画を作成するケアマネジャーの日常生活から、介護支援担当者が抱える諸問題についてまとめる。 【キーワード】 ケアマネジメント、社会資源、支援計画	金子勇（北海道大学大学院教授）	金子勇（北海道大学大学院教授）
8	地域医療の展開と医療過疎	医療は、高齢者の生活を支える必須の資源の一つである。今、地方での特色ある医療活動が注目されている。授業では、医師不足や医師偏在などの地域医療の現状をおさえた上で、保健・医療・福祉の拠点づくりや、医療機関内にとどまらない医療スタッフと住民とのかかわりの事例を紹介しつつ、地域医療を中心としたまちづくりの展開可能性をまとめる。 【キーワード】 地域医療、保健・医療・福祉の拠点、地域資源	青山泰子（自治医科大学講師）	青山泰子（自治医科大学講師）
9	大都市の家族と地域福祉	北海道も札幌でも小家族化が進み、「家族力」の低さが目立ってきた。そのなかで高齢化が着実に進み、地域福祉資源の充実が課題になっている。ここではそれをコミュニティ論の観点から整理してみたい。 【キーワード】 小家族化、地域福祉、コミュニティ、ボランティア	金子勇（北海道大学大学院教授）	金子勇（北海道大学大学院教授）
10	「農」の活動による社会参加	近年、高齢者の生きがいづくりにおいて注目されているのが、「農」の活動による社会参加である。心理的効用・身体的効用とともに、環境保全や防災、コミュニティ形成、地域活性化等、様々な社会的機能を持つ「農」の活動の多様な展開とその可能性を明らかにしていきたい。 【キーワード】 生きがい、「農」の活動、社会参加	松宮朝（愛知県立大学准教授）	松宮朝（愛知県立大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	里親活動と高齢者	本講義の目的は、里親として活躍する高齢者に焦点をあて、高齢者が児童福祉の分野で今後重要な役割を果たすことを理解することである。講義では、①社会的養護と里親制度、②里親と里子、③里親活動と次世代育成について解説する。あわせて、里親として里子の養育にたずさわる高齢者の事例を紹介する。 【キーワード】 社会的養護、家庭的養護、里親制度	園井ゆり（活水女子大学准教授）	園井ゆり（活水女子大学准教授）
12	定年後の得意を活かす	団塊世代が定年を迎えるにつれて、定年後の高齢者の生き方に関心が高まってきている。再就職や趣味活動やボランティア活動など、選択肢は多岐にわたるが、ここでは特定の技術を得意とする高齢者の社会参加の姿を2つの事例を通して追いかけてみたい。 【キーワード】 生きがい、得意、趣味、社会参加	金子勇（北海道大学大学院教授）	金子勇（北海道大学大学院教授）
13	児童養護施設での取り組み	本講義の目的は、児童養護施設の現状ならびに施設入所児童の状況を把握することで、今後、児童福祉の分野で高齢者の力が必要とされていることを理解することである。講義では、①児童養護施設、②入所児童の現状と要養護問題の背景、③高齢者と次世代育成について解説する。あわせて、児童養護施設の施設長として、児童の育成にたずさわる高齢者の取り組みを紹介する。 【キーワード】 施設養護、養育単位の小規模化、地域社会との交流	園井ゆり（活水女子大学准教授）	園井ゆり（活水女子大学准教授）
14	介護予防とリーダー養成	高齢者が要介護状態になる前後で、予防の対応は異なる。授業では、介護について予防重視のシステムが求められる社会背景と予防の概念を学ぶ。また高齢者自らが必要な知識、運動を修得し、実践するとともに、地域のリーダーとしてそれを伝える取り組みを紹介しつつ、自助・互助・公助のなかで高齢者の能力が活きる仕組みづくりをまとめる。 【キーワード】 介護予防、リーダー養成、地域ケア	青山泰子（自治医科大学講師）	青山泰子（自治医科大学講師）
15	日本一長寿県からの健康づくり	長野県高齢者（男性が日本一長寿）へのオリジナルな調査結果を使い、長寿生活に関連が深い複数の要因を、食事面、医療介護面、ライフスタイル面に整理して紹介する。特にPPKのライフスタイルに触れて、草の根の健康づくり活動の成果として、象徴的には「げ」（減塩）、「ん」（運動）、「き」（禁煙）を標榜した成果であるとまとめる。 【キーワード】 長寿日本一、PPKのライフスタイル、保健補導員	金子勇（北海道大学大学院教授）	金子勇（北海道大学大学院教授）

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目コード	1512900	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 障がいと共に暮らす （’０９）＝（ＴＶ）

―自立と社会連帯―

〔主任講師（現職名）：河野正輝（熊本学園大学教授）〕

講義概要

本講義では、障害者福祉論で通常取り扱われる対象・範囲を超えて、新しい「障がい法」のあり方にまで踏み込んで考えてみよう。障がい法という新たな概念では、障害者福祉の法制に限らず、障がいにかかわるすべての法領域が含まれるとともに、それらの法領域が全体として障がいのある人の自立・社会参加を保障する差別禁止と社会連帯の基本原理に立って統一的に考察されることになる。なお、現行法を引用して説明する際の煩瑣をさけるため、本文では「障害」の表記を併用する。

授業の目標

①まず障害福祉サービスの提供の基盤である障害者福祉法制の仕組みや運用上のポイントを理解しよう。
②つぎに法制を執行する立場にとって必要な専門知識だけでなく、法制を活用して障害福祉サービスを利用する人々の立場に立った権利擁護のポイントを理解できるようにしよう。
③さらに障害福祉サービスだけを見るのではなく、障がいのある人の自立と社会参加の保障に関する全法制を視野に入れて、現状の問題点と解決策を考える力をつけよう。

履修上の留意点

受講生としては、福祉サービスの利用者、社会保障や社会福祉の専門職のほか、社会福祉に関心を持つすべての市民が対象である。
本講義の履修にあたって、基本的人権や国際人権規約、社会保障・社会福祉にかんする他の関連科目をあわせて履修すれば、理解をより深めることができるだろう。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	現代社会における障害	第1回は、本教材の導入であるので、現代社会における「障害」の位置と概念を明らかにしつつ、現代思想と経済社会が「障害」をめぐって揺れ動く様を描いてみよう。さらに、21世紀に入るころから一般的に使われるようになった「障がい」という言葉への転換と新たな概念についても学習しておこう。 【キーワード】 近代社会、人権、障害と障がい	大曽根 寛（放送大学教授）	大曽根 寛（放送大学教授）
2	障害者の権利条約	「障害者の権利条約」は、障害のある人に特別の権利を創設するものではないが、新しい考え方を取り入れることによって、障害者を保護の客体から権利の主体に転換するものである。条約に取り込まれた新しい考え方を学ぼう。 【キーワード】 障害、差別禁止、合理的配慮の欠如、間接差別、手話の言語性、アクセシビリティ、自立した生活、インクルーシブ教育	東 俊裕（元熊本学園大学教授）	東 俊裕（元熊本学園大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
3	障がい法の沿革と体系	これまでの障害者福祉法制は、保護と隔離の観点から、対象者ごとにバラバラに定められてきたが（福祉モデル）、これからは障がいのある人の教育、就労、医療、福祉サービス、住まい、交通、情報その他社会生活への参加に関する法制が、自己決定の支援と社会連帯の観点から統一的に定められるべきこと(市民権モデル)を説明する。 【キーワード】 福祉モデルと市民権モデル、自己決定権、障がい法	河野正輝（熊本学園大学教授）	河野正輝（熊本学園大学教授）
4	教育の保障	日本では、障害児の教育が普通学校から分離された形で行われてきたが、世界の流れは、分離からインテグレーション、さらにはインクルージョンへと変化してきている。ここでは、障害者の権利条約に示されたインクルーシブ教育の内容と日本の課題を学ぶことにする。 【キーワード】 分離教育、インテグレーション、サラマンカ宣言、インクルーシブ教育	東　俊裕（元熊本学園大学教授）	東　俊裕（元熊本学園大学教授）
5	医療の保障	日本には全国民を対象とする公的医療保険制度があるが、障害がある場合には自立支援医療によって医療保険給付を補完し、障がい者の健康を保障している。また、低所得の場合には生活保護法上の医療扶助を受けることになる。ここでは、主に自立支援医療および精神医療（入院）の手続・内容・課題について学ぶことにする。 【キーワード】 公的医療保険、自立支援医療、精神保健福祉法、医療扶助	西田和弘（岡山大学大学院教授）	西田和弘（岡山大学大学院教授）
6	就労の保障	近年、社会福祉は、大きな改革のさなかにあり、とりわけ「障がい」のある方への就労施策は急速に変動しつつある。2000年の「社会福祉基礎構造改革」から、2005年の障害者自立支援法の成立にいたる過程で、社会福祉制度における「就労」政策も、大きく変化した。まず、制度の変容について、学んでおこう。 【キーワード】 労働能力、就労移行支援、就労継続支援	大曽根　寛（放送大学教授）	大曽根　寛（放送大学教授）
7	雇用の促進	第7回では、2000年以降の障害者基本法および障害者雇用促進法の改正を概観しながら、企業と障がいのある方が出会う場面、つまり「労働市場」における問題点を明らかにしておこう。さらに、教育・医療や社会福祉から労働市場への移行がどのように行われていくのかについても考えてみよう。 【キーワード】 雇用率、納付金、職業リハビリテーション、雇用の差別禁止	大曽根　寛（放送大学教授）	大曽根　寛（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
8	所得の保障	障がいのある方に対する所得保障は、公的年金保険によるものを基本とし、それを社会手当や生活保護により補う形で行われている。実際に支給される給付には様々なものがあるが、ここでは、障がい者の尊厳にふさわしい生活を支えるに足るものかどうかという観点から、主な所得保障制度の内容、意義、相互関係、問題点等を学んでいこう。 【キーワード】 経済的自立、障害年金、社会手当	新田秀樹（大正大学教授）	新田秀樹（大正大学教授）
9	最低生活の保護	生活保護制度は、「健康で文化的な最低限度の生活」を全国民に保障するための最終的なセーフティネットである。障がいのある方で生活保護制度を活用する方も多く、その中から新たな自立の考え方も生まれてきた。ここでは、所得保障面を中心に生活保護制度の内容を学ぶとともに、「自立支援プログラム」の意義と問題点を考えていこう。 【キーワード】 生活扶助、自立の助長、積極的自立論、自立支援プログラム	新田秀樹（大正大学教授）	新田秀樹（大正大学教授）
10	障害福祉サービスの体系	①障害者自立支援法に基づいて、自立支援給付（介護給付費、訓練等給付費など）の対象となる障害福祉サービスの種類・内容、②施設・事業体系の見直し、③地域生活支援事業の種類・内容、④サービス提供体制の確保、⑤サービスの質の確保・向上について、法制度の仕組みと実態を学ぶ。 【キーワード】 自立支援給付、地域生活支援事業、福祉サービスの最低基準、障害福祉計画	河野正輝（熊本学園大学教授）	河野正輝（熊本学園大学教授）
11	サービス利用をめぐる権利と義務	措置方式と契約方式の差異を理解した上で、障害者自立支援法に基づくサービス利用の流れにそって、①支給の申請から支給決定までの手続き、②支給決定の変更と取消し、③自立支援給付のケアマネジメント、および④審査請求に関する法制度の仕組みと実態を学ぶ。 【キーワード】 措置方式と契約利用方式、障害程度区分、市町村審査会	河野正輝（熊本学園大学教授）	河野正輝（熊本学園大学教授）
12	サービスの費用負担	障害者自立支援法において、費用負担方式がどう改変されたかについて理解した上で、①利用者負担に関する原則と負担軽減措置の内容、②国・都道府県・市町村による公費負担の内容について、法制度の仕組みと問題点を学習する。 【キーワード】 応能負担と応益負担、利用者負担、補足給付、公費負担	河野正輝（熊本学園大学教授）	河野正輝（熊本学園大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
13	アクセシビリティ	障害のある人が社会参加する上で、現在の社会には大きな障壁が存在する。自立した社会生活を営めるようにするためには、一般社会に提供されている様々な設備、情報、サービスなどを同等に利用できるようにならなければならない。ここでは、障害者の権利条約が規定するアクセシビリティの内容と日本の課題を学ぶことにする。 【キーワード】 アクセシビリティ、バリアフリー法、情報保障	東　俊裕（元熊本学園大学教授）	東　俊裕（元熊本学園大学教授）
14	自立した生活と地域社会への統合	これまでノーマライゼーションという言葉で隔離された生活から地域社会での自立した生活への転換が語られてきたが、これを人権として認知したのが障害者の権利条約である。ここでは、施設処遇に軸足を置く日本の福祉サービスの問題点を学ぶことにする。 【キーワード】 パラダイムシフト、地域社会で生活する平等の権利、自立した生活、障害者自立支援法	東　俊裕（元熊本学園大学教授）	東　俊裕（元熊本学園大学教授）
15	権利の擁護と救済	判断能力の低下などでサービス給付や市民生活の場面で不利益を受けやすい障がい者のためにどのような権利擁護の仕組みがあるのか。権利侵害があった場合の救済手段はどのようになっているのか。ここでは障がい者の権利や利益を守る仕組み、侵害された場合の救済の仕組みと問題点を学ぶ。 【キーワード】 アドボカシー、虐待防止、成年後見、日常生活自立支援事業	西田和弘（岡山大学大学院教授）	西田和弘（岡山大学大学院教授）

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	専門科目	科目コード	1886444	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　地域福祉の展開　　（’１０）＝　（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：平野隆之（日本福祉大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：原田正樹（日本福祉大学准教授）〕
【本学担当専任教員：大曽根　寛（放送大学教授）】

講義概要

「地域福祉の展開」は、これまでの「地域福祉論」の内容と比較して、動態性を重視し、より実践的、より政策的な内容を加味する講義である。講義の体系としては、地域福祉を推進する主体に応じて構成し、市町村、都道府県、専門職、当事者・住民、研究者という順に触れている。地域福祉の展開に必要となる援助方法・政策について、具体的で先駆的な事例を取り入れながら紹介する。

授業の目標

①2000年の社会福祉法（第4条地域福祉の推進」の導入）以降の地域福祉の動向を中心に学ぶ。
②地域福祉の推進主体別にその取り組みの方法を比較にながら学ぶ。
③地域福祉の研究成果は実践の積み上げの上に形成されている点を理解し、実践のもつ先駆性を解釈するための能力を身につける。

履修上の留意点

「社会福祉入門」を学んでおくことが望ましい。映像教材で取り上げる事例を十分に理解した上で、テキストの学習に当たることが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	「地域福祉の展開」入門	これまでの「地域福祉論」の講義とどこが違うのか、本講義の構成を紹介するとともに、地域福祉の展開における中心的なテーマを解説する。地域福祉の推進における主体の意義と地域への実践の蓄積に対する地域福祉の役割に触れる。 【キーワード】 地域福祉論、地域福祉の推進、地域福祉の推進主体、コミュニティ	平野隆之	平野隆之
2	市町村と地域福祉計画	2000年の社会福祉法の成立によって、地域福祉の推進が明記され、そのための方法として「地域福祉計画」が登場した。市町村が地域福祉計画を用いて、どのように地域福祉の推進を図るのかについて概説する。愛知県高浜市の事例を紹介する。 【キーワード】 社会福祉法、地域福祉計画、実験福祉、行政参加	平野隆之	平野隆之
3	地域福祉計画という「現場」	地域福祉が現場でどう展開しているのかをつかむ。その際の行政と地域住民の協働に焦点をあて、地域福祉計画策定とそれにもとづく施策と実際の地域福祉活動の様子を知ることで、地域福祉の現状とその必要性を理解する。長野県茅野市の事例を紹介する。 【キーワード】 地域福祉計画、地域住民の参画、協働、パートナーシップ	原田正樹	原田正樹

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	都道府県による「共生型」プログラムの開発	地域福祉を政策的に推進する主体として、都道府県に注目する。対象別の福祉ではなく、共生型の福祉を目指すプログラムの開発を紹介する。共生型のプログラムの全国的な普及の動向にも触れる。 【キーワード】 地域福祉プログラム、地域福祉支援計画、共生型ケア、都道府県	平野隆之	平野隆之
5	中山間地域からみた地域福祉の展開	中山間地域を取り上げ、そこで必要となっている地域福祉の課題を明確にしつつ、その支援に取り組む都道府県の模索を紹介する。フィールドとしては高知県を取り上げる。 【キーワード】 中山間地域、限界集落、サロン活動、社会福祉協議会	平野隆之	平野隆之
6	大都市における地域福祉の推進基盤	大都市をフィールドにして、地域福祉の推進基盤の政策的支援を学ぶ。大阪府が取り組んだコミュニティソーシャルワーク配置事業を分析するとともに、豊中市での事業展開の実際を学ぶ。 【キーワード】 コミュニティソーシャルワーカー、地域福祉支援計画、小地域福祉組織、ゴミ屋敷	平野隆之	平野隆之
7	小地域福祉活動の展開と専門職支援	地域をどの範囲でとらえるのかを明確にすることで、システムがつくりやすくなる。それには重層的な生活圏域の検討が必要である。そのなかで中学校や小学校の通学範囲などを単位として、地域福祉を推進していくことを小地域福祉活動という。富山県永見市、三重県伊賀市の事例を紹介する。 【キーワード】 福祉コミュニティ　小地域福祉活動　地区社協　地域福祉型福祉サービス	原田正樹	原田正樹
8	ボランティア・NPO活動の展開	1995年は日本における「ボランティア元年」と呼ばれている。それは阪神・淡路大震災の救援活動を契機としている。その後、市民活動を支援することを目的に特定非営利活動促進法が制定されNPO法人が増加してきた。ボランティア・市民活動の変化や支援のあり方について検討する。愛知県知多半島の事例を紹介する。 【キーワード】 ボランティア　市民活動　特定非営利活動促進法　NPO	原田正樹	原田正樹
9	地域福祉の展開と福祉教育による支援	地域の福祉課題について知り、それを解決していくための方法を検討したりする過程は、地域住民にとって福祉の学習の機会である。どのような福祉教育プログラムを提供していくかは大切な地域福祉の実践課題である。東浦町立片葩小学校の事例を紹介する。 【キーワード】 福祉教育　地域福祉の主体形成　新学習指導要領　サービスラーニング	原田正樹	原田正樹
10	当事者組織活動と地域福祉の推進－８０年代	1980年代に展開された介護者家族の会の運動・活動の取り組みを素材にしながら、当事者組織を核とした地域福祉の推進方法を紹介する。高齢者福祉行政の展開に先行する自発的な福祉の意義に注目する。 【キーワード】 当事者組織、介護者家族の会、ボランタリー・サービス、ネットワーク	平野隆之	平野隆之

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	障害者運動と地域福祉の展開 －90年代	1990年代に展開された障害者の運動による地域福祉の展開を紹介するとともに、ノーマライゼーションの日本における普及の状況について触れる。障害者を中心に据えた地域福祉計画の策定を展望する。 【キーワード】 障害者運動、ノーマラゼーション、コンフリクト、グループホーム、	原田正樹	原田正樹
12	社会的排除と地域福祉の課題－2000年代	2000年代における新たな問題として、社会的排除を取り上げ、社会的包摂としての地域福祉の課題を整理する。具体的な取り組み事例を紹介するとともに、地域福祉プログラムとしての成立のための条件を検討する。 【キーワード】 社会的排除、社会的包摂、自立支援プログラム、NPO法人	平野隆之	平野隆之
13	地域福祉の現場と地域福祉研究者	平野・原田が参加した地域福祉計画における研究者が果たしている役割を触れながら、地域福祉の現場における地域福祉研究者の貢献や責任について解説する。地域福祉の推進における枠組みとして、地域とのコンフリクトを重視すべきことを強調する。 【キーワード】 地域福祉研究者、フィールドワーク、地域福祉計画、地域とのコンフリクト	平野隆之	平野隆之・原田正樹
14	日本の地域福祉の独自性－韓国との比較	日本の地域福祉の独自性を韓国での地域社会福祉の取り組みと比較しながら明確にする。韓国における地域社会福祉計画と日本の地域福祉計画との比較を素材して取り上げる。 【キーワード】 地域福祉計画、日本、韓国、社会福祉と地域福祉	平野隆之	平野隆之
15	より深い学習・調査のために	より深く地域福祉を学びたい人のために、学習のガイダンスを行う。基本的な文献の紹介とともに、日本における地域福祉研究の動向を解説する。地域福祉を調査するための方法についても紹介する。 【キーワード】 地域福祉研究の系譜、地域福祉概念、ワークショップ、地域福祉プロフィール	平野隆之・原田正樹	平野隆之・原田正樹

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1511807	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　市民生活における社会保険　　（’０８）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：堤　　修三（大阪大学教授）　　〕

〔主任講師（現職名）：品田　充儀（放送大学客員教授）　　〕

講義概要

社会保険制度はあたかも生き物のごとく、様々な環境の変化に適応すべく変貌していく。そして、時代の変化が著しい昨今においては、その変貌の速度も加速している。本講義においては、市民が生活をしていくなかで、社会保険制度はいかなる機能を果たしているのか、またその本来の目的を達する上で何が障害となっているのかなど、変わり行く社会保険制度について、普遍的な部分と時代に適合していく部分の両方を意識しながら、その意義と将来像について検討していく。

授業の目標

わが国の社会保険制度の基本的な構造について理解するとともに、その本来の目的のためにあるべき姿や将来の展望について検討していく。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	社会保険を学ぶ意義	社会保険は、ライフサイクルのなかで生じてくる様々な事故に対して、事前に保険料を拠出することによって備えておこうという人間の英知の結晶である。少子高齢社会に突入し、将来の生活設計にかかる不安は高まりつつあるが、社会保険制度の現状とその可能性を知ることは現代を生きる市民にとって重要である。 【キーワード】 保険事故、保険者、被保険者、保険料	品田充儀（放送大学客員教授）	品田充儀（放送大学客員教授）
2	社会保険の意義とその根拠	社会保険とは、社会＋保険という文字どおり、社会的要請と私的契約に発する保険という異質な2つの要素が組み合わされたものである。この講義では、社会保険とは何か、その意義や特性を、私的保険との対比によって明らかにしたうえで、それがいかなる理由によって根拠付けられるかを考察する。 【キーワード】 保険原理・強制加入・比例保険料・被保険者自治	堤修三（大阪大学教授）	堤修三（大阪大学教授）
3	社会保険制度の構造と体系	社会保険制度は、社会保障制度体系の中にあってどのような機能を有するのか。また、社会保険制度は年々拡張し、また複雑化する傾向を辿っているが、その構造において共通する部分は何処にあるのか、検討していく。 【キーワード】 所得保障、拠出、社会保障	品田充儀（放送大学客員教授）	品田充儀（放送大学客員教授）
4	医療保険制度の構造	病気やけがをした時、私たちは健康保険や国民健康保険を利用して医師の診断や治療を受ける。今日では、医療保険は、私たちが健康に安心して社会生活を送るために欠かすことのできない制度となっている。第4回講義では、わが国の医療保険制度の基本的な構造を説明する。 【キーワード】 医療保障、健康保険、国民健康保険	石田道彦（金沢大学准教授）	石田道彦（金沢大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	保険診療の仕組み	医療保険の仕組みでは、保険医や指定医療機関は、健康保険法や療養担当規則に定められた様々なルールに従って患者に医療を提供する。また、診療をおこなった指定医療機関に対しては独自の審査体制に基づいて診療報酬が支払われる。今回の講義では、このような保険診療の仕組みについて学ぶ。 【キーワード】 保険診療、診療報酬、療養担当規則	石田道彦（金沢大学准教授）	石田道彦（金沢大学准教授）
6	高齢者医療制度と医療保険制度の課題	急速に進行する高齢化に対応するために、最近の医療制度改革では高齢者医療のあり方が重要な検討課題となっている。また、保険者の再編統合や生活習慣病への対応など医療保険制度には新たな課題が生じている。今回の講義では、新しい高齢者医療制度と今後の医療保険制度の課題を取り上げる。 【キーワード】 高齢者医療、老人保健制度、保健事業	石田道彦（金沢大学准教授）	石田道彦（金沢大学准教授）
7	介護保険制度の仕組み	2000年に誕生した最も新しい社会保険制度である介護保険制度は、どのような特徴を有するのか。変貌しながら発展していく介護保険制度の構造を学ぶ。 【キーワード】 介護保険、介護支援、居宅サービス、施設サービス	品田充儀（放送大学客員教授）	品田充儀（放送大学客員教授）
8	介護保険制度の課題と将来像	介護保険制度は誕生まもない現状において、将来を不安視される状況にある。高齢者を見守る地域のあり方、介護状態にならないための予防、行政単位で決定していく保険料額など、社会保険制度でありながら、新たな手法をもって将来を築こうとする同制度を展望する。 【キーワード】 地域密着、新予防給付、地域支援、地域包括支援	品田充儀（放送大学客員教授）	品田充儀（放送大学客員教授）
9	年金制度の成り立ちとその変容	年金制度は、同じ制度でありながら、給付と負担の関係を規定する基本構造が経済社会の変化に応じて変容していく不思議な制度である。年金制度の第1回目は、わが国の年金制度が、その基本構造をどのように変容させてきたかを辿り、給付と負担の関係はどうあるべきか、どう決められるべきかについて考察する。 【キーワード】 積立方式・賦課方式・給付建て・拠出建て	堤修三（大阪大学教授）	堤修三（大阪大学教授）
10	年金制度の概要	この講義では、現在のわが国の年金制度の概要を学習する。全国民共通の国民年金（基礎年金）・サラリーマンの年金である厚生年金のそれぞれについて、被保険者資格・年金給付の種類・受給資格・年金額と計算方法・保険料水準などの概要を説明する 【キーワード】 国民年金・厚生年金・基礎年金・1号被保険者・2／3号被保険者・年金保険料	堤修三（大阪大学教授）	堤修三（大阪大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	年金制度を巡る諸問題	年金制度に関する国民の関心は極めて高い。少子高齢化の進行や国民年金(1号被保険者)の保険料未納などから、年金制度は将来とも大丈夫か、巨額の不良債務を負っているのではないかという疑問や、保険方式を止めて消費税を財源とする方式に改めたらどうかという意見もある。また、女性の年金と保険料負担を巡っても議論が続いている。この講義では、これらの問題について考えてみる。 【キーワード】 保険料の未納・年金の‘不良債務’・保険料と税・3号被保険	堤修三（大阪大学教授）	堤修三（大阪大学教授）
12	雇用保険制度の概要	雇用保険は、失業時の生活保障のほか、就職の支援や失業の予防、教育訓練といったより広い意味での雇用保障を目的としている。これらの目的を念頭におきつつ、保険給付とそのあり方について学習する。さらに、雇用保険と密接に関係する雇用政策の発展と今後の課題について検討する。 【キーワード】 雇用保障、雇用保険、求職者給付	水島郁子（大阪大学准教授）	水島郁子（大阪大学准教授）
13	労災保険における業務災害補償制度	労災保険は、労働者の業務上もしくは通勤による災害に対する補償を内容とするものである。まず業務上の概念を確認したうえで、大きな社会的問題にもなっている過労死や過労自殺を中心に、認定基準や補償のあり方について検討する。 【キーワード】 業務災害、労働者災害補償保険、過労死、過労自殺	水島郁子（大阪大学准教授）	水島郁子（大阪大学准教授）
14	通勤災害保護制度と労災保険制度の課題	引き続き労災保険をとりあげるが、第14回では通勤災害について学習する。第13回、第14回の講義をふまえて、なぜ労働者について、このような特別な補償がなされるのか、労災保険の意義・目的、発展経緯、さらには今後の課題について検討を加える。 【キーワード】 通勤災害、災害補償、労働福祉事業	水島郁子（大阪大学准教授）	水島郁子（大阪大学准教授）
15	福祉国家の現在と社会保険	最終回は、最近の社会保障改革を巡る動きについて考える。グローバリズムや規制改革などにより格差の拡大が言われる一方、制度の維持可能性の名の下に社会保障改革が進められている。その中で大きなウエイトを占めるのが社会保険の給付抑制である。給付抑制の限界はどこか、私たちの社会的安全ネットはどうあるべきか、これからの社会保障ー社会保険の在り方について考察する。 【キーワード】 保険料と税・制度の維持可能性・制度の一元化	堤修三（大阪大学教授）	堤修三（大阪大学教授）

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	専門科目	科目コード	1886215	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　アジアの社会福祉　　（’１０）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：萩原　康生（仙台白百合女子大学教授）　〕

【本学担当専任教員：松村　祥子（放送大学教授）　】

講義概要

社会福祉の究極的な目的は人権保障である。また、社会福祉の課題は差別や偏見とのたたかいであるといえる。近年のグローバリゼーション（ヒトやモノや課題の地球規模的な広がり）の影響によって、以前は各国で対応されていた社会福祉の課題が地球規模あるいはアジア規模で対応されなければならなくなっている。本書では、社会福祉問題生成の背景となっているグローバリゼーションの問題から始め、さまざまな社会福祉課題を個別にとらえてその実態を明らかにするとともに、いくつかの国を取り上げて社会福祉問題の具体的分析とそれらへの対応の実際を、アジア諸国の文化を背景として学ぶ。

授業の目標

まず、世界規模で起こっているグローバリゼーションを理解し、その上で子どもやしょうがい者や高齢者という領域でグローバリゼーションとの関連で生起している福祉課題を明らかにする。次に、これらの社会福祉の諸課題を踏まえて、アジア規模での福祉活動を検討する。さらに、これまでの総論をもとに、各論としてシンガポール、マレーシア、モンゴルおよびベトナムの国別の社会福祉課題とそれらへの対応の状況を理解する。

履修上の留意点

まず、福祉を世界規模あるいはアジア規模でとらえること、福祉が経済と政治とに深く関連していることを理解すること、福祉活動がたんにサービス提供にとどまらないことを理解することが重要である。また、アジア諸国にはさまざまな福祉課題のあることを理解することも重要である。それらの福祉の課題は、貧困であり、児童問題であり、しょうがいを持つ人々にかかわる問題である。先に述べた経済と政治とに深く関連しているというのは、これらが政治の軋みや経済の歪みから生じていることを意味する。表面に現れた社会福祉問題を理解するだけではなく、それらを政治と経済との関連で深く掘り下げてほしい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	グローバリゼーションとアジアの社会福祉問題	グローバリゼーションという用語は経済の領域で使われ出し、経済が地球規模で動くことを表している。経済のグローバル化に伴って、人の動きも地球規模となり、社会福祉もグローバリゼーションの影響を受けるようになった。第1章では、グローバリゼーションの実態を明らかにし、それによってもたらされる社会福祉問題を示す。 【キーワード】 移民、国際経済、国境	萩原康生（仙台白百合女子大学教授）	萩原康生（仙台白百合女子大学教授）
2	アジアの社会福祉をとらえる視点とその規範	社会福祉をアジア規模で見ようとするとき、何が「福祉」なのかを考えておく必要がある。この「何」というのは、「社会福祉の規範」である。本章では、子どもの権利に関する条約、しょうがいを持つ人の権利に関する条約、女性差別撤廃条約および高齢者のための国連原則を社会福祉の規範と考えて、これらを学ぶ。 【キーワード】 子ども、女性、しょうがいを持つ人、高齢者、権利	萩原康生（仙台白百合女子大学教授）	萩原康生（仙台白百合女子大学教授）
3	人間の安全保障と社会福祉	人間の安全保障はその課題として環境破壊、人権侵害、難民、貧困などの人間の生存、生活、尊厳を脅かすあらゆる種類の脅威を包括的に捉え、これらに対する取り組みを強化しようとする従来とは異なる安全保障の概念である。本章ではこの概念を学び、具体的な活動を明らかにする。 【キーワード】 環境、貧困、人権、難民	萩原康生（仙台白百合女子大学教授）	萩原康生（仙台白百合女子大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	開発型福祉	かつては社会福祉は国家政策として考えらることが多く、サービス提供が主要な課題であった。しかし、政府のもつ資源の限られたアジア諸国では、住民の啓発教育や母子保健プログラムや住民による小規模起業によって福祉の向上を図る活動が多い。このような住民が中心となり自らの力で福祉向上を図る開発型福祉を学ぶ。 【キーワード】 住民参加、起業、マイクロクレジット	萩原康生（仙台白百合女子大学教授）	萩原康生（仙台白百合女子大学教授）
5	子ども・家庭と社会福祉	「生きる権利」「育つ権利」「守られる権利」「参加する権利」などから構成されている子どもの権利条約を基本に子ども家庭福祉課題を考えてゆく。子どもとその家庭へのセーフティーネットとしての施策や活動とその理念・システム・援助方法について学ぶとともに、子ども家庭福祉の国際化についても言及することとしたい。 【キーワード】 子どもの権利条約、グローバリゼーション、コミッショナー	西郷泰之（大正大学教授）	西郷泰之（大正大学教授）
6	ジェンダーと社会福祉	ジェンダーの視点は、社会福祉において不可欠である。アジアでは経済が発展してきても依然としてジェンダー間での格差が存在する。社会的、経済的、文化的な差別がある一方、エンパワーされ、政策策定への参加にまで至るようになった女性たちも増えている。問題点を分析し、エンパワーの戦略を考察する。 【キーワード】 エンパワメント、人間開発、リプロダクティブ・ヘルス	中西由紀子（アジア・ディスアビリティ・インスティテュート）	中西由紀子（アジア・ディスアビリティ・インスティテュート）
7	しょうがいと社会福祉	アジアのしょうがい者はさまざまな社会・経済的な問題をかかえているにもかかわらず、元気である。その背景にはアジア太平洋障害者の十年や障害者の権利条約があり、組織化されたしょうがい者の自助団体がCBRそして自立生活運動を発展させ、世界のしょうがい者運動をリードしている状況がある。ここではこれ解説をする。 【キーワード】 障害者の権利条約、CBR、自立生活運動	中西由紀子（アジア・ディスアビリティ・インスティテュート）	中西由紀子（アジア・ディスアビリティ・インスティテュート）
8	高齢と社会福祉	アジアの中には、急激に高齢化の進行している国がある。現在高齢化が顕著でない国にあっても、平均寿命が延び、将来高齢者の比率が高くなることの予想される国もある。アジアの高齢化はどのような状況であるのか、アジアの国々では、この高齢化にどのように対応しようとしているのか。これが、本章での学習課題である。 【キーワード】 人口、高齢社会、地域福祉	萩原康生（仙台白百合女子大学教授）	萩原康生（仙台白百合女子大学教授）
9	国境を超えるひとの移動と社会福祉	グローバリゼーションの一つの側面は、人の国境を越える移動である。この現象に対して、さまざまなNGOが人々の福祉を向上させる活動をしている。その一方で、強制的に難民を本国送還をし、人権侵害を行っている国もある。本章では、アジア諸国での難民を中心にして、国境をこえる人々の福祉を検討する。 【キーワード】 難民、避難民、ノンルフルマンの原則	萩原康生（仙台白百合女子大学教授）	萩原康生（仙台白百合女子大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	日本に住む外国人と福祉	グローバリゼーションの一つの側面は、人々の国境を越える動きである。その原因は戦争や就労であったり、強制によるものである。日本にも多くの外国籍の人々が居住し、生活を営んでいる。しかし、日本国籍を有するものと違って、さまざまな生活問題を抱えている。本章ではこの生活問題を明らかにし、それらへの対応策を考える。 【キーワード】 移住、人身売買、国籍問題、国際結婚	萩原康生（仙台白百合女子大学教授）	萩原康生（仙台白百合女子大学教授）
11	国際機関・NGOの活動と開発協力	アジアの福祉は個々の国民国家によってになわれることもあるが、国連開発計画やILOなどの国際機関、あるいはペシャワール会のような国際NGOによって実践されることが多い。また、それらの活動は、たんに救済的福祉ではなく、住民自らの福祉活動を支援する開発協力である。本章では、これらの実際を学ぶ。 【キーワード】 開発、国際協力、国連機関、国際NGO	萩原康生（仙台白百合女子大学教授）	萩原康生（仙台白百合女子大学教授）
12	シンガポールの社会問題と社会福祉	シンガポールは多民族国家である。社会福祉は「たくさんの支援の手（Many Helping Hands）政策」に基づき、国が民間社会福祉団体、宗教団体、企業、ボランティア団体などとパートナーシップを組み実施している。本章では、シンガポール固有の社会福祉のあり方を学習するとともに、高齢化などの課題も取り上げる。 【キーワード】 多民族国家・たくさんの支援の手・高齢社会	新保美香（明治学院大学教授）	新保美香（明治学院大学教授）
13	マレーシアの社会問題と社会福祉	マレーシアはマレー系、インド系、中国系等の多民族国家である。経済的に安定する中、先住民問題、女性解放、薬物依存、買春、少年非行、DV、児童虐待、障害問題等がある。最貧者特別救済政策を基本に支え合い社会＝マレーシア型福祉社会構想の下に施策運営が行われている。これらの課題を取り上げる。 【キーワード】 多民族国家、マレーシア型福祉社会	西郷泰之（大正大学教授）	西郷泰之（大正大学教授）
14	モンゴルの社会問題と社会福祉	社会主義から自由主義への体制転換は社会に大きな混乱を招いた。その影響で多数の子どもたちが路上生活をするようになった。今日、これらの子どもの数は減少したが、状況の過酷さは変わらない。本章では児童問題を通してモンゴルの福祉課題を論じる。 【キーワード】 マンホール・チルドレン、経済格差、人口流入、国際協力	山下英三郎（日本社会事業大学教授）	山下英三郎（日本社会事業大学教授）
15	ベトナムの社会問題と社会福祉	ベトナム戦争が終わって30数年、社会主義政権で改革開放経済をとり経済成長は目覚ましい。しかし、貧富の格差が拡大し貧困層の再生産が起こっている。社会主義の建前と多くの貧困者の存在という実態の間で起こる問題に官民が協働で対応している。公権力が強く民主化が進まない国での施策の課題を取り上げる。 【キーワード】 社会主義、ドイモイ政策、公権力	西郷泰之（大正大学教授）	西郷泰之（大正大学教授）

事務局記載欄	開講年度	２０１１年度	科目区分	専門科目	科目コード	1518615	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　欧米の社会福祉の歴史と展望　（’１１）＝　（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：松村　祥子　（放送大学教授）　〕

講義概要

欧米の社会福祉は、人口構造・家族構造の変化に加えて経済停滞下の財政難に直面している。福祉国家体制を越えた社会福祉システムの構築がどのように実施されているのか、日本とは異なる歴史的過程の中から生み出される数々の試行を検証し、欧米の社会福祉の今後を展望する。
欧米の福祉先進国において20世紀に発達した社会福祉の転換が迫られている。現在、政策・制度の現状と課題だけでなく、歴史の中での制度形成も含めた検討が必要である。この科目では、欧米の歴史をふまえた専門的な講義を作り、欧米と我国の福祉改革の展望を示したい。

授業の目標

各国の社会福祉の歴史と現状について、制度の動向だけでなく、その背景にある経済的、社会的、思想的状況も含めて講義する。
生活と福祉コースの専門科目であるが、他コースの学生にとっても有効な講義となるだろう。

履修上の留意点

福祉領域の科目だけでなく、社会と産業コース、人間と文化コース及び大学院の関連科目（政治学、経済学、歴史学、社会学　等）も併せて学習すると理解が一層深まるであろう。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	スウェーデンの社会福祉（1）－スウェーデンモデルの仕組み－	スウェーデンの社会福祉を理解するためには、社会保障や福祉の制度だけではなく、雇用との相互関係を見る必要がある。この回では、社会保障制度と雇用制度の連携としての、スウェーデンモデルの仕組みを明らかにし、スウェーデンが大きな福祉国家であるにもかかわらず、安定した経済成長を実現できたのはなぜかを考える。 【キーワード】 積極的労働市場政策、現行所得代替原理、レーン・メイドナーモデル、普遍主義、選別主義、翼の保障	宮本太郎（北海道大学・教授）	宮本太郎（北海道大学・教授）
2	スウェーデンの社会福祉（2）－スウェーデンモデルの形成－	スウェーデンの社会福祉が形成されてきた歴史を辿る。戦前期に少子化問題を契機に登場した普遍主義的な福祉政策は、戦後期に雇用政策とのむすびつきを強めていった。他方で普遍主義の中身は、均一給付型から所得比例型に変化し、また現物給付（公共サービス）の比重が高くなっていった。こうした歴史的プロセスを理解する。 【キーワード】 国民の家、人口問題、予防的社会政策、豊かな社会、支援型公共サービス、就学前教育、障がい者福祉	宮本太郎（北海道大学・教授）	宮本太郎（北海道大学・教授）
3	スウェーデンの社会福祉（3）－転機のスウェーデンモデル－	スウェーデンの社会福祉は大きな転換点に立っている。とくにグローバル化と脱工業化のなかで、労働市場のあり方が大きく変化し、これまで形作られてきた社会保障、福祉と雇用との連携が維持しがたくなっている。社会福祉の改革をめぐって、スウェーデンではいかなる課題が提起され、どのような取り組みがなされているのか。スウェーデンの社会福祉の将来を展望する。 【キーワード】 福祉改革、ワークフェア、ベーシックインカム、民営化、経済競争力	宮本太郎（北海道大学・教授）	宮本太郎（北海道大学・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	ドイツの社会福祉（1）－貧困の拡大と最低生活保障－	貧困とエクスクルージョンとのたたかいを国の課題として、就労可能な生活困窮者500万人（65歳以下人口の10%）に最低生活保障給付と就労支援サービスを提供している現状を確認する。その上で、政策としてのワークフェアやサンクションと社会の人間観、社会秩序などについてのドイツの特色を示す。 【キーワード】 相対的所得貧困、最低生活保障、カテゴリー化	布川　日佐史（静岡大学・教授）	布川　日佐史（静岡大学・教授）
5	ドイツの社会福祉（2）労働政策と公的扶助の交錯-求職者基礎保障創設への過程	1990年代末には、労働行政と福祉行政の重なりや負担の押し付け合いが問題になり、別々に失業者に対応するのではなく、「一つの手からの援助」（Hilfe aus einer Hand）が志向されはじめた。2005年の失業扶助廃止、求職者基礎保障創設へとつながり、従来の福祉制度は大きく様相を変えた。 【キーワード】 失業手当、失業扶助、就労扶助（Hilfe zur Arbeit）	布川　日佐史（静岡大学・教授）	布川　日佐史（静岡大学・教授）
6	ドイツの社会福祉（3）求職者基礎保障制度の特徴と自治体の役割	求職者基礎保障は、基本的には、国の労働市場政策の手段と位置づけられた。生活保障金銭給付と就労支援の基本部分は国（連邦雇用エージェンシー）が担っている。ただし、世帯単位に最低生活を保障する制度でもあり、自治体も住宅費や福祉的支援サービスを担っている。 従来の最低生活保障と社会サービス給付の担い手である自治体が、この新制度においてどのような役割を果たしているのか、また、果たすべきなのかという視点から、この制度の特徴を検討してみよう。 【キーワード】 支援と要請、共同体（ARGE）、オプション自治体	布川　日佐史（静岡大学・教授）	布川　日佐史（静岡大学・教授）
7	フランスの社会福祉（1）－社会連帯を実現する仕組み－	“自由・平等・博愛”は、長年にわたりフランス社会の目ざすところであるが、社会福祉の基本理念である“連帯”と“参入”もこれにつながる思想といえる。 個人の生活への介入は嫌うが、個人主義を支えるための社会的つながりを重視するフランス社会において“社会福祉”は重要な役割を果たしている。この回では、フランスの社会福祉がどのような理念と方法で実施されているのかについて明らかにしたい。 【キーワード】 社会保護制度、社会保障金庫、アソシアシオン、福祉専門職	松村　祥子（放送大学・教授）	松村　祥子（放送大学・教授）
8	フランスの社会福祉（2）－貧困と社会的排除への対応－	世界初の国民扶助の規定（1793年）から200年以上の経過の中で、フランスの社会福祉は独自の発展を遂げてきた。この回では、第一にフランスの社会福祉の歴史を概観し、第二に1980年以降のフランスにおける貧困と社会的排除への対応の現状と課題について検討したい。 【キーワード】 社会扶助、参入最低所得、就業連帯所得	松村　祥子（放送大学・教授）	松村　祥子（放送大学・教授）
9	フランスの社会福祉（3）－世界に誇る家族政策－	世界の最前衛といわれるフランスの家族政策は、人口の少子高齢化、家族の小規模化・多様化への対応と同時に女性の就労促進、賃金格差是正等を目指している。税制上の優遇措置、多種類高水準の家族手当給付及び保育サービス等の施策がどのような背景と仕組みによって実現されているかについて示す。 【キーワード】 出生率、家族の多様化、家族手当、保育サービス	松村　祥子（放送大学・教授）	松村　祥子（放送大学・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	イギリスの社会福祉（1） －福祉サービスの公私関係の源流－	イギリスの社会福祉は、「コミュニティ」と呼ばれる地域を基盤に展開されている。また、フォーマルなサービスは、公的部門、民間（非営利）部門、民間（営利）部門との相互関係の中で提供されている。ここでは、どのような経緯で公的部門による援助が行われたのか、どのような背景で民間部門の組織化が行われたのか、イギリスの社会福祉の歴史的検証を通じて分析する。 【キーワード】 救貧法、慈善組織協会（COS）	金子 光一（東洋大学・教授）	金子 光一（東洋大学・教授）
11	イギリスの社会福祉（2） －新救貧法から福祉国家形成まで－	イギリスは、第二次世界大戦後、福祉国家体制を構築するが、19世紀から20世紀に至る過程においては、依然として行き届いた援助は、それが公的部門の扶助であっても、民間部門の慈善活動であっても、その人間を浪費家に導き、自立心を損ねるという考え方が主流であった。ここでは、新救貧法の時代からベヴァリッジ体制が確立されるまでの課程で、その考え方がどのように変化したかを中心に考察する。 【キーワード】 劣等処遇、貧困調査、福祉国家	金子 光一（東洋大学・教授）	金子 光一（東洋大学・教授）
12	イギリスの社会福祉（3） －福祉多元化主義とコミュニティケア改革の展開－	第2次世界大戦後に形成された福祉国家体制とそのゆらぎ、1970年代以降のコミュニティケア改革、サッチャーが行った政策とその後の労働党政権下の福祉改革を概観する。また、公的部門の役割に関する課題を明らかにし、近年の就労支援を柱とする福祉政策を検討する。 【キーワード】 福祉多元主義、コミュニティケア、福祉改革	金子 光一（東洋大学・教授）	金子 光一（東洋大学・教授）
13	アメリカの社会福祉（1） ―デモクラシーの実践―	社会福祉は困窮している人々を援ける。でも、だれが、だれを、なぜ？アメリカのデモクラシーは「共通の利益を共同で追求する」場であった。でも、どんな利益を、どのように？本講義の目的は、デモクラシーから社会福祉を照らすこと、また、社会福祉からデモクラシーを照らし返すことにある。この回はアメリカ連邦国家の揺籃期に焦点をあてて、両者の関係を探ろう。 【キーワード】 移民、産業資本主義、救貧制度、企業内福祉、民間福祉	後藤 玲子（立命館大学大学院・教授）	後藤 玲子（立命館大学大学院・教授）
14	アメリカの社会福祉（2） ―「機会の平等」の拡大と連邦福祉制度の成立―	1930年代社会保障法成立期と1960年代公民権運動期に焦点をあてて、アメリカのデモクラシーの発展、特に「機会の平等」の拡大と連邦福祉制度の成立の歴史を追う。「機会の平等」は差別の禁止にとどまらず、差別の積極的な是正にも向かう一方で、普遍的な公的扶助を確立するには至らなかった経緯を解き明かす。 【キーワード】 社会保障法、公民権運動、貧困との戦い、コミュニティ・アクション、アファーマティブ・アクション	後藤 玲子（立命館大学大学院・教授）	後藤 玲子（立命館大学大学院・教授）
15	アメリカの社会福祉（3） ―アメリカ福祉国家の基本スキーム―	グローバルな市場経済システムのもと、ワークフェア政策を進める一方で、障害者福祉を進展させてきた1990年代以降のアメリカに焦点をあて、アメリカ福祉国家のスキームを描く。また、「生存権」規定をもつ日本との比較において、アメリカのデモクラシーの到達点と限界点を明らかにする。 【キーワード】 ワークフェア、障害をもつアメリカ人法、正義の二原理、生存権	後藤 玲子（立命館大学大学院・教授）	後藤 玲子（立命館大学大学院・教授）

＝　生涯学習と自己実現（‘０６）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：堀　　薫夫（大阪教育大学教授）　　〕
〔主任講師（現職名）：三輪　建二（お茶の水女子大学教授）〕

全体のねらい

生涯学習社会への移行が叫ばれる今日、生涯学習は、私たちをどこへ導いてくれるのだろうか。本講では、人間の自己実現というひとつの方向目標を手がかりとして、発達論と学習論を軸に、生涯学習をめぐる問題を考えていきたい。あわせて、生涯学習社会がかかえる今日の社会的な問題をもともに考えていきたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	生涯学習の理念	生涯学習論や生涯教育論が、どのような学習観や教育観にささえられてきたのかを考えてみよう。また社会教育や成人教育、学習社会といった概念との関連も考えていこう。	堀　薫夫（大阪教育大学教授）	堀　薫夫（大阪教育大学教授）
2	成熟からの生涯学習と経験からの生涯学習	生涯学習の原理的問題を、生物としての人間が環境に適応していく営みと経験によって行動が変容していくプロセスとにまでさかのぼって考えてみよう。生物的にみても、生涯学習は人間にとって本質的な営みであるということを述べていきたい。また、生活経験からの生涯学習の問題を、デューイや森有正らの経験論とともに考えていきたい。	同上	同上
3	生涯発達とエイジング	生涯学習は、生涯にわたる成長・発達や自己実現をめざす営みだといえる。ここでは、生涯発達の考え方を、エイジングの問題と重ね合わせつつ考えていく。そして、自己実現としての生涯発達の考え方に注目していく。	同上	同上
4	成人期における知的能力の変化	生涯発達と生涯学習を結ぶひとつの視点として、「成人期における学習能力の変化」の問題をあげることができる。流動性知力－結晶性知力論、多元的知能論、実用的知能論といった考え方をもとに、成人期以降の学習能力の変化に目を向けてみる。あわせて自己実現に近い概念でもある「知恵」の問題も考えていく。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	高齢者の学習の成立条件	生涯学習と生涯発達の完成期である高齢期における学習のあり方を考えていく。高齢期における学習は、人生の他の時期における学びとどこがちがうのであろうか。その特徴をいくつかのデータをもとに議論していく。	堀　薫夫（大阪教育大学教授）	堀　薫夫（大阪教育大学教授）
6	死への準備教育	生涯学習の問題をデス・エデュケーション（死への準備教育）の観点からとらえてみよう。人間の死は、大きく老いや病と結びついた死と社会や文化と結びついた死（事故死、他殺など）に分けられる。両方の視点と教育の視点とを結びつけるとどうなるのだろう。考えてみよう。	同上	同上
7	生きがいと自己実現（1）人間的欲求の解放	人間の自己実現の問題を「人間的欲求の解放」という視点から考えてみよう。人間に固有の欲求とは何か？という問いかけをつきつめていくことが、自己実現とは何か？への回答につながっていくのではないだろうか。	同上	同上
8	生きがいと自己実現（2）意味への意志	ここでは、ヴィクトール・フランクルの提唱した「意味への意志」という視点から人びとの自己実現の問題を考えていく。限界状況における人間的価値や生涯にわたって成就される価値、そして自己実現と生涯発達の関連についてもあわせてふれ、これらを統合した、人生の意味づけとしての自己実現の問題を考えていきたい。	同上	同上
9	成人の特性を活かした学習援助論	生涯学習の中核をしめるのは成人教育であろう。ここでは成人教育を成人の特性を活かした教育、あるいはアンドラゴジーととらえたうえで、リンデマン、ノールズらの理論が提起したこととその今日的意義を考えていく。	同上	同上
10	生涯学習における学習者像と学習支援	生涯学習の主な担い手は、社会人などの成人学習者であり、受講者であるあなた方である。成人学習者の特性を活かした学習支援について、アンドラゴジー論のその後の展開をもおさえつつ、自己決定性、経験、意識変容などをキーワードに考えてみよう。	三輪建二（お茶の水女子大学教授）	三輪建二（お茶の水女子大学教授）
11	生涯学習の国際的動向	諸外国の生涯学習について、基本理念や日本の社会教育・生涯学習に直接・間接に影響を及ぼしてきたものを検討してみよう。さらに、OECDやユネスコ、アジア諸国の動向についても概観してみよう。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	地域社会と生涯学習	生涯学習は、地域社会によって規定されるとともに、地域社会の課題に取り組むものも多い。農山村や都市において生涯学習がどのように展開されているか、またそれぞれの課題についての学習・活動がどのように行われているか、事例を含めて考察したい。	上杉孝實（畿央大学教育学部長）	上杉孝實（畿央大学教育学部長）
13	人権問題と生涯学習	人権についての学習は、生涯学習において重要な位置を占める。具体的な人権問題に取り組むことによって、人権文化の構築が可能になる。生涯学習としての人権学習について学ぶとともに、人権としての生涯学習として、識字等をとりあげ、考察を深めたい。	同上	同上
14	生涯学習政策の動向	生涯学習の政策は、国をはじめ都道府県や市町村レベルでも展開を見せている。臨時教育審議会以降の政策動向を、生涯学習振興法や生涯学習審議会答申などを手がかりに概観してみよう。	三輪建二（お茶の水女子大学教授）	三輪建二（お茶の水女子大学教授）
15	生涯学習社会の近未来：キーワードをひもとく	わが国における生涯学習化の動向にはどのような道標があるのだろうか。学校教育の弾力化、職業教育・訓練制度の改革、IT 化と高度情報化への対応、男女共同参画社会、NPO の役割などを手がかりに、ともに考えてみよう。	三輪建二（お茶の水女子大学教授） 堀薫夫（大阪教育大学教授）	三輪建二（お茶の水女子大学教授） 堀薫夫（大阪教育大学教授） 上杉孝實（畿央大学教育学部長）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1520601	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 地域教育の創造と展開 （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）： 岡崎友典（放送大学准教授）〕
〔主任講師（現職名）： 高島秀樹（明星大学教授）〕
〔主任講師（現職名）： 夏秋英房（國學院大學教授）〕

講義概要

学校・家庭・地域の連携・協力・融合が今日的な課題になっている。本科目では、学校教育、社会教育そして家庭教育が地域社会のなかでどのような形で実践されているかについて「地域教育」という新たな概念を用いて考察する。地域社会が急激に変動するなかで、さまざまな「教育問題」が多発化している。学校や家庭だけでは解決できない多様かつ深刻な問題の解決を探るために、今、「地域の教育力」が求められている。専門科目として、教育学、教育社会学の理論を学ぶとともに全国各地の実践事例を詳細に検討しつつ、その解決の糸口を探りたい。学校の教員、教育行政担当者、PTAをはじめ地域の教育関係者の「生の話」を通してさまざまな教育問題の解決に向けての課題を展望する。放送メディア（ラジオ）の特性を生かして、受講者が自らの経験的実践を踏まえて、その経験的実践と教材を対比しつつ考え、地域住民としての生活実態・教育ニーズに即した形での実践的学習を深めてくれることを期待している。

授業の目標

家庭での子育てや学校教育をめぐり、様々な問題が提示されているが、「家庭崩壊」や「学校崩壊」などセンセーショナルな表現で指摘される教育問題は、家庭や学校単独で起きる現象ではないのではなかろうか。

本科目のねらいは、人間の成長・発達といった社会的な作用（教育）を中心的に担う家庭・学校と人間の共同生活の場面としての「地域社会」との関係を、生涯学習・教育の視点から明らかにすることにある。とくに人間のもっとも基本的な教育環境である家庭と学校が地域住民の諸組織や機関との連携協力により、どのような形で地域社会形成の担い手（主体）を生み出しているかについて、「地域の教育」を社会学の手法を用いて分析してきた「地域教育社会学」の研究成果・調査資料と、全国各地の具体的な事例（放送番組）を通して、現代日本の教育課題として提示することを目的としている。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	地域社会の変動と教育 －教育環境としての地域社会―	第二次世界大戦後のわが国の地域開発政の展開過程に即して、地域社会と教育の関係について、地域社会の教育環境を類型化することによって、そこに内在する学習上の課題について提起する。 【キーワード】 地域社会　都市化　地域開発　教育環境の構造　環境要因	岡崎友典	岡崎友典 高島秀樹 夏秋英房
2	生涯学習と地域教育 －新たな教育概念の登場－	家庭教育、学校教育、社会教育が人々のライフステージによって、どのような形で展開していくか。生涯教育・学習といった視点とともに、日常生活場面で展開される教育を、「地域教育」といった新たな観点から考察する。 【キーワード】 家族周期　地域教育　郷土芸能の伝承　後継者と地域社会	岡崎友典	岡崎友典 夏秋英房
3	家族・地域社会の変容と教育の機会	初等，中等、高等教育、それぞれの段階における教育機会について、学校選択の自由と機会の平等といった視点から、地域社会における教育政策上の課題を検討する。 【キーワード】 教育の機会　通学区　学校選択　学歴社会　学校階層	岡崎友典	岡崎友典 夏秋英房
4	開かれた学校と地域社会	社会化・教育・学校教育と地域社会の概念を明らかにしたうえで、学校と地域社会の関係について、近代学校の成立過程における地域社会の関与と、現代的状況（通学区域弾力化、学校評議員制度、学校評価制度）の二つの側面から検討する。 【キーワード】 近代学校の成立と地域社会　学校と地域社会の連携　通学区域の弾力化　学校評議員　学校評価	高島秀樹	高島秀樹 岡崎友典

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	学校教育の内容と地域社会	人間の発達段階に即して社会生活に必要な知識・技術,価値や態度・信念などの資質が形成されるが、それは地域社会の特性とどのように関連しているのか。学校教育の内容と教育課程のなかに地域社会がどのように取り込まれているかについて、その代表的な考え方や、具体的な実践事例を通して両者の関係について検討する。 【キーワード】 教育課程　コミュニティ・スクール　郷土教育	高島秀樹	高島秀樹 岡崎友典
6	子どもの校外生活	急激に変動する社会にあって、子どものをめぐってさまざまな問題が引き起こされている。子どもの成長・発達にとって地域社会の果たす役割について明らかにするとともに、子どもの放課後の校外生活の実態と子どもを指導する地域住民組織の役割について検討する。 【キーワード】 仲間集団　子ども会　住民組織	高島秀樹	高島秀樹 岡崎友典
7	PTAと地域住民組織 ―学校と地域を結ぶ役割―	保護者によって組織されるPTAを、子どもを媒介とに成立する成人の学習組織と捉え,さらに保護者が地域社会の中堅世代として地域社会形成に主要な役割を担うといった視点から、大人の教育責任について検討する。 【キーワード】 PTAの現代的役割　大人の教育責任　親父の会	岡崎友典	岡崎友典 夏秋英房
8	地域福祉と教育－福祉社会をめざして－	福祉が社会的な課題となる社会（福祉社会）において、教育を成り立たせる条件としての福祉について、現代家族の特徴を踏まえたうえで、とくに児童に関わる福祉施設(児童養護施設、母子生活支援施設など)の地域レベルでの実践を通して考察する。 【キーワード】 地域福祉　ノーマライゼーション　自己変革　福祉教育　地域教育プラットフォーム　福祉コミュニティ	夏秋英房	夏秋英房 岡崎友典
9	地域社会の活性化と教育事業	自然的・社会的条件を生かして地域社会を活性化する教育事業について考える。とくに、社会関係資本を醸成する「都市と農山村の交流事業」や、「環境学習による人材育成を中核とした観光事業」、「生涯学習によるまちづくり」など地域社会の教育機能を生かして行われている事例をとおして、持続可能な教育事業について考察する。 【キーワード】 地域共同体　ソーシャル・キャピタル（(社会)関係資本） 多元参加型コミュニティ　NPO　持続可能な開発	夏秋英房	夏秋英房 岡崎友典
10	国際化と地域社会－多文化共生と教育－	国際化が急激に進展するなかで、地域住民にどのような教育と学習が求められているのだろうか。「内なる国際化」をキーワードにして、学校における国際教育や国籍の異なる児童・生徒への教育機会の保障、また自治体による多文化共生のまちづくりの実践を検討し、地域教育の課題を考察する。 【キーワード】 国際化　国際教育　内なる国際化　山村留学　外国人児童生徒　アメラジアン　多文化共生　ニューカマー	夏秋英房	夏秋英房 岡崎友典

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	人材の養成と移動 ―職能形成の過程―	社会人としての能力とくに職業人としての能力（職能）京成が、学校教育を土台としてどのような過程を経て行われるかについて、義務教育終了後の個人のライフコースに知って具体的な携帯・内容について検討する。 【キーワード】 人口の地域分布変動　職種　移動と定住　　Uターン	岡崎友典	岡崎友典 夏秋英房
12	地域社会の再編と学習運動	人口の流動性の高まり、また近年の地方自治体の再編（平成の大合併）など、地域住民の生活環境は大きく変化している。そのような状況の下で、地域コミュニティレベルにおける住民の「学習運動」が新たな地域社会の創造につながる可能性について考察する。 【キーワード】 居住区の再編　　新旧住民の交流　住民の学習運動	高島秀樹	高島秀樹 岡崎友典
13	コミュニティアートと地域スポーツ	学習活動として、アートとスポーツ活動が、地域住民の自主的な活動として諸機関と連携しながら展開されることにより，地域文化を創造し、人々が協働していく契機となって、新たな地域社会が形成される過程を考察する。 【キーワード】 地域文化　コミュニティ・アート　地域スポーツ　地域社会の活性化　文化学習活動　総合型地域スポーツクラブ	夏秋英房	夏秋英房 岡崎友典
14	地域文化の創造と継承 ―地域定住と文化活動―	地域生活のなかから生み出される「生活文化」について、文化の基本的な概念を押さえたうえで、文学や地域の産業（地場産業や観光）などの具体的な事例、とくに新たに創造される文化の果たす役割を中心に考察する。 【キーワード】 伝統文化　伝統工芸　　ものづくり　　地場産業	岡崎友典	岡崎友典 夏秋英房
15	学習社会の成立と教育の課題 ―地域社会の教育的再編―	地域社会の教育が、学校と家庭そして地域住民との共同作業・営みによって続けられることの必要性を、各回で学習した内容をもとに、「地域教育の創造」と「学習社会」における「地域社会の教育的再編」といった視点から「教育の課題」として提示する。 【キーワード】 学習社会　生涯教育　教育の再生　教育改革	岡崎友典	岡崎友典 高島秀樹 夏秋英房

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1520911	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　現代の教育改革と教育行政　　（’１０）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：小川　正人（放送大学教授）　　〕

講義概要

現在進行している教育改革を、主に、教育行政の法制度やその運営の観点から考える授業科目である。教育行政とは、国や自治体の公権力による教育経営であり、教育行政学はそうした公権力の機能を踏まえて、教育経営に関係する様々な主体間の権利義務関係や役割を明らかにしながら、政策目標を実現していく政策立案と検証、法制度・組織づくりやその管理・経営を研究する学問である。授業では、国、自治体の教育行政制度と機能、学校の組織・運営と管理、教員の職能開発と人事管理政策、学校改革の論議・動向等を学び、日本の教育行政の実際と今後の課題を考える。

授業の目標

全15回の講義を通じて、国と自治体の教育行政制度の実情と問題、改革の動向と政策課題を理解できるようにすることを目標とする。受講対象者としては、教育や教育行政に関心をもつ現職教職員、保護者、市民等を想定しており、新聞・テレビ等の教育報道を理解し自分で問題を整理し考えていけるような日本の教育行政制度とその運営等に関する基本的な知識を学べるものとしたい。放送教材では、国、自治体の教育行政の担当者や学校関係者等からの取材等も多く取り入れるなど具体的な事例を通して学べるものとしたい。

履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	教育行政の展開と教育行政研究	教育行政とは何かを説明し、日本の教育行政の基本原則とその展開について学ぶ。また、教育行政を研究対象とする教育行政研究（教育行政学）の領域や課題等についても概観する。 【キーワード】 教育行政、教育行政研究（教育行政学）、戦後教育行政の原則、戦後教育行政の展開	小川　正人（放送大学教授）	小川　正人（放送大学教授）
2	国の教育行政組織と教育政策過程	国の教育行政機関である文部科学省の組織やその仕事等を中心に国の教育政策過程の構造や特徴等を学ぶ。 【キーワード】 内閣、与党・文部科学部会、文部科学省、教育政策過程、1999年内閣法改正、2001年中央省庁再編	小川　正人（放送大学教授）	小川　正人（放送大学教授）
3	国の教育法令の構成と原理	国の教育政策の執行や教育行政運営に関わる教育法令に関する基礎的知識と、日本国憲法・教育基本法を中心に制定されている今日の教育関係法がどのような考え方と構成により成り立っているのかを学ぶ。 【キーワード】 日本国憲法、教育基本法、改正教育基本法、教育関係法、教育振興基本計画	小川　正人（放送大学教授）	小川　正人（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	分権改革による国と自治体の教育行政改革	2000年以降の地方分権改革によって、国と地方自治体の教育行政制度がどのように変わってきているのかを学びながら、地方分権改革の成果とともに新しく生じている問題や改革課題を考える 【キーワード】 地方分権改革、地方自治法、地教行法、県費負担教職員制度	小川 正人（放送大学教授）	小川 正人（放送大学教授）
5	地方自治体の教育行政組織としくみ	地方自治体の教育行政組織として独自に設置されている教育委員会制度について学ぶ。教育委員会制度の組織、運営の実際と問題、改革論議等と、その組織・運営等を規定している法律「地教行法」の主な内容を解説する。 【キーワード】 自治体教育行政、行政委員会、教育委員会、地教行法	小川 正人（放送大学教授）	小川 正人（放送大学教授）
6	教育課程の行政としくみ	児童生徒に教授する教育内容を誰がどのように編成し管理するのかという学習指導要領の在り方を巡って論議があったが、教育課程行政の歴史と現行のしくみを学ぶ。 【キーワード】 教育課程行政、学習指導要領、最低基準、「教育権」論争	小川 正人（放送大学教授）	小川 正人（放送大学教授）
7	教科書の行政としくみ	教室の中で児童生徒が直接触れる教科書は教材として重要な位置にあるが、教科書の作成、発行、採択等といった教科書に関する行政上のしくみと現状、問題などを学ぶ。 【キーワード】 教科書、教科書検定（制度）、教科書採択、教科書無償（給与制）	小川 正人（放送大学教授）	小川 正人（放送大学教授）
8	学校と保護者・子どもの法的地位	学校は秩序ある集団的教育活動を進めるために保護者・子どもに対して校則等を制定しそれに服することを求める一定の権限が付与されているが、他方、保護者・子どもにも学校内にあっても基本的権利を有することが容認される。学校と保護者・子どもの間の権利義務関係について学ぶ。 【キーワード】 懲戒権、出席停止命令、学校部分社会論、保護者・子どもの人権、オンブズパーソン	小川 正人（放送大学教授）	小川 正人（放送大学教授）
9	教育の機会均等保障と教育費負担問題	教育は、社会的身分、経済的地位、門地等によって差別され格差を生じないようその機会均等が保障されなくてはならないが、今日の日本は子育てや教育に多額の個人＝家計負担を要するのが実態である。教育費負担の実情と経済的困窮家庭への援助制度等の問題を学び改善の課題を考える。 【キーワード】 教育機会均等、生活保護、教育扶助、就学援助、教育格差、現代的「貧困」	小川 正人（放送大学教授）	小川 正人（放送大学教授）
10	学校の組織・運営と人事管理	日本におけるこれまでの学校の組織・運営と人事管理の特徴と問題を学びながら、新しい課題に対応して学校の組織・運営と人事管理がどのような見直しを求められているかを考える。 【キーワード】 県費負担教職員制度、広域人事、学校の自主・自律（立）、学校内組織の系列化、ルーズカップリング、協働化	小川 正人（放送大学教授）	小川 正人（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	教員の職能開発と研修・評価	教員の資質向上＝職能開発の必要が言われているが、資質向上＝職能開発に関する政策と研修制度の実情を学びながら、特に、近年、その整備と試行が進められている教員評価制度の動向とその課題について考える。 【キーワード】 教育公務員特例法、教員研修、「指導力不足」教員、教員評価、形成的評価、自己申告＝目標管理評価	小川　正人（放送大学教授）	小川　正人（放送大学教授）
12	教員の勤務問題と業務改善の課題	日本の教員に顕著である膨大な超過勤務の実態と、なぜそうした超過勤務が生じるのかを日本の学校と教員の勤務形態の特徴や問題から学びながら、教員の仕事の在り方を改善していく方策や課題について考える。 【キーワード】 超過勤務、「給特法」、教職調整額、時間外勤務手当	小川　正人（放送大学教授）	小川　正人（放送大学教授）
13	教員給与の政策と法制度改革	教員の人事管理や働き方に大きな影響を及ぼす教員給与の政策と法制度の特徴や問題について学びながら、新しい学校の課題や組織・運営に対応した給与制度の在り方について考える。 【キーワード】 義務教育費国庫負担制度、職務給、職能給、「人材確保法」、労働基本権	小川　正人（放送大学教授）	小川　正人（放送大学教授）
14	子どもの学力保障と学校改革	「ゆとり」教育の下における学力「低下」論議を経て、新しい学習指導要領による学力保障の取り組みが進められている。学力保障の取り組みとそれに必要とされる施策を学びながら、学力を育む学校づくりについて考える。 【キーワード】 学力「低下」論議、学力「格差」、全国学力調査、少人数教育、新教育課程、学習指導要領、「効果のある学校」	小川　正人（放送大学教授）	小川　正人（放送大学教授）
15	学校改革をめぐる論議と新たな学校づくりの取り組み	公立学校を改善する様々な改革論議があり、実際上も色々な改革が全国的に取り組まれている。その代表的な論である「自由化」＝学校選択や学校と地域との連携、学校評価等の学校改革を学びながら、今後の新しい学校づくりの課題を考える。 【キーワード】 学校選択、学校参加、学校評議員、学校運営協議会、学校と保護者・地域の連携協力	小川　正人（放送大学教授）	小川　正人（放送大学教授）

事務局記載欄	開講年度	２０１１年度	科目区分	専門科目	科目コード	1527711	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア）　乳幼児の保育と教育 －子どもの最善の利益を求めて－　（’１１）＝（R）

〔主任講師（現職名）：岡崎　友典（放送大学准教授）〕

〔主任講師（現職名）：林　信二郎（埼玉大学名誉教授）〕

講義の概要

乳幼児の保育が、「子どもの最善の利益」をもたらすものとなるためには、どのようにあるべきかを基本的視点として、保育所や幼稚園で働く保育者にとって必要と考えられる知識や理解、実践事例などを取り上げる。また、保護者や身近な地域住民などが、乳幼児期の保育と教育の基本原理を学び、それを実践につなげる方途を考える。さらには、少子化や国際化が進む日本の保育・教育の今日的な課題を、育児支援や多文化保育の視点から考察する。

授業の目標

児童虐待に代表される子育てをめぐる問題、少子化対策という国家的課題などの中で、保護者だけでなく、乳幼児の保育や教育にかかわる指導者が、子どもたちの存在をどのように受け止め、その可能性の実現のためにどのように援助すべきかについて明らかにする。あわせて、これから保育の仕事に就こうと志している方に、保育についての基本的知識や理解を提供する。

履修上の留意点

この機会に、身近にいる乳幼児の生活や育ちに目を向けるとともに、保育所や幼稚園の存在と、その意義などに関心を持ってほしい。また、「基礎教育学」（’07）、「教育心理学概論」（’06）、「地域教育の創造と展開」（’08）、「子ども・青年の生活と発達」（’06）を履修することが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	乳幼児を育てるということ	少子化対策ともかかわって、乳幼児を育てることの意味とそのあり方が、さまざまに論議されている。一方、教育基本法の中に、家庭教育と幼児期の教育が、新たに位置づけられるに至った。ここでは、乳幼児を育てることの意味と、家庭、保育所、幼稚園のあり方を、それにかかわる用語の整理を含めて取り上げる。 【キーワード】 種の持続、個体の保存、教育基本法、生命の再生産、エネルギーの再生産、子どもの社会化、保育と教育	林信二郎（埼玉大学名誉教授）	林信二郎（埼玉大学名誉教授）
2	乳幼児の発達理解と保育	保育の特質をもたらすものとして、その対象が乳幼児という未成熟な状態にあることが挙げられる。そのため、養護と教育が一体として進められなければならない。この乳幼児期の発達的特徴をどのように理解するかが、保育のあり方に大きく影響する。 【キーワード】 発達と発達観、未成熟性、相互依存性、発達課題、エリクソン、個人差と個性差	林信二郎（埼玉大学名誉教授）	林信二郎（埼玉大学名誉教授）
3	家庭での生活とそこでの育ち	子どもは、家庭に生まれ、そこで育つ。その家庭は子どもにとって運命的存在であるが、その家庭も、社会の諸条件や変化と無関係ではいられない。ここでは、家庭の教育的機能を社会学的視点からとらえ、統計や調査結果を援用して、明らかにしようとする。 【キーワード】 ライフサイクル、家族の役割と機能、マザリング、愛着、母子相互作用	岡崎友典（放送大学准教授）	岡崎友典（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	保育所での生活とそこでの育ち	保育所は、制度的には厚生労働省が管轄する「保育に欠ける乳児または幼児を保育する」児童福祉施設として位置づいている。その保育所が、乳幼児に対してどのような生活の場を用意しているのかを、その歴史を概観し、基本的考え方と保育の内容を取り上げる。 【キーワード】 保育所の歴史、児童福祉法、保育所保育指針、保育の内容、特別保育事業	林信二郎(埼玉大学名誉教授)	林信二郎(埼玉大学名誉教授)
5	幼稚園での生活とそこでの育ち	幼稚園は、制度的には文部科学省が管轄する学校として位置づいている。その幼稚園が幼児に対してどのような生活の場を用意しているのかを、歴史を概観し、目的、内容、方法にわたって取り上げる。 【キーワード】 幼稚園の歴史、教育基本法、学校教育法、幼稚園教育要領、5領域、見える教育と見えにくい教育	林信二郎(埼玉大学名誉教授)	林信二郎(埼玉大学名誉教授)
6	地域での生活とそこでの育ち	子どもの生活と育ちにかかわるものとして、家庭と保育所や幼稚園と地域とがある。その地域が社会の変化に伴った大きく変貌しており、それに伴って地域の持つ教育力も低下している。現在地域がどのような問題を抱えているのかを、その解決の方向を模索しながら考察する。 【キーワード】 社会化、地域社会、都市化、人口の流動性、核家族、地域の教育力	岡崎友典(放送大学准教授)	岡崎友典(放送大学准教授)
7	環境を通しての保育	環境という概念は、きわめて広い意味を含んでいるが、保育所保育や幼稚園教育は、環境を通して行うことをその基本としている。ここでは、環境を通して教育を行うことの意味とその在り方を、主として幼稚園教育に視点を当てながら取り上げる。 【キーワード】 環境、間接教育の原理、自然環境、家庭環境、情報環境、保育環境、応答的環境	林信二郎(埼玉大学名誉教授)	林信二郎(埼玉大学名誉教授)
8	遊びを通しての保育	子どもの生活の中で遊びは大変大きな位置を占めるものであり、その遊びを通して多くのことを学んでいく。そのため、保育所や幼稚園において遊びを通しての指導が基本方針の一つとされている。ここでは、遊びの持つ教育的意味と、その指導のあり方について考える。 【キーワード】 遊びの諸理論、遊びの教育的意味、遊びを通しての総合的指導、カイヨワ	林信二郎(埼玉大学名誉教授)	林信二郎(埼玉大学名誉教授)
9	児童文学を通しての保育	児童文学では、子どもの描写や子どもの世界の再現が、さまざまな形で試みられている。それらを読み解くことで、子どもに関して多様な観点があることを再確認するとともに、児童文学がどのように子どもの心を育てる助けとなってきたか、いくつかの事例を紹介する。 【キーワード】 絵本、おとぎ話、推薦図書、読み聞かせ、子ども観の変遷	芦田川祐子(川口短期大学准教授)	芦田川祐子(川口短期大学准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	保育にかかわる者に求められるもの	乳幼児の生活と育ちが保障されるためには、家庭、保育所や幼稚園、さらには、地域での保育が望ましいものとしてあることが求められる。この、保育にかかわる者には、どのような資質や能力が求められるのかを、その専門性にも触れながら取り上げる。 【キーワード】 保育者の役割、行動特性的資質、状況対応的資質、カウンセリング・マインド、保育目標の人格化、保育職の専門性	林信二郎(埼玉大学名誉教授)	林信二郎(埼玉大学名誉教授)
11	乳幼児教育の遺産(西欧、日本)	現在の保育の営みも、その歴史的遺産から学べるものが少なからずある。ここでは、乳幼児期の教育のあり方を系統的に論じ、その基礎付けをした先駆者と、社会的課題を受けつつ、そのもつ思想を実践し、保育施設を創設した先駆者とを取り上げる。 【キーワード】 オーエン、フレーベル、モンテッソーリ、倉橋惣三、母親学校、恩物、子どもの家、誘導保育論	林信二郎(埼玉大学名誉教授)	林信二郎(埼玉大学名誉教授)
12	諸外国における保育制度	それぞれの国が、その歴史的背景と、現代的諸課題の下に、特色ある保育制度を持っている。ここでは、アジアと欧米のいくつかの国を取り上げ、その理念とするものや制度、保育の内容や方法などについて明らかにする。 【キーワード】 保育理念、保育制度、保育内容、ヘッド・スタート、レッジョ・エミリア	林信二郎(埼玉大学名誉教授)	林信二郎(埼玉大学名誉教授).
13	国際化社会における保育	子育てや保育の場における、多国籍化や多文化化が進行するなか、多様な文化や価値観が共存する多文化社会への質的転換が今日的課題となっている。ここでは、外国籍の乳幼児の言語や文化が尊重されると同時に日本の文化が習得しやすい保育環境のあり方を取り上げる。 【キーワード】 多国籍化、多文化社会、マルチ・カルチャリズム、アコモデーション、異文化間教育	岡崎友典(放送大学准教授)	岡崎友典(放送大学准教授)
14	家族の多様化と子育て支援	少子高齢化、家族の多様化、女性の社会進出の増加、価値観の変化などにより、家族のあり方や子育て環境に大きな変化が生じている。「子育てが困難な時代」といわれるなかで、育児不安や少子化に対する支援としてさまざまな取り組みや対策が講じられている。その背景や実態、今後の方向性を探る。 【キーワード】 合計特殊出生率、少子化、家族の多様化、子ども・子育て応援プラン、特別保育事業、地域子育て支援センター	井上清美(川口短期大学専任講師)	井上清美(川口短期大学専任講師)
15	保育の現状と課題	乳幼児の保育と教育をめぐって、これまでも見てきたようなさまざまな考え方や実践がある。また、社会の変化が子どもの育ちに新しい課題をもたらしてもいる。幼稚園と保育所の一元化の試み、家庭、保育所や幼稚園、地域、学校の連携の問題などを取り上げる。 【キーワード】 保育ニーズの多様化、認定こども園、幼保の連携、幼(保)と小の連携、保育の両義性、随伴的学習と意図的学習	林信二郎(埼玉大学名誉教授)	林信二郎(埼玉大学名誉教授)

事務局記載欄	開講年度	２０１１年度	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1527614	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 児童・生徒指導の理論と実践 （’１１）＝ （ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：住 田 正 樹 （放送大学教授） 〕
〔主任講師（現職名）：岡 崎 友 典 （放送大学准教授） 〕

講義概要

児童・生徒指導は学習指導とともに学校教育の重要な機能であり、児童・生徒（幼児を含む）の人間性の発達を目的とする教育活動である。この講義では学校教育活動の基本的単位である学級集団に焦点を合わせ、学級集団において教師が児童・生徒を指導し、支援していくための諸方法について考察する。とくに児童・生徒理解の方法、学級集団活動、児童・生徒の問題行動、学校の指導体制といった実践的な問題を中心に考察していく。

授業の目標

児童・生徒指導を効果的に進めていくためには、児童・生徒の考え方や生活行動を理解するとともに、家庭や地域といった生育環境の状況についても把握しておかなければならない。児童・生徒を理解することは児童・生徒指導の基礎である。この講義は児童・生徒を理解し指導していく上での基礎的な知識の習得を目的としている。

履修上の留意点

児童・生徒を指導していくためには幼児期から児童期、青年期にいたる発達段階のそれぞれの心理的特徴や社会的位置・社会的状況について広く理解しておかなければならない。子ども・青年の発達に関する心理学や社会学、また教育学など幅広く学習し、人間の発達に関する理解を深めていただきたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
第Ⅰ部 児童・生徒の理解と方法				
1	児童・生徒指導と児童期・青年期の社会的位置	児童・生徒指導は学習指導とともに学校教育において重要な機能をもつ。ここでは児童・生徒指導の目的、対象、方法および児童・生徒指導の基本的な考え方について述べるとともに幼児、児童、青年の発達段階における社会的は特徴について述べる。 【キーワード】 個性化、社会化、規範的文化、認知的文化、自己意識、自己指導能力、発達課題	住田正樹（放送大学教授）	住田正樹（放送大学教授）
2	児童期・青年期の心理的特徴	児童期～青年期は子どもから大人へと心理的な変化も著しい時期である。児童・生徒指導においては、発達段階や発達課題の観点から問題を理解し、子どもの状態に見あった指導を行うことが重要である。ここでは、小学校低学年、中学年、思春期、中学校後半、高校と、心理的な特徴で区切った各時期について、その特徴と心理的課題について検討する。 【キーワード】 発達課題、児童期、思春期、青年期	伊藤亜矢子（お茶の水女子大学大学院准教授）	伊藤亜矢子（お茶の水女子大学大学院准教授）
3	児童・生徒理解の方法	児童・生徒理解は児童・生徒指導の基盤である。児童・生徒理解のためには多様な資料を収集し、さまざまな視点から児童・生徒を理解しなければならない。児童・生徒理解の方法、資料収集の方法について述べ、また児童・生徒理解にもとづいた個別指導と集団指導について述べる。 【キーワード】 児童・生徒理解、観察法、検査法、調査法、ソシオメトリック・テスト、個別指導、集団指導	住田正樹（放送大学教授）	住田正樹（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
第Ⅱ部　学級活動と児童・生徒指導				
4	児童・生徒集団の構造	児童・生徒指導は児童・生徒理解の上になされるものであるが、そのためには児童・生徒個人の理解だけにとどまらず、児童・生徒集団をも理解することが必要である。児童・生徒集団は単なる集合体ではなく独自の構造・機能・文化をもつのであって、したがって児童・生徒集団をとらえるためには、その集団的特徴を理解することが必要となる。 【キーワード】 生徒集団の構造と機能、学校文化、生徒文化、逸脱的生徒集団	田中理絵(山口大学准教授)	田中理絵(山口大学准教授)
5	教師と児童・生徒の関係	教師と児童・生徒との関係は児童・生徒の学力や学習態度、学習行動に大きな影響を及ぼす。教師の、どのような感情的な態度や指導態度、また教師の、どのようなリーダーシップが児童・生徒の学力や学習態度、学習行動にどのような影響を及ぼすのかについて考える。 【キーワード】 教師期待、ピグマリオン効果、ハロー効果、自己成就的予言、教師のリーダー　シップ、教師の勢力資源	住田正樹(放送大学教授)	住田正樹(放送大学教授)
6	児童・生徒指導と教師集団の組織的対応	学校内での児童・生徒への支援には、組織的な対応が欠かせない。問題行動についても組織的な対応が有効な場合も多い。特別支援教育や不登校・いじめなど児童・生徒指導に関わるさまざまな支援について、組織的な対応の必要性と具体例を検討する。また、それらを支える同僚性や教職員間の連携・協働・チームでの支援についてもふれる。 【キーワード】 協働、チーム支援、同僚性	伊藤亜矢子(お茶の水女子大学大学院准教授)	伊藤亜矢子(お茶の水女子大学大学院准教授)
7	児童・生徒指導と学級づくり	学級は子どもの学校生活の基本的単位であり、児童・生徒指導の中心である。学級を集団として指導(集団指導)するためには「学級づくり」が重要であり、これを学習指導からの側面と学級活動を通しての人間関係の側面から明らかにし、子どもが自立していく過程を事例を通して明らかにしていく。 【キーワード】 学級担任制度、学級王国、ティーム・ティーチング	岡崎友典(放送大学准教授)	岡崎友典(放送大学准教授)
第Ⅲ部　児童・生徒の問題行動と指導				
8	子どもの心の健康と指導 ～不登校とうつ～	不登校にはさまざまなタイプがあるが、心の健康に関する課題を背景として抱える例も少なくない。子どもの心の健康には、本人の発達課題や環境要因も関わっている。本章では、学校内で支援や配慮が必要になる心の健康について、不登校を中心に理解と配慮のこつについて検討する。 【キーワード】 メンタルヘルス、不登校、環境要　因、危機理論、スクールカウンセラー	伊藤亜矢子(お茶の水女子大学大学院准教授)	伊藤亜矢子(お茶の水女子大学大学院准教授)
9	いじめと非行	社会の急激な変化に伴い、児童・生徒の問題行動の様子も変化してきた。子どもの問題行動への対応は児童・生徒指導の中心的課題であるが、そのためには、問題行動の要因と背景を客観的に検討し、その対応方法について理解を深める必要がある。本章では、児童・生徒の問題行動のなかでも特にいじめと非行の問題に焦点を当てて考えていく。 【キーワード】 少年非行、いじめの進行プロセス、心の問題、原因論的アプローチ	田中理絵(山口大学准教授)	田中理絵(山口大学准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	児童虐待	近年、児童虐待は深刻な社会問題として広く認識されている。児童虐待防止に関連する各種法制度の整備に基づき、学校および教職員に対しても適切な役割を果たすよう、早期発見の努力義務や関係機関への通告義務などの役割が課されるようになった。本章では、児童虐待への社会的関心が高まった背景について理解した上で、学校に期待される役割についてみていく。 【キーワード】 児童虐待の「深刻化」「激増」、早期発見・早期通告、学校・教職員の役割 と限界	田中理絵（山口大学准教授）	田中理絵（山口大学准教授）
11	教育相談と児童・生徒指導	かつて「教育相談」と「生徒指導」は相対立するものとして捉えられがちであったが、現在では、教育相談は児童・生徒指導の中心的な役割を担うものとされている。教育相談の基本的な考え方やすする方と共に、本章では教育相談と児童・生徒指導を統合した具体的な指導内容として、近年ますます強調されつつあるガイダンスに焦点をあてる。 【キーワード】 教育相談、ガイダンス、生徒指導　提要、キャリア教育	伊藤亜矢子（お茶の水女子大学大学院准教授）	伊藤亜矢子（お茶の水女子大学大学院准教授）
第Ⅳ部　児童・生徒指導の体制				
12	学校と家庭 ～教師と親との関係～	児童・生徒指導は、すべての児童・生徒の人格発達を目指し、学校生活を充実させることを目的とするものであるが、そのためには教師と児童・生徒との関係のみならず、学校と家庭との連携も重要であり、教師にはその中心的役割を果たすことが期待されている。教師と親との関係は、児童・生徒指導体制にどのような影響を及ぼしているのだろうか。 【キーワード】 学校と家庭の連携、学校観、教師に対する期待と不安	田中理絵（山口大学准教授）	田中理絵（山口大学准教授）
13	校外指導と地域社会	児童・生徒指導は学校内だけでなく、学校外＝放課後の生活においても行われる。子どもたちが生活している家庭・地域環境の実態はどうなのか。校外指導は地域社会の住民組織や教育関係団体・組織と連携しつつ行われなければならないが、その実態と指導上の課題について事例を通して明らかにする。 【キーワード】 郊外生活、居場所、地域住民組織、コミュニティ・スクール	岡崎友典（放送大学准教授）	岡崎友典（放送大学准教授）
14	学校の指導体制	組織としての学校では「校務分掌」として生徒指導主任（主事）が置かれており、生徒指導に関わる「連絡調整及び指導・助言」を行っている。この主任を中心にした学校の指導体制の実態、また学校規模、学校段階、あるいは地域社会による指導体制の違いを事例を通して明らかにする。 【キーワード】 生徒指導主任、教育相談体制、PTAとの連携	岡崎友典（放送大学准教授）	岡崎友典（放送大学准教授）
第Ⅴ部　児童・生徒指導の現代的課題				
15	児童・生徒指導の現代的課題	社会の急激な変化にともなって児童・生徒の考え方や行動も多様化し、教師や保護者も今日の児童・生徒を理解することが困難になってきた。こうした状況に対して教師や保護者はどのような対応が可能であり、どのように対処していけばよいのか。またどのような対策が有効なのかについて考察し、今後の児童・生徒指導のあり方を考える。 【キーワード】 私生活化、児童・生徒指導体制、 教師－児童生徒関係の信頼性、教師集団の統一　的対応、外部関連機関との連携	住田正樹（放送大学教授）	住田正樹（放送大学教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1520300	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 教育の社会史 （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：辻本　雅史（京都大学教授）〕

講義概要

現代の教育の問題群に、歴史学の方法によるアプローチをこころみる。そのために、学校に収斂させるのではなく、社会に埋め込まれた人間形成のあり方に視点をすえて「教育の社会史」を描く。おもに17世紀以後の日本の教育史をたどるが、なかでも知を伝達するメディア、身体や時間の近代化、試験の歴史、教育におけるジェンダー、移民社会にみる異文化教育の特質など、高度情報化とグローバル化を見通した主題に留意する。

授業の目標

近代は「学校教育の時代」であったが、今や「学校困難の時代」であるかに見える。歴史の側に視点をすえて、過去からのまなざしによって、今の教育の諸問題を考察してみたい。それは結局、近代学校教育が抱え込んだ歴史的特質を浮き彫りにすることになる。総じて日本教育を、歴史の視点からトータルに理解し、今後の展望を考えようとする学習者に、有益となることをめざしている。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	「文字社会」の成立まで―古代・中世から近世へ―	まず歴史の視点から教育を考える意義を示す。次いで文字が生活の中に組み込まれた17世紀「文字社会」の成立を、日本の教育史を二分する画期ととらえ、そこに至る古代・中世の文字学習の歴史を概観する。さらに近世「文字社会」の要因とその特質を探ることで、近世の教育文化の諸相を明らかにする。 【キーワード】 文字社会、文字文化の共通化、書札礼、仮名文字	辻本　雅史（京都大学教授）	辻本　雅史（京都大学教授）
2	日本の近世社会と人間形成	近世社会における、人間形成の在り方について講ずる。日本においては、村を中心とした地域社会が基本的な共同体となった。子どもが一人前になる過程は、すなわち、この地域社会に参画する過程でもあった。また近世社会においては、「小さな家」が民衆レベルで確立し、そのもとで子どもを育てていくことが常態化していった。地域社会と「小さな家」における人間形成について考える。 【キーワード】 村　地域社会　小さな家　子育て　人間形成	八鍬　友広（新潟大学准教授）	八鍬　友広（新潟大学准教授）
3	文字を学ぶ人々	近世日本における民衆の文字学びについて講ずる。近世は、日本の歴史の中で、文字学習が広く社会に普及することになる時代でもある。また出版も盛んになり、ものを書き本を読むということが、人々の間に広く普及した時代でもあった。人々がどのようにして文字を学んでいたのか、またどれぐらいの人が文字を読むことをしたのかなどについて講ずる。 【キーワード】 文字学び　リテラシー　手習塾　出版	八鍬　友広（新潟大学准教授）	八鍬　友広（新潟大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	17世紀日本の「メディア革命」と教育	17世紀日本で、民衆層が不可欠のメディアとして文字を受容し、商業大量出版が始まったことは、一種の「メディア革命」と見なされる。メディア革命は、文字文化の共通化と知の商品化をもたらし、学習テキストや日本の「古典」を成立させ、近世人の「教養」を形作った。近世の教育をメディアの視点からとらえることで、近世人の学びの諸相を考える。 【キーワード】 メディア革命、出版書肆、学習テキスト、知の商品化	辻本　雅史（京都大学教授）	辻本　雅史（京都大学教授）
5	学びの文化とその思想―貝原益軒から考える―	「教え」よりも「学び」に視点をすえた「学びの文化」の源流を近世に探る。手習いと儒学の、身体を介した学びの原理に、近世教育の文化的特質を見いだし、それを貝原益軒の『和俗童子訓』の言説によって確認する。それと対比的に、近代学校の学習や教育の特質が明らかになるであろう。 【キーワード】 『和俗童子訓』、貝原益軒、素読、身体知、しつけ	辻本　雅史（京都大学教授）	辻本　雅史（京都大学教授）
6	民衆教化とそのメディア	18世紀以後、社会の動揺を前に、「政治」が「教育」を「発見」していった過程と、民衆の自己教育による困難克服の諸相を、とくに教化メディアの視点から探り、近代日本との関わりを展望する。 【キーワード】 閑谷学校、『六諭衍義大意』、寛政異学の禁、石門心学	辻本　雅史（京都大学教授）	辻本　雅史（京都大学教授）
7	近代学校の身体と時間	近代学校がもとめる「近代的」な身体と時間の規律について考える。なぜ、日本の学校は隊列を組んだ「行進」を重視したのか。さらに時間割、運動会、学校儀式などについて考える。 【キーワード】 一斉教授法、行進、運動会、号令、学校毀焼事件	森川　輝紀（埼玉大学教授）	森川　輝紀（埼玉大学教授）
8	教育をめぐる自由と統制	国民教育の確立をめぐる自由(自治)主義と統制主義について考える。田中不二麿、森有礼の教育論、教科書の国定化、大正自由教育などについて、考える。 【キーワード】 教育令、森有礼、教育勅語、国定教科書、大正自由教育	森川　輝紀（埼玉大学教授）	森川　輝紀（埼玉大学教授）
9	試験と出席の社会史	日本の近代学校は、試験進級制=等級制を編成原理として出発した。それが、なぜ出席主義に変容したのかを考える。なかでも試験と考査、課程主義と年齢主義とは何か、となどの問題について考察する。 【キーワード】 等級制、課程主義、考査、立身出世	森川　輝紀（埼玉大学教授）	森川　輝紀（埼玉大学教授）
10	近代学校の表徴	擬似洋風学校、御真影、教育勅語、二宮金次郎、日の丸など、近代学校を表徴することがらについて考える。表徴の意味を検討することによって、近代学校の諸特質が明らかになるに違いない。 【キーワード】 擬洋風、御真影、日の丸、二宮金次郎	森川　輝紀（埼玉大学教授）	森川　輝紀（埼玉大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	教育の近代化とジェンダー	近代日本における教育という営みが、性別カテゴリーによってどのように差異化されているのか、それが階層性を伴いつつ、どのような関係性として構築されていたのかについて考える。 【キーワード】 ジェンダー、裁縫科、男女別学、良妻賢母、高等女学校	小山　静子（京都大学教授）	小山　静子（京都大学教授）
12	女学生の誕生	女子中等教育の制度的確立にともなって女学生が本格的に登場するが、女性が義務教育以上の教育を受けることにどのような社会的な意味があったのか、そして女学生はどのようにとらえられていたのか考える。 【キーワード】 学歴の地位形成機能、学歴の地位表示機能、学生服、女袴、女学生批判	小山　静子（京都大学教授）	小山　静子（京都大学教授）
13	移民教育と異文化理解(1)	民族や文化を異にする人々が共存し、相互に理解する際に、教育の果たす役割を探りたい。そのために、とくに日本人の海外移民の歴史と、海外へ移民する日本人のために行われた事前教育や移民教育論を取り上げて、この問題を考察する。 【キーワード】 官約移民、出稼ぎ移民、移民補習学校	沖田　行司（同志社大学教授）	沖田　行司（同志社大学教授）
14	移民教育と異文化理解(2)	海外における日本人移民を対象とした日本人学校の創設と、排日運動期における日本人学校から日本語学校への変容を明らかにし、日本の文化を世界に開くことの意味を考える。 【キーワード】 日本語学校、外国語学校取締法、日系二世教育	沖田　行司（同志社大学教授）	沖田　行司（同志社大学教授）
15	歴史から教育を考える	20世紀を「学校教育の時代」と見、近世・近代を連続する「文字社会」と見ることで、現在進行中の「メディア革命」が内包する教育史上の意味をとらえ、あわせて21世紀の生涯学習社会への展望をこころみる。教育を、大きな歴史の眼で見ることの有効性を考えたい。 【キーワード】 国民教育、学校の世紀、学校化社会、学習社会	辻本　雅史（京都大学教授）	辻本　雅史（京都大学教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1520407	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 大学と社会 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：安原　義仁(広島大学大学院教授)〕
〔主任講師（現職名）：大塚　　豊(広島大学大学院教授)〕
〔主任講師（現職名）：羽田　貴史(東北大学教授)〕

講義概要

今日、大学は学問の研究や高等教育の場としてほとんどの社会に普及しており、いずれの社会のどの大学にも大学としての共通点がみられる。しかし、それぞれの社会に存在する大学は多種多様で、大学と社会との関係もさまざまである。本科目では、ヨーロッパ中世社会に誕生した大学が近代日本に導入される歴史的経緯をふまえ、現代日本における大学と社会との関係を、グローバル化や高度情報化、学習社会化など社会変化というマクロな観点から学ぶとともに、大学の活動と機能について理解を深める。大学の組織・運営や大学改革の動向と課題についても学習する。

授業の目標

中世ヨーロッパから現代日本に至る大学の歴史および社会制度としての大学に関する基本的知識を習得すること、大学が展開する諸活動ならびに大学が社会において果たす役割・機能について理解すること、そしてそのうえで、現代日本における大学と社会との関係について幅広い視野から批判的に考える力を涵養すること。この授業の目標は以上の三点である。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	大学の誕生と発展	大学という社会制度は、高度な知識を学び教える人々の組合・団体(ウニヴェルシタス)としてヨーロッパ中世社会に誕生した。ボローニア大学とパリ大学がその嚆矢であった。やがて、この二つの大学を原型にして大学はヨーロッパ各地に拡がっていった。 【キーワード】 12世紀ルネサンス、ウニヴェルシタス、ストゥディウム、タウンとガウン、学部、国民団、学寮、学位、討論裁定	安原義仁(広島大学大学院・教授)	安原義仁(広島大学大学院・教授)
2	大学モデルの移植と伝播	大航海時代とそれに続く16世紀には、宗教改革や新大陸先住民の征服と植民の影響下に、大学はヨーロッパ世界からアメリカ新大陸へ移植されていった。さらに19世紀帝国主義の時代、ヨーロッパ大学モデルはアジア・アフリカ世界にも伝播していった。 【キーワード】 大航海時代、植民、宗教改革、イエズス会、修道会、サラマンカ大学、サントドミンゴ大学、ハーバード・カレッジ	安原義仁(広島大学大学院・教授)	安原義仁(広島大学大学院・教授)
3	アジアにおける高等教育の伝統	ヨーロッパの近代大学よりはるか以前に、古代文明の発祥地であるインド、中国では高度な学術研究・教育活動が展開され、ナーランダの学舎や国子監・太学・書院など当時の「大学」が花開いていた。 【キーワード】 ナーランダー、国子監、太学、書院、科挙、大学寮、寄宿制、サント・トーマス大学、アズハル大学	大塚豊(広島大学大学院・教授)	大塚豊(広島大学大学院・教授)
4	アジアの近代化と大学の役割	アジア各国は近代化実現のために国家主導で大学を創設した。また、アジアに共通な特色である植民地経験の中で、各国は教育面でも列強の影響を受け、欧米や日本の大学モデルの伝播が起こった。 【キーワード】 外国大学モデル、宣教と大学、台北帝大、京城帝大、教授用語	大塚豊(広島大学大学院・教授)	大塚豊(広島大学大学院・教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	日本の近代化と大学	日本の大学は，ドイツをモデルに創設された「帝国大学」が理想型といわれてきた。しかし，実際には多様な大学像とモデルがあり，様々な葛藤を経ながら成立した大学像が，現在の大学の基礎を形作っている。 【キーワード】 帝国大学、旧制高校、大学令、専門学校、高等教育計画	羽田貴史（東北大学・教授）	羽田貴史（東北大学・教授）
6	戦後日本社会と大学改革－大衆化への離陸－	戦後，占領軍と日本政府は，多様な高等教育機関を大学に一元化し，全国に配置した画期的な改革を行った。そして，団塊の世代が大学進学年齢を迎えた60年代に大衆化が進行し，世界でも稀な成長を遂げた。 【キーワード】 教育使節団報告書、一般教育、大学大衆化、大学紛争、46答申	羽田貴史（東北大学・教授）	羽田貴史（東北大学・教授）
7	戦後日本社会と大学改革－計画から規制緩和へ－	団塊の世代が通過した後の大学は，地方分散や質の充実を図る「計画の時代」を迎えた。その後，80年代から行政改革によって次第に規制緩和が進められ，大学は今「市場の時代」をどう生きるかを迫られている。 【キーワード】 臨時教育審議会、私学助成、大学審議会、国立大学法人化	羽田貴史（東北大学・教授）	羽田貴史（東北大学・教授）
8	グローバル化する社会と大学	ヒト、モノ、カネが国境を越えて移動する自由度が飛躍的に増した近年、留学生の増加のみならず、複数国協働による人材養成や大学自体が国境を越えるなど、大学をめぐる環境も大きく変貌してきた。 【キーワード】 グローバリゼーション、ICT、英語教育、国境を越える教育	大塚豊（広島大学大学院教授）	大塚豊（広島大学大学院教授）
9	高度情報化社会と大学	高度情報化社会の到来によって、大学における研究・教育は、その形態はもとより、内容も変貌を迫られている。大学における研究は、他の研究機関と協働・競合を余儀なくされ、教育は知識基盤社会に適合したものとなるよう求められているのである。 【キーワード】 知のモード論（モード1とモード2）、オンライン・ジャーナル、eラーニング、大学資本主義（アカデミック・キャピタリズム）	成定薫（広島大学大学院・教授）	成定薫（広島大学大学院・教授）
10	生涯学習社会の中の大学	生涯学習社会においては、大学にも生涯学習機関としての役割が期待される。そこで、ひとつには、生涯学習者たるに必要な自己主導的学習能力の育成、他のひとつには、成人に対する継続学習機会の提供という観点から、大学のあり方を検討する。 【キーワード】 自己主導的学習、成人学生、リカレント教育、学習支援	小池源吾（広島大学大学院・教授）	小池源吾（広島大学大学院・教授）
11	大学の組織と運営	不思議なことに，大学は洋の東西，歴史を問わず，学長，評議会，教授会など似た組織と運営方式をとり，「企業とは異なる」といわれてきた。ところが，この20年間，各国の大学には企業モデルの運営方式が導入されてきた。 【キーワード】 大学の自治　教授会　理事会　学長	羽田貴史（東北大学・教授）	羽田貴史（東北大学・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	変貌する大学教師	大学教師はもともと教育者であったが、19世紀になって研究者としての役割が付加された。その後、国家や地域社会、企業などへのサービスも期待され、役割は多重となった。大学や教員の評価が行われるようになった今日、役割葛藤は増大し、役割分業も進んでいる。 【キーワード】 大学教師、教授、研究者、教育者、役割	山崎博敏（広島大学大学院・教授）	山崎博敏（広島大学大学院・教授）
13	多様化する学生	18歳人口の減少、進学率の上昇とバブル経済の崩壊を同時に経験した1990年代以降、学生の学習行動、職業への移行とキャリア形成の分化や多様化が一層進行し、大学は入口と出口の双方での対応に迫られている。 【キーワード】 学習行動、就職、キャリア形成	小方直幸（広島大学大学院・准教授）	小方直幸（広島大学大学院・准教授）
14	大学と社会貢献	いまや、社会とのパートナーシップなくして大学の存在意義はない。ここでは、大学の社会貢献という理念が成立をみる歴史と、社会貢献をめぐる今日的状況と課題、そして今後の展望について考察する。 【キーワード】 大学拡張、大学開放、大学の「第三の機能」、大学と社会のパートナーシップ	小池源吾（広島大学大学院・教授）	小池源吾（広島大学大学院・教授）
15	21世紀の大学－政策的観点から－	大学と社会との関係変化を踏まえ、21世紀知識基盤社会における大学のあり方を展望する。その際、これに大きな影響を及ぼす現在の各種政策の動向を解説するとともに、その効果や今後の方向性にも触れることとする。 【キーワード】 生涯学習社会、大学の機能・役割、知識基盤社会、政策	山本眞一（広島大学大学院・教授）	山本眞一（広島大学大学院・教授）

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1520318	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 道徳教育論 （’０９）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：林　泰成（上越教育大学大学院教授）　〕

講義概要

道徳教育とは、主として学齢期にある青少年に道徳性を身に付けさせることを目標とする種々の教育の総称である。道徳性の意味については、社会的、時代的背景によりさまざまに議論されてきたが、現在では、非常に幅広い概念としてとらえられており、特定の価値観や理念に基づくものとは考えられていない。そうした観点から、道徳教育の歴史や法的な規制、学校教育における道徳授業の方法だけにかぎらず、家庭や地域社会とのかかわりや、カウンセリングや人権教育とのかかわりなど、道徳に関連するさまざまな話題を取り上げ、検討する。

授業の目標

15回の授業を通して、道徳の概念、歴史、指導要領、授業方法、家庭教育、諸外国の制度など、道徳教育に関連するさまざまな話題に言及する。それぞれの話題について理解することがねらいである。が、それだけにとどまらず、そうした理解をもとにして、自らが反省的考察を行い、道徳的に自律した人間として自らの道徳観を作り出すことが最終的な目標である。

履修上の留意点

なし

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	道徳教育とはなにか	道徳とは何か。道徳教育とは何をすることなのか。現代社会のなかで、道徳教育はどのような意味で重要なのか。道徳教育の諸問題の解明にはどんな学問分野が必要なのか。そうした基礎的な問題について説明する。 【キーワード】 道徳、道徳教育、倫理学、社会学、心理学、教育学	林　泰成（上越教育大学大学院教授）	林　泰成（上越教育大学大学院教授）
2	日本の道徳教育の歴史	明治時代に近代的な学校制度が始まって以降の日本の道徳教育の変遷について説明する。制度論や思想史などさまざまな観点から検討する。 【キーワード】 学制、教育勅語、修身、教科書国定制度、特設道徳、心のノート	林　泰成（上越教育大学大学院教授）	林　泰成（上越教育大学大学院教授）
3	学習指導要領と道徳教育	学校における道徳教育は、法的拘束力をもつと考えられている学習指導要領によってその目標や内容が定められている。その歴史的変遷と現行の学習指導要領の規定について考える。 【キーワード】 学習指導要領、目標、内容、評価	林　泰成（上越教育大学大学院教授）	林　泰成（上越教育大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	道徳性の発達	道徳性とは何か。また、それはどのように発達するのだろうか。ピアジェやコールバーグらの心理学的な研究に依拠して、そのメカニズムを説明する。 【キーワード】 心理学、発達段階、ピアジェ、コールバーグ	林　泰成（上越教育大学大学院教授）	林　泰成（上越教育大学大学院教授）
5	道徳的社会化	道徳的な成熟を、社会が望ましいと考える価値観や態度などを個々人が内面化する過程としてとらえ、そのメカニズムを社会学的な観点から検討する。 【キーワード】 社会学、社会化、デュルケム、フォークウェイズ	林　泰成（上越教育大学大学院教授）	林　泰成（上越教育大学大学院教授）
6	道徳授業の方法①～伝統主義的アプローチ～	道徳の授業にはさまざまなやり方があるが、まず、道徳的価値を伝達し、内面化するアプローチを取り上げ、検討する。 【キーワード】 インドクトリネーション、インカルケーション、道徳的価値、徳目	林　泰成（上越教育大学大学院教授）	林　泰成（上越教育大学大学院教授）
7	道徳授業の方法②～進歩主義的アプローチ～	前回に引き続き、道徳的価値の伝達というやり方以外の授業方法を取り上げ、概説する。それは、たとえば、モラルジレンマ授業や、価値明確化の授業である。 【キーワード】 モラルジレンマ、価値明確化、価値創造	林　泰成（上越教育大学大学院教授）	林　泰成（上越教育大学大学院教授）
8	教科教育と道徳教育	学校に限定して考えた場合でも、道徳教育は道徳の時間の中だけで行われているわけではない。教科の教育の中でも道徳教育は行われていると言うことができる。具体的にどのような形で行われているのかを説明する。 【キーワード】 国語科、社会科、実践三段論法、陶冶	林　泰成（上越教育大学大学院教授）	林　泰成（上越教育大学大学院教授）
9	特別活動と道徳教育	道徳教育は、学級活動や学校行事などの特別活動の領域でも行われている。そうした場で、いかにして人間関係を築いていくかということを考えながら、実践的指導としての道徳教育の在り方について考察する。 【キーワード】 学級活動、学校行事、クラブ活動、児童会活動、生徒会活動	林　泰成（上越教育大学大学院教授）	林　泰成（上越教育大学大学院教授）
10	教育臨床と道徳教育	教師が学校で直接子どもと接する活動としては、学習指導と生徒指導の2つがある。このうちの生徒指導の場面を念頭に置きながら、子どもと教師のかかわりを検討する。 【キーワード】 生徒指導、カウンセリング、受容、共感、個別指導	林　泰成（上越教育大学大学院教授）	林　泰成（上越教育大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	家庭・地域社会における道徳教育	道徳教育は、学校の中だけで行われるのではない。家庭におけるしつけもまた道徳教育の一部である。ここでは、望ましい家庭教育の在り方や、母子関係、父子関係について、さらには地域の教育力について検討する。 【キーワード】 家庭教育、しつけ、地域社会、集団	林　泰成（上越教育大学大学院教授）	林　泰成（上越教育大学大学院教授）
12	諸外国の道徳教育	諸外国において道徳教育はどのように行われているのだろうか。学校では実施していない国もあれば、一教科として行われている国もある。それぞれの国の文化の違いに触れながら、道徳教育についてのさまざまな考え方を紹介する。 【キーワード】 西洋と東洋、アメリカ、イギリス、フランス、中国、韓国	林　泰成（上越教育大学大学院教授）	林　泰成（上越教育大学大学院教授）
13	道徳教育と宗教	道徳と宗教は無縁ではない。各宗教の教えの中にも、道徳の教えと言ってよいものがたくさんある。しかし、政教分離の原則によって国公立学校では宗教的な儀式を行うことはできない。法律や学習指導要領の規定にも触れながら、道徳教育と宗教のかかわりについて検討する。 【キーワード】 仏教、キリスト教、宗教性の発達、政教分離、畏敬の念、いのち	林　泰成（上越教育大学大学院教授）	林　泰成（上越教育大学大学院教授）
14	人権教育と道徳教育	学校現場では、人権・同和教育が、道徳の時間を利用して行われることもある。人権は、道徳教育を考える上で基礎となる概念であるが、その重要性を取り上げ、道徳教育とのかかわりについて検討する。 【キーワード】 人権教育、同和教育、いじめ、エンパワーメント	林　泰成（上越教育大学大学院教授）	林　泰成（上越教育大学大学院教授）
15	道徳教育の課題	第1回から第14回までの考察・検討などを振り返りながら、道徳教育の課題を考え、これからの時代・社会における道徳教育の在り方を展望する。 【キーワード】 いのち教育、キャリア教育、公共性、私事性	林　泰成（上越教育大学大学院教授）	林　泰成（上越教育大学大学院教授）

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1520202	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　授業研究と学習過程　　（’１０）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：秋田喜代美（東京大学大学院教授）〕
〔主任講師（現職名）：藤江康彦（関西大学准教授）〕
【本学担当専任教員：岩永雅也（放送大学教授）】

講義概要

授業は児童期・青年期における教育と学習の場の中心である。授業をどのように研究し分析できるのかを近年の教育心理学や学習科学の視点を中心にして明らかにすることによって、共同の中で学ぶ過程、授業をデザインする過程について考えていく。

授業の目標

全15回の講義を通じ、授業が複雑な知的営みであることを理解し、具体的に教室でのやり取りや生徒の学習過程、教材等を分析的に見ることのできるための知識の習得をはかること、また授業を行う教師のデザイン、実施、評価の過程での認知過程と専門家としての専門的力量の学習過程についての理解を深めることを最終の目標とする。

履修上の留意点

予備知識は特に必要としないが、学校で現在行われている授業等に関心をもっていることが必要であり、受講しながら不明な点が生じた時には、その都度教育心理学や学習科学等の参考文献をあわせてよみすすめることが期待される。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	学習の理論と知識社会の学校教育	人はどのように学ぶのかを行動主義、情報処理アプローチ、社会文化的アプローチなどの心理学的理論から説明すると共に日常生活での学習と学校という場での学習の相違から、授業における学習過程の特徴について理解を深める。 【キーワード】 キー・コンピテンシー、行動主義、構成主義、情報処理アプローチ、社会文化的アプローチ、知識統合、学習環境のデザイン	秋田喜代美（東京大学・教授）	秋田喜代美（東京大学・教授）
2	学習過程と学習成果の質	教室での学習ではその後どこでも利用できる知識の習得が期待されている。では学習過程は成果にどのような影響をおよぼすのか、学習の質と学力や意欲の関係について考える。 【キーワード】 教育の質、学習の転移、信念、学習意欲、メタ認知、学力	秋田喜代美（東京大学・教授）	秋田喜代美（東京大学・教授）
3	概念理解と知識の働き	教科の学習では特定の内容領域の概念の習得が求められる。その習得過程と知識が学習において果たす役割について考える。 【キーワード】 知識、転移、既有知識、概念変化、素朴概念、誤概念、領域固有性	秋田喜代美（東京大学・教授）	秋田喜代美（東京大学・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	テキストからの学習	教科書をはじめ活字を読み学ぶ過程はどのような認知過程であるのか、その熟達と支援について考える。 【キーワード】 既有知識、推論、状況モデル、文章の理解と文章からの学習、読解方略、熟達、メタ認知、内容を志向した学習指導	秋田喜代美（東京大学・教授）	秋田喜代美（東京大学・教授）
5	問題解決の過程	授業ではさまざまな問題解決が求められる。問題とはどのような特徴をもち、その解決過程はどのような過程であるのか、日常生活における問題解決とはどのように異なるのかを考える。さらに、授業における問題解決を促す支援のあり方についても検討する。 【キーワード】 よく定義された問題、アルゴリズム、ヒューリスティックス、計算、文章題、教室談話、認知カウンセリング、プロジェクト	藤江康彦（関西大学・准教授）	藤江康彦（関西大学・准教授）
6	教室談話の特徴	授業における話しことばである教室談話に着目することで、教室の状況や子どもの学習についてどのようなことを明らかにするかを理解する。また、近年では教室談話をめぐりどのような点が着目されているのかについても学ぶ。 【キーワード】 教室、談話、対話、媒介、アプロプリエーション、声、多声、グラウンド・ルール	藤江康彦（関西大学・准教授）	藤江康彦（関西大学・准教授）
7	リテラシーの習得と談話コミュテイの形成	教科授業ではその教科固有の表記方法や推理、語り方の学習が行われる。授業における談話をとおしてどのように学んでいくのか、教師の支援と役割を考える 【キーワード】 リテラシー、談話コミュニティ、教師の実践的知識、教科書、インスクリプション、立ち戻り	秋田喜代美（東京大学・教授）	秋田喜代美（東京大学・教授）
8	協働学習の過程	教師対生徒でのやりとりだけではなく、生徒同士が協働で学び理解を深めていく過程とはどのような過程であり、どのような方法が具体的にあるのか、その過程に影響を与える要因について考えていく。 【キーワード】 バズ学習、ジグソー学習、互恵的教授、理解深化、モニタリング、援助要請、徒党意識	秋田喜代美（東京大学・教授）	秋田喜代美（東京大学・教授）
9	協働学習支援の学習環境	協働とはどのような事象で、学習をどのように変えるかについて理解する。また、CSCLなどの協働学習の支援の手だてとして開発された学習環境のデザインやツールの理念と可能性について検討する。 【キーワード】 学習の社会性、参加、学び手の共同体、IT、CSCL	藤江康彦（関西大学・准教授）	藤江康彦（関西大学・准教授）
10	授業における学習評価	授業における評価は教師には実践を省察するための、学習者には学習をモニタリングするための手がかりをもたらす。今日のカリキュラムの多様化に応じよりよい学習環境を創出し学習支援につなげるための評価活動のあり方や方法を学ぶ。 【キーワード】 形成的評価、到達度評価、真正の評価、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価	藤江康彦（関西大学・准教授）	藤江康彦（関西大学・准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	カリキュラムと授業のデザインと教師の専門性	授業は学習指導要領、教育課程、年間指導計画、単元計画等にもとづいて実施される。カリキュラムに基づく授業のデザインや学習環境のデザイン・実施の方法とそこにみる教師の専門性について理解を深める。 【キーワード】 カリキュラム、授業、学習環境、デザイン、専門性	藤江康彦（関西大学・准教授）	藤江康彦（関西大学・准教授）
12	授業の研究方法	授業の研究には、授業の過程を理解することを目的としたもの、授業の改善や創造を目的としたものがある。その方法について、個人の認知過程と学習集団における協働過程との統合をめざす研究、実践者と研究者が協働で取り組む研究の方法と課題を検討する。 【キーワード】 質的研究、相互作用分析、デザイン実験、アクション・リサーチ、コンサルテーション	藤江康彦（関西大学・准教授）	藤江康彦（関西大学・准教授）
13	授業研究による教師の学習過程	授業研究は教師が相互に学びあう協働学習の過程として捉えることができる。学校という組織の中での専門的知識や思考様式を学ぶ過程について考える。 【キーワード】 レッスン・スタディ、事例研究、校内研修、同僚性、学校文化	秋田喜代美（東京大学・教授）	秋田喜代美（東京大学・教授）
14	教師の熟達化と生涯発達	教師の知識や思考様式の特徴について理解する。そして教職への熟達の様相について理解し、支援するための方途を検討する。さらに、生涯発達の観点から教師の熟達をとらえる。 【キーワード】 適応的熟達化、定型的熟達化、よく考えられた練習、省察、メンタリング、ライフコース	藤江康彦（関西大学・准教授）	藤江康彦（関西大学・准教授）
15	授業研究と学習研究のこれから	これからの学校にはどのような機能が求められるのか、そのための教師と研究者の連携のあり方について国際的動向から考える。 【キーワード】 学ぶ組織としての学校、学びの共同体、学力、政策	秋田喜代美（東京大学・教授）	秋田喜代美（東京大学・教授）

事務局記載欄	開講年度	２０１１年度	科目区分	専門科目	科目コード	1527819	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　子ども・若者の文化と教育　　（’１１）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：武内　清　（上智大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：岩田　弘三　（武蔵野大学教授）〕
【本学担当専任教員：住田　正樹　（放送大学教授）】

講義概要

現代の子どもや若者（青年）は、どのように成長して一人前の大人になっていくのか。そこにどのような人やエージェント（機関）が関わり、子ども・青年の社会化や教育が行なわれるのか。また、子ども・青年は独自の文化を作り、自ら社会化する側面もある。この科目では、子どもや若者が成長し、教育される具体的な場面や集団（家族、友人、学校、大学等）を取り上げ、また学びの内容（学力や価値形成）にも言及しながら、子ども・若者の成長と教育の社会的側面を明らかにする。

授業の目標

広い視野に立ち、現代の子ども、若者の成長の過程を客観的に知ると同時に、どのような教育が必要なのかを考えるツールを身につけ、人間と教育に関する 思考力、実践力を身につける。

履修上の留意点

他の教育関連の科目、とりわけ教育社会学関連の科目も、合わせて履修することが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	子ども、若者の社会化と教育	子ども、若者（青年）は、一人前の大人に向けての社会化や教育の対象であり、それには、さまざまな人が関わり、またさまざまな集団や組織が関与している。同時に、子どや若者は独自の文化を形成し自ら変容し、社会変化の担い手となっている。講座の全体を概観する。 【キーワード】 子ども、若者、社会化、教育、文化	武内　清（放送大学客員教授,上智大学名誉教授）	武内　清（放送大学客員教授,上智大学名誉教授）
2	子どもの家庭生活	子どもを育てる家庭内の行事が衰退した。父親と母親の役割が不明になっている。子どもは家庭内で居場所を見出せなくなっている。かって家庭で行われてきた子どもを一人前にする社会化機能がなくなっている。動物社会の子育てや江戸時代、明治時代の子育てを参考にしながらこれからの家庭教育のあり方について論じる。 【キーワード】　家庭内の年中行事、社会化、子育て	明石要一（千葉大学教授）	明石要一（千葉大学教授）
3	子どもと家庭教育	子どもの第一次社会化の場としての家族や家庭に注目し、そこでの教育のあり方を社会的格差の視点から捉える。貧困家庭における子どもの育ちや虐待問題、その一方で高階層家庭における幼児早期教育や「お受験」ブームなどを具体例として紹介する。 【キーワード】 第一次社会化、社会的格差、貧困と虐待、幼児早期教育・「お受験」	小針　誠（同志社女子大学准教授）	小針　誠（同志社女子大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	子どもの学校生活	子どもは小学校に入学し、生活の中心が家庭から学校に移行する。家庭と学校ではそこで働く原理が大きく違う。顕在的カリキュラムだけでなく、潜在的カリキュラムも含めて、子どもたちはどのようなことを学んでいるのかを明らかにする。 【キーワード】 学校生活、潜在的カリキュラム	武内 清(放送大学客員教授,上智大学名誉教授)	武内 清(放送大学客員教授,上智大学名誉教授)
5	子どもの遊び、郊外生活	子どもの成長スタイルが変わってきた。仲間との遊びを通した成長が見られなくなっている。そこから、今の子ども達の「弱さ」が生まれている。とりわけ男子の行動が気になる。それは何が原因か明らかにしていく。一言で言えば、利便社会の落とし穴であり、子どもの放課後が消えたからである。子ども社会での規範意識が育っていない。 【キーワード】 成長スタイル、利便社会、規範意識	明石 要一(千葉大学教授)	明石 要一(千葉大学教授)
6	子どもの勉強と学力	2002年以降のいわゆる「ゆとり教育」の実施以降、にわかに注目された学力問題について検討する。「ゆとり教育」の内容、子どもたちの学力低下・学力格差の実態、そして、その背景にある子どもたちの「学びからの逃走」の要因についても考える。 【キーワード】 ゆとり教育、学力低下・学力格差、学びからの逃走	小針 誠(同志社女子大学准教授)	小針 誠(同志社女子大学准教授)
7	子どもの問題行動	現代の子どもと若者の問題行動を明らかにする。社会規範が変動している中で、何が問題かのとらえ方自体も揺らいでいる。少年犯罪、いじめ、不登校、高校中退など、問題行動といわれることの実態を考察する。 【キーワード】 規範 青少年犯罪、いじめ、不登校、学級崩壊、高校中退、インターネット	武内 清(放送大学客員教授,上智大学名誉教授)	武内 清(放送大学客員教授,上智大学名誉教授)
8	高校生の生活と生徒文化	高校生の時期の生活と文化について考察する。高校生活は、勉強だけでなく、部活動、文化祭、体育祭、友人関係、異性関係の面でも活発になり、体力面でも精神面でも大きく成長する。若者独自の文化にもコミットし、生徒文化を形成し、大人に対峙する。 【キーワード】 高校生 文化祭、生徒文化	武内 清(放送大学客員教授,上智大学名誉教授)	武内 清(放送大学客員教授,上智大学名誉教授)
9	大学受験	若者にとって大学受験は、これまでどのような意味をもってきたのか、また高等教育が大衆化(マス化)・ユニバーサル化した現在において、それはどのように変わりつつあるのかを、現在の大学入試がもつ問題を含めて考察する。 【キーワード】 大学入試、高等教育の大衆化(マス化)・ユニバーサル化	岩田 弘三(放送大学客員教授,武蔵野大学教授)	岩田 弘三(放送大学客員教授,武蔵野大学教授)
10	ジェンダーによる進路分化と教育	教育には男女の平等を推進する機能があるが、その反面、固定的な性別役割規範を再生産するはたらきもある。ジェンダーによる教育機会や進路選択の差異は何によって決定されるのか。「ジェンダー・トラック」の背景として、家族におけるジェンダーの社会化や学校教育の顕在・潜在双方のカリキュラムなどに注目して議論する。 【キーワード】 進路選択、ジェンダー・トラック、かくれたカリキュラム	小針 誠(同志社女子大学准教授)	小針 誠(同志社女子大学准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	大学生のキャンパスライフ	大学・短大進学率は5割を越え、若者の多くが大学で過ごすようになっている。若者たちは、大学のキャンパスでどのような生活を送り、どのように知識や技術や価値観を学び、これからの社会を担う一員としえ育っているのか。その現代の実態を、大学生調査のデータやインタビューから明らかにする。 【キーワード】 キャンパスライフ、大学生調査、価値観	武内　清（放送大学客員教授,上智大学名誉教授）	武内　清（放送大学客員教授,上智大学名誉教授）
12	キャンパスライフの歴史	戦後日本における大学生のキャンパスライフ（学生文化）が、どのように推移してきたのか。まじめ（勉強）文化、遊び文化の盛衰といった観点を軸に、恋愛・デート文化、サークル文化の動向を含めて、その様相を取り上げる。 【キーワード】 キャンパスライフ、まじめ（勉強）文化、遊び文化、恋愛・デート文化、サークル文化	岩田　弘三（放送大学客員教授,武蔵野大学教授）	岩田　弘三（放送大学客員教授,武蔵野大学教授）
13	学生とアルバイト	どのような変遷をへてアルバイトが、学生のなかに浸透し、いかなる意味をもつようになってきたのかを 、印刷教材では、歴史的に考察するとともに、番組ではゲストを招き、現在の問題について、若者の就労体験とに関連で考える。 【キーワード】 学生アルバイト、就労体験	岩田　弘三（放送大学客員教授,武蔵野大学教授）	岩田　弘三（放送大学客員教授,武蔵野大学教授）
14	ジェンダー・教育・労働市場	若者の文化、生活、自立支援を考える上で、ジェンダー視点は欠かせない要素である。とくに女性労働、性別役割分業意識とその変化、再生産領域での男女の葛藤などに焦点を当てながら、若者にとっての自立の意味を現代のジェンダー構造とのかかわりで考える。 【キーワード】 性別役割分業、M字型労働曲線、親密圏、若者とシティズンシップ	天童　睦子（名城大学准教授）	天童　睦子（名城大学准教授）
15	子ども・若者文化と教育・支援	子ども・若者の生活と文化は、それぞれの時代の影響を受け変化する。現代の子ども・若者の生活と文化の特徴を、これまでの講義を整理する形でまとめ、子ども・若者文化の特質を明らかにすると同時に、現在に求められている教育や支援のあり方を明らかにする。 【キーワード】 子ども文化、若者文化、子ども・若者支援	武内　清（放送大学客員教授,上智大学名誉教授）	武内　清（放送大学客員教授,上智大学名誉教授）

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1521110	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 知的障害教育総論 （’１０）＝ （ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：太田俊己 （植草学園大学教授） 〕
〔主任講師（現職名）：宮崎英憲 （東洋大学教授） 〕
【本学担当専任教員：住田正樹 （放送大学教授） 】

講義概要

近年、特別支援学校等への入学者が急増しており、特別支援学校、特別支援学級の在学者でも多くを占める知的障害のある児童生徒の教育について、心理・生理・病理の側面に加え、教育課程・指導法について具体的な実践場面を例に用いながら、初歩の学習者にもわかりやすく解説する。知的障害教育についての今日的で、かつ基礎的な内容について多面的に学ぶ科目である。

授業の目標

特別支援学校、特別支援学級等に在学する知的障害のある児童生徒の心理・生理的な特徴や特性を理解し、特別支援学校、特別支援学級における教育課程、具体的な指導法、個別の指導計画等について学ぶ。知的障害の周辺の障害のある児童生徒の心理・生理等、指導法等についても、関連して学ぶようにする。

履修上の留意点

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	知的障害教育の特徴と教育課程	特別支援教育における知的障害教育の現状、特徴を述べ、併せて教育課程の特色について解説する。 【キーワード】 特別支援教育　知的障害教育　教育課程	宮崎英憲（東洋大学・教授）	宮崎英憲（東洋大学・教授）
2	知的障害の心理と支援方法	知的障害の心理的な特徴、支援上ふまえるべき観点のあらましについて解説する。 【キーワード】 知的障害　心理　支援方法	太田俊己（植草学園大学・教授）	太田俊己（植草学園大学・教授）
3	自閉症のある場合の心理と支援方法　その1	自閉症を伴う児童生徒が実践現場には多く在籍する。自閉症の心理的な特徴、またそれをふまえた支援方法の原則や観点について解説する。 【キーワード】 自閉症　心理　支援方法	三苫由紀雄（東洋大学・非常勤講師）	三苫由紀雄（東洋大学・非常勤講師）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	自閉症のある場合の心理と支援方法 その2	自閉症の心理的な特徴もふまえた支援方法、実践的な対応方法などについて具体的に解説する。 【キーワード】 自閉症　心理　支援方法	三苫由紀雄（東洋大学・非常勤講師）	三苫由紀雄（東洋大学・非常勤講師）
5	周辺の障害の心理と支援方法	知的障害の周辺とされる障害（LD、ADHD等）の心理的な特徴とそれをふまえた支援方法について解説する。 【キーワード】 LD　ADHD　発達障害　心理　支援方法	三苫由紀雄（東洋大学・非常勤講師）	三苫由紀雄（東洋大学・非常勤講師）
6	重度・重複障害の心理と支援方法	重複の障害で知的障害を伴う場合の心理的な特徴とそれをふまえた支援方法について解説する。 【キーワード】 重度・重複障害　知的障害　心理　支援方法	太田俊己（植草学園大学・教授）	太田俊己（植草学園大学・教授）
7	生活単元学習とその実践方法	知的障害教育の実践方法のうち、特徴的な生活単元学習について取り上げ、その特徴ならびに実践方法やその留意事項について解説する。 【キーワード】 生活単元学習　実践方法	名古屋恒彦（岩手大学・教授）	名古屋恒彦（岩手大学・教授）
8	作業学習とその実践方法	知的障害教育の実践方法のうち、作業学習について取り上げ、特徴を述べるとともに、実践方法やその留意事項について解説する。 【キーワード】 作業学習　実践方法	中坪晃一（植草学園短期大学・教授）	中坪晃一（植草学園短期大学・教授）
9	日常生活の指導・遊びの指導とその実践方法	知的障害教育の実践方法のうち、日常生活の指導および遊びの指導について取り上げ、それぞれの特徴を述べるとともに、実践方法やその留意事項について解説する。 【キーワード】 日常生活の指導　遊びの指導　実践方法	中坪晃一（植草学園短期大学・教授）	中坪晃一（植草学園短期大学・教授）
10	教科別の指導とその実践方法	知的障害教育の実践方法のうち、教科別の指導を取り上げ、その特徴を述べるとともに、実践方法やその留意事項について解説する。 【キーワード】 教科別の指導　実践方法	名古屋恒彦（岩手大学・教授）	名古屋恒彦（岩手大学・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	自立活動の指導とその実践方法	知的障害教育における自立活動の位置づけ、特徴を解説し、あわせてその実践方法や留意事項について解説する。 【キーワード】 自立活動　知的障害　教育課程　実践方法	太田俊己（植草学園大学・教授）	太田俊己（植草学園大学・教授）
12	個別の指導計画と個別の教育支援計画の実践	特別支援教育の中で位置づけを増してきている個別の指導計画と個別の教育支援計画を取り上げ、意義や位置づけ、それぞれの特徴や実践上の留意点などについて解説する。 【キーワード】 個別の指導計画　個別の教育支援計画　学習指導要領	宮﨑英憲（東洋大学・教授）	宮﨑英憲（東洋大学・教授）
13	特別支援学級の教育と実践	特別支援学級の教育の現状と課題、教育課程、望ましい実践の方向性などについて解説する。 【キーワード】 特別支援学級　教育課程　実践方法	名古屋恒彦（岩手大学・教授）	名古屋恒彦（岩手大学・教授）
14	幼児期・就学前段階の対応と就学支援	知的障害のある幼児に対する就学前段階の対応の現状、支援のあり方について解説するとともに、就学支援の方向性等についても触れる。 【キーワード】 障害幼児　就学前段階　早期からの対応　就学支援	太田俊己（植草学園大学・教授） 宮﨑英憲（東洋大学・教授）	太田俊己（植草学園大学・教授） 宮﨑英憲（東洋大学・教授）
15	高等部段階の対応と進路支援	知的障害のある生徒の高等部段階の現状と課題について解説するとともに、卒業後を見通した進路支援のあり方等について触れる。 【キーワード】 高等部　進路支援　社会自立	宮﨑英憲（東洋大学・教授）	宮﨑英憲（東洋大学・教授）

事務局記載欄	開講年度	２０１１年度	科目区分	専門科目	科目コード	1527916	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　特別支援教育基礎論　　（’１１）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：吉田昌義（帝京大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：鳥居深雪（植草学園大学准教授）〕
【本学担当専任教員：住田正樹（放送大学教授）】

講義概要

特別支援教育は、これまでの特殊教育の対象であった障害に加え、LD・ADHD・高機能自閉症等を対象とすることとなった。本科目においては、特別支援教育の意義、対象となる障害に関する基礎的な知識、理解、教育の現状について解説する。

授業の目標

特別支援教育の意義、在り方等を理解し、一人一人のニーズに応じた教育の実現を目指す。

履修上の留意点

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	特別支援教育の現状	特別支援教育の意義、学校教育法一部改正による特別支援学校・特別支援学級への転換、校内委員会・特別支援教育コーディネーターの設置、個別の教育支援計画の作成、学習指導要領の改訂等を解説する。 【キーワード】	吉田昌義（帝京大学教授	吉田昌義（帝京大学教授
2	視覚障害児の理解	視覚障害の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、理解、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項）等について解説する。 また、教育の実際について紹介する。 【キーワード】	神尾裕治（長野大学教授）	神尾裕治（長野大学教授）
3	聴覚障害児の理解	聴覚障害の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、理解、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項）等について解説する。 また、教育の実際について紹介する。 【キーワード】	落合　勇（国士舘大学非常勤講師）	落合　勇（国士舘大学非常勤講師）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	知的障害児の理解	知的障害の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識(定義、状態像、診断基準等)、理解、教育的対応(教育内容、教育方法、留意事項)等について解説する。 また、教育の実際について紹介する。 【キーワード】	吉田昌義(帝京大学教授)	吉田昌義(帝京大学教授)
5	肢体不自由児の理解	肢体不自由の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識(定義、状態像、診断基準等)、理解、教育的対応(教育内容、教育方法、留意事項)等について解説する。 また、教育の実際について紹介する。 【キーワード】	昆 俊雄(植草学園大学講師)	昆 俊雄(植草学園大学講師)
6	病弱児の理解	病弱・身体虚弱の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識(定義、状態像、診断基準等)、理解、教育的対応(教育内容、教育方法、留意事項)等について解説する。 また、教育の実際について紹介する。 【キーワード】	昆 俊雄(植草学園大学講師)	昆 俊雄(植草学園大学講師)
7	重複障害児の理解	重複障害の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識(定義、状態像、診断基準等)、理解、教育的対応(教育内容、教育方法、留意事項)等について解説する。 また、教育の実際について紹介する。 【キーワード】	昆 俊雄(植草学園大学講師)	昆 俊雄(植草学園大学講師)
8	LD児の理解	学習障害の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識(定義、状態像、診断基準等)、理解、教育的対応(教育内容、教育方法、留意事項)等について解説する。 また、教育の実際について紹介する。 【キーワード】	鳥居深雪(植草学園大学准教授)	鳥居深雪(植草学園大学准教授)
9	ADHD児の理解	ADHDの児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識(定義、状態像、診断基準等)、理解、教育的対応(教育内容、教育方法、留意事項)等について解説する。 また、教育の実際について紹介する。 【キーワード】	鳥居深雪(植草学園大学准教授)	鳥居深雪(植草学園大学准教授)
10	自閉症児の理解	自閉症の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識(定義、状態像、診断基準等)、理解、教育的対応(教育内容、教育方法、留意事項)等について解説する。 また、教育の実際について紹介する。 【キーワード】	鳥居深雪(植草学園大学准教授)	鳥居深雪(植草学園大学准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	情緒障害児の理解	情緒障害の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識(定義、状態像、診断基準等)、理解、教育的対応(教育内容、教育方法、留意事項)等について解説する。 また、教育の実際について紹介する。 【キーワード】	河村 久(聖徳大学教授)	河村 久(聖徳大学教授)
12	特別支援学校の教育の実際	特別支援学校の教育課程、指導方法、特別支援学校のセンター的機能の実際等を紹介する。 【キーワード】	岩井雄一(都立青鳥特別支援学校校長)	岩井雄一(都立青鳥特別支援学校校長)
13	特別支援学級の教育の実際	特別支援学級の現状、教育課程の編成、指導の実際等について紹介する。 【キーワード】	河村 久(聖徳大学教授)	河村 久(聖徳大学教授)
14	通級による指導の実際	通級による指導の位置づけ、教育課程、指導の実際等について紹介する。 【キーワード】	吉田昌義(帝京大学教授)	吉田昌義(帝京大学教授)
15	小学校・中学校等に於ける特別支援教育の実際	通常の学級と通級指導教室の連携、通常の学級における指導体制の整備、校内委員会、研修等について実際を紹介する。 【キーワード】	河村 久(聖徳大学教授)	河村 久(聖徳大学教授)

事務局記載欄	開講年度	２０１１年度	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1528114	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 特別支援教育総論 （’１１）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：宮崎 英憲 （東洋大学教授） 〕
〔主任講師（現職名）：山本 昌邦 （横浜国立大学名誉教授） 〕
【本学担当専任教員：住田 正樹 （放送大学教授） 】

講義概要

平成19年度から「特別支援教育」が制度化され、全国の特別支援学校はもとより、幼稚園、小学校、中学校及び高等学校等においても障害のある幼児児童生徒一人一人のニーズに応じた適切な指導と支援が求められている。
本科目では、特別支援教育の意義、対象となるそれぞれの障害の概要や教育内容・方法等の基本的事項について解説する。

授業の目標

特別支援教育の意義や概要を理解し、一人一人のニーズに応じた教育が展開できるようにする。

履修上の留意点

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	特別支援教育の意義、概要	特別支援教育の意義、特別支援教育コーディネーター、個別の教育支援計画（重複障害・LD等を含む）、校内支援体制、特別支援学校、特別支援学級、教員免許等について解説する。 【キーワード】	山本昌邦（横浜国立大学名誉教授）	同 左
2	一人一人のニーズに応じた教育 －視覚障害教育Ⅰ－	視覚障害教育の歴史、視覚障害児に対する教育の内容・方法等について解説する。 【キーワード】	田中良広（国立特別支援教育総合研究所総括研究員）	同 左
3	一人一人のニーズに応じた教育 －視覚障害教育Ⅱ－	特別支援教育における視覚障害児の教育、交流及び共同学習の在り方等について解説する。 【キーワード】	田中良広（国立特別支援教育総合研究所総括研究員）	同 左

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	一人一人のニーズに応じた教育 －聴覚障害教育Ⅰ－	聴覚障害教育の歴史、聴覚障害児に対する教育の内容・方法等について解説する。 【キーワード】	濱田豊彦 （東京学芸大学准教授）	同　左
5	一人一人のニーズに応じた教育 －聴覚障害教育Ⅱ－	特別支援教育における聴覚障害児の教育、交流及び共同学習の在り方等について解説する。 【キーワード】	濱田豊彦 （東京学芸大学准教授）	同　左
6	一人一人のニーズに応じた教育 －知的障害教育Ⅰ－	知的障害教育の歴史、知的障害児に対する教育の内容・方法等について解説する。 【キーワード】	宮﨑英憲 （東洋大学教授）	同　左
7	一人一人のニーズに応じた教育 －知的障害教育Ⅱ－	特別支援教育における知的障害児の教育、交流及び共同学習の在り方等について解説する。 【キーワード】	宮﨑英憲 （東洋大学教授）	同　左
8	一人一人のニーズに応じた教育 －肢体不自由教育－	肢体不自由教育の歴史、肢体不自由児に対する教育の内容・方法、特別支援教育における肢体不自由児の教育、交流及び共同学習の在り方等について解説する。 【キーワード】	木舩憲幸 （広島大学教授）	同　左
9	一人一人のニーズに応じた教育 －病弱教育－	病弱教育の歴史、病弱・身体虚弱児に対する教育の内容・方法、特別支援教育における病弱児の教育、交流及び共同学習の在り方等について解説する。 【キーワード】	山本昌邦 （横浜国立大学名誉教授）	同　左
10	一人一人のニーズに応じた教育 －重複障害教育Ⅰ－	重複障害教育の歴史、重複障害児に対する教育の内容・方法、特別支援教育における重複障害児の教育の在り方等について解説する。 【キーワード】	木舩憲幸 （広島大学教授）	同　左

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	一人一人のニーズに応じた教育 －重複障害教育Ⅱ－	特別支援学校における重複障害児に対する教育（医療的ケアを含む）の現状と課題及び今後の在り方等について解説する。 【キーワード】	木舩憲幸 （広島大学教授）	同　左
12	一人一人のニーズに応じた教育 －言語障害教育－	言語障害教育の歴史、言語障害児に対する教育の内容・方法、特別支援教育における言語障害児の教育の在り方等について解説する。 【キーワード】	松村勘由 （国立特別支援教育総合研究所上席総括研究員）	同　左
13	一人一人のニーズに応じた教育 －情緒障害教育－	情緒障害教育の歴史、情緒障害児に対する教育の内容・方法、特別支援教育における情緒障害児の教育の在り方等について解説する。 【キーワード】	笹森洋樹 （国立特別支援教育総合研究所総括研究員）	同　左
14	一人一人のニーズに応じた教育 －発達障害教育Ⅰ－	発達障害の定義、これまでの発達障害児に対する教育の経緯等について解説する。（ここでいう発達障害とは、自閉症、LD、ADHD、アスペルガー症候群を含むものとする。） 【キーワード】	柘植雅義 （国立特別支援教育総合研究所上席総括研究員）	同　左
15	一人一人のニーズに応じた教育 －発達障害教育Ⅱ－	発達障害児のうち、特に学習障害、ADHD及び高機能自閉症について、現状と課題及び今後の在り方等について解説する。 【キーワード】	柘植雅義 （国立特別支援教育総合研究所上席総括研究員）	同　左

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1520903	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 心理学研究法 （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：海保 博之（東京成徳大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：大野木 裕明（仁愛大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：岡市 広成（同志社大学名誉教授）〕

講義概要

①人の心と行動を実証的に研究する論理はどうなっているのか、②1世紀余にわたる心理学の研究の歴史のなかでその論理はどのような変遷をへて現在のようになってきたのか、そして、③今、心理学は、研究方法論の百花繚乱期をむかえているが、実験法から質的研究法まで、どのような方法論と技法が何を明らかにするためにどのように使われているかを紹介してみたい。

授業の目標

心理学の多彩な研究「技法」も個別研究も、事例として紹介されるが、それよりも、それらの背後にある、研究の方法論（論理）のほうに目を向けてほしい。自然科学と違って、心という科学的に非常に扱いにくい対象が、どうすれば科学になりうるのかを知ることが、受講生の方々みずからが、心についての妥当な認識を深めることにもつながると思うからである。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	心理学研究法概説	心理学研究法の歴史と論理をたどりながら、心がどうすれば科学的な対象として研究できるのかを考えてみる。そこでは、自然科学ではごく当たり前の実証をめぐっての苦闘の歴史があることを紹介する。	海保 博之（東京成徳大学教授）	海保 博之（東京成徳大学教授）
2	因果関係を探る ―実験室実験法	心理学における実験の論理について学ぶ。心理学実験は自然科学における実験と変わらないところもあるが、人を相手の実験ではそれなりの工夫が必要となる。実験室的な実験では厳密さが保たれるが、より現場的な実験を行なうにつれて実験法の長所と限界が明らかになる。その工夫の数々が、本章の学びのポイントになる。 【キーワード】 確率論的な因果関係、独立変数、従属変数、統制群、実験計画法	大野木 裕明（仁愛大学教授）	大野木 裕明（仁愛大学教授）
3	心を説明するモデルを探る ―モデル論的アプローチ	心にかかわるデータをいかに収集し処理するかに心理学は多彩な工夫をしてきたが、心のモデル化にはかなり慎重であった。20世紀後半、認知心理学がこれに果敢に挑戦してきた。記憶検索モデル、記憶貯蔵庫モデル、さらに情報処理モデルを事例として紹介しながら、モデル論的アプローチの仕組みを紹介してみる。	海保 博之（東京成徳大学教授）	海保 博之（東京成徳大学教授）
4	集団の意見や態度を探る ―質問紙調査法	いろいろな社会現象に対する意見や考えはさまざまであるが、これをたとえば世代別や性別にみると、かなりそれら集団の人びとに共通の考えや態度が見られる。それを調べる方法の1つが質問紙調査法である。言語的なインタビューや社会調査で使われる質問紙で何がわかるのかを、前章の実験法との違いを考えながら学ぶ。 【キーワード】 社会集団、質問紙、社会調査、標本抽出法、相関関係、因果関係	大野木 裕明（仁愛大学教授）	大野木 裕明（仁愛大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	心の特性を探る ―心理尺度の構成法	心を測る最も一般的な手法として、使われているのが心理尺度である。心理尺度の作り方と、その背景にある論理、さらに、利用にあたっての留意点についても紹介する。	海保　博之 （東京成徳大学教授） 大野木　裕明 （仁愛大学教授）	海保　博之 （東京成徳大学教授）
6	行動から心を探る ―観察法一般	人間の心への接近方法は現在多様である。ここでは客観的に観察することが可能である行動から心へ接近する手法である観察法について、その種類、使用上の留意点、得られた心理学上の知見について検討する。	比留間　太白 （関西大学教授）	比留間　太白 （関西大学教授）
7	現場から心を探る ―エスノメソドロジーとグラウンディッド・セオリー	近年、フィールド・ワークを中心とした質的研究が注目されてきている。ここでは、フィールド・ワークを通して人間の心理のどのような側面をどのような理論上の立場・視点から、どのような方法によって明らかとしようとしているのか、エスノメソドロジーとグランウンデットセロリーを事例として検討していきたい。	比留間　太白 （関西大学教授）	比留間　太白 （関西大学教授）
8	協働から心を探る ―教育的介入法	研究者が現場で活動する人と協働して、具体的な問題解決に取り組むことで、問題の背後にある心的機能に関する知見を検討することが可能である。ここでは教育場面における教育的介入法の事例を取り上げ、理論的背景、成果と方法論上の問題について検討していきたい。	比留間　太白 （関西大学教授）	比留間　太白 （関西大学教授）
9	社会を動かす心を探る ―アクションリサーチ	アクションリサーチは、社会問題を解決するために、それに関わる人々の意識や行動の規定因を解明し、それが望ましい方向に変わるように働きかける方法である。本章では、コミュニティでの環境保全の取り組みの事例を例にしながら、その方法の特徴を紹介する。	広瀬　幸雄 （名古屋大学大学院教授）	広瀬　幸雄 （名古屋大学大学院教授）
10	心の不具合を探る ―事例介入研究	個別または少数の事例について、個性を追求する方法が事例研究法である。心理臨床においては、実際に対象に援助や介入を行いつつ、人間心理を探る方法として独自の意味をもつ方向に発展してきた。この章ではそうした事例介入研究について紹介したい。	小笠原　昭彦 （名古屋市立大学教授）	小笠原　昭彦 （名古屋市立大学教授）
11	心の深層を探る―心理検査法	人間行動における個人差を知る上で有用な方法としての心理検査について、信頼性や妥当性を高めるために標準化の手続きを経て作られた標準検査と、心の深層を探るために発展してきた投映法検査の両面から紹介する。	小笠原　昭彦 （名古屋市立大学教授）	小笠原　昭彦 （名古屋市立大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	心の脳基盤を探る ―生理心理学的研究法	心は脳と神経系によって実現されると考えられる。この考えの基礎となる生理学的・解剖学的研究と環元主義的研究法を説明する。心の働きを脳と行動との関係からアプローチする3つの有力な研究方法―脳損傷法、脳活動記録法、脳刺激法―について説明する。	岡市　広成 （同志社大学名誉教授）	岡市　広成 （同志社大学名誉教授）
13	動物から人の心を探る ―比較心理学的方法	「動物に心があるか」という問いに応える古典的研究から、ネコやラットでの行動学的研究、および、最近、発展の著しいサルに至る比較認知研究の成果に基づいて考えてみる。さらに、背景にある、進化論的な考えも吟味してみたい。	岡市　広成 （同志社大学名誉教授）	岡市　広成 （同志社大学名誉教授）
14	心理学研究法；まとめと補足	13回にわたり、心理学研究法を網羅的に紹介してきた。この章では、それらの多彩な心理学研究法を類型化して知識の整理をしてもらうことが一つのねらいである。さらに、実証の意味を確認し、現在の心理学研究の一つの潮流ともなっている統計的推論の意義にも触れてみたい。	海保　博之 （東京成徳大学教授）	海保　博之 （東京成徳大学教授）
15	心理学研究法と心理学の研究の今後の展開	14回の講義を通じて、心理学研究の多様なアプローチとその論理や意義を理解していただいた。最後になる今回は、これらの研究法相互の働きかけによって、心の探究のためのあらたな方向が見つけ出され、いかに真理を究明する知的な好奇心がかき立てられるかを、3人の主任講師の対談を通じて考えていきたい。	岡市　広成 大野木　裕明 海保　博之	岡市　広成 大野木　裕明 海保　博之

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1520806	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 認知科学の展開 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：西川　泰夫（上智大学・名誉教授）〕

〔主任講師（現職名）：阿部　純一（北海道大学・名誉教授）〕

〔主任講師（現職名）：仲　真紀子（北海道大学大学院・教授）〕

講義概要

21世紀最大の課題の一つである、私たちの「心」をめぐる議論は、新たな局面を迎えている。その取り組みを包括して、認知科学（心の科学；cognitive science）とよぶ。当初、心の究明は、もっぱら哲学者の思索や思弁に委ねられていた。しかし、19世紀における生理学や物理学の興隆とともに、新たな現在の心理学（科学的・実験心理学）が立ち上げられたことに加え、以後、20世紀中頃からの情報理論、数理言語学、ならびにコンピュータの実現、さらには脳神経科学などの進展とともに、現在の認知科学がある。この分野の基本的なパラダイムの紹介とその広がりを代表的な心理事象をもとに紹介する。

授業の目標

「心」の探求は新たな段階を迎えている。その最先端では、多くの研究者を巻き込んで活発な実証研究、ならびに理論的整備が図られている。そして反証や理論をめぐって激しい論争が繰り広げられている。学問の最先端は、常に知的に過激で、興味尽きない。そうした新たな知の分野へ関心と興味をもたれる方々へ、自ら参加するためのまずこの分野の基本的な考え方をはじめ、その興味深い成果の一端を簡潔に紹介する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	認知科学成立の背景	認知科学への道程を概観する。基本パラダイムである、心の記号論・計算論を中心に、その背景となる歴史的経緯を紹介する。記号論・計算論は、アリストテレスの形式論理学以降、ホッブス、ライプニッツ、ブール代数、そして現代論理学（命題論理学、述語論理学、フレーゲ、ラッセル、ヴィトゲンシュタインなど）の系譜をたどる。また、論理計算の機械化という観点からは、計算機の系譜をたどり、チューリング・マシン、現行のコンピュータへの概要の紹介を試みる。 【キーワード】 心の記号論・計算論。論理学。計算の機械化。コンピュータ。	西川泰夫（上智大学・名誉教授）	同左
2	心は計算機	認知科学における基本パラダイムの紹介。「心は計算機である」という主張をめぐって。3つの前提。派生する第4の前提と、「人工知能研究」。「知」の機械化。チューリング・マシン。チューリング・テスト。人間の思考、知性とは。記号処理システムとしての脳（形式的ニューラル・ネットワーク）。脳神経科学の知見から。論理学から。 【キーワード】 人間の思考、知性。記号処理システム。計算機。ニューラル・ネットワーク。	西川泰夫（上智大学・名誉教授）	同左
3	知識の利用と表象	人間の知（認知、cognition）の基盤を他の動物との比較で考えてみると、それが「nature」よりも「nurture」によって特徴づけられていることが分かる。つまり、人間の知の能力は、生まれた後の様々な経験や学習によって培われた（広い意味での）知識によって支えられているということである。この知識が、日常生活の中でどのように利用されているのか、また、脳内でどのように表象（represent）されているか、を知ることは、認知科学の基本的課題となっている。この回は、人間の知識の利用と表象について解説する。 【キーワード】 知の力、知識の利用、知識の表象	阿部純一（北海道大学・名誉教授）	同左

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	感覚	いわゆる五感と呼ばれる様々な情報をまとめて、効果的に外界を表現するのが感覚の役割である。感覚情報は相補的に機能するが、人間の感覚システムは視覚と聴覚を重視した設計になっている。たとえば視覚は限られた方位を精度良く処理するのに適するが、聴覚は全方位を粗くだが包括的に処理できるし障害物の影響も少ない。この視聴覚を中心にまわりの環境を認知しようとするのが、他の生物とは違う私たちなりの外界への接し方であり、捉え方なのだろう。ここでは私たち人間の感覚システムの特徴を中心に解説する。 【キーワード】 感覚、視覚、聴覚、環境	川端康弘（北海道大学・准教授）	同左
5	高次視知覚	視覚系を通じて、環境の中にある情報がどのようにして抽出されるか、その過程について考える。初期視覚過程や受容野を基盤としたエッジ検出のモデルや奥行知覚、運動知覚の計算モデル、更にはもっと高次の知覚過程としての物体認知や顔認知の過程を説明する認知モデルなどについて解説する。 【キーワード】 エッジ検出、奥行知覚、運動知覚、物体認知、顔認知	田山忠行（北海道大学・教授）	同左
6	注意	注意とは、環境の中にある必要な情報を効率的に獲得するためのものであると考えられる。この注意の基本的な機能として、選択的注意、空間的注意、視覚探索、分割的注意などがあり、それらを説明する代表的なモデルや理論を取り上げる。また、意識とも関連した脳内の注意ネットワークに関する神経科学的知見について紹介する。 【キーワード】 選択的注意、空間的注意、視覚探索、分割的注意	田山忠行（北海道大学・教授）	同左
7	認知発達	ここでは時間軸に沿った認知的機能の変化を取りあげる。まず，認知的発達に関するいくつかのモデルを示し，その上で，特に言語的な側面に焦点を当てて発達的変化を見ていくことにしたい。ここで取り上げるモデルは，特定の事象を予測し説明するメカニズムというよりは，発達の過程をどのように捉えるかという視点あるいは理念に近いものである。どのような視点あるいは理念をもつかによって，見えてくる現象が異なってくることを示したい。 【キーワード】 発達のモデル，遺伝と環境，初期知識，領域固有性，語彙獲得	仲真紀子（北海道大学・教授）	同左
8	記憶	ここでは記憶の過程を取りあげる。短期記憶と長期記憶，言語化できる記憶と言語化しにくい記憶，顕在的な記憶と潜在的な記憶，意味記憶やエピソード記憶といった長期記憶の特徴などを，そのモデルとともに見ていくことにしたい。近年では，偽りの記憶（実際には体験していないことが，あたかも体験したかのように想起される）や自伝的な記憶（自己に関する自伝的な記憶）が関心を呼んでいる。これらについても見ていくことにしよう。 【キーワード】 記憶のモデル，記憶の種類，偽りの記憶，自伝的記憶	仲真紀子（北海道大学・教授）	同左

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
9	推理判断	われわれの日常生活の多くは推理判断に基づいているといえる。日常的な推理判断も基本的には論理学の演繹、帰納、類推などに対応するが、当たり前過ぎて意識されないような推理判断を詳しく調べると、論理学的な形式性や妥当性の判断とは大きく異なっている。そのようなわれわれの推理判断の具体的な特徴を論理学的な背景とともに概観し、現象を説明できそうな認知科学的なモデルを紹介していく。 【キーワード】 推理、判断、演繹、帰納、類推	瀧川哲夫（北海道大学・教授）	同左
10	言語理解	言語機能は人間という動物を特徴づける代表的認知機能といえる。この回は、人間の言語理解過程の基本的性質について解説する。単語の認知、文の理解、文章の理解と、より大きな言語単位を把握して、その意味内容を捉えていく過程を解説する。 【キーワード】 単語、文、文章（談話）、統語処理、意味処理	阿部純一（北海道大学・名誉教授）	同左
11	言語コミュニケーション	ここでは音声言語によるコミュニケーション，特に会話を中心に認知科学的な研究を紹介する。まず，交互に話す，フィードバックを与える，文脈を共有するといった，会話の特徴を整理する。その上で，発話の理解について検討しよう。発話の研究は，言語学との接点で行われてきた。オースティン，グライス，サールによる理論的枠組みを示し，これらの研究に触発されたいくつかの実証的研究を示す。さらに，イントネーションなどのパラ言語情報についても見ていくことにしよう。 【キーワード】 会話，フィードバック，文脈，発話行為	仲真紀子（北海道大学・教授）	同左
12	音楽認知	音楽の心的機能は、言語と同様に、人間に特徴的なそれといえる。音楽は一般に“芸術”や“感性”に関わる機能として認識されがちではあるが、その基本はやはり“認知”的であるといえる。この回は、人間の音楽認知の基本的メカニズムを解説する。その中核は、拍節的体制化と調性的体制化である。また、音楽における認知と感情との関係についても触れる。 【キーワード】 音楽認知過程の計算モデル化、知覚的体制化、認知と感情	阿部純一（北海道大学・名誉教授）	同左
13	感情	感情は心のシステムのどのようなはたらきによってもたらされるのか、心理学と脳科学の知見にもとづきながら、学際科学としての認知科学の見解を学習する。環境への適応システムとしての感情、認知と思考と動機づけの統合システムとしての感情、感性や価値観につながる高次システムとしての感情など、感情のもつ多彩な側面について学ぶ。また、進化の観点からみた感情、社会現象を通してみた感情についても議論する。 【キーワード】 一次感情、二次感情、情動、愛着	佐住彰文（東京工業大学・教授）	同左

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
14	認知科学と認知工学	認知科学によって人間の知の仕組みが解明されるならば、その知見を効果的に使って、人間にやさしい機械の設計が可能となるはずである。このような考え方からうまれたのが、認知工学である。人間が環境を認知する仕組み、推論、感情が導きだされる仕組みが、機械の効果的な設計にどのように貢献できるかを学ぶ。さらに、医療現場や家庭内ロボットをとりあげながら、これからの社会の設計に、認知科学がどのように貢献できるのか、議論する。 【キーワード】 インターフェイス、アフォーダンス、医療認知工学、未来型ハウス	徃住彰文（東京工業大学・教授）	同左
15	認知科学再考	当科目のまとめ。心を問い直す。反記号論・計算論者たちの反論。その前提となるパラダイム。二元論対一元論。感性と理性。行為と心的表象系。身体性。文脈。意図・志向性。応用認知科学。ヒューマン・エラーと安全性。認知科学の将来への展望。 【キーワード】 心を問い直す。反記号論・計算論。	西川泰夫（上智大学・名誉教授）	同左

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1520709	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 記憶の心理学 （’０８）＝ （ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：太田　信夫（学習院大学教授）〕

講義概要

人間の記憶に関する心理学の知見を基に、講義内容を組み立てる。ここでいう記憶とは、経験や出来事、あるいは知識やイメージなど、常識的意味での記憶のみならず、私たちが生まれてからこのかた、経験により獲得してきたすべての知識や技能をさす。すなわち、話したり、歩いたり、服を着たりする日常的行動は、本人は意識してはいないけれども、学習したことを記憶しているからできるのである。このようなさまざまな記憶に関する研究において、今日まで解明されてきた多くの知見のうち、基本的事項をわかりやすく講義する。記憶のメカニズムやその理論、あるいは現代社会の諸問題に直結する応用的研究などについて、データを示しながら講義を進める。

授業の目標

人間の記憶に関する心理学の基本的知見を習得し、私たちの日常的行動や認知活動（頭の働き）における記憶の重要性を理解することを目標とする。また、記憶の心理学における実証的研究法の基本についても、理解できるようになることを、本授業の目標としている。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	記憶の不思議	記憶には、常識的に考えるものだけでなく、さまざまな記憶があること、その記憶には個人差が存在することを通して、記憶の不思議に言及する。また、記憶の心理学の基本的枠組みとして、2貯蔵庫モデルについて解説する。 【キーワード】 系列位置曲線、2貯蔵庫モデル、記憶力、短期記憶、長期記憶	太田信夫（学習院大学教授）	太田信夫（学習院大学教授）
2	記憶のプロセス	プロセスを符号化、貯蔵、検索の3つの段階に分け、それぞれのプロセスで起きている認知活動（情報処理）と、それに影響を与えている諸要因について、説明をする。後半は、符号化特定性について、実験例を紹介しながら、解説をする。 【キーワード】 符号化、貯蔵、検索、符号化特定性、手がかり依存忘却、転移適切処理	太田信夫（学習院大学教授）	太田信夫（学習院大学教授）
3	ワーキングメモリ	ワーキングメモリのモデルにおける中央実行系や音韻ループ等の特徴と短期記憶との差異点を解説する。また、ワーキングメモリを測定するリーディングスパンテストや、日常生活におけるワーキングメモリの役割についても言及する。 【キーワード】 ワーキングメモリ、ワーキングメモリのモデル、リーディングスパンテスト、処理資源	豊田弘司（奈良教育大学教授）	豊田弘司（奈良教育大学教授） 太田信夫（学習院大学教授）
4	記憶の測定 －再生と再認－	再生と再認のテストの手続きや、データの処理について説明する。次にいくつかの再認理論を、取り出し理論と生成理論に分けて紹介する。また再生理論についても、両理論に分け、意味ネットワーク理論やミネルバ2などについて解説する。 【キーワード】 再生、再認、信号検出理論、強度理論、意味ネットワーク理論、ミネルバ2、取り出し理論、生成理論	寺澤孝文（岡山大学教授）	寺澤孝文（岡山大学教授） 太田信夫（学習院大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	エピソード記憶と意味記憶	エピソード記憶と意味記憶の特質に関する理論やモデルを解説する。また、エピソード記憶を規定する符号化特定性原理や処理水準、意味記憶における活性化拡散とそれを具体的に示したプライミング効果等について言及する。 【キーワード】 処理水準、符号化特定性、活性化拡散モデル、プライミング、精緻化	豊田弘司（奈良教育大学教授）	豊田弘司（奈良教育大学教授） 太田信夫（学習院大学教授）
6	潜在記憶と顕在記憶	顕在記憶と対比しながら、潜在記憶を中心に講義する。潜在記憶を測定する直接プライミングの実験について解説し、直接プライミングの諸特徴について、実験例を示しながら説明する。最後に、潜在記憶の理論を紹介する。 【キーワード】 潜在記憶、顕在記憶、直接プライミング、複数記憶システム、単語完成テスト	太田信夫（学習院大学教授）	太田信夫（学習院大学教授）
7	非言語情報の記憶	人間の記憶には、聴覚、味覚、空間、運動の記憶のように、「ことばの記憶」以外の記憶も存在する。そうした非言語的記憶の存在を知る実験を紹介しつつ、こうした非言語的記憶が言語的記憶とどのような相互作用をしているかを示す。 【キーワード】 感覚モダリティ、画像優位性効果、空間的記憶と視覚的記憶、運動の記憶、言語隠蔽効果	原田悦子（法政大学教授）	原田悦子（法政大学教授） 太田信夫（学習院大学教授）
8	学習と記憶	学習と記憶の関係について解説し、日々の学習や体験が、語彙習得や人間の理解・思考に与える影響を紹介する。また、ドリル学習の積み重ねを、個別にフィードバックする実践事例を踏まえ、記憶研究が教育に果たす役割に言及する。 【キーワード】 潜在記憶、実力の測定、マイクロステップ計測技術、感覚的記憶、深い理解	寺澤孝文（岡山大学教授）	寺澤孝文（岡山大学教授） 太田信夫（学習院大学教授）
9	自己と記憶	記憶という認知活動において、自己がどのように関わっているのかを、記憶における自己の特殊性、自己にとっての記憶の重要性、という二つの側面から解説する。記憶はアイデンティティーを形成し、保つために、必要不可欠である。 【キーワード】 自伝的記憶、自己参照効果、自己スキーマ、アイデンティティー、偽記憶	伊東裕司（慶応義塾大学教授）	伊東裕司（慶応義塾大学教授） 太田信夫（学習院大学教授）
10	日常記憶	私たちが日常用いている記憶は、従来実験室で研究されてきた記憶とは、異なったものである場合が多い。近年、記憶研究者たちは、さまざまな工夫をして日常記憶に迫っているが、そのようないくつかの記憶について説明する。 【キーワード】 展望記憶、ソース判断、記憶補助、記憶の更新、目撃証言	伊東裕司（慶応義塾大学教授）	伊東裕司（慶応義塾大学教授） 太田信夫（学習院大学教授）
11	記憶と感情	記憶と感情の関連について、感情が記憶に与える影響、記憶による感情のコントロール、という二つの側面から解説する。感情研究の方法、実験的に得られる記憶と感情の相互作用を示す現象を中心に検討を行う。 【キーワード】 気分、情動的ストレス、気分状態依存、気分一致効果、気分不一致効果、フラッシュバック	伊東裕司（慶応義塾大学教授）	伊東裕司（慶応義塾大学教授） 太田信夫（学習院大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	人物の記憶	人物の記憶を成立させるさまざまな要素の記憶の中から、ここでは特に、顔、名前、性格特性、行動の記憶に焦点をあて、理論やデータを示しながら、いくつかの基本的内容を解説する。 【キーワード】 顔の記憶、名前の忘却、顔認識モデル、対人認知、TOT(舌端現象)、ネットワークモデル	森津太子(放送大学准教授)	森津太子(放送大学准教授) 太田信夫(学習院大学教授)
13	記憶の生涯発達	人が生まれてから死ぬまでの生涯発達において、記憶の量や質、記憶方略及びメタ記憶が年齢と共にどのように変化するのか、そして、これらの要因が記憶成績に及ぼす影響について、データに基づいて講義する。 【キーワード】 記憶容量、メタ記憶、記憶方略、高齢者の記憶、生涯発達	豊田弘司(奈良教育大学教授)	豊田弘司(奈良教育大学教授) 太田信夫(学習院大学教授)
14	現代社会における記憶の問題	社会の高齢化、情報化、高密度化が進むなか、人にとっての記憶負担は大きくなってきている。一方、情報技術を用いた記憶支援の可能性も開かれてきている。こうした現代社会において、人の記憶とそれを取り巻く社会との関係についてた多角的に考える。 【キーワード】 超高齢社会、情報化、活動の高密度化、記憶支援、思い出	原田悦子(法政大学教授)	原田悦子(法政大学教授) 太田信夫(学習院大学教授)
15	記憶研究の大切さ、難しさ、面白さ	本講義のまとめとして、記憶研究の観点から、その歴史について、ず解説する。次に、研究の難しさ、面白さなどについて、一方では実験的研究の立場から、他方ではフィールド研究(応用研究)の立場から、今後の動向も含め、説明をする。 【キーワード】 記憶研究、研究の歴史、実験、フィールド、応用、今後の研究	太田信夫(学習院大学教授) 伊東裕司(慶應義塾大学教授) 原田悦子(法政大学教授)	太田信夫(学習院大学教授) 伊東裕司(慶應義塾大学教授) 原田悦子(法政大学教授)

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	専門科目	科目コード	1526707	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 心理学史 （’１０）＝ （ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：西川　泰夫・上智大学・名誉教授 〕
〔主任講師（現職名）：高砂　美樹・東京国際大学・教授 〕
【本学担当専任教員：森　津太子・放送大学准教授 】

講義概要

現代の心理学は、従来の哲学的・倫理学的・道徳学的（思弁と思索を主とする）心理学から19世紀における自然科学の興隆に伴い、ことに生理学や物理学を手本として、つまり新心理学、科学的（実験）心理学として自立した。一方、わが国では幕末から明治初期にかけて世界の心理学と出会い、その移入と定着・拡大を図り、今日を作ってきた。この間、世界の心理学の変遷の影響を受けながらも、その動きに能動的に参画し、心理学ワールドに対して固有の貢献も果たしてきている。こうした心理学の歴史的背景と各種の展開をふまえ、心理学の対象である生き物全般に加えて、人工物（ことに機械類）の心や知性、行動を的確に理解するための基本概念、考え方の起源を呈示する。

授業の目標

現代心理学は、なぜ今あるようにあるのか。そのことの発端、黎明期・前夜から、自立し、成長し、成熟してきた学問自体の変遷の経緯を、現在入手可能な史資料や調査検討の結果を踏まえ、明らかにする。ことの変遷の背景には、それを担った先達を始め、後継者、そして将来の直接の担い手となる新たな学び手と人の輪が連なる。その輪の中核に置かれるのが、現在の心理学（いわゆる通常科学の一員として）に共通する範例となるもの、つまりパラダイムに他ならない。このパラダイムの変遷史の総体が、心理学の歴史に他ならない。現在の心理学を、それが包括する個々の諸専門分野から応用領域、技術にいたるまで学ぶのに不可欠な基本原理、共有概念などの習得を図る。

履修上の留意点

一般的に言って、 歴史の学びというと、とかく暗記物といったイメージが強い。そのためか、ことの年号や人名を機械的かつ苦痛な暗記を強制されるという芳しくない受け止め方も流布されている。まず、こうしたイメージを払拭することから始めよう。一方、確かに歴史学は、ことの性格上、過去のことにこだわるという面を否定できないため、後ろ向きで将来に向いて生きる人々にはなじめないのであろう。しかしあいにくであるが、実現した将来は全て過去の上に成り立つことを忘れてはならない。この意味でものごとはすべて過去のことといえる。この瞬間にも実現した将来は、過去のことの経過の上でのこと。すると的確な歴史的過去を把握するためには、実現した将来（実は現在）から、過去を復元するきわめて困難な課題である。それだけに歴史の学びには知的関心と史資料などへの科学的実証精神が欠かせない。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	西欧における心理学の始まり	心理学の始まり。19世紀の心理学が近代学問として成立した過程。経験主義哲学・実験生理学・進化論の影響。心理学前史としてのスペンサーとベイン。フェヒナーの精神物理学。ヴントの心理学実験室とその拡大。 【キーワード】 哲学的心理学から新心理学へ。精神物理学。心理学実験室。	高砂美樹・東京国際大学・教授	高砂美樹・東京国際大学・教授
2	日本への心理学の導入	日本の心理学の前夜・黎明期を担った先達たち。「性理学」と「心理学」、学名の日本語表記と語源をめぐって。日本の「心理学」の制度化を可能にした大学の役割。西周・西村茂樹・外山正一。 【キーワード】 心理学という学名の由来と語源。奚般氏心理学。新心理学。	西川泰夫・上智大学・名誉教授	西川泰夫・上智大学・名誉教授
3	アメリカ心理学の始まり	ジェームズ・ホール・ティチナー・ミュンスターバーグなど。20世紀初頭まで。 【キーワード】 アメリカ哲学。ハーバード大学。ジョンズ・ホプキンズ大学など。	荒川歩・名古屋大学大学院・特任講師	荒川歩・名古屋大学大学院・特任講師

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	日本における心理学の定着	大学心理学（新心理学）の成立過程。日本の心理学の背景史から。哲学的心理学から科学的心理学へ。G.S.Hall のもとで学んだ日本人留学生たち。日本の新心理学のルーツ。大学制度の整備に伴う心理学の位置づけ。元良勇次郎。松本亦太郎。 【キーワード】 新心理学。元良勇次郎。精神物理学。心理学実験室。	西川泰夫・上智大学・名誉教授	西川泰夫・上智大学・名誉教授
5	日本における心理学の広がり（日本心理学会設立から現在へ）	日本における心理学の定着後の拡大過程。大学制度の整備拡充に重ねて。日本心理学会の設立の背景と変遷過程。戦後の復興から現状へ。京都アメリカ研究セミナー。国際心理学会議（ICP）。 【キーワード】 心理学の制度化。大学制度史。日本心理学会。ICP。	西川泰夫・上智大学・名誉教授	西川泰夫・上智大学・名誉教授
6	知能検査と発達心理学	知能検査。ビネ・シモン。ターマン。IQ。偏差知能指数。ウエクスラー。言語性テスト・運動性テスト。発達・成熟過程。教育的対応。日本への導入。久保良英。田中寛一。鈴木治太郎。心理テスト理論。 【キーワード】 知能。検査。発達・成熟過程。学習と教育。	サトウ・タツヤ・立命館大学・教授	サトウ・タツヤ・立命館大学・教授
7	臨床心理学という発想	フロイト。精神分析学。催眠術。自由連想法。夢の分析。イド・エゴ・スーパーエゴ。深層心理。ユング。心理分析。感情に色づけられたコンプレックス。集団無意識。元型。アドラー。劣等コンプレックス。補償。クレペリン。二大精神病の分類。森田正馬。森田療法。中村古峡。内田勇三郎。精神作業検査。 【キーワード】 精神分析。心理分析。心理療法。心理検査法。変態心理。	サトウ・タツヤ・立命館大学・教授	サトウ・タツヤ・立命館大学・教授
8	比較心理学と行動主義	比較心理学・動物心理学。ダーウィンの進化論。ロマーニズによる「動物の知能」。モーガンの公準。ワトソンの行動主義。パヴロフの条件反射。ワトソン。ソーンダイクの試行錯誤学習。日本の比較心理学。増田惟茂・黒田亮。動物心理学会。 【キーワード】 比較心理学。進化論。モーガンの公準。行動主義。	高砂美樹・東京国際大学・教授	高砂美樹・東京国際大学・教授
9	ゲシュタルト心理学	ブレンターノとグラーツ学派。マイノング・エーレンフェルス。シュトゥンプとフランクフルト／ベルリン学派。ヴェルトハイマー・コフカ・ケーラー・レヴィン。日本におけるゲシュタルト心理学の影響と佐久間鼎。仮現運動。トポロギー心理学。洞察学習。グループ・ダイナミクス。戦争の影響。 【キーワード】 20世紀の3大潮流。ゲシュタルト心理学。	高砂美樹・東京国際大学・教授	高砂美樹・東京国際大学・教授

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	20世紀における日本の心理学の展開	大学令以降の私立大学における展開。研究室の主宰者など。慶應義塾大学。早稲田大学。日本大学。関西学院大学。同志社大学など。横山松三郎。中島泰蔵。渡辺徹。今田恵など。東京大学出身者。クラーク大学への留学、学位取得者。 【キーワード】 大学令。私立大学。東京大学出身者。クラーク大学留学者。	荒川歩・名古屋大学大学院・特任講師	荒川歩・名古屋大学大学院・特任講師
11	社会心理学の展開	社会心理学とは。社会心理学の位置づけとその展開。応用心理学の一側面。社会調査。世論調査。意識調査。質問紙法。社会的認知。人間関係。偏見。集団と個。説得。同調。広告。流行。暴走。オルポート。フェスティンガーなど。 【キーワード】 社会心理学。応用心理学。	サトウ・タツヤ・立命館大学・教授	サトウ・タツヤ・立命館大学・教授
12	実験心理学と認知心理学の展開	パラダイム・シフト。意識心理学から行動心理学へ。行動心理学から認知心理学へ。認知革命。新たな心の科学。行動論の内部での変化。認知心理学への道程から、新たな心の科学（認知科学）へ。 【キーワード】 認知（心的）過程を構成する機能実体。情報の流れと処理系。	西川泰夫・上智大学・名誉教授	西川泰夫・上智大学・名誉教授
13	20世紀心理学史における論争	バート。福来友吉。古川竹二。念写・透視。血液型と性格。 【キーワード】 科学的説明と理解とは。見えないものを見る。	サトウ・タツヤ・立命館大学・教授	サトウ・タツヤ・立命館大学・教授
14	女性心理学者の位置	日本の教育制度と女性に対する高等教育。アメリカ留学。アメリカにおける女性心理学者第一世代：コールキンズ・ラッド＝フランクリン・ウオッシュバーン。日本における女性心理学者第一世代：原口鶴子・高良とみ・実生すぎ・久保艶子。 【キーワード】 日米における女性心理学者の登場。大学制度と学位規定。	高砂美樹・東京国際大学・教授	高砂美樹・東京国際大学・教授
15	心理学史の意義と課題	心理学史の意義と方法論。資料保存・アーカイヴ。アメリカ心理学史アーカイヴ。古典的実験機器の動態保存と維持管理。心理学史の教育における展望と課題。大学院教育のあり方。心理学史を学ぶことへのメッセージ。 【キーワード】 心理学史の方法論。心理学史アーカイヴ。心理学史の教育。	高砂美樹・東京国際大学・教授	高砂美樹・東京国際大学・教授

事務局記載欄	開講年度	２０１１年度	科目区分	専門科目	科目コード	1528319	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 心理統計法 （’１１）＝ （ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：大澤　光（京都橘大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：神宮　英夫（金沢工業大学教授）〕
【本学担当専任教員：森　津太子（放送大学准教授）】

講義概要

心理学とその関連領域の対象を、数量的に把握し、そのデータを統計分析して、目的とする意味ある情報を得るための統計法の基本的な考え方と方法を、数式、例題、図などによって、できるだけ分かりやすく、また、Excelなどの分析ツールを利用して、実際に使えるように説明する。

授業の目標

全15回の授業を通じて、心理学とその関連領域における統計法の基本的な考え方と方法を理解すること、また、具体的な問題に対して、その目的に沿って問題を分析し、その数量的な把握と統計的な検討から適切な解決を導く基礎的な力を身につけること、さらに、より高度な統計法の学習への橋渡しとなることが目標である。

履修上の留意点

講師は、放送授業の受講の前に印刷教材を予習すること、全15回の放送授業を受講すること、放送授業で指示されたすべての演習問題に誠実に取り組むこと、不明の点は書籍・文献・ネット情報などによって自分の力で努力をすることを期待している。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	心理統計法入門 ～得たデータから必要な情報を得る～	「統計法」は、目的に応じて観察（収集）したデータから必要な情報を得るための方法（技術）である。一般に、データには、対象に応じて、社会的データと心理的データなどがあり、また、データのとり方に応じて、質的なデータと量的なデータがあり、それぞれに異なった性質があり、異なった扱いが必要になる。「統計法」は、目的に応じて得られたデータの性質・特徴を記述する「記述統計」と、得られたデータを基に仮説を検定しあるいは結果を推定する「推測統計」の2つに大別され、それぞれに対応した方法が開発されている。ゲストの西川先生には「心理統計法」の狙いや考え方などを紹介していただく。 【キーワード】 データと情報、質的変数と量的変数、スティーブンスの4つの尺度、社会データと心理データなど、記述統計と推測統計、心理統計法	大澤光（京都橘大学教授）	大澤光（京都橘大学教授） 西川泰夫（放送大学教授）
2	度数分布とその特徴 ～分布の特徴を捉える～	質的あるいは量的データの「度数分布図」（ヒストグラム）を描き、その形状や構成などを観察することで、分布の性質や特徴あるいはデータの均質性や外れ値の存在などを簡単につかむことができる。異質なデータが混じっている場合は、「層別」によって、均質なデータに分離することができる。 【キーワード】 度数分布図（ヒストグラム）、外れ値、単峰分布と二峰分布、層別、シンプソンのパラドックス、パレート図	大澤光（京都橘大学教授）	大澤光（京都橘大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
3	代表値とバラツキ ～分布の特徴を記述する～	データの分布の特徴は、代表値とバラツキ具合などによって表される。代表値には、平均値、中央値、流行（最頻）値、最大値、最小値、四分位数、パーセント値などがあり、バラツキ具合には、範囲、四分位範囲、平均偏差、標準偏差／分散などがある。 【キーワード】 平均値、中央値、流行(最頻)値、四分位数、平均偏差、標準偏差、四分位偏差、一様分布、正規分布	大澤光(京都橘大学教授)	大澤光(京都橘大学教授)
4	母集団と標本と確率 ～部分と全体の関係を知る～	通常、調査は、対象とする母集団から標本を無作為抽出して行う。したがって、標本は、常には母集団と同じではなく、偶然によって決まる部分がある。偶然は確率によって扱うことができ、確率論によって、標本の分布を扱うことができる。 【キーワード】 確率変数、確率分布、母集団と標本抽出、大数の法則、中心極限定理、正規分布	大澤光(京都橘大学教授)	大澤光(京都橘大学教授)
5	統計的推定と検定 (1)	心理統計では、様々な分析方法が用いられているが、そのほとんどが統計的仮説検定の考え方に基づいている。ここでは、推測統計における仮説検定の考え方と具体的手順について概説しながら、帰無仮説と対立仮説など基本的概念について理解を深めていく。 【キーワード】 帰無仮説と対立仮説、片側検定と両側検定、有意水準と棄却域、第1種の過誤と第2種の過誤	池田浩（福岡大学講師）	池田浩（福岡大学講師）
6	統計的推定と検定 (2)	心理統計で最も基本的な分析は平均値の比較である。これを検定する方法としてt検定を取り上げ、その分析方法について概説する。さらに、質的データを扱うノンパラメトリック検定についても紹介し、主に順位尺度のデータを用いた分析方法を紹介する。 【キーワード】 t検定、対応標本、独立標本、ウィルコクソン検定、フリードマンの検定	池田浩（福岡大学講師）	池田浩（福岡大学講師）
7	相関関係(1) ～2つの変数の関係を分析する～	2つの変数の関係は「相関」と呼ばれる方法で分析できる。具体的には、散布図を描いて2つの変数の共変関係を見極め、異質なデータが混じっている場合は、層別によって均質なデータに分離し、相関係数を計算する。順序尺度データに対する「順位相関係数」、比例尺度データに対する「ピアソンの積率相関係数」を説明する。 【キーワード】 散布図、層別、スピアマンの順位相関係数、ケンドールの順位相関係数、ピアソンの積率相関係数	大澤光（京都橘大学教授）	大澤光（京都橘大学教授）
8	相関関係(2) ～2つの変数の関係はどこまで信じてよいかなど～	「積率相関係数」の検定と推定を説明する。併せて、相関と因果の違い、擬似相関について説明する。また、名義尺度の2つのデータの間の関係に対する「クラメールの連関係数」などを説明する。 【キーワード】 相関係数の検定と推定、擬似相関、因果関係、クラメールの連関係数	大澤光（京都橘大学教授）	大澤光（京都橘大学教授） 藤原純一（ソルクシーズ特別顧問）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
9	質問紙法による調査	質問紙による調査は、「アンケート調査」に代表されるように手軽にデータを収集できる方法である。しかし、項目の内容や調査方法など配慮すべき点も多い。ここでは、質問紙法の概略を示しながら、特に留意すべき点として項目の作成方法、回答形式、調査方法について解説する。 【キーワード】 項目作成、内容妥当性、回答形式、サンプリング	池田浩（福岡大学講師）	池田浩（福岡大学講師）
10	分散分析（1） ～分散を分析して何を検定するのか～	分散を検定して多くの平均の違いを一度に検定するのが、分散分析である。実は、6回目で取り上げた平均の差の検定（t検定）と、意味的には同じ部類に入る。分散分析の基本となる「1要因の分散分析」を解説し、この検定の基本的な考え方を説明する。 【キーワード】 F検定、要因と水準、多重比較、平方和	神宮英夫（金沢工業学教授）	神宮英夫（金沢工業学教授）
11	分散分析（2） ～複雑な実験計画に対応して～	心理学の実験対象では、人が常に関わっているので、複雑な要因が絡み合っている場合が多々ある。これらの要因を整理して、実験を計画して、これに対応する分散分析が行なえるように、多様な分散分析を紹介する。主に、Excelの分析ツールで計算できるものを中心に解説する。 【キーワード】 2要因の分散分析、釣り合い型、混合モデル、交互作用	神宮英夫（金沢工業学教授）	神宮英夫（金沢工業学教授）
12	回帰分析（1） ～結果に直線を当てはめるのはなぜ～	7・8回目で取り上げた相関係数と回帰分析との関係を解説し、両者の違いを理解できるようにする。回帰分析を行うための最小2乗法を解説する。この分析を行うことの意味や利点について、実例を紹介しながら、解説する。 【キーワード】 回帰係数、最小2乗法、相関係数、独立変数、従属変数	神宮英夫（金沢工業学教授）	神宮英夫（金沢工業学教授）
13	回帰分析（2） ～本当に当てはまっているのか～	回帰分析によって結果に直線を当てはめるが、当然その当てはまりの程度が問題となる。決定係数や分散分析など、当てはまりを議論するための指標を解説し、これらの適切な使い方を理解する。また、10・11回目の分散分析との関係についても説明する。 【キーワード】 決定係数、分散分析、標準誤差	神宮英夫（金沢工業学教授）	神宮英夫（金沢工業学教授）
14	多変量解析のすすめ	複雑な要因が絡み合っている心理学の研究で、これらの絡み合いを解きほぐす手法が多変量解析である。この手法の全体像を概観して、複雑性を解明する試みを知能や性格や実験事例などの実例を交えて解説する。 【キーワード】 重回帰分析、主成分分析、因子分析、相関係数、偏相関係数	神宮英夫（金沢工業学教授）	神宮英夫（金沢工業学教授）
15	まとめ ～心理学での実践的統計使用法～	実験を例にして、実際に統計で結果を分析するときに気をつける点や考えておくべき点など、実践的な統計の使用法を解説し、今後実際に使って心理学研究を行うための力を身に付けることを目指す。 【キーワード】 実験、仮説、統計結果の書き方	神宮英夫（金沢工業学教授）	神宮英夫（金沢工業学教授）

事務局記載欄	開講年度	２０１１年度	科目区分	専門科目	科目コード	1528416	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　比較行動学　　（’１１）＝　（R）

－ヒト観の再構築－

〔主任講師（現職名）：藤田　和生（京都大学大学院教授）　〕

【本学担当専任教員：森　津太子（放送大学准教授）　】

講義概要

ヒト以外の動物の学習と認知や知性について、最新の知見を織り交ぜて講義する。まず学習の一般的原理を解説した後、そうした一般原理では理解することの難しい学習の諸現象を生物学的視点から意味づける。次いで、多様な動物の種々の認知機能を、比較的単純な情報処理過程から他者の心の理解に至るまで、紹介する。模倣などの社会的学習、チンパンジーの知性、イヌの知性、赤ちゃんの知性をトピックとして取り上げた後、意識や内省といった、動物たち自身の心的状態の認識に関する最新の研究を紹介する。最後にこれらの諸事実をもとに、ヒトとは何かを招へい講師とともに討論会形式で考える。

授業の目標

ヒトは動物界において特別な存在だと考えられてきた。道具を使う、道具を作る、言葉を話す、文化を持つ、これらはいずれもある時代のヒトの「定義」だった。しかし、ヒト以外の動物の研究が進むにつれて、これらはいずれも動物にも存在することが実証され、ヒトの定義はそのたびに作り替えられてきたのである。いまや最後の砦とも思われる意識や内省なども、動物にその萌芽が見られることが明らかにされた。こうした諸事実を前にして、我々はヒトという存在を動物界の中にいかに位置づけるのかを考え直さなければならない。本講義では、最新の研究成果に基づいて、ヒトとは何かを考え、地球化時代の新たなヒト観を提示する。

履修上の留意点

特に前提とする知識は想定していないが、実験心理学の基礎的知識があれば、理解がより進むであろう。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	学習1－行動の分類と反射行動の変容原理	まず本科目の概要とねらいを簡単に述べる。次に学習の定義を述べた後、行動の分類と、反射行動に関する最も基礎的な学習の原理を、刺激の単独提示で生じる非連合学習（馴化と鋭敏化）と、連合学習（古典的条件づけ）に分けて解説する。 【キーワード】 反射行動、馴化、鋭敏化、非連合学習、連合学習、古典的条件づけ、条件反射	藤田和生（京都大学文学研究科・教授）	藤田和生（京都大学文学研究科・教授）
2	学習2－オペラント条件づけと強化スケジュール	認知や知性により関連の深い随意的行動の変容原理であるオペラント条件づけと、オペラント条件づけされた反応の生起パターンを特徴的に制御する強化スケジュールの効果を解説する。 【キーワード】 随意的行動、オペラント条件づけ、強化、罰、強化スケジュール	藤田和生（京都大学文学研究科・教授）	藤田和生（京都大学文学研究科・教授）
3	学習3－学習の生物学	前2講で述べる一般的原理だけでは説明の難しい学習の諸現象を紹介し、学習の生物学的意義について解説する。 【キーワード】 学習の生物学的制約、選択的連合、プログラム学習、適応、進化	藤田和生（京都大学文学研究科・教授）	藤田和生（京都大学文学研究科・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	認知1－動物たちの色の知覚	2講にわたり、動物たちの基礎的な環境認識について概説する。第4講では色の知覚を取り上げる。まず色はなぜ見えるのかを簡単に解説した後、多様な系統群の動物種の色覚を比較し、色覚の進化史を述べるとともに、ヒトの色覚の特徴を明らかにする。 【キーワード】 色彩視、色光、視物質、桿体、錐体、3色型色覚	藤田和生（京都大学文学研究科・教授）	藤田和生（京都大学文学研究科・教授）
5	認知2－動物たちの形の知覚	基礎的環境認識の中から形の知覚を取り上げる。多様な動物が形をどのように見分けているかを解説し、錯視や形情報の処理に見られる種差を述べ、ヒトの形知覚の特徴を明らかにする。 【キーワード】 形態視、図形知覚、錯視、知覚的補間、全体・部分優位性	藤田和生（京都大学文学研究科・教授）	藤田和生（京都大学文学研究科・教授）
6	認知3－動物たちの記憶	ヒトの記憶系の動作とそのモデルを簡単に解説した後、諸動物の記憶に関する多様な実証的研究を紹介し、その特徴について述べる。また種特異的に発達した記憶についても解説する。 【キーワード】 記憶、長期記憶、短期記憶、作業記憶、干渉、符号化、貯食	藤田和生（京都大学文学研究科・教授）	藤田和生（京都大学文学研究科・教授）
7	認知4－動物たちのコミュニケーション	ヒトの最も重要なコミュニケーション手段である言語の特徴を簡単に述べた後、諸動物の多様なコミュニケーションのありさまや動物に対する言語訓練の成果を紹介し、ヒトの言語との類似点や相違点を明らかにする。 【キーワード】 言語、コミュニケーション、生得的解発機構、象徴性、手話、言語習得実験	藤田和生（京都大学文学研究科・教授）	藤田和生（京都大学文学研究科・教授）
8	認知5－動物たちの思考	思考の意義と比較認知研究における思考のとらえ方を簡単に述べた後、種々の動物たちの概念の形成や思考過程に関する実証的な研究を紹介し、ヒトの思考との連続性や相違点を明らかにする。 【キーワード】 思考、概念、推論、演繹、帰納	藤田和生（京都大学文学研究科・教授）	藤田和生（京都大学文学研究科・教授）
9	認知6－動物たちの社会的知性	近年、ヒト以外の動物も、他者を欺いたり出し抜いたり、あるいは他者と協力したりすることが示されている。また簡単な他者の心的状態の読み取りも可能であることが示されている。本講では、諸動物のそうした社会的知性と呼ばれる心の働きを概説する。 【キーワード】 社会的知性、心の理論、欺き、協力、読心、共感、思いやり	藤田和生（京都大学文学研究科・教授）	藤田和生（京都大学文学研究科・教授）
10	トピック1－社会的学習	ヒトの文化は、ヒト特有の社会的学習のメカニズム、とくに模倣を基盤とした学習能力によって成立してきたと考えられている。ヒト特有の模倣能力とはどのような性質をもつのか、進化史的にどのような適応的意義があったのか、ヒト以外の霊長類との比較を通してこれらの問題について考えてみたい。 【キーワード】 文化、チンパンジー、身体模倣、意図理解、社会的促進、刺激強調	明和政子（京都大学教育学研究科・准教授）	明和政子（京都大学教育学研究科・准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	トピック2－チンパンジーの知性	ヒトに最も近縁な動物であるチンパンジーの知性について、言語研究や道具使用の学習、社会的知性など最新の研究トピックをまじえて紹介し、ヒトとの比較のうえで考察する。 【キーワード】 チンパンジー、言語、道具使用、社会的知性	平田聡（（株）林原生物化学研究所類人猿研究センター 心理行動学研究部・研究員）	平田聡（（株）林原生物化学研究所類人猿研究センター 心理行動学研究部・研究員）
12	トピック3－イヌの知性	最古の家畜であり、ヒトの最良の友とも言われるイヌの知性に関する最新の研究を紹介し、イヌの心の深い理解に基づくより良いヒトとイヌの関係を考える。 【キーワード】 イヌ、社会的認知、社会的知性、家畜化、オオカミ	藤田和生（京都大学文学研究科・教授）	藤田和生（京都大学文学研究科・教授）
13	トピック4－赤ちゃんの知性	赤ちゃんは従来考えられてきた以上に豊かな世界に生きていることが、近年の実験的研究によって明らかになってきた。赤ちゃんの知的な振る舞いを、特に対人関係を中心に据えて紹介する。 【キーワード】 赤ちゃん、社会的認知、社会的知性、目標帰属、意図理解	板倉昭二（京都大学文学研究科・准教授）	板倉昭二（京都大学文学研究科・准教授）
14	認知7－動物たちの意識と内省	心の内部で生じている事象に対する動物たちの認知について、最新の資料に基づき解説する。メタ認知とエピソード記憶に関する研究を紹介する。 【キーワード】 意識、内省、メタ認知、エピソード記憶、心的時間旅行	藤田和生（京都大学文学研究科・教授）	藤田和生（京都大学文学研究科・教授）
15	討論－ヒトとは何か	本講義のまとめとして、4人の講師が、それぞれの立場からヒトとは何か、これから明らかにすべき課題は何か、等について論じ合う。最後に主任講師が、それらをまとめる。 【キーワード】 ヒト、動物、進化、心、知性、感情	藤田和生（京都大学文学研究科・教授）	藤田和生（京大文・教授） 板倉昭二（京大文・准教授） 明和政子（京大教育・准教授） 平田聡（林原類人猿センター・研究員）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度（第2学期）	科目区分	専門科目	科目コード	1521209	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 心の健康と病理 （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：齋藤　高雅（放送大学教授）〕

講義概要

この講義では、心の健康と病理について、その基本的な概念と成り立ちに関する基礎知識と考え方について学習する。心の健康とは何かを知るためには、それが損なわれた状態、心の病いについて知ることが大切であり、翻って、健康な人間のもつ心の特性とその問題性が浮き彫りにできるものと考える。

授業の目標

生きていく上で心の健康は大切である。成長、発達につれ、社会生活上、さまざまな問題や障害が生じる。これらの問題解決に向けて、講義を通じて、心の健康と病気の意味について考えることを目標としたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	心の健康と病理について	心の健康と病理についての考え方、心の異常と正常、心が病むとはどういうことかを考える。 【キーワード】 心の健康、心の病理、正常と異常、疾病概念、精神保健（メンタルヘルス）	齋藤　高雅（放送大学教授）	齋藤　高雅（放送大学教授）
2	心のとらえ方への視座－発達論的理解と生活論的理解	人間の存在は、生物学的、心理学的、社会学的存在として捉えられる。人の一生をたどると、時間軸を中心とした発達論的視点と空間軸を中心とした生活論的視点から心の健康問題を捉えることができる。 【キーワード】 心のとらえ方、発達論的理解、生活論的理解	齋藤　高雅（放送大学教授）	齋藤　高雅（放送大学教授）
3	乳幼児期・児童期の心の健康と病理	乳幼児期・児童期に生じやすい心の健康問題とその病理、およびその対策について述べる。 【キーワード】 愛着性障害、ADHD、神経性習癖	上別府　圭子（東京大学大学院医学系研究科家族看護学分野准教授）	上別府　圭子（東京大学大学院医学系研究科家族看護学分野准教授）
4	思春期・青年期の心の健康と病理	思春期、青年期に生じやすい心の健康問題とその病理、およびその対策について述べる。 【キーワード】 思春期、青年期、発達課題、不登校	早川　東作（東京農工大学保健管理センター教授）	早川　東作（東京農工大学保健管理センター教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	高齢期の心の健康と病理	認知症とうつを中心に、高齢者に生じやすい心の健康問題とそれに対する実践的な対応を講義する。特に、認知症を抱えてなお残る心の正常性を踏まえた介護の仕方についても検討を加える。 【キーワード】 認知症、うつ、自殺	高橋　正雄（筑波大学大学院 障害科学系教授 ）	高橋　正雄（筑波大学大学院 障害科学系教授 ）
6	女性の心の健康と病理	現代の女性における心の健康と病理について述べる。思春期の摂食障害、周産期の産後うつ病、更年期の障害など女性のライフサイクルに沿って健康問題を考える。 【キーワード】 摂食障害、産後うつ病	上別府　圭子（東京大学大学院医学系研究科家族看護学分野准教授 ）	上別府　圭子（東京大学大学院医学系研究科家族看護学分野准教授 ）
7	家族の心の健康と病理	家族ライフサイクルの考え方を学習した上で、各段階で家族に課せられる課題や、課題につまずいた場合の家族の病理とその対応について、事例を通じて学習する。また家族の心の病理の一例として、社会問題にもなっているドメスティック・バイオレンスについて学習する。 【キーワード】 家族ライフサイクル、世代間伝達、ドメスティック・バイオレンス	上別府　圭子（東京大学大学院医学系研究科家族看護学分野准教授 ）	上別府　圭子（東京大学大学院医学系研究科家族看護学分野准教授 ）
8	学校におけるメンタルヘルス	学校教育が子どもや教師のこころに適合できなくなってきたと言われている。学級崩壊、不登校、ひきこもり、非行、子どもの自殺、教師のうつ病など枚挙にいとまがない。一方、学校メンタルヘルス向上の様々な取り組みも試みられている。学校という場でこれらの問題を考えることで心の健康と病理を考えていきたい。 【キーワード】 学校メンタルヘルス、生徒のストレス、教師のメンタルヘルス	早川　東作（東京農工大学保健管理センター教授）	早川　東作（東京農工大学保健管理センター教授）
9	働く人の心の健康と病理－職場の精神保健	過労死、うつ病など、今日、働く人の心の健康問題が大きくとりあげられるようになってきている。また、休職者においても身体問題以上に心の健康問題の比重が増えてきている。これらの問題についてその対策を考えてみたい。 【キーワード】 職場の精神保健	川上　憲人（東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野教授）	川上　憲人（東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野教授）
10	地域における心の病－うつ病・自殺を中心に	地域における心の病（精神障害）の例としてうつ病をとりあげ、医学的視点から原因と対策について述べる。また、自殺をめぐる基本的な問題について概説する。 【キーワード】 地域精神保健、うつ病、自殺	川上　憲人（東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野教授）	川上　憲人（東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	病みながら生きるという生き方	「病みながら生きる存在としての人間」と「人間的な成長をもたらすものとしての病い」という概念を中心に、天才と呼ばれる人々の生き方や闘病記の記述に基づいて、病いを抱えて生きる人々の生き方や人生において病むことの意味、病いと創造性の関連などを検討する。 【キーワード】 病跡学、障害受容、創造性	高橋 正雄（筑波大学大学院 障害科学系教授 ）	高橋 正雄（筑波大学大学院 障害科学系教授 ）
12	人格の病理、パーソナリティの理解	その人のひととなりがその個人もしくはそれをともなう人たちに破壊的影響をもたらすとき、パーソナリティの病理が問題となる。そのなりたち、その概念の臨床的な意義について検討する。 【キーワード】 パーソナリティ、パーソナリティ障害	藤山 直樹（上智大学総合人間科学部心理学科教授）	藤山 直樹（上智大学総合人間科学部心理学科教授）
13	心の外傷と心の病理	内的な世界と外的な世界の交錯がひとのこころをかたちづくる。それは病理的な現象も同じである。人間が持って生まれた生得的なものとこころがこうむったさまざまの環境からの外傷的影響との相互作用で精神病理が生まれてくるのである。単純で浅い心因論を超えたところで、そうしたことを考えてみたい。 【キーワード】 心的外傷、病因論、環境と素因、PTSD	藤山 直樹（上智大学総合人間科学部心理学科教授）	藤山 直樹（上智大学総合人間科学部心理学科教授）
14	文学にみる老いと病い	「ブレーメンの音楽隊」や「ドン・キホーテ」などの文学的な作品を中心に、そこに描かれた高齢者や病者、障害者の生き方並びに周囲の対応を検討するとともに、人生における「障害」受容のあり方や「病みながら生きる者への畏敬」という概念についても考える。 【キーワード】 病跡学、障害受容、精神障害	高橋 正雄（筑波大学大学院 障害科学系教授 ）	高橋 正雄（筑波大学大学院 障害科学系教授 ）
15	現代社会の病理との関係をめぐって－まとめにかえて	犯罪・非行などは社会病理ともいわれ、時代状況を写す鏡でもある。人の心の問題と病理を考えるにあたり、社会との関わりを抜きに論ずることは不可能である。まとめにあたり、これらの問題について考えてみたい。 【キーワード】 社会病理現象、犯罪・非行、時代による病像の変遷	齋藤 高雅（放送大学教授）	齋藤 高雅（放送大学教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度（第2学期）	科目区分	専門科目	科目コード	1521004	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 保育カウンセリング （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：滝口　俊子（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：山口　義枝（放送大学准教授）〕

講義概要

昨今、幼児の心身の問題に親も保育者も戸惑うことが多く、保育場面へのカウンセラーの配置が求められています。すでに大阪府私立幼稚園のキンダーカウンセラー、日野市の保育カウンセラーなどが活動しています。本講座では、保育カウンセリングの基本的知識と活動の実際を紹介します。

授業の目標

カウンセリングを学ぶためには、さまざまな学習を必要としますが、本講座では保育カウンセリングの理解に必要な情報を提供します。職業として保育カウンセリングに従事したいと望む方は、大学院において心理臨床学の全貌を学ぶことが必要です。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	保育カウンセリングとは	保育の場におけるカウンセリング活動を理解し、関係者（保護者・保育者・保育カウンセラー）の連携について考える。 【キーワード】 保育カウンセリング　保育カンファレンス、子どもの成長　保護者の子育て支援　保育者への支援　関係者の連携　関係性	滝口　俊子（放送大学教授）	滝口　俊子（放送大学教授）
2	今日の幼児教育	篠原孝子氏（国立教育政策研究所教育課程研究センター教育開発部教育課程調査官・文部科学省初等教育局幼児教育課教科調査官）をゲストに迎え、幼児教育に関する最新の情報を知り、幼児教育についての理解を深める。 【キーワード】 我が国の幼児教育　幼稚園教育要領　認定子ども園	同上	同上
3	日野市の取り組み	東京都日野市の保育カウンセラー事業を推進された渡邊明子氏（日野市立第5幼稚園園長）のお話から、日野市の取り組みについて学ぶ。 【キーワード】 保育カウンセラー事業　保育カウンセリング	同上	同上
4	乳幼児期の発達、発育、身体疾患	保育カウンセリングに必要な乳幼児の発育や発達、よくみかける身体疾患、予防接種に関する、基本的な知識を習得する。 【キーワード】 発育　発達　よくみかける身体疾患　予防接種	平竹　晋也（梅花女子大学准教授）	平竹　晋也（梅花女子大学准教授）
5	いわゆる「軽度発達障害」をめぐって	保育カウンセリングに必要な、アスペルガー症候群や学習障害などいわゆる「軽度発達障害」と呼ばれる一連の障害に関する知識を学ぶ。 【キーワード】 軽度発達障害　アスペルガー症候群　注意欠陥多動性障害　学習障害　高機能自閉症	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
6	幼児理解 1 （乳幼児観察）	乳幼児観察とは、子どものもつ原始的心性や感情についての理解を深める方法の一つである。乳幼児観察を通して、乳幼児のコミュニケーションの特徴を理解する。 【キーワード】 乳幼児観察　心理療法家としての訓練　非言語的交流　原始的心性	山口　義枝 （放送大学准教授）	山口　義枝 （放送大学准教授）
7	幼児理解 2 （幼児の遊戯療法）	遊戯療法とは、遊びを使って交流する心理療法の一種である。幼児の遊戯療法を理解し、心理的援助について考える。 【キーワード】 心理療法　発達の視点　遊びの治癒力	同上	同上
8	幼児理解 3 （保育の場における幼児）	保育の場における子どもを理解し、特別支援を必要とする子どもの対応についても学ぶ。 【キーワード】 保育場面　気になる行動　幼児理解	坂上　頼子 （日野市保育カウンセラー）	坂上　頼子 （日野市保育カウンセラー）
9	保護者との関わり	東京都日野市では保護者への多様な子育て支援が行われているが、そのひとつである保育カウンセリングにおける保護者との関わりについて学ぶ。 【キーワード】 個別相談　子育て懇談会　講演会　送迎時の関わり	同上	同上
10	保護者会の持ち方	保護者同士がつながり、共に学べる場として、「参加してよかった」と楽しみにできるような、保護者会のあり方について考える。 【キーワード】 出会いのワーク　共に成長する場	同上	同上
11	外部機関との連携	保育カウンセラー事業における外部機関との連携に関する現状と、今後の課題について考える。 【キーワード】 連携　子育て支援　発達支援　社会的支援　ネットワークづくり	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	保育現場の責任者との協働	渡邊明子氏（日野市立第5幼稚園園長）のお話をもとに、保育者と保育カウンセラーとの連携について考える。 【キーワード】 保育とカウンセリング　保育者と保育カウンセラーとの協働	滝口　俊子（放送大学教授）	滝口　俊子（放送大学教授）
13	保育臨床フィールドワーク	長年にわたって、保育相談活動に携わってこられた大場幸夫氏（大妻女子大学学長・教授）のお話を通して、保育臨床フィールドワークについて理解する。 【キーワード】 保育臨床フィールドワーク　保育者支援、保育相談、巡回相談	同上	同上
14	外国の保育カウンセリング	カナダで子育て支援を学んでこられた三林真弓氏（京都文教大学准教授）のお話から、外国の保育カウンセリングについて学び、保育カウンセラーの研修についても考える。 【キーワード】 カナダの状況　外国の保育カウンセリング	同上	同上
15	保育カウンセリングの展望	これまで学んできた基本的な知識をもとに、最終回では、保育カウンセリングの理解を深め、保育カウンセリングのさらなる課題について考える。 【キーワード】 保育カウンセラーの資質　保育カウンセリングの発展に向けて	滝口　俊子（放送大学教授） 山口　義枝（放送大学准教授）	滝口　俊子（放送大学教授） 山口　義枝（放送大学准教授）

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1521403	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 思春期・青年期の心理臨床 （’０９）＝ （R）

〔主任講師（現職名）： 佐藤仁美 放送大学准教授 〕

〔主任講師（現職名）： 西村喜文 西九州大学大学院教授 〕

講義概要

思春期・青年期について、発達的側面・医学（病理）的側面などから捉え、その対応について概説する。大きく分けて、家庭・学校・社会のなかでの若者の姿を多角度からアプローチしていく。

授業の目標

思春期・青年期について、発達的側面、医学（病理）的側面などから理解につとめる。家庭・学校・社会において、思春期・青年期年代の特徴を内面と外面から理解すること。

履修上の留意点

関連科目として、「心の健康と病理」「心理臨床の基礎」「心理カウンセリング序説」「スクールカウンセリング」「乳幼児・児童の心理臨床」をあわせて履修することをすすめる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	思春期・青年期を生きる －思春期・青年期の課題－	思春期・青年期を心と体の両側面から捉え、大人と子どもの境目にあるこの時期であるからこそ、生きている楽しみと、生きにくさに迫っていく。 【キーワード】 思春期・青年期・アイデンティティ・自己との出会い	佐藤 仁美（放送大学准教授）	佐藤 仁美（放送大学准教授）
2	思春期を生きる子どもたち	児童期後期より、親との距離をおき始め、親に向けられていた愛着がしだいに自分自身に向けられてくる。このように自意識（自分への関心）が高まる中、子どもたちは、それぞれの空間をどのように生きているのか学校（社会）、家庭での臨床像とその対応について考える。 【キーワード】 現代の子どもの姿　不適応行動　こころの理解と支援	西村 喜文（西九州大学大学院教授）	西村 喜文（西九州大学大学院教授）
3	青年期をいかに過ごすか	現代の高校生・大学生がおかれている社会的環境を視野に入れながら親からの分離、対人関係の問題等、子どもから大人への移行期における自我形成について考えていく。 【キーワード】 移行期　自分探し　対人援助	西村 喜文（西九州大学大学院教授）	西村 喜文（西九州大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	軽度発達障害	学校現場において、心身に障害を持つ子どもの教育が「特殊教育」から「特別支援教育」へと変わり、子どものニーズにあった支援が求められている。ここでは、中学、高校における軽度発達障害の現状とその対応について考えていく。 【キーワード】 軽度発達障害　特別支援教育　学校の現状　家族支援	西村　喜文（西九州大学大学院教授）	西村　喜文（西九州大学大学院教授）
5	学校コミュニティと心理臨床	学校現場において、事件、事故、被害など学校コミュニティの危機が問題となり、緊急支援の必要性が問われている。ここでは、学校コミュニティと心理臨床について考えていく。 【キーワード】 学校コミュニティ　緊急支援　危機介入　心のケア	西村　喜文（西九州大学大学院教授）	西村　喜文（西九州大学大学院教授）
6	異文化体験の中での思春期・青年期	自文化の中でも難しい思春期・青年期を、異文化を体験することの特徴をプラス・マイナス両視点から考える。 【キーワード】 異文化体験　文化的アイデンティティ　帰国子女	手塚千鶴子（慶応義塾大学日本語・日本文化センター教授）	手塚千鶴子（慶応義塾大学日本語・日本文化センター教授）
7	思春期・青年期の問題行動と課題　(1)－非行臨床・外に発散されるエネルギー－	なぜ飛び出してしまうのか？　自分でもてあましてしまうもの・あふれ出る爆発的なエネルギーと、その発散方法、そして、収束に向かう時とは？　非行臨床における少年たちの特徴と、彼・彼女たちとの付き合い方などを探求する。 ＊　ゲスト：田高誠（徳島家庭裁判所調査官） 【キーワード】 非行・つまづき・居場所・攻撃性	佐藤　仁美（放送大学准教授）	佐藤　仁美（放送大学准教授）
8	思春期・青年期の問題行動と課題　(2)思春期心性と行動	なぜ、内側に向かってしまうのか？自分でもてあましてしまうもの・繊細な心のひだにアプローチする。主に不登校、ひきこもりの問題をとおして、この時期特有の内側に向かう心を探求する。 【キーワード】 不登校・引きこもり・思春期内閉	北原知典（こどもの城小児保健部　臨床心理士）	北原知典（こどもの城小児保健部　臨床心理士）
9	ボディイメージと病理(1)	この時期特有の自己意識・ボディイメージから病理にかかわる全般について、歴史的見地も踏まえアプローチし、いくつかの精神疾患も取り上げ概説する。 【キーワード】 身体言語・思春期危機・疾病利得	佐藤　仁美（放送大学准教授）	佐藤　仁美（放送大学准教授）
10	ボディイメージと病理(2)	思春期・青年期の心と身体の問題の中でも身体で表現するものとして，摂食障害・自傷行為を中心に取り上げ，それらと関係している境界性パーソナリティ障害についても触れてみる。 ＊ゲスト：川瀬公美子（メンタルサポートオフィスひといき臨床心理士） 【キーワード】 摂食障害・自傷・自殺	大前玲子（大阪大学助教）	大前玲子（大阪大学助教）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	思春期・青年期の心理療法（1） 総論と芸術療法・認知療法を中心に	ちょっとした工夫が必要とされる思春期・青年期の心理療法を取り上げる。一つは，イメージを使った芸術療法としての箱庭療法・コラージュ療法ともう一つは，現実志向で歪んだものの見方・考え方を修正することを目指す認知行動療法という大きく志向の違う心理療法を紹介する。 ＊ゲスト：川瀬公美子（メンタルサポートオフィスひといき臨床心理士） 【キーワード】 芸術療法・認知療法・箱庭療法	大前玲子（大阪大学助教）	大前玲子（大阪大学助教）
12	思春期・青年期の心理療法（2） 遊戯療法的要素について	思春期・青年期の心の理解と付き合い方について、遊戯療法的な視点から考察し、「遊び」という表現方法の可能性について探求する。 【キーワード】 遊戯療法，遊び，イメージ	北原知典（こどもの城小児保健部 臨床心理士）	北原知典（こどもの城小児保健部 臨床心理士）
13	思春期・青年期とのつき合い方（1）－メディアの利用と直接性・間接性－	移行現象・移行対象をキーワードに、現代若者たちのコミュニケーションの形について探る。また、コミュニケーションツールの使用・メリットとデメリットなども取り上げる。 【キーワード】 インターネット・バーチャル-リアリティ・移行対象・移行現象	佐藤 仁美（放送大学准教授）	佐藤 仁美（放送大学准教授）
14	思春期・青年期とのつき合い方（2） 性別と組み合わせの問題を中心に	思春期・青年期像を性別に眺めるとともに、クライエント－セラピストの同性・異性の組み合わせをさまざまな面から考える。 ＊ゲスト：北原知典（こどもの城小児保健部 臨床心理士） 田高誠（徳島家庭裁判所 調査官） 三輪小百合（関中央病院 臨床心理士） 鴨川由美江（滋賀県立精神保健福祉センター 臨床心理士） 【キーワード】 ジェンダー-アイデンティティ・獲得する・受け入れる	佐藤 仁美（放送大学准教授）	佐藤 仁美（放送大学准教授）
15	思春期・青年期を生きぬく	思春期・青年期をどう生き抜くか。思春期・青年期を生きる姿、親や先生をはじめとする大人の役割、そして協働をめざしての試みを語り、まとめとする。 【キーワード】 居場所・安心感・役割意識	佐藤 仁美（放送大学准教授）	佐藤仁美（放送大学准教授）・西村喜文（西九州大学大学院教授）・手塚千鶴子（慶応義塾大学日本語・日本文化センター教授）・大前玲子（大阪大学助教）・北原知典（こどもの城小児保健部 臨床心理士）

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目コード	1522310	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　心理カウンセリング序説　　（’０９）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：大場 登（放送大学教授）　　〕

講義概要

臨床心理学における「カウンセリング」について、もっとも基本的なことを検討する。現在の日本においては、カウンセリングという言葉は、「受容的に話を聞くこと」とか、ほとんど「ガイダンス」とか、「オリエンテーション」と言った意味で使われることも稀ではない。本講では、臨床心理学的な問題や症状を抱えた方々、すなわち、クライアントが自らの問題や課題と取りくむためにセラピスト（＝カウンセラー）の許を訪ねて開始される心理療法という意味での「心理カウンセリング」について系統的に学習する。

授業の目標

臨床心理学における「カウンセリング」、すなわち、「心理療法」というものは、長期間の専門的な研修を必要とするものであり、本学においても、大学院臨床心理プログラムでようやくその初期研修が行なわれることになる。それでも、学部の段階でも、一般心理学だけではなく、臨床心理学の基礎は身につけることが要請される。本講の印刷教材・放送授業両者と丹念に取り組んでいただければ、「臨床心理学におけるカウンセリング」のもっとも基礎的なことは理解することができるのではないだろうか？

履修上の留意点

「心理臨床の基礎（’08）」受講は前提である。異なる立場から制作された「精神分析入門（’07）」もぜひ受講していただき、比較検討していただきたい。なお、本講のアドヴァンスト・コースは大学院臨床心理プログラム開講の「臨床心理面接特論」となることも申し上げておきたい。いつか挑戦していただくことを期待したい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	セラピストと「聴く」こと －「受けとめる」こと	カウンセリングの最重要な営みは、クライアントが「語ること」にセラピスト（カウンセラー）が耳を傾けることである。つまり、「聴く」こと。「聴く」ということは、クライアントによって語られる苦痛や訴えをセラピストの心身でもって「受けとめる」ことと言えよう。 【キーワード】 セラピスト、聴くこと、受けとめること	大場 登（放送大学教授）	大場 登
2	クライアントと「語る」こと －「表現する」こと	セラピストの「耳を傾ける」姿勢に支えられて、クラアントは自身が抱えている困難やいわゆる症状、そして、自らについて「語る」こととなる。「語る」こと、「表現する」ことは、そのこと自体に深い意味と働きがある。 【キーワード】 クライアント、語ること、表現すること、	大場 登	大場 登
3	カウンセリングの「器」	カウンセリングのとても重要な特徴のひとつは、第1章・第2章で述べられた営みが、独特の「器」の中で行なわれるということである。この「器」によって守られているからこそ、カウンセリングは成立する。 【キーワード】 「器」、守り、治療構造	石本伸子（恵泉女学園大学准教授）	石本伸子
4	出会いと見立て	面接室でのはじめての出会い。あるいは、電話予約時点から既にして始まる出会い。クライアントもセラピストも、カウンセリングが可能であるか、カウンセリングが適切な営みであるか、この人とやってゆけるか、慎重に「見立て」が行なわれる。 【キーワード】 出会い、見立て、契約	森さち子（慶應義塾大学准教授）	森さち子

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	意識と無意識	カウンセリングには、様々の視点や立場、オリエンテーションがある。本講では、ロジャーズのクライアント・センタード・セラピーを尊重しながらも、人間の心には、意識されている領域の他に、深い無意識の領域が存在するとしたフロイトやユングの視点から学んでみることにしたい。 【キーワード】 意識、無意識、フロイト & ユング	石本伸子	石本伸子
6	クライアントとセラピストの「かかわり」	カウンセリングにおいては、クライアントの心の世界が次第次第に表現・展開されてゆくことになるが、この展開のプロセスは、あくまで「クライアントとセラピストの関係性」の中で生じることとなる。クライアントの意識と無意識、セラピストの意識と無意識、両者の深く、複雑なかかわりの中でカウンセリングは進行する。 【キーワード】 クライアントとセラピスト、関係性、転移 & 逆転移	森さち子	森さち子
7	セラピストの「読み」	カウンセリングにおいて、「耳を傾ける」ことは最重要なことではあるが、しかし、クライアントが抱えておられる問題やいわゆる症状が少し難しいものになるにしたがって、セラピスト側での「読み」がどうしても必要となってくる。しっかりと「耳を傾ける」ことができるためにこそ、「読み」が大切と言えよう。臨床心理学に関する、広範で、深い知識が必要となってくる所以（ゆえん）である。 【キーワード】 読み、仮説、カウンセリングと理論	大場 登	森さち子
8	「読み」と「問いかけ」「語りかけ」	前章で検討した「読み」に基づいて、セラピストは、必要に応じて、クライアントに「問いかけ」「語りかけ」をしてゆくこととなる。「問いかけ」に対するクライアントのレスポンスによっては、セラピストは自らの「読み」の微修正をしてゆく。クライアント側は、セラピストの「問いかけ」「語りかけ」によって、新たに、自らの問題・課題と取り組んでゆくことになるだろう。 【キーワード】 問いかけ、読みの修正、問題との取り組み	大場 登	森さち子
9	カウンセリングのプロセス	初回面接以降、カウンセリング終結まで、クライアントとセラピストの間で「変容のプロセス」が展開することになる。このプロセスは、「器」の中で進行するので、ちょうどレトルトの中で進行する化学的変容のプロセスに喩えることもできる。火加減やコルク栓の微調整には職人の「技」も必要である。只、「変容のプロセス」は自律的でもある。 【キーワード】 変容のプロセス、プロセスの自律性、プロセスとセラピスト	大場 登	大場 登
10	コンプレックス	第7章の「読み」にも通じるが、カウンセリングを行なうにあたっては、臨床心理学の幅広く、深い知識が不可欠である。カウンセリングにおいては、クライアントの心に渦巻くさまざまのコンプレックスと向き合うことになると表現することもできるだろう。臨床心理学において、コンプレックスとはどのようなものとして理解されているのか、本章ではその基本のあたりから検討してみることになる。 【キーワード】 コンプレックス、フロイト、ユング	石本伸子	石本伸子

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	家族	カウンセリングにおいて向き合うことになるテーマとして、「家族」というものは、もっとも頻度が高いもののひとつと言えよう。必ずしも、母親コンプレックス、父親コンプレックス、カイン・コンプレックス、エディプス・コンプレックスといった表現をとらないとしても、「家族」がテーマになることは実に多い。 【キーワード】 家族、母親コンプレックス、父親コンプレックス	石本伸子	石本伸子
12	性	フロイトが人間の心における「性」の重要性を指摘して以来、既に1世紀になるが、現代においても、「性」が人間にとって扱いの困難なコンプレックスのひとつであること、そして、人間にとって最重要なテーマのひとつであることにまったく変わりはない。それぞれの個人にとって、「性」、そして、自らのセクシュアリティとどのように向き合うことになるのか、カウンセリングにおける永遠のテーマのひとつと言えよう。 【キーワード】 性、エロス、セクシュアリティ	森さち子	大場 登
13	力・権力・権威	人間にとって、「力・権力・権威」というものもまた永遠のテーマのひとつと表現できよう。フロイトが「性」に強い関心を向けたように、アドラーは「力・権力」の問題を取りあげた。只、アドラー心理学ならずとも、権威・権力コンプレックスもまた、カウンセリングにおいて登場する最重要なテーマのひとつである。もちろん、「父」と「息子」の間に限らず、そして、「男」と「男」の間に限らず、「女性」と「女性」との間においても、当然のことであるが、「力・権力」をめぐって、人間は古来、苦闘を続けている。 【キーワード】 力、権力、パワー	大場 登	大場 登
14	死	「性」や「力・権力」が、人間にとって、そして、「カウンセリング」にとって、最重要なテーマであるのとまったく同様に、「死」というものもまた、人間にとって、カウンセリングにとって、最重要テーマのひとつと言えよう。フロイトもユングも「死」と集中的に取り組んできたし、そして、カウンセリングの実際においても、「死」は常に私たち人間が「向き合う」ことを要請する。 【キーワード】 死、喪、彼岸	森さち子	大場 登
15	別れ	カウンセリングは、やがて終結を迎え、かつて出会ったクライアントとセラピストは、「別れ」を経験することになる。そして、「別れ」「分離」もまた、人間にとって、実に困難にして、永遠のテーマと表現できるであろう。個人的な「別れ」。親やパートナー、師との「別れ」。時代や役割、思想・信条、ある生き方との別れ。意識と無意識の「分離」…。 【キーワード】 別れ、分離、終結	大場 登	大場 登 石本伸子 森さち子

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	専門科目	科目コード	1621360	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　スクールカウンセリング　　（’１０）＝　（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：滝口　俊子（放送大学教授）　　〕

講義概要

児童生徒の発達の援助と、保護者の支援、先生方との連携を目差して、スクールカウンセラーは活動している。小・中・高校におけるカウンセリングに必要な理解や実際を紹介すると共に、幼児および大学生へのカウンセリングについても取り上げる。

授業の目標

教師・保護者・社会人である大人が、子どもと共に生き、すこやかな社会を創造することを目標とする。

履修上の留意点

子ども・教育・カウンセリングを深く理解するためには、本講義だけでは不充分である。本学で開講している関連科目の履修を強く勧める。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	スクールカウンセラーの専門性	本章では、日本におけるスクールカウンセリングの歴史、とりわけ、1995年から公立中学校を中心として始められたスクールカウンセラーの配置について概略を述べ、その専門性について論じる。人間の行動は、生理―心理―社会的要因によって決定されると見ることができるが、スクールカウンセラーの中心点業務は心理的側面の理解にある。ここでは、臨床心理士などの資格を有するスクールカウンセラーを教師や医師と比較しながら、互いの専門性と境界領域について解説する。 【キーワード】 スクールカウンセラー　臨床心理士　専門性	倉光　修（東京大学教授）	滝口　俊子（放送大学教授） 倉光　修（東京大学教授）
2	小学校のスクールカウンセリングⅠ　いじめ	「いじめ」問題はスクールカウンセラーが対応を求められる最重要課題である。だが定義も難しく、さまざまな疑義が呈され、学校現場では混乱も見られる。そのような現状を踏まえて、子どもたちに「いじめ」についてどう分かりやすく語りかけるか、その予防と解消にスクールカウンセラーは何ができるのかについて、講師が行ってきた活動を参考にしながら述べる。 【キーワード】 いじめの定義　予防と解消　全員面接	嘉嶋領子（スクールカウンセラー・かしまえりこ心理室）	嘉嶋領子（スクールカウンセラー・かしまえりこ心理室）
3	小学校のスクールカウンセリングⅡ　発達障害	自閉症、ADHD（注意欠陥多動性障害）、LD（学習障害）などは、発達障害としてまとめられることがある。このような診断名・分類名を与えられた子どもは、そうした特徴を生涯にわたって持つと考えられるが、周囲のケアや関わり方によって社会的行動がかなり改善される。ここでは、こういった子どもたちの心に寄り添うスクールカウンセラーのアプローチについて概説する。 【キーワード】 自閉症　ADHD　LD	倉光　修（東京大学教授）	倉光　修（東京大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	中学校のスクールカウンセリングⅠ　不登校	公立中学校に配置されたスクールカウンセラーにとって中心的な業務の一つは、不登校ないし不登校傾向を示す子どもに対するカウンセリングである。中学生の段階では、言語だけでなく、絵画や箱庭などを通して、秘められた苦悩や願望が表現され、カウンセラーがその世界を分かち合うことによって問題の克服につながることが多い。ここでは思春期危機を呈した模擬事例を参考にしながら、そうしたアプローチのエッセンスを描写すると共に、不登校の子どもの保護者や担任教師へのアプローチについても解説する。 【キーワード】 不登校　思春期危機　象徴的表現	倉光　修（東京大学教授）	倉光　修（東京大学教授）
5	中学校のスクールカウンセリングⅡ　非行	非行に走る中学生にどうアプローチするかは、多くのスクールカウンセラーにとって難問である。カウンセリングに導入する際に非常な抵抗を示すケースや、非行の背景に過去の深刻な「心の傷」が窺われるケースも少なくない。非行傾向が深刻になるにつれて、本人とのカウンセリングだけでなく、保護者や担任、生徒指導担当教諭や管理職、教育委員会や警察などと連携する必要も高まってくる。模擬事例を参考にしながら、個々のケースの特殊性と普遍性について考えていく。 【キーワード】 暴力行為　心の傷　世代間伝達	倉光　修（東京大学教授）	倉光　修（東京大学教授）
6	高等学校のスクールカウンセリング	高等学校においても、スクールカウンセラーを配置するところが次第に増えている。高校生の心理的問題は非常に多様で、その深刻さも個々人によって相当に異なっているが、ここでは、リストカット、無断外泊、衝動的な異性関係などを繰り返す女子生徒のケースを取り上げる。彼女は体調不良を訴えることも多かったので、スクールカウンセラーは養護教諭とも連携した。 【キーワード】 リストカット　性的逸脱行動　言語化	倉光　修（東京大学教授）	倉光　修（東京大学教授）
7	大学におけるカウンセリング（学生相談）	大学における心理カウンセリングは、一般に「学生相談」と呼ばれている。一般の「学生相談室」等では学業や進路、研究室や家庭などでの対人関係、ハラスメントの問題、心身の健康、就職活動の支援など、実にさまざまな問題に対応しているが、中心的な活動は小中学校のスクールカウンセリング同様、学生に対するカウンセリング、保護者や教員に対するコンサルテーション、あるいは、学生や教職員に対する研修や啓発活動などである。ここでは、学習・研究意欲を失い、研究室でも疎外感や劣等感を感じている男子学生の事例を取り上げ、その対応について考える。 【キーワード】 学生相談　ハラスメント　学習研究意欲喪失	倉光　修（東京大学教授）	倉光　修（東京大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
8	幼稚園・保育所のカウンセリング	幼稚園・保育所・こども園においても、カウンセリングが求められている。東京都日野市における保育カウンセリング事業を紹介し、保育カウンセリングの意義を考える。 【キーワード】 子どもの理解　保護者カウンセリング　保育者との連携	滝口　俊子（放送大学教授）	滝口　俊子（放送大学教授）
9	緊急支援	スクールカウンセラーは、生徒や学生が災害や犯罪の被害に遭ったときに、緊急支援チームに参加し、子どもや保護者へのケアだけでなく、教員、教育委員会、警察、地域の人々などと連携していくことがある。一般的には、トラウマティックな出来事があったとき、子どもに生じやすいストレス反応について解説し、安心感をできるだけ回復すること、ストレス反応が長期化したとき（いわゆるPTSDが生じたとき）への対処などが課題になっていく。この章では、校内で起きた生徒自死の例をとり、スクールカウンセラーと関係者の連帯のあり方を考える。 【キーワード】 緊急支援チーム　PTSD　被害者支援	倉光　修（東京大学教授）	倉光　修（東京大学教授）
10	保護者支援	児童生徒が示す気がかりな行動や困難な状況が、保護者の抱える問題に起因することは少なくない。また保護者からわが子への対応の工夫が、子どもの困難の改善に奏功することも多い。そのような保護者への助言や心理的援助もスクールカウンセラーの主要な仕事となる。スクールカウンセリングにおける保護者支援のあり方について考察する。 【キーワード】 保護者面接　親子関係　助言と援助	嘉嶋領子（スクールカウンセラー・かしまえりこ心理室）	嘉嶋領子（スクールカウンセラー・かしまえりこ心理室）
11	教師との連携	児童生徒の学校生活の現実に日常的に関わっているのは教師であり、スクールカウンセラーは児童生徒と教師との関係を支える黒衣としての役割を担う。スクールカウンセラーが十全に機能するには、教師とのスムーズな連携が欠かせない。教師との役割分担のあり方や信頼関係の作り方、保護者対応の援助など、連携の際の留意点を講師の経験に基づいて述べる。 【キーワード】 関係を支える　役割分担　信頼関係	嘉嶋領子（スクールカウンセラー・かしまえりこ心理室）	嘉嶋領子（スクールカウンセラー・かしまえりこ心理室）
12	医療との連携	児童生徒期のこころの問題の背景に、医療的な対応を必要とする疾患が存在することは少なくない。特に精神科領域の疾患では、医療との橋渡し役をスクールカウンセラーが担うことになる。ゲストに精神科医であり、養護教諭養成に当たる大学教員でもある花澤寿氏を迎えて、思春期および前思春期の精神疾患の基礎知識と学校現場における対応のあり方を学ぶ。 【キーワード】 精神疾患　医学的基礎知識　橋渡し役	嘉嶋領子（スクールカウンセラー・かしまえりこ心理室）	嘉嶋領子（スクールカウンセラー・かしまえりこ心理室）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
13	スクールカウンセラーの教育・訓練	スクールカウンセラーとして活動するためには、教育・訓練が不可欠である。実習の実際を紹介し、スクールカウンセラーの養成を考える。 【キーワード】 教育カリキュラム　心理臨床実習　スーパーヴィジョン　研究会	滝口　俊子（放送大学教授）	滝口　俊子（放送大学教授）
14	スクールカウンセリングの課題と展望	文部科学省児童生徒課磯谷桂介課長をゲストに迎え、スクールカウンセリング事業の課題と展望、スクールソーシャルワーカーとの連携、スクールカウンセラーの展望などを取り上げる。 【キーワード】 スクールカウンセリング、スクールソーシャルワーク	滝口　俊子（放送大学教授）	滝口　俊子（放送大学教授）
15	カウンセリングと宗教性	スクールカウンセリング最終回は、カウンセリングに不可欠な深い人間理解について想い巡らす。宗教性にも開かれておられた故河合隼雄先生について、ゲストの藤原勝紀氏と語り合う。 【キーワード】 宗教性　人間理解	滝口　俊子（放送大学教授）	滝口　俊子（放送大学教授）

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	専門科目	科目コード	1625519	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 心理臨床とイメージ （’１０）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：小野けい子（放送大学　教授）〕

〔主任講師（現職名）：佐藤仁美　（放送大学　准教授）〕

講義概要

深層心理学では、人の心に意識の領域と無意識の領域を仮定しているが、意識領域に関しては、言語化が比較的容易であるのに対し、本人も意識していない無意識領域に関しては、言語化が難しく、イメージを通して表現されることが多い。したがって、イメージで表現されたものから、無意識を含めた人の心の豊かな世界を見つめてゆくことが可能であるし、イメージを用いた自己表現自体が、治癒的な働きと深いかかわりを持つことも知られている。本科目において、心理臨床の文脈の中で、描画、造形、身体表現といったイメージ表現や、夢、昔話、神話のイメージを取り上げ、イメージを通して心理臨床の世界について論じる。

授業の目標

イメージを媒介として、人の心への理解と心理臨床への理解を深めることを目標とする。

履修上の留意点

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	心的現実とイメージ	人のこころのあり方や経験によって、同じ物理的世界も、様々な見え方をすることを、錯視図形や絵画表現から見た後、心理臨床の現場におけるクライエントの訴える心的現実について、またイメージ表現と自己治癒力等について述べ、心理臨床とイメージの深いつながりについて論じる。 【キーワード】 イメージ、心的現実、無意識、錯視、図と地、ダブル・イメージ	小野けい子（放送大学教授）	小野けい子（放送大学教授）
2	昔話・御伽噺と心理臨床	昔話・御伽噺は長く人々によって語り継がれてきたものである。その意味で昔話・御伽噺は、人々に共通する心的現実と関係するものと思われる。物語ることと基礎づけること、昔話・御伽噺と心理臨床について論じる。 【キーワード】 昔話、無意識、普遍的無意識、グレイト・マザー	小野けい子（放送大学教授）	小野けい子（放送大学教授）
3	ユングの個性化過程とイメージ	ユングがフロイトから離れて自分の理論を打ち立てるまでの間に経験したイメージを中心に、人々が無意識の中に普遍的に持っていると思われるイメージについて述べ、心理療法過程とイメージについて論じる。 【キーワード】 夢、描画、アクティブ・イマジネーション、普遍的無意識、元型	小野けい子（放送大学教授）	小野けい子（放送大学教授）
4	夢分析	夢は古代の人々にとっては神託であり重要な意味をもつものであった。現代の心理療法においても夢は重視され夢分析がなされているが、夢はどのような意義をもっているのだろうか。また、その意義は古代と現代ではどのように異なるのであろうか。 【キーワード】 夢の意義、インキュベーション、フロイト、ユング	川嵜克哲（学習院大学教授）	川嵜克哲（学習院大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	人間とイメージ表現	洞窟画から現代アートまで、人々のイメージ表現は、限りなく続いている。イメージ療法・アートセラピー・表現療法は、その流れの中でどのようにコミットして生まれてきたのか、歴史を俯瞰しながら考えていく。 【キーワード】 イメージ表現　アートセラピー　アール・ブリュット	佐藤仁美(放送大学准教授)	佐藤仁美(放送大学准教授)
6	バウムテスト	描かれた樹木のイメージが語りかけてくるメッセージ、心理臨床の現場で、クライエントにコミットするために描いてもらうコッホのバウムテストについて論じる。 【キーワード】	岸本寛史(京都大学准教授)	岸本寛史(京都大学准教授)
7	風景画(風景構成法)	描かれた風景のイメージが語りかけてくるもの、心理療法としての風景構成法について論じる。 【キーワード】 風景構成法、枠付け、空間象徴、配色、象徴解釈	山中康裕(浜松大学大学院教授・京都大学名誉教授・放送大学客員教授)	山中康裕(浜松大学大学院教授・京都大学名誉教授)
8	絵画療法(自由画の描画療法)	自由絵による描画療法、MSSM療法等、描画を用いた心理療法の本質について述べる。 【キーワード】 自由画、交互色彩分割、スクリブルとスクイッグル、MSSMとMSSM+C,ACDとRCD	山中康裕(浜松大学大学院教授・京都大学名誉教授・放送大学客員教授)	山中康裕(浜松大学大学院教授・京都大学名誉教授)
9	箱庭療法	箱庭表現とメッセージ、箱庭療法における治療関係、箱庭療法の治癒力について述べる。 【キーワード】 箱庭療法、母子一体性、自由にして保護された空間	小野けい子(放送大学教授)	小野けい子(放送大学教授)ゲスト:酒井敦子(仁愛大学大学院教授)
10	コラージュ	箱庭と同等の効果があり、より簡便化された手法を求めて誕生した日本のコラージュ療法。その歴史と表現の可能性・心理療法の実際に迫る。 【キーワード】 コラージュ　開かれた設計思想　レディ・メイド	佐藤仁美(放送大学准教授)	佐藤仁美(放送大学准教授)、ゲスト:西村喜文(西九州大学大学院教授)
11	イメージと身体～音楽・ダンス～	“病は気から”という言葉があるが、我々は気持ちから身体の調子を崩すこともあれば、身体の不調により気持ちも左右されるなど、心と身体は切っても切り離せない関係にある。本章では、心と身体の関係性をさまざまなアプローチを通して考えてみる。 【キーワード】 身体表現　コミュニケーション　音楽療法　ダンス・ムーヴメント・セラピー　身体知	佐藤仁美(放送大学准教授)	佐藤仁美(放送大学准教授)、ゲスト:横山千晶(慶應義塾大学教授)・武藤浩史(慶應義塾大学教授)・手塚千鶴子(慶應義塾大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	心理劇～ロール・プレイング法～	心理劇が教育の現場に取り入れられたロールプレイング法を取り上げる。保護された空間の中で、ある場面・ある役割をイメージして即興の劇を演じてみることで集団が、個人が変化していく方法を概観する。 【キーワード】 心理劇、ロール・プレイング法、即興劇、保護された空間	小野けい子（放送大学教授）	小野けい子（放送大学教授）ゲスト：西村正司（植草学園大学教授）、渡辺憲明（真砂第四小学校教諭）
13	イメージから見る人生・1～エドヴァルト・ムンク～	美術・精神医学・臨床心理学の立場から、絵画表現についてアプローチする。ノルウェーの画家ムンクを取り上げて、生い立ち・その背景・家族を合わせ見ながら、自己表現の過程を紐解いていきたい。 【キーワード】 不安　魂の叫び　自己探求	佐藤仁美（放送大学准教授）	佐藤仁美（放送大学准教授）、ゲスト：徳田良仁（日本芸術療法学会名誉会長・精神科医）
14	イメージから見る人生・2～自然、とくに河川の視点から～	人の一生とイメージについて、自然特に河川の視点から論じる。 【キーワード】 人の一生、川、夢、自然、身体	山中康裕（浜松大学大学院教授・京都大学名誉教授・放送大学客員教授）	山中康裕（浜松大学大学院教授・京都大学名誉教授）
15	イメージと心理療法の器	心理療法の器について、イメージを用いた心理療法におけるセラピストの役割、治療枠の役割について取り上げる。放送教材では、表現療法の命名者で、イメージを用いた心理療法の権威である山中康裕教授をお迎えし、イメージと心理療法の器について、小野・佐藤と3人で討議する。 【キーワード】 心理療法の器、自由にして保護された空間、セラピスト	小野けい子（放送大学教授）	小野けい子（放送大学教授）佐藤仁美（放送大学准教授）ゲスト：山中康裕（浜松大学大学院教授、京都大学名誉教授）

事務局記載欄	開講年度	２０１１年度	科目区分	専門科目	科目コード	1528815	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　乳幼児・児童の心理臨床　　（’１１）＝　（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：山口義枝（放送大学准教授）　　〕

講義概要

子どものための援助の気持ちを、実際の心理臨床場面ではどのように実現しているのか。この授業では、①対象である、乳幼児期、児童期の子どもは何を感じ、どのように世界を体験しているのか、②援助者であるおとなが、子どものこころを理解し、共感的な関わりをおこなうためにはどのような努力が必要なのかを学ぶ。

授業の目標

授業全体の目標として、子どもとの関わりについての考えを深めることを目的とする。

履修上の留意点

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	子どもの心理臨床とは	子どもを理解し、子どもの成長を援助するとは、どのような働きかけなのであろうか。この章では心理臨床における援助者の成長過程について学ぶ。また、長年子どもの精神的な問題に携わられてこられた児童精神科医の小倉清先生にお話を伺い、子どもの援助者として大切な姿勢、視点を考える。 【キーワード】 援助者の成長過程、援助者の姿勢　子どものこころに寄り添う	山口義枝(放送大学准教授)	山口義枝(放送大学准教授)　ゲスト:小倉清(クリニックおぐら院長)
2	乳幼児期の発達を知る	乳幼児期は，生涯の中で最も変化が著しく，なおかつ人格の基礎を作る重要な時期と言われる。ここでは，誕生から就学前までを乳幼児期とし，子どもの発達の特性とその過程を，心理臨床に重要な事柄と共に概説する。 【キーワード】 発達過程　エコロジカルモデル　情動調整　心理的発達課題　愛着	青木紀久代(お茶の水女子大大学院准教授)	青木紀久代(お茶の水女子大大学院准教授)
3	児童期の発達を知る	ここでは児童期を小学生の時期とし、子どもを理解するために必要な発達に関する基礎知識を学ぶ。そして、発達の概念が、子どもの心理臨床ではどのように意味づけられるのかを概説する。 【キーワード】 学びの時期、親子関係　友人関係　自分とはなにか	山口義枝(放送大学准教授)	山口義枝(放送大学准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	遊戯療法の理論	遊びを方法とした心理療法とは、どのようなものなのか。子どもが自分の心の世界をのびやかに表現するためには、どのような守りの設定を作る必要があるのか。遊戯や行動を通して交流する際の、基本的な概念と実際の遊戯療法について伝える。 【キーワード】 遊戯療法　非言語的交流　遊びの感覚	山口義枝(放送大学准教授)	山口義枝(放送大学准教授)
5	遊戯療法の実際	遊戯療法の具体的なやり取りを知ることで、遊戯療法に実際について理解し、遊びを使った交流の感覚を把握する。遊戯療法の初回は、子どもの未知場面への対応が端的に表われる。また、攻撃性は、遊戯療法で扱うべき大切な感情、欲求の表われである。本章で示す例を参考に、自分ならどのように対応するかを考える。 【キーワード】 初回の不安対応、遊戯療法の中での攻撃性　制限	山口義枝(放送大学准教授)	山口義枝(放送大学准教授)
6	箱庭療法の理論と実際	箱庭療法は、日本人の心性に合った優れた心理療法であり、ことに子どもの心理療法機関において多く用いられている。放送教材では、箱庭療法の創始者カルフ女史と、箱庭療法を日本の心理臨床に導入された河合隼雄先生から指導を受けられた、日本箱庭療法学会理事長岡田康伸先生を、京都文京大学心理臨床センターに訪問して、お話をうかがった。放送教材・印刷教材を通して、箱庭療法(Sandplay Therapy)について学ぶことを目的とする。 【キーワード】 河合隼雄　砂箱　砂　玩具　自由にして保護された空間	滝口俊子(放送大学教授)	滝口俊子(放送大学教授) ゲスト:岡田康伸(京都文教大学教授)
7	子どもとの関わりの実際(1)　親ー乳幼児心理臨床	誕生から三歳前後の子どもの心理臨床は，親子が対象になる。こうした構造の心理療法に関する理論と技法の基礎を学ぶ。また，心理臨床の行われるフィールドの特性や，この時期に特徴的な親の心性についても触れる。 【キーワード】 親ー乳幼児心理療法　親ー乳幼児相互作用　関係性障害　母性のコンステレーション　情動調律	青木紀久代(お茶の水女子大大学院准教授)	青木紀久代(お茶の水女子大大学院准教授)
8	子どもとの関わりの実際(2)　発達障害	発達障害についての基本的な特徴を理解する。そして、発達障害の特徴から生じる困難さと、二次的に起こる問題を概観する。また、発達障害の子どもの体験を感じとり、子どもに対する援助で気をつけることを学ぶ。 【キーワード】 発達障害、精神遅滞、広汎性発達障害、注意欠陥/多動性障害	山口義枝(放送大学准教授)	山口義枝　ゲスト:馬場裕子(臨床心理士)
9	子どもとの関わりの実際(3)　不登校	不登校は子どもの問題のひとつの現れ方である。本章では、不登校になった子どもの気持ち、不登校理解の枠組み等、不登校についての基本的な理解を行う。そして、子どもへの援助、養育者への支援、学校との連携について考える。 【キーワード】 不登校　、不登校の子どもへの援助、養育者との関わり	山口義枝(放送大学准教授)	山口義枝　ゲスト:馬場裕子(臨床心理士)
10	子どもとの関わりの実際(4)　虐待	子どもの虐待について概観する。その一つとして、虐待を受けた子どもに現れる振る舞い方の特徴を知る。そして虐待の実態と支援の方法、およびそれらの背景について学ぶ。また虐待されることで子どもが体験する世界はどのようなものなのか。子どもがさまざまな傷から回復していくために、子どもに関わる心理臨床家は、この問題をどのように考えたらよいのか。こどものためにどのようなことができるのか、例を引用しながら学ぶ。 【キーワード】 虐待、育ち、認知発達、文脈、心理的支援	齋藤諟(恵泉女学園大学教授)	齋藤諟(恵泉女学園大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	ひとり親・再婚家庭の子ども	近年、ひとり親家庭は母子・父子家庭ともに増加している。ひとり親家庭になった理由は離婚が大半を占めており、離婚の増加に伴い再婚も増加傾向にある。本章では、離別・死別によるひとり親家庭と再婚家庭の現状を概観したあと、このような家庭で育つ子どもたちが抱える心理・社会的問題、および親をはじめとする周囲の大人に求められる子どもへの対応について述べる。 【キーワード】 ひとり親家庭、再婚家庭、離婚が子どもに与える影響、再婚家庭の子育て、面会交流	小田切紀子（東京国際大学教授）	小田切紀子（東京国際大学教授）
12	教育委員会の活動	放送教材では、神奈川県海老名市教育委員会青少年相談センターを訪問し、所長の上田貴康氏に説明していただいた。放送教材の後半では、スタジオで、新潟県三条市教育委員会子育て支援課の蝶名林稔氏に三条市の子育て支援について、紹介していただいた。本章では、一人ひとりの子どもが生きてゆく基盤作りに取り組む、教育委員会の活動について学習する。 【キーワード】 海老名市青少年センター、三条市子育て支援課、来所相談、電話相談、学校訪問相談、スクールカウンセラー、臨床心理士	滝口俊子（放送大学教授）	滝口俊子（放送大学教授） ゲスト：上田貴康（海老名市青少年相談センター所長）、蝶名林稔（新潟県三条市教育委員会）
13	子どもの心理臨床の現場	子どもの心理臨床に携わっている臨床心理士の活動の実際を通して、子どもの心理臨床の課題について考える。 【キーワード】 こども発達センター、教育センター、保健センター、協働	滝口俊子（放送大学教授）	滝口俊子（放送大学教授） ゲスト：宗田美名子・西澤伸太郎・亀井洋子（全3名臨床心理士）
14	教育場面におけるカウンセリング	中学高校のスクールカウンセリングにおいて、面接の場で語られる幼児期・児童期体験を通して、子どもの育ちを考える。 【キーワード】 スクールカウンセリング　保護者面接　教員との連携	滝口俊子（放送大学教授）	滝口俊子（放送大学教授） ゲスト：日永田美奈子（大阪府スクールカウンセラー・臨床心理士）
15	子どもの心理臨床のこれから	放送教材では、大正大学人間学部臨床心理学科准教授で、心理臨床経験豊かな青木聡（あきら）氏に登場いただいた。河合隼雄先生が所長を勤められた山王教育研究所のスタッフの一方、心理臨床のオフィスを開設し、心理臨床に教育に最前線で活躍しておられる。「乳幼児・児童の心理臨床」最終回の今回は、家族関係、教育環境、社会状況など、子どもが育つ環境が激変している中で、子どもの成長に関わる心理臨床の今後を、思いを巡らせたい。 【キーワード】 離婚後の親子の交流、片親阻害症候群、心理相談、保育カウンセリング、スクールカウンセリング	滝口俊子（放送大学教授）	滝口俊子（放送大学教授） ゲスト：青木聡（大正大学准教授）

事務局記載欄	開講年度	２０１１年度	科目区分	専門科目	科目コード	1528610	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 精神分析とユング心理学 （'11） ＝ （R）

〔主任講師（現職名）：大場　登（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：森さち子（慶應義塾大学准教授）〕

講義概要

フロイト(Freud,S.)に始まる精神分析とユング(Jung,C.G.)に始まるユング心理学は、一方で、今日、臨床心理学の領域を越えて、広く人文科学の基本的教養となっていると表現できよう。他方、精神分析とユング心理学は、臨床心理学、とりわけ、心理療法の世界において、ひとつの根幹となる学派を形成している。精神分析とユング心理学は、あくまで、クライアントとの実際の心理療法から出発したし、今日においても心理療法として実践され続けていると言えよう。本講では、精神分析とユング心理学が持つ「人間に関する知」の側面と「臨床の知」の側面の両者を視野に入れながら、その基本を理解することを試みてみたい。

授業の目標

精神分析とユング心理学は「生きた人間の心」と関わるものであるだけに、奥はきわめて深いものである。本講は、放送大学「心理と教育」コースの専門科目であるが、通常の2単位科目、すなわち、15章という「器」を持つものである。精神分析とユング心理学の中で、「15章という『器』」の中に入る、もっとも基本的なことの理解を目標としたい。

履修上の留意点

「心理と教育」コースの専門科目「心理カウンセリング序説('09)」は、本科目の姉妹科目と理解していただきたい。「心理カウンセリング序説('09)」は、カウンセリングないし心理療法の実際に焦点をあてているが、その理論的背景は、この「精神分析とユング心理学('11)」にあると言うことができるであろう。単位取得も大事なことであるけれど、単位が取得できた後も、このふたつの科目は絶えず振り返って、相互に参照していただくことをお勧めしたい。理解が深まるはずである。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	精神分析とユング心理学:フロイトとユング	精神分析とユング心理学は、フロイトとユングによって、およそ20世紀の幕開けの頃創始された。フロイトは従来の心の探究法に比較して、「科学的」なアプローチであることを強調した。ユングは、むしろ、精神分析やユング心理学が関わっているところは、遠い古代ギリシャ、そして、中世には異端とされた錬金術やグノーシズムとも深いかかわりを持つものであると捉えた。視点は異なるけれども、フロイトとユングが生涯をかけて取り組んだ「人間のこころ」への臨床的接近法は、今日、「臨床の知」と表現される新しい学問の創造であったと理解される。 【キーワード】 精神分析、ユング心理学、Freud,S. , Jung,C.G.	大場　登（放送大学教授） 森　さち子（慶應義塾大学准教授）	大場　登（放送大学教授） 森　さち子（慶應義塾大学准教授）
2	精神分析のなりたち	100年余り前にフロイト,S.によって創始された精神分析は、どのような時代背景の中で、どのように生み出されたか、さらに現代にどのように引き継がれているかについて概観する.自由連想をその方法とし、心の無意識を探究する「精神分析とは何か」を解説する. 【キーワード】 フロイト、無意識の発見、自由連想、エディプス・コンプレックス、夢	森　さち子	森　さち子
3	精神分析における心の発達論	精神分析は、フロイトの精神-性的発達論を出発点に、現代に至るまで数々の心をめぐる発達論、ないし発達観を展開している.臨床家たちが提唱した発達論を紹介しながら、それらの理論と精神分析的心理療法の実践とのつながりを見出し考察する. 【キーワード】 精神-性的発達、発達ライン、漸成説、ポジション、分離-個体化、自己感	森　さち子	森　さち子

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	精神分析の本質—現実と幻想—	精神分析の本質的なテーマとして、「現実と幻想」を取り上げる.人は現実と、幻想ないし願望を様々に調整し折り合いをつけながら適応をはかっているが、その相克が心の破綻をまねくこともある.ここでは精神分析がその対象とする「心の現実」を考察する. 【キーワード】 心の現実、原幻想、現実原則、快感原則、自己愛	森 さち子	森 さち子
5	精神分析の本質—対象喪失—	精神分析の本質的なテーマ「対象喪失」を取り上げ、大事な対象を失う心の痛みとそこからの回復過程を概説する.対象喪失による深刻な外傷体験は、病理を引き起こすこともあるが、一方ではその回復過程が創造性の発露ともなりうる.その可能性も考察する. 【キーワード】 外的な対象喪失、内的な対象喪失、喪の仕事、“いないいないばー”	森 さち子	森 さち子
6	症状をめぐる精神分析的“力動”の理解	様々な症状、訴えの背景にある、心の葛藤、抑圧をめぐる精神力動について、精神分析的観点に基づいて解説する.力動的解釈をおこなう上で必要となる、「自我」「エス」「超自我」「防衛機制」など、基本的な専門用語も説明する. 【キーワード】 意識、無意識、自我、エス、超自我、防衛機制、抑圧、葛藤、分裂	森 さち子	森 さち子
7	精神分析的治療論	精神分析的な心理療法を行う上で、クライアント/セラピスト関係の理解をめぐる重要な概念を解説する.とりわけ、精神分析的かかわりあいの営み、その空間がどのように創り出されていくかについて、さらにその治療機序について説明する. 【キーワード】 治療構造、基本規則、転移、逆転移、洞察、情緒的な絆	森 さち子	森 さち子
8	精神分析的心理療法の実際	第7回までに概観してきた精神分析理論を踏まえ、実際の心理療法はどのように展開していくかについて解説する.現代精神分析の観点も取り入れ、クライアントとセラピストの関係性に焦点を置く、間主観的アプローチを具体的に説明する. 【キーワード】 フロイト的治療態度、フェレンツイ的治療態度、解釈、言葉化、相互交流、間主観性	森 さち子	森 さち子
9	ユング心理学:コンプレックスと元型	本章から、後半の「ユング心理学」に入ることとなる。意識と無意識の関係は？ ユングが使い始めた「コンプレックス」とはどのような意味であるのだろうか？ そして、ユング心理学でよく耳にする「元型」とは従来多くのユング心理学関連の「教科書」で紹介されているようなものであるのだろうか？ コンプレックスと元型の関係は？ 【キーワード】 意識と無意識、コンプレックス、元型	大場 登	大場 登
10	ペルソナ(面・顔)とゼーレ・ソウル(心・たましい)	ペルソナとは「個における外界への心理的構え・姿勢」、そして、ゼーレ(ソウル)とは「個における内界への心理的構え・姿勢」と表現できる。ペルソナやゼーレ(ソウル)は、具体的に、そして、また、昔話や夢においてはどのようなイメージとして現れるのだろうか？ 実は、ユング心理学におけるペルソナとゼーレ(ソウル)は、かつて精神分析学派の土居健郎が注目した日本語の「オモテ」と「ウラ」と深い関連があることにも言及してみたい。 【キーワード】 ペルソナ、ゼーレ、オモテとウラ	大場 登	大場 登

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	カインとアベル	人類に共通のひとつの典型的な心の「葛藤・心理的『渦』」として、本章ではカイン・コンプレックスを取りあげてみることにしよう。「聖書」から現代に至るまで、愛情をめぐっての兄弟姉妹葛藤は殺意・殺害を伴う強烈なイメージに満ちている。 【キーワード】 コンプレックス、元型、カイン・コンプレックス	大場　登	大場　登
12	「母」なるもの：「山姥」「魔女」	西洋における「魔女」、日本における「山姥」は、人々を呑み込み、「死」に至らしめるほどの恐ろしい「顔・面」と、そして、人々を産み、養い、育て、慈しむ「顔・面」というふたつの「顔・面」を持つ存在である。「魔女」「山姥」が持つふたつの「顔」は、実は、臨床心理学的に非常に深い意味を持ったイメージである。 【キーワード】 「母」なるもの、山姥、魔女	大場　登	大場　登
13	異類婚姻譚	異類婚姻譚と呼ばれる昔話にはさまざまの形の「男」と「女」のかかわりが見いだされる。グリム童話によく見られる「結合・結婚」イメージは、世界の異類婚姻譚の中では、ひとつのイメージにすぎない。日本の昔話では、「夕鶴」を思い起こすまでもなく、「分離」が圧倒的である。その他にも、実は、さまざまな可能性が見いだされる。「異類婚姻譚」でいう「男」と「女」のかかわりとは、臨床心理学的にはどのように理解することができるのであろうか？ 【キーワード】 異類婚姻譚、結合、分離	大場　登	大場　登
14	ユング派心理療法：心理療法と「イメージ」「言葉」	いろいろな心理的課題を抱えられたクライアントとお会いして、語られるところにセラピストが「耳を傾けて」いると、不思議なことにクライアントの心が動き出し、この「動き」が言葉やイメージで表現されてゆくことになる。心理療法とは、「器」の中で動き出すこの自律的なプロセスに、セラピストが独特の形で同行し続けることとも表現できるであろう。 【キーワード】 心理療法、イメージ、言葉	大場　登	大場　登
15	ユング派心理療法：「夢」と向き合う	古代ギリシャ・アスクレピオス神殿で見られたインキュベーション（「聖所」での眠り）という営みは、2千年の眠りを経て、フロイトの診察室にて新たな命を与えられたと言われている。この点で、ユング派心理療法は、もっともフロイト的心理療法と言うこともできるであろう。ユング派心理療法においては、実に深い関心が「夢」に注がれることになるからである。 【キーワード】 心理療法、インキュベーション、夢	大場　登	大場　登

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	専門科目	科目コード	1521314	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　肢体不自由児の教育　　（’１０）＝　（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：西川　公司（放送大学　客員教授）〕
〔主任講師（現職名）：川間　健之介（筑波大学大学院　教授）〕
【本学担当専任教員：住田　正樹（放送大学　教授）】

講義概要

近年，肢体不自由特別支援学校等においては，在学者の障害の重度・重複化，多様化の傾向が顕著になってきており，幼児児童生徒一人一人の実態に即した指導上の創意工夫が，より一層求められている。ここでは肢体不自由児の教育に必要な基礎的・基本的事項について，全15回にわたって講義する。肢体不自由児の教育の実際を概観しながら，肢体不自由児の生理・病理と心理，教育課程，指導法等について学習を進めていく。

授業の目標

肢体不自由児の教育に必要な基礎的・基本的な事項について，全15回の講義を通じて学習する。障害の多様な幼児児童生徒に対する教育の基本的な知識を身に付けることを目標とする。

履修上の留意点

「特別支援教育総論(’07)」及び「特別支援教育基礎論(’07)」を学んでおくことが望ましい。特別支援教育の基礎を習得するのに役立つ。また，「障害児・障害者心理学特論(’08)」も，肢体不自由児の心理を理解する上で参考になる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	肢体不自由児の教育−歴史と現状−	肢体不自由教育の発足と戦後の肢体不自由教育，「肢体不自由」の用語を提唱した高木憲次と肢体不自由教育との関連について紹介する。また，養護学校の創設と発展，肢体不自由教育の現状について解説する。 【キーワード】 クリッペルハイム，高木憲次，肢体不自由，療育，養護学校教育の義務制，障害の重度・重複化	西川　公司（放送大学客員教授）	西川　公司（放送大学客員教授） 村田　茂（国立特別支援教育総合研究所名誉所員）
2	肢体不自由教育の実際1−特別支援学校や特別支援学級における教育の実際−	肢体不自由のある児童生徒の学ぶ場について述べた後に，肢体不自由特別支援学校の教育について，登校から下校までの様子を，実際の映像に基づいて解説する。 【キーワード】 肢体不自由特別支援学級，肢体不自由特別支援学校	川間　健之介（筑波大学教授）	川間　健之介（筑波大学教授）
3	肢体不自由児の生理・病理1	正常な運動機能の発達の基本的な生理と四肢体幹の様々な運動機能の障害の病態の基礎について，移動等を中心に解説する。 【キーワード】 肢体不自由，運動発達，原始反射，平衡反応，歩行の獲得	君塚　葵（心身障害児総合医療療育センター所長）	君塚　葵（心身障害児総合医療療育センター所長）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	肢体不自由児の生理・病理2	肢体不自由の主な疾患について，その概要と特徴，特に脳性麻痺，二分脊椎，筋ジストロフィー，重複障害について解説する。 【キーワード】 脳性まひ，痙直型両まひ，重度重複，二分脊椎，療育	君塚　葵（心身障害児総合医療療育センター所長）	君塚　葵（心身障害児総合医療療育センター所長）
5	肢体不自由児の心理1 −学齢期以前を中心に−	乳幼児期における運動発達と認知発達，さらに，それらの相互作用を解説し，肢体不自由による発達上の様々な課題について解説する。 【キーワード】 運動発達，反射，認知発達，運動発達と認知発達の相互作用	川間　健之介（筑波大学教授）	川間　健之介（筑波大学教授）
6	肢体不自由児の心理2−学齢期以降を中心に−	学齢期以降の肢体不自由児の心理特性について解説する。児童生徒に身体の動きに不自由がある場合の影響を踏まえ，知的機能や知覚・認知，情緒・社会的側面，障害の受け止めの特性を紹介する。そして，セルフ・エスティームを高めることの大切さについて述べる。 【キーワード】 行動上の困難さ，自己理解，セルフ・エスティーム，生き方	徳永　豊（福岡大学教授）	徳永　豊（福岡大学教授）
7	肢体不自由教育の教育課程	教育課程に関する法令と特別支援学校の学習指導要領等を紹介しながら，幼児児童生徒の実態に即した肢体不自由特別支援学校及び肢体不自由特別支援学級における教育課程編成の在り方について解説する。 【キーワード】 教育課程，学校教育法施行規則，特別支援学校小学部・中学部学習指導要領，重複障害者等に関する教育課程の取扱い，特別支援学校（肢体不自由）における教育課程編成，小・中学校における教育課程編成	西川　公司（放送大学客員教授）	西川　公司（放送大学客員教授）
8	指導法1−身体の動きの指導−	特別支援学校における身体の動きの指導内容を解説し，さらに，各教科の授業等における配慮事項等についても述べる。 【キーワード】 自立活動，身体の動き，ポジショニング	川間　健之介（筑波大学教授）	川間　健之介（筑波大学教授）
9	指導法2−コミュニケーションの指導−	肢体不自由児にとってのコミュニケーションについて紹介し，言葉や身振り，補助的手段を活用したコミュニケーションの工夫について解説する。他者からの働き掛けを受け止めて理解し，表出・表現する力を高めるための指導の要点について取り上げる。 【キーワード】 コミュニケーション，言語的コミュニケーション，前言語的コミュニケーション，原初的コミュニケーション，AAC，足場作り	徳永　豊（福岡大学教授）	徳永　豊（福岡大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	指導法3－各教科の指導－	各教科の指導に当たっては，児童生徒に肢体不自由があるために，様々な配慮や工夫が必要となる。また，脳性まひの場合は，認知特性に応じた指導方法の工夫が必要となる。これらの具体について，実際の授業場面の映像を見ながら解説する。 【キーワード】 肢体不自由，言語障害，視覚障害，視知覚認知障害	川間 健之介（筑波大学教授）	川間 健之介（筑波大学教授）
11	指導法4－重複障害児の指導－	重度の肢体不自由に併せて重度の知的障害のある子どもの指導について，学ぶ。健康の保持・増進の視点を中心に，生活の中で重要な食べること，排泄すること等における指導の実際を解説する。また，いわゆる重度・重複障害児等を対象に行われている，医療的ケアについての実際を紹介する。 【キーワード】 重複障害，実態の把握，健康の保持，摂食指導，排せつ指導，医療的ケア	長沼 俊夫（国立特別支援教育総合研究所総括研究員）	長沼 俊夫（国立特別支援教育総合研究所総括研究員）
12	肢体不自由教育の実際2-社会性の発達と総合的な学習の取組－	社会性の発達について述べた後に，肢体不自由児の社会性の発達上の課題について解説する。また，肢体不自由児の社会性をはぐくむための，総合的な学習の時間の取り組みを紹介する。 【キーワード】 社会性，自尊，共感，総合的な学習の時間	川間 健之介（筑波大学教授）	川間 健之介（筑波大学教授）
13	肢体不自由教育の実際3-自立活動の指導－	肢体不自由特別支援学校における自立活動の指導を取り上げ，自立活動の時間の指導の授業の様子を見ながら，自立活動の個別の指導計画の作成と指導の在り方について考える。また，重複障害児に対する自立活動を主とした指導の授業の様子を見ながら，大切な指導内容について考える。 【キーワード】 自立活動の意義，自立活動の指導の特色，自立活動の内容の取扱い，個別の指導計画，自立活動を主とした指導	西川 公司（放送大学客員教授）	西川 公司（放送大学客員教授）
14	肢体不自由児のキャリア教育	進路指導は，児童生徒の生き方の選択，人生設計への指導援助であると同時に，児童生徒の可能性を最大限に伸ばす教育活動である。生きる力の伸長を目指すキャリア教育の視点で，肢体不自由児の進路指導を概観する。また，一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導や必要な支援を行うために，重要なツールである個別の教育支援計画について，学ぶ。 【キーワード】 キャリア教育，進路指導，生きる力，個別の教育支援計画，連携	長沼 俊夫（国立特別支援教育総合研究所総括研究員）	長沼 俊夫（国立特別支援教育総合研究所総括研究員）
15	新たな取り組みと今後の課題	近年，取り組まれるようになった地域の肢体不自由教育のセンター校としての活動，外部の専門家を活用した指導，特別支援教育支援員の活用等，新たな取り組みを紹介する。そして，肢体不自由教育の充実に向けた今後の課題について考える。 【キーワード】 特別支援教育，特別支援教育推進体制，センター校，外部の専門家，特別支援教育支援員，授業改善，専門性の向上	西川公司(放送大学客員教授)	西川公司(放送大学客員教授) 川間健之介(筑波大学教授)長沼俊夫(国立特別支援教育総合研究所総括研究員)

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1530402	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　ジェンダーの社会学　　（’０８）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：伊藤　公雄（京都大学大学院教授）　　〕

講義概要

まず、生物学的な視点や歴史の展開、文化論などとの関連のなかで、ジェンダーという視点について整理します。続いて、性差別、性暴力、労働、家族、教育といった現代社会をめぐる諸問題を、ジェンダーという視点から考察していきます。最後に、国際社会の動きを見据えつつ、ジェンダーの視座からの21世紀前半の日本社会のゆくえについて考えていきたいと思います。

キーワード：ジェンダー、性差別、男女共同参画

授業の目標

ジェンダー問題は、身近な課題であるとともに、現代社会を生きる上で不可欠な諸問題と深くかかわりをもっています。授業を通じて、ジェンダーという視点を身につけていただくことで、現代社会のかかえている諸課題に対して、自分なりの観点からの問題点の発見とその解決策を見出していただきたいと思います。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	ジェンダーと社会学の視点	まず、ジェンダー概念の登場およびこの概念が生み出した学問上の影響力について解説を行ないます。続いて、社会学におけるジェンダー研究の位置について説明を加えます。	伊藤公雄（京都大学大学院教授）	伊藤公雄（京都大学大学院教授）
2	生物学的性差とジェンダー	ジェンダーの視点を生物学的性差との関連で位置づけます。なぜオス、メスがあるのかといった議論や性の多様性についてふれた上で、社会的に構築されたものであるジェンダー視点の意義について考えます。	伊藤公雄（京都大学大学院教授）	伊藤公雄（京都大学大学院教授）
3	文化のなかのジェンダー	社会的な構築物であるジェンダーは、文化の違いによって変化をみせます。男が「文化」で女は「自然」といった議論も出されています。文化とジェンダーのかかわりについて考察を加えます。	伊藤公雄（京都大学大学院教授）	伊藤公雄（京都大学大学院教授）
4	歴史のなかのジェンダー	ジェンダーは、歴史的変化にともなって、その様相を変化させます。前近代の日本社会のジェンダー構造や、近代社会が生み出したジェンダーの変容について考えます。	伊藤公雄（京都大学大学院教授）	伊藤公雄（京都大学大学院教授）
5	性差別とジェンダー	現代社会において、性による差別は重要な人権問題です。ジェンダーと人権という課題を、フェミニズムの登場や性差別問題の議論を通じて考察します。	伊藤公雄（京都大学大学院教授）	伊藤公雄（京都大学大学院教授）
6	性暴力とジェンダー	ドメスティック・バイオレンスやセクシュアル・ハラスメントなど主に女性に対する暴力の問題がクローズアップされたのは、ごく最近のことです。こうした性暴力の問題をジェンダーの観点から解剖します。	伊藤公雄（京都大学大学院教授）	伊藤公雄（京都大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
7	「女らしさ」という課題	「女らしさ」というジェンダーの縛りについて、その形成のされ方や、それがかかえてきた諸課題、さらに女性のエンパワーメントについて考えます。	伊藤公雄（京都大学大学院教授）	伊藤公雄（京都大学大学院教授）
8	「男らしさ」のゆくえ	現代社会におけるジェンダーのゆらぎのなかで、男性たちもまたさまざまな問題と直面しています。男性性の危機や男性学、さらに男性運動などにもふれるつもりです。	伊藤公雄（京都大学大学院教授）	伊藤公雄（京都大学大学院教授）
9	労働とジェンダー	労働における男女間格差の問題や、男性の長時間労働の問題などを分析しながら、男女ともに社会参画と家庭参画が可能なワークライフバランス社会について問題提起したいと思います。	伊藤公雄（京都大学大学院教授）	伊藤公雄（京都大学大学院教授）
10	家族のなかのジェンダー	家族というテーマにジェンダーの視点から光を当てます。多様な家族の形態や近代家族の成り立ち、さらに、少子高齢社会の中出の家族の変化について考察します。	伊藤公雄（京都大学大学院教授）	伊藤公雄（京都大学大学院教授）
11	教育とジェンダー	学校教育や社会教育におけるジェンダー問題について考えます。隠れたカリキュラムの問題や女性研究者のかかえている課題などについても言及するつもりです。	伊藤公雄（京都大学大学院教授）	伊藤公雄（京都大学大学院教授）
12	スポーツとジェンダー	基本的に男性主導で発展してきた近代スポーツが、今、大きく変わろうとしています。スポーツという身体文化とのかかわりのなかでジェンダー問題について分析していきます。	伊藤公雄（京都大学大学院教授）	伊藤公雄（京都大学大学院教授）
13	セクシュアリティとジェンダー	性的マイノリティの問題もまた、現代社会の重要な人権問題です。多様な性という視点をふまえて、セクシュアリティの問題を考えていきたいと思います。	伊藤公雄（京都大学大学院教授）	伊藤公雄（京都大学大学院教授）
14	国際社会とジェンダー	1970年代以後、国際的に大きく広がったジェンダー平等の動きについて考えます。戦争と平和の問題、発展と平等の課題など、現代世界の大きな変化について考えます。	伊藤公雄（京都大学大学院教授）	伊藤公雄（京都大学大学院教授）
15	ジェンダー政策のゆくえ	戦後日本の男女平等理念の登場から、現代の男女共同参画政策まで、国際的な動きもふまえつつ、日本社会におけるジェンダー政策の可能性を探ります。	伊藤公雄（京都大学大学院教授）	伊藤公雄（京都大学大学院教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1530500	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 社会階層と不平等 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：原　純輔（放送大学特任教授）〕
〔主任講師（現職名）：佐藤　嘉倫（東北大学大学院教授）〕
〔主任講師（現職名）：大渕　憲一（東北大学大学院教授）〕

講義概要

本講義は、社会階層と不平等を実証的に研究することを目的としています。まず社会階層と不平等をめぐる基礎概念、理論、方法論を概観した上で、(1)日本社会の階層と不平等、(2)アジア社会の階層と不平等、(3)エスニシティやジェンダーと階層・不平等との関係、(4)公正な社会のあり方に関する考察、という大きく4つのトピックを議論します。

授業の目標

社会階層と不平等をめぐる基礎概念、理論、方法論を理解したうえで、階層と不平等の問題を歴史的にまた国際的に理解・把握できるようにします。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	社会的不平等と人間・社会	現代日本社会および現代世界における不平等の状況を概観するとともに、「不平等」というものが人間と社会にとってどのような意味をもっているのかを検討します。また、不平等の研究が追求すべきことがらについても検討を加えます。 【キーワード】 貧困、基礎的平等化、新しい不平等	原　純輔（放送大学特任教授）	原　純輔（放送大学特任教授）
2	社会階層・不平等研究の歴史	不平等を社会の仕組と結びつけるための概念が「社会階層」です。具体的にどのように概念化されてきたのかを、思想史・研究史の中からさぐります。また、とくに第二次世界大戦後に社会科学としての研究がどのように進められてきたのかを理解します。 【キーワード】 身分、階級、階層、社会的分裂、社会移動	原　純輔（放送大学特任教授）	原　純輔（放送大学特任教授）
3	結果の不平等	不平等には結果の不平等と機会の不平等があります。この回では、前者に焦点を当て、特に所得と資産の不平等について現状とその要因を検討します。 【キーワード】 所得格差、資産格差、ジニ係数	佐藤　嘉倫（東北大学教授）	佐藤　嘉倫（東北大学教授）
4	機会の不平等	社会階層研究では、機会の不平等は主に世代間移動（親から子供への階層移動）の閉鎖性によって測定されます。測定に用いる指標を説明するとともに、現実の機会の不平等について考察します。 【キーワード】 社会の閉鎖性・開放性、オッズ比	佐藤　嘉倫（東北大学教授）	佐藤　嘉倫（東北大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	不平等の国際比較	階層研究の主要研究テーマの一つが国際比較です。現代日本の結果の不平等や機会の不平等を見るだけでは、それらが世界の中でどの程度の不平等を示しているのか分かりません。このため、社会階層研究では国際比較が盛んです。この回では、国際比較の方法と問題点を検討します。 【キーワード】 国際比較の方法、国際比較の問題点	佐藤　嘉倫（東北大学教授）	佐藤　嘉倫（東北大学教授）
6	日本近世の身分・階層・ジェンダー	日本の近世（江戸時代）における身分制の仕組み、身分格差や経済格差にもとづく社会階層のあり方、およびジェンダー構造について述べ、この時代の社会の特質に迫ります。 【キーワード】 日本近世、身分、階層、ジェンダー	大藤　修（東北大学教授）	大藤　修（東北大学教授）
7	教育と階層・不平等	学校教育制度は機会の平等を達成するための近代における最大の社会的装置です。わが国における学校制度がどのようにその役割を果たしてきて現在に至っているのかを、歴史的資料とさまざまの調査データから検討します。 【キーワード】 近代化、大衆教育社会、学歴社会論	原　純輔（放送大学特任教授）	原　純輔（放送大学特任教授）
8	韓国社会の両極化と中間層	1997年の経済危機以降、韓国では社会階層の両極化が進行していると言われています。またもともと高かった雇用の流動性も高まっています。中間層に焦点を当てながら、韓国社会の階層と不平等を考察します。 【キーワード】 中間層、流動性	佐藤　嘉倫（東北大学教授）	佐藤　嘉倫（東北大学教授）
9	台湾の新しい不平等	90年代以降、グローバル化が急速に進むにつれて、台湾企業の国際化と海外進出、外国人労働者や外国籍花嫁の流入により、台湾社会の民族構成や階層構造も大きく変化し、新しい経済的・文化的不平等が生まれている様子を概観します。 【キーワード】 グローバル化、外国人労働者、国際結婚	沼崎　一郎（東北大学教授）	沼崎　一郎（東北大学教授）
10	現代中国の階層と不平等	社会主義体制を維持しながら急速に市場経済化している現代中国の階層と不平等の特徴について考えます。その際、他の東アジアでも見られる特徴と、中国でのみ見られる特徴を、国際比較の視点から見てみます。 【キーワード】 現代中国、社会主義、市場経済化	園田　茂人（早稲田大学教授）	園田　茂人（早稲田大学教授）
11	アジアメガシティ・ジャカルタの階層構造と不平等	ジャカルタをフィールドにして、アジア・メガシティが抱えている階層格差と不平等の問題を明らかにします。特に、スラムとかゲーテッドコミュニティのような空間形態のもつ社会的意味をさぐる中で問題の所在を明らかにします。 【キーワード】 アジア・メガシティ、スラム、ゲーテッドコミュニティ	吉原　直樹（東北大学教授）	吉原　直樹（東北大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	キャリア・ジェンダーと不平等	キャリアとジェンダーにかかわる日本人の行動と態度の近年の大きな変化と多様な問題について、社会制度、法制度、企業などと個人のマクロ－ミクロの相互的な関係を検討しながら、国際比較のデータを交えて社会学的・社会心理学的に概観します。 【キーワード】 キャリア、 ジェンダー、 ワーク・ライフ・バランス	鈴木 淳子（東北大学教授）	鈴木 淳子（東北大学教授）
13	エスニシティと階層・不平等	日本における階層研究では、エスニシティの問題はほとんど扱われてきませんでした。しかしエスニシティは不平等を生み出す一つの要因です。この回では移民に焦点を当てながら、階層とエスニシティの問題を考察します。 【キーワード】 エスニック関係、移民	佐藤 嘉倫（東北大学教授）	佐藤 嘉倫（東北大学教授）
14	不平等と公正	不平等が常に不公正とされるわけではありません。どのような不平等を不公正とするか、人々の公正判断の仕組みを3種類の分配基準（衡平、平等、必要性）に基づいて論じます。また、基準の選択が社会理念を反映することや日本人の公正観についても考察します。 【キーワード】 公正判断、分配的公正、手続き的公正	大渕 憲一（東北大学教授）	大渕 憲一（東北大学教授）
15	公正な社会をめざして	公正な社会は個人間・集団間の差異と不平等をどのように包摂するべきでしょうか。階層、ジェンダー、エスニシティに関して蓄積されてきた社会科学的理論と知見を元に、この課題に対する提言を試みます。 【キーワード】 公正、階層、ジェンダー、エスニシティ	大渕 憲一（東北大学教授）	大渕 憲一（東北大学教授）

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	専門科目	科目コード	1530518	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　現代都市とコミュニティ　　（’１０）＝　（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：浅川　達人（明治学院大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：玉野　和志（首都大学東京教授）　〕

講義概要

交通機関の発達および情報化の高度な進展により，人びとは空間的に離れた場所で暮らす他者と容易に社会関係を形成・維持することができるようになった．それに伴い，自らが居住しているコミュニティへの関与は縮小することとなった．その一方でコミュニティの重要性が指摘され，コミュニティへの期待が高まっている．本科目では，まず，コミュニティ概念を整理するとともに，コミュニティの諸相について概説する．次いで，コミュニティに変容をもたらす，社会・空間構造の変化について検討する．それらの理論的な検討を踏まえたうえで，各地のコミュニティに出かけ，現地の映像と住民の声に身を置きながら，コミュニティへの

授業の目標

私たちは，私たちが普段目にしている社会が，日本の各地に広がっているかのように思い込みがちです．しかしながら，個人の耳目が見聞きする範囲は極めて限られており，それを一般化して考えるのは誤解に過ぎない可能性が高いといえます．知っているようで知らない，コミュニティで展開されている日常生活世界を，都市社会という大きな社会の動きと合わせながら考える．それが本科目の目標です．

履修上の留意点

本科目は，「現代コミュニティ論('06)」の後継科目です．したがって，内容的に重複する部分も少なからず含んでいますが，そこではとりあげることができなかった，より豊かな内容を含むように再構成しなおしました．「現代コミュニティ論('06)」を既に学習された方にもお薦めできる科目です．

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	都市を眺め，生活を見つめる	現代都市の特徴を捉えるためには，ヘリコプターから地上を眺める視点と，地上を散策する人の視点の両方が必要である．ヘリコプターからの視線は，空間構造として具現化した都市の社会構造を捉えることができる．一方，人々は社会の構造に縛られながら，しかし巧みに利用しつつ生き抜いている．そのような人々の日常生活世界は，散策する人のまなざしによって捉えることができる． 【キーワード】 空間構造，社会構造，都市の定義	浅川達人（明治学院大学・教授）	浅川達人（明治学院大学・教授） 玉野和志（首都大学東京・教授）
2	「コミュニティ」が意味したもの	社会学者は西欧社会における日常生活用語であったコミュニティを，社会学の専門用語である「コミュニティ」として用いた．両者はどこが同じでどこが異なるのか．なぜ「コミュニティ」という用語を用いる必要があったのか．「コミュニティ」について検討するためには，何が必要か．社会学の歴史を紐解いてみる． 【キーワード】 日常生活用語，専門用語，コミュニティ，マクロな視点，ミクロな視点	浅川達人	浅川達人
3	21世紀のコミュニティ	交通機関の発達および情報化の高度な進展により，人びとは空間的に離れた場所で暮らす他者と容易に社会関係を形成・維持することができるようになった．そのような21世紀のコミュニティの特徴を明らかにしつつ，コミュニティに寄せられる期待の可能性と限界を指摘する． 【キーワード】 コミュニティ解放仮説，ヴァーチャル・コミュニティ，社会関係資本，地域性と共同性	浅川達人	浅川達人

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	社会地図と社会地区分析	空間構造として具現化した都市の社会構造を捉えるための手法として，社会地図が用いられてきた．日常の生活世界を「地図」という表現手段で表すためには，どのような工夫が必要かを学び，社会地図を用いて都市社会全体を俯瞰する． 【キーワード】 社会地区分析，空間構造，社会構造，社会地図	浅川達人	浅川達人
5	大都市の社会・空間構造とコミュニティ	東京大都市圏の社会・空間構造を社会地図を用いて描き出す．都市の発展という時間軸と，人々が営む日常生活によって紡ぎ出される時間軸が交差しつつ多様なローカル・コミュニティができあがる過程を紹介する． 【キーワード】 東京大都市圏，郊外化，再都市化，都市の発展，家族の時間，工業型社会，脱工業型社会	浅川達人	浅川達人
6	郊外化と再都市化	郊外化と再都市化という流れの中でできあがった，都心のコミュニティと郊外のコミュニティを実際に訪れ，街の様子を観察する．都心のコミュニティとして神田を，郊外のコミュニティとしてつくばエクスプレス沿線を訪れる． 【キーワード】 再都市化，郊外の重層性	浅川達人	浅川達人
7	都市の歴史的変遷とローカル・コミュニティの変容	これまで検討してきた都市全体の空間構造の変動の中で，今度はそこに住む人々の地域生活がどのように変容してきたかをとらえるコミュニティ・スタディの方法について検討する．ここではあるまちを訪れ，散策する視点から具体的にどのようなことが読み取れるかについて紹介する． 【キーワード】 ローカル・コミュニティ，コミュニティ・スタディ，空間	玉野和志	玉野和志 浅川達人
8	コミュニティを枠づける制度と組織	まず，コミュニティ・スタディの前提として，ローカル・コミュニティをその外側から枠づける制度や組織について検討する．この点を頭に入れておかないと，都市全体の空間構造の変動との関連で具体的なコミュニティの変容を位置づけることができなくなってしまうのである． 【キーワード】 土地，空間，制度，組織，自治体	玉野和志	玉野和志
9	コミュニティにひろがる集団とネットワーク	制度や組織に枠づけられたコミュニティの中で，人々はさまざまなネットワークを結び，集団をなしている．このような小さな意味での社会を大きな意味での社会構造との関連で理解することが重要なのである．ここでは次回以降に細かく検討していく個々の領域の全体的な位置づけを確認しておきたい． 【キーワード】 社会的ネットワーク，集団，組織，機関，制度	玉野和志	玉野和志
10	町内社会と町内会	日本の都市には自治会・町内会とよばれる基本的な地域集団が存在する．これらは自治体の制度や政策とも密接に関連していて，非常に重要な役割を果たしている．ここではその歴史的な成り立ちと経緯，現状と課題について検討する． 【キーワード】 自治会，町内会，地域住民組織	玉野和志	玉野和志

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	自営業者たちとコミュニティ	自治会・町内会を中心とした日本の都市地域の社会構造を中心的に支えてきたのが，まちの自営業者たちである．ここでは東京下町のある地域を訪ね，その特質について具体的に学び，考えてみたいと思う． 【キーワード】 自営業，ニッチ，起業家	玉野和志	玉野和志 ゲスト：小浜ふみ子（愛知大学・教授）
12	学校とコミュニティ	自治会・町内会を中心とした地域社会の構造は，比較的都心に近い地域に典型的に見られたものである．これにたいして郊外などを中心に最近の変化の中で重要な意味を持つようになったのが，小学校や中学校である．ここでは学校と地域社会の関係について，そこでの女性の活躍を中心に検討する． 【キーワード】 学校，PTA，教育委員会，教育改革	玉野和志	玉野和志
13	民族集団とコミュニティ	さらに最近になって日本でも注目されてきたのが，異なる民族が集住していたり，多様な民族がこれまで共生してきたコミュニティである．ニューカマーとよばれる外国人の流入により，オールド・タイマーとされる在日のコミュニティも，改めて注目されるようになっている．ここでは大阪のそのようなコミュニティを訪ねてみたい． 【キーワード】 民族集団，エスニシティ，移民	玉野和志	玉野和志 浅川達人 ゲスト：谷富夫（大阪市立大学・教授）
14	高齢化とコミュニティ	少子高齢化は日本のほぼ全ての地域社会においてみられるが，特に西日本においてその傾向が強い．高齢化と過疎によって疲弊する地域社会が多い中で，高齢者の力を生かした村おこしに成功した地域がある．鹿屋市串良町柳谷を訪れ，「やねだん」の活力の源について考える． 【キーワード】 少子高齢化，過疎，行政に頼らない地域再生	浅川達人	浅川達人
15	都市コミュニティのゆくえ	これまでの講義のまとめを行う。そのうえで，現代都市とコミュニティを捉えるために必要な2つの視点である，社会地区分析とコミュニティ・スタディを結合した研究の可能性について検討する． 【キーワード】 社会地区分析，コミュニティ・スタディ	浅川達人	浅川達人 玉野和志

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	専門科目	科目コード	1837320	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　社会と銀行　　（’１０）＝　（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：吉野　直行（慶應義塾大学教授）　〕

【本学担当専任教員：坂井　素思（放送大学教授）　】

講義概要

1980年代後半のバブル経済から1990年代にかけて、日本の金融機関は混乱から大変革の時代を経験した。変化は不良債権処理、金融再編、情報化という技術進歩、それに金融規制の局面において著しかった。2008年からはそれにアメリカのサブプライムローン問題に端を発する世界的金融危機が加わった。そうした変化の中で、この科目では、消費者にとっての銀行、企業にとっての銀行、決済ネットワークのノードとしての銀行、資産運用市場における銀行、グローバル競争下の銀行など、銀行というビジネスモデルの収益性と社会的責任について考える。

授業の目標

この科目では、伝統的な金融論の枠組みを越えて、幅広い視点から銀行の業務と社会的役割について再考し、ダイナミックに変化する現代社会における銀行の存在意義と公共性について考察することを目標とする。受講者は、金融論の文献に登場する銀行ではなく、生身の人間の集団としていまに生きる銀行の姿を理解し、その将来を展望する作業に参加して欲しい。

履修上の留意点

放送大学の科目としては「経済学入門」と「現代経済学」を履修していることが望ましいが、預金や住宅ローンを通じて銀行と取引のある人、企業経営において日常的に銀行と接している、政策的視点から銀行業に関心のある人、資産運用について考えている人など、銀行に何らかの関心のある人はすべてこの科目の受講資格がある。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	日本の資金循環－お金の流れ	多くの人は経済といえばお金を連想するが、お金とはいったい何だろうか。わたしたちが銀行に預け入れたお金はどこへ行くのだろうか。金融機関はビジネスであると同時に、どのような公共的役割を担っているのだろうか。金融機関は何を仲介しているのだろうか。金融の流れと実体経済とはどのように関連しているのだろうか。 【キーワード】 お金とは何か、金融仲介機能、実体経済と金融	吉野直行（慶應義塾大学教授）	吉野直行（慶應義塾大学教授）
2	金融システムにおける銀行の役割	多くの金融機関や金融市場とそれを支える法律や制度が集まって金融システムは構成されている。その中で銀行が果たしている役割は何だろうか。銀行が扱うサービスはなぜ金融商品と呼ばれているのか。金融システムを特徴づける言葉としての直接金融と間接金融とはどのような意味なのだろうか。 【キーワード】 金融システム、銀行が扱う金融商品、直接金融、間接金融	吉野直行（慶應義塾大学教授）	吉野直行（慶應義塾大学教授）
3	消費者と銀行	消費者にとって銀行はお金を預ける場所であり、お金を借りる場所でもある。銀行の消費者向けのサービスにはどのようなものがあるのか。銀行が扱う預金商品と投資信託商品はどう異なるのだろうか。住宅ローンや個人向けローンを借りるときの注意点はどのようなことだろうか。ATMでの送金はどのように行われているのだろうか。 【キーワード】 預金商品、投資信託商品、住宅ローン、個人向けローン、利用上の注意	吉野直行（慶應義塾大学教授）	吉野直行（慶應義塾大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	信託ビジネスとは	信託ビジネスとは何だろうか。高齢社会において消費者の資産運用ニーズはどう高まっているのだろうか。それに信託賞品はどう応えられるのだろうか。なぜ預金と信託は区別された別の商品となっているのだろうか。信託サービスに必要な専門性とは何だろうか。信託勘定の収益状況を分析し、今後の課題を探ってみよう。 【キーワード】 専門的な業務、増加する資産運用需要、収益状況、今後の課題	吉野直行（慶應義塾大学教授）	吉野直行（慶応義塾大学教授）
5	企業と銀行	銀行とまったく取引のない企業は存在しない。企業に対して銀行はどのようなサービスを提供してくれるのだろうか。銀行の企業向け貸出にはどのような種類と特徴があるのだろうか。地方自治体など公共法人と銀行はどのような取引をしているのだろうか。外国にある商業銀行と投資銀行の区別は日本ではどうなっているのだろうか。 【キーワード】 企業向け貸出、資金決済サービス、公共法人等との取引	前多康男（慶應義塾大学教授）	前多康男（慶應義塾大学教授）
6	資金決済ネットワーク	たとえ個別の銀行は倒産することがあっても、資金決済ネットワークは崩壊してはならないと言われる。小切手、手形、銀行間の資金決済、日本銀行との関係など、資金決済ネットワークはどのような仕組みで、誰によって担われているのだろうか。電子マネーの利用はどの程度進んだのだろうか。また、今後銀行以外の企業による送金業務への新たな参入は起こるのだろうか。 【キーワード】 為替取引、日銀ネット、システミックリスク、預金保険、電子マネー	翁百合（日本総合研究所主席研究員・理事）	翁百合（日本総合研究所主席研究員・理事）
7	短期金融市場	短期金融と長期金融とは何に基づく区別だろうか。短期金融市場にはどのような種類があり、どのような構造を成しているのだろうか。ドルなどの外国為替市場には誰が参加し、その意義はどう評価できるのだろうか。短期金融市場における銀行の役割とは何だろうか。日本銀行の金融政策は短期金融市場にどのような影響を及ぼすのだろうか。 【キーワード】 短期金融市場の種類と構造、外国為替市場の意義、市場における銀行の役割	福田慎一（東京大学教授）	福田慎一（東京大学教授）
8	日本銀行と金融政策	日本銀行は発券銀行であり、銀行の銀行であり、政府の銀行だと言われる。日本銀行の仕事は何だろうか。日本銀行は自由にお金を発行できるのだろうか。日本銀行の貸借対照表を見てみよう。日本銀行はどのような政策手段を用いて、何を目標として金融政策を行うのだろうか。 【キーワード】 日本銀行の仕事、日本銀行の貸借対照表、金融政策の目的、金融政策の手段	福田慎一（東京大学教授）	福田慎一（東京大学教授）
9	バブル・不良債権・預金保険機構	1980年代後半からの日本経済のバブル現象とそれに続くバブル崩壊はどのように進行したのだろうか。金融機関が抱えた大量の不良債権はどう処理され、金融機関の破綻処理はどう進められたのだろうか。公的資本増強はどのような効果を持っていたのだろうか。預金保険機構に求められる新たな役割とは何だろうか。 【キーワード】 バブルの生成と崩壊、金融機関の破綻処理、不良債権問題、公的資本増強、預金保険機構の役割	吉野直行（慶應義塾大学教授）	吉野直行（慶應義塾大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	デリバティブ－新しい金融手法の発達	不動産貸付、企業向け貸出、債券、株式などを食材になぞらえれば、金融派生商品（デリバティブ）は華麗な料理に例えられるかもしれない。リスク分散や資産の流動化など、どのような目的でデリバティブは作られ、金融工学理論はどのような役割を果たしたのか。デリバティブの構造に立ち入り、新しい金融手法の発達が銀行にもたらす役割の変化に注目する。 【キーワード】 資産流動化市場、貸出債券市場、デリバティブの構造、市場における銀行の位置	前多康男（慶應義塾大学教授）	前多康男（慶應義塾大学教授）
11	金融再編とメガバンク	2000年以降の日本では、大型金融再編が相次ぎ、4大メガバンクが誕生した。銀行に規模の利益はあるのだろうか。金融持株会社の意義はどこにあるのだろうか。メガバンクはどのような国際的な活動を行っているのだろうか。メガバンク化は国際的にも進展しているのだろうか。メガバンクの収益率を見てみよう。 【キーワード】 金融再編、メガバンクグループ、国際的な活動、収益状況	吉野直行（慶應義塾大学教授）	吉野直行（慶應義塾大学教授）
12	インターネット銀行	90年代以降金融機関に起こった大きな変化の1つは情報化だった。銀行と消費者や企業の間にはどのようなネットワークが拡大し、情報化によって店舗やアクセス市場はどう変化してきたのだろうか。インターネット銀行の新しさはどこにあるのだろうか。対面取引が減っていくことで、信用基盤や金融機関の安全性に心配はないのだろうか。 【キーワード】 情報化と銀行、インターネット銀行、ネットワークの拡大、信用と安全性	吉野直行（慶應義塾大学教授）	吉野直行（慶応義塾大学教授）
13	地域金融の役割と中小企業金融	日本の企業の99%以上は中小企業だと言われる。中小企業貸出は大企業貸出や定型化された債券市場とどのように異なるのだろうか。地域銀行にはどのような種類があり、どのような特徴を持っているのだろうか。リレーションシップバンキングはなぜ見直されているのだろうか。この分野における公的金融機関の役割は何だろうか。 【キーワード】 地域銀行の種類、リレーションシップバンキング、公的金融機関の役割、収益状況	吉野直行（慶應義塾大学教授）	吉野直行（慶応義塾大学教授）
14	金融監督と金融制度改革	日本の金融市場にとって1990年代は混乱から大変革に至った激動の時代だった。規制緩和はどう進められ、その効果はどう評価されるのだろうか。バブル崩壊後、日本の金融制度改革はどう進められたのだろうか。経営健全性規則、金融商品取引法などは何を目指し、どのような市場の姿を期待しているのだろうか。 【キーワード】 不良債権問題、自己資本比率規制、早期是正措置、金融検査、業務範囲規制の緩和	翁百合（日本総合研究所主席研究員・理事）	翁百合（日本総合研究所主席研究員・理事）
15	グローバル競争時代の銀行	グローバルな決済の動きについて概観する。その中でも、海外との外国為替取引について説明する。日本から海外への資金の流れ、海外直接投資、ポートフォリオ投資（債権・株式）、銀行貸出の動きを見る。また、アジア地域とアメリカ・ヨーロッパとの間の資金の流れについて説明し、アジアの高い貯蓄を如何にアジア域内で循環させるか、さらに、日本の金融業が、アジアを含む海外で活発に活動できるための方策について説明する。 【キーワード】 グローバル化、コングロマリット化、トランスナショナルコーポレーション、邦銀グループの対応、しきりのないタンカーか	吉野直行（慶應義塾大学教授）	吉野直行（慶応義塾大学教授）

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1531603	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　現代経済学　　（’０９）＝（ＴＶ）

※この科目は「現代経済学（’０５）」を一部改訂した科目です。
なお、改訂回は1,5,6,11回です。

〔主任講師（現職名）：賀川　昭夫（東京経済大学教授）〕

講義概要

私達の欲望に限りはないが、資源には限りがある。その限られた資源を様々な欲望を充足するために配分しなければならないが、私達は市場経済という経済体制を用いることで、それを無意識のうちに行っている。市場経済とは多くのお金を支払う人が多くを購入できるという経済システムであり、ミクロ経済学とマクロ経済学という2つの分析手法を用いて、市場経済の果たす資源配分について考えていく。

授業の目標

価格の働きを分析するので価格理論ともよばれているミクロ経済学では、経済を構成する消費者や企業はかぎられた制約の下で自己の目的を最大限実現するように行動する、と考える。これを合理的行動とよぶが、消費者や企業の合理的行動を理解する必要がある。他方、一国全体の経済の動きを分析するので国民所得理論ともよばれているマクロ経済学では、政府が採用する経済政策の背後にある経済学的裏付けを理解する必要がある。これら2点を理解するようにしてほしい。

履修上の留意点

(1)この科目を履修するときには、「経済学入門」をあらかじめ履修しておくことが望ましい。(2)この講義では理論を中心に講義していくので、抽象的な議論になる。そこで、講義を理解するためには印刷教材を丁寧に読むことが必要となろう。(3)マクロ経済学では経済政策の効果を分析するので、新聞やTVで経済ニュースを日常的にチェックするということをすすめる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	資源配分と市場経済（※改訂回）	どのような社会にも「誰がどの資源を使ってどのような生産手段で何をいくら生産し、誰が何をいくら消費するか」という問題がある。市場経済では、価格を媒介にした市場取引を通じてその問題を解決している。このような市場経済の基本的性質について説明する。 【キーワード】 資源の希少性、市場経済、価格メカニズム、合理的行動、完全競争、効率性と公平性	賀川　昭夫（東京経済大学教授）	賀川　昭夫（東京経済大学教授）
2	需要・供給・市場均衡	簡単な例を用いて、需要曲線と供給曲線を導出する。需給がバランスするとき、市場は均衡しているというが、そこでは社会的余剰が最大になっている。これらについて説明する。 【キーワード】 費用・便益分析、限界効用と限界費用、需要曲線と供給曲線、市場均衡、消費者余剰と生産者余剰	賀川　昭夫（東京経済大学教授）	賀川　昭夫（東京経済大学教授）
3	消費者の合理的行動	消費者は、限られた予算の範囲内で、効用を最大にするように財の購入量を決定する。これが消費者の合理的行動仮説であり、これからどのような結論が得られ、それらが現実の観察結果と整合的かどうかについて説明する。 【キーワード】 選好順序、無差別曲線、限界代替率、需要関数、需要法則、スルツキー分解、代替効果、所得効果	賀川　昭夫（東京経済大学教授）	賀川　昭夫（東京経済大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	企業の合理的行動	企業は、保有する生産技術の下で、利潤を最大にするように生産計画を立てる。これが企業の合理的行動仮説である。この仮説の下では、企業の生産要素に対する需要と生産物に対する供給がどのように決まるのかについて説明する。 【キーワード】 生産関数、等利潤線、労働の限界生産力、供給関数、費用関数、生産要素への需要	賀川 昭夫（東京経済大学教授）	賀川 昭夫（東京経済大学教授）
5	競争市場の均衡と効率性 （※改訂回）	財・サービスについての需要と供給が出会う市場で、需給のバランスした状況を均衡とよぶ。競争経済における市場均衡では、資源が効率的に配分されていて、市場経済が効率的であることを説明する。 【キーワード】 市場均衡、ワルラスの法則、パレート最適（パレート効率）、エッジワース・ボックス、効率性と公平性	賀川 昭夫（東京経済大学教授）	賀川 昭夫（東京経済大学教授）
6	不完全競争市場 （※改訂回）	価格をコントロールする経済主体がいれば、市場は独占、寡占、独占的競争など不完全競争市場となる。そこでは、資源配分の効率性が実現しないことなどを説明する。 【キーワード】 独占、デッドウエート・ロス、反応曲線，クールノー均衡、非協力ゲーム、ナッシュ均衡	賀川 昭夫（東京経済大学教授）	賀川 昭夫（東京経済大学教授）
7	市場の失敗	市場経済で資源が効率的に配分されないとき、市場が失敗するという。外部性、公共財、情報の偏在などは、市場の失敗を引き起こすので、それらを是正するために、政府は何らかの政策をとる。これらについて説明する。 【キーワード】 外部効果、公共財、フリー・ライダー、平均費用の逓減	賀川 昭夫（東京経済大学教授）	賀川 昭夫（東京経済大学教授）
8	経済循環と国内総生産	国内総生産（GDP）や失業率は、一国全体の経済活動を集約して表す変数である。マクロ経済学は、これらがどのような水準に定まるのかを明らかにする分野であるが、まずはGDPという基本概念を説明する。 【キーワード】 産業連関表、GDP、最終生産物と中間生産物、国民所得の三面等価、名目と実質	賀川 昭夫（東京経済大学教授）	賀川 昭夫（東京経済大学教授）
9	GDP水準の決定 －乗数分析－	現代マクロ経済学の創始者であるケインズは、生産水準は需要の大きさから定まると考えた。この考え方の下ではGDPがどのような水準に定まるのか、そのとき失業が存在するのかどうか、などを説明する。 【キーワード】 非自発的失業、消費関数、貯蓄関数、乗数、均衡財政乗数	賀川 昭夫（東京経済大学教授）	賀川 昭夫（東京経済大学教授）
10	投資関数	企業が将来の生産能力を拡大するためにを行う設備投資で、たとえば、ある機械を購入するかしないかを、どのように判断するのか、そしてまた一国全体の投資量がどのように定まるのか、を説明する。 【キーワード】 割引現在価値、投資の限界効率，投資関数、加速度原理	賀川 昭夫（東京経済大学教授）	賀川 昭夫（東京経済大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	貨幣への需要と供給（※改訂回）	貨幣とは何か、現金を保有していても、それから収益を得ることはないもかかわらず、人々が現金を保有しようとするのは何故かなど、貨幣に関する基本的なことについて説明する。 【キーワード】 貨幣、貨幣数量説、取引動機、予備的動機、投機的動機、流動性のワナ、日本銀行の役割、金融政策の手段	賀川 昭夫（東京経済大学教授）	賀川 昭夫（東京経済大学教授）
12	財政政策と金融政策－IS-LM分析－	財市場と貨幣市場の2市場が同時に均衡する状況を考える。財政政策や金融政策の結果、その均衡はどう変化するのか、それらの比較から政策の有効性を説明する。 【キーワード】 IS曲線，LM曲線、政策の有効性、リカードの中立性命題、クラウディング・アウト	賀川 昭夫（東京経済大学教授）	賀川 昭夫（東京経済大学教授）
13	インフレーションと失業　－総需要・総供給分析－	財市場、貨幣市場、労働市場の3市場を考え、物価水準がどのように決まるのかを考える。そして、どのような状況にあるときに失業が存在するのか、どのような状況の時にインフレーションが生じるのか、などについて説明する。 【キーワード】 総需要曲線，総供給曲線、政策の有効性、フィリップス曲線	賀川 昭夫（東京経済大学教授）	賀川 昭夫（東京経済大学教授）
14	開放経済のマクロ分析	外国との取引を考えた開放経済を考える。外国通貨との交換比率である為替レートはどのように決まるのか、あるいは、開放経済における財政政策と金融政策の有効性などについて、説明する。 【キーワード】 国際収支表、マンデル＝フレミング・モデル、外国為替レート、購買力平価説	賀川 昭夫（東京経済大学教授）	賀川 昭夫（東京経済大学教授）
15	経済変動と経済成長	時間と共に経済は変化している。経済動学は、時間の経過につれて経済がどのように変化していくかを分析するものである。この章では、経済変動や経済成長の代表的な考え方について説明する。 【キーワード】 景気循環の種類、加速度原理、適正成長率と自然成長率、ソロー・モデル	賀川 昭夫（東京経済大学教授）	賀川 昭夫（東京経済大学教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1530305	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 労働経済 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：松繁　寿和（大阪大学教授）〕

講義概要

この授業では、まず労働経済学の基礎理論を学ぶ。労働市場の動きを労働供給と労働需要に分け、それぞれがどのように決まるかを説明する。その後、現実に起きている問題、例えば、若年労働、仕事と家庭との両立、少子高齢化などを紹介するが、できるだけ具体的な例を取り上げて問題を認識し易くする。その上で、それらの問題が理論的にどのように分析できるかを議論するとともに、制度や政策が労働市場に与えている影響も検討する。

授業の目標

第一に、労働経済の基礎理論を理解し、労働問題に接近するための経済学的考え方を身につける。第二に、現実の問題に関する理解を深める。第三に、政府やエコノミストが唱える政策がどのような理論・実証的背景を持っているのかを理解する能力を身につける。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	労働力	労働力に関する用語の定義と労働市場の状況を捉えるための指標を紹介する。また、これらの指標は、生活のどのような側面を反映しているかを考える。 【キーワード】 労働力、失業、非労働力化	松繁寿和（大阪大学・教授）	松繁寿和（大阪大学・教授）
2	賃金と労働供給	労働市場の分析は、労働供給の動きと労働需要の動きによって決定されるので、まず、労働供給がどのように決定されるかを説明する。なかでも重要な要因である賃金と労働供給の関係を考える。 【キーワード】 労働供給曲線、余暇、名目賃金、実質賃金	松繁寿和（大阪大学・教授）	松繁寿和（大阪大学・教授）
3	賃金以外の要因と労働供給	勤労所得以外の所得の存在が、労働供給に与える影響を考える。例えば、宝くじに当たったような場合、労働者の働き方がどのように変化をするかを理論的に考える。 【キーワード】 非勤労所得、セーフティーネット	松繁寿和（大阪大学・教授）	松繁寿和（大阪大学・教授）
4	労働需要	企業が利潤をもとめて行動することにより、労働への需要がどのように導きだされるかを理論的に説明する。労働供給の議論と対比しながら、賃金と労働需要の関係を考える。 【キーワード】 生産関数、利潤最大化、労働需要曲線	松繁寿和（大阪大学・教授）	松繁寿和（大阪大学・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	労働時間	労働時間の決定に影響をおよぼす要因を、経済的要因と制度的要因の両方から探る。また、それぞれの要因によってどのようなことが労働市場で起きているのかを分析する。 【キーワード】 長時間労働、超過勤務手当、裁量労働	松繁寿和（大阪大学・教授）	松繁寿和（大阪大学・教授）
6	機械と労働	生産要素としての労働と資本、すなわち労働と機械設備との関係を取り上げる。最初に基礎的な理論を紹介し、その後、機械化がそれぞれの需要にどのような影響を与えるかを議論する。例えば、IT化がどのような労働者への需要を増加させているかなどを議論する。 【キーワード】 労働生産性、生産要素間の代替、資本と技能の補完	松繁寿和（大阪大学・教授）	松繁寿和（大阪大学・教授）
7	海外との競争	企業が世界規模での競争を余儀なくされていることに注目し、日本企業の海外移転がどのような影響を日本の労働市場に与えているかを検討する。また、たとえ企業が海外に移転しなくても、生産物の競争によって、間接的に海外の労働価格が国内の労働価格に影響をおよぼすことを説明する。 【キーワード】 海外移転、産業空洞化、コストダウン、	松繁寿和（大阪大学・教授）	松繁寿和（大阪大学・教授）
8	若者と労働	若者の就労意識の変化や不安定な就労の恒常化などの問題を、労働経済学の視点から供給面での変化と需要面での変化に分けて整理し、どのような要因によってそれらが生じているかを検討する。 【キーワード】 ニート、フリーター、就職活動	松繁寿和（大阪大学・教授）	松繁寿和（大阪大学・教授）
9	女性と労働 I	男女間に存在する経済格差に注目し、それがどのように生じるかを考える。また、最近増加している非正規雇用の問題を、特に女性就労の点から取り上げる。 【キーワード】 男女間格差、統計的差別、非正規化	松繁寿和（大阪大学・教授）	松繁寿和（大阪大学・教授）
10	女性と労働 II	まず、結婚出産で仕事を辞め家庭に入るという現象を紹介する。また、少子化がどのように進んできたのかを観察し、女性の労働力化との関係を探る。さらに、近年注目されている均等施策や両立支援策を紹介し、どのような効果が期待されているのかを議論する。 【キーワード】 M字カーブ、少子化、103万と130万円の壁	松繁寿和（大阪大学・教授）	松繁寿和（大阪大学・教授）
11	高齢者と労働	年功に経済合理的意味を与えた労働経済学の理論も紹介する。一方、そのような人事・処遇制度において生じる高齢者雇用の問題を取り上げる。 【キーワード】 年功、定年、年金	松繁寿和（大阪大学・教授）	松繁寿和（大阪大学・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	人事制度と労働意欲	まず、人事・処遇制度の中身を説明し、年功的賃金や昇進がどのように生じるかを説明する。また、労働意欲を向上させるための、報酬・処遇制度における工夫も紹介する。その後、成果主義と言われる人事制度がどのような改革であったのかを考える。また、そのような施策の有効性と限界を考える。 【キーワード】 労働意欲、報酬、成果	松繁寿和(大阪大学・教授)	松繁寿和(大阪大学・教授)
13	中小企業、開・廃業	まず、日本における賃金の規模間格差を観察する。さらに、開業率や廃業率の推移をみることで、経済の新陳代謝の問題を考える。 【キーワード】 中小企業、開業、廃業	松繁寿和(大阪大学・教授)	松繁寿和(大阪大学・教授)
14	コーポレートガバナンスと労働組合	企業経営におけるさまざまなステークホルダーの存在をみることで、企業は一体誰のものであるかを考える。また、従業員の利益を守ってきた組合を取り上げ、その変遷と現在抱えている問題を議論する。 【キーワード】 コーポレートガバナンス、ステークホルダー、組合	松繁寿和(大阪大学・教授)	松繁寿和(大阪大学・教授)
15	格差とセーフティーネット	これまでに見てきた各テーマを格差の視点から捉え直すことで、どのような側面で格差が問題とされているのかを整理し直す。また、セーフティーネットが政策的にどのように変更されたか知り、その影響を検討する。 【キーワード】 ジニ係数、格差拡大、機会の不平等、セーフティーネット	松繁寿和(大阪大学・教授)	松繁寿和(大阪大学・教授)

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1530208	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 日本経済史 （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：宮本　又郎（関西学院大学大学院教授）　〕

講義概要

江戸時代から今日にいたる日本経済の展開過程を全15回にわたって講義します。まず基本的な経済諸量の動きから、長期の経済発展の過程を概観します。ついで各時代の重要な経済史的トピックスについて解説しますが、そのさい、マクロ経済の動きや産業組織、経済諸制度や経済政策の動向とともに、企業や企業組織、企業家の活動、家計と消費、技術と労働などの側面に言及します。講義はできるだけ具体的な資料や事例を紹介しながら進めます。

授業の目標

全15回の講義を通じて、江戸初期以降今日までの約400年において、日本の経済がどのような足跡を辿ってきたのか、どのような節目があったのか、そして、今日我々はどのような到達点に立っているのかについて、理解できるようになることを目標とします。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	日本の経済発展の長期的概観ー世界との比較ー	まず最初に、世界経済の歩みのなかでの日本経済の位置を明らかにすることを目的として、西暦1年～2001年における世界各国の人口、実質GDP（国内総生産）、1人当たりGDPの動きを観察し、その対比において日本の経済発展を長期の視点から展望します。次いで、有史以来の日本の人口動向とその地域分布を検討し、日本経済の発展の様相と地帯構造の変化を明らかにします。 【キーワード】 世界経済2000年史、人口、実質GDP、1人当たりGDP、人口変動の4つの波、人口重心	宮本　又郎（関西学院大学大学院教授）	宮本　又郎（関西学院大学大学院教授）
2	江戸時代の経済と社会	歴史学上「近世」と呼ばれる江戸時代が、古代・中世と比べてどのような歴史的特質をもっていたかを解説します。次に、人口、耕地面積、石高、物価などの動きから、江戸時代の経済発展の過程を観察し、江戸時代は大きく3つの局面に分けられることを明らかにします。また、この経済発展の過程で、農村や都市でどのような変化が生じたのかを検討することにしましょう。 【キーワード】 近世、人口爆発、大開墾、貨幣経済、物価、経済成長、三都	宮本　又郎（関西学院大学大学院教授）	宮本　又郎（関西学院大学大学院教授）
3	近世から近代へー幕末開港と明治維新	ペリー来航を契機に日本は開国し、開放経済体制へ移行しました。開港によりマクロ経済、ミクロ経済にどのようなことが生じたのか、それはその後の日本経済の進路にどのような影響を与えることになったのかを解説し、あわせて明治維新期の諸変革について論じます。 【キーワード】 日米修好通商条約、開港、「価格革命」、貿易と諸産業への影響、廃藩置県、秩禄処分、地租改正、藩債整理、金融制度改革、殖産興業政策	宮本　又郎（関西学院大学大学院教授）	宮本　又郎（関西学院大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	近代経済成長	まず、「近代経済成長」(Modern Economic Growth、略してMEG)の概念と、日本のMEGの特徴について解説します。次いで、19世紀末以降今日にいたる日本の経済成長の過程と景気変動の様子を実質国内総生産(GDP)の成長率を観察して概観し、その後、第1次世界大戦前の時代に焦点を絞って、近代経済成長の要因を、国民総支出(GNE)の項目別寄与率、産業別寄与率、貿易の役割の点から検討します。 【キーワード】 近代経済成長(Modern Economic Growth)、相対的後進性の有利性、景気変動、経済成長の要因分析、貿易の役割	宮本 又郎(関西学院大学大学院教授)	宮本 又郎(関西学院大学大学院教授)
5	近代化の進展と伝統的要素	江戸時代以来の伝統的要素が近現代の日本経済にいかに継承され、変容していったのかを考察します。それは衣食住などの個人消費や、企業経営のあり方などに大きな影響をもたらし、日本の経済発展に個性を加えました。 【キーワード】 工業化、在来産業、近代産業、農村工業、織物業、醸造業、工芸品的工業	阿部 武司(大阪大学大学院教授)	阿部 武司(大阪大学大学院教授)
6	産業革命	1880年代後半に始まる「企業勃興」以降、日本経済は資本主義的な企業が主導する経済発展を始めます。躍動的な資本主義経済を支えたのは資本市場、金融市場、労働市場といった市場制度と、効率的な生産組織でした。それらの形成と相互関係を検討します。 【キーワード】 製糸業, 紡績業, 鉄道業, 制度の効率性, 組織の効率性, 誘因の制御	中林 真幸(東京大学大学院准教授)	中林 真幸(東京大学大学院准教授)
7	戦間期における長期不況とその克服	第1次大戦期から戦間期の日本の経済発展をマクロ的側面から解明します。大戦中・後のバブル、その崩壊と長期不況、そこからの回復という景気動向、それと深く関わる政府の経済政策、長期不況下で顕在化した二重構造などが主なトピックです。 【キーワード】 第1次大戦、長期不況、関東大震災、金融恐慌、昭和恐慌、金解禁、井上準之助、高橋是清、二重構造	阿部 武司(大阪大学大学院教授)	阿部 武司(大阪大学大学院教授)
8	戦間期の産業と企業	第1次大戦期から戦間期のミクロ経済の動向を考察します。まずこの時代の重化学工業化の状況を解説し、次いで大企業体制とはどのようものだったのか、財閥はどのような行動をとったのかを検討し、最後に電鉄・デパート・新消費財などの都市型ビジネスの台頭について論じます。 【キーワード】 重化学工業化、大企業体制、財閥の多角化、新興コンツエルン、都市型ビジネス、小林一三	宮本 又郎(関西学院大学大学院教授)	宮本 又郎(関西学院大学大学院教授)
9	工業化の担い手一企業組織と企業家	まず会社制度、とくに株式会社制度が江戸時代から明治時代において、どのようにして生まれ、展開したかを明らかにします。次いで、明治期の株式会社の特質、企業統治のあり方を検討し、最後に、財閥と株式制度との関係について論じます。 【キーワード】 共同企業、株式会社、合資会社、合名会社、三井大元方、総有、所有と経営の分離、有限責任制、商法、専門経営者	宮本 又郎(関西学院大学大学院教授)	宮本 又郎(関西学院大学大学院教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	戦前日本の技術発展	明治期から昭和戦前期にいたる技術と労働のあり方について、技術導入と自主開発の関係、技術教育の展開、技術者の技能形成、間接的管理から直接的管理への移行、労働運動の展開と協調的労使関係の形成などを中心に検討します。 【キーワード】 高等工業学校、研究開発、試験研究機関、間接的管理、直接的管理	沢井　実（大阪大学大学院教授）	沢井　実（大阪大学大学院教授）
11	戦時統制経済と戦後改革	日中戦争期から高度成長前夜までの経済統制の時代＝「動員」と「復員」および市場経済への復帰の時代を対象にして、日本経済と日本企業はいかに変貌したのか、その際にアメリカ主導で遂行された戦後改革がどのような影響を与えたのかを考察します。 【キーワード】 戦時統制経済、戦後経済改革、ドッジ・ライン、朝鮮戦争ブーム、産業合理化政策	沢井　実（大阪大学大学院教授）	沢井　実（大阪大学大学院教授）
12	高度経済成長	1950年代なかごろから70年代初頭にかけて、日本は世界に類例をみない高度経済成長を達成しました。本章では、まず高度成長の過程とその間におきた景気循環を年代記的に振り返ります。ついで、高度経済成長の要因を需要サイドと供給サイドの両面から検討します。最後に、高度成長の帰結について考察することにしましょう。 【キーワード】 神武景気、岩戸景気、いざなぎ景気、投資主導型成長、大衆消費社会、三種の神器、技術革新、エネルギー革命、成長のひずみ	宮本　又郎（関西学院大学大学院教授）	宮本　又郎（関西学院大学大学院教授）
13	バブルから構造改革へ	産業政策に基づいて政府が資金配分の調整を行う間接金融体制は高度成長の終焉とともにその歴史的使命を終えました。1980年代に始まる金融自由化からバブルの崩壊、さらに橋本龍太郎政権下の金融制度改革を経て完結しつつある金融制度の変化を検討します。 【キーワード】 産業政策，橋本龍太郎内閣，金融制度改革，日本版ビッグバン	中林　真幸（東京大学大学院准教授）	中林　真幸（東京大学大学院准教授）
14	技術革新と労働の変化	国公立試験研究機関、大学、民間企業によって構成される研究開発体制の変化、科学技術政策の展開と通産省・科学技術庁の役割、技術導入から自主開発への動き、戦後労働運動の変遷、技術革新と労働内容の変化などについて論じます。 【キーワード】 科学技術政策、工業技術院、科学技術庁、技術導入、職務給、職能給	沢井　実（大阪大学大学院教授）	沢井　実（大阪大学大学院教授）
15	日本型経済システムのゆくえ	1970年代初めに終焉を迎えた高度経済成長以後、21世紀にいたるまでの日本経済の動向を解説します。高度成長は終わったといえども、80年代までは日本経済のパフォーマンスは国際比較上もすぐれたもので、日本型企業システムが全面開花したこと、しかし、それ以降90年代には長期の不況が続き、日本経済が構造的危機に直面したことを明らかにします。最後に、今日の日本経済が直面している問題は何かについて検討してみましょう。 【キーワード】 安定成長、ニクソン・ショック、オイル・ショック、日本型企業システム、トヨタ生産システム、バブル経済	宮本　又郎（関西学院大学大学院教授）	宮本　又郎（関西学院大学大学院教授）

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	専門科目	科目コード	1531719	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 財政学 （’１０）＝ (TV)

〔主任講師（現職名）：佐藤主光（一橋大学教授）〕

【本学担当専任教員：坂井 素思（放送大学教授）】

講義概要

国・地方を合わせた借金の残高が2009年度末には800 兆円（GDPの1.6倍）を超えるなど財政再建が急務の課題になっている。一方、高齢化に伴い、今後社会保障給付費（年金、医療、介護等）が増加していくものと懸念されている。格差の拡大から、福祉の拡充など再分配への要請も高まっている。さらに地域経済の低迷により財政難に陥った地方自治体も数多い。我が国の財政（国・地方）は現在、将来に渡って困難な課題が山積しているのである。財政は全ての国民にとって身近な問題である。医療や年金に限らず、日常、享受している地方公共サービス（ゴミの収集、衛生管理、公園や道路の整備）、あるいは国防や治安も、国や地方といった公共部門によって提供されている。また、社会保障の財源として消費税の増税や社会保険料の引上げなど、国民の負担増を求める改革が議論されている。この講義では経済学の視点から財政の理論を学ぶとともに、財政（公共部門）に関わる諸問題（税制改革、社会保障など）について考えていきたい。

授業の目標

財政の役割と課題について、その経済理論と実証（事例）を理解するとともに、税制、社会保障、地方分権に渡る包括的・体系的視点と政策分析能力を身につける。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	財政の現状	財政学を学ぶにあたって、我が国の財政が置かれた危機を概観するところからはじめたい。続いて、財政制度の特徴について説明する。制度の詳細な解説ではなく、その（経済学的）含意に着目する。最後に、財政学について一般にありうる誤解とその実際について説明する。 【キーワード】 景気対策、財政赤字、高齢化、国際的租税競争、一般会計、特別会計、霞ヶ関埋蔵金、政府の失敗、市場の失敗	佐藤主光（一橋大学教授）	佐藤主光（一橋大学教授）
2	財政の役割と市場の失敗	財政学の基本的な考え方について紹介する。はじめに「市場の失敗」をキーワードに公共部門（国・地方）の果たすべき役割について説明する。次に経済学の観点から市場の失敗を含む経済の諸問題に対する評価の軸として公平と効率を紹介する。その上で、財政の基本的な機能（役割）としての3機能を取り上げる。 【キーワード】 公平、効率、市場の失敗、資源配分機能、所得再分配機能、経済安定化機能	佐藤主光（一橋大学教授）	佐藤主光（一橋大学教授）
3	外部性の理論と実際	「市場の失敗」の典型例として外部性に関わる諸問題を紹介する。最初に例を挙げつつ、外部性の定義とそのタイプ（外部経済・外部不経済）について説明する。続いて、外部性の是正策として課税や補助金を政策手段として政府が介入する集権的アプローチと外部性に関わる当事者同士が話し合う分権的アプローチを取り上げる。前者の例としては環境税や環境規制がある。後者は「コースの定理」として知られる。また、CO2など温暖化ガスの排出に関わる排出権取引を例に、市場メカニズムを活用した外部性の是正（市場の失敗の矯正）の可能性についても言及する。 【キーワード】 外部便益、外部費用、ピグー税・補助金、コースの定理、所有権、「共有地の悲劇」、排出権（量）取引市場	佐藤主光（一橋大学教授）	佐藤主光（一橋大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	公共財理論	政府が供給を担うべき財貨・サービスとして公共財がある。本講義では始めに公共財の経済的な性質を明らかにする。次に公共財供給に伴う「ただ乗り問題」を簡単な「囚人のジレンマ」（非協調）ゲームを使って説明する。また、公共財と（市場で通常取引される）私的財の中間的な性質を持った「準公共財」という概念を導入する。 【キーワード】 非競合性、非排除可能性、等量消費、ただ乗り、囚人のジレンマ、公的供給と公的生産、準公共財	佐藤主光（一橋大学教授）	佐藤主光（一橋大学教授）
5	公共選択論入門	経済学の観点から公共選択（政府の政策決定過程）を説明する。その上で、代表的公共選択モデルとして多数決投票を紹介する。また、多数決投票に起因する「パラドック」について述べる。多数決投票や選挙を通じて公共政策に投票者の中でも「中位」な選好が反映されるとする「中位投票者定理」とその拡張についても言及する。失敗するのは市場だけではない。「政府の失敗」のケースとして官僚の予算最大化行動、利益誘導政治、レント・シーキングを取り上げる。 【キーワード】 リバイアサン仮説、多数決投票、投票のパラドックス、中位投票者、政府の失敗、ニスカネンモデル、利益誘導政治、レント・シーキング	佐藤主光（一橋大学教授）	佐藤主光（一橋大学教授）
6	租税の経済効果	税の経済的な効果について学んでいく。はじめに税の基本的な性格(機能)について概観する。受益と負担の対応関係(リンク)の欠如などが強調される。こうした税が家計の選択に及ぼす効果をミクロ経済学の簡単なモデルを用いて説明する。税率の変化が需要行動の及ぼす影響をスルツキー方程式の「代替効果」と「所得効果」に区別する。このモデルは労働供給や貯蓄の選択に拡張される。そこでは代替効果と所得効果の符号の相違によって、税のネットの効果が不明瞭になることが示される。 【キーワード】 税の機能、自動安定化装置、直接税、間接税、誘因効果、代替効果、所得効果	佐藤主光（一橋大学教授）	佐藤主光（一橋大学教授）
7	税の帰着と負担	税の納税義務（支払い）と負担は経済的には必ずしも一致しないことを指摘する。その上で、物品税を例に部分均衡分析を用いて課税が消費者（家計）と生産者（企業）の負担にどのように帰着するかについて説明する。需要・供給の価格弾力性の程度の違いが帰着に大きく影響することを明らかにする。また、税に対する社会的通念と実態の違いとして、消費税と労働（賃金）所得税との間の「税等価」や（税としての）社会保険料にもの労使折半の効果について言及する。 【キーワード】 税の支払いと負担、帰着分析、価格弾力性、税等価、労使折半	佐藤主光（一橋大学教授）	佐藤主光（一橋大学教授）
8	税制の効率と公平	課税の経済コストとして会計上の費用との違いを指摘した上で、超過負担の概念とそのフォーミュラを紹介する。続いて税の公平感として、応益原則、応能原則の違いに加え、垂直的公平と水平的公平の区別をする。税の再分配機能を図る尺度として課税の累進性が挙げられるが、その定義と含意についても述べる。最後の望ましい税の原則として、公平性、中立性（効率性）のほか、簡素性を取り上げる。 【キーワード】 超過負担、二重の配当、応益原則、応能原則、垂直的公平、水平的公平、累進性・逆進性、生涯所得、中立性、簡素性	佐藤主光（一橋大学教授）	佐藤主光（一橋大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
9	望ましい税制に向けて	経済学の価値基準である公平と効率の観点から望ましい（あるべき）税体系（税制）のあり方について考えていく。具体的には間接税（物品税）の最適税体系（ラムゼー・ルール）や最適所得税の理論を紹介する。そこでは課税による効率性の損失が（代替効果を抽出した）価格弾力性にとって測られ、弾力性の低い財貨に対して相対的に高い課税を行うべきことが強調される。ただし、所得分配上の公平性を勘案した場合、公平からみて望ましい税制と効率に適う税制に乖離が生じること、両者を折衷するところで、公平と効率のトレード・オフが生じることが示される。 【キーワード】 次善、限界的超過負担、物品税、ラムゼー・ルール、逆弾力性命題、トレード・オフ、税と社会保障の一体化	佐藤主光（一橋大学教授）	佐藤主光（一橋大学教授）
10	企業課税と経済のグローバル化	ヒト・モノ・カネが国境を越えて自由に移動するグローバル化に対応した新たな税体系と課税原則が求められている。本章では始めに国際的租税競争（法人税率の引き下げ競争）の実態を紹介する。続いて、法人税・資本所得税の税負担の帰着について均衡分析に即して説明する。また、課税原則や租税競争に伴う協調の失敗（囚人のジレンマ）など国際課税に伴う諸問題について述べる。 【キーワード】 租税競争、法人税の帰着、代替効果、産出量効果、居住地主義、源泉地主義、仕向地主義、移転価格税制、囚人のジレンマ、名目税率と実効税率	佐藤主光（一橋大学教授）	佐藤主光（一橋大学教授）
11	コミットメントと時間整合性問題	税制、社会保障政策などの政策には「長期的」な観点からコミットされることが望まれる。しかし、実態は場当たり的、裁量的になりがちだ。これはの「時間整合性問題」として知られている。事前（＝長期）の観点から望ましい政策と事後的（＝短期）に望まれる政策の乖離を示した上で、政策の裁量性が（現状追認型の）事後的最適の追求に偏ることを強調する。その結果、経済主体の事前的選択に歪み（モラルハード）が生じることを述べる。その例として「資本所得課税」や「ソフトな予算制約」問題の理論を説明する。政府のコミットメントを促すための制度設計にも言及する。 【キーワード】 時間整合性問題、コミットメント、事後的裁量、事前的モラルハザード、「大き過ぎて潰せない」、事後的弾力性、ソフトな予算制約、ルール対裁量	佐藤主光（一橋大学教授）	佐藤主光（一橋大学教授）
12	国と地方の財政関係	地方分権の気運が高まっている。本章では、地方分権のメリットを「分権化定理」、地域間競争として紹介する。続いて、分権化の課題として地域間外部性に起因する「地方分権の失敗」について説明する。地方分権は国から地方への補助金（財政移転）の全廃を意味しない。政府間財政移転の規範的役割と実態に言及する。 【キーワード】 機能配分論、応益原則、分権化定理、足による投票、ヤードスティック競争、租税競争、租税輸出、政府間財政移転、一般補助金、特定補助金、ソフトな予算制約	佐藤主光（一橋大学教授）	佐藤主光（一橋大学教授）
13	社会保障制度の再構築	高齢化により社会保障給付が増加、その制度の持続可能性が問われている。ここでは年金、医療制度の課題と近年の改革の動向を概観した上で、望まれる社会保障制度改革のあり方について考える。 【キーワード】 持続可能性、国民皆保険、制度の分立、共助・公助、保険料未納、保険原理、基礎年金、消費税、みなし確定拠出年金、保険者機能、管理競争	佐藤主光（一橋大学教授）	佐藤主光（一橋大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
14	財政赤字と財政再建	90年代以降、我が国の財政は悪化の一途を辿っている。本章では近年の我が国の財政の動向を概観した上で、その持続可能性の問題に言及する。財政赤字の経済学としてリカードの中立命題、課税平準化の理論、及び財政再建先送りの誘因について説明する。操作変数としての財政赤字と残余としての財政赤字の相違が強調される。 【キーワード】 乗数効果、内国債、財政の持続可能性、課税の平準化、リカードの中立命題、財政再建の再送り、霞ヶ関埋蔵金	佐藤主光（一橋大学教授）	佐藤主光（一橋大学教授）
15	我が国の財政の今後	我が国の財政の課題について概観するとともに、本講義のまとめとして、制度改革に向けた視点を提示する。 【キーワード】 予算ルール、還付付き税額控除、フリーランチ、ミクロ効率性・マクロ効率性、制度設計	佐藤主光（一橋大学教授）	佐藤主光（一橋大学教授）

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1532405	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　現代の犯罪と刑罰　　（’０９）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：大越　義久（東京大学大学院教授）　　〕

講義概要

本講義は、犯罪と刑罰の現実の姿を、【犯罪→捜査→起訴→裁判→判決→刑務所→出所】という一連のプロセスの下で明らかにした上で、我が国の刑事司法が抱える問題点を指摘し、それらに検討を加えようとするものである。多くの人が平成21年5月より導入された裁判員制度に大きな不安を抱いていると新聞報道されていたが、本講義がその不安を払拭するための一助になれば幸いである。

授業の目標

全15回の講義を通じて、我が国の刑事司法システムがどのようなものであり、どのように運用されているのか、を理解することを目標とする。我が国の刑事司法の問題点を批判的に検討できるようになることを最終の目標とする。

履修上の留意点

法律の条文は六法全書で確認し、可能であれば、検討の対象となっている判決に、判例集・判例時報・判例タイムズなどを紐解いて、直接あたってみることが、望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	ガイダンス	犯罪の法的定義とその意義、罪刑法定主義の柱の一つである法律主義をめぐる問題、刑罰の定義と種類、刑事裁判はどのように進行するのか、という点について説明・検討する。 【キーワード】 罪刑法定主義、構成要件、該当性、違法性、有責性、残虐な刑罰の禁止、白地刑罰法規、罰則つき条例、刑事判決の確定、起訴前手続、公判手続	大越義久（東京大学大学院教授）	大越義久（東京大学大学院教授）
2	犯罪と刑罰の現状	捜査段階での処理件数・人員、地方裁判所の処理件数・人員、上級審での処理件数・人員、裁判確定人員を通じて、我が国の刑事司法システムにおける犯罪と刑罰の現実を確認する。 【キーワード】 認知件数、検挙件数、発生率、検挙率、処理人員	同上	同上
3	刑事手続の基礎	捜査の柱である「証拠の収集」と「犯人の身柄確保」を説明し、私的な「当番弁護士」と公的な「起訴前国選弁護」、「起訴」、平成17年11月から施行されている「公判前・期日間整理手続」、平成18年10月から施行されている「即決裁判手続」について説明・検討する。 【キーワード】 令状主義、職務質問、所持品検査、強制捜査、任意捜査、逮捕、勾留、起訴独占主義、起訴便宜主義、検察審査会、公判前、期日間整理手続、即決裁判手続	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	事実の認定	刑事裁判での事実認定をめぐる主要な問題は、「証拠能力」、「自白の補強法則」、「事実の縮認定」でにある。これらについて、判例分析をしたりして、説明・検討を加える。 【キーワード】 自白の任意性、伝聞法則、違法収集証拠、自由心証主義	大越義久（東京大学大学院教授）	大越義久（東京大学大学院教授）
5	刑法の解釈①	食器放尿事件、事務所ビラ貼り事件、ガソリンカー転覆事件、都教組事件、福岡県青少年保護育成条例違反事件の検討を通して、「拡張解釈」、「縮小解釈」について検討する。 【キーワード】 拡張解釈、縮小解釈、類推解釈、合意限定解釈、実体的デュー・プロセスの理論	同上	同上
6	刑法の解釈②	公文書写真コピー事件、電気窃盗事件、車庫とばし事件、テレホンカード事件、熊本水俣病事件、梅田事件の検討を通して、「類推解釈」、「違法阻却事由についての解釈の歪み」、について検討する。 【キーワード】 類推解釈のいろいろ、類推解釈と立法的措置	同上	同上
7	刑法の解釈③	「窃盗罪」と「過失犯」の成立要件について、検討を加える。地方裁判所での処理件数で第1位を占めるのが窃盗罪であり、第2位につけるのが業務上過失致死傷罪であるからである。 【キーワード】 財物、占有、旧過失論、新過失論、予見可能性	同上	同上
8	死刑①	律令時代から現代にいたるまでの我が国における「死刑の歴史」と、現行法の死刑犯罪、死刑執行の手続、死刑の運用、死刑囚の実態など「死刑の現在」を説明する。 【キーワード】 死刑違憲論、死刑合憲論、死刑犯罪、死刑囚と無期囚、死刑の執行	同上	同上
9	死刑②	死刑存置論の根拠、死刑廃止論の根拠、死刑を刑罰とすることの意味、「死刑は残虐な刑罰か」、「絞首刑は残虐な刑罰か」、「絞首刑は法定の手続の保障に反しないか」、「死刑選択の基準は何か」を論じた最高裁判例に検討を加える。 【キーワード】 人道主義、威嚇力、応報感情、誤判の恐れ	同上	同上
10	死刑③	死刑と社会契約説は調和するのか、社会契約説を批判する死功利主義は死刑をどのように捉えるのか、刑罰を科学的に捉えようと試みた立場は死刑をどのように考えたのか、について説明する。 【キーワード】 社会契約説、ベッカリーア、ルソー、カント、ラードブルフ、コーエン、ベンサム、ロンブローゾ、フェリー	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	自由刑①	明治時代の刑罰体系の中で自由刑はどのように捉えられていたのか、処遇制度は明治以降から現在に至るまでどのような歩みを辿ってきたのか、自由刑の現在（実態）はどのようなものか、について説明する。 【キーワード】 旧刑法、監獄則図式、監獄法、刑事施設・受刑者処遇法、刑事施設・刑事被告人収容法、分類処遇、累進処遇	大越義久（東京大学大学院教授）	大越義久（東京大学大学院教授）
12	自由刑②	「無期懲役刑は残虐な刑罰か」、「禁錮刑は勤労の権利・義務に反するか」を問題にした最高裁判例に検討を加え、さらに現在の自由刑の課題をいくつか指摘する。 【キーワード】 無期懲役刑、禁錮刑、単一刑論、刑務所での作業、過剰収容、高齢受刑者の増加	同上	同上
13	刑罰の理論	犯罪者に刑罰を科すのは何のためか、我が国の再犯防止教育はどのようなものか、それは効果的か、犯罪防止対策はどのような観点から考えるべきか、について検討を加える。 【キーワード】 追放、隔離、矯正、再犯防止教育、改善指導、性犯罪者処遇プログラム、犯罪防止対策	同上	同上
14	現代社会の犯罪と刑罰①	少年法は近時3度改正されたが、その経緯、内容について検討を加え、犯罪を犯した精神障害者についての新たな処遇制度を規定する心神喪失者等医療観察法に検討を加える。 【キーワード】 少年院、児童自立支援施設、保安処分、精神障害犯罪者、措置入院	同上	同上
15	現代社会の犯罪と刑罰②	刑法の環境保護に果たす役割は何かについて検討し、迷走を続ける共謀罪の新設の経緯とその問題点を明らかにし、近時の刑事立法ラッシュの意味するものは何か、について検討を加える。 【キーワード】 環境保護、特別刑法、行政訴訟、行政的措置、国際犯罪防止条約、共謀罪、治安の悪化	同上	同上

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目コード	1533002	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　現代環境法の諸相　　（’０９）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：原島良成（熊本大学准教授）〕

〔主任講師（現職名）：北村喜宣（上智大学教授）〕

講義概要

本講義では、廃棄物問題を始めとする日本国内の身近なトピックを複数取り上げて、汚染者、近隣住民、政府、裁判所といった各アクターの「果たすべき役割」という観点から、現代環境法の姿を複眼的に浮かび上がらせる。具体的には、廃棄物処理法等個別の環境実体法のほか、環境リスクの探知と管理（環境計画法制、PRTR法制、環境影響評価法制）、行政的な義務付けとエンフォース（行政手続法制、行政強制法制）、司法的な義務付けとエンフォース（民事訴訟・執行法制、行政訴訟法制）を中心に、ケースを挙げて解説を加え、環境税制や景観保護といった最新の環境政策課題も含めて、今後の議論の方向を展望する。

授業の目標

20世紀後半、激甚公害の発生で一躍脚光を浴びることとなった環境法は、今日、一つの転換点を迎えている。気候変動のような複雑なメカニズムによる大規模な環境影響への対応を迫られるようになり、また、化学物質への微量・長期・複合暴露によるリスク評価のように、相当程度の不確実性を織り込んだ判断が求められるようになった。単純に環境破壊行為を取り締まる規制法システムでは、現代的環境問題の解決は望み難く、様々な経済活動に伴う環境影響を評価し汚染リスクを緩和する仕組み、すなわち「環境法政策」の発想が必要である。本講義では、現行法令の表面的理解にとどまらず、具体の法政策の策定・実施過程も視野に入れた、現代環境法の諸相への習熟を目指す。

履修上の留意点

「市民生活の財産法（’06）」「行政法と市民（’06）」と併せて履修することで、より効果的な学習が期待できる。なお、印刷教材と放送教材とは、それぞれのメディア特性に配慮して内容を関連付けながら、構成されている（進行速度として放送教材の1回分と印刷教材の1章分は対応しないが、基本的には同じ順序で相互に関連した話題が進行する）ので、両教材で学習すれば、効果的である。ただし、印刷教材で学習することが放送教材の予習になるかというと、そのようなことを意識して構成・制作・執筆されているわけではない。むしろ、放送教材をある程度視聴した後に印刷教材を読むことで、テキストの内容をイメージしやすくなるであろう。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	環境問題発生のメカニズムと法	環境法は、実定法の科目である。ただ、体系らしきものがないうえに、法律ばかり多い。その法律も、技術性の程度が高い。これまでの法律学習においては、こうした法律を対象にすることは少なかったために、いきなり環境実定法にふれると、理解にとまどうことがある。環境法とはどのようなもので、どのような特徴があるのだろうか。 【キーワード】 環境法の存在意義、環境法の存在形態、環境法の動態把握	北村喜宣（上智大学教授）	原島良成（熊本大学准教授） 北村喜宣（上智大学教授）
2	環境法が生まれる	環境法というのは、私たちが自由を満喫する過程で貴重な自然や風景が失われてしまうといった問題に直面し、持続可能な発展、また社会的に望ましい状態の実現に向けて悩む中で、生まれてくる。それは法律という形をとることもあれば、裁判や、あるいは難解な正議論の中に現れることもある。法はいかにして環境影響をコントロールしうるのか。民事訴訟や行政の仕組みを概観する。 【キーワード】 自然環境、人工環境、民事訴訟、行政法システム	北村喜宣（上智大学教授）	原島良成（熊本大学准教授） 北村喜宣（上智大学教授）
3	環境法政策～政府の役割（1）	環境法政策は、環境に関する責任を、法律や条例として制度化している。その目指すところは、当初は経済発展を阻害しない限りでの環境保護であったが、やがて、持続可能な発展を目指す国際的潮流が意識されるようになり、また、環境権の議論と裁判の蓄積は、公益としての環境を保護する必要性を、強く印象付けることとなった。現代環境法の目標、責任の制度化の方向を解説する。 【キーワード】 持続可能な発展、環境公益の実現、PPP（汚染者支払原則）、EPR（拡大生産者責任）	北村喜宣（上智大学教授）	原島良成（熊本大学准教授） 北村喜宣（上智大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	環境法政策～政府の役割(2)	環境法政策を眺めるとき、そもそも対応しなければならない課題の性質が、公害国会の時代と持続可能な発展を追求する現代とでは、変わってきている。より複雑な因果関係による、不確実な環境被害を想定しなければならない。環境法政策は、環境リスクを管理する、という現代の困難にどう対処しているのか。またそうした法政策は、いかにして形成され、実施されているのか。 【キーワード】 未然防止的／予防的アプローチ、環境リスク、環境比例原則	北村喜宣(上智大学教授)	原島良成(熊本大学准教授) 北村喜宣(上智大学教授)
5	環境法政策～政府の役割(3)	環境法政策の形成と実施を担当する組織に注目し、環境保護のどの部分を中央政府が担い地方政府が担うのか、また市民参画はどうあるべきかという、環境ガバナンスの大きな枠組に焦点を当てる。環境法政策概観の締めくくりとして、環境法がどういう仕組みでその目的を達成しようとしているのか、人の意思決定へのアプローチを、具体例に即して分類・整理する。 【キーワード】 地方分権、環境ガバナンス、市民参画	北村喜宣(上智大学教授)	原島良成(熊本大学准教授) 北村喜宣(上智大学教授)
6	法は環境を守れるか～市民の役割(1)	環境汚染を通じてある人の健康が損なわれる、財産が失われるといったことを、正義・不正義の問題として捉え、裁判をつうじてその救済を図る法理論はないのか。環境法の理論は、「法政策」に関する理論と、法的に保護されるべき利益を析出しその救済を可能にする「法解釈」の理論と、両方相まって完成されるものと言える。今回から3回、訴訟の仕組みと現実の裁判例に注目する。 【キーワード】 不法行為責任、受忍限度、疫学的因果関係	北村喜宣(上智大学教授)	原島良成(熊本大学准教授) 北村喜宣(上智大学教授)
7	法は環境を守れるか～市民の役割(2)	環境利益は個人的利益に集約されない側面がある。そこで、環境訴訟における「被害者救済」にとどまらない裁判の機能を俯瞰する。環境民事訴訟において発展してきた共同不法行為理論を取り上げ、民事訴訟による環境保護の可能性と困難性について考える。すると、環境行政訴訟の存在意義が浮かび上がってくる。 【キーワード】 関連共同性、違法性段階説、抽象的差止請求、原告適格、行政裁量	北村喜宣(上智大学教授)	原島良成(熊本大学准教授) 北村喜宣(上智大学教授)
8	法は環境を守れるか～市民の役割(3)	裁判外の紛争処理制度について、解説する。訴訟に比べ利用者の負担が軽いなどの利点があり、その実態に注目してみたい。最後に、実体法解釈・訴訟法論の締めくくりとして重要な環境法判例を取り上げ、これまでに見てきた議論がどのように現実の環境紛争において立ち現れるのか、確認する。 【キーワード】 ADR、公害紛争処理制度、公害健康被害補償制度	北村喜宣(上智大学教授)	原島良成(熊本大学准教授) 北村喜宣(上智大学教授)
9	環境法システムを設計する(1)	環境法システム設計の要点は、①目的、②規制対象、③規制内容、④規制手法である。それぞれの内容を具体的に理解することで、既存の環境法を分析するだけだなく新たに設計する力を身につけたい。法制度の目的設定、規制対象設定について概説した上で、規制内容としての基準設定のあり方を解説する。 【キーワード】 「不要物」、調和条項、環境基準、行政リソース	北村喜宣(上智大学教授)	原島良成(熊本大学准教授) 北村喜宣(上智大学教授)
10	環境法システムを設計する(2)	規制というのは、国民の権利や自由に制限を課すものであるから、国会が制定する法律という形式、あるいは、地方議会が制定する条例という形式において、根拠づけられなければならない。では、環境規制を法律や条例として書き起こすとしたら、どういう内容の文書にしたらよいだろうか。義務付けの手法に注目する。 【キーワード】 届出制、許可制、誘導的手法、合意的手法	北村喜宣(上智大学教授)	原島良成(熊本大学准教授) 北村喜宣(上智大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	環境法システムを設計する(3)	前回の続きで、規制の手法について解説する。的確な環境行政実施のためには、情報の収集が不可欠である。そのような情報収集の仕組みも、法政策に組み込まれなければならない。そのほか、環境汚染・破壊を回復するための事業や基金の制度化、環境保護のため誰かに特別の犠牲を負わせる際の損失補償の仕組みも、必要となる。 【キーワード】 報告徴収、立入検査、指定法人、損失補償、受益者負担／原因者負担	北村喜宣（上智大学教授）	原島良成（熊本大学准教授） 北村喜宣（上智大学教授）
12	環境法システムを設計する(4)	規制の最終局面、義務履行確保の手法について解説する。環境法規制についても、他の規制と同様、刑事罰を背景とした履行確保が中心となるが、そのほかに、許可取消や制裁的公表といった仕組みも、用いられている。さらに、市民参画も、義務履行確保において重要な意味を持つようになってきている。 【キーワード】 命令前置制／直罰制、行政罰、制裁的公表、権限発動促進制度	北村喜宣（上智大学教授）	原島良成（熊本大学准教授） 北村喜宣（上智大学教授）
13	環境法の実施主体と活動の実際(1)	環境管理は、国、自治体、事業者、市民がそれぞれの役割を適切に果たすことで実現される。義務付けられる事業者のみの問題としてではなく、規制を運用する行政組織やその執行の実際にまで目を配って環境法を捉えなおすことは、より良い環境法システムの設計につながるであろう。まずは、環境法過程における各主体の位置づけを再確認する。 【キーワード】 自治体の事務、法律に基づく権限、環境コンプライアンス、環境行政手続法制	北村喜宣（上智大学教授）	原島良成（熊本大学准教授） 北村喜宣（上智大学教授）
14	環境法の実施主体と活動の実際(2)	法律や条例に環境保護の仕組みを書き込んだとしても、それがどのようにエンフォース（enforce：執行、強制）されるかは、また別の問題である。水質汚濁防止法、廃棄物処理法等、環境法の執行実態に関するトピックを紹介することをつうじて、生きた環境法の姿に迫り、あるべき環境法システムの姿を展望する。 【キーワード】 行政指導志向、裁量基準（ガイドライン）、「外部の目」の制度化	北村喜宣（上智大学教授）	原島良成（熊本大学准教授） 北村喜宣（上智大学教授）
15	現代日本の環境法～その特徴と課題	外国の環境法と比較して、日本環境法は、強制的アプローチが中心となっている。また、行政裁量が広く、行政のエラーに対する手当てが乏しい。より良い環境法システムを構築するためには、こうした現代日本の環境法の特徴を実証的に明らかにする作業が必要となる。補論的に、日本環境法の特徴を指摘しその改善策を展望することで、本講義の総括とする。 【キーワード】 規制コストへの無配慮、行政無謬論、広範な行政裁量、財産権尊重の過剰、国と自治体の役割分担問題	北村喜宣（上智大学教授）	原島良成（熊本大学准教授） 北村喜宣（上智大学教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1530801	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 裁判の法と手続 （’０８）＝（ＴＶ）

※この科目は「裁判と法の手続（’04）」の一部改訂科目です。
改訂回は2, 4, 5, 6, 9, 12, 14回です。

〔主任講師（現職名）：酒巻　匡（京都大学大学院教授）〕

〔主任講師（現職名）：山本　和彦（一橋大学大学院教授）〕

講義概要

法と裁判、とくに司法制度に関する現代的な課題を中心にとりあげ、何が問題とされ、どのような改革の課題が提出されているか、これに対して、現在進行形の制度改革の動きを取り入れながら、その将来を展望する。新しい問題を扱う場合が多いが、その前提として、法と裁判制度の現状や歴史的な背景をも説明する。

授業の目標

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	法の解釈・適用と裁判	裁判はいわゆる法的三段論法によって行われるものであるが、その内容を理解するとともに、現代的訴訟等で特に明らかになるその限界を考える。	山本　和彦（一橋大学大学院教授）	山本　和彦（一橋大学大学院教授）
2	司法権の範囲と機能（※改訂回）	国家三権の1つである司法権の他の国家権力及び自治的団体等との関係を、いわゆる審判権の範囲に関する判例や違憲法令審査権等を中心に考える。	同　上	同　上
3	裁判の歴史と日本の司法制度の近代化	現代日本の裁判制度は、西欧近代の裁判制度を移植しこれを発展させてきたものである。その過程を跡付けると共に、母法とされた西欧諸国の裁判の歴史についても概観する。	酒巻　匡（京都大学大学院教授）	酒巻　匡（京都大学大学院教授）
4	裁判を受ける権利と民事裁判（※改訂回）	憲法32条が保障している裁判を受ける権利の意義について、特に欧州諸国における戦後の発展などを受けて、公開原則等とも関連づけながら考える。 民事訴訟制度に要するコストとその負担の問題について、司法予算のあり方、法律扶助、弁護士費用の敗訴者負担などの個別の論点にふれながら考える。	山本　和彦	山本　和彦
5	裁判所の種類と機能（※改訂回）	最高裁判所・高等裁判所・地方裁判所・家庭裁判所・簡易裁判所それぞれの役割と現代的な意義について、上告受理制度・人事訴訟の家裁移管・少額訴訟制度等の問題にふれながら考える。	山本　和彦	山本　和彦
6	裁判外紛争解決（ADR）（※改訂回）	仲裁・調停などADRと言われる制度の現状・課題を検討し、民事訴訟の機能との関係でその充実・活性化の必要について、立法化の動き等とともに考える。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
7	民事訴訟制度の現代的機能	民事訴訟の目的について従来の議論を紹介するとともに、行政改革・規制緩和が進む新たな日本社会において民事訴訟に期待されている役割について考える。	山本　和彦	山本　和彦
8	民事訴訟制度の改革と現代的課題	民事訴訟制度について、司法制度改革の中でも言及された様々な課題について、その迅速化・国際化・専門化などの要請に応える方策について考える。	同　上	同　上
9	刑事法の機能と司法制度－刑事司法制度(1) **（※改訂回）**	刑事司法制度全体の仕組みと流れを解説すると共に、そこで適用実現されることになる刑法の基本的な原則と働きについても触れる。合わせて少年非行に対する少年法の扱いについても言及する	酒巻　匡	酒巻　匡
10	犯罪と捜査－刑事司法制度(2)	犯罪捜査に関する手続の概要を解説すると共に、新しい捜査手法とその法的な統制に関する立法や議論についても検討する。	同　上	同　上
11	犯罪と裁判－刑事司法制度(3)	刑事裁判手続の基本的な流れについて解説すると共に証拠に基づく事実の認定や証拠法の基本原則と犯罪捜査手続との関連についても解説する。	同　上	同　上
12	刑事司法制度の改革と現代的課題 **（※改訂回）**	司法制度改革の中心の一つである「裁判員制度」の概要について説明すると共に、これに伴う刑事司法制度改革の全体像について説明する。 合わせて諸外国の国民の司法参加制度についても紹介する。	酒巻　匡	酒巻　匡
13	法律家の種類と機能	裁判官・検察官・弁護士のそれぞれの役割と現代的な意義について、司法制度改革における様々な制度改革にふれながら考えるとともに、その他の法律関係職種にもふれる。	山本　和彦	山本　和彦
14	法学教育の改革と法曹養成制度 **（※改訂回）**	司法制度改革の中で最大の争点の1つとされた法曹養成制度について、歴史的な経緯や諸外国の動向などにもふれながら、新たな法科大学院・司法試験・司法修習等の意義について考える。	同　上	同　上
15	司法制度の将来展望	講義の全体を踏まえて、司法制度改革と将来のあるべき司法の姿について、司法制度改革審議会委員であった方の参加を求める。	同　上	酒巻　匡 山本　和彦

事務局記載欄	開講年度	２０１１年度	科目区分	専門科目	科目コード	1639056	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　企業・消費者・政府と法　（’１１）＝　（R）
―消費生活と法―

〔主任講師（現職名）：來生新（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：山本裕子（大東文化大学教授　法学部）〕

講義概要

横浜に住む還暦を過ぎた夫婦が、日常生活で経験するさまざまな消費体験を、法律学の視点から整理する。それを、これまで法律学を本格的に学んだことのない聴講生にも興味を持ってもらえるように、平易に解説する作業を通じて、「企業」、「消費者」、「政府」という現代の消費生活=社会生活の主要なステイク・ホルダーが、それぞれどのような性格のもので、その相互関係がいかなるもので、今後どのようにその関係を築いていくべきかを法律学の立場から考える。伝統的な法律学の分野でいえば、経済法、商法、行政法の領域にかかわる諸現象を、歴史的な視点を含めて総合的に取り扱う。

授業の目標

団塊の世代に属し、現役を引退しつつある夫婦が、日常の消費生活で経験するさまざまな出来事を具体の素材とし、聴講生に消費生活をめぐる法知識を身につけてもらうことが第一の目標である。第二の目標は、この講義を通じて、法律あるいは法的なものの見方・考え方について理解を深めてもらうことである。この講義の最後の目標は、21世紀の中葉に向けて、企業と消費者と政府のあるべき関係について考察することである。

履修上の留意点

法的な知識を持つことを要求はしない。法律学の初心者が理解できる平易な解説を心がけるつもりである。しかし、取り扱う対象が消費にかかわる経済活動であり、それを分析する手法が伝統的な法律学で築かれた方法であるので、履修者は過去から今日に至る日本社会の経済問題、消費者問題に基本的な関心を有し、ねばり強く、なじみのない法的な概念・考え方を習得しようとする意欲を持つことが重要である。取り扱う問題それ自体は、非常に複雑な政策選択や、高度な研究の対象となる問題であることを十分に認識されたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	谷原潤太郎さんの朝	谷原潤太郎さんが朝5時に起きて10時に職場に出かけるまでに、何をどのよう消費しているのか、それらの日常の消費生活を法的なメガネをかけてみると、どのような世界が見えるのかを示す。 【キーワード】 新聞、電気、インターネット、自動販売機、ミネラルウォーター、電話、水道、ガス、テレビの視聴、下水道、化粧品、バス、電車	來生新（放送大学・教授）	来生・山本
2	朝の法律学：さまざまな現象を法の目で見る枠組み	事実の世界を法律のメガネを通してみるために必要な、基本的な概念がどのようなものかについて解説する。 【キーワード】 事実行為、法律行為、人（自然人）、法人、政府、合意と強制	來生新（放送大学・教授） 山本裕子（大東文化大学・教授）	来生・山本
3	企業を法の目で見る	組織に法的な人格を与えることがなぜ行われたのか、その効果がどのようなものであるのか、歴史的な背景を踏まえて企業（法人）を法的に理解し、企業と国家の関係についての基本認識を得る。 【キーワード】 自然人、法人、組合、株式会社、有限責任、定款	山本裕子（大東文化大学・教授）	来生・山本

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	消費者を法の目で見る	なぜ法が「人」と区別して「消費者」という範疇を設けるのか。現代の売り手の多くを占める企業と消費者のどのような違いが、人と人の取引を律する民法の原理の修正を求めるのか、そしてその内容がどのようなものかの基本的認識を得る。 【キーワード】 消費者、約款、情報の非対称性、消費者の権利、消費者の保護と自立、消費者基本法、消費契約法	來生新（放送大学・教授） 山本裕子（大東文化大学・教授）	來生・山本
5	市場と政府を法の目で見る	今日の社会における政府の役割を歴史的視点で整理し、法律学的に政府とはどのように規定されるのか、その経済的な役割が何で、企業や消費者とどうかかわるかを見る。 【キーワード】 市民革命、市場の失敗、政府の失敗、三権分立の法制度、法律による行政、競争政策、産業政策、セイフティネット	來生新（放送大学・教授）	來生
6	谷原浩子さんの昼と夜	谷原潤太郎さんの奥さんの浩子さんが、主婦として日常的に経験するさまざまな消費にかかわる事象の中から、訪問販売、催眠商法への法的対応、スーパーや百貨店の店舗規制、食品衛生法の規制などに着目し、以後の各章の具体の議論を導入する。 【キーワード】 訪問販売、キャッチセール、催眠商法、訪問販売、等特定商取引法、大店法、食品衛生法	來生新（放送大学・教授）	來生
7	昼の法律学：市場への政府の介入と消費者(1)―政府の強い介入のある市場	政府の直営事業、公益事業規制と呼ばれた分野での法制度はこの20年間で最も激しく変化した分野である。なぜ政府とこのような産業が深くかかわるのか、歴史的視点で分析し、消費者とのかかわりで、今後のあり方について論ずるための基本的な認識を示す。 【キーワード】 政府直営、公益事業、規制緩和、民営化	來生新（放送大学・教授）	來生
8	市場への政府の介入と消費者(2)―身体的安全と消費者	食品衛生、薬、医薬部外品、化粧品の法的な違い、なぜ薬に強い規制がかかるのか、薬屋と病院の法的規制と競争の実態等を検討し、消費者の生命・健康に直結する商品、サービスに対する法の現状、医療に関する社会保障の充実とコスト負担のあり方等を分析する。 【キーワード】 薬事法、医療法、距離制限、情報の非対称性、明白性の基準、勧告、参入制限	來生新（放送大学・教授）	來生
9	市場への政府の介入と消費者(3)―経済的安全と消費者	銀行や保険に対する政府の介入、金融機関の競争と消費者の保護、セーフティネットなどについて論ずる。 【キーワード】 セーフティネット、ビッグバン、金融サービス、競争、参入規制、情報開示	山本裕子（大東文化大学・教授）	山本
10	市場への政府の介入と消費者(4)―小売業と消費者	スーパーや百貨店の大規模な商業施設での営業と、魚屋や飲食店といったいわゆる警察許可の対象となるような営業とを対照させて、競争と競争者の保護、その展開の歴史的把握を通じて、規制緩和や消費者保護のあるべき姿を考える。 【キーワード】 大店法、食品衛生法、警察規制、規制緩和、社会的規制、消費者の利益、競争者の保護、ブランド間競争、ブランド内競争、流通系列化	來生新（放送大学・教授）	來生

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	市場への政府の介入と消費者(5)―悪質商法規制と消費者	訪問販売、ねずみ講、キャッチセール、催眠商法といった各種の悪徳商法の歴史、それに対する規制の展開の歴史を振り返り、現行法の問題点、消費者保護のあるべき姿、消費者教育の重要性を考える。 【キーワード】 特定商取引法、過量販売、無限連鎖講、クーリングオフ、割賦販売法、抗弁の接続	山本裕子（大東文化大学・教授）	山本
12	夜の法律学：独禁法・競争法と消費者（1）	独占禁止法の概要と競争による消費者利益の確保の問題を論ずる。 【キーワード】 独禁法、不当な取引制限、私的独占、不公正な取引方法、課徴金、差止、損害賠償、公正取引委員会	來生新(放送大学教授)	来生・山本
13	独禁法・競争法と消費者(2)	独占禁止法と消費者にかかわる審決・判例の代表的なものを紹介して、法の運用の現実を理解する。 【キーワード】 不等廉売　再販売価格維持　抱き合わせ　民事的救済　消費者による損害賠償請求	山本裕子（大東文化大学・教授）	来生・山本
14	企業　対　企業・消費者	企業から見た競争と消費者対応の問題を、独禁法や不正競争防止法、知的財産権の保護、競争の国際化に伴う会社法の課題、消費者対応の問題等を分析する。 【キーワード】 知的財産権、不正競争防止法、下請法、グローバル化、フェアトレード	山本裕子（大東文化大学・教授）	来生・山本
15	企業・消費者・政府と明日の日本	前章の議論を受けて、現代のわが国における企業、消費者、政府のそれぞれが抱える課題を明らかにし、21世紀の中葉に向けてその解決の方向がいかなるものであり、政府と企業と消費者が今後どのような関係を形成すべきかを論ずる。 【キーワード】 政府の実定法的構造　消費者主権　個としての消費者　集団としての消費者	來生新（放送大学・教授） 山本裕子（大東文化大学・教授）	来生・山本

科目名（メディア）＝　企業の組織・取引と法（‘０７）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：　布井　千博（一橋大学大学院教授）〕
〔主任講師（現職名）：　福原　紀彦（中央大学大学院教授）〕

講義概要

本講義は、企業の組織を規律する会社法と、企業の取引を規制する商法を中心に講義を行う。この分野における法律は、近年の大改正により大きく変貌を遂げた。本講義では、企業組織法および企業取引法の分野で新たに生起している問題に焦点を当てつつ、これらの分野の体系的な理解を目的とする。

授業の目標

企業の組織と取引を規律する法律について、法律の具体的な内容を理解するとともに、各法律がどのような利益を保護しようとしているかについて理解を深める。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	総論	企業組織法としての会社法の対象と特徴並びに企業取引法としての商法その他の法律の対象と特徴を概観する。	布井千博（一橋大学大学院教授） 福原紀彦（中央大学大学院教授）	布井千博（一橋大学大学院教授） 福原紀彦（中央大学大学院教授）
2	会社法の基本構造	わが国における会社の種類と特徴を概観したうえで、会社法における基本原理である、法人性、債権者保護の法理、出資者保護の法理の検討を行う。	布井千博（一橋大学大学院教授）	布井千博（一橋大学大学院教授）
3	株式会社の設立	株式会社の設立について、発起設立と募集設立の相違や、定款の作成からはじまり設立登記に終わる会社設立の過程について検討する。	布井千博（一橋大学大学院教授）	布井千博（一橋大学大学院教授）
4	株式会社の経営機構（1）	株式会社の経営機構については多様な選択肢が設けられている。公開会社における経営機構と非公開会社における経営機構の異同について概観した後、取締役会・代表取締役・執行役の権限・組織・運営について検討する。	布井千博（一橋大学大学院教授）	布井千博（一橋大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	株式会社の経営機構（2）	株式会社の経営が適切に行われるためには、経営を監督・監視する仕組みが重要である。株式会社の業務監査および会計監査を担う機関である、監査役（会）、委員会（監査委員会・指名委員会・報酬委員会）、会計監査人について検討する。	布井千博（一橋大学大学院教授）	布井千博（一橋大学大学院教授）
6	株主総会	株式会社の最高意思決定機関である株主総会の権限および運営につき検討する。	布井千博（一橋大学大学院教授）	布井千博（一橋大学大学院教授）
7	コーポレート・ガバナンスにおける株主の役割	株式会社における経営の規律を確保する上で、株主の役割は重要性を増しつつある。株主が会社の経営についてどのようにして情報を収集し、株主に与えられた権限を行使するのかにつき検討する。	布井千博（一橋大学大学院教授）	布井千博（一橋大学大学院教授）
8	会社の資金調達	株式会社の資金調達手段が間接金融から直接金融へと移行する中、株式や社債を用いた資金調達の重要性が高まっており、会社法は多様な株式や社債の発行を認めている。今回は、株式による資金調達について検討する。	布井千博（一橋大学大学院教授）	布井千博（一橋大学大学院教授）
9	会社の計算と剰余金の分配	会社の財務内容を正確に把握することは、会社を経営する上でも、株主が経営者に信任を与える上でも、さらには、債権者が会社と取引をする上でも重要である。会社の計算制度を概観した後、剰余金の分配規制や自己株式の取得規制につき検討する。	布井千博（一橋大学大学院教授）	布井千博（一橋大学大学院教授）
10	組織変更と事業再編	企業は、その発展の過程において、持分会社から株式会社に組織を変更したり、合併や買収により規模を拡大する必要が生じる。会社法は、かかる需要に対応するために組織変更や事業再編について多様な規定を設けている。ここでは、そのような制度の仕組みについて検討する。	布井千博（一橋大学大学院教授）	布井千博（一橋大学大学院教授）
11	企業取引の主体と補助者	企業取引の主体と補助者に関する「商法」および「会社法総則」の主要な規定を対象にして、商人の名称としての商号に関する法制度と、商人の信用維持と企業取引の円滑化のための商業登記制度を検討するとともに、商法上の企業補助者制度を比較検討する。	福原紀彦（中央大学大学院教授）	福原紀彦（中央大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	各種の企業取引と法規制	企業取引の特色を明らかにして、伝統的な企業取引に関する商法（商行為編）上の諸規定を概観し、併せて、各種金融取引および現代的企業取引の法規制を検討する。	福原紀彦（中央大学大学院教授）	福原紀彦（中央大学大学院教授）
13	企業取引の決済と手形・小切手	企業取引の決済の各場面における法律関係と法規制を明らかにするとともに、手形・小切手の意義・機能および法制度（手形法と小切手法）を検討する。	福原紀彦（中央大学大学院教授）	福原紀彦（中央大学大学院教授）
14	消費者取引	消費者取引の特色と問題点を明らかにして、消費者取引をめぐる被害の予防と解決のために整備されてきた各種の法規制を検討する。	福原紀彦（中央大学大学院教授）	福原紀彦（中央大学大学院教授）
15	高度情報化社会の取引と支払決済	高度情報化社会において登場して普及しつつある新たな取引方法と支払決済手段を概観して、ＩＴ化に伴う課題を明らかにしつつ、その法的対応を検討する。	福原紀彦（中央大学大学院教授）	福原紀彦（中央大学大学院教授）

＝　市民生活の財産法（‘０６）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：野村　豊弘（学習院大学教授）〕

全体のねらい

民法は、私人間の関係について規律する基本的な法である。民法全５編は、財産に関する総則、物権、債権の３編と家族に関する親族、相続の２編とに大別できる。本講義は、このうち、財産法について概観するものである。限られた時間で、民法の条文のすべてについて、詳細に説明することはできないので、重要な制度・仕組みを紹介するにとどまらざるを得ないが、民法以外の特別法についても、可能な限り、言及する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	民法と民法典	まず、この講義全体の目的、民法の学び方などを述べる。次いで、民法の意義、民法の歴史、比較法の視点について述べる。	野村　豊弘（学習院大学教授）	野村　豊弘（学習院大学教授）
2	日本の民法典	明治期における民法の制定までの経緯(特に、ボアソナードによる旧民法および穂積・梅・富井による現行民法の起草に重点を置く)、その後現在に至るまでの主な民法改正・特別法の制定について述べる。特に、昭和22年の家族法改正、平成16年の現代語化に言及する。	同　上	同　上
3	人に関する法(1)～人と物～	人に関する法の第１回目として、民法における人と物の位置づけ、民法における人の扱いについて概観する。特に、民法が人を権利の主体、者を権利の客体としていることを述べるとともに、その２分法が科学・医学の発達によって揺らいでいることに言及する。	同　上	同　上
4	人に関する法(2)～権利の主体～	人に関する法の第２回目として、人が権利・義務の主体となることについて述べる。具体的に、権利能力、行為能力、制限能力者(未成年者・被後見人・被保佐人・被補助人)について解説する	同　上	同　上
5	団体に関する法	人(自然人)と並んで権利義務の主体となる法人について概観する。最近の法人制度の改革を踏まえて、社団法人・財団法人、営利法人・非営利法人などを取り上げそれらの違いについて明らかにする。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	物に関する法(1) ～物とは何か～	物に関する法の第1回目として、物の意義、物権と債権の区別について述べる。具体的には、民法では、有体物を物といい、不動産(土地およびその定着物)と動産(不動産以外の物)に分けられることなどについて述べる。	同上	同上
7	物に関する法(2) ～所有権とその他の物件～	物に関する法の第2回目として、物の所有権およびその他の物権について述べる。所有権は、目的物の使用・収益・処分をその内容とし、権利の中でも、もっとも完全な権利と観念されており、それ以外の物権が所有権を制限するものであることを説明する。	同上	同上
8	物に関する法(3) ～所有権の移転～	物に関する法の第3回目として、所有権の移転について述べる。すなわち、所有権が当事者間では合意のみによって移転するが、第三者に対してそのことを対抗するためには、登記(不動産について)、引渡し(動産について)を必要とすること(対抗要件主義)について説明する。	同上	同上
9	契約に関する法(1) ～契約の成立～	契約に関する法の第1回目として、契約の成立について述べる。具体的には、契約の意義(意思表示・法律行為・契約自由の原則など)、契約の成立(申込みと承諾)、契約の有効要件、契約の解釈、代理制度について説明する。	同上	同上
10	契約に関する法(2) ～契約の実現～	契約に関する法の第2回目として、契約の実現について述べる。具体的には、契約の履行、契約の不履行(債務不履行に基づく損害賠償・契約の解除)について説明する。	同上	同上
11	契約に関する法(3) ～契約の履行確保～	契約に関する法の第3回目として、契約の履行確保について述べる。具体的には、契約が確実に履行されることを確保する手段である物的担保(留置権・先取特権・質権・抵当権など)、人的担保(保証)について説明する。	同上	同上
12	契約に関する法(4) ～売買契約～	契約に関する法の第4回目として、売買契約について述べる。民法は、13種類の典型契約を定めているが、売買契約は、物の所有権を移転することを目的とし、有償・双務契約の最も代表的なものである。そこで、売買契約における売主と買主の権利義務関係について説明する。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	契約に関する法(5) ～賃貸借契約～	契約に関する法の第5回目として、賃貸借契約について述べる。賃貸借契約は、物の貸し借りを目的とするものである。そして、借主が賃料を支払うことをその内容としている。そこで、賃貸借契約における賃借人と賃貸人の権利義務関係について説明する。特別法である借地借家法にも言及する。	同　上	同　上
14	不法行為に関する法(1) ～不法行為の基本原則～	不法行為に関する法の第1回目として、不法行為に関する基本原則について述べる。すなわち、不法行為制度の意義、不法行為の成立要件(故意・過失、因果関係、責任能力など)、効果(損害賠償、差止請求など)について説明する。	同　上	同　上
15	不法行為に関する法(2) ～不法行為の具体的類型～	不法行為に関する法の第2回目として、不法行為の具体的類型を取り上げて、それぞれについて説明する。民法に定める類型だけでなく、製造物責任法、自動車損害賠償保障法などについても言及する。	同　上	同　上

＝　行政法と市民（‘０６）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：稲葉　馨（東北大学大学院教授）〕

全体のねらい

行政法（総論）の入門講義を行う。行政法は、行政組織法・行政作用法・行政救済法から成るが、後二者に重点をおいて、全体を概観する。特に、行政（役所とその仕事）抜きでは生活できないが、受動的な行政「客体」にとどまるわけではない私たち「市民」の目を大事にしたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	行政法とは－序論	受講者の方に行政法に関するイメージを形成していただくための序論。行政法は、三大法分野のひとつであり、行政法自身も３つの分野からなること、また、行政法の代表的な定義によりながら行政法の特質を探り、憲法と行政法との関係についても考える。	稲葉　馨（東北大学大学院教授）	稲葉　馨（東北大学大学院教授）
2	行政組織	行政組織法の基礎を学ぶ。まず、国の行政組織と地方公共団体の行政組織を概観し、地方自治の意義にふれる。ついで、行政主体・行政機関・行政庁など、これからの学習のためにもマスターしておかなければならない基礎概念と行政組織の基本法理について説明する。	同　上	同　上
3	行政活動の基礎原理	行政作用法の第一弾として、その基礎にある原理と行政活動に広く適用される一般的な原則について講ずる。法律（条例）に基づく行政、裁判による救済・行政統制、権限・権利濫用の禁止原則、公正・透明・説明責務、信頼保護などの諸原則をとりあげる。	同　上	同　上
4	行政活動の諸態様	私たちが社会・経済生活で接する役所（行政）の活動にはどのようなものがあるか。活動の基準づくり（ルール策定行為など）と具体的な活動とに分け、さらに後者については、準備的な行政調査のほか、行政契約・即時強制にふれる。	同　上	同　上
5	行政処分	各種の許可・免許・給付（資格）決定（その停止・取消）など、私たちの権利・義務を左右する具体的な行政決定を意味する「行政処分（行政行為）」は、様々な行政活動の中でも、きわめて重要な「行為形式」である。ここでは、その要点を学ぶ。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
6	行政指導	行政処分とは異なり「任意の協力」によって行政目的を達成する手段である「行政指導」をとりあげる。「日本的行政スタイル」とも言われる行政指導がなぜ多用されるのか、法的統制のあり方をどのように考えたらよいか、検討する。	稲葉　馨（東北大学大学院教授）	稲葉　馨（東北大学大学院教授）
7	義務履行確保手段	私たち市民の中にも、税金を滞納したり、駐車違反をしたりと、行政上の義務を果たさない者がいる。行政（規制）の機能不全を防ぎ、市民間の公平性の担保にも資する義務履行確保手段にはどのようなものがあるか、概観しておく。	同　上	同　上
8	公正・透明な行政手続	今日、様々な場面で関係者や市民と行政とのコミュニケーションを密にすることが求められている。中でも、行政決定のプロセス自体の公正・「透明」化を図ることは、法治主義の徹底という点からも不可欠である。ここでは、行政手続法が定める処分手続を中心に、事前手続保障の基本を学ぶ。	同　上	同　上
9	情報公開・個人情報保護	今日、行政法でも重要なキーワードになっている「情報」をめぐる法制度について、行政機関情報公開法・個人情報保護法を中心に学習する。公開は、市民の行政参加・監視と信頼確保につながり、個人情報保護制度は、行政による個人情報の取扱いをコントロールしようとするもの。	同　上	同　上
10	行政過程における参加・監視・争訟	ここでは、これまでに学んだ制度のほかに、市民・関係者が行政に対して「もの申す」手段としてどのようなものがあるか、主要なものにふれる。とりあげるのは、行政過程への市民参加、行政監視制度、行政上の苦情処理、そして行政不服申立制度である。	同　上	同　上
11	行政事件訴訟（その１）	約４０年振りの行政事件訴訟法改正で、行政訴訟は変わるのだろうか。市民にとっても大きな関心事であろう。改正点も含め、行政事件訴訟にはどのようなタイプ（類型）があるかという点を中心に、行政訴訟の利・活用方法を考える。	同　上	同　上
12	行政事件訴訟（その２）	行政事件訴訟の主要類型である抗告訴訟について、これまで「狭き門」の要因となってきた訴訟要件（訴えの利益）、機能不備が指摘されてきた「仮の救済」制度をとりあげ、さらに、判決の種類・効力などにも言及する。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
13	国家賠償法概説	これまでのところ、市民（私人）が行政相手に起こす訴訟としては、行政事件訴訟よりも国家賠償請求訴訟の方が多い。まず、制度の概要を理解していただくため、国家賠償法の条文（６カ条）に沿って、解説する。	稲葉　馨（東北大学大学院教授）	稲葉　馨（東北大学大学院教授）
14	国家賠償法の主要論点	前章の基礎編を踏まえ、その応用編として、国家賠償法１条と２条の重要論点のうち、３つのテーマ（１条の「違法性」をめぐる議論、行政の規制権限が適切に行使されない場合の問題、そして河川管理をめぐる責任のあり方）を中心に、検討する。	同　上	同　上
15	損失補償制度	国家賠償制度と共に「国家補償」制度の両輪をなす損失補償制度について、その要点を学ぶ。この制度の基礎にある理念、憲法２９条３項の意義、主要な論点である（憲法上の）補償要否の基準、補償の内容と方法についてふれる。	同　上	同　上

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1590804	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 著作権法概論 （’１０）＝ （R）

※この科目は「著作権法概論（’０６）」を一部改訂した科目です。
改訂回は７，８，９，１０，１１，１２，１３，１４，１５回です。

〔主任講師（現職名）：作花　文雄（文部科学省生涯学習総括官）〕
〔主任講師（現職名）：吉田　大輔（文化庁次長）〕
【本学担当専任教員：來生　新（放送大学教授）】

講義概要

情報社会あるいは知識基盤社会と呼ばれる今日において、知的財産の創造を促進し、その有効かつ適切な活用を図る上で、知的財産権に関する法制度が重要な役割を果たす。知的財産権制度の中にあって、小説や音楽、レコード、映画、アニメ、プログラムなどの著作物等を保護する著作権法は、特定の職業に携わる方々のみならず、全ての人々にかかわる法律であり、この講義では、著作権制度の基本的な事項及び実際的な課題について総合的に学習を進めていく。

授業の目標

全15回の講義を通じ、具体的な事例を踏まえつつ、著作物を利用するに当たり著作権法がどのようにかかわっているかということを的確に理解し、日常生活の中で法に基づく適切な判断ができるようにするとともに、職業生活において著作物の創造及び利用を行う上で必要となる法的素養を培う。

履修上の留意点

「社会と知的財産('08)」をあわせて学習することにより、幅広く知的財産に関する制度について習得することが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	著作権制度の仕組み	著作権法の目的や知的財産権制度全体における位置づけを解説するとともに、著作権制度において保護の対象となるものや権利の主体となる者、権利の内容、権利の制限など、第2回目以降の講義の導入として、制度全体の仕組みについて概説する。 【キーワード】 排他的権利、情報社会における著作権法の役割、著作権制度の仕組み	作花文雄(文部科学省生涯学習総括官)	作花文雄(文部科学省生涯学習総括官)
2	著作物	知的成果物には文芸作品や学術作品、娯楽作品、あるいは産業技術関係のものなど様々なものがあるが、著作権法の保護対象となる「著作物」とは何か、保護の対象でないものは何かについて解説する。また、翻訳物や編曲などの二次的著作物や新聞や百科事典やデータベースなどの編集著作物の概念について解説する。 【キーワード】 著作物の定義、創作性、表現物、著作物の種類、二次的著作物、編集著作物、データベース	作花文雄(文部科学省生涯学習総括官)	作花文雄(文部科学省生涯学習総括官)
3	著作者	著作権法により権利の主体となる「著作者」とはいかなる者であるのかについて解説する。また、複数の者が共同して一つの作品を創作する場合があるが、共同著作者となる場合の要件や職務上作成される著作物について法人著作が成立する場合の要件について解説する。 【キーワード】 創作者、共同著作、法人著作、映画の著作者	作花文雄(文部科学省生涯学習総括官)	作花文雄(文部科学省生涯学習総括官)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	著作者人格権	著作物は著作者の思想・感情の表現であり、著作権制度では著作物の利用にあたって著作者の人格的利益を保護するために著作者人格権を定めている。著作者人格権の内容、限界、その他の特色について解説する。 【キーワード】 公表権、氏名表示権、同一性保持権、名誉声望を害する利用、著作者の死後における人格的利益の保護	吉田　大輔(文化庁次長)	吉田　大輔(文化庁次長)
5	著作権(その1)	著作物の利用に関して著作者の経済的利益を確保するために設けられている財産権としての著作権のうち、複製権並びに複製物等の流通に関わる頒布権、譲渡権及び貸与権について、判例等にも触れながら、その具体的内容を解説する。 【キーワード】 権利の束、複製権、頒布権、譲渡権、貸与権	吉田　大輔(文化庁次長)	吉田　大輔(文化庁次長)
6	著作権(その2)	財産権としての著作権のうち、著作物の上演、演奏、上映等に関する諸権利、放送、有線放送、インターネット送信等に関する権利、著作物の翻訳・翻案等に関する権利、二次的著作物の利用に関する原著作者の権利の具体的内容を解説する。 【キーワード】 上演権・演奏権、上映権、口述権、展示権、公衆送信権送信可能化、翻案権	吉田　大輔(文化庁次長)	吉田　大輔(文化庁次長)
7	著作隣接権 **(※改訂回)**	著作者と並んで、著作権法では実演家、レコード製作者、放送事業者及び有線放送事業者を著作隣接権制度によって保護を与えており、著作隣接権の重みは増しつつある。著作者の権利と比較しつつ、実演家等の権利の具体的内容を解説する。 【キーワード】 実演家、レコード製作者、放送事業者、有線放送事業者	吉田　大輔(文化庁次長)	吉田　大輔(文化庁次長)
8	権利の制限(その1) **(※改訂回)**	著作権制度においては、著作物を権利者の許諾を得ることなく利用できる様々な場合が規定されており、それぞれの場合における適法な利用の要件や留意点について、2回にわけて解説する。この回では、私的使用のための複製、図書館での複製、引用、教育機関での複製などについて解説する。 【キーワード】 私的使用、図書館、引用、教科用図書、拡大教材、学校教育番組、教育機関、試験問題、点字、聴覚障害者	作花文雄(文部科学省生涯学習総括官)	作花文雄(文部科学省生涯学習総括官)
9	権利の制限(その2) **(※改訂回)**	前回に続き、著作物の自由利用ができる場合として、非営利目的の上演等、裁判手続き等のための複製、公開の美術の著作物の利用、プログラムの所有者による複製などについて解説する。 【キーワード】 非営利の上演等、報道、裁判手続等、情報公開、一時的固定、公開美術作品、小冊子、プログラム、一時的複製	作花文雄(文部科学省生涯学習総括官)	作花文雄(文部科学省生涯学習総括官)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	著作権の保護期間と登録制度 (※一部改訂回)	著作権及び著作隣接権は法定の保護期間内に限って存続する。著作権・著作隣接権の保護期間とその算定方法、外国著作物に係る特例等について解説する。また、著作権法上の登録制度の趣旨、効果及び登録手続について解説する。 【キーワード】 保護期間、外国著作物、相互主義、戦時加算、実名の登録、第一公表・発行、年月日の登録、移転等の登録	吉田 大輔(文化庁次長)	吉田 大輔(文化庁次長)
11	著作物の利用 (※改訂回)	著作物等の利用に際しては、利用許諾契約等により正当な利用権原を取得することが原則である。著作物等の利用に関する各種の方法を解説するとともに、著作権等の管理を業とする者を対象とする著作権等管理事業法の仕組みを解説する。 【キーワード】 利用許諾契約、著作権の譲渡、出版権、裁定、著作権等管理事業	吉田 大輔(文化庁次長)	吉田 大輔(文化庁次長)
12	権利侵害に対する救済・制裁 **(※改訂回)**	著作権等が侵害された場合は、民事上の救済を受けることができるとともに、侵害者に対して刑事上の制裁も科せられる。著作権制度においては、民法に加えて、損害賠償や差止請求についての特別な規定が設けられており、その内容を解説するとともに、著作権制度上の刑事罰の内容について解説する。 【キーワード】 差止請求、損害賠償請求、不当利得返還請求、名誉回復請求、刑事制裁	作花文雄(文部科学省生涯学習総括官)	作花文雄(文部科学省生涯学習総括官)
13	著作権に関する条約 (※一部改訂回)	著作物等の国境を越えた利用に対応するため、国際的な保護規範を定めた条約の整備改善が続けられてきており、その流れは国内法制の整備にも大きな影響を与えている。著作権及び著作隣接権に関する主要な条約の経緯、内容等を解説する。 【キーワード】 ベルヌ条約、内国民待遇、TRIPS協定、WCT、ローマ条約、WPPT	吉田 大輔(文化庁次長)	吉田 大輔(文化庁次長)
14	著作権制度の歴史 (※改訂回)	著作権制度の発展の歴史を全体的に捉えるとともに、近年において、貸レコード問題への対応やプログラム・データベースの保護、インターネット送信への対応、コピー・プロテクション回避への規制、還流レコードへの規制など、我が国の著作権制度は間断なく改正がなされてきているところから、これらの改正動向について解説する。 【キーワード】 著作権制度の確立、我が国の著作権法制の整備、時代の進展に対応した著作権法の整備	作花文雄(文部科学省生涯学習総括官)	作花文雄(文部科学省生涯学習総括官)
15	現代社会における課題 (※改訂回)	現代社会においてはインターネットなど情報伝達技術の飛躍的な発展を背景として、また、中古ソフト販売や漫画喫茶など著作物の多様な利用形態が登場してきたことにより、著作権制度は様々な課題に直面している。これらの課題についての概況や論点について解説する。 【キーワード】 カラオケ、貸レコード、中古ソフト、還流レコード、私的録音録画、インターネット、権利の強化と公正な利用の調和	作花文雄(文部科学省生涯学習総括官)	作花文雄(文部科学省生涯学習総括官)

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目コード	1591401	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　西洋政治理論の伝統　　（’０９）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：山岡龍一（放送大学教授）　　〕

講義概要

「政治とは何か？」「より善き政治を構想し、実現するためにはどうすればよいか？」といった問いを、本講義の基本的な関心として設定する。西洋の政治理論という営みの歴史を、「一つの伝統」としてとらえつつ、主要な思想家たちの理論を、いくつかの典型的な議論の原型ないしは範例として、検討する。古代ギリシアから始めて現代アメリカに至る政治理論のなかから、歴史的な影響と現代的な意義の観点から重要だと思われる議論をとりあげ、それらの歴史的、哲学的理解に努める。こうした試みによって、理論の解釈自体を理論化の営みとして提示し、政治理論の学習そのものを政治理論の伝統への参与として理解する。

授業の目標

「政治的なるもの」や「政治的な価値」の理解を深め、最終的には現代政治に関する認識力と判断力を涵養することを目指す。そのために、代表的な政治理論の議論や概念に馴染みをもつようにし、その結果、学生が自分自身の力で政治に関する批判的な意見をもてるようにする。政治的知識に限らず、現代社会を生きていく上で必要な「教養」の獲得に貢献するような講義としたい。

履修上の留意点

あらかじめ履修しておくべき科目はないが、政治学だけでなく、西洋の哲学や歴史学に関連する科目を学んでおくと、より充実した学習が望めるであろう。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	西洋政治理論という伝統	西洋政治思想史という学問を大学の学部レベルで学ぶ方法として、西洋における政治の理論化の営みを、複数の伝統からなる「一つの伝統」としてとらえる、という方法を本講義では採用する。学問的な方法としての歴史主義的アプローチと実在論的アプローチを紹介しながら、そうした方法と実践をいかにして有機的に総合するべきかを考える。その鍵概念として、「伝統」の概念そのものについても検討する。	山岡龍一	山岡龍一
2	政治哲学の起源――ソクラテスの問い	西洋における政治哲学の始原として、古代ギリシアの政治哲学、とりわけソクラテスの議論をとりあげる。『ソクラテスの弁明』と『クリトン』の解釈から、政治哲学的な問いの原型を抽出する。特にソクラテスの政治観を、彼の哲学観との対比で考える。	山岡龍一	山岡龍一
3	哲学と政治――プラトンの哲人王	プラトンの『国家』を主に取り上げる。正義とは何か、正義と利益の関係はどうあるべきか、といった問題を中心に、プラトンの議論を再構成し、彼の教育論、イデア論、哲人王思想に関する解説を試みることで、プラトン主義的な政治理論の諸特徴を明らかにする。	山岡龍一	山岡龍一

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	徳と政治——アリストテレスの倫理学	アリストテレスの『ニコマコス倫理学』を主に取り上げる。徳（卓越性）をめぐる議論を中心に、道徳的完成に関するアリストテレスの議論を検討する。プラトンとの方法論的な対比によってアリストテレス主義と呼べる政治理論の諸特徴を明らかにし、特に慣習と政治の関係について考察することで、「徳の政治」論の原型を探る。	山岡龍一	山岡龍一
5	ポリスの政治——アリストテレスの政治学	アリストテレスの『政治学』を主に取り上げる。ポリスの本性に関するアリストテレスの議論を検討し、「人間は本性的にポリス的動物である」という言葉の意味を、完成主義の立場から明らかにする。アリストテレスの正義論とともに、政体論、理想国家論も検討しながらアリストテレス主義政治理論のエッセンスを明らかにする。	山岡龍一	山岡龍一
6	自然法と共和主義——キケロにおける政治の理想	キケロの『義務について』を主に取り上げる。古代ローマ共和主義思想の代表として、キケロを検討する。財産をもった有徳な政治家による政治という、キケロの政治観を明らかにしつつ、法や所有に関する彼の議論を検討する。同時に、後代へ多大な影響力をもつことになる自然法をめぐる議論も、キケロの徳論との関係を考慮しつつ検討する。	山岡龍一	山岡龍一
7	キリスト教と政治——アウグスティヌスの政治観	西洋政治理論の伝統における重要な要素として、キリスト教の政治観を紹介する。キリスト教政治思想の範例としてアウグスティヌスの政治思想を、彼の時代の文脈にそって理解し、キリスト教的な政治的現実主義と、政治権力の正当化原理を検討する。	山岡龍一	山岡龍一
8	信仰と理性——トマス・アクィナスと共通善の政治	キリスト教思想とアリストテレス主義を総合した思想家として、トマス・アクィナスの政治理論を検討する。『君主統治について』における政治論と、『神学大全』における自然法論を中心に、アクィナスの思想を、中世政治思想史のなかに位置づける仕方で検討する。	山岡龍一	山岡龍一
9	統治術と共和主義——マキアヴェッリと自由の政治	近代国家の維持に不可欠とされる「統治術」を弁証した著作として、マキアヴェッリの『君主論』を取り上げ、近代政治における権力と権威の問題を検討する。同時に近代共和主義思想の代表として、マキアヴェッリの『ディスコルシ』を取り上げる。「自由な国家」をめぐるマキアヴェッリの議論を検討し、彼の共和主義思想の特徴を理解する。	山岡龍一	山岡龍一

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	近代国家と個人の自由――ホッブズの社会契約論	近代国家の正当化の原理として、社会契約論の論理を検討する。ホッブズの思想を、その思想史的位置づけに留意しつつ解釈することによって、近代的な個人主義の政治理論の論理を明らかにし、その主権論の意味を検討する。	山岡龍一	山岡龍一
11	自然法と抵抗権――ロックの社会契約論	ホッブズと対比する仕方で、ロックの社会契約論を検討する。ロック自身の文脈に留意しつつ、彼の政治理論を、自然法観念を中心に解釈し、その政治理論の方法的特質を明らかにする。	山岡龍一	山岡龍一
12	自由の喪失と回復――ルソーの社会批判と社会契約論	ルソーの『人間不平等起源論』を取り上げ、文明社会論に対する批判を、自由の喪失という観点から展開した思想家としてルソーを検討する。かかる問題に対するルソーの応答として『社会契約論』を、社会契約論と一般意志論によって、近代社会のなかに自由を回復させる試みとして検討する。	山岡龍一	山岡龍一
13	自由と歴史――ヘーゲルにおける倫理の構想	カントの義務論に対する批判を展開しながら、自律としての自由の原理を、歴史哲学のなかに新たな仕方で展開したし思想家として、ヘーゲルを取り上げる。主として『法の哲学』の議論を、ヘーゲルの政治論や論理学に目を配りつつ、自由の政治理論を提示した著作として検討する。	山岡龍一	山岡龍一
14	功利主義と自由――J. S. ミルと実践的判断力	近代国家の政府と法に関する、最も影響力のある一般理論として、功利主義思想を取り上げる。ベンサムの議論を簡単に紹介し、それを批判的な仕方で発展させたものとして、J.S.ミルの『功利主義論』を検討する。同時にミルの『自由論』を取り上げ、功利の原理と自由の原理の関係を検討することによって、ミルによる自由の弁証の論理を明らかにする。	山岡龍一	山岡龍一
15	政治理論の死滅と復活――ロールズの契約主義的正義論	20世紀における政治理論の死滅と復活という文脈を前提としつつ、功利主義批判という論点から現代の契約論的政治理論を展開した著作として、ロールズの『正義の理論』を取り上げる。20世紀後期アメリカにおいて、ロールズが引き受けた問題をあきらかにし、それを「反照的均衡」という方法によってとりくんだロールズの理論的営みを明らかにする。	山岡龍一	山岡龍一

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1530704	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 比較政治－中南米 （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：恒川惠市（JICA研究所長） 〕

講義概要

かつて独裁と革命と軍事クーデタの代名詞だった中南米は、今日民主主義の大陸に変身している。しかし長期の経済停滞と市場経済化による格差の拡大や雇用不安のゆえに、市民の間に不満が広がり、選挙を通して左派的な政権が登場する国も出ている。この講義では、民主化が中南米の歴史上かつてないほど広がり、長く持続するようになったのはなぜなのかを、比較政治学の理論と中南米政治史の分析を組み合わせることで明らかにすると同時に、現代中南米の政治的特徴は何か、中南米の民主主義は今後も続きうるのかについて検討する。

授業の目標

民主主義体制から権威主義体制へ、逆に権威主義体制から民主主義体制へという政治変動を説明する比較政治学の理論を学び、それを中南米の経験にあてはめることで、中南米のこれまでの政治変動と、現代の民主化について、体系的に理解できるようにする。この授業は、中南米という地域の政治や経済についての知識を深めると同時に、比較政治学における体制変動についての理論を学ぶことを目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	中南米の現状	70年代までは軍事政権や独裁的政権が多かった中南米で、80年代に大規模な民主化が起こったこと、それが決して有利とは言えない経済社会状況の中で長期に持続していること、同時に、不安定な生活への不満から抗議行動や犯罪が増えていることを明らかにした後、本講義を通して学ぶべき主要なポイントを指摘する。 【キーワード】 民主化　市場経済化　比較政治学	恒川惠市（JICA研究所長）	恒川惠市（JICA研究所長）
2	比較政治学の中の中南米(1)権威主義体制論	第二次世界大戦後の中南米は、一時民主化が進むかと思われたが、60年代以降次々に軍事クーデタが起こり、民主主義国は絶対的少数派に転落した。中南米が比較政治学の素材としてよくとりあげられるのはなぜなのかを明らかにした後、権威主義体制に共通する特色と3つの異なったタイプについて講義する。 【キーワード】 政治体制　権威主義体制	恒川惠市（JICA研究所長）	恒川惠市（JICA研究所長）
3	比較政治学の中の中南米(2)民主化論	比較政治学における大きな理論枠組みには、構造主義、合理主義、構成主義の3つがあり、それぞれに対応した民主化論がある。この3つのアプローチについて学ぶ中で、現在の中南米の民主化を説明する有力な理論として、構造主義・合理主義に属する「左派の敗北」仮説と構成主義に属する「紛争による学習」仮説の2つがあることを明らかにする。 【キーワード】 構造主義　合理主義　構成主義	恒川惠市（JICA研究所長）	恒川惠市（JICA研究所長）
4	ポピュリスト体制：起源・展開・崩壊	現在の民主化を理解するためには、第二次大戦前後から60年代にかけて各国に広がったポピュリズムと呼ばれる政治潮流を理解する必要がある。ポピュリズムはそれまでの寡頭支配に代わる民主主義の担い手としても期待されたが、工業化政策に行き詰まり、60年代から70年代にかけて、次々と軍事政権に代わられていった。中南米最初の民主化の試みの意義と限界について解説する。 【キーワード】 寡頭支配　ポピュリズム　輸入代替工業化	恒川惠市（JICA研究所長）	恒川惠市（JICA研究所長）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	権威主義体制の時代	権威主義体制の時代と呼ばれる時期（60年代半ば～80年代半ば）に、どのような種類の権威主義体制があったのかをポピュリズムとの関係で探る。また各国の政府がどのような政策をとり、その経済的社会的結果は何だったのか、多くの国が累積債務危機に見舞われるようになったのかはなぜかを明らかにする。 【キーワード】 軍事政権　新安全保障原理　累積債務危機	恒川惠市（JICA研究所長）	恒川惠市（JICA研究所長）
6	ポピュリスト政権をもたなかった国々	中南米には、19世紀以来の寡頭支配層が、ポピュリズムの挑戦を退けて、軍部や独裁者の力を借りながら支配を続けた国がある。これらの国ではポピュリズムが下層階級の要求の受け皿になれなかったために、社会の中にストレスがたまり、左派ゲリラの勢力が伸長して内戦にまで至ることもあった。この間の経緯を、ポピュリスト政権以後に権威主義体制に至った国々と比較しながら分析する。 【キーワード】 個人独裁　中米紛争　ゲリラ	恒川惠市（JICA研究所長）	恒川惠市（JICA研究所長）
7	民主化の進展	80年代半ば以降中南米では、かつてポピュリスト政権を持った国でも、持たなかった国でも、おしなべて民主化が進展した。この時期に中南米地域に広く民主化現象がみられるようになった経緯を、民主化パターンの違いに留意しながら明らかにする。また同時期に起こった経済面での大変動である国家介入型から市場経済型への転換の意味と、民主化との関連にも触れる。 【キーワード】 民政移管　ｺﾝﾀﾄﾞｰﾗ・ｸﾞﾙｰﾌﾟ　ﾍﾃﾛﾄﾞｯｸｽ政策	恒川惠市（JICA研究所長）	恒川惠市（JICA研究所長）
8	アルゼンチンの政治	寡頭支配からポピュリズム、軍事政権、そして民主化へという中南米で典型的な道を歩んだアルゼンチンに注目して、その政治史を跡づける。アルゼンチンのポピュリズムは労働組合と結びついたために右派の反発も強く、軍政と民政が交互に入れ替わるようになったこと、その中で民主主義的価値観の学習が進んだことを明らかにする。 【キーワード】 急進市民同盟　ペロン　アウストラル計画　ドル化	恒川惠市（JICA研究所長）	恒川惠市（JICA研究所長）
9	ブラジルの政治	ブラジルのポピュリズムは、寡頭支配層の内紛の結果、上から樹立されたという特徴をもつこと、したがって政策は穏健で、ポピュリズム後に登場した軍事政権も、選挙によって正当化を図るなどしたこと、民政移管も交渉により古い政治家が復活する形で進んだこと、しかし民主化後は労働組合や農民運動を基盤とする新しい政党が伸長したことを解説する。 【キーワード】 ヴァルガス　レアル計画　労働者党　ルーラ・ダ・シルバ	恒川惠市（JICA研究所長）	恒川惠市（JICA研究所長）
10	メキシコの政治	メキシコは、ポピュリスト政権が崩壊して軍事政権に代わられることがなかった例外的な国である。メキシコではポピュリズム自体が権威主義的色彩が濃い形態をとっていた。このような特殊性がなぜ生まれたのかを明らかにすると同時に、そのメキシコでも90年代に民主化が進むようになった経緯について説明する。 【キーワード】 メキシコ革命　ラサロ・カルデナス　PRI　PAN　NAFTA	恒川惠市（JICA研究所長）	恒川惠市（JICA研究所長）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	ペルーの政治	ペルーは、軍事政権が自らポピュリズムを担おうとして短期間のうちに失敗したという意味で例外的な国である。ペルーでは民主化と累積債務危機を経た後に文民勢力によるポピュリスト政権が登場し、大混乱を引き起こした。そこに新しい政治指導者として登場したのがフジモリであった。こうしたペルー政治の動向を分析する。 【キーワード】 アヤ・デ・ラ・トーレ　アプラ党　フジモリ　アラン・ガルシア	恒川惠市（JICA研究所長）	恒川惠市（JICA研究所長）
12	ニカラグアの政治	ニカラグアでは、寡頭支配層がソモサ一族の個人独裁の形で長期支配を続けたが、支配層の内紛に乗じた左翼ゲリラが勢力を伸ばしてソモサ打倒に成功した。80年代には左右が衝突する内戦が勃発したが、数万人が犠牲となった内戦を経て民主化を遂げた後は、右派と左派が選挙で競争するようになっている。この間の政治史を解説する。 【キーワード】 ソモサ　ｻﾝﾃﾞｨﾆｽﾀ民族解放軍　レーガン政権　ﾀﾞﾆｴﾙ・ｵﾙﾃｶﾞ	恒川惠市（JICA研究所長）	恒川惠市（JICA研究所長）
13	現代の焦点（1）：民主主義の持続	現代の中南米で決して良好とは言えない経済的社会的状況の中で民主主義体制が持続しているのはなぜかを、各国での長期世論調査のデータを用いて分析する。人々が経済状況と民主主義を直接結びつけるのではなく、民主主義のルールを遵守すること自体を重視していることや、過去の紛争と抑圧の経験が民主主義評価につながっていることなど、構成主義的な説明の有効性を確認する。 【キーワード】 ラティノバロメトロ　民主主義コミットメント　紛争	恒川惠市（JICA研究所長）	恒川惠市（JICA研究所長）
14	現代の焦点（2）：先住民の政治的復権	現代の中南米政治の特色の1つは、長い間社会の最下層に押し込められ、政治的にも時に反乱を起こす以外は受け身の存在であった先住民系国民の政治的覚醒である。彼らは絶望的な反乱にとどまるのではなく、合法的な先住民団体や政党を組織して政治参加をめざすにいたっている。エクアドルとボリビアを中心に、先住民の政治運動について解説する。 【キーワード】 先住民　CONAIE　MAS　エボ・モラレス	恒川惠市（JICA研究所長）	恒川惠市（JICA研究所長）
15	現代の焦点（3）「左派」の復活	中南米では、選挙を通して左派寄りの勢力が政権に就く例が増えている。ベネズエラ、ブラジル、ウルグアイ、ボリビアなどの例に触れると同時に、なぜそのような現象が見られるのか、左派政権の登場は中南米の民主主義にとってプラスなのかマイナスなのか、そして今後中南米の民主主義は生き残れるのかといった問題を考察する。 【キーワード】 ｳｰｺﾞ・ﾁｬﾍﾞｽ　ﾀﾊﾞﾚ・ﾊﾞｽｹｽ　ﾗﾌｧｴﾙ・ｺﾚｱ　ｶﾗｶｽ大暴動	恒川惠市（JICA研究所長）	恒川惠市（JICA研究所長）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1530607	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 現代の国際政治 （’０８）＝（ＴＶ）

－９月１１日後の世界－

〔主任講師（現職名）：高橋 和夫（放送大学教授） 〕

講義概要

アメリカ、イスラム、アジア、欧州連合の拡大、エネルギー、環境というキーワードを使って現代の国際政治を描く。まず、唯一の超大国アメリカの外交に焦点を当てる。分析の第二の視点はイスラムである。アメリカが2001年以来の同時多発テロ以来アフガニスタンとイラクで二つの戦争を戦っている。いずれもイスラム地域である。アメリカの中東・イスラム地域への政策はいかに展開してきたのだろうか。いかなるメカニズムで動いてきたのだろうか。逆にイスラム地域からアメリカはどう見えるのだろうか。単に両者を対立の構図でとらえるのではなく、アメリカで進行するイスラム教徒の増大という現象にも目を向けよう。第三にアジアで台頭するインドと中国に注目する。両国はどのような関係を相互に打ちたてようとしているのだろうか。また超大国アメリカと両国はどのような関係を切り結ぼうとしているのだろうか。アメリカ、インド、中国の関係がアジアの構図を規定する大きな要因となろう。第四に冷戦後に拡大の勢いを強めるEU（欧州連合）の意味を考える。第五にエネルギーと環境という問題を国際政治という視点から分析する。つまり、複数の視点を交差させて国際政治の新しい風景を描き出す。

授業の目標

国際政治を理解するための基本的な構図を提示する。詳細ではなく、太いタッチで全体像を描く。したがって細密画ではなく、墨絵のような国際政治像となろう。強調したいのは、考えるという主体的な行為である。与えられる情報を批判的に分析する能力を獲得していただきたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	テレビと国際政治/もうだまされないために	イラク戦争の報道で劇的な形で示されたように、テレビの映像は国際政治で大きな役割りを果たす。しかしながら、映像とは客観の顔をした主観に過ぎない。映像は、それを創り出し送り出す側の意図に左右されるからである。そうした視点から、テレビが国際政治に影響を与えるメカニズムの幾つかを提示する。 【キーワード】 部分と全体、主観と客観、ニクソンのワナ、衛星テレビ、アル・ジャジーラ	高橋 和夫（放送大学教授）	高橋 和夫（放送大学教授）
2	スーパー・パワーの世界戦略	世界の国々はアメリカとその他に分類できる。そのアメリカの世界戦略を歴史的な視野から振り返る。同時に、その力の源泉と外交の特徴を紹介する。つまり冷戦後の唯一の超大国の国際政治での姿を太いタッチで描写する。 【キーワード】 小国としてのアメリカ、第一次世界大戦、第二次世界大戦、5M	同上	同上
3	アメリカの中東政策	第二次世界大戦後のアメリカの中東政策の展開を跡付ける。またアメリカの中東政策を突き動かす国内政治のダイナミズムを分析する。 【キーワード】 三つの目標、ソ連の封じ込め、石油、イスラエルの安全保障、 AIPAC	同上	同上
4	アフガニスタン（1）大国のはざまで	1979年のソ連軍の侵攻、そして2001年のアメリカのターレバン攻撃など戦争の際に一瞬だけ光を浴びては、また忘れられる。現代史におけるアフガニスタンは、そのような運命を甘受してきた。光を浴びていない時期を含めたアフガニスタンの近現代史を解説する。 【キーワード】 ナポレオン、グレート・ゲーム、デュランド・ライン、パシュトゥーン	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	アフガニスタン(2)対ターレバン戦争	アフガニスタンの隣国パキスタンの置かれた位置は微妙である。アメリカの同盟者であると同時にかつてはターレバンの保護者でもあったパキスタンは、カシミールを巡ってインドと対立している。また同じようにアフガニスタンに隣接するイランは、この戦争においてアメリカに協力したにもかかわらず、「悪の枢軸」の一員とされた。周辺諸国の動向を視野に収めながら、1990年代のターレバンのアフガニスタン制圧、2001年のアメリカのアフガニスタン攻撃とターレバン政権の崩壊とその後の情勢を跡付ける。 【キーワード】 ターレバン、パイプ・ライン、中央アジア、アルカーエダ	高橋 和夫（放送大学教授）	高橋 和夫（放送大学教授）
6	イラク(1)同盟者サダム・フセイン	アメリカの対イラク政策は、フセイン政権の利用に始まり、その封じ込めに転じ、そして転覆へと帰結した。イラクの歴史から説き起こし、フセインの時代、そしてイラク戦争への道を振り返る。 【キーワード】 バース党、フセイン、イラン革命、イラン・イラク戦争、化学兵器、	同上	同上
7	イラク(2)「戦後」の風景	2003年のアメリカによるイラク攻撃は、フセイン政権の終わりではあってもイラク情勢の安定の始まりではなかった。イラク戦後のイラクの風景を描き、将来のシナリオを提示する。ポイントの一つはイラク北部のクルド地域の動向である。 【キーワード】 三分割、シーア派、スンニー派、クルド民族、バルカン、オスマン帝国	同上	同上
8	イラン／超大国と地域大国	イラクに影響力の強い国はアメリカとイランである。この両国関係の展開がイラクの将来を左右しかねない。そのアメリカ・イラン関係の核心にあるのが、イランの核開発である。平和利用を主張する地域大国とイランの軍事的野心を疑う超大国アメリカの間の緊張が高まっている。 【キーワード】 ウラン濃縮、軍事力行使、経済制裁、イスラエル、ヘズボッラー	同上	同上
9	アメリカのイスラム(1)9・11の影で	アメリカでイスラム教徒が急増している。その流れの一つは、黒人の間に広まった教えを広めたネーション・オブ・イスラムという組織である。第二の流れは白人の改宗者である。そして第三の、そして一番大きな流れはムスリム（イスラム教徒）の移民の急増である。アメリカのそのメンバーはブラック・ムスリムと呼ばれる。アメリカの多様なイスラムの姿を伝える。 【キーワード】 イライジャ・ムハマッド、マルコムX、ムハマッド・アリ、アビゼイド将軍	同上	同上
10	アメリカのイスラム(2)政治への衝撃	2000年の大統領選挙の勝敗を分けたのはフロリダ州であった。そのフロリダ州でのブッシュの「勝利」にイスラム教徒は大きな役割を果たした。また2006年にはイスラム教徒の連邦下院議員が誕生した。このようにムスリムの急増がアメリカの政治にインパクトを与え始めた。 【キーワード】 公開されない証拠、パレスチナ問題、エリソン議員、アラブ人とイスラム教徒	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	ヨーロッパのパラドックス／統合と分離	EU（欧州連合）の拡大が続いている。逆にスコットランドや北イタリアなどでは、現在の国家の枠組から離脱しようとの運動がある。国家の単位を超えた統合への希求と国家から離脱を目指す傾向が並存している。一見矛盾する二つの流れが何故に存在するのだろうか。ヨーロッパに典型的に観察される矛盾する二つの流れの背景を探る。 【キーワード】 マイクロ・ナショナリズム、グローバリゼーションの二つの顔	高橋 和夫（放送大学教授）	高橋 和夫（放送大学教授）
12	巨象と昇竜/インドと中国	アジアにおける大きな構図はインドと中国の台頭である。長期的には両者の関係がアジアの国際政治を規定する重要なベクトルとなるだろう。発展する両国の経済が世界の資源需給に殊にエネルギー供給に重い負担となりつつある。また両国の影響力が触れあい、摩擦を起こす場面も見えてきた。両国の発展の意味は何か、国際政治への影響は何か、昇竜と巨象の関係を見つめながら、将来への展望を探る。 【キーワード】 中印国境紛争、経済成長、製造業、ソフト、在米インド人	同上	同上
13	エネルギー	ペルシア湾岸が世界の心臓である。世界経済の血液に当たる石油を各国に輸出しているからである。また2000年代に入ってからのエネルギー価格の急騰は、ロシアの国際政治への大国としての復活をもたらした。ロシアがエネルギー大国だからだ。こうした例を取り上げながら、エネルギーが国際政治に与える意味を考える。 【キーワード】 GCC、北極海、カスピ海、新エネルギー、「爆食」	同上	同上
14	環境保護の政治力学	環境問題のエッセンスは、環境保全の費用を誰が、いつ、どのような形で負担するかにある。環境問題の難しさは、科学的な不確定さを背景として議論される点にある。環境問題の特徴は、NGOの果たす役割の大きさである。 【キーワード】 地球温暖化、CO2、環境技術の移転、	同上	同上
15	国際政治の新しい風景	外交とは国家が外務省を通じて行うとの通念が壊れて来た。「国内官庁」、自治体、企業、NGOさらには個人まで外交に関与する時代が到来している。また戦争は国家が軍によって行うという概念も過去のものとなった。イラクで展開する民間軍事会社の「企業戦士」は2万人と言われる。外交にも戦争にも種々のアクター（行動主体）が参加している。21世紀の国際政治の風景である。 【キーワード】 DN、アルカーエダ、インターネット	同上	同上

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1531000	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 現代行政分析 （’０８）＝ （R）

※この科目は「現代行政分析（’04）」の一部改訂科目です。
改訂回は3, 4, 5, 11, 12, 14, 15回です。

〔主任講師（現職名）：真　渕　　勝（京都大学大学院教授）　　〕

講義概要

日本の行政に仕組みを概観すると同時に、それがどのように作動しているかを経験的な分析に基づいて明らかにする。

授業の目標

日本の行政の仕組みについて基本的な知識を身につけると同時に、それに関する理論的な疑問を提起し、それを解く能力を身につける。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	社会科学としての行政学	行政学は行政を研究対象とする社会科学である。それでは、どのようにアプローチすればよいのか。社会科学の研究の方法および行政学への適用の仕方について具体的な例を挙げながら検討する。	真渕　勝（京都大学大学院教授）	真渕　勝（京都大学大学院教授） ゲスト： 久米　郁男（早稲田大学教授）
2	国家公務員制度1－採用と昇進	「国家公務員制度」では採用から退職にいたるプロセスを追う。 2では、国家公務員の採用と昇進のプロセスを概観することを通じて、日本の国家公務員制度の特徴を明らかにする。キャリアとノンキャリア、事務官と技官、男性と女性などを対比させて論じる。	同　上	真渕　勝 ゲスト： 稲継　裕昭（早稲田大学教授）
3	国家公務員制度2－退職と再就職 **（※改訂回）**	天下りの実態を記述した後に、天下りがどのような機能を果たしているのかを分析する。批判されることの多い慣行であるが、一定のポジティブな機能を果たしていたことも明らかにする。	同　上	同　上
4	国家行政機構1－議院内閣制と省庁制 **（※改訂回）**	「国家行政機構」では狭義の行政機構だけでなく、民間との関係をも視野に入れた講義の行政機構について講義する。 4では、2001年の中央省庁再編の前後を比較して、何を変えようとしたのか、そして何が変わったのか、何が変わらなかったのかを検討する。首相のリーダーシップの限界、縦割り行政などが焦点になる。	同　上	真渕　勝
5	国家行政機構2－行政ネットワーク **（※改訂回）**	国家行政機構と特殊法人や民間団体との関係を明らかにすることによって、日本の行政のダイナミズムを明らかにする。特殊法人改革とエージェンシー化、官民関係の変容など最近の動きをどのように理解するかについても触れる。	真渕　勝	真渕　勝 ゲスト： 松並　潤（神戸大学大学院教授）
6	行政改革1－行政改革と行政管理	「行政改革」では、その意味や効果を、経験的側面ならびに理論的側面から検討する。 6では、行政管理はどのように行われているのかを記述した後に、これと行政改革の関係を経験的に分析する。行政改革は行政の実態にどのような影響を及ぼしているのかを明らかにするのが目的である。	同　上	真渕　勝

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
7	行政改革2－改革の理論	行政改革を含む政治の仕組みの改革はどのような理由やタイミングで行われるのかを合理的選択論の視点から説明する。地方制度改革についても射程にいれる予定である。	同上	同上 ゲスト: 建林 正彦 （同志社大学教授）
8	政策過程1－議題設定と政策決定	「政策過程」では議題設定から評価にいたる流れを理論的に概観すると同時に、予算編成を素材にその実態を明らかにする。 8では、政策過程の理論の前半部分に関する諸理論を紹介する。ある潜在的な問題が政府の取り上げるところになるのはどのようなプロセスを経てであるか、なぜある問題は放置され続けるのかについて、マスメディアの役割に言及しながら、解明する。	同上	真渕 勝 ゲスト: 久米 郁男
9	政策過程2－実施と評価	政策過程の理論の後半部分に関する諸理論を紹介する。政策が期待された効果を発揮しないことがあるが、それはなぜか、それに対してどのような策が講じられているのかについて検討する。	同上	真渕 勝 ゲスト: 秋月 謙吾 （京都大学大学院教授）
10	政策過程3－予算編成過程	現実の政策過程のあり様を予算編成過程を概観することによって描く。政策の優先順位はどのようにつけられているのか、政治家や国民は予算編成にどのように係わっているのかを見る。	同上	真渕 勝
11	官僚制論1－国民、政治家、官僚 （※改訂回）	「官僚論」では、官僚の役割を、官僚と国民・政治家との関係、上級及び下級官僚の行動様式という3つの観点から検討する。 11では、行政官の役割をいわゆる本人代理人論の観点から整理する。一方で官僚にその能力を十分に発揮させ、他方で官僚の行動を監視するにはどのような方法があるのかについて考えたい。	同上	真渕 勝 ゲスト: 久米 郁男
12	官僚制論2－上級官僚の機能と役割 （※改訂回）	キャリアの官僚に焦点をあてて、彼らの役割意識と行動様式について検討する。	真渕 勝	真渕 勝
13	官僚制論3－第一線公務員の行動様式	ノンキャリアの官僚に焦点をあてて、彼らの役割意識と行動様式について検討する。	同上	真渕 勝 ゲスト: 北山 俊哉 （関西学院大学教授）
14	中央地方関係1－法的関係 （※改訂回）	「中央地方関係」では、中央政府と地方政府との関係を法的関係、財政的関係、人的関係の3つの側面から検討する。 14では主に法的関係について検討する。中央政府はどのように地方政府を法的に統制しているのか、地方はどのように独自性を発揮しようとしているのかが焦点である。	同上	真渕 勝 ゲスト: 秋月 謙吾
15	中央地方関係2－財政的関係と人的関係 （※改訂回）	中央地方関係の残る2つの側面を見る。中央政府はどのように地方政府を財政的、人的に統制しているのか、地方はどのように独自性を発揮しようとしているのかが焦点である。市町村合併についても言及する。	同上	真渕 勝 ゲスト: 北山 俊哉

事務局記載欄	開講年度	２０１１年度	科目区分	専門科目	科目コード	1639110	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 現代日本の政治 （’１１）＝ （ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：久米　郁男（早稲田大学政治経済学部教授）〕

〔主任講師（現職名）：河野　勝（早稲田大学政治経済学部教授）〕

【本学担当専任教員：山岡　龍一（放送大学教授）】

講義概要

現代日本の政治を、政治学の理論を用いて説明します。そのために、選挙制度や、政党、議会、官僚制など日本の政治制度都政時アクターについて説明を行った上で、それらの制度や政治アクターが、具他的な政策過程においてどのような働きをし、どのような形で日本政治の特徴を形作ってきたのかを説明します。

授業の目標

履修上の留意点

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	日本政治を見る視点	現代日本政治を政治学の理論に従って理解することの意味について説明します。ロケによるインタビュー含む。 【キーワード】	久米郁男	久米郁男・河野勝
2	政府への期待	人々は政府にどのようなことを期待してきたのかを世論調査データを用いて説明した上で、政府の守備範囲に関する理論（小さな政府・大きな政府）について説明します。 【キーワード】	久米郁男	久米郁男
3	民意とは何か：世論と選挙	人々がどのようにして自分たちの代表としての政治家を選んできたのか、政治家はどの程度民意を反映してきたのかを説明します。 【キーワード】	河野勝	河野勝

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	政党と政治	日本の政治における政党の役割、政党を支持しない無党派の出現が日本政治に及ぼしている影響について説明します。ロケによるインタビュー含む。 【キーワード】	河野勝	河野勝
5	選挙制度と政党システム	選挙制度のあり方が日本の政党システム、ひいては政治のあり方にどのような影響を与えてきたかを説明します。 【キーワード】	河野勝	河野勝
6	議会の役割	日本の政治における議会の役割について説明します。 【キーワード】	久米郁男	久米郁男
7	日本における執政府	本章では、日本における政治的リーダーシップの在り方、執政府政時について考える。 【キーワード】	久米郁男	久米郁男
8	官僚制と政治	日本の政治における官僚の役割について説明します。 【キーワード】	久米郁男	久米郁男
9	地方自治と政治	本章では、地方自治がなぜ必要とされているかを検討した後で、戦後日本の地方自治がどのように発展してきたかを説明する。 【キーワード】	久米郁男	久米郁男
10	利益団体と政治	日本の政治における利益団体の役割について説明します。 【キーワード】	久米郁男	久米郁男

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	マスメディアと政治	本章では、マスメディアが日本政治においてどのような役割を果たしてきたかを考える。 【キーワード】	久米郁男	久米郁男
12	福祉国家と政治	本章では、戦後日本における福祉政策の発展の過程をを説明する。 【キーワード】	久米郁男	久米郁男
13	公共事業と政治	日本の政治において公共事業がどのような意味を持っていたのかを説明します。 【キーワード】	河野勝	河野勝
14	外交政策	戦後日本の外交政策について説明します。 【キーワード】	河野勝	河野勝
15	外交と内政	戦後日本に於いて外交と内政がどのような関係にあったかを説明します。ロケインタビュー。 【キーワード】	河野勝	河野勝

科目名（メディア）＝　日本政治外交史（‘０７）＝（TV）
—転換期の政治指導—

〔主任講師（現職名）：　天川　晃（放送大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：　御厨　貴（東京大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：　牧原　出（東北大学大学院教授）〕

講義概要

近現代の日本政治外交史で大きな転換期をとりあげ、リーダーとそのパーソナリティ、集団とその性格を、指導者を取り巻く状況や行動を制約する制度などとの緊張関係の中で位置づけ、近代日本の政治指導の特質を考える。主任講師の講義に加えて、テーマに関する専門家をゲストに迎える予定。

授業の目標

日本政治外交史の大きな流れをつかむと共に、現代日本の政治的リーダーシップのあり方と特質について考える。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	転換期の政治指導	講義全体のイントロダクション。近現代の日本政治外交史のなかで大きな転換期をトピックとしてとりあげ、その時に直面した課題と解決方法の特質について概観する。	天川　晃	天川　晃 御厨　貴 牧原　出
2	明治の国づくり	幕末から維新政府の創設を経て、明治の国家体制を作り上げてゆく過程を、伊藤博文と山縣有朋らを中心に描いてゆく。	天川　晃	天川　晃
3	戦争と政治指導	明治中期の日本は、日清戦争、日露戦争、第一次大戦と、次々に戦争に乗り出してゆく。この過程での戦争と政治の関係を、陸奥宗光、小村寿太郎などの外交を中心に振り返る。	御厨　貴	御厨　貴
4	転換期の大正	大正期に入ると、外では帝国主義的経営と内ではデモクラシー状況の展開という新たな課題に直面する。この転換期における内政と外交の舵取りを行った原敬と後藤新平を対比させつつ論じる。	御厨　貴	御厨　貴

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	軍縮と軍拡	大正期から昭和前期の政治の焦点は軍縮と軍拡をめぐる国内の動きであった。陸軍と海軍、それぞれの内部における集団と政党、世論が複雑に交錯する動きを跡付ける。	牧原　出	牧原　出
6	宮中と政治	政党が力を失い、軍部が力を持ち始めると、これに対抗する力を持ち始めたのが宮中の勢力である。最後の元老の西園寺公望、首相となった近衛文麿、内大臣の木戸幸一らの動きを中心に戦前・戦時の宮中と政治の動きを通観する。	御厨　貴	御厨　貴
7	天皇と天皇制	天皇に関する制度は明治憲法期と現行の日本国憲法期では大きく異なる。昭和天皇はこの大きく変貌した二つの憲法環境を一身で経験した。昭和天皇の役割を中心に昭和の時代を振り返る。	御厨　貴	御厨　貴
8	戦後体制の形成	敗戦から占領、そして講和条約と安保条約の締結。これらを通じて第二次大戦後の政治体制は作られた。この章では吉田茂と岸信介を中心に戦後体制の形成過程を検討する。	天川　晃	天川　晃
9	高度経済成長期の政治	１９５０年代から始まる高度経済成長は日本社会のあり方を大きく変えた。池田勇人内閣の「所得倍増」と佐藤榮作内閣の「社会開発」を中心に、高度経済成長期の政治家・官僚・ブレーンの役割について検討し、経済成長の政治的影響を考える。	牧原　出	牧原　出
10	民主政治の源流	日本政治の民主化の過程を、政治の舞台装置である議会の形成と議会・政党人の歩みを中心にフォローしつつ、戦前日本の議会と政党政治の特質を考える。	御厨　貴	御厨　貴
11	戦後政党システム	戦後の政党システムは戦前の遺産を引き継いで発展してきた。戦後の議会制度の枠組みの変化と政党の人的系譜をたどるとともに、諸外国の戦後政党システムとの比較をも試みる。	天川　晃	天川　晃

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	政治と司法	政治と司法のあり方も戦前と戦後で大きく異なる。司法の政治介入と政治の司法介入の歴史を辿りつつ司法権の独立の政治史的意義を考える。	牧原　出	牧原　出
13	自治体と改革	自治体首長の直接公選制度は多様な人材を自治体の首長に受け入れることを可能にした。１９６０年代以降、自治体におけるさまざまな実験が日本の政治に影響を与えてきた。「改革派」首長の役割を考える。	天川　晃	天川　晃
14	保革伯仲と派閥政治	高度成長以後、成長の成果の分配が政治の主題となり、成長と分配をめぐって与野党間でも与党の自民党内でも争いがあった。この保革伯仲期の派閥政治について、田中角栄内閣から大平正芳内閣について検討する。	牧原　出	牧原　出
15	大統領的首相	派閥抗争の展開は国民から政党への支持を低下させる。政党内の基盤の弱い指導者は直接に国民から支持を調達して政権の運営を図ろうとする。大統領的首相の登場の意義を中曽根康弘、小泉純一郎らの政治スタイルとともに考える。	牧原　出	牧原　出

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	専門科目	科目コード	1534815	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ ヨーロッパ政治史 （’１０）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：平島健司（東京大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：飯田芳弘（学習院大学教授）〕

【本学担当専任教員：山岡龍一（放送大学教授）】

講義概要

現代西欧における国家のありようを、主として近代以降の発展史の観点から考える。西欧における国家は、民主政治を実現する上での枠組みであると同時に、経済的繁栄と社会的公正を確立するための装置として建設されてきた。しかし、第2次世界大戦後に開始され、冷戦の終焉後に加速された国家統合は、それを推進した国家自体を逆説的に相対化しつつある。西欧諸国家がたどった多様な歴史的発展の道をたどり、グローバル化と欧州統合の中で変容を重ねるその実像を考える。

授業の目標

グローバル化が進展する中で国家はその役割を失いつつある、とよく言われます。しかし、国家という政治秩序を生み出した西欧では、現代においても国家を土台として新たな課題の挑戦に応えようとする試みが続けられています。19世紀に原型が作られた国民国家や、第2次世界大戦後に構築された福祉国家という仕組みは、グローバル化や欧州統合の中でどのように変化しているのでしょうか。国家がさまざまな課題に答えるための条件や可能性、限界とはどのようなものでしょうか。ヨーロッパの諸国家がもつ多様性に注意しながら、国家をめぐるさまざまな問題を歴史的に考えることが本講義の目的です。

履修上の留意点

近代以前にまでさかのぼって西欧の歴史を俯瞰するというのは、いかにも無謀な試みに見えるかもしれません。しかし、この講義は、西欧に成立した近代国家という一つの政治秩序が、19世紀後半に国民国家として凝集力を強め、ファシズムという横道にそれながらも第2次世界大戦後に福祉国家として安定し、さらにEUにおいて相対化されてきた筋道をそれなりに首尾一貫した観点から理解することが目的です。改訂にさいし、全体の統一を高め、各章が有機的に相互関連するように配慮しましたので、印刷教材をしっかりと読みこなしていただければ幸いです。余裕のある方には、参考文献をひもとかれることもお勧めします。西欧の国々がたどった歴史は、それぞれが独特でありながら相互に深く影響を及ぼしあって織り成してきた綾織の布とでもいうべきでしょうか。多様性と統一の緊張関係を念頭において学習してください。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	問題の設定と全体の構成	まず、講義全体の概要を講義の流れに沿って説明する。はじめに、ヨーロッパにおける近代国家の形成・変容と、第2次世界大戦後における福祉国家としての加盟国とEC/EUとの連関という全体のテーマを確認する。次に、国家形成に関するロッカンの段階区分を参照しつつ、フランス革命から1970年代に至る時代の区分を考える。さらにそれ以降については、福祉国家としての現代国家を、他方におけるグローバル化と欧州統合の進展の観点からより細かな時期区分を試みる。 【キーワード】 ヨーロッパの概念地図、領域性、近代国家の形成、福祉国家	平島 健司（東京大学・教授	平島 健司（東京大学・教授） 飯田 芳弘（学習院大学・教授）
2	普遍帝国の解体と国家建設	近代化開始までのヨーロッパにおける国家建設について考察する。一定の領域を排他的に支配する諸国家によって分割されたヨーロッパの成り立ちを、古代ローマ帝国以来の民族と地域を超越した普遍帝国が解体するプロセスとして概観した後、そのプロセスの末に各地に現われた国家の特徴を、いくつかの類型に分けて説明する。 【キーワード】 普遍帝国、国家建設、絶対主義、議会主義、官僚制	飯田 芳弘（学習院大学・教授）	飯田 芳弘（学習院大学・教授）
3	近代化の始動－フランス革命と産業革命	フランス革命とイギリス産業革命をヨーロッパにおける国家の近代化の起点ととらえ、その影響を受けて各国で始まった国家の発展について考察する。フランス革命の理念を継承したナポレオンのヨーロッパ支配が、各国の立憲化・議会化や国家官僚制による改革、ナショナリズムの動員を促したこと、先進的なイギリス経済が各国に対抗的な工業化を迫ったことを説明する。 【キーワード】 フランス革命、ナポレオン、産業革命、対抗的工業化、鉄道建設、保護関税	飯田 芳弘（学習院大学・教授）	飯田 芳弘（学習院大学・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	自由主義とその民主化戦略	フランス革命において示された「市民社会」の理念は、各国においてどのように実現されたのかを検討する。注目するのは「市民社会」の理念の最も重要な推進勢力であった自由主義である。その政治・社会・経済に対する具体的な改革の構想を紹介した後、各国における自由主義的な改革の限界や自由主義勢力の変容について、国ごとの相違に留意しながら解説する。 【キーワード】 市民、市民社会、自由主義、ブルジョワ、制限選挙制	飯田　芳弘（学習院大学・教授）	飯田　芳弘（学習院大学・教授）
5	「国民国家」の時代	ヨーロッパ各地の国家は、19世紀にナショナリズムとの関係を強め、「国民国家」の様相を呈するようになった。「ネイション（国民・民族）」や「ナショナリズム」などの基本的な概念を整理した後、19世紀後半にナショナリズム運動が「国民国家」建設に寄与した事例として、ドイツとイタリアの国家統一を比較しながら検討する。さらに、ドイツとフランスの事例を、「国民」の資格要件の視点から比較考察する。 【キーワード】 ネイション、ナショナリズム、国民形成、国民国家、連邦制国家、国籍	飯田　芳弘（学習院大学・教授）	飯田　芳弘（学習院大学・教授）
6	自由主義的国家の機能とその変質	19世紀の国家は、経済や社会に対して基本的に非介入の姿勢をとる自由主義的な性格を帯びていた。19世紀の国家に要請された機能・役割と、世紀後半に発展した国際的な自由主義体制（19世紀のグローバル化）を支えた条件について考察した後、そのような自由主義的国家の変質の始まりとして、1870年代末の大不況にともなう保護主義への転換と、工業化の進展や労働者層の台頭を背景とする社会政策の展開を紹介する。 【キーワード】 自由主義的国家、グローバル化、自由貿易、国際金本位制、保護主義、社会政策	飯田　芳弘（学習院大学・教授）	飯田　芳弘（学習院大学・教授）
7	変容する政治社会と体制変動	19世紀末以降、ヨーロッパ各国では社会の組織化と組織を通じた政治的動員が進んだ。政治の組織化・大衆化は国家に対する社会の政治的圧力を高め、各地で国家と社会の関係に変化がもたらされた。19世紀的な議会政治の変容や議院内閣制化問題を検討した後、市民社会における軍事的価値や急進的なナショナリズムの広がりに注目し、総力戦を準備した各国社会の変容について考える。 【キーワード】 議院内閣制化、政治的カトリシズム、社会主義、労働組合、大衆政治、軍事化	飯田　芳弘（学習院大学・教授）	飯田　芳弘（学習院大学・教授）
8	第一次世界大戦の衝撃と遺産	第一次世界大戦が国家の発展に与えた影響を考察する。まず、大戦が19世紀の民主化の課題を完成させる一方で、その民主体制に対する不安定要因をも残したという、大戦の両義的な影響を紹介する。続いて、総力戦下における動員体制が国家と社会の関係の緊密化をもたらし、戦後政治では国家と各種団体との安定的関係が政治的安定にとっての重要な要因となったことを説明する。 【キーワード】 総力戦、比例代表制、女性参政権、ファシズム、相対的安定、団体主義	飯田　芳弘（学習院大学・教授）	飯田　芳弘（学習院大学・教授）
9	経済危機と政治	世界恐慌から第二次世界大戦勃発までの時期は、ヨーロッパにおける国家の発展の上で重大な画期となった。まず、経済危機に対する各国の政策的対応の違いを分類して説明する。また、経済危機への対応としてなされた政治勢力の再編が、第二次大戦後の政治体制を準備するような事例を紹介する。最後に、ヨーロッパにおける民主政治の発展を挫折させた象徴的な事例であるナチズムについて説明する。 【キーワード】 金本位制の放棄、プラニスム、赤緑連合、労使和解、ナチズム	飯田　芳弘（学習院大学・教授）	飯田　芳弘（学習院大学・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	戦後復興、高度成長と福祉国家の建設	ファシズム体制をの崩壊と第二次世界大戦における破壊から立ち上がった各国は、民主政と政治経済の安定の上に、いくつかの類型に区分される福祉国家の建設を進めた。福祉国家体制の安定を全体として可能にした共通の条件（冷戦の文脈やアメリカを基軸とする国際通貨、自由貿易体制など）について考えながら、各類型の形成過程と特質を確認する。 【キーワード】 福祉国家体制、ネオ・コーポラティズム、政党システム、埋め込まれた自由主義	平島　健司（東京大学・教授	平島　健司（東京大学・教授
11	ローマ条約への道	独仏を初めとする六カ国は、石炭鉄鋼セクターを対象として開始した共同体の構築を関税同盟へと及ぼしていった。各国は一方ではそれぞれの福祉国家の建設に力を注ぎながら、他方では国家を相対化する国家統合を進めたというパラドックスに注目しながら、欧州統合の条件、構想、制度について説明する。 【キーワード】 シューマン宣言、ローマ条約、関税同盟	平島　健司（東京大学・教授	平島　健司（東京大学・教授
12	高度成長の終焉―社会変化と政策対応	1973年の第1次オイルショックに直面した各国は、物価と雇用の安定を維持するために政策対応をせまられた。国家と社会団体の間に築かれていたコーポラティズム的枠組みの観点から、その対応の成否の条件を比較検討する。また、過ぎ去った高度成長が残した遺産としての政治参加の高まりと、欧州統合の停滞の実相についても考える。 【キーワード】 ケインズ主義、ネオ・コーポラティズム、脱物質主義、新しい社会運動、EMS	平島　健司（東京大学・教授	平島　健司（東京大学・教授
13	新自由主義の台頭―政治路線対立の激化	イギリスのサッチャー政権が掲げた新自由主義と、フランスのミッテラン政権が強いられた政策転換は、戦後福祉国家を支えた一国単位のケインズ主義に対するアンチテーゼであった。大陸諸国にも波及した新自由主義への政策転換の実際と環境主義政党の登場、並びに市場化を梃子として新たな展開を見せた欧州統合について検討する。体制移行を遂げた南欧諸国のEC加盟についても概観する。 【キーワード】 新自由主義、域内市場、単一欧州議定書	平島　健司（東京大学・教授	平島　健司（東京大学・教授
14	冷戦終焉後の国家―グローバル化と統合の進展	冷戦が終焉し、グローバル化が進展する中、東方への拡大に乗り出したEUと加盟国の変容について考察する。経済的自由を基軸とし、共通通貨の導入に向かったEUと、社会的公正の維持をめざす加盟国の福祉国家との緊張関係が焦点となる。90年代以降、いくつかの国に台頭した急進右翼政党についてその進出の条件を考察する。 【キーワード】 マーストリヒト条約、経済通貨同盟(EMU)、東方拡大、急進右翼政党	平島　健司（東京大学・教授	平島　健司（東京大学・教授
15	総括と展望―国家とEU	さまざまな課題に直面する西欧各国は、国家という枠組みをどのように組み直しつつあるのか。EUは国家に代わる新たな政治秩序なのか。福祉国家としての各国からみたEUの問題点を考察し、さらに民主的正統性の問題をEUと各国の双方のレベルについて検討する。近代以降の長期的歴史過程の中で形成されてきた国家の将来を展望して総括とする。 【キーワード】 前代未聞の政体、境界の管理、民主的正統性、政党政治の危機	平島　健司（東京大学・教授	平島　健司（東京大学・教授） 飯田　芳弘（学習院大学・教授）

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	専門科目	科目コード	1533100	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　現代東アジアの政治と社会　　（’１０）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：西村　成雄（放送大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：小此木政夫（慶應義塾大学教授）　〕

講義概要

21世紀東アジア世界の政治共同体（ここでは中国、台湾、香港、韓国、北朝鮮をとりあげる）は大きな変容と変動を経験しつつある。この東アジア世界を理解するには、少なくとも20世紀全体を眺望するような奥行きのある歴史認識と、それぞれの社会がどのような政治を生みだし、政治が社会をどのようにつくりかえてきたのかという政治体制論的分析視角が必要となろう。この講義では、それぞれの政治と社会の相互依存関係のダイナミズムと政治体制、さらに国際的諸条件から各政治共同体の特徴を解明したい。

授業の目標

現代東アジアの各政治共同体の歴史的展開と現代の諸課題を解明し、21世紀の今後を考えるうえでのいくつかの「支点」を提供したい。第一に、各政治共同体をその政治と社会の相互依存関係から政治体制の特徴を再定義し、それぞれの歴史的意義をとらえなおす。第二に、国際的諸条件をどのようにとらえ内部化してきたのか、国際秩序認識の特徴をとらえなおす。こうした「支点」を置くことで、新たな21世紀東アジア世界像を再構成する。

履修上の留意点

政治学、国際関係論、および他の地域世界に関連する講義を履修されることを期待する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	「現代東アジアの政治と社会」を学ぶ	現代東アジア世界の政治共同体のうち、中国、台湾、香港、韓国、北朝鮮を中心に、その政治と社会の歴史的特徴と相互依存関係を解明し、さらに国際環境の東アジアにおける特徴を分析し、政治体制からみた新たな東アジア世界像を検討する。というのも、第一に、「東アジア共同体」論にみられるように東アジア世界は新たな段階に入りつつあり、この段階に照応した歴史認識と現状認識が要請されているからであり、第二に、それぞれの政治共同体の当面する諸課題の解明にとって、ますます日本との関係性が濃密となっているからでもある。 【キーワード】 東アジアの国民国家群、国民国家、政治と社会の相互浸透性、20世紀中国の政治と社会	西村成雄（放送大学教授）	西村成雄（放送大学教授）
2	中国（1）20世紀前半期・清朝から中華民国へ	20世紀中国の前半期を眺望したとき、政治体制の変容は、清朝「皇帝制」から「立憲君主制」（1907年以降）へ、そして1911年辛亥革命を経て1912年「立憲共和制」中華民国の樹立となり、さらに1928年中国国民党による国民政府の組織化によって「党を以て国を治める（以党治国）」体制へと移行し、近代的国民国家建設が進展した。国際的条件からみると、帝国主義列強による中国分割の危機を経て、第2四半世紀は中国からみた「抗日時代」となり、戦後は中国共産党による新たな政治体制が創出された。 【キーワード】 中華民国、中国国民党（孫文・蒋介石）、国民政府（以党治国）、「抗日時代」、二つの政権とその帰趨	西村成雄（放送大学教授）	西村成雄（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
3	中国(2)―中華人民共和国の27年―	第二次世界大戦後、中国大陸では中国革命のなかから中華人民共和国が成立した。この政治体制は、中国共産党の指導する社会主義的国民国家としての政治経済政策を推進した。1956年以降、毛沢東の権力が増大し、1956年から10年にわたる「文化大革命」を経て、中国社会は新たな政治権力への移行を生みだした。この間の国際的条件は、冷戦から中ソ対立へと転換をとげ、1972年には米中国交回復を実現した。 【キーワード】 中華人民共和国、毛沢東、文化大革命、米中国交回復	西村成雄（放送大学教授）	西村成雄（放送大学教授）
4	中国(3)―改革開放政権とグローバリゼーション（鄧小平時代）	毛沢東の死後、中国が鄧小平のリーダーシップの下で改革開放政策を推進した事情をとらえなおす。中国共産党がイデオロギーを柔軟に変更したことにより、経済改革が深化して成果を上げた一方で、政治改革は停滞した経緯について理解を深める。 【キーワード】 鄧小平、改革、開放、趙紫陽、第2次天安門事件、南方談話、社会主義市場経済	高原明生（東京大学大学院教授）	高原明生（東京大学大学院教授）
5	中国(4)―21世紀中国の新段階	21世紀に入り、WTO（世界貿易機関）にも加盟した中国は、高度成長を続けた。それによって多くの人々の生活水準が向上したが、格差の拡大や環境汚染など、成長のひずみも大きかった。深刻化する社会問題について学び、共産党政権の対策や経済運営をめぐる意見の不一致、政治改革の展望について理解を深める。 【キーワード】 WTO加盟、世界の工場、成長のひずみ、「和諧社会」、「共産党の平和」	高原明生（東京大学大学院教授）	高原明生（東京大学大学院教授）
6	台湾(1)―国民党一党独裁体制の成立と強化―	中国共産党との内戦に敗れた中国国民党は、冷戦の展開と米国の支援によって台湾で復活した。国民党は蔣介石の個人的権力を極端に強化し、党組織を社会の隅々までに浸透させ、市民を抑圧し、台湾本省人の政治的地位を極端に低く抑えた一党独裁体制を実現した。 【キーワード】 2.28事件、省籍矛盾、中国国民党、一党独裁、レーニン主義体制	松田康博（東京大学東洋文化研究所准教授）	松田康博（東京大学東洋文化研究所准教授）
7	台湾(2)―民主化・台湾化と台湾問題の国際化―	米中国交正常化の中で蔣経国政権は国際的孤立と民主化運動への対処に悩まされた。後の李登輝政権は民主化、台湾化、実用主義外交、新大陸政策を推進した。台湾独立派である後継の陳水扁政権は、台湾化路線をさらに深化させ、中国の反発により台湾問題の国際問題化を招いた。 【キーワード】 台湾関係法、平和統一政策、民主化、台湾化、台湾独立	松田康博（東京大学東洋文化研究所准教授）	松田康博（東京大学東洋文化研究所准教授）
8	香港(1)―総督から行政長官まで	英領植民地・香港の成立から、返還後の香港特別行政区までをとりあげる。英領植民地香港は十九世紀、イギリスと清朝との間に締結された三条約から形成されていった。中華人民共和国の成立後、香港をめぐる対外環境は大きく変化し、そのなかで香港社会は中国大陸や台湾とは異なる独自の発展を見せた。「香港らしさ」を有した香港に、一九七〇年代末に返還問題が浮上した。二年余りの中英交渉を経て、香港は一九九七年に中国に一括返還され、その後「一国二制度」方式で五十年間統治されることとなった。 【キーワード】 香港、英領植民地、特別行政区、返還問題	谷垣真理子（東京大学大学院准教授）	谷垣真理子（東京大学大学院准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
9	香港(2)－「華人の都」と「中国の一都市」の共存	香港は歴史的にみて、中国世界の一部であり、一九九七年返還後は「中国の一都市」として中国国内との関係を緊密化している。しかし、香港を周辺地域との関係性のなかでとらえなおすと、香港は中国と外部を仲介する存在であり、華僑・華人のネットワークの結節点であったことに改めて気づかされる。本章では、華僑・華人の概要からときおこし、「華人の都」である香港が「中国の一都市」として今後の発展を模索しているのかを整理する。 【キーワード】 華僑・華人、プッシュ要因とプル要因、ディアスポラ、グローバリゼーション、後背地	谷垣真理子（東京大学大学院准教授）	谷垣真理子（東京大学大学院准教授）
10	朝鮮半島(1)－解放と分断と戦争	日本の植民地支配下にあった朝鮮半島は、第2次世界大戦後、米ソによって分割占領された。朝鮮解放は即時独立を意味しなかったのである。それどころか、大戦中に連合国によって合意されていた信託統治が挫折すると、独立への熱望と「冷戦」と呼ばれた米ソ対立が、1948年夏、38度線の南側と北側に大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国という二つの国家を成立させ、さらに朝鮮戦争（統一戦争）への道を準備した。 【キーワード】 カイロ宣言、ヤルタ会談、38度線設定、信託統治反対運動、金日成の台頭、米ソ共同委員会の流産、2つの国家の成立、朝鮮戦争	小此木政夫（慶応義塾大学教授）	小此木政夫（慶応義塾大学教授）
11	朝鮮半島(2)—分断国家の二つの道	朝鮮休戦後も、冷戦の全期間を通じて、南北朝鮮間の体制競争が継続した。それは双方の命運を賭ける激しい権力闘争（生存競争）であった。その過程で、韓国は学生革命やクーデターを経験したが、朴正熙、全斗煥政権の軍事体制の下で輸出指向型の経済開発戦略を探し当てた。他方、北朝鮮は重工業優先の大衆動員型経済建設方式を採用し、独自の社会主義の下で南朝鮮革命を追求したが、経済的な難局に直面せざるを得なかった。 【キーワード】 千里馬運動、学生革命、軍事革命、反帝民族解放革命、輸出指向型工業化、日韓国交正常化、維新体制、光州事件	小此木政夫（慶応義塾大学教授）	小此木政夫（慶応義塾大学教授）
12	朝鮮半島(3)—韓国民主化と冷戦終結	韓国では重化学工業化に続いて民主化が達成され、1988年にソウル・オリンピックが開催された。他方、北朝鮮は韓国との経済競争に敗北し、ベルリンの壁が崩壊（1989.11）すると、社会主義陣営という「後ろ盾」を失った。したがって、北朝鮮の核兵器開発には体制の「生き残り」が賭けられたのである。しかし、非核化を実現するための二国間交渉、六者会談などは、朝鮮半島に新しい平和体制を構築するための交渉でもある。 【キーワード】 民主主義への移行、民主化宣言、民主主義の定着、七・七宣言、北方外交、南北基本合意書、「合意された枠組」、南北首脳会談、日朝平壌宣言、六者会談、核実験	小此木政夫（慶応義塾大学教授）	小此木政夫（慶応義塾大学教授）
13	現代東アジア国際関係とアメリカ・ロシア	建国以来の中国外交と安全保障政策の展開を概観し、とくに改革、開放政策を推進し始めて以降、国力の増大とともに米、ソ（ロ）との関係がダイナミックに変遷を遂げた事情を解説する。外交、安全保障政策の要点を学習し、中国の生存と発展にとって鍵となる大国との関係について理解を深める。 【キーワード】 平和な国際環境の構築、中米関係、中ソ（ロ）関係、中国脅威論、「和諧世界」	高原明生（東京大学大学院教授）	高原明生（東京大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
14	東アジア共同体論と中国・日本	21世紀に入り、EU, NAFTAなどの地域統合の質的発展とともに、1997年アジア通貨危機を経て、日本も含めてアジア各地で「東アジア共同体」構想が提起されている。中国は東アジア外交を積極的にすすめるとともに、「アセアン＋3」、「FTA」などの多国間ネットワークを通じ、東アジア世界での存在感を増大させている。今後、東アジアで日本がどのような役割を果たすべきかを含め、現状と課題を解明する。 【キーワード】 「東アジア共同体」構想、アセアン、中国と日本	西村成雄（放送大学教授）	西村成雄（放送大学教授）
15	「現代東アジアの政治と社会」の研究課題	現代東アジアの各政治共同体とその相互依存関係の現状からみて、いくつかの今後の研究課題を例示したい。 第一に、東南アジアにおける国際組織アセアンの到達点とその課題を解明する。第二に、中国のみならず他の政治共同体の支配の正統性の再生産の特徴をとらえる。第三に、21世紀段階における国際公共財の創出をどのように構想するかを検討する。 【キーワード】 アセアンの政治的輻射力と東アジア国際関係、中国における支配の正統性の再生産、新たな国際公共財の創出	西村成雄（放送大学教授）	西村成雄（放送大学教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1540807	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ マーケティング論 （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：恩藏　直人（早稲田大学教授）〕

講義概要

今日のビジネス活動を考える上で、マーケティングは欠くことの出来ないものとなっている。マーケティングの考え方やフレームワークは、営利企業だけではなく、大学、病院、自治体など、非営利組織においても注目を集めている。その一方、マーケティングを断片的に捉えたり、誤って理解している人々も少なくない。この講義では、マーケティングの基本的な概念から、実際のビジネス・ケースまでを体系的に解説し、マーケティングの全体像を明らかにしていく。また、必要に応じて実務家を招き、実際のビジネスにおけるマーケティングについて語ってもらう。

授業の目標

今日のビジネス環境において必要とされるマーケティングの知識を身につけることを目標としている。マーケティングとは何か、マーケティングの要素にはどのようなものがあるのか、といったマーケティングの本質を理解した上で、講義で紹介する概念やフレームワークを実際のビジネス・シーンに応用できるようになるのが理想的である。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	マーケティングの本質	マーケティングとは何か。生産や販売とどのように異なるのか。どのような課題を担っているのか。本章では、こういった疑問に答えることで、マーケティングの本質について解説する。また、マーケティング・ミックスの考え方を紹介する。 【キーワード】 マーケティング・コンセプト、マーケティング・ミックス、マーケティング・マイオピア	恩藏　直人（早稲田大学教授）	恩藏　直人（早稲田大学教授）
2	マーケティングのSTP	マーケティングでは、STPという骨子が広く知られている。企業は、マーケティング活動を展開する前にSTPに関して検討しておかなくてはならない。本章では、STPのそれぞれについて解説を加える。 【キーワード】 セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング	同上	恩藏　直人（早稲田大学教授） ゲスト:トヨタ
3	顧客価値と顧客満足	顧客価値や顧客満足といった概念はマーケティングの基本的な概念である。本章では、マーケティングにおける顧客価値の重要性を説明するとともに、顧客価値を基礎に置いた企業活動を解説する。 【キーワード】 顧客価値、顧客満足、顧客育成	同上	恩藏　直人（早稲田大学教授） ゲスト:シンガポール航空
4	マーケティングと消費者	消費者を理解することはマーケティングにおける重要な課題である。本章では、マーケティングと消費者行動の関係を説明した後、消費者行動に関する基本的な概念を紹介する。 【キーワード】 関与、知覚、ブランド・カテゴライゼーション	同上	恩藏　直人（早稲田大学教授） ゲスト:ミツカン

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	マーケティングと市場志向型戦略	マーケティングでは、常に市場と向き合わなくてはならない。したがって、市場に対応した全社的な戦略策定や資源配分が重要となる。本章では、市場を強く意識したマーケティング戦略について解説する。 【キーワード】 ミッション、SWOT分析、成長ベクトル、ポートフォリオ	恩藏　直人（早稲田大学教授）	恩藏　直人（早稲田大学教授）
6	マーケティングと競争戦略	市場の成長が見込めない成熟市場においては、常に競合他社へ目を向けなければならない。自社が成長するためには、他社のパイを奪わなければならないからである。本章では、特に競争を意識した戦略的マーケティングについて解説する。 【キーワード】 リーダー、チャレンジャー、フォロワー、ニッチャー	同上	恩藏　直人（早稲田大学教授） ゲスト：ハーレーダビッドソン・ジャパン
7	リサーチによる顧客価値の発見	顧客価値を発見するために、企業は消費者に対し、様々なリサーチを実施する。本章では、データの種類について説明した上で、リサーチに用いられる測定尺度、サンプリング、集計方法などについて説明する。 【キーワード】 1次データ、2次データ、質問法、観察法、実験法	同上	恩藏　直人（早稲田大学教授） ゲスト：ビデオリサーチ
8	製品による顧客価値の創造	製品は顧客価値の中核をなしている。マーケティングで考える製品とは何か。新製品開発はどのように進められるのか。本章では、これらの疑問に答えるとともに、製品ミックスの考え方や製品ライフサイクルの概念を紹介する。 【キーワード】 製品、製品ライン、製品ライフサイクル、計画的陳腐化	同上	恩藏　直人（早稲田大学教授） ゲスト：花王
9	ブランドによる顧客価値の創造	顧客価値をより一層高めるものとして、ブランドがある。ブランド戦略は今日のマーケティングにおける重要課題の一つともなっている。本章では、ブランド・エクイティ概念について整理し、ブランド拡張やブランド変更など、ブランド戦略の主要な課題について考察する。 【キーワード】 ブランド・エクイティ、ブランド・リポジショニング、ブランド拡張	同上	恩藏　直人（早稲田大学教授） ゲスト：東急エージェンシー
10	サービスによる顧客価値の創造	顧客価値を創造するのは、有形物だけではない。サービスも顧客価値を創造する重要な要因である。本章では、有形の製品と比較した場合のサービスの特性、サービス産業のマーケティング課題について検討する。 【キーワード】 無形性、品質の変動性、不可分性、消滅性、需要の変動性	同上	恩藏　直人（早稲田大学教授） ゲスト：日立製作所
11	流通による顧客価値の伝達	流通チャネルは顧客価値を企業から顧客へと伝達する。本章では、流通チャネルの存在理由やチャネルの段階数について整理する。また、チャネル設計やチャネル管理について説明する。 【キーワード】 取引数の削減、垂直的マーケティング・システム、パワーとコンフリクト	同上	恩藏　直人（早稲田大学教授） ゲスト：明治安田生命保険

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	営業による顧客価値の伝達	顧客価値は営業によっても伝達される。本章では、これまで科学的に議論されることの少なかった営業をマーケティングという大きな枠組みの中での検討する。その上で、営業管理や営業革新について考察する。 【キーワード】 営業、人的販売、企画提案、顧客満足	恩藏　直人（早稲田大学教授）	恩藏　直人（早稲田大学教授） ゲスト：カゴメ
13	価格による顧客価値の説得	価格は提供物のベネフィットに見合うだけのコストであるかどうかを示すことで、顧客に対しての価値を説得している。本章では、価格設定の基本方針について整理するとともに、消費者心理や製品ミックスを考慮した価格戦略について説明する。 【キーワード】 固定費、変動費、損益分岐点、需要の価格弾力性	同上	恩藏　直人（早稲田大学教授） ゲスト：総合警備保障（ALSOK）
14	コミュニケーションによる顧客価値の説得	いくら優れた製品であっても、コミュニケーションによって価値を説得していかなくては売上げには結びつかない。本章では、マーケティングにおけるコミュニケーションの基本的な考え方について解説する。 【キーワード】 媒体、AIDAモデル、統合型マーケティング・コミュニケーション	同上	恩藏　直人（早稲田大学教授） ゲスト：資生堂
15	広告、SPによる顧客価値の説得	広告やSPは顧客価値を説得していく上で、重要な手段となる。本章では、様々ある広告の種類を整理し、効果測定や予算の考え方を紹介する。SPについても、その種類や目的について解説する。 【キーワード】 広告、リーチ、フリークエンシー、セールス・プロモーション	同上	恩藏　直人（早稲田大学教授） ゲスト：　D2コミュニケーションズ

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1541218	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　国際経営　　（’０９）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：吉森　賢（横浜国立大学名誉教授）　〕
〔主任講師（現職名）：原田　順子（放送大学准教授）　〕

講義概要

グローバル化は中国、インド、ロシア、ブラジルの新興工業国の台頭を迎え、ますます急速に地理的範囲を増大しつつある。本田宗一郎が喝破した「世界一にならなければ、日本一になれない」と言う言葉が今日ほど実感される時代はかってなかった。この科目はこの状況に対応するために日本企業はグローバル戦略と管理方法をいかに策定、実践すべきか、を実務的視点から理解することを目的として設計された。講義の内容は会計財務、人的資源、組織・文化、グローバル戦略、民営化企業および行政と国際化、など広範囲にわたる。

授業の目標

この科目の目標は履修者にグローバルな企業経営活動に従事する上で、最も重要と思われる問題について理論的知識と具体的な行動指針を提供することにある。この講義により履修者はグローバル企業の活動内容を理解し、職場において参考にしてもらえるように考えられた。

履修上の留意点

15回の講義でグローバル企業の活動をすべてを網羅することは困難である。履修者はラジオ放送の補足的解説、説明、ゲスト講師の体験や考えを聞くことが勧められる。また参考文献をも読まれることを希望する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	国際経営総論	この科目の講師を紹介し、科目の全体像を示す。急展開するグローバル化が企業に迫る問題を明らかにし、これらを解決するためにこの履修内容がどのように貢献できるかを説明する。講義の重点方針、講義方法、履修生の今後の職業上の進路、自己啓発の方法との関連性などについて述べる。 【キーワード】 国際経営、経済のグローバル化、ヒト・モノ・カネ・情報	横浜国立大学 名誉教授 吉森賢 放送大学 准教授 原田順子	横浜国立大学 名誉教授 吉森賢 放送大学 准教授 原田順子
2	金融市場における企業金融の国際化	企業活動がグローバル化していくと、それに応じて資金調達もグローバル化してくる。つまり、金融市場のグローバル化である。各国の金融市場は真の国際化を余儀なく迫られる。金融市場の国際化の現状と将来について解説する。 【キーワード】 証券取引、金融規制、フリー・フェア・グローバル	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
3	会計の国際化	国際的金融市場へむけての整備は、企業活動の透明性・比較可能性を高めるための世界共通の会計基準の開発を必要とする。「単一の高品質な一組の会計基準」すなわち国際会計基準が必要とされる背景とその内容について解説する。 【キーワード】 国際財務報告基準(IFRS)、国際会計基準審議会(IASB)	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	移転価格	グローバル化していく経済活動により、日本企業とその国外関連者との間で生ずる移転価格に関する諸問題については、益々、大型化、複雑化していくことになるであろう。そこで、移転価格の問題を整理し、今後の対応について考察する。 【キーワード】 国際税務、移転価格税制、税務否認金	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
5	組織と文化	私達はしばしば他の組織の人と接して、組織文化の違いを認識することがある。民族、宗教、性別、世代などの要素が組織文化に影響を与えることは言うまでもない。さらに、国民文化と組織文化との関係も考え、文化という多面的なものについて包括的に学習する。 【キーワード】 組織、文化、民族	放送大学 准教授 原田順子	放送大学 准教授 原田順子
6	人材マネジメント(1)	人材の国際化が効果的に行われるか否かは、企業業績に密接に関連する重要なことがらである。人的資源管理の枠組みにおいて、日本企業の人的資源管理について触れる。 【キーワード】 人的資源管理、日本企業	放送大学 准教授 原田順子	放送大学 准教授 原田順子
7	人材マネジメント(2)	人材の国際化を考える上で、海外における人事管理の効果的な方法は何か、日本的手法は役立つのかという問題は重要である。これに関して、事例を示しながら学習する。 【キーワード】 人事管理、国際化、日本的人事管理	放送大学 准教授 原田順子	放送大学 准教授 原田順子
8	人材の国際移動	世界では多くの人材が国境を越えて移動している。単純労働者、中間管理職、高度なプロフェッショナルなど、バックグラウンドを問わず人材の国際移動が進行している。この状況は、経済のグローバル化が進展する中、日本人と日本の組織に影響を与える。人の国際移動について考える。 【キーワード】 人材、国際移動、プロフェッショナル	放送大学 准教授 原田順子	放送大学 准教授 原田順子
9	グローバル戦略(1)―輸出入・OEM	グローバル市場参入戦略の基本知識を習得し、輸出と輸入、OEMの戦略的利点と限界を明らかにし、それぞれの規制、交渉、条件、契約、船積み、決済までの基本的な業務の流れを理解する。輸入品の品質が問題になっているので、その対応策を検討する。 【キーワード】 輸出・輸入、OEM、インコタームズ、船荷証券、決済、信用状	横浜国立大学 名誉教授 吉森賢	横浜国立大学 名誉教授 吉森賢
10	グローバル戦略(2)―ライセンス契約	グローバルライセンシングの戦略的利点と限界を知的財産、法的規制、重要契約事項の解説、交渉過程、技術移転、紛争の類型と解決手段、国際商事仲裁、などの基礎知識を習得する。また貿易収支に示される日本の技術革新能力の状況を理解する。 【キーワード】 ライセンス契約、実施権、特許、ノウハウ、ロイヤルティ、技術収支	横浜国立大学 名誉教授 吉森賢	横浜国立大学 名誉教授 吉森賢

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	グローバル戦略(3)―合弁会社	グローバル合弁会社の目的と戦略的利点と限界を検討し、合弁会社の類型、現地出資企業の選択基準、合弁会社設立契約の主要事項、出資比率、経営方針、親会社との取引関係、合弁会社契約の改定と解消について理解する。 【キーワード】 現地出資企業、親会社、出資比率、経営方針、契約条件	横浜国立大学 名誉教授 吉森賢	横浜国立大学 名誉教授 吉森賢
12	グローバル戦略(4)―戦略提携	グローバル戦略提携の目的、性格、戦略的利点と限界、その実現手段、契約の主要事項、交渉における留意点、契約解消などについて理解を深める。新日鉄と欧州アルセロールとの戦略提携を取り上げ、インドのミタル社による敵対的買収による影響を検討する。 【キーワード】 競合企業、提携形態、契約期間、契約条件、提携相手、終結	横浜国立大学 名誉教授 吉森賢	横浜国立大学 名誉教授 吉森賢
13	M&A	合併・買収などによって他企業の経営権を取得する、いわゆる、M&A(mergers and acquisitions)がわが国の企業でも一般化している。その内容を理解する。新技術やノウハウなどの経営資源を自社開発する代わりに既にそれを保有している企業を買収することによって時間と労力を節約できるところにその積極的な意義が認められる。 【キーワード】 シナジー効果、パーチェス法、持分プーリング法	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
14	民営化企業による国際経営	民営化企業が国際経営に関与する場合がある。内外の事例を紹介しながら、その背景と課題について解説する。 【キーワード】 民営化企業、国際経営	三菱UFJリサーチ・アンド・コンサルティング 原田昌彦	三菱UFJリサーチ・アンド・コンサルティング 原田昌彦
15	行政と国際経営	民間企業の国際経営を促進するための行政の役割を包括的に論じる。さらに、地方(部分)と国(全体)の利益に関して空港・港湾の例を示しながら解説する。 【キーワード】 地方、国、企業、国際経営	三菱UFJリサーチ・アンド・コンサルティング 原田昌彦	三菱UFJリサーチ・アンド・コンサルティング 原田昌彦

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	専門科目	科目コード	1541110	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　管理会計　　（’１０）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：齋藤 正章（放送大学准教授）　　〕

講義概要

管理会計の目的は、企業で行われる様々な経営意思決定と業績管理に有効な会計情報を提供することにある。本講義では管理会計の役割を意思決定を支援する役割と業績を測定・評価して企業価値を高める行動を動機づけるコントロールの役割に分けて、それぞれの理論を解説する。

授業の目標

管理会情報の意義や役立ちについて理解し、意思決定と業績評価という2つの役割に資する管理会計情報の生成と利用について習得する。

履修上の留意点

理解を深めるために、電卓等を脇に置き、実際に手を動かして体で覚えるように努めてほしい。各章の例題、巻末の練習問題を自分で解くなど積極的な姿勢が望まれる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	管理会計総論 －管理会計情報の役立ち－	管理会計の意義と目的 企業の目的とエイジェンシー問題 経営管理プロセスと管理会計の実践主体 意思決定プロセスと管理会計の体系 会計情報基準 財務会計との相違点 【キーワード】 管理会計情報、エイジェンシー問題、意思決定プロセス、経営管理プロセス	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
2	原価の諸概念と原価計算	原価の諸概念 全部原価計算 個別原価計算 総合原価計算 直接原価計算 【キーワード】 形態別分類、製品との関連による分類、製造間接費、配賦	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
3	原価の測定と原価情報の活用(1) －標準原価計算－	標準原価計算の意義 標準原価計算の目的 標準原価計算の手続き 標準原価の分類 原価差異の算定と分析 【キーワード】 標準原価、原価標準、許容標準原価、原価差異	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	原価の測定と原価情報の活用(2) －活動基準原価計算－	活動基準原価計算の意義 活動基準原価計算の目的 活動基準原価計算の手続き 活動基準管理 【キーワード】 活動基準原価、コストプール、コストドライバー、ABCとABM	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
5	原価の測定と原価情報の活用(3) －意思決定のための原価分析－	機会原価・埋没原価 CVP分析 在庫管理 品質原価計算 【キーワード】 機会原価、埋没原価、CVP分析、損益分岐点比率、在庫管理、品質原価計算	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
6	予算管理システム	予算の意義と体系 予算編成のプロセス 予算システムと組織設計 予算と実績の差異分析 予算の反機能とエイジェンシー・コスト 【キーワード】 予算、予算システム、組織設計、差異分析、予算の反機能、エイジェンシー・コスト	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
7	資本予算(1) －投資決定ルール－	資本予算の意義と目的 貨幣の時間価値 将来価値と現在価値 現在価値法と内部利益率法 投資案の順位づけ その他の投資決定ルール 【キーワード】 貨幣の時間価値、将来価値、現在価値、NPV法、内部利益率法	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
8	資本予算(2) －資本コスト－	資本コストの意義 源泉別資本コスト 加重平均資本コスト 部門別資本コスト 【キーワード】 資本コスト、源泉別資本コスト、加重平均資本コスト、部門別資本コスト	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
9	業績指標の選択	企業の目的と業績評価指標 企業価値と株主価値 株主価値を映し出す業績指標 【キーワード】 会計的利益率法、回収期間法、株主価値、EVA、MVA	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
10	株主価値を高める事業戦略	企業価値に適合する業績指標 EVAを増加させる4つの類型 リストラの経済分析 【キーワード】 NOPAT、企業価値、業績指標、EVA、リストラ戦略	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	部門別業績管理	責任会計と責任センター コスト・センターの業績管理 収益センターの業績管理 プロフィット・センターの業績管理 インベストメント・センターの業績管理 管理可能性原則と情報有用性原則 【キーワード】 責任会計、責任センター、コスト・センター、収益センター、プロフィット・センター、インベストメント・センター、管理可能性原則	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
12	振替価格	事業部間取引と振替価格 振替価格の実務的ルール 市場価格 限界費用 【キーワード】 内部振替価格制度、事業部間取引、振替価格、市場価格	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
13	非財務情報の活用	非財務情報の重要性 バランスト・スコアカード 業績指標と報酬システム 【キーワード】 先行指標、事後的指標、BSC、学習と成長の視点	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
14	意思決定会計の理論	意思決定モデル 予測情報の価値 決定権限の配分とコントロール・システム デシジョン・マネジメントとデシジョン・コントロール 【キーワード】 デシジョン・マネジメント、デシジョン・コントロール、期待効用	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
15	業績管理会計の理論	分析の枠組み プリンシパル・エイジェント・モデル リスク・シェアリング 動機づけ 業績情報の価値 【キーワード】 プリンシパル・エイジェント・モデル、リスク・シェアリング、動機づけ、業績情報の価値	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1540726	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 初級簿記 （’１０）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：齋藤 正章（放送大学准教授） 〕

講義概要

簿記はおよそ500年前から存在し、「ビジネスの言語」ともいわれ、今日の企業社会においても欠かせないものとなっている。本講義では、商業簿記に関する知識・技術の網羅的な習得を目標としている。

授業の目標

まず、営業活動を理解する。続いて、これを仕訳→転記→検証→決算の順に従って正しく記録する方法を習得する。

履修上の留意点

簿記のルールはきわめて単純明快であり、その習得はさほど難しいものではないと思われる。簿記は技術であるので、ただ単に教科書を読んでいるだけではダメである。実際に手を動かして体で覚えて初めて使いこなせるようになるので、各章の例題、巻末の練習問題を自分で解くなど積極的な姿勢が望まれる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	簿記の意義と目的	簿記の目的や意義とその役割や種類について解説する。また、簿記の特徴やその沿革についても併せて説明する。 【キーワード】 帳簿記入、複式簿記、資本の循環過程、期間計算、勘定計算、スンマ、帳合之法	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
2	貸借対照表と損益計算書	貸借対照表と損益計算書について解説し、その構成要素である資産・負債・純資産、収益・費用について説明する。さらに、財産法と損益法という2つの利益計算法を明らかにする。 【キーワード】 貸借対照表、損益計算書、資産・負債・純資産、収益・費用、財産法、損益法	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
3	勘定記入と仕訳・転記	簿記における取引の定義を示し、勘定および勘定記入のルールについて述べる。さらに具体的な取引の記録方法である仕訳と転記について解説する 【キーワード】 勘定、借方、貸方、会計取引、取引要素の分解、仕訳、転記、仕訳帳、元帳	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	試算表の作成と帳簿決算	仕訳帳、元帳へのが正しかったかどうかを確認するための合計残高試算表について解説し、続いて決算手続きまでの一連の流れについて説明する。 【キーワード】 合計残高試算表、合計試算表、残高試算表、損益勘定、振替仕訳	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
5	現金・預金に関する記帳処理	今回より具体的な勘定科目の記帳処理方法に関する解説を行う。まず、貸借対照表の資産項目である現金・預金の定義およびその記帳処理について説明する。 【キーワード】 現金、通貨代用証券、小切手、郵便為替証書、当座預金、当座借越、現金過不足	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
6	商品売買に関する記帳処理(1)－分記法	貸借対照表の資産項目である商品の記帳処理方法である分記法について、その短所と長所について説明する。また、商品有高帳についても説明する。 【キーワード】 分記法、商品勘定、商品売買益勘定、値引、返品、商品有高帳	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
7	商品売買に関する記帳処理(2)－3分法	貸借対照表の資産項目である商品の記帳処理方法である3分法について、その短所と長所について説明する。 【キーワード】 3分法、仕入勘定、売上勘定、繰越商品勘定	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
8	売掛金・買掛金に関する記帳処理	商品売買において重要な勘定科目である売掛金と買掛金について解説する。また、統括勘定、貸倒れの処理についても説明する。 【キーワード】 売掛金、買掛金、統括勘定、貸倒損失、貸倒引当金、償却債権取立益	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
9	その他の債権・債務に関する記帳処理	営業外取引に関する債権・債務について、その内容と記帳処理について解説する。 【キーワード】 営業外取引、未収金、未払金、貸付金、借入金、仮払金、仮受金、立替金、預り金	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
10	手形に関する記帳処理	まず、手形について説明し、貸借対照表の資産の部に記載される受取手形と負債の部に記載される支払手形の記帳処理について解説する。その他、営業外手形や金融手形、手形の決済や不渡時の処理等についても言及する。 【キーワード】 受取手形、支払手形、営業外手形、金融手形、手形の決済、手形の不渡	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	有価証券および固定資産に関する記帳処理	貸借対照表の資産項目である有価証券について、その分類、取得価額と評価方法、評価基準等について解説し、有価証券売買の記帳処理について説明する。また、固定資産の取得、減価償却、売却についても併せて解説する。 【キーワード】 有価証券、固定資産の取得、減価償却、固定資産の売却	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
12	純資産および収益・費用に関する記帳処理	貸借対照表を構成する純資産に関する諸取引の記帳処理について解説する。また、損益計算書を構成する収益・費用の認識・測定についても説明する。 【キーワード】 資産・負債・純資産、収益・費用、貸借対照表、損益計算書	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
13	決算の簿記	第4回の決算手続きについて復習し、それから精算表の作成方法について述べ、一連の決算予備手続に関する説明する。また、決算本手続（決算仕訳と帳簿締切）について解説する。 【キーワード】 精算表、決算予備手続、決算本手続、決算仕訳、帳簿締切	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
14	財務諸表の作成	これまでの決算手続きを受けて、財務諸表の作成について解説する。また、財務諸表作成を取りまく会計諸法規についても説明する。 【キーワード】 財務諸表、企業会計原則、会社法、金融商品取引法、法人税法、国際会計基準	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
15	帳簿組織	帳簿システムの意義について触れ、補助記入帳、補助元帳、伝票会計について解説する。 【キーワード】 補助記入帳、補助元帳、伝票会計	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1540700	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ ビジネス・ファイナンス （’０８） ＝ （R）

〔主任講師（現職名）：菊井高昭（上智大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：宮本順二朗（帝塚山大学教授）〕

講義概要

ビジネス・ファイナンスに関する情報を収集・分析して、その意思決定・活動を合理的に行う過程を理論的に論じる。さらにわが国におけるさまざまなファイナンス環境の実状・変化にも配慮しつつ、各受講者が実践的にも応用が図れるように努める。ときおり、公共財政（パブリック・ファイナンス）や、家計ないし個人レベルでのお金の管理（パーソナル・ファイナンス）の場合の問題解決との相違にも触れながら、ビジネス・ファイナンス固有の問題に焦点を絞る。

授業の目標

授業の中では、より現実的なビジネス・ファイナンスを理解するのに役立つような具体的な例示により、受講生が各自に身近な問題と受け止めて、学べるように努める。説明のために用いる数式・記号・外国（来）語などは、不要なアレルギーが出ないように、必要最小限な程度に抑えるように工夫する。その上で、ビジネス・ファイナンス領域における問題解決方法を理解することによって、パブリック・ファイナンス等その他のファイナンス領域においても通用するような考え方を習得出来るように目指す。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	ビジネス・ファイナンスの意義・目的	まず、パブリック・ファイナンス（公共財政）やパーソナル・ファイナンス（家計ないし個人資産管理）との違いを明確にしていきながら、ビジネス・ファイナンスとは何かを説明し、さらにその目的について受講者の理解を促す。 【キーワード】 ビジネス・ファイナンス（企業ないし経営財務）、パブリック・ファイナンス（公共財政）、パーソナル・ファイナンス（家計ないし個人資産管理）	宮本順二朗（帝塚山大学・教授）	宮本順二朗（帝塚山大学・教授）
2	ビジネス・ファイナンスの基礎（1）：キャッシュ・フローの概念とその計算	ここでも、パブリック・ファイナンスとパーソナル・ファイナンスの場合にも共通して、重要な概念である“キャッシュ・フロー”について、とくにビジネス・ファイナンスにおいてその必要な考え方と計算の仕方について述べる。その際、実践的にも応用可能なような具体例に基づいた計算演習を行うように努める。 【キーワード】 キャッシュ・イン・フロー、キャッシュ・アウト・フロー、営業キャッシュフロー、財務キャッシュフロー、投資キャッシュフロー、フリー・キャッシュフロー	宮本順二朗（帝塚山大学・教授）	宮本順二朗（帝塚山大学・教授）
3	ビジネス・ファイナンスの基礎（2）：キャッシュ・フローの評価（将来価値と現在価値）	ビジネス・パブリック・パーソナルのいずれのファイナンスにおいても、キャッシュ・フローの把握が如何に重要であるかを学ぶ。すなわち、資金の調達・運用の両面においてキャッシュ・フローの評価・計算の方法とそれぞれの諸問題点を見ていく。 【キーワード】 時間価値、将来価値、現在価値、割引計算、割引率、資本コスト、目標利益率、内部収益率	宮本順二朗（帝塚山大学・教授）	宮本順二朗（帝塚山大学・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	ビジネス・ファイナンスの基礎:(3)リスク・リターン	ここでも、パブリック・ファイナンスとパーソナル・ファイナンスの場合にも共通して、重要な概念である"リスク"・"リターン"について説明を行う。とくにビジネス・ファイナンスにおいて必要な考え方とそれぞれの把握方法について述べる。その際、実践的にも応用可能で身近に生じるような具体例に基づいた計算演習を行うように努める。 【キーワード】 不確実性、期待(平均)値、標準偏差(分散)、相関関係、共分散、システマティック・リスク、アンシステマティック・リスク、リスク回避、リスク分散	宮本順二朗(帝塚山大学・教授)	宮本順二朗(帝塚山大学・教授)
5	ビジネス情報の収集:会計情報と市場情報	ビジネス・ファイナンスの情報源としての財務諸表の種類、構造、見方を説明し、さらに資本市場に関する各種データの種類・意味について説明する。 【キーワード】 財務諸表、会計的利益率(ROA, ROE)、株価、一株当たり利益(EPS)、株式市場指数	菊井高昭(上智大学・教授)	菊井高昭(上智大学・教授)
6	ビジネス情報の分析:会計情報と市場情報	企業の財政状態や経営成績を各種の財務指標(財務比率)を通して把握するための方法について説明する。いわゆる経営分析の知識の習得を目的とする。 【キーワード】 流動性、収益性、活動性、成長性、PER、PBR、PCFR	菊井高昭(上智大学・教授)	菊井高昭(上智大学・教授)
7	ビジネス情報の統合・評価	各種の財務指標(財務比率)を統合・評価するための方法について述べ、さらに実数分析としての損益分岐点分析、企業評価の方法としてのEVA等について説明する。 【キーワード】 交差分析、レーダー・チャート分析、損益分岐分析、EVA、企業評価ランキング	菊井高昭(上智大学・教授)	菊井高昭(上智大学・教授)
8	ビジネス資金の運用(1):投資決定	実物資産に対する投資の観点から、投資案の経済性計算について学習する(第8回目と第9回目の2回)。第8回目では、経済性を評価するために必要な基礎データについて述べ、さらに、経済性計算の方法としての回収期間法と会計的投資利益率法について述べる。 【キーワード】 将来キャッシュフロー、複利現価係数、年金現価係数、回収期間法、会計的投資利益率法	菊井高昭(上智大学・教授)	菊井高昭(上智大学・教授)
9	ビジネス資金の運用(2):投資決定(続)	投資案の経済計算の方法としての正味現在価値法と内部収益率法について述べ、さらに各種方法の比較検討を行う。出来る限り具体的に、数値例を用いながら説明する。 【キーワード】 正味現在価値法、収益性指数法、内部収益率法、順位付け、再投資利益率	菊井高昭(上智大学・教授)	菊井高昭(上智大学・教授)
10	ビジネス資金の運用(3):ポートフォリオ理論とCAPM	金融資産に対する投資の観点から、ポートフォリオ理論についての基本的な考え方を説明し、さらに資本資産のリスクとリターンの関係を表す資本資産価格決定モデル(CAPM)について述べる。リスクとリターンに関する基本的知識(第4回目の講義)が十分理解されていることを前提に講義を進める。 【キーワード】 リスク(危険)回避、ポートフォリオ、分散投資、最適組合せ投資、リスク・プレミアム、指数モデル、CAPM	菊井高昭(上智大学・教授)	菊井高昭(上智大学・教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	ビジネス資金の調達(1):そのデータ収集と分析	ビジネスの資金調達に関する意思決定のうえで必要なデータを、如何に収集しかつそれらを分析していくのか、適切な処理手法について解説し、具体的・実際的な演習を試みる。 【キーワード】 金利(資本コスト)、長短期資金調達、デット・ファイナンス(他人資本調達)、エクイティ・ファイナンス(自己資本調達)、証券化	宮本順二朗(帝塚山大学・教授)	宮本順二朗(帝塚山大学・教授)
12	ビジネス資金の調達(2):そのデータ統合と評価	ビジネスの資金調達に関する意思決定のうえで必要なデータを、収集かつ分析したのちに、さらに行う適切な統合・評価手法について解説し、ここでも具体的・実際的な演習を試みる。 【キーワード】 混合資金調達(ミックス)、レバレッジ、加重平均資本コスト	宮本順二朗(帝塚山大学・教授)	宮本順二朗(帝塚山大学・教授)
13	ビジネス・ファイナンスの資本構成と成果配分	資本構成と企業価値の関係について述べ、さらに企業の成果配分という観点から、配当、株式分割、ストック・オプション、ESOPなどについて説明する。 【キーワード】 デット・ファイナンス(他人資本調達)、エクイティ・ファイナンス(自己資本調達)、MM理論、最適資本構成、企業価値、配当割引モデル、株式分割、ストック・オプション、ESOP	菊井高昭(上智大学・教授)	菊井高昭(上智大学・教授)
14	ビジネス・ファイナンスの特殊問題(1):ベンチャービジネスと財務戦略	ベンチャービジネス(起業)のために、とくに必要な資金調達の諸問題を中心に、かつ、その一面で資金運用の計画について述べる。さらに、わが国におけるベンチャービジネスの諸制度やそれらの活用上の諸問題などにも言及していこう。 【キーワード】 ベンチャービジネス、ベンチャーキャピタル、プライベート・エクイティ(・キャピタル)、ベンチャーファンド(投資事業組合)、ハンズ・オン(オフ)型投資、IPO(株式公開)、エマージング・マーケット(新興市場)、エンジェル	宮本順二朗(帝塚山大学・教授)	宮本順二朗(帝塚山大学・教授)
15	ビジネス・ファイナンスの特殊問題(2):企業再編・倒産と財務戦略	2000年代に入り、ますます活発になってきたM&Aをはじめ、さまざまな形態での企業再編について述べていく。まず、起業再編の諸方法につき解説した後、出来るだけ具体的な事例をいくつか取り上げ、実証的な分析にまで及ぶよう努める。 【キーワード】 企業再編(リストラクチャリング)、M&A(企業合併・買収)、企業評価、イベント・スタディ、収益力還元法(インカム・アプローチ)、マーケット・アプローチ、M&Aレシオ、企業ダイベスチャー(部分売却・買収)、再建型、清算型、企業倒産予測、判別分析	宮本順二朗(帝塚山大学・教授)	宮本順二朗(帝塚山大学・教授)

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1541200	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 企業戦略と企業文化 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：吉森　賢（横浜国立大学名誉教授）〕

講義概要

企業戦略は五つの経営者機能の中で長期的企業成果に重大な影響を及ぼす意思決定である。企業文化は企業理念と共に戦略の妥当性、策定と実施過程を決定付ける。この講義では経営環境の分析から、これに対応する事業領域の策定、企業活動の境界を決定する統合戦略、多角化、戦略提携、合併・買収、市場取引、グローバル戦略、そして企業文化と企業理念との関連を理解する。理解を容易にするため多くの日本および外国の事例、成功・失敗例を中心に説明する。この科目は開講中の「企業統治と企業倫理」(TV‘07)と関連性をもって設計されており、これにより経営者に要請されるすべての経営者機能の履修を完結する。

授業の目標

この科目は現在または将来、経営者の視点からグローバルな企業戦略の策定と実施、その推進母体としての企業文化と企業理念の形成と共有に活動に従事する経営者、管理者、戦略部門担当者、人的資源担当者、社員および研究者と社会人を対象とする。履修内容は企業戦略と企業文化における高度専門職業人のための実務上の指針として設計された。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	経営者機能	経営者機能における企業戦略と企業文化の意義と他の機能との関連性を理解する。長期的繁栄を実現してきた企業および破綻した企業の戦略と文化の共通性を解説する。	吉森　賢（横浜国立大学名誉教授）	吉森　賢（横浜国立大学名誉教授）
2	経営環境	企業戦略策定の第一歩は企業を取り巻く経営環境の分析と予測である。分析すべき環境要因を明らかにし、企業にとっての事業機会と脅威は何かを認識する技術を習得する。	同上	同上
3	事業領域	環境変化を事業機会に活用し、脅威を克服するために企業の人、物、金の現有資源の強み、弱みを把握し、特に中核技術を中心とする対応策を決定する過程を理解する。	同上	同上
4	垂直統合	最初に統合戦略の一般論を提示し、その諸形態を説明し、その一形態である垂直統合とそれから派生する上方統合と下方統合の戦略的利点とリスクを理解する。	同上	同上
5	準統合	準統合は日本の自動車、電気産業において多用される統合形態であり、垂直統合と市場取引の中間に位置する統合戦略である。その利点とリスクを理解する。	同上	同上
6	水平統合	水平統合は盛んになりつつある同業社間の合併、統合であり、これを規模の経済の実現、過剰設備の統合、廃棄そして敵対的買収に対する防衛対策などの視点から考察する。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
7	競争戦略	企業間の競争が生じる要因を新規参入、代替品の出現、売手と買手の交渉能力その他の視点から分析し、企業が策定すべき競争戦略を事例により説明する。	吉森 賢（横浜国立大学名誉教授）	吉森 賢（横浜国立大学名誉教授）
8	多角化	多角化戦略とは製品・事業の寿命と企業の寿命を絶縁することである。多角化を成功させる要因を現有中核技術その他の経営資源と新規分野との関連性の視点から考察する。	同上	同上
9	戦略提携	戦略提携は競合企業間の協力関係という特異な戦略である。国際的にも国内でも多く生じている。その形態を理解し、戦略的利点とリスクをトヨタとGMの戦略提携により分析する。	同上	同上
10	合併・買収	企業買収は他社の経営資源と市場地位を迅速に自社に取込む手段として多用される。しかしこれは多くのリスクを内包する。成功するための企業買収戦略の要因を理解する。	同上	同上
11	市場取引	OEM、ライセンス、フランチャイジング、アウトソーシング、生産委託など契約により事業機会を捉え、費用を低減する戦略についてその利点と限界を理解する。	同上	同上
12	グローバル戦略	グローバル戦略を輸出、OEM，国際ライセンス契約、合弁会社、子会社設立、現地企業買収などの視点からその選択基準とそれぞれの戦略的利点およびリスクを考察する。	同上	同上
13	企業文化と企業理念	企業文化と企業理念の関連性を明らかにし、企業文化を実例により説明する。官僚制化により危機的状況に至った企業の実例を通じて企業文化の重要性を理解する。	同上	同上
14	企業文化－策定と共有	環境変化と企業の大規模化により革新的企業文化にも風化が生じる。これに対応するため企業文化はいかに刷新され、組織内に浸透されるかを成功事例により理解する。	同上	同上
15	最高経営責任者	企業戦略と企業文化における最高経営責任者の役割を整理し、これまでに取り上げた企業の事例から何を学ぶかを最高経営責任者の視点から総括する。	同上	同上

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目コード	1542605	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 官民の人的資源論 （’０９）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：原田順子　放送大学准教授 〕

〔主任講師（現職名）：奥林康司　摂南大学教授 〕

講義概要

日本の経済は、民間部門と公的部門に大きく分類される。それぞれの部門で働く人々の雇用管理がどのようになされているかは大きな関心事であると考えられる。しかしながら、一般的な人的資源管理論は民間部門を対象に解説されてきた。そこで、この授業では公的部門の人的資源管理が付け加えられている。さらに、日本の人材育成に関する行政の役割にも言及する。

授業の目標

授業は、人的資源管理を初めて学ぶ人が、この分野の体系を理解できるように構成されている。勤労者のみならず、人を雇う立場の人々も知るべきことがらが含まれている。この授業を通じて、自らが所属する組織の人的資源管理や、政策を評価する視点を養うことを目標とする。

履修上の留意点

印刷教材とテレビ放送教材は補完的な関係にある。テレビ放送の解説、ゲストのインタビューからも学ぶことが多いので、放送も視聴していただきたい。また、15回の講義ですべてを網羅することは困難であるから、深く知りたい人は参考文献にも手を広げることをお勧めする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	人的資源管理とは	人的資源管理とはどのようなことを意味するのか。民間企業の人的資源管理と行政組織における人的資源管理はどのよに異なり、あるいはどのよな共通性がるのか。それらは相互に全く違うものか、あるいは相互に接近しうるものか。相互の関係を検討する。 【キーワード】 人的資源、終身雇用、人的資源管理の3機能、独立行政法人	奥林康司（摂南大学教授）	原田順子（放送大学准教授） 奥林康司（摂南大学教授）
2	企業の雇用管理	民間企業において雇用形態はいかに多様化しているか。行政組織のそれと比較した場合に、それはどのような特徴があるのか。企業は雇用の多様化をどのように考えているのか。雇用継続と一体化した管理職昇進に対し、企業はどのように考えているのか。エンプロイヤビリティはどのよに考えられるのか。 【キーワード】 雇用形態の多様化、年次管理、フラット型組織、エンプロイヤビリティ	奥林康司（摂南大学教授）	奥林康司（摂南大学教授）
3	教育訓練の新動向	1990年代において昇進の頭打ちを示す「キャリア・プラトー」は現実にどのような状態であるのか。社内公募制度はどのように運営されているのか。キャリアを自分で選択していく自立型キャリア制度は現実にどのように実行されているのか。 【キーワード】 キャリア・プラトー、社内公募制、自立的キャリア制度	奥林康司（摂南大学教授）	奥林康司（摂南大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	新しい人事考課の動向	従来の職能資格制度の下ではどのような人事考課制度が行われていたか。目標管理制度は業績評価の仕組みとしてどのように利用されているか。目標管理制度はどのように運営されているか。業績評価が公平になるようにどのような配慮がなされているか。評価の公平性についてどのような議論がなされてきたか。 【キーワード】 人事考課、職能資格制度、目標管理制度、評価の公平性	奥林康司（摂南大学教授）	奥林康司（摂南大学教授）
5	報酬制度	成果主義賃金はなぜ普及しているのか。年功賃金にはどのような限界が在ったのか。成果主義賃金としての役割給制度は具体的にどのように運営されているのか。目標管理制度と成果主義賃金はどのような関係にあるのか。成果主義賃金に社員は納得しているのか。成果主義賃金の逆効果としてどのようなものが出てきているのか。 【キーワード】 年功賃金、成果主義賃金、管理職年俸制、役割給、職務価値	奥林康司（摂南大学教授）	奥林康司（摂南大学教授）
6	モチベーションとリーダーシップ	人的資源管理が前提としていた人間モデルにはどのようなものがあるのか。モチベーションの理論として従来ではどのようなものが開発されてきたか。リーダーの役割としてどのような行動が求められているか。リーダーシップの理論としてのPM理論はどのようなものか。 【キーワード】 経済人モデル、自己実現人モデル、欲求5段階理論、PM理論	奥林康司（摂南大学教授）	奥林康司（摂南大学教授）
7	ダイバーシティ・マネジメント	従来、フルタイムで働く日本人男性正社員（職員）が組織の中心に据えられてきた。ところが近年になり、男性とは異なるライフ・サイクルをもつ女性を無視することはできなくなってきた。また、雇用形態の多様化が進展し、パート、派遣社員などの戦力化が真剣に行われ始めた。多種・多様な人材の管理（ダイバーシティ・マネジメント）を解説する。 【キーワード】 正社員、非正社員、ダイバーシティ・マネジメント	原田順子（放送大学准教授）	原田順子（放送大学准教授）
8	公的部門で働く人々	わが国の公的部門には、どのような種別があり、どれくらいの人数が働いているのだろうか。公的部門で働く人々の全体像をとらえる。また、公務員に関する歴史、公的組織の特徴についても触れる。 【キーワード】 公的部門、職種、人数	原田順子（放送大学准教授）	原田順子（放送大学准教授）
9	国家公務員の人的資源管理	国家公務員の採用・昇進・異動はどのような体系と慣行をもつのか。他組織との人事交流の現状はどうなっているのか。採用試験別に管理体系が異なるのか。国家公務員の人事管理について多面的に学習する。 【キーワード】 国家公務員、採用試験、人事管理	原田順子（放送大学准教授）	原田順子（放送大学准教授）
10	地方公務員の人的資源管理	地方公務員の特徴と最近の動向について解説する。たとえば、先進的自治体の人事施策を例に、採用・昇進・異動の新しい動向をみる。 【キーワード】 地方公務員、先進的とりくみ	原田順子（放送大学准教授）	原田順子（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	独立行政法人における人的資源管理	独立行政法人の1つとして平成17年より施行された(独)大阪府立大学および平成18年より施行された大阪府立病院機構は、行政組織とは異なり、どのような仕組みで運営されているのか。そこには経営効率を高めるどのよな仕組みが導入されているのか。人的資源管理の新しい仕組みとしてどのような制度が導入されているのか。 【キーワード】 独立行政法人、ニュー・パブリック・マネジメント、評価委員会、業績評価制度	奥林康司（摂南大学）	奥林康司（摂南大学）
12	労使関係	労働組合とは何か、その影響力、組織率など、労使関係の基礎を学習する。わが国の特徴である企業別組合や、産業別組合など労働組合の全体像を把握する。また、公務員の労使関係も学ぶ。 【キーワード】 労働組合、労使関係	原田順子（放送大学准教授）	原田順子（放送大学准教授）
13	世界の公務員	外国の事例を紹介しながら、公務員制度改革、公務員の人事管理について学ぶ。 【キーワード】 外国、公務員制度改革、公務員人事管理	原田順子（放送大学准教授）	原田順子（放送大学准教授）
14	日本の人的資源政策(1)	日本における人材の育成に関して行政が担うべき役割を考える。特に、公的職業訓練、公的職業資格の整備について学習する。ニート対策事業、若者の職業訓練についても触れる。 【キーワード】 公的職業訓練、公的職業資格、ニート対策事業	原田順子（放送大学准教授）	原田順子（放送大学准教授）
15	日本の人的資源政策(2)	官民の連携による人材育成の事例として、船員の養成をとりあげる。現在、日本の海運は多くの外国人船員によっている。船員養成の仕組みに関して、独立行政法人航海訓練所、民間企業がどのように連携しているかを紹介する。 【キーワード】 官民の連携、人材育成、外国人船員、海運	原田順子（放送大学准教授）	原田順子（放送大学准教授）

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目コード	1543113	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　組織運営と内部監査　　（’０９）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：放送大学准教授　齋藤正章　〕

〔主任講師（現職名）：北海道大学教授　蟹江章　〕

講義概要

組織運営の成否を決めるのは内部監査の成否であると言っても過言ではない。本講義では、組織の外にいてはなかなか実感する機会がない内部監査について、その目的や手続きの実際について多面的に検討することによって、内部監査の重要性を理解することを目的とする。また、すでに組織運営に携わっている人には、内部監査についての再整理と新たなる知見を与えるものと期待される。

授業の目標

内部監査は会計と同様、「縁の下の力持ち」的な存在である。組織運営が順調な時には、改めてそれを意識することはないが、一旦、不祥事等問題が生じたときには、その存在がクローズアップされるのである。しかし、問題が生じてからでは遅いのである。日頃から内部監査に対する意識を高め、それに磨きをかけることが大切である。本講義の目標は、内部監査の意義と役割を踏まえ、様々な組織における内部監査のあり方について理解を深めることにある。

履修上の留意点

本講義は経営や法律、会計、技術といった多面的な要素を含んでいるため、関連科目についても広く学ぶことが重要である。よって、「経営学入門」、「企業統治と企業倫理」、「会社法」、「NPOマネジメント」、「現代の会計」といった科目の履修が望まれる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	組織運営における内部監査の重要性の高まり	組織は、活動後、その運営が目的に適ったものであったかどうかを確かめなくてはならない。あるいは、より積極的に事前にレールを踏み外すことがないような仕組みを作ることが重要である。これらの機能を担う内部監査の意義・内容について解説する。 【キーワード】 経営者の役割、コーポレート・ガバナンス、内部監査、経営環境の変化	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章 北海道大学 教授 蟹江章
2	内部監査の歴史と内部監査基準	内部監査はいつ発生し、どのように発展してきたか。内部監査の歴史について解説する。また、内部監査の指針となる国内外の内部監査基準についても説明する。 【キーワード】 内部監査人協会、国際基準、日本内部監査協会、内部監査基準	北海道大学 教授 蟹江章	北海道大学 教授 蟹江章
3	内部監査と法定監査	内部監査の役割を鮮明にするために、内部監査と法定監査（外部監査、監査役監査）の異同について考察する。また、この三様監査の役割と関係の変化について解説する。 【キーワード】 内部監査、外部監査、監査役監査	北海道大学 教授 蟹江章	北海道大学 教授 蟹江章

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	現代の企業経営における内部統制と内部監査	内部統制概念の変遷と法制化された財務報告に係る内部統制評価・監査基準について解説し、それと内部監査との関わりについて考察する。 【キーワード】 内部統制、SOX法、金融商品取引法	早稲田大学 教授 鳥羽至英	早稲田大学 教授 鳥羽至英
5	内部監査の要件	内部監査の要件とは何か。内部監査人の備えるべき資質、責任と権限、専門的能力、品質評価といったの切り口から多面的に検討する。 【キーワード】 倫理，独立性、客観性、品質評価	北海道大学 教授 蟹江章	北海道大学 教授 蟹江章
6	内部監査の手続①	内部監査の手続きについて、内部監査の構成要素と流れについて解説し、リスクの評価 、監査計画の策定について紹介する。 【キーワード】 制度設計、監査計画、リスクの評価	北海道大学 教授 蟹江章	北海道大学 教授 蟹江章
7	内部監査の手続②	内部監査の手続きについて、前回の流れを受けて、事前準備、往査、現地講評会といった各種手続きの実際について解説する。 【キーワード】 往査、現地講評会、監査報告会	北海道大学 教授 蟹江章	北海道大学 教授 蟹江章
8	内部監査の手続③	前2回の内部監査の手続の流れを事例にもとづいて説明する。 【キーワード】 リスク・アプローチ監査、システム化、効率化	北海道大学 教授 蟹江章	北海道大学 教授 蟹江章
9	内部監査のケース・スタディー	国内の企業における内部監査のケース・スタディを行う。成功事例・失敗事例を通じて内部監査のあり方を検討する。 【キーワード】 総合監査、コミュニケーション、コンプライアンス	北海道大学 教授 蟹江章	北海道大学 教授 蟹江章
10	中小企業と内部監査	中小企業の内部監査と、大企業の内部監査は基本的な思考は共有しつつも、規模等の違いによって手続面で大きく異なってくる。そこで、中小企業の内部監査はどうあるべきかについて中小企業の内部監査についてケーススタディを行う。 【キーワード】 中小企業、コーポレート・ガバナンス、会計参与、アカウンタビリティ、利害調整	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	情報システム監査	情報システムに係るリスクとコントロールを明らかにし、情報システム監査の必要性・意義・目的および情報システム監査の実施方法と要点について解説する。 【キーワード】 情報システム、情報システム監査、リスクとコントロール	りそなホールディングス 執行役 内部監査部長 吉武　一	りそなホールディングス 執行役 内部監査部長 吉武　一
12	コンプライアンスと内部監査	国内外を問わず、企業の違法行為が後を絶たない。こうした行為を未然に防ぐにはどうしたよいのであろうか。コンプライアンス概念の変化について解説し、コンプライアンスに係る内部監査の役割について明らかにする。 【キーワード】 コンプライアンス、CSR（企業の社会的責任）、社会的規範、企業倫理	北海道大学 教授 蟹江章	北海道大学 教授 蟹江章
13	リスク・マネジメントと内部監査	組織は様々なリスクに晒されている。組織運営上の様々なリスクについて明らかにし、危機管理の思考とビジネス・リスク・マネジメントについて検討する。 【キーワード】 組織運営上の様々なリスク、危機管理、ビジネス・リスク・マネジメント	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
14	非営利組織における内部監査	営利組織同様、非営利組織についても内部監査は重要である。営利組織と非営利組織の内部監査の異同を明らかにしながら、非営利組織の内部監査について検討する。 【キーワード】 国、官公庁、自治体、学校、NPO	早稲田大学 教授 大塚宗春	早稲田大学 教授 大塚宗春
15	組織運営と内部監査の将来像	今後、組織運営における内部監査はますます重要になってくると考えられる。そこで内部監査の課題や国際的潮流、職業的専門家としての内部監査人の養成等について検討する。 【キーワード】 内部監査の課題、国際的潮流、内部監査人	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章 北海道大学 教授 蟹江章

事務局記載欄	開講年度	２０１１年度	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1547224	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　ＮＰＯマネジメント　　（’１１）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：河合　明宣（放送大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：齋藤　正章（放送大学准教授）　〕

講義概要

1998年にNPO法が施行されてから10余年が経過した。団塊の世代が退職し、職場で身につけた知識や技能を持って積極的にボランティア活動に参加する事例は広範に見られる。人材と組織力を持つ法人化した団体は、資金を確保し様々な事業を展開し、経験を蓄積してきている。法人化しない任意団体の活動も多岐にわたる。企業の社会的責任（CSR）に対する関心の高まりが、人材派遣や寄付などを通して、企業がNPOと連携する機会が増えてきている。こうしたNPOの現状と積み上げられた経験を理解する。

他方で、グローバル化した金融市場により、国内での雇用機会の減少と所得格差の拡大とがもたらされた。貧困や教育などの社会問題や環境問題に対処する社会企業的活動への関心が高まっている。このように、NPOの活動領域は拡大している。初版で検討した事例の発展を辿ると共に、こうした新たな潮流や制度にも注目する。

授業の目標

公的サービスの担い手として日々に重要性を増しているNPOの設立、経営、業績評価等について、具体例の紹介を通して説明する。NPO活動の経験と新しい展開を重視する。

履修上の留意点

「NPOマネジメント（’07）」の単位修得者は履修不可。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	非営利組織とは	わたし達の生活において、町内会や自治会等の地縁組織を媒介して、行政が提供する様々なサービスを受け取ってきている。一方、行政という既成の枠組に囚われずに、ボランティア活動や、市民（住民）活動を進める組織が誕生し、時には行政と連携し様々な活動を行い、その存在感が大きくなっている。こうした市民（住民）活動が生まれる背景を述べる。 【キーワード】 NPO法人化、ボランティア、有志型NPO	河合　明宣（放送大学教授）	河合　明宣（放送大学教授）
2	行政連携型非営利組織	公益目的で非営利活動を行う法人に、公益法人とNPO法人などがある。改正された公益法人法の要点にふれる。 社会福祉協議会（社協）は、行政の一部として、わが国におけるボランティア活動を育成した。NPO法施行により、行政から独立し、行政との強い連携の下で事業を展開する新しい団体が誕生した。地球温暖化防止活動を推進する、「環境ネットワーク埼玉」を事例にして、その流れを紹介する 【キーワード】 民生委員、社会福祉協議会、地球温暖化防止活動推進センター	河合　明宣（放送大学教授）	河合　明宣（放送大学教授）
3	特定非営利活動法人の経営	特定非営利活動促進法(いわゆるNPO法)に基づく狭義のNPOの特徴を捉える。NPO法が定める法人の要件、非営利の内容、組織構成、人材の確保やマーケティング活動等組織の経営について述べる。 【キーワード】	齋藤　正章（放送大学准教授）	齋藤　正章（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	特定非営利活動法人の事業とその評価	前回の議論を受けて、内閣府国民生活局等のデータを使いながら、NPO法人の活動を明らかにし、業績、経営内容の分析を行う。 また、申請受理数の推移、組織の規模、活動領域別法人数、活動内容、財政規模、及び収支の状況等の分析も併せて行う。 【キーワード】	齋藤　正章（放送大学准教授）	齋藤　正章（放送大学准教授）
5	非営利組織のアカウンタビリティ	非営利組織が社会に広く受け容れられるには、その目的（活動理念）を明確にし、その活動の成果を開示する説明責任があると考えられる。また、非営利組織といえども必要経費をカバーする位の採算性が求められるであろう。 会計学のアプローチを用いて非営利組織の特徴をお金の面から明らかにしていく。 【キーワード】	齋藤　正章（放送大学准教授）	齋藤　正章（放送大学准教授）
6	まちづくり等地域に密着した活動	6回から8回までは、主たる活動分野別にNPOの具体例を通して、非営利組織の経営や運営の特色を考える。身近な生活の場においてNPOが設立された背景、活動実績、他の組織との連携などを見る。6回では、景観の保全やまちづくり、地域の活性化などを主たる活動分野とするNPOを扱う。 【キーワード】 農林業と地域づくり、NPO・行政連携、地域通貨	河合　明宣（放送大学教授）	河合　明宣（放送大学教授）
7	保健・医療・福祉の増進	保育所、老人ホームなどの介護老人保健施設、障害者（児）福祉施設などの社会福祉に関するサービス供給型の経営について概観する。事例として、障害者（児）福祉施設を経営するNPOについて述べる。 【キーワード】 社会福利、介護保険制度、地域社会	河合　明宣（放送大学教授）	河合　明宣（放送大学教授）
8	環境の保全と適正技術	尾瀬の自然環境保護に関わる団地を取り上げる。また、環境と調和した適正技術や社会技術の研究・普及などを主要活動分野とするNPOについて経営の現状と課題を探る。 事例で地域の中小規模水道に対する水道技術サービス提供や運営支援を行うNPOを取り上げる。 【キーワード】 自然環境保護、社会技術、尾瀬の環境保護	河合　明宣（放送大学教授）	河合　明宣（放送大学教授）
9	ボランティア・グループ及び任意団体	9回から10回までは、NPO法により法人組織化されたものとは別の組織形態による非営利組織の特色を考える。 9回は、主に住民の日常生活の範囲で生活に根ざした活動を行う任意団体を取り上げる。佐渡において、トキとその生息地の保護活動を目的とする団体について、地域住民組織の特徴と意義を述べる。 【キーワード】 任意団体、里地・里山の環境保全、有機農業	河合　明宣（放送大学教授）	河合　明宣（放送大学教授）
10	公益法人改革後の活動とその特徴	社団法人として活動してきた日本山岳会（自然保護委員会）と財団法人として活動してきた日本自然保護協会を事例として、公益法人改革への対応やその後の変化を中心に今度の課題を述べる。 【キーワード】 公益法人改革、日本山岳会、日本自然保護協会	河合　明宣（放送大学教授）	河合　明宣（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	生活協同組合	消費者が自らの生活向上を目指し、資金を出し合い生活物資の購買等の事業を運営する協同組合組織がある。これは1948年施行の消費生活協同組合法により設立された。地域生協と職域生協がある。改訂協同組合法の要点にも触れる。 【キーワード】	齋藤　正章（放送大学准教授）	齋藤　正章（放送大学准教授）
12	NGOとは何か －国際協力NGOを中心に－	貧困や開発、気候変動や生物多様性などの環境問題、ジェンダーや人権、紛争や平和などの国際的な課題で活動するNPOは、NGO（非政府組織）と呼ばれている。日本の国際協力NGOの現状、歴史、課題について述べる。 【キーワード】 NGO、国際協力、開発	大橋　正明（恵泉女学園大学教授）	大橋　正明（恵泉女学園大学教授）
13	国際協力NGOの事例 －シャプラニールの活動を中心に－	日本に数百ある国際協力NGOの中から、70年代初頭に設立されたシャプラニール=市民による海外協力の会を取り上げる。このNGOがどのように発展し、バングラデシュやネパールを中心にどのような協力活動を行ってきたかを振り返る。 【キーワード】シャプラニール、市民による海外協力、バングラデシュ	大橋　正明（恵泉女学園大学教授）	大橋　正明（恵泉女学園大学教授）
14	非営利組織の経営改革	任意団体であれ、法人格を取得した組織であれ、構成員が主体的に参加し、組織が目的としている活動を持続させるのは容易ではない。構成員が生き生きと活動し、組織が再生産されるために財政上の安定と魅力ある理念を掲げるリーダーシップが必要である 今日の非営利組織経営改革の課題について述べる。 【キーワード】	齋藤　正章（放送大学准教授）	齋藤　正章（放送大学准教授）
15	非営利組織の課題と展望	日本の町内会や自治会などの既成の住民組織や地縁組織でなく、非営利で社会貢献を目的とする新しい組織の凝集力や持続性は何に依存するのか。事例のまとめを通して非営利組織経営の課題を整理し、地域社会の展望を考える。 【キーワード】 地域社会、非営利組織の課題	河合　明宣（放送大学教授）	河合　明宣（放送大学教授）

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	専門科目	科目コード	1543717	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝　アグリビジネスの新たな展開　（’１０）＝　（R）

-豊かな食生活への貢献-

〔主任講師（現職名）：河合明宣（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：稲本志良（京都大学名誉教授）〕

講義概要

わが国において、アグリビジネス－農業及び食品関連産業－への関心が持たれて、長い年月が経過した。アグリビジネスをめぐる様々な局面において大きな変化がみられた。このような新たな展開において、特に注目したい点が二つある。第一は、アグリビジネスをめぐる国内的環境、国際的環境が大きく変化したこと、第二は、アグリビジネスと連関する産業の範囲が拡大、多様化した点である。さらに、消費者の食生活や、食料及び関連サービスの購買行動の実態も大きく変化してきている。食料をめぐる需要と供給の両面の変化で、アグリビジネスを通じ、農業及び農村について多様な観点からの注目が重要となってきている。

授業の目標

授業の目標として特に注目したい諸点である。①食をめぐる豊かさとは②高齢化・少子化社会における食生活③現代社会と食文化－その接点と意義－④食をめぐる国際化⑤現代社会における「食」をめぐる関心と利害関係、その関係の多様化と安定性の確保⑥食生活の広がり－需要者（消費者）と供給者（生産者）の接点の多様化、動機の多様化⑦農の現場と食の現場の距離の拡大と縮小という二極化の進展⑧改めてわが国・わが地域の農業を考えることの重要性⑨農産物供給の安全性と持続性の確保⑩食をめぐるリスク管理を確実に実践、可能にするシステムの確立。

履修上の留意点

食品や食料は生活の中で1日たりとも欠かせない。しかし、食の現場と、農業の現場や食品の加工・流通を担う食品関連産業との距離は拡大または縮小し、栽培から食べるまでの過程が見えなくなっている。まず、川下の食品・食料から農業及び食品関連産業まで見通せる視点を学習する。次に食の現場への関心と本科目によるアグリビジネス総体を把握する視点を、相互に、鍛えていただきたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	アグリビジネスのなかの農業	現在、一方に食に関わる産業の領域の拡大と多様化、他方に消費者の食料の購買・消費をめぐる意識と行動の高度化、多様化が進んでおり、これらをめぐる国際化も進んでいるなど、現代の「食」を考えるに当たって、注目すべき観点、検討すべき事項は大きな広がりをみせている。これらをめぐる全貌に注目する。 【キーワード】 アグリビジネス、食生活、農業の特質、国際化	河合・稲本	河合・稲本
2	食をめぐる農業技術の展開－技術革新と新しい農業の展開－	生鮮農産物を供給する産業である農業は、他の産業と共通する点と相違する点を有している。これらの相違を、先ず、種々な産業の有り様を規定する最も重要な要因である技術という点から注目する。更にその技術の最近の発展の方向に注目する。 【キーワード】 生命産業、生鮮食品、加工食品	稲本志良	河合明宣
3	食をめぐる農業・農村の人材－多様な新規参入と新しい農業の展開－	多くの国で、家庭によって運営される「農家」という形態の農業経営が主流を占めてきたが、最近になるほど、雇用型の農家や企業的な経営者が増加してきている。このような構造変化や非農家人材の農業参入、女性農業経営者の登場という新しい動向に注目する。 【キーワード】 農家子弟、新規参入、女性農業者	稲本志良	河合明宣

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	食をめぐる農業・農村組織の展開－組織に注目した農業・農村－	農業では、家族による農業経営が大多数を占めてきたが、最近、雇用労働力を活用する企業的家族経営、さらに新しい目的と形態での共同経営、共同組織が登場してきている。これらの動きについて、農業経営及び農村地域の持続的な発展の可能性という観点から注目する。 【キーワード】 家族経営、共同経営、多様な共同組織	稲本志良	河合明宣
5	食をめぐる農業経営多角化の展開－多角化に注目した農業・農村の展開－	家族経営は、生産、加工、販売の何れの側面からみても極めて零細な経営体であり、旧くから様々な動機と形態での共同化、連携が進められてきた。そして、最近になるほど、農業の分野を超えて、商工分野の事業体との間の共同化、連携が増加してきている。注目すべき重要な動きである。 【キーワード】 連携の動機、連携の領域、連携の形態	稲本志良	河合明宣
6	食品製造業の展開と農業	今日、我々の食生活は加工食品なしには成り立たない。ここでは飲食料品製造業の産業規模や業種・業態について知り、その多様さが今日の食生活をいかに豊かにしてきたかを考える。さらに原材料として農水産物を大量に使用する産業であることに着目し、その原料調達行動が国内の農業に与える影響についても考える。 【キーワード】 産業組織、食品企業の行動、農業との連携	新山陽子（京都大学大学院農学研究科教授）・清原	新山陽子（京都大学大学院農学研究科教授）
7	外食産業の発展と食生活	外食産業もまた、今日の食生活には欠かせない産業である。ここでは、今日のような外食の業種・業態がいかに成立してきたかを振り返る。そして、今後の外食産業は消費者のライフスタイルや社会の変化に応じていかに変化していくのかを考える。また、近年急速に拡大している中食についてもその市場規模と今後の展開について考える。 【キーワード】 近代的外食産業、ライフスタイルと食生活、中食	清原昭子（中国学園大学・講師）	清原昭子（中国学園大学・講師）
8	食の安全、信頼とフードシステム	アグリビジネスの発展により農業から小売業・外食にいたる高度なフードシステムを築いたが、その複雑さのなかで、食品中の病原微生物や化学物質などによる健康への悪影響の防止が社会的課題になっている。ここでは、食品安全確保のために欠かせない食品リスク、リスクアナリシス概念について学び、食品事業者や政府、消費者の役割について考える。 【キーワード】 リスクアナリシス、HACCP、トレーサビリティ	新山陽子	新山陽子
9	生産と消費を結ぶ食品流通業	量的にも質的にも多様で不規則に変化する食品の生産と消費を相性よく結びつけ、生産者と消費者がともに納得できる結果を実現することは容易なことではない。生産者および消費者とともにその困難を克服することに取り組む食品流通業の役割を明らかにし、流通の段階を形成しながら生産と消費を結びつける食品流通の仕組みについて解説する。 【キーワード】 視野の限界、多段階流通、食文化	桂瑛一（信州大学・大阪府立大学名誉教授）	桂瑛一（信州大学・大阪府立大学名誉教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	流通の成果を競う食品小売業	流通の最終段階に位置する小売業の売場には流通の最終成果が反映される。しかし消費者と小売業者の利害は同じとはいえず、流通の成果は小売業の利益を優先したものになりかねない。小売業の多様な実態を概観するとともに、消費者が売場で流通成果を評価するための視点を示し、豊かな食生活に貢献する流通成果を目ざして消費者自身も行動しなくてはならないことを明らかにする。 【キーワード】 食品小売業、流通の成果、商品価値	桂瑛一	桂瑛一
11	流通の要を担う食品卸売業	食品卸売業は産地と消費地を取り持つ重要な役割を担っており食品小売業の最も主要な仕入先になっているが、消費者にはかかわりの薄い存在である。卸売業が活躍する卸売市場の概要を述べ、卸売業をめぐる競争環境の変化と卸売業の動向を概観し、卸売業が果たしている役割を明らかにするとともに、豊かな食生活に寄与する卸売業の機能革新への課題に検討を加える。 【キーワード】 食品卸売業、卸売市場、職人技	桂瑛一	桂瑛一
12	食料をめぐる国際分業の成立	国内消費のあり方に対応した生鮮食品や原料、加工食品のわが国の輸入状況を品目別と輸入先別に捉える。アメリカやEUなどの先進国が食料輸出国であり発展途上国が輸入国であるという農産物の国際貿易の実態を確認する。農産物国際市場において大きなシェアを握る多国籍企業の役割にも触れる。 【キーワード】 穀物メジャー、多国籍企業、海外直接投資、開発輸入	河合明宣	河合明宣
13	国際的にみた食料事情－過剰と不足－	長期、短期の視点から地球規模での過剰と不足をめぐる現状を概観する。人口増加と食料生産では、緑の革命と塩害の問題、化石ネネルギーとバイオエタノール生産による食料と環境のトレードオフを考える。食料自給の観点から人間と自然環境との共生の課題を取り上げる。 【キーワード】 緑の革命、商業的農業、食料の自給、持続的発展	河合明宣	河合明宣
14	国際的にみた食生活、食慣習の多様性と変化の方向	イタリア発祥のスローフード運動を念頭に置き、発展途上にあるアジア諸国と日本との比較のなかで論じる。インドと中国を事例にして食習慣の多様性と変化を考える。また、日本食のアジア展開とCVS（コンビニエンスストア）によるファーストフードの広がりの意味づけも試みる。 【キーワード】 伝統食品と環境、コンビニの海外展開、共通の味、食育	河合明宣	河合明宣
15	国際化の中でのわが国の食と農業の展望	国際貿易の新しい規律を求める観点から、農産物貿易の広がりと国や地域の食文化や環境保全について考える。地域や国での需要と供給のアンバランス（自給率）の問題を、WTO（世界貿易機関）協定下における豊かな食の確保及びわが国農業・農村の課題との関連で捉える。 【キーワード】 WTO、生物多様性、地域内発型アグリビジネス、みどりの東アジアETP、日本農業再生	河合明宣	河合明宣

事務局記載欄	開講年度	２０１１年度	科目区分	専門科目	科目コード	1548212	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ グローバル化と日本のものづくり （’１１）＝ （ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：藤本隆宏（東京大学大学院経済学研究科教授）〕
〔主任講師（現職名）：中沢孝夫（福井県立大学経済学部特任教授）〕
【本学担当専任教員：河合明宣（放送大学教授）】

講義概要

国際的な市場競争の激化のなかで、日本の「ものづくり」が岐路に立っている、といわれている。しかし構想、研究・開発からはじまり、「もの」が実際につくりこまれてゆくプロセスは意外と知られていない。
この授業では、中小企業から大企業までの、技術や経営の実際を概観しながら「ものづくり」の全体像をスケッチしつつ、日本(企業)の強さと弱さや、国際的な競争と協調の内実を明らかにする。
その作業はアメリカとの貿易摩擦から現地への工場進出の歴史の点検であったり、東アジアを中心とする途上国との国際分業の進展の分析であったりする。
またそのことは「ものづくり」を媒介として、世界の諸国とともに歩む日本の「優位性」や「課題」を浮き彫りにすることでもある。

授業の目標

大切なことは事実を知ることである。製造業に関する毀誉褒貶を排し、日本経済を支える「ものづくり」の過去と現在を、グローバル化を軸につぶさに点検しながら、私たちの社会の「今」を等身大で理解する。

履修上の留意点

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	グローバル化と日本のものづくり	グローバル化、という言葉が近年になってからことさら強調されるようになったのは、旧ソ連を中心とした社会主義が崩壊し、ヒト、モノ、カネ、そして情報が一挙に国境を超えるようになったからである。特に「もの」や「サービス」の流通が、お互いの国の経済や暮らしに大きな影響を与えるようになってきた。とりわけ「ものづくりの国」といわれる日本は、海外への直接投資を拡大している。この章では主に「ものづくり」の意味と、技術の歴史を点検する。 【キーワード】 「グローバル化」「貿易依存度」「日本の大きさ」「模倣工学」	中沢孝夫(福井県立大学経済学部・特任教授)	中沢孝夫(福井県立大学経済学部・特任教授)
2	「ものづくり論」とは何か	①機械・電気・材料・化学といった「工学」はそれぞれの固有技術を支えるが、それぞれの技術を動員して束ね、人工物(もの・製品)をつくり、消費者(お客)に届けるプロセスの総体が「ものづくり」である。 ②国際的な日本の立ち位置をふまえ、ものづくり経営論の意義を考える。 【キーワード】	藤本隆宏(東京大学大学院経済学研究科・教授)	藤本隆宏(東京大学大学院経済学研究科・教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
3	トヨタ生産方式と日本のものづくり	トヨタ生産方式を例にとり、情報の転写やプロセスフロー、組織能力の構築やシステム全体の進化などの諸観点から日本のものづくりの1つの特徴を示す。 【キーワード】	藤本隆宏	藤本隆宏
4	設計構想としてのアーキテクチャ	①製品の設計思想、アーキテクチャ論はものづくり経営論の骨格をなす理論である。インテグラル(擦りあわせ)型とモジュラー(組み合わせ)型はどう違うか、アーキテクチャ論の視点からの説明。 ②クルマ、家電、パソコンなど、製品によって「つくり方」は異なる。日本が得意なものと下手なもの。製造業の中の強い業種と弱い業種などをの説明。 【キーワード】	藤本隆宏	藤本隆宏
5	日本製造業の競争力の変遷	戦後、日本の製造業は輸出で発展してきたが、輸出産業は繊維から鉄鋼、電機、半導体へと変遷してきた。急激な輸出増は日米貿易摩擦や急速な円高を招いた。日本企業はその環境変化に合理化等で対応するとともに、既存産業に新規の技術を取り込む脱成熟を実施することで競争力を強化していったプロセスを概説する。 【キーワード】 「貿易摩擦」「脱成熟」「比較優位」「プロダクト・ライフサイクル仮説」	新宅純二郎(東京大学大学院経済学研究科・准教授)	新宅純二郎(東京大学大学院経済学研究科・准教授)
6	日本製造業の苦境と海外生産の展開	1980年代半ばに絶頂期を迎えた日本の製造業に対して、海外でも日本的経営が着目されるようになった。しかし、1980年代後半以降の円高と90年代のバブル崩壊で日本企業は大きな苦境に立たされた。その中で、国際競争力を失っていく産業も出てくると同時に、この時期に急速に進んだのが海外生産の拡大とその影響について説明する。 【キーワード】 「顕示比較優位」「日本的経営」「海外生産」「生産性」	新宅純二郎	新宅純二郎
7	「ものづくり」の基盤を支える中小企業	たくさんの「素材」や「技術」がかかわってものはつくられている。トヨタやホンダといった完成品のメーカーの周辺には、一次協力、二次協力と、さまざまな専門技術をもった中小のメーカーが存在する。この章では「相談」しながらものをつくる日本の特徴を明らかにしつつ、中小企業の役割の意味や、ソフトとハードの関係、そしてものづくりにまつわる多くの誤解をただす。 【キーワード】 「協力メーカー」「関係的技能と承認図」「中小企業基本法の旧法と新法の違い」	中沢孝夫	中沢孝夫
8	中小企業の海外進出とその特徴	中小企業の海外展開は大企業よりも少しおそい。まず完成品のメーカーが進出し、次に協力メーカーがいく。「もの」は消費地に近いところで作った方がよいので、途上国の経済発展とともに、海外への直接投資(工場をつくったりする)もまた増大する。本章では中小企業の移転の理由やそのことによる国内への影響の積極的な意味を通して明らかにする。それは必ずしも空洞化ではない。 【キーワード】 「海外投資件数の推移」「「現地仕様」「工場が減る意味」	中沢孝夫	中沢孝夫

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
9	ものづくりの活性化と東アジア諸国の発展	日本の中小企業の技術はどこにいっても通用し、かつ優れている。しかし近年は途上国にも現地のメーカーが登場し、日本のメーカーのネットワークに参加しつつある。かつては部品を日本から運んだが、だんだん現地での調達率が高まっている。そして現地での完成品が各国に輸出されるようになり、日本への逆輸入もはじまっている。そうしたなかで中小企業も積極的に海外で経営を展開させつつある。 【キーワード】 「現地調達比率」「技術移転」	中沢孝夫	中沢孝夫
10	ものづくり発展のプロセスと現在	どこの国もマネからスタートする。もちろん日本も。大切なことは学ぶ能力と応用する力である。輸入代替から輸出産業へと発展させてきた日本のものづくりを、主にマザーマシンといわれる工作機械に焦点をあてて説明する。そして、エレクトロニクスの発展が、日本のものづくりのあり方を大きく変えつつある現状を点検しながら、今日の課題を明らかにかる。 【キーワード】 「工作機械」「残留応力」「製品の境界」	中沢孝夫	中沢孝夫
11	東アジアの国際分業の動向と日本企業のものづくり	① 直接投資を受け入れた東アジア諸国は急速に経済成長。20年間のアジアを中心とする国際分業の構図を整理。② アジアとの国際分業を前提にものづくりのあり方を見直す必要性。その際、アーキテクチャ論をふまえ日本に何を残し、何を外へ出すべきか、ものづくりの比較優位論をベースに国際分業論を展開する。 【キーワード】 「国際分業」「アジア」「アーキテクチャ」「国際ビジネスモデル」	天野倫文（東京大学大学院経済学研究科・准教授）	天野倫文（東京大学大学院経済学研究科・准教授）
12	アジアへの日本的経営とものづくり能力の移転	① アジアの生産現地で「擦り合わせ」型組織能力構築の必要性。2000年代に日本的経営や組織能力を移転した国との間に差が現れた。②タイは、今ASEANやインドも含む戦略的拠点化した。タイトヨタの事例で日本的経営をどう受容し、国際競争力の土台を築いたかを見る。③ 販売、生産、開発、人事が一体化した組織能力の構築・移転と現地化のモデル。 【キーワード】 「海外現地法人」「組織能力」「経営の現地化」「日本的経営」「ものづくり」	天野倫文	天野倫文
13	新興国市場戦略とものづくり	① 製造業ベースで、中国、東南アジア、インドなどが大きく経済発展し、1人当たりGDPも伸びた。地域間格差は存在するが、貧困層比率が減少し、都市部は成長力ある市場へ。②サービス業進出、生産拠点だけでなく市場でもある新興国市場での製販一体化したものづくりの定着を論じる。③各国多国籍企業との競争になるが、日本の優位性はどこかを探る。 【キーワード】 「新興国市場」「イノベータのジレンマ」「製品戦略」「ボリュームゾーン」「非連続な市場への適応と創造」	天野倫文	天野倫文
14	新時代の技術経営とものづくり-知的財産や標準化戦略など-	① 現代の競争は複雑化してきており、知的財産をどう扱うか、世界的な標準化戦略をどう構築していくのかということが、ものづくりの存続においても、クリティカルな要素となってきている。②日本企業のこれまでのものづくり経営は、そうした観点からどう評価されるのか、また今後環境や新技術が到来するなかでどのような課題を抱えているかを述べる。 【キーワード】 「イノベーション」「コンセンサス標準」「モジュラー化」	新宅純二郎	新宅純二郎

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
15	日本のものづくりの今後の展望と課題	①グローバル化と日本の産業、②擦りあわせ優位論の可能性と注意点、③産業の垣根を越える「開かれたものづくり」、④実践的な含意―「良い現場」を日本に残そう 【キーワード】	藤本隆宏	藤本隆宏

科目名（メディア）＝　社会技術概論（‘０７）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：小林　信一（筑波大学大学院教授）〕
〔主任講師（現職名）：小林　傳司（大阪大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：藤垣　裕子（東京大学大学院教授）〕

講義概要

科学技術は、真理の探究や新技術の開発など、社会とはあまり関係のない活動のように思われがちである。だが、今日の高度に発展した科学技術は社会に多大な影響を及ぼしている。今後は、科学技術と人間生活が調和しつつ、ともに発展していく必要がある。本講義では、真理探究ための科学技術や産業のための科学技術とは異なる「社会の中の科学技術、社会のための科学技術」という観点から、科学技術と社会の相互関係について考える。

授業の目標

いくつかの事例や歴史の理解を通じて「社会のための科学技術」の考え方を学ぶとともに、科学技術コミュニケーション、科学技術リテラシー、科学技術と市民参加、科学技術と倫理などの横軸となる視点を理解する。また、これらの基盤となる理論側面についても理解を促す。これらのテーマを通じて、社会技術の基本的事項について理解することを目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	社会の中の科学技術、社会のための科学技術	科学技術は人々に利便性をもたらすと同時に、生活や環境に悪影響を及ぼす可能性もある。また、社会的問題の解決に科学技術の貢献が求められる場合も少なくない。ここに「社会の中の科学技術、社会のための科学技術」が登場する。	小林信一（筑波大学大学院教授）	小林信一（筑波大学大学院教授）
2	BSEの経験	科学技術と社会の相互関係の事例として、1990年代にイギリスで発生したBSE問題を取り上げる。BSE問題において科学者・行政はどのような役割を演じたのであろうか。また、その後、日本で発生したBSEについての対応にも触れることにする。	小林傳司（大阪大学教授）	小林傳司（大阪大学教授）
3	安全な社会をデザインする	人々が安全に生活する上で、食品、医薬品、化学物質の安全、交通安全、災害対策、感染症対策など多様な安全対策のためのシステムが必要である。これらのシステムを構築するために科学技術はどのような形で貢献しているのだろうか。	小林信一（筑波大学大学院教授）	小林信一（筑波大学大学院教授）
4	先端科学技術と社会	先端的な科学技術は、ときとして人々の価値観とのあいだで葛藤を引き起こす。ナノテク、バイオ、脳科学、ユビキタス技術などの分野で危惧されていることは何か。それらの問題に対して科学技術自身、社会はいかに対処すべきか。遺伝子組換え食品、ナノテクノロジーを例に考える。	小林信一（筑波大学大学院教授）	小林信一（筑波大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	社会のための科学技術−その歴史	冷戦の終焉により、社会における科学技術の位置づけは大きく変わった。1999年の世界科学会議では科学技術者自身が「社会の中の／社会のための科学」を提唱するにいたった。社会技術の考え方を歴史的に捉える。	小林信一（筑波大学大学院教授）	小林信一（筑波大学大学院教授）
6	科学技術と社会のコミュニケーションをデザインする	科学技術は高度な研究活動であるが、同時に多くの人々の生活に大きな影響を与える。専門家は社会とどのようなコミュニケーションを図っていくべきであろうか。日本で始まったいくつかの取り組みを具体的に紹介する。	小林傳司（大阪大学教授）	小林傳司（大阪大学教授）
7	これからの科学技術リテラシー	科学技術が生活に浸透した社会で一般市民にはどのような科学技術リテラシーが求められるだろうか。それは従来のリテラシー観とどこが異なるのか。これからの科学技術リテラシーを考えることは、どのような市民社会を標榜するかということと強い関係があることも含めて考える。	小川正賢（神戸大学教授）	小川正賢（神戸大学教授）
8	科学技術と市民参加	科学技術が社会で利用される際に、市民はどのような関わり方をすべきであろうか。日本で行われたコンセンサス会議や市民と専門家の間のさまざまな対話の試みを紹介し、その現状と課題を考える。	小林傳司（大阪大学教授）	小林傳司（大阪大学教授）
9	科学技術と民主主義	科学および技術と民主主義がそもそもどのような関係にあるのかを理論的に考えてみる。さまざまな利害関係者によって構築される「公共空間」の考え方を示し、第8回の授業で扱った「市民参加」の意味をもう一度とらえ直す。	藤垣裕子（東京大学大学院教授）	藤垣裕子（東京大学大学院教授）
10	知識・権力・政治	科学者にとっても解明途中であり、科学者にも長期影響が予測できないようなグレーゾーンで、何らかの公共的意思決定を行う必要がでてきている。知識が権力として作用することの意味、知識政治学について概説する。	藤垣裕子（東京大学大学院教授）	藤垣裕子（東京大学大学院教授）
11	社会に役立つ知識とは	グレーゾーンにおける社会の意思決定において役立つ知識とは、どのようなものなのか。モード論、社会的に頑強な知識、サービス科学、規制科学、といったいくつかの概念を紹介しながら考え、これら知識のもつ責任についても考察する。	藤垣裕子（東京大学大学院教授）	藤垣裕子（東京大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	科学技術と公共政策	社会技術と政策との関係について検討する。社会技術の実現のためには、従来の科学技術振興政策とは別に、「政策のための科学技術」の振興や「社会の中の／社会のための科学技術」そのものの振興が必要になってくる。	小林信一（筑波大学大学院教授）	小林信一（筑波大学大学院教授）
13	海外の社会技術	「社会の中の／社会のための科学技術」を指向したさまざまな活動が世界中で展開されている。それらを紹介しながら、「社会の中の／社会のための科学技術」の意味を再評価する。	藤垣裕子（東京大学大学院教授）	藤垣裕子（東京大学大学院教授）
14	科学技術と倫理の新次元	科学技術の発展と人々の価値観や倫理観とのあいだの葛藤は科学技術の発展に抑制的に働くこともあれば、新しい倫理観の構築が必要になる場合もある。科学技術と社会の調整過程に出現する新しいタイプの倫理問題とその実現のための方策について考える。	小林信一（筑波大学大学院教授）	小林信一（筑波大学大学院教授）
15	社会技術のこれから	これまでに紹介されなかった論点について概観するほか、「科学技術は誰のものか」「誰が専門家か」といった、社会技術が既存の科学技術活動、社会経済活動に投げかける問題について総合的に論ずる。あわせて残された課題を指摘する。	小林信一（筑波大学大学院教授）	小林信一（筑波大学大学院教授）

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1544420	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　バイオテクノロジーと社会　　（’０９）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：武田　穣（名古屋大学教授）　　〕

講義概要

基礎生物学の急速な進展に伴い、生命現象の理解が進んだ。その研究成果を人類社会のために活用する試み、特に、長寿社会に向けた医療・健康産業、環境に配慮した産業構造への変革等に対する期待はきわめて大きいものがある。その一方で、先端科学技術に対する不安が一般社会に広まっている。一般消費者としても、科学的根拠に基づく、自己責任による判断が必要とされる時代になっていると言える。本科目では、遺伝子組換え作物と遺伝子診断という具体的事例に基づき、自己責任で判断するための情報提供を行う.

授業の目標

遺伝子組換え作物と遺伝子診断について、基本的な技術を理解する。更に、その技術のもたらすメリット・デメリットを十分に理解し、科学的根拠に基づいて、自分としての判断を下すことができるようになる。また、科学以外の分野でも、この科目での学んだ経験を活かし科学的根拠を基にした情報を選択・収集し、論理的に考え、意思決定の場面で応用できるようになる。。

履修上の留意点

高校生物程度の知識は必要である。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	はじめに	バイオテクノロジー周辺の事例を提示して、今何が問題になっているのか、個人として何を判断しなければならないのか　について考える。もっとも身近な例として、食品の表示を見て選択できること、遺伝子診断の同意書に署名できることの2点については、以後の講義で具体的に検討するが、ここではそれ以外の事例を挙げ、簡単に説明する。 [事例]　健康食品・化粧品の効能、生殖補助医療 【キーワード】 バイオテクノロジー、パブリックエンゲージメント	武田　穣(名古屋大学教授)	武田　穣(名古屋大学教授) 佐々義子(NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)
2	育種と遺伝子組換え技術への期待	途上国での人口増加・食糧不足が指摘されており、農業不適地の増加とあいまって、世界全体として、食糧不足を補うための技術開発が必要である。遺伝子組換え技術と従来の育種方法を比較して、なぜ、遺伝子お組換え技術に期待が集まるか　について開設する。 【キーワード】 食糧生産、耕作不適地、人口増加、従来型育種	田部井　豊(独立行政法人農業生物資源研究所室長)	田部井　豊(独立行政法人農業生物資源研究所室長) 佐々義子(NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)
3	植物における遺伝子組換え技術	植物の遺伝子組換えに関する基本技術を理解する。外来遺伝子の発現の調べ方やその影響についても説明する。 【キーワード】 アグロバクテリウム、Tiプラスミド、パーティクルガン、カルス、体細胞突然変異、外来遺伝子の発現	武田　穣(名古屋大学教授)	武田　穣(名古屋大学教授) 佐々義子(NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	遺伝子組換え作物の栽培の現状	世界にいて、遺伝子組換え作物の栽培面積が急増している現状について理解させる。遺伝子組換え作物が生産者にもたらす利益について説明する。更に、EU・インド・ブラジル・中国等で遺伝子組換え作物の認可が始まっていることを説明し、国際貿易の枠組み内で、日本だけが遺伝子組換え作物を排除することはできないことを理解する。 【キーワード】 除草剤耐性、害虫抵抗性、トウモロコシ、ダイズ、ナタネ、ワタ	武田 穣(名古屋大学教授)	武田 穣(名古屋大学教授) 佐々義子(NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)
5	遺伝子組換え作物の開発の現状	ウイルス抵抗性、多収性、ストレス耐性等、生産者にメリットをもたらす遺伝子組換え作物の開発に加えて、消費者にメリットをもたらす第2世代の遺伝子組換え作物の開発が進んでいる。その事例について紹介する。 【キーワード】 食中毒予防バナナ、ゴールデンライス、花粉症緩和米	武田 穣(名古屋大学教授)	武田 穣(名古屋大学教授) 佐々義子(NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)
6	遺伝子組換え作物・食品に対する市民の反応	遺伝子組換え作物に反対するグループの論点について整理し、よく引用される科学的根拠といわれるものの信頼性について説明する。食品としての安全性についてはレクチンジャガイモを食べたネズミの免疫不全、英国食品規準庁の発表、環境安全性についてはオオカバマダラ蝶の話、次世代への影響についてはネズミの生殖実験等がよく引用されているが、科学的に信頼できるのかどうか検証が必要である。 【キーワード】 食品安全性、環境安全性、次世代への影響、パブリックエンゲージメント	佐々義子(NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)	武田 穣(名古屋大学教授) 佐々義子(NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)
7	遺伝子組換え食品の安全性	食品の安全性がどのように担保されているか 食品安全委員会等の議論を基に説明する。天然物や国産品だからと言って安全とは限らないこと、個人差があること 等を説明し、実質的同等性が認められていることの意味を理解させる。 【キーワード】 食品安全委員会、コンフリー、実質的同等性	武田 穣(名古屋大学教授)	武田 穣(名古屋大学教授) 佐々義子(NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)
8	遺伝子組換え農作物の生物多様性影響評価	遺伝子組換え作物が認可されるために必要な実験結果および認可システムについて、理解させる。 【キーワード】 隔離栽培、開放系栽培、花粉飛散距離、自生種との交雑、カルタヘナ法	田部井 豊(独立行政法人農業生物資源研究所室長)	田部井 豊(独立行政法人農業生物資源研究所室長) 佐々義子(NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
9	ヒトゲノムと遺伝子診断技術	ヒトゲノムの解読に伴い、多くの突然変異の持つ意味が理解されるようになってきた。その中でも、先天性遺伝病に関する原因遺伝子が数多く発見されている。こうした遺伝病等に関連する遺伝子を受精卵や胎児の段階で診断する基本技術について説明する。 【キーワード】 ヒトゲノム、突然変異、遺伝子疾患、疾患原因遺伝子	武田 穣(名古屋大学教授)	武田 穣(名古屋大学教授) 佐々義子(NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)
10	遺伝子診断Ⅰ	髄様ガンは、遺伝的に起きる甲状腺ガンであり、思春期までにほぼ確実に発病する。発見後、甲状腺摘出手術によって治癒するが、転移・再発の危険は残る。遺伝子診断により、原因遺伝子を持つことが明らかになれば、発病前に甲状腺摘出手術を行うことで、発病を防ぐことができる。 【キーワード】 遺伝子診断、髄様ガン、発症前診断	武田 穣(名古屋大学教授)	武田 穣(名古屋大学教授) 佐々義子(NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)
11	遺伝子診断Ⅱ	出生前診断(羊水診断・絨毛診断)によって、ダウン症等の診断が可能になっているが、すべての遺伝病で治癒の可能性があるわけではない。また、羊水診断等は母体に悪影響を与える可能性もある。女性の見地を加え、ダウン症等を対象とした出生前診断について考察する。 【キーワード】 出生前診断、ダウン症、着床前診断、遺伝カウンセリング	武田 穣(名古屋大学教授)	武田 穣(名古屋大学教授) 佐々義子(NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)
12	遺伝子診断の現状	一般市民も遺伝子診断で用いる個人遺伝情報の持つ意味と特徴を理解し、身近になりつつある体質検査、親子鑑定などに対しても、適切な利用と判断ができなくてはならない。特に、遺伝情報は個人だけでなくその家族と本人の将来の健康情報も含んでいる。究極のプライバシーといわれる個人遺伝情報の意味と特徴と理解し、インターネットなどで安易に入手できる体質検査、親子鑑定などに対しても適切な判断ができるようになることが重要である。 【キーワード】 罹患性診断、体質診断、個人遺伝情報保護	武田 穣(名古屋大学教授)	武田 穣(名古屋大学教授) 佐々義子(NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)
13	科学・技術と市民の関わり(パブリックエンゲージメント)	科学・技術の進歩とそれを応用した産業の発展には、それを支える市民の理解がなくてはならない。そして、政策決定プロセスにも市民が関わり、議論することが重要である。新しい科学・技術と社会が健全な関係を築くためには、科学者だけでなく様々な人々の関与の中で透明性のある議論が行われなくてならない。情報提供と透明性のある議論の中で、パブリックアンダースタンディングが高められていくと考えられる。 【キーワード】 リスクとベネフィット、パブリックアンダースタンディング、安全と安心	佐々義子(NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)	武田 穣(名古屋大学教授) 佐々義子(NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
14	サイエンスコミュニケーション	市民が科学・技術に関わる政策決定に関与していくには、学校教育ばかりでなく、サイエンスコミュニケーションを通じ、市民のサイエンスリテラシーの向上が求められる。 【キーワード】 コンセンサス会議、サイエンスカフェ、サイエンスリテラシー、サイエンスコミュニケーション	佐々義子(NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)	田部井 豊(独立行政法人 農業生物資源研究所) 佐々義子(NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)
15	まとめ	今までの講義を受け、バイオテクノロジー関連の問題について、最近の事例を基に、総括的討論を行う。特に、消費者個人による自己責任、そのための専門家による情報の提供、橋渡しをするサイエンスコミュニケーションの必要性等について強調したい。 【キーワード】 リスクコミュニケーション、サイエンスコミュニケーション、パブリックエンゲージメント	武田 穣(名古屋大学教授)	武田 穣(名古屋大学教授) 佐々義子(NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1541803	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 日本の技術革新 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：清水　慶一（国立科学博物館 産業技術史資料情報センター参事）〕
〔主任講師（現職名）：三上　喜貴（長岡技術科学大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：野城　智也（東京大学教授）〕

講義概要

明治期から現在に至るまでの日本の技術革新経験について全15回にわたり講義する。日本の技術革新は世界史的にみても稀有に属するテンポと広がりを持っており、この過程を総論（1－3回），人的・組織的要因（4－7回），生活・社会・環境との相互作用（8－12回）といった各側面から紹介するとともに，技術革新史研究の方法論と成果の活用（13，14回）について学習する。

授業の目標

全15回の講義を通じて，日本の技術革新経験の特徴やこれを支えた人的・組織的諸要因、生活・社会・環境との相互作用、技術革新史研究の方法論などについての基本的な理解を得ることを目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	日本の技術革新経験-世界史の中で-	日本の技術革新経験を世界史的な視野から位置づけて，その特徴を紹介するとともに，産業革命との関係，国際環境との関係などの各側面から論じる。	清水　慶一（国立科学博物館産業技術史資料情報センター参事）	清水　慶一（国立科学博物館産業技術史資料情報センター参事）
2	日本の技術革新の特徴1	技術革新過程における日本の特色－現場と研究者の密接な連携、市場重視、長期的視野、技術統合等－を具体的な事例、当事者へのインタビューなどを通じて解説する。	清水　慶一（国立科学博物館産業技術史資料情報センター参事）	清水　慶一（国立科学博物館産業技術史資料情報センター参事）
3	日本の技術革新の特徴2	技術革新過程における日本の特色－現場と研究者の密接な連携、市場重視、長期的視野、技術統合等－を具体的な事例、当事者へのインタビューなどを通じて解説する。	清水　慶一（国立科学博物館産業技術史資料情報センター参事）	清水　慶一（国立科学博物館産業技術史資料情報センター参事）
4	工学教育	日本の技術革新を人的・組織的側面から特色付ける。まず、技術革新を支えた技術者像を、事例紹介、当事者へのインタビューなどを通じて理解する。	清水　慶一（国立科学博物館産業技術史資料情報センター参事）	清水　慶一（国立科学博物館産業技術史資料情報センター参事）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	技術革新と技術者	技術革新を生み出す最大の資源は人材である。開国・明治期におけるお雇い外人にはじまる人材育成の歴史をたどりつつ，技術革新を支えた技術者教育の歩みと，技術革新を支えた技術者像について紹介する。	清水　慶一（国立科学博物館産業技術史資料情報センター参事）	清水　慶一（国立科学博物館産業技術史資料情報センター参事）
6	大規模プロジェクト	ダム、高層建築、新幹線などの大規模プロジェクトの実例を紹介しつつ、技術の統合、プロジェクトマネジメントなどの側面から大規模プロジェクトが日本の技術革新に及ぼした影響について解説する。	野城　智也（東京大学教授）	野城　智也（東京大学教授）
7	技術革新と知的財産権	技術革新の過程における知的財産権制度の意義について理解するとともに、日本の技術革新において特許制度や著作権制度の果たした役割について具体的事例に沿って紹介する。 【キーワード】 知的創造、知的財産権、特許権、著作権	三上喜貴（長岡技術科学大学・教授）	三上喜貴（長岡技術科学大学・教授）
8	日本の伝統・文化と技術革新	近代技術の体系はグローバルな性格を有し，それぞれの社会における伝統的技術や文化を平準化し，収斂させる作用も持つが，他方で伝統的技術思想や文化的背景は技術革新の方向に影響も与える。これを陶磁器や繊維等の実例を紹介しつつ論じる。 【キーワード】 ワグネル，万国博覧会，石炭窯、洋食器、日本陶器	亀山哲也(財)名古屋都市産業振興公社産学連携コーディネーター）	亀山哲也(財)名古屋都市産業振興公社産学連携コーディネーター）
9	技術革新と生活の変容	技術革新は様々な形でわれわれの生活の変化と深く結びついている。そこで、本講義では家庭生活の中心となる台所に注目し、戦前戦後の台所の変化の過程を概観し、とりわけ、戦後に台所がダイニング・キッチンという新しい生活の場に変容するなかで、大きな力となったステンレス流し台の誕生の過程を技術革新の事例として紹介している。 【キーワード】 台所、ダイニング・キッチン、ステンレスの流し台、大量生産	内田青蔵（埼玉大学・教授）	内田青蔵（埼玉大学・教授）
10	日本の自然・風土と技術革新	新しく開発された技術が、どのように社会で受け入れられ、どのように展開していくのかは、国や地域ごとに違いがある。この違いを生む原因のひとつに、自然・風土との関係がある。日本の自然・風土と関わりの深い具体的な技術を例に、海外との比較も行いながら、日本の技術革新の特徴を学ぶ。 【キーワード】 外来技術、伝統技術、開発、普及、社会受容	後藤治（工学院大学・教授）	後藤治（工学院大学・教授）
11	技術革新と環境	技術革新の過程で日本もさまざまな環境汚染を経験したが，逆にこれを乗り越える努力は新たな技術革新を生み出す原動力ともなった。いくつかの事例を通じて，こうした技術革新と環境問題のかかわりについてのダイナミックな関連を紹介する。 【キーワード】 水俣病、国の規制、苛性ソーダ、水銀法、イオン交換膜法	亀山哲也(財)名古屋都市産業振興公社産学連携コーディネーター）	亀山哲也(財)名古屋都市産業振興公社産学連携コーディネーター）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	安全と技術革新	日本がフロントランナーとして安全技術の革新に取り組んできた事例として大型タービン技術と新幹線技術を取り上げ、安全と技術革新のダイナミックな相互作用について理解する。 【キーワード】 安全、事故、危険源、フロントランナー	三上喜貴（長岡技術科学大学・教授）	三上喜貴（長岡技術科学大学・教授）
13	技術革新史研究のさまざまな方法	技術革新史に関する基本的な研究アプローチの考え方を，技術の内在的変化，社会的コンテクストでの分析，経済学や経営学の見方など，多面的に紹介し，あわせて，技術史研究に必要な各種史料の位置づけや調査方法などについて紹介する。	竺　覚暁（金沢工業大学教授）	竺　覚暁（金沢工業大学教授）
14	技術革新史研究の成果の活用	技術革新史研究の成果を如何にして社会に還元するかについて論じる。欧米における技術史博物館のあり方，企業における技術史資料の保存や展示，初等教育から技術者教育，生涯教育における活用事例などを具体例を示しつつ紹介する。	清水　慶一（国立科学博物館産業技術史資料情報センター参事）	清水　慶一（国立科学博物館産業技術史資料情報センター参事）
15	（未定）	15回の講義のまとめとして各回のポイントを整理するとともに，考察すべき論点を提示して課題を与える。	清水　慶一（国立科学博物館産業技術史資料情報センター参事）	清水　慶一（国立科学博物館産業技術史資料情報センター参事）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1542001	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　デザイン工学　　（’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：福田　収一（スタンフォード大学コンサルティング教授）〕

講義概要

多様化、知の時代となり、工学設計も大きく変化してきている。その最大の変化は、モノから人への焦点の移動である。これまでは、いかに必要なモノを提供するかが主眼であったが、これからは、いかに満足を提供できるかが重要となってくる。そのため、人の欲求、個性、感情、感覚、相性、コミュニケーション、など、これまで、あまり工学設計では考慮されてこなかった人間の特性に関する考慮が重要となってきた。
本講義では、大きく変貌しつつある工学設計の動向を紹介し、それを実現する技術について述べる。

授業の目標

本講義では、大きく変貌する設計とその技法について基本を理解する。とくに、グローバル化する市場に対応するための設計、新しい産業創出のための設計についての理解を深める。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	なぜ人間は設計するのか？	創造は、人間の本質であり、それが文化を生んだ。デザインは人間の創造したい欲求に基づいている。人間の欲求とは？人間とは？について考察し、そこからデザインを考える。 【キーワード】 創造、文化、Homo Faber、人間の定義、 人間の欲求（Maslow）	福田　収一（スタンフォード大学コンサルティング教授）	福田　収一（スタンフォード大学コンサルティング教授）
2	21世紀は「こころ」の時代	21世紀は知の時代と言われるが、無味乾燥な知識の時代ではない。こころの時代であり、いかに感動を呼び、同じ価値感をもつ仲間を増やすかが問われる。自然物を加工した20世紀との相違について社会、デザインの視点で考える。 【キーワード】 価値観の多様性、こころの時代、感覚、感性	同上	同上
3	個性とデザイン	多様化の時代となり、個性の追求がデザインの課題となった。既存マーケット対象ではなく、同じ価値感を持つ仲間を増やし、新マーケットを創造することが、これから重要となる。そのためには、専門領域を超えた協調が必要となる。 【キーワード】 価値感、感性、マーケット創造、チームデザイン、性格	同上	同上
4	意図理解	設計においては、まず目標を明確にする必要がある。とくに多様化、チームの時代となり、設計意図の明確化が不可欠となってきた。スケッチ、アニメ、QFD、CADなどの方法を紹介する。 【キーワード】 設計意図、コミュニケーション、スケッチ、アニメーション、物語、QFD(品質機能展開)、CAD	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	CADとプロトタイピング	設計は、意図をかたちに変換する行為である。かたちを計算機で処理する方法　CAD，かたちが適切かを検討する手法　プロトタイピングについて解説する。さらに、プロトタイピングを基本とする製品開発方式PBLについて紹介する。 【キーワード】 CAD、形状モデル、ラピッドプロトタイピング、ペーパープロトタイピング、PBL	福田　収一（スタンフォード大学コンサルティング教授）	福田　収一（スタンフォード大学コンサルティング教授）
6	かたち、寸法の決定	ハードウエアの設計においては、かたちを決めても、外力により壊れないか、変形が大きすぎないかを検討する必要がある。その検討を行う代表的な方法である有限要素法の基本的考え方を説明する。 【キーワード】 詳細設計、有限要素法、バネの原理、強さ、変形	同上	同上
7	「うごき」とデザイン	機能はうごきとして動詞で表現される場合が多い。望むうごきを実現するための方法QFDなどを紹介する。さらに、うごきは身体知の視点からも重要である。また、このような物理的うごき以外の最近の非物理的うごきについても考える。 【キーワード】 機能、物理的うごき、QFD、動詞、身体知、非物理的動き、通信、イメージトレーニング、シミュレーション	同上	同上
8	触覚とデザイン	物理的世界は作用－反作用の世界である。最近、触覚に関する技術が発達し、仮想現実(VR)で利用され、加工、医療などで活用されている。触覚は身体知の視点からも重要である。 【キーワード】 作用－反作用、触覚、加工、医療、VR、認識、身体知	同上	同上
9	音とデザイン	これまでの設計は、製図、CADに代表されるように、論理的、左脳的であった。しかし、日本語は、擬音語が多い。また画像の代わりに音を利用する方法も出現している。音をいかにデザインに取り入れるかを考える。 【キーワード】 欧米と日本の相違、擬音語、右脳、VR、視覚と聴覚	同上	同上
10	未体験の体験化	技術の進歩が急速であり、未経験、未体験技術が多く出現してきている。これが社会に受け入れられるためには、技術の可視化が重要となる。またそのための技術は、技術伝承、新しい世界への導入などにも役立つ。 【キーワード】 未体験技術の体験化、技術伝承、新世界への導入、　ナノの世界、VR、気付き	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	コミュニケーションとデザイン	社会が広域化、多様化し、状況理解がきわめて重要となってきた。これまでは、「考えてから歩く」時代であったが、今後は「歩きながら考える」必要があり、コミュニケーションが重要となる。コミュニケーションは人と人の間だけではなく、人とモノ、人と環境の間にも存在する。 【キーワード】 人と人、人とモノ、人と環境のコミュニケーション、状況理解、協調活動の重要化	福田　収一（スタンフォード大学コンサルティング教授）	福田　収一（スタンフォード大学コンサルティング教授）
12	感情とデザイン	感情は知性を構成する重要な要素として最近注目されている。とくにコミュニケーションにおいて大きな役割を果たし、人間ーシステム系の設計が大きく変化する可能性がある。感情抽出、感情表現の研究を紹介し、さらに、愛着の問題も考える。 【キーワード】 Emotional Intelligence、コミュニケーション、感情理解、人間ーシステム系、感情抽出、感情表現、愛着	同上	同上
13	自己実現とデザイン	人間の最大の欲求は、自己実現にある。芸術は自己実現であり、工学と芸術の融合が進んでいる。自己実現は、挑戦への欲求でもある。ゲーム、登山、F1、スポーツの世界と設計について考える。ハンディキャップへの対応も自己実現への対応である。 【キーワード】 自己実現、芸術、ゲーム、登山、スポーツ、ハンディキャップ	同上	同上
14	ライフとデザイン	これまでの工学設計は、生活を便利にすることに主眼があった。しかし、今後は、豊かな人生が焦点となる。すなわち、物質から精神へと対象が大きく変化する。そのような時代を迎え、新しく期待される産業について考える。 【キーワード】 便利な生活、豊かな生活、Life Science, 思い出産業、物語産業、街づくり	同上	同上
15	将来のデザイン	「モノ」から「こころ」へと設計対象が大きく変化したので、これからは社会も含め、人工物、人間、社会、環境の視点から考えてゆく必要がある。これからの課題と将来のデザインの方向を考える。 【キーワード】 「こころ」の時代、21世紀のデザイン	同上	同上

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1541706	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 都市と防災 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：目黒　公郎（東京大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：村尾　修（筑波大学大学院准教授）〕

講義概要

都市災害とは日々進化しつづける都市を映した鏡のようなものである．本講義は，都市を災害から守るための取り組み方とその変遷について全15回にわたって講義する．包括的に都市防災の体系を修得するための総論（第1回から第5回），災害発生のメカニズムとその対策について学ぶ「都市災害の事例」（第6回から第10回），都市防災上の取り組みと事例について学ぶ「各論」（第11回から第15回）の3部から構成される．

授業の目標

都市と災害・防災に焦点をあてた全15回の講義を通じて，都市防災対策を進めるうえで最低限必要な用語を理解し，かつ各種の都市災害のメカニズムと対策の基本を学ぶ．また，この講義を通じて過去に発生した災害とそこから得られた教訓がその後の都市防災対策にどのように反映されてきたのかを把握できることを目標とする．

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
第1部　総論：包括的に体系を修得させる				
1	講義の概要紹介と我が国の都市防災	我が国は，その地球科学的な立地特性から，地震や火山，台風など，多種多様な災害の多発国であり，歴史的にも甚大な被害を受けてきた。しかし過去の災害経験に学び，技術開発と社会制度や体制の充実をはかることで，災害に強い環境を実現させ，世界の経済大国になった。本章では、「都市と防災」の講義内容の概要と第1章から第15章までの全体構成について紹介する。その上で、適切な防災対策を講じる上で欠くことのできない「災害イマジネーション」の意味とその重要性について説明する。 【キーワード】 災害のデパート，火山大国，地震列島，台風，津波，火災，紙と木の建築文化，防災技術，災害イマジネーション，ほか	目黒公郎（東京大学教授） 村尾　修（筑波大学大学院准教授）	目黒公郎（東京大学教授） 村尾　修（筑波大学大学院准教授）
2	都市・災害・都市防災	都市は市民が安心して生活できる環境整備のために造られてきた。この都市の歴史をふりかえり，安らぎの場としての都市の意味を考える。さらに，現在我々の生活環境を脅かす都市災害の特徴についてもふれ，都市防災の概要について習得する。 【キーワード】 都市，安らぎの場，都市防衛，災害，自然災害，産業災害，都市災害，都市防災ほか	目黒公郎（東京大学教授） 村尾　修（筑波大学大学院准教授）	目黒公郎（東京大学教授） 村尾　修（筑波大学大学院准教授）
3	都市災害の歴史と法制度の変遷	都市の進展や時代によって災害の様相がどのように変化してきたのだろうか。日本の首都として位置づけられてきた江戸・東京の近代化の歴史を振り返り，時代ごとの災害の特徴と災害後の都市の変化を理解する。また災害が発生することにより進展してきた法制度の変遷について学ぶ。 【キーワード】 江戸，東京，関東大震災，東京大空襲，伊勢湾台風，防災法制度，災害対策基本法，ほか	目黒公郎（東京大学教授） 村尾　修（筑波大学大学院准教授）	目黒公郎（東京大学教授） 村尾　修（筑波大学大学院准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	我が国の防災体制	効率的な防災対策や対応は，組織に応じた適切な体制や仕組みがあって初めて機能する。本章では，過去の災害経験を踏まえてわが国が整備した，中央政府から末端市町村にいたる現在のわが国の防災体制の基本について学ぶ。 【キーワード】 中央防災会議，災害対策基本法，内閣府（防災）組織，防災計画，ほか	目黒公郎（東京大学教授）	目黒公郎（東京大学教授）
5	防災対策の基本と災害対応の循環体系	発災ー緊急対応（Response）ー復旧・復興（Recovery/Reconstruction）ー被害抑止（Mitigation）ー事前準備（Preparedness）という災害対応の循環体系（Disaster Life Cycle）を説明し，防災対策の基本を習得する。 【キーワード】 災害対応の循環体系，緊急対応，復旧，復興，被害抑止，事前準備，リスクマネージメント，クライシスマネージメント，災害予知，早期警報，ほか	目黒公郎（東京大学教授） 村尾　修（筑波大学大学院准教授）	目黒公郎（東京大学教授） 村尾　修（筑波大学大学院准教授）
第2部　都市災害の事例：災害発生のメカニズムとその対策				
6	気象災害とその対策	古来から，人間の生活に影響を及ぼしてきた気象災害の事例を通して，その発生メカニズムと被害，そして各種災害への対応策について学ぶ． 【キーワード】 気象災害、風水害、洪水災害、高潮災害、土砂災害、風害、大雨、台風、外水・内水氾濫，斜面崩壊・地すべり・土石流，ほか	目黒公郎（東京大学教授）	目黒公郎（東京大学教授）
7	地震と地震災害の基本	地震災害はわが国の代表的な自然災害であるが，この原因である地震や津波の発生メカニズム，マグニチュードと震度の関係，地震動の特徴と被害の関係などの基本を理解する。またわが国における過去の地震被害事例の紹介と，現在の地震学的な環境についても紹介する。 【キーワード】 プレートテクトニクス，地震，津波，震源，震央，断層，前震・本震・余震，マグニチュード，震度，地震動，過去の地震災害事例，現在のわが国の地震学的な環境，ほか	目黒公郎（東京大学教授）	目黒公郎（東京大学教授）
8	進化する地震災害と被害相互の連鎖関係	大地震の発生によって引き起こされる各種の被害の形態と特徴、それらの連鎖的反応のメカニズムについて学ぶ。すなわち、断層破壊による影響が地震動となって伝播し、地盤災害や構造物被害をもたらし、これが人的被害や延焼火災、ライフライン障害や情報障害を引き起こし、最終的に大きな社会・経済的被害等を引き起こすこと、またこのメカニズムを踏まえた対応法に関しても学ぶ。 【キーワード】 進化する災害、地震災害の分類（地盤災害、津波災害、揺れによる構造物被害、延焼火災、ライフライン被害、情報災害ほか）、災害連鎖、人的被害の主因、ほか	目黒公郎（東京大学教授）	目黒公郎（東京大学教授）
9	火山災害とその対策	日本には数多くの火山が存在しており、これらの活動が各地に温泉をもたらし、観光名所をつくり出している．しかしその一方で、ひとたび噴火などの活発な活動を始めると、火山災害とも隣合わせの環境になる。本章では火山災害の発生メカニズムと被害の特徴を理解するとともに，火山災害を軽減する対策について学ぶ。 【キーワード】 温泉，観光，雲仙普賢岳，有珠山噴火，三宅島噴火，火砕流，降灰被害，火山ハザードマップ，ほか	目黒公郎（東京大学教授）	目黒公郎（東京大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	延焼火災とその対策	日本はその気候風土により，紙と木の建築文化を築いてきた。一方で建物が密集する市街地が多く，これらの要因により，都市大火は日本の都市災害の一つの特徴でもあった。本章では、わが国における都市大火の歴史，江戸時代の火災の文化，火災が発生するメカニズム，そして延焼火災に対する対策について学ぶ。 【キーワード】 延焼火災，都市大火，災害文化，白鬚東防災拠点，延焼遮断，防災都市構造，ほか	目黒公郎(東京大学教授) 村尾　修(筑波大学大学院准教授)	目黒公郎(東京大学教授) 村尾　修(筑波大学大学院准教授)
第3部　各論：都市防災上の取り組みと事例の紹介				
11	都市の被害抑止対策	災害対応の循環体系(Disaster Life Cycle)の中の被害抑止について，その意義と方策(①構造物による制御，②土地利用規制，③ハザード認知とハザードマップ，④構造物の設計指針，⑤財政補助，⑥保険)を理解する。 【キーワード】 被害抑止(Mitigation)，建築基準法，耐震対策，活断層上の建築規制，脆弱性評価，被害想定と地域危険度評価，地震・災害保険，ほか	目黒公郎(東京大学教授) 村尾　修(筑波大学大学院准教授)	目黒公郎(東京大学教授) 村尾　修(筑波大学大学院准教授)
12	被害軽減のための事前準備	災害対応の循環体系(Disaster Life Cycle)の中の事前準備の事例を通じて，その意義について理解する. 【キーワード】 防災教育，防災訓練，防災マニュアル，研修，自主防災組織，各地での取り組み，ほか	目黒公郎(東京大学教授) 村尾　修(筑波大学大学院准教授)	目黒公郎(東京大学教授) 村尾　修(筑波大学大学院准教授)
13	都市の復旧と復興	数百年という都市の歴史の中で災害・復興という過程は劇的な意味を持つ．ここでは災害対応の循環体系(Disaster Life Cycle)の中の復旧・復興の事例を通じて，その意義について理解する．1999年台湾集集地震，1923年関東大震災の復興事例をとりあげ，東京の事前復興，神戸などの復興事例と難しさについても学ぶ. 【キーワード】 避難所，仮設住宅，住宅再建，復興住宅，震災復興，帝都復興計画，事前復興計画，1999年台湾集集地震，1923年関東大地震、ほか	目黒公郎(東京大学教授) 村尾　修(筑波大学大学院准教授)	目黒公郎(東京大学教授) 村尾　修(筑波大学大学院准教授)
14	情報とコミュニケーション	災害時には適切な情報伝達の仕組みが重要である．また来るべき災害に備えるうえで各レベルでのコミュニケーションが欠かせない．ここでは情報伝達の仕組み，リスクコミュニケーションの必要性，情報技術を用いた各地での取り込みについて習得する. 【キーワード】 災害情報システム，リスクコミュニケーション，ハザードマップ，情報技術，GIS，GPS，啓発活動，行政無線，デジタル地上波，緊急地震速報，ほか	目黒公郎(東京大学教授) 村尾　修(筑波大学大学院准教授)	目黒公郎(東京大学教授) 村尾　修(筑波大学大学院准教授)
15	これからの都市防災	都市災害は都市の成長，社会の成長とともに進化する．21世紀を迎えた今，我々が考慮しておかなければいけない新たな災害とその対応について考える．また全15回にわたって行われた講義を総括する. 【キーワード】 地震動予測地図，テロ，静かな災害，地球温暖化，異常気象，海面上昇による影響，地球シミュレーター，ほか	目黒公郎(東京大学教授) 村尾　修(筑波大学大学院准教授)	目黒公郎(東京大学教授) 村尾　修(筑波大学大学院准教授)

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目コード	1545809	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 環境デザイン論 （’０９）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：仙田　満（放送大学教授）〕

講義概要

環境デザインの視点から建築、造園、都市設計にまたがる新たな分析手法、デザイン手法を解説し、その応用例を示しながら、展開例について論述する。

第１編　環境デザインの視点　　第１章～第２章　環境デザインの座標について
第２編　歴史から学ぶ環境デザイン　　第３章～第５章　歴史から学ぶ環境デザインの伝統について
第３編　行動から学ぶ環境デザイン　　第６章～第10章　人間行動の環境デザイン論について
第４編　地域から学ぶ環境デザイン　　第11章～第15章　地域からの文脈をとらえた現代的な課題であるｻｽﾃｨﾅﾌﾞﾙな環境ﾃﾞｻﾞｲﾝについて

授業の目標

従来の建築計画、建築空間デザインから環境デザイン学への展開を学術的な展開過程を示しながら、新たな都市、地域、建築の計画・設計の視点を獲得することを目標とする。分野横断的な考え方により、新たな分析能力と総合調整力を育てると同時に、高度技術化した複合的プロジェクトの価値を見出し、批評性を養い、21世紀のサスティナブルな環境建築と環境デザインへの興味を高め、基礎学力をつける。

履修上の留意点

都市デザイン論（’06）、人間活動と環境影響（’05）を学んでおくことが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	環境デザインとは何か	環境デザインとは何か、環境デザイン学とは何かということについて、歴史的に考察する。環境心理学、環境行動学、環境工学との関係性について、環境デザイン学の位置づけを示す。環境デザインの視点を明確に方向づける。 【キーワード】 環境の意匠、関係のデザイン、境界と関係、環境デザインの座標、地球環境デザイン、環境工学、環境デザイン学	仙田　満（放送大学教授）	仙田　満（放送大学教授）
2	環境デザインの方法	環境デザインの手法、あるいは方法について論ずる。環境デザインにおけるデザイン組織論、及び環境デザインのプロセス論として3段階論、その中で環境デザイナーあるいは環境建築家としての統括者としての役割について論じ、環境デザインの実践としての具体例を挙げながら、コンセプトから都市デザイン、建築、造園、ディスプレイデザインの流れと統合化して環境デザインを論じる。 【キーワード】 設計仮説、設計の3段階、か・かた・かたち、KJ法、ワークデザイン手法	仙田　満（放送大学教授）	仙田　満（放送大学教授）
3	伝統住居から学ぶ環境デザイン	日本の建築はアジアの中でも極めて特異な構造的進化を遂げてきた。それが環境に対する応答性である。床、天井、可動間仕切り等による空間構成体の二重性は極めて現代的である。もてなしと労働と子育ての空間としての伝統住居を学ぶ。 【キーワード】 竪穴と高床、土間と板敷、軸組と組積、床座とイス座、二重性、母屋と庇、間面記法、建具、天井、もてなしと労働、室礼、床の間	仙田　満（放送大学教授）	仙田　満（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	日本の都市環境デザインの伝統	江戸期における日本は庭園都市と言われて、園芸文化が興り、100万を超える人口をもちながら、清潔で循環型の社会を実現できたと言われる。そのサスティナブルなシステムと文化から現代我々が学ぶべき事象について探る。 【キーワード】 風水、陰陽五行法、家相、環水都市、循環都市、庭園都市、回遊都市、名所性、愛でる文化	仙田 満（放送大学教授）	仙田 満（放送大学教授）
5	環境をデザインした人たち	日本の近世以前の建築家、環境建築家的存在について論述し、日本の環境建築家としての存在の有様について概観する。近代デザイン、現代デザインの中で環境デザインという新しいデザイン領域が生まれてきた流れと、そこで活躍した人々を論じる。 【キーワード】 建築家的存在、重源、小堀遠州、夢想疎石、クリストファー・アレキザンダー、ローレンス・ハルプリン、ケンブリッジセブン	仙田 満（放送大学教授）	仙田 満（放送大学教授）
6	子どものあそび環境	子どものための環境デザイン領域について論ずる。子どもの成育環境、あそび環境とは何か、子どもの原風景の調査をもとに、子ども達の成育空間について6つの原空間を示す。またあそびを体験することによって、獲得する能力について考察し、子どものあそび環境における多様性の重要性について論ずる。 【キーワード】 子ども、遊び環境、原風景、6つの原空間	仙田 満（放送大学教授）	仙田 満（放送大学教授）
7	あそびやすい空間の構造ー遊環構造ー	遊具のデザインを通して子ども達の遊びやすい空間の構造があることを示す。その遊環構造を応用した遊具、建築、造園について例示し、その展開性を学ぶ。 【キーワード】 遊び空間、遊具における遊びの発展段階、遊環構造	仙田 満（放送大学教授）	仙田 満（放送大学教授）
8	子どもの成育環境の変化と環境デザイン	子どもの成育環境の時代的変化及び国際的比較調査によって、現代日本の子どもの成育環境が極めて貧しく、そのためさまざまな子どもの劣化現象が現れている危機的状況について論じ、その成育環境の悪化の循環を断ち切るための戦略について論じる。 【キーワード】 あそび環境の悪化の循環、意欲の低下、群れる場、多くの大人によって育まれる場、自然体験の場、コレクティブハウジング、プレーパーク、中低層中庭型住宅、あそび道の復活、長期自然体験、自然学校、学社融合型学校	仙田 満（放送大学教授）	仙田 満（放送大学教授）
9	歩行線形と街路・廊下のデザイン	歩きやすいということが、町のデザインにとっていかに重要か、歩行しやすい歩道の断面形状、平面形状について論じ、ストリートファニチャー、ベンチ、植栽の配置についても学ぶ。 【キーワード】 歩行線形、歩きやすさ、近道、廊下の形状、滞留、待ち合わせ、パフォーマンス	仙田 満（放送大学教授）	仙田 満（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	建築の個体距離と景観デザイン	建築には個体距離があり、その個体距離と緑とデザインが相互に関連して景観を形成している。この関係性を明らかにした上で、都市におけるより良い景観形成のための手法を提示する。 【キーワード】 個体距離、景観、十字式設計法、社会距離	仙田　満（放送大学教授）	仙田　満（放送大学教授）
11	内部空間と外部空間の中間	環境デザイン領域において重要な領域である、内部空間と外部空間の中間体としての廊空間について論じる。廊下の出現はどのようになされたのか、廊下とはどのような役割をもつ空間なのか、歴史的、地理的な廊空間の展開を踏まえて、環境デザインの重要なツールとしての廊空間を論じる。 【キーワード】 廊、廊空間、廊下、廊の公私性、庇、縁、簀子	仙田　満（放送大学教授）	仙田　満（放送大学教授） 高木　真人（京都工芸繊維大学助教）
12	都市における廊空間の展開	廊空間は主体的な空間に付属的な位置であったが、それが公共性をもつことによって、その主従関係が逆転していく。世界における廊空間の展開から、現代都市における廊空間のあり方について分析的に論述する。 【キーワード】 都市廊、雁木、こみせ、亭仔脚、騎楼、ポルチコ、ベランダウェイ、ショップハウス、スーク、パサージュ	仙田　満（放送大学教授）	仙田　満（放送大学教授）
13	満足度と集客性の環境デザイン	人間は満足という尺度によって選択し、行動する。満足を与えるためには空間的な質と量、デザイン、サービスが必要である。満足度という視点からデザイン、計画を検証する。 【キーワード】 満足度、満足を与える空間の量と質、科学館、集客効率、入館者数予測	仙田　満（放送大学教授）	仙田　満（放送大学教授）
14	環境調和と建築形態	自然環境の中で現代建築がその環境的調和を破壊しているときがある。自然環境の中でいかに建築景観はあらねばならないかを事例を挙げながら、分析、論述する。 【キーワード】 斜面緑地、屋根と環境、景観形成、周辺環境とのおさまり、水景、おちつきとにぎわい	仙田　満（放送大学教授）	仙田　満（放送大学教授）
15	地球環境建築と5つの目標	現代において最も重要な環境デザインの課題は、サスティナビリティー（持続可能性）である。それを実現するため、地球環境に配慮したビルドエンバイロンメントの構築が求められる。長寿命、自然共生、省エネルギー、省資源循環、継承という5つの課題について論述し、これからの環境デザインの目標とする。 【キーワード】 建築の長寿命、自然共生、省エネルギー、省資源循環、継承、風の道、ダブルスキン、気候同調建築	仙田　満（放送大学教授）	仙田　満（放送大学教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1550209	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 日本の思想 （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：清水　正之（聖学院大学教授）〕

講義概要

日本の思想は、大陸あるいは朝鮮半島を経由して、受容されたその時々の先進文明や文化を、自らのものとするという宿命をもって、作り上げられてきた。そこにはおのずから、異文化をとりこみ独自の形で、展開させるという事態をともなった。古来の習俗は、仏教・儒教の受容、あるいはまたキリスト教や蘭学という西洋の文化とも対峙しながら、近代化へとつづく。本授業は、この日本を場として展開してきた諸思想を、哲学・倫理思想史的な観点から総覧し、日本の思想とはなにか、その展開、特質を考えてみる。日本の思想はまた、時代のなかでの論争、あるいは時代をこえた過去の参照によっておりなされてもいる。その点もとくに学びの対象としたい。

授業の目標

日本の思想という領域で知っておくべき基本的な文献、あるいは思想の基本的な知識を得ると共に、それらを素材に、思想史的な観点から、日本の思想の歴史を見る眼を育てる。本授業では、この日本を場といして展開してきた諸思想を、哲学あるいは倫理の観点から広く学び、日本の思想とはなにか、その内容、特質を考えてみる。日本の思想はまた、時代のなかでの論争、あるいは時代をこえて過去の思想を参照することで作り上げられてきた。私たちの現在を考えるためにも、日本の思想の歴史から多くの手がかりをえられる。とくにその点を重視してみたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	神話の思想 －日本の地理的位置と自己意識の成立－	日本の思想の研究といわれるものは、明治期に始まったといえる。日本の思想を学問的に研究することの意味、なにを対象とするかを考える。また、中国史書等、他者のまなざしによって描かれた日本という状況から、自らの自己意識をもつにいたった経緯を古代の思想、とくにいわゆる神話の思想から考える。 【キーワード】 倭、古事記、日本書紀、古神道	清水　正之（聖学院大学教授）	清水　正之（聖学院大学教授）
2	上代歌謡と『万葉集』にみる「古代の思想」	古代の思想を、記紀の歌謡、また万葉集の歌を中心に考える。また神道の祭祀・祝詞等にもふれる。 【キーワード】 記紀歌謡・万葉集	同上	同上
3	仏教の受容とその展開 ―古代の仏教―	公式の仏教の伝来よりも前に、渡来人によって私的な信仰の対象として伝わっていた仏教。この異国の「神」をめぐって、日本の思想は新たな展開を示す。東アジアのなかでの日本仏教の特質、仏教以前の日本の宗教などとの関係も含め考察する。また奈良平城京の南都仏教、民間布教をした行基などの事績から古代仏教の展開と思想をみる。 【キーワード】 聖徳太子、排仏と崇仏、日本霊異記、南都仏教	同上	同上
4	平安仏教の思想 －最澄と空海－	平安仏教の基礎を築いた最澄と空海をとりあげ、奈良仏教との対立の意味、古代仏教のあらたな展開とその思想をみる。 【キーワード】 最澄、空海、密教	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	王朝の文化と思想 ―国風文化と感性の表現―	遣唐使の廃止は、日本の国風文化の発達をうながす。その時代を背景に和歌等を通じて美意識が形成される。それは後世にも影響を与えている。その背景と思想を考える。 【キーワード】 和歌と漢詩、仮名の発明、土佐日記、紫式部、源信	清水　正之（聖学院大学教授）	清水　正之（聖学院大学教授）
6	歴史物語と中世歴史書にみる思想 ―貴族の栄華と武士の登場―	武士の歴史への登場は、貴族に変わるあらたな時代の担い手の登場を意味した。そうした王朝から武士の時代の転換をしめす時代の変化をうかがうことの出来る作品から、思想史の論点をさぐる。 【キーワード】 大鏡、四鏡、愚管抄、神皇正統記	同上	同上
7	浄土教と鎌倉仏教の思想	平安人の心に徐又に浄土への希求がめばえる。浄土教の浸透とその中から芽生えるあらたな仏教思想の展開の意味を考える。浄土信仰をきっかけに展開した鎌倉仏教の思想を、その祖師たちに焦点をあててみていく。 【キーワード】 浄土信仰、念仏、法華信仰、禅、鎌倉仏教	同上	同上
8	室町文化と芸道論	室町時代の文化の背景にあるものは禅などの仏教的世界観の新たな受けとめ方と、その芸術等への影響であった。歌道・能楽・茶道の背景にある思想、室町文化の諸相を探る。 【キーワード】 無常観、幽玄、わび・さび、徒然草、能狂言	同上	同上
9	近世の学問と思想 ―切支丹の伝来・朱子学の興隆・武士の思想―	日本と西洋文化の出会いは、中国的な文化の圏内にあった日本文化への衝撃でもあった。キリシタンの伝来とその意味、また武士的なものの時代変化、近世学問の生成の背景などを考えてみる。 【キーワード】 デウスの信仰、切支丹、朱子学、林羅山、武士と近世	同上	同上
10	儒教の展開：朱子学と反朱子学	江戸幕府は儒教の一派朱子学をもって公式の学問とした。他方ではやくも17世紀には朱子学への批判的立場をとる思想が形成される。その後の儒教は多彩な展開をとげる。その思想的展開の概略を学び、その意味を考える。 【キーワード】 貝原益軒、伊藤仁斎、徂徠	同上	同上
11	国学の思想	国学という思想の形態は、本居宣長でまずは完成するが、その淵源と展開を追いながら、主要な学問であった儒教あるいは仏教との関係を考える。 【キーワード】 国学、本居宣長、賀茂真淵、平田篤胤	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	町人・農民の思想および蘭学・幕末の諸思想	支配階級である武士の思想に対して、身分制度の上では下位におかれた農民・町民からも独自の思想がうまれた。それらから代表的な思想を概観する。一方、蘭書の解禁によって、知的好奇心は西洋の文物にむかう。蘭学の知識は、日本の近代化に貢献した。 【キーワード】 心学、二宮尊徳、新井白石、蘭学、水戸学、佐久間象山	清水　正之（聖学院大学教授）	清水　正之（聖学院大学教授）
13	近代日本の思想（一）―明治啓蒙思想の思想的展開	開国は、西洋化という近代化を目標としたあらたな文化・思想の構築の開始であった。啓蒙主義をはじめ、西洋に範をとる思想を受容することで、思想史はあらたな展開をしていく。その過程を振りかえる。 【キーワード】 文明開化の思想、明六社、福沢諭吉、学問のすゝめ	同上	同上
14	近代日本の思想（二）―その深まりと公と私の相克―	明治及び明治以降の思想は、公と私の相克という視点からとらえることができる。キリスト教、社会主義、大正デモクラシーと、その中での個人の思想家を中心に学ぶ。 【キーワード】 キリスト教、社会主義、大正デモクラシー、国民道徳論	同上	同上
15	近代日本の哲学	とくにこの回では、近代日本の哲学的思索・思想を代表的思想家をとりあげて、ふりかえってみたい。また、これまで学んだ日本の思想史と哲学の関係を、考え、日本の思想を学ぶ意味をあらためてふりかえっておきたい。 【キーワード】 西田幾多郎、和辻哲郎、日本思想史研究の意味と方法	同上	同上

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目コード	1551906	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　実存と現象学の哲学　　（’０９）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：山口　一郎（東洋大学教授）　　〕

講義概要

人が生きることは、さまざまな問いとともに生きることです。具体的な生活上の諸問題、そのなかでも、家族や学校や職場などでの人間関係は、日々の生活の中で、もっとも重要な問題として、生きる喜びや苦しみの根源となっています。この講義では、人と人との応対の仕方に重点を置き、他の人といかに喜びや悲しみを共にしながら生きていくのか、その現実と理想を、多角的に考察してみたいと思います。現代哲学の中でも、「実存主義」や「現象学」という哲学は、この問題について考える上で、もっとも豊かな内容をわたしたちに与えてくれます。「他者の痛みに触れることができるのか」、「人と人との真の出会いは可能か」といった問題をめぐり、二つの哲学から多くを学びたいと思います。

授業の目標

日々かかえて悩み、解決をさぐっているいろいろな諸問題を、「自分の心の痛み」を解消せずには、一時間をも耐え切れない場合の痛切さで、徹底して考えつくそうとする哲学者達と共に、問題解決を求めて、その歩みを共にすること、これが、この授業の目的です。考えるとは、もともと全身全霊でおこなうものです。しかし、思い悩んでいるときは、えてして、周りがみえなくなるものです。同じように悩んでいる人にはまったく気づかず、一人、暗闇の穴の中でもがくものです。現象学とそれを基礎にした実存主義の哲学は、一人一人の暗闇のただなかで苦しんでいる、まさにそのことが、他の人と、生きる最も深い根源において結びついていることを指し示しています。明らかにすべきは、このことです。

履修上の留意点

この講義で解決が求められる諸問題は、人それぞれによって、関心の持ち方が異なっているのは当然のことです。いわゆる、人間関係の問題に何の悩みもない人がいたり、それは自分個人の問題として、学問として公に論ずるべきものではない、とする人もいるでしょう。しかし、「人と人との応対の仕方」を問うとは、人生相談への解答とは違います。公の学問研究をすすめる自然科学者であれ、精神科学者であれ、どんな職業についている人であれ、また、子供であれ、大人であれ、人が生きることの、多くの場合、隠れて働いている秩序というものがあります。生きることそのものの自覚としての哲学の探求は、いままでの自分の生き方に、気づかずに働いてた構造や規則性に気づける、自覚できるものにしていきます。履修上の留意点は、まさに、それに気づけるようになるには、それ相応の忍耐が必要とされるということです。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	出会いについて問う	この講義全体で取り上げられる問題は、簡単にいえば、「人と人との真の出会いは可能であるか」という問題です。いったい「真の出会い」とは何か、生存競争の現実において、出会いなど幻想ではないのか、いったい、現実とはなにか、感覚は確かといえるか、知覚、想起、時間、空間、身体、心、人格、他者、社会といったテーマのつながりの中で出会いの可能性が問われることになります。 【キーワード】 出会い、疑いえないこと（明証性）、「汝」と「それ」としての相手、実存と現象学の哲学の方法	山口一郎（東洋大学、文学部哲学科教授）	左に同じ。
2	「ただただ感じること」と「自分の感覚」、そして知覚	私の感じるあなたの手の温かみは、私が感じる温かさであって、人は、各自、触覚において、自分の皮膚感覚の内に閉ざされていて、他者が受け取る触感覚との間には、超えられない深淵が横たわり、他者との触れ合いとは、結局、自分の思い込みなのでしょうか。人との出会いの可能性を、感覚をどう理解するか、レヴィナスとブーバーの見解の違いを通して問いの形にしてみます。 【キーワード】 自分の感覚、他者の感覚、共感、確かとはどういうことか（明証性）、意識作用と意識内容の相関関係	山口一郎（東洋大学、文学部哲学科教授）	左に同じ。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
3	「過ぎ去りつつ残るもの」と「気づかれない予感」	「現実、確実、幻想、思い込み、真実と偽り」など、いったい確かということの絶対的な保証は、どこにあるのでしょう。これがはっきりしていなければ、つまり、お互いに確かと思える基準が見当たらなければ、結局、何を論じても、終着点は、みつからず、結論を導きだせません。その基準をはっきりさせ、瞬間に限られていた意識の明証性は、生き生きした現在の幅をもつことになります。 【キーワード】 感覚の変化と時の経過、気づかない以前が残ること（「過去把持」）、気づかずに予感する「未来予持」	山口一郎（東洋大学、文学部哲学科教授）	左に同じ。
4	「出会いのとき」から生まれる心の時間と時計の時間	いわゆる誰もが基準にしている「時計の時間（客観的な時間）」は、学ばれて共有されるようになった時間です。約束のときに使える時間ですが、自分の体験に即した時間ではありません。自分にとっての今、過ぎ去るとき、まだ来ていない未来のとき、これらの自分の時間は、どのように感じられ、意識されているのでしょうか。これが明らかになれば、他者と共有する時間の確かさも確信できます。 【キーワード】 客観的時間、体験の時間、いきいきした現在、瞬時という幻想、ゼノンのパラドクス（逆説）	山口一郎（東洋大学、文学部哲学科教授）	左に同じ。
5	身体をめぐる脳科学と現象学、因果と志向性	同じ場所に居合わせるときに身体を介して広がっている雰囲気や気分は、人と人との応対の状況をまえもって決めています。この場の雰囲気を感じる敏感さは人それぞれです。歩く、走る、座る、道具を手にする、などなど、身体の動きに即して広がっている身の回りの空間はどのように生きられ、意識されているのでしょうか。現象学の「志向性」による身体の解明と脳科学の「因果性」による身体の解明の違いを明らかにしたいと思います。 【キーワード】 触れる身体と触れられる身体、随意運動と不随意運動、脳科学と現象学の方法	山口一郎（東洋大学、文学部哲学科教授）	左に同じ。
6	心と身体の相互関係：過去の記憶と現在の知覚の関係から考える	物から見た身体と心から見た身体の関係を、「幻影肢」という事例ではっきりさせてみたいと思います。その際、手術して、もうないはずの腕が痛むという幻影肢と、その幻影肢の痛みが取れた症例を通して、身体は、物とも心とも単純に理解できないことが示されます。身体の痛みは、今感じる痛みであっても、過去の記憶と密接に繋がっていることが明らかにされます。そして過去の記憶というのは、視覚や聴覚など他の感覚野との繋がり（リンク）という相互作用において「痛んでいた」ということが明らかにされます。 【キーワード】 幻影肢、感覚野の間の相互作用の記憶、「記憶のリンク」と感覚入力の相互作用、感覚の空虚な形態と感覚印象との相互覚起	山口一郎（東洋大学、文学部哲学科教授）	左に同じ。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
7	現象学の方法と自然科学の方法	現代哲学は、単に自然科学の研究成果をまとめてる論理にかなったまとめ役なのではありません。現象学は、各自の意識に疑いきれない必然性において与えられている明らかさ「必当然的な明証性」を真理基準とし、さらに、どのようにしてそのような必当然的な与えられ方になっているのか、その「いかに」を問い、その「どのように」が、十分に明らかになる「十全的明証性」を目指します。この回では、このような現象学の探求方法が、脳科学の最近の研究成果をどのように受け止め、現象学の真理基準に照らし合わせて、どのように統合しているかを論述します。 【キーワード】 必当然的明証性、十全的明証性、、「記憶のリンク」と感覚入力の相互作用、感覚の空虚な形態と感覚印象との相互覚起	山口一郎（東洋大学、文学部哲学科教授）	左に同じ。
8	無意識の現象学への導入	意識された過去把持と無意識に働いている過去把持の疑いきれなさ、つまり、必当然的明証性の関係を十全的明証性にもたらそうとするのが、今回の重要な課題です。意識の明証性の中心に置かれる「自分が自分であること」の明白性は、実は、無意識に働く「身体の自己中心性」を前提にしてのみ、働きうるのです。しかし、無意識の身体性は、物の因果によって説明できない、生命の生きる動機、無意識の生命の動機によって、目的づけられて働いています。今回は、無意識の現象学に入る導入の役割を果たします。 【キーワード】 現実の世界と論理の世界、無意識的及び意識的動機づけ、無意識の過去把持の疑いのなさ、自我の同一性と身体の自己中心性	山口一郎（東洋大学、文学部哲学科教授）	左に同じ。
9	感情・本能・衝動：無意識の現象学の課題	現象学は、通常「意識の明証性」に即した、また、その領域だけに限られた哲学であるという誤解が広がっています。この誤解は、無意識に働く過去把持や、その過去把持の内容が、無意識の受動的綜合を通して成立していることを論証することを通して、完全に払拭されます。わたしたちにそのつどの現在に与えられている無数の感覚内容は、無意識の受動的綜合の規則性である連合や触発に即して働く本能や衝動や感情を通して、選択されつつ与えられています。ここに、無意識の現象学の領域を確定することができます。 【キーワード】 ミラー・ニューロン、感情、本能、衝動、連合と触発、無意識に働く受動的綜合	山口一郎（東洋大学、文学部哲学科教授）	左に同じ。
10	わたしの感覚とあなたの感覚の区別の源泉としての間身体性	この回の講義で、初めてに立てた出会いの可能性の問いに明確な解答が与えられます。自分と他の人の感覚という超えられない断絶が、各自の感覚が感覚になった源泉に遡って、自他の身体の区別が生成する以前の幼児と養育者との情動的コミュニケーションの場が、現象学の反省にもたらされることを通して、根底から克服されるからです。共有体験は、共有する時間と空間において共に生きられる人と人との根源的コミュニケーションが成立している領域なのです。しかし、この領域の獲得と、大人の出会いの実現そのものとは、同じではありません。 【キーワード】 母と子の間の情動的コミュニケーションと言語を介したコミュニケーション（能動的相互主観性）、原共感覚からの個別的感覚野の生成、自他の身体の区別の成立、感覚内容の形態化	山口一郎（東洋大学、文学部哲学科教授）	左に同じ。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	客観的時間と空間の成り立ち	前章の講義を通して、母子関係においてどのように乳幼児の身体感覚の世界が形成されてくるのかが明らかにされてきました。本章では、このことを基礎にして、乳幼児が、他の人々とともに、周りの世界の中を生きることで、どのようにして、共有する時間と空間を自覚できるようになるか、そのプロセスを考えます。そのさい、自分のしたことを覚えておける、再び思い起こす「再想起」の働きが働きだすのでなければなりません。同じものが同じものであるという事物の同一性が分かるようになり、言葉が使え、数を数えることができるようになることも、必要とされます。 【キーワード】 母と子の間の共有体験と情動交換、再想起（長期記憶）の働き、言語使用、事物の同一性、客観的時間と空間の意識の成立	山口一郎（東洋大学、文学部哲学科教授）	左に同じ。
12	幼児期の「生得的汝」との関係と成人の「我汝関係」	出会いは、まず、幼児期に幼児が養育者を中心にした世界に対して、「生まれながらに与えられている生得的汝」として直向きに関わるとき、生成します。次に出会いは、自我が形成され、知覚や言語使用という能動的能力が発展してのち、世界を利用する対象とみなす「われ-それ」関係が中心となる成人の生活の中で、「我汝関係」として実現します。この幼児期の出会いと成人の出会いとの共通性は、自我に囚われないその「無私性」にあります。フッサールの語る「我汝関係」は、受動的綜合を通して、その基礎が確定され、人格的態度において実現されます。 【キーワード】 受動的綜合としての対化、幼児期の生得的汝との出会い、自己中心性から解放された無私性、人格的態度と出会い	山口一郎（東洋大学、文学部哲学科教授）	左に同じ。
13	出会いと倫理	日常生活において社会のルールに即して生きている私たちにとって、常に社会倫理に対応した生活が求められています。その社会倫理の基礎は、人々の間の「思いやりや支え合い」を中心にした人間関係の基盤です。この倫理の基礎は、親子間の情動的コミュニケーションを通して形成されてきます。人生の節目にあって、自分の全体をかけた倫理的決断の際、人は、自分の感性と知性の全体をかけて、その問題に取り組むことが求められます。自分に気づいていることだけでなく、気づかれていない無意識の自分にまで遡ってはじめて、自分の全体が問いへの「答え」となるのです。 【キーワード】 幼児の対人関係、倫理の基礎の形成、間身体的感覚と感情、感情の自覚と言語化、人間の全体が問われる倫理的な問い	山口一郎（東洋大学、文学部哲学科教授）	左に同じ。
14	異文化に育った人々の出会いの可能性	第2次大戦後、実存哲学とマルクス主義の哲学とが互いに拮抗する現代哲学の二大思潮となった際、人間を具体的で歴史性を担う全体として捉える「実存の哲学」は、意識主体としての個我ではなく、全体的な人格として理解しようとしました。フッサール現象学が他者経験に哲学的根拠を与えようとして、受動的綜合としての「対化」を提示しました。この論点をめぐり論議された人格と、仏教倫理における無我の「無私性」とは、自己中心性から解放されているという共通性を持っていることが明らかにされます。 【キーワード】 異文化に育つこと、人格と実存、受動的志向性としの対化、人格的態度、「我-汝-関係」と仏教の無我（無私性）	山口一郎（東洋大学、文学部哲学科教授）	左に同じ。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
15	問いの道筋を振り返って（まとめ）	これまでの、感覚、時間、空間、知覚、心身関係、間身体性、相互主観性等々考察の歩みを振り返り、出会いの可能性の問いがどこまで明らかになったのか、確認してみます。そのさい、「出会いの問い」、「現象学と実存の哲学の真理の基準」、「時間の意識の解明」、「身体的実存の現象学」、「現象学の方法と自然科学の方法」、「自・他の身体の区別の成立と自他の感覚の区別の源泉」、「幼児期における「生得的汝」への関係と成人における我汝関係、という順番でまとめていきたいと思います。 【キーワード】 上記、参照。	山口一郎（東洋大学、文学部哲学科教授）	左に同じ。

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	専門科目	科目コード	1551914	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 功利主義と分析哲学 （’１０）＝ （R）

－経験論哲学入門－

〔主任講師（現職名）：一ノ瀬正樹（東京大学大学院教授）〕

【本学担当専任教員：佐藤　康邦（放送大学教授）】

講義概要

「功利主義と分析哲学」という二つの思潮を整理基軸として、近世から現代に至るまでの英語圏の主な哲学・思想の歴史的展開とその意義について、経験論、とりわけその「計量化への志向性」という側面に集約させる形で、分かりやすく論じる。理論哲学と実践哲学とがない交ぜになって発展してきた英語圏の哲学の躍動性を伝えたい。

授業の目標

経験論という発想の意義について、ベーコン、ホッブズ、ロック、ヒュームといった古典的な哲学者の考え方に沿って正確に理解する。そして、社会契約論の基本を押さえた上で、ベンサムやJ.S.ミルに発する功利主義の考え方の歴史的および現代的意義を正確に捉える。功利主義は、ときどき利己主義と誤解されているので、正確な理解は重要である。その後、経験論の延長線上にある、現代の分析哲学について、ウィトゲンシュタイン、クワイン、グッドマンなどに沿いながら跡づけ、最後に今日の「ベイズ主義」について紹介する。

履修上の留意点

特にないが、英語圏の哲学についてたくさんの書籍が刊行されているので、興味のあるものをどしどし読んでゆくことをお勧めする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	経験論の源流	経験概念の意義を確認し、ベーコンとホッブズの思想を解説する。 【キーワード】 イドラ、リヴァイアサン、帰納	一ノ瀬正樹	一ノ瀬正樹
2	ロック哲学の衝撃	ジョン・ロックの哲学および所有権論について、『人間知性論』の観念説を中心に解説する。人格概念との相関が軸となる。 【キーワード】 観念、人格、確率	一ノ瀬正樹	一ノ瀬正樹
3	ロックの所有権論	ジョン・ロックの政治哲学および所有権論について、『統治論』に即して解説する。 【キーワード】 自然法、労働、人格	一ノ瀬正樹	一ノ瀬正樹 今村健一郎 (関東学院大学講師)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	ジョージ・バークリの非物質論	ジョージ・バークリの非物質論について解説する。経験論の広がりを跡づけたい。 【キーワード】 エッセ・イズ・ペルキピ、抽象観念、モリヌークス問題	一ノ瀬正樹	一ノ瀬正樹
5	ヒュームの因果批判	デイヴィッド・ヒュームの因果批判について解説する。その上で、ヒュームの道徳論の特徴にも触れる。 【キーワード】 原因と結果、習慣、コンヴェンション	一ノ瀬正樹	一ノ瀬正樹
6	ベンサムの思想	ジェレミー・ベンサムの功利主義について解説する。そして、功利主義と義務論の対比を整理する。 【キーワード】 最大多数の最大幸福、義務論、死刑論	一ノ瀬正樹	一ノ瀬正樹 児玉聡 （東京大学講師）
7	ミルと功利主義	J.S.ミルの功利主義と自由論について、ベンサムとの対比のもと、解説する。 【キーワード】 質的功利主義、他者危害原則、自然主義的誤謬	一ノ瀬正樹	一ノ瀬正樹
8	論理実証主義と言語分析	20世紀はじめに起こった論理実証主義の運動、そしてそのイギリスでの展開者A.J.エアの議論を解説し、その上で言語行為論について触れる。 【キーワード】 検証主義、センス・データ、言語行為	一ノ瀬正樹	一ノ瀬正樹
9	論理学の展開	フレーゲ、ホワイトヘッド、ラッセルをめぐる、現代論理学の草創期の動向を跡づけ、集合論や意味論のパラドックスについて解説する。 【キーワード】 論理主義、ラッセルのパラドックス、嘘つきのパラドックス	一ノ瀬正樹	一ノ瀬正樹 長田怜 （筑波大学非常勤講師）
10	ウィトゲンシュタインの出現	ルトヴィヒ・ウィトゲンシュタインの前期哲学と後期哲学について解説する。 【キーワード】 語りえぬもの、言語ゲーム、規則のパラドックス	一ノ瀬正樹	一ノ瀬正樹 大谷弘 （武蔵野大学講師）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	現代の功利主義	シジウィック、ヘアなどの現代功利主義について解説し、その上でピーター・シンガーの動物解放論にも触れる。 【キーワード】 行為功利主義、規則功利主義、選好功利主義	一ノ瀬正樹	一ノ瀬正樹
12	帰納の謎	ネルソン・グッドマンの「グルーのパラドックス」を題材にして、帰納法にまつわる現代分析哲学の議論、およびポパーやクーンなどの現代科学哲学、そして生物学の哲学について解説する。 【キーワード】 帰納と演繹、反証主義、パラダイム論	一ノ瀬正樹	一ノ瀬正樹
13	自然主義の興隆	ウイラード・オーマン・クワインの「自然化された認識論」について解説する。そして、倫理学への自然主義の拡張の問題についても触れる。 【キーワード】 ホーリズム、行為の因果説、脳神経倫理	一ノ瀬正樹	一ノ瀬正樹
14	認識の不確実性	確率と曖昧性めぐる、現代分析哲学の議論を解説する。 【キーワード】 確率的因果、ソライティーズ・パラドックス、ラムジー・テスト	一ノ瀬正樹	一ノ瀬正樹
15	ベイズ主義の展開	ベイズ主義的な認識論と意思決定理論について解説する。これは、功利主義と分析哲学が見事に融合した典型的な議論展開である。 【キーワード】 実践的推論、義務論理、ベイズの定理、ニューカム問題	一ノ瀬正樹	一ノ瀬正樹 鈴木聡 （駒澤大学講師）

事務局記載欄	開講年度	２０１１年度	科目区分	専門科目	科目コード	1554115	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　現代哲学への挑戦　　（’１１）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：船木　亨（専修大学教授）　〕

【本学担当専任教員：佐藤　康邦（放送大学教授）　】

講義概要

現代の思想状況は、とくに時代を主導する哲学的思潮もなく、流動的な世界情勢や激変する社会環境や増殖する魔術的な知を背景にした多様な思考によって混沌としている。1950年代に、フランスの哲学者、M・メルロ＝ポンティが「われわれの非哲学」といういい方をしたが、それは19世紀にはじまった心理学的人間像、社会学的人間像の非哲学的探求のなかで、近代までの哲学的姿勢が見失われていく趨勢のことであった。「現代哲学への挑戦」とは、20世紀の哲学と非哲学の関係を総括し、現代の思想状況に参照しつつ、これからの哲学の確かな道筋を発見しようとする試みである。

授業の目標

現代哲学を学びたいと希望するひとは、現在の文化的社会的状況についての確かな認識と、それを超え、そのなかで生きる指針となるようなものを求めているのではないだろうか。そうした問題意識のもとに、現代思想の全体を一覧するような導入ではなく、現代を駆け抜けて未来へと向かう思考の方向性の提示ができればと思う。情報や一覧表や系統樹や結論や道徳を求めるよりも、「問と思索をどのように進めて問題の在りかを発見していくか」という哲学的な姿勢を学び、自分なりに「いま」を見つめるのに役立ててもらいたい。

履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	哲学の黄昏	哲学とは、元来は愛知という「情念」である。哲学を、思想史の流れのなかだけでなく、現代的状況から捉えなおす必要がある。哲学は、西欧近代において樹立された思考の伝統であり、近代的諸価値に基づく知識が消滅し、情報が中心になりつつある現代的状況とともに終焉しつつある。 【キーワード】 愛知・分かること考えること・哲学史・講壇哲学・歴史・情報・人間の終焉・価値の相対化	船木亨（専修大学教授）	船木亨（専修大学教授）
2	現代という概念	モダンという呼び名は、単なる一時代ではなく、直線状に未来の進歩へと向かう「ひとつの世界」の歴史における一時代だった。そうした歴史観が発明された時代であり、その前後に向かって歴史対象が拡張され、やがて普遍的登記簿として、森羅万象が登記される説明原理となった。 【キーワード】 モダン・ルネサンス・現代化・19世紀・普遍的登記簿・博物誌・歴史上の存在・歴史の歴史	船木亨（専修大学教授）	船木亨（専修大学教授）
3	歴史の終焉	ルネサンスにおいて発見されたのは、世界がひとつであるということと、人間が意識をもった人格であるということであった。それは定時法的時間や大衆を社会に結びつけるメディアの普及によるものだった。しかし歴史の方向性がなくなり、時間における現在が多元的になりつつある。 【キーワード】 ブルーノ・ロック・客観的時間・メディア・マクルーハン・帝国・植民地・大衆・反歴史と汎歴史	船木亨（専修大学教授）	船木亨（専修大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	ポストモダニズム	ポストモダニズムは、建築にはじまり、文学芸術の分野にもそれと似た傾向が見いだされて一般化された。そこにある共通の思想に関し、ポストモダン思想としてリオタールやデリダの思想がアメリカでとりざたされたが、そこで生まれたものは、ローティによると哲学ではなく文化批評であった。 【キーワード】 モダニズム・スタイル・ポストモダン思想リオタール・・ボードリヤール・ローティ・デリダ・脱構築	船木亨（専修大学教授）	船木亨（専修大学教授）
5	哲学と政治のキアスム	ポストモダン思想の源泉であるリオタールとデリダの哲学は、権力を前提した近代哲学の伝統にあって、ポストモダン状況を、近代を推進する前衛運動から区別できなかった。ポストモダン状況では、新しい政治哲学が必要であり、それを究明しようとしていたのはフーコーであった。 【キーワード】 前衛・サブカルチャー・フーコー学・脱構築・マンフォード・ハッチオン・近代国家・デジタルメディア	船木亨（専修大学教授）	船木亨（専修大学教授）
6	現代哲学の条件	ダーウィンの進化論によって、人間精神も自然科学によって説明されるようになり、哲学に深刻な問題が生じた。歴史のあらたな捉えなおしと、生命と人間と機械の関わりを論じる必要が生じたが、現代哲学はそれに成功しなかった。機械一元論的哲学が必要である。 【キーワード】 進化論・文明・スペンサー・カンギレム・人間機械論と機械一元論・サイボーグ・エレホン・ホッブズ	船木亨（専修大学教授）	船木亨（専修大学教授）
7	現代哲学者たち	19世紀後半にはじまる現代哲学は、生命と精神の関係の難しさをふまえて、哲学を再興しようとする試みであった。進化論直後に現れた、生命に優位性を置く「生の哲学」に対し、その後のシェーラーの「哲学的人間学」は、問題はそのようには解決できないことを指摘した。 【キーワード】 現代哲学・普遍性・西田・生の哲学・ディルタイ・ギュイヨー・人類学・シェーラー・哲学的人間学	船木亨（専修大学教授）	船木亨（専修大学教授）
8	実存主義	実存主義は、サルトルの「実存は本質に先立つ」という定義によって与えられたが、ハイデガーは存在こそ先立つとして否定した。両者とも、生から出発するよりも、未来や死から出発することによって、個々の人間の、科学的定義とは一線を画すあり方を示そうとした。 【キーワード】 サルトル・実存と本質・存在論・現存在・脱自・ハイデガー・メルロ＝ポンティ・死・神・ヒューマニズム	船木亨（専修大学教授）	船木亨（専修大学教授）
9	フッサール現象学とベルクソニスム	意識から出発した二人の哲学者、フッサールとベルクソンは、前者が合理性の故郷を意識の経験のもとの生活世界に求めたのに対し、後者は生の哲学へと舵を切った。ベルクソンは、時間を主題にして、デカルト的世界像をひっくりかえし、フランス現代哲学の源流となった。 【キーワード】 現象学・エポケー・純粋持続・イマージュ・創造的進化・ホワイトヘッド・メルロ＝ポンティ・記憶	船木亨（専修大学教授）	船木亨（専修大学教授）
10	5つの非哲学	哲学とはいえないが、実証科学でもなかった思想を「非哲学」と呼ぶことにするが、それが19世紀後半にいくつも生まれてきた。そのなかで、現代思想に大きな影響を与えた5つの非哲学、進化論、マルクス主義、精神分析、ニーチェ思想、構造主義について、概要とその意義を述べる。 【キーワード】 マルクス・労働・無意識・ライヒ・フロイト・ニーチェ・ソシュール・差異の体系・レヴィ＝ストロース	船木亨（専修大学教授）	船木亨（専修大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	市民たちの美的欲望 ——江戸時代中期①	18世紀には、長崎を通じてもたらされた明清の文化が新たな刺激となって、絵画を刷新した。南画では池大雅、与謝蕪村、その周囲では伊藤若冲、曾我蕭白、円山応挙、長澤蘆雪など、町人出身の画家たちが創造力を競い合った京都画壇を中心に論じる。 【キーワード】 明清文化の流入、18世紀京都画壇の革新、洋風技法の広がり	佐藤康宏（東京大学教授）	佐藤康宏（東京大学教授）
13	早過ぎた近代 ——江戸時代中期②・後期①	この時期の江戸では、多色刷り木版画を媒体に浮世絵の表現の幅が広がった。春信、清長、歌麿、写楽、北斎、国芳、広重らの画業を一覧する。そこに導入された洋風技法とともに洋風画・銅版画に触れ、浦上玉堂など後期の関西の南画にまで言及する。 【キーワード】 錦絵の展開、武士と町人の自己表現、19世紀江戸画壇	同上	同上
14	美術の明治維新 ——江戸時代後期②・明治期	渡辺崋山らの絵画、文化財調査や画史画伝の編纂といった明治期への遺産ともなった江戸後期のできごとを検討する。江戸時代の枠組をもとに作られ、西洋風の表現を加えた軋みから生まれる明治美術のおもしろさについて考察する。 【キーワード】 文化の大衆化と浮世絵・工芸、江戸の残照、国家のための美術	同上	同上
15	現代の視覚文化 ——大正・昭和期（戦中）	ヨーロッパの芸術運動がただちに伝わるようになった時代に、それらに同調し、あるいは反発して、注目すべき造形が作られた。代表的な作例を論じ、版画・写真・ポスターといった大衆向けのメディアの発達、そして十五年戦争と美術との関わりについて説く。 【キーワード】 大正アヴァンギャルド、複製技術の時代、自由の希求とその敗北	同上	同上

事務局記載欄	開講年度	平成20年度（第2学期）	科目区分	専門科目	科目コード	1551000	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 日本美術史 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：佐藤康宏（東京大学教授）〕

講義概要

人間の作る物の形、イメージのありさまは、時代とともに変わり、地域によっても違う。どう変わり、なぜ違うのか、と美術史学は問いかける。日本の美術史についてその問題を考えてみよう。原始から現代まで、縄文土器から戦争画まで、日本列島で作られたさまざまな造形と関連する歴史事象とをたどる。主要な作例について映像を活用しながらその特徴を明らかにし、どのような力の働く場で造形が生きていたのかを考察する。

授業の目標

過去の日本美術というのは、いまの私たちにとってはどうかすると西洋美術よりもなじみのない、しかし新鮮な魅力に富んだ対象だといえる。その魅力を発見し、ただ美しさを讃嘆するだけでなく、それが抱える問題を冷静に理解してもらうことを目標にする。造形について、形や色に着目するところから始めて歴史的に考えていく――そういうおもしろさを知ってもらいたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	形の生命 ――縄文時代・弥生時代	縄文土器と土偶の美に触れ、日本列島で独自に発生し展開したその造形の特徴を特に中期の作例について瞥見する。次に弥生土器と銅鐸を例に、農耕の開始が社会のあり方を変え、それに伴い別の種類の造形感覚が普及した様子をたどる。 【キーワード】 縄文土器と土偶、弥生土器と銅鐸	佐藤康宏（東京大学教授）	佐藤康宏（東京大学教授）
2	権力の形象 ――古墳時代・飛鳥時代	社会の中で身分格差が拡大し、大きな権力を持つ者に奉仕する造形が発達していったありさまを、古墳とその副葬品に見る。6世紀になって仏教の受容が日本の視覚文化を大きく変えたことを、法隆寺を中心とする仏教美術をもとに考える。 【キーワード】 古墳の造形、視覚文化としての仏教、高松塚古墳壁画	同上	同上
3	シルクロードの終点にて ――奈良時代	遣唐使や鑑真の来日によって当時の国際様式というべき唐の美術の刺激が日本に伝わり、仏像や絵画の様式を変えていった軌跡を、3つの時期に分けて振り返る。特に正倉院の「鳥毛立女屏風」について、中国の美人画の歴史と関連させて論じる。 【キーワード】 薬師寺と興福寺、東大寺と正倉院、唐招提寺	同上	同上
4	異形の神の立つ場所 ――平安時代前期	平安時代を3期に分け、この回は8世紀末から9世紀を扱う。まず、奈良時代からの伝統を引いて作られた一木造の仏像の彫刻的な魅力と信仰上の意義を神護寺の「薬師如来立像」を中心に論じ、次に空海らがもたらした真言密教美術の特色について考える。 【キーワード】 神護寺の「薬師如来立像」、真言密教美術の開花、神像	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	浄土の顕現 ——平安時代中期	10世紀と11世紀を対象にする。日本が輸入し蓄積してきた唐の文化を編集する作業を通じて、いわゆる国風文化は形成された。「平等院鳳凰堂」というモニュメントを中心に、その前後の柔和な表現に傾いていった造形の様子を観察し、やまと絵の発生を論じる。 【キーワード】 平明な意匠、平等院鳳凰堂、唐絵とやまと絵	佐藤康宏（東京大学教授）	佐藤康宏（東京大学教授）
6	装飾への耽溺と離反 ——平安時代後期①	古代から中世への転換期として興味深い性格を持つ12世紀を話題にする。繊細優美な仏像、仏画、料紙装飾、装飾経、工芸品を概観するとともに、運慶の初期作品「大日如来坐像」（円成寺）などに見られるそれらと異質な傾向を指摘する。 【キーワード】 院政期の優美と機知、風流、新様式の胎動	同上	同上
7	絵巻は語る ——平安時代後期②	院政期は最もすぐれた絵巻が作られた時代でもある。「源氏物語絵巻」（五島美術館・徳川美術館）、「信貴山縁起」（朝護孫子寺）、「伴大納言絵巻」（出光美術館）、「病草紙」（京都国立博物館ほか）などの表現の特色を分析する。 【キーワード】 源氏物語絵巻、信貴山縁起、後白河法皇をめぐる絵巻群	同上	同上
8	新しい現実感 ——鎌倉時代	武家政権となっても、文化の主たる担い手は貴族や社寺だった。だが、貴族たちの美意識も変質する。世俗画が前代とは異質な造形感覚を宿し、宗教画は聖域を実際の場所らしく描写し始める。「一遍聖絵」（清浄光寺）などの新しい種類の現実感を考察する。 【キーワード】 仏教美術の復古と新様、やまと絵と絵巻の展開、現実の人間と土地の姿	同上	同上
9	描かれた都市 ——室町時代	宋元画の刺激が漢画を発達させるとともに大和絵のあり方も変えていった。禅宗寺院や将軍邸の建築とその室内を飾った絵画・工芸品の様相を概観し、そこから登場した都市を主題とする絵画、雪舟「天橋立図」（京都国立博物館）や洛中洛外図へと議論を進める。 【キーワード】 墨色の空間、装飾の領分、都を描く	同上	同上
10	かぶきのデザイン ——桃山時代	戦国武将の過剰なエネルギーは、城郭と障屏画、変わり兜や奇抜な衣装に発現した。侘び茶の空間もそれと拮抗すべく設えられ、異様な風体は陶磁器の姿にも及ぶ。イエズス会の布教活動や南蛮貿易に伴って作られた絵画や南蛮ファッションも話題にする。 【キーワード】 金色／黒色、〈傾く〉造形、南蛮ファッション	同上	同上
11	転形期の精神 ——江戸時代前期	江戸時代を3期に分け、この回は17世紀から18世紀初めまでを扱う。桃山の遺風と、秩序を重んじる新体制の嗜好とが衝突するところに生まれた魅力的な造形のうち、特に狩野山雪、岩佐又兵衛、俵屋宗達らの絵画に焦点を合わせる。 【キーワード】 桃山から江戸へ、浮世絵の誕生、町衆の意匠、造仏聖	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	市民たちの美的欲望 ――江戸時代中期①	18世紀には、長崎を通じてもたらされた明清の文化が新たな刺激となって、絵画を刷新した。南画では池大雅、与謝蕪村、その周囲では伊藤若冲、曾我蕭白、円山応挙、長澤蘆雪など、町人出身の画家たちが創造力を競い合った京都画壇を中心に論じる。 【キーワード】 明清文化の流入、18世紀京都画壇の革新、洋風技法の広がり	佐藤康宏（東京大学教授）	佐藤康宏（東京大学教授）
13	早過ぎた近代 ――江戸時代中期②・後期①	この時期の江戸では、多色刷り木版画を媒体に浮世絵の表現の幅が広がった。春信、清長、歌麿、写楽、北斎、国芳、広重らの画業を一覧する。そこに導入された洋風技法とともに洋風画・銅版画に触れ、浦上玉堂など後期の関西の南画にまで言及する。 【キーワード】 錦絵の展開、武士と町人の自己表現、19世紀江戸画壇	同上	同上
14	美術の明治維新 ――江戸時代後期②・明治期	渡辺崋山らの絵画、文化財調査や画史画伝の編纂といった明治期への遺産ともなった江戸後期のできごとを検討する。江戸時代の枠組をもとに作られ、西洋風の表現を加えた軋みから生まれる明治美術のおもしろさについて考察する。 【キーワード】 文化の大衆化と浮世絵・工芸、江戸の残照、国家のための美術	同上	同上
15	現代の視覚文化 ――大正・昭和期（戦中）	ヨーロッパの芸術運動がただちに伝わるようになった時代に、それらに同調し、あるいは反発して、注目すべき造形が作られた。代表的な作例を論じ、版画・写真・ポスターといった大衆向けのメディアの発達、そして十五年戦争と美術との関わりについて説く。 【キーワード】 大正アヴァンギャルド、複製技術の時代、自由の希求とその敗北	同上	同上

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1551108	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　現代日本社会における音楽　（’０８）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：月溪　恒子　（元大阪芸術大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：北川　純子　（大阪教育大学准教授）　〕
〔主任講師（現職名）：小塩　さとみ（宮城教育大学准教授）　〕

講義概要

こんにちの日本で実践されている多彩な音楽の姿を、全15回にわたって講義する。伝承と創造、声と楽器、地域や教育や産業、音楽を提供する側と実践する側といった複眼的な視座のもとに、新しく創作された作品を含むさまざまな伝統音楽、オーケストラや吹奏楽、各種のポピュラー音楽、世界の多様な音楽などの日本での在りかたを、史的経緯もふまえて解説する。講義は曲例を紹介しながら進め、音楽を考える手がかりとなる理論的な問題にも随所で触れる。

授業の目標

全15回の授業を通して、こんにちの日本の音楽状況を把握するさいに必要な用語や概念を理解できるようになることを目標とする。また、この講義を通じて、明治期以降さまざまな要因による変化を経験してきた日本社会において、人びとがどのように「音楽してきた」か・「音楽している」かについて、自分なりの思考ができるようになることを目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	「現代日本社会」への道程	全体への導入として、明治期から現代に至る日本社会での音楽状況の変化を歴史的に概観する。音楽状況に大きな転換をもたらした①明治維新と②第二次世界大戦終結を時代区分の主軸に捉え、②以後の「現代日本社会」における音楽実践の諸相を理解するための指針を示す。	月溪恒子（元大阪芸術大学教授）	月溪恒子（元大阪芸術大学教授）
2	学校教育のなかの音楽	明治期以降の学校における音楽教育の成果を、学校音楽文化の創出とその社会への影響力という観点から解説する。西洋音楽受容と伝統的な音楽性との相克を、これまでの教材と指導法のなかに探り、その融合をめざした新たな学校音楽文化の可能性を示す。	加藤富美子（東京学芸大学教授）	加藤富美子（東京学芸大学教授）
3	吹奏楽の広がり	日本において、西洋音楽の移入を先導する役割を担ってきた吹奏楽について、明治期からこんにちに至る史的経緯を概観する。吹奏楽を支えてきた人びと、レパートリー、演奏の場などの諸側面を、音楽的観点と社会的観点の両方から整理し、21世紀の新しい動向について解説する。	北川純子（大阪教育大学准教授）	北川純子（大阪教育大学准教授）
4	現代社会における伝統音楽	明治期以降の日本の社会における伝統音楽の状況を紹介する。古典曲の継承と、西洋音楽からの刺激を受けて生まれた新曲創作の動きの両面をとりあげ、現代社会での「伝統」のあり方を考える。	小塩さとみ（宮城教育大学准教授）	小塩さとみ（宮城教育大学准教授）
5	オーケストラとその音楽	西洋の産物であるオーケストラの日本でのあり方について、組織としての管弦楽団と、奏でられる管弦楽作品の両面から、史的概観をおこなう。レパートリーの傾向や、日本の作曲家による管弦楽作品の特徴についても考える。	北川純子（大阪教育大学准教授）	北川純子（大阪教育大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
6	楽器にみる音楽観	明治期以降の日本社会は、楽器を近代化の象徴と考えてきた。その結果、日本で作られた楽器には、日本人の創意工夫とともに、西洋の楽器を同化しようとする人々の営為が明確な形で現れている。明治から昭和前期における楽器開発の試行と、戦後、その反動として起こった和楽器における「伝統への回帰」などについて考える。	月溪恒子（元大阪芸術大学教授）	月溪恒子（元大阪芸術大学教授）
7	音楽産業と現代日本社会における音楽	音楽産業を研究する意味と音楽産業の全体像を概説したうえで、楽器産業を例にとり、日本独特の産業発展の経緯と音楽産業と現代日本の音楽文化とのかかわりについて扱う。	田中健次（茨城大学教授）	田中健次（茨城大学教授）
8	音楽を伝える	音楽の覚え方、教え方、楽譜や教習制度など、音楽を伝え広めるための方法を扱う。古くから行われている伝承方法、明治期以後に西洋音楽の影響を受けて生まれた変化、現代の日本社会における新たな動向について解説する。	月溪恒子（元大阪芸術大学教授） 小塩さとみ（宮城教育大学准教授）	月溪恒子（元大阪芸術大学教授） 小塩さとみ（宮城教育大学准教授）
9	音楽とジェンダー	音楽にまつわる視覚的要素、歌謡曲の歌詞、「男性が女歌を歌い、女性が男歌を歌う」ジェンダー交差歌唱、楽器と演奏者といった問題をとりあげ、音楽とジェンダーについて解説する。「ジェンダー」が就労や生活だけでなく、音楽にも深く浸み込んでいることの理解をめざす。	北川純子（大阪教育大学准教授）	北川純子（大阪教育大学准教授）
10	地域がつくる芸能	現代日本社会でも、地域がつくる芸能は大きな役割を果たしている。大阪の伝統芸能・民俗芸能や現代的な祭り文化を事例として、風土を含めた地域性が音楽に対して与える影響や、地域を越えて広がる音楽といった観点から考察する。また、行政や研究者の役割にも触れる。	月溪恒子（元大阪芸術大学教授）	月溪恒子（元大阪芸術大学教授）
11	声から考える日本の音楽	日本の音楽における声の多様性と、ジャンルを越えた声の共通点を紹介する。また、西洋音楽が日本の声に与えた影響など、時代による声の音楽の変化についても考える。	小塩さとみ（宮城教育大学准教授）	小塩さとみ（宮城教育大学准教授）
12	ポピュラー音楽の諸相	「ポピュラー音楽」概念を検討するとともに、日本のポピュラー音楽の史的概観をおこなう。海外からの影響とその消化、音楽的諸要素の変化、メディアなど、複数の側面から解説する。	北川純子（大阪教育大学准教授）	北川純子（大阪教育大学准教授）
13	映像を聴く・音を観る―日本映画と音楽―	サイレント期からの日本映画と音楽とのかかわりについて概観する。映像と音楽をめぐる理論、映画主題歌と映像とのかかわり、芸術音楽作曲家と映画、アニメーション映画の音楽などを素材に、「観る」ものである映画が「聴かれて」もきていることについて解説する。	北川純子（大阪教育大学准教授）	北川純子（大阪教育大学准教授）
14	日本で響く世界の音楽	「和洋」対概念では捉えきれない、こんにちの日本での多彩な音楽実践について紹介するとともに、世界のさまざまな地域の音楽が日本で鳴り響くようになった背景についても考える。	小塩さとみ（宮城教育大学准教授）	小塩さとみ（宮城教育大学准教授）
15	音楽からみる現代日本社会	明治期以降の日本の音楽状況の変化を概観し、音楽から現代日本社会を見たときに浮かび上がる諸相について、整理・解説する。	北川純子（大阪教育大学准教授）	北川純子（大阪教育大学准教授）

事務局記載欄	開講年度	２０１１年度	科目区分	専門科目	科目コード	1554018	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　舞台芸術への招待　　（’１１）＝　（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：青山昌文（放送大学教授）　　〕

講義概要

舞台芸術には、オペラ・バレエ・ダンス・ミュージカル・演劇などがありますが、この講義では、近年日本において大いに成熟してきたオペラ・バレエに一つの力点を置いて、その魅力の根源を探り、更にオペラ・バレエと深い関わりをもつダンス・ミュージカルについても考察します。また、演劇についても、日本や諸外国の古典演劇や現代演劇について、その魅力の根源を探ります。講義では、各々の分野で活躍している演出家・指揮者・ダンサー・役者等の方々に詳しいインタヴューも行い、芸術創造の奥義の一端を具体的に明らかにして行きます。

授業の目標

舞台芸術は、演出家・指揮者・歌手・ダンサー・俳優・衣装係・照明係等の多数の芸術実践者が集団で作り上げる芸術であり、極めて社会的な芸術です。また、その時その場に観客が居合わせることも根本的な条件であって、芸術実践者と観客の双方で作り上げて行くという面をもっています。このような、総合的かつ一期一会的な舞台芸術の醍醐味を、単に楽しむだけのレベルではなく、深くその魅力の根源に迫って行くことが、この講義のめざしていることです。

履修上の留意点

演劇芸術と音楽芸術は、言うまでもなく、極めて重要な芸術ですが、様々な事情により、以前に比べて開講科目数が減少しています。この「舞台芸術への招待（’11）」は、演劇芸術と音楽芸術の双方に亘る講義ですので、これらの芸術に関心をお持ちの方は、是非履修してください。また、共通科目の「芸術史と芸術理論（’10）」と、総合科目の「社会の中の芸術（’10）」は、芸術そのものについての様々な解明を行っていますから、これらの科目も、是非お採りになってみて下さい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	舞台芸術の魅力--演劇・狂言・バレエを例にして--	生身の人間が歌い、演じ、踊り、それを同じ場で見聞きする観客がいる舞台芸術の独特の魅力を、演劇、狂言、バレエを例にとって明らかにします。演出家・役者・ダンサーと観客の双方が作り上げる現場性の芸術哲学的意味の解明が考察のめざすところです。資料映像多数使用。演出家・狂言役者・バレエダンサーへのインタヴュー有り。 【キーワード】 舞台、場、現場性、上演芸術、演劇、狂言、バレエ	青山昌文（放送大学教授）	青山昌文（放送大学教授）
2	オペラの古典--社会との深い関わり--	フィレンツェのカメラータグループが生み出したオペラという芸術が、いかにその時々の社会と深く結びついていたか、ということをフランスの歴史的オペラハウスの現場に立って、具体的に明らかにします。資料映像多数使用。オペラハウスでのロケ有り。オペラ研究者へのインタヴュー有り。 【キーワード】 ガルニエ、ヴェルサイユ、劇場、社交、政治	青山昌文（放送大学教授）	青山昌文（放送大学教授）
3	オペラの現在--現代における古典芸術の意味--	古典的なオペラ作品を、現代において上演することの、現代的意味を、演出の観点を主にして、芸術論的かつ社会論的に考察します。芸術と経済の関係にも考察は及びます。資料映像多数使用。オペラハウスでのロケ有り。オペラ指揮者へのインタヴュー有り。 【キーワード】 ヴァーグナー、トーキョーリング、バスティーユ、現代、演出、社会	青山昌文（放送大学教授）	青山昌文（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	バレエの古典	バレエとはいったいどのような芸術なのかを、具体的な作品に沿って考察します。また、バレエはヨーロッパで生まれ育った芸術ですが、そのバレエがどのような社会から生まれたのか、他の芸術（たとえばオペラ）との関係はどうだったのか、などについて歴史的に考察します。資料映像多数使用。 【キーワード】 舞踊、舞台芸術、ヨーロッパ社会、ロマンティック・バレエ、クラシック・バレエ	鈴木晶（法政大学教授）	鈴木晶（法政大学教授）
5	バレエの現在	19世紀に生まれたいわゆる近代バレエは20世紀に大きく変貌を遂げましたが、具体的にどのように進化・変貌したのかを振り返り、21世紀初頭における現状について世界的な視野で考察します。資料映像多数使用。 【キーワード】 20世紀芸術、現代芸術、現代バレエ	鈴木晶（法政大学教授）	鈴木晶（法政大学教授）
6	ダンスの現在	「ダンス」という言葉が名指す範囲は現在とても広くなっています。20世紀に身体芸術の可能性を探る試みが各国で行われたからです。それはまるで大航海時代の冒険家たちが未知の領土を求めて七つの海へ散って行ったようでした。この授業では、多くの映像資料と舞踊家へのインタビューを交えて、現在の多様なダンスの在り方を紹介します。 【キーワード】 現代芸術、前衛芸術、身体芸術、コンテンポラリーダンス、舞踏	尼ヶ崎彬（学習院女子大学教授）	尼ヶ崎彬（学習院女子大学教授）
7	ミュージカル--その時代性と社会性--	アンドリュー・ロイド・ウェバーの諸作品や『ミス・サイゴン』などを例にとって、ミュージカルが、如何に時代と社会の本質を、現代的かつ大衆文化的に表現するものであるか、ということを明らかにします。資料映像多数使用。ミュージカルシアターでのロケ有り。ミュージカル演出家等へのインタヴュー有り。 【キーワード】 アンドリュー・ロイド・ウェバー、時代、社会、大衆文化	青山昌文（放送大学教授）	青山昌文（放送大学教授）
8	世界の現代演劇--演劇における「20世紀」の意味--	20世紀における世界の現代演劇の展開が、何を問題とし、どのように展開していったのかを、具体的な作品の映像資料などを基にしながら考察します。映画等の、いわゆる「複製技術時代」（ベンヤミン）との関連も視野に入れながら、テクストにおけるドラマトゥルギーの変革、演出家の時代の理念やそれを可能にしたテクノロジー等にも言及します。資料映像多数（動画、スチールとも）。演出家へのインタヴュー有り。劇場でのロケ有り。 【キーワード】 20世紀、演出、戯曲、前衛、1960年代、国際演劇祭	森山直人（京都造形芸術大学准教授）	森山直人（京都造形芸術大学准教授）
9	日本の現代演劇--「近代化」の彼方へ--	日本における演劇と社会の「近代化」のプロセス（新劇等の誕生）をふまえつつ、1960年代の前衛演劇を経た日本の「現代演劇」が、どのような地平を獲得したのかを、具体的な作品の映像資料などを基にしながら分析します。テント劇場、市街劇など、既存の劇場空間を離れた上演のもつ社会的意味にも言及します。資料映像多数（動画、スチールとも）。演出家へのインタヴュー有り。劇場でのロケ有り。 【キーワード】 日本、近代化、戯曲、劇場、演出、前衛	森山直人（京都造形芸術大学准教授）	森山直人（京都造形芸術大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	日本の伝統演劇--能・狂言--	能の基本的枠組を民俗・歴史的形成に遡って提示し、演劇としての独自な価値を明らかにします。これは広く演劇全体の成立条件に光を当てることにも通じます。「翁」と夢幻能の一、二作品を用い、趣味的鑑賞に終わらない基本からの能入門とします。あわせて狂言についても簡潔に考察します。 【キーワード】 能、狂言、民俗、歴史、「翁」、夢幻能	竹森佳史（淑徳大学非常勤講師）	竹森佳史（淑徳大学非常勤講師）
11	日本の伝統演劇--人形浄瑠璃--	叙事詩にほかならない浄瑠璃がいかにして優れた演劇へと発展することができたのか。「曽根崎心中」を題材に、これまで試みられなかった浄瑠璃テクストの言語分析を行い、次いで音楽や人形操りとの協働のメカニズムを明らかにします。 【キーワード】 浄瑠璃、「曽根崎心中」、テクスト、人形操り	竹森佳史（淑徳大学非常勤講師）	竹森佳史（淑徳大学非常勤講師）
12	日本の伝統演劇--歌舞伎--	一つの演劇理念に解消することのできない歌舞伎の多様性を江戸期町人社会のつくり出したメディア空間と捉えて、役者の身体に凝縮された「色っぽさ」など、現代の舞台と観客にも継承されているさまざまな魅力のありかを探ります。 【キーワード】 歌舞伎、町人社会、メディア空間、身体、「色っぽさ」	竹森佳史（淑徳大学非常勤講師）	竹森佳史（淑徳大学非常勤講師）
13	世界の古典演劇--シェイクスピアはなぜ「古典」なのか--	ヨーロッパの演劇史において「古典」とされているテクストが、なぜ今日でも世界的に「古典」としての意義を保ちつづけているのかをめぐって、主としてシェイクスピアの諸作品を中心に考察します。テクストの紹介だけでなく、エリザベス朝演劇を成立させていた社会構造や劇場構造も射程に入れながら、それらが19世紀、20世紀においても多様な解釈のもとに上演されつづけていることを示すことになります。資料映像多数（動画、スチールとも）。 【キーワード】 シェイクスピア、古典、俳優、演出、劇場、社会	森山直人（京都造形芸術大学准教授）	森山直人（京都造形芸術大学准教授）
14	世界の古典演劇--ディドロの演技論--	コルネイユ、ラシーヌ、モリエールの作品を採り上げて、フランス古典主義演劇の魅力の根源を考察します。また、そのあとを受けて、市民劇の理念を掲げたディドロの演劇美学に着目して、ディドロの演技論が、現代にも通じる有益なものであることを明らかにします。資料映像多数使用。劇場でのロケ有り。 【キーワード】 コルネイユ、ラシーヌ、モリエール、ディドロ、演技、逆説	青山昌文（放送大学教授）	青山昌文（放送大学教授）
15	世界の古典演劇--アリストテレスのカタルシス論--	アイスキュロス、ソフォクレス、エウリピデスの3大悲劇詩人の作品を採り上げて、ギリシア悲劇の魅力の根源を考察します。そのために、アリストテレスの演劇美学の諸概念を用い、特にカタルシス概念に着目して、ギリシア悲劇の現代性についても考察して行きます。資料映像多数使用。野外劇場でのロケ有り。 【キーワード】 悲劇、ソフォクレス、アリストテレス、カタルシス、古典、現代	青山昌文（放送大学教授）	青山昌文（放送大学教授）

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目コード	1553607	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 考古学 （’０９）＝（ＴＶ）

－その方法と現状－

〔主任講師（現職名）：泉　拓良（京都大学大学院教授）〕

〔主任講師（現職名）：上原　真人（京都大学大学院教授）〕

講義概要

考古学とは、過去の人類が残した行動の痕跡を調査・研究し、過去の出来事や社会、文化、歴史を明らかにする学問である。考古資料は発掘をはじめとするフィールド調査によって取得する。その調査には細心の注意が必要である。考古学者は、取得した資料の実測や分析を行い、関連する様々な学問の支援を得て、遺跡や遺物に残された「行動の痕跡」を解釈する。本講義では、その研究方法について具体的事例を示して講義する。

授業の目標

全15回の講義を通じて、土地に刻まれた遺構や残された遺物から、どのようにして過去の出来事や社会、文化、歴史を復元するのかという方法を、具体的な事例をまじえて学ぶ。本講義で学ぶ考古学の研究方法は、日本だけではなく世界中の考古学に共通し、また、旧石器時代から近世に至るまで応用が可能である。本講義で学んだことが、個別の歴史事例の理解にとどまらず、時代や地域を超えての人間の理解に役立つことを期待する。

履修上の留意点

「人類の歴史・地球の現在」を学んでおくことが望ましい。また、「日本の古代」「古代地中海世界の歴史」「文化人類学」をあわせて履修すると、本講義の理解がより深まる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	考古学とは何か	本講座を始めるに当たって講義全体の構成を示す。すなわち、考古学研究に必要な方法を、年代論、機能論、分布論に分けて講義することを述べる。また、考古学の定義、関連諸科学について解説するとともに、研究史を概観する。 【キーワード】 考古学、先史学、歴史学、人類学、年代、機能、分布、研究史	泉拓良（京都大学大学院・教授）	泉拓良（京都大学大学院、教授）
2	発掘調査の歴史と実際	発掘調査とは、考古学にとって最も重要な資料取得の手段であり、自然科学における実験に当たる仮説の検証手段でもある。国内外での代表的発掘調査を紹介し、発掘調査の歴史が考古学の発展と不可分の関係にあることを述べる。 【キーワード】 遺跡、遺構、層位、ポンペイ、トロヤ、真脇遺跡、狭山池遺跡	泉拓良（京都大学大学院・教授）	泉拓良（京都大学大学院、教授）
3	考古学があつかう年代	遺跡・遺物の年代は考古学研究の基本であるが、日本では、倭製の鏡や刀剣の紀年銘は5世紀以降に現われ、年紀をもつ木簡は7世紀後半以降に増加する。それ以前の年代は、型式学・層位学などの考古学的方法と、自然科学的年代測定法とを駆使して推定する。 【キーワード】 層位学、型式学、年輪年代、炭素14法	上原真人（京都大学大学院・教授）	上原真人（京都大学大学院・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	年代の理化学的測定法	考古資料の中には、規則的に時の変化を刻んだ痕跡が残されている。それらを測定して年代を明らかにする方法を解説するとともに、結果の有効性と限界などを検討する。 【キーワード】 暦年代、地磁気の変化、年輪年代法、^{14}C年代法	清水芳裕（京都大学・准教授）	清水芳裕（京都大学・准教授）
5	層位学と年代	出土遺物の新旧や年代を決定する基本的な原理である、層位学について学ぶ。縄文土器の編年研究の歴史、旧石器文化の年代と火山灰層、発掘調査における層序など、層位学的方法を解説する。 【キーワード】 地質学の原理、火山灰年代学、ペリゴールの洞穴群、山内清男	阿子島香（東北大学大学院・教授）	阿子島香（東北大学大学院・教授）
6	型式学と年代	遺物の形や文様の変化をとらえ、その年代を考える方法が型式学である。この方法をあみだしたモンテリウスの仕事を紹介し、いま日本考古学でどのように継承されているのかを、弥生時代の土器や青銅器などの研究例をふまえて解説する。 【キーワード】 型式学、モンテリウス、弥生土器、銅鐸、銅鏡	岡村秀典（京都大学・教授）	岡村秀典（京都大学・教授）
7	セリエーションとは何か	特徴ある形・製作技術・装飾など、年代差に由来する諸要素の増減を、数量的・視覚的に把握するのがセリエーションである。諸要素の増減変化には、政治的・経済的なモーメントが働く場合が多く、重要な歴史背景が指摘できることを述べる。 【キーワード】 ペトリー、SD法、ディーツ、セリエーション、鈴木公雄	上原真人（京都大学大学院・教授）	上原真人（京都大学大学院・教授）
8	遺物の機能をさぐる	遺構や遺物には、何に使ったのか見当がつかないモノが少なくない。考古資料の機能を知るには、民俗・民族資料との比較対照、製作実験や使用実験、出土情況の確認、使用痕分析、同種の出土品を集成した分類・分析、などの方法があることを述べる。 【キーワード】 経験則、民俗（族）学、民具、使用痕、使用実験	上原真人（京都大学大学院・教授）	上原真人（京都大学大学院・教授）
9	使用痕分析と実験考古学	道具の機能を実証的に推定する方法について学ぶ。使用によって残された形跡を観察し、実験によって確かめる使用痕分析は重要な研究法である。石器の微細使用痕分析、土器の使い方の実験考古学などを解説する。 【キーワード】 セミョノフ、顕微鏡観察、ミドルレンジセオリー、実験考古学、微細使用痕	阿子島香（東北大学大学院・教授）	阿子島香（東北大学大学院・教授）
10	民具と考古学	近年、急速に資料が増加した弥生・古墳時代の木器から、おもに農具を取り上げて、弥生時代から古墳時代に至る農業技術の変遷とその画期を解説する。考古資料の機能認定において、各種の方法をどのようにバランス良く駆使できるかの応用問題である。 【キーワード】 丸鍬、泥除、木鍬、風呂鍬、田下駄、横槌	上原真人（京都大学大学院・教授）	上原真人（京都大学大学院・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	考古学と分布	遺構や遺物、もしくはその組み合わせの空間的広がりを明らかにすることは、古くから、物資の流通や、文化の交流や伝播を考える上で重要であった。最近では自然科学的分析や空間情報科学的手法の支援を受けて、新たな展開がみられる。 【キーワード】 産地同定、原位置論、伝播、流通・交易、人の移動、文化圏	泉拓良（京都大学大学院・教授）	泉拓良（京都大学大学院・教授）
12	産地同定と流通	石器、土器、青銅器の材料にあらわれる地域的な特徴を理化学的な分析によって識別し、流通の実体を探る研究がおこなわれている。ここでは、いくつかの分析法と具体的な成果を解説しながら問題点にもふれる。 【キーワード】 琥珀の道、胎土分析、鉛同位体比、人の移動	清水芳裕（京都大学・准教授）	清水芳裕（京都大学・准教授）
13	東アジア古代の青銅器分布	弥生時代に朝鮮半島から伝えられた銅剣・銅矛・銅戈・銅鐸などの分布から製作地と流通を考える。次に、中国王朝から大量にもたらされた銅鏡と中国の歴史書とを照らしあわせて、弥生・古墳時代の対外交渉を検討する。 【キーワード】 武器形青銅器、銅鐸、荒神谷遺跡、鋳型、分布	岡村秀典（京都大学・教授）	岡村秀典（京都大学・教授）
14	遺跡内での遺物分布	遺跡内における遺物の分布状況を検討することで、そこに居た人間活動の具体的内容を知ることができる。遺跡構造分析、原位置論、形成過程研究などの事例を通じて、遺物の空間的な分布と人間行動の復元について解説する。 【キーワード】 遺跡構造、ビンフォード、パンスヴァン遺跡、形成過程	阿子島香（東北大学大学院・教授）	阿子島香（東北大学大学院・教授）
15	考古学の多様性	本講座の中心に据えた伝統的考古学の手法に対し、プロセス考古学とポストプロセス考古学の立場から問題の提起をおこない、海外での考古学の現状として、アメリカでの考古学、イギリスでの考古学、中東での考古学、中国での考古学を紹介して、日本の考古学の現状を議論し、まとめにする。 【キーワード】 プロセス考古学、ポスト・プロセス考古学、中国の考古学、埋蔵文化財、世界の考古学	泉拓良（京都大学大学院・教授） 上原真人（京都大学大学院・教授）	泉拓良（京都大学大学院・教授） 上原真人（京都大学大学院・教授）

事務局記載欄	開講年度	２０１１年度	科目区分	専門科目	科目コード	1554212	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　日本古代中世史　　（’１１）＝　（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：五味文彦（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：佐藤　信（東京大学大学院教授）〕

講義概要

日本の古代と中世の歴史を、基本になる史跡や史料のあり方や現代との関わりから探る。時代は原始時代から16世紀までの、国家が形成されて整備され、やがてその仕組みが衰退し、地域社会が形成されるなか、再び統一政権が登場するまでを扱う。特に 日本列島の古代中世史像は、発掘調査の成果や様々な新資料の発見によって変わりつつある。活発に越境した国際関係、各地域の歴史の実像が掘り起こされ、古代中世史が多元的に見直されている。こうした動向をふまえ、東アジアの国際関係のもと史跡や史料に焦点をあてながら、あたらしい日本列島の古代中世史をたどりたい。

授業の目標

日本の古代から中世にかけての流れを理解し、史跡や史料を調べるなかで歴史的事実をどう捉えてゆくのかを理解する。

履修上の留意点

自分の手で歴史の史料を読み、史跡を自分の目で見て歩き、歴史への理解を深めてゆくことを求めています。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	古代中世の歴史を考える	日本の歴史はこれまで古代・中世・近世・近現代の四つに時期区分して考えられてきた。しかしこの講義では、古代と中世をまとめて長期的な視点から考えることにする。講義の編成と目的を語り、古代から中世の歴史を概観し、扱う史跡・史料の特性について述べる。 【キーワード】 時期区分、古代史、中世史、史跡、史料	五味文彦（放送大学教授）	同
2	列島の原始から倭国へ	岩宿・三内丸山・吉野ヶ里遺跡など、旧石器・縄文・弥生時代の発掘成果から列島の社会像を見直し、中国史書が伝える歴史像とつき合わせる。また、古墳時代の稲荷山古墳鉄剣銘や「宋書倭国伝」が語る列島像を、磐井の戦いにみる国際関係とともに再検討し、地方豪族と大王との関係を複眼的に見直す。 【キーワード】 岩宿・三内丸山・吉野ヶ里遺跡・稲荷山古墳鉄剣・「宋書倭国伝」・磐井の戦い・地方豪族と大王	佐藤信（東京大学大学院教授）	同
3	飛鳥の王権から律令国家へ	隋・唐が成立する国際関係の中で、7世紀前半の倭王権の支配構造や仏教受容の文化動向を明らかにする。また7世紀後半の国際的緊張の下、「大化改新」、白村江の敗戦、壬申の乱を経て天武・持統天皇により藤原京・律令が作られ、天皇制や律令国家が形成される過程をたどる。 【キーワード】 倭王権、飛鳥時代、大化の改新、白村江の戦い、壬申の乱、藤原京、律令、天皇制、律令国家	佐藤信（東京大学大学院教授）	同

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	律令国家の実像	平城宮の発掘成果や木簡から平城京の実像を明らかにし、奈良時代の政治史を皇位継承や藤原氏の動向からたどる。地方官衙の遺跡などから中央と地方の関係に焦点をあてる。 また、遣唐使の実像をたどり、天平文化の広がりを考える。 【キーワード】 平城宮、奈良時代、木簡、遣唐使、藤原氏・正倉院御物	佐藤信（東京大学大学院教授）	同
5	平安王朝への道	新しい皇統の桓武天皇が、対蝦夷戦争や新都造営などにより平安新王朝を確立した歩みを整理するとともに、嵯峨天皇が新しい政治・文化を展開した過程を平安京・平安新仏教・仮名などにたどって、後の日本文化に影響を与えた平安初期文化について明らかにする。 【キーワード】 桓武天皇、対蝦夷戦争、平安京、嵯峨天皇、平安新仏教、仮名	佐藤信（東京大学大学院教授）	同
6	摂関政治と貴族社会	9世紀後半に成立した摂関政治の特徴を探り、その変遷をあとづける。また、天皇・摂関を頂点とする貴族社会の構成を概観し、あわせて朝廷で行われた様々な儀式や政務の運営のしくみについてみていく。 【キーワード】 摂関政治、藤原道長、叙位、除目、日記、年中行事、寝殿造	佐々木恵介（聖心女子大学教授）	佐々木恵介（聖心女子大学教授）
7	平安時代の対外関係と国風文化	9世紀後半から11世紀にかけての対外関係を、当時の国際的環境に留意しながら説明する。また、いわゆる国風文化について、「国風」の意味を問うことにによって、その特徴に対する理解を深める。 【キーワード】 遣唐使、入宋僧、唐物、国風文化、本朝意識、浄土教	佐々木恵介（聖心女子大学教授）	同
8	受領と武士	9世紀末以後、朝廷や貴族の財政を支え、また都と地方との交流にも大きく寄与した受領の活動を具体的にみていく。また、武士の発生や、武士と貴族との関係についても考える。 【キーワード】 受領、郎等、境迎え、侍、承平・天慶の乱、安和の変	佐々木恵介（聖心女子大学教授）	同
9	中世のはじまりと院政というシステム	11世紀になると、摂関政治に代わり、皇位を退いた上皇が政治の実権を掌握する院政が行われた。上皇やそれに連なる女性・貴族・寺社のもとに膨大な荘園が寄進され、京都を中心とする物流が整備されていく。軍事を管掌する武士が中央政界に参入し、政争の帰趨を定める重要な役割を担いはじめる。本章は、院政の政治構造を明らかにし、日本における中世のはじまりを考察する。 【キーワード】 院政、女院、荘園、武家	本郷和人（東京大学准教授）	同

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	鎌倉幕府と武士の成長	関東に産声をあげた武士の政権は、源平の合戦、数々の内紛、承久の乱などを経て次第に成長していく。北条氏を首班とする幕府は統治者としての自覚をもち、法を定め、朝廷や大寺社と交渉し、撫民政策を展開していく。本章では、武家文書も参照しながら、そうした幕府の歩みを跡づけ、「武力を根底に有する政治」の特質を探る。また、荘園における武士たちの日常がどういったものであったか、絵巻などを用いて復元を試みる。 【キーワード】 鎌倉幕府、執権政治、承久の乱、武家文書、武士、絵巻	本郷和人（東京大学准教授）	同
11	中世前期の神仏と文化	中世前期の段階では、仏教はきわめて大きな役割を果たしていた。天台・真言両宗は朝廷でも幕府でも崇敬され、それに対応するかたちで禅や律の教派が現れ、また念仏や題目を唱える易行・他力の新宗派が生まれた。本章では、こうした仏教のありようを学ぶとともに、仏教思想に色濃く影響を受けた当時の文化も概観する。このとき、思想や文化を受容する存在として、貴族や武士ばかりでなく、庶民のすがたを探してみたい。 【キーワード】 天台、真言、禅律、念仏、題目、他力、神仏習合	本郷和人（東京大学准教授）	同
12	中世社会の変質と南北朝内乱	14世紀に入ると、荘園制的な土地支配、惣領制的な武士団組織など、社会を律する様々なシステムの変質が進行し、鎌倉幕府の滅亡と南北朝の内乱を引き起こす。本章では、14世紀の政治過程をたどるとともに、そうした社会の変質の実相を提示していく。また、時代を象徴するキーワードとして「バサラ」に注目し、そのような文化が生まれた背景として、中世前期の対外交流と大陸文化の受容のあり方にも言及する。 【キーワード】 鎌倉幕府滅亡、悪党、惣領制、南北朝の動乱、倭寇	中島圭一（慶應義塾大学教授）	同
13	地域社会の形成と応仁の乱	南北朝内乱が終結し、室町幕府の下に再統一が達成されてから1世紀と経たないうちに応仁の乱が勃発し、日本は再び長い内乱期に突入する。この事実は、室町幕府が樹立した秩序が、14世紀以来の社会構造の変化に十分対応していなかったことを示すものである。本章では、15世紀の政治過程をたどるとともに、これを当該期に顕在化する列島の分断と地域社会の自立の所産と位置付け、その背景として生産様式の変化に注目しながら、解説していく。 【キーワード】 室町幕府　足利義満、生産革命、湊町	中島圭一（慶應義塾大学教授）	同
14	近世を準備する戦国社会	応仁の乱と明応の政変を経て、列島は本格的な戦国時代に突入する。16世紀には日本全国が大名たちの地域国家に分断され、それぞれの戦国大名の下で、地域的な政治的・社会的統合と地域経済の発展が進み、地方文化が形成されていく。本章では、近世の幕藩制社会への連続性を意識しながら、戦国大名領国の政治構造や経済・文化の展開について明らかにしていく。あわせて、そうした地域国家を媒介とした当該期の対外交流にも目配りする。 【キーワード】 応仁の乱、明応の政変、戦国大名、地域国家	中島圭一（慶應義塾大学教授）	同

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
15	地域史への展望	日本の古代中世の歴史を探ってきたところで、そのまとめと次の時代への展望を考え、日本列島の北と南の地域の歴史を改めて探って、日本史上における地域の特質や地域に蓄えられた力を考え、古代中世の歴史を学ぶ意義についてみる。 【キーワード】 蝦夷地、十三湊、琉球、坊津、地域史、全体史	五味文彦（放送大学教授）	同

科目名（メディア）＝　日本の近世（‘０７）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：　杉森　哲也（放送大学教授）〕

講義概要

日本の近世（16～19 世紀）とはどのような時代なのか、その特質について講義することを基本的な課題とする。５つの分野（政権論および国家論、朝廷論および朝幕関係論、村落論、商業・流通論、都市論）を取り上げ、各分野毎に、①研究状況の概観、②高校教科書の記述に代表される一般的な理解と現在の研究状況の違い、③各分野の最先端の研究成果、などについて講義する。

授業の目標

日本の歴史の中で、近世（16～19 世紀）という時代がいかなる特質をもつ時代なのかについて理解することを基本的な目標とする。教科書的な通史による講義ではなく、近世史研究の中の５つの分野を取り上げるという方法で、講義を構成する。近世史研究がどのように進展してきたのか、そして現在の最新の研究がどのようなものであるのかについて、分かり易くかつ高水準の内容となる講義を行いたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	近世という時代	近世（16～19 世紀）という時代は、日本の歴史の中でどのような位置にあるのだろうか。日本国内のみならず、隣接する東アジアさらにヨーロッパとの関係も視野に入れながら、この時代の特質について考える。また、本講義の序論としても位置づける。	杉森哲也（放送大学教授）	杉森哲也（放送大学教授）
2	信長・秀吉の国家構想	長く続いた戦国の世に終止符を打った織田信長・豊臣秀吉の諸政策を、彼らの国家構想に重点を置いて考える。特に、(1)天皇・朝廷との関係、(2)朝鮮侵略を取り上げる。	堀新（共立女子大学准教授）	堀新（共立女子大学准教授）
3	幕藩制国家の成立	関ヶ原の戦いから「鎖国」の成立までの幕府の諸政策を中心に説明する。特に、(1)幕政・藩政の成立、(2)「鎖国」の成立を取り上げる。	堀新（共立女子大学准教授）	堀新（共立女子大学准教授）
4	近世武家官位	誰でも知っているけれども詳しいことはあまり知られていない武家官位。その詳細を説明するとともに、武家官位から見た幕府・藩・朝廷の関係について説明する。	堀新（共立女子大学准教授）	堀新（共立女子大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	統一政権の成立と朝廷の近世化	京都の朝廷は、天皇・公家衆等により構成され、日本の古代・中世・近世を通じて存在し、王政復古と明治維新を経て近代に解体された集団である。本章では、豊臣政権から江戸幕府の成立に至る近世前期（16世紀末～17世紀）の政治過程を、朝廷との関係に即して検証し、①朝幕藩体制の基本的枠組、②天皇・朝廷の政治的宗教的機能、③天皇・公家集団の近世化の特質について考察する。	山口和夫（東京大学准教授）	山口和夫（東京大学准教授）
6	朝廷と公家社会	近世の権力の成立に寄与し、編成を受容して存続した天皇・公家身分集団について、①構成員（人、家）、②組織（機構、職制、結合）、③洛中の公家町や洛外の知行地（空間、場）、④活動（朝儀、神事、仏事、人事、配分、組織編制、規範）等の諸要素の実態を復元し、近世中期（17世紀半ば～18世紀）以降の通時的な変容を再構成する試みを事例紹介する。	山口和夫（東京大学准教授）	山口和夫（東京大学准教授）
7	近世朝幕関係の論じ方	①諸事件から朝幕間の対立・確執や天皇・院（上皇・法皇）の反幕府感情や行動を重視する古典的で今日なお踏襲される見解、霊元天皇（院）と摂家近衛基熙（左大臣、関白）との二つの路線の相克を主張する学説、朝幕関係の変化・逆転の画期を検出・提唱しようとする動向等の研究史を整理し、②朝廷を主導した天皇・院・摂家たちが朝廷・幕府観を示した諸史料を検討し、③幕府・将軍への期待・依存の共通性と、近世朝廷の幕府との不可分な関係と構造・体制の強固さを再確認する。	山口和夫（東京大学准教授）	山口和夫（東京大学准教授）
8	兵と農の分離	兵農分離をどのように捉えるか。近年の研究成果をふまえて、在地社会においてどのように兵と農が分離していったか、山城国（現、京都府）を事例として、その歴史的事実を明らかにしていく。そして、近世の村に居住し続けた「武士」、武士を志向し続けた「百姓」の意識について考察する。	吉田ゆり子（東京外国語大学教授）	吉田ゆり子（東京外国語大学教授）
9	村の形成	近世の村はどのようにして形成されていくのか。中世－近世移行期の村落史研究の動向を紹介しながら、村切り、村の自律性について説明する。その上で、戦国時代の村から近世の村が形成されていく過程を、村人の精神的支柱であった神社と村との関係に注目しながら、山城国や信濃国（現、長野県）を事例として述べていく。	吉田ゆり子（東京外国語大学教授）	吉田ゆり子（東京外国語大学教授）
10	村と身分的周縁	近世の村は、百姓身分の人々から構成されていると考えてよいのか。近年注目されている身分的周縁に関する研究動向を紹介しながら、こうした身分的周縁に注目することで明らかになる地域社会像を、具体的に信濃国下伊那郡を取り上げて述べていく。	吉田ゆり子（東京外国語大学教授）	吉田ゆり子（東京外国語大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	新興流通勢力の登場	18世紀中期、全国的な流通再編の動きのなかから登場してくる新しい海運流通勢力があった。江戸と上方を結んだ「尾州廻船（びしゅうかいせん）」、北海道と上方を結んだ「北前船（きたまえぶね）」、そして北海道・東北と江戸を結んだ「奥筋廻船（おくすじかいせん）」がそれである。ここではそれぞれの船・船主の実像とそれらを生んだ地域の特徴を紹介しつつ、こうした新興勢力を必要とするに至った近世後期の経済的背景を考える。	斎藤善之（東北学院大学教授）	斎藤善之（東北学院大学教授）
12	新興海運勢力と全国市場	尾州廻船・北前船・奥筋廻船は、いかなる積荷を、どこからどこへ運んでいたのか。それらの相互の関係はどうなっていたのか。こうした疑問に答えることで、新たな港町のネットワークの展開を検証し、近代に国際貿易港として発展する函館・神戸・横浜がここから生まれてくる必然性を明らかにするとともに、新興海運勢力が作り出した商品流通市場の全国的な構造を考える。	斎藤善之（東北学院大学教授）	斎藤善之（東北学院大学教授）
13	新興海運勢力をめぐる技術と文化	新興海運勢力の展開は、近世後期の様々な技術の成熟によって支えられていた。例えば大型船（千石船）の建造技術、それを運航するための航海術や通信手段などは、いずれも伝統的な技術ではあるが、絶え間ない改良によって長足の進歩を遂げた結果、新興海運勢力を成立させる重要な基礎になった。いっぽう新興海運勢力によって安く大量にもたらされた新たな商品は、庶民生活に革新をもたらし、和風を代表する近世後期の成熟した生活文化を生み出していった。ここではそのような新興海運勢力を支えた技術と、それが近世社会にもたらした影響を生活文化の成熟といった側面から考える。	斎藤善之（東北学院大学教授）	斎藤善之（東北学院大学教授）
14	東アジアの「首都」	近世の日本の周囲には、清（中国）、朝鮮、琉球という三ヵ国が存在した。日本とこれら三ヵ国の都市、具体的には「首都」の比較を通して、東アジアという視点から日本の近世都市について検討する。	杉森哲也（放送大学教授）	杉森哲也（放送大学教授）
15	近世から近代へ	19世紀は、日本の歴史が近世から近代へと大きく転換する時期である。近世の都市がどのようにして近代を迎えたのかについて、この回では開国という視点から論じる。具体的には京都を取り上げ、そこに展開していた大規模な手工業である西陣機業の動向を通して、近世から近代へという時代の転換について検討する。	杉森哲也（放送大学教授）	杉森哲也（放送大学教授）

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1555006	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　北東アジアの歴史と朝鮮半島　（’０９）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：吉田　光男（放送大学教授）　〕

講義概要

日本にとってもっとも密接な関係をもってきた北東アジア地域の歴史を、朝鮮半島を中心にして、古代から現代までを15回にわたって通史的に講義していく。とりわけ政治の動きに注目して、諸国家・諸民族の興亡や相互の関係などを中心としてこの地域の歴史を読み解いていく。また、あわせて経済・社会・文化など人間活動の諸側面に注意を払いながら、総合的な学習を行っていく。

授業の目標

古代から現代までという2000年におよぶ長い時代をあつかい、この地域の歴史がどのように展開して現代にまで至っているかという理解を作りだす。諸国家・諸民族の興亡や相互の関係など、地域史理解の基礎的知識を朝鮮半島の歴史を中心として習得する。日本史や中国史の学習と総合することにより、この地域史のみならず、東アジア史を全体的に理解する基盤を形成することを目標とする。

履修上の留意点

日本史・中国史なども合わせて学ぶことが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	総説：北東アジアの中の朝鮮半島	北東アジアの中で朝鮮半島の存在を歴史的にどのように考えるのかについて総説的にあつかい、学習の指針を与える。古代から現代までの歴史の流れと自然環境などを概観し、朝鮮半島の歴史的位置づけを北東アジアの国際関係の中でとらえる視点を提示する。 【キーワード】 東アジア、朝鮮半島、日本列島、地理、気候	吉田光男（放送大学教授）	吉田光男（放送大学教授）
2	北東アジアにおける古代国家の形成	扶余・三韓・加耶諸国・高句麗・新羅・百済・など、古代の北東アジアで形成発展した諸国家を中心として、古代の歴史の特質について考察する。各地域・国家の歴史を、一国的ではなく、北東アジアのみならず、アジア史・世界史の中で意味づけ、この地域の歴史的特色を考えていく。 【キーワード】 古代国家、高句麗、新羅、百済	李成市（早稲田大学教授）	李成市（早稲田大学教授）
3	古代の朝鮮半島と北東アジアの変動	隋・唐国家の発展という中国におけると北東アジアの変化とを、国家や民族・種族の動きを中心として考察する。高句麗・百済・新羅・渤海という諸王国の興亡と中国や日本との関係を、域内交流に注目しながら分析していく。 【キーワード】 国家、民族、高句麗、新羅、百済、渤海	李成市（早稲田大学教授）	李成市（早稲田大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	古代北東アジアの社会と文化	古代朝鮮半島三国や渤海の社会と文化について考える。高句麗・新羅・百済の古代社会の様相や文化がもっている特色を考察し、古代北東アジアの社会と文化の特質を浮き彫りにして、古代日本との比較の視点を提示する。 【キーワード】 社会、文化、高句麗、新羅、百済	李成市（早稲田大学教授）	李成市（早稲田大学教授）
5	高麗と北東アジア	中世の北東アジアの歴史について、朝鮮半島の国家である高麗の動きを中心として概観する。10世紀に成立した高麗ははじめて朝鮮半島全体を掌握した国家であり、金・遼という遊牧民族国家が興亡し、宋を圧迫する北東アジアの新しい秩序に参加した。これらの動きを検討する。 【キーワード】 高麗、唐、五代十国、宋、金、遼	吉田光男（放送大学教授）	吉田光男（放送大学教授）
6	モンゴル勢力と北東アジア・高麗	チンギス・カンによるモンゴル帝国の建設から、13世紀に大都（現北京）を都として元王朝が成立することによって朝鮮半島で起きた変化を北東アジア的視点から考察する。 【キーワード】 モンゴル、元、高麗、クビライ、武臣、三別抄、元寇、李成桂	吉田光男（放送大学教授）	吉田光男（放送大学教授）
7	朝鮮王朝の成立と北東アジア	1368年、中国で元と明の王朝交替があった。この影響は北東アジア全体に及んだが、とりわけ朝鮮半島では、元と深い関係にあった高麗の滅亡から新たな王朝としての朝鮮の成立へと結びつく大きな変動をもたらす要因の一つとなった。この章では14世紀末から、15世紀ころまでの北東アジアの動きを背景として朝鮮半島の歴史を考える。 【キーワード】 元、明、高麗、朝鮮王朝、儒教、李成桂、両班、士大夫	吉田光男（放送大学教授）	吉田光男（放送大学教授）
8	近世の北東アジアと朝鮮半島	北東アジアでは、中国も含めて古代から盛んな地域間交流が行われ、政治・経済・文化・社会の諸分野に大きな影響を与えてきた。16世紀末から17世紀初頭にかけて、日本軍による朝鮮侵略、明から清への王朝交代、徳川政権の成立など、北東アジアにおきた大きな政治変動を背景にした交流について、その実態を検討する。 【キーワード】 通信使、燕行使、冊封、豊臣秀吉、江戸幕府、明、清	吉田光男（放送大学教授）	吉田光男（放送大学教授）
9	朝鮮半島の近世社会	朝鮮近世（17～19世紀）の社会と文化の様相について、総合的な考察を加える。身分・血縁・地域などに焦点をあてて、住民の生活像と意識を探る。朝鮮半島の人々が作りだしてきた文化をうかがうことにより、北東アジアの中で歩んできた独特の歴史を検討する。 【キーワード】 身分、血縁、氏族、士族、両班	吉田光男（放送大学教授）	吉田光男（放送大学教授）
10	開化政策と近代世界への編入	19世紀のウエスタン・インパクトによる北東アジアの変化を、朝鮮半島を中心として考える。アメリカ・イギリス・フランス・ロシア・ドイツなど西欧列強による圧迫に対して、中国や日本と比較しながら朝鮮がどのような対応をしたのか、その歩みを追いかけて、「近代化」の意味を考える。 【キーワード】 開国、開化、文明、近代化、西欧列強	橋谷弘（東京経済大学教授）	橋谷弘（東京経済大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	植民地帝国日本と朝鮮半島	1910年8月、日本は韓国との間で「併合条約」を締結し、台湾につづいて朝鮮半島を植民地にした。この植民地帝国日本が、朝鮮半島においていかなる目的と方法によって植民地支配を行ったのか、また北東アジア全体でその支配がどのような位置づけにあったのか、考察を行う。 【キーワード】 植民地、台湾、帝国主義	橋谷弘（東京経済大学教授）	橋谷弘（東京経済大学教授）
12	戦時下の朝鮮と冷戦下の朝鮮	1945年8月15日、朝鮮は日本の敗戦によって植民地からの独立（解放）を果たした。しかし、現在、世界唯一の分断国家と称されるように、南北二つの国家が分立している。このような状況をもたらした歴史的背景を、第二次世界大戦前後の朝鮮をめぐる国際関係の中から歴史的に考察してみる。 【キーワード】 解放、分断国家、東西冷戦	橋谷弘（東京経済大学教授）	橋谷弘（東京経済大学教授）
13	北朝鮮社会主義のアジア的特徴	第二次世界大戦後のアジア各地で社会主義政権が生まれたことの背景を考え、その一つとして北朝鮮の社会主義を位置づける。アジア社会主義の世界史的意味や金日成と北朝鮮の社会主義建設を検討し、主体思想と金正日体制への移行の歴史的意味について考察する。 【キーワード】 社会主義、北朝鮮、主体思想、金日成、金正日	橋谷弘（東京経済大学教授）	橋谷弘（東京経済大学教授）
14	アジアNIESとしての韓国	1960・70年代の工業化による経済成長で、韓国がアジアNIESの一つとして注目された経緯と、80・90年代に入って民主化など先進国化への変化が生まれた背景について考察する。アジアNIESとしての韓国が成長してきた要因を分析し、民主化と先進国化の内容を検討する。 【キーワード】 工業化、韓国、アジアNIES、民主化	橋谷弘（東京経済大学教授）	橋谷弘（東京経済大学教授）
15	現代の朝鮮半島と北東アジア	21世紀の東アジアの中で、朝鮮半島がどのように変化していくかを論じる。『世界の工場』としての東アジア、97年危機と韓国経済のグローバル化、IT化の進展と韓国経済、北朝鮮の食糧問題と核開発など、この時期の重要な歴史的トピックを考察する。 【キーワード】 グローバル化、韓国経済、北朝鮮経済	橋谷弘（東京経済大学教授）	橋谷弘（東京経済大学教授）

科目名（メディア）＝　中国社会の歴史的展開（‘０７）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：岸本　美緒（お茶の水女子大学教授）〕

講義概要

中国史の概説であるが、中国社会の特質、及び東アジア的視点に留意する点を本講義の特色としたい。「中国」の意味を考える第一回を除き、時期を追って論じてゆくが、長期にわたり存続していく中国の社会や文化の特質――例えば「家」や「儒教」「士大夫」「民衆反乱」など――は時期を追った記述のみではつかみにくいと思うので、そうした点はコラムのなかで適宜論じる。また、毎回の講義において関連する史料を挙げ、具体的なイメージをつかむことをめざす。

授業の目標

① 中国史の流れを、政治のみならず社会の変遷に重点を置いて大局的に理解する。
② 中国社会の動きを、東アジアや世界日本など、広い視点から把握する。
③ 現代中国の社会状況を長期の歴史的視野のもとでとらえる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	「中国」とは何か	・現在の中華人民共和国の地理的概況と民族構成 ・「中国」観念の形成 ・華夷思想の世界像 ・近代ナショナリズムと「中国」観念 （焦点）中国文化とは？ （史料）梁啓超の「中国」論	岸本美緒（お茶の水女子大学教授）	岸本美緒（お茶の水女子大学教授）
2	中国初期王朝の形成	・中国文明の多元性 ・地域統合と初期国家の成立 ・初期王朝の形成 ・周王朝と封建制 （焦点）「革命」とは何か （史料）『書経』にみる殷周革命	同上	同上
3	春秋戦国から秦の統一へ	・春秋・戦国の動乱 ・小農経済と都市・商業の発達 ・「諸子百家」と秩序問題 ・秦の統一と皇帝政治の始まり （焦点）「封建」と「郡県」 （史料）『史記』秦始皇本紀	同上	同上
4	漢帝国と周辺地域	・前漢初期の政治 ・漢代の匈奴問題 ・武帝の拡張政策と財政問題 ・後漢の国家と社会 （焦点）封建と郡県 （史料）『史記』匈奴列伝	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	分裂と融合の時代	・中国の分裂と北方民族の進出 ・北朝における胡漢の融合 ・六朝政権と江南の開発 ・魏晋南北朝期の東アジア （焦点）東アジア世界論 （史料）陶潜「桃花源記」	同上	同上
6	隋唐帝国の形成	・南北の再統一 ・国家制度の整備 ・唐と周辺諸地域 ・国都長安と外来文化 （焦点）新しい生活文化の定着 （史料）李白の詩にみる唐代社会	同上	同上
7	宋と北方諸民族	・北方諸民族の動向 ・唐宋変革とは何か ・対外危機と宋代社会 ・モンゴルの登場 （焦点）士大夫の倫理と生活 （史料）『東京夢華録』に見る開封の繁栄	同上	同上
8	元から明へ	・元朝の中国統治 ・明の建国 ・明王朝と周辺地域 ・「北虜南倭」の時代 （焦点）銀と中国経済 （史料）鄭若曽『籌海図編』	同上	同上
9	清朝の平和	・東アジアの新興勢力 ・清朝の中国占領 ・清朝と周辺地域 ・清代の社会と経済 （焦点）宗教と民衆反乱 （史料）雍正帝『大義覚迷録』	同上	同上
10	清末の動乱と社会の変容	・清代中期までの中国と欧米勢力 ・アヘン戦争 ・太平天国と列強 ・洋務運動 （焦点）上海の発展 （史料）魏源『海国図志』	同上	同上
11	中国ナショナリズムの形成	・中国分割の危機と戊戌変法 ・義和団事件 ・改革と革命 ・辛亥革命 （焦点）清末の風俗改革 （史料）康有為「京師保国会での演説」	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	五四運動と中国社会	・辛亥革命後の状況 ・第一次世界大戦と中国 ・五四運動と革命の広がり ・北伐と中国統一 （焦点）新文化運動と「家」批判 （史料）李大釗「庶民の勝利」	同上	同上
13	抗日戦争と中国革命	・国民政府の近代化政策 ・共産党と農村社会 ・抗日民族統一戦線 ・抗日戦争と社会変容 （焦点）中国農村と地主制度 （史料）毛沢東の農村調査	同上	同上
14	社会主義建設の時代	・中華人民共和国の成立 ・農業集団化 ・大躍進政策と人民公社 ・文化大革命 （焦点）社会主義と中国伝統思想 （史料）文革期の少女の日記	同上	同上
15	現代中国の直面する諸問題	・改革開放政策への転換 ・民主化の課題 ・国家統合 ・社会主義市場経済のゆくえ （焦点）都市と農村 （史料）鄧小平「南巡講話」	同上	同上

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目コード	1557203	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　ヨーロッパの歴史と文化　　（’０９）＝（ＴＶ）
－中世から近代－

〔主任講師（現職名）：草光　俊雄（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：河原　温　（首都大学東京教授）〕

講義概要

ヨーロッパの歴史を中世から現代まで概観する。各講義はそれぞれテーマをたてて（「城」、「都市」、「キリスト教」、「帝国」など）今日のヨーロッパを築いてきた道のりが理解できるように工夫されている。

授業の目標

現代に生きる私たちが一体どのような過程を経て今ある姿になったのか。またこの日本という国が近代に大きな影響を受けたヨーロッパがどのような歩みをたどってきたのか。私たち自身を理解するために歴史は多くのことを教えてくれる。ヨーロッパの歴史を中世から現代に至るまで学ぶことによって今という時代を考えることを目標とする。

履修上の留意点

他の歴史科目、例えば「地中海世界の歴史（’09）」「歴史と人間（08）」などを学んでおくことが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	ヨーロッパの歴史と文化を考える	イントロダクションと問題意識を提示 【キーワード】 森、キリスト教	草光　俊雄 河原　温	草光　俊雄 河原　温
2	古代から中世へ	西ヨーロッパでは、古代ローマ手国が5世紀後半に崩壊する一方、同時期のガリアでは、フランク王国というゲルマン人国家が成立し、西ヨーロッパ世界の中核地域を形成するとともに、次第に中世独自の社会制度や文化を生み出していった。この時代のキリスト教の定着の問題も合わせて概観する。 【キーワード】 ローマ帝国、民族大移動、フランク王国、教会国家体制、キリスト教	堀越　宏一（東洋大学教授）	堀越　宏一（東洋大学教授）
3	封建社会の形成とヨーロッパ世界の拡大	10世紀末以降、ヨーロッパ世界では、城の建設が進み、社会支配のあり方は一変した。城は周辺農村支配の拠点となると同時に、城を媒介にして、貴族間で封建的主従関係が取り結ばれたからである。また、このような時代である11～13世紀の西ヨーロッパ諸王国の統治を概観すると同時に、レコンキスタや十字軍運動を通してヨーロッパ世界が周辺部に拡大していく様子を確認する。 【キーワード】 城、城主支配領域、封建制、貴族、十字軍	堀越　宏一	堀越　宏一

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	中世ヨーロッパの農村	11世紀以降、西欧の農業は『中世農業革命』と呼ばれる発展を遂げて、人口も耕地も農業生産も拡大していった。一方、農民もまた農業生産の発展を受けて、村落共同体と呼びうる組織を生み出し、現在に至る農村景観を作り出していく。このような11～15世紀の中世ヨーロッパ農村の変遷を辿る。また農村では、農作物以外の様々な物資が生産されて、中世社会を支えていたことも重要である。 【キーワード】 中世農業革命、農村、村落共同体、牧畜、階層分化	堀越　宏一	堀越　宏一
5	都市の発展と文化	中世農村社会の中に現れた中心地としての都市はどのような経済的、政治的、文化的機能を果たし、近世以降のヨーロッパ社会に何をもたらしたのか考える。 【キーワード】 司教座、中心地機能、自由と自治、仲間団体、文字文化	河原　温	河原　温
6	キリスト教と教会・修道院	中世中期以降のヨーロッパ社会におけるキリスト教を支えた修道院とカトリック教会の活動をたどるなかで、異端運動や聖人崇敬など人びとの信仰の在り方を考える。 【キーワード】 クリュニー、シトー、托鉢修道会、異端、ゴシック建築、公会議	河原　温	河原　温
7	中世後期の社会変動	14～15世紀（中世後期）のヨーロッパ社会が、ペストや百年戦争などの災厄を通じていかに変容していったか、政治、経済、人々の心性の各側面から考える。 【キーワード】 ペスト、死の舞踏、一揆、身分制議会	河原　温	河原　温
8	ルネサンスとヨーロッパ	中世後期の社会変動の中でイタリアを中心に生じ、やがて全ヨーロッパに広がったルネサンスの文化運動を中世社会との関係でとらえなおす。特に北仏・ネーデルラントにおける「北方ルネサンス」の意義を再考する。 【キーワード】 人文主義、万能人、遠近法、ブルゴーニュ公国、宮廷文化	河原　温	河原　温
9	ルネサンスの終焉と近代の始まり	ルネサンスはある意味で中世の延長であった。確かに新しいヨーロッパを準備したが、ルネサンス的な枠組みが終わらなければ近代は始まらない。近代の始まりを告げる新しい枠組みが何かを考える。 【キーワード】 ルネサンス、大航海時代、文芸復興、人文主義、宗教改革、軍事革命、主権国家、全般的危機、新旧論争	草光　俊雄	草光　俊雄
10	宗教改革以降のヨーロッパの宗教と政治	カトリックが支配してきた中世ヨーロッパはプロテスタントの登場によって分断される。そして宗教を巡る地域的あるいは国家的な争いがその後のヨーロッパの歴史に大きな陰をもたらすことになる。16世紀から20世紀にいたる宗教紛争などを概観しながら宗教を巡る言説や政治を考える。 【キーワード】 ウィクリフ、フス、宗教改革、プロテスタント、カトリック、宗教戦争、ルター、カルヴァン、三十年戦争	草光　俊雄	草光　俊雄

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	海洋帝国とヨーロッパの海外膨張	ローマ帝国は基本的に陸地の帝国であった。大航海時代以降のヨーロッパは海に出て行くことによって覇権を競うものとなった。人びとの目はヨーロッパ大陸だけではなく、アジアやアメリカそしてアフリカに向けられていった。ヨーロッパと非ヨーロッパとの関係がどのように展開したかを概観する。 【キーワード】 海洋帝国、大航海時代、東洋の富、	草光　俊雄	草光　俊雄
12	新しい学問：科学、技術、商業	16世紀に始まった科学革命は自然認識についての新しい知見をもたらしたが、また科学や技術を社会や国家の繁栄に貢献させようとする意識が出てきた。豊かで強い国作りが求められ、商業や工業が発展し、新たな社会構造が創出された。このことによって現代まで続く西欧優位の世界が成立したといってよい。 【キーワード】 科学革命、商業革命、産業革命	草光　俊雄	草光　俊雄
13	啓蒙思想と近代ヨーロッパ	新しい学問はまた新しい人間についての考え方をもたらした。政治を誰が担当するのか、信仰についてどう考えるのか、人間社会はいかに関係を作っていくべきか、などが議論され、学問が専門化し、細分化されていく。 【キーワード】 啓蒙主義、経済学、フランス革命	草光　俊雄	草光　俊雄
14	新しい帝国意識と非ヨーロッパとの関係	ヨーロッパの覇権は19世紀にはいると新たな段階に到達する。帝国主義が世界を分割し植民地が増大する。20世紀になるとヨーロッパから始まる世界を巻き込む戦争が起こり、社会主義革命が拡がる。 【キーワード】 帝国主義、世界大戦、全体主義、民主主義	草光　俊雄	草光　俊雄
15	まとめ：ヨーロッパにおける統合と分離	まとめ。新しい歴史学によってヨーロッパの歴史がどのように書きかえられてきたか、いくつかの例を紹介しながら歴史の方法について話す。またヨーロッパの統合の問題についても長いスパンで見るとどうなるか、検討する。 【キーワード】 新しい歴史学、グローバル・ヒストリー、統合、分離、EU	草光　俊雄 河原　温	草光　俊雄 河原　温

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1551302	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ アメリカの歴史と文化 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：遠藤泰生（東京大学教授） 〕

講義概要

アメリカの歴史と文化を理解するにあたって最低限必要な基本的知識を15回にわたって講義する。抽象的な政治理念や争いの説明に終始することなく、人々の生活規範や民族集団の変成を具体的事例にそくして説明する。また、毎回の講義においては、歴史図像や時代の証人たちの声を数多く紹介し、アメリカ人の自己理解が多様で陰影に富むことをより深く理解する。

授業の目標

全15回の講義を通じて、世界の超大国となったアメリカ合衆国の歴史を、その光と影の両面から理解する。世界に類をみないその多元的文化の生成と変容をさまざまな角度から紹介し、アメリカ礼賛、アメリカ批判のいずれにも安易に組しない、均衡のとれたアメリカ理解の取得を目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	なぜアメリカ合衆国の歴史を学ぶのか？	アメリカ合衆国は植民地開闢以来400年の歴史を有する。世界の超大国として政治・経済・文化の各分野に圧倒的な力をもつにいたったアメリカの歴史を学ぶ意味は何なのか。多元国家の歴史に迫る意義を考える。 【キーワード】 北アメリカ大陸、多民族社会、アメリカニゼーション、グローバリゼーション	遠藤泰生（東京大学教授）	遠藤泰生（東京大学教授）
2	「新世界」の異文化接触	ヨーロッパ植民者と北米先住民（アメリカ・インディアン）は、異なる価値観や生活スタイルといった文化の接触と対立を経験した。両者の関係がアメリカ文化の形成にそののちどのように作用したのかを考える。 【キーワード】 北米先住民、植民者、インディアン戦争、野蛮と文明	白井洋子（日本女子大学教授）	白井洋子（日本女子大学教授）
3	「自由な社会」の光と影：南部奴隷制社会の成立	植民地時代から南北戦争まで続いた黒人奴隷制度は、アメリカ社会の拡大と発展に大きな影響を与えた。政治・社会・文化の幅広い側面からその歴史を振り返り、あわせて、現代のアメリカにおける「人種」の問題を考える手掛かりを探る。 【キーワード】 南部植民地、プランテーション農業、黒人奴隷制度、人種主義	中條献（桜美林大学教授）	中條献（桜美林大学教授）
4	独立戦争と建国の時代	アメリカ独立戦争は世界で初めての共和主義の革命であった。政治思想を共有した13の植民地が、新たに連邦国家を形成するまでの波乱の歴史を振り返り、あわせて、アメリカ建国の歴史が世界史に占める意味を考える。 【キーワード】 七年戦争、共和主義、独立宣言、合衆国憲法、啓蒙思想	遠藤泰生（東京大学教授）	遠藤泰生（東京大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	民主主義を可能にする社会	19世紀の南北戦争前の時代は、民主主義が本格的に実現した時代であった。その社会秩序実現に関して、第2次大覚醒と呼ばれた宗教運動、女性が主宰した家庭、及び、彼女たちが展開した様々な改革運動が互いに関連しつつ、どのような役割を果たしたかを考える。 【キーワード】 第2次大覚醒、近代家族、ヴィクトリアニズム、女性参政権運動	小檜山ルイ（東京女子大学教授）	小檜山ルイ（東京女子大学教授）
6	大陸国家の形成：光と影	19世紀は、アメリカが領土を太平洋岸に拡大した時代でもあった。先住民の強制移住を伴いながら展開した西漸運動が、アメリカの社会に与えた影響を、国内と国外の二つの視点から検討する。最後にC. ペリー来航の背景を探る。 【キーワード】 西漸運動、明白なる運命、カリフォルニア、C. ペリー	遠藤泰生（東京大学教授）	遠藤泰生（東京大学教授）
7	「アメリカ国民」の創造：南北戦争と再建の時代	南北戦争と再建の時代から、20世紀初頭までの歴史を扱い、奴隷制度の廃止と人種隔離制度の確立、インディアンの強制的同化、中国系移民の排斥だけでなく、連邦政府の権限の強化などを通して、「アメリカ国民」という存在が、政治的、文化的に規定されてゆくプロセスを描く。 【キーワード】 南北戦争、再建、ジムクロウ、国民国家	中條献（桜美林大学教授）	中條献（桜美林大学教授）
8	帝国の縁：ハワイとアメリカ史における「周縁」	ハワイは1898年の米西戦争を契機にアメリカへ併合された。独立国家であったハワイを、なぜアメリカは領土としたのか。ハワイの歴史をクローズアップしながら、世紀転換期のアメリカ社会について考える。 【キーワード】 太平洋、先住民、プエルトリコ、帝国主義	矢口祐人（東京大学准教授）	矢口祐人（東京大学准教授）
9	産業社会の到来：都市と農村	南北戦争後のアメリカでは、急激に資本主義的商工業が発達し、新移民が押し寄せ、民族・人種、文化的多様性に拍車をかけた。新たに出現した都市的アメリカと伝統的な農村的アメリカの相克、その間に立って、新しい社会秩序を構築しようとした革新主義の試みを紹介する。 【キーワード】 資本主義、新移民、ポピュリズム、革新主義	小檜山ルイ（東京女子大学教授）	小檜山ルイ（東京女子大学教授）
10	ジャズ・エイジ：繁栄から恐慌へ	第一次大戦への参戦によって世界の大国の一つとなったアメリカは、ジャズ・エイジとも呼ばれた20年代に、空前の経済的繁栄を謳歌した。だが、その繁栄は世界恐慌の到来とともにあっけなく崩壊し、連邦政府が主導する新たな福祉国家の導入を余儀なくされた。その時代の政治と文化を学ぶ。 【キーワード】 大衆消費社会、ヘンリーフォード、大恐慌、ニューディール	遠藤泰生（東京大学教授）	遠藤泰生（東京大学教授）
11	第二次世界大戦と日本	日米間の戦争が一般市民に与えた影響について学ぶ。とくに女性や人種・民族的マイノリティの人々にとって、この戦争がどのような意味を持ったのか、日系移民の運命などに焦点をあてながら考える。 【キーワード】 真珠湾、日系人、強制収容所、銃後の女性	矢口祐人（東京大学准教授）	矢口祐人（東京大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	シクシティーズ：社会抵抗運動と「新たな統合」の模索	第二次世界大戦後の「豊かな社会」から、公民権運動を主とする1960年代の社会抵抗運動を通じて、アメリカ合衆国が、国家的、社会的にあらたな統合を確立する過程を考える。 【キーワード】 公民権運動、M.L.キング、エスニック・リヴァイヴァル	中條献（桜美林大学教授）	中條献（桜美林大学教授）
13	ベトナム戦争とアメリカ社会	ベトナム戦争は、アメリカ社会に何をもたらしたのか。戦争評価をめぐる国論の分裂や反戦運動、帰還兵士の直面した問題、戦後建設された多様な戦没者記念碑などに触れながら、どのような価値観の変化があったのかを探る。 【キーワード】 ベトナム、反戦運動、帰還兵士、対抗文化、戦没者記念碑	白井洋子（日本女子大学教授）	白井洋子（日本女子大学教授）
14	アメリカ女性と20世紀	第一次世界大戦を境に、アメリカの女性の政治的立場と生活は大きく変わったが、女性たちがヴィクトリアニズム的近代の枠組みを最終的に打破したのは、1960年代以降の第2派フェミニズムを通じてであった。20世紀後半、アメリカの女性たちは何を求め、それはアメリカ社会をどのように変えてきたのかを考える。 【キーワード】 第2派フェミニズム、平等権修正、人工妊娠中絶、差異	小檜山ルイ（東京女子大学教授）	小檜山ルイ（東京女子大学教授）
15	9．11以後のアメリカと世界	冷戦の終焉を迎えたアメリカでは、1980年代以来、新たな保守主義の台頭が目立つ。21世紀における多元国家の行方をその象徴とも言えるニューヨークの歴史を取り上げながら、いま一度考える。 【キーワード】 9.11、ニューヨーク、多文化主義、保守主義、反米	遠藤泰生（東京大学教授）	遠藤泰生（東京大学教授）

事務局記載欄	開講年度	２０１１年度	科目区分	専門科目	科目コード	1554310	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　イスラーム世界の歴史的展開　（’１１）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：三浦　徹（お茶の水女子大学教授）〕

【本学担当専任教員：吉田　光男（放送大学教授）】

講義概要

イスラーム世界は、アジア・アフリカのみならず地球規模に広がり、イスラームという統合性と地域や時代による多様性とをあわせもち、他の文化圏との交流を通じて、ダイナミックな歴史を展開している。第一部（1－9回）では歴史的な発展を軸にイスラーム世界を縦に通観し、第二部（10-14回）では社会文化のしくみをテーマに横断する。対象地域は中東（アラブ、トルコ、イラン）を主とするが、他の地域との交流や比較を重視し、イスラーム世界を学ぶことから、歴史と現代を読み解くことを目標とする。

授業の目標

毎回の授業では、主題をしぼり、人物・地域・歴史資料など具体的な題材をとりあげて、講義をする。イスラーム世界と一口にいっても、地域や時代による違いが大きいが、本講義では、事項の羅列をさけ、核心となる主題の理解に集中する。そのうえで、発展的な学習課題を自習することによって、知識を広げ、深める。

履修上の留意点

イスラーム世界に関連する地域の科目として、「ヨーロッパの歴史と文化」「地中海世界の歴史」「中国社会の歴史的展開」が開講されている。また「現代の国際政治」は、9／11事件以降の国際社会について、アフガニスタンやイラクの問題を焦点に論じ、「異文化の交流と共存」では、イスラームと諸文化の交流が取りあげられている。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	イスラーム世界と日本	世界のムスリム人口は16億人ともいわれ、アジア、アフリカから欧米にもひろがり、民族や文化、また政治経済も多様である。他方、9/11事件以降、イスラームやムスリムに対する怖れや敵意が拡大している。なにが理解の壁となっているのか？日本とイスラーム世界との関わりをたどり、理解の鍵をさぐる。 【キーワード】 イスラーム世界、ムスリム、日本、ヴェール、モスク	三浦　徹（お茶の水女子大学・教授）	三浦　徹（お茶の水女子大学・教授）
2	イスラームの生誕と拡大：7－8世紀	イスラームは、メッカの商人ムハンマドが創唱し、信者は契約によって共同体国家を創った。カリフをリーダーとし各地に征服軍を送り、8世紀初めまでに西はイベリア半島から東はアフガニスタンまで拡大した。征服地では都市を拠点に統治体制を整え、キリスト教徒やユダヤ教徒も納税とひきかえに安全を保障された。イスラームが急速に広まった歴史的社会的な理由を考える。 【キーワード】 アラビア半島、ムハンマド、コーラン、ハディース、ヒジュラ、カリフ、ハラージュ	三浦　徹（お茶の水女子大学・教授）	三浦　徹（お茶の水女子大学・教授）
3	カリフの時代：8－10世紀	アッバース朝は、イスラームにもとづく統治体制を確立し、首都バグダードを中心とする国際商業が繁栄する。イスラーム法（シャリーア）に基づく政治の執行権は、カリフなどの支配者に委ねられ、ウラマー（イスラーム知識人）がコーランやハディースにもとづきシャリーアを体系化した。政治の安定と国際商業の繁栄のもとで、アラブ・イスラーム文化が広まっていく。 【キーワード】 アッバース朝、バグダード、シャリーア、ハディース、ウラマー、インド洋貿易、イスラーム科学	三浦　徹（お茶の水女子大学・教授）	三浦　徹（お茶の水女子大学・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	軍人政権の分立：9-11世紀	騎馬戦術にすぐれたトルコ人兵士の導入によって、マムルーク（奴隷軍人）や遊牧軍人が軍事力をにぎり、各地に政権を樹立する。異民族出身の軍人は、カリフから統治権を委ねられ、イクター制を基幹に都市と農村を支配し、ウラマーを行政官としてその協力のもとに統治体制をかためていった。 【キーワード】 軍人政権、スルタン、アミール、マムルーク、騎士、ウラマー、イクター制、マドラサ	三浦 徹（お茶の水女子大学・教授）	三浦 徹（お茶の水女子大学・教授）
5	交流するイスラーム世界：12-15世紀	12世紀から14世紀にかけ、イスラーム世界は、サハラ以南、中央アジア、南アジア、東南アジア、中国へと拡大した。ヨーロッパから十字軍、東方からモンゴルの侵攻をうけるが、軍人支配者のもとでイスラーム諸国家の統治制度は整えられ、ユーラシアとアフリカをまたぐ商人やウラマーの交流はさらに活性化し、農村と都市が発展する。 【キーワード】 十字軍、ジハード、モンゴル、サラディン、マムルーク朝、イブン・バットゥータ、マリ王国、スワヒリ	三浦 徹（お茶の水女子大学・教授）	三浦 徹（お茶の水女子大学・教授）
6	トルコ・モンゴル系国家とペルシア語文化：13-18世紀	トルコ・モンゴル系の遊牧部族の流入により、イラン・中央アジアに遊牧国家が出現した。そこでは、イラン系定住民が行政を掌握し、ペルシア語文化が栄えた。遊牧民の軍事力と定住民の経済力に基づく社会は、ティムール朝下のサマルカンドやヘラートの繁栄に結実し、さらに、サファヴィー朝やムガル朝という近世の大帝国を誕生させた。 【キーワード】 セルジューク朝、イルハン朝、ティムール朝、サファヴィー朝、ムガル朝、バーブル、アッバース1世、イスファハーン	近藤 信彰（東京外国語大学准教授）	近藤 信彰（東京外国語大学准教授）
7	オスマンの平和：14-19世紀	アナトリアの最西端に興ったオスマン朝は、バルカンやアラブ地域を征服し、地中海をまたぐ一大帝国に発展した。スルタンのもとに、軍人、文官、ウラマーの力を集め、多宗教・多言語の共存する統治体制を築いた。農牧を基盤とした地方社会には名士が台頭して経済を牽引し、国際交易が繁栄した。オスマン朝の発展を導いた政治・経済体制と、オスマン経済を実質的に支えていた遊牧民、農民、都市民の活動とを検討する。 【キーワード】 バルカン、イスタンブル、地中海、ティマール制、徴税請負、シパーヒー、イエニチェリ、デヴシルメ、カプクル、宮廷、イスラーム法廷、検地（タプ）、コーヒー	江川 ひかり（明治大学教授）	江川 ひかり（明治大学教授）
8	近代の出会いと衝突：19-20世紀	ナポレオンのエジプト遠征は、世界の覇権を争うヨーロッパの近代国家と中東・イスラーム世界が出会う近代を象徴する事件となる。ムハンマド・アリー朝、オスマン帝国、カージャール朝などで近代化にむけた改革が進み、イスラームの改革思想が生まれ、新たな政治体制をめざす立憲運動はヨーロッパ諸国の干渉のまえに挫折し、植民地化が進行する。 【キーワード】 ナポレオン遠征、ムハンマド・アリー朝、タンジマート改革、ミドハト憲法、オラービー運動、イラン立憲革命、不平等条約、東方問題、サラフィーヤ	三浦 徹（お茶の水女子大学・教授）	三浦 徹（お茶の水女子大学・教授）
9	植民地化とナショナリズム：ふたつの世界大戦	西欧列強による植民地分割に対し、各地でこれに抵抗する運動が起きる。第一次世界大戦後には、西欧列強との妥協を重ねながら、エジプト、シリア、イラク、サウジアラビア、トルコ、イランなどの諸国家が樹立される。しかし、分断された植民地体制から政治的独立を求める運動は、内部に民族と宗教と階級という亀裂を抱え、さらにパレスティナ問題が国際問題として浮上していく。 【キーワード】 統一と進歩委員会、トルコ革命、アラブ反乱、エジプト革命、パフラヴィー朝、パレスティナ問題、ナショナリズム、中東諸国体制	三浦 徹（お茶の水女子大学・教授）	三浦 徹（お茶の水女子大学・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	家族と女性	アラブ社会では父系の系譜が家族関係の基本となるが、個々人が相続権や財産権をもち、血族や姻族以外の実力者を取り込みながら、実践的な家や家族という集団がつくられた。女性は、信徒としては平等な地位をもったが、社会的には男性の庇護におかれ、ヴェールやハレムといった特有の生活形態を生み出した。 【キーワード】 家族、家、婚姻、女性、相続、中庭式住宅、ヴェール	三浦 徹（お茶の水女子大学・教授）	三浦 徹（お茶の水女子大学・教授）
11	都市と商人	中東では農業と牧畜と商業を連結した経済システムを特徴とした。経済的分業が進み、イスラーム法は私有権にもとづく公正な取引を保証し、国家や地域をこえた普遍法として適用された。都市では、ワクフ制度によって宗教施設と経済施設が整備された。都市と商業が興亡する理由を考える。 【キーワード】 灌漑農業、市場（スーク）、職人、ムフタシブ、ワクフ、私有権、国際商業	三浦 徹（お茶の水女子大学・教授）	三浦 徹（お茶の水女子大学・教授）
12	契約と裁判	イスラーム法は、借金や相続や売買の際に証人をたて文書で契約を交わすことを定め、イスラーム法廷で承認・登記された。カーディー（裁判官）のもとには、多種多様な訴訟が持ち込まれ、利害調停の役割を果たした。社会秩序の基礎となっていた契約と裁判のあり方を考える。 【キーワード】 イスラーム法廷、法廷文書、カーディー、公証人、インシャラー	三浦 徹（お茶の水女子大学・教授）	三浦 徹（お茶の水女子大学・教授）
13	スーフィーと聖者と教団	修行によって内面的な神の追究をめざすスーフィズムが発展し、スーフィー、聖者、スーフィー教団（タリーカ）はイスラームの拡大・浸透に大きな役割をはたした。同時に民衆の生活と密接に結合していた。スーフィー・聖者崇拝・スーフィー教団を介して民衆イスラーム社会の実態を考える。 【キーワード】 禁欲、スーフィー、スーフィズム、神秘主義、タリーカ、聖者、ナクシュバンディー教団、ティジャーニー教団	私市正年（上智大学・教授）	私市正年（上智大学・教授）
14	イスラームの造形文化	イスラームにおける偶像崇拝の禁止は、文字、植物、幾何学的形態によって華麗に装飾された宗教建築をうみだした。一方、宗教とは直接関係しない建築や美術・工芸品には、人物や動物の生き生きとした描写がみられた。オスマン朝を中心に建築、美術、工芸を概観する。 【キーワード】 偶像崇拝の禁止、モスク、建築、装飾、写本絵画	山下 王世（立教大学准教授）	山下 王世（立教大学准教授）
15	グローバル化時代のイスラーム世界	グローバル化はイスラーム世界の重要度を加速する。国際政治のみならず、欧米のムスリム移民は数百万規模をこえ、石油エネルギー資源とオイルマネーは世界経済の鍵を握り、イスラーム諸国ではイスラーム復興の潮流が強まっている。人類文化としてのイスラームをどう理解するかは私たちの共通課題である。 【キーワード】 パレスティナ問題、イラン・イスラーム革命、イスラーム復興、イラン・イラク戦争、フセイン、サウジアラビア、イスラーム主義運動（団体）、9／11事件、アフガニスタン侵攻、イラク戦争、ムスリム移民	三浦 徹（お茶の水女子大学・教授）	三浦 徹（お茶の水女子大学・教授）

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目コード	1559117	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 日本語学～母語のすがたと歴史～ （’０９）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：杉浦克己（放送大学教授） 〕

講義概要

普段日用していながら改めて意識することのない母語としての日本語を分析しその構造を明らかにしていく方途を、音韻、文字、文法、語彙、文章など様々な観点から概説し、日本語の特色とその歴史的な変遷を示す。言葉の学としてだけでなく、日本文学、歴史、日本文化など幅広い分野にわたって、母語としての日本語という観点から考えていくための一端緒を提供することにも配慮する。

授業の目標

普段省みることのほとんどない母語について、敢えてそれを分析するための手法とその意義を考えるための視点の一端を提供する。
日本語の特色とその歴史的な変遷についての知見を養う。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	言語・日本語・国語	言語学の対象としての言語の基本的な定義とその性質を概説する。 世界の言語の中での日本語の位置付けを概説する。 言語特に母語を分析・研究する考え方と手法を、内省、共時的な視点、通時的な視点などを中心に概説する。 本講義全15回の内容の概略とねらいを説明する。 【キーワード】 言語学、話し言葉、書き言葉、語族、母語、内省、共時的、通時的	杉浦克己（放送大学・教授）	杉浦克己（放送大学・教授）
2	音韻	言語音のとらえ方として、言語音の定義、音声と音韻の違いを概説する。 日本語の音韻を、音節及び拍を単位として分析し、その構造や性質を、五十音図を用いて整理する形で概説する。 日本語のイントネーション及びアクセントの基本的な性質を概説する。 【キーワード】 言語音、音声、音韻、単音、音素、有声音、無声音、子音、母音、音節、拍、モーラ音節、五十音図、イントネーション、アクセント、アクセントの型の対応	同上	同上
3	音韻史	日本語の音韻の歴史的な変遷を上代から順次概説する。個々の音の変化を通時的に述べるだけではなく、各時代における共時的な音韻相互の関係、漢字音の日本語への定着の過程、等について併せて説明を加える。 【キーワード】 上代特殊仮名遣、音節結合、ヤ行のエ、いろは歌、ハ行転呼、ワ行音、長母音、四つ仮名、撥音、促音、拗音	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	文字	言語における文字の機能の基本的なとらえ方について概説する。 日本語の文字を、漢字の移入と使用、平仮名の成立とその用いられ方、片仮名の成立とその用いられ方、の各項について概説し、それぞれの文字としての特性を明らかにし、用いられ方との関係を示す。 【キーワード】 表音文字、表意文字、漢字、音読み、訓読み、平仮名、片仮名	杉浦克己（放送大学・教授）	杉浦克己（放送大学・教授）
5	表記	現代の日本語の表記方法の特色を概説する。 漢字仮名交じり文の表記方法の変遷を、音韻の変化と関係助付けながら概説し、併せて漢字音の仮名表記についても上代を中心とした、漢字のみを用いた表記方法を、日本語における漢字使用の質的な変化と関係づけながら概説する。 【キーワード】 仮名遣い、現代仮名遣い、歴史的仮名遣い、定家仮名遣い、書記方向	同上	同上
6	語法	文法をとらえる基本として、規範文法と記述文法、語法と構文、の各々の観点を概説する。 日本語の品詞についていくつかの異なる学説を紹介し、その考え方の違いを示す。 日本語の自立語と付属語の本質的な違いや語形変化の規則性とその背景を概説する。 【キーワード】 文法、語法、規範文法、記述文法、学校文法、橋本文法、山田文法、時枝文法、品詞、自立語、付属語、詞と辞	同上	同上
7	構文	日本語の構文を考える上でのいくつかの視点を紹介し、それぞれの基盤となる考え方を概説する。 構文の要となる陳述と発話者の主観との関係を、いくつかの異なる視点から概説する。 述部を形成する諸要素の相互承接とその構文上の役割について概説する。 【キーワード】 連文節、喚体の句、述体の句、入れ子型構造、主語と述語	同上	同上
8	文法史	いわゆる学校文法の知見を基盤に、日本語の文法の変遷の概略を、上代（奈良時代）・中古（平安時代）・中世（鎌倉・室町時代）・近世（江戸時代）にわたって、用言の活用や助詞・助動詞の変遷や働きなどを主な例として概説する。 【キーワード】 学校文法、活用、活用語尾、ク語法、ミ語法、補助動詞、助動詞、助詞	同上	同上
9	語彙	単語とその意味の関係を、一般意味論的な観点から概説し、そこから明らかになる語の性質と、意味論の限界について述べる。 語と語の意味を記述するための様々な観点を紹介し、その本質的な違いについて述べる。 【キーワード】 単語、語彙、意味、一般意味論、形態素、意義素、意味特性、意味素性、	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	語誌	日本語の語彙を形成している和語、漢語、外来語について、それぞれの性質と背景を概説する。 語とその意味の変化をとらえる上での基本的な考え方を紹介する。 語とその意味の変化について、実例を挙げてその要因となる事項の代表的な例を概説する。 【キーワード】 和語、漢語、外来語、語誌、語史、語源、意味変化	杉浦克己（放送大学・教授）	杉浦克己（放送大学・教授）
11	待遇表現	対人的な配慮に基づく表現として待遇表現を位置付け、その例を紹介する。 日本語の敬語表現を、尊敬語、謙譲語、丁寧語に分類し、各々の性質を概説する。 実際の言語運用における待遇表現の役割について概説する。 【キーワード】 待遇表現、敬語、尊敬語、謙譲語、丁寧語、敬譲語、荘重語	同上	同上
12	文章・文体	言葉の単位としての文章と、文章を考える学である文章論について概説する。 分析対象としての文体の定義について述べ、文体を考える上での基本的な視点と文体を構成する要素について概説する。 日本語の主な文体と歴史的な変遷について概説する。 【キーワード】 文章論、修辞学、漢文体、漢文訓読体、和文体、和漢混淆文、口語体、言文一致、普通文、	同上	同上
13	方言・位相	方言というとらえ方を定義し、共通語、標準語と対置して概説する。 これまでの日本語の方言研究の概略を紹介し、日本語の方言区画について述べる。 方言を考える上でのいくつかの視点を紹介する。 日本語の位相の実態とそのとらえ方の一端を紹介する。 【キーワード】 方言、位相、共通語、標準語、俚言、方言区画、『日本言語地図』、方言周圏論、新方言、	同上	同上
14	日本語学史	日本語研究の歴史的な変遷を、中世の歌学、近世の国学、近代の西欧言語学移入以降、の三つに大きく区分し、各々の概略と背景、その成果について概説する。 近代以降の日本語研究について、代表的な学説を紹介し、その基本的な考え方の特色と主な成果について概説する。 【キーワード】 梵語学、歌学、てにをは、キリシタン資料、国学、玉緒学派、博言学	同上	同上
15	国語問題・国語教育	実際に活きて使われている日本の抱える国語問題の諸相として、漢字制限、仮名遣い、表記、話し言葉と書き言葉などの諸点を概説し、それらへの対応の現状と歴史的な変遷を示す。 国語教育の諸相の概略を示し、その中心となる国語科教育について、主に近代以降変遷を概説し、現状を位置付けその問題点や今後のあり方を示す。 【キーワード】 国語問題、国字問題、国字改良論、漢字制限、国語問題施策、言語生活、国語科教育、学習指導要領	同上	同上

＝　日本語基礎Ａ（‘０６）＝（TV）
－文法指導法と学習－

〔主任講師（現職名）：姫野　昌子（放送大学客員教授）　〕
〔主任講師（現職名）：伊東　祐郎（東京外国語大学教授）〕

全体のねらい

対象は、原則として日本語教育に関心を持つ日本人および上級の日本語能力を持つ外国人学習者である。放送教材は、すべて、日本語力が初級後半程度のレベルの学習者を対象とするが、この教材の構成、提示法を通して日本語教育の教授法の実際に触れる。印刷教材は、２部に分かれ、前半部は外国人学習者用の解説と課題、後半部は、日本人教師用の解説となっている。試験問題は、「外国語科目」の枠で履修する外国人学習者とはまったく別の内容・程度のものとなる。「専門科目」の枠で履修する者に対しては、印刷教材後半部を中心とする出題となる。内容は、日本の社会と文化の紹介、日本人の生活や働く姿の紹介、日本語能力試験３，４級レベルの文法事項、語彙、漢字の基礎的運用能力養成である。マルチメデイアの特色を生かしつつ、コミュニケーション能力を養成する楽しい講座を目指す。授業風景、実際的な練習場面、スキットやドキュメンタリーの視聴覚教材などを通して日本語指導法を示す。媒介語を使用しない直接法による授業、教材作成、学生の誤用の分析など、日本語教育学に関し、豊富な研究資料を提供する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	楽しい文法教室①	授業風景 ・動詞、形容詞、形容動詞の活用形 ・アスペクト、テンス ・「～て」形の用法 ・格助詞の用法「を」「で」「に」 ・漢字①線の形 ・日本の歌①「夏の思い出」	姫野昌子（放送大学客員教授）	姫野昌子（放送大学客員教授） 伊東祐郎（東京外国語大学教授）
2	スキット「発表の授業－準備－」	授業風景 ・自動詞と他動詞 ・変化「～くなる」「～になる」 ・変化「～くする」「～にする」 ・設置と処置　補助動詞「～ておく」 ・留学生によるインタビュー「漫画家　咲坂芽亜氏」 ・漢字②線と点の形 ・日本の歌②「だれもいない海」	藤村知子（東京外国語大学准教授） 姫野昌子（放送大学客員教授）	同上
3	スキット「発表の授業－漫画やアニメの始まり－」	授業風景 ・設置と処置の結果の状態　補助動詞「～てある」 ・単なる結果の状態　補助動詞「～ている」 ・誘発　感情動詞の他動詞化「人を～させる」 ・留学生によるインタビューと報告 ・漢字③構成要素 ・日本の歌③「雪の降る街を」	同上	同上

4	ドキュメンタリー 「東京の森－人工林で木を育てる－」	授業風景 ・可能表現「～することができる」 ・動詞可能形「行ける」 ・留学生によるインタビュー「あきる野市　製材所経営者　田中定男氏」 ・漢字④「さんずい偏」 ・日本の歌④「北国の春」	小林幸江（東京外国語大学教授） 姫野昌子（放送大学客員教授）	同　上
5	ドキュメンタリー 「東京の森－東京の木で家を造る－」	・引用表現「～と言う」「～と思う」 ・伝聞形「～そうだ」 ・留学生によるインタビュー報告 ・漢字⑤「人偏」 ・日本の歌⑤「この広い野原いっぱい」	同　上	同　上
6	ドキュメンタリー 「自然の力を利用した家－太陽の熱や光などの利用」	授業風景 ・条件「～と」「～たら」 ・留学生によるインタビュー「自然食店　富士山の野菜塾店長　佐藤環氏」 ・漢字⑥「木偏」 ・日本の歌⑥「この空を飛べたら」	鈴木美加（東京外国語大学准教授） 姫野昌子（放送大学客員教授）	同　上
7	ドキュメンタリー 「自然の力を利用した家－雨水の利用－」	授業風景 ・条件「～ば」「～ても」 ・留学生によるインタビュと報告「朝霧高原の牧場」 ・漢字⑦「手偏」 ・日本の歌⑦「恋人よ」	同　上	同　上
8	楽しい文法教室② 復習	授業風景 ・文法事項復習（１～７回） ・留学生によるインタビュー「江戸紙切り名人　桃川忠氏」 ・漢字⑧「日偏」 ・日本の歌⑧「忘れな草をあなたに」	姫野昌子（放送大学客員教授）	同　上
9	スキット 「お見合い－若い２人と仲人さん」	授業風景 ・様態　形容詞、形容動詞＋「～そうだ」 「痛そうだ、元気そうだ」 ・留学生によるインタビュー「大学生の結婚観」 ・漢字⑨「しんにゅう偏」 ・日本の歌⑨「冬が来る前に」	伊東祐郎（東京外国語大学教授） 姫野昌子（放送大学客員教授）	同　上
10	ドキュメンタリー 「お見合い－結婚相手紹介サービス会社」	授業風景 ・様態　動詞＋「～そうだ」「降りそうだ」 ・留学生によるインタビュー報告 ・漢字⑩「草かんむり、雨かんむり」 ・日本の歌⑩「旅人よ」	同　上	同　上

11	ドキュメンタリー 「文化を守る－丸岡の町－」	授業風景 ・授受動詞「もらう、あげる、くれる」 ・推移、変化　補助動詞「～てくる」「～ていく」 ・留学生によるインタビュー「歌舞伎役者　市川男女蔵氏」 ・漢字⑪「ウかんむり「門がまえ」 ・日本の歌⑪「心の旅」	荒川洋平（東京外国語大学准教授） 姫野昌子（放送大学客員教授）	同　上
12	ドキュメンタリー 「文化を守る－子ども歌舞伎」	授業風景 ・待遇表現「～てくれる」「～てもらう」「～てあげる」 ・留学生によるインタビュー報告 ・漢字⑫「 ・日本の歌⑫「恋人もいないのに」	同　上	同　上
13	ドキュメンタリー 「東京の水道－水を安全に届ける－」	授業風景 ・直接の受身「人を対象とする動詞」 ・非情主の受身 ・留学生によるインタビュー「岐阜県高山　オークヴィレッジ」 ・漢字⑬「２つの訓読みを持つ漢字」 ・日本の歌⑬「みずいろの雨」	柏崎雅世（東京外国語大学教授） 姫野昌子（放送大学客員教授）	同　上
14	ドキュメンタリー 「東京の水道－水を安全に守る－」	授業風景 ・「持ち主の受身」「迷惑の受身」 ・留学生によるインタビュー報告 ・漢字⑭「訓読みと音読みを持つ漢字」 ・日本の歌⑭「あのすばらしい愛をもう一度」	同　上	同　上
15	楽しい文法教室③ 総復習	授業風景 ・文法事項復習（１～14回） ・留学生の司会による「桃川忠氏江戸紙切り実演会」 ・漢字⑮「熟語」 ・日本の歌⑮「さとうきび畑」	姫野昌子（放送大学客員教授）	同　上

科目名（メディア）＝　日本語基礎Ｂ（‘０７）＝（Ｒ）
－コミュニケーションと異文化理解－

〔主任講師（現職名）：姫野　昌子（放送大学客員教授）〕
〔主任講師（現職名）：伊東　祐郎（東京外国語大学教授）〕

講義概要

対象は、原則として日本語教育に関心を持つ日本人および上級の日本語能力を持つ外国人学習者である。放送教材は、すべて、日本語力が初級後半程度のレベルの学習者を対象とするが、この教材の構成、提示法を通して日本語教育の教授法の実際に触れる。印刷教材は、２部に分かれ、前半部は外国人学習者用の解説と課題、後半部は、日本人教師用の解説となっている。試験問題は、「外国語科目」の枠で履修する外国人学習者とはまったく別の内容・程度のものとなる。「専門科目」の枠で履修する者に対しては、印刷教材後半部を中心とする出題となる。放送教材は、機能別モデル会話、外国人の異文化体験談インタビューと解説、日本の代表的な都市と紹介、日本の詩歌の朗読と解説から構成されている。

授業の目標

外国人日本語学習者のコミュニケーション能力と異文化理解能力を養成する教授法を示す。会話能力の養成、異文化コミュニケーションに関する考察、代表的都市の地理的条件、文化・歴史的特徴などの理解、詩歌紹介を通した日本人の感性理解、初級から中級前半にかけての文法習得など諸事項の指導法提示を目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	導入 各課の内容と全体の流れの説明	・「挨拶や会話」導入 ・「異文化コミュニケーションインタビュー」導入 ・「異文化メモ」導入 ・「地方紹介」導入 ・日本の詩歌：俵万智の短歌『サラダ記念日』所収 ・音楽：神山純一「旅立ちの時」	姫野　昌子 伊東　祐郎 田山のり子（東京外国語大学教授） 藤森弘子（東京外国語大学教授） 初鹿野阿れ（東京国際大学講師） 池田智子（桜美林大学准教授）	姫野昌子（放送大学客員教授） 伊東祐郎（東京外国語大学教授）
2	会話① 異文化コミュニケーション① 北の街　札幌	・出会いの挨拶と会話の開始 ・外国人へのインタビュー①：出会いの表現 ・異文化メモ：出会いの挨拶 ・札幌の紹介 ・日本の詩歌：三好達治の詩「雪」『測量船』所収 ・音楽：さだまさし「北の国から」	同	同

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
3	会話② 異文化コミュニケーション② 森の都　仙台	・別れの挨拶 ・外国人へのインタビュー②：別れの表現 ・異文化メモ：別れる時の表現 ・仙台の紹介 ・日本の詩歌：石川啄木の短歌『一握の砂』所収 ・音楽：さとう宗幸「青葉城恋唄」	同	同
4	会話③ 異文化コミュニケーション③ 首都　東京	・電話の終了 ・外国人へのインタビュー③：電話で話した経験 ・異文化メモ：電話での話し方 ・東京の紹介 ・日本の詩歌：高村光太郎の詩「あどけない話」『智恵子抄』所収 ・音楽：喜多郎「キャラバンサライ」	同	同
5	会話④ 異文化コミュニケーション④ 北の小京都 金沢	・謝罪の会話 ・外国人へのインタビュー④：謝罪の経験 ・異文化メモ：謝罪の表現と態度 ・金沢の紹介 ・日本の詩歌：室生犀星「小景異情」『抒情小曲集』所収 ・音楽：倉本悠基「哀しみの空」	同	同
6	会話⑤ 異文化コミュニケーション⑤ 商業都市 名古屋	・言い訳の会話 ・外国人へのインタビュー⑤：言い訳の経験 ・異文化メモ：言い訳の表現と態度 ・名古屋の紹介 ・日本の詩歌：寺山修司「故郷の母のことを思い出したら」『人生処方詩集』所収 ・音楽：苫米地義久「ほのかな夜明け」	同	同
7	会話⑥ 異文化コミュニケーション⑥ 古都　京都	・依頼と承諾の会話 ・外国人へのインタビュー⑥：依頼の経験 ・異文化メモ：依頼の心遣い ・京都の紹介 ・日本の詩歌：与謝野晶子の短歌『みだれ髪』『恋衣』所収 ・音楽：城乃内ミサ「京の小道」	同	同
8	復習	復習 ・音楽：宗次郎「エンサールの森」	同	同

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
9	会話⑦ 異文化コミュニケーション⑦ 商業の街 大阪	・誘いと承諾の会話 ・外国人へのインタビュー⑦：間接的な誘いの経験 ・異文化メモ：誘いの表現法 ・大阪の紹介 ・日本の詩歌：茨木のり子の詩「六月」『見えない配達夫』所収 ・音楽：「宵待ち草」	同	同
10	会話⑧ 異文化コミュニケーション⑧ 平和を願う街 広島	・断りの会話 ・外国人へのインタビュー⑧：間接的に断られた経験 ・異文化メモ：断りの表現法 ・広島の紹介 ・日本の詩歌：峠三吉『原爆詩集』序 ・音楽：中国地方の子守歌	同	同
11	会話⑨ 異文化コミュニケーショ⑨ 俳句と温泉の街 松山	・感謝の会話 ・外国人へのインタビュー⑨：感謝の表現に関する経験 ・異文化メモ：感謝の表現法と習慣 ・松山の紹介 ・日本の詩歌：正岡子規の俳句『寒山落木』所収 ・音楽：宮城道雄「春の海」	同	同
12	会話⑩ 異文化コミュニケーション⑩ 異国への窓 長崎	・贈答の会話 ・外国人へのインタビュー⑩：贈答の経験 ・異文化メモ：贈答の習慣 ・長崎の紹介 ・　日本の詩歌：金子みすゞの詩「大漁」『金子みすゞ全集』所収 ・音楽：島原地方の子守歌	同	同
13	会話⑪ 異文化コミュニケーション⑪ 南国　鹿児島	・ほめやねぎらいの会話 ・外国人へのインタビュー⑪：ほめとねぎらいの経験 ・異文化メモ：ほめやねぎらいの表現と態度 ・鹿児島の紹介 ・日本の詩歌：若山牧水の短歌『海の声』所収 ・音楽：五木の子守唄	同	同
14	会話⑫ 異文化コミュニケーション⑫ 南の島々 沖縄	・苦情・不満の会話 ・外国人へのインタビュー⑫：会社勤めの体験と苦情の経験 ・異文化メモ：苦情・不満の表現法 ・沖縄の紹介 ・日本の詩歌：谷川俊太郎の詩「かなしみ」『二十億光年の孤独』所収 ・音楽：安里屋ユンタ	同	同

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
15	総復習	総復習 ・音楽：姫神「海道を行く」	同	同

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1571001	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　日本の古典―古代編　　（’０９）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：多田一臣（東京大学大学院教授）　　〕

〔主任講師（現職名）：藤原克己（東京大学大学院教授）　　〕

講義概要

言葉によって世界を把握する過程で、人々が文学の言葉の力を発見したその始原から、漢文学の受容をも重要な契機・触媒として、和歌・物語・日記・説話などの文芸が形成され、それらが相互に交流しながら展開した様相を明らかにする。また、古典の言葉がもつ力、その豊かさとこまやかさが忘れられかけているこんにち、古典を読むよろこびを再発見できるような講義にしたい。

授業の目標

(1)和歌・物語・日記・漢詩文・説話といったジャンルが、相互に没交渉であったのではなく、互いに交流しながら、その思想・表現を深化させていった、そのようなダイナミックなものとして、日本の古典文学を理解すること。
(2)生きること、愛することのよろこびとかなしみ、花や月や、現実のくびきから解放された世界へのあこがれ、また時代・社会に対する観察などが、古典文学作品においてどのように表現されているかを知り、味わい、古典を読むよろこびを、より深く再認識すること。

履修上の留意点

とくに専門的な予備知識は必要としないが、柔軟な思考力、鑑賞力、想像力をはたらかせながら講義を聴き、また印刷教材を熟読すること。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	文学の発生	文学の発生は、混沌とした未分化の中にある祭式のさまざまな表現の中から自立してくる過程といってもよい。ここでは、言霊信仰を糸口とすることで、古代の文学の発生と展開の諸相について考えていく。 【キーワード】	多田　一臣（東京大学大学院教授）	多田　一臣（東京大学大学院教授）
2	フルコトの世界―『古事記』とその周辺	古来共同体の語りの場で伝えられてきた聖なる詞章をフルコトと呼ぶ。古代の叙事文学は、このフルコトを基本に成立している。ここでは、『古事記』を中心に、フルコトから展開した語りごとの世界をながめていく。 【キーワード】	同　上	同　上
3	『万葉集』の世界（1）	歌謡から和歌への流れをたどりながら、初期万葉から柿本人麻呂あたりの歌までを概観する。旋頭歌と短歌、長歌謡と長歌の関係について考察していく。表現史的な視点が中心となる。 【キーワード】	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	『万葉集』の世界(2)	柿本人麻呂以後の和歌の歴史を概観してみたい。人麻呂以後の和歌がどのように変化していったのかを、山上憶良、高橋虫麻呂、大伴家持などの作を中心に考える。 【キーワード】	多田　一臣	多田　一臣
5	古代説話の誕生—『日本霊異記』の世界	古代説話は仏教説話として誕生した。それは仏教が律令制度に見合う普遍性をそなえた宗教だったからである。わが国最古の説話集『日本霊異記』の世界をながめることで、そこに表現された古代の人びとの生活意識について考えてみたい。 【キーワード】	同　上	同　上
6	古代漢文学の形成と展開	日本の古典文学は、漢文学の受容によって生成展開したと言っても過言ではない。この章では、『懐風藻』から菅原道真の詩までを扱い、反俗的な精神や唯美主義的な美意識の形成に注目し、古今集歌風との関連についても考える。 【キーワード】	藤原　克己（東京大学大学院教授）	藤原　克己（東京大学大学院教授）
7	『古今和歌集』の世界	古代漢文学において形成された反俗的な精神と唯美主義が、古今集時代の和歌にどのように継承されたのかということを明らかにしながら、『古今集』の恋歌や雑歌が、平安朝の日記や物語の主題とその表現の基盤になってゆく様相を見通す。 【キーワード】	同　上	同　上
8	物語文学の形成	『伊勢物語』『竹取物語』を通して、物語文学における色好みと愛の主題が形成されてくる様相を考察する。また古代漢文学や古今集歌に見られたような反俗的な精神が、物語文学にはどのように継承されているのかを明らかにする。 【キーワード】	同　上	同　上
9	物語文学の展開	主として『うつほ物語』『落窪物語』を通して、物語文学における色好みと愛の主題および反俗的な精神の主題が展開する様相を考察し、『源氏物語』への流れを浮かびあがらせる。 【キーワード】	藤原　克己	藤原　克己
10	女流日記文学の成立と展開	平安中期以降の文学は、女流作家の活動によって特徴づけられる。ここでは、女流日記の系譜をながめることで、その文学的な特質について検討する。『蜻蛉日記』『紫式部日記』『更級日記』などを取り上げ、物語文学との接点についても考える。 【キーワード】	多田　一臣	多田　一臣

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	『枕草子』の世界	『枕草子』には、それまでの和歌には見られなかった景物や感覚の表現が生まれていることに注目し、それが平安後期の和歌の革新とも相通ずる現象であることを明らかにする。 【キーワード】	藤原　克己	藤原　克己
12	王朝漢文学の熟成	主として10世紀の源順、源為憲、菅原文時、慶滋保胤、そして紫式部の父藤原為時らの漢文学を扱い、『うつほ物語』や『源氏物語』の世界形成にも深く関わった平安朝漢文学の意義を明らかにする。また王朝漢詩における句題詩から無題詩への変化についても解説する。 【キーワード】	同　上	同　上
13	『源氏物語』の世界(1)	『源氏物語』第一部を扱い、光源氏の造型に、いかに古代漢文学や初期物語の思想が息づいているか、またこの物語は時代社会をどのように写し取っているのか、といったことを考察する。また、この物語の心理描写、人間観察の深さ、こまやかさにも注目したい。 【キーワード】	同　上	同　上
14	『源氏物語』の世界(2)	物語の第二部・第三部においては、男女間の愛情は永続しうるのかという問いが深刻に追求され、互いに思い交わしていながら、その思いが相手に伝わらないという事態が繰り返し描かれる。そのような愛のかなしみの物語を、深く味読したい。 【キーワード】	同　上	同　上
15	王朝の光と闇―『大鏡』と『今昔物語集』	王朝の栄光がしだいに薄れていく中、しだいにその闇の部分がせり出してくる。とくに「侘シキ」者たちが登場してきたことの意味は大きい。光と闇とが交錯するそのありようを、『大鏡』と『今昔物語集』の世界を通じて明らかにしてみたい。 【キーワード】	多田　一臣	多田　一臣

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	専門科目	科目コード	1554417	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 和歌の心と情景 （’１０）＝ （ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：島内裕子（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：渡部泰明（東京大学教授）〕

講義概要

日本の歴史を貫いて詠み継がれてきた、和歌の魅力と意義について解説する。『万葉集』から近代短歌まで幅広く取り上げ、それぞれの時代を代表する歌人・歌集・和歌について考察し、大きな和歌史の流れが理解できるようにする。また、和歌だけを孤立的に捉えるのではなく、和歌が生きていた世界が具体的にわかるように、物語や随筆など散文との関係、あるいは古筆や美術・造園との関わりや古典学との関連へと視野を広げ、それによって日本文化の精髄の位置を占めてきた和歌の生命力を明らかにする。

授業の目標

①歌集や歌人など、和歌史に関する基本的な知識を習得する。②和歌の表現方法および表現構造について、それがどのようなものか理解する。③和歌の味読の仕方を理解する。④散文・書道・美術・古典学など、他の文学・文化領域と和歌の関係を具体的に知ることで、和歌が文化の中で果たした役割を理解する。⑤以上を総合することで、和歌がなぜこれほど長く続いたのか、その生命力の強さを実感し、日本文化への理解を深める。⑥授業で取り扱った歌集に実際にふれて、和歌への理解を広げる。

履修上の留意点

他の日本文学の科目も履修すると、幅広く学ぶことができる。なお、これらの科目の履修順序は特に定めていないので、まずは興味のある科目から履修するとよい。日本文学全般に関わる科目として、「国文学入門（’09）」。日本文学の名文・名場面を中心に学ぶ科目として、「日本文学の読み方（’09）」。各時代の日本文学を詳しく学ぶ科目として、「日本の古典－古代編（’09）」「日本の古典－散文編（’06）」「日本の古典－江戸文学編（’06）」「日本の近代文学（’09）」がある。また、「文献学（’08）」および日本語を学ぶ科目なども、あわせて履修することが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	『万葉集』の風景と抒情	我が国最古の歌集『万葉集』に収められた和歌の特色を、風景がどのように詠まれているか、という点から考える。具体的には、額田王、柿本人麻呂、大伴家持ら、『万葉集』中の各時代を代表する歌人の歌を取り上げる。 【キーワード】 『万葉集』、風景、額田王、柿本人麻呂、『柿本人麻呂歌集』、大伴家持	渡部泰明（東京大学教授）	渡部泰明（東京大学教授）
2	和歌の表記～仮名古筆の世界～	平安時代に至り、平仮名が生まれたことで、和歌は書いて表現し読んで味わう文学として大きく発展することとなった。和歌はどのように書き表されたのかを、古筆の名品を例示して概説すると共に、その表記方法と和歌表現の関係を、端的な例によって考える。 【キーワード】 平仮名、古筆、古筆切れ	杉浦克己（放送大学教授）	杉浦克己（放送大学教授）
3	小野小町とその伝承	六歌仙の一人、小野小町が実際に詠んだ『古今和歌集』の和歌を中心に読み味わう。それに加えて、平安時代以降も実像とはかけ離れてさまざまな広がりを見せている小野小町の伝承も考察する。 【キーワード】 小野小町、『古今和歌集』、六歌仙、『小町集』、小町伝承	島内裕子（放送大学教授）	島内裕子（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	王朝和歌と「歌合」	王朝文化を象徴する和歌行事である「歌合」について、代表的な歌合である『高陽院殿七番歌合』と『六百番歌合』を取り上げて、その実際の形態や意義について考える。 【キーワード】 歌合、『高陽院殿七番歌合』、『六百番歌合』、題詠、判	渡部泰明（東京大学教授）	渡部泰明（東京大学教授）
5	『伊勢物語』と『源氏物語』の和歌	物語の中で、和歌がどのように機能し、どのような人間関係を反映しているのか、そして和歌を詠むことで物語の登場人物が「世界」とどのように関わったのかを、「旅」や「恋」の名場面に即して解説する。 【キーワード】 『伊勢物語』、『源氏物語』、旅、恋、人間関係	島内景二（電気通信大学教授）	島内景二（電気通信大学教授）
6	西行の旅と和歌	歌人西行の旅中の和歌を読み味わい、そこから西行の魅力の根底に「境界の歌人」としての特質があることを理解する。 【キーワード】 西行、遁世、旅、『山家集』、『西行法師家集』、境界	渡部泰明（東京大学教授）	渡部泰明（東京大学教授）
7	藤原俊成・定家と、歌の家	藤原俊成・定家父子が、その後の日本文学史のみならず、日本文化史全体に及ぼした影響力の大きさを明らかにする。あわせて、日本文化に占める和歌の比重の大きさを測定する。 【キーワード】 藤原俊成、藤原定家、『新古今和歌集』、『小倉百人一首』、源氏学の源流、宇都宮歌壇	島内景二（電気通信大学教授）	島内景二（電気通信大学教授）
8	将軍源実朝の和歌	歌人源実朝の和歌を取り上げ、その表現の特徴を把握するとともに、そこに作者のどのような思いが込められているかを分析する。 【キーワード】 源実朝、『金槐和歌集』、将軍、「音」、『万葉集』	渡部泰明（東京大学教授）	渡部泰明（東京大学教授）
9	歌人としての長明と兼好	『方丈記』『徒然草』の著者として名高い長明と兼好は、家集も持つ勅撰歌人である。彼らは歌人としてどのような活動をし、歌人であることが彼らにとってどのような意義を持っていたのか。長明と兼好の知られざる側面に光をあてる。 【キーワード】 長明、『方丈記』、兼好、『徒然草』、隠遁	島内裕子（放送大学教授）	島内裕子（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	南北朝時代の和歌	南北朝時代を含む14世紀は、戦乱に明け暮れた動乱の時代であったが、『玉葉和歌集』『風雅和歌集』『新葉和歌集』など特色ある和歌を含む歌集をも生みだした。それらの代表的な和歌を取り上げ、「抒情歌」と「叙景歌」の関係を考える。 【キーワード】 京極派、『玉葉和歌集』、『風雅和歌集』、『新葉和歌集』、抒情歌、叙景歌	島内裕子（放送大学教授）	島内裕子（放送大学教授）
11	古今伝授の意義	古今伝授は、その権威主義や秘密主義が否定されてきたが、古典が受け継がれていくために必要な営為であり、しかも魅力的な教育プログラムでもあった。とくに宗祇の時代の古今伝授を中心に、その実態と意義を考察する。 【キーワード】 古今伝授、宗祇、東常縁、『古今和歌集両度聞書』	渡部泰明（東京大学教授）	渡部泰明（東京大学教授）
12	六義園と和歌	駒込の地に柳沢吉保が造営した六義園は、「和歌の理念」を空間化した画期的な大名庭園である。ここには、北村季吟が吉保に授けた「古今伝授」の理念が完璧に結晶している。江戸文化にとっての「和歌」の意味を、六義園という場所から定義する。 【キーワード】 六義園、柳沢吉保、北村季吟、古今伝授	島内景二（電気通信大学教授）	島内景二（電気通信大学教授）
13	契沖と宣長～和歌の文法～	国学者たちが古典としての和歌作品にどのように取り組んだのか、その一端を、契沖『古今余材抄』・宣長『古今和歌集遠鏡』を例に紹介する。特に「係り結び」や「活用」などについての当時の精緻な古典文法研究の成果をふまえ、和歌の文法的構造と表現の関係を考察する。 【キーワード】 契沖、本居宣長、『古今余材抄』、『古今和歌集遠鏡』、係り結び、活用	杉浦克己（放送大学教授）	杉浦克己（放送大学教授）
14	描かれた和歌	美術の分野における和歌の描かれ方を通して、和歌の情景がどのように視覚化されているかを概観し、あわせて歌人たちの肖像画である歌仙絵も取り上げる。 【キーワード】 『小倉百人一首』、三十六歌仙、歌仙絵	杉浦克己（放送大学教授）	杉浦克己（放送大学教授）
15	近代短歌の世界	明治以降、和歌は短歌と呼び方を変えた。その短歌は、和歌とどのように連続し、どのような新しさがあるのか。与謝野鉄幹・晶子、北原白秋、斎藤茂吉などの短歌に即して解説する。 【キーワード】 与謝野鉄幹・晶子、北原白秋、斎藤茂吉	島内景二（電気通信大学教授）	島内景二（電気通信大学教授）

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目コード	1574400	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　日本文学の読み方　　（’０９）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：島内裕子（放送大学教授）　　〕

講義概要

この講義は、次の2点に重点を置いて構成している。すなわち、ほぼ年代順に作品を配列することによって、コンパクトな日本文学史としての側面を持つこと。と同時に、原文や歌句の選択に意を用いて、名文選・名歌選・名句選としてのアンソロジー的な側面を持つことの2点である。さらに、以上の2点に加え、個々の作品をいかに読み解き、研究するか、その方法論や研究史にも触れて、日本文学を総合的に、かつ深く読み込むことを目指す内容になっている。

授業の目標

第1に、比較的長い分量で抄出した文学作品の原文を通して、その文体・表記・表現を十分に会得することを目標とする。第2に、古代から現代にいたる日本文学の消長と潮流を、巨視的に把握することを目指す。第3に、外国文学も含めた他の作品との影響関係や、思想・絵画・音楽なども視野に入れて、作品の読み方や研究法を提示し、卒業研究に向けての準備学習も兼ねる。

履修上の留意点

国語・国文学関係の他の科目を受講すれば、相互補完的に幅広く学習できるので、ぜひとも勧めたい。さらに、外国文学・哲学・思想・美学・歴史など、どの分野も日本文学と直接・間接に関わるので、これらの科目も広く学ぶことが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	『古事記』『万葉集』と現代	『古事記』と『万葉集』を中心に、文学の始発としての上代作品を取り上げる。『古事記』の名場面や万葉名歌選を通して、原初の文学表現に触れるとともに、それらが近現代にも繋がっていることを再認識し、本科目の序章としての役割も担う。 【キーワード】 『古事記』、『万葉集』、本居宣長、正岡子規	島内裕子（放送大学教授）	島内裕子（放送大学教授）
2	『古今和歌集』の影響力	最初の敕撰和歌集である『古今和歌集』が、日本の文学・文化に与えた影響力を概説するとともに、『古今和歌集』の名歌を鑑賞する。さらに、和歌の表現や技法、歌の贈答と独詠など、和歌文学の全体像を視野に納め、『百人一首』や中世和歌にも触れる内容である。 【キーワード】 『古今和歌集』、『新古今和歌集』、和歌の技法、詩歌アンソロジー	島内裕子（放送大学教授）	島内裕子（放送大学教授）
3	『枕草子』の優雅と辛辣	名文・名場面の宝庫である『枕草子』。その中から、「優雅と辛辣」という観点で、選りすぐりの原文を読む。さらに、『枕草子』の作品としての画期性や影響力にも触れ、随筆文学の内実を検討し直す。 【キーワード】 『枕草子』、清少納言、あはれ、をかし、随筆文学	島内裕子（放送大学教授）	島内裕子（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	『源氏物語』と日本文化	今や『源氏物語』は、日本文学の傑作にとどまらず、翻訳研究も盛んな世界文学である。国内外での評価、日本文化における位置づけなど、巨視的にその全体像を把握し、ぜひ原文で読んでみたい名場面を収める。本科目の眼目となる章の一つである。 【キーワード】 『源氏物語』、紫式部、物語文学、翻訳	島内裕子（放送大学教授）	島内裕子（放送大学教授）
5	『和泉式部日記』と『更級日記』の近代性	平安時代の日記文学を、堀辰雄・室生犀星など近代文学との響映の観点から読む読み方を概説する。歌日記としての『和泉式部日記』では恋歌を、『更級日記』では人生の各時代の感慨に焦点を当てて、原文を講読する。 【キーワード】 『和泉式部日記』、『更級日記』、堀辰雄、室生犀星、古典と近代	島内裕子（放送大学教授）	島内裕子（放送大学教授）
6	『方丈記』を読み直す	『方丈記』とは、本当に無常観の文学なのだろうか。近代の文学者たちによる『方丈記』の読み方を通して、近現代にまで強く息づく『方丈記』の本質を見きわめる。「行く川の流れは絶えずして」以下、『方丈記』の名調子を堪能しつつ、鴨長明の内奥を追体験する。 【キーワード】 『方丈記』、鴨長明、夏目漱石、評論文学	島内裕子（放送大学教授）	島内裕子（放送大学教授）
7	『徒然草』の表現力	現代まで広く読み継がれ、高い人気を誇る『徒然草』の魅力とは何か。『徒然草』こそは、和歌・俳句に匹敵する、「瞬間記憶型名短文」の宝庫である。多様なスタイルの原文を豊富に収め、『徒然草』の本質が、抒情性に裏打ちされた思想性にあるという読み方を提示する。 【キーワード】 『徒然草』、兼好、韻文と散文、思想と抒情	島内裕子（放送大学教授）	島内裕子（放送大学教授）
8	『平家物語』の人間観	『平家物語』の名場面を取り上げながら、その表現と構造のダイナミズムに触れる。無常観や人間観、戦さと鎮魂の文学は、『平家物語』の前後の時代で、どのように展開してゆくのか、近代にいたるまでの長い射程で考える。 【キーワード】 『平家物語』、軍記物、『太平記』、戦記文学	島内裕子（放送大学教授）	島内裕子（放送大学教授）
9	謡曲というスタイル	先行文学との関わりに力点を置きながら、謡曲の原文に特有な重層的表現や、深い心情の発露を味読する。和歌・『伊勢物語』、『源氏物語』、『平家物語』などが謡曲の中でどのように変容したか、さらには近代文学者や外国における謡曲の受容にも射程に入れる。 【キーワード】 謡曲、世阿弥、『風姿花伝』、幽玄、三島由紀夫	島内裕子（放送大学教授）	島内裕子（放送大学教授）
10	連歌と連歌師の世界	中世の時代に隆盛を極めた連歌の世界を概観する。古典文化の伝播者としての宗祇やその弟子たちの活動や、各地の武士たちと文学の関わりに注目する。さらに、中世から近世への時代の転換を俯瞰し、この時代に古典学が集大成されたことの意義を考察する。 【キーワード】 連歌、宗祇、武士と文学、注釈書、古典学	島内裕子（放送大学教授）	島内裕子（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	松尾芭蕉の旅と人生	現代人にとって、芭蕉の人間性と文学性は、単なる古典の世界を越えて、今を生きる指針とさえなっている。その魅力と親しみは、どこから来るのか。芭蕉における発句・俳文・紀行文など、ジャンルの多様性、外国における受容なども絡めて、幅広く考察する。 【キーワード】 松尾芭蕉、『おくのほそ道』、旅と草庵、俳文	島内裕子（放送大学教授）	島内裕子（放送大学教授）
12	近松と西鶴に見る文学の変容	近松門左衛門と井原西鶴は、元禄時代のみならず、近代日本文学への影響も無視できない文学者である。彼らの文学世界に表れた、大きな変容に焦点を当て、人間を見る目の確かさや、現代にも通ずる文学観などを概観しながら、近松と西鶴の名文・名場面を取り上げる。 【キーワード】 近松門左衛門、井原西鶴、写実、武士と町人	島内裕子（放送大学教授）	島内裕子（放送大学教授）
13	本居宣長の文学と学問	『古事記伝』や「もののあはれ」論によって名高い国学者・本居宣長を中心に取り上げ、文学研究とは何であるかを考える。宣長が提起した『源氏物語』の読み方の画期性や、彼の和歌論を原文で読むことは、新鮮な感動と驚きを体感させてくれることだろう。 【キーワード】 本居宣長、『古事記伝』、『玉の小櫛』、「もののあはれ」	島内裕子（放送大学教授）	島内裕子（放送大学教授）
14	和漢洋の体現者・森鷗外	森鷗外は、和漢の教養と、留学体験によって世界に開かれた学識を兼備した文学者である。日本と西洋の文学・芸術のせめぎ合いから生まれた近代文学の始発を、鷗外の翻訳と創作の双方を視野に入れつつ、原文の味読によって捉え直す。 【キーワード】 森鷗外、ドイツ三部作、『即興詩人』、史伝	島内裕子（放送大学教授）	島内裕子（放送大学教授）
15	夏目漱石と近代文学のゆくえ	夏目漱石が切り開いた近代小説の世界とは、何であったのか。彼の文学的閲歴や交友、人生など、さまざまの側面からのアプローチを通して考える。現代でも多くの人々の心をとらえてやまぬ漱石文学の淵源とゆくえを見きわめ、本科目の総まとめを兼ねる。 【キーワード】 夏目漱石、『硝子戸の中』、書簡、英国体験、『草枕』	島内裕子（放送大学教授）	島内裕子（放送大学教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1551400	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 文献学 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：杉浦　克己（放送大学教授）〕

講義概要

現存する様々な文献資料類を、実際例を掲げて紹介しながら、その特質を概説し、それをふまえた読み取り方の実際を概説する。書写者の意図が、資料上の様々な点に表されていることを、その多様な工夫の跡たどることによって指摘し、意図を的確に読み取っていくことの重要性を考える。さらに、資料の保存・伝承の実際を紹介し、資料を利用する者としての基本的な考え方を概説する。

授業の目標

古文献資料類の文字・文を読み取るための基本的な知見を概説し、実際の資料例に基づいて読むための練習を行う。
料紙や装丁など文献資料の外形上の特質やその変遷を紹介し、資料を扱う上での基本的な考え方と実際の配慮事項を概説する。
資料から書写者の意図を的確に読み取るための考え方を、様々な資料実態に基づいて考える。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	文献学の世界	「文献学」という学問領域の概要とその手法を紹介し、書誌学、文献言語学、古典学などを比較しながらその性格と目的を概説する。文献学的な資料の見方の基盤として、文字のとらえ方を、「字形」「字体」「書体」に整理して説明し、全15回の講義の端緒となる視点を確立する。 【キーワード】 文献学　書誌学　文献言語学　古典学　字形　字体　書体　翻字	杉浦克己（放送大学・教授）	杉浦克己（放送大学・教授）
2	平仮名資料(1)	現代の文字資料に慣れた目では読むことが難しい変体仮名資料を読み取る最も初歩的な例として、版本の平仮名資料を取り上げ、平仮名一文字一文字を読む上での基本的は知識と着眼点を示す。内容的に広く知られた物語や読本類を例示資料とすることで、古文献資料により親しみやすくなるように配慮する。 【キーワード】 平仮名　変体仮名　物語　読本	同上	同上
3	平仮名資料(2)	平仮名資料として手写本の例を取り上げ、平仮名の成り立ちとその元になった字母漢字に着目した読み方を概説する。字母漢字の違いによる異字体の仮名の使い分けが存在することを、実例を挙げて示し、そこに表された書写者の意図を読みとことの意義を考える。 【キーワード】 字母漢字　字体　変字法　語頭　語末	同上	同上
4	平仮名資料(3)	平仮名資料を、文字の単位ではなく文の単位でとらえ、読み取っていくことを、漢字平仮名交じり文の散文資料を例にして解説する。特に、文の切れ続きや構造を明示するための工夫の跡をたどることによって、そこに表された書写者の意図を読み取ることの意義を考える。 【キーワード】 漢字平仮名交じり文　文節　構文	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	漢字資料(1)	現代の文字資料に慣れた目では読むことが難しい行書・草書漢字の資料を読み取る最も初歩的な例として、版本の漢字平仮名交じり資料を取り上げ、漢字一文字一文字を読む上での基本的は知識と着眼点を示す。内容的に広く知られた読本類を例示資料とすることで、平仮名書きの部分を手がかりにして、漢字に取り組みやすくなるように配慮する。 【キーワード】 漢字　行書　草書　漢字平仮名交じり文　振り仮名	同上	同上
6	漢字資料(2)	実際の資料例を掲げて、手写資料に見られる草・行書漢字を、部首の類型や頻用文字に着目することで確実に読み取る方途を概説する。特に、現代では理解されにくい漢字・漢文と日本語との密接な関係について、多様な漢字の用法の実際の資料例を上げて紹介し、漢字を使って書き表すことの意義について考える。 【キーワード】 漢字　部首　漢語　漢語　音読み　訓読み　万葉仮名	同上	同上
7	漢文資料	漢字書き資料を、文字の単位ではなく文の単位でとらえ、読み取っていくことを、漢文資料を例にして解説する。特に、文頭の文字で表される定型句や頻用される助字類に着目することで、漢文の文構手がかりとして内容解釈する方途を概説する。また古典席からの引用の用いられ方なども併せ、漢文で書き表された意図を読み取ることの意義を考える。 【キーワード】 定型句　助字　対句　引用　類書	同上	同上
8	漢文訓読資料	漢文を訓読した資料の実際例を示し、訓点類の実相とその読み取り方を概説する。併せて漢文訓読の中で発達した片仮名と片仮名書き資料の実際例を紹介する。漢文を敢えて訓読することの日本語の変遷との関わりと変遷をふまえ、加点者の意図がどのように実際の訓点類に表されているかを探り、それを読み取ることの意義を考える。 【キーワード】 訓読　訓点　返り点　ヲコト点　片仮名　抄物　漢文訓読体	同上	同上
9	辞書	古辞書類の実際例をその性格や年代で分類して紹介し、文献資料としての辞書の位置づけを考える。編著者の意図を、形態や配列、注記の内容や表記方法から探り、それを十分にふまえた上での辞書類の利用法を考える。 【キーワード】 古辞書　部立て　出典　注記	同上	同上
10	歴史文書	公式令様式の文書類の典型例を掲げてその様式を概説する。漢文、和文の書状の実際例を上げて、その様式の実態や変遷を概説する。これらによって、実用文書類が、送り手と受け手の間であらかじめ了解された定型性に従うことで円滑な伝達を図っていることを示し、定型的な表現の意義を考える。 【キーワード】 文書　公式令　書状　書札令　散らし書き　懐紙　往来物	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	本文校訂	諸伝本間の本文の異動を精査し、あるべき本文の姿を見極めていく本文校訂作業の実際を、実例を挙げて紹介し、著名な大規模校本を紹介してその編纂の意図を概説する。原著者、書写者の意図が校訂作業の中でどのように読み取られていったのかを、校訂本文を利用する者の立場で考える。 【キーワード】 校合　校訂本文　校本　本文　異本	同上	同上
12	文献資料の外形	文献資料を構成する要素として、紙や書紀材料について、その製法や各種材質の特質を紹介する。紙の製法の実際を、工房を訪ねて紹介し、その促成と製法との関係を概説する。書籍の形態を取る文献資料類について、その形態を装丁の実際を実物や図解を用いて概説する。これらの知見に基づき、その特質を考え、書紀内容と相俟ってある意図を表していることを示す。 【キーワード】 紙　料紙　書紀材料　装飾　装丁	同上	同上
13	資料の保存・修補	資料の損傷の実態を、実例を掲げて示し、損傷を最小限に防ぐための保存上の配慮の実際を紹介する。また損傷を修補する技術の実際を、それに従事する専門家の工房を訪ねて概説する。それらをふまえ、資料を取り扱う際の注意事項を指摘すると共に、資料利用の基本的な考え方を示す。 【キーワード】 損傷　保存　修補	同上	同上
14	古筆	文字資料類を芸術作品としての書としての観点から考える。実際の古筆の名品類を紹介し、日本美術史の観点から位置づけ、その特色を解説すると共に、伝達媒体としての文字の高度に昇華したすがたである書作品としての文献資料を鑑賞する意義について考える。 【キーワード】 古筆　古筆切れ　古筆手鏡　料紙装飾　古筆家　極め書き	同上	同上
15	情報伝達媒体としての文献資料	本講義で取り上げてきた様々な文献資料類を改めて振り返り、それが単純に一定の音や意味を表す文字としてだけではなく、様々な文字種のきめ細かい使い分けや、微細な字形の違い、筆致や墨継ぎ、字配り、余白、さらには料紙や装飾、装丁など様々要素が、筆者者の意図を表す役割を担い、それらがまとまって一つの情報伝達媒体として機能していることを改めて考える。 【キーワード】 情報　表現　媒体　筆致　字配り　余白　墨継ぎ	同上	同上

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1551507	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 文化人類学 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：内堀　基光（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：本多　俊和（スチュアート　ヘンリ）（放送大学教授）〕

講義概要

専門科目としての文化人類学の基本的知識を全15回にわたって講義する。1章ごとにテーマに沿って学史から現代の課題まで含める。とりわけ人類が直面する現代的課題に対して、文化人類学的に考察することがどのような意味をもつのかを解き明かすことに重点を置く。

授業の目標

全15回の講義をとおして、文化人類学の諸概念と用語が理解できるようにする。それをとおして文化人類学に特有の調査法を学ぶ。それとともに、世界の諸地域に暮らす民族集団の生活の多様性を知り、地球大的な諸問題と地域的な諸問題の関わりを人類的視野で見る素養を養うことを目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	文化人類学の導入	本講義の導入では、文化人類学という学問に特有の現実を見る眼とはどういうものか、文化人類学が今日の世界のなかで実践的に果たしうる役割にはどのようなものがあるか、という問題から出発し、この学問の対象としてきた人類の文化と社会の研究法、民族誌という報告の形態、フィールドワークの意義と実際について、学史の背景として概括的に見ていく。 【キーワード】 文化、社会、フィールドワーク、民族誌	本多俊和（スチュアートヘンリ）（放送大学教授） 内堀基光（放送大学教授）	本多俊和（スチュアートヘンリ）（放送大学教授） 内堀基光（放送大学教授）
2	人種、そして民族	この章では、概念として一義的にとらえることが難しい「人種」と「民族」を概観する。この2つの概念に関して次の輪郭が浮かんでくる。すなわち、生物学的な根拠に基づいて分類されると思われる「人種」は、19世紀の欧米において確立した、植民地支配と搾取、他者の差別を正当化する社会的に構築されたドグマであること。また民族も社会的に構築される概念であり、民族のあり方は状況次第に変わることを認識する必要がある。状況によって民族集団は生成・消滅・融合、分離するのである。 【キーワード】 人種、民族、民族集団、ネーション、エスニック・グループ	本多俊和（スチュアートヘンリ）（放送大学教授）	本多俊和（スチュアートヘンリ）（放送大学教授）
3	生態と文化	人類社会の基礎には、自然を利用して生存し、社会を再生産していくという過程がある。人類史をつうじて、自然をどのように認識し、またその資源をどのように利用するかは、文化の核ともいえるものであった。サブシステンス（自給的経済）における生業のあり方を見ることをつうじて、生態系の変化に適応しつつ生きる文化の様相を探る。 【キーワード】 生態、文化－生態系、資源、サブシステンス	内堀基光（放送大学教授）	内堀基光（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	世界の見方	私たちは、現実をそのままの形で見ていると思っているかもしれないが、けっしてそうではない。それぞれの社会文化には、自分たちを取り囲む世界をどのように認識しているか、という認識の仕方がそれぞれに存在する。ここでいう世界とは、人だけでなく、自然や宇宙、超自然的な神や霊、死後の世界、そして過去や未来など、あらゆるものを含み、それらをどのように意味づけるかが、「世界の見方」、すなわち世界観である。私たちは、この世界観をとおして、それぞれの現実を見ているのである。この世界観が最も凝縮した形で蓄積され表出されている領域が、宗教である。ゆえに本章は、宗教を足がかりにしながら、「世界の見方」という問題の一端を考えていくことにする。 【キーワード】 現実、世界観、宗教、自然と超自然	宇田川妙子（国立民族学博物館准教授）	宇田川妙子（国立民族学博物館准教授）
5	人間の見方	文化人類学では、人はそれぞれの社会文化によって多様であるという見方をしているが、この見方は、一つの社会文化の中でも通用する。一つの社会の中でも、民族が異なることは少なくない。また地域や階層による差もある。そして、男性と女性は、身体的に異なっているだけでなく、ものの見方や知識のあり方も違うことも多々ある。同様に年齢や世代によっても人は異なる。このように人は多様であるという立場から、その多様性の一端を、男性と女性という性の差異に着目しながら見ていくことにする。男性と女性という問題は、家族という領域に深くかかわっているため、今回の議論は、家族や性という問題にも展開していく。 【キーワード】 ジェンダー、セクシュアリティ、年齢、家族、階層	宇田川妙子（国立民族学博物館准教授）	宇田川妙子（国立民族学博物館准教授）
6	環境のなかでの人間	「環境」にはさまざまな側面があり、「環境」のとらえ方は民族によって、そして時代によってとらえ方が異なっている。また異なる環境において類似する文化と社会が営まれていることもある。グローバル化が進んでいる現在、環境への関心が地球的な規模で広がっている。最近の動向として、環境権が注目されている。環境権とは、公害に脅かされずに人間は健康的な生活を維持する権利である。一方、先住民族にとっての環境は大地を基盤に伝統文化を営み、自律的な自治を保障する包括的な概念である。環境をどのように利用し管理するのかは、グローバル的な視点が必要であると同時に、先住民族をはじめ少数民族の伝統文化と社会が保持され、環境に対する独自の利用と管理の仕方をどう保証するのかが現代の課題である。本講義では、こうした開発と環境問題、環境知識、開発に伴う資源管理など、人間と環境の関わり合いに関するトピックを扱う。 【キーワード】 環境権、自然、先住民、環境知識、社会環境	本多俊和（スチュアートヘンリ）	本多俊和（スチュアートヘンリ）
7	文化相対主義と他者を見る眼括弧以下削除	文化人類学の中心的な考え方である文化相対主義の意義、その歴史的背景と効果、現代におけるその語り方の問題と普遍主義的価値観との関係などを概観し、さらにポストコロニアルあるいはポストモダンと特徴づけられる現代人類学における「他者を見る眼」はどのようにして可能か、多文化共存の可能性をどこに見るか、民主主義と人権などのトピックを現代世界、とりわけ周辺社会の状況に照らして考察していく。 【キーワード】 文化相対主義、普遍主義、人権、民主主義	内堀基光	内堀基光

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
8	グローバリゼーションと文化括弧以下削除	人の移動が活発化するとともに、ものも情報も世界を巡るようになった。世界は次第にひとつに収斂していくようにも見える。その一方で、文化は容易に変化しない部分がある。グローバルな仕組を取り入れても、社会の中でそれが持つ意味にはしばしば独特なものがみられる。さらにナショナルな文化やローカルな文化を守り、新たな意味を付与することで差異を作りだす力学も存在している。本講義では、こうしたグローバリゼーション時代の文化のダイナミクスと行方を考察する。 【キーワード】 移動、グローバリゼーション、ナショナル文化、ローカル文化	山本真鳥（法政大学教授）	山本真鳥（法政大学教授）
9	人とモノ	私たちの身のまわりにあふれるモノのなかには、誰によって、どのような過程を経てつくられているのか、あるいはどのような仕組みによって動いているのか分からないものの、私たちの生活には不可欠だというモノも多々存在する。この講義では、人類史的な観点から、人間社会が生み出してきたモノをめぐる多様な文化（＝物質文化）と多様なモノづくりの技術（＝生産技術）について取り上げ、文化人類学の立場から現代社会における物質文化や生産技術にどのようにアプローチするのか、という点について論じる。 【キーワード】 ホモ・ファーベル（工作人）、労働／制作、ホモ・コンシュマンス（消費人）、近代世界システム、消費社会（高度消費社会）	原知章（静岡大学准教授）	原知章（静岡大学准教授）
10	人とメディア	多様なメディアがせめぎあい、融合しながら地球上の多くの人びとの生活のなかに深く浸透しつつあることは、現代世界の顕著な特徴である。個々のメディアは互いに錯綜した、そして重層的な関係にあることが分かる。この講義では、メディアとは何かをあらためて問うことからはじめて、近年、勃興しつつあるメディア人類学や隣接諸分野の知見にもとづいて、現代のメディア社会をマクロな視点とミクロな視点の双方から複眼的に捉えていく。 【キーワード】 メディア（口頭～、文字～、印刷～、電子～）、コミュニケーション、文化表象	同上	同上
11	人と人のやりとり	ものを買うときも、贈り物の贈答も、ものをやりとりするという意味では同じだが、そこにどんな違いがあるのだろうか。われわれの贈答慣習とともに、西太平洋トロブリアンド社会の贈答慣習としてのクラ交換をとりあげてみよう。クラ交換に用いられている贈り物は、人から人へと手渡されていくものであるが、それとわれわれの用いている貨幣とはどう異なるのだろうか。異なる社会での慣習をとりあげ、この主の交換の媒体について考察しよう。 【キーワード】 贈答（贈与）、クラ交換、貨幣、経済人類学、互酬性	山本真鳥	山本真鳥
12	社会の構成	社会は多様な集団や組織から構成され、特定の社会構造をなしている。社会構造は固定化され変化が乏しいものではなく、ときには集団や組織が既存の社会構造からはみでて反構造的な動きや、構造が流動性をみせる場合もある。また社会の反構造的な側面を特定の空間で表出させることもある。この回では、新居浜市の太鼓祭りと山形の高畠町の有機農業運動の2例をあげ、構造と反構造の相互作用の一端を考察する。 【キーワード】 構造、反構造、集団、祭り、有機農業、行政、近代化	足羽與志子（一橋大学大学院教授）	足羽與志子（一橋大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
13	平和と戦争	20世紀は戦争の世紀でもある。その前半は世界を巻き込んだ戦争に明け暮れ、後半は数多くの部族戦争や民族対立、内戦が表面化した。人類学研究は対象のほとんどが「敵」や「支配すべき文化」であった事実を無視できず、その意味では暴力的対立とともに成長してきた他者理解の学ともいえる。こうした人類学研究と戦争の関係史をふまえたうえで、ウガンダとスリランカの現在の民族紛争を例に、人類学が追求可能な理論的関心と実践的貢献の両方を考える。 【キーワード】 戦争、平和、暴力、犠牲者、記憶	同上	同上
14	周辺からの声	現代世界において周辺とされる社会に生きる人びとのダイナミックな動きと声を、東アフリカを例に取り、地方から都市社会への移住者の生活、都市と地方との力関係、地方のなかでの新たな生計の確保への努力などを具体例として取りあげつつ、日常的な「抵抗」などの概念の有効性を検討する。 【キーワード】 都市、農村、移動、抵抗、共同性、生きる技法	松田素二（京都大学大学院教授）	松田素二（京都大学大学院教授）
15	人類の将来	最終回（章）では、本講義全体に関わるまとめと合わせて、進化と文化・社会、サステナビリティの射程など、人類史的観点から現代文化を総括する。21世紀という時代の文化と人類社会の将来を見据えるために、20世紀という時代の特性を見る。植民地、大戦争、ジェノサイドの時代であり、かつ世界平和希求の時代としての20世紀の総括から、グローバル化の意味するもの、人類社会における暴力とその克服の可能性などについて語る。 【キーワード】 20世紀、人類の将来、グローバル化、進化	内堀基光	内堀基光 本多俊和（スチュアートヘンリ）

事務局記載欄	開講年度	２０１１年度	科目区分	専門科目	科目コード	1554514	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ グローバリゼーションの人類学 （’１１）＝ （ＴＶ）

－争いと和解の諸相－

〔主任講師（現職名）：本多 俊和（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：大村 敬一（大阪大学准教授）〕

講義概要

人類は、昆虫や群生ほ乳類とは異なり、理論的に「単独者」として生きる選択肢があり得る。そのため、人類が「人種」や「民族」、「国家」、「親族」、「家族」などの想像の共同体を生み出して維持する際には、さまざまなストレスが生じる。国家や民族はもとより、さまざまな社会集団の内外で無数に絶え間なく繰り返されるさまざまな種類と規模の「争いと和解」のプロセスに、そうしたストレスが見てとれる。「独りでいること」を選択することができる人間がさまざまな争いと和解の過程を経て社会集団を生成する様子を分析する。

授業の目標

本授業では、さまざまな種類と規模の「争いと和解」の過程の具体例を検討することで、人類が生成して維持しているさまざまな社会集団の現状を知り、その未来を考える。現在、世界にはどんな種類と規模の「争いと和解」が見られ、その過程でどのような社会集団が生成され維持されているのか。そして、生成されて維持される人類の社会集団にどのような可能性が秘められているのか。各講師の人類学的な現地調査を踏まえた理論的な考察を中心に、「争いと和解」の諸相について検討することを通して、人類が生成して維持する社会集団の特質を追究する。

履修上の留意点

専門科目 人間と文化

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	導入：グローバル化による社会の流動化と凝縮	グローバル化が進んだ今日の世界では、近代国民国家の枠組みを超えた社会の流動化がすすむとともに、さまざまな種類と規模でローカルな社会への凝縮も生じていることを紹介し、「争いと和解」の諸相を理解するための理論を概観する 【キーワード】 グローバル化、国民国家、争い、和解	本多俊和（放送大学教授） 大村敬一（大阪大学准教授）	本多俊和（放送大学教授） 大村敬一（大阪大学准教授） 湖中真哉（静岡県立大学准教授）
2	社会集団の生成をめぐる諸問題：「争いと和解」の人類史的基盤	人はなぜ争い、和解するのかについて考えながら、「争いと和解」の過程と社会の生成と維持との関係についての理論的な枠組みを提示する。 【キーワード】 暴力、排除の構造、社会生成	大村敬一（大阪大学准教授）	大村敬一（大阪大学准教授）
3	グローバル化の虚実	グローバル化の進展に伴って、私たちが社会について考える際の一つの標準であった「民族」や近代国民国家という枠組みがいかに解体しつつあるのか、そして、その過程でどのような新たな社会のとらえ方が明らかになってきたのかについて考える。 【キーワード】 グローバル化、流動化、市場化	湖中真哉（静岡県立大学准教授）	湖中真哉（静岡県立大学准教授）
4	「人種」をめぐる争いと和解の諸相	現在の世界で見られる「人種」が近代欧米による植民地支配を背景に構築され、19世紀後半から20世紀前半の間に似非科学的な根拠を装うようになった過程を分析する。 【キーワード】 「人種」、差別、相対主義、進化論	竹沢泰子（京都大学教授）	竹沢泰子（京都大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	「人種」の科学性と社会性	最近の科学的な情報、とくにDNA内のミトコンドリアに関する近年の研究成果によって古典的な「人種」観念が否定されているにもかかわらず、欧米の歴史の中で社会的に構築されてきた古典的な「人種」観念が現在も強い影響力をもっていることを示し、その観念が差別などの社会問題の背景にあることを示す。 【キーワード】 DNA、人種論、差別、構築主義	竹沢泰子（京都大学教授）	竹沢泰子（京都大学教授）
6	民族と権利	先住民、エスニック・マイノリティ、移民など、「民族」と「国民国家」をめぐる問題を現地調査を踏まえて具体的に紹介し、遺跡に対する権利、伝統的な生業活動を行なう権利、知的財産権の問題など、現在大きな問題となっているさまざまな権利の問題を紹介する。 【キーワード】 国民国家、先住民、マイノリティ、移民、民族生成	本多俊和（放送大学教授）	本多俊和（放送大学教授）
7	「民族」と「国民国家」の科学の本質主義と植民地主義	「民族」と「国民国家」の背後にある問題を解明し、植民地主義を背景に人類学の本質主義による支配と管理を明らかにする。国民国家と民族の関係、民族生成、民族独立運動、多文化主義など、「民族」と「国民国家」の関係がグローバル化と結びついていることを明らかにし、その関係が新たな段階にあることを指摘する。 【キーワード】 国民国家、民族生成、植民地主義、本質主義	本多俊和（放送大学教授）	本多俊和（放送大学教授）
8	「家族」とジェンダーをめぐる争いと和解	ドメスティック・バイオレンスや家族の崩壊を含め、日常の中で身近な「家族」とジェンダーをめぐる「争いと和解」の諸相を紹介し、その背景にある社会構造やグローバル化の問題を指摘する。 【キーワード】 家族、DV、家族の崩壊、ジェンダーの流動化	中谷文美（岡山大学教授）	中谷文美（岡山大学教授）
9	「家族」とジェンダー：「自然」と「文化」の狭間で	「家族」とジェンダーの諸相の背後にある問題を検討し、「自然」な所与であると思われる核家族やジェンダーも、「自然」と「文化」を折り合わせる中で生成される現象であることを明らかにし、親族や婚姻などの社会人類学的問題を検討する。 【キーワード】 核家族、ジェンダー、自然と文化、親族、婚姻	中谷文美（岡山大学教授）	中谷文美（岡山大学教授）
10	「開発」と「資源」をめぐる争いと和解	グローバル化が進展し、南北格差が開きつつある現在の世界で、資源をめぐる争いと和解を具体的に紹介し、「開発」の問題が社会生成と社会の流動化をいかに引き起こしているかを検討する。そして、グローバル化という現象によって見えてくる新たな社会のとらえ方について検討する。 【キーワード】 グローバル化、南北格差、世界システム、開発、資源	湖中真哉（静岡県立大学准教授）	湖中真哉（静岡県立大学准教授）
11	グローバル化による新たな社会関係	グローバル化の中でみえてくる社会関係のあり方について、アフリカに焦点をあてながら検討する。 【キーワード】 オートポイエーシス、フロー、アフリカ、難民	湖中真哉（静岡県立大学准教授）	湖中真哉（静岡県立大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	グローバル・ネットワークをめぐる争い：国民国家体制と産業資本制の市場とテクノサイエンスの功罪	現在、「科学／宗教」、「近代科学／在来知」など、多様なかたちをとってあらわれている合理性をめぐる争いと和解を具体的に検討して、その背景に、世界を一つのネットワークで覆うテクノサイエンスのプロジェクトがあることを明らかにし、テクノサイエンスの問題を明らかにする。 【キーワード】 テクノサイエンス、宗教、専門家、在来知、ネットワーク	大村敬一（大阪大学准教授）	大村敬一（大阪大学准教授）
13	自然＝文化相対主義に向けて：グローバル・ネットワークと共生するためのイヌイトの闘い	前回での議論で明らかにしたテクノサイエンス・ネットワークに対して、極北の先住民のイヌイトが打ち出している対抗策をとりあげ、そのイヌイトの対抗策を検討することによって新たな社会関係のあり方について考える。 【キーワード】 カナダ・イヌイト、マルチチュード、知識の権利	大村敬一（大阪大学准教授）	大村敬一（大阪大学准教授）
14	日本とは何、日本人とは誰か	長らく単一民族国家とされてきた日本におけるアイヌ民族や沖縄の民族の多様性、「日本人」とは何かを問うとともに、身近な争いと和解の諸相を検討し、グローバル化の中での日本について考える。 【キーワード】 日本人論、アイヌ民族、沖縄	本多俊和（放送大学教授）	本多俊和（放送大学教授）
15	終章	まとめ：主任講師と分担講師による討論を通じて、それぞれの立場による争いと和解の諸相の総括と今後の課題を明らかにする。 【キーワード】 紛争、和解、グローバル化	本多俊和（放送大学教授） 大村敬一（大阪大学准教授）	本多俊和（放送大学教授） 大村敬一（大阪大学准教授） 湖中真哉（静岡県立大学准教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度（第2学期）	科目区分	専門科目	科目コード	1551604	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 博物館資料論 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：佐々木　利和（北海道大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：本多　俊和（スチュアート　ヘンリ）（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：湯山　賢一（奈良国立博物館長）〕

講義概要

博物館には、博物館法によって資料を保管し、後世に伝えることが決められている。いってみれば博物館の基本は収蔵している資料にあるといっていい。そしてそれは博物館が拠って立つ所以ともなる重要な存在である。資料はまた「モノ」ともいい、「文化財」でもある。「モノ」を見失った博物館は博物館ではなく、単なる人寄せの場でしかない。こうした観点にたって、博物館について考えていく。ここでは「博物館学」という講義の場ではない。「モノ」から離反したアームチェア・ムゼオロジーではなく、実態に即した資料のあり方について考える。

授業の目標

資料とは博物館の根幹を成す存在で「モノ」と称され、近年では「文化財」と呼称される場合が多い。「文化財」は宝物であったり骨董、珍物であったりもするが、博物館ではこれらのほかに実際の生活に根ざした品々も「文化財」である。こうした観点から博物館の資料について考えていく。講義にあたってはそれぞれの博物館・研究所の学芸員、研究者の先生方をゲストにお招きしお話をうかがう。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	博物館における資料とは	博物館における資料の多様性について考える。 各地の特色ある博物館の例で考える。第一回目は日銀貨幣博物館が所蔵する貨幣関係資料と旧大塚盲学校が保管する近世・近代の視覚障害者教育資料について考察する。	佐々木　利和（北海道大学教授）	佐々木　利和（北海道大学教授）
2	博物館資料を展示する	あらたに出発する沖縄県立博物館において、旧来の資料をいかに陳列するかについて学ぶ。	佐々木　利和（北海道大学教授）	佐々木　利和（北海道大学教授）
3	博物館資料の修復	博物館で収蔵する資料は損傷があるものが少なくない。装潢師（そうこうし）連盟関西支部にお邪魔して修理の実態に触れ、資料にとっての修理とはいかなることかを学ぶ。	佐々木　利和（北海道大学教授）	佐々木　利和（北海道大学教授）
4	大学における博物館	近年旧帝国大学系を中心に大学博物館が設立されている。大学博物館はその教育の中で蒐集された資料類が多くある。それらはどのように整理され、博物館教育に役立てているか、京都大学総合博物館の例で学ぶ。	佐々木　利和（北海道大学教授）	佐々木　利和（北海道大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	博物館資料としての古文書	古文書をいかに調べ、展示するかは大きな課題である。ここでは京都・醍醐寺における資料調査の実態に触れ、あわせて古代・中世の文書について考える。	湯山 賢一（奈良国立博物館長）	湯山 賢一（奈良国立博物館長）
6	博物館資料としての絵画	絵画資料から何を読み取るか、そしてそれを展示にいかに生かしていくかを考える。	湊信幸（東京国立博物館副館長）	湊信幸（東京国立博物館副館長）
7	博物館資料としての個人	幕末の蝦夷地探検家である松浦武四郎が収集した資料と同じ幕末の鷹見泉石収集の資料を中心に個人の収集品と博物館について考える。	佐々木 利和（北海道大学教授）	佐々木 利和（北海道大学教授）
8	博物館資料としての近代化遺産	近年、大きな問題となりつつある近代化遺産の資料性、保存の問題をNHK放送博物館の例で考えてみる。	小林健一郎（NHK放送博物館副館長）	小林健一郎（NHK放送博物館副館長）
9	博物館資料としての考古遺物－小規模展示施設の模型作り－	考古遺物は発掘されたままか、それを復元した形での展示が多いが、羅臼町立郷土資料館は非常にユニークな展示法を試みている。その方法について学ぶ。	涌坂 周一（羅臼郷土資料館長）	涌坂 周一（羅臼郷土資料館長）
10	博物館資料としての写真	博物館には古い写真類を収蔵するところが少なくない。それの保存、複写、展示等の方法について学ぶ。	岡塚 章子（江戸東京博物館）	岡塚 章子（江戸東京博物館）
11	博物館資料の写真撮影法と情報処理	博物館資料は多岐におよぶ。そしてそれぞれにあった撮影の方法について学ぶ。併せて、博物館における資料整理とコンピュータの関係について学ぶ。	佐々木 利和（北海道大学教授）	佐々木 利和（北海道大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	博物館資料の調査	日本国内におけるアイヌ民族資料の調査法および近世資料の調査法について学ぶ。	佐々木 利和（北海道大学教授）	佐々木 利和（北海道大学教授）
13	博物館収蔵庫論	資料を安全に収めるための博物館における収蔵庫はいかにあるべきかについて考える。	森田 稔（九州国立博物館学芸部長）	森田 稔（九州国立博物館学芸部長）
14	博物館資料としての民俗	民俗資料は種類や数が多いだけにその整理や保存法は多岐にわたる。民俗資料の特徴や展示方法について学ぶ。	佐々木 利和（北海道大学教授）	佐々木 利和（北海道大学教授）
15	民族資料論－博物館における民族表象－	博物館とは 1. ものを展示する→イメージを醸し出す 2. アイヌ民族をめぐる展示を中心に講義を進める 【キーワード】 表象、展示、イメージ	本多 俊和（スチュアートヘンリ）（放送大学教授）	本多 俊和（スチュアートヘンリ）（放送大学教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1551701	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 博物館経営・情報論 （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）： 佐々木 亨（北海道大学大学院教授）〕

〔主任講師（現職名）： 亀井 修（国立科学博物館 展示・学習部 学習課 ボランティア活動・人材育成推進室 室長）〕

〔主任講師（現職名）： 竹内 有理（長崎歴史文化博物館教育・研究グループリーダー）〕

講義概要

この科目は，3つの内容から成り立っている。
①経営論：博物館の使命達成に向けて，資源をどのように活用していくかについて
②情報論：博物館が収集した1次・2次資料に関する情報，経営戦略を策定するために必要な情報などについて
③教育論：博物館展示とともに活動の重要な柱の1つとなる博物館教育の歴史，理論，動向などについて

授業の目標

博物館は建物と資料が存在するだけでは，十分な価値は生まれない。
博物館運営のソフトウエアである「経営」，「情報」，「教育活動」に関する基本的な知識を身につけることを目標とする。
また，自分の地域にある博物館の活動にいままで以上に関心を持ち，さらに積極的に利用・参加するようになることを目指す。

	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	＜はじめに＞ ミュージアムになぜ経営が必要か	博物館にとって「経営」は必要不可欠な概念であることを、いくつかの側面から説明するとともに、博物館の使命、経営資源、ステークホルダーという、経営を考える際に必須となる基本的な要素について考察する。また最後に、この科目全体の構成について紹介する。 【キーワード】 経営，ニュー・パブリック・マネージメント，使命，経営資源，ステークホルダー	佐々木 亨（北海道大学大学院教授）	佐々木 亨（北海道大学大学院教授）
2	博物館の人材・組織・財政・各種団体	館長や学芸員をはじめとするスタッフ，その組織化，運営予算，博物館関連の各種団体など，館種や規模に拠らない博物館経営に必須の要素について，また、博物館の全国組織、学会についても紹介する。 【キーワード】 博物館法，学芸員，館長，ボランティア，組織，施設，財政	佐々木 亨（北海道大学大学院教授）	佐々木 亨（北海道大学大学院教授）
3	博物館経営の手法①：マーケティングと利用者調査	民間企業ではその導入が一般的になっている「マーケティング」に関して概説を行う。それとともに，マーケティングを計画する際，重要な情報となる博物館利用者の実態やニーズ・期待を把握するための調査方法について，実際の事例を用いて紹介する。 【キーワード】 マーケティング，非営利組織，利用者調査，観察法，質問紙法	佐々木 亨（北海道大学大学院教授）	佐々木 亨（北海道大学大学院教授）
4	博物館経営の手法②： 事業評価の手法とシステム	最近では，公共サービスにおいて評価は必須の活動となっている。博物館に関しても多様な手法で評価が行われている。評価が必要となってきた背景を理解し，博物館の事業を評価する手法およびその全体システムについて具体的に紹介する。さらに，評価システム導入の際，必要となる環境についても検討する。 【キーワード】 評価，自己点検，外部評価，静岡県立美術館	佐々木 亨（北海道大学大学院教授）	佐々木 亨（北海道大学大学院教授） 泰井 良（(財)地域創造総務部振興助成課副参事）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	公立博物館の経営形態： 指定管理者制度	地方自治法第244条が2003（平成15）年に改正され，博物館にとってもさまざまな変化が生まれた。同法改正以前の博物館経営の実態を紹介したのち，改正で導入された指定管理者制度の現状を，具体的な博物館の事例を通して説明する。さらに，指定管理者制度の課題などについて考察する。 【キーワード】 指定管理者制度，地方自治法，長崎歴史文化博物館，島根県立美術館	佐々木　亨 （北海道大学大学院教授）	佐々木　亨 （北海道大学大学院教授） 佐々木　秀彦 （（財）東京都歴史文化財団事務局 総務課企画広報係長）
6	博物館とそれを取り巻く人々・社会	博物館における広報活動の現状をみた上で，広報の役割の一つである組織の目的と価値をどのように開示しているのかを，博物館の「年報」と企業の「CSRレポート」とを対比しながら考察する。また，博物館が地域と密接に関係し合い，地域を活性化している事例を紹介する。 【キーワード】 広報，CSR（Corporate social responsibility），ステークホルダー（利益関係者），公益性，博物館と地域，創造都市	佐々木　亨 （北海道大学大学院教授）	佐々木　亨 （北海道大学大学院教授）
7	博物館教育の歴史と今後の方向性	博物館教育に対する理解と関心が近年高まってきているが，日本の博物館の歴史の中で，博物館教育がどのように位置づけられ，実践されてきたかを，明治期の教育博物館の事例や博物館法における位置づけなどを通して紹介し，博物館教育の今後の方向性について展望する。 【キーワード】 利用者，市民，教育博物館，地域博物館，「対話と連携」	竹内　有理 （長崎歴史文化博物館教育・研究グループリーダー）	竹内　有理 （長崎歴史文化博物館教育・研究グループリーダー）
8	博物館教育の理論	特に欧米を中心に発達した、今日の博物館教育を理念面で支え、大きな影響を与えたとされる構成主義や学習スタイル、コミュニケーション論などの教育（学習）理論について、ポストモダンという大きな歴史の流れを前提として紹介する。 【キーワード】 ポストモダン，構成主義，ホリスティック，インフォーマルな学習，学習スタイル，博物館体験，コミュニケーション	竹内　有理 （長崎歴史文化博物館教育・研究グループリーダー）	竹内　有理 （長崎歴史文化博物館教育・研究グループリーダー）
9	博物館教育の実践1：展示へのアプローチ	展示が内包する問題について理解したうえで、それらを読み解くための方法として試みられている参加体験型（ハンズ・オン）展示やワークシート，ギャラリートーク、ワークショップなどの教育プログラムについて紹介する。また展示の作り手と受け手の間の意識や理解の差を埋めるための展示評価についても触れる。 【キーワード】 展示，文脈，参加体験，ハンズ・オン，演劇，学習評価，ギャラリートーク，ワークショップ，展示評価	竹内　有理 （長崎歴史文化博物館教育・研究グループリーダー）	竹内　有理 （長崎歴史文化博物館教育・研究グループリーダー）
10	博物館教育の実践2：地域連携とボランティア	博物館教育の具体的な実践例として，学校と地域住民，ボランティアの3つの側面から地域社会と連携した様々な博物館活動について，具体的事例を交えながら紹介し、地域との連携がこれからの博物館にとっていかに重要かを考える。 【キーワード】 博学連携，ボランティア，地域連携，市民参加，生涯学習，大学，企業	竹内　有理 （長崎歴史文化博物館教育・研究グループリーダー）	竹内　有理 （長崎歴史文化博物館教育・研究グループリーダー）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	博物館における情報	博物館における情報提供は,近代的な博物館設立当初からの主要な役割であり,その意義はますます重要となっている。その今日的な状況をさまざまな博物館活動の中でとらえる。あわせて,「情報」の展示化や「情報」の展示事例を紹介する。 【キーワード】 情報, 機能, コミュニケーション, 情報の展示	亀井 修（国立科学博物館展示・学習部学習課ボランティア活動・人材育成推進室長）	亀井 修（国立科学博物館展示・学習部学習課ボランティア活動・人材育成推進室長）
12	博物館活動の情報化	博物館活動における情報化の進展とその今日的状況を図書館や文書館の社会的役割を視野に入れて構造的に考える。 【キーワード】 情報化, MAL, 図書館, アーカイブス, 経営	亀井 修（国立科学博物館展示・学習部学習課ボランティア活動・人材育成推進室長）	亀井 修（国立科学博物館展示・学習部学習課ボランティア活動・人材育成推進室長）
13	情報技術と博物館	博物館に関係する情報技術発展の概要と活用の流れを紹介するとともに, 博物館でのICTの意義を考える。また, 学びや社会貢献の視点から, 博物館におけるICTの可能性について考える。 【キーワード】 ICT インターネット IpV6 GIS ホスピタリティ 展示 学習	亀井 修（国立科学博物館展示・学習部学習課ボランティア活動・人材育成推進室長）	亀井 修（国立科学博物館展示・学習部学習課ボランティア活動・人材育成推進室長）
14	博物館経営と情報論	博物館に限らず現代社会における情報の重要性はますます増している。博物館の経営を戦略的に構築するためのICTの考え方や技法について紹介する。 【キーワード】 ミッション メディア ソーシャル・サービス GBIF 疾病予防	亀井 修（国立科学博物館展示・学習部学習課ボランティア活動・人材育成推進室長）	亀井 修（国立科学博物館展示・学習部学習課ボランティア活動・人材育成推進室長）
15	＜おわりに＞ 博物館にとって本当に必要なものは何か	博物館運営のソフトウエアである「経営」,「情報」,「教育活動」に関する学習をこれまでしてきた。ここでは, それぞれの領域においてキーワードとなる事柄はいったい何であるのかを, あらためて整理してみる。その上で, 博物館にとって本当に必要なものは何であるかについて考える。 【キーワード】 経営, 情報, 教育活動	佐々木 亨（北海道大学大学院教授） 亀井 修（国立科学博物館ボランティア活動・人材育成推進室長） 竹内 有理（長崎歴史文化博物館教育・研究グループリーダー）	佐々木 亨（北海道大学大学院教授） 亀井 修（国立科学博物館ボランティア活動・人材育成推進室長） 竹内 有理（長崎歴史文化博物館教育・研究グループリーダー）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1542109	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　コンピュータのしくみ　　（’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：岡部　洋一　（放送大学副学長）　〕

講義概要

現在、コンピュータは、各種電算機処理のみならず、インターネット上のサーバーや一般家庭にもパソコン、家電製品内のマイコンという形で、オールマイティの情報処理を行う正に頭脳の役割をしているが、その内容についてはあまり理解されていない。ここではコンピュータの構造、動作原理といったしくみについて全15回にわたって講義する。もっとも簡単な回路である論理回路、さらに過去の履歴に依存してその動作を変えていくシークエンス回路を基礎として、これらを組み合わせた電卓の構造と動作原理を示し、さらに何でも処理できるコンピュータについて学習を進めていく。

授業の目標

全15回の講義を通じ、一見複雑そうに見える情報処理機械が実は簡単な回路の大規模な合成によって構成されていることを理解し、またコンピュータを動かすプログラムとの関連を理解することを目標とする。コンピュータを単なるブラックボックスとして理解するのではなく、その原理を理解することにより、どんな情報処理機械でも設計できるようになることを最終の目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	ディジタルとアナログ（第1章）	わかっているようでわかっていない「ディジタル」という用語を「アナログ」との比較から説明し、ディジタルでは各種の物理的情報をどう表現し、どう処理するかについて概念的な理解を深める。さらに、現在、急速にディジタル処理が増えてきた理由、ディジタル処理の歴史について説明する。 【キーワード】 ディジタルとアナログ、連続量と不連続量、トランジスタとLSIの発展	岡部　洋一（放送大学副学長）	岡部　洋一（放送大学副学長）
2	スイッチ素子（第2章 - 第3章 3.2節）	論理回路の要素となるスイッチ素子について紹介し、現在のコンピュータがトランジスタの集合体である集積回路で構成されていることを学ぶ。さらに、論理を作るための基本構成要素であるNOT、AND、ORについて、その動作を理解し、基本論理回路でもっとも重要なNOTをトランジスタを使ってどう実現するかを示す。 【キーワード】 スイッチ素子、トランジスタ、集積回路、基本論理、NOT、AND、OR	岡部　洋一（放送大学副学長）	岡部　洋一（放送大学副学長）
3	基本論理回路と組合せ論理回路（第3章 3.3節 - 第4章 4.3節）	ANDとORに対し、トランジスタで実現しやすいNAND、NORの回路の動作と構成を学ぶ。さらに、こうした機能要素を組み合せて実現できる組合せ論理回路という概念をEORや加算器を例に理解する。 【キーワード】 基本論理回路、NAND、NOR、組合せ論理回路、EOR、加算器	岡部　洋一（放送大学副学長）	岡部　洋一（放送大学副学長）
4	組合せ論理回路の構成法（第4章 残り）	多入力多出力を持った任意の論理回路を実現する一般的方法を示し、これらがNOT、AND、ORの組合せだけで構成できることを示す。さらにAND、ORをNANDで置き換えることにより、どんな組合せ論理回路もNANDだけで構成できることを示す。 【キーワード】 ドモーガンの法則、組合せ論理回路、真理値表、AND-OR回路、NAND-NAND回路	岡部　洋一（放送大学副学長）	岡部　洋一（放送大学副学長）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	状態遷移図、状態遷移表とシークエンス回路(第5章 5.2節まで)	回路が内部状態を持ち、出力が入力のみでなくその内部状態に依存して決定される回路をシークエンス回路と呼ぶが、その原理を理解する。またどんなシークエンス回路も状態遷移図および状態遷移表を作成することにより、組合せ論理回路および遅延回路の組み合せで実現できることを示す。 【キーワード】 シークエンス回路、内部状態、遅延回路、状態遷移図、状態遷移表	岡部 洋一（放送大学副学長）	岡部 洋一（放送大学副学長）
6	遅延回路とパストランジスタ（第5章 残り）	1クロックだけ遅延させる遅延回路として、Dフリップフロップの動作原理を学ぶ。また、Dフリップフロップと同じような原理で動作する記憶回路である各種レジスタ、プリチャージ論理回路などについても説明する。 【キーワード】 Dフリップフロップ、パストランジスタ、レジスタ、プリチャージ論理回路	岡部 洋一（放送大学副学長）	岡部 洋一（放送大学副学長）
7	二進加減算(第6章 6.3節まで)	コンピュータの中では数値データはどう扱われるのか。また加減算といった算術計算は二進数でどうなされるのか、それに必要なコンピュータのしくみについて学ぶ。 【キーワード】 内部表現、二進表現、符号なし整数、符号あり整数、算術計算、加算、減算	岡部 洋一（放送大学副学長）	岡部 洋一（放送大学副学長）
8	二進乗除算とデータの内部表現(第6章 残り)	前回に引き続いて、算術計算の乗除算が二進数でどうなされるのか、それに必要なしくみについて学ぶ。さらに小数、文字、文字列はどうように扱われるのかを理解する。 【キーワード】 乗算、除算、小数、文字、文字列	岡部 洋一（放送大学副学長）	岡部 洋一（放送大学副学長）
9	コンピュータの概要（第7章）	コンピュータの構成の概要について学び、中央処理装置を中心に、外部メモリー、周辺装置のあることを学ぶ。また中央処理装置の中にはデータ処理部と制御部があるが、データ処理部に必要な部分回路、データ処理部と制御部の関係について理解する。 【キーワード】 コンピュータの構成、中央処理装置、外部メモリー、周辺装置、データ処理部、制御部	岡部 洋一（放送大学教授）	岡部 洋一（放送大学副学長）
10	プログラム（第8章）	コンピュータの動作になくてはならない機械語のプログラムとは何か。それを構成している命令にはどのようなものがあるか。コンピュータはこれら命令をどのように実行していくのか。現在のコンピュータの基本である蓄積プログラム方式とは何か、その特長と合せて説明する。 【キーワード】 プログラム、機械語、命令、蓄積プログラム方式、高水準プログラム言語	岡部 洋一（放送大学副学長）	岡部 洋一（放送大学副学長）
11	データ処理部1（第9章 9.5節まで）	コンピュータのデータ処理部の具体的な回路の構造について学ぶ。バス、レジスタ、入出力、シフタといった部分回路について詳細な説明を行う。 【キーワード】 バス、レジスタ、入出力回路、シフタ	岡部 洋一（放送大学副学長）	岡部 洋一（放送大学副学長）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	データ処理部2（第9章 残り）	前回に引き続き、コンピュータのデータ処理部の具体的な回路の構造、特にその中核となる算術論理回路ALUの構成法や構造について詳細な説明を行う。 【キーワード】 算術論理回路、ALU	岡部 洋一（放送大学副学長）	岡部 洋一（放送大学副学長）
13	制御部1（第10章 10.3節まで）	コンピュータ全体の頭脳ともいうべきデータ処理部を動かす制御部の役割について学ぶ。特に歴史的進化を追って、電卓の動作までを説明する。 【キーワード】 命令レジスタ、プログラムカウンタ、フェッチ、電卓	岡部 洋一（放送大学副学長）	岡部 洋一（放送大学副学長）
14	制御部2（第10章 残り）	コンピュータを大きく進化させた蓄積プログラム方式について、その動作を学ぶ。さらに、その後のコンピュータに大きな影響を与えたマイクロプログラム、RISC、パイプライン処理、SIMDといった概念とともにアーキテクチャの意味を習得する。 【キーワード】 蓄積プログラム方式、マイクロプログラム、RISC、パイプライン処理、SIMD、アーキテクチャ	岡部 洋一（放送大学副学長）	岡部 洋一（放送大学副学長）
15	今後の発展（第11章）	コンピュータは今までのようにどんどん進化していくのか。何らかの限界があるのかといったコンピュータの進化論と合わせて、将来のコンピュータについて概説する。 【キーワード】 コンピュータ、進化、スケール則、汎用コンピュータ、専用コンピュータ	岡部 洋一（放送大学副学長）	岡部 洋一（放送大学副学長）

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	専門科目	科目コード	1551515	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 情報ネットワークとセキュリティ （’１０）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：秋光 淳生（放送大学准教授）〕

〔主任講師（現職名）：川合 慧（放送大学教授）〕

講義概要

IT技術を支える情報通信技術に関する基本的な事柄について説明する。またこうした技術を安心して利用できるために必要なセキュリティ技術および情報リテラシーについて述べる。

授業の目標

情報ネットワークの役割と種類，インターネットを構成する要素と仕組み，WWWと電子メールの仕組みを適切に利用する観点，情報ネットワークのセキュリティと安全な利用の考え方，などについて取り上げるとともに，情報ネットワークを個人・仲間・社会とのかかわりから総合的に学ばせる。

履修上の留意点

特になし

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	情報ネットワークで出来ること	ネットワークの概念と情報ネットワークの特徴を説明する。コンピュータが利用されている日常生活で，情報ネットワークがどのように組み込まれているか、情報ネットワークのなかで，どのようなコンピュータが動いているか、プロトコルが果たす役割多様なメディアとの関係といったものについて説明する。 【キーワード】 ネットワーク、情報ネットワーク、プロトコル	川合慧（放送大学教授）	秋光淳生（放送大学准教授） 川合慧（放送大学教授）
2	コンピュータネットワークと通信	LANについて述べる。ここでは、身近にあるネットワークについて、構成要素と役割を具体的に説明できるようにすることを目標とする。 【キーワード】 LAN、IPアドレス，Macアドレス，DNSサーバ	秋光淳生(放送大学准教授)	秋光淳生(放送大学准教授)
3	身近なネットワークの仕組み	第二回の講義を受けて、通信動作、ルータ、ハブ、ネットワークケーブル等について説明し、パソコンをネットワークに接続するときに何を設定すればよいか、説明する。 【キーワード】 ルータ、ハブ、ネットワークケーブル	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	インターネットとアドレス	インターネットの仕組みについて述べる。それをふまえ、インターネットに接続するとき，どのように接続先を決めて，通信先に情報を届けているか，概略を説明し、自分の使っている機器やISPを使って説明できるようにすることを目標とする。 【キーワード】 ISP、エンド間通信、アドレス体系	同上	同上
5	インターネットとドメイン名	パケットの考え方と利点、IPアドレスの役割と種類、TCPの役割、DNSの仕組みの概要を説明する。 【キーワード】 IPアドレス、TCP/.IP、DNS	同上	同上
6	Webの仕組み	Webブラウザに，Webページが表示される仕組みを説明する。WWWで使われているプロトコルとその役割について述べる。視聴覚教育メディアの意義について述べ、あわせてインターネット等を活用した学習支援の方法について述べる。 【キーワード】 URL、HTTP、HTTPS、WEB	同上	同上
7	電子メールの仕組み	電子メールについて，どのように送受信されているかの仕組みを説明する。 電子メールで使われているプロトコルを列挙し，その役割を説明する。 電子メールを利用する上での危険性と対処法を説明する。 【キーワード】 SMTP、POP3、電子メールのセキュリティ	同上	同上
8	社会で利用されている情報技術	大学内の情報システム、社会の情報システム、電子マネー、電子会議などを題材にしながら、情報技術によって日常生活の環境や仕事の方法がどのように便利になってきたかを，実例を挙げて説明する。 【キーワード】 電子マネー、個人認証、情報システム	辰己丈夫（東京農工大学准教授）	辰己丈夫（東京農工大学准教授）
9	情報セキュリティ(1) 暗号の基礎	インターネットを安全に利用するための基礎知識として共通鍵暗号、公開鍵暗号など暗号の基礎技術について説明する。 【キーワード】 共通鍵暗号、公開鍵暗号、電子署名	上原哲太郎（京都大学准教授）	上原哲太郎（京都大学准教授）
10	情報セキュリティ(2) 技術と運用のためのポリシー	暗号技術の応用としてのPKIや無線LAN、認証などについて述べ、またそれらの技術を組織に展開する上で重要となる情報セキュリティポリシーについて説明する。 【キーワード】 PKI、無線LAN、情報セキュリティポリシー	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	パソコンでのセキュリティ技術	ウィルス対策ソフトやOSのアップデートの必要性を説明し、データ流出事故を未然に防ぐための具体的な対策について述べる。 【キーワード】 ウィルス、ワーム、Cookie、情報フィルタリング	秋光淳生(放送大学准教授)	秋光淳生(放送大学准教授)
12	インターネット社会における問題	情報技術によって日常生活の環境や仕事の方法がどのように便利になったかを説明する。その反面で，生じている問題やその影響範囲について説明する。 【キーワード】 不正アクセス、フィッシング、スパムメール、ウィルス	中西通雄(大阪工業大学教授)	中西通雄(大阪工業大学教授)
13	情報発信のマナー	メールやWeb(個人ページや掲示板)を利用して情報発信をするメリット、デメリットおよびそのためのマナーについて説明する。 【キーワード】 メールのマナー、SNS、情報発信	中西通雄(大阪工業大学教授)	中西通雄(大阪工業大学教授)
14	知的財産権、個人情報、プライバシー	他者の権利を尊重して，知的財産を利用するためのルールを説明し、プライバシーと個人情報の違いについて述べる。 【キーワード】 著作権、商標権、特許権、個人情報保護、DRM	辰己丈夫(東京農工大学准教授)	辰己丈夫(東京農工大学准教授)
15	まとめ	15回を総括し、今後の情報ネットワークと社会のあり方について考察する。 【キーワード】 P2P、情報リテラシー、winny	秋光淳生(放送大学准教授)	秋光淳生(放送大学准教授) 川合慧(放送大学教授) 辰己丈夫(東京農工大准教授) 藤垣裕子(東京大学教授)

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目コード	1561200	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　分子生物学　　（’０９）＝（ＴＶ）

※この科目は「分子生物学(’05)」の部分改訂科目です。
改訂回は1，3，4，11回です。

〔主任講師（現職名）：星　元紀　（放送大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：二河　成男（放送大学准教授）　〕

講義概要

分子生物学のおもな目的は，さまざまな生物たちが共通に示す現象を，核酸とタンパク質という分子の挙動を通じて理解することである．本講義では，分子生物学のエキスパートがそれぞれの分野の基礎をわかりやすく説明する．

授業の目標

目標は、遺伝子とはどういうものか、遺伝子の情報から細胞は何を作っているのか、その作り出されたもの（タンパク質やRNA）がどのように働いて細胞や生物個体の活動が維持されているのかを理解することにある。これらの基礎的な知識の習得を通して、遺伝子診断や遺伝子組み換え作物といった新たな科学技術に対して、自分自身で考える力を身につけることを目指す。

履修上の留意点

初歩からの生物学('08)を学んでおくことが望ましい。細胞生物学('07)もあわせて学ぶことにより、分子や細胞が働くことによって生物個体が維持されていることを総合的に理解できる。バイオサイエンスで豊かな暮らし('08)、分析によって知る世界('07)、バイオテクノロジーと社会('09)などを理解する基礎となる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	分子生物学とは何か（※改訂回）	分子生物学の起源と歴史，生物科学全体に及ぼす分子生物学の影響，分子生物学の変貌，分子生物学は発展的に解消しつつあるという見解等々をテーマに，分子生物学全体を概観する 【キーワード】 分子生物学、分子生物学への道、生化学と遺伝学、ファージグループ	星　元紀（放送大学教授）	星　元紀（放送大学教授）
2	核酸とタンパク質の構造	生命現象は、さまざまな分子の働きによって営まれているが，分子生物学の対象として最も重要なのは，遺伝情報を担う核酸と，遺伝情報が翻訳された機能的分子のタンパク質である．核酸とタンパク質の構造と機能の全体像を概説する 【キーワード】 核酸、DNA、RNA、タンパク質、アミノ酸、生体高分子	藤原　晴彦（東京大学大学院教授）	藤原　晴彦（東京大学大学院教授）
3	遺伝と遺伝情報（※改訂回）	メンデルの遺伝の法則を説明し，それらの法則性の基礎となっている分子生物学について説明する．さらに，その説明を通じて，遺伝情報とは何であるかを考察する 【キーワード】 遺伝の法則、メンデル、遺伝子、形質転換	星　元紀	星　元紀

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	遺伝子と染色体 （※改訂回）	遺伝子はDNAでできているが，すべてのDNAが遺伝子ではないこと，遺伝子の座である染色体の構造，染色体を通じて遺伝子が子孫に伝えられるしくみなどを説明する 【キーワード】 染色体、遺伝子、対立遺伝子、減数分裂、連鎖	二河　成男 （放送大学准教授）	二河　成男 （放送大学准教授）
5	DNAの複製	生物が親から子に，種としての遺伝情報をつたえる分子機構を概観する．原核生物での理解をもとに真核生物での遺伝子複製もみる．複製反応とならび、校正反応についてものべる 【キーワード】 半保存的複製、DNAポリメラーゼ、テロメア	渡辺　雄一郎 （東京大学大学院教授）	渡辺　雄一郎 （東京大学大学院教授）
6	遺伝情報の発現 1．転写	遺伝情報が生体で利用されるためには，核内でDNAがいったんRNAにコピーされる必要がある．この過程は転写と呼ばれ，遺伝情報の発現量や発現時期を調節する重要なステップである．転写機構，転写に関わる酵素，転写を調節する因子などについて述 べる 【キーワード】 転写、メッセンジャーRNA(mRNA) 、RNAポリメラーゼ	藤原　晴彦	藤原　晴彦
7	遺伝情報の発現 2．プロセシング	真核細胞では，転写されたRNAがそのまま働くことは少なく，核の中で様々な修飾・加工（プロセシング）を受ける．スプライシングやキャッピングなどの真核細胞のmRNAに特有なプロセシング，さらにrRNAやtRNAのプロセシングのしくみについて解説する 【キーワード】 エキソン、イントロン、スプライシング、キャッピング反応、ポリA付加	藤原　晴彦	藤原　晴彦
8	遺伝情報の発現 3．翻訳と翻訳後修飾	遺伝情報がタンパク質に変換される最後の過程が翻訳である。mRNAを鋳型にして正しくタンパク質が作られるしくみを学ぶ．またその後，翻訳されたタンパク質が機能を持つように修飾される機構や，翻訳を阻害することによって働く抗生物質の働きも付け加える 【キーワード】 翻訳、リボソーム、転移RNA（tRNA）、翻訳後修飾	石浦　章一 （東京大学大学院教授）	石浦　章一 （東京大学大学院教授）
9	ゲノムとプロテオーム	多くの生物の遺伝子情報があきらかとなってきた．ゲノムとはなにか．そこから何がわかるか．プロテオームとはなにか．そこから何がわかるかについて解説する 【キーワード】 ゲノム、ゲノム解析、プロテオーム	渡辺　雄一郎 （東京大学大学院教授）	渡辺　雄一郎 （東京大学大学院教授）
10	タンパク質の機能 1．酵素と膜タンパク質	生体内触媒である酵素反応のしくみを学ぶ．また，酵素阻害のメカニズムを調べ，阻害反応の実際の応用例としての薬剤の働きを検討する．さらに，生体膜に埋め込まれたタンパク質の特殊な機能（受容体，チャネル等）についてもまとめる 【キーワード】 酵素、膜タンパク質、受容体	石浦　章一	石浦　章一

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	タンパク質の機能 2. 免疫のしくみ （※改訂回）	哺乳類で高度に発達している，自己と非自己を識別するしくみについて説明し，そのしくみの基礎にある抗体の多様性を生みだす機構を考察する．また，液性免疫と細胞性免疫の間の役割分担についてのべる 【キーワード】 自然免疫、獲得免疫、抗体、T細胞受容体	二河　成男 （放送大学准教授）	二河　成男 （放送大学准教授）
12	突然変異と分子進化	個々の個体に生じた突然変異が集団全体に広まること，これが進化である．分子生物学の発展により，分子レベルで進化を理解できるようになった．ここでは，分子レベルの進化のしくみとその特徴について解説する 【キーワード】 突然変異、中立説、分子進化、分子時計	二河　成男	二河　成男
13	RNAの多様な機能	RNAは，単に遺伝情報の仲介物質と思われがちである．しかし，現在では，触媒や制御因子といった多様な活性をもつ機能性高分子であることが明らかになってきた．これらの機能性RNAの構造と反応のしくみについて解説する 【キーワード】 リボザイム、RNA編集、RNA干渉	二河　成男	二河　成男
14	遺伝子操作	遺伝子操作とはどのような技術か．可能になった実例，将来の可能性を紹介し，研究を行うための法律的な基準についても紹介する 【キーワード】 遺伝子操作技術、遺伝子組換え、カルタヘナ議定書	渡辺　雄一郎	渡辺　雄一郎
15	今後の社会と分子生物学	21世紀は生命科学の時代であり，分子生物学はその基礎として重要性を増すにいたっている．ここでは，ゲノムから明らかになった生命のしくみ，病気の治療法の開発，遺伝子改変食品，など私たちのまわりの問題と，それにまつわる生命倫理について講義する 【キーワード】 分子生物学と社会、遺伝素因、遺伝子診断	石浦　章一	石浦　章一

事務局記載欄	開講年度	２０１１年度	科目区分	専門科目	科目コード	1562410	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 生物界の変遷 －進化生物学入門－ （’１１）＝ （ＴＶ）

※この科目は「生物界の変遷（’07）」を一部改訂した科目です。
改訂回は第3, 4. 5, 7, 9回です。

〔主任講師（現職名）：松本忠夫（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：二河成男（放送大学准教授）〕

講義概要

生命体は様々な地球環境のもとで、40億年近くかけて進化してきたが、その結果として、今日の大きな生物多様性が見られる。そもそも生命はどのようにして誕生したのであろうか。そして、いかにして進化し変遷していったのであろうか。また、生物体の姿はゲノムの中の遺伝情報が、発生過程を経て表現型として現れたものであるが、その仕組みは進化とどのように関係しているであろうか。さらに、分子レベルの進化はどのようであろうか。本講義では、進化生物学の入門として、多様な生物界の変遷および分子レベルでの進化を総合的にみることにする。

授業の目標

生命科学における最も基礎的な概念としての生物の進化とはどのようなことか、そして、生物の進化は遺伝情報の変化でもあるが、それらはいかにして成立したかについて学んでもらう。

履修上の留意点

本講義を履修するにあたっては、学部での基礎科目の「初歩からの生物学」を履修しておくこと、あるいは同水準の生物学を既習していることが望ましい。また、学部での共通科目の「生物集団と地球環境」、専門科目の「動物の科学」、「植物の科学」、「分子生物学」、「細胞生物学」そして総合科目の「バイオサイエンスで豊かな暮らし」は、生物科学関係の関連した科目として設置されているので、できるだけ参考にして欲しい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	「生物界の変遷」のねらい	地球上に生命体が誕生して約40億年、その間に実に様々な生物が進化し、今日に至っている。 この回ではそれらの様相を概観し、本講義全体のねらいを解説する。また、生物の進化はどのようにして調べられてきたのかの方法、さらに、生物が進化するに至った原動力などを説明する理論を紹介する。さらに、生物界の分類の方法についても考察する。 【キーワード】 生命史40億年、化石、地層の歴史、年代測定、形質の比較、生物の系統、進化	松本 忠夫（放送大教授）	松本 忠夫（放送大教授）
2	生命の誕生、そのメカニズム	今から約40億年前に、地球上で生命は誕生した。現在の最も単純な細胞であっても非常に複雑である。どのように生命は準備され、誕生したのであろうか。まず生体を構成する物質が無生物的に合成され、地球上に蓄積した。それが集合して、やがて最初の細胞が誕生した。それが誕生するまでの過程を概観する。 【キーワード】 生命の誕生、化学進化、DNA、RNAワールド、高分子の重合	山岸 明彦（東京薬科大・教授）	山岸 明彦（東京薬科大・教授）
3	生物界の3ドメインの誕生と進化 （※改訂回）	現在の生物の共通祖先が地球上に現れ、その後、真正細菌、古細菌、真核生物という3つのグループに分岐した。それら3つのドメインは独自の進化を遂げて現在に至っている。ここでは、その3つのドメインの進化的な関係を示し、さらには、真正細菌と古細菌について、その進化と多様化そして地球環境との関係について解説する。 【キーワード】 共通祖先、真正細菌、古細菌、真核生物、3ドメイン説	二河 成男（放送大准教授）	二河 成男（放送大准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	真核生物の誕生と進化　（※改訂回）	真核生物の持つ真核細胞には、原核細胞とは異なり、細胞の中に核やミトコンドリアといった膜に包まれた構造が存在する。ここでは、どのような進化の過程を経て、真核細胞が内部の構造を獲得してきたかを解説することによって、真核生物の誕生と進化の過程を示す。また、いくつかの興味深い真核生物の特徴について概観する。 【キーワード】 真核細胞、細胞小器官、細胞骨格、細胞内膜系、有性生殖、多細胞化、内生説、共生	二河　成男	二河　成男
5	動物の誕生と爆発的な進化（※改訂回）	真核生物の誕生後、水中では多細胞動物が現れて大型化していった。そして約6億年前から数千万年間ほどエディアカラ生物が大繁栄したがやがて絶えてしまい、先カンブリア時代末からカンブリア紀初期には節足動物などの爆発的な多様化がみられた。その間には地球環境に様々な変動があった。本章では、生命進化史のなかで、動物がどのようにして誕生し、なぜ急速に多様化したかについて説明する。 【キーワード】 動物の誕生、多細胞生物、エディアカラ生物、カンブリア生物、動物の大型化、眼の誕生	松本　忠夫	松本　忠夫
6	植物の上陸と多様化	最初に陸上に進出した生物は何か、現在の陸上生態系を支える生産者である植物はいつどのようにして上陸したのか、祖先は何か、上陸によって地球はどのように変化したのかなどについて解説する。 【キーワード】 陸上植物、植物の上陸、維管束植物、被子植物、裸子植物	西田　治文（中央大学・教授）	西田　治文（中央大学・教授）
7	魚類の進化と動物の上陸（※改訂回）	カンブリア紀に動物は爆発的に多様化した。そして、魚類の祖先が出現し、やがて様々な系統へと分化して行った。デボン紀になると、植物が上陸した後を追いかけるように、水中で大きく多様化した動物の一部も上陸した。そして、それらは陸上植物の進化とともに多様化していった。本章では魚類の誕生とその進化、そして脊椎動物はどのようにして陸上に進出したのか、また、上陸するにあたっては、どのような形質の獲得が必要だったのか、そしてどのように多様化していったのかついて解説する。 【キーワード】 魚類の進化、脊索動物、脊椎動物、顎の進化、動物の上陸、硬骨魚類、四足動物、両生類	松本　忠夫	松本　忠夫
8	昆虫類の適応放散	昆虫類は現在の地球の陸上においてもっとも種類数が多く、特に熱帯域において種数、現存量ともに大繁栄している。その昆虫類の起源は古生代にさかのぼるが、現生の昆虫類は被子植物の進化と共に適応放散した系統が大勢を占めている。この章では、昆虫類の特徴を見ると共に、その適応放散の様相を解説する。 【キーワード】 節足動物、外骨格、昆虫類、適応放散、昆虫の翅、エラ起源説	松本　忠夫	松本　忠夫

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
9	四足動物の適応放散（※改訂回）	脊椎動物は実に多様な生活型に適応放散した。海洋などの水界においては、祖先的な遊泳型として硬骨魚類が大勢を占めているが、哺乳類も種々の遊泳型のものが進化している。陸上では、歩行型として爬虫類や哺乳類、飛翔型として鳥類が繁栄しているが、哺乳類にも飛翔型のコウモリ類がいるし、鳥類には歩行型のダチョウ類、遊泳型のペンギン類などもいる。この章では脊椎動物の適応放散の様相およびその意味を解説する。 【キーワード】 四足動物、爬虫類の進化、適応放散、恐竜、鳥類の進化、哺乳類の進化	松本　忠夫	松本　忠夫
10	分子レベルの進化	分子生物学の進展により、生命現象をDNAやタンパク質といった分子から説明できるようになった。この結果、生命の進化における形や性質の変化や多様化を分子レベルで説明する試みが注目を集めている。この回ではDNAやタンパク質の進化と多様化のしくみについて解説する。 【キーワード】 突然変異、自然選択、分子進化の中立説、遺伝的浮動、分子時計	二河　成男	二河　成男
11	分子で探る生物の系統関係	約40億年前に地球上に現れた祖先生物が種分化を繰り返してきた結果、多種多様な生物種が進化してきた。この生物進化の歴史は系統樹として表現される。系統樹とは何か、分子データから系統樹をどのように推定するかについて説明する。 【キーワード】 生物の分類、2名法、系統樹、系統関係の推定	二河　成男	二河　成男
12	ゲノムの進化	多数の生物種においてそのゲノム情報が解読されたことにより、生物進化に伴いゲノム自身も大きく変化してきたことが明らかになってきた。様々なゲノム進化の様式について説明する。 【キーワード】 ゲノム、遺伝子重複、遺伝子シャフリング、遺伝子水平転移、遺伝子喪失	二河　成男	二河　成男
13	発生と進化（動物）	動物が植物と異なる点は，なんと言っても「行動」を行えることであろう．その行動を可能にするためには，筋肉や神経などを用いて機能的な運動を可能とするためのボディプランの構築が必須である．そのような精巧なボディプランがどのようなメカニズムの上に成り立ち，そしてそれがいかにして進化してきたかについて概説する。 【キーワード】 発生進化学、植物の生殖器官、ABC機能遺伝子、LEAFY遺伝子、植物の花	三浦　徹（北海道大学大学院准教授）	三浦　徹（北海道大学大学院准教授）
14	発生と進化（植物）	生物の多様な形はどのように進化したのだろうか。形は多くの遺伝子によって制御される発生過程の結果できあがる。従って、発生過程に関わる遺伝子の進化が生物の多様な形を生み出す原因である。植物の生殖器官である「花」の進化を題材に、生物の形の多様性がどんな遺伝子の変化によって引き起こされるのかを探求する。 【キーワード】 進化発生学、体節、Hox遺伝子、翅原基、表現型可塑性、カースト分化	長谷部　光泰（基礎生物学研究所教授）	長谷部　光泰（基礎生物学研究所教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
15	生物界の変遷と人類	人類は約5百万年前に誕生し、つい数万年前から地球上に大きく拡散した。そして、現在では地球上において極めて大きな影響力を持つに至った。類人猿の祖先から人類が誕生した道筋、そして他の生物に与える影響の大きさを様々な側面から説明する。 【キーワード】 霊長類、人類の特徴、人類の化石、人類の誕生、アフリカ単一起源説、人類の世界拡散	松本　忠夫	松本　忠夫

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目コード	1564900	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　植物の科学　　（’０９）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：塚谷　裕一（東京大学・教授）　〕

〔主任講師（現職名）：荒木　崇　（京都大学・教授）　〕

講義概要

生物界の基礎生産を行ない、酸素の供給源ともなっている植物に関して、その多様性、生理、発生、生化学、生殖、成長、他の生物との相互作用について説明する。さらに、合わせて医薬、食料や環境修復、園芸など暮らしとの関わりに関する応用植物科学の側面も講義する。『動物の科学』とペアになる講義である。

授業の目標

生物界の基礎生産を行ない、酸素の供給源ともなっている植物に関して、その多様性、生理、発生、生化学、生殖、成長、動物や微生物など他の生物との相互作用について説明する。
さらに、合わせて医薬、食料や環境修復、園芸など、人間の暮らしとの関わりに関する応用植物科学の側面も講義する。

履修上の留意点

『動物の科学』とペアになる講義である。『動物の科学』と合わせて履修することで、生物界全体に対する理解を深める。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	さまざまな植物たち	この講義全体を通じて、植物の暮らしそのものの理解と共に、私たち人との関わりにも理解を深めてもらうことを目指している。その最初の導入として、いかにさまざまな植物が、地球上で私たちの身の回りにいるかを紹介し、生物多様性の理解を進める。 【キーワード】 生物多様性、形態多様性、植物学の概観	塚谷　裕一（東京大学・教授）	塚谷　裕一（東京大学・教授）
2	光合成と一次代謝	植物の生の営みの特色の1つは、光のエネルギーを化学エネルギーに変換する光合成過程である。植物が光エネルギーを受け取り、化学エネルギーに変換するしくみとその多様性、さらに、光合成産物が呼吸等の一次代謝により利用されていく関係を学ぶ。 【キーワード】 光合成、光合成の電子伝達系（光化学系）、カルビン・ベンソン回路（還元的ペントースリン酸回路）、C3植物、C4植物、一次代謝	佐藤　文彦（京都大学・教授）	佐藤　文彦（京都大学・教授）
3	発生・成長（1） ～胚発生～	植物の発生と成長について、この回から6回にわたって紹介する。第1回は、種子の中にあって外からはうかがい知ることがむずかしい胚発生の仕組みについて学ぶ。胚発生の過程で形成される植物体のおおまかな体制（ボディープラン）やその形成に関わる植物ホルモンについて紹介する。 【キーワード】 種子、胚発生、ボディープラン、分裂組織、植物ホルモン	荒木　崇（京都大学・教授）	荒木　崇（京都大学・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	発生・成長（2） ～発芽と伸長～	完成した胚を含む種子は、水分を失い乾燥種子として休眠状態に入るが、水、酸素、光といった適切な環境刺激のもとで発芽が可能になる。発芽した芽生えは光環境に応じた成長をおこなう。種子の休眠と発芽の仕組み、それに関わる植物ホルモン、芽生えの伸長成長、種子や芽生えが光を感じる仕組みなどについて学ぶ。 【キーワード】 種子休眠、発芽、伸長成長、植物ホルモン、光受容体	荒木　崇 （京都大学・教授）	荒木　崇 （京都大学・教授）
5	発生・成長（3） ～根～	根は土壌から水分や養分を吸収して植物の地上部に与えている。その発生と成長は独特のものであり、重力や栄養欠乏を感知して形を変化させる可塑性や、土壌中の障害物を巧みに回避して成長する特性等を備えている。それらの仕組みを、関連の深い植物ホルモンとあわせて紹介する。 【キーワード】 根、根端分裂組織、可塑性、重力屈性、植物ホルモン	川口　正代司 （東京大学・准教授）	川口　正代司 （東京大学・准教授）
6	発生・成長（4） ～シュート～	植物の地上部は、茎の周りを葉が取り巻く「シュート」という構造から成っている。その形作りの仕組みを紹介し、どのようにして植物のシュートが発達していくのかを学ぶ。特に、シュート頂分裂組織から葉ができる仕組み、その配置のルール、さらに葉の形態の多様性とその遺伝的な仕組みなどについても紹介する。 【キーワード】 SAM（シュート頂分裂組織）、葉序、葉、花	塚谷　裕一 （東京大学・教授）	塚谷　裕一 （東京大学・教授）
7	発生・成長（5） ～花芽形成～	植物は適切な環境条件におかれると、シュートを変形させて花を作り出す。その切り換えを花芽形成という。特に日の長さは花芽形成を促す重要な環境要因である。植物が日の長さを感じて花芽形成を開始する仕組みや花を構成する器官、ABCモデルと呼ばれる花の形づくりのしくみなどについて学ぶ。 【キーワード】 花芽形成、日長、光受容体、生物時計、フロリゲン、ABCモデル	荒木　崇 （京都大学・教授）	荒木　崇 （京都大学・教授）
8	発生・成長（6） ～受粉と受精～	花は生殖器官を含み、受粉と受精の場として機能する。生殖器官の形成、自己と他者の花粉を区別する仕組みや卵細胞を含む胚嚢まで花粉管を導く仕組みなど、受粉から受精にいたる過程を紹介し、このシリーズの初回で学んだ胚発生の出発点である受精卵ができるまでを学ぶ。 【キーワード】 花粉、胚嚢、受粉、花粉管、受精、自家不和合性	荒木　崇 （京都大学・教授）	荒木　崇 （京都大学・教授）
9	形態の可塑性 ～環境適応～	植物は固着性の生活をしているため、予め決められた発生プログラムの他に、環境に合わせて随時、可塑的に形態を変化させる仕組みを持っている。その仕組みとその生態学的意味について学ぶ。さらに、外界の環境に応じてどのようにその姿を変えるのかについて、重力応答や頂芽優勢など、具体例を紹介する。 【キーワード】 可塑性、環境適応、重力、光環境、頂芽優勢	塚谷　裕一 （東京大学・教授）	塚谷　裕一 （東京大学・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	動物との相互作用 ～食害・送粉・種子散布～	植物はさまざまな動物とかかわり合って生きている。植物は多様な植食性昆虫の食害を受けており、一方でそれに対する対抗進化を遂げている。また、多くの植物は報酬を支払って、動物に送粉（受粉や授粉）や種子散布を託している。植物と動物との間に見られるこのような搾取や共生の関係について俯瞰する。 【キーワード】 食植性昆虫、化学防衛、送粉共生、ハナバチ、種子散布共生	加藤　真 （京都大学・教授）	加藤　真 （京都大学・教授）
11	植物間の相互作用 ～競争・寄生・交雑～	隣接する植物同士は、光や水をめぐって競争関係にある。寄生植物や着生植物のように、他の植物に依存して生きる植物もあれば、アレロパシーによって他の植物の生育を阻害するものもある。このような植物間の多様な相互作用を概観したのち、近縁種間に見られる生殖隔離の強化や、交雑を介した種分化についても紹介する。 【キーワード】 競争、寄生植物、着生植物、生殖隔離、交雑	加藤　真 （京都大学・教授）	加藤　真 （京都大学・教授）
12	微生物との相互作用 ～病害・共生・寄生～	動くことのできない植物は、菌類やバクテリア、ウイルスなどの病原微生物から身を守るために、独自のシステムを進化させてきた。一方で、アーバスキュラー菌根菌という不思議な生命体や根粒菌と共生し、地球の生態系を変えてきた。植物と微生物の多様な相互作用の仕組みとともに、その進化史を紹介する。 【キーワード】 病原抵抗性、共生、根粒菌、アーバスキュラー菌根菌	川口　正代司 （東京大学・准教授）	川口　正代司 （東京大学・准教授）
13	暮らしと植物（1） ～二次代謝～	植物はもちろん、我々人間とも密接な関係にある。最後の3回にわたるシリーズでは、その詳細を見ていく。第1回は、食料やパルプ繊維、燃料としての利用とともに、香辛料、染料、医薬品など、植物がつくり出す様々な低分子量の二次代謝産物を通して人間の暮らしに関わる面について学ぶ。 【キーワード】 二次代謝産物、フラボノイド、テルペノイド、アルカロイド、医薬品、機能性食品成分、工業原料	佐藤　文彦 （京都大学・教授）	佐藤　文彦 （京都大学・教授）
14	暮らしと植物（2） ～作物の未来～	植物を人間の役に立つよう品種改良するという作物育種の歴史は古い。育種の歴史と最近開発されつつあるゲノム育種、遺伝子組換え技術について、その実例を紹介しつつ、その利点と可能性、特に、環境保全あるいは環境修復において植物が持つ可能性に関する正確な理解を目指す。 【キーワード】 育種の歴史、作物、ゲノム育種、遺伝子組換え、環境修復	佐藤　文彦 （京都大学・教授）	佐藤　文彦 （京都大学・教授）
15	暮らしと植物（3） ～園芸と植物学～	ふだんの市民生活において、最も身近な植物のあり方の一つは、園芸であろう。最後に、私たちの暮らしに最も近い植物の素顔を、原産地あるいは街中におけるそのあり方として振り返る。ここまで学んできたことを復習しつつ、私たちと植物との関係を、もう一度まとめて理解し直すことをめざす。 【キーワード】 園芸、品種改良、相互作用、適応、人との関わり	塚谷　裕一 （東京大学・教授）	塚谷　裕一 （東京大学・教授）

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目コード	1565419	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　動物の科学　　（’０９）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：松本忠夫（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：星　元紀（放送大学教授）〕

講義概要

動物とは、他の生物が作った有機物を摂食して生きている多細胞生物の総称である。生物界を構成している6界の生物の中で、もっとも後に進化したものたちで、極めて多様な生活様式が見られる。本講義では、私たち人間を含めての動物たちの基本的な生活様式を見るとともに、生殖、発生、運動、行動、内分泌、生体防御、感覚などのメカニズムを紹介する。そして、動物の姿を科学することは、人間自身の理解の上で極めて有用であることを知っていただく。

授業の目標

現代における生物科学あるいは生命科学は、極めて大きく発展してきている。そして、生命現象の解明で明らかにされてきたことは、非常に複雑かつ高度な物質系であって、全面的な理解のためにはまだまだ多くの謎解きをしなければならないことである。生物以外の他の物質系にはない特徴として、生命の設計図であるゲノム情報の伝達とその変革（進化）があるが、動物ではその様相は複雑きわまりない。本講義は、自らが動物である限り、動物に関しての知識をもっておくことは、現代人の素養であり生活を豊かにしていく上で必須であると考えて作成されている。

履修上の留意点

本講義を履修するにあたっては、共通科目の「初歩からの生物学」を履修しておくこと、あるいは同水準の生物学を既習していることが望ましい。本講義と専門科目の「植物の科学」は、いわば姉妹講義の関係となっている。さらには、共通科目の「生物集団と地球環境」、専門科目の「分子生物学」、「細胞生物学」、「生物界の変遷」、そして総合科目の「バイオサイエンスで豊かな暮らし」は、生物科学関係の関連した科目として設置されている。

	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	多様な動物の世界	動物とはどのような生物をさすのか、その生活メカニズムの基本的な様相、そして進化上の変遷を説明する。また、現在の地球上での動物たちの適応放散と過去での適応放散を比べることにより、動物の生活の本質を考える。さらには、島嶼に隔離された鳥類における特異的な適応について紹介し、動物の進化において捕食・被食関係の重要性をする。 【キーワード】 動物の定義、動物の誕生、系統分類、捕食・被食関係、適応放散、ニュージーランドの生物	松本忠夫（放送大学・教授）	松本忠夫（放送大学・教授）
2	野外における動物集団	動物は従属栄養の生物であり、野外における生活の基本として食物資源の獲得がある。また、さまざまな無機環境に適応している。本章ではその基本的な姿を説明する。さらに、人間活動によって絶滅ないし絶滅危惧に至った動物たち、絶滅危惧動物の保全、そして有害動物の防除など具体例を紹介する。 【キーワード】 従属栄養、ニッチ、絶滅危惧動物、動物の保全、有害動物の除去、ニュージーランドの固有鳥類	松本忠夫（放送大学・教授）	松本忠夫（放送大学・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
3	飼育、養殖される動物たち	人間は自然界の様々な動物を、自身の生活向上のために様々に改変してきた。その改変は品種改良としてとらえることができるが、ヒツジ、ウシ、ウマ、イヌ、ネコ、カイコ、ミツバチ、魚類など多数種がいて、家畜動物、愛玩動物、実験動物等に分類される。これら品種改良のポイントはどのようなことだったのか、動物の本性との対比で考えてみることにする。また、養殖される魚介類の様相に関しても説明する。 【キーワード】 家畜動物、養殖、品種改良、遺伝学の応用、ニュージーランドの家畜	松本忠夫（放送大学・教授）	松本忠夫（放送大学・教授）
4	動物の子孫の残し方	生殖は種の存続を保証する営みである。生殖には、遺伝子の混合を伴わない無性生殖と、遺伝子の混合を伴う有性生殖とに大別される。それぞれの仕組みの概略と、有性生殖の鍵となる減数分裂および受精について述べるとともに、生殖医療の現状について検討する。 【キーワード】 無性生殖、有性生殖、減数分裂、受精、生殖医療	星　元紀（放送大学・教授）	星　元紀（放送大学・教授）
5	個体形成のメカニズム	受精卵という1個の細胞が、胚、幼生を経て成体となり、やがて老化して死に至るまでの複雑な過程が、どのようにして営まれているのか述べる。また、この過程に大きな影響を与える薬剤等について触れるとともに、再生医療の現状について検討する。 【キーワード】 初期発生、細胞の増殖と分化、体軸の決定、形態形成、幹細胞、再生医療	星　元紀（放送大学・教授）	星　元紀（放送大学・教授）
6	動物の発生様式と進化	発生様式の変更は進化の重要な要因である。ここでは、進化とのかかわりにおいて、発生を制御する主要な遺伝子群について述べるとともに、遺伝子レベルでのわずかな変化がもたらす形態の変化について概観する。 【キーワード】 進化発生学、発生関連遺伝子、Hox遺伝子、モジュール、大進化	星　元紀（放送大学・教授）	星　元紀（放送大学・教授）
7	動物における表現型可塑性と進化	動物は生存や繁殖のために、変動する環境の中で多様な戦略をとり，適応している．このような環境適応は，動物の成長過程をいかにして修飾するかに依存する．このような適応的な表現型の変化を「表現型可塑性」というが，本講義ではその仕組みと進化過程について概説する。 【キーワード】 表現型可塑性、環境応答、反応基準、表現型多型、発生拘束、進化	三浦　徹（北海道大学大学院地球環境科学院・准教授）	三浦　徹（北海道大学大学院地球環境科学院・准教授）
8	動物の感覚生理	動物は生存・繁殖のため、外界の環境を視覚や聴覚、嗅覚、味覚、触覚等（「五感」）の感覚受容により感知し、適応的な応答や行動を示す。本章では神経細胞（ニューロン）の構造と機能、主要な感覚を担う感覚受容器と動物による多様性、感覚情報を処理する脳の構造、一部の動物に見られる特殊な感覚の例について解説する。 【キーワード】 感覚受容、メカニズム、脳の構造、種による多様性	久保　健雄（東京大学大学院理学系研究科・教授）	久保　健雄（東京大学大学院理学系研究科・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
9	個体間のコミュニケーション	同種または異種の動物が交信のために用いるコミュニケーションには、フェロモン等による化学コミュニケーション(嗅覚)、音声(聴覚)や色彩(視覚)を用いたコミュニケーションの他、ヒトの言語に代表される記号的コミュニケーションなどがある。特に社会性動物では、様々なコミュニケーションが発達している。それらのコミュニケーションの神経的基盤や生物学的意義を解説する。 【キーワード】 化学コミュニケーション、視覚や聴覚によるコミュニケーション、ミツバチの尻振りダンス、弱電気魚のコミュニケーション	久保 健雄(東京大学大学院理学系研究科・教授)	久保 健雄(東京大学大学院理学系研究科・教授)
10	親子関係と性選択	動物界には多様な繁殖戦略が見られる。動物の親子関係においては、子を生みっぱなしで何ら世話をしないものから、少数の子を極めて親密に養育するものまで多様である。また、親子関係とともに繁殖をめぐる雌雄の関係も多様である。一般に雌は子を残すにあたって、雄を慎重に選好することから性選択が起こっている。この回では、そのような子孫を残すにあたっての性行動、子の養育に関する形質の進化を説明する。 【キーワード】 生殖様式、繁殖戦略、親による子の保護、育児行動、雌の選好性、ニュージーランドの鳥類	松本忠夫(放送大学・教授)	松本忠夫(放送大学・教授)
11	動物の社会生態	動物には集団を形成し、その個体間で様々な協力行動をするものたちがいる。そのような協力行動はいかなる背景の元に成立しているのであろうか。そして、協力行動の結果、それぞれの種固有の社会生態が成立しているが、その進化はどのようなものだろうか。ここでは、最近、大きく進展をとげた社会生物学の要点を講義する。 【キーワード】 協力行動、利他行動、社会進化、血縁選択、分業、カースト分化	三浦 徹(北海道大学大学院地球環境科学院・准教授)	三浦 徹(北海道大学大学院地球環境科学院・准教授)
12	動物の脳とその機能	脳が大きくなることによって、動物は知能や行動というすばらしい能力を獲得してきた。また、サルからヒトに進化することによって「精神」と呼ばれるものも兼ね備えてきた。この章では、神経の機能、ヒトが持つ特殊な能力、モデル動物を用いた遺伝子と各能力との関係などについて、例とともにわかりやすく紹介する。 【キーワード】 神経細胞、脳機能、精神活動、言語野、記憶	石浦 章一(東京大学大学院総合文化研究科・教授)	石浦 章一(東京大学大学院総合文化研究科・教授)
13	動物の行動とホルモン	動物の行動は、ホルモンと呼ばれる細胞が分泌した物質によって規定される場合がある。性に応じた行動や、ストレス応答などがその代表例である。脊椎動物を例にとって、内分泌器官のはたらきと動物の行動との関係を紹介する。 【キーワード】 ホルモン、自律神経、神経伝達物質、ヒトの行動、アセチルコリン、ドーパミン	石浦 章一(東京大学大学院総合文化研究科・教授)	石浦 章一(東京大学大学院総合文化研究科・教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
14	動物と感染症	動物は、傷を負ったり、微生物の攻撃を受けることがあるが、それらを軽減するしくみを持っている。この生体防御のはたらきをヒトを例にとって説明するとともに、それを回避するしくみや薬剤についても紹介する。 【キーワード】 感染症、鳥インフルエンザ、プリオン病、ワクチン、薬剤耐性菌、免疫、抗生物質	石浦　章一（東京大学大学院総合文化研究科・教授）	石浦　章一（東京大学大学院総合文化研究科・教授）
15	応用動物科学の課題	動物の科学を学ぶことは、現代人の生活に取って必須となっている。それは、人間自身が動物であることから自明であり、また、応用生命科学が高度に進展してきていて、現代人の生活のあらゆるところで、それらは関係してきているからである。この回では、最近の応用動物科学のいくつかのトピックスに関して、ゲストと座談する。 【キーワード】 畜産革命、スーパーカウ、人工授精、　人畜共通症、食肉の安全性、昆虫機能、カイコ、有用物の生産	松本忠夫（放送大学・教授）	松本忠夫（放送大学・教授）、ゲスト（唐木英明、竹田敏先生）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1560204	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 現代物理 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：生井澤　寛（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：吉岡　大二郎（東京大学大学院教授）〕

講義概要

現代物理は、物理に限らず生命や脳の働き、宇宙の進化など広い範囲で豊な自然観をもたらすだけでなく、技術・産業開発の基礎をなしている。ここではまず、力学、電磁気学、熱統計力学などの古典物理学を、現代物理の理解につながるように復習する。そして、現代物理の柱の一つである相対性理論に進み、時・空、エネルギー・運動量と電磁場の変換性を理解する。つづいて、もうひとつの柱である量子力学が、古典物理と矛盾する現象をどう克服して導かれたかを見ながら、量子の論理に焦点を当てて基礎的理解を深める。この理解のもとに、多様な物質の構造や振る舞いを解きほぐし、新しい物質の開発やナノメートルの世界を切り拓く論理を獲得するとともに、マクロな世界の相転移現象を支配した対称性の自発的破れが、素粒子の世界をも支配する論理であることを示して、現代の自然観の基礎を提示する。最後に、大きな世界へ目を転じて、宇宙を支配する重力と一般相対性理論について学ぶ。これらの世界にはまだまだ未解決の問題がたくさんある。それらの解決を目指して、研究が日々続けられているが、この講義を取る皆さんの中から、新しい道を見いだす人が出ること期待したい。

授業の目標

現代物理の理解を通して、これまでに得られた自然観を展望し、ミクロな世界から宇宙とその起源や元素の起源の理解をうるとともに、これから拓かれる新物質や新技術の開発への基礎を提示する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	古典物理学のおさらいⅠ	古典物理学の2本の柱である力学と電磁気学を、復習をかねて、現代物理学を理解するために有効な形式に書き換える。これらは、量子力学と相対性理論を理解するための準備となる。また、光が、電磁波の仲間であり、真空中を伝わる波であることを見る。 【キーワード】 運動方程式、エネルギー・運動量・角運動量保存則、最小作用の原理、解析力学、電場・磁場、マックスウエル方程式、電磁波、エネルギー・運動量テンソル	生井澤　寛（放送大学教授）	生井澤　寛（放送大学教授）
2	古典物理学のおさらいⅡ	物質の姿＝相の理解には、温度と熱の理解が基礎となる。そして、物質は多数の原子・分子から出来ているから、統計的な理解が要る。そこで、熱の物理学と、統計力学を復習し物質の構造と性質を理解するための準備としよう。この際対称性の自発的破れという考え方が後の理解にも不可欠となる。さらに、場と波の理解は量子力学に欠かせないから、振動・波動の復習をしよう。 【キーワード】 温度、熱、比熱、熱力学基本法則、相、相転移、対称性の自発的破れ、統計力学、振動・波動、固有モード、フーリエ分解	生井澤　寛（放送大学教授）	生井澤　寛（放送大学教授）
3	真空と光：特殊相対性理論	相対論は、真空中の光速が、観測者の座標系の運動によらないという発見から始まり、古典物理の世界では互いに独立と考えられていた時間と空間が、互いに離れがたい関係にあることを示し、現代物理の柱のひとつとなった。光は媒質無しで真空中を伝わるが、ドップラー効果を示すことも相対論から示され、宇宙の構造や誕生の謎に強力な手がかりを与えた。 【キーワード】 ガリレイ相対性、慣性系、光速不変、ローレンツ変換、特殊相対性、エネルギー・運動量と電磁場の変換性、ドップラー効果、赤方偏移	生井澤　寛（放送大学教授）	生井澤　寛（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	深まる謎：古典物理学の限界	20世紀の変わり目に、電子や放射能の発見とともに、古典物理学で理解できない謎が相次いで出てきた。太陽や原子からの光が、とびとびである謎。熱放射の強さが、温度上昇とともに振動数の高い方に（赤から青へ）移る謎。絶対零度に近づくと、比熱がゼロになる謎。金属に光を当てると、光の強さによらず振動数が大きいときだけ電子が飛び出す謎。これらが古典物理とどう矛盾するかを見て行こう。 【キーワード】 電子、とびとびの光、低温比熱、温度と色、光電効果、放射能、原子核、原子の構造、電子の電荷	生井澤　寛（放送大学教授）	生井澤　寛（放送大学教授）
5	謎を解く手がかり：エネルギーの量子化	前講の謎は、熱放射の謎を解いたプランクによるエネルギーの量子の考え（光のエネルギーは連続でなく、とびとびとなる）により、光電効果（アインシュタイン）、低温比熱についても解けることを見よう。とびとびの光の謎も、原子にエネルギー量子の考えを当てはめると解決する（ボーア）。さらに、電子に角運動量とスピンという自由度を導入し、量子化すれば、原子の規則性を表す周期表も理解でき、磁石の起源もわかる。 【キーワード】 熱放射のスペクトル、プランクの放射式、エネルギー量子、光（量）子、定常状態、対応原理、ボーアの原子模型、スピン、周期表、磁石の起源	生井澤　寛（放送大学教授）	生井澤　寛（放送大学教授）
6	ミクロの論理：量子力学	謎の鍵が量子にあることを見た。では、量子として振る舞う光や電子はどういう論理に従うか。この基本的な謎を解くふたつの流れを見て行こう。ひとつは、物理量を、状態間を結ぶ行列として扱う（ハイゼンベルグ）。もうひとつは、光だけでなく電子も波のような存在と考え、すべての量子的存在を、波動関数として扱う（シュレーディンガー）。これらは同等であるだけでなく、量子力学という体系としてミクロの世界の基本論理をなすことを見る。さらに、物質のミクロな性質を理解するために、第2講で学んだ統計力学を量子の世界に拡張しよう。 【キーワード】 状態の遷移、行列力学、交換関係、正準量子化、固有状態、ドブロイ波、電子の波動性、波動方程式、確率振幅、不確定性関係、量子統計、フェルミ統計、ボース統計	生井澤　寛（放送大学教授）	生井澤　寛（放送大学教授）
7	固体の結晶構造と電子状態	固体には良く電流を流す導体即ち金属と、電流を流さない絶縁体がある。この違いはどこから来るのだろうか？この違いの理解には、固体中の電子がどう振る舞うかを量子力学を用いて調べなければならない。固体では原子が規則正しく並んで、結晶構造を作っている。この周期的な構造中での電子状態はエネルギーバンドという概念で理解され、これによって、導体である金属と絶縁体の違いが明らかになることを見よう。 【キーワード】 固体、導体、絶縁体、結晶構造、トンネリング、ブロッホの定理、フェルミ面、エネルギーバンド、伝導帯、価電子帯、エネルギーギャップ	吉岡　大二郎（東京大学大学院教授）	吉岡　大二郎（東京大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
8	半導体:現代文明を支える石器	金属と絶縁体の中間の性質を示す半導体は、電子回路の素子として現代の生活を根底から支えている。半導体の電子構造を明らかにし、それによって半導体素子がどういう動作・特性を示すかを理解し、ダイオードがどのように電流を整流するか、トランジスターがどのように増幅作用をするかを見て行く。さらに、高密度集積回路においては2次元的な電子系が用いられ、そこでは量子ホール効果といわれる現象が観測されることを見る。これらの理解から、新しい素子や回路の開発も可能となる。 【キーワード】 半導体、不純物準位、正孔(ホール)、ドーピング,n型、p型、ダイオード、トランジスター、LSI、2次元電子系、量子ホール効果	吉岡 大二郎(東京大学大学院教授)	吉岡 大二郎(東京大学大学院教授)
9	磁性:永久磁石が解き明かす相互作用の効果	ビデオテープやハードディスクで情報を記録するのは、微小な磁石であり、ほかにも磁石の応用は広い。磁石の起源は電子にあることを見たが、量子力学により、まずなぜ原子に磁気モーメントが生ずるかを見て、次に結晶中で、それらがどの様に相互作用するのかをさぐると、原子間の磁気モーメントの方向をそろえようとする力が生ずることがわかる。全体の磁気モーメントが揃って永久磁石が出来るのである。温度が上がってこの相互作用のエネルギーを越すと、磁性が消えることも見る。 【キーワード】 磁石、電子スピン、交換相互作用、原子の磁気モーメント、磁気相互作用、強磁性、常磁性、キュリー温度、磁気相転移	吉岡 大二郎(東京大学大学院教授)	吉岡 大二郎(東京大学大学院教授)
10	相転移	前項で見た温度による永久磁石の性質の消滅は、相転移の一例である。ここでは、相転移にはどの様なものがあるかを詳しく見て行く。第1種と第2種の相転移について説明し、統計力学による理解を目指す。第2種の相転移では秩序変数という概念が重要であること、また、自発的な対称性の破れという概念について説明する。 【キーワード】 相転移、相図、第1種相転移、潜熱、第2種相転移、秩序変数、自発的な対称性の破れ、	吉岡 大二郎(東京大学大学院教授)	吉岡 大二郎(東京大学大学院教授)
11	超流動:凍らない液体の示す奇妙な現象	水などの普通の液体は冷やすことにより固化する。それは典型的な第一種の相転移である。ところが、ヘリウムの場合には普通の圧力下ではいくら冷やしても凍らない。それどころではなく、超流動という奇妙な液体になる。超流体は粘性のない流体であるが、それ以外にもおもしろい性質を示す。超流体が示す現象を見てそれがどの様に説明されるかを見てゆこう。 【キーワード】 液体ヘリウム、超流動、噴水効果、壁を登るヘリウム、ボースアインシュタイン凝縮、巨視的量子効果、2流体モデル	吉岡 大二郎(東京大学大学院教授)	吉岡 大二郎(東京大学大学院教授)
12	超伝導	温度を下げてゆくと、電気抵抗が突然消失するものを超伝導体という。超伝導は超流動とともに20世紀初頭に発見されたが、その理論的解明には半世紀を要した。超伝導体は電気抵抗を示さないだけでなく、磁場を排除するマイスナー効果と呼ばれる性質を持つ。超伝導体による磁束の量子化、ジョセフソン効果、SQUID等について見て行き、これらの現象をもたらす電子状態がどの様なものであるかを解明する。 【キーワード】 超伝導体、マイスナー効果、完全反磁性、磁束の量子化、ジョセフソン効果、SQUID、クーパー対、フォノン	吉岡 大二郎(東京大学大学院教授)	吉岡 大二郎(東京大学大学院教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	メゾスコピック系:日常の世界と量子の世界をつなぐもの	日常手にする物質はアボガドロ数程度のマクロな数の粒子からなり、古典物理が主役をなす。一方、量子力学が支配するミクロな世界で扱うのは少数個の原子・分子である。この中間の世界(メゾスコピック世界)を支配するのはどういう論理だろう。そこでは、人工的に作った構造を用いて実験が行われ、原子分子より遥かに大きな系での量子効果やサイズ効果などが見える。ナノテクノロジーの舞台でもあるこの世界を探検しよう。 【キーワード】 メゾスコピック系、非局所抵抗、永久電流、粒子性と波動性、電子ドット、単電子トランジスター	吉岡 大二郎(東京大学大学院教授)	吉岡 大二郎(東京大学大学院教授)
14	ミクロの世界は何で出来ているか	量子力学により、電子が原子核に束縛されて、原子や分子を作ることを見た。では、原子核は何で出来ているか。そして、この世界の究極の構成要素は何であり、どうやって、この世界が出来るのかを見て行こう。この際に、場の考えと物性物理学で学んだ対称性の自発的破れという考えが重要となることを見るだろう。素粒子の研究は、まだ多くの謎に包まれている。それらの解決がこれからの物理の大きな課題でもある。 【キーワード】 原子核、素粒子、クォーク、レプトン、ゲージ粒子、基本相互作用、保存量、対称性の自発的破れ、大統一理論	生井澤 寛(放送大学教授)	生井澤 寛(放送大学教授)
15	時空が歪む:一般相対性理論	慣性系の間の基本法則の不変性は、特殊相対性理論で扱った。では、加速度運動する系の間での相対性はどうなるか。この疑問は一般相対性理論で解かれる(アインシュタイン)。加速度系の質量には力が働き、重力が作用したと考えることもできる。逆に重力場を、加速度の場で置き換えることもできる。重力場によって時間と空間が変化し座標軸が曲線となるのである。ここでは、一般相対性理論についてざっと見て行き、宇宙の中に現れるその効果に触れよう。最後にまとめとして、自然における階層性を、これまでに得た現代物理学のいくつかの切り口で眺める。 【キーワード】 慣性質量、重力質量、等価原理、重力場、曲がった空間、重力場方程式、重力波、ブラックホール、ハッブルの法則、宇宙の進化	生井澤 寛(放送大学教授)	生井澤 寛(放送大学教授)

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1566610	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　力と運動の物理　　（’０９）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：生井澤　寛(放送大学教授)　〕

〔主任講師（現職名）：毛利　信男(放送大学特任教授)　〕

講義概要

力学は最も古い自然科学の体系であるが、今でも生きている。暦や日食など天体の 運動は力学できわめて精度よく予測され、日常的に利用されるし、ロケットや人工 衛星の軌道計算も力学のおかげで可能となる。古典物理の柱をなすこの力学を中心に、力とは何か、という問いかけから始め、ベクトルとしての力の性質を体得した後に、力が運動の何を変えるかを、実験を通して発見させながら、運動の基本法則を導く。落下、放物運動、バネなどの基本的運動を解きながら、エネルギーと運動量 の概念と保存則を示し、ケプラーの観測結果により万有引力の法則を導き、角運動量とその保存則を理解する。質点系や広がった系(剛体)、束縛運動についても基本的な例を中心に運動方程式を解いて見せ、振動波動の基本を示して場の概念を導 入し、解析力学(ラグランジュ、ハミルトンの定式化)への一般化を行う。現代 物理学、特に量子力学への橋渡しをする。

授業の目標

物理の基本概念がどのように作られていったかを具体的な例に沿って、履修者とともに探るという姿勢でたどり、現代物理の理解の基本を与える。現代物理学、特に量子力学への橋渡しをする。

履修上の留意点

手に入る材料を使った実験もするので、自分でやってみること。「初歩からの物理学」、「物理の世界」をあらかじめ履修すると理解も容易で、楽しく学べることだろう。課題は、ぜひ自力でやるように。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	いろいろな運動	日常生活で何気なく見ているいろいろな運動をビデオや高速度カメラを通して観察し、ものの運動の実態を捉え、直線運動、放物運動、円運動、回転運動など基本的な運動の形態を説明する。さらに、地動説がなかなか受け入れられなかった理由としての見かけの運動、すなわち相対運動についてビデオ映像による運動の観察から説明する。 【キーワード】 直線運動、放物運動、円運動、振動、波動、回転運動、相対運動	毛利　信男(放送大学特任教授)	毛利　信男(放送大学特任教授)
2	力って何？	運動に変化を与えるには力の作用が必要であることを映像で示し、運動の変化と力の作用の関係をバネの力を用いて説明し、日常の経験のなかのいろいろな力、弾性力、摩擦力、重力、クーロン力、ローレンツ力、そして見かけの力、慣性力について学ぶ。 【キーワード】 弾性力、抵抗力(摩擦力)、重力、クーロン力(静電気力)、静磁気力、ローレンツ力、慣性力	毛利　信男(放送大学特任教授)	毛利　信男(放送大学特任教授)
3	運動の法則	身近な重力下の物体の運動(放物運動、単振り子の運動、斜面での台車運動)をビデオや高速度カメラで観察し、力と速度、加速度といった物理量が時間、距離、質量とどのような関係にあるのかを導き、ニュートンの運動の第1、第2法則を説明する。 【キーワード】 ニュートンの運動の第1、第2法則、速度、加速度	毛利　信男(放送大学特任教授)	毛利　信男(放送大学特任教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	衝突と運動	平面を運動する二つの物体の衝突や単振り子同士の衝突、壁や床にボールを衝突 させたときの運動状況を高速度カメラで観察し、衝突直前、直後の速度を測定 し、ニュートンの運動の第3法則、運動量、運動エネルギー、位置エネルギーにつ いて学び、運動量保存の法則、エネルギー保存の法則について説明する。 【キーワード】 ニュートンの運動の第3法則、作用反作用、運動量、運動エネルギー、位置エネルギー、運動量保存則、エネルギー保存則、撃力	毛利 信男(放送大学特任教授)	毛利 信男(放送大学特任教授)
5	運動の持続と減衰	斜面をすべる物体、振り子やバネの運動の振幅をビデオや高速度カメラ で観察する。次第に速度や振幅が減衰していく状況を制動力の大きさを変えてどのようになるかを学ぶ。その原因がエネルギーの散逸にあることを理解する。特に、緩和時間についての概念を考察し、雨粒の終速度など他の物理現象との関係へも言及する。さらには弱いばねで繋がっている連成振動子の運動状況を観察し、エネルギー交換と伝播を学ぶ。 【キーワード】 抵抗力、減衰運動、減衰振動、臨界減衰、緩和時間、強制振動、固有振動、エネルギー散逸	毛利 信男(放送大学特任教授)	毛利 信男(放送大学特任教授)
6	万有引力と惑星の運動	チコ・ブラーエによる惑星の運動の観測結果からケプラーが導きだした惑星の運動の法則を解説し、この法則とニュートンの運動の第3法則を適用して万有引力の法則を導き、われわれの体重の原因となっている地球の重力の起源が万有引力にあることを説明する。さらに、中心力場における運動では角運動量が保存されること、すなわちケプラーの第2法則、面積速度が一定になることを示す。 【キーワード】 ケプラーの法則、万有引力の法則、万有引力定数、角運動量	毛利 信男(放送大学特任教授)	毛利 信男(放送大学特任教授)
7	形のある物体の運動	斜面を転がる円筒、円柱の運動、こまの運動、形のいびつな物体の 落下運動をビデオや高速度カメラで観察し、形のある物体を剛体として取り扱い、その運動が並進運動と回転運動の重なったものであることを知り、運動の自由度、重心の意味、力のモーメント、偶力、慣性モーメント、剛体での力のつりあいについて考える。 【キーワード】 重心、力のモーメント、偶力、慣性モーメント	毛利 信男(放送大学教授)	毛利 信男(放送大学教授)
8	身近な運動を解いてみる	5章と7章で見た、身近な運動には、抵抗力や外力が非斉次項として加わる。こういう場合の運動方程式の解法を調べ、実際に解いてみよう。指数が虚数になるときの扱いとして、オイラーの公式を学び、三角関数の拡張を行う。外力に対する応答という形に解をまとめよう。具体的には、雨粒の落下と摩擦と外力の加わったばねの系についてみる。共鳴現象も調べよう。 【キーワード】 斉次解、特殊解、オイラーの公式、粘性抵抗、過渡項、応答関数	生井澤 寛(放送大学教授)	生井澤 寛(放送大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
9	運動と座標系	物体の運動を記述するためには、各時刻でのその位置を知ることが必要で、そのために座標系を指定する。では、座標系をどう選んだらよいか。異なる座標系で、運動の基本法則は同じだろうか。力は座標系でどう変わるでだろうか。運動とは相対的なものだから、座標系で相対性はどうなるか。重要な点について考える。 【キーワード】 いろいろな座標系　ガリレイ相対性、ローレンツ変換、加速度系	生井澤　寛 (放送大学教授)	生井澤　寛 (放送大学教授)
10	力と運動方程式の拡張	9章で見たように、座標系によっては、加速度の表式が複雑になり、拘束条件や、加速運動する系では、力の定義や運動方程式の拡張が要る。加速度による力を、慣性力として取り入れ運動方程式を力のつりあいに一般化し、仮想仕事の原理によって扱う定式化を導入する。この定式化により、一般的普遍的に力と運動を扱う道を開く。 【キーワード】 慣性力、一般化された力のつりあい、仮想仕事の原理	生井澤　寛 (放送大学教授)	生井澤　寛 (放送大学教授)
11	運動方程式を最小値問題に	10章の仮想仕事の原理を、有限時間の運動の軌道に拡張し、軌道に沿う仮想仕事の積分量(作用積分)が、最小となる条件から、運動方程式が定まることを導く(ハミルトンの原理)。得られたラグランジュ方程式を、今までの例について立て、ニュートンの結果と比較する。加速度を直接扱わないので座標系の選択が楽になる。 【キーワード】 作用積分、ハミルトンの原理(変分法)、ラグランジュ方程式	生井澤　寛 (放送大学教授)	生井澤　寛 (放送大学教授)
12	ラグランジュの方法	ラグランジアンに含まれない変数(循環座標)に対応する運動量が保存することから、保存則と対称性について調べる。ラグランジュの方法を、拘束条件のある一般の場合に拡張して、一般化座標・運動量、一般化力を定義する。外力の仕事率とのエネルギーバランスから、エネルギーの拡張であるハミルトニアンと正準方程式を導いてみよう。 【キーワード】 循環座標と保存則、一般化座標・運動量、ハミルトニアン	生井澤　寛 (放送大学教授)	生井澤　寛 (放送大学教授)
13	微小振動	ラグランジュ方程式の応用として、安定点の周りでの微小振動について考える。分子の振動からはじめ、自由度を多くすると、微小振動の固有方程式の解である固有モードが波のように振る舞うことを見る。固有モードは、単振動と等価な基準座標として調和的になる。固有モードの関数によって、同じ凶器条件を満たす任意の関数が展開できることがわかる。 【キーワード】 微小振動、固有モード、基準座標、固有関数展開、フーリエ展開	生井澤　寛 (放送大学教授)	生井澤　寛 (放送大学教授)
14	正準形式	ラグランジュ形式では、運動量は速度に従属する量として、座標と対等ではない。運動量を対等に扱うために、座標変換(ルジャンドル変換)すると、正準形式とハミルトンの運動方程式をうる。量子化の準備rとなる、ポアッソンの括弧式についても学ぶ。 【キーワード】 ルジャンドル変換、正準形式、ハミルトン方程式、ポアッソンの括弧	生井澤　寛 (放送大学教授)	生井澤　寛 (放送大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
15	位相空間と正準理論	運動量と座標を同等に扱うことにより、正準形式の基本方程式は、それらの1階微分方程式の連立方程式となり、運動量と座標の空間(位相空間)の点が、次の瞬間にどの方向に動くかを示す。位相空間の性質を調べ、正準変換、断熱定理などを示し量子論への橋渡しを試みる。 【キーワード】 位相空間、正準変換、リウビルの定理、断熱定理、ビリアル定理、作用変数、	生井澤 寛(放送大学教授)	生井澤 寛(放送大学教授)

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1560301	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 熱と温度 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：齋藤 一弥（筑波大学大学院教授）〕

〔主任講師（現職名）：堂寺 知成（近畿大学教授）〕

講義概要

私たちの暮しの中で，熱を仕事に変える機械としてのエンジンを利用し，温度をコントロールするためにエアコンや冷蔵庫を利用している．また，環境問題や地球温暖化の問題で，熱と温度はキーワードである．この講義は，このような熱と温度の本性をミクロとマクロの立場から理解することを目的としている．

授業の目標

共通科目程度の準備を終えた学生のための統計力学と熱力学の入門講義を行う．物理と化学の両分野にわたるので，両分野にバランスのとれた内容になっている．身近な現象をとりあげたり，簡単な実験，シミュレーションなどを取り入れ，多様なバックグラウンドを持つ学生にも理解しやすい講義を目標としている．より進んだ物質科学．工学，情報科学，環境科学などの学習に必須の基礎教養を与える．

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	熱と温度	熱と温度という言葉は日常的にもよく使われるが，サイエンスの立場からそれらの概念を正確にとらえる必要がある．熱現象をミクロから説明する立場と，マクロな現象としてとらえる2つの立場の関連を理解する．さらに温度測定について詳しく学ぶ． 【キーワード】 熱，温度、ミクロ、マクロ	齋藤一弥（筑波大学大学院教授） 堂寺 知成（近畿大学教授）	齋藤一弥（筑波大学大学院教授） 堂寺 知成（近畿大学教授）
2	分子の熱運動	箱の中の気体はマクロには静止していても，ミクロには分子は絶え間なく運動している．それを分子の熱運動という．この章では，分子の熱運動の証拠であるブラウン運動と，分子の熱運動と温度の関係を学び，あなたが呼吸している酸素分子の速度を計算する． 【キーワード】 分子運動論、ブラウン運動	堂寺 知成（近畿大学教授）	堂寺 知成（近畿大学教授）
3	マクスウェルの速度分布	マクロな体系に含まれる分子は多数あり，それら全ての運動状態を把握することは不可能である．しかし，いかなる運動状態がどれほどあるかという統計集団として情報は知ることができる．分子運動が無秩序であることによって，かえって単純な統計法則が浮かび上がってくる．このことをシミュレーションによっても確かめる． 【キーワード】 マクスウェルの速度分布、確率分布	同上	同上
4	統計力学の考え方	多数の粒子から成る体系の熱的な性質をミクロな粒子の力学法則から出発して理解する統計力学の基本的な考え方を学ぶ．エルゴード仮説に基づき，エネルギー配分の確率について学習する．理解のために手作りボルツマン分布の実験を行う． 【キーワード】 統計力学、ボルツマン分布	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	マクスウェルーボルツマン分布と応用	前章で導いた統計力学の基本法則に基づいて，いくつかの系の統計力学的な性質を調べる．個々の粒子が2つのエネルギー値だけをとる2準位系，多数の調和振動子から成る系などを取り上げ，それらの系の温度を上げるのに必要な熱量である比熱を計算する． 【キーワード】 2準位系、調和振動子、比熱	堂寺 知成（近畿大学教授）	堂寺 知成（近畿大学教授）
6	相転移	水が固体，液体，気体の三態をどるような状態の変化を相転移という．統計力学的には相転移を多数のミクロな粒子の相互作用がもたらす協力現象として理解できる．具体的には，磁性の相転移を調べるイジング模型とよばれる模型を学び，シミュレーションを使って理解を深める． 【キーワード】 相転移，イジング模型	同上	同上
7	量子統計	電子や陽子などの同種の素粒子の集りを量子力学で考える場合には，粒子が区別できないことによる素粒子の統計性を考慮する必要がある．波動関数の対称性からボース粒子とフェルミ粒子に区別され，ボーズ分布とフェルミ分布という全く異なる分布が生ずる．具体例として，理想フェルミ気体の自由電子模型を学ぶ． 【キーワード】 量子統計，ボーズ分布，フェルミ分布	同上	同上
8	熱力学の法則	多数の粒子から成る系（巨視的系）の振る舞いは熱力学という現象論で整理できる．前章までで統計力学的に導いた性質を熱力学の法則としてまとめ，化学的な問題へ応用する準備を行う． 【キーワード】 熱力学，第1法則，第2法則	齋藤 一弥（筑波大学大学院教授）	齋藤 一弥（筑波大学大学院教授）
9	熱力学平衡の条件と変化の向き	状態を指定して長時間待つと，巨視的系はやがて変化の無い平衡状態に到達する．温度と圧力を指定した状態ではギブズエネルギーという熱力学量が最小になっている．これを理解することは，化学的な問題に熱力学を応用する上でのキーポイントである． 【キーワード】 ギブズエネルギー	同上	同上
10	物質の三態と相平衡	水は1気圧において固体，液体，気体の三態をとるが，二酸化炭素は気体と固体しかとらない．ギブズエネルギー最小の原理に基づいて純物質の相図（相安定図）を考え，様々な物質の性質の違いを理解する． 【キーワード】 相図	同上	同上
11	化学ポテンシャルと混合物のギブズエネルギー	混合物の平衡状態を議論するために，混合物中で各成分が持つモルあたりのギブズエネルギーである化学ポテンシャルについて学ぶ．混合物が平衡に共存するための条件を理解する． 【キーワード】 化学ポテンシャル，相律	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	溶液の性質	溶液について化学ポテンシャルを決める方法について学ぶ. このようにして決めた化学ポテンシャルを用いると, 溶液の示す凝固点降下, 沸点上昇, 蒸気圧降下, 浸透圧などの性質は前章で学んだ混合物の平衡の条件から説明できる. 【キーワード】 理想溶液, 束一的性質	齋藤 一弥(筑波大学大学院教授)	齋藤 一弥(筑波大学大学院教授)
13	化学反応への応用1:反応熱	化学反応に熱力学を応用するには, 物質が反応で変化した場合でも意味のある「基準の状態」を決めなければならない. これを決めれば化学反応に伴う熱の出入りを, 実際に実験することなく計算することができる. コンピュータの発達の意義についても考える. 【キーワード】 熱化学, 熱力学データベース	同上	同上
14	化学反応への応用2:化学平衡	ギブズエネルギー最小という平衡の条件を利用すると,「反応が進んだらどれだけ発熱するか」にとどまらず,「反応がどれだけ進むか」を予測することができる.「質量作用の法則」が混合系の化学ポテンシャルから導かれることを学ぶ. 【キーワード】 化学平衡, 平衡定数	同上	同上
15	熱伝導	断熱材の有無で冷暖房費が大きく異なり, 寒冷地などでは衣服の耐寒性が問題となってくる. このように熱伝導の問題は生活に関わりが深い. この章では, 環境問題を例としながら, 熱伝導, 対流, 放射など熱の伝わる仕組みと法則を学ぶ. 【キーワード】 熱伝導, 対流, 放射	堂寺 知成(近畿大学教授)	堂寺 知成(近畿大学教授)

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目コード	1663402	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 量子物理 （’０９）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：生井澤　寛(放送大学教授)　〕

〔主任講師（現職名）：小形　正男(東京大学教授)　〕

講義概要

古典的な世界で成り立った物理法則が、ミクロの世界で、成り立たないことを見て行きながら、なぞを解く鍵を探る。鍵は、エネルギーが飛び飛びになることにあった。さらに、波と考えられた光に粒子性が現れ、粒子とみなされた電子に波動性が発見された。これらのなぞを解く鍵は、ミクロの世界の論理である量子力学によって解かれることを見てゆく。そして、実験と量子力学を用いて、さらにミクロの世界を探ると、基本粒子としてのクォークとレプトンおよび力の媒介粒子からこの世界が成り立つという、自然観に行き着く。この自然観は、宇宙の初期の世界とも密接に結びつくことを示そう。さらに、量子力学は、半導体などの日常生活に欠かせない量子素子の開発にこれからも活躍するに違いない。関連科目:「物理の世界」、「現代物理」

授業の目標

現代物理の中核をなす量子力学の基本を理解させる。少し数学を使うが、順に説明してゆく。量子の論理は、演習無しではなかなか理解できないので、基本的な課題を解く。ぜひ自分で汗を流して解いていってほしい。履修者が、課題を解き、悩みながら進むことを、励ましてゆきたい。

履修上の留意点

物理の基礎、とくに力学、電磁気学、熱力学・統計力学を核とする古典物理をある程度学んでいることを前提にする。そのために、「初歩からの物理学」、「物理の世界」、「現代物理」を履修することが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	ことの始まり	人間が培ってきた、自然界で起こる現象や法則性について振りかえり、20世紀末前後にかんせいした古典物理の主要な考え方をまとめる。そして、古典物理では理解できない謎のいくつかに触れる。 【キーワード】 科学的考えの芽生え、ニュートン力学、光をどう捉えたか、電磁気学、熱の物理　陰極線の発見	生井澤　寛(放送大学教授)	生井澤　寛(放送大学教授)
2	深まる謎:古典物理の限界	実験技術の進歩と精度の上昇により、低温現象や、溶鉱炉の温度と光の色の関係、光電子効果などが、前回のなぞをさらに深める内容を持つことを示す。 【キーワード】 電子の発見、放射能と原子の崩壊、線スペクトル、熱力学第3法則と低温比熱、物体の温度と色、光電子効果	生井澤　寛(放送大学教授)	生井澤　寛(放送大学教授)
3	謎を解く鍵:エネルギーがとびとび	なぞを解くきっかけとなった、プランクの大胆な発想、飛び飛びのエネルギー(エネルギーの量子化)を導入し、温度と色の関係を解く。エネルギー量子の概念は、光電効果のなぞも解き、光は、量子(光量子、光子)として粒子のように振舞うことを見る。 【キーワード】 プランクの放射式、エネルギー量子、光量子、コンプトン効果	生井澤　寛(放送大学教授)	生井澤　寛(放送大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	量子の考えが広がる	エネルギー量子の考えはさらに、音の振動しにも適用され、低温比熱のなぞが解ける。また、原子にも適用されて、古典論との対応をつけながら、原子の飛び飛びのスペクトルのなぞが解け、周期表と原子の構造がだんだんに明らかになる。 【キーワード】 低温比熱、ボーアの原子模型、対応原理、電子スピン、排他原理、周期表	生井澤 寛（放送大学教授）	生井澤 寛（放送大学教授）
5	ミクロの世界の論理：量子力学 I:波動的見方	量子の世界で、状態はどうあるべきか。光が波であると同時に粒子のように振舞えば、粒子である電子も波として振舞ってよいだろう。この考えに立って、波としての電子が従う波動方程式を立て、水素原子の問題が解かれ、実験を見事に説明した。波動力学による量子力学の誕生である。 【キーワード】 ドブロイの考え、シュレーディンガーの見方、波動方程式	生井澤 寛（放送大学教授）	生井澤 寛（放送大学教授）
6	ミクロの世界の論理：量子力学 II:粒子的見方	エネルギー量子によって開かれた量子の世界における物理量の時間変化はどう決まるのだろう。振動数が時間変化を与える古典物理のフーリエ成分に注目すると、物理量は、状態の間を結ぶ行列と考えることができる。行列力学による量子力学の誕生である。 【キーワード】 ハイゼンベルグの見方、物理量は行列、行列力学と固有値問題、	生井澤 寛（放送大学教授）	生井澤 寛（放送大学教授）
7	平面波とその性質	シュレディンガー方程式の最も基本的な解である平面波を調べ、波動関数の基本的性質を見てゆく。平面波によって表される粒子（例えば電子）がどのような振る舞いをするかについて、いくつかの特徴的な現象を調べる。平面波の直交関係から、δ関数を導入する。 【キーワード】 平面波、干渉、波の重ね合わせ、運動量演算子、δ関数	生井澤 寛（放送大学教授）	生井澤 寛（放送大学教授）
8	平面波の反射や透過	前回調べた平面波を用いて、それが壁で反射した場合にどのようなことが起こるか具体的にシュレーディンガー方程式を解いて考える。また、透過するときの、反射波・透過波などについて量子力学の特徴をみる。 【キーワード】 壁による反射、壁での境界条件、位相、反射波と透過波、確率流れの密度、	小形正男（東京大学教授）	小形正男（東京大学教授）
9	トンネル効果、束縛状態	前回に引き続いて量子力学の奇妙な現象を平面波を例に考える。 とくに量子力学特有のトンネル効果について調べる。さらに井戸型のポテンシャル中に束縛された状態など、いくつかの典型的な例について考える。また特異性がある場合の波動関数の境界条件についても説明し、それを用いてδ関数のポテンシャルの場合のシュレーディンガー方程式を解く。 【キーワード】 トンネル効果、井戸型ポテンシャル、束縛状態、零点振動、波動関数の対称性、δ関数ポテンシャル	小形正男（東京大学教授）	小形正男（東京大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	調和振動子	今までは直線運動に対応する平面波を調べた。今回は、もう1つの代表的な運動である単振動の量子力学を調べる。単振動（調和振動子）は、古典力学でいろいろな場面において基準振動として現れた。量子力学においても様々な局面で調和振動子が重要な役割を果たす。とくに調和振動子のエネルギーは、とびとびの値だけを持つという非常に特徴的な振舞いをする。これをエネルギーの量子化という。 【キーワード】 調和振動子、エルミート多項式、エネルギーの量子化、調和振動子の波動関数、零点振動と不確定性原理、期待値の計算	小形正男（東京大学教授）	小形正男（東京大学教授）
11	粒子のように振舞う波	実験では、粒子は波と同じような性質を示すとともに、その名の通り粒子的な性質も示す。たとえば電子が電場・磁場中で運動する様子を調べるときには、質量m 電荷-eを持つ粒子がニュートン方程式に従って運動するとして実験をうまく説明することができる。実は平面波を重ね合わせることによって"粒子的な振舞いを示す波"というものを作ることができる。これを一般に波束という。電子や素粒子が粒子的に振る舞うように見えるときは、この波束状態となっていると考えればよい。 【キーワード】 波束、重ね合わせ、不確定性原理、波数空間、波束の広がり、波束の時間発展、エーレンフェストの定理	小形正男（東京大学教授）	小形正男（東京大学教授）
12	角運動量	実際には3次元空間でのシュレーディンガー方程式を解く必要がある。この回から、球対称ポテンシャルがある場合のシュレーディンガー方程式を解く。とくに水素原子についてシュレーディンガー方程式を正確に解くことができ、その結果、原子構造での1s, 2s, 2pなど物質を構成する基本的な量子力学状態がわかる。まず今回は、角度方向の波動関数を調べる。 【キーワード】 ラプラシアン、角運動量演算子、球面調和関数、磁気量子数。方位量子数	小形正男（東京大学教授）	小形正男（東京大学教授）
13	水素原子の波動関数	前回、角運動量の2乗の固有値は量子化されて、とびとびの値しか持たないことを示した。これを用いてシュレディンガー方程式の動径方向の波動関数を調べることができる。この結果、水素原子の波動関数がすべてわかったことになる。 【キーワード】 遠心力ポテンシャル。ラゲール多項式。主量子数。さまざまな電子の軌道。水素原子のスペクトル線。	小形正男（東京大学教授）	小形正男（東京大学教授）
14	角運動量の代数とスピン	微分演算子として角運動量演算子を表すと、演算子間の交換関係に非常に単純な関係がある。これを角運動量の代数という。この関係を使うと、微分方程式を解かなくてもいろいろと有益な事柄が代数計算によって得られることがわかる。さらに、この性質を一般化することによって、新たにスピンという量子力学特有の物理量が理解できることも示す。 【キーワード】 交換関係、昇降演算子、角運動量の一般化、スピン、フェルミ粒子とボース粒子	小形正男（東京大学教授）	小形正男（東京大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
15	深まる量子の世界	量子力学は、ミクロの世界で、どこまで通用するのだろう。原子から、原子核、素粒子とどんどん小さい世界の物理を、量子力学と相対性理論で探求してゆこう。量子力学は、ごく小さな世界でも成り立つことがわかる。しかし、実験的には、素粒子がいっぱい現れて、手に負えない。では、基本粒子はないか。これらを探ると、ミクロの世界が、宇宙というマクロな世界とつながることが見えてくる。また量子力学は、半導体など日常に欠かせない量子素子の開発を可能にした。 【キーワード】 原子核、いろいろな素粒子、相互作用の階層性と保存則、複合粒子模型、標準模型、ビッグバンと宇宙の初期、物質の性質	生井澤 寛（放送大学教授）	生井澤 寛（放送大学教授）

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目コード	1666002	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 量子化学 （’０９） ＝ （ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：濱田　嘉昭（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：大野　公一（東北大学名誉教授）〕

講義概要

自然現象は物質の示す性質と変化の現われである。したがって、物質のミクロの単位である分子の性質と運動を理解することは自然現象の基本法則を理解することにも通じる。さまざまな原子からどのように作られるのか。その結果、どのような性質を発現することになるのかについて、量子論に基づいて解説する。また、そのような分子の運動や性質をどのようにして観測するのかについて解説する。

授業の目標

量子力学の初歩的な事柄を復習し、さらに分子へ応用する場合の理論の基礎について学ぶ。分子の見せる量子的な性質と分子を観測する実験方法との間にどのような理論的基礎があり、観測によって何がわかるのかについて理解する。

履修上の留意点

量子力学（放送大学の教材では「量子物理」）、微分積分学や線形代数学などの基礎を理解しておくことが望まれるが、本教材の道筋と結果の概要を知った上で、前記の関連の科目を履修することも可能と思われる。分子の形状や性質については「基礎化学」などで学んでおくことが重要である。簡単な計算問題などを解きながら勉強することが理解を深める上で有効である。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
１．ミクロの世界への導入				
1	量子の世界(1)：量子性の現れ	われわれの日常生活はさまざまな物質を使うことで成り立っている。生体も、タンパク質や核酸、脂質など多くの物質の成す複雑な系である。目にする自然現象すべてが物質の生々流転である。これらの物質は固有の性質をもっているのであるが、その物質の性質の源泉として最小単位としての分子に至る。この章では物質、特に分子の性質を理解する量子化学の立場を解説する。 【キーワード】 水の特徴、量子性、トンネル効果、水素結合、量子論の言葉	濱田　嘉昭（放送大学教授）	濱田　嘉昭（放送大学教授） 大野公一（東北大学名誉教授）
２．ミクロの世界の記述				
2	量子の世界(2)：粒子性と波動性	熱放射、光電効果、原子スペクトル、電子回折などの実験結果から、どのようにして量子論が誕生したかを概観する。物質中の電子が授受するエネルギーと電磁波のエネルギー量子とが、どのような関係にあるかを学ぶとともに、ミクロの世界の粒子性と波動性について代表的な実験事実を通して理解する。 【キーワード】 熱放射、エネルギー量子、原子スペクトル、電子波、電子回折	大野　公一（東北大学名誉教授）	大野　公一（東北大学名誉教授）
3	量子の世界(3)：シュレーディンガー方程式	ミクロの世界の基礎方程式、シュレーディンガー方程式（波動方程式）がどのようにして発見され、それをどのように解くのか、そして解いた結果から、どのようなことがわかるのかについて学ぶ。ハミルトニアンの作り方を学んで、箱の中の粒子について、波動方程式の解き方を詳しく学ぶ。また、調和振動子や剛体回転子の量子論的取り扱いや量子状態の特徴を理解する。 【キーワード】 シュレーディンガー方程式、定常状態、演算子、固有値	大野　公一（東北大学名誉教授）	大野　公一（東北大学名誉教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	電子の役割(1):原子中の電子	原子核とそれを取り巻く電子からできている原子において、電子がどのような役割を担うのか、シュレーディンガー方程式の解についてふれ、原子軌道のエネルギーおよび空間的な形の特徴を学ぶ。また、原子番号とともに電子配置がどのように変わるかを調べ、原子の化学的個性の量子論的由来を探求する。 【キーワード】 原子軌道、量子数、電子配置、周期性	大野　公一（東北大学名誉教授）	大野　公一（東北大学名誉教授）
5	電子の役割(2):分子中の電子	分子中の電子がどのような役割を担い、化学結合ができるのか、その量子論的な由来を知るとともに、シュレーディンガー方程式から出発して、どのように分子の問題が取り扱われるのか、主な近似法を学び、分子軌道法の基礎を習得する。 【キーワード】 電子密度、分子軌道、結合性軌道、反結合性軌道	大野　公一（東北大学名誉教授）	大野　公一（東北大学名誉教授）
6	二原子分子	軌道どうしが互いに近づいて分子軌道を形成する仕組みを、永年方程式の解に基づいて理解し、分子軌道の定性的な組み立て方を学ぶ。二個の原子からなる分子について、その化学結合が形成される仕組みを系統的に学び、結合の強さや、分子の磁性の量子論的由来を明らかにする。 【キーワード】 軌道の重なり、σとπ、結合の強さ、極性、磁性	大野　公一（東北大学名誉教授）	大野　公一（東北大学名誉教授）
7	多原子分子	3個以上の原子の集団から、どのようにして多原子分子ができるのか、その仕組みを学ぶとともに、分子構造がどのようにして決まるのか、その量子論的由来を学ぶ。 【キーワード】 多原子分子、結合角、混成軌道、原子価	大野　公一（東北大学名誉教授）	大野　公一（東北大学名誉教授）
8	電子配置と反応性	化学的反応性は何に支配されているのか、電子配置と関連付けて学ぶとともに、結合の形成や組み換えが起こる量子論的仕組みを探求する。 【キーワード】 遊離基、HOMO-LUMOの原理、フロンティア軌道、結合の組み換え	大野　公一（東北大学名誉教授）	大野　公一（東北大学名誉教授）
3．ミクロの世界の観察				
9	電子の分光	化学結合の形成や組み換えを担う電子の役割を実験で観測する研究手法の例として、電子分光について学び、光電子スペクトルの実験結果と分子軌道法による計算結果とを比較考察する。また、原子の励起状態とスペクトル項について学習し、電子エネルギー損失スペクトルとの比較を行う。 【キーワード】 光電子分光、解離エネルギー、スペクトル項、選択則	大野　公一（東北大学名誉教授）	大野　公一（東北大学名誉教授） 濱田　嘉昭（放送大学教授）
10	ミクロの世界の観測	原子や分子の形や運動は、目で直接に観測できない。このようなミクロの世界を観測する方法として、回折法、電子顕微鏡および分光法がある。それぞれ、電磁波の干渉効果、電子という粒子の示す波動性および電磁波と物質の相互作用を利用したもので、後の2つは量子性に深く関わっている。この章では、後の章に関わる分光法に関する一般的な事柄を学んでおく。 【キーワード】 計測における分解、電子顕微鏡、回折法、分光法、ボルツマン分布、遷移モーメント、選択則	濱田　嘉昭（放送大学教授）	濱田　嘉昭（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	分子の回転	気体状態になっている分子は、他の分子と衝突する前には一定速度の直線運動と回転運動を行っている。このうち、回転運動は量子化され、分子固有の飛び飛びのエネルギー準位が生じる。このエネルギー準位の間の遷移に対応する電磁波はマイクロ波から遠赤外線である。この回転スペクトルを測定することによって何がわかるのかを学ぶ。 【キーワード】 角運動量、マイクロ波、慣性モーメント、回転定数、分子構造	濱田　嘉昭（放送大学教授）	濱田　嘉昭（放送大学教授）
12	分子の振動	化学結合は結合長の数%から10%近くの大きさで伸縮しており、結合角は変形する。これらの分子振動のエネルギー準位は結合に関係する原子の質量とその化学結合の強さによって決まる。このエネルギー準位の間隔は赤外分光法およびラマン分光法で調べられ、分子の結合に関する情報を得ることができる。また分子振動は分析の目的に使用することができる。 【キーワード】 調和振動、赤外吸収、ラマン散乱、化学結合	濱田　嘉昭（放送大学教授）	濱田　嘉昭（放送大学教授）
13	電子スピンと核スピン	量子化学で扱う粒子の運動である電子スピン・核スピンに伴うエネルギーは、振動や回転、電子遷移などに比べて圧倒的に小さいにも拘らず、スピンの状態は粒子の存在に関わる本質的に重要な役割を果たしている。またスピンは物質の示す磁性の原因でもある。この章ではスピンと磁気モーメントの関係、スピンが化学の分野で果たす挙動について解説する。 【キーワード】 角運動量演算子、磁気モーメント、Zeeman効果、NMR	濱田　嘉昭（放送大学教授）	濱田　嘉昭（放送大学教授）
4．分子の量子性の応用				
14	レーザー	レーザーは20世紀に人類が発明した新しい光であり、これなくして現代の生活は成り立たない。CDやDVDのデータを取り出しているのはレーザーであり、その高い空間分解能を利用している。高速・大容量の通信システムは、その高い時間分解能を利用している。レーザーは原子や分子のもつエネルギーの量子性を利用したものである。本章ではレーザーの発振原理と化学への応用について学ぶ。 【キーワード】 誘導放出、レーザー光の特徴	濱田　嘉昭（放送大学教授）	濱田　嘉昭（放送大学教授）
5．分子から物体へ				
15	分子間相互作用	われわれが日常、目にしたり触れたりする物体は膨大な数の分子が集合したものである。これらの分子の間には分子間相互作用と総称される力が働いており、その結果、集合した分子は独特の構造と性質をもつことになる。分子集合体を扱う量子化学の現状を紹介する。 【キーワード】 分子間相互作用、ファンデルワールス力、クラスター	濱田　嘉昭（放送大学教授）	濱田　嘉昭（放送大学教授） 大野　公一（東北大学名誉教授）

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	専門科目	科目コード	1561405	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 分子の科学 （’１０）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：齋藤　清機（放送大学岡山学習センター所長）〕

〔主任講師（現職名）：時田　澄男（放送大学客員教授）〕

【本学担当専任教員：東　千秋（放送大学教授）】

講義概要

分子は身の回りの至るところで見いだされる。物質の科学は分子の科学そのものであるという考え方もある。小さい分子から大きい分子という視点も大切である。分子を科学的に取り扱うには，それらの構造とはたらきについて理解する必要がある。分子のはたらきが，その形や電子状態とどのように関わるかをミクロのレベルで知るとともに，人間生活へどのように活用されているかを学ぶ。

授業の目標

分子の概念が確立されてきた経緯を理解し，現代の分子像の概念をつかむ。身の回りの小さな分子について，電子状態と性質の関係を理解する。分子構造のコンピューター表示，分子の電子状態を分子軌道法で求める方法がいかに容易で便利かを学ぶとともに，有機分子の構造決定法について知る。さらに，分子が大きくなったときの構造と物性の関係や医薬品における分子の形とはたらきについて理解する。

履修上の留意点

基礎科目のうちの「初歩からの化学（’08）」および，共通科目の「基礎化学（’06）」（または，これらに相当する科目）の内容を理解しておくことが望ましい。また，分子構造の表示や計算，ならびに動画像の視聴に，別途，Windows版のインターネット配信と印刷教材へのDVDの添付を行っているので，各自がパソコンでこれらを利用できる環境を用意することが望ましい。インターネット配信のURLは下記の通りで，使い方は印刷教材およびDVDに記載されている。

http://www.ecosci.jp/molsci/

http://winmostar.com/bunshi/bunshi_index.html

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	分子の世界	わかっているようで人により解釈がまちまちな「分子」という用語の意味を，歴史的な変遷も含めて解説する。分子の科学を理解する鍵は化学結合論すなわち分子のなかの電子状態の理解であることを述べる。イオン、金属、分子を区別する従来の考え方は無意味であり、これらを総合して分子と捉えることが分子科学の発展にとって大切であることを説明する。 【キーワード】 原子，分子，化学結合，イオン結合，共有結合，金属結合，ファンデルワールス力，分子科学，高分子	時田　澄男（放送大学客員教授）	時田　澄男（放送大学客員教授）
2	元素の発見と分子仮説	生命を支える酸素，窒素などの主要な気体の発見の歴史を紹介するとともに，人間の生存にとって不可欠な空気の成分と性質について解説する。ドルトンの原子説，アボガドロの分子説がどのように導かれたかを説明し，分子説が確立していった経緯を概観する。分子軌道法計算で分子の安定性を求める方法についても取り扱う。 【キーワード】 化学元素，デモクリトス，アリストテレス，ラボアジエ，ドルトン，アボガドロ，気体反応の法則，量子化学，分子軌道法，共有結合による安定化	時田　澄男（放送大学客員教授）	時田　澄男（放送大学客員教授）
3	空気の中の分子	仮想的であった分子の存在が，気体分子運動論やブラウン運動などの実験的証拠によって次第に明らかになっていった経緯を述べる。身の回りのありふれた分子である水と二酸化炭素をとりあげ，電子状態，すなわち，化学結合論的な分子の理解がそれらの性質を知るためにどのように重要であるかを述べる。地球温暖化を分子レベルで説明する。 【キーワード】 気体分子運動論，ブラウン運動，原子スペクトル，マイクロ波スペクトル，赤外線吸収スペクトル，分子構造，構造最適化，希ガス，水，二酸化炭素，地球温暖化	時田　澄男（放送大学客員教授）	時田　澄男（放送大学客員教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	分子の構造を決める	有機化学で用いられる構造決定法の歴史的経緯と，現代における物理化学的方法について，それらのエッセンスを紹介する。炭化水素，官能基と有機化合物の多様性についても取り扱う。 【キーワード】 元素分析，組成式，分子式，原子価，構造式，浸透圧，質量分析，電子吸収スペクトル，核磁気共鳴スペクトル，構造異性体，立体異性体，鏡像異性体，官能基，分子設計，芳香族，環電流	時田　澄男（放送大学客員教授）	時田　澄男（放送大学客員教授）
5	分子を造る産業－石油化学工業	昭和33年を境に，石炭を原料とする化学工業が石油を原料とする化学工業に転換し，それとともに私たちの生活の質が変わり始めた。大規模連続触媒製造方式を特徴とする石油化学工業の中身を分子レベルの反応機構で理解する。低級オレフィン，芳香族化合物，含酸素化合物の製造を取り上げる。 【キーワード】 結合解離エネルギー，ラジカル反応，脱水素環化，エチレングリコール，不凍液	齋藤　清機（放送大学岡山学習センター所長）	齋藤　清機（放送大学岡山学習センター所長）
6	分子をつなげて大きい分子にする方法	分子をつなげて大きい分子にする方法について，その特徴を反応論的に分子レベルで解説するとともに，身の回りの高分子材料の製造方法について知る。 【キーワード】 モノマー，ダイマー，オリゴマー，ポリマー，ポリエチレン，ネオプレンゴム，ポリアミド，ポリエステル	讃井浩平（上智大学名誉教授）	讃井浩平（上智大学名誉教授）
7	大きい分子の性質とその機能の発現	合成高分子化合物の開発によって天然高分子化合物にはない全く新しい機能が付与され，生活のなかのいろいろな場面で生かされている。高分子材料の機能の発現を分子構造から分子レベルで比較することにより，理解する。 【キーワード】 ナイロンと絹，ポリエステルやポリビニルアルコールと木綿，ケブラー（アラミド）と鉄，ポリイソブチレン，接着剤，コンタクトレンズ用のポリマー，自然界で分解するポリマー（biodegradable polymer）	讃井浩平（上智大学名誉教授）	讃井浩平（上智大学名誉教授）
8	立体化学	炭素の四面体説の仮説が立体化学としてどのように発展していったかを説明する。パスツールの実験から、キラリティー、キラル、アキラルの概念がどのように導かれるかを学ぶ。鏡像異性体、ジアステレオマー、ラセミ体、メソ体などの違い、光学分割や不斉合成についても学習する。 【キーワード】 不斉炭素，鏡像異性体，ジアステレオマー，メソ体，ラセミ体，光学分割，分子不斉，キラリティー，キラル，アキラル，光学活性，偏光，　R，S命名法	時田　澄男（放送大学客員教授）	時田　澄男（放送大学客員教授）
9	環状有機分子の立体構造	自然界に存在する有機分子は環状の構造のものが非常に多い。環を形成することによって分子の構造が定まり，その結果特有の性質と反応性が備わってくる。分子構造の中できわめて重要なこの構造の基本的概念を学び，コレステロール関連化合物の構造と機能について例示する。 【キーワード】 シクロアルカン，燃焼熱，環ひずみ，立体配座，環反転，縮合環，コレステロール，ステロイド骨格，胆汁酸	齋藤　清機（放送大学岡山学習センター所長）	齋藤　清機（放送大学岡山学習センター所長）
10	多様な炭水化物分子と分子認識の話	環状構造をとることによって極めて多彩な機能を発揮する分子として糖質が知られている。糖質分子の構造に関する体系的知識を学習し，生命活動と関係する分子認識の例についても学習する。 【キーワード】 糖質，アミノ糖，キチン質，分子認識，ウイルスの増殖	齋藤　清機（放送大学岡山学習センター所長）	齋藤　清機（放送大学岡山学習センター所長）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	分子と医薬品	化学療法の歴史を紐解き，化学者たちの飽くなき戦いの結果手に入れることが出来た抗菌剤や狭心症治療薬，あるいは胃潰瘍治療薬などの医薬品がなぜ効くのか，分子レベルでその薬効を理解する。 【キーワード】 Domagk, Alfred Nobel, Furchgott, Ignarro, Murad, 分子生物学, J. W. Black	齋藤 清機（放送大学岡山学習センター所長）	齋藤 清機（放送大学岡山学習センター所長）
12	人類の遺産—夢の新薬：アスピリンとペニシリン	柳の木の成分であったサリチル酸が鎮痛抗炎症剤として用いられるようになった経緯と，その発見から100年後に明らかにされた鎮痛作用の分子論的意味を学ぶ。加えて，ペニシリンの発見とその選択毒性としての細胞壁合成阻害の分子機構を学習する。 【キーワード】 アスピリン，COX，プロスタグランジン，ペニシリン，抗生物質，ペプチドグリカン	齋藤 清機（放送大学岡山学習センター所長）	齋藤 清機（放送大学岡山学習センター所長）
13	多段階有機合成で供給される分子医薬品	重要な医薬品の多くが人間の手によって化学合成される。その実態について，高脂血症治療薬の開発と抗がん剤の開発を通して学び，有機合成を武器とする分子設計の現状を理解する。 【キーワード】 コレステロールの生合成，コレステロール合成阻害剤，癌，タキソール，選択的有機合成	齋藤 清機（放送大学岡山学習センター所長）	齋藤 清機（放送大学岡山学習センター所長）
14	遺伝子	巨大な分子である遺伝子とその利用について，遺伝子の構造と解析法を学び，さらに犯罪捜査や血縁関係の同定，遺伝子人類学，未来材料と遺伝子などその利用の様子を知る。 【キーワード】 遺伝子の構造と解析法，ヒトゲノム，DNA，RNA，遺伝子の利用	讃井浩平（上智大学名誉教授）	讃井浩平（上智大学名誉教授）
15	分子の科学が果す役割	化学をよりどころとするエネルギー問題について，特に原子力発電と電池の化学を学習し，分子の科学の中核としての化学が地球規模の課題解決に大きく資する学問であることを改めて認識する。 【キーワード】 エネルギー問題，核反応，電子移動，電池，光起電力セル	齋藤 清機（放送大学岡山学習センター所長）	齋藤 清機（放送大学岡山学習センター所長）

事務局記載欄	開講年度	２０１１年度	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1562517	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 進化する宇宙 （’１１）＝ （ＴＶ）

※この科目は「進化する宇宙（’０５）」を一部改訂した科目です。
改訂回は、第1, 2, 5, 10, 14, 15回です。

〔主任講師（現職名）：海部宣男（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：吉岡一男（放送大学教授）〕

講義概要

宇宙とその進化について、最新の知見に重点をおきながら論じる専門科目。共通科目の「宇宙を読み解く('09)」が文科系学生にも配慮した宇宙への入門編であり、専門科目の「太陽系の科学('10)」が太陽系を扱うのに対して、本科目では太陽系を超える広大な宇宙に現われるいろいろな天文現象についてその本性を解明し、そこで起こっている物理過程を考慮しながら進化のドラマを構成することに重点をおく。そのため、全体の構成を星、銀河、宇宙の3つの階層に分け、それぞれの最先端における研究者が分担して講義する。

授業の目標

人間を生み出した宇宙の活動と進化について、統一性・一貫性を重視して系統的に講義することにより、受講生が現代の教養ある社会人にふさわしい統一的宇宙観を得ることを目標とする。

履修上の留意点

本科目では、宇宙の進化に重点を置いて講義されている。まずは「宇宙を読み解く('09)」を受講して宇宙の全体像や観測について把握した上で本科目を受講すると理解しやすいであろう。また、扱われる内容によってはかなりの物理的知識を前提とするものも含まれる。しかし、それぞれの担当講師はなるべく平易に講義しており、高度な知識を必要とする箇所を飛ばしてもあまり支障がないように努めているので、全体の把握はできるであろう。逆に、本科目の履修後に、必要な物理的知識を扱った科目を履修すると歩南木の理解がさらに深まるであろう。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	宇宙とはどういうものか	本講義の導入として、宇宙とその進化について基礎から考える。人間が宇宙の始まりにどのように迫ろうとしたかを概観しつつ、科学の対象としての宇宙について考え、宇宙に向き合う基本的認識を得る。次に宇宙における変化がどのように認識されたかについて、望遠鏡とニュートン力学から物理学革命に至る認識を追う。恒星物理学の発展で、恒星の必然的で不可逆的な変化の道筋が把握され、「変化し続ける宇宙＝進化する宇宙」の最初の科学的認識となった。最後に私たちの宇宙観に衝撃を与えた宇宙膨張の発見と相対論的宇宙論に触れ、膨張宇宙で起きる物質の「進化」について考察する。 【キーワード】 天地開闢神話、望遠鏡、物理学革命、恒星物理学、宇宙膨張、進化論、エントロピー	海部宣男（放送大学教授）	海部宣男（放送大学教授）
2	宇宙の観測手段	本章では、宇宙の情報を与える宇宙の観測について学ぶ。また、観測に用いる観測装置などの手段や観測結果から必要なデータを得るための手段やデータを表示する手段についても学ぶ。とくにその例として、HR図や超新星の観測や宇宙膨張の観測について取り上げる。 【キーワード】 望遠鏡, 大気の窓, ニュートリノ, HR図, 超新星, 宇宙膨張	吉岡一男（放送大学教授）	吉岡一男（放送大学教授）
3	星の誕生と主系列星	恒星はどのようにして誕生するのか。また、太陽系のような惑星系や2つの星からなる連星系がどのようにして生まれるのかを解説し、恒星の光り輝く原因が水素の核融合反応によることを示す。見えない恒星の内部をどのようにして理解することができるかについても触れる。 【キーワード】 原始星, 降着円盤, 主系列星, ppチェイン,CNOサイクル	蜂巣 泉（東京大学大学院准教授）	蜂巣 泉（東京大学大学院准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	恒星の進化と終末	恒星は時間が経つにつれてどのように進化するのか、その基礎を解説する。とくに、質量の比較的小さい中小質量星が赤色巨星へと進化し、ガスの一部を放出し、最終的に白色わい星になることが、散開星団や球状星団などの観測によって検証されることを示す。赤色巨星や白色わい星がどのような構造を持つかについても解説する。 【キーワード】 電子の縮退圧，赤色巨星，惑星状星雲，白色矮星	同上	同上
5	超新星爆発と元素の進化	質量の大きい大質量星の進化とその最終段階としての超新星爆発について解説する。恒星の進化の過程をとおして恒星内部で合成された重元素が、超新星爆発をとおして宇宙空間に供給される。それが新しい星に取り込まれて現在の地球などで見られる元素組成になった。以上の化学進化とともに、ガンマ線バーストなど超新星に関係する現象について解説する。 【キーワード】 中性子星，ブラックホール，Ｉａ型超新星，極超新星	同上	同上
6	連星の進化と終末	連星系は、その進化の途中で相手の星へガスを供給したり、また、相手の星からガスを受け取ったりすることで、単独星とは異なる進化の道を歩む。連星系における質量の交換を説明し、それが連星系の進化にどのような影響を及ぼすかを解説する。その結果、活動的な天体の多くが、ガスをやりとりする連星系であるとして説明可能なことを示す。 【キーワード】 ロッシュ・ローブ，共通外層，古典新星，超軟X線源	同上	同上
7	われわれの銀河系	私たちの住んでいる銀河系がどのような天体なのかをまず理解する。銀河系に存在する星やガス星雲、星団などの性質を合わせて理解する。銀河系の中心部に何があるかについても考える。 【キーワード】 天の川銀河，銀河円盤，バルジ，ハロー，銀河中心核	谷口 義明（愛媛大学大学院教授）	谷口 義明（愛媛大学大学院教授）
8	一般の銀河	いろいろな形を持つ銀河の世界を探訪し、宇宙に存在する多様な銀河を理解する。銀河の力学的性質を理解し、銀河の構造の多様性について理解する。銀河の年齢について考え、銀河の進化について理解する。 【キーワード】 楕円銀河，円盤銀河，密度波理論，相互作用銀河	同上	同上
9	宇宙の大規模構造	銀河が集団になって存在している様子を調べる。連銀河（バイナリ銀河）、銀河群、銀河団などを例にとり、銀河の集団としての特性について理解する。また、銀河の性質がどのような影響を受けるかについて考える。さらに、宇宙における銀河の空間分布の様子を一般的に調べ、宇宙における構造形成について考える。 【キーワード】 銀河群，銀河団，化学進化，力学進化，大規模構造	同上	同上
10	活動銀河	銀河の中で起こる高エネルギー現象の現場を調べる。大質量星がバースト的に生まれている銀河を調べ、それが銀河の進化に与える影響について考える。銀河中心核に何があるかを考え、超大質量ブラックホールの存在を理解する。超大質量ブラックホールを起源とするさまざまな高エネルギー現象を概観する。また、銀河間の相互作用と活動銀河の関係についても述べる。 【キーワード】 スターバースト銀河，活動銀河中心核，クェーサー，統一モデル	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	膨張宇宙	1915年の一般相対性理論の誕生によって、宇宙全体の進化を数式によって記述することが初めて可能になった。一般相対性理論に基づくフリードマン宇宙モデルについて解説し、その進化が宇宙の物質の量などによって、どのように異なることになるかを見る。併せて、膨張宇宙の特徴である赤方偏移やハッブルの法則などについても述べ、宇宙膨張の観測的証拠についても紹介する。 【キーワード】 アインシュタイン方程式，フリードマン宇宙，スケール因子	杉山 直 （名古屋大学大学院教授）	杉山 直 （名古屋大学大学院教授）
12	ビッグバン	膨張宇宙を逆に辿っていくと、非常に高密度な初期宇宙であったことが想像される。ガモフによって考え出された高温、高密度であった宇宙初期の状態こそビッグバンである。ビッグバンとその観測的証拠である宇宙マイクロ波背景放射について解説し、宇宙の辿ってきた熱史を紹介する。 【キーワード】 ビッグバン，宇宙マイクロ波背景放射，晴れ上がり，インフレーション	同上	同上
13	宇宙の階層構造	現在の宇宙は、惑星、星、銀河、銀河群、銀河団、そして宇宙の大規模構造と、非常に多様かつ階層的な構造を示している。ここでは、銀河より大きいスケールの構造がいつ、どのように膨張宇宙の中で形成されてきたかについて、数値シミュレーションの結果も交えて解説する。それらを、最新の観測成果と比較する。 【キーワード】 階層構造，量子揺らぎ，コールド・ダークマター	同上	同上
14	宇宙の進化と運命	膨張宇宙の進化を決定づける物質密度、空間曲率、宇宙項などがどのように決められてきたかを解説する。とくに、宇宙マイクロ波背景放射の温度揺らぎや、遠方の超新星の探査などについて述べる。また、ダークエネルギーの最新の知見についても述べる。その結果、私たちの宇宙が今後どのような運命をたどるのかについて、見ていく。 【キーワード】 宇宙論パラメータ，宇宙マイクロ波背景放射，COBE，WMAP	同上	同上
15	宇宙の物質進化と生命	まとめとして、膨張宇宙で起きた構造形成と進化を概観し、その上で星間物質から惑星・生命に至る物質進化について述べる。最近、星間物質からの恒星の形成はほぼ必然的に惑星系の形成を伴うことが知られるようになった。すなわち惑星も宇宙の物質進化の一つの帰結だが、では地球とその上の生命は、宇宙史の中でどのような存在か。太陽系の他の惑星や衛星、他の恒星を回る惑星系ではどうか。生命を、宇宙の物質進化の中に位置付ける。 【キーワード】 構造形成、階層、星間物質、惑星形成、太陽系外惑星、地球の生命、宇宙の生命	海部宣男 （放送大学教授）	海部宣男 （放送大学教授）

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	専門科目	科目コード	1563602	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　太陽系の科学　　（’１０）＝　（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：海部宣男（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：吉岡一男（放送大学教授）〕

講義の概要

近年、太陽系の理解は急速に進んでいる。無人探査機など新たな観測手段によって惑星や衛星の詳しい様子が分かってきたことに加え、冥王星の仲間である太陽系外縁天体が多数発見され惑星の外側に広大に拡がる太陽系の外縁部が見えてきた。そうした新しい情報をもとに、太陽系の形成と46億年にわたるその歴史が具体的に理解され、また、地球を他の諸惑星との比較でとらえる比較惑星学が、新たに確立してきた。さらに、太陽系以外の恒星を回る惑星が続々と発見され、われわれの太陽系を無数の惑星系の中のひとつとして考え、その特徴や位置づけを研究する比較惑星系学も生まれつつある。本講義はこれら科学の新たな発展を広く網羅し、分かりやすく解説して、太陽系について現代科学が獲得した斬新な見方と理解を提供する。学生諸子は本講義を履修することで、われわれの地球、環境、そして人間存在そのものをも、科学的な視点で考えることができるようになるだろう。

授業の目標

放送大学では太陽系に関するまとまった講義は一時途絶えていたが、この間、太陽系の理解は急速に進んだ。地球環境や文明の未来が社会的関心を呼ぶようになったいま、太陽系の物理的・歴史的な理解は、市民がもつべき基本的教養としても、また人類社会の現在と未来を科学的に考える上でも、重要である。本講義は、一新された太陽系の構造、起源と歴史の理解に加え、新たに成立しつつある比較惑星学・比較惑星系学をも基礎に、地球とその上の生物、人間を見直すことを目標としている。現代社会に生きる教養人として、本講義により新しい太陽系像を身につけ、太陽系・宇宙の大きな空間と時間スケールで地球とその上で進化してきた人間・生物を考える視野を育てて欲しい。

履修上の留意点

本講義は2009年度までの『宇宙からの情報('05)』の後継講義として、ただし大きく内容を変えて開設する。また、以前開設されていた『太陽系の科学』(小尾・吉岡)が力学を中心とした内容であったのとも大きく異なり、近年太陽系探査や観測の前進を踏まえて獲得された広く新しい理解を内容とする。従って力学の理解を深めたい受講生は、上記教科書『太陽系の科学』(放送大学)を参考にされたい。本講義の内容にかかわる参考書としては、「シリーズ現代の天文学」(評論社刊)第1巻『人類の住む宇宙』、同第9巻『太陽系と惑星』がある。やや専門的になるが『惑星地質学』(東京大学出版会)も、よい参考になるだろう。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	太陽系の「発見」	本講義の導入として、人間による太陽系の認識の発展を、「発見」をキーワードとして整理する。かつて人々にとって日月五惑星は神だった。太陽系はどのように発見され、認識され、理解されてきたか。惑星の動きの観察から成立した最初の科学である天文学、地動説への転換、望遠鏡とともに進んだ太陽系の拡大をたどり、冥王星問題の背景となった最近の大きな発見まで触れる。 【キーワード】 星座、惑星の運動、天動説、地動説、天体力学、暦、冥王星問題、太陽系外縁天体	海部宣男（放送大学教授）	海部宣男（放送大学教授）
2	天体力学と惑星の運動	惑星の運動は、天体間に働く万有引力という概念の成立によってどのように理解されるか。彗星の運動や惑星をまわる衛星の運動も同様に説明されることなど、太陽系を支配する力学について、入門的に概説する。さらに、太陽系の惑星の軌道が長い年月安定であることやその理由を理解する。 【キーワード】 力と運動、ケプラーの法則、万有引力、天体力学、太陽系の安定性	吉岡一男（放送大学教授）	吉岡一男（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
3	地球と月	私たちが住む惑星・地球について、その形成、構造、プレートテクトニクス概念の成立などによって理解されてきた内部運動、海洋、気候などを理解する。また地球に一番近い天体である月について最新の探査データを元にその真の姿に触れ、その誕生についての考え方を知る。さらに、地球と月の相互作用や、暦との関係を理解する。 【キーワード】 地球の内部構造、地球の歴史、プレートテクトニクス、大陸と海洋、月、巨大衝突説	吉川 真（JAXA宇宙科学研究本部 准教授）	吉川 真（JAXA宇宙科学研究本部 准教授）
4	太陽と地球	太陽系の引力の中心である太陽がどのような天体であるかを、その内部構造の説明を通して学ぶ。また、その外層構造や表面で起きている現象についても学ぶ。そして、太陽表面から放たれる放射や太陽風などが惑星にどのような影響を及ぼしているかについて学ぶ。とくにその例として、地球の気候変動に及ぼす太陽の影響を挙げる。 【キーワード】 太陽の内部構造、水素燃焼反応、太陽表層の活動、太陽の放射、地球の気候、ミランコヴィッチ・サイクル	吉岡一男（放送大学教授）	吉岡一男（放送大学教授）
5	無人探査機の惑星探検	1960年代から打ち上げが始まった数多くの太陽系無人探査ロケットにより、惑星や衛星についての理解は非常に大きな飛躍を遂げた。地球型の小型岩石惑星、特に金星と火星については驚くべき発見が相次ぎ、地球を含めた比較惑星学が発展しつつある。木星や土星など巨大惑星の衛星も、それぞれに特徴的な活動を示すことが明らかになり、惑星物理学の理解の飛躍をもたらした。ここではまず、そうした惑星探査機の活躍を概観する。 【キーワード】 宇宙開発、無人探査機、バイキング、ボイジャー、ガリレオ、ホイヘンス、比較惑星学	長沼 毅（広島大学准教授）	長沼 毅（広島大学准教授）
6	金星と火星：地球の兄弟星	地球は太陽系の中で、金星と火星の間に位置している。地球とは似ても似つかない、灼熱地獄とも言うべき表層環境を持つ金星に対し、かつて豊富な水が循環していた火星は、現在では完全に凍結し極度に乾燥している。人類が惑星全体の単位で環境問題を考えるきっかけとなったこれら2つの惑星の姿を、最新の探査データと共に概観し、地球環境へのメッセージを読み取ることを試みる。 【キーワード】 地球型惑星、二酸化炭素、水の存在条件、気候変動、温暖化、生命の存在	宮本英昭（東京大学准教授）	宮本英昭（東京大学准教授）
7	地球型惑星の比較	外国を旅することで、かえって自国について理解が深まることがある。同様に、地球と似た天体を調べることは、地球の深い理解へとつながるはずだ。ここでは特に、地表面の痕跡や熱損失などのキーワードで地球型惑星を比較し、地球の特異性と他天体との類似性について考察する。なぜ地球に人類が存在するかという究極的な問いに対するヒントを探りたい。 【キーワード】 火山、プレートテクトニクス、水、衝突現象、クレーター、月	宮本英昭（東京大学准教授）	宮本英昭（東京大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
8	巨大惑星の世界	太陽系を外側から見れば、ごく内側を回る小さな水星、金星、地球、火星は、ほとんど目に留まらない。惑星系としての太陽系の主役の座を占めるのは、外側を大きく回る木星、土星、天王星、海王星の巨大惑星である。巨大惑星と、それらを回る多彩なリング、衛星などを概観し、太陽系の基本的な構造を把握する。 【キーワード】 太陽系の構造、巨大惑星、惑星の物理量、太陽系の質量と角速度の分布	吉岡一男（放送大学教授）	吉岡一男（放送大学教授）
9	巨大惑星の衛星たち：驚くべき多様な世界	太陽系で最も火山活動が活発な天体は、地球ではなく巨大惑星の衛星である。巨大惑星の衛星には、地下に海が存在するもの、温泉が噴き出ているもの、さらには極度に歪なものや表面が無数の断層で引きちぎられているものなどが知られており、驚くべき多様性を持つ。近年の探査で次々と明らかにされた新事実を整理し、地球や小惑星との比較を試みることで、この多様性の持つ意味合いについて議論する。 【キーワード】 ガリレオ探査機、カッシーニ・ホイヘンス探査機、潮汐加熱、間欠泉、地球型惑星	宮本英昭（東京大学准教授）	宮本英昭（東京大学准教授）
10	小惑星と彗星、隕石と流星	小惑星や彗星のような「太陽系小天体」というものがどのような天体なのかを、最近の観測や探査の結果を参照しながら概観する。また、これらの天体の分布や軌道運動、物理的性質を知り、小惑星や彗星が太陽系の起源を調べる鍵になっていることを理解する。さらに隕石、流星そして天体の地球衝突問題について知識を深める。 【キーワード】 小惑星、彗星、太陽系小天体、隕石、流星、オールト雲	吉川　真（JAXA宇宙科学研究本部准教授）	吉川　真（JAXA宇宙科学研究本部准教授）
11	太陽系の果て	海王星の軌道付近やその外側に、近年、多数の小天体が発見されている。これらを太陽系外縁天体と総称するが、冥王星もその1つである。また、冥王星については、2006年に惑星ではなくて準惑星と定義された。さらに、より遠方にも天体が発見され始めた。このような太陽系外縁天体について現在までに分かったことを理解する。 【キーワード】 冥王星、太陽系外縁天体、カイパーベルト、オールトの雲、太陽系のサイズ	吉川　真（JAXA宇宙科学研究本部准教授）	吉川　真（JAXA宇宙科学研究本部准教授）
12	太陽系の誕生	太陽系がどのように形成されたのかについて、最新の理解を述べる。歴史的な考察につづき、理論と太陽系外縁天体の発見など観測から得られた現代の太陽系形成論を概観する。講義で見てきた太陽系の諸天体や多彩な特徴が、見事に説明できることがわかり、われわれが住む地球という天体についても理解が深まるだろう。 【キーワード】 太陽系の特徴、カントの星雲説、原始太陽系星雲、京都モデル、雪境界線、惑星の成長時間	海部宣男（放送大学教授）	海部宣男（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	無数の惑星の中で	太陽系外の恒星を回る惑星が、続々と発見されている。では過去の太陽系外探査は、なぜ成功しなかったか、1995年の第一発見をもたらした観測手法はどういうものかを説明する。ついで、生まれかけの星(原始星)をまわる原始惑星系円盤の電波観測や赤外線観測を概観する。太陽系での常識とは全く違うことで衝撃をもたらしたこれら太陽系外惑星系の特徴、それを含む新しい惑星系形成論、またその中での太陽系の位置づけについて述べる。 【キーワード】 太陽系外惑星、ドップラー法、灼熱巨大惑星, 楕円軌道惑星, 軌道安定性	海部宣男(放送大学教授)	海部宣男(放送大学教授)
14	他の惑星・衛星に生物は存在するか?	太陽系外の無数の恒星を回る惑星が普遍的に存在することが分かった現在、地球外生命の探求も現実味を帯びて論じられている。ここでは、地球外生命が存在する可能性が議論されている太陽系天体として、火星、エウロパ、タイタン等について考察する。その上で地球外生命の発見の意義を考察し、さらに太陽系外惑星の生命探査計画についも述べる。 【キーワード】 火星、エウロパ、ガニメデ、タイタン、エンケラドゥス、系外惑星	長沼 毅(広島大学准教授)	長沼 毅(広島大学准教授)
15	地球の生物: 過去・現在・未来	これまでの講義で得られた太陽系についての知見を踏まえ、地球とその上で進化してきた生命の歴史を概観する。さらに地球生物系の未来にはどのような可能性があるか、時間スケールに応じた予測を考察し、私たち人間という存在を見直してみよう。 【キーワード】 地球史と生命史、人間活動と環境、地球の未来、環境の変動、人類文明	海部宣男(放送大学教授)	海部宣男(放送大学教授)

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	専門科目	科目コード	1566512	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　地球のダイナミックス　　（’１０）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：鳥海　光弘（東京大学大学院特任教授）　〕

【本学担当専任教員：吉岡　一男（放送大学教授）　】

講義概要

地球科学の基本は地球の表層にみられるさまざまな物質のすがた、性質、そしてその起源を探ること、さらにそれらを基にして地球の内部や表層で起こったプロセスを理解し、社会の基盤となる地殻や海洋、そして大気の状況を的確に理解し、その応用を図ることにある。そこで、本講義はその基礎である、地球表層にある自然物質の理解とその起源がどのように理解できるのか、そして起源を異にする物質が近接する理由と、それから読み取られる地球のダイナミックスを講義する。

授業の目標

固体地球のさまざまな現象の基本の理解とそれから地球のダイナミクスがどのように擦れるのかを学ぶ。

履修上の留意点

回・章	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
１．地球の表層にある物質の多様性				
1	地球の表層をつくる物質	日本列島や大陸の大地にはどのような物質があるのか。それは岩石であり、いろいろな鉱物の集合体である。日本列島では西日本と東北日本では異なり、前者は石英と長石が主の花崗岩や変成岩が多く、後者は長石や輝石のほかガラスが主となる火山岩が多い。これらの岩石がどのように分布するのか、そしてそれをつくる鉱物は何かをみる。 【キーワード】 島弧、大陸、鉱物、岩石、多様性	鳥海　光弘（東京大学大学院特任教授）	鳥海　光弘（東京大学大学院教授）
2	海洋地殻の岩石	海洋では海水とその下に広がっている海洋底の物質がある。海底の表層部分は海洋地殻といい、泥や生物の遺骸が溜まった堆積物と、その下に輝石、長石、そしてカンラン石などの鉱物をもつ玄武岩と呼ばれる火山岩がある。海洋底をつくる岩石は、太平洋でも大西洋でもほとんど同じであり、この点で大陸や島弧の岩石と異なる。 【キーワード】 海洋地殻、堆積物、火山岩、玄武岩、一様性	鳥海　光弘（東京大学大学院特任教授）	鳥海　光弘（東京大学大学院特任教授）
3	化学組成からみた地殻	地殻物質である岩石やそれを作る鉱物とガラスは酸素といろいろな金属元素やアルカリ元素がつくる酸化物の化合物である。そこで多様な岩石と鉱物を主な酸化物のSiO_2, TiO_2, Al_2O_3, Fe_2O_3, CaO, MgO, FeO, MnO, Na_2O, K_2O, H_2O, P_2O_5の量比で表す。すると、玄武岩から流紋岩、かんらん岩から花崗岩、かんらん岩、そして堆積岩などの組成変化をきちんと区別できる。 【キーワード】 化学組成、主要成分、酸化物、組成変化	鳥海　光弘（東京大学大学院特任教授）	鳥海　光弘（東京大学大学院特任教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
		2．地球内部の温度と圧力		
4	地球表層付近の温度構造	地球表層にある物質はその場でできたものとは限らない。地球内部で作られて、表面に出ていることが頻繁にある。地表にある物質がどこで出来たかを探るには、地球の中がどのような温度と圧力か知る必要がある。そこで、まず地表から穴を掘ってどのような圧力と温度かを知る必要がある。また、地球のいろいろな地域で温度がどのように変化するかを調べる。 【キーワード】 温度勾配、圧力、地球表層、地熱地帯	鳥海　光弘（東京大学大学院特任教授）	鳥海　光弘（東京大学大学院特任教授）
5	地球内部の構造と圧力	地球の内部は、地震波速度の分布から、同心円状に、地殻、上部マントル、マントル遷移層、下部マントル、外核、内核にわかれる。地球の内部の圧力は地球の重力で決まる。内部の重力は、地球内部で密度が変化するので、密度、重力、そして圧力を同時に求めるのである。 【キーワード】 地球内部の圧力、重力、地球内部の構造、地震波の不連続	鳥海　光弘（東京大学大学院特任教授）	鳥海　光弘（東京大学大学院特任教授）
6	地球内部の鉱物の安定性	地球内部の温度がどのくらいであるかを決めるのは難しい。直接温度計を差し込むことが出来ない時、地表付近の温度変化から推定するか、温度に敏感な物質の性質から間接的に推定するしか方法がない。有力な方法は、地震波の速度が不連続的に変化する深さで、鉱物が別の鉱物に変化することを利用して、地球の深いところでの温度を決定するのである。このような物質の変化を利用した温度計の利用を考える。 【キーワード】 地球内部の温度、層構造、鉱物変化、温度計	鳥海　光弘（東京大学大学院特任教授）	鳥海　光弘（東京大学大学院特任教授）
		3．地球物質の変化と性質		
7	ダイアモンドの話と変成岩	人はダイアモンドを採集して、宝飾品としても工業品としても利用している。ところがダイアモンドは炭素から出来ている。そして地表付近で安定なのはグラファイトであるし、酸素がたくさんあると炭酸ガスとなってしまう。そこでダイアモンドとグラファイトがどのような安定な温度と圧力の範囲をもっているのか。その関係は相図で示される。そして両者の変化を相転移という。そこで地表でダイアモンドが出現することはどういうことかを探る。 【キーワード】 ダイアモンド、炭素、グラファイト、相転移	鳥海　光弘（東京大学大学院特任教授）	鳥海　光弘（東京大学大学院特任教授）
8	地球内部の温度と鉱物の生成温度	地球内部のやや深い部分の温度は、岩石に含まれている鉱物の元素分配に関する熱力学的平衡関係を用いて、鉱物の化学組織を測定することで推定出来る。マントルで生成された岩石は世界各地の火山岩に取り込まれているものがあり、それらに含まれているカンラン石や輝石などの化学組成から上部マントルの200km程度までの温度構造がわかる。 【キーワード】 鉱物の元素分配、地質温度計、他成分係、化学平衡、上部マントル	鳥海　光弘（東京大学大学院特任教授）	鳥海　光弘（東京大学大学院特任教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
9	地球内部の温度構造	地球内部の温度構造は、浅い部分では地表付近での温度勾配や地質温度計から推定されたが、深部は推定が難しい。地球内部の熱エネルギー分布と、運動が未知だからである。そこで、地震波速度の深さ分布から得られた層構造と推定された鉱物の相転移曲線を用いて、層境界の圧力と温度を推定する。この結果660kmでは1500度程度を通過する温度構造が推定される。 【キーワード】 温度構造、相転移温度、断熱圧縮、熱伝導、熱源	鳥海　光弘（東京大学大学院特任教授）	鳥海　光弘（東京大学大学院特任教授）
10	MgO－SiO2を成分とする物質の融解とマグマ	氷から水になることは融解という。地球表層ではしばしば岩石が融けた状態の液体が噴きでる。これをマグマと言う。地球内部では温度と圧力が高い。これがマグマを作る原因である。そこで、地球物質の主な成分であるMgOとSiO2酸化物の混合物がどのような鉱物に変化し、融解するかを相図で調べよう。 【キーワード】 融解、マグマ、相図、結晶作用、分化	鳥海　光弘（東京大学大学院特任教授）	鳥海　光弘（東京大学大学院特任教授）
		４．地球のダイナミックス		
11	マグマと火山	地球の内部は地震波から見ると固体であり、マグマで満たされてはいない。では地球表層に噴出するマグマはどこで作られ、どのように噴き出すのか。それを火山から調べて見よう。日本列島やインドネシア、フィリッピンでは火山が一列に並んでいる。このほか、地球上で火山噴火が著しいのは、大西洋や太平洋の海嶺と呼ばれる地域である。マグマの温度は直接測ると1100度C程度である。それを地球内部で実現しているのは深さ100－200kmである。マグマはそこで生まれたのだろうか。 【キーワード】 マグマの発生、火山活動、地球の温度、火山列島	鳥海　光弘（東京大学大学院特任教授）	鳥海　光弘（東京大学大学院特任教授）
12	地球内部の破壊と地震発生	地震は日本列島のような海溝のそばに多く、大陸の中ではあまり起こらない。地震の揺れは横揺れと縦揺れがある。横揺れは縦揺れより遅く始まる。前者は横波で後者は縦波である。そうした揺れは岩石が横に歪んだり、縮みと伸びを起こすからだ。1mでわずか1mmぐらいのずれでも1kmでは1mものずれとなる。そしてそれが1秒程度で右へ左へとずれるのである。それは地下では割れ面が作られ、それを境に左右へとずれが発生することに等しい。地表では岩石の中の断層である。 【キーワード】 地震活動、断層、地球内部の破壊、地球内部の歪	鳥海　光弘（東京大学大学院特任教授）	鳥海　光弘（東京大学大学院特任教授）
13	マントル対流と地球の歴史	地球の深部では温度の上昇率が、地表付近に比べて格段に小さい。それは深部では温度や物質について撹拌が起こっているためである。浅いところでは撹拌がないために熱がゆっくりと地表にまででるので勾配がきつい。撹拌はおふろの中と同じく対流によるものである。これをマントル対流と言う。マントル対流はマントルの最深部からの上昇流とそれが浅いところで冷やされて沈んで行く下降流にわかれ、効率的にマントルを冷やしている。両者では温度が違い、地球内部に温度不均質が発生する。また、対流はマントルを掻き混ることで垂直方向に均質化している。 【キーワード】 温度上昇率、マントル対流、地球の冷却、マントルの撹拌	鳥海　光弘（東京大学大学院特任教授）	鳥海　光弘（東京大学大学院特任教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
14	プレートテクトニクス	世界の主要な場所が互いにどのくらいの距離にあるか、そしてその距離は年々どのくらい変化するかということはGPSで精密に計測すると分かるようになった。それによると日本列島はハワイに近づいている。北米大陸にも年に10cmという速さで接近している。驚くことに、この速度は1968年に太平洋や大西洋などの拡大速度から求めた速度と一致していた。このことは現在の10年ほどの運動と100万年程の平均の運動が一致していることであり、プレートテクトニクスを実証したことになる。 【キーワード】 プレートテクトニクス、大陸間距離、拡大速度、地球のダイナミクス	鳥海　光弘（東京大学大学院特任教授）	鳥海　光弘（東京大学大学院特任教授）
15	日本周辺の地殻とマントル	日本列島は活動的地球の表舞台である。活発な地震活動と火山活動、急激な地殻の上昇運動、海溝の厚い堆積、活動的な断層帯や褶曲帯などで特徴付けられる。そして、プレートテクトニクスの枠組みから外れる事が起こっている。つまり、地殻が作られて、それが変形し、大陸地殻となっている。さらに重大なことには作られた大陸地殻は40億年もの歴史をもつことである。海洋地殻が2億年より新しい事とは著しいコントラストなのである。 【キーワード】 日本列島、プレート境界、活動的地球、大陸地殻の形成	鳥海　光弘（東京大学大学院特任教授）	鳥海　光弘（東京大学大学院特任教授）

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	専門科目	科目コード	1568116	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　代数の考え方　　（’１０）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：梅田　亨（京都大学大学院准教授）　　〕

講義概要

「代数」という言葉は中学校以来なじみのあるものだが，それが現代数学において意味する内容は，遙かに広い．本講義では，ごく初歩の中学・高校の内容から始めるが，見方としてはより高度な視点からそれを捉え直し，現代につながる内容へと導いていく．考え方の一つの柱は「幾何」との関係で，その代数化が「環」という代数構造と関わるさまを説明する．もう一つの柱は「代数方程式」から発した「群」という概念で，対称性の記述の道具としての位置づけをもつ．最後にそれらが融合され，物理などで応用されることを説明する．

授業の目標

代数という概念の広がりと，それが数学の発展に，どう関わってきたかを説明することで，代数の考えの基本的な捉え方を紹介していく．素材は初歩的なものも含めつつ，現代数学の要所を占める基本概念を採り上げ，それらの概念が活用される様子を，例などを通じ，説明する．代数のもつ「形式性」について，その発展の必然性と，応用力の広さについて重点を置いて述べる．

履修上の留意点

関連した数学の科目．特に，線型代数，微積分を扱ったものを予め履修しておくのが望ましい．

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	代数という言葉	代数という言葉について，その語源であるアラビア語に遡り，日本語も含めて，基本的な考え方について説明する． 【キーワード】 代数	梅田亨(京都大学大学院・准教授)	梅田亨(京都大学大学院・准教授)
2	未知数という方法 ―― 方程式	方程式という考え方の基本について説明する． 【キーワード】 方程式	梅田亨(京都大学大学院・准教授)	梅田亨(京都大学大学院・准教授)
3	1次方程式	中学校以来，なじんできたものだが，大学では線型代数として組織的に学んだ．そのポイントについて説明する． 【キーワード】 線型性	梅田亨(京都大学大学院・准教授)	梅田亨(京都大学大学院・准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	2次および3次・4次方程式	2次方程式は中学校・高校で習ったものだが，解法について，少し違う立場から説明し，3次・4次の方程式についても根の公式という代数的解法があることの説明をする. 【キーワード】 根の対称式	梅田亨(京都大学大学院・准教授)	梅田亨(京都大学大学院・准教授)
5	量の自立 --- 恒等式の世界	代数は文字を扱う. 文字式の計算という形式性について説明する. 【キーワード】 恒等式，形式性	梅田亨(京都大学大学院・准教授)	梅田亨(京都大学大学院・准教授)
6	幾何学の代数化 --- デカルト以降	数式が図形を表わす方法についての重要な進歩はデカルト以来であるが，その意味と内容について説明する. 【キーワード】 図形と方程式	梅田亨(京都大学大学院・准教授)	梅田亨(京都大学大学院・准教授)
7	複素数	複素数(虚数)が数として認知される歴史の説明と，複素数の威力について説明する. 特に Gauss の貢献に重点を置く. 【キーワード】 複素数	梅田亨(京都大学大学院・准教授)	梅田亨(京都大学大学院・准教授)
8	四元数	平面図形に対しては，複素数が威力を発揮した. 同じことが空間図形に対してできないだろうか. その発想から Hamilton は四元数というものに到達した. これについて説明する. 【キーワード】 四元数，幾何代数	梅田亨(京都大学大学院・准教授)	梅田亨(京都大学大学院・准教授)
9	グラスマン代数	幾何学を代数化する，より一般の代数として Grassmann の代数がある. これは行列式を機械的計算にし，従って一次方程式も形式的な計算にしてしまうものである. これが一般の非可換な環=代数の重要な例として現われた. これについて説明する. 【キーワード】 グラスマン代数	梅田亨(京都大学大学院・准教授)	梅田亨(京都大学大学院・准教授)
10	非可換環	現代では代数というのは，結合的な非可換環の代名詞となっている. その威力と，基本的な考えを説明する. 【キーワード】 環，加群	梅田亨(京都大学大学院・准教授)	梅田亨(京都大学大学院・准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	群という対称性	代数方程式の根本的分析は Galois によって群という概念が産み出され，本質的な展開を見せた．しかし，群概念は代数方程式にとどまらず，対称性記述の方法として，今日まで重要性を保って来た．この基本的な考えを説明する． 【キーワード】 群，対称性	梅田亨(京都大学大学院・准教授)	梅田亨(京都大学大学院・准教授)
12	群と代数方程式	Galois の考えた群が，どのように代数方程式を分析するのかについて説明する． 【キーワード】 Galois 群	梅田亨(京都大学大学院・准教授)	梅田亨(京都大学大学院・准教授)
13	群と不変性	群概念のもつ幾何学的内容の一端について説明する． 【キーワード】 不変式	梅田亨(京都大学大学院・准教授)	梅田亨(京都大学大学院・准教授)
14	微分方程式	解析学の基本的概念である微分方程式も，代数の観点から捉えられる．その一端を説明する． 【キーワード】 微分作用素環，D-加群	梅田亨(京都大学大学院・准教授)	梅田亨(京都大学大学院・准教授)
15	物理と代数	物理学もまた代数的概念の発展に寄与してきた．相対性理論や量子力学に関係した代数について紹介する． 【キーワード】 群の表現，スピン	梅田亨(京都大学大学院・准教授)	梅田亨(京都大学大学院・准教授)

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目コード	1860704	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 空間とベクトル （’０９）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：松本　幸夫（学習院大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：川﨑　徹郎（学習院大学教授）〕

講義概要

幾何であつかう長さや角度はベクトルの内積を用いて記述することができる。内積を変えない変換として合同変換が捉えられる。このように、ベクトルの内積は幾何学において重要な役割を演じている。この講義では、内積を基本的なキーワードとして、合同変換の分類、曲線論、曲面論を展開する。さらに、ベクトル場の微分積分、いわゆる「ベクトル解析」でも、やはり内積が不可欠であることを見る。最後に、通常の内積と異なる「擬内積」を伴ったミンコフスキー空間を考えることにより、非ユークリッド幾何と相対性理論の入口まで誘う。

授業の目標

ユークリッド空間の概念に親しむことにより、合同変換が鏡映変換の合成で書けることを理解する。合同変換で移りあう曲線の形は「曲率」と「捩率」で決まること、また、曲面に伴って、自然に第1基本形式、第2基本形式が定義され、それらが曲面の形と深く関わることを理解する。ベクトル場の基本的な操作である「勾配」「発散」「回転」などの微分操作とその幾何学的な意味を学び、種々の積分定理を理解する。「擬内積」を導入することにより、非ユークリッド幾何や相対論がすっきりと記述できることが分ると思う。

履修上の留意点

線型代数学(04)、初歩からの微積分(06)、入門線型代数(09)を学んでおくことが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	ユークリッド空間と合同変換	平面幾何学を中学、高校で学んだ。そこでは，長さや角度などの計量，また平行移動や回転などの合同変換を考えた。合同変換は長さや角度を変えない。ここでは座標とベクトルの考えを使って空間で同様のことを考えてみよう。 【キーワード】 ベクトル、長さ、内積、ユークリッド空間、合同、鏡映	松本　幸夫（学習院大学・教授） 川﨑　徹郎（学習院大学・教授）	松本　幸夫（学習院大学・教授） 川﨑　徹郎（学習院大学・教授）
2	合同変換の分類	3次元ユークリッド空間の合同変換にはどのようなものがあるだろうか。鏡映、回転、平行移動、などさまざまなものがあるが、それらは全て鏡映を合成することによって表せる。この事実を使って合同変換の分類ができる。 【キーワード】 鏡映、回転、平行移動、写像の合成、螺旋運動	松本　幸夫（学習院大学・教授） 川﨑　徹郎（学習院大学・教授）	松本　幸夫（学習院大学・教授） 川﨑　徹郎（学習院大学・教授）
3	ベクトルと行列	合同変換は行列を使って表すことができる。そのような行列はどんな特徴を持っているだろうか。ベクトルと内積を用いて考えてみよう。それらの行列には「標準形」がある。標準形を用いると回転角などを求めることができる。 【キーワード】 行列、内積、外積、直交行列、回転行列	松本　幸夫（学習院大学・教授） 川﨑　徹郎（学習院大学・教授）	松本　幸夫（学習院大学・教授） 川﨑　徹郎（学習院大学・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	標準形の応用	標準形を用いて、いろいろな合同変換を表す行列を求める。応用として、立方体の対称性を調べよう。対称軸や、対称面にはどんなものがあるだろうか。それらを行列を用いて調べることができる。 【キーワード】 回転軸、回転角、対称面	松本　幸夫 （学習院大学・教授） 川﨑　徹郎 （学習院大学・教授）	松本　幸夫 （学習院大学・教授） 川﨑　徹郎 （学習院大学・教授）
5	空間内の曲線	空間内の点が動くと曲線ができる。空間の合同変換で移りあう2つの曲線を同じ形と見て，曲線の形を分類することを考える。その準備として、曲線のパラメーター表示、速度ベクトル、向きの変化、及び曲率について説明する。 【キーワード】 曲線のパラメーター表示、速度ベクトル、弧長、曲率	松本　幸夫 （学習院大学・教授） 川﨑　徹郎 （学習院大学・教授）	松本　幸夫 （学習院大学・教授） 川﨑　徹郎 （学習院大学・教授）
6	フレネ・セレーの公式	前回の続き。曲率のみでは曲線の形は決まらない。曲線の捩れ具合を表す量として「捩率」が定まる。曲線の形は、曲率と捩率を含んだフレネ・セレーの公式で記述され、この式を調べると、曲率と捩率の二つで曲線の形が決まることが分る。 【キーワード】 捩率、フレネ・セレーの公式	松本　幸夫 （学習院大学・教授） 川﨑　徹郎 （学習院大学・教授）	松本　幸夫 （学習院大学・教授） 川﨑　徹郎 （学習院大学・教授）
7	いろいろな曲面	曲線は1個のパラメーターで表されるが、曲面は2個のパラメーターで表すことができる。ここでは、球面を始めとする空間内のいろいろな曲面の例について考えてみよう。 【キーワード】 曲面のパラメーター表示、球面、2次曲面、トーラス	松本　幸夫 （学習院大学・教授） 川﨑　徹郎 （学習院大学・教授）	松本　幸夫 （学習院大学・教授） 川﨑　徹郎 （学習院大学・教授）
8	接平面と第1基本形式	空間内の曲面の各点に対して，その点で曲面に接する平面が定まる。この平面内のベクトルには自然に長さがあり、二つのベクトルには内積がある。各点でこの内積を考えたもの（第1基本形式）と曲面の形との関係を調べる。 【キーワード】 接ベクトル、接平面、第1基本形式、懸垂面、螺旋面	松本　幸夫 （学習院大学・教授） 川﨑　徹郎 （学習院大学・教授）	松本　幸夫 （学習院大学・教授） 川﨑　徹郎 （学習院大学・教授）
9	第2基本形式	曲面の形状は第1基本形式だけでは決まらない。曲面の各点において曲面に直交するベクトル（法ベクトル）の変化を調べることが重要である。法ベクトルの変化と曲面の曲がり方の関係を記述するために第2基本形式を考える。 【キーワード】 法ベクトル、ガウス写像、第2基本形式	松本　幸夫 （学習院大学・教授） 川﨑　徹郎 （学習院大学・教授）	松本　幸夫 （学習院大学・教授） 川﨑　徹郎 （学習院大学・教授）
10	曲面の種々の曲率	曲面の1点において、その点における法ベクトルを含む平面で曲面を切ると、曲線が現れる。この曲線の曲率は第2基本形式で表せる。この曲率から主曲率、ガウス曲率、平均曲率など種々の曲率が導かれる。 【キーワード】 主曲率、ガウス曲率、平均曲率、楕円点、双曲点、放物点	松本　幸夫 （学習院大学・教授） 川﨑　徹郎 （学習院大学・教授）	松本　幸夫 （学習院大学・教授） 川﨑　徹郎 （学習院大学・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	ベクトル場	例えば、平面の上の水の流れを数学的に記述しようとすると、各点ごとに流れの向きと速さを考えなければならない。これは、平面の各点にベクトルを対応させること相当する。このようなベクトルの対応をベクトル場という。この回では、関数やベクトル場についての種々の微分操作を考える。 【キーワード】 ベクトル場、勾配、発散、回転	松本　幸夫（学習院大学・教授） 川﨑　徹郎（学習院大学・教授）	松本　幸夫（学習院大学・教授） 川﨑　徹郎（学習院大学・教授）
12	ベクトル場の線積分	前回学んだ種々の微分操作は互いに密接に関連している。例えば、勾配ベクトル場には「渦」がない。逆に、渦のないベクトル場は勾配ベクトル場である、などの事実が示される。この事実は「線積分」の考えを使って証明されます。 【キーワード】 線積分、ガウスの発散定理、グリーンの定理	松本　幸夫（学習院大学・教授） 川﨑　徹郎（学習院大学・教授）	松本　幸夫（学習院大学・教授） 川﨑　徹郎（学習院大学・教授）
13	空間のベクトル場	前回までは平面上のベクトル場について学んできた。 今回は3次元のユークリッド空間内のベクトル場について考える。例えば、空間内の空気の流れは空間内のベクトル場で記述される。平面のベクトル場についての微分操作はほぼそのまま空間のベクトル場に拡張される。後半でベクトル場の面積分への準備として、曲面の面積について考える。 【キーワード】 空間のベクトル場の勾配、発散、回転、曲面の面積	松本　幸夫（学習院大学・教授） 川﨑　徹郎（学習院大学・教授）	松本　幸夫（学習院大学・教授） 川﨑　徹郎（学習院大学・教授）
14	ベクトル場の面積分	ベクトル場に渦があるかないかは、「風」を背にうけたまま1周できるかどうかで判断される。また、空気の湧き出しがあるかどうかは、その点を囲む面を通過する風の総量で分かる。このような事実は、空間のベクトル場の積分に関する定理として記述される。 【キーワード】 面積分、ストークスの定理、ガウスの定理	松本　幸夫（学習院大学・教授） 川﨑　徹郎（学習院大学・教授）	松本　幸夫（学習院大学・教授） 川﨑　徹郎（学習院大学・教授）
15	「擬内積」とミンコフスキー空間	これまで考えてきた内積は、ゼロでないベクトルについて、それ自身の内積がつねに正であった。このような内積は「正定値内積」と呼ばれている。ミンコフスキー空間は正定値ではない「擬内積」を伴った空間で、双曲幾何や相対性理論の枠組みとなる。 【キーワード】 擬内積、ミンコフスキー空間、双曲幾何、相対性理論	松本　幸夫（学習院大学・教授） 川﨑　徹郎（学習院大学・教授）	松本　幸夫（学習院大学・教授） 川﨑　徹郎（学習院大学・教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1560409	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 数学基礎論 （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：隈部　正博（放送大学准教授）〕

講義概要

論理学の基礎を数学的立場から解説する。授業では予備知識は特に要求しない。自然の理解専攻以外の学生向けでもある。数学を初めて学ぶ人たちのための予備知識の解説から始める。数学には独特の言葉使いがある。これを一から学んでいく。例えるなら、外国語である英語を a,b,c から学ぶ姿勢である。その後は意味をなす英文を作るための英文法を学ぶように、数学的文章（論理式という）を作るための規則を学んでいき、「正しい文章」とは何かを学ぶ。また数学的推論あるいは証明がどのように行われるかを掘り下げて考える。その後自然数とはどういうものか、について体系的に学び、最終的にゲーテルの不完全性定理を理解する。またこの分野は情報科学の基礎理論との関わりも深い。従って情報科学への応用として論理回路（デジタル回路）やリレーショナルデータベースについて学ぶ。

授業の目標

数学を言語という観点から基本的立場に戻り、基本概念を掘り下げて理解する。数学は述語論理という言語の論理体系から成り立っているが、その一部である命題論理、から順次学んでいく。その後我々に最も身近な自然数について、その論理構造について学ぶ。数学の問題は、正しいとか誤りであるとかどちらか白黒つけることができるものなのか。そもそも正しいとか間違い、あるいは証明するとはどういうことであろうか。その他数学に関する基本事項に関する（幼い頃に抱く）素朴な疑問対する論理的根拠も見ていく。そんな中で日常言語と数学との違いや、また数学は論理的正確性を大切にするということを理解したい。最終目標はゲーデルの不完全性定理の理解である。数学のみならず、哲学や社会学にも大きな影響を与えたこの定理の意味することを理解していきたい。また、この分野と情報科学とがいかに関わっているかを見ていく。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	準備	これから学ぶにあたって必要な予備知識についてのべる。数学的帰納法とはどういうものか。集合とは何か、その基本演算。数学における「関係」とはどういうことか。これらについて学ぶ。 【キーワード】 数学的帰納法、集合、関係	隈部　正博（放送大学准教授）	隈部　正博（放送大学准教授）
2	命題論理	数学独特の言葉使いとして、「かつ、または、ならば、でない」というものがある。これらの言葉の、日常的な理解と数学的な理解との違いを強調しながら意味を考える。これらをまとめて命題論理というものがある。その命題論理とは何かについて考える。そして数学的な文章（論理式）を作るための手続きを定義し、その文章が正しいとか誤りであるといった真偽値について考える。 【キーワード】 命題論理、論理式、文章記号、真偽値	同上	同上
3	トートロジー	論理式の真偽値についてさらに考察し、命題論理におけるトートロジーの概念について考える。 【キーワード】 真偽値の代入、トートロジー	同上	同上
4	論理記号について	論理記号の完全性について述べる。 【キーワード】 論理記号の完全性	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	命題論理の情報科学への応用	命題論理の情報科学への応用として、論理回路（デジタル回路）について学ぶ。これはコンピューターの設計における基本的な概念の一つである。このとき命題論理の論理式がどのように関わっているかをみる。 【キーワード】 論理回路、基本ゲート、回路図	限部　正博（放送大学准教授）	限部　正博（放送大学准教授）
6	述語論理	命題論理にさらに「全ての、、、についてある事柄が成り立つ」や「ある、、、が存在してある事柄が成り立つ」といった言い回しなどを付け加えて拡張した、述語論理を定義する。そして述語論理のもとで、ある対象を指し示す対象式の定義をし、論理式の定義をする。 【キーワード】 述語論理、存在記号、対象式、論理式	同上	同上
7	構造	述語論理の論理式の真偽を決めるには、命題論理のようには行かない。そのため構造という概念が必要である。構造の定義をし、その上で論理式の真偽値を考える。 【キーワード】 構造、論理式の真偽値、	同上	同上
8	ロジカルな満足性と演繹計算	述語論理におけるロジカルな満足性という概念について考える。演繹計算とは数学的推論をする上で必要な概念である。これがどのようなものか概略を述べる。これに関連して、ゲーデルの完全性定理の持つ意味について述べる。 【キーワード】 ロジカルな満足性、演繹計算、完全性定理	同上	同上
9	論理公理	演繹計算についてさらに深く考える。公理とは証明する必要のないほど明らかなものである。論理公理とはどういうものか定義する。また証明とはどういうことか、について正確に考える。 【キーワード】 論理公理、証明図	同上	同上
10	述語論理の情報科学への応用	述語論理の情報科学への応用として、リレーショナルデータベースについて述べる。これはデータベース理論において最もインパクトを与えたものの一つである。このとき述語論理がどのように関わっているかをみる。 【キーワード】 リレーショナルデータベース、関係、論理式	同上	同上
11	自然数論	自然数とはどういうものか、自然数論を体系的に学ぶ。また1+1=2となることの論理的根拠についても述べたい。 【キーワード】 自然数論、モデル、ペアノの公理系	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	表現可能性と計算可能性	ある事柄が「計算可能」であるといった極めて一般的な概念について、どういうことか数学的定義を試みる。また、関数や関係の自然数論における表現可能性や計算可能性について述べる。 【キーワード】 表現可能性、計算可能性、帰納的関数、チャーチの提唱	隈部 正博(放送大学准教授)	隈部 正博(放送大学准教授)
13	ゲーデル数と証明の算術化	ゲーデル数とはどういうものかについて述べ、それを使って証明の算術化について述べる。この概念は不完全性定理の証明において重要である。 【キーワード】 ゲーデル数、算術化	同上	同上
14	不完全性定理その1	ゲーデルの第1不完全性定理とは(非常に簡単に言えば)、ある文章で、それが正しいとも誤りであるとも証明できないようなもの(白黒つけられないもの)があるということである。この文章を決定不能な文章という。まず、対角化定理というものを証明して、それを使って不完全性定理を証明する。 【キーワード】 対角化定理、第一不完全性定理	同上	同上
15	不完全性定理その2	第1不完全性定理を再考する。次に、我々がある体系(世界)のなかで物事を考えるとき、その体系が矛盾をはらんでいては何もならない。その意味で無矛盾性を確認することは重要である。そんな観点から第2不完全性定理について考える。 【キーワード】 無矛盾性、第2不完全性定理	同上	同上

事務局記載欄	開講年度	２０１１年度	科目区分	専門科目	科目コード	1562614	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　微分方程式への誘い　　（’１１）＝　（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：　熊原啓作（放送大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：　室　政和（岐阜大学教授）　〕

講義概要

自然現象や社会現象を数理的に表現し研究する大きな道具として，あるいは工学研究に必要な道具として微分方程式がある。微分方程式は微積分の誕生以来数学解析の中心的な役割のひとつをになってきた。この講義では微分積分学の続編として，常微分方程式の初歩を中心に分かり易く講義する。線形微分方程式が中心話題となる。

授業の目標

微分方程式の簡単な解法を解説するが，求積法で解が求まる方程式はごく限られたものであることも強調したい。それでもどのような場合に解が求まるか。解の性質が分かるのはどのようなときかなど理解することは重要である。2階までの微分方程式を通して微分方程式の基礎を理解することが目標となる。

履修上の留意点

微分積分学を勉強した上でこの講義を履修されることをおすすめする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	微分方程式とは何か(1)	微分方程式とは何か，解とは何かを不定積分から始めて，マルサスの人口論，ニュートンの運動方程式，追跡線，曲線群などの例をもとに解説する。簡単な微分方程式の立て方とその解き方を見るとともにこの講義の概観を与える。 【キーワード】 微分方程式，解，積分定数，一般解，特殊解，階数	熊原啓作（放送大学教授） 室　政和（岐阜大学教授）	熊原啓作（放送大学教授） 室　政和（岐阜大学教授）
2	微分方程式とは何か(2)	1階の微分方程式の解の意味を方向場と関連させ幾何学的に説明する。また初期値と解の関係を考え，コーシー・リプシッツの条件を満たせば，解の存在が保証されると共に，解が初期値で決まることを見る。 【キーワード】 方向場，解曲線，初期値，リプシッツ条件，ピカールの逐次近似法，解の存在，一意性	熊原啓作（放送大学教授） 室　政和（岐阜大学教授）	熊原啓作（放送大学教授） 室　政和（岐阜大学教授）
3	1階の微分方程式を解く(1)	解が存在してもその解を既知の関数を用いて表すことが出来るとは限らない。特別な形の方程式はそれが可能であることを見る。まず1階の微分方程式で変数分離形，同次形，1階線形微分方程式の解を求める。 【キーワード】 求積法，変数分離形，特異解，同次形，1階線形微分方程式，ベルヌーイの微分方程式，リッカチの微分方程式	熊原啓作（放送大学教授） 室　政和（岐阜大学教授）	熊原啓作（放送大学教授） 室　政和（岐阜大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	1階の微分方程式を解く(2)	全微分方程式の解について考える。その方程式が完全微分の時は解を持つことを見，そうではないときは積分因子とをかけることによって完全微分に帰着させることを説明する。さらに解曲線群と包絡線についても言及する. 【キーワード】 偏微分と全微分，全微分方程式，完全微分形，積分因子，包絡線，特異解	熊原啓作(放送大学教授) 室　政和(岐阜大学教授)	熊原啓作(放送大学教授) 室　政和(岐阜大学教授)
5	例で学ぶ(1)	マルサスの人口方程式とフェルフルストの人口方程式，放射性同位元素の崩壊の方程式と年代測定法など1階の微分方程式で表される事象をいくつか取り上げ，その解を調べる。 【キーワード】 マルサスの方程式，ヴェルファルストtの方程式，ラザフォードの方程式，半減期，炭素年代測定法	熊原啓作(放送大学教授) 室　政和(岐阜大学教授)	熊原啓作(放送大学教授) 室　政和(岐阜大学教授)
6	定数係数線形微分方程式(1)	定数係数の2階線形微分方程式を扱う。斉次形の時の解空間の構造，求積法，特性方程式を用いた解法できるだけ具体的に解説する。 【キーワード】 複素変数の指数関数，解空間，基本解，ロンスキアン，斉次方程式，特性方程式	熊原啓作(放送大学教授) 室　政和(岐阜大学教授)	熊原啓作(放送大学教授) 室　政和(岐阜大学教授)
7	定数係数線形微分方程式(2)	非斉次2階線形方程式のについて定数変化法，未定係数法を解説する。次に高次線形微分方程式の記号解法を説明する。 【キーワード】 非斉次方程式，定数変化法，未定係数法，微分作用素，記号解法	熊原啓作(放送大学教授) 室　政和(岐阜大学教授)	熊原啓作(放送大学教授) 室　政和(岐阜大学教授)
8	例で学ぶ(2)	今まで学んだことをばねの振動の解析に応用する。摩擦がないとき単振動，線形摩擦と呼ばれる摩擦があるときは減衰振動になることを見る。外力として振動を考えると共鳴現象が起きることを見る。線形ではないふりこ運動についても触れる。 【キーワード】 振動，振幅，周期，振動数，減衰振動，強制振動，共鳴，タコマ橋の崩壊，ふりこ，線形化ふりこ	熊原啓作(放送大学教授) 室　政和(岐阜大学教授)	熊原啓作(放送大学教授) 室　政和(岐阜大学教授)
9	変数係数線形微分方程式	変数係数の線形微分方程式で階数低下法，定数変化法について述べ，変数変換によって定数係数に帰着できる場合を考える。また高階でも2階と同様の性質をもつことを見る. 【キーワード】 標準形，階数低下法，オイラーの微分方程式，ロンスキアン	熊原啓作(放送大学教授) 室　政和(岐阜大学教授)	熊原啓作(放送大学教授) 室　政和(岐阜大学教授)
10	連立線形微分方程式(1)	単独の高階の線形微分方程式は連立1階線形微分方程式の特別な場合であることを見る。連立微分方程式の初期値問題は素解(解核行列)を用いて解けることを見る．次に定数係数の場合は解核行列が係数行列の指数関数で表されることを見る。 【キーワード】 連立微分方程式，素解，解核行列，行列の指数関数，行列の標準形	熊原啓作(放送大学教授) 室　政和(岐阜大学教授)	熊原啓作(放送大学教授) 室　政和(岐阜大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	連立線形微分方程式(2)	前章に続いて2階の定数係数連立線形方程式を係数行列の標準形を用いて解を求める。さらに係数行列の固有値と解軌道の関係を見る。 【キーワード】 固有値，固有ベクトル，行列の標準形，相空間，解軌道	熊原啓作(放送大学教授) 室　政和(岐阜大学教授)	熊原啓作(放送大学教授) 室　政和(岐阜大学教授)
12	解の挙動	連立1階非線形方程式の平衡点の近くでの線形化安定性解析について解説する．次に線形であるばね質点系の相平面解析，非線形ふりこ，ロトカ・ヴァルテラ方程式の解曲線を考察する。 【キーワード】 平衡点，線形化安定性解析，ロトカ・ヴォルテラ方程式	熊原啓作(放送大学教授) 室　政和(岐阜大学教授)	熊原啓作(放送大学教授) 室　政和(岐阜大学教授)
13	級数による解法	解析関数を係数にもつ微分方程式は解析関数解をもつ．整級数展開して，未定係数法により解を求める方法を説明し，具体的なルジャンドル，エルミート，チェビシェフの微分方程式の解を求める。さらにベッセルの微分方程式，ガウスの微分方程式も紹介する。 【キーワード】 整級数解，ルジャンドルの，エルミートの，チェビシェフの，ベッセルの，ガウスの微分方程式，確定特異点型微分方程式	熊原啓作(放送大学教授) 室　政和(岐阜大学教授)	熊原啓作(放送大学教授) 室　政和(岐阜大学教授)
14	偏微分方程式へ(1)	例によって偏微分方程式とは何か，どのようとき偏微分方程式が現れるか，その解とは何か，どんな手法が使われるかを簡単に紹介する。2階の放物型である熱伝導方程式と，双曲型である波動方程式を取り上げる。 【キーワード】 偏微分方程式，1階の偏微分方程式，放物型，双曲型，熱伝導方程式，波動方程式，フーリエ級数	熊原啓作(放送大学教授) 室　政和(岐阜大学教授)	熊原啓作(放送大学教授) 室　政和(岐阜大学教授)
15	偏微分方程式へ(2)	前回に続き偏微分方程式についての紹介を行う。2階楕円型であるラプラスの方程式と，その解である調和関数の性質を説明する。 【キーワード】 楕円型，ラプラスの方程式，調和関数，デイリクレ問題，ポアソンの積分公式	熊原啓作(放送大学教授) 室　政和(岐阜大学教授)	熊原啓作(放送大学教授) 室　政和(岐阜大学教授)

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目コード	1861905	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　統計学　　（’０９）＝（R）

〔主任講師（現職名）：藤井良宜（宮崎大学教授）〕

講義概要

現在社会においては，情報通信技術や測定技術の進展によって，大量のデータが収集され，蓄積されています。この蓄積されたデータの中にはさまざまなバラツキが含まれており，バラツキを持ったデータの中から本質的な特徴を把握する能力が，現在を生きる私たちには必要とされています。本講義では，確率的なモデルの基本的な特徴を解説し，それを利用した基本的な統計手法を紹介します。また，複雑な現象を把握するために必要となる，回帰分析を中心とした統計手法についても説明していきます。

授業の目標

確率の基本的な性質や確率モデルの特徴を把握し，それらが統計解析のなかでどのように利用されているのかを理解することを目標とします。また，統計モデルを積極的に活用し，複雑な現象の中から，特徴的な性質を見出すことができるようになることを最終的な目標とします。

履修上の留意点

「身近な統計（’07）」を学んでおくことが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	データのバラツキとモデル化	統計データを分析するには，バラツキを調べる確率分布モデルと傾向を表す統計モデルを上手に利用することが重要です。ここでは，講義全体の目標について詳しく解説し，全体の見通しを立てることを目的とします。 【キーワード】 確率分布モデル，統計モデル，問題解決	藤井　良宜（宮崎大学教授）	藤井　良宜（宮崎大学教授）
2	確率の基本性質	データのバラツキを把握する方法の1つは，データを確率的な現象としてみることです。ここでは，サイコロやトランプを例として挙げながら，確率の基本性質を解説します。細かな組み合わせ計算ではなく，基本的な性質を理解することが目標です。 【キーワード】 排反事象，余事象，独立性，条件付き確率	同上	同上
3	確率分布と期待値	統計データは，量的なデータ（数値として表されるもの）がほとんどです。量的なデータでは，各値をとる確率だけではなく，分布として見ていくことが大切です．ここでは，確率分布やその平均や分散といった確率分布の特徴量について解説します。 【キーワード】 確率変数、累積分布関数，平均，分散	同上	同上

回	・テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	2項分布モデル	確率モデルの中で，もっともシンプルなモデルが2項分布モデルです。ここでは，2項分布の基本的な性質を解説します。また，内閣支持率調査を例に2項分布モデルの有用性や信頼区間の構成法についても解説します。 【キーワード】 2値データ，2項分布，割合の推定，信頼区間	藤井　良宜(宮崎大学教授)	藤井　良宜(宮崎大学教授)
5	多項分布とクロス表解析	2項分布モデルの1つの拡張として，多項分布モデルがあります。多項分布に拡張することによって，2項分布の基本的な性質を満足しながらも，適用できる範囲を広げることができます。ここでは、多項分布の適用例の一つとして，クロス表解析を取り上げ，統計的検定についても解説します。 【キーワード】 共分散，2x2表，独立性の検定、帰無仮説、有意水準	同上	同上
6	ポアソン分布モデル	ポアソン分布モデルは，計数(数をかぞえたもの)データに対してよく用いられるモデルです。計数データを使った統計解析は，実は非常に適用範囲の広い方法です。ここでは，特に医学データを中心にポアソン分布モデルを適用例についても解説します。 【キーワード】 散布度の検定，カイ2乗分布，罹患率，標準化死亡率比	同上	同上
7	正規分布モデル	正規分布モデルは，測定値データに対するモデルとして最もよく使われるモデルです。統計手法のうち，正規分布モデルを仮定したものが最も多く提案されています。ここでは，正規分布の基本的な性質を把握することを目標とします。 【キーワード】 尺度変換，標準化，独立な確率変数の和，偏差値	同上	同上
8	正規分布モデルでの統計的推測	正規分布はある意味で非常に扱いやすい分布です。特に，複数のデータを要約する際に，きれいな性質を持っています。ここでは，正規母集団からの標本の分布を調べることによって，正規分布の平均に対する信頼区間を構成します。また，中心極限定理を使って，正規分布以外のモデルに対しても近似的に信頼区間を構成できることを説明します。 【キーワード】 標本分布，2標本問題，中心極限定理，信頼区間	同上	同上
9	単回帰分析	2つの変数の間の関係を直線を使って表現する方法は，単回帰分析と呼ばれています。ここでは，直線の式の推定法・データに対しての直線の当てはまりのよさを調べる方法について解説します。 【キーワード】 相関係数，回帰直線，3つの平方和	同上	同上
10	重回帰分析	ある結果に対する原因を調べる場合には，1つの変数だけで説明できる場合はそれほど多くありません。そこで複数の変数を使って，興味ある結果に対する原因を表現する重回帰分析について解説します。しかし，重回帰分析の場合には結果を解釈する上で気をつけることが多くなります。それらの注意についても説明します。 【キーワード】 偏回帰係数，寄与率，多重共線性，分散分析表	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	モデル選択	重回帰分析の場合には，どの変数を用いるかによって，さまざまな統計モデルを考えることができます。そのため，考えられるモデルから最も良いモデルを選択することが重要となります。ここでは，モデルの選択方法について，解説します。 【キーワード】 ステップワイズ法，情報量規準，AIC，最尤法，クロスバリデーション	藤井　良宜（宮崎大学教授）	藤井　良宜（宮崎大学教授）
12	分散分析	重回帰分析の適用例の一つとして，一元配置分散分析について解説します。一元配置分散分析は実験データの解析において非常によく用いられる統計解析方法です。また，関連する手法として，群間の比較を行うための多重比較法についても解説します。 【キーワード】 分散分析表，群内変動，群間変動，F分布，多重比較	同上	同上
13	ロジスティック回帰分析	重回帰分析は，結果を表す変数が連続的な値を取ることが前提になっています。そこで、病気の発生のように結果が2値で表される場合への拡張として，ロジスティック回帰分析について説明します。ロジスティック回帰分析も非常によく用いられる統計手法の一つです。 【キーワード】 ロジット変換，オッズ比，モデルの適合度	同上	同上
14	主成分分析と因子分析	統計的な調査では，各対象者に対していろいろな変数を調べる場合も多くあります。調べる変数が多いときには，それらの関係を見ることは容易ではありません。そこで，多くの変数からある程度少ない変数に減らして行くことが重要です。ここでは，その方法として主成分分析と因子分析の基本的な考え方について解説します。 【キーワード】 主成分，因子，固有値，共分散行列，相関行列，因子数の選択	同上	同上
15	複雑なデータと統計モデル	複雑なデータの中から，主要な特徴を見出すためには，バラツキを現す確率モデルと傾向を調べる統計的なモデルをうまく活用することが重要です。ここでは，これまでのまとめとして，いくつかの問題に対して，どのような解析を行えばよいのかについて説明をし、全体のまとめとします。 【キーワード】 解析例，要点のまとめ	同上	同上

科目名（メディア）＝　変動する社会と暮らし（‘０７）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：藤原　康晴　(放送大学客員教授)〕
〔主任講師（現職名）：中谷　延二　(放送大学教授)　〕

講義概要

科学技術の高度化，情報化，急激な少子高齢化，経済社会のグローバル化など，社会の大きな変革のもとで私たちはどのような生活設計が可能であるのか。科学技術，情報技術の進展によって利便性，快適性がもたらされている反面，暮らしのさまざまな領域におけるリスクが大きくなっている。こうした状況下にあって，「消費者保護基本法」が改正されて，「消費者基本法」が施行され，消費者を保護する立場から自立を支援する方向に重点が移されているなど，自己責任の比重がますます大きくなっている。この実態を，食品，生活用品，住居，契約・取引，貯蓄と投資，働き方，健康および保健・福祉などの暮らしの各分野から解説する。

授業の目標

急激な社会の変動にさらされている暮らしの諸課題に対して，消費者個々人の自己責任がどのようにかかわっているかの理解を深め，生活の質の向上につながる生活設計ができる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	変動する社会と消費生活	科学や情報技術の進展，少子高齢化，労働形態の多様化，家事労働の社会化，省資源・省エネルギー社会形成の推進などに伴う社会の変動に私たちの暮らしがさらされている。暮らしに対して光と影をもたらすこうした社会の変動の実態と消費生活への影響について全般的な観点から概説する。	藤原　康晴（放送大学客員教授）	藤原　康晴（放送大学客員教授）
2	消費者トラブルと消費者が直面する課題	現代の私たちは誰もが、市場を通じて事業者が提供する商品・サービスを購入することによって生活を営む「消費者」であらざるをえない。そのため消費者が抱える問題は，現代人が直面する重要な生活問題となっている。経済社会の変化とともに急増する消費者トラブルの実態を理解するとともに，消費者の権利が実現される経済社会を創り出すために，消費者に期待される役割と課題を考える。	安田　憲司（国民生活センター教育研修部）	安田　憲司（国民生活センター教育研修部）
3	暮らしの中のリスクを探る	暮らしのなかのリスク発生に対して，安全・信頼確保は，いかに行われるのだろうか。日本における家計の金融資産などに関する経済生活の不確実性が少子高齢化の進展で増大してきている。リスクは自己責任によって処理すべきなのか，それともリスク移転によって担うべき人に負担をシフトすべきなのか。経済生活のリスクと安全・信頼の重要性について，この章で考えていく。	坂井　素思（放送大学教授）	坂井　素思（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	近年の食生活の変化	我が国の食生活は，第２次世界大戦後の極度の食糧難の時代から飽食と呼ばれる豊かな時代を迎えている。世界でも類を見ない速度で最長寿国の一つになった現在，“日本型食生活”への評価が高い。この６０年間を中心に我が国の食生活の変遷を考察する。	中谷　延二(放送大学教授)	中谷　延二(放送大学教授)
5	食品の安全性	高齢社会を迎えた我が国では健康に対する関心が極めて高い。健全な食生活を営むことによって健康の維持・増進が期待される今日，O157, BSE などの食生活を脅かす深刻な問題が続発している。食生活における「安全・安心の確保」は大前提である。食品の安全性に関わる最近の事故，事件を概説し，その対策，安全管理について考察する。	中谷　延二(放送大学教授)	中谷　延二(放送大学教授)
6	生活用品の品質に関する情報とその収集	生活用品等の品質に関する情報は，マスコミ，口コミ，インターネットによる情報交換などをとおして得ることが多いが，この種の情報は科学的に正確なものばかりとは限らない。情報が伝達媒体間を行き来する間に次第にその内容が変容していく傾向にある。ここでは，生活用品の品質に関する表示の実態と品質に関する情報の収集を取りあげ，リスクコミュニケーションへのつながりを考える。	藤原　康晴(放送大学客員教授)	藤原　康晴(放送大学客員教授)
7	生活系ごみのリサイクル推進に向けた取り組み	「資源有効利用促進法」のもとに，容器包装，食品，家電，自動車，建設資材リサイクル法が制定され，多くの物品に対するリサイクルが推進されている。これを効果的に進めるためには，行政，企業，消費者の連携した取り組みが必要であるが，ここでは，生活系ごみのリサイクルを対象として，特に消費者としての取り組みに焦点を合わせ，その現状と課題を考える。	藤原　康晴(放送大学客員教授)	藤原　康晴(放送大学客員教授)
8	21 世紀の都市居住	２１世紀の都市居住を支えているのは様々な形態のマンションであり、その大半は区分所有法に基づき居住者が権利を共有する分譲マンションで占められている。分譲マンションはこの３０年ほどの間に急速に広がった新しい居住形態だが、それが老朽化し、建替えを検討する時期にどのようなプロセスでそれが可能なのか、ほとんど配慮されないままに大量に市場で流通している。居住者間の建替え合意が成立しないまま老朽化が加速し、管理が行き届かなくなった分譲マンションのスラム化の危険性が憂慮される。ここでは今世紀最大の都市居住の懸念材料であるマンション建替えについて考える。	本間　博文(放送大学副学長)	本間　博文(放送大学副学長)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
9	環境と共生する住まいづくり	環境問題は決して他人事ではない。我々市民も被害者であり，加害者でもある。とりわけ住居に関わるエネルギー問題は深刻であり，周辺への負荷の軽減と消費エネルギーの軽減の両面から検討しなければならない。課題解決のための先端的な取り組みを紹介し，そのような取り組みを普及させるための困難な道筋を探る。	本間　博文(放送大学副学長)	本間　博文(放送大学副学長)
10	人びとの働き方に何が起こっているか	現代における人びとの働き方は，どのように変化してきているのか。今日の社会では，サービス経済化・情報経済化などに見られるように，産業構造が変化してきている。このことは企業労働のあり方や，家庭と職場との時間配分に影響を与え，非正規労働や女性労働の増大をもたらしている。この章では，このような労働の変質について考えたい。	坂井　素思(放送大学教授)	坂井　素思(放送大学教授)
11	機械化・省力化社会での健康の保持	睡眠中でもときどき寝返りをするなど，からだ自体は，ほとんど無意識のうちに動くことを要求する。他方で，からだは”疲れる”という状態を嫌うため，人間は筋肉の代替物である自動車など便利な機器を考案し運動不足に陥った。運動不足がもたらす障害から健康を守る方策について，身体運動を中心に解説する。	宮下　充正(東京大学名誉教授)	宮下　充正(東京大学名誉教授)
12	医療費・介護費負担を軽減する運動実践	少子高齢化がもたらす悪影響は容易に想像されるだろう。その中で，医療費・介護費の負担が最重要問題である。そのため壮年には”自立して生活が送れる高齢者”を，高齢者には”他人の手助けをできる　だけ短くして天寿を全うする”ことが求められる。それには運動実践が不可欠であることを強調したい。	宮下　充正(東京大学名誉教授)	宮下　充正(東京大学名誉教授)
13	改革期にある医療と保健と福祉(1)医療の動向	わが国は平均寿命世界一の記録を達成し，維持している。平均寿命世界一の社会は，世界一多様な健康状態の人々が生活する社会である。これに対して，これまでの医療保険制度では，症状のある人しか利用できないという限界があり，新しい視点に立った改革が余儀なくされている。その方向と内容について考えてみたい。	多田羅浩三(放送大学教授)	多田羅浩三(放送大学教授)
14	改革期にある医療と保健と福祉(2)保健と福祉の動向	人々の健康の増進に向けて平成 14 年に国民健康増進法が制定され，介護の社会化を理念として平成 12 年からは介護保険法が施行されている。ともに与えられるサービスではなく，自ら選択し，自らつくっていくサービスの推進を目指しているといえる。その方向と内容について考えてみたい。	多田羅浩三(放送大学教授)	多田羅浩三(放送大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
15	変動する社会で消費者に求められるもの	消費者の自立支援は,「消費者基本法」の基本理念の一つであり,これを推進する課題として「学校や社会教育施設における消費者教育の推進」があげられている。この消費者教育の狙いが,本科目の「授業の目標」と同じ方向であることを,食品,住居,経済生活,健康,福祉,就業などのかかわる暮らしのなかで指摘し,消費者に求められているものを考える。	藤原 康晴(放送大学客員教授)	藤原 康晴(放送大学客員教授)

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	総合科目	科目コード	1512005	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　国際共生に向けた健康への挑戦　（’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：多田羅　浩三（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：河原　和夫（東京医科歯科大学大学院教授）〕
〔主任講師（現職名）：篠崎　英夫（国立保健医療科学院長）〕

講義概要

今日、人々の生活は不可避的に地球規模で展開する経済環境の中で営まれている。世界中の人間がまさに、国境という枠を超えて「共生」しているといえるであろう。そのような中で、とくに健康の維持・増進、および感染症予防は、最も共通の重要な課題になっているはずである。そして、各国ともに取り組みの推進に固有の施策を続けていることは明らかである。しかし、そこには課題に共通したところがあり、学び合うことが可能な状況が生まれているのではないかと思われる。

アジア各国を対象として、「共生」しているという観点から、人々がどのようなヘルスケア・システムの中で生活しているのか。どのように課題に挑戦しているのか。また、経済、政治の各面でわが国との関係がとくに深いアメリカにおける健康づくりはどのような現状にあるのか。国際保健推進の世界の拠点機関であるWHOでは、どのような挑戦がすすめられているのか。

講義は、そのような観点をもとに、現地取材をふくめ、現状の報告を中心にすすめたい。

授業の目標

世界中の人間が、今日、国境という枠を超えて、共生しているという観点に立って、人々の健康増進、疾病の予防を目的にすすめられてきたヘルスケア・システム拡充の取り組みについて、国々の現状を紹介し、どのような課題に対し、どのような挑戦をしているか、その内容について理解を得るようにする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
アジア各国におけるプライマリケア				
1	タイ－健康増進へのあゆみ	タイでは、人々のヘルスケアの推進に対し、WHOが示した理念を受けて、ボトムアップを基本としたプライマリケア体制の充実につとめ、その実績をもとに総合ヘルスケア保障制度を実施し、さらに健康タイ政策によって、人々の健康増進計画をすすめている。そのような タイのヘルスケアの実績、健康増進に向けた取り組みについて、現地における訪問、その収録をもとに、講義する。 【キーワード】 ヘルスセンター、ヘルスボランティア、総合ヘルスケア保障制度、健康タイ政策	多田羅　浩三（放送大学教授） 福田　英輝（長崎大学大学院助手）	多田羅　浩三（放送大学教授） 福田　英輝（長崎大学大学院助手）
2	ベトナム－予防と治療・公と民・西洋医学と東洋医学の連携	ベトナムは、国のヘルスケア政策をもとに、計画的に地域のケア体制の充実を基盤とした施策が推進されてきた。そうした中で、予防医学と治療医学の連携、公的部門と民間部門の協力、西洋医学と伝統医学の連結の確保という課題に直面してきた。ここでは、現地を訪問して、ベトナムのヘルスケアの現状、課題に向けた取り組みの実態について、現地での収録をもとに、講義する。 【キーワード】 予防と治療、公的部門と民間部門 、西洋医学と東洋医学、コミューン・ヘルスステーション、ビレッジ・ヘルスワーカ	多田羅　浩三（放送大学教授） 福田　英輝（長崎大学大学院助手）	多田羅　浩三（放送大学教授） 福田　英輝（長崎大学大学院助手）
3	インド－人口との闘い	インドは、世界第2位という大きな人口、その人口の大きな増加と都市集中という極めて深刻な課題を背景に、人々のヘルスケア・システムを構築することが余儀なくされてきた。結果として、多様な課題に直面しているというのが現状である。それらの現状について紹介し、とくに人口増の推移、ヘルスケア体制の特徴、またヘルスケアを支えるべき健康保険制度の現状などを中心に、講義する。 【キーワード】 人口の増加、プライマリ・ヘルスセンター、アンガンワディ・ワーカ、健康保険制度	多田羅　浩三（放送大学教授） 福田　英輝（長崎大学大学院助手）	多田羅　浩三（放送大学教授） 福田　英輝（長崎大学大学院助手）

総合科目

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	インドネシアーマラリアの現状と対策を中心に	マラリアは単に熱帯の貧困層に多いというだけでなく、地域の環境に適したハマダラカによって媒介されるため、地域によりマラリア流行状況は大きく異なる。インドネシアは多民族国家であり、自然環境、生物相も島によって異なるため多様なマラリア流行状況が存在する。この多様性と私の行ったマラリアコントロールを中心に話を進める。 【キーワード】 マラリア、流行の地域特性、マラリア・コントロール、地域保健	神原　廣二（長崎大学名誉教授）	神原　廣二（長崎大学名誉教授）
5	アフガニスタン－目下の急務：公衆衛生分野の人材育成	様々な国の実例のなかから、本章ではアフガニスタンをとりあげ、以下のポイントを学習目標とする。①アフガニスタンの公衆衛生の現状をひとつの事例として、世界の多様性を現実として受け入れ、経済的・社会的・文化的多様性を、国際共生に向けた基礎知識として共有する。②人々の健康（パブリック・ヘルス）の向上のためには、保健医療分野だけでなく、人々の生活にかかわるあらゆる分野が相互に関係しているという広い視点を獲得する。③課題を解決し、将来への方向性を具体的に計画するには、統計や疫学的事実を積み重ね、それに基づいて問題の本質にせまり、限られた資源を効果的・効率的に活用して、現実を変えていくという公衆衛生手法を学ぶ。④以上をふまえたうえで、健康水準向上のための基礎として、公衆衛生の専門的人材育成が不可欠な要素であることを理解する。 【キーワード】 衛生統計、疫学調査、公衆衛生、予防接種、人材育成	高野　健人（東京医科歯科大学大学院教授）	高野　健人（東京医科歯科大学大学院教授）
6	フィリピンー医療制度改革とプライマリケア	フィリピンの医療提供体制などの問題点、医療制度改革の特徴およびその進捗状況を述べる。そして医療制度改革を行う上で必要となるプライマリ・ケアの位置づけ、行政組織の特徴、プライマリ・ケアの面からみた同国の健康指標の特徴や問題点についても述べる。 【キーワード】 HSRA（Health Sector Reform Agenda）、Fourmula ONE、プライマリ・ケア、DOH、LGUs、バランガイ	河原　和夫（東京医科歯科大学大学院教授）	河原　和夫（東京医科歯科大学大学院教授）
7	日本ー長寿社会における取り組み	わが国のプライマリ・ケアは、国民皆保険体制、老人保健法による保健事業などを基盤に優れた成果を収めてきた。そのことの成果は、平均寿命世界一の記録を達成していることが最も端的に現している。結果として、極めて多様な健康状態の人たちを包摂する社会に直面することになり、わが国のプライマリケア体制は、根本的な改革期を迎えている。わが国のプライマリ・ヘルスケア体制の特徴、健康日本21、医療制度改革の意義を中心に講義する。 【キーワード】 人口の高齢化、プライマリケア体制、平均寿命世界一、健康日本21、医療制度改革	多田羅　浩三（放送大学教授） 福田　英輝（長崎大学大学院助手）	多田羅　浩三（放送大学教授） 福田　英輝（長崎大学大学院助手）
アメリカにおける健康づくり				
8	アメリカの公衆衛生システム：母子保健活動を例に	アメリカの公衆衛生事業は、連邦制度という枠組みの中で、州や地方自治体が個別に展開してきた背景がある。この章では、アメリカの公衆衛生の歴史全般と母子保健に関する歴史を四期に分けて紹介し、ニューヨーク州の例を織り交ぜながら、現在に至るまでの母子保健に対する概念とシステムの発展を解説する。 【キーワード】 アメリカ公衆衛生史　防疫政策　母子保健政策　補助金制度　連邦政府　ニューヨーク州	ホスラー晃子（ニューヨーク州立大学オルバニー校公衆衛生大学院准教授）	ホスラー晃子（ニューヨーク州立大学オルバニー校公衆衛生大学院准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
9	生活習慣病予防とコントロールの方法	この章では、アメリカにおける糖尿病治療の歴史的背景、および現在の治療法、早期発見、予防法を紹介する。そして、ニューヨーク州の糖尿病への取り組みを紹介し、一次、二次、三次予防という公衆衛生の基本的枠組みや、地域、学校、医療組織、政策、といった「影響のレベル」の概念を織り交ぜて解説する。 【キーワード】 糖尿病の歴史、集中治療法、早期発見、一次予防、ニューヨーク州	ホスラー晃子（ニューヨーク州立大学オルバニー校公衆衛生大学院准教授）	ホスラー晃子（ニューヨーク州立大学オルバニー校公衆衛生大学院准教授）
10	大規模緊急災害に対する公衆衛生の危機管理	大規模緊急災害に対する危機管理は、アメリカが最も発達していると考えられているが、過去10年を振り返ると不備な面もあり、政治的な思惑や、突発的な大災害によって対策の焦点が移り変わっていった。この章ではアメリカの公衆衛生の危機管理のあらましを2001年9月の同時多発テロ以前の準備期と、その後の拡大期に分けて解説し、現在の取り組みと問題点を紹介する。 【キーワード】 対生物テロ、大規模緊急災害、危機管理、疾病管理予防センター,ニューヨーク州	ホスラー晃子（ニューヨーク州立大学オルバニー校公衆衛生大学院准教授）	ホスラー晃子（ニューヨーク州立大学オルバニー校公衆衛生大学院准教授）
11	マネジドケアの成果と今後	アメリカの増え続ける無保険人口と医療費高騰の打開策として、より多くの人々が加入できる低価格の医療保険制度をめざしたのがマネジドケアである。しかしながら市場経済の原理をもとに、商業ベースで展開するマネジドケアは未だに過渡期の中で、非常に流動的である。この章では、複雑なマネジドケアの仕組みを、歴史的な背景を交えて解説し、さらに公衆衛生とのかかわりをニューヨーク州を例に紹介する。 【キーワード】 政府医療保険、民間医療保険、マネジドケア、HMO，PPO	ホスラー晃子（ニューヨーク州立大学オルバニー校公衆衛生大学院准教授）	ホスラー晃子（ニューヨーク州立大学オルバニー校公衆衛生大学院准教授）
WHOにおける挑戦				
12	健康課題の現状	WHOの幅広い活動を母子保健、ターミナルケア等、子供から老人までのライフステージの視点や、国際疾病規則（IHR）、ICD、高血圧基準等、規則・基準づくりの視点等から解説する。また三大感染症であるエイズ・結核・マラリアや慢性疾患について世界の現状とWHOの取り組みついて解説する。さらにMDG（ミレニアム開発目標）についても解説する。 【キーワード】 三大感染症、たばこの規制に関する世界保健機関枠組み条約、MDG	篠崎　英夫（国立保健医療科学院長） 遠藤　弘良（国立国際医療センター国際医療協力局長）	篠崎　英夫（国立保健医療科学院長） 遠藤　弘良（国立国際医療センター国際医療協力局長）
13	健康課題への挑戦－その体制	WHOの活動を支える、組織や予算の仕組みや、WHOの政策が立案から実行に至る過程を政治的な側面も含めて解説する。またWHOに対する日本の貢献（財政的、政策的、人的）についても講義する。 【キーワード】 国連社会経済理事会、世界保健デー、世界保健総会、執行理事会、地域委員会	篠崎　英夫（国立保健医療科学院長） 遠藤　弘良（国立国際医療センター国際医療協力局長）	篠崎　英夫（国立保健医療科学院長） 遠藤　弘良（国立国際医療センター国際医療協力局長）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
国際共生に向けた健康への挑戦				
14	エイズへの挑戦－ベトナム・タイ・インド・日本における現状	近年、新興感染症、あるいは再興感染症への対応は、国際共生という観点からも、極めて重要な課題となっている。とくにエイズへの対応は、各国において固有の取り組みが推進され、成果が挙げられてきた。タイ、ベトナム、インド、日本における実態について、現地訪問による調査、収録を含め講義する。 【キーワード】 同性間性的接触、異性間性的接触、静注薬物濫用、母子感染、	多田羅　浩三（放送大学教授）	多田羅　浩三（放送大学教授）
15	国際共生に向けて－到達水準と課題	タイ、ベトナム、インド、日本などにおけるヘルスケアの中で、それぞれの到達水準の中で、国々が直面している課題について、人口の増加、制度の充実、プライマリ・ケア体制、健康増進などの面から、国際共生という点に立って考察し、講義する。 【キーワード】 人口政策、ヘルスケアを支える体制、プライマリケア体制、健康増進計画	多田羅　浩三（放送大学教授）	多田羅　浩三（放送大学教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	総合科目	科目コード	1512200	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　社会福祉における権利擁護　　（’０８）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：大曽根 寛（放送大学教授）　　〕

講義概要

本教材は、社会福祉の世界において当事者の権利を守るという視点だけでなく、社会福祉の権利を創りだすという視点から、人権概念・権利概念を再検討するとともに、現代的な権利侵害に対する解決方法を考え、権利侵害の予防に役立つ実践的な課題にも応えようとする。介護保険法について2005年に大きな改革があり、同年、障害者自立支援法が成立している。このような制度改革と事業者、国家・自治体の政策責任、市民の権利との関係について議論する。この教材は、社会福祉利用者・従事者ばかりでなく、看護職、法律職などの関連職種、一般市民にも役に立つものとなるだろう。

授業の目標

本教材は、社会福祉の世界における当事者や家族、市民の声を正面から取り上げ教材に反映させるという手法を用いる。また、本教材は、現代的な権利侵害に対する解決方法を考え、権利侵害の予防の実践的な課題にも応えようとする目的をもっている。第1の柱は、社会福祉の権利構造に関する。第2の柱は、権利擁護の実践に関する。第3の柱は、生活者としての市民の権利と国家・自治体の責任に関する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	社会福祉と基本的人権	第1回は、社会福祉の世界において当事者の権利を守るという視点だけでなく、社会福祉の権利を創りだすという視点から、人権概念・権利概念を再検討することによって権利概念を理論的に再構築するとともに、現代的な権利侵害に対する解決方法を考え、権利侵害の予防の実践的な課題にも応えようとする。	放送大学 教授 大曽根寛	放送大学 教授 大曽根寛
2	現代社会にみる権利侵害の実態	第2回は、福祉施設や病院で起きる拘束や虐待などの問題を取り上げる。ただ、生存権だけでなく、自由権・人格権や平等権など市民にとっての基本的な権利も侵される事態が頻発していることを踏まえ、元ハンセン病患者への権利侵害の実例をとりあげつつ、歴史的な経過を追うだけでなく、現代における社会的排除の実情についても検討する。	放送大学教授 大曽根寛 名古屋経営短期大学 准教授 三好禎之	放送大学教授 大曽根寛 名古屋経営短期大学 准教授 三好禎之
3	社会・経済の構造変動と権利擁護	第3回は、施設で起きる虐待、いじめなどの人権侵害だけでなく、地域社会・在宅においても生起している問題を、高齢者の生活実態を通して考える。たとえば、都市部におけるホームレスの実情、島嶼部における住民の暮らしを見ながら、近時急激に変化しつつある社会・経済の変容と社会福祉の関係をとらえ、人権侵害の構造について考える。	放送大学 教授 大曽根寛 名古屋経営短期大学 准教授 三好禎之	放送大学 教授 大曽根寛 名古屋経営短期大学 准教授 三好禎之
4	社会福祉構造改革と権利擁護の位置	第4回は、社会福祉政策の改革の動きと関連させながら、権利擁護システムの新しい動向を知ることは学習にとって不可欠となっている。介護保険法については、2005年に大きな改革があり、同年、障害者自立支援法が成立している。このような制度改革と国家・自治体の政策責任、市民の権利との関係について議論しておく必要がある。	明治学院大学教授 山田　晋	明治学院大学教授 山田　晋

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	福祉契約	第5回は、新しい社会福祉体系の基礎となる、福祉契約の概念、特徴、問題点などについて検討する。契約論もまた、歴史的に形成されてきたものであることを確認するとともに、権利擁護の現代的な課題との関連を考える。ここでは、情報の開示、説明と同意など消費者保護の観点も必要となるだろう。	放送大学教授 大曽根寛	放送大学教授 大曽根寛
6	社会的後見	第6回は、判断能力の不十分な高齢者、障害者、児童などへの支援の方向を模索する。現在は、成年後見制度、未成年後見制度が用意されているが、社会によって支援される制度としては多くの問題を抱えている。また福祉法制上、福祉サービス利用援助事業がある。これらについて学習しよう。	放送大学教授 大曽根寛	放送大学教授 大曽根寛
7	福祉サービスの外部評価	福祉サービスを対象とする外部評価は制度化されたばかりであり、福祉従事者にも外部評価の趣旨が浸透していない。第7回は、福祉サービスの外部評価が権利擁護のひとつとして位置づけられる意味や外部評価の種類について学習する。福祉サービスの特徴を踏まえた、実効性のある評価手法とは何かについて考えてみよう。	愛知県立大学准教授 吉川雅博	愛知県立大学准教授 吉川雅博
8	苦情解決システム	福祉施設では、苦情が少ないことがサービスの質が高いことの証明には必ずしもならない。第8回では、苦情解決が権利擁護のひとつとして位置づけられる意味や苦情解決体制、苦情の実情について学習する。苦情をめぐる、サービス提供者と利用者のそれぞれの課題と相互の関係について考えてみよう。	愛知県立大学准教授 吉川雅博	愛知県立大学准教授 吉川雅博
9	福祉労働者の権利の実現	要介護者の重度化やサービス提供の多様化などによって、今日、福祉労働者の労働環境は厳しい状況にある。なかでも、長時間に及ぶ労働や、夜間一人で数十人の利用者を見守らなければならないなど、福祉労働者に掛かる負担は大きい。利用者が安心して、快適な生活を得るためには、福祉労働者の労働環境を整備する必要があろう。第9回では、介護保険施設で働く福祉労働者らに着目する。	名古屋経営短期大学 准教授 三好禎之	名古屋経営短期大学 准教授 三好禎之
10	虐待とDV	第10回は、すでに防止法が制定されている児童虐待、高齢者虐待、DVの実情を中心に学習する。どんな暴力も許さないという社会的認識を高め、虐待やDVに対する周囲の無関心をなくすことが必要である。そのためには、どのような方法があるのか考えてみよう。	愛知県立大学准教授 吉川雅博	愛知県立大学准教授 吉川雅博
11	最低生活保障の権利	第11回は、生活保護制度や国民年金など、市民の最低生活を保障するシステムがどこまで機能しているかを確かめるとともに、基本所得、ベイシックインカムなど理論的問題にも言及する。権利としての最低生活保障の意味を考えてみよう。	明治学院大学教授 山田　晋	明治学院大学教授 山田　晋

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	社会福祉と行政法制	第12回は、社会福祉と行政法制の関係について概観する。種々の社会福祉サービスと行政手続法に基づく申請に関するプロセス、申請に対して行政によってなされた処分に対する不服申立てや行政訴訟の仕組みについて見ていこう。生活保護支給決定や介護保険に基づく要介護認定等の各種の行政決定が適切になされることが、人々の権利保障にとって重要であることを理解しよう。	南山大学 准教授 豊島明子	南山大学 准教授 豊島明子
13	社会福祉と国家賠償	第13回は、人々の権利保障にとって重要な国家賠償の仕組みについて学ぶ。公営の施設において生じた事故に対する国・都道府県・市町村の責任の問題もあるが、民間事業者に対する監督責任が問われることもある。また、民間事業者が行政から委託を受けている場合などは、民間の職員が国家賠償法上「公務員」として責任を問われることもある。誰が、どのような場合に、誰に対して、損害賠償請求を行うことができるのか、実例を通して検証しよう。	南山大学 准教授 豊島明子	南山大学 准教授 豊島明子
14	行政の公的責任	第14回は、「措置から契約へ」の流れの中で、行政の果たすべき公的責任のあり方に変化が生じている。措置制度と契約制度とでは、そこにおける行政の果たすべき役割にどのような違いが見られるのだろうか。また最近、行政の民営化の法的適否についての裁判が提起されており、これらの実例をもとに、サービス供給主体としての行政という観点からも、行政が果たすべき役割について考えてみよう。	南山大学 准教授 豊島明子	南山大学 准教授 豊島明子
15	課題と展望	第15回は本教材のまとめである。変容し続ける社会福祉制度との関係で、市民の権利はどのように守られていくか今後の課題が論じられる。福祉の産業化と行政責任の問題までを含め、総括する。これら権利擁護の新しい動向を知ることは社会福祉の学習にとって不可欠であることを確認する。	放送大学 教授 大曽根寛	放送大学 教授 大曽根寛

事務局記載欄	開講年度	２０１１年度	科目区分	総合科目	科目コード	1828312	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　格差社会と新自由主義　　（’１１）＝　（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：坂井　素思（放送大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：岩永　雅也（放送大学教授）　〕

講義概要

1970年代、急速に台頭してきた経済理論としての新自由主義は、財政赤字を拡大させた「大きな政府」の行政システムを見直す潮流に乗り、サッチャー保守党政権、レーガン共和党政権の政策展開とともに全世界に広まった。日本においても、中曽根内閣以来、濃淡の違いはあれ社会の各分野で新自由主義が政策の基調となっていった。変化は政治経済的な場面に止まらない。JR、NTT、道路公団、郵政会社、国立大学法人など組織の変革は社会のあらゆる分野に及んでいる。一方、新自由主義が社会の成長のための最重要ファクターとしてきた「市場化」「競争化」は、また社会に各種の格差をもたらしてもいる。競争は「勝者」とともに「敗者」も生むことを、われわれは身を以て感じている。本講義では、新自由主義的政策の一つの結果とされる社会のさまざまな格差に焦点をあて、それらを多様な視点から多角的に捉えて具体的に考えていく。

授業の目標

格差は、今日の日本社会において最大の関心事の一つである。現在の格差のありようは、形態的、表面的には多岐にわたっているが、実はすべてそのおおもとのところで新自由主義という共通の要因と関わりを持っている。本講義ではそれを理解することを目的とする。新自由主義自体は既に見直しの時期に入っているが、そうした時期であるからこそ、前世紀末から今世紀初頭にかけて世界を席巻した新自由主義とその結果としての格差社会を冷静に検証していくことが重要なのである。

履修上の留意点

本講義は、社会科学全体に関係する総合科目である。そのため、各コースの基礎的な関連科目、例えば、『経済社会の考え方（’07）』『現代の生活問題（’07）』『市民生活における社会保険（’08）』『教育社会学（’07）』『教育と社会（’11）』『社会階層と不平等（’08）』『官民の人的資源論（’09）』といった諸科目を履修していることが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	平成という時代	1984年1月、元号が平成に替わった。それは、昭和という、おそらくわが国の有史以来最長の帝期の終焉というだけでなく、戦後諸体制の大きな転換期とも重なっていた。この時期を境に、日本は平等重視の社会から競争に主眼を置く社会、つまり新自由主義の社会へと大きく舵を切ったのである。しかし、それにより、成長と表裏一体となった社会格差をはじめとする負の結果も顕在化してきた。ここでは、そうした平成の時代背景の概略を全体像として把握する。 【キーワード】 戦後体制　新自由主義　ケインズ主義　サッチャリズム　レーガノミックス　中曽根内閣	岩永雅也（放送大学教授）	岩永雅也・坂井素思（放送大学教授）・宮本みち子（放送大学教授）
2	東西冷戦の終結	新自由主義への政策転換の背景には、財政上の要因だけでなく、ヤルタ会談に端を発する東西対立を前提とした戦後体制から、ソ連邦崩壊による冷戦の終結という国際政治上の重要な変化があった。冷戦終結の要因とそれがもたらした国際政治上の変化について詳細に検討する。 【キーワード】 東西冷戦　ソ連邦　社会主義諸国　マルタ会談　グローバル経済	山岡龍一（放送大学教授）	山岡龍一
3	新自由主義の台頭	1970年代から80年代にかけて起こった、欧米日における「新自由主義の台頭」の経緯を見ていく。新自由主義の理念はどのような性格のものであり、どのような時代背景のもとに成立してきたのかについて展望する。サッチャー、レーガン、中曽根、さらに小泉政権が行った経済政策の意味についても、整理検討する。 【キーワード】 新自由主義　ハイエク　フリードマン　フォーディズム　ケインズ主義　小さな政府	坂井素思（放送大学教授）	坂井素思

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	規制緩和と市場化	新自由主義の経済政策の中心は、規制緩和政策と民営化政策であるが、これらがどのような背景で出現してきたのかについて考えていく。この中で、財政赤字、政府の失敗などの問題を振り返りながら、新自由主義経済政策の意味を考察する。公共経済領域に採用された市場化政策の功罪についても検討を行う。 【キーワード】 規制緩和政策　民営化　国鉄　JR　NTT　郵政民営化	坂井素思	坂井素思
5	所得と消費の格差	1980年代以降の経済格差がどのように推移したのかについて見ていく。この章ではとくに、所得格差と資産格差、さらにこれらから結果される地域格差、消費格差、余暇に関する格差の現実に注目したい。ポスト産業社会、高齢化社会における生産性の違いが、いかにわたしたちの経済格差をもたらすのか、さらに自由主義型、社会民主主義型、保守主義型などの制度枠組みと、経済格差との関係についても考えてみたい。 【キーワード】 所得格差　社会的平等　ニューリッチ　ニュープア	坂井素思	坂井素思
6	階層分化の進展	日本社会は、戦後一貫して平等化を進展させてきた世界でもまれな存在であった。ジニ係数や流動性指数などの諸指標は、1980年代初め頃まで継続して平等化が進展してきたことを示している。しかし、80年代半ばを境に、そのベクトルは逆転する。階層間格差の拡大と世代間の階層固定化が進み始めたのである。その時期に何が起こったのか、SSM調査をはじめとする諸社会指標から、階層社会日本の状況を明らかにする。 【キーワード】 平等化　ローレンツ曲線　ジニ係数　SSM調査　流動性係数　階層の固定化	岩永雅也	岩永雅也
7	社会の格差構造	新自由主義路線の中で進行した市場化、競争化の流れは、正規雇用者と非正規雇用者の格差、男女の賃金格差、地域間格差などの社会的格差を拡大し、貧困に陥る人々を増加させた。このような現象は日本に限らず、また途上国だけでなく先進国においても共通に見られる。格差の拡大は、社会的ネットワークを喪失し、諸権利へのアクセスが困難な人々を生み出した。このような現象をもたらした社会構造を述べる。 【キーワード】 非正規雇用の進展　男女の賃金格差　新たな貧困　若年失業　ニート　フリーター	宮本みち子	宮本みち子
8	教育の自由化と文化資本	中曽根政権下に設置された臨教審は、教育分野における自由化、多様化、国際化そして市場化を数次にわたって答申した。それにより、戦後長らく平等主義的に進められてきた世界でもまれな日本の学校教育体制は、大きな転機を迎えることとなった。それは、同時に、学力低下問題をはじめとする教育問題論議の幕開けでもあった。過去20年間の学校教育、家庭教育、教師、子どもそして学力の動きを詳細に見ていく。 【キーワード】 臨教審　教育改革　教育の個性化　生きる力　ゆとり　学校週五日制　学力低下　学力格差　教育再生	岩永雅也	岩永雅也

総合科目

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
9	社会に背を向ける人々	社会における競争の激化と行き過ぎた能力主義の進展は、失業率を上昇させ、一面で生活者の将来への展望も奪ってしまうという結果をもたらした。若年失業率は上昇し、多くのニート、フリーターが生み出されることとなった。そうした状況が社会規範に与える影響は決して小さなものではない。犯罪や非行、薬物依存、社会からの逃避的行動など、社会に多発する逸脱を、競争社会というコンセプトから検証する。 【キーワード】 逸脱 犯罪 非行 ニート フリーター 若年失業 規範意識の薄弱化 逃避	岩永雅也	岩永雅也
10	ジェンダーと格差	労働の規制緩和によって、男性以上に女性の非正規雇用化が進んだ。その一方で、女性の晩婚化と非婚化が進み、従来のように配偶者に扶養されることは自明とはいえなくなった。また、離婚の増加によって増加する母子家庭は、女性の不安定雇用と福祉削減政策のなかで、もっとも貧困化する社会集団となりつつある。雇用と家族/結婚の流動化のなかで不安定化し貧困化する女性の問題を論じる。 【キーワード】 男女参画社会 非正規労働 男女格差 晩婚化 母子家庭 社会的弱者	宮本みち子	宮本みち子
11	高齢者と格差	現代日本では、超高齢社会の到来とともに、高齢者の間にみられる格差が新しい特徴を見え始めている。福祉国家による再分配にはこうした格差を是正することが求められるが、この間の新自由主義的な福祉国家の再編は、とくに経済的な格差を強める方向に作用したと考えられる。本章では、経済的格差、健康格差、社会関係的格差などの諸側面について、データを概観しながら、我が国の高齢者と格差の問題について論じる。 【キーワード】 超高齢社会 福祉政策 年金 生活保護 後期高齢者医療 健康格差	田淵六郎（上智大学准教授）	田淵六郎
12	福祉における格差	グローバル経済の浸透と福祉国家の新自由主義的再編によって、現代日本の福祉政策をめぐって様々な格差が露呈してきた。ひとり親生活保護世帯への母子加算廃止に象徴されるような、格差を拡大させる政策の変化が進むとともに、ナショナルミニマムという理念も切り崩されてきた。本章では、とくに福祉の地域間格差の問題に焦点を当てながら、福祉における格差がどのような特徴を持ち、どのような対応が求められるのかを論じる。 【キーワード】 社会福祉 グローバル経済 母子加算 ナショナルミニマムの崩壊 地域間格差	田淵六郎	田淵六郎
13	不平等と社会正義	新自由主義が優勢な社会における正義あるいは社会的公正の概念は、それ以前の正義、公正とは大きく異なる。それがどのようなものかについて検討した上で、現在社会正義が直面している諸問題を整理し、来るべき社会における社会正義について多角的に検討する。 【キーワード】 ロールズ 社会正義 社会的公正 平等 セン	山岡龍一	山岡龍一

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
14	国際化と格差の克服	国内経済の空洞化が進み、経済が停滞するなかで、世界市場を求めてグローバリゼーションが展開してきている。このなかで、外国人労働者の国際移動や、国際な金融危機による新たな貧困問題、格差問題が生じてきている。このようなグローバリゼーションによる格差問題をいかに克服することが出来るのかについて考えていくことにする。 【キーワード】 国際化　グローバリゼーション　外国人労働者　国際金融危機　新たな南北格差	坂井素思	坂井素思
15	新たな連帯と共生の創造	新自由主義の潮流は、所得や社会資源の分配における不平等度の拡大をもたらした。所得の不平等は機会の不平等を生み、負の遺産は親から子へと世代的に継承される。このような現状を打開し、新自由主義のマイナスを克服するための政策を「能動的な社会政策」と位置づけ、その内容を論じる。 【キーワード】 不平等の世代間継承　不平等の拡大　能動的社会政策　希望のもてる未来	宮本みち子	宮本みち子・坂井素思・岩永雅也

事務局記載欄	開講年度	２０１１年度	科目区分	総合科目	科目ｺｰﾄﾞ	1847414	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　消費者と証券投資　　（’１１）＝　（ＴＶ）

※この科目は「消費者と証券投資（’07）」の一部改訂科目です。
改訂回は第2，7，9，10回です。

〔主任講師（現職名）：林　敏彦（同志社大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：佐賀　卓雄（㈶日本証券経済研究所理事兼主任研究員）〕

講義概要

日本の金融システムは1990年代以降、グローバル化と度重なる制度変更によって直接金融の比重が高まり、金融商品と自由な金融市場が発達し、情報通信技術の導入が進むなど大きな変化を遂げてきた。他方、日本の家計部門は安定的な経済成長の中で高貯蓄率を維持しながら、金融資産の蓄積を進めてきた。いま少子高齢社会の到来を迎え、社会保障制度も改革が迫られている中、消費者はどのような金融市場を活用した資産運用を心がければよいのだろうか。この科目では、社会人にとって不可欠な証券投資の問題を、消費者の生活設計の視点から考えてみる。

授業の目標

履修上の留意点

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	証券とは何か	証券にはどのような形と種類があり、どのような金融機関が取り扱っているのでしょうか。ネット証券で買った株式の株券を見たことがありますか。証券を売買するとき、私たちは、本当は何を売買しているのでしょう。 【キーワード】	林　敏彦	林　敏彦
2	日本の家計資産に何が起こっているのか	1400兆円とも言われる日本の家計金融資産で、いま何が変化しているのでしょうか。少子高齢化、金融経済の浸透などの社会変化によって、日本人の貯蓄意識は変化し、そのため資産の保有状況も変わってきています。この回では、金融資産保有と循環の現状と問題点について、家計の視点から見てみましょう。 【キーワード】	坂井素思	坂井素思
3	消費生活に潜むリスクに向かい合う	消費生活は多種多様な純粋リスク・投機的リスクを伴っています。この回では、生活の諸場面で消費者がどのようなリスクに直面するのかを考えると同時に、リスクを管理する局面における実態と課題についても検討します。 【キーワード】	奈良由美子	奈良由美子

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	ライフプランと資産運用	個人や家計は人生設計をどのように行い、それを実現するためにはどのような資金的裏付けを必要とするのでしょうか。豊かな暮らしを実現するための資金調整のあり方を、資産運用の視点から考えてみましょう。 【キーワード】	戸井佳奈子	戸井佳奈子
5	投資を考える基礎	資金を投下し、一定期間後にその成果を回収しようとする行為が、投資です。投資には、リスクが伴いますが、そのリスクをどう把握し、いかに対処したらよいのでしょう。こうした点を考える基礎となる視点と概念の枠組みを説明します。 【キーワード】	池尾和人	池尾和人
6	投資と証券市場	それぞれの個人が投資をすることは、社会や経済全体の中でどんな役割を果たすことになるのでしょう。一人一人は自覚していなくても、投資を通じた経済活動への貢献があること、それを実現する仕組みについて説明します。 【キーワード】	池尾和人	池尾和人
7	バブルの教訓	株式や土地などの資産の価格は、100年に一度ぐらいの割合でバブルと呼ばれる異常な動きを示すことがあります。バブルには功罪があるのでしょうか。現代の金融市場のルールには、過去のどのようなバブルの教訓が生かされているのでしょうか 【キーワード】	林　敏彦	林　敏彦
8	証券販売チャネルの拡大と投資者保護	今や、個人投資家の株式売買注文の80％以上がインターネット経由で行われています。また、証券仲介業の導入により、会計事務所、フィナンシャル・プランナーに止まらず、コンビニエンス・ストア、自動車ディラーなど、あらゆる業態が証券販売に参入し始めています。郵便局での投資信託の販売も始まりました。他方では、チャネルの拡大に伴い、悪質な業者の参入も予想されます。証券取引に対する投資者保護の制度・仕組みの整備・強化が必要であることはもちろんですが、投資家は正確な金融・投資知識を身につけ自己防衛に努める必要性も高まっています。 【キーワード】	佐賀卓雄	佐賀卓雄
9	株式投資の魅力を考える	株式に投資すると、他の金融商品と比べて、どのようなメリットがあるでしょうか。株価はなぜ大きく変動するのでしょうか。株価は企業の業績とどのように関係しているのでしょうか。株式投資の基本的な特徴を説明し、株式投資の魅力について考えます。 【キーワード】	高橋文郎	高橋文郎

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	どのような株式に投資すべきか	株式投資には長期的に高いリターンが得られるという魅力とともに、株価が低下するリスクもあります。価格変動のリスクを必要以上にとらずに、高いリターンを得るためには、どのような点に着目して銘柄を選択すべきかについて考えます。 【キーワード】	高橋文郎	高橋文郎
11	債券投資の基礎	国債や社債などの債券は、預金や株式と並んで、個人投資家にとって重要な投資対象の一つです。債券価格はどのような要因によって決まるのか、債券の利回りはどのように計算されるのか等、債券投資の基礎知識について説明します。 【キーワード】	高橋文郎	高橋文郎
12	投資信託の基礎	投資信託は、共同投資により少額の資金にも分散投資の機会を提供します。近年は販売チャネルが拡大し、私たちにとって身近な存在となりつつあります。今回は投資信託の歴史、制度、仕組み、商品の種類や選択基準などを眺め、その国民経済的な意義を考えてみましょう。 【キーワード】	高橋文郎	高橋文郎
13	投資信託の基礎	投資信託は、共同投資により少額の資金にも分散投資の機会を提供します。近年は販売チャネルが拡大し、私たちにとって身近な存在となりつつあります。今回は投資信託の歴史、制度、仕組み、商品の種類や選択基準などを眺め、その国民経済的な意義を考えてみましょう。 【キーワード】	高橋　元	高橋　元
14	新しい金融商品の登場	金融の自由化を背景に、多様な金融商品が出現しています。その多くは金融理論の進歩や投資技術の高度化などを背景としていることから、一般には仕組みを理解することが難しく、思わぬリスク負担を伴うものもあります。それらに投資する際の留意点を考えてみましょう。 【キーワード】	高橋　元	高橋　元
15	証券投資を取り巻く新たな動き	証券投資に関する法律や制度は時代やテクノロジーとともに変化を続けます。取引ルール、商品開発、販売チャネルなど、最新の動きはどうなっているのでしょうか。消費者が証券投資のことをもっと良く知るためには、どうすればよいでしょうか。 【キーワード】	佐賀卓雄	佐賀卓雄

科目名（メディア）＝　途上国の開発（‘０７）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：髙木　保興（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：河合　明宣（放送大学教授）〕

講義概要

この講義の目的は、開発途上国と呼ばれる生活水準の低い国が未だに世界に100カ国以上存在し、いろいろな問題に直面していることを理解し、途上国に興味を持ってもらうことです。講義は、途上国の現実の紹介とどうすれば生活水準がベターになるかの解説を平行して進めます。どちらが欠けても望ましい理解は期待できないからです。

授業の目標

途上国問題を理解し対策を議論するには、途上国を知り興味を持つことが早道です。授業では、現実を紹介するコーナーを河合先生が担当し、途上国が直面する問題の解説コーナーを髙木が担当します。現実を見ながら問題を理解できるように、二つのコーナーを平行して進めます。机上の空論にならないように、経験だけで理解できると思わないように、現実と理論のバランスをとることを目標にします。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	途上国の生活水準	途上国の貧困はなぜ国際問題になるのでしょうか。貧しさの程度は何を見てどれくらいと判断できるのでしょうか。	髙木　保興	髙木　保興 河合　明宣
2	経済的貧困と政治・社会的貧困	経済的貧困はどのようにして計測されるのでしょうか、経済的要因以外でも命を落とす人が途上国では少なくないが、人間の安全保障とはどのように考えればいいのでしょうか。	髙木　保興 河合　明宣	髙木　保興 河合　明宣
3	食糧不足段階の開発	不足する食糧はどのようにして確保すればいいのでしょうか。一次産品輸出や食糧価格支持政策は農民の生活にどのような影響を及ぼすのでしょうか。食糧自給体制の確立に向けて考えられる政策とは。	髙木　保興 河合　明宣	髙木　保興 河合　明宣
4	マイクロ・ファイナンス	農村の高利貸しは農民が貧困から抜け出せない一因になっているのでしょうか。グラミン銀行の成功の原因は。マイクロ・ファイナンスに問題はないのでしょうか。	髙木　保興 河合　明宣	髙木　保興 河合　明宣

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	食糧充足後の開発	農業のポテンシャルは開発すべきでしょうか、それとも、工業化のほうがベターなのでしょうか。農業開発と工業化の比較検討は重要になってくる。	高木　保興 河合　明宣	高木　保興 河合　明宣
6	工業化の基本方針	発展の原動力は資本蓄積か輸出か、それとも何か外に考えられるのでしょうか。政府の望ましいサイズは、バランスの取れた発展か、アンバランスでも早い発展のほうがベターか、工業化に際して必要な検討事項を議論します。	高木　保興 河合　明宣	高木　保興 河合　明宣
7	工業化の体制整備	工業化にとって必要な組織は何か、途上国が活用できる資源とは何か、工業化をスタートさせるにはどうすればいいか、工業化に際して必要な体制整備を議論します。	高木　保興 河合　明宣	高木　保興 河合　明宣
8	工業化戦略	自国企業と外国企業の差は、輸入代替と輸出指向の相違点は、多国籍企業の誘致に問題はないのか、低金利政策は工業化にベターか、具体的な工業化戦略が課題となります。	高木　保興 河合　明宣	高木　保興 河合　明宣
9	農業から工業への資源移動	途上国で余っている資源とは、農業と工業の間に見られる二重構造とは、工業化過程で発生する副産物のスラム問題とは、工業化をマクロの視点から眺めます。	高木　保興 河合　明宣	高木　保興 河合　明宣
10	政府主導の落とし穴	政府主導は理想に流されやすいか、理想と現実のギャップが生み出すものは何か、現実に発生した債務問題とは、大きな政府の問題がなぜ発生したのかを検討します。	高木　保興 河合　明宣	高木　保興 河合　明宣
11	産業構造高度化への障害	後発途上国に軽工業から締め出され、先進国に重化学工業への進出を邪魔される。軽工業で工業化に成功した途上国は、この難関をどうすれば突破できるのでしょうか。東アジアの奇跡と通貨危機とはどんな教訓を与えてくれるのか、スタートに成功した途上国の問題を議論します。	高木　保興 河合　明宣	高木　保興 河合　明宣

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	経済共同体構想	冷戦後の安全保障を途上国はいかにすれば確保できるか、東アジア地域の共同体構想は生きているか、FTA（自由貿易協定）と地域共同体との違いはどこにあるのか、工業化と安全保障との関係を検討します。	髙木　保興 河合　明宣	髙木　保興 河合　明宣
13	社会の変容と社会（関係）資本	農業社会から工業社会への移行は何をもたらしたのか、社会（関係）資本の変容は人々の暮らしを豊かにしたか、工業化の過程で変容する社会に光を当て、工業化によってわれわれが目指していたものは何であったかを問い直してみることにします。	髙木　保興 河合　明宣	髙木　保興 河合　明宣
14	「小さな政府」と「賢明な政府」	政府の役割として議論された代表例として、債務問題発生後に展開された「小さな政府」と東アジアの奇跡で評価された「賢明な政府」を紹介し、途上国政府の役割として何が期待されているか探ってみます。	髙木　保興 河合　明宣	髙木　保興 河合　明宣
15	政府の役割－発展段階に応じた優先順位	政府の役割は段階ごとに変化してくる。変化しないベストな体制は存在しないからです。途上国政府は何をどの段階ですればいいのか議論してみます。	髙木　保興	髙木　保興 河合　明宣

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	総合科目	科目コード	1531409	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 幸福の社会理論 （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：髙坂　健次（関西学院大学教授）〕

講義概要

現代社会に生きる人間の「幸福」および「不幸」のあり方について、こんにち、さまざまな論議がなされています。本講義では、「幸福」と「不幸」の客観的状況と主観的状況、ならびにそれら相互の間の関係について具体的に明らかにし、その問題点を明らかにするとともに、将来のあり方について考察しながら、「幸福の社会理論」の構築を目指します。

授業の目標

全15回の講義を通じて、「幸福」と「不幸」に関する過去と現代の理論としてどのようなものがあったか、過去の時代や他の民族社会においてどのように捉えられてきたか、現代日本社会の状況と具体的現象や事例を念頭に置いたときの幸福の条件とは何か、グローバル化した世界における私たちは何をなすべきか、について概略が分かるようになることを目標としています。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	幸福の理論史	功利主義批判として出発した社会学がいちはやく幸福について考えようとしていたこと、それにもかかわらずその後の動きが頓挫した事情について述べます。また、現代における「幸福の社会理論」の復活の兆しについてさまざまな研究動向を通して言及します。	髙坂健次（関西学院大学教授）	髙坂健次（関西学院大学教授）
2	不幸の減算	「幸福の加算」だけを考えていると常に不幸な人々が残ってしまうことに着目し、人類の進歩を幸福の加算にではなく、「不幸の減算」の側から見ていくことも大切であることを市井三郎の議論を手がかりに考えます。また、客観的幸福と主観的幸福の関係について論じます。	髙坂健次（関西学院大学教授）	髙坂健次（関西学院大学教授）
3	幸福の民俗理論	伝統社会における幸福観や、幸福を得るために人々が発達させてきた知恵や工夫について学習します。社会的ネットワークを築くための婚姻の規則や、儀礼の役割、昔話に表現された幸福観などについて考えます。	山泰幸（関西学院大学准教授）	山泰幸（関西学院大学准教授）
4	不幸の民俗理論	伝統社会における不幸観や、不幸に対処するために人々が発達させてきた知恵や工夫について学習します。災害や病気の説明システムや、社会的不均衡がもたらす葛藤を解消し、社会的紐帯を維持するシステムについて考えます。	山泰幸（関西学院大学准教授）	山泰幸（関西学院大学准教授）
5	死者の幸福	伝統的社会における幸福や不幸の捉え方は、死後の霊魂の行方、あり方と密接に関係しています。死後の世界をどのようなものとして思い描き、死後に幸福を得るために、人びとはどのような生き方をしてきたのかについて学習します。	山泰幸（関西学院大学准教授）	山泰幸（関西学院大学准教授）
6	幸福の測り方	幸福の測り方を「主観的な意識」に注目する方法、「客観的な状態」に注目する方法、「主観的な意識」と「客観的な状態」をつなぐ中間項としての「生き方の幅」に注目する方法、の三つに分けて解説します。また社会状態を比較する基準であるパレート最適という考え方を学びます。	浜田宏（東北大学大学院准教授）	浜田宏（東北大学大学院准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
7	幸福感の現状	心理学や経済学や社会学における幸福感の計量調査の代表的な知見を紹介します。個人や国家のあいだで主観的幸福感がどのように異なっているのかを比較しつつ、幸福感がどのような要素から形成されているのかを解明します。	浜田宏（東北大学大学院准教授）	浜田宏（東北大学大学院准教授）
8	幸福な社会のデザイン	幸福な社会をわれわれ自身の手で作りあげることができるのか、という問題を「ユートピア」というキーワードを手がかりに考えます。社会的選択理論や映画作品で描かれたユートピア像を参考にして、幸福な社会をデザインすることの可能性を検討します。	浜田宏（東北大学大学院准教授）	浜田宏（東北大学大学院准教授）
9	承認と幸福	自分らしさ＝アイデンティティの確立にとって「他者からの承認」が持つ意義について、今日的な社会・文化現象を交えながら論じます。現代社会に生きる私たちが「自分らしくある幸せ」を実感するうえで、他者による承認が二重の意義を持っている点を明らかにします。	阿部潔（関西学院大学教授）	阿部潔（関西学院大学教授）
10	監視と自由	現代社会では、「安全・安心」が至上命令と化しています。そうした社会情勢のもとで、人々の「自由」にはどのような制約が課されているのでしょうか。セキュリティ確保を目指す監視社会に潜む問題点を明らかにすることを通して、「自由である幸せ」をめぐる課題について考えます。	阿部潔（関西学院大学教授）	阿部潔（関西学院大学教授）
11	公共圏と他者	現在、社会問題への解決策として「公共性の復権」が叫ばれています。ですが、そこで目指される「公共性」の内実は、必ずしも明らかではありません。誰にとっての／どのような公共性が求められているかについて、「他者とともにいる幸せ」という視座から考えます。	阿部潔（関西学院大学教授）	阿部潔（関西学院大学教授）
12	災害の不幸	阪神・淡路大震災を例にとって、災害のもたらすさまざまな不幸について、どうすれば回避ないし軽減できたかという視点で振り返ってみます。とくに、震災の事前、事後の「想定外」がもたらした結果に着目し、社会科学が果たしうる貢献について論じます。	高坂健次（関西学院大学教授）	高坂健次（関西学院大学教授）
13	グローバル化	グローバル化の意味について理解を深めながら、その時代に特有の不幸について述べます。とくに、「圧倒的な非対称（格差）」の増大、世界的な暴力の拡大、科学技術の発展がもたらした「取り返しのつかない」不幸など、21世紀型の不幸について分析します。	高坂健次（関西学院大学教授）	高坂健次（関西学院大学教授）
14	取り逃がした機会	「自己に責任のない不条理な苦痛」としての不幸を回避ないし軽減しうる可能性を、「取り逃がした機会」として概念化します。その上で、ベトナム戦争やJR福知山線列車事故の具体例を通して本研究分野を将来に向けての社会学的救済論として確立します。	高坂健次（関西学院大学教授）	高坂健次（関西学院大学教授）
15	理論と実践	「幸福の社会理論」で学んだ事柄を理論、歴史、経験、方法のそれぞれの側面からさらに理解を深めるとともに、私たちが、社会の幸福に向けて具体的にできることは何か、また何をなすべきかについて、講師全員で議論します。 ＊最終回は、主任講師と分担協力講師の全員（4名）でディスカッション形式をとります。	高坂健次（関西学院大学教授）	高坂・阿部・山・浜田

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	総合科目	科目ｺｰﾄﾞ	1839012	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 世界の中の日本 （’０９）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：林　敏彦（同志社大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：高橋　和夫（放送大学教授）〕

講義概要

情報通信技術と交通手段の発達で世界は小さくなり、グローブ（地球）全体の姿が私たちの意識に上らない日はなくなった。そうしたグローバル化の潮流の下で、国々や地域の間で政治体制、経済制度、文化、価値観などの収斂は必然だろうか。それとも、生物界における種の多様性のように、多様な社会の間の競争と共生こそが、未知の大変動から人類を守る方策なのだろうか。この科目では、グローバル時代に生きる私たちの基礎知識として、経済、法文化、民主主義、外交、化学、教育、科学技術、スポーツ、メディアなどの視点から「世界の中の日本」の位置を見定め、次いで、人口、日本国内のイスラム教徒、外国人労働者などの視点から「日本の中の世界」を考える。最後に海外で暮らすオーバーシーズ・ジャパニーズの実態とその背景を考察し、科目全体としてグローバル時代の日本の位置・役割と将来の方向性について考えてみたい。

授業の目標

グローバル化は、世界の中に「日本」が入り込み、日本の中に「世界」が入り込むという「入れ子構造」を伴って進展している。その入れ子構造の実態を理解し、さまざまな境界が内と外から溶けていくかに見える社会変化の中で、変化の方向性を見据え、日本のアイデンティティや日本の役割について考える。

履修上の留意点

この科目は学部における学習の総仕上げを目指す総合科目です。経済学、政治学、法学、教育学、科学技術、メディア、スポーツ、国際関係など、幅広い領域の基礎知識をもって臨んでください。また、ここで取り上げたトピックについて、さらに大学院で研究を深めたいという動機付けになることも願っています。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	日本の位置	この科目が必要となった時代背景について、一人当たりGDP、直接投資、貿易依存度、平均寿命、高齢化率、日本に在住する外国人の数など、さまざまな角度から世界における日本の位置を見定めてみよう。 【キーワード】 人間（じんかん）距離、GDP、購買力平価、平均寿命、高齢化率	林敏彦（同志社大学教授）	林敏彦（同志社大学教授）
2	国境を超えるビジネス	世界192カ国の中で、日本経済はどのような位置にあるのだろうか。成長率、エネルギー消費等に関する国際連合、国際通貨基金などの統計を参照し、海外に展開する日本企業（YKK）、日本に展開する外資企業（P&Gジャパン）の現場からのレポート交えながら日本経済の相対的位置を探ってみる。 【キーワード】 各国の成長戦略、エネルギー消費、対外直接投資、外国資本	林敏彦（同志社大学教授）	林敏彦（同志社大学教授） ゲスト：吉森賢（横浜国立大学名誉教授）
3	日本の憲法と法文化	日本国憲法について、制定過程を振り返り、ドイツ基本法やアメリカ合衆国憲法との比較を通じて、その特徴を考えてみよう。また、新しく導入された裁判員制度の問題を通して日本の法文化の特徴についても考えててみよう。五百旗頭真（防衛大学校長）氏には憲法第9条の意味について、佐藤幸治（京大名誉教授）氏には日本の法文化と裁判員制度導入の意義について、インタビュー出演していただく。 【キーワード】 近代立憲主義、人権、平和主義、裁判員制度	林敏彦（同志社大学教授）	林敏彦（同志社大学教授） ゲスト：井上典之（神戸大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	日本の民主主義	第2次世界大戦前の日本の民主主義、戦後の民主主義を通観し、政治体制としての日本の民主主義の特徴を、諸外国との比較の中で考えてみよう。 【キーワード】 大正デモクラシー、立憲民主主義、議院内閣制、地方自治	天川晃（放送大学教授）	天川晃（放送大学教授）
5	外交/軌跡と針路	排他的経済水域を含めた日本の広さを強調する。また憲法、自衛隊、日米安保、ODAなど日本の外交の課題について様々な立場を提示し、考える材料を提示する。さらに日本が、第二次世界大戦後いかに世界に評価されてきたかを紹介する。 【キーワード】 排他的経済水域、憲法九条、日米安保、自衛隊、ODA	高橋和夫（放送大学教授）	高橋和夫（放送大学教授）
6	人間の安全保障	「人間の安全保障」概念は、日本が国際社会でイニシアチブを発揮した数少ない貢献の一つである。国家安全保障や国際的人権問題とは異なるこの概念の意味やねらいは何だろうか。また、世界銀行の仕事について、小寺清（世銀合同委員会事務局長）にインタビュー出演していただき、鈴木基之教授には地球環境問題について日本が果たすべき役割についておうかがいする。 【キーワード】 人間の安全保障、恐怖と欠乏からの自由、世界銀行、地球環境問題	林敏彦（同志社大学教授）	林敏彦（同志社大学教授） ゲスト：鈴木基之（放送大学）
7	グローバル化する教育	グローバル化、少子高齢化、産業構造の転換、価値の多様化などの中で、日本の教育政策は大きな転機を迎えている。諸外国の教育政策との比較の中で、日本がとるべき国家100年の計は何だろうか。 【キーワード】 日本教育史、基本問題と技術的課題、教育産業、人的資本論	岩永雅也（放送大学教授）	岩永雅也（放送大学教授）
8	日本の科学技術	20世紀の20大イノベーションを振り返り、経済成長と科学技術の発展との関係を検証する。アイディアの海から科学技術の卵がダーウィンの海での生存競争を通じて人類社会に役立つようになるまでのステップ＆ループ・モデルによって、各段階における政府の科学技術政策の意義について考える。日本発の科学技術がどのようなグローバルな課題の克服に貢献しようとしているのかを、いくつかの実例とともに紹介する。 【キーワード】 科学技術、知識社会、新しい科学技術の役割、イノベーション政策	林敏彦（同志社大学教授）	林敏彦（同志社大学教授） ゲスト：有本建男（内閣府経済社会総合研究所総括政策研究官）
9	エリートスポーツのグローバル化	世界で活躍する日本人アスリートの数は年々増加の一途をたどっている。また、その競技分野も、野球、サッカー、ゴルフ、テニス、陸上等々と非常に多岐にわたっている。それとは反対に、日本国内で競技を行う外国人プレーヤーも増えている。国技とされる大相撲も、上位力士のうちの2～3割が外国人力士である。古代ギリシャ以来、スポーツは万国共通のコミュニケーション手段であったが、昨今特に日本でボーダレス化が進んでいる背景には何があるのか、大局的な視点から捉えてみたい。 【キーワード】 国際関係、スポーツの役割、競争の意味、産業としてのスポーツ	平野裕一（国立スポーツ科学センター主任研究員・前東京大学准教授）	平野裕一（国立スポーツ科学センター主任研究員・前東京大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	メディアの風景	日本のメディア状況は、どうなっているのだろうか。その問題点を指摘する。次に外国語の放送局、インターネットによるニュース配信の試み、さらにフリー・ペーパーなどメディアの新しい風景を紹介する。そして新しいメディア状況での新しい課題を提示する。 【キーワード】 フリー・ペーパー、インターネット、外国語の放送局、記者クラブ、クロス・オーナーシップ	高橋和夫(放送大学教授)	高橋和夫(放送大学教授)
11	三丁目の日没後、または人口動態と国際政治	日本の人口動態を解説し、その現状と将来を展望する。次に、その社会的なインパクトを考える。最後に日本の周辺諸国における人口動態を紹介する。 【キーワード】 長期的人口動態、人口構成、高齢化社会、限界集落	高橋和夫(放送大学教授)	高橋和夫(放送大学教授)
12	異邦人か、隣人か？外国人労働者	日本の少子高齢化が続き、労働者の不足が予想される中で、外国人労働者への期待も高まっている。日本における外国人労働者の実態をみる。外国人労働者受け入れ賛成の立場と、反対派の議論を紹介し、この問題に関して考える材料を提供する。 【キーワード】 鎖国派、開国派、インドネシア人看護師候補者、日本語教育	高橋和夫(放送大学教授)	高橋和夫(放送大学教授)
13	イスラム教徒	米国での同時多発テロ以来一方でイスラム教徒に対する恐怖心が煽られているが、他方では日本に生活するイスラム教徒の数は増加している。日本においてイスラム教徒はいかに生活し、何を考えているのか。その実情を見る。 【キーワード】 日本のイスラム教徒、モスク、査証の相互免除協定、ハラール、埋葬	高橋和夫(放送大学教授)	高橋和夫(放送大学教授)
14	オーバーシーズ・ジャパニーズ	今や、海外で生活する日本国籍を持つ人々の数は62万人に達している。これは、20年前の約3倍にあたる数である。日本人は海外でどのような活動をし、どのような毎日を過ごし、相手国や地域どう溶け込み、また、どんな問題を抱えているのか。世界の中の「日本人」の現状について、広い視野から俯瞰してみることにしよう。 【キーワード】 在外日本人、グローバルビジネス、グローバルリビング	岩永雅也(放送大学教授)	岩永雅也(放送大学教授) ゲスト:大塚正明(JICA)
15	グローバル化の意味	グローバル化とは何なのか。その進展で利益を得るのは誰か。誰が被害を受けるのか。両者を分かつのは変化への対応のスピードであろう。物、情報、人のグローバル化の意味を考える。 【キーワード】 グローバル化、普遍性、時差	高橋和夫(放送大学教授)	高橋和夫(放送大学教授)

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	総合科目	科目ｺｰﾄﾞ	1637339	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ Political Economy of Japan: Growth, Challenges and Prospects for a Well-Being Nation （’１０）＝（ＴＶ）

By Toshihiko Hayashi (Professor, Doshisha University)

Abstract:

After a decade In the 21st century, some argues the once economically successful Japan already belongs to history. Others say that there may be a resurgence of interest in the Japanese model in the aftermath of the worldwide financial turmoil. How exactly did the Japanese economy perform from the days of high-growth period to the present, where does she stand today, what are the most serious challenges she faces, can the political regime cope with increasing demand for domestic and global public goods? Will technological progress be a solution for a sustainable Japan? What are the prospects and the roles of Japan with a peace Constitution, U.S. and China in a turbulent world? Can Japan be a role model of well-being nation in Asia?

The Purpose of Lecture:

The aim of this course is to expose students with various academic backgrounds and language proficiencies to a brief history of the macroeconomic performance of Japan, to understand the nature of challenges she currently faces, and to develop a sense of direction to which Japan is headed.

Remarks:

All lectures will be conducted in English and the accompanying textbook will also be in English. Students are advised to have some basic knowledge of economics and access to statistical databases, and to be alert on media coverages on Japan and the Japanese economy.

No.	Theme	Abstract	Authored by	Hosted by
1	Lecture 1: Japan in the World Today	Some statistics suggests that the Japanese economy ranks only the third in the world GDP share. Where exactly does Japan stand today? Let us take a look at comparative statistics in life expectancy, natural disaster, criminal records, demography, growth rate and per capita GDP. 【Keywords】 demography, PPP, governance, globalization	Toshihiko Hayashi (Doshisha U)	Toshihiko Hayashi (Doshisha U)
2	Lecture 2: The High Growth Epoch	The High Growth Epoch of 1955-1973 is already a history. One can now place the "Japanese miracle", or the seemingly unique development path of Japan into a global perspective. What factors, exogenous and endogenous, prompted the high growth? Will they be repeated in other times and in other regions of the world? 【Keywords】 favorable circumstantial conditions, engine of growth, investment, household saving	Toshihiko Hayashi (Doshisha U)	Toshihiko Hayashi (Doshisha U)

No.	Theme	Abstract	Authored by	Hosted by
3	Lecture 3: The Bubble Economy and Its Aftermath	The 1980s saw a resurgence of confidence, in fact, an excess confidence that culminated in the bubble economy. Why did asset prices rise so sharply while consumer price index stayed stable, leading to a big misjudgement by Bank of Japan? What was the aftermath of the bubble burst in financial market regulations and real economic growth? 【Keywords】 asset price, monetary policy, financial reorganization	Takeo Hoshi (UC San Diego)	Toshihiko Hayashi (Doshisha U) with Takeo Hoshi (UC San Diego)
4	Lecture 4: Fiscal Reconstruction or Fiscal Realignment	The heaviest debtor sector today is the government, national and local combined. Fiscal debt accumulated over the 15 years of slow growth. With aging population social security and health care demand are climbing. How can we reconcile the fiscal austerity and the increasing demand for public services? 【Keywords】 structural reform, bureaucracy, fiscal reform, local finance	Toshihiko Hayashi (Doshisha U)	Toshihiko Hayashi (Doshisha U) with Motohiro Sato (Hitotsubashi U)
5	Lecture 5: What Has Happened to Japan's Household Saving?	The household saving rate came down from 15% in the 60's to a mere 3% in 2007. Where has the Japanese virtue of frugality gone? Has she become a spendthrift, or, are there any other reasons behind the statistics? What are the implications of the low household saving rate for financial markets, government deficit, and economic growth? 【Keywords】 disposable income, saving hypotheses, demographic change	Toshihiko Hayashi (Doshisha U)	Toshihiko Hayashi (Doshisha U) with Charles Horioka (Osaka U)
6	Lecture 6: The Aging Population and Growing Disparity	In many countries population is aging. But the speed is most conspicuous in Japan. With aging population and the declining younger cohort, what will become of the mandatory pension plan, public health program, and the productivity growth? Will a slower growth inevitably bring about disparities between generations, between sectors of labor market and between megalopolises and rural areas? Can the society tollerate the disparity? 【Keywords】 demographic trend, social security, labor supply, income disparity	Toshihiko Hayashi (Doshisha U)	Toshihiko Hayashi (Doshisha U) with Sawako Shirahase (U of Tokyo)

No.	Theme	Abstract	Authored by	Hosted by
7	Lecture 7: The Life-time Employment Gone Forever?	The Life-time employment system was once believed to be a cornerstone of the Japanese industrial prowess. Whatever has happened to it? Will the new labor market for temporary workers and NEET be a transitory phenomenon? Or, does it reflect some deeper change which is taking place in the way advanced economies compete with emerging economies? 【Keywords】 labor mobility, turn-over, NEET, labor market policy	Toshihiko Hayashi (Doshisha U)	Toshihiko Hayashi (Doshisha U) with Yuji Genda (U of Tokyo)
8	Lecture 8: The Information-Based Economy	Advanced information society became a buzzword for the new economy. What was the role of government policies in bringing about increased internet penetration and the broadband infrastructure? Is ICT transforming Japan's companies and economy? Will a new and unknown value be created by ICT? Will ICT be instrumental for the resurgence of the Japanese economy? 【Keywords】 ICT, infrastructure, pltform, content, industrial productivity	Toshihiko Hayashi (Doshisha U)	Toshihiko Hayashi (Doshisha U) with Takuo Imagawa(MIC)
9	Lecture 9: Energy: Constraint or Opportunity?	In a country where energy self-sufficiency is but a dream, efforts have been made to change technology, social framework and life-style to better fit for reality. Will it be possible for Japan to sustain the current standard of living in an energy-constrained world? What are the possible alternative sources of energy for Japan? How should industrial configuration, mode of transportation, urban design and lifestyle be adjusted for the emerging reality? 【Keywords】 self-sufficiency, new energy sources, low-carbon society	Toshihiko Hayashi (Doshisha U)	Toshihiko Hayashi (Doshisha U) with Hiroshi Ozaki (Osaka Gas Co.)
10	Lecture 10: Sustainable Society under Global Environment Contratint	Suffering from all kinds of environmental deterioration including air pollution, water pollution, noise, toxic wastes, efforts have been made in Japan to enhance technology and environmental management. Now that the problem extends over the entire globe, what lessons can the world learn from Japan and what sort of global leadership is expected of her? Will Japan maintain a sustainable growth in the future? 【Keywords】 sustainable society, paradigm shift, zero-emission	Toshihiko Hayashi (Doshisha U)	Toshihiko Hayashi (Doshisha U) with Motoyuki Suzuki (TOUJ)

No.	Theme	Abstract	Authored by	Hosted by
11	Lecture 11: Isn't It Happiness That Counts?	Is not sustainable growth a euphemism for slow death? Or is it really an ideal of harmonious symbiosis? Does history end and the world converge to a single political and economic regime? Or, diversity is the nature's wisdom for sustainability? Will the world be better off having a Japanese model of political economy? What do happiness studies reveal? Under what conditions will Japan be able to enjoy a happy life? 【Keywords】 Easterlin paradox, human development index, diversity, happiness studies	Toshihiko Hayashi (Doshisha U)	Toshihiko Hayashi (Doshisha U) with Takayoshi Kusago (Kansai U)
12	Lecture 12: Is Japan a Civil Society?	While the global landscape of value creation is constantly shifting, political economy is dominated by indiginous politics in any nation. Who can fill the gap between governments, family and market in providing domestic as well as international public goods? Are NPOs and NGOs making a difference? Is Japan a civil society after all? 【Keywords】 NPO, NGO, informal association, civil society	Toshihiko Hayashi (Doshisha U)	Toshihiko Hayashi (Doshisha U) with Yutaka Tsujinaka (U of Tsukuba)
13	Lecture 13: Globalization and the Constitution of Japan	With the advent of globalization, no country can insulate itself from foreign influences on the economy, policy making, indigenous institutions, and in the international involvement. Does this mean that the notion of sovereign nation has dissolved as some hyperglobalists would have us believe? If not, what are the possibilities and limitations for Japan which has Article 9 in the Constitution regarding the so called international contribution? 【Keywords】 globalization, new responsibility, constitution, article 9	Shigenori Matsui (UBC Canada)	Toshihiko Hayashi (Doshisha U) with Shigenori Matsui (UBC Canada)
14	Lecture 14: Japan, U.S. and China in a Turbulent World	Are there any common threads among the high-speed growth of Japan, China, India and other Asian countries and regions? Is it just the Heckscher-Ohlin factor price equalization at work? Can Japan join in the Asian conviviality? What will be the political outcome of a rich Asia? Which direction should Japan be headed for in a turbulent world of post-cold war and post-worldwide economic recession? 【Keywords】 market economy, human, developmentalism, global currency	Toshihiko Hayashi (Doshisha U)	Toshihiko Hayashi (Doshisha U) with Takashi Inoguchi (U of Niigata Prefecture)

No.	Theme	Abstract	Authored by	Hosted by
15	Lecture 15: Toward a Well-Being Nation	There is a long forgotten question for the Japanese. it has been postponed until the day when Japan becomes an ordinary country, attains a healthy living standard, and recovers the sense of pride. The question is: what kind of social contract fits best for the Japanese people in the age of globalization? A Scandinavian welfare state, a European conservatism or an American libertarianism? Or can it be one of a kind well-being nation? Is there any time left for the Japanese to postpone it again?	Toshihiko Hayashi (Doshisha U)	Toshihiko Hayashi (Doshisha U)
		【Keywords】 social contract, gross domestic happiness, well-being nation		

事務局記載欄	開講年度	２０１１年度	科目区分	総合科目	科目コード	1839250	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　進化する情報社会　　（’１１）＝　（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：児玉晴男（放送大学教授）　　〕

〔主任講師（現職名）：小牧省三（大阪大学教授）　　〕

講義概要

「情報と社会(06)」に引き続き、情報通信技術(ICT)の進歩が社会、経済、産業、科学研究、医療、政治、地方自治、生活、コミュニケーション、国際関係などにもたらしている変化を確認し、情報社会の将来を展望するとともに、人間の幸福に資する技術発展のあり方について考えます。

授業の目標

科学技術的な知識の習得を主な目的とするのではなく、社会科学的な視野から、総合的に、情報通信技術(ICT)と社会とがどのようにダイナミックな相互作用のもとに進化しているかを理解することを目標とします。すでにICTがなければ成り立たなくなっている産業や暮らしの局面、いま大きく変化しつつある領域、ICTが破壊し淘汰しつつある分野などに注意を払い、進化する情報社会の中でICTの適切な利活用の仕方を探求してみましょう。

履修上の留意点

コンピュータの仕組みやプログラムについては「情報科学の基礎(07)」、大学院レベルの情報科学や計算科学の基礎知識については「情報システム科学(06)」および「基礎情報科学(09)」で学習して下さい。この科目では、技術系だけでなく文系あるいは社会科学系の履修者も対象としています。「情報と社会(06)」の既習者も履修可能です。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	情報通信技術(ICT)と社会	コンピュータの進展、ハードウェア・ソフトウェアの進展、ネットワークの進展について、それぞれ情報通信技術と社会（政策、制度）との相互のかかわりから概観する。わが国と欧米および東アジアの中の日本という二つの観点から、情報通信技術と社会について考える。 【キーワード】 技術情報、コンピュータアーキテクチャ、半導体集積回路、プログラミング言語、コンピュータネットワーク	児玉晴男（放送大学教授）	児玉晴男（放送大学教授）
2	メディア融合と社会	情報通信技術の進展が社会に与える影響は、近年、飛躍的に大きくなってきている。本講では、メディア発展の歴史とそれを支える技術を振り返り、現在進んでいるインターネットを中心とするメディア融合の位置づけとその社会への影響を理解する。 【キーワード】 マスメディア、ニューメディア、マルチメディア、メディア融合、ブロードバンド、ユビキタスネットワーク	小牧省三（大阪大学教授）	小牧省三（大阪大学教授）
3	将来通信網はどのようなものか	将来通信網の特徴はどのようなものだろうか？また、そのオープン化がなぜ可能になっているのだろうか？オープン化によってもたらされる社会的効果はどのようなものであろうか？これらを理解することにより、これから到来するポスト情報化社会がどのようなものになるのかを考える。 【キーワード】 レイヤ、ストラタム、コアネットワーク、アクセスネットワーク、FTTH、オープン化、競争施策、3.5/3.9世代移動通信	小牧省三（大阪大学教授）	小牧省三（大阪大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	ネット中立性を巡る議論	情報通信分野では、かつて通信の送り手から受けてまでのエンドエンドを通信会社が担ってきた。しかし、ブロードバンド化やインターネットの普及に伴い、複数のプレーヤーが相互に協力し、協働（コラボレーション）によるサービス提供が増加している。ネット上を流れる情報量が増加する中、ネットワークを維持するためのコスト負担をどのように分担するのか。また、ネット利用者がコンテンツやサービスに自由にアクセスする環境を維持するためにはどのようなルール作りが求められるのか。本講では、こうした「ネット中立性」と呼ばれる議論を整理し、今後の議論の方向性について概観する。 【キーワード】 インターネット、ネット混雑、プロバイダー、ピアリング、トランジット、CDN、P2P、レイヤー、帯域制御	谷脇康彦（総務省）	谷脇康彦（総務省）
5	クラウドコンピューティングと社会	クラウドコンピューティングの登場は、ICTを「所有」する時代から「利用」する時代へと変えるパラダイムシフトを巻き起こす可能性がある。クラウドコンピューティングの普及は社会の在り方を大きく変え、ICTの利活用を低廉なコストで容易に実現する一方、サービス自体が国境を越えて提供されることから、プライバシーやデータ保護の在り方を巡って国際的なルールを整備する必要性も指摘されている。本講では、クラウドコンピューティングの普及に伴う社会的な課題について整理し、今後の議論の方向性について概観する。 【キーワード】 仮想化技術、大規模並列分散処理技術、行政・医療・教育の情報化、スマートグリッド、データセンタ、個人情報保護法	谷脇康彦（総務省）	谷脇康彦（総務省）
6	ユビキタスネットワーク社会	いつでも、どこでもだれとでも情報がやり取りできる、ユビキタスネットワーク社会の実現が進んでいる．ここでは、ユビキタス技術の黎明からその進展に触れながら、ユビキタスネットワーク社会とはどのようなものか、その技術と問題点について触れる． 【キーワード】 ユビキタス、P2P，位置情報、ICカード、ICタグ	下條真司（情報通信研究機構上席研究員／大阪大学教授）	下條真司（情報通信研究機構上席研究員／大阪大学教授） ゲスト：寺西裕一（大阪大学准教授）
7	大学の情報化	大学の教務の情報化と大学教育の情報化について、遠隔教育を推進する放送大学が取り組む事例を中心に、学生へのICT活用教育、学習環境、学習コンテンツの整備の試みについて紹介する。 【キーワード】 学習管理システム、学習環境、オープンコンテンツ、学習コンテンツ、ネット配信	児玉晴男（放送大学教授）	児玉晴男（放送大学教授）
8	セキュリティとプライバシー	ネットワーク社会のセキュリティはどのようにして守られているのだろう？また、プライバシー権とは何か、それが将来社会に果たす役割はどのようなものだろうか？それにかかわる技術と仕組みを理解することにより、ネットワーク社会の課題と社会構成員の責務を理解する。 【キーワード】 セキュリティ、共通鍵方式、公開鍵方式、セキュリティホール、バックドア、プライバシー権、データ・プライバシー、インフォメーション・プライバシー、個人情報、公共的共通利用	小牧省三（大阪大学教授）	小牧省三（大阪大学教授） ゲスト：中西浩（大阪大学教授）
9	情報通信技術（ICT）と産業	ICTにはムダを可視化（見える化）することを通じて効率化を可能にする力や、情報を新たな資源とする新価値創造をする力を持っている。その本質と産業への応用可能性について概観する。 【キーワード】 効率化、BPR、可視化、新価値創造、情報資源	國領二郎（慶應義塾大学教授）	國領二郎（慶應義塾大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	情報通信と地域再生	情報通信技術（ICT）分野において、日本は光ファイバー網などのネットワーク整備の面では世界最高水準にあるにもかかわらず、国際競争力ランキングは世界第21位（世界経済フォーラム調査）と低い。その背景には、各方面においてICTの利活用が遅れている面が大きい点が挙げられる。行政、医療、教育などの様々な分野でICTの利活用を促すことにより、地域社会の活性化や国際競争力の向上を実現することができる。本講ではICTを活用した地域再生を実現するための課題を整理し、今後あるべき政策の方向性について概観する。 【キーワード】 電子行政、ワンストップ行政サービス、医療の情報化、遠隔医療、ソーシャルメディア	谷脇康彦（総務省）	谷脇康彦（総務省）
11	情報技術によって変貌を遂げる科学	情報通信技術を最初にどん欲に取り入れ始めるのは、科学そのものである．このような情報通信技術による科学をする方法論の変貌のことをe-scienceとよぶ。ここでは、e-scienceの様々な例に触れながら、最先端の情報通信技術により科学の方法論がどのように変わりっていくかを展望する。 【キーワード】 e-scinece，学術研究ネットワーク、グリッド	下條真司（情報通信研究機構上席研究員／大阪大学教授）	下條真司（情報通信研究機構上席研究員／大阪大学教授） ゲスト：大石雅寿（国立天文台准教授）
12	情報社会の生き方	進化する情報社会を市民はどう生きればいいのか。日米の大学における文系学部のICT活用状態の比較を通じ、市民生活、コミュニケーション、エンターテインメント、教育、知的生産の現場における情報社会の歩き方を考える。 【キーワード】 リテラシー、自己防衛、ウィキペディア、地球ブレイン活用術	下條真司（情報通信研究機構上席研究員／大阪大学教授）	下條真司（情報通信研究機構上席研究員／大阪大学教授） 林健太（甲南大学准教授）
13	デジタルコンテンツと著作権	デジタルコンテンツは、どのように創造されて、保護されて、活用されているかを著作権制度とのかかわりで概観する。電子書籍、コンピュータグラフィックス（CG）や音楽、映画がどのように創作されて、それらがどのような権利の関係によって保護され、そして活用されるときの問題点について考える。 【キーワード】 著作物、著作者人格権、著作権、著作隣接権、デジタル権利管理、補償金制度	児玉晴男（放送大学教授）	児玉晴男（放送大学教授） ゲスト：タケカワユキヒデ（作曲家）
14	情報倫理と知的財産	印刷技術と情報通信技術との対比から、情報社会におけるメディア環境を理解する。そして、保護される情報の性質について、情報倫理と知的財産の関係から考える。さらに、情報社会における社会文化的な多様性が持続されるための情報の性質を理解する。 【キーワード】 知的財産権、コモンズ、アクセス、プライバシー、倫理綱領	児玉晴男（放送大学教授）	児玉晴男（放送大学教授）
15	持続可能な情報社会を目指して	技術、政策、制度、経済、文化、国際関係などの分析からのそれぞれの価値観から、進化する情報社会の光と影を超えて、情報通信技術、情報通信政策、情報通信法制と地球環境との関わりから総合し、持続可能な情報社会を展望する。 【キーワード】 持続可能性、地球環境、グリーンIT、新たな情報通信技術戦略、情報通信法	児玉晴男（放送大学教授）小牧省三（大阪大学教授）	児玉晴男（放送大学教授）小牧省三（大阪大学教授）

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	総合科目	科目コード	1590308	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　地球的課題と法　　（’１０）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：村瀬　信也（上智大学教授）　〕

講義概要

現代においては、主権国家の並存関係を基礎にした伝統的な国際法では捉えられない様々な地球的課題が山積してきている。気候変動（温暖化）、経済のグローバル化、国際テロ活動の抑圧、国際刑事裁判、人権問題の普遍化など、具体的な問題を取り上げて、新たな国際法がどのような方向に進みつつあるかを展望する。

授業の目標

国際法教育の重要性については殊更繰り返すまでもないが、本科目では通常の国際法学の体系論を展開しようとするものではない。ここでは、国際法の観点から現代における地球的課題を浮き彫りにし、その克服のための方策を検討することによって、大学に対する社会的要請に応えようとするものである。

履修上の留意点

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	問題提起	近代国際法は、主権国家を主体として成立してきたが、現代におけるグローバル化の中で、個人が主体的な地位を占めるようになってきたとも言われる。地球的課題に直面して、国際法は果たして世界法に昇華していくのか？ 【キーワード】 国際法、主権国家、個人、対世的義務、強行規範、世界法	村瀬　信也（上智大学教授）	村瀬　信也（上智大学教授）
2	国際環境法から地球環境法へ	伝統的な国際環境法は、国家の領域管理責任や環境損害の防止義務を中心に構成されてきたが、近年は、海洋・大気・生物多様性の保護につき、予防原則など、地球環境の一体性を前提とした新たな法理の展開が顕著である。 【キーワード】 領域使用の管理責任、相隣関係、防止原則、予防原則、国際レジーム	村瀬　信也（上智大学教授）	村瀬　信也（上智大学教授）
3	気候変動	最近の最も重要な地球的課題の一つは、温暖化の問題である。国連気候変動枠組条約、京都議定書と進んできた国際社会の対応は、新たな国際枠組の構築をめぐって、先進工業国のみならず途上国にも大きな問題を突きつけている。 【キーワード】 気温上昇、京都議定書、主要排出国、排出権取引、差異ある責任	村瀬　信也（上智大学教授）	村瀬　信也（上智大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	人権の普遍的保障	歴史的に見ると、人権に関して国際社会が関与し、国際法の一分野となったのは近年のことである。この章では、人権保障がいかに国内事項から国際関心事項へと発展したか、国際人権条約を通じての人権保障の方法、そして、国連人権理事会をはじめとする国連の人権分野の活動について概観する。 【キーワード】 内政不干渉原則、国際関心事項、条約機関、人権理事会	立松 美也子(共立女子大学准教授)	立松 美也子(共立女子大学准教授)
5	人の移動	グローバル化した社会において国境は低くなり、技術的にも人、モノの移動は容易となった。その結果、自らの国籍以外において仕事に従事する人が増加している。その一方、2001年の同時多発テロの発生以降、国家は安全のため、国境管理を厳格化している。グローバル化社会が享受する移動の自由の結果、増加した移民に対する国際社会の対応について検討する。 【キーワード】 出入国管理、外国人労働者、自国に戻る権利、非正規移民	立松 美也子(共立女子大学准教授)	立松 美也子(共立女子大学准教授)
6	難民	冷戦が終了したことによって「難民」問題は収束するかに考えられた。しかし、実際には、冷戦後に数多くの内戦や民族紛争が生じ、難民は依然存在している。難民を保護する国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)は、難民問題を解決するための恒久的機関となった。この項目においては、難民問題の歴史を概観し、国際社会がいかに難民に対応してきたかを検討する。そして、グローバル社会が直面する新たな「難民問題」について考察する。 【キーワード】 領域的庇護、外交的庇護、ナンセン旅券、難民条約、国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)、国内避難民	立松 美也子(共立女子大学准教授)	立松 美也子(共立女子大学准教授)
7	感染症	技術的な進展に伴って、人類は国境を容易にかつ、短時間で移動することが可能となった。加えて、国家間の相互依存の複雑化、深化によって、感染症が国際社会にもたらす影響は大きい。人間の活動範囲が拡大するにしたがい、新たな感染症に直面する可能性もある現代社会である。人類はいかにこの焦眉の課題、感染症に対応してきたか、そして、現在、いかに国際協力を行っているかについて検討をおこなう。 【キーワード】 国際衛生条約、国際行政連合、世界保健機構(WHO)	立松 美也子(共立女子大学准教授)	立松 美也子(共立女子大学准教授)
8	経済のグローバル化	モノ、サービス、カネ、情報、人が容易に国境を越えるグローバリゼーションを規律する基本的な国際ルールについて概観するとともに、グローバリゼーションをめぐる問題点、グローバリゼーションの制約要因、グローバリゼーションにおける国家と企業の役割などについて検討する。 【キーワード】 GATT、GATS、投資保護条約、自由貿易協定(経済連携協定)、国際標準、安全保障輸出管理、国富ファンド	中谷 和弘(東京大学教授)	中谷 和弘(東京大学教授)
9	航空輸送と宇宙開発	人とモノの国境を越える移動手段として航空輸送はグローバリゼーションに大きな貢献をしてきた。現在変革期にある国際航空輸送をめぐる国際ルールについて概観するとともに、近い将来に可能になるであろう宇宙旅行をはじめとする宇宙輸送についてもふれる。 【キーワード】 国際民間航空条約、航空協定、オープンスカイ、航空旅行、宇宙旅行、宇宙条約、月協定	中谷 和弘(東京大学教授)	中谷 和弘(東京大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	国際エネルギー問題	石油・天然ガス等のエネルギーの枯渇にいかに対応するかは21世紀の大きな課題である。エネルギーの獲得はしばしば国際紛争を発生させてきた。エネルギーの安定供給や輸送等をめぐる諸課題を指摘し、現在の国際的ルールを概観するとともに将来のあるべきルールについて考える。 【キーワード】 国際エネルギー機関、緊急時石油融通システム、国際エネルギーフォーラム、エネルギー憲章条約、パイプライン輸送、国有化、一方的資源開発	中谷 和弘(東京大学教授)	中谷 和弘(東京大学教授)
11	国連安保理による経済制裁	平和に対する脅威への主要な対処として、国連安保理は経済制裁(非軍事的強制措置)をしばしば発動してきた。国連安保理による経済制裁の実例を概観するとともに、そこに含まれる国際法上の諸課題について検討する。 【キーワード】 非軍事的強制措置、スマート・サンクション、金融制裁、旅行制裁、武器禁輸、国内的履行、対抗措置	中谷 和弘(東京大学教授)	中谷 和弘(東京大学教授)
12	国際テロリズム	グローバリゼーションが進展する今日、犯罪もまた国境を越えて展開されるようになっている。このような事件について、容疑者の身柄を確保し、適正な刑事裁判を行うためには国家間の協力が不可欠である。現在、この分野の協力のためにはどんな制度やルールが存在しているのだろうか。 【キーワード】 国家管轄権、刑事法の適用基準、犯罪人引渡制度、国際刑事共助、ICPO(インターポール)	洪 恵子(三重大学教授)	洪 恵子(三重大学教授)
13	刑事分野における国際協力	2001年9月11日、ニューヨークの世界貿易センタービルが崩壊したことは、多くの人々にテロリズムの恐ろしさをあらためて知らしめることになった。この章では国際テロリズムに代表される国際犯罪に国際法がどのように対処しているのかを明らかにしていこう。 【キーワード】 国際法上の犯罪、国際テロ行為、諸国の共通利益を害する犯罪、「引き渡すか訴追するか」、普遍的管轄権	洪 恵子(三重大学教授)	洪 恵子(三重大学教授)
14	国際人道法	前章のテロ行為よりも歴史的に古くから国際社会がその抑圧に取り組んできたものに国際人道法違反の犯罪(戦争犯罪)の問題がある。日本は第二次世界大戦後は大規模な武力紛争に巻き込まれることはなかったが、視野を広げれば、現在も国際社会では戦争や内戦が起こっている。このような状況に適用されるのが国際人道法である。この章では国際人道法とは何かについて検討する。 【キーワード】 国際人道法、武力紛争法、赤十字国際委員会(ICRC)、戦争犠牲者の保護に関するジュネーヴ条約	洪 恵子(三重大学教授)	洪 恵子(三重大学教授)
15	国際刑事裁判	国際法上の犯罪を処罰するために、国際機関としての裁判所が必要とされてきた。第二世界大戦後、ドイツと日本の戦争犯罪人を処罰するための国際軍事裁判所が設置されたが、それ以降、しばらくの間は国際刑事法廷は全く設立されなかった。ところが1990年代以降、多くの国際法廷が設立されるようになった。この章では国際刑事裁判権の発展を検討する。 【キーワード】 国際軍事裁判所、ユーゴ国際裁判所(ICTY)、ルワンダ国際裁判所(ICTR)、国際刑事裁判所(ICC)	洪 恵子(三重大学教授)	洪 恵子(三重大学教授)

事務局記載欄	開講年度	２０１１年度	科目区分	総合科目	科目ｺｰﾄﾞ	1847643	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　観光の新しい潮流と地域　　（’１１）＝　（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：原田順子（放送大学・准教授）　〕
〔主任講師（現職名）：十代田朗（東京工業大学大学院・准教授）　〕

講義概要

2003年の『観光立国宣言』から、2008年には「観光庁」が設立され、いまや観光はわが国の基本政策となった感がある。この背景には、モビリティの進展、新興国の台頭などによる、地球規模で生じている人流の活発化という国際的状況と、国内においては、定住人口減少の中での都市や農山村の振興という、内外の事情が存在する。こうした国の政策的動きの一方で、近年、地域主導のまちづくりや活性化策として、観光振興が注目され、全国各地で、盛んに取り組まれている。そこで、本科目では、持続可能な地域づくりのためには、都市と農山村といった土地利用、自然や歴史といった地域資源の特性と観光との関係はどうあるべきかを中心に、各地の事例を交えて、論じていく。

授業の目標

本科目では、地域からの視点で観光を考える基本知識を提供することと、受講者自身が生活する地域でまちづくりとして観光に取り組む場合の基礎的な検討能力を育成することを目的とする。

履修上の留意点

15回の講義をつうじて、履修者が放送教材の解説・説明を視聴し、かつ印刷教材を熟読することを望む。さらに理解を深めるため、印刷教材の各章末に記した参考文献を活用してほしい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	基礎知識編ー観光とはー	科目全体の導入として、今、なぜ観光が注目されているのかについて、国の政策的強化の話を交えながら概説する。次に、では「観光」とは何かについて、「ツーリズム」や「リゾート」といった類似語との比較を交えて語源や用法から解説する。また学問としての観光学について、観光学には様々な学問領域からのアプローチがあることを述べ、本書の視点を位置づける。最後に、現状での観光市場の特徴を旅行回数や志向に関する統計を用いて概説する。 【キーワード】 観光立国、観光庁、観光の語源、ツーリズム、リゾート、観光学、観光旅行市場	十代田朗（東京工業大学大学院・准教授）	十代田朗（東京工業大学大学院・准教授）
2	基礎知識編ー日本の観光史ー	観光を学ぶ上での基礎知識の一つである、わが国における観光の発展の歴史について簡単に述べる。近世以前の観光史を概観した上で、近代日本における観光やリゾートの歴史を、時々の海外での観光やリゾートの隆盛や関係性を踏まえながらトピック的に解説する。 【キーワード】 宇治、講、湯治、避暑、転地療法、鉄道網、探勝景、国際観光政策	十代田朗（東京工業大学大学院・准教授）	十代田朗（東京工業大学大学院・准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
3	基礎知識編―戦後観光史と現代の観光―	最初に、戦後日本の観光・リゾート史を、1964年(昭和39年)の東京オリンピック開催を境に大きく二つの時代に分け、観光／リゾート、国際／国内を切り口に解説する。その際、経済成長、国の地域振興策の変遷、国民の価値観の変化、との関係に注意を払いながら論じる。最後に、現在、マス・ツーリズムからオルタナティブ・ツーリズムと呼ばれるスタイルが主流になりつつあることを提示する。 【キーワード】 ソーシャル・ツーリズム、東京オリンピック、ディスカバージャパン、リゾート法、マス・ツーリズム、オルタナティブ・ツーリズム	十代田朗(東京工業大学大学院・准教授)	十代田朗(東京工業大学大学院・准教授)
4	都市と観光 その1―都市をとりまく環境変化―	まず、これまでのわが国の人口変化と人口減少社会の到来について、特に都市人口に着目しながら概観する。次にこれまでの人口増加時代の都市づくりの特徴について解説し、都市づくりが転機を迎えていることを述べる。最後に今後の人口減少時代の都市づくり・まちづくりの考え方について観光との関係を踏まえながら論じる。 【キーワード】 高度成長期、都市基盤整備、人口減少社会、成熟社会、観光まちづくり	十代田朗(東京工業大学大学院・准教授)	十代田朗(東京工業大学大学院・准教授)
5	都市と観光 その2―タウン・ツーリズムの実践と課題―	まず、オルタナティブ・ツーリズムの一形態としてのタウン・ツーリズムの概念と特性について解説する。続いて、タウン・ツーリズムではどのようなテーマや地域資源が観光的魅力を有するかを事例紹介しながら説明する。最後に、タウン・ツーリズムの課題に一つとして、既存観光地の再生問題について触れ、成功例として別府を取り上げる。 【キーワード】 大都市、地方中小都市、まちあるき、交流、体験、観光地再生	十代田朗(東京工業大学大学院・准教授)	十代田朗(東京工業大学大学院・准教授)
6	農山村と観光 その1―農山村を取り巻く環境変化―	まず、農山村における観光・交流の歴史を、時々の過疎化への地域振興策を踏まえながら概観する。次に、農山村(過疎地域)の現状を主に人口構造の変化から捉え、その深刻な現況を把握した上で、農政の転換など農山村を取り巻く環境変化、及び自然回帰、食への関心など消費者側の志向の変化をグリーン・ツーリズムが注目される背景として概説する。 【キーワード】 過疎化、地域間格差、食料・農業・農村基本法、都市住民、故郷、自然回帰	十代田朗(東京工業大学大学院・准教授)	十代田朗(東京工業大学大学院・准教授)
7	農山村と観光 その2―グリーン・ツーリズムの実践と課題―	わが国でのグリーン・ツーリズムの定義や特性及び国主導による関連施策の流れを捉えた上で、グリーン・ツーリズムのコンテンツを、多種多様な活動の類型や変遷により整理する。次に、海外でのグリーン・ツーリズムを紹介し、わが国との違いを交えながら、わが国のグリーン・ツーリズム振興の課題について論じる。 【キーワード】 農山村、農山漁村休暇法、体験・交流、フランス、ドイツ、飯山市	十代田朗(東京工業大学大学院・准教授)	十代田朗(東京工業大学大学院・准教授)
8	歴史・文化と観光 その1－文化遺産の保護と観光	近代以前より、歴史・文化遺産は人々を惹き付け、観光行動の動機付けとなってきた。戦後に文化遺産保護の制度が国際的、国内的に整えられてきたこと、またその中で遺産の概念が変化してきていることを概説した上で、文化遺産と観光との関係について述べる。 【キーワード】 文化遺産、保護、ハイカルチャー、生活文化、文化観光、ニューツーリズム	羽生冬佳(筑波大学大学院・准教授)	羽生冬佳(筑波大学大学院・准教授)
9	歴史・文化と観光 その2－歴史・文化資源の活用と課題	歴史・文化を資源とする観光地の事例として、白川村荻町と伊勢市おはらい町を取り上げ、それぞれの地域で実践されている文化資源の保全や形成への取り組み、また観光客受け入れの取り組みを紹介する。その中で発生する課題と、解決に向けた指針について論じる。 【キーワード】 白川郷、おはらい町、集落保全、まちなみ整備、観光客受け入れ	羽生冬佳(筑波大学大学院・准教授)	羽生冬佳(筑波大学大学院・准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	自然環境と観光 その1	現代における新しい観光の潮流として「エコツーリズム」が登場したのはなぜか。その背景・歴史と考え方について紹介する。また小笠原諸島の取り組みを通して日本の自然地域での展開例を学び、エコツーリズムの要件とは何かを整理する。受講生が環境保全と観光の結びつきの重要性について理解を深めることをねらいとする。 【キーワード】 エコツーリズム、持続可能な開発、環境保全、地域振興、危機遺産	海津ゆりえ（文教大学・准教授）	海津ゆりえ（文教大学・准教授）
11	自然環境と観光 その2	日本に上陸したエコツーリズムは、環境保全のみならず、まちづくりと結びつくことによって、里山や里海の資源の保全と深い関わりをもつ日本型発展を示している。事例を通してエコツーリズムが新しい観光の潮流としてどのような役割を果たすかを学ぶ。 【キーワード】 エコツアー、インタープリテーション、ガイドライン、地域組織、運営	海津ゆりえ（文教大学・准教授）	海津ゆりえ（文教大学・准教授）
12	新しい観光と地域づくり その1－地域資源の発掘・再構築と仕立て－	新しい観光と地域づくりは、地域資源の発見・再構築や観光対象としての仕立てを通じて双方向に恩恵をもたらしあうことを解説する。また観光のまなざしの概念について説明し、地域資源の観光対象としての成立可能性をニッチ・ツーリズムの近年の発展にみることができることを紹介する。さらに地域資源の観光対象としての「仕立て」には、対象となる市場やアピールする観光テーマの検討といったマーケティングの思考が必要であることを説明し、資源のパッケージ化により仕立てに成功している先行事例2つから、その 【キーワード】 観光まちづくり、地域資源、観光のまなざし、ニッチ・ツーリズム、まちぐるみ博物館、オープンガーデン	津々見崇（東京工業大学大学院・助教）	津々見崇（東京工業大学大学院・助教）
13	新しい観光と地域づくり その2-人的資源の活用と展開－	観光まちづくりは地域の資源を活用して観光客を呼び、経済的利益や交流・地域再認識などの効用がある半面、コントロールを失うと意図せざる方向へ地域が変化してしまう危険性がある。本章では観光の発展周期モデルを概観して観光地化に対する住民の意識の変化を整理した後、地域から発信するイメージとメディアで解釈されるイメージの相違について検討する。そしてそれらの対応策の例として、着地型観光の実践と観光まちづくりへの住民参加の間口を広げる取り組みについて紹介し、観光まちづくりを地域が主体的・主導的に行うことの重要性を解説する。 【キーワード】 観光地の発展周期（TALCモデル）、地域イメージ、着地型観光、地域イベント、まちづくり学習	津々見崇（東京工業大学大学院・助教）	津々見崇（東京工業大学大学院・助教）
14	人づくりと観光	本章では、観光に関連する人々を解説した上で、それを念頭にいくつかの面から人づくりについて概観する。 観光の利害関係者としては、観光事業者、旅行者、地域を守る人々、その他に分類できる。本節では独自にこれらを定義し、それぞれの関連を含めて説明する。従来の利害関係者に加えて、MICEやインターネット空間上の関係者等も紹介する。そして、これらの利害関係者の構図を念頭に、民間の観光事業者、自治体職員、高等教育機関における観光教育の面から、人づくりについて述べる。 【キーワード】 観光事業、観光産業、旅行者、MICE、産業観光、自治体職員	原田順子（放送大学・准教授）	原田順子（放送大学・准教授）
15	観光の新しい潮流と今後の観光振興の課題と方向性	最後に、観光の新しい潮流の中で、各々の地域が観光振興をまちづくりとして成功に導くための様々な課題と今後の方向性を示す。 【キーワード】 外客誘致、休暇制度、政策連携、規制緩和、ツーリズムインパクト、ディスティネーション・マネジメント	十代田朗（東京工業大学大学院・准教授）	十代田朗（東京工業大学大学院・准教授）

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	総合科目	科目ｺｰﾄﾞ	1839020	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 環境と社会 （’０９）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：鈴木基之（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：植田和弘（京都大学教授）〕

講義概要

環境問題の歴史的な流れを概観し、その変遷の中でどのような解決の努力が払われてきたのかを解説する。環境問題を解決するというのはどういうことか、環境というものの価値をどのように評価するのか、そこにおいて経済学はどのような役割を果たすのか、そして法はどのような使命を有しているのかを考える。わが国は、そして世界は、どのような努力をしているのかを概観し、持続可能な社会の実現に向けた現在の取り組みについて解説を行う。

授業の目標

人間活動が現在直面している温暖化の問題など、将来ますます深刻化していく地球環境の変化は、人間活動に起因するものであり、その結果が生態系の劣化や人間生存の危機をもたらすという深刻な事態に至ることが危惧されている。このようなリスクを解決し、真に持続可能な人間社会を実現するための諸々の考え方を身に付け、現在、社会的にどのような手法がとられているのか、国際的な対応はどのようになされているのかなどの概要を理解する。

履修上の留意点

環境問題の解決に向けた技術的な取り組みの詳細については、他の講義に譲り、本講義においては社会科学的な観点からの環境問題への取り組みを理解してもらうことを主眼とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	環境問題とは何か	環境とはなにかを考え、環境問題が起こってきたころの先駆的考え方の例としてレイチェル・カーソン、ギャレット・ハーディン、リン・ホワイトJrの紹介をし、これらの考え方と現在の主要課題となっている「持続可能性」の関連を理解する。環境問題の基本が、有限容量しか有しない地球上における人口増大に象徴される急激な人間活動の拡大に起因することを理解する。 【キーワード】 エンバイロンメントとエコロジー、人間活動の拡大、有限条件	鈴木基之（放送大学・教授）	鈴木基之（放送大学・教授）
2	環境問題の歴史－公害問題、地域環境問題	人間活動の展開とともに生じてきた種々の環境問題の変遷に関し、初期の公害問題の例として足尾鉱毒事件、イタイイタイ病、水俣病、地域環境問題の例として水域の富栄養化などを概観し、環境問題が人間活動の活発化から生じ、その影響が人間の健康、生活環境に及ぶものであることを理解する。 【キーワード】 産業公害、地域環境問題、水俣病、足尾鉱毒事件、富栄養化	鈴木基之（放送大学・教授）	鈴木基之（放送大学・教授）
3	環境問題の歴史－地球環境問題	地球の有限環境内で拡大の一途をたどっている人間活動の影響が地球規模に及ぶこととなった。地球環境問題の典型的な例として、オゾン層の劣化、地球温暖化の二つに関して、問題の流れを概観する。 【キーワード】 地球環境問題、オゾン層劣化、地球温暖化、二酸化炭素、持続可能性	鈴木基之（放送大学・教授）	鈴木基之（放送大学・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	環境問題と経済学	経済学とはどういうものかから始まり、環境問題が経済学においてどのように取り扱われてきたか、その主要な源流・学説と理論的枠組みを解説する。また市場経済制度が環境制御に失敗する原因を考察し、外部不経済の内部化論の意義と限界を明らかにする。環境経済学はどのように成立し、どのような課題を有しているかを説明する。 【キーワード】 環境経済学、外部不経済、資源環境制約、市場の失敗	植田和弘(京都大学・教授)	植田和弘(京都大学・教授)
5	環境の経済価値と評価	環境は価格のつかない価値物である。環境の価値とは何か。環境の価値は経済的にどのように評価されるか、環境の評価に関する考え方、具体的な評価の例を紹介、環境評価における課題について考える。さらに、環境影響評価の意義と課題を確認する。 【キーワード】 環境と経済、環境の経済価値、環境評価、環境影響評価	植田和弘(京都大学・教授)	植田和弘(京都大学・教授)
6	環境政策の目的と手段	環境政策の生成と発展しについてまず概説する。環境政策の目的を達成するための政策目標と政策手段はいかにあるべきか。目標設定の考え方について解説するとともに、多様な政策手段を分類して各々の政策手段の特徴を明確にする。 【キーワード】 環境政策、政策目標、政策手段	植田和弘(京都大学・教授)	植田和弘(京都大学・教授)
7	気候変動問題と炭素経済	気候変動問題の深刻化は低炭素社会への移行が求められている。温暖化を緩和する方策としての二酸化炭素排出削減を推進するための炭素経済はどのように考えられているか、地球温暖化防止の難しさの原因はどこにあるかを確認する。さらに、スターン・レビューに依拠しつつ炭素経済を解説する。 【キーワード】 炭素経済、低炭素社会、環境経済戦略、スターン・レビュー	植田和弘(京都大学・教授)	植田和弘(京都大学・教授)
8	「環境と経済の両立」から持続可能な発展へ	環境と経済のトレードオフ関係の克服を目指す議論を紹介し、経済発展の方向を明らかにする。「環境と開発に関する世界委員会」が提示した持続可能な発展の理念を具体化する方向性についてP.ダスグプタの理論を紹介しつつ、資本資産と制度の役割について考える。 【キーワード】 持続可能な発展、ダスグプタ理論、資本資産、制度	植田和弘(京都大学・教授)	植田和弘(京都大学・教授)
9	環境税	環境税の基礎理論をピグー及びボーモル＝オーツの議論によりつつ概説する。環境税は、祖前政策手段としての側面と財源調達手段としての側面を併せ持つこと及びエネルギー税との関連について考える。 【キーワード】 租税の体系、環境税、ピグー税、ボーモル＝オーツ税、エネルギー税	植田和弘(京都大学・教授)	植田和弘(京都大学・教授)
10	森林環境税と産業廃棄物税	地方分権一括法に基づく地方税法改正以降、多くの自治体で導入された地方環境税の中から、森林環境税と産業廃棄物税を取り上げ、課税の目的、税率、課税対象について整理するとともに、導入の効果と課題について考える。 【キーワード】 地方環境税、森林環境税、水源税、産業廃棄物税	植田和弘(京都大学・教授)	植田和弘(京都大学・教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	環境における法規制の役割	法とはなにか、環境問題対応における法の役割は何かを考察する。社会における公平性確保のため法はどのようなものであるべきか、環境問題に対する法的対応はどのような変遷を遂げてきたか、法規制と経済的誘導策の役割の分担は如何にあるべきか、法規制の果たす技術革新への機能などについて説明を行う。 【キーワード】 法規制、公平性、財産権、不確実性、比例原則、マスキー法	大塚直（早稲田大学・教授）	大塚直（早稲田大学・教授）
12	環境法の仕組み	環境基本法の成り立ち、環境基本計画との関係に関する解説を行う。環境権とは何か、環境法の理念としてはどのようなものがあるかについて考察する。環境法の仕組みについてイメージをつかむとともに、環境行政における自治体の役割について説明する。 【キーワード】 環境基本法、環境基本計画、環境権、環境法の理念、地方自治体の役割	大塚直（早稲田大学・教授）	大塚直（早稲田大学・教授）
13	国としての環境政策	我が国において、環境行政はどのような体制で環境問題に取り組んでいるか、国の環境政策を決定しているのはどのような仕組みか、環境庁・環境省の成り立ち、中央環境審議会などの役割、21世紀環境立国戦略の意味などについて考えてみよう。 【キーワード】 環境省、環境基本法、中央環境審議会、21世紀環境立国戦略	鈴木基之（放送大学・教授）	鈴木基之（放送大学・教授）
14	持続可能な発展に向けた国際的取り組み	環境問題はこれまで多くの国際的に共通する課題を抱えるようになっており、国際的な取り扱いの場も活発になってきた。国際連合がキッカケを作った場や機関などの流れとして、ストックホルムの人間環境会議、リオデジャネイロの環境開発会議、ヨハネスブルグの持続可能な開発サミットなどの意味も考えてみよう。 【キーワード】 気候変動枠組条約、IPCC、アジェンダ21、途上国の環境、多国間環境条約	鈴木基之（放送大学・教授）	鈴木基之（放送大学・教授）
15	持続可能な社会の評価	全体を概観し、問題点を再確認する。持続可能な社会像を考える上で、持続可能性を測る総合的な指標として、「真の進歩指標」、「エコロジカル・フットプリント」の二つについて考え方の紹介を行う。 【キーワード】 持続可能性、GPI、GDP、エコロジカル・フットプリント	鈴木基之（放送大学・教授）	鈴木基之（放送大学・教授）

事務局記載欄	開講年度	２０１１年度	科目区分	総合科目	科目ｺｰﾄﾞ	1847589	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　エネルギーと社会　　（’１１）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：鈴木基之(放送大学教授)　　〕

〔主任講師（現職名）：柏木孝夫(東京工業大学大学院教授)　　〕

講義概要

- 人類社会の進展に伴って生じたエネルギー消費を概観し、現在の社会におけるエネルギー問題の重要性を認識する。問題の根源はどこにあり、その解決のためにどのような方向を意識することが必要かを解説する。
- 持続可能性の概念をしっかりと身に付け、その構成要素としての自然共生社会、循環型社会、低炭素社会について理解し、安全・安心な社会の構築においてエネルギーの占める位置を理解する。
- エネルギー問題に対する社会的な対応に於いて、経済学的な考え方、法的な考え方の基本をより根本的な意味でそのあるべき姿を考察する。
- 一方において、種々試みられている対応策を概観し、現状の市場中心的な社会における種々の手法の有効性についての理解を深める。

授業の目標

エネルギーに関する国内外の情況を把握すると共に、将来ますます深刻化してゆく地球環境の変化とエネルギーについて、多角度からその関連性を解説する。化石燃料から非化石燃料へ、さらには化石燃料の高度利用やクリーン化技術など、真に持続可能な社会を実現するための基本的な考え方を身につけ、国内のみならず、国際的にも対応できる種々の知識を修得することを目標とする。

履修上の留意点

エネルギーを取り巻く社会的背景や国際動向並びに技術の現状や将来展望まで含め、複眼的視点で習得できるように留意し、エネルギーと環境とを一体化して捉える能力を養うことに主眼をおく。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	私たちの社会におけるエネルギー	エネルギーは生活と産業の基盤である。人間活動や産業の進展と共に、これまでエネルギーを取り巻く視点がどう変化してきたか、また、どのような問題が生じ、どのような解決の方案がなされてきたのかを理解し、今後の講義の基礎的知見を修得する。 【キーワード】 エネルギーセキュリティー(安定供給)、環境問題、人口問題	鈴木基之	鈴木基之
2	エネルギーを身近なものに	これまでの歴史を踏まえ、今世紀の最大の課題である低炭素エネルギー社会の将来像を明確にすると共に、持続可能なエネルギー選択の考え方などについて多角度から概説し、将来の着地点を探る。 【キーワード】 持続可能性、低炭素社会、公平性と衡平性	鈴木基之	鈴木基之
3	世界のエネルギー需給とエネルギー資源	国際的なエネルギー需給の現状と今後の動向並びにエネルギー資源の確認埋蔵景の現況や石油ピーク論などについて習得する。国境を越えたエネルギー、資源に対する持続可能性の考え方についても言及する。 【キーワード】 世界のエネルギー需給、エネルギー資源、石油ピーク論	柏木孝夫	柏木孝夫

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	主要国のエネルギー事情	エネルギー事情は各国により大きく異なり国家戦略そのものである。米国、ロシア、EV主要国、中国、インドなどの現状並びにエネルギー選択の社会的背景について述べる。 【キーワード】 欧米のエネルギー情況、新興国のエネルギー選択、エネルギー政策	柏木孝夫	柏木孝夫
5	日本のエネルギー需給	我が国に目を向け、エネルギー需給構造の現状やエネルギー自給率、並びに、ライフスタイル、社会構造の変化との関連性などを解説する。さらにクールアース50をはじめとする今後の展開について言及し、低炭素社会に対する我が国の考えた方を述べる。 【キーワード】 日本のエネルギー需給、用途別エネルギー需要、エネルギー自給率	柏木孝夫	柏木孝夫
6	原子力と核燃料サイクル	原子力に対する国内外の現状と今後の動向について社会的受容性(PA)の観点も踏まえ解説する。特に高レベル放射性廃棄物や核燃料サイクルなど今後解決すべき課題や技術開発を含め今後を展望する。さらに、夢のエネルギーと言われている核融合についても述べる。 【キーワード】 原子力発電、プルサーマル、高速増殖炉、核融合、社会受容性	柏木孝夫	柏木孝夫
7	化石エネルギーのクリーン化技術とCCS	石炭をはじめとする化石資源のクリーン化利用は低炭素エネルギー需給構造の実現には欠かせない。埋蔵量が豊富な石炭に焦点をあて、ガス化やクリーンコール技術の概要、並びに、CO2の分離・貯蔵技術(CCS)の現状や今後を展望する。さらに石油のグリーン化利用や海洋バイオマスによるCO2資源化にも言及する。 【キーワード】 石炭ガス化複合発電、クリーンコール技術、CO2分離・貯蔵(CCS)、グリーンリファイナリー、海洋バイオマス	柏木孝夫	柏木孝夫
8	省エネルギーとエネルギーマネージメント	エネルギーの合理化、高効率利用の観点から、省エネルギーの社会的意義やその重要性並びに政策の動向について述べ、産業用から民生用に至るまで効果の大きい省エネルギー技術を概観する。特にこれからの省エネルギーは、個々の技術はもとより、ICTを駆使したエネルギーマネージメントによる効果が大きく、その現状と今後を展望する。 【キーワード】 革新的省エネルギー技術、コージェネレーション、エネルギーマネージメント、省エネルギー政策	柏木孝夫	柏木孝夫
9	ヒートポンプとその応用	期待度の大きなヒートポンプの作動原理、特徴など基本的知識を述べた後、産業用から民生用に至るまでその利用システムや効果について概説する。特に産業用では、究極の省エネルギー技術であるVRC(蒸気圧縮)、民生用では給湯用ヒートポンプにも言及する。 【キーワード】 省エネルギー、ヒートポンプサイクル、産業用ヒートポンプ、給湯用ヒートポンプ	柏木孝夫	柏木孝夫

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	再生可能エネルギーシステム	低炭素社会の実現に欠かせない再生可能エネルギーに着目し、その定義、種類、特徴などを述べ、技術開発や政策の現状、並びに多様化する再生可能エネルギー技術に対する経済性の予測や太陽熱発電など海外の事例も含め、今後を展望する。バイオマス系の廃棄物発電や、熱利用にも言及する。 【キーワード】 太陽エネルギー、風力、バイオマス、水力、地熱、潮力、廃棄物エネルギー	柏木孝夫	柏木孝夫
11	太陽電池とスマートハウス	世界で注目を集めている太陽電池に焦点を当て、発電原理からシリコン系太陽電池開発の技術動向や経済性、並びに非シリコン系の動向も展望する。日照に左右され不安定な発電をする太陽電池が家屋に標準装備されるとホームエネルギーマネージメントシステム(HEMS)を活用したハウスのスマート化が必要となり、そのコンセプトを述べると共に、メガソーラの海外事例も紹介する。 【キーワード】 太陽電池の原理と種類、逆潮流、蓄電池、スマートハウス(HEMS)、メガソーラ	柏木孝夫	柏木孝夫
12	燃料電池と水素社会	電気化学的反応を利用した燃料電池による発電システムの原理と実用化されている種類について概観する。高効率な固体電解質(SOFC)や給湯器の代わりに導入される固体高分子(PEFC)などの導入システムを紹介する。さらに大型発電システムへの応用(IGFC)をはじめ、将来の都市エネルギーを牽引する水素社会を展望する。 【キーワード】 燃料電池の原理と種類、水素社会、燃料電池複合発電システム(IGFC)	柏木孝夫	柏木孝夫
13	自動車とエネルギー	石油に依存していた自動車も電化に向けて変化し始めた。ハイブリッド車からプラグインハイブリッド車、電気自動車の現状と今後を展望する。更に、石油に代替するバイオ燃料の開発や海外の動向も紹介する。 【キーワード】 自動車の電化(PHV,EV)、蓄電池(リチウムイオン電池他)、バイオ燃料	柏木孝夫	柏木孝夫
14	スマートエネルギーネットワークシステム	これまで築いてきた送配電網の中に、太陽電池や風力発電など自然エネルギー系発電システムを最大限取り込むためには、次世代型送配電システム(スマートグリッド)の整備が必要になる。欧米での実例を紹介しながらスマートグリッドの概念を解説すると共に、都市部では電力だけでなく、熱や水素までも統合的に制御するスマートエネグリーネットワーク構想にも言及する。 【キーワード】 次世代送電網(スマートグリッド)、スマートエネルギーネットワーク、スマートシティ	柏木孝夫	柏木孝夫
15	低炭素型社会とエネルギー	持続可能な低炭素エネルギー社会の実現に向け、産業から民生に至るまでを総括する。これからのくらしとエネルギーを統合的に考えることにより、本講義のまとめとする。 【キーワード】 低炭素社会と排出権、資源循環と逆工場、スマートコミュニティー	鈴木基之 柏木孝夫	鈴木基之 柏木孝夫

科目名（メディア）＝　日本のマスメディア（‘０７）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：柏倉　康夫　（放送大学名誉教授）　〕
〔主任講師（現職名）：佐藤　卓己　（京都大学大学院准教授）〕
〔主任講師（現職名）：小室　広佐子（東京国際大学准教授）　〕

講義概要

『日本のマスメディア』では 19 世紀以降に発展をとげた日本の新聞、雑誌、ラジオ、テレビといったマス・コミュニケーション手段の特質と、それが日本の社会にもたらした変革に焦点をあてて論じる。各メデイアが発達した現在、マスメディアが社会にとって重要なことがらを決定する力、いわゆる「アジェンダ決定能力」の大きな部分を担っているといわれる。私たちの社会のあり方を考察する上で、マスメディアの本質を理解することは決定的に重要である。授業では歴史的視点を重視しつつ、マスメディアの過去と現在を分析する。

授業の目標

私たちは日々、情報の洪水にさらされている。その多くはマスメディアを通して流されるもので、そうした情報の真偽を検証するには、個々の「メディア・リテラシー（メディアを読み解く能力）」、とりわけ新聞やテレビが伝える内容を批判的に読み解く能力を高める必要がある。
１５回の授業では、日本社会のあり方を左右した歴史状況を取り上げて、そこにメディアがどうかかわったかを検証する。この作業を通して「マスメディアに強くなる」ことを目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	マスメディアの現在	20 世紀後半に登場したパーソナル・コンピュータとそれをつなぐネットの発展は、私たちの情報環境を一変させた。これによってパーソナル・コンピュータはコミュニケーションの道具と考えられるようになり、閉鎖的な空間は一気に世界と結びつくことになった。当然こうした変化は、19 世紀以来発展し続けてきた新聞、雑誌、ラジオ、テレビといったマスメディアの機能と役割に大きな変化をもたらさずにはいない。講義の第一回は、21 世紀の情報環境を概観し、今日マスメディアが直面する課題を検討する。	柏倉康夫（放送大学名誉教授）	柏倉康夫（放送大学名誉教授） 佐藤卓己（京都大学大学院准教授） 小室広佐子（東京国際大学准教授）
2	新聞の誕生―「かわら版」から「新聞」へ	江戸時代末期、世の中の情報は口から口へと流布され、一方で「かわら版」が事件や災害、奇譚などを伝えて庶民の好奇心を満たした。こうした「書きジャーナリズム」は、明治になって登場した英字新聞や日刊新聞の誕生で一変する。この回は黎明期の新聞のあり方を検証する。	柏倉康夫（放送大学名誉教授）	柏倉康夫（放送大学名誉教授）
3	ジャーナリズムの成立―報道か論説か	ジャーナリズムとしての新聞は、英国人ジョン・ブラックが創刊した「ジャパン・ヘラルド」や「日新真事誌」がさきがけとなり、やがて自由民権運動の台頭とともに新聞も隆盛をみた。その間、新聞の機能をめぐって「報道」か「論説」かの議論がおき、加えて権力の側は「新聞紙条例」で表現の自由を制限しようとした。言論機関としての新聞の役割を考える。	柏倉康夫（放送大学名誉教授）	柏倉康夫（放送大学名誉教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	多メディア時代の新聞—ライバル・メデイアの出現	日本の新聞は戦争とともに読者を増やした。日露戦争の結果、新聞社は積極的に戦争報道に乗り出し、その結果1924年には発行部数が100万部をこす新聞が出現した。だがその翌年のラジオの出現は、新聞にとって速報競争の点で大きな脅威となった。多メディア時代を迎えた新聞の戦略をとりあげる。	柏倉康夫(放送大学名誉教授)	柏倉康夫(放送大学名誉教授)
5	戦時下の新聞報道	第二次世界大戦は、国民すべてを巻き込んだ総力戦であり、影響力の大きいマスメディアは当然のことながら、戦時体制に組み込まれることになった。情報は統制され、新聞各社の記事の独自性は次第に狭められていった。この回では、新聞を含めた戦時下の日本の言論体制を論じる。	柏倉康夫(放送大学名誉教授)	柏倉康夫(放送大学名誉教授)
6	新聞は誰のものか	戦後日本のマスメディアは、アメリカの占領政策のもとで大きくさま変わりした。GHQの関心は新聞、雑誌、ラジオなど、あらゆるメディアに及んだが、とりわけ影響力の大きい新聞のあり方が問題とされた。その過程で「編集権」をめぐる論議が起き、これをきっかけに新聞の経営主体が明確化され、新聞社の寡占体制が確立された。この経緯を取りあげる。	柏倉康夫(放送大学名誉教授)	柏倉康夫(放送大学名誉教授)
7	雑誌メディアの成立—国民化と広告化	マス・メディアとは「広告媒体」の意味で使われ始めた言葉である。新聞や放送と比べて広告規制が少ない雑誌は、大衆社会において純粋メディアの性格を備えている。新聞と雑誌の曖昧な関係を新聞紙法と出版法の定義から考察し、日本における雑誌の源流『西洋雑誌』(1867年創刊)にさかのぼって概観する。明治期に雑誌が国民文化形成に果たした役割を、近代的出版社・博文館と広告代理店・博報堂を通じて検討したい。	佐藤卓己(京都大学大学院准教授)	佐藤卓己(京都大学大学院准教授)
8	国民雑誌の公共性—動員＝参加のメディア	第一次世界大戦後、都市的な大衆文化が花開いた。普通選挙法が成立し、ラジオ放送が始まった1925年(大正14年)、日本初の百万雑誌『キング』が大日本雄弁会講談社によって創刊された。「大衆」という言葉が「マス」の意味で使われるようになったのも、同じ時代である。この国民雑誌を中核とする「講談社文化」が大衆政治に与えた影響は絶大である。大衆雑誌が担った大衆ナショナリズムの機能を、「岩波文化」と称された教養主義エリート文化との関係から考察する。	佐藤卓己(京都大学大学院准教授)	佐藤卓己(京都大学大学院准教授)
9	戦時体制と言論統制	15年戦争の時代は「出版暗黒時代」とみなされている。確かに、左翼機関誌は姿を消し、自由主義雑誌も厳しい検閲にさらされた。しかし、日中戦争勃発による戦争景気の中で婦人雑誌や少年少女雑誌を含む雑誌の売り上げは急増を続けた。1941年(昭和16年)の対米戦争は「出版バブル」に沸く高揚感の中で開始された。雑誌メディアの戦争責任を考えるならば、「言論弾圧」のみを強調するだけでは不十分	佐藤卓己(京都大学大学院准教授)	佐藤卓己(京都大学大学院准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
		である。言論統制の実態を直視することで、女性の社会参加や少国民の政治化も促進した戦時雑誌の機能も再検討しなければならない。		
10	情報化の中の細分化メディア	敗戦直後、総合雑誌とともに数多くの「カストリ雑誌」が生まれた。しかし、戦後の世論を組織したのは、新たに台頭した大衆週刊誌であった。激しい社会変動は雑誌刊行の主流を月刊から週刊へと加速化し、また高度経済成長が実現した消費社会の中でカタログ雑誌が続々と創刊された。しかし、インターネット普及とともに、戦後拡大の一途をたどった雑誌市場も衰退局面を抑えている。電子ジャーナルやメール・マガジンなど新しい試みも注目されている。	佐藤卓己(京都大学大学院准教授)	佐藤卓己(京都大学大学院准教授)
11	ラジオが主役だった時代	大正天皇の大葬儀、昭和天皇の御大礼などのメディア・イベントを通じて、ラジオ放送は国民に広く普及した。2.26 事件の「兵に告ぐ」、戦時中の大本営発表、終戦の「玉音放送」などがラジオ史の一こまとして記憶されるが、ラジオは必ずしも誕生時に報道としての機能が期待されたわけではなかった。ラジオが主役だった時代に持ち合わせた役割を検証する。	小室広佐子(東京国際大学准教授)	小室広佐子(東京国際大学准教授)
12	テレビ―現実を映す鏡という神話	テレビ報道の一面性を、戦争報道を通して描く。ベトナム戦争は、「テレビに映し出された最初の戦争」といわれたが、のちの湾岸戦争では開戦の模様が衛星生中継され、戦闘を同時進行で体験したような錯覚を視聴者に与えた。さらに 10 年後のイラク戦争ではアメリカ発の映像だけでなく、中東のもう一方の側から見た映像が送られ、日本で見ているテレビ映像は一方的にきりとられた映像であったことを私たちに気づかせた。	小室広佐子(東京国際大学准教授)	柏倉康夫(放送大学名誉教授) 小室広佐子(東京国際大学准教授)
13	ゆらぐ取材倫理	記事の捏造、倒錯、語法、過剰な映像演出による「やらせ」、集中的な過熱取材など、新聞記事や放送番組、ひいてはマスメディアそのものの信頼性をそこなう事態が相ついでいる。背景には、取材機材の進化も手伝い、マスメディアにますます速報性がもとめられ競争が激化し、「特ダネ」が伝え手の大きな関心事になっているという事情もある。そうした時代に求められる取材倫理について考える。	小室広佐子(東京国際大学准教授)	小室広佐子(東京国際大学准教授)
14	放送と通信の融合	放送と通信は別の技術体系として異なる産業が担って発展し、異なる法律・役所の預かるところで、研究領域としても別個のものであった。しかし道具(ツール)としての放送と通信の融合は現実のものとなっている。マスメディアとしての放送とパーソナルなメディアとしての通信の融合は、日本のマスメデ	小室広佐子(東京国際大学准教授)	小室広佐子(東京国際大学准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
		ィアにどのような変革をもたらすのか、マスメディアの将来像を論じる。		
15	マスメディアとどう向き合う―メディア・リテラシー―	これまでの講義で明らかになった、マスメディアには語法や捏造という個々の記事、番組レベルの誤りがあるだけでなく、時の権力による統制があり、あるいはメディア自身による自己規制がある。またメディアはそもそも現実の一部しか伝えることができないことも見てきた。こうした幾重にも重なる制限の中で表現されたマスメディアを読み解くにあたり、私たちはどうしたら賢い読者、視聴者になれるのかを、3人の講師とともに考える。	小室広佐子（東京国大大学准教授）	柏倉康夫（放送大学名誉教授） 佐藤卓己（京都大学大学院准教授） 小室広佐子（東京国際大学准教授）

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	総合科目	科目ｺｰﾄﾞ	1550314	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　社会の中の芸術　　（’１０）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：青山　昌文（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：坂井　素思（放送大学教授）〕

講義概要

この講義は、芸術のもっている様々な深い社会的意味を明らかにするものです。「芸術が分かる」ことの感動が、「社会が分かる」ことの感動につながっているのです。また、この講義では、従来の芸術概念を超えて、料理をも芸術の一つとして捉え、それぞれの料理の違いが、それぞれの社会の違いを見事に表していることについても言及しています。この講義は、社会学の一分野である芸術社会学に属するものではなく、より広く、芸術学・経済学・歴史学等の交差する地平において、芸術の様々な深い社会的在り方を明らかにするものです。

授業の目標

芸術を、単に芸術家個人の自己表現として捉えるのではなく、より広くその芸術家が生きている社会全体の中で捉えるのが、この講義の基本的な視点です。芸術を生み出す社会的な深いディナミスムを、政治的な観点等をも踏まえながら、美学芸術論・経済学・美術史学・哲学・表象文化論等の知見を駆使して明らかにしてゆきます。この講義を受講することによって、芸術が、単に好き嫌いの趣味の次元で語られるようなものではなく、より深い社会的な意味をもっているものであることが分かるようになることが、この講義の目標です。

履修上の留意点

「芸術史と芸術理論（’10）」が、主として芸術の哲学的・思想的な意味を明らかにしているのに対して、この講義は、主として芸術の社会的意味を明らかにしており、両者は、相まって芸術の様々な意味を明らかにしている科目群です。尚、以前の放送大学講義「芸術・文化・社会（’03）」「芸術・文化・社会（’06）」と、貴重なインタヴュー映像などを再びお見せしたいなどの理由で内容の重複している回がありますが、全体としては新しい内容の回が多くを占めているので、再履修不可とはしていません。この点をご注意の上、履修登録をしてください。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	多様性の織物としての芸術	芸術は、実に様々なものの折り重なった多様性の織物です。その芸術の本質を、ディドロの芸術哲学を基に明らかにし、その上に立って、要素還元主義的ではない、全体論的な立場から、芸術の社会的意味を考えてゆきます。 【キーワード】 ディドロ、存在の連鎖、関係の美学、多様性、全体論	青山昌文（放送大学教授）	青山昌文（放送大学教授）
2	芸術文化と卓越性	社会のなかで、欲望が芸術文化を通じてどのように顕在化されるのかをみます。芸術文化には、卓越性を求める傾向があります。今回は、嗜好品文化としてのコーヒーを取り上げます。「UCC」、「カフェバッハ」、「ミ・カフェート」などを取材しながら、嗜好品文化がどのように作り出されるが、それがどのようなプロセスを辿り、社会的な作用を及ぼすかについてみていきます。 【キーワード】 コーヒー、卓越性、趣味、ブルデュー	坂井素思（放送大学教授）	坂井素思（放送大学教授）
3	広告美術と共通感覚	日本ポスターの変遷を見ながら、産業の中に、積極的に芸術が取り入れられていく現象についてみていきます。「資生堂」を取材しながら、どのようなスタイル・流行が主導するのかについて見ていきます。また、広告論などの影響についても考えます。 【キーワード】 ポスター、コマーシャリズム、文化産業	坂井素思（放送大学教授）	坂井素思（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	地域文化と固有性	芸術文化は社会の地域性と密接な関係を持っています。素材や対象物のもつ固有の意味について考えます。今回は、山梨県甲州市勝沼のぶどう酒醸造家を取り上げて考えていきます。 【キーワード】 地域性、固有性	坂井素思（放送大学教授）	坂井素思（放送大学教授）
5	芸術価値と経済価値	芸術文化産業は、生産性が低いという特性があります。芸術の集団、団体、組織などの組織的対応がどのように変化するのかという問題と、サービス経済化と社会の問題について考えます。ここでは、川崎ミューザの「東京交響楽団」を取材して、オーケストラの経営を取り上げて考察します。 【キーワード】 産業のサービス経済化、芸術の生産、生産性の違い、コスト病、ボウモル	坂井素思（放送大学教授）	坂井素思（放送大学教授）
6	職人技と社会美	今日、手仕事による職人技が見直されてきています。なぜ現代においても、職人技は必要とされるのでしょうか。今回は、有田の「今泉今右衛門窯」を訪ねて、美術・工芸品もつ社会美の特性について考えます。また、現代における伝統や徒弟制の意味、消費者にとっての芸術の意味についても考えます。 【キーワード】 職人技、伝統の価値、怠惰な好奇心、共通資産、ヴェブレン	坂井素思（放送大学教授）	坂井素思（放送大学教授）
7	文学と社会−文化変容論−	或る文学作品が別の文化圏に受容されるとき、受容する側の社会の特質がその文学作品に鋭い変化を与えることがあります。この受容における変容の社会的意味を、『日本文学史序説』の著者である加藤周一へのインタヴューを交えながら考えてみます。 【キーワード】 受容、変容、加藤周一、日本文化、安藤昌益	青山昌文（放送大学教授）	青山昌文（放送大学教授）
8	美術館の誕生−社会における美術の位置−	近代的な意味での最初の市民的大美術館であるルーヴル美術館の誕生の歴史をたどりながら、日本とフランスの社会における美術の位置の違いを考察します。その違いは、芸術の社会的意義の両者における大いなる違いを明るみに出すのです。 【キーワード】 展覧会、アンシャン・レジーム、革命、美術館、国家戦略	青山昌文（放送大学教授）	青山昌文（放送大学教授）
9	宗教と美術―カトリック改革と美術	もっとも西洋的といわれる17世紀のバロック芸術を生み出したのは、ローマを中心とするカトリック改革（反宗教改革）でした。この運動は日本にも及びました。聖年、巡礼、海外布教、殉教といった宗教運動がいかに芸術と結びつき、豊かな成果をあげたのかを概観します。 【キーワード】 カトリック改革、ローマ、バロック、南蛮美術	宮下規久朗（神戸大学准教授）	宮下規久朗（神戸大学准教授）
10	カラヴァッジョにおける芸術と社会	宗教画を刷新して近代リアリズムの祖となったカラヴァッジョは、カトリック改革期のイタリアが生み出した天才で、当時の宗教や思想と深く結びついていました。この画家の革新的な作品の成り立ちや意味を、17世紀初頭の時代と社会から考えます。 【キーワード】 カラヴァッジョ、宗教画、リアリズム、革新	宮下規久朗（神戸大学准教授）	宮下規久朗（神戸大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	食と西洋美術	西洋には食を扱った美術がきわめて多いのですが、これは西洋の特殊性といってもよいことです。「最後の晩餐」や「聖餐の秘跡」という思想が大きく関係し、それが変奏していったのです。食の表現を通して西洋芸術の特質に迫ります。 【キーワード】 食、西洋美術、最後の晩餐、聖餐の秘跡	宮下規久朗（神戸大学准教授）	宮下規久朗（神戸大学准教授）
12	食材と静物画	静物画は古代に始まり、近世に復活した重要なジャンルで、そのほとんどが食材を扱ったものでした。それは、リアリズムの追求から、教訓的意味を持つものを経て、19世紀に造形的実験の舞台となり、戦後のアメリカでも流行しました。静物画を通して西洋の美術のあり方を考えます。 【キーワード】 静物画、トロンプ・ルイユ、造形的実験、ポップ・アート	宮下規久朗（神戸大学准教授）	宮下規久朗（神戸大学准教授）
13	料理美学序説	料理を、芸術の内の一分野として捉え、料理における美味の本質を哲学的・芸術学的に考察します。カント美学の限界を乗り越えて、存在の連鎖と生命の連鎖の直中にあるものとしての料理芸術の本質を、現代的な見地から明らかにしてゆきます。 【キーワード】 存在の連鎖、生命の連鎖、存在強度、自然への敬意	青山昌文（放送大学教授）	青山昌文（放送大学教授）
14	料理芸術における普遍性と特定性	料理芸術は、他の芸術と同様に、それぞれの社会において異なる特質を持っています。フランス料理と日本料理を例にとって、その料理の特質の違いが、各々の社会の文化的特質の違いに由来していることを明らかにしてゆきます。 【キーワード】 普遍性、特定性、細部の洗練、多様性	青山昌文（放送大学教授）	青山昌文（放送大学教授）
15	料理芸術についての言説	料理についての原理的考察の歴史において特に名高いブリヤ・サヴァランの言説と、日本の北大路魯山人の言説を採り上げて、料理芸術についての考察の歴史の一端を振り返り、その文化論的な意味などを明らかにしてゆきます。 【キーワード】 料理、文化、実在論、サヴァラン、魯山人	青山昌文（放送大学教授）	青山昌文（放送大学教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度（第2学期）	科目区分	総合科目	科目コード	1551809	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　社会の中の科学　　（’０８）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：中島　秀人（東京工業大学大学院教授）　〕

講義概要

今日、科学・技術が私たちの生活の圧倒的な影響力をふるっていることは改めて語るまでもない。本講義は、哲学領域の中で、この科学の問題に対応する科目である。ここでは、科学を成立させる社会的基盤の検討を行うとともに、科学のもたらす社会的影響についても検討を行う。

授業の目標

全15回の講義を通じて、科学や技術がどのように発展したか、また現代社会における科学技術とは何か、それは社会にどのような道筋で強い影響を与えるようになったのかを理解できるようになることを目標等する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	現代社会と科学・技術	現代科学・技術の種々の話題に触れながら、現実社会で営まれている科学・技術が、通常思われている以上の多様性を持つことを解説する。このことによって、受講者が、科学とは何か、技術とは何か、これと社会はどういう関係にあるのかを考えるきっかけとする。 【キーワード】 科学と技術、科学・技術、科学技術、科学者、技術者	中島秀人（東京工業大学大学院教授）	中島秀人（東京工業大学大学院教授）
2	古代の自然科学	自然科学はいつ始まったのか、とい問いかけを通じて、科学とは何か、それは他の人間の営みとどう異なるのかを考える。具体的な事例として、古代の人々の自然観を、アリストテレスの自然学を中心に取り上げる。 【キーワード】 科学の始め、神話、合理性、四元素説、天動説	中島秀人（東京工業大学大学院教授）	中島秀人（東京工業大学大学院教授）
3	技術の始め	石器時代からローマ時代までの西欧技術史をごく大まかに概説し、古代世界の技術の特徴を考える。また、プラトンやアリストテレスらの古代の哲学者が、技術についてどのように考えていたのかを解説する。 【キーワード】 技術の時代区分、ギリシャ・ローマの技術、古代の技術観	中島秀人（東京工業大学大学院教授）	中島秀人（東京工業大学大学院教授）
4	科学革命	17世紀に起きた科学の大発展「科学革命」について、天文学を事例に、歴史をたどって解説する。その上で、科学革命後の科学が、それ以前の科学とどのように違っていたのかを考える。 【キーワード】 コペルニクス、地動説、血液循環の学説	中島秀人（東京工業大学大学院教授）	中島秀人（東京工業大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	中世の産業革命	8世紀以降の欧州で起こった技術の大発展について解説する。その後に現れたルネッサンス期の天才技術者の活動について紹介する。産業発展に伴って登場した大学の成立についても触れたい。 【キーワード】 水車、馬力、三圃制、レオナルド・ダ・ヴィンチ、12世紀ルネサンス	中島秀人（東京工業大学大学院教授）	中島秀人（東京工業大学大学院教授）
6	近代科学とは何か	実験や観測、数学の利用などに関係づけて、近代科学とは何かを考える。加えて、近代における科学と技術の関係、科学の登場と錬金術や魔術の関係についても論じる。 【キーワード】 実験、観測、ガリレオ、新プラトン主義、経験主義	中島秀人（東京工業大学大学院教授）	中島秀人（東京工業大学大学院教授）
7	科学の制度化と専門職業化	科学の社会制度的なありかたの変化に着目し、科学の「制度化」、「専門職業化」とは何かを解説する。最初に登場した科学者はどのような人々であったのか、彼らは科学と技術の関係をどのように捉えていたのかを紹介する。 【キーワード】 学会、学会誌、ロンドン王立協会、科学と宗教、エコール・ポリテクニク、啓蒙思想	中島秀人（東京工業大学大学院教授）	中島秀人（東京工業大学大学院教授）
8	産業革命の時代の科学と技術	イギリス産業革命を事例として、この時代の技術に科学がどのような寄与をしたかを考える。また、技術者の教育がイギリスでどのように行われてきたのかを紹介する。 【キーワード】 ワット、蒸気機関、職人、メカニクス・インスティテュート、工部大学校	中島秀人（東京工業大学大学院教授）	中島秀人（東京工業大学大学院教授）
9	アメリカ型大量生産システムの誕生	1851年のロンドン万国博覧会について紹介し、そこで話題となった互換性生産方式と、アメリカの技術の発展について解説する。 【キーワード】 ロンドン万国博覧会、互換性生産、フォード、産業社会、アメリカンシステム	中島秀人（東京工業大学大学院教授）	中島秀人（東京工業大学大学院教授）
10	エンジニア：企業の中の科学者	19世紀に登場した「科学に基礎を置く技術」について、電気および化学を事例として解説する。この新しい技術を支えるために設置された企業の研究所に触れ、近代的な意味でのエンジニアがそこで初めて登場したことを紹介する。 【キーワード】 エジソン、電力技術、有機化学、合成染料、ナイロン	中島秀人（東京工業大学大学院教授）	中島秀人（東京工業大学大学院教授）
11	国家と科学技術	ドイツの科学・技術と国家の関係を紹介する。また、20世紀の二つの大戦における科学・技術の役割を考える。 【キーワード】 ベルリン大学、毒ガス、帝国物理工学研究所	中島秀人（東京工業大学大学院教授）	中島秀人（東京工業大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	科学論の展開	20世紀に科学が本格的に社会制度に組み込まれるにしたがって、科学に対する考察として、科学史や科学哲学の分野が発展する。その道筋を、ごく大まかに概観する。さらに、世紀末に、科学社会学のアプローチが科学論に影響を与えたことを説明する。 【キーワード】 論理実証主義、反証主義、パラダイム論、科学の社会的構成、サイエンス・ウォーズ	中島秀人(東京工業大学大学院教授)	中島秀人(東京工業大学大学院教授)
13	冷戦型科学技術研究システムの形成	冷戦型科学の基礎となったマンハッタン計画をみる。また、冷戦構造が確立した1950年代以降の時期の科学・技術のあり方について、リニア・モデルを例にして考える。さらに、これに反対した流れが、現在の知的所有権の重視、ベンチャー企業のブームなどにつながってことを紹介する。 【キーワード】 マンハッタン計画、V. ブッシュ、リニア・モデル、核軍拡競争、アポロ計画、ヤングレポート、バイ=ドール法、技術移転機関	中島秀人(東京工業大学大学院教授)	中島秀人(東京工業大学大学院教授)
14	科学技術に関する問題の噴出	1960年代の公害問題、70年代以降激化した地球環境問題などを紹介し、科学・技術から見た両者の性格の相違について考える。 【キーワード】 四大公害、グローバル化、冷戦の終結、被害者と加害者、科学的不確実性、レギュラトリー・サイエンス	中島秀人(東京工業大学大学院教授)	中島秀人(東京工業大学大学院教授)
15	科学技術社会論への道	21世紀に入って注目を集め始めた科学・技術への一般人の参加について、その事例を紹介する。さらに、その理論的根拠を、科学・技術の歴史的変化という立場から分析し、21世紀の科学・技術が進むべき方向を考える。 【キーワード】 コンセンサス会議、社会のための科学、科学技術社会論(STS)	中島秀人(東京工業大学大学院教授)	中島秀人(東京工業大学大学院教授)

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	総合科目	科目コード	1560808	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 数理ファイナンス （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：津野　義道（上智大学教授）〕

講義概要

数理ファイナンスの分野から、2 つの話題をとりあげる。1 つは「効率的な株式投資の手法」である。これは多くの証券へ分散投資をする事により、投資に伴う「リスク」を小さくする方法である。他の1つは「証券市場の構造」である。証券価格が多くの投資家による均衡価格で決定されるならば、株式投資で「ただ儲け（自己資金なしである収益を得る事）」の機会は存在しない。この事を基礎にして、各種の金融派生商品(デリバティブ)の価格評価を考える。

授業の目標

前半(8回)で「分散投資によるリスク軽減効果」を学ぶ。リスクの最小化問題では、多変数の2次関数の極値問題を用いる。大学の‘‘基礎解析’’を修得している事を期待するが、並行して基礎解析を学んでもよい。後半(7回)で、「ただ儲けの無い証券市場（無裁定証券市場）」の基本的な性質を学ぶ。ここでは、「ベクトルと行列」の知識が活用される。未修の人は、並行して学ぶ事を薦める。最終目標は「デリバティブの価格評価」である。

	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	株価データの収集と統計的処理	ある証券へ投資した場合の「収益率」を定式化する。収益率は‘‘直近の株価データ’’を用いて導入される。それらの収益率の平均値をとることで、近い将来の「期待収益率」が決定される。さらに、株価変動の大きさを測る「収益率の分散値」を求める。 【キーワード】 株価データの収集、 収益率、 収益率の平均値、収益率の分散値	津野　義道（上智大学教授）	津野　義道（上智大学教授）
2	単独銘柄への投資 ―― リスクの指標	株式投資における「リスク」を、どのように定式化すればよいのか という問題を考える。‘‘リスクの大小’’を、感覚ではなく数値で評価する問題である。リスクの指標として、収益率の分散値を採用する。「期待収益率」と「収益率の分散値」を基準にして、投資の効率性を判定する。 【キーワード】 リスクの指標、投資の効率性、リスク回避性	津野　義道（上智大学教授）	津野　義道（上智大学教授）
3	2 銘柄への分散投資	2つの銘柄への分散投資における「期待収益率」と、「収益率の分散値」を求める。分散投資における「リスク軽減効果」を学ぶ。 【キーワード】 多次元データにおける共分散、 相関係数	津野　義道（上智大学教授）	津野　義道（上智大学教授）
4	3 銘柄への分散投資	一般に、多証券への分散投資を考える。考え方は2証券の場合と同様である。期待収益率（平均値）と収益率の分散値を求める事になる。線形代数学（行列とベクトルの理論）が活用される。 【キーワード】 分散共分散行列、 対称行列、 多変数の2次形式(2次の斉次多項式)	津野　義道（上智大学教授）	津野　義道（上智大学教授）

総合科目

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	最小分散ポートフォリオ --- 効率的な境界	問題の定式化と、その解決方針を説明する。解決方針は、期待収益率が一定になるように「条件を付けたポートフォリオ」のなかで、リスクが最小になるものを決定する事である。ここでは、解析学で学ぶ「条件付極値問題」が応用される。 【キーワード】 条件付極値問題（Lagrange の未定乗数法）	津野　義道（上智大学教授）	津野　義道（上智大学教授）
6	最小分散ポートフォリオ（一般的な解法 I）	3銘柄への分散投資における問題点は、第 5 回で学んだ。今回は、『期待収益率が与えられた場合』に、リスクを最小化するようなポートフォリオを求める。2回に分ける。今回は、次回（第7回）の準備である。 【キーワード】 条件付極値問題、 Lagrange の未定乗数法	津野　義道（上智大学教授）	津野　義道（上智大学教授）
7	最小分散ポートフォリオ（一般的な解法 II）	今回で、『3 証券（多証券）への分散投資によるリスク軽減効果』の問題の結論が得られる。 【キーワード】 クラーメルの公式、 2次方程式の判別式、 2ファンド分離定理	津野　義道（上智大学教授）	津野　義道（上智大学教授）
8	銀行預金と株式投資の効率な比率	手持ちの投資資金を、銀行預金と株式投資に分散して運用する場合を考える。このとき、ある特別なポートフォリオ（接点ポートフォリオ）が出現して、効率的な資金運用は『銀行預金と接点ポートフォリオへの投資比率を決めること』になる。 【キーワード】 標準偏差、接点ポートフォリオ、2ファンド分離定理	津野　義道（上智大学教授）	津野　義道（上智大学教授）
9	1期間モデルにおける不確実性の表現	明日の株価を「確率変数」として捉える。すなわち、k 個の ‘‘経済状態’’ からなる「状態空間」を導入し、明日の株価は、そのときの経済状態で決まる仮定とする。1個の証券の現在値 S_0 は確定値であるが、明日の価格 S_1 は k 次元の数ベクトルになる。証券数が N ならば、S_0 は数ベクトルになり、S_1 は行列で表示される。 【キーワード】 確率変数、状態空間、価格ベクトル、配当行列	津野　義道（上智大学教授）	津野　義道（上智大学教授）
10	証券市場の無裁定条件	株式投資における「ただ儲け（Arbitrage）」の定義を解説する。単独の商品に関しては「一物一価の法則」がある。保有する株数の組み合わせ（ポートフォリオ）では、t=0 での投資資金と t=1 での「投資成果」を比較する問題になる。 【キーワード】 一物一価の法則、取引戦略、グラフによる解法、ベクトル不等号	津野　義道（上智大学教授）	津野　義道（上智大学教授）
11	無裁定条件と状態価格 --- Stiemke の補題	「無裁定条件」のグラフによる解法は、2証券の場合しか役に立たない。今回で、n 証券からなる証券市場が「無裁定」であるための必要十分条件（状態価格の存在）を求める。「状態価格の存在」は、数理ファイナンス理論における『基本定理』である。 【キーワード】 状態価格、 Stiemke の補題（凸解析の分離定理）	津野　義道（上智大学教授）	津野　義道（上智大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	無裁定条件の応用問題	「状態価格の存在」で、証券市場の無裁定条件が判明した。状態価格は、各種のデリバティブの価格評価で中心的な役割を演ずる。今回は、「状態価格の存在」に関する応用問題を取り上げる。状態価格は、連立一次方程式の解である。連立一次方程式を解く手法も重要になる。 【キーワード】 無裁定条件と状態価格の存在(証券市場の基本定理)、連立一次方程式の解法	津野　義道(上智大学教授)	津野　義道(上智大学教授)
13	証券市場の完備性 ―― 状態価格の一意性	連立一次方程式における一般論を活用する。連立一次方程式に解が存在するとき、解に含まれる任意定数の個数(解の自由度)は、「線形代数学」の理論で得られていた。それを応用すれば、「状態価格」の一意性と、「証券市場の完備性」との関係が求まる。 【キーワード】 行列の階数(rank)、 複製可能性、証券市場の完備性	津野　義道(上智大学教授)	津野　義道(上智大学教授)
14	リスク中立確率測度	債券(銀行預金)を導入すれば、現在割引率を考えることにより、‘‘状態価格の和’’が1に基準化できる。この基準化で得られる状態価格は、状態空間における確率測度とみなせる。これを「リスク中立確率測度」という。 【キーワード】 無リスク債券、証券市場の利子率、リスク中立的な確率測度	津野　義道(上智大学教授)	津野　義道(上智大学教授)
15	金融派生商品の適正な価格評価	1期間の離散的な証券市場における「金融派生商品(デリバティブ)」の‘‘現在価格’’を決める問題を考える。その手法の本質は、デリバティブを‘‘複製(replicate)’’するような取引戦略を考える事である。デリバティブの価格評価では、‘‘証券市場の完備性’’が重要な意味をもつ。 【キーワード】 金融派生商品、コール・オプション、プット・オプション、プット/コール・オプションの関係式	津野　義道(上智大学教授)	津野　義道(上智大学教授)

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	総合科目	科目ｺｰﾄﾞ	1560603	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　技術革新を支える物質の科学　（’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：東　千秋（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：飯田　汎（放送大学客員教授）〕
〔主任講師（現職名）：雀部博之（千歳科学技術大学長）〕

講義概要

人的資源によって成り立つ以外にない日本は、「ものつくり」を一つの基盤とする科学技術立国を標榜している。科学技術の飛躍的な進歩による技術革新は新たな物質と材料の出現によってもたらされる。この技術革新をもたらす先端材料はそのもととなる物質の科学から生まれる。この科目では、そのような視点のもとに物質の科学がどのように技術革新を支えているのか、多分野の科学技術の課題を新しい時代を形成する知識社会、環境調和社会、生活文化社会という3つの社会的側面から理解できるよう講義を進める。

授業の目標

持続可能な未来社会の構築のために、技術革新につながる物質の科学が支える先端技術に焦点を絞り、「技術革新を支える物質の科学」について、豊富な具体例を映像で表現する。それは、科学技術立国日本の知的基盤を強化するために、広い世代を対象とする「技術と経営」の総合科目として、活用されることを期待するからである。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	I. 技術革新 1. 物質の科学と技術革新	科学技術の飛躍的な進歩による技術革新は新たな物質と材料の出現によりもたらされ、それは、また物質の科学から生まれる。技術革新のための新知識をどう創造するか、生活文化と環境調和のための科学技術の役割、科学技術をイノベーションに結びつけるための技術経営を背景に物質の科学と技術革新の関係を学習する。 【キーワード】 技術革新、物質の科学、新知識の創造、生活文化、環境調和、技術経営	東　千秋（放送大学教授）	東　千秋（放送大学教授） 飯田　汎（放送大学客員教授） 雀部博之（千歳科学技術大学長）
2	I. 技術革新 2. イノベーションとパラダイムの転換	歴史的な転換期にある現代社会では科学技術のみならず、経済、産業を巡り大きな変革に迫られている。多くのパラダイムの転換を経て進歩発展してきた現代社会における物質観から、未来に向けた科学技術の進化発展の様子を探り、イノベーションの役割とパラダイム転換の意義について学習する。 【キーワード】 パラダイムの転換、イノベーション、物質・エネルギー、科学技術、経済、産業	飯田　汎（放送大学客員教授）	飯田　汎（放送大学客員教授）
3	I. 技術革新 3. 科学技術のシーズと産業展開	「電気を通すプラスチックス」すなわち導電性高分子を例にとり、発明・発見を生む精神と背景、基礎的なサイエンスからデバイスへの展開、さらには産業化への道程を辿る。ノーベル化学賞受賞のヒーガー教授のインタビューを交えながら具体的に解説する。 【キーワード】 導電性高分子、二次電池、有機EL、ソフトマテリアル	雀部博之（千歳科学技術大学長）	雀部博之（千歳科学技術大学長） 飯田　汎（放送大学客員教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	II. 知識社会の創造 1. 知識社会を支える記録・記憶技術	記録技術は記録の高速化、記録密度の大容量化を目指して半導体デバイス開発、さらには分子メモリ・光メモリへの取組みが盛んに行なわれている。また複雑にネットワーク化された記録の検索の高速化が求められ、脳機能の模倣が重要視されている。これらの経緯を踏まえながら物質の果たす役割を解説する。 【キーワード】 DRAM、フラッシュメモリ、分子メモリ、光記録、パターン記録	雀部博之 （千歳科学技術大学長）	雀部博之 （千歳科学技術大学長） 飯田 汎 （放送大学客員教授）
5	II. 知識社会の創造 2. バイオ・ゲノム科学とイノベーション	進化発展するライフサイエンスの中で、21世紀社会を支える一つの中心的な課題であるゲノム科学の進歩の様子を知り、その応用分野が医薬、食料、工業へと拡大発展している様子を学習することで、研究から産業発展の道につながる知識主導型の産業分野の例を通じてイノベーションのあり方を学習する。 【キーワード】 ゲノム、DNA、遺伝子操作、細胞、医療、食料、工業	飯田 汎 （放送大学客員教授）	飯田 汎 （放送大学客員教授）
6	II. 知識社会の創造 3. 科学の統合で開くナノテクノロジー	ナノサイズの物質がもたらすナノテクノロジーは、電子情報、化学素材、マシーン、バイオテクノロジーなど多岐の分野にわたる21世紀の基幹技術と考えられる。そこでは多分野の科学の統合が必要である。そのような統合で開かれるナノテクノロジーについて展望し、このテクノロジーのビジネス展開に何が必要かを考える。 【キーワード】 ナノテクノロジー、ナノマテリアル、科学の統合、ビジネス展開	東 千秋 （放送大学教授）	東 千秋 （放送大学教授） 飯田 汎 （放送大学客員教授）
7	III. 環境調和社会 1. 物質の循環とプロセス・イノベーション	環境調和社会を形成する要素である物質・エネルギーの循環を通して、地球資源の有効活用の意義を循環社会の骨組みから理解し、プロセスイノベーションが世界規模で不可欠な課題であることを学習する。 【キーワード】 循環型社会、プロセスイノベーション、ゼロエミッション、地球資源、インバース・マニュファクチャリング	飯田 汎 （放送大学客員教授）	飯田 汎 （放送大学客員教授）
8	III. 環境調和社会 2. 未来のエネルギー資源とその利用	再生不可能なエネルギー資源の枯渇と地球温暖化が深刻な問題となっている。未来のエネルギー資源をどう利用すべきか、太陽電池、バイオマス、水素エネルギー、核融合エネルギーなどの利用の可能性などについて学ぶ。さらに、これらのエネルギー技術が市場の制約とどう関係しているのかを理解する。 【キーワード】 有限な地球の資源の枯渇、地球温暖化、未来のエネルギー資源、エネルギー技術と市場	東 千秋 （放送大学教授）	東 千秋 （放送大学教授） 飯田 汎 （放送大学客員教授）
9	III. 環境調和社会 3. 社会基盤を支える高分子材料の高性能・高機能化	現代社会の基盤をになう材料を、高分子材料、複合材料の性能と機能で理解する。また、これら高性能・機能材料の産業的利用を通じて、地球資源の視点から物質を理解しながら、技術と市場を通じてプロダクトイノベーションの意義を学習する。 【キーワード】 高分子材料、複合材料、機能性材料、高性能材料、プロダクト・イノベーション	飯田 汎 （放送大学客員教授）	飯田 汎 （放送大学客員教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	III. 環境調和社会 4. 社会基盤を支える金属・無機材料の高性能・高機能化	現代社会の基盤をになう材料を、金属材料およびセラミックスなど無機材料を通じて、高性能・高機能材料の物質としての理解と機能の価値を学習し、あわせて技術と市場からプロダクト・イノベーションへの理解を深める。 【キーワード】 金属材料、セラミックス材料、無機材料、プロダクト・イノベーション	飯田 汎 （放送大学客員教授）	飯田 汎 （放送大学客員教授）
11	IV. 生活文化社会 1. ユビキタス社会と光ネットワーク	「いつでも、どこでも」情報を入手・発信できるユビキタス社会において光通信技術の高度化及び光ネットワークの充実は不可欠であり、携帯文化を作り上げている。またICタグがいたるところで活用される社会となり、生活様式にも影響を与えている。物質の側面からこの現状を眺める。 【キーワード】 光ネットワーク、携帯文化、U-City、ICタグ	雀部博之 （千歳科学技術大学長）	雀部博之 （千歳科学技術大学長） 飯田 汎 （放送大学客員教授）
12	IV. 生活文化社会 2. 安心・安全社会を支えるロボットの科学技術	鉄腕アトムを理想とするロボットが人間社会と共存するために求められる機能とは何かを念頭において、ロボットの機能を制御するためのセンサ技術、人にやさしいロボットの動きとソフトマテリアルの役割について解説する。 【キーワード】 ロボット制御技術、センサ技術、ソフトマテリアル	雀部博之 （千歳科学技術大学長）	雀部博之 （千歳科学技術大学長） 飯田 汎 （放送大学客員教授）
13	IV. 生活文化社会 3. 先進医療を支えるライフサイエンス	学際領域に広がるライフサイエンスが支える先進医療の現状と展望を標的治療の再生医療とドラッグデリバリーを例に知る。そして、そこでの物質の科学の役割とイノベーションがどのように展開しているのかを理解する。 【キーワード】 先進医療の現状と展望、標的治療、再生医療、ドラッグデリバリー、物質の科学の役割とイノベーション	東 千秋 （放送大学教授）	東 千秋 （放送大学教授） 飯田 汎 （放送大学客員教授）
14	IV. 生活文化社会 4. 映像の文化とディスプレイの科学	フラットパネルディスプレイ（FPD）開発の歴史を振り返り、液晶、プラズマ、有機EL，電界放射の各ディスプレイの基礎および現状分析と将来について解説。また、映像、画像表示技術の進化発展を通じてパラダイムの転換について考察し、電子ペーパーの機能と役割への理解を通して、ユビキタス情報社会における表示技術のあり方を学ぶ。 【キーワード】 フラットパネルディプレイ、フレキシブルディスプレイ、映像・画像文化、表示技術、電子ペーパー、パラダイムの転換	雀部博之 （千歳科学技術大学長） 飯田汎 （放送大学客員教授）	雀部博之 （千歳科学技術大学長） 飯田汎 （放送大学客員教授）
15	V. 物質の科学と未来の展望	物質の特性解析や機能設計にコンピュータ・シミュレーションが活用され、研究の効率化や環境調和の観点から重要な手段になっている。また、実験が不可能な現象を予測する上でもそれは有効な手段となっている。物質の科学と未来の展望では、物質の科学とその関わりについて学ぶとともに物質の科学の未来を展望する。 【キーワード】 コンピュータ・シミュレーション、物質の特性解析、物質の機能設計、環境調和、未来の展望	東 千秋 （放送大学教授）	東 千秋 （放送大学教授） 飯田 汎 （放送大学客員教授） 雀部博之 （千歳科学技術大学長）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	総合科目	科目コード	1560506	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ バイオサイエンスで豊かな暮らし （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：冨田　房男（放送大学客員教授）〕

〔主任講師（現職名）：塚越　規弘（放送大学客員教授）〕

講義概要

有史以前より人類はいわゆる”バイオサイエンス”を利用して生活を豊かにしてきた。20世紀後半にその本質がわかり、意図的に利用されだし21世紀はバイオサイエンスの時代と言われるようになった。バイオサイエンスの主役を演じてきた微生物とその優れた潜在能力の開発・利用について暮らしの観点から講義する。また、バイオサイエンスを基礎・応用の両面から講義し、バイオサイエンスの大いなる可能性を述べ、21世紀のバイオサイエンスを展望する。

授業の目標

我々の身の回りには、空気中にも、水中にも、土中にも無数の微生物が生息し、我々は食生活をはじめとして多方面で多様な微生物の恩恵に浴して暮らしていることを理解する。また、微生物がバイオサイエンスの根幹となり、如何に重要な役割を演じ、暮らしの中で生か(利用)されてるかを理解できるようにする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	バイオサイエンスの世紀	有史以前より人類がバイオサイエンスを利用して生活を豊かにしてきているが、その本質が20世紀の後半に解明され始め、その本質を意図的に利用できるようになり、更にその利活用が期待できるようになり、21世紀は、バイオサイエンスの時代であるとのことを概説する。バイオの基本から未来予測までを、講義の狙いを各章の極く短い要旨と海外の方の解説も入れながら本講義の全容を解説する。 【キーワード】 バイオサイエンスの基本、バイオサイエンスの歴史とこれから	冨田房男(放送大学客員教授)、塚越規弘(放送大学客員教授)	冨田房男(放送大学客員教授)、塚越規弘(放送大学客員教授)
2	微生物とはどんな生物か	微生物は肉眼で見えない微小な生物の総称であり、あらゆる地球環境に棲息し生態系を維持している。その数は無限に近く系統的に分類することが必須である。これからの授業との関連で暮らしを豊かにする微生物に焦点を当て、その分類学的特徴を解説する。 【キーワード】 原核生物、真核生物、大腸菌、枯草菌、放線菌、酵母、コウジ菌、バクテリオファージ(細菌ウィルス)	塚越規弘(放送大学客員教授)	塚越規弘(放送大学客員教授)
3	微生物の利用<I> 伝統的発酵食品と酵素生産	伝統的な発酵食品工業における微生物の役割の解明、その機能を利用した発酵食品や有機酸の生産への応用、さらに食品用、工業用の酵素生産への応用を解説する。 【キーワード】 微生物の発見、発酵食品、有機酸、酵素	冨田房男(放送大学客員教授)、塚越規弘(放送大学客員教授)	冨田房男(放送大学客員教授)、塚越規弘(放送大学客員教授)
4	微生物の利用<II> アミノ酸の生産(1)	アミノ酸発酵工業を拓いたグルタミン酸生産菌の発見と工業化について、発見と時代背景を解説する。また、アミノ酸の代謝制御の研究を基盤に開発された代謝制御発酵の成功例であるリシンとトレオニンの発酵生産についても解説する。 【キーワード】 アミノ酸発酵、グルタミン酸、リシン、トレオニン	冨田房男(放送大学客員教授)	冨田房男(放送大学客員教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	微生物の利用<III> アミノ酸の生産(2)	グルタミン酸、リシン、トレオニン以外のアミノ酸の発酵生産について説明するとともに、酵素を利用したアミノ酸生産(酵素法)についても解説する。最後にアミノ酸生産についてまとめ、わが国で発展した優れた発酵技術を解説する。 【キーワード】 発酵法(バリン、ロイシン、イソロイシン、トリプトファン、フェニールアラニン)、酵素法(アスパラギン酸)、低カロリー甘味料アスパラテーム	塚越規弘(放送大学客員教授)	塚越規弘(放送大学客員教授)
6	微生物の利用<IV> 核酸関連物質の生産	アミノ酸発酵の成功に刺激されて、うま味調味料や化学品として重要な核酸関連物質も酵素分解法、直接発酵法、半合成法などで生産することに成功した。さらにはATPやNAD(P)Hの発酵生産について解説する。 【キーワード】 イノシン酸、グアニル酸、ATP、FAD、NAD、CoA	冨田房男(放送大学客員教授)	冨田房男(放送大学客員教授)
7	微生物の利用<V> 化学品の生産	微生物による物質生産は、リサイクル可能な資源を用いる利点から様々な化学品が製造されている。アルコール類、脂質、化学品(アクリルアミド、光学異性体等)の発酵生産と今後の展開について解説する。 【キーワード】 アルコール類、アクリルアミド、PUFA、光学異性体	冨田房男(放送大学客員教授)、塚越規弘(放送大学客員教授)	冨田房男(放送大学客員教授)、塚越規弘(放送大学客員教授)
8	微生物の利用<VI> 抗生物質と医薬品の生産	ペニシリン、ストレプトマイシンを始めとする抗生物質は、人類に大きな福音をもたらした。その他抗ガン剤などが微生物で多数生産されている。これら医薬品生産菌の探索方法、生産方法の今後の展開について解説する。 【キーワード】 ペニシリン、ストレプトマイシン、抗ガン抗生物質、免疫調節物質	冨田房男(放送大学客員教授)	冨田房男(放送大学客員教授)
9	バイオサイエンス<I> 遺伝子組換え技術の誕生	遺伝子組換え技術とは、自律複製能を有するプラスミドと種々の生物に由来するDNA断片を連結させて組換え体DNAを作製し、宿主細胞に導入し複製させる技術である。組換え体DNA作製は、アーバー博士の発見した制限酵素により初めて可能となり、今日のバイオサイエンスの根幹となった。この極めて重要な発見の経緯についてアーバー博士に直接話して頂く。また、遺伝子組換えの成功例を示す。 【キーワード】 アーバー博士、制限酵素、プラスミド、DNA連結酵素、形質転換	塚越規弘(放送大学客員教授)	塚越規弘(放送大学客員教授)
10	バイオサイエンス<II> 遺伝子のクローニング	異種遺伝子産物の生産には異種遺伝子をクローニング(単離)して生産宿主細胞中で発現させなければならない。大腸菌を宿主にした遺伝子のクローン化方法を解説する。さらに、cDNA(相補的DNA)の合成とクローン化ならびにPCR法についても解説する。 【キーワード】 クローニング、イントロン、エキソン、逆転写酵素、cDNA、PCR	塚越規弘(放送大学客員教授)	塚越規弘(放送大学客員教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	バイオサイエンス〈III〉組換えタンパク質の生産	効率の良い異種遺伝子発現とタンパク質の分泌生産には、最適なプロモーターとシグナルペプチドの利用が必須である。遺伝子の発現調節、タンパク質分泌機構および組換えタンパク質生産について解説する。 【キーワード】 遺伝子発現制御、プロモーター、シグナルペプチド、各種宿主と異種タンパク質生産	塚越規弘（放送大学客員教授）	塚越規弘（放送大学客員教授）
12	バイオサイエンス〈IV〉 食糧への応用	組換えDNA技術の進歩によって、大豆、トウモロコシ、ナタネなどを意図的でしかも短時間に育種できるようになった。これらを利用した組換え食品の生産はもとより、バイオマスエネルギーへの利用も可能になりつつあることを解説する。 【キーワード】 作物育種、組換え食品、機能性食品、エネルギー作物	冨田房男（放送大学客員教授）	冨田房男（放送大学客員教授）
13	バイオサイエンス〈V〉医薬品への応用	ヒトの希少タンパク質（インシュリン、インターフェロンなど）を組換えDNA技術を用いて微生物で大量生産することができるようになった。また、タンパク質工学技術で既存のタンパク質を改良し、これまでにない治療が可能となった。具体例をあげて解説する。 【キーワード】 タンパク質工学、インシュリン、ヒト成長ホルモン、インターフェロン、ワクチン	冨田房男（放送大学客員教授）	冨田房男（放送大学客員教授）
14	バイオサイエンス〈VI〉 エコシステムの保全と環境浄化	微生物は地球上における元素の循環を行っている。環境浄化（廃棄物処理、廃水処理など）、タンカー事故による原油汚染の処理にも微生物が利用されている。また、非天然難分解物（合成樹脂、ポリ塩化物など）の浄化にも役立っていることを解説する。 【キーワード】 物質循環、金属処理（回収）、廃水処理、コンポスト、バイオレメディエーション	冨田房男（放送大学客員教授）	冨田房男（放送大学客員教授）
15	バイオサイエンスの新たな可能性	バイオサイエンスに基づいた新しい技術が色々な分野で開発されている。これまでにヒトの活動で引き起こされた環境破壊などの問題解決、食糧確保や新しい医療法の開発などによって、「生活の質」（クオリティオブライフ）を持続することへのバイオサイエンスの可能性を展望する。 また、外国の有識者の考え方もインタビュー形式で紹介する。 【キーワード】 バイオサイエンスの未来像	冨田房男（放送大学客員教授）、塚越規弘（放送大学客員教授）	冨田房男（放送大学客員教授）、塚越規弘（放送大学客員教授）

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	夏季集中（司書教諭）	科目ｺｰﾄﾞ	1291912	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　学校経営と学校図書館　　（’０９）＝　（R）

※この科目は「学校経営と学校図書館（’04）」を一部改訂した科目です。
改訂回は1，2，3，7，9，11，12，13，15回です。

〔主任講師（現職名）：天道　佐津子（（社）全国学校図書館協議会参与）〕

〔主任講師（現職名）：柴田　正美（帝塚山大学教授）〕

講義概要

学校図書館にかかわる基本的な事柄について理解をはかる。司書教諭の資格取得に資する科目、5科目のうちで最初に履修すべき、入門的で幅広い内容をめざす。すなわち、学校図書館のもつ理念を明らかにし、その沿革の流れの中で学校図書館法の制定と改正の意義を取り上げ、さらに教育行政と学校図書館、学校図書館の管理と運営、学校図書館活動、学校図書館メディアとその選択・提供、学校図書館の施設・設備と備品、そして学校図書館経営の責任者としての司書教諭の任務と役割、司書教諭の養成と研修などについて概観し、全般的な理解を深める。また、倫理綱領や知的自由、学校司書、公共図書館との連携協力やネットワーク、学校図書館とコンピュータ、評価と改善などにも言及する。同時に今日的な課題にも触れ、将来への展望から発展へと導きたい。

授業の目標

学校図書館の理念、教育的意義と学校経営など、学校図書館の全般的事項についての理解を深める。まず、「学校教育において欠くことのできない」ものとされる学校図書館の本質について着実に理解し、それをもとに、学校図書館は、単に図書や雑誌を置いてある部屋という意識を改める。学校教育が、その目的を遂行するために、なくてはならない機能を果たす組織であり、その中核的存在としての司書教諭の任務と役割を深く理解する。

履修上の留意点

これまで経験してきた学校図書館が、どのように教育に係わってきたかを確認するとともに、その姿が今後とも同様で良いのかを考えることのできる柔軟な思考を求める。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	学校図書館の理念と教育的意義 **（※改訂回）**	学校教育における学校図書館の果たす役割を明らかにし、学校図書館の教育的意義と理念など、学校図書館に関する基本的な理解を深める。 【キーワード】 学校図書館の理念、学校図書館の定義、学校図書館の役割	野口　武悟（専修大学准教授）	野口　武悟（専修大学准教授）
2	わが国の学校図書館：その歴史的経緯 **（※改訂回）**	わが国の学校図書館について、その沿革と歴史的経緯について述べる。特に戦後における学校図書館法について、その成立と改正に言及する。 【キーワード】 日本の学校図書館史	野口　武悟	野口　武悟
3	教育行政と学校図書館 **（※改訂回）**	学校教育法と学校図書館法、社会教育法・図書館法と学校図書館、教育サービスとしての学校図書館施策（国・地方自治体）など、学校経営と学校図書館を取り巻く行政上、法制上のかかわりや仕組みについて、またその基本的な理念や法解釈、そして現実の課題もとりあげて論じる。 【キーワード】 教育基本法、学校図書館法、学校図書館行政	前田　稔（東京学芸大学講師）	前田　稔（東京学芸大学講師）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	学校図書館の経営	校内組織の中の学校図書館の位置づけ、学校図書館経営のための組織及び経営方針、経営計画の立案と実施、学校図書館担当の教職員、予算、施設と設備、メディアサービス、学校図書館環境の整備、情報ネットワークの中の学校図書館経営などについて論じる。 【キーワード】 学校図書館の経営、学校図書館の経理	天道佐津子（(社)全国学校図書館協議会参与）	天道佐津子（(社)全国学校図書館協議会参与）
5	学校図書館の施設、設備および備品	施設、設備、備品の重要性について述べる。児童・生徒にとって学校図書館が快適に学べる環境であるよう、基本的理念の裏打ちと利用する立場からの視点を重視して、楽しく読書し、心地よく効果的に学習できるスペースを取り上げる。 【キーワード】 学校図書館の設備、学校図書館の環境	岩崎 れい（京都ノートルダム女子大学准教授）	岩崎 れい（京都ノートルダム女子大学准教授）
6	学校図書館メディアの選択と管理、提供－印刷メディアを中心に	学校図書館におけるメディアとは何か、をまず取り上げ、学校図書館メディアの教育的意義、学校図書館メディアの内容と構成、学校図書館メディアの選択と収集、学校図書館メディアの管理と提供など、学校図書館の経営的視点から論じる。なお、ここでは印刷メディアを中心に論じる。 【キーワード】 印刷メディアの選択、印刷メディアの提供、印刷メディアの管理	天道佐津子	天道佐津子
7	学校図書館メディアの選択と管理、提供－視聴覚メディアおよび電子メディアを中心に （※改訂回）	上記（1）に加えて、ここでは非印刷メディアを中心に論じる。 【キーワード】 視聴覚メディアと電子メディアの選択・管理・提供	前田 稔	前田 稔
8	司書教諭の任務と役割	司書教諭は、メディアの専門家、学校図書館活動の推進者、学校図書館経営の中核としての活動が求められる。さらに、司書教諭の最も重要な任務は、児童生徒が自ら学ぶ力を獲得するような教育の全校的な展開に、立案の段階から参画することであり、学校図書館内外における全校的な活動が求められる。それら司書教諭の広範な任務と職務について論じる。 【キーワード】 司書教諭の役割、司書教諭の任務、司書教諭の仕事	天道佐津子	天道佐津子
9	司書教諭の養成と研修 （※改訂回）	学校図書館においては、とりわけ人とその養成が大切な基盤となる。そのような観点で養成と研修、その現状と課題、そして学校図書館職員の使命とその倫理についても論じる。 【キーワード】 司書教諭の養成、司書教諭の日常的研修、司書教諭等の倫理性	柴田正美（帝塚山大学教授）	柴田正美（帝塚山大学教授）
10	学校図書館の活動	学校図書館活動は教職員、児童・生徒を主な対象とする。ここでは教育計画と学校図書館、学校図書館活動の内容と方法、学校図書館活動の拡大などを論じる。併せて学校図書館の地域開放や著作権問題にも触れる。 【キーワード】 学校図書館活動、学校図書館と地域	天道佐津子	天道佐津子

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	司書教諭／図書館担当職員の活動（小・中学校） （※改訂回）	学校図書館スタッフの構成と分担、学習指導的な活動、読書指導的な活動、図書館が学校全体に働きかける活動、調べ学習、ストーリーテリング・絵本の読み聞かせ・ブックトークなどのほか、小学校特有の活動や課題について論じる。 【キーワード】 小学校の図書館、中学校の図書館	野口武悟	野口武悟
12	司書教諭／学校図書館担当職員の活動（高校・特別支援学校） （※改訂回）	授業に対する学校図書館の支援を中心に学校図書館活動を紹介する。問題解決学習の導入により学校図書館が重要性を増す過程をたどり、司書教諭の役割や司書教諭によって行われる活動内容の変容を中心に論じる。 【キーワード】 高校の図書館、特別支援学校の図書館	野口武悟	野口武悟
13	図書館協力とネットワーク （※改訂回）	高度情報通信社会においては、情報ネットワークを組んだ図書館間の相互協力による資料や情報の提供が重視される。図書館相互協力／ネットワークの理念と学校図書館、情報ネットワークの形成とリソースシェアリングの重要性、そして学校図書館と公共図書館との連携・協力について論じる。 【キーワード】 図書館間協力、図書館ネットワーク	柴田　正美	柴田　正美
14	学校図書館の評価と改善	学校図書館の評価の意義とその方法、経営・活動・管理・調査・統計などの評価の実際、および改善計画など、学校図書館経営全般の評価と改善について論じる。 【キーワード】 学校図書館の評価、学校図書館の改善計画	天道佐津子	天道佐津子
15	研究および課題と展望 （※改訂回）	学校図書館の研究の領域や方法、そして、専門職として社会的評価につながるという観点からも不断の研修や研究の必要性、そして課題と展望、研究に必要な基本的文献についても言及する。 【キーワード】 学校図書館の課題、学校図書館関係基本文献	柴田　正美	柴田　正美

＝学校図書館メディアの構成（‘０５）＝（Ｒ）

〔主任講師：　高鷲　忠美（八洲学園大学教授）〕
〔主任講師：　志保田　務（桃山学院大学名誉教授）〕
〔主任講師：　北　　克一（大阪市立大学教授）〕

全体のねらい

学校図書館の「読書センター」機能、「学習情報センター」機能を十分に発揮するためには、図書を初めとする印刷メディア、CD,ビデオなどの視聴覚メディア、電子メディアなどが十分に備えられ、検索可能な状況であることが不可欠である。このために、世の中に存在するメディアの中から学校図書館活動にとって必要なものを選択、収集し、これらを有効・適切に利用者（児童生徒、教職員）に利用してもらうための資料・メディア組織の活動を行う。本科目では、この活動をなるべく具体的に述べる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	学校図書館メディアの構成：資料の選択・収集・組織化	学校図書館の活動が十分に行われるためには、十分な数の質の良いメディアの存在が不可欠である。構築のための様々な作業や、メディアを生かすメディア組織化の業務を図書館活動全体の視点から概説する。	高鷲　忠美（八洲学園大学教授） 志保田　務（桃山学院大学名誉教授）	高鷲　忠美（八洲学園大学教授） 志保田　務（桃山学院大学名誉教授）
2	学校図書館メディアの種類と特性	学校図書館メディアの種類と、それぞれの特性およびそれらを学習にどう生かすかを述べる。	平井　尊士（兵庫大学情報科学センター専任講師） 志保田　務	平井　尊士（兵庫大学情報科学センター専任講師） 志保田　務
3	学校図書館メディアの選択と収集	学校図書館メディアの選択と選択のための情報源の種別とその活用について述べる。続けて、学校図書館におけるその収集方針と選択方針について述べる。	志保田　務 平井　尊士	志保田　務 平井　尊士
4	メディアの配列１：書架（配架）への案内	学校図書館でのサイン計画や所在記号や別置記号の役割と実際を取り上げる。図書館入り口には館内各コーナーへの案内が掲示される。また、書架ごとに、配架されているメディアの分野などが表示される。各メディアには保管されている書架などを示す記号（所在記号，別置記号）をラベルなどを添付して表示する。	志保田　務	志保田　務

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	メディアの配列2：主題別配架：分類配架	通常の図書に対して採用の主題別配架、分類別配架の意義を考え、図書分類表の各種について概観する。その上で現在日本の分類作業で標準的に使用されている『日本十進分類法』（NDC 新訂9版、1995）について詳しく説明する。	志保田　務	志保田　務
6	メディアの配列3：日本十進分類法	NDC 新訂9版における第一次区分（類）、第二次区分（綱）の全部と第三次区分（目）の一部を示し、簡略な分類作業の演習を行う。学校図書館での分類の精粗についても検討する。	志保田　務	志保田　務
7	メディアの配列4：所在記号の表示から配架作業へ	分類記号、図書記号などから構成される所在記号の決定と資料・メディアおよび目録記入への表示の実際を説明し、利用しやすい配架作業の実際を検討する。	志保田　務	志保田　務
8	目録の意義・種類と機能	学校図書館活動において「目録」がどのような意義を有しているのか、また物理的形態、アクセス・ポイントからみた目録の種類を説明する。さらに、現在図書館の多くは、目録作業に使用するデータを図書館外の機関に依存しているが、その実態について概説する。	高鷲　忠美	高鷲　忠美
9	目録規則と記述、アクセス・ポイントの実際	目録作業の基礎となる目録規則の歴史などを簡略に説明し、日本の代表的な目録規則である『日本目録規則 1987 年版改訂2版』(NCR1987R2)による記述の作成、アクセス・ポイント（標目）の選択について説明する。また、目録の配列の原則を簡単に説明する。	高鷲　忠美	高鷲　忠美
10	コンピュータ目録1：書誌レコードの作成	コンピュータ目録における書誌レコード(目録記入)の内容とその実際を取り上げる。併せて、書誌レコードから用意される検索用索引について取り上げる。	志保田　務 北　克一(大阪市立大学教授)	志保田　務 北　克一(大阪市立大学教授)
11	コンピュータ目録2:コンピュータ目録の検索	コンピュータ目録検索法を解説する。一般にコンピュータ目録が提供する「簡易検索」と「詳細検索」について述べる。併せて、検索結果の表示方法や結果の加工などの機能についても述べる。	志保田　務 北　克一	志保田　務 北　克一

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	主題からの目録検索１：分類目録	主題からメディアを検索することの意義を説明し、分類記号からの検索の特徴と限界を述べる。	北　克一	北　克一
13	主題からの目録検索２：件名目録作成作業	主題を言葉から検索する手段としての件名目録の意義、特性を「調べ学習」などと関連づけて概説する。件名作業には『基本件名標目表』(BSH 第４版、1999)を用いるので、この表の適用法について述べる。	北　克一	北　克一
14	コンピュータ目録と地域の図書館の連携	公共図書館と学校図書館の連携による地域総合目録の構築や資料の物流体制も整ってきた。現状と将来のあり方を展望する。	北　克一	北　克一
15	学校図書館の機能を支えるメディア組織化の役割	現代の学校図書館メディアおよびメディア組織化について総合的に考察する。以上によって、学校教育に活用される図書館メディアの選択・収集・組織化についてまとめる。	高鷲　忠美 志保田　務 北　克一	高鷲　忠美 志保田　務 北　克一

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	夏季集中科目（司書教諭）	科目ｺｰﾄﾞ	1527118	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 学習指導と学校図書館 （’１０）＝ （ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：堀川照代（島根県立大学短期大学部教授）〕

【本学担当専任教員：岡崎友典（放送大学准教授）】

講義概要

学校図書館は「読書センター」と「学習情報センター」という、大きくいえば2つの機能をもつ。本科目は、このうちの「学習情報センター」の機能について解説するものである。学校図書館は、「学校の教育課程の展開に寄与する」（学校図書館法）ものであり、それによって児童生徒の情報活用能力を培う役割がある。この情報活用能力の育成について、15回にわたって、その歴史、理論および実践の面から解説していく。

授業の目標

高度通信情報社会・生涯学習時代といわれる現代において、生涯にわたって必要な情報活用能力を、小・中・高校において実際にどのように育成していったらよいのかを理解し、将来、司書教諭として勤務する場合、この情報活用能力の育成の重要性を学校全体の教職員に認識させ、学校全体の情報活用能力カリキュラムの実施のリーダーシップをとることのできる力を身につけることを目標とする。

履修上の留意点

なし

回・章	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	教育課程と学校図書館	学校図書館の意義・目的を明確にし、学校図書館が教育課程の編成にどう関わるのか、そして学習指導の展開にどう寄与していくかを明らかにする。また、発達段階に応じて、小中高等学校図書館のメディアにはどのような特徴があるかについて述べる。 【キーワード】 教育課程の編成、学習指導要領、新学力観、情報リテラシー	高鷲忠美（八洲学園大学 人間開発教育課程 教授）	高鷲忠美（八洲学園大学 人間開発教育課程 教授）
2	図書館活用教育と学校図書館	図書館活用教育とはどういうものかについて、具体例を示しながらその実際について理解を深める。図書館活用教育を支える図書館スタッフの役割についても触れ、図書館活用教育を学校全体で進めることの成果や課題について述べる。 【キーワード】 図書館活用教育、調べ学習、校長のリーダーシップ、司書教諭	高鷲忠美（八洲学園大学 人間開発教育課程 教授）	高鷲忠美（八洲学園大学 人間開発教育課程 教授）
3	学校図書館利用指導から情報リテラシー教育へ	学校図書館担当者が、学校図書館に軸足をおいて図書館利用指導を行っていた時代から、学校全体の教育の基盤となる情報リテラシーの教育へ関わり、主導的立場をとるようになってきた変化について、米国の歴史を踏まえながら理解を深める。 【キーワード】 図書館利用指導、情報リテラシー、学校図書館員の役割	堀川照代（島根県立大学短期大学部 教授）	堀川照代（島根県立大学短期大学部教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	情報リテラシーの理論	学校図書館担当者が指導する情報リテラシーの教育について、その理論を説明する。情報リテラシーの育成の必要性や情報リテラシー研究の動向、代表的な情報リテラシーモデル等に関して、説明する。 【キーワード】 利用者研究、情報リテラシー研究、情報リテラシーモデル	堀川照代（島根県立大学短期大学部　教授）	堀川照代（島根県立大学短期大学部教授）
5	情報リテラシー育成の計画・実践・評価	情報リテラシーを育成するには、教科担当教員が個々に実施するよりも、全校で組織的体系的に取り組む方が効果的である。まず、学校内の教職員の情報リテラシーに関する共通理解を図り、その教育の推進組織を明確にし、全体計画や年間指導計画等を作成する必要がある。 【キーワード】 全体計画、年間指導計画、指導事項体系表、学習指導案、評価	堀川照代（島根県立大学短期大学部　教授）	堀川照代（島根県立大学短期大学部教授）
6	情報リテラシーの育成(1) テーマの設定と情報探索の計画	情報活用プロセスを6段階にとらえると、第1段階はテーマを設定する段階、第2段階は今後の情報活用について見通しをたてる段階である。この2つの段階について、実際に指導すべき事項および指導方法について説明する。 【キーワード】 テーマの設定、ウェビンク、情報探索の計画、学習活動の見通し	塩谷京子（関西大学初等部　教諭）	塩谷京子（関西大学初等部　教諭）
7	情報リテラシーの育成(2) 情報・資料の探索と収集	情報活用プロセスの第3段階目の情報や資料の探索と収集について、実際に指導すべき事項および指導方法について説明する。まず学校図書館の利用指導について押さえた上で、ざまざまなメディアを用いた情報探索について説明する。 【キーワード】 学校図書館利用指導、分類、目録、情報探索、参考図書、オリエンテーション	塩谷京子（関西大学初等部　教諭）	塩谷京子（関西大学初等部　教諭）
8	情報リテラシーの育成(3) 情報・資料の活用	情報活用プロセスの第4段階の情報・資料の利用について実際に指導すべき事項および指導方法について説明する。具体的には、要約・抜き書き・引用の方法、参考図書の使い方、インタビューの仕方などが含まれる。 【キーワード】 要約、抜き書き、引用、目次、索引、インタビューの仕方、電話のかけ方	塩谷京子（関西大学初等部　教諭）	塩谷京子（関西大学初等部　教諭）
9	情報リテラシーの育成(4) 情報・資料のまとめと学習指導の評価	情報活用プロセスの第5段階「情報・資料のまとめと伝達・保存」と、第6段階目「学習活動の評価」について説明する。取り出した情報を整理・分析して組み合わせ、自分の考えを加えて新たな情報として発信し、それまでの学習を振り返って情報活用プロセス全体とその成果を評価する。 【キーワード】 情報のまとめ方、レポート、発表会、振り返り、評価、	塩谷京子（関西大学初等部　教諭）	塩谷京子（関西大学初等部　教諭）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	教科における学校図書館活用	さまざまな教科学習において、学校図書館および資料・情報がどのように活用されて授業が展開していくかについて、実例を紹介しながら考察する。とくに、授業展開のなかで、児童生徒・教員・司書教諭・学校司書の動きを把握していく。 【キーワード】 教科との連携、教師への支援、調べ学習	鎌田和宏（帝京大学文学部教育学科 講師）	鎌田和宏（帝京大学文学部教育学科講師）
11	総合的な学習の時間における学校図書館利用	総合的な学習において、学校図書館および資料・情報がどのように活用されて授業が展開していくかについて、実例を紹介しながら考察する。とくに、司書教諭がどのようなリーダーシップをとり得るか、その可能性について考える。 【キーワード】 総合的な学習、調べ学習、司書教諭のリーダーシップ、情報リテラシーの育成	鎌田和宏（帝京大学文学部教育学科 講師）	鎌田和宏（帝京大学文学部教育学科講師）
12	特別支援教育における学校図書館活用	特別な支援を必要とする児童生徒の学習に関して、学校図書館をどのように整備し、司書教諭や学校司書はどのように関わればよいかについて述べる。 【キーワード】 特別支援教育、盲学校図書館	鎌田和宏（帝京大学文学部教育学科 講師）	鎌田和宏（帝京大学文学部教育学科講師）
13	学校／教育活動のインフラとしての学校図書館	学校図書館が学校全体の学習/教育活動においてインフラとして位置づき、機能してこそ、真に「教育活動の展開に寄与」することができる。このようなインフラとして機能している事例を紹介しながら、学校図書館活用が学びの豊かさにつながり、情報リテラシーを培うことを確認する。 【キーワード】 情報リテラシー、情報教育、国語科教育、言語活動の充実	堀川照代（島根県立大学短期大学部 教授）	堀川照代（島根県立大学短期大学部教授）
14	学習/教育活動を支援する情報サービス	学校図書館は、児童生徒の学習活動に対しても教職員の教育活動に対しても、その情報要求に対応する。レファレンスサービスをはじめとした情報サービスについて説明し、利用者に適切な情報提供をするためには、どのように準備が必要かを考える。 【キーワード】 情報サービス、レファレンスサービス、情報源、レファレンスプロセス	堀川照代（島根県立大学短期大学部 教授）	堀川照代（島根県立大学短期大学部教授）
15	学習指導における司書教諭の役割	学習指導における司書教諭の役割について、これまでの回を踏まえて、学校全体に対して、児童生徒に対して、教職員に対して、地域に対してなど、さまざまな面から検討して、本科目のまとめとする。 【キーワード】 司書教諭の役割、教科との連携、学校司書との協働	堀川照代（島根県立大学短期大学部 教授）	堀川照代（島根県立大学短期大学部教授）

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	夏季集中（司書教諭）	科目ｺｰﾄﾞ	1291858	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　読書と豊かな人間性　　（’０９）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：朝比奈　大作（放送大学客員教授）　〕

〔主任講師（現職名）：米谷　茂則（明治大学非常勤講師）　〕

講義概要

子どもの読書活動の推進は、現在では最も重要な文教政策のひとつとなっており、都道府県、市町村、それぞれのレベルで、多くの読書推進計画が立案されている。が、肝心の学校図書館が貧弱なままではそれらも画餅に帰すであろう。ここでは有効な読書推進活動を行うための学校図書館のあり方を考え、司書教諭の果たす役割を理解すると共に、実際の読書指導の内容と方法について具体的に学習していく。

授業の目標

「本を読むことは面白い」と子どもたちに思ってもらえることを前提に、そのためには、どのような学校図書館が必要か、どのような学校図書館活動が有効かを理解した上で、具体的な発達段階に合わせた読書指導の方法を学習する。狭義の読書指導を自己完結的に捉えるのではなく、学習指導との関わりをも重視し、また、家庭や地域との連携をも考えて、子どもたちをむしろ学外の社会へ送り出すような学校図書館のあり方を考えたい。

履修上の留意点

自分なりに子どもの本に興味を持ち、実際の読書材を数多く見ておいてほしい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	読書活動の意義と目的	読書は人間形成に重要な意味を持つ。読書の喜びを知ってもらうために、教科教育とは異なる観点から、適書に出合う機会を作ること、良好な読書環境を整備することなどが読書指導の第一歩である。 【キーワード】 教科書、一斉授業、直接経験と間接経験、読書と人間形成、読書指導、適書・不適書、除籍・廃棄・更新、読書環境の整備	朝比奈　大作（放送大学客員教授）	朝比奈　大作（放送大学客員教授）
2	読書能力の発達	読書能力とは、ことば（書かれた言葉）からイメージを喚起する想像力のことである。一般的な読書能力の発達をおさえた上で、その発達を刺激しうる指導のあり方を考えてみる。 【キーワード】 識字（リテラシー）、機能的不識字、イメージ化、レディネス、ストーリー、社会化、発達段階、読書能力	朝比奈　大作（放送大学客員教授）	朝比奈　大作（放送大学客員教授）
3	読書興味の発達	読書指導の中心は、児童生徒の読書興味の発達に応じて、読書への動機付けを行うことにある。一定の年齢までは共通性が高いといわれる読書興味の発達段階を理解しておく。 【キーワード】 読書興味の発達、動機付け、読書材、ヤングアダルト、自由読書、軽読書	朝比奈　大作（放送大学客員教授）	朝比奈　大作（放送大学客員教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	読書の導入的な指導―楽しむ読書を中心に―	健全な読書活動のために、各校種ごと、学校全体として読書環境を整え、児童生徒の読書の効果ある指導法を考えて、まず読書を楽しめるような具体的な指導内容を解説する。 【キーワード】 児童生徒と本を結ぶ、学校図書館の整備、読書の時間の確保、読書の習慣化、朝の読書、読書活動集会	米谷　茂則（明治大学非常勤講師）	米谷　茂則（明治大学非常勤講師）
5	読書の展開的な指導―調べ学習を中心に―	各教科や総合的な学習における調べ学習は、本来的な意味での児童生徒の学習の中心となる活動である。その自主的な学習を進めていくための具体的な指導内容について解説する。 【キーワード】 自分の学習目標、参考図書等の整備、調べ学習の具体的学習過程、教科・総合における調べ学習	米谷　茂則（明治大学非常勤講師）	米谷　茂則（明治大学非常勤講師）
6	読書の発展的な指導―考える読書を中心に―	主体的な読書活動を展開するためには、児童生徒自身が読書の目標や計画を持てるようにできるとよい。読書によって自らの考えを深め、質を高めていく具体的な方法について解説する。 【キーワード】 絵本の絵を読む読書、テーマ読書、複数の資料の比較、読書レポート、読書感想を深める指導、読書会	米谷　茂則（明治大学非常勤講師）	米谷　茂則（明治大学非常勤講師）
7	発達段階に対応した読書	小学校、中学校、高等学校の児童生徒は、戦後において、どのような作品を中心に読書してきたのかを提示し、校種ごとに、児童生徒が読み継いできた作品の傾向を解説する。 【キーワード】 自由読書で読み継いできた作品、考える読書で読み継いできた作品、ノンフィクション読書、自然科学分野の読書のすすめ	米谷　茂則（明治大学非常勤講師）	米谷　茂則（明治大学非常勤講師）
8	集団読書と個人別読書	小学校下学年の読書会の実際として、千葉県船橋市内の3年生の学級における『泣いた赤おに』の読書会の中心部分を取り上げる。授業者のインタビューを含む。 【キーワード】 小学校下学年の読書会、話し合いの柱、構成劇と読書、読書コミュニティ	米谷　茂則（明治大学非常勤講師）	米谷　茂則（明治大学非常勤講師）
9	読書資料の多様化と活用	読書の本質は想像力を駆使した結果、「ああ面白かった」という感動を得る点にある。とすれば、現代においては類似の活動は多様に存在する。マルチメディア時代における読書活動の問題を、本質的に整理し直しておく。 【キーワード】 克己と勉強、童心主義、通俗書、マルチメディア化、子どもの読書傾向、不読児、娯楽としての読書	朝比奈　大作（放送大学客員教授）	朝比奈　大作（放送大学客員教授）
10	図書資料の選択	司書教諭の最も重要な仕事の一つは「子どもたちに新しい本を沢山買ってあげる」ことである。出版界の実状や問題点を把握し、地域の実態や児童生徒の要望をもふまえて、選択・収集していくことが重要である。 【キーワード】 現代の出版流通、多品種少量生産、委託販売、読書の習慣化、ブラウジング、ブックリスト、図書の紹介、フロアワーク	朝比奈　大作（放送大学客員教授）	朝比奈　大作（放送大学客員教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	読書体験の表現	「豊かな人間性」を培うための読書の観点とそのための作品を提示する。また、小学校上学年と中学校における読書会をどのように進めていったらよいのかを具体作品で解説する。中学校の読書指導実践者へのインタビューを含む。 【キーワード】 読書体験の表現の方法、読書感想画、『何をどう読ませるか』、豊かな人間性の育成、読書会の進め方、読書会における教師の役割、チェーン読書	米谷　茂則（明治大学非常勤講師）	米谷　茂則（明治大学非常勤講師）
12	読書体験の交流	読書活動を活発にするために、読書体験の交流を多くしていきたい。「読書週間」「読書会」など、全校、学年、学級レベルでの交流について解説する。高等学校の読書指導実践者へのインタビューを含む。 【キーワード】 読書週間の活動内容、読書集会、読書週間設定の意義、親子読書、ボランティア読書活動、合同読書会	米谷　茂則（明治大学非常勤講師）	米谷　茂則（明治大学非常勤講師）
13	家庭読書との連携	児童生徒の読書活動を発展させ、豊かな人間形成を図っていくためには、家庭や地域との連携が欠かせない。日頃から積極的、継続的な協力関係を取っていくことが司書教諭には求められる。 【キーワード】 読解から通読・多読へ、選択能力、読書調査、家庭への働きかけ、地域との連携、ボランティア総合的な学習	朝比奈　大作（放送大学客員教授）	朝比奈　大作（放送大学客員教授）
14	公共図書館などの活用	子どもの読書活動を学校の中だけで豊かにすることはできない。公共図書館を利用し、自ら図書を選択購入するなど、学外の活動に誘い、卒業後も豊かな読書活動を継続させていくことが、読書指導の本質である。 【キーワード】 社会教育、生涯学習、公共図書館、公民館、博物館、子どもの読書活動の推進に関する法律（子どもの読書活動推進法）	朝比奈　大作（放送大学客員教授）	朝比奈　大作（放送大学客員教授）
15	今後の司書教諭の役割	現状の司書教諭の実態を明らかにし、そこから、どのように教育課程の編成に関わる専門性を高めていくのかについて提示し、司書教諭への期待について考察していく。 【キーワード】 教育課程編成と司書教諭、読書に関連した業務、児童生徒を共にある司書教諭、学校司書との連携、読書相談	米谷　茂則（明治大学非常勤講師）	米谷　茂則（明治大学非常勤講師）

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	夏季集中科目（司書教諭）	科目ｺｰﾄﾞ	1527215	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　情報メディアの活用　　（’１０）＝　（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：　山本　順一（桃山学院大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：　気谷　陽子（聖学院大学講師・筑波大学附属図書館司書）　〕
【本学担当専任教員：　岡崎　友典（放送大学准教授）　】

講義概要

デジタル・ネットワーク社会の現代が学校教育に求めている情報メディアにかかわる具体的な知識とスキルについて論じるとともに、その歴史的背景や社会規範として遵守しなければならない情報倫理などについて講述する。情報リテラシー能力の涵養が強く求められている生涯学習社会の今日において、学校教育活動の要としての役割が期待されている学校図書館の整備拡充の方向とそこで働く専門的職員である司書教諭が備えるべきハードウェアとソフトウェアに関する基礎的知識・スキルと今後の研修のあり方までを射程に含めたい。

授業の目標

学校図書館の専門的職員である司書教諭に求められる高度情報通信社会の構造とその特質、およびそこで要請される情報倫理に対する理解、ならびに各種の情報メディア、具体的には図書や雑誌などの伝統的な紙媒体資料とインターネットやデジタル・コンテンツに関する知識とそれら情報メディアを利活用する場合に必要とされるスキルの修得がこの科目の授業が目標とするところである。

履修上の留意点

印刷教材、放送教材で取り上げた事項については、たんなる知識として頭の中だけで理解しようとするのではなく、実際にPCなどを操作して関係知識を確認し、スキルの修得に努めてほしい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	‘情報’という視点からみた人類社会の過去・現在・未来	古代から現在までの情報メディアの歴史を概観し、デジタル・ネットワーク社会の今後の推移を考える。 【キーワード】 文字、写本、活版印刷術、コンピュータ、インターネット	山本　順一（桃山学院大学・教授）	山本　順一（桃山学院大学・教授）
2	高度情報通信社会の構造と特質	デジタル・ネットワーク社会における現実世界と仮想空間との交錯が引き起こす様々な問題を論じる。 【キーワード】 サイバースペース、衆知と衆愚	山本　順一（桃山学院大学・教授）	山本　順一（桃山学院大学・教授）
3	高度情報通信社会の倫理と法	インターネット社会における種々の逸脱行為とそれに対するモラル、倫理、規範意識のあり方、および関係する法的諸制度について解説する。 【キーワード】 ネット・プライバシー、個人情報保護、有害情報、サイバー犯罪	山本　順一（桃山学院大学・教授）	山本　順一（桃山学院大学・教授）
4	情報通信技術と学校教育	わたしたちの社会で生きていくのに必要な情報・知識はかつてないほど質的にも高度となり、量的にも格段に増加している。学校教育に期待されるところは大きく、情報通信技術の活用が求められている。 【キーワード】 生きる力、PISA、調べ学習、学習の階段	二村　健（明星大学・教授）	二村　健（明星大学・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	学校教育と情報メディア	図書、雑誌等の歴史を述べ、図書や雑誌の情報メディアとしての成熟のプロセスを解説するとともに、文献情報の取扱いに関する知識について論ずる。 【キーワード】 図書、教科書、学術雑誌、文献情報	気谷 陽子（聖学院大学講師・筑波大学附属図書館司書）	気谷 陽子（聖学院大学講師・筑波大学附属図書館司書）
6	学校図書館と情報リテラシー教育	学校図書館で取組まれるべき情報リテラシー教育について、具体的に論ずる。児童生徒の発達段階を考慮するとともに、特別な支援を必要とする子どもたちについての情報リテラシー教育に関しても考察を加える。 【キーワード】 情報リテラシー、情報活用能力、特別支援教育	気谷 陽子（聖学院大学講師・筑波大学附属図書館司書）	気谷 陽子（聖学院大学講師・筑波大学附属図書館司書）
7	学校図書館と情報検索	情報検索の基礎知識とそのスキルについて解説する。学校種ごとに児童生徒の発達段階に見合った情報検索指導についてふれる。 【キーワード】 精度と再現率、論理演算、文献データベース、サーチエンジン	気谷 陽子（聖学院大学講師・筑波大学附属図書館司書）	気谷 陽子（聖学院大学講師・筑波大学附属図書館司書）
8	学校図書館とコンテンツ	コンテンツを様々なメディアに組み込んで提供される情報内容と定義し、パッケージ型、ネットワーク型、放送番組に分けて解説する。 【キーワード】 Web-OPAC、リンク集、ポータルサイト、主題ゲートウェイ	気谷 陽子（聖学院大学講師・筑波大学附属図書館司書）	気谷 陽子（聖学院大学講師・筑波大学附属図書館司書）
9	教科教育と情報メディア	教員の教材準備や児童生徒の探究的学習に役立つレファレンスツールは重要であり、レファレンスツールに関し、教科教育との関連で解説する。 【キーワード】 レファレンスツール、教科教育、探究的学習	気谷 陽子（聖学院大学講師・筑波大学附属図書館司書）	気谷 陽子（聖学院大学講師・筑波大学附属図書館司書）
10	情報コンテンツの制作とそのツール	メディア専門職である司書教諭は、時代にふさわしい電子文房具を活用する能力を備えなければならない。また、それらの功罪も認識しながら、授業におけるプレゼンテーション技術の向上を図らなければならない。 【キーワード】 電子文房具、電子黒板、プレゼンテーション、フィンランド・メソッド	二村 健（明星大学・教授）	二村 健（明星大学・教授）

夏季集中科目

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	情報発信とコンテンツの制作	現代社会は情報受信の力のほかに情報発信の能力が求められている。伝統的な手段、および遠隔学習手法を含むデジタル・ネットワーク社会が可能とした情報発信の技術について解説し、演習を行う。 【キーワード】 ホームページ、ブログ、タグ、Eラーニング	二村 健（明星大学・教授）	二村 健（明星大学・教授）
12	適切妥当な情報利用	日常生活において、情報を収集利用する場合、著作物の複製、利用が必要不可欠である。著作権により保護されない情報や著作物にふれるとともに、私的使用、引用の仕方について解説する。 【キーワード】 著作物、私的使用、引用	山本 順一（桃山学院大学・教授）	山本 順一（桃山学院大学・教授）
13	著作権制度の基本的仕組み	著作権制度の生成と展開を述べたうえで、デジタル化への対応を含め、日本の著作権制度を概観する。 【キーワード】 近代的著作権制度、ベルヌ条約、デジタル著作権	山本 順一（桃山学院大学・教授）	山本 順一（桃山学院大学・教授）
14	学校図書館をめぐるネットワーク	学校図書館が学校教育において期待される機能を現実に発揮するには学校内外、地域社会に存在する様々な機関と連携、ネットワークを形成しなければならない。 【キーワード】 ピア・ネットワーク、学校図書館ネットワーク、ネットワーク・アイデンティティ、コミュニティ	二村 健（明星大学・教授）	二村 健（明星大学・教授）
15	学校図書館と情報メディア教育の将来	高度情報通信技術はWeb2.0という考え方をすでに陳腐なものとし、このフィロソフィーの延長上に図書館ではLibrary 2.0、教育の世界ではEducation 2.0なるコンセプトを呼び起こしている。人間の主体的思考と所与の外在的存在となっているネットワークの資源と技術のかかわりを踏まえ、将来を展望する。 【キーワード】 Web 2.0、Library 2.0、Education 2.0、デジタルネイティブ、ネットジェネレーション	二村 健（明星大学・教授）	二村 健（明星大学・教授）

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	夏季集中科目（看護師）	科目ｺｰﾄﾞ	1887211	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　成人看護学　　（’１０）＝　（R）

※この科目は「成人看護学（’０５）」を一部改訂した科目です。
改訂回は第2, 3, 6, 7, 9, 12, 13, 14回です。

〔主任講師（現職名）：井上洋士（放送大学教授）　　〕

〔主任講師（現職名）：佐藤禮子（兵庫医療大学副学長）　　〕

講義概要

成人期にある人々を対象に、その人にとって最適な健康を促進、維持、増進するための看護援助を学ぶ。成人期は期間が長く、人口も多いため、成人看護学も看護学のなかで重要な位置を占めるが、その幅はきわめて広い。そこで本科目では、特に内容を精選する工夫をしており、また全15回から全体を構成・網羅しているが、お互いに関連し一貫性のある構造になるよう工夫している。

授業の目標

思春期から向老期に至る成人期にある人々の、特徴的な健康障害や慢性的な障害、突発的な危機をもたらす状況についての理解を深め、成人の健康回復・維持のための具体的な看護援助方法ならびに人生途上の死に直面して人生の終末段階を生きる人々への看護支援について、その概要を知る。

履修上の留意点

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	成人期の特徴と生じやすい健康問題	人の生涯発達過程における成人期は、思春期から向老期に至る、特徴的な各期から成る。個々に営む生活は、成人期に特有の健康問題と密接に関係している。これらを充分踏まえた上で、成人個別の援助を行うことが重要であり、成人看護の役割・機能や目的にわたって説明する。 【キーワード】 人間発達 、成人期、発達課題	佐藤　禮子（兵庫医療大学副学長）	佐藤　禮子（兵庫医療大学副学長）
2	手術を受ける患者の治療過程と生活過程での援助（※改訂回）	手術療法を受ける患者は、その選択までの意思決定、術前の心身の準備や術後の侵襲からの回復、さらには家庭や社会への復帰、術後の自己管理や定期受診など、治療や生活の過程で多くの課題に直面する。それぞれの時期や患者の状態に応じた援助の内容と方法は多岐にわたるが、これらについて説明する。 【キーワード】 手術、術前、術直後、術後回復期、術後合併症予防	佐藤まゆみ（千葉県立保健医療大学教授）	佐藤まゆみ（千葉県立保健医療大学教授）
3	慢性的な経過をたどる健康障害と看護（※改訂回）	成人期に発症する疾患や受傷による健康障害は、多くの場合慢性に経過する。そこで、こうした慢性的な経過をたどる健康障害とは何かを概観した後、慢性病患者への看護援助に活用できる理論・モデルとして、病みの軌跡、セルフケア、ストレス・コーピング、エンパワーメントについて解説する。また、生活支援での看護の役割に関連して、アドボケイトやリハビリテーションについても紹介する。 【キーワード】 慢性病、生活習慣病、病みの軌跡、セルフケア、生活支援	井上　洋士（放送大学教授）	井上　洋士（放送大学教授）

夏季集中科目

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	呼吸機能障害に伴う成人への援助	「呼吸をすること」は、生命維持に不可欠な人間の生理的欲求である。その呼吸機能と、呼吸機能障害の原因及び日常生活に及ぼす影響について説明する。また、呼吸機能の検査や呼吸機能障害の治療に伴う看護援助及び機能障害によって生じる症状と援助について説明する。さらに、呼吸機能障害のある患者の生活調整に向けた看護援助について説明する。 【キーワード】 呼吸機能障害、呼吸機能、生活調整	林　優子（京都大学教授）	林　優子（京都大学教授）
5	循環機能障害に伴う成人への援助	循環機能障害は、生命の危機的状態から日常生活における生活調整の必要性といった様々な健康問題に影響を及ぼす。そこで、循環機能障害に伴う症状や検査・治療に関連する健康問題と合併症の予防のための生活調整に向けた援助について説明する。 【キーワード】 循環機能障害、生活習慣、心臓リハビリテーション	野澤　明子（浜松医科大学教授）	野澤　明子（浜松医科大学教授）
6	消化・吸収機能と栄養代謝障害のある成人への援助 （※改訂回）	消化・吸収および栄養代謝にかかわる身体機能と、それらの障害のある患者への看護のポイントについて、胃がん、食道がん、ウイルス性肝炎、肝硬変症などを例に紹介する。さらに、関連して出現しやすい主な症状について、それらのある患者への看護方法を説明する。 【キーワード】 消化・吸収、食事、消化器、肝臓、栄養代謝	井上　洋士（放送大学教授）	井上　洋士（放送大学教授）
7	生体防御機能障害に伴う成人への援助 （※改訂回）	生体防御機能について、一次バリア、二次バリア、サポート機能別に概観する。次に、生体防御機能障害の主な疾患としてアレルギー、膠原病、HIV感染症などをとりあげ、それらの患者の看護のポイントを説明する。さらに、看護における感染防御として、スタンダードプリコーションとそれに基づく感染予防策についても紹介する。 【キーワード】 生体防御機能、免疫機能低下、スタンダードプリコーション	井上　洋士（放送大学教授）	井上　洋士（放送大学教授）
8	感覚機能障害に伴う成人への援助	感覚機能の障害は、人間の身体面、心理面に大きな影響をもたらす。また、感覚機能の障害は一見して他者からはわかりにくく、このため様々な心理社会的問題を引き起こす。感覚機能障害がもたらす様々な影響を概説し、機能障害を抱える人々に対するアセスメント方法を説明する。さらに、治療に取り組む人々を援助する方法、および、機能障害と共存する人々を支援する方法を説明する。 【キーワード】 感覚機能、知覚、中途失明者、自尊心	佐藤まゆみ（千葉県立保健医療大学教授）	佐藤まゆみ（千葉県立保健医療大学教授）
9	糖・脂質代謝障害に伴う成人への援助 （※改訂回）	糖・脂質代謝障害は、生活習慣に起因する疾患の発症や糖尿病や心疾患などの増悪・合併症の出現に大きく関連している。そこで、糖尿病と脂質異常症を軸に、それぞれの症状や治療について概観した上で、看護アセスメント、看護目標、看護援助のポイントを説明する。 【キーワード】 療養支援、糖尿病、脂質異常症、自己管理	井上　洋士（放送大学教授）	井上　洋士（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	内部環境調節障害に伴う成人への援助	生命を維持するために内部環境を一定に保持することが重要である。その内部環境調節のための水・電解質の調整やホルモンの分泌調節と、それらの内部環境調節障害の原因及び日常生活に及ぼす影響について説明する。また、水・電解質の調整や調節障害の治療に伴う援助および調節障害によって生じる症状と援助について説明する。さらに内部環境調節障害のある患者の看護について説明する。 【キーワード】 内部環境調節障害、内分泌機能、体液調節機能	林　優子（京都大学教授）	林　優子（京都大学教授）
11	認知機能・コミュニケーション障害に伴う成人への援助	認知機能やコミュニケーション障害は、日常生活上の困難性や、意欲の低下ならびに社会生活における不安や孤立といった影響をもたらす。そこで、機能障害の原因、機能や能力の評価方法、心理社会的特徴、ならびに患者の能力を最大限に生かす援助について説明する。 【キーワード】 高次脳機能、コミュニケーション	野澤　明子（浜松医科大学教授）	野澤　明子（浜松医科大学教授）
12	運動機能障害に伴う成人への援助 （※改訂回）	運動機能障害は、運動器系、神経系、運動調節系など様々な原因により起こり、人の活動や参加などに影響を与える。活動性の低下は、新たな合併症の併発につながる危険性がある。ここでは、運動機能障害を伴う人を生活機能の視点で捉え、二次的障害や合併症を予防し、日常生活の再構築を促す援助について説明する。 【キーワード】 運動機能障害、生活機能、ADL	野澤　明子（浜松医科大学教授）	野澤　明子（浜松医科大学教授）
13	排便機能障害に伴う成人への援助 （※改訂回）	「排泄すること」は、生命維持に不可欠な人間の生理的欲求である。排泄機能の一つである排便機能と、排便機能障害の原因及び日常生活に及ぼす影響について説明する。また、排便機能の検査や排便機能障害の治療に伴う看護援助及び機能障害によって生じる症状と援助について説明する。さらに、排便機能障害のある患者の生活調整に向けた看護援助について説明する。 【キーワード】 排便機能障害、排便経路、生活調整	林　優子（京都大学教授）	林　優子（京都大学教授）
14	性・生殖機能障害をもつ成人への援助 （※改訂回）	性行動・性機能の障害はセクシュアリティの障害として広く人々の生活や人生に影響を及ぼす。そこで、これらの人々への援助の基本的姿勢・スキルについて説明する。また、セクシュアリティの障害の原因となる疾患の代表的なものと看護のポイントについても説明する。さらに主な性感染症についても紹介する。 【キーワード】 性機能障害、セクシュアリティ、性感染症、生殖器	井上　洋士（放送大学教授）	井上　洋士（放送大学教授）
15	がん罹患及び人生の終末期を生きる人への援助	がんに罹患した人は、発生部位や種類などによって異なるが、概ね病名と予後の告知、がん治療、癌と共に生きるといった問題を抱え、援助を必要とする。また、人生途上で死に直面し、終末段階を生きる人には、家族を含んで特別な援助を行う必要がある。以上について説明する。 【キーワード】 がん、告知、治療選択、家族、危機、緩和ケア	佐藤　禮子（兵庫医療大学副学長）	佐藤　禮子（兵庫医療大学副学長）

夏季集中科目

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	夏季集中（看護師）	科目コード	1886908	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　老年看護学　　（’０９）＝（R）

〔主任講師（現職名）：正木　治恵（千葉大学大学院教授）〕

講義概要

本科目は、生物学的な老化や高齢者政策としての社会的な変化の中で高齢者を捉え、老いて生きる人々を看護する立場から組み立てる。構成としては、まず老年看護学の目標を確認したうえで、加齢に伴う変化の特徴を理解し、身体的機能・精神的機能・社会的機能の変化について、その一般的変化と多様性の観点から学ぶ。そして、老年看護の目標に照らして、健康生活の維持とセルフケア、健康維持のためのマネジメント、老年期に多い疾病・治療とリハビリテーション、認知症高齢者のケア、要介護高齢者と家族への支援、ならびに高齢者の終末期看護について学ぶ。最後に老年看護学の今後の課題について考察す

授業の目標

全15回の講義を通じ、ステレオタイプな高齢者像から脱却し、個性豊かな高齢者を捉える視点を学ぶ。また、人は老年期までの長い人生を生き抜くものであること、老化により体力・気力が衰えてなお、人間的に豊かに暮らすことができること、看護はそれにいかに答えることができるか、という視点に立ち、高齢者の健康生活を支える看護を実践していくための基本的知識・技術を習得することを目的とする。

履修上の留意点

看護師国家試験の試験科目ともなる老年看護学の基本的事項に焦点を当てている。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	老年期を生きる人々の特徴と老年看護の目標	社会の変化の中で高齢者を捉え、看護する立場から、老年期を生きる人々とその生活を理解する方法について解説する。また、老年看護における対象の特性、ならびに老年看護の目標と基本姿勢について述べる。 【キーワード】 老いの個別性、老年期、人生の統合、健康維持、生命の尊厳	正木治恵（千葉大学大学院教授）	正木治恵（千葉大学大学院教授）
2	高齢者保健施策と高齢者ケア施設	高齢者ケアを方向付ける法規として老人福祉法、老人保健法、ゴールドプラン、介護保険法を概説する。高齢者ケアを支える諸施設および職種とその役割について述べる。また、高齢者をとりまく社会の変化とそれに対応した看護師の役割を考察する。 【キーワード】 ゴールドプラン、介護保険法、高齢者ケアの場と役割、高齢者ケアにかかわる他職種	勝野とわ子（首都大学東京教授）	勝野とわ子（首都大学東京教授）
3	加齢に伴う諸機能の変化と健康生活への支援	高齢者の身体的機能、精神的機能、社会的機能について、加齢に伴う変化の特徴を概説する。高齢者看護の目標とそれを達成するためのヘルスアセスメント方法の原則とポイントを述べる。また、高齢者への効果的なコミュニケーション技術と感覚器（聴覚、視覚など）のアセスメントの重要性について解説する。 【キーワード】 加齢に伴う諸変化、ヘルスアセスメント、コミュニケーションの方法	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	老年期の健康生活の維持とセルフケア	高齢者の健康やセルフケアの意味について概説し、その人らしくセルフケアを行い健康生活を維持するための援助のあり方について述べる。 その上で、健康生活維持のために重要となる、活動と休息のバランスの保持、食事や排泄の調整、社会生活の維持に関するセルフケアとその支援方法について解説する。 【キーワード】 健康生活、セルフケア、健康生活維持のための支援方法	清水安子（大阪大学大学院教授）	清水安子（大阪大学大学院教授）
5	老年期の健康維持のためのマネジメント1 －呼吸・感染管理	高齢者の呼吸機能とその障害ならびに影響要因について解説し、呼吸機能のアセスメント方法について述べる。また、高齢者に起こりやすい呼吸障害や感染症、ならびに予防のための方法について述べる。 【キーワード】 呼吸機能の加齢変化・障害のアセスメント、呼吸ケアと感染管理	正木治恵（千葉大学大学院教授）	正木治恵（千葉大学大学院教授）
6	老年期の健康維持のためのマネジメント2 －摂食・栄養管理	高齢者の食事摂取がどのように障害されていくか、その影響要因は何かについて解説し、栄養状態、摂食のアセスメント方法、健康維持のためのマネジメントについて述べる。また、嚥下障害等障害に応じた栄養摂取と食にまつわる心理・社会的側面を考慮した援助方法について述べる。 【キーワード】 栄養状態、摂食のアセスメント、摂食・栄養管理	清水安子（大阪大学大学院教授）	清水安子（大阪大学大学院教授）
7	老年期の健康維持のためのマネジメント3 －排泄・皮膚管理	高齢者の排泄（排便・排尿）能力がどのように障害されていくか、その影響要因は何かについて解説し、アセスメント方法と薬物管理を含めた援助方法について述べる。また、高齢者の皮膚とその特徴について解説し、スキンケア、褥瘡対策の方法について述べる。 【キーワード】 排泄機能の加齢変化・障害のアセスメント、排泄ケア、スキンケア	同　上	同　上
8	老年期の疾病・治療とリハビリテーション1 －身体運動機能の障害と看護	老年期に生じがちな身体運動機能の障害について説明する。またその影響として現れる行動範囲の縮小および、活動性の低下、廃用性変化、転倒・骨折の危険性等に関するアセスメントと看護、および予防について説明する。 【キーワード】 リハビリテーション，身体運動機能，廃用性変化，転倒	酒井郁子（千葉大学大学院教授）	酒井郁子（千葉大学大学院教授）
9	老年期の疾病・治療とリハビリテーション2 －日常生活活動と自立支援	老年期におけるADLと生活意欲の捉え方について述べる。次にいきいきとリハビリテーション取り組むために必要な看護の方法について説明する。 【キーワード】 リハビリテーション，生活機能障害，ADL，意欲，QOL	同　上	同　上
10	老年期の疾病・治療とリハビリテーション3 －周手術期の看護	手術を受ける高齢者に特有の、痛みや睡眠障害、せん妄状態などの身体的、精神的課題、ならびにアセスメント方法を説明する。また手術に伴う苦痛を軽減し周手術期を高齢者が乗り越えるための看護の方法について述べる。 【キーワード】 周手術期，合併症予防，せん妄，急性疼痛	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	認知症高齢者の理解とケアの変遷	認知症高齢者のケアの変遷を説明し、認知症高齢者が急増する時代の中で看護師が果たす役割とあるべきケアの方向性を確認する。認知症高齢者の全人的ケアを展開していくための基礎として、当事者体験をベースにしながら複合的な障害と潜在力の理解、それらを活かした先進的なケアの実例を紹介する。 【キーワード】 新しい認知症ケア、中核症状と周辺症状、認知症のステージ別アプローチ方法	永田久美子（認知症介護研究研修東京センター主任研究主幹）	永田久美子（認知症介護研究研修東京センター主任研究主幹）
12	認知症ケアの実践とチームアプローチ	認知症高齢者のケアの基盤となる環境作りとコミュニケーション、日常生活支援・地域支援に関する考え方と技術を説明しながら、現場で遭遇する認知症高齢者の課題への取り組み方を示す。あわせて認知症高齢者のケアで不可欠なチームアプローチを説明し看護師の活躍例を紹介する。 【キーワード】 なじみの関係作り、なじみの環境作り、日常生活支援、地域支援、チームアプローチ	同　上	同　上
13	在宅における要介護高齢者と家族の支援	要介護高齢者、特に認知症高齢者と家族への看護活動の重要性を理解する。さらに、質の高い看護ケアを提供するためのアセスメント方法などの援助方法について述べる。また、事例を通して家族への看護援助の過程を理解すると共に他機関、他職種と協働しながら支援していく援助方法について考察する。 【キーワード】 認知症高齢者と家族への支援、家族アセスメント、他職種との協働	勝野とわ子（首都大学東京教授）	勝野とわ子（首都大学東京教授）
14	終末期を迎える高齢者と家族への支援	高齢者の「老いて死ぬ」人生の最終段階をより豊かに生きることを支援すること、そして看とる家族を支える方法について述べる。また、高齢者の終末期看護について考察する。 【キーワード】 人生の終焉、リビングウイル、看取り、終末期ケア	正木治恵（千葉大学大学院教授）	正木治恵（千葉大学大学院教授）
15	老年看護学の課題	保健医療福祉制度の変革の中にある高齢者ケアについて、看護師の果たす役割の変化をとらえ、倫理的課題を含む老年看護実践の発展と老年看護学の今後の展望について考察する。 【キーワード】 高齢者の尊厳、高齢者虐待の防止、地域包括ケアシステム	同　上	同　上

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	夏季集中（看護師）	科目ｺｰﾄﾞ	1887114	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア）　＝　　小児看護学　　（’１０）＝　（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：筒井　真優美　（日本赤十字看護大学教授）〕

【本学担当専任教員：髙﨑　絹子　（放送大学教授）　】

講義概要

近年の子どもと家族を取り巻く社会環境の変化は子どもの心身の健康状態に影響を及ぼし、また医療技術の進歩は多くの子どもの命を救うこととなったが、一方で入院している子ども達の病気は重症化している。
こうした状況の中で、21世紀をになう子ども達が最善の利益を守られ、健やかに成長発達することができるようにそれぞれの健康レベルに応じた援助について学び、さらに、子どもと家族に対する今後の課題や私達の役割について考える。

授業の目標

変化する社会環境を認識し、子どもの最善の利益を守るための看護の役割が明らかになる。

履修上の留意点

社会環境は変化し続けているので、出生率、死亡率、死亡順位、受療率など統計数値は最新のものを各自確認すること。
また、予防接種、小児特定慢性疾患治療研究事業の対象となっている疾患群など、法律の改正にも各自確認すること。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	小児看護の動向と看護の役割	子どもと家族が置かれている状況を、社会環境と医療環境から考える。子どもと家族の最善の利益を守るための、小児看護における看護の役割を説明する。 【キーワード】 子どもの最善の利益、小児看護の役割、社会環境、医療環境	筒井　真優美（日本赤十字看護大学教授）	筒井　真優美（日本赤十字看護大学教授）
2	乳児と家族	乳児は生理的適応過程にあり、身体機能が著しく成長・発達しながら栄養・睡眠・排泄リズムや言語を獲得し、基本的信頼関係を築いていくという過程でもある。乳児の成長・発達を育む家族の役割、乳児と家族への支援について説明する。 【キーワード】 成長・発達、基本的信頼関係、家族の役割、乳児を持つ家族への支援	江本　リナ（日本赤十字看護大学准教授）	江本　リナ（日本赤十字看護大学准教授）
3	幼児と家族	幼児期は心身の発達が著しく、基本的生活習慣を習得していくプロセスでもある。運動機能の発達により行動範囲が広がり、認知や言語の発達によりコミュニケーション能力が向上する。この発達プロセスと子どもを育むための家族の役割、子どもと家族への支援について説明する。 【キーワード】 幼児の心身発達の特徴、基本的習慣、コミュニケーション、幼児への支援、幼児を持つ家族への支援	筒井　真優美	筒井　真優美

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	学童期・思春期の子どもと家族	学童期は学校生活を中心として友達との関わりの中で達成感や有能感を獲得していく時期である。また、思春期は身体の劇的な成長や性的な変化を体験し、精神的な動揺の大きい時期であるが、その中で自我同一性を模索し、獲得していく。このような成長発達の特徴と家族関係の変化について説明する。 【キーワード】 第二次性徴、学校生活、子どもと家族関係の変化、学童期・思春期の子どもへの支援	川名　るり（日本赤十字看護大学准教授）	川名　るり（日本赤十字看護大学准教授）
5	病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護	病気や入院が子どもと家族に与える影響は大きく、様々な因子によって変化する。子どもの発達段階別、入院形態別などによる援助、および面会や付き添いについて説明する。 【キーワード】 病気・入院・病棟環境の影響と看護、面会、付き添い	筒井　真優美	筒井　真優美
6	急性期にある子どもと家族 その1	急性期疾患を抱える子どもの場合、症状の悪化を防ぎ、安定した状態になることを目指す。そこで、発熱・脱水・呼吸困難・けいれんなど急性期の主な症状とその病態、観察ポイント、症状緩和に対する援助、家族への支援について説明する。また、乳幼児に多くみられる乳幼児突然死症候群についても触れる。 【キーワード】 発熱、脱水、呼吸困難、けいれん、症状緩和と家族への支援、乳幼児突然死症候群	江本　リナ	江本　リナ
7	急性期にある子どもと家族 その2	小児期に発症する主な感染症の特徴、観察ポイント、発症と伝播を防ぐ予防接種について説明し、感染症の子どもと家族への援助について述べる。また、緊急度の把握、受診時の子どもと家族の緊張と不安の軽減に対する援助についても説明する。 【キーワード】 感染症、予防接種、感染症への対応、感染症の子どもと家族への援助	江本　リナ	江本　リナ
8	慢性期にある子どもと家族／外来における看護	現在、小児慢性特定疾患治療研究事業の対象となっている疾患は11疾患群ある。慢性疾患を抱えながら学校や幼稚園・保育園に通い、地域で生活している子どもと家族への継続的な援助について説明する。さらに、外来における看護の役割について述べる。 【キーワード】 小児慢性特定疾患治療研究事業、慢性疾患を持つ子どもと家族の生活、子どものセルフケア、慢性疾患を持つ子どもと家族への援助、外来看護	川名　るり	川名　るり
9	子どもへの説明	子どもが医療を受ける際、説明を受けることで自ら取り組むことが出来るようになる。そのためには、インフォームド・アセントが重要である。インフォームド・アセントに必要な子どもの能力、アセントの要素、家族や医療者の役割について、説明する。 【キーワード】 説明と納得、子どもの取り組み、インフォームド・アセント、家族や医療者の役割、子どもの力	筒井　真優美	筒井　真優美

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	先天性の疾患を持つ子どもと家族の看護	子どもの先天性の疾患は、その原因が発生した時期の違いから、「遺伝子病」「配偶子病（染色体異常症）」「胎芽病」「胎児病」に分けられる。それぞれの代表的な疾患を挙げ、その治療、予後、また、出生後からの子どもと家族への援助について説明する。 【キーワード】 先天性の疾患の種類と特徴、マス・スクリーニング、治療と予後、先天性の疾患を持つ子どもと家族の理解と援助	川名　るり	川名　るり
11	手術を受ける子どもと家族の看護	子どもの手術の特徴と手術を受ける子どもと家族への援助について説明する。また、近年増加している日帰り手術について述べる。 【キーワード】 子どもの手術の特徴、手術の決定、手術を受ける子どもと家族の思いと援助、日帰り手術	川名　るり	川名　るり
12	子どもの事故と救急	乳幼児死亡原因ともなる不慮の事故の特徴を発達段階別に概観し、その予防策について述べる。また、気道内異物、消化管異物、溺水、熱傷などの救急法と心肺蘇生法、救急処置を受ける子ども家族への援助について説明する。 【キーワード】 子どもの事故、事故防止、気道内異物、誤飲、溺水、熱傷、救急法	江本　リナ	江本　リナ
13	障害のある子どもと家族／在宅ケア	障害児のなかでも特に、医療的ケアを必要とする長期入院児とその家族が置かれている状況を考え、生活場所の意思決定、在宅に移行するための準備など、退院に向けた支援について説明する。さらに、子どもが成長・発達に応じた通常の生活をするために、在宅ケアにおける看護師の役割を説明する。 【キーワード】 障害と障害受容、肢体不自由、発達障害、重症心身障害児、超重症児、医療的ケア、療養場所の選択と意思決定、在宅への移行支援、在宅療養、在宅ケア、訪問看護	鈴木　真知子（京都大学大学院教授）	鈴木　真知子（京都大学大学院教授）
14	隔離・活動制限／痛み	子ども自身や周囲の人を感染から防ぐために隔離が必要な場合や、治療・検査のために一時的に体動が制限される場合の子どもへの影響と、子どもと家族への支援について説明する。また、子どもが体験する痛み、影響する要因、痛みの客観的評価、痛みの緩和への援助について説明する。 【キーワード】 隔離、活動制限、隔離や活動制限による子どもへの影響、子どもの痛み、痛の緩和援助	江本　リナ	江本　リナ
15	子どもの死と家族への看護	死にゆく子どもとその子どもを看取る家族にどのような援助が必要かを考える。死に対する子どもの反応や、他人の死を子どもにどのように伝えるかなど、死をめぐる課題を説明する。また、災害（自然災害及び人為的災害）時の子どもと家族への援助について考える。 【キーワード】 死に行く子ども、死の概念、他人の死、災害、子どもと家族への援助	筒井　真優美	筒井　真優美

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	夏季集中科目（看護師）	科目ｺｰﾄﾞ	1887017	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　母性看護学　　（’１０）＝　（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：小松美穂子　（茨城キリスト教大学・学長）〕

〔主任講師（現職名）：坂間伊津美　（茨城キリスト教大学・教授）〕

【本学担当専任教員：髙﨑　絹子　（放送大学教授）】

講義概要

母性看護学は、妊産婦と新生児およびその家族への看護を主軸として、女性の一生における性と生殖に関する健康支援を目的とした実践科学である。本講義では、少子化、女性の生涯にわたる健康支援政策の推進など現在の社会的課題をふまえ、母性看護の対象と役割、母性看護に関する基本的概念、母子保健システム、周産期（妊娠・分娩・産褥・新生児期）にある母子と家族への看護、ライフサイクルの変化からみた女性の健康問題について全15回にわたり学習する。

授業の目標

講義を通じて、周産期における母子の身体・心理・社会的変化、家族の発達、および周産期に起こりやすい健康障害を理解し、母子と家族に対する個別的看護実践を考えるために必要な知識を習得することを目標とする。また、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの観点から、思春期、成熟期、更年期、老年期にある女性の健康問題を理解し、身体的、心理・社会的、文化的背景を考慮した健康支援と母性看護が果たすべき役割について学習することを目標とする。

履修上の留意点

周産期の母子の身体的変化を学ぶ上で、基本となる“からだの構造と機能”について事前に学習しておくことが望ましい。また、母性看護学に関連する新聞記事や図書に目を通し、母子と家族をめぐる社会状況に関心を持ちながら講義に臨むことが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	母性看護学の概要	母性看護の対象と役割について歴史と現状を知り、どのような課題があるかを理解する。さらに女性の生涯における健康問題と女性の健康支援、母子保健システムについて学習する。 【キーワード】 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、セルフケア、意思決定、倫理	小松美穂子（茨城キリスト教大学・学長）	小松美穂子（茨城キリスト教大学・学長）
2	生殖のメカニズムと性の分化	女性生殖器の構造と機能、女性特有の性周期を理解する。また、卵子・精子の成熟から、受精して妊娠が成立するまでの過程、および性分化のメカニズムについて基礎的知識を学ぶ。 【キーワード】 女性生殖器、性周期、ホルモン、卵子、精子、受精、着床、性分化	坂間伊津美（茨城キリスト教大学・教授）	坂間伊津美（茨城キリスト教大学・教授）
3	妊娠期の看護Ⅰ 妊婦と家族のアセスメント	妊娠により、女性は様々な心身の変化を経験し、異常や危機を生じやすい「半健康状態」となる。妊娠期の経過および身体・心理・社会的特徴を理解し、妊婦と家族の健康をアセスメントするための視点について学習する。 【キーワード】 妊娠の確認、妊娠性変化（生殖器、全身）、妊婦貧血、マイナートラブル、胎児の発育、妊娠の受容	坂間伊津美（茨城キリスト教大学・教授）	坂間伊津美（茨城キリスト教大学・教授） 小松美穂子（茨城キリスト教大学・学長）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	妊娠期の看護Ⅱ 妊婦と家族のケア	家庭で生活する妊婦と家族が、安全かつ快適に妊娠期を過ごし、分娩や育児に向けての準備を整えるために必要なケアを学ぶ。また、妊娠期の看護における「セルフケア」「主体性」「継続性」の重要性について考える。 【キーワード】 妊婦健康診査、健康教育（保健指導）、分娩準備教育、セルフケア、主体性、継続性	坂間伊津美（茨城キリスト教大学・教授）	坂間伊津美（茨城キリスト教大学・教授） 小松美穂子（茨城キリスト教大学・学長）
5	分娩期の看護 産婦と家族のアセスメントとケア	分娩期にある産婦と胎児に対する看護支援について、分娩進行の特徴を理解しながら、その観察ポイントや援助の方法などについて学ぶ。また、産婦の家族に対する支援についても考える。 【キーワード】 分娩の3要素、胎児のwellbeing、産痛緩和、夫の立ち会い	跡上富美（東北大学大学院医学系研究科保健学専攻・准教授）	跡上富美（東北大学大学院医学系研究科保健学専攻・准教授）
6	産褥期の看護Ⅰ 褥婦と家族のアセスメント	褥婦は、妊娠・出産による様々な変化からの回復過程にある。また、出産による新しい家族関係への適応過程にもある。ここでは、産褥期における身体的変化、心理的変化、社会的変化についての基本的知識を学習する。 【キーワード】 子宮復古、悪露、乳汁分泌メカニズム、絆、愛着、没入感情、サポートシステム	島田智織（茨城県立医療大学・准教授）	島田智織（茨城県立医療大学・准教授）
7	産褥期の看護Ⅱ 褥婦と家族のケア	褥婦が良好に身体回復し、不安定な心理状態を乗り越え、母子の良好な関係を築くための一歩を踏む出す時期が産褥期である。ここでは、褥婦の身体的・心理的アセスメントとケアについて学習する。 【キーワード】 セルフケア、授乳婦の栄養、家族計画、乳頭・乳輪のマッサージ、マタニティブルーズ	島田智織（茨城県立医療大学・准教授）	島田智織（茨城県立医療大学・准教授）
8	産褥期の看護Ⅲ 退院後の生活に向けた支援	産褥期には母子の良好な関係を築くと同時に、家族それぞれが新たな役割を担い子育てに協力的に取り組むことが望まれる。ここでは、母子相互作用および社会的変化のアセスメントとケアについて学習する。 【キーワード】 出産のふりかえり、母子同室、母乳育児、ポジショニング、ラッチ・オン、自律授乳、サポートシステム、公的支援	島田智織（茨城県立医療大学・准教授）	島田智織（茨城県立医療大学・准教授）
9	新生児期の看護Ⅰ 新生児のアセスメント	新生児は、出生直後から子宮外生活への適応に向けた複雑な過程を開始する。呼吸や循環をはじめとする新生児の子宮外生活への適応生理を理解し、看護の重要な機能であるアセスメントについて、目的、視点、具体的方法を学ぶ。 【キーワード】 アプガースコア、サーファクタント、新生児の循環、生理的体重減少、生理的黄疸、在胎別出生時体格基準曲線	近藤好枝（慶應義塾大学看護医療学部・教授）	近藤好枝（慶應義塾大学看護医療学部・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	新生児期の看護Ⅱ 新生児のケア	新生児期の看護の目標を理解し、子宮外生活への適応を支援するケア、新生児の健康を維持促進するケアについて学ぶ。また、ハイリスク新生児の特徴と、家族発達を支えるケア（ディベロップメンタルケア）についても学習する。 【キーワード】 新生児の体温調節、中性温度環境、母乳栄養、ドライテクニック、ハイリスク新生児、NICU、ディベロップメンタルケア	近藤好枝（慶應義塾大学看護医療学部・教授）	近藤好枝（慶應義塾大学看護医療学部・教授）
11	健康障害のある妊産婦へのケアⅠ 妊娠期に出現しやすい異常とその看護	ハイリスクな状況にある妊産婦へのケアについて、その病態の特徴と観察ポイントについて学び、看護支援について考える。特にこの回では、妊娠期に起こりやすい障害に焦点を当てて学習する。 【キーワード】 流・早産、前置胎盤、妊娠高血圧症候群、常位胎盤早期剥離、妊娠糖尿病	跡上富美（東北大学大学院医学系研究科保健学専攻・准教授）	跡上富美（東北大学大学院医学系研究科保健学専攻・准教授）
12	健康障害のある妊産婦へのケアⅡ 分娩期・産褥期に出現しやすい異常とその看護	前回に続き、分娩期や産褥期に起こりやすい障害に焦点を当て、その病態の特徴と観察のポイントについて学び、看護支援について考える。 【キーワード】 帝王切開、胎児機能不全、子宮復古不全、静脈血栓症、産褥うつ病	跡上富美（東北大学大学院医学系研究科保健学専攻・准教授）	跡上富美（東北大学大学院医学系研究科保健学専攻・准教授）
13	母性看護と看護過程	産褥期の身体的変化、心理的変化、社会的変化についての基本的知識をもとに、正常褥婦を対象として「アセスメント」「看護診断」「計画立案」「実施」「評価」の基本的な看護過程について学ぶ。 【キーワード】 ウエルネス思考、セルフケア	島田智織（茨城県立医療大学・准教授）	島田智織（茨城県立医療大学・准教授） 坂間伊津美（茨城キリスト教大学・教授）
14	女性のライフサイクルと健康Ⅰ 思春期と成熟期	思春期の健康問題は生涯の健康に大きく影響する。ここでは、性行動、喫煙・飲酒、過剰なダイエットや肥満に関する健康問題について学ぶ。また、成熟期では、不妊や人工妊娠中絶など生殖に関連した問題や生殖における倫理及び性暴力について、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの考え方に基づき学習する。 【キーワード】 性行動、ダイエット、不妊、人工妊娠中絶、生殖における倫理、性暴力	近藤好枝（慶應義塾大学看護医療学部・教授）	近藤好枝（慶應義塾大学看護医療学部・教授）
15	女性のライフサイクルと健康Ⅱ 更年期と老年期	更年期・老年期の身体的特徴、心理・社会的特徴について知り、各時期の健康問題と健康支援について理解する。更年期では更年期障害を中心に、老年期では骨粗鬆症等について学習する。 【キーワード】 閉経、エストロゲン不足、更年期障害、尿失禁	小松美穂子（茨城キリスト教大学・学長）	小松美穂子（茨城キリスト教大学・学長）

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	夏季集中（看護師）	科目ｺｰﾄﾞ	1886916	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 精神看護学 （’０９）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：出口 禎子（北里大学教授） 〕

講義概要

精神看護の対象は精神疾患を持った人に限らず、年齢も発達段階も多様である。最近では精神看護学は、広く人間を理解するための精神保健と、精神疾患を持った人へのケアの方法を学習する精神看護学の2領域で構成されている。ここでは、ライフサイクルに伴うストレスやその対処法、家族内の人間関係、歴史や法律、人権擁護などについての基礎知識を習得した上で、主な精神疾患の理解とケアの方法を学習する。さらに日本の精神医療における課題となっているリハビリテーションの現状や触法医療についても学習を進める。

授業の目標

精神看護学は看護の対象である人間の心理と行動を理解するための基礎となる科目である。その基礎知識をもとに疾患や障害を持っている人とその家族をめぐる人間関係を理解し、精神疾患患者と看護師との援助関係を築きながら、彼らが自分らしく生きるために看護が果たす役割と支援方法について理解する。

履修上の留意点

最近の精神医療の動向や法律の改正などにも関心を持ち、メディアからの情報にも注目しながら学習を進める。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	精神看護学の考え方	単に病気や障害のあるなしに関わらず、すべての人に自己実現を目指して自分らしく生きる権利がある。精神看護はそのような生き方を支援する役割を持つ。また人は人と人との関わりの中で傷つくことも多いが人との関わりと通して癒されるという対人関係の基本的な考え方を学習する。 【キーワード】 健康の概念　自己理解	出口禎子（北里大学教授）	出口禎子（北里大学教授）
2	人間の精神活動と防衛機制	危機状況下で自然に起こる感情反応である不安は、解決への道筋で、人間の心的生活にポジティブな影響を与えるものでもある。精神活動を精神機能と身体の観点から捉えた上で、不安や脅威が生じたときに無意識的に働く自我の防衛機制に焦点を当て学習する。 【キーワード】 精神活動　不安　防衛機制	榊惠子（昭和大学准教授）	榊惠子（昭和大学准教授）
3	ライフサイクルとメンタルヘルス	人はそれぞれ成長に伴う発達課題を乗り越えながら生きている。私達の人生とメンタルヘルスは切り離せないものであるが、各年代の発達課題の特徴とそれらが人生に与える影響を説明する。 【キーワード】 ライフサイクル、発達課題、メンタルヘルス	若狭紅子（横浜市立大学教授）	若狭紅子（横浜市立大学教授）

夏季集中科目

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	精神医療の歴史	精神医療は、精神障害者に対する隔離や拘束の時代からノーマライゼーションが推進される時代へと変遷をとげている。ここでは、欧米・日本の精神医療について解説する。 【キーワード】 欧米の歴史、日本の歴史、精神障害者の処遇	岡田佳詠(筑波大学准教授)	岡田佳詠(筑波大学准教授)
5	人権擁護と法律	精神医療には、入院形態や施錠、拘束など強制的な行為が伴う。だからこそ精神医療には人権擁護の考えが必要性である。様々な制約が患者の心理や生活に与える影響を、インフォームドコンセントや自己決定の視点から考える。 【キーワード】 精神保健医療福祉に関連する法律、精神保健医療福祉施策、精神科看護師の倫理的役割	荻野雅(国際医療福祉大学准教授)	荻野雅(国際医療福祉大学准教授)
6	精神障害をもつ人の生活	心を病む体験は、精神症状、日常生活、個々の生活史、家族や地域あるいは看護師を含む医療者との人間関係などから、さまざまな影響を受けている。こうした視点から体験を捉えながら、精神障害者の生活理解を図る。 【キーワード】 精神症状　生活史　人間関係	榊惠子(昭和大学准教授)	榊惠子(昭和大学准教授)
7	精神障害者と家族	家族関係は、精神障害者の生活や生きる困難さに直接関与している。そのため、障害者を支える家族への心理・社会的支援が必要である。家族の障害者への影響、障害者の家族が置かれている状況を知り、さらには家族支援のあり方を学習する。 【キーワード】 家族関係　家族の抱える困難　心理・社会的支援	榊惠子(昭和大学准教授)	榊惠子(昭和大学准教授)
8	精神科におけるケアの方法	入浴の介助や洗髪など日常生活行動やプログラム参加への支援は重要なケアである。それぞれの援助は精神療法的な関わりの場となり、対人関係を深める機会となる。その役割と根拠について説明する。 【キーワード】 日常生活行動　プログラム学習　社会学習	出口禎子(北里大学教授)	出口禎子(北里大学教授)
9	精神科における治療の概要とケア①	精神科では、薬物以外にも精神療法、社会療法など多くの治療がある。ここでは、特に精神療法のなかでも、近年うつ病や統合失調症などに効果があるとされる認知行動療法について解説する。 【キーワード】 精神療法、認知行動療法、社会療法、	岡田佳詠(筑波大学准教授)	岡田佳詠(筑波大学准教授)
10	精神科における治療の概要とケア②	薬物療法が導入されて以後、精神障害者を苦しめる精神症状はコントロールできるようになった。特に急性期における薬物療法の意義は大きいが、その一方で向精神薬には深刻な副作用もあり、患者の日常生活や予後にも大きな影響を与えている。ここでは薬物療法の考え方と援助方法の基本を学習する。 【キーワード】 精神科における薬物療法、服薬を支える看護、服薬自己管理	荻野雅(国際医療福祉大学准教授)	荻野雅(国際医療福祉大学准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	統合失調症の人への援助	統合失調症は、現在、人口の0.5～2%の有病率と決して珍しい疾患ではなく、精神病院の入院患者のうち最も多くを占める。ここでは、統合失調症の症状、病因、診断、予後、治療、看護等について解説する。 【キーワード】 統合失調症、セルフケア援助、服薬・症状管理	岡田佳詠(筑波大学准教授)	岡田佳詠(筑波大学准教授)
12	気分障害の人への援助	近年、うつ病や躁うつ病等の気分障害で悩む人々が増加する傾向にある。病気の特徴を理解した上で、より患者の状況に適した治療および看護援助について学習するとともに、気分障害の人々が社会の中で自分らしさを保ちながら回復過程を歩むことができるように、社会資源の活用や予防対策について学習する。 【キーワード】 うつ病、躁うつ病、セルフケア援助	若狭紅子(横浜市立大学教授)	若狭紅子(横浜市立大学教授)
13	精神科リハビリテーションの考え方	精神科におけるリハビリテーションは、社会復帰という意味に留まらず、全人的復権を意味する。就労の機会や自分で自分の住む場所を選択し、自分らしい生き方を支援する看護の役割と、現在のリハビリテーションの課題について学習する。 【キーワード】 精神科リハビリテーションの概念、施設で行われる精神科リハビリテーション、地域で行われる精神科リハビリテーション	荻野雅(国際医療福祉大学准教授)	荻野雅(国際医療福祉大学准教授)
14	地域ケアとソーシャルサポート	障害を持ちながら社会の中で生きるためには、様々な居宅支援や就労支援に関するソーシャルサポートの方法がある。その種類と実際の活用の実態、および社会生活を支援する看護師の役割について学習する。 【キーワード】 ソーシャルサポート　居宅生活支援　就労支援	出口禎子(北里大学教授)	ゲスト:千葉信子さん 出口禎子(北里大学教授)
15	精神看護専門看護師と看護活動	精神看護および精神科看護における、より高度な知識と技術を用いて看護ケアの質の向上を図る目的で専門看護師／認定看護師が誕生し、看護現場で活躍している。ここでは、認定看護師／専門看護師に関する教育・制度・看護活動の実際について学習する。 【キーワード】 精神看護、認定看護師、専門看護師	若狭紅子(横浜市立大学教授)	若狭紅子(横浜市立大学教授)

この冊子に掲載した2011年度新規開設科目の講義内容は、教材の原稿等を作成する時点で主任講師等が執筆しており、実際に印刷教材及び放送教材を制作する時点で内容等を組み替えていることもあり、必ずしも最終的な印刷教材・放送教材と一致していない部分がありますので、ご容赦ください。

なお、放送大学ホームページに掲載されている講義内容については、最新の内容にリアルタイムで更新しております。

R70
古紙配合率70%再生紙を使用しています